独立行政法人国立文化財機構年報

平成２０年度

平成20年度 年報 目次

Ⅰ　20年度自己点検評価報告書　総括表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

Ⅱ　20年度自己点検評価報告書　個別表

ⅰ．国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために

とるべき措置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

平成 20 年度

新収品図版　［東京国立博物館］

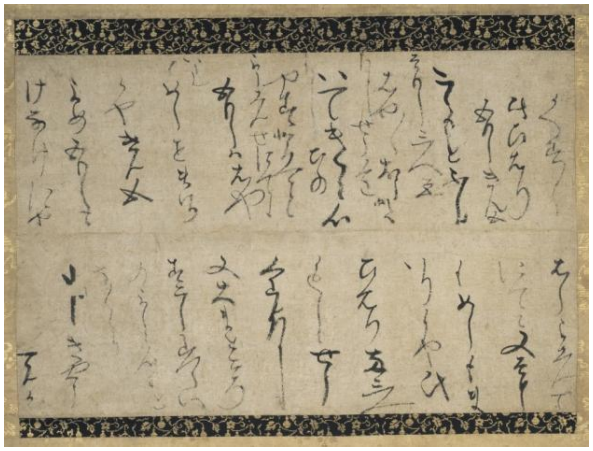
購　　入



（重要文化財）般若菩薩像



（重要文化財）十二神将立像 申神



書状　豊臣秀吉筆

寄　　贈



朱漆脚付鉢



青磁碗



霧中群峰図　髡残筆

平成 20 年度

新収品図版 ［京都国立博物館］

購　　入



耕作図屏風　伝狩野元信筆



明皇・貴妃図屏風　狩野山雪筆



羅地刺繍釈迦阿弥陀二尊図

寄　　贈



女五人囃子



柿右衛門色絵花鳥図陶板



芒蒔絵文庫

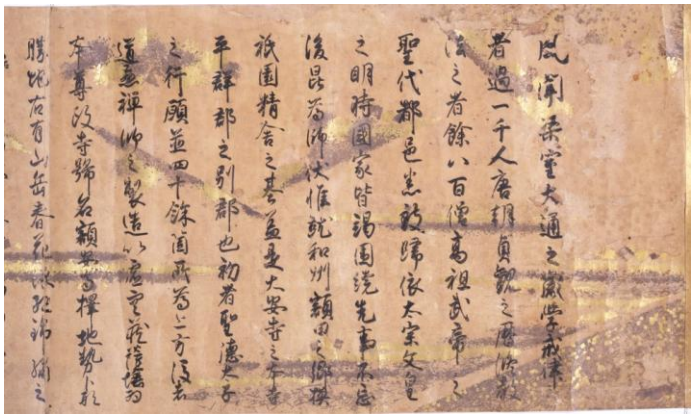
平成 20 年度

新収品図版　［奈良国立博物館］

購　　入




聖徳太子及び道慈律師像



額安寺大塔供養願文

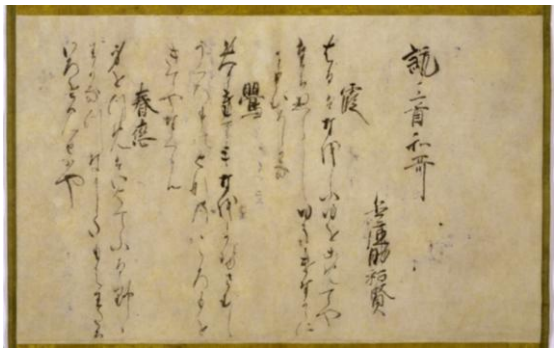


金銅独鈷杵

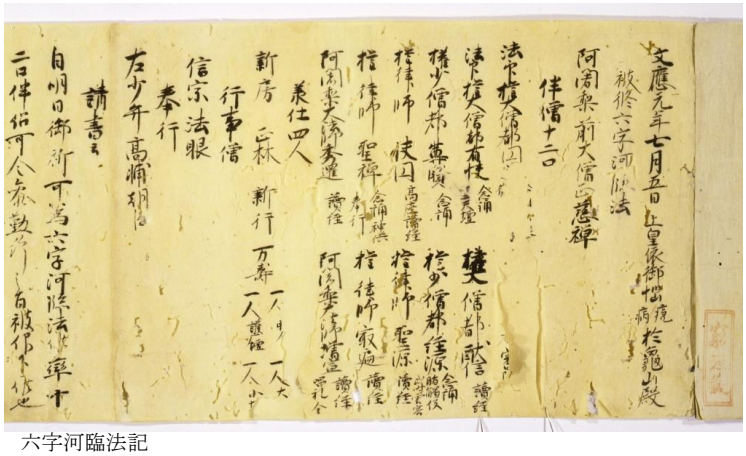


木造南無仏太子立像

寄　　贈



祐賢和歌懐紙（春日懐紙）



六字河臨法記

平成 20 年度

新収品図版　［九州国立博物館］

購　　入



（重要文化財）孤峯覺明墨蹟与保樹大姉法語　孤峯覺明筆



紙本墨画淡彩琴高仙人・牧童・高士観梅図
三幅のうち琴高仙人図　拙宗等揚筆



如来立像



秋草蒔絵箱

寄　　贈



（重要美術品）嵌玉金銅熊脚

Ⅰ　20年度自己点検評価報告書　総括表

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

(1)　収蔵品の収集

【中期目標】国の文化財保護政策との整合性、一体性を保ちつつ機構の設置する博物館各館の役割・任務に沿って収集方針を定め、これに基づき、計画的かつ適時適切な購入と寄贈・寄託の受入れを進め、体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の充実を図ること。

【中期計画】	【主な計画上の評価指標】
(1)－1　体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。 （東京国立博物館） 日本を中心にして広く東洋諸地域にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。 （京都国立博物館） 京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。 （奈良国立博物館） 仏教美術を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。 （九州国立博物館） 日本とアジア諸国との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。 (1)－2　収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。	○購入、寄贈、寄託の受入により、体系的、通史的にバランスのとれたコレクションを形成すること。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	(1)-1　適時適切な収集 各館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ的確な情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していくよう取り計らう。	(1)－1　適時適切な収集		
1111	（東京国立博物館） 日本を中心として広く東洋諸地域の文化の体系的陳列を目指し、絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料の中から重点的に購入する。	【東京国立博物館】 ・国民共有の貴重な財産として永く後世へ伝えられるべき、優れた作品7件（内、重要文化財2件）を購入した。 ・運営費交付金に加えて、寄付金800万円を得ることができ、計2億3,000万円を収蔵品購入にあてることができた。 内訳：絵画１件（内、重文１件)、 書跡１件、彫刻２件（内、重文１件）　漆工１件、染織２件 決算額　２億3,000万円	A	順調
1112	（京都国立博物館） 京都文化を中心とした絵画、彫刻、書跡、陶磁器、染織品、漆工芸品、金工品、考古資料、歴史資料の中から重点的に購入する。	【京都国立博物館】 ・博物館展示の活性化と高次の調査研究の対象となり、国民が文化の豊かさを実感することができる貴重な作品8件を購入した。 ・購入に際しては中期目標にもあるとおり、「京都文化」を意識しているが、今年度は京狩野の絵画2件、京都の寺院及び旧家伝来の作品各1件、ゆかりのある作品1件を購入できた。 ・内訳：絵画7件　染織1件	A	順調

1113	（奈良国立博物館） 仏画、仏像、経典・仏教関係書跡等、仏教工芸、仏教考古資料の中から重点的に購入する。	・決算額　1億4,515　万円 **【奈良国立博物館】** 彫刻部門1件（木造南無仏太子立像＝1躯、鎌倉時代）、絵画部門1件（聖徳太子及び道慈律師像＝2幅、室町時代）、書跡部門4件（額安寺大塔供養願文＝1巻、鎌倉時代。大方広如来不思議境界経＝1巻、平安時代。蘇磨呼童子請問経・巻下＝1巻、平安時代。額安寺文書＝5巻、鎌倉～南北朝時代）、金工部門1件（金銅独鈷杵＝1口、鎌倉時代）以上計7件の文化財を購入し、新たな館蔵品とした。決算額は9千万円であった。	A	順調
1114	（九州国立博物館） 日本とアジア諸国との文化交流を中心とした美術、考古及び歴史・民族資料等の中から重点的に購入する。	【九州国立博物館】 ・日本とアジア諸国との文化交流を中心とした文化財を収集する当館の設置目的に則し、且つ国民共有の貴重な財産として長く後世へ伝えられるべき優れた作品30件（うち重要文化財1件）を購入した。 内訳：絵画6件　書跡7件　彫刻1件　陶磁1件 漆工2件　染織7件　考古4件　歴史資料2件 決算額　5億7148万円	A	順調
	(1)-2　寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用 寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用や、相続税の猶予措置の創設を手始めとする税制面での環境整備を進めるなど、積極的に働きかける。	**(1)－2　寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用** **【東京国立博物館】** ・作品の寄贈は81件に上った。 ・新規寄託は38件（内、重文2件）。	A	順調
1121	（東京国立博物館） 平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力し、寄託品数2,400件を目標とする。	・寄託減は31件（内、重文5件）であった。内、当館に寄贈となったものが2件、当館が購入したもの2件（内、重文2件）、九州国立博物館への寄託変更2件（内、重文1件）、所蔵者による取り下げが25件(内、重文4件)であった。その結果、寄託総数は2,751件（国宝53件、重文260件）となった。 ・登録美術品については、増減がなかった。		
1122	（京都国立博物館） 平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力し、寄託品数6,000件を目標とする。	**【京都国立博物館】** （寄贈） ・今年度、寄贈は21件で、寄贈者は8人であった。 内訳　絵画5件　陶磁1件　漆工9件　染織4件　考古2件 （寄託） ・今年度の新規寄託は111件。建替工事中のため平常展示での活用はできないが、例年通りの数があり、研究資料として、また特別展覧会での活用が見込まれる。 内訳　絵画42件　書跡9件　彫刻3件　陶磁25件 漆工14件　染織4件　考古10件　金工4件	A	順調

1123	（奈良国立博物館） 平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力し、寄託品数 2,060 件を目標とする。	**【奈良国立博物館】** 寄贈については、書跡部門において3名の所蔵者から計4件の受け入れを行った。寄託については新規に15件（うち重要文化財2件）の受け入れを行い、総数は2,067件を数えるに至った。	A	順調
1124	（九州国立博物館） 文化交流展示に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力し、寄託品数 350 件を目標とする。	**【九州国立博物館】** 寄贈 7 件（重要美術品 1 件 2 点） （内訳　刀剣 2 件、陶磁 1 件、考古 4 件） 分野としては上記 3 分野にわたる寄贈がある。考古遺物は日本国内九州の出土品のほか、古く海外で出土し重要美術品に指定されていたものがある。また江戸時代に欧米に向けて輸出された陶磁器など、優れた文化財の寄贈を受けた。 新規寄託 46 件 （内訳　彫刻 2 件、書跡 2 件、陶磁 6 件、染織 4 件、考古 32 件） 5分野にわたる寄託を受けた。このうち彫刻は対馬に長く伝世された朝鮮渡来の仏像2体や、北部九州で出土したとされる、まとまった経筒類の寄託を受けるなど、今後の活用が大いに期待される充実した内容となった。	A	順調

定量評価	20 年度	19 年度	目標値	評定
寄託品件数（件）				
東京国立博物館	2,750	2,743	2,400	A
京都国立博物館	6,145	6,154	6,000	A
奈良国立博物館	2,067	2,057	2,060	A
九州国立博物館	1,105	1,091	350	A

(2)　収蔵品の管理保存

【中期目標】収蔵品全体を常時、適切な保存及び管理環境下に置くこと。特に、施設の老朽化、耐震対策に計画的かつ速やかに取り組み、貴重な文化財を次代へ継承すること。

【中期計画】	**【主な計画上の評価指標】**
(2)　国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。	○展示場、収蔵庫の老朽化対策や耐震対策を計画的に勝速やかに実施すること。 ○保存環境の調査研究等を実施すること。 **【19 年度評価における主な指摘事項】** ○展示場、収蔵庫の老朽化対策や耐震対策を進めてほしい。 ○耐震対策が必要であることについて「世論構築」の努力をもっとすべ

		きである。 ○災害発生を想定した体制の再確認も必要である。 ○保存カルテの作成における計画と実施の関係がやや甘くなっているので、目標設定と計画を改めて見直すべきである。 ○ＩＰＭが仕事の一部であることを組織として啓発・徹底していただきたい。		
処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
	(2)-1　収蔵品の管理・保存 収蔵品の適正な管理に努めるとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。	(2)－1 収蔵品の管理・保存		
1211-1	（東京国立博物館） 1)　本館収蔵庫の整備計画を作成しつつ、既存収蔵庫のセキュリティ強化、環境改善の工事を実施する。 2)　列品存在確認作業（棚卸）を継続して計画的に実施する。 3)　歴史資料・和書・古写真・ガラス乾板等の旧資料部関係品を整理し、列品として編入するための作業を進める。 4)　収蔵品の保存と展示に関する環境について全館的視野にたって調査研究を進め、環境データの解析・蓄積を行う。 5)　収蔵品の生物被害を防止するため、統合的有害生物防除管理手法の徹底を図る。 6)　展示場及び収蔵庫における地震対策の再検討と改善を図る。	【東京国立博物館】 ・列品とすべき歴史資料と和書の整理・登録作業を行なった。 ・本年度から RFID・バーコード等を利用して収蔵品の所在情報を電子的に記録するシステムの開発を始めた。 ・列品管理に万全を期すため、列品情報整備事業を今年度から開始した（平成 25 年度まで継続の予定）。 ・来年度から東洋館の耐震補強工事が実施されることなったため、東洋館の収蔵品を避難するため準備作業を行った。	A	順調
1212	（京都国立博物館） 1)　平常展示館建替事業（百年記念館（仮称））の一環として建設された東収蔵庫を活用し、収蔵品の保存環境の充実を図る。 2)　特別展示館（重要文化財　旧帝国京都博物館本館）の耐震調査の結果を基に、地震対策を具体的に検討する。	【京都国立博物館】 ・平常展示館の建て替えに伴い、同館内収蔵庫から館蔵品、寄託品のすべてを東収蔵庫等に移動した。 ・展示室及び収蔵庫における適正な温湿度管理を行った。 ・特別展示館耐震診断業務の結果報告を行った。 ・半年ごとに実施している寄託品の期間継続にともなう点検を着実に実施した。 ・館蔵品に係る保存カルテを作成した。 実績　174 件	A	順調
1213	（奈良国立博物館） 1)　文化財保存修理所を円滑に運用するため、文化財の積極的保存を図る。 2)　収蔵庫及び展示場の適正な温湿度管理の徹底を図る。 3)　本館及び仏教美術資料研究センターの耐震対策を検討する。	【奈良国立博物館】 ・館内の文化財害虫生息状況を把握するため、文化財の保管および展示にかかわる個所を中心に防虫トラップを定期的に設置して回収した。昨年度の 11 月から始めており、1 年余りの調査結果を蓄積した。 ・展示室および展示ケース内の温湿度の管理を図るため、無線ランによるリアルタイムの温湿度管理システムの構築を図り、春の「天馬	A	順調

1214	（九州国立博物館） 1） ＩＰＭ（総合的有害生物管理）による文化財の生物被害防止を引き続き図る。 2） 全館的視野にたった陳列品の展示・保存環境に係る調査研究を進め、環境データの蓄積・解析を行う。 3） 博物館科学・保存修復諸室を円滑に運用し、文化財の積極的保存を図る。	展」、夏の「法隆寺展」で実験的に実施し、「西国三十三所展」で本格的に実施した。「正倉院展」ではさらに内容を深めたシステムを構築した。これによって、かかる温湿度管理については科学的判断のもとで即応することが可能になった。 **【九州国立博物館】** ①収蔵庫・展示室等 250 ヵ所に粘着トラップを設置し定期的モニタリングを実施し害虫侵入箇所と館内の害虫の生息状況を早期発見対処した。文化財搬入に際し、殺虫殺黴処理を実施した。ボランティア活動との連携により IPM 活動の普及に努めた。 ②常設展示室 70 箇所、特別展示室 30 箇所に温湿度計を設置して、環境データを解析した。 ③展示品を中心に、X 線 CT スキャナや三次元計測装置を用いて保存状況と構造調査を実施した。測定結果は予防的保存に役立てると共に展示に反映した。 ④保存カルテ　文化交流展示室の露出展示資料や寄贈資料および修理資料を中心に 279 件を作成した。 ⑤収蔵庫 26 箇所に温湿度計を設置して環境データを解析した。また、空気質を調査して館内汚染物質の軽減を図り、収蔵環境の改善を行った。	A	順調
1211-2	**(2)-2　保存環境の調査研究の実施** 保存カルテの作成及び空調稼働時と休止時の変化が文化財の保管状況に与える影響の調査研究を進める。 （東京国立博物館） 1） 美術、工芸、考古、歴史資料及び民族資料の保存カルテを年 500 件程度作成する。 2） 収蔵庫、展示室の温湿度、汚染気体など保存環境に関する年次報告を整備する。 3） 輸送中の文化財に生じる振動及び衝撃に関する計測と調査を実施する。 （京都国立博物館） 収蔵品の保存カルテを年 100 件程度順次作成する。 （奈良国立博物館） 収蔵品の保存カルテを年 100 件程度作成する。 （九州国立博物館） 1） 収蔵品の保存カルテを年 200 件程度作成する。 2） 館内の温湿度・空気質など保存環境に関するデータを蓄積する。	**(2)-2 保存環境の調査研究の実施** **【東京国立博物館】** ・収蔵庫及び展示室など 346 地点の温湿度を計測し、環境の評価及び処置を実施した。空気環境に関しては、収蔵庫及び外気など 33 地点におけるアルデヒド類及び有機酸類などを計測した。環境評価に基づき、除加湿器の設置、フィルターの交換などの措置を講じた。 ・収蔵庫など 479 地点における生物生息状況を冬季と夏季の 2 回にわたり調査した。また、ゴキブリなどの生活害虫を防除するため、夏季に防虫薬剤を全館に設置した。 ・展示場及び収蔵庫における地震対策として、特にガラス器や土器などの考古遺物の展示固定方法について検討を加え、転倒による破損を防ぎ、かつ外観を損なわない展示支持具の製作を行った。 ・本格修理のための列品調査、対症修理の実施、列品貸与の点検として合計 2693 件の保存カルテを作成した。 ・収蔵庫、展示室など 178 箇所の温湿度に関し、その状態から 3 段階に環境を分類（クラスⅠ、Ⅱ、要注意）した平成 19 年次報告書を作	A	順調

		成した。 ・列品の貸与・返却及び借用の際に、輸送中の梱包ケース内とトラックなどの輸送機材に発生する振動・衝撃に関し、国内外合わせの計11件（薬師寺展、クレムリン博物館貸与品）の輸送を調査した。 **【京博・奈良博・九博】** (2)－1と共通				
		定量評価	**20年度**	**19年度**	**目標値**	**評定**
		保存カルテの作成（件）				
		東京国立博物館	2,693	1,725	500	A
		京都国立博物館	174	140	100	A
		奈良国立博物館	108	103	100	A
		九州国立博物館	289	252	200	A

(3) 計画的な修理

【中期目標】収蔵品の保存技術の向上に努め、貴重な文化財を次代へ継承すること。

【中期計画】

(3) 修理、保存処理を要する収蔵品等については、機構の保存科学・修復技術担当者が連携し、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を取り入れ、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。

【主な計画上の評価指標】

○緊急性の高いものから計画的に修理を実施すること
○外部の専門家と連携すること
○科学的な保存技術を取り入れること

【19年度評価における主な指摘事項】

○もっと統合の効果を生かし積極的に連携していくことを期待する。
○一部の修理現場の採光などについてもう少し科学的配慮を修理者に対して指導いただきたい。
○「修理の質や内容」が判明するような統計を取る必要がある。
○修理に特化した外部資金導入について検討を行う時期にきている。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
1311	**(3)-1 収蔵品の修理** 修理、保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携の下、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。 **(3)-2 科学的な技術を取り入れた修理** 伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。 （東京国立博物館） (3)-1	**(3) 計画的な修理** **【東京国立博物館】** 1)修理計画立案に向けて、修理候補作品の選定のために新たに指定・	A	順調

	1) 引き続き国宝・重要文化財の中長期修理計画を策定する。 2) 作品の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努め、70 件程度の本格修理を実施する。 3) 保存修復関係資料（前年度修理実施分）のデータベース化を図る。(70 件程度) (3)-2 1) 紙本作品について、繊維同定を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 2) 修理前あるいは修理中に、蛍光 X 線分析、X 線透過撮影などの光学的調査を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。	未指定合わせて 563 件の作品の調査を実施した。これまで調査を終えたものと合わせ約 2000 件の作品が今後の修理計画に反映される。調査には必要に応じ X 線透過撮影、光学実体顕微鏡なども使用した。指定品については、国宝絵画 1 件について具体的な修理計画の策定を開始し、修理方針案の作成を行った。 2)作品の応急（対症）修理を 690 件実施。本格修理を 75 件実施した。 3)データベース構築のために 19 年度本格修理 85 件の修理内容についてデジタル化を実施した。18 年度に実施した本格修理に関して、東京国立博物館文化財修理報告書Ⅸを刊行した。		
1312	(京都国立博物館) (3)-1 1) 修理が必要な収蔵品のうち、緊急性の高いものについて修理する。(10 件程度) 2) 文化財保存修理所修復資料のデータベース化を図る。(250 件程度) (3)-2 1) 紙本作品について、繊維同定を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 2) 修理前あるいは修理中に、X 線透過撮影などの光学的調査を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。	**【京都国立博物館】** ・近年の収集品（特に寄贈品）を中心に、展示、研究等に活用できることを期して修理を行った。 ・収蔵庫の移転にともない、移動及び今後の管理等における損傷を未然に防ぐための修理を行った。 ・修理に関して契約方法等の見直しを行い、業者選定の公平性、透明性を高める努力を行った。 実績　絵画 13 件　書跡 1 件　彫刻 1 件　染織 2 件　計 17 件	A	順調
1313	(奈良国立博物館) (3)-1 1) 修理が必要な収蔵品のうち、緊急性の高いものについて修理する。(4件程度) 2) 文化財保存修理所の積極的活用を図る。 3) 修理資料のデータベース化の調査を実施する。 (3)-2 1) 紙本作品について、繊維同定を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 2) 修理前あるいは修理中に、X 線透過撮影などの光学的調査を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 3) 古墳出土の甲冑片、武具等鉄製品の X 線撮影及び実測図作成を順次進め、材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。	**【奈良国立博物館】** ・国民共有の財産として長く後世へ伝えるため、館蔵品のうちの 6 件の修理に着手し、あるいは竣工した。計 8 件。 内訳　彫刻 1 件、絵画 2 件（重要文化財　2 カ年継続事業　第 1 年度）、染織 1 件、書跡 1 件（重要文化財　2 カ年継続事業　第 1 年度）、考古資料 3 件。	A	順調
1314	(九州国立博物館) (3)-1 1) 文化交流展示室に陳列するために必要な文化財のうち、緊急性の高いものについて修理する。(15 件程度) 2) 博物館科学・保存修復諸室の積極的活用を図る。	**【九州国立博物館】** ① 館蔵品を中心に、展示や損傷の程度を勘案して、緊急性の高い文化財 25 件を修理した。 ② 館蔵品および九州をはじめとする館外の文化財修理のため、当館の保存修復諸施設を積極的に活用した。(15 件)	S	順調

	3) 修理資料のデータベース化の調査を実施する。 (3)-2 1) 紙本作品について、繊維同定を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 2) 修理前あるいは修理中に、顕微鏡、デジタルスコープによる観察を行い、蛍光X線分析、X線回折、X線透過撮影などの光学的調査を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。	③ 表具用裂などの修理材料収集を行い、実際の修理に役立てるとともに、資料として保存を計った。 ④ 修理指針の検討のため、各分野の担当研究員とともに修理経過をみながら検討を重ねた。 ⑤ 修理指針の検討のための調査について、紙繊維の分析、絵画彩色の蛍光X線分析や顕微鏡観察による調査、X線、CTスキャンを活用した調査を実施した。 カビなどの生物被害について、顕微鏡観察やサンプルの培養などを行った。				

定量評価	20年度	19年度	目標値	評定
文化財修理のデータベース化（件）				
東京国立博物館	101	97	100	A
京都国立博物館	686	2,377	250	A
文化財の本格修理（件）				
東京国立博物館	75	101	70	A
京都国立博物館	17	15	10	A
奈良国立博物館	8	10	4	A
九州国立博物館	25	22	8	S

2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

(1) 展示の充実

【中期目標】 展示については、常に点検・評価を行うなど改善への取組みを進め、歴史・伝統文化を国内外に発信し、これらについての理解促進に寄与するものとなるように努めること。

①平常展は、歴史・伝統文化についての理解に資するよう、体系的・通史的な展示に努めるとともに、各館の収蔵品を法人全体として有効活用した魅力ある展示を行うこと。また、展示に関する外国語説明を一層充実させること。

②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行うこと。また、展示方法、解説などについて機構の人的資源を最大限に生かした魅力あるものを提供すること。

③個々の展覧会において、積極的な広報に努めること。また、過去の入館者等の状況等を踏まえた適切な入館者数の目標を設定し、その達成に努めること。

【中期計画】	【主な計画上の評価指標】
(1) 展示の充実 展示については、常に点検・評価を行い国民のニーズ、学術的動　向等を踏まえた質の高いものを実施するとともに、展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、国際文化交流に配慮するなど魅力あるものとなるよう努力する。	○国民のニーズや学術的同行を踏まえた質の高いものとすること ○観覧者の理解が深まるよう展示・解説を工夫すること （平常展） ○平常展を魅力あるものとし、再来館者を増加させること

また、見やすさ分かりやすさに配慮した展示及び解説や音声ガイド等の導入を行うことにより、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化についての理解を深めるものとなるよう工夫する。 ①平常展は、展観事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解の促進に寄与する展示を実施する。また、特集陳列の充実を図るなど再来館者の増加が期待できる魅力ある展示にも努め、一層の入場者の確保を図る。また、展示に関する外国語説明を一層充実させることに努め、作品キャプションについては全てに外国語訳を付すとともに、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を80%以上設置する。 ②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 （東京国立博物館） 年3～4回程度 （京都国立博物館） 年2～3回程度 （奈良国立博物館） 年2～3回程度 （九州国立博物館） 年2～3回程度 ③個々の展覧会において、広報に積極的に取り組む。また、展覧会の入館者数については、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。 ④黒田記念館については、東京国立博物館に所属を移し、所蔵作品を東京国立博物館でも展示するなど公開機会を拡大する。	○作品のキャプションについては、すべてに外国語訳を付すこと ○海外からの来館者向けに、展示テーマごとに外国語の解説パネルを80%以上設置すること （特別展） ○我が国の博物館の中心的拠点に相応しい質の高い展示とすること ○各館ごとに以下の回数程度の特別展を実施すること 東京国立博物館　3～4回 京都国立博物館　奈良国立博物館　九州国立博物館　2～3回 ○個々の展覧会ごとに目標入館者数を定め、それを達成すること ○黒田記念館の所蔵作品を東京国立博物館でも展示公開するなど公開機会を拡大すること **【19年度評価における主な指摘事項】** ○混雑緩和対策として例えば夜の開館延長日を増やすなど一層柔軟な対策を検討すべきである。 ○入館者については若者、特に高校生に的を絞ったキャンペーンを全館あげて取組み、マスコミなどを巻き込み広く国民運動化していくといった創意工夫が必要である。 ○特別展の満足度については混雑に関連しているか否かの分析を深めてほしい。 ○京博、奈良博は比較的空いていることを特徴にするような施策の検討を望む。 ○京博は展示作品の質のわりには展示方法が「平常」すぎるので意識的に工夫していただきたい（ガラスケースの反射の配慮など）。 ○展覧会の入場者数データを年齢層・性別がわかるようにすれば、展示内容に反映できると考える。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
2111	**(1)　展示の充実** 東京、京都、奈良、九州4館の特色を生かし、再度、国立博物館を訪れたくなるような魅力ある平常展や特別展を実施する。 **①　平常展** 展観事業の中核と位置づけ、特集陳列等の充実を図る。また、作品キャプションについては全てに英語訳を付するとともに、時代背景等をわかりやすく伝えるために展示テーマごとの解説の充実を図り、その外国語訳に努める。 （東京国立博物館） ア　定期的な陳列替の実施（年200回程度）	**(1)展示の充実** **①平常展** **【東京国立博物館】** ・本館、平成館、法隆寺宝物館、東洋館において、日本の考古、美術、工芸、民族資料、歴史資料および東洋の考古、美術、工芸に関する平常展示および特集陳列を行った。 ・文化庁との共催により、平成20年に新たに指定された国宝・重要文化財を展示した。 ・特別企画として正月に「博物館に初もうで」を開催した。	A	順調

	イ　陳列総件数　約6,000件 ウ　東洋館平常展のリニューアルを引き続き検討する。 エ　本館「日本美術の流れ」をはじめとする日本美術関係の展示、平成館の日本考古展示の更なる充実を図る。本年度は考古展示に重点を置く。 オ　外国語パンフレットをより充実したものにする。 1)　特集陳列 20年度は例年より多くの特別展を実施するため、例年以上に特別展にマンパワーを割かなければならないが、その中でできるだけ多くの特集陳列を実施する。 ○新収品 ・平成19年度新収品（6月17日～7月13日） ○日本美術 ・アイヌと生業(4月1日～6月29日) ・高麗茶碗(4月8日～7月27日) ・那智山(7月29日～11月16日) ・琉球の工芸(7月1日～9月28日) ・彦根更紗と明のやきもの(9月9日～10月19日) ・北方民族の祈り（9月30日～21年1月4日） ・仮面(9月17日～10月26日) ・キリシタン(10月7日～11月16日) ・高野コレクション(10月28日～12月7日) ・装飾料紙と鑑賞料紙(11月5日～12月14日) ・自在(11月18日～21年2月1日) ・博物館に初もうで（21年1月2日～1月25日） ・アイヌの文様(21年1月6日～3月29日) ・お雛様と人形(21年2月3日～3月15日) ・画家と書(21年2月10日～3月22日) ・黒田清輝の作品Ⅰ(21年3月3日～4月12日) ○考古相互貸借 ・考古相互貸借(仮称)(12月16日～21年2月8日) ○歴史資料 ・博物館図譜－日本的研究の展開－(4月1日～5月25日) ・シリーズ日本を歩く－奥羽・東北－(5月27日～6月29日) ・古写真－古美術の記録－(7月8日～8月3日) ・医学(8月5日～9月15日) ・災害－博物館と震災－(9月17日～10月26日) ・世界への扉－東京国立博物館の洋書コレクション(10月28日～12月7日)	・分かりやすく魅力的な展示を目指し、平成館考古展示室の展示の手直しを実施した。 ・本館2階の主要展示ケースのガラスに低反射フィルムを貼り、鑑賞の妨げとなる光の写りこみを大幅に減少させた。 ・特集陳列は「黒田清輝の留学時代」他計79件を実施し、平常展の活性化を図った。		

・文化財の保護（12 月 9 日～21 年 1 月 25 日）
・博物館の歴史－書籍館旧蔵本を中心に－（21 年 1 月 27 日～3 月 15 日）
○東洋美術
・山本達郎氏寄贈の東南アジア彫刻コレクション(20 年 2 月 13 日～5 月 6 日)
・西アジア　遊牧民の染織(20 年 2 月 13 日～5 月 6 日)
・特集陳列 端物切本帳(20 年 2 月 13 日～5 月 6 日)
・蘭亭叙(20 年 3 月 4 日～5 月 6 日)
・封泥(20 年 3 月 4 日～6 月 1 日)
・薤醤安南陶(5 月 8 日～7 月 27 日)
・インドネシアの衣服とミナンカバウ族の礼装用衣服(5 月 8 日～7 月 27 日)
・「名物裂」にみる文様Ⅰ―牡丹唐草文様の変遷―(5 月 8 日～7 月 27 日)
・市河米庵コレクション（7 月 8 日～9 月 7 日）
・ワヤン(7 月 29 日～10 月 19 日)
・「名物裂」にみる文様Ⅱ―禽獣文―(7 月 29 日～10 月 19 日)
・朝鮮のうちわ(8 月 26 日～10 月 5 日)
・漢・北朝の俑(9 月 2 日～11 月 30 日)
・中国書画精華(9 月 9 日～11 月 3 日)
・ベトナム染付(10 月 21 日～21 年 1 月 12 日)
・「名物裂」にみる文様Ⅲ―宝尽し文―(10 月 21 日～21 年 1 月 12 日)
・特集古代の輝きペルシャのガラス(11 月 18 日～21 年 4 月 5 日)
・古代中国の貨幣(12 月 2 日～21 年 3 月 1 日)
・インド細密画(21 年 1 月 14 日～4 月 5 日)
・「名物裂」にみる文様Ⅳ―幾何学文と縞―（21 年 1 月 14 日～4 月 5 日）
・ペルーの土器(21 年 1 月 27 日～4 月 26 日)
・中国の青銅鏡(21 年 3 月 3 日～5 月 31 日)
○保存科学
・保存修復展（21 年 2 月 17 日～3 月 29 日）
○親と子のギャラリー
・博物館の水族館（6 月 25 日～8 月 31 日）
○その他企画
・「博物館に初もうで」(21 年 1 月 2 日～1 月 25 日)
2)　東京文化財研究所関係企画
・海外所在の日本美術品修復（5 月 12 日～5 月 25 日）
3)　文化庁関係企画
・「平成 20 年 新指定 国宝・重要文化財」（仮称）（4 月 22 日～5 月 6 日）
平成 20 年（2008）に新たに国宝・重要文化財に指定される文化財を展示する。

2112	（京都国立博物館） 平常展示館は建替のため 12 月に閉館するが、その中でもできるだけ多くの収蔵品を観覧できる機会を提供する。 ア　定期的な陳列替の実施（年 18 回程度） イ　陳列総件数　約 650 件 ウ　時機に応じた京都文化を中心とした独創的な特集陳列を企画し、実施する。 エ　活発な収集を通じ、常に新しい資料の発掘に努め、平常展の充実を図る。 オ　特集陳列 京都文化の真髄を伝える宮廷・古社寺伝来の文化財を中心に展示する。 ・「平安時代の考古遺物－源氏物語の時代－」（4 月 2 日～6 月 29 日） ・「新収品展」（5 月 21 日～6 月 22 日） ・「杉本哲郎 アジャンタ・シーギリヤ壁画模写－70 年目の衝撃－」（6 月 25 日～7 月 27 日） ・「坂本龍馬」（7 月 23 日～8 月 31 日） カ　特別公開 ・「修理完成記念　山形・熊野神社の神像」（4 月 2 日～6 月 29 日）	**【京都国立博物館】** ・定期的な陳列替の実施　39 回 ・陳列総件数　1,081 件 ・時期に応じて、京都文化を中心とした独創的な特集陳列等を実施した ・活発な収集を通じて、新たな資料の発掘に努め、平常展の充実を図る ・特集陳列の企画を実施（4 回） 特集陳列「平安時代の考古遺物―源氏物語の時代―」 特集陳列「新収品展」 特集陳列「杉本哲郎　アジャンタ・シーギリヤ壁画模写―70 年目の衝撃―」 特集陳列「坂本龍馬」 ・修理完成記念特別公開展示を実施 「山形・熊野神社の神像」（4/2～/29） ・特別公開「篤姫をめぐる人と刀剣・甲冑」の企画を実施（10/22～2/7）	A	順調
2113	（奈良国立博物館） ア　定期的な陳列替の実施（年15回程度） イ　陳列総件数　約800件 ウ　活発な収集と新しい資料の発掘により平常展の充実を図る。 ・西新館　考古・絵画・書跡・工芸部門の平常展示 ・本館（1～13室）　彫刻部門の平常展示 ・本館（14室・15室）　中国青銅器の平常展示 ・「注目の逸品」を適時選定する。 エ　特別陳列により平常展の充実を図る。 独創的な研究テーマ及び地域に密着した研究テーマによる特別陳列の充実 ・「おん祭と春日信仰の美術」（12月6日～21年1月18日） ・「お水取り」（21年2月7日～3月15日）	**【奈良国立博物館】** 年度を通して本館における平常展「仏教美術の名品」（彫刻部門）、「中国古代青銅器」を開催し、西新館では平常展「仏教美術の名品」（考古・工芸・絵画・書跡部門）を開催した。その中には「繍仏と染織の美」（6 月 14 日～7 月 13 日、西新館）、「とてもよく似た二つの仏像－金峯山寺の釈迦如来像と兵庫県所蔵の天部像」（1 月 14 日～、本館）の特集展示が含まれる。また時節に応じた小ギャラリー「雛人形」（21 年 2 月 17 日～3 月 15 日）を開催した。陳列替は 12 回に及んだ。企画展示としては、「建築を表現する－弥生時代から平安時代まで」（20 年 6 月 14 日～7 月 13 日、西新館）、「おん祭と春日信仰の美術」（20 年 12 月 6 日～1 月 18 日、東新館）、「お水取り」（21 年 2 月 7 日～3 月 15 日、東新館）の計 3 回の特別陳列を開催した。	A	順調
2114	（九州国立博物館） ア　定期的な陳列替の実施（年100回程度） イ　陳列総件数　約1,200件 ウ　平常（文化交流）展の部分的なリニューアルによって充実を図る ・関連展示室8「かね・すず・たいこ」内を改造し、民俗仮面を中心とした展示として来館者に新鮮な展示を提供する。 ・関連展示室11「多彩な江戸文化」の部屋を1室に改造し、広い展示室の特	**【九州国立博物館】** ・文化交流展示室では、当館のテーマである日本の文化交流を重視する観点から、例年通り、計画的に 386 回にわたる展示替えを行い、3146 件の文化財を展示した。 ・展示替え情報は、当館ＨＰやちらし、広報メディアを通じて来館者へ提供した。 ・昨年に引き続いて、文化交流展示室内で期間を限定して、特定のテ	A	順調

	徴を生かしたテーマ性を持った展示を行う。 エ　特集陳列により、独創的なテーマおよび地域に密着したテーマを掘り下げる(日程はいずれも予定)。 ・「観音変相図」展　(関連展示室11　8月5日～9月15日) ・「琉球」展　(関連展示室11　9月17日～10月26日) ・「文書」展　(関連展示室11　11月28日～12月7日) ・「長崎と川原慶賀」展　(関連展示室11　12月2日～21年1月18日) ・「模写と再現文化財」展　(関連展示室11　12月2日～21年1月18日) ・「修理仏画御披露目陳列(仮称)」(関連展示室11　21年1月20日～3月1日) ・「屏風」展　(関連展示室11　21年3月3日～4月12日) ・「修理報告」展　(関連展示室9　5月13日～6月22日) ・「新たな国民のたから」展　(関連展示室9　6月24日～7月20日) ・「ベトナム陶磁」展　(関連展示室9　9月1日～12月7日) ・「よみがえる弥生都市」展　(関連展示室3　8月20日～11月16日) ・「早川和子原画」展　(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲテーマ展示ケース前　9月1日～10月13日) ・「あおもり縄文まほろば」展　(関連展示室3　11月22日～21年1月18日) ・「奴国の南-九大筑紫地区の埋蔵文化財-」(関連展示室3　21年1月20日～2月20日) オ　他国語対応のガイドブックの作成 ・英語・中国語・韓国語版の文化交流展示室のガイドブックを作成する。	ーマを掘り下げたトピック展示を実施した（17 回)。このうち、当館外部の機関などと共同で主催したトピック展示も 5 回実施した。 ・トピック展示ではちらしやポスター、リーフレットや図録などを作成し、関連したシンポジウムも開催して、展示だけでない情報発信ができた。 ・京都泉屋博古館と共同研究を締結し、当館のコレクションには無かった中国古代青銅器の展示を継続的に行うことができるようになった。 ・増え続ける外国からの来館者、とくに中国・韓国からの来館者に対し、中国語ガイドブックおよび英語・中国語・韓国語の簡単な展示解説付きマップを作成し、展示室の内容を紹介した。 ・特集陳列は「あおもり縄文展～ＪＯＭＯＮを世界へ、三内丸山からの発進～」他計 16 件実施し、好評を博した。		
2120	**②特別展** （国立文化財機構　担当：東京国立博物館、奈良国立博物館） 海外展「聖なる山の寺宝　醍醐寺・日本密教の僧院」(4 月 25 日～8 月 24 日) 会場：ドイツ連邦共和国国立芸術展覧会ホール（ボン）（法人主催、東京国立博物館、奈良国立博物館実施） 1,100 年余りに及ぶ長い歴史を持つ真言密教の寺である醍醐寺に焦点をあて、絵画、書跡、彫刻、工芸といった多様な分野にわたる代表的な寺宝 230 点余りを選定してドイツ・ボンにおいて展示する。これにより、日本仏教ないし密教の歴史と多様な日本仏教美術の姿を広くヨーロッパの人々に紹介し、日本の古代文化の優れた一面を理解いただこうとするものである。	**②特別展** **【国立文化財機構】** **聖なる山の寺宝　醍醐寺・日本密教の僧院（海外展）** ・開会期間　20 年 4 月 25 日～8 月 24 日（122 日間） ・会場　ドイツ連邦共和国国立芸術展覧会ホール ・主催　東京国立博物館、奈良国立博物館、醍醐寺、ドイツ連邦共和国国立芸術展覧会ホール ・作品件数　167 件（うち国宝 9 件、重要文化財 74 件） ・入館者数　59,998人 ・真言密教の代表的な寺院である醍醐寺に焦点をあて、絵画、書跡、彫刻、工芸といった多岐にわたる分野から代表的な名宝 167 件を精選し、ドイツ・ボンにおいて展示した。日本仏教、ことに日本密教の歴史と文化の所産である名宝の数々は、来館者の興味関心に大いにこたえるもので、好評を得た。ドイツのみならずヨーロッパ諸国に日本密教の名品を紹介した本展は、日独両国の友好親善に寄与し、ヨーロッパにおける日本の文化的地位の向上に資するものとなっ	A	順調

		た。		
	（東京国立博物館） 目標入場者数　101 万人	**【東京国立博物館】**		
2121-1	ア　平城遷都 1300 年記念「薬師寺展」（20 年 3 月 25 日～6 月 8 日） 目標入場者数 40 万人 薬師寺は、天武 9 年（680）、天武天皇によって創建された由緒ある大和の古寺で、平成 10 年（1998）には、ユネスコの世界遺産リストに登録された。本展では、日本仏教彫刻史上の最高傑作のひとつといわれる国宝の日光・月光両菩薩立像をはじめ、薬師寺に長い間伝えられてきた貴重な文化財を紹介し、日本古代の仏教美術の特質を展観する。	**ア　薬師寺展** ・開会期間　20 年 3 月 25 日～6 月 8 日（67 日間） ・会場　平成館　特別展示室第 1～4 室 ・主催　東京国立博物館、法相宗大本山薬師寺、NHK、NHK プロモーション、読売新聞社 ・作品件数　47 件（うち国宝 8 件、重要文化財 5 件） ・入館者数　79万4909人 ・入場料金　一般1500円、大学生1200円、高校生900円　中学生以下無料 ・アンケート結果　満足度　84.3% ・平城遷都 1300 年を記念し、日本仏教彫刻の最高傑作のひとつとして知られる薬師寺金堂の日光・月光菩薩立像（国宝）をそろって寺外で初公開した。また、聖観音菩薩立像（国宝）、吉祥天像（国宝）などの彫刻・絵画の名宝とともに草創期の薬師寺の姿を物語る考古遺物なども展示することにより、薬師寺の歴史と文化を総合的に紹介することができ、大好評を得た。	S	順調
2121-2	イ　日仏交流 150 周年記念　オルセー美術館コレクション特別展「フランスが夢見た日本―陶器に写した北斎、広重」（7 月 1 日～8 月 3 日） 目標入場者数 5 万人 19 世紀のフランスにおいては、「ジャポニスム」の隆盛にともない、北斎や広重などの絵画をモチーフとしたテーブルウェア「ルソー」と「ランベール」が制作され、当時高く評価された。今回、日仏修好 150 年という記念すべき機会に、オルセー美術館が所蔵する「ルソー」と「ランベール」の貴重なコレクションを公開し、日本とフランスの芸術文化と産業の交流を顕彰する。	**イ　フランスが夢見た日本―陶器に写した北斎、広重** ・開会期間　20 年 7 月 1 日～8 月 3 日（30 日間） ・会場　表慶館　1 階 ・主催　東京国立博物館、オルセー美術館、日本経済新聞社 ・作品件数　132 件 ・入館者数　5万8,342人 ・入場料金　一般 1000 円、大学生・高校生 700 円、中学生以下無料 ・アンケート結果　満足度　70.9% ・日仏両国の間に外交関係が樹立されて 150 周年に当たる本年、オルセー美術館が所蔵する「セルヴィス・ルソー」と「セルヴィス・ランベール」と呼ばれる陶器を、日本ではじめてまとめて展示した。あわせて、これらのテーブルウェアの図柄のもとになった浮世絵や版画家フェリックス・ブラックモンのエッチングを展示することにより、今まであまり知られていなかった日仏文化交流の豊かな内容の一端を広く紹介することができた。	A	順調
2121-3	ウ　創刊記念『國華』120 周年・朝日新聞 130 周年　特別展「対決―巨匠たちの日本美術」（7 月 8 日～8 月 17 日） 目標入場者数 12 万人	**ウ　対決―巨匠たちの日本美術** ・開会期間　20 年 7 月 8 日～8 月 17 日（37 日間） ・会場　平成館　特別展示室第 1～4 室	S	順調

	運慶・快慶、雪舟・雪村、永徳・等伯、宗達・光琳、仁清・乾山、円空・木喰、応挙・蘆雪、若冲・蕭白、大雅・蕪村、歌麿・写楽、大観・鉄斎など、日本美術史上に大きな足跡を残した巨匠・名匠の名作を、それぞれ同時代の好対照・好敵手・師弟継承が対になるように組み合わせて展示する。かつてない展示構成によって、名だたる巨匠の名品を一堂に会し、日本美術に対する新たな認識を広く喚起する機会とする。	・主催　東京国立博物館、國華社、朝日新聞社 ・作品件数　110件（うち国宝11件、重要文化財39件） ・入館者数　32万6,784人 ・入場料金　一般1500円、大学生1200円、高校生900円　中学生以下無料 ・アンケート結果　満足度　85.3% ・運慶と快慶、狩野永徳と長谷川等伯など、美術研究専門誌『國華』が誌上で顕彰してきた中世から近代までの日本美術史上に輝く巨匠たちを2人ずつ組み合わせ、その作品を「対決」させるという斬新な展示構成により、日本美術の特質や素晴らしさを一般にわかりやすい形で紹介した。過去2年間の展覧会アンケートの中では、最も高い満足度を得た。		
2121-4	エ　スリランカの文化遺産展（仮称）（9月17日～11月30日<予定>） 目標入場者数10万人 スリランカは2,000年以上の歴史を誇る島国で、数多くの仏教遺跡や仏像など、豊かな文化遺産が保存されている。本展では、スリランカの仏教文化の粋を示す仏像や仏教工芸など、約140件を展示し、世界遺産に指定されているスリランカの遺跡や美しい自然をあわせて紹介しながら、スリランカ文化の精華を日本において初めて本格的に紹介する。	**エ　スリランカ―輝く島の美に出会う** ・開会期間　20年9月17日～11月30日（65日間） ・会場　表慶館　1階・2階 ・主催　東京国立博物館、読売新聞、スリランカ民主社会主義共和国文化・国家遺産省 ・作品件数　198件 ・入館者数　8万865人 ・入場料金　一般1200円、大学生1000円、高校生800円、中学生以下無料 ・アンケート結果　満足度　80.0% ・仏像やヒンドゥー神像、仏具などの宗教芸術作品や、美しい宝石をふんだんにあしらった宝飾品など、国宝級を含む約200件におよぶスリランカ美術の粋を一堂に集めて展示した。スリランカの仏教美術をまとめて紹介した、日本で初めての本格的な展覧会として画期的なものであり、両国の友好親善に寄与することができた。 一般には南アジアの美術に対する関心が予想以上に低く、目標入館者数を下回った。	A	順調
2121-5	オ　尾形光琳生誕350周年記念「大琳派展－継承と変奏－」（10月7日～11月16日） 目標入場者数14万人 尾形光琳の生誕350年を記念し、光悦・宗達・光琳・乾山・抱一・其一の6人を中心に、絵画、書跡、工芸など、内外の琳派の優品を一堂に集め、個性豊かな琳派の世界を紹介する。これにより、琳派の系譜と各作家の独自性を具体的に検証し、およそ百年ごとに花開いた琳派芸術の特色とその	**オ　大琳派展－継承と変奏－** ・開会期間　20年10月7日～11月16日（36日間） ・会場　平成館　特別展示室第1～4室 ・主催　東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション ・作品件数　242件（うち国宝7件、重要文化財34件） ・入館者数　30万8,213人 ・入場料金　一般1500円、大学生1200円、高校生900円、中学生以下	A	順調

	意義についても明らかにしたい。	無料 ・アンケート結果　満足度　84.7% ・尾形光琳の生誕350年を記念し、光悦・宗達・光琳・乾山・抱一・其一の六人を中心に、個性豊かな琳派の世界を紹介した。琳派の系譜と各作家の独自性を具体的に検証することにより、およそ100年ごとに花開いた琳派芸術の特色とその意義について明らかにした。絵画・書跡・工芸など各分野の国宝・重要文化財はもちろん、海外の美術館が所蔵する琳派の優品を一堂に集めた結果、アンケートに見るように、過去最高に近い満足度を達成した。		
2121-6	カ　慶應義塾創立150年記念展「未来をひらく福澤諭吉―異端と先導―」（仮称）（21年1月10日～3月8日） 目標入場者数10万人 慶應義塾は平成20年に創立150年を迎える。これを機として、日本の近代化・国際化に貢献した思想家・文化人である創立者福澤諭吉の多方面にわたる活動と、近代的学塾としての道を開拓した慶應義塾の歴史について、各種の資料や美術作品等によって概観しながら、日本の近代化の足跡をたどる。	**カ　未来をひらく福澤諭吉展** ・開会期間　21年1月10日～3月8日（50日間） ・会場　表慶館1階・2階、本館特別2室 ・主催　東京国立博物館、慶應義塾、フジサンケイグループ（主管：産経新聞社） ・作品件数　346件（うち国宝3件、重要文化財17件） ・入館者数　7万3,128人 ・　入場料金　一般1200円、大学生1000円、高校生800円　中学生以下無料 第1会場(表慶館)は上記観覧料が必要。第2会場(本館特別2室)は、平常展料金でも観覧可能。 ・アンケート結果　満足度　87.4% ・本展覧会は、慶應義塾創立150周年を記念して開催したもので、福澤諭吉の遺品、遺墨、書簡、自筆草稿、著書などをとおして福澤の先導的な思想と活動を紹介するとともに、慶應義塾ゆかりの美術品などを展示した。表慶館だけでなく、本館特別2室に釈迦金棺出現図などの名品を展示することで、多角的な展示となり、観覧者からは好評を得たが、文化財を展示する東京国立博物館の通常の展示と異なり、資料的な展示品が多数をしめ、また、広報面での内容周知が必ずしも十分ではなかったことなどから、目標入場者数には達しなかった。	A	順調
2121-7	キ　開山無相大師650年遠諱記念　特別展「妙心寺」（仮称）（21年1月20日～3月1日） 目標入場者数10万人 妙心寺は、延元2年（1337）、花園法皇が、関山慧玄（1277～1360、諡号・無相大師）に自らの離宮を賜り、禅寺として創建させたことに始まる。本展では、妙心寺に伝わる名僧たちの墨跡や頂相・袈裟、妙心寺を外護し	**キ　妙心寺** ・開会期間　21年1月20日～3月1日（36日間） ・会場　平成館　特別展示室　第1室～第4室 ・主催　東京国立博物館、臨済宗妙心寺派大本山妙心寺、読売新聞東京本社 ・作品件数　176件（うち国宝4件、重要文化財43件、重要美術品2件）	A	順調

	た諸大名の肖像、中世以来妙心寺に伝来する唐物・唐絵、室町時代から江戸時代にいたる各時期の障壁画などの名宝を展示し、妙心寺の歴史と文化について紹介する。	・入館者数　15万1,833人 ・入場料金　一般1200円、大学生1000円、高校生800円　中学生以下無料 ・アンケート結果　満足度 73.8% ・開山無相大師 650 年遠諱にちなみ、本山および塔頭の名宝を中心に、妙心寺の歴史と文化について紹介した。東京では大規模な妙心寺展は初めてであり、好評を得た。		
2121-8	ク　海外展　東京国立博物館所蔵名品展「サムライ―日本の武家の宝物」（仮称）（5 月 23 日～7 月 16 日）会場：ロシア連邦クレムリン博物館（モスクワ） 東京国立博物館が収蔵する日本美術の優品約 70 件により、日本の武家文化を紹介する。当館のコレクションがまとまった形でロシアにおいて紹介されるのはこれが初めてのことであり、ロシアの人々に優れた日本の古美術品に親しんでいただく機会とする。モスクワ・クレムリン博物館群創立 200 周年記念として、世界の主要美術館の収蔵品を紹介する特別展シリーズ「世界のロイヤルコレクション」の一つ。	**ク　サムライ－日本の武家の宝物（海外展）** ・開会期間　20 年 5 月 23 日～7 月 16 日（55 日間） ・会場　モスクワ　クレムリン博物館　ベルタワー展示室及びパトリアーク宮殿柱の間 ・主催　東京国立博物館、ロシア連邦モスクワ・クレムリン博物館 ・作品件数　73 件（うち国宝 1 件、重要文化財 4 件） ・入館者数　10万2,000人 ・入場料金　-- ・アンケート結果　実施せず ・東京国立博物館が収蔵する文化財の中から、日本の武家文化に関わる優品を特に選んで展示し、海外における日本文化紹介の一助とした。東京国立博物館のコレクションがまとまった形でロシアにおいて紹介されたのは今回が初めてのことであり、ロシアの人々に優れた日本の古美術品に親しんでいただく絶好の機会となった。1 日あたりの入場者数は、クレムリン博物館の企画展史上、最も多数にのぼり、大変な好評を博した。	A	順調
2122-1	（京都国立博物館） 目標入場者数　11 万人 ア　「没後 120 年記念　絵画の冒険者　暁斎 kyosai　－近代へ架ける橋－」（4 月 8 日～5 月 11 日） 目標入場者数　3 万人 河鍋暁斎没後 120 年を記念し、初期から晩年にいたる暁斎の重要作品を選りすぐって紹介する。	**【京都国立博物館】** **ア　絵画の冒険者　暁斎 kyosai　－近代へ架ける橋－** 浮世絵・狩野派を学び、幕末・明治期の江戸・東京で活躍した河鍋暁斎（1831～89）の画業を回顧する展覧会。暁斎のユニークな画風は特に海外で大きな関心を呼んできたが、暁斎の全貌をうかがえる展覧会はこれまでにはなかった。奇想的な作品はもとより、暁斎の骨格を形づくった狩野派的側面を知ることのできる作品を網羅した初の大規模展となった。 ・開催期間　4 月 8 日～5 月 11 日(30 日間) ・会　　場　特別展示館 ・主　　催　京都国立博物館、(財) 河鍋暁斎記念美術館 ・陳列品総件数　135 件 ・海外からの出陳件数　24 件 （大英博物館、ライデン国立民族学博物館、イギリス：イスラエ	A	順調

		ル・ゴールドマンコレクション） ・入場者数　7万6686人(目標3万人) ・入場料金　一般 1200円、大高生 800円、中小生 400円 ・アンケート結果　満足度 94%		
2122-2	イ　「japan 蒔絵－宮殿を飾る 東洋の燦めき－」（10月18日～12月7日） 目標入場者数　5万人 マリー・アントワネットのコレクションをはじめ、ヨーロッパの宮殿に伝わった数々の名品によって、日本の蒔絵のもうひとつの歴史を概観する。	**イ　japan 蒔絵　―宮殿を飾る　東洋の燦めき―** 16世紀末以来、京都で作られ海外に輸出された日本の蒔絵は、富と権力の象徴として各国の王侯貴族に愛された。その輸出量は蒔絵の歴史に少なからぬ影響を与えた。欧州各国の貴重なコレクションに国内の名品を加え、輸出漆器の歴史を紹介する初の大規模展覧会となった。 ・開催期間　10月18日～12月7日（44日間） ・会場　特別展示館 ・主催　京都国立博物館　読売新聞大阪本社　ＮＨＫ京都放送局 ・陳列品総件数　284件　うち海外資料　164件（57.7%） ・国宝5件　重要文化財12件　重要美術品1件 ・初公開作品155件（54.6%）　うち世界初公開　56件（19.7%） ・入場者数　67,050人　（目標5万人） ・入場料金　一般1,400円、大高生900円、中小生400円 ・アンケート結果　満足度　95% 輸出磁器ほど知られていない輸出漆器の歴史を、マリー・アントワネットやポンパドゥール侯爵夫人などにゆかりの実物作品によって通観できるこれまでにない展示となった。 展覧会図録を日英バイリンガルとした結果、日本語を読めない人々へも京都の文化を紹介することができた。海外からも図録の要望が寄せられた。 指定文化財の展示規制上、実現不可だが、ヨーロッパへの巡回希望も多く寄せられた。 陳列品中イギリスのV&A美術館の所蔵品が、アメリカ合衆国ロサンゼルスのゲッティ美術館へ巡回することになり、本展の作品解説が採用され、図録350冊が買いとられた。	A	順調
2122-3	ウ　「京都御所の至宝」（仮称）（1月10日～2月22日） 目標入場者数　3万人 天皇陛下の御即位20年を記念して、京都御所ゆかりの、雅な宮廷生活を彩った美術品の数々を一挙に公開する。	**ウ　京都御所ゆかりの至宝―甦る宮廷文化の美―** 京都御所で歴代天皇が育んだ豊穣な宮廷文化の全貌を顧みる展覧会。御所をはじめ宮内庁で伝えてきた品々に加えて、天皇の下賜品や移築された御所建物に付属する障壁画の名品までを一堂に展観するはじめての機会となった。 ・開催期間　21年1月10日～2月22日(45日間)	A	順調

		・会　　場　特別展示館 ・主　　催　京都国立博物館、京都新聞社、ＮＨＫ京都放送局 ・陳列品総件数　130 件 ・海外からの出陳件数　0 件 ・入場者数　　116,363 人（目標 3 万人） ・入場料金　一般 1300　円、大高生 900　円、中小生 400　円 ・アンケート結果　満足度　87％		
2122-4	エ　「開山無相大師 650 年遠諱記念　妙心寺」（21 年 3 月 24 日～5 月 10 日） 妙心寺は、延元 2 年（1337）、花園法皇が、関山慧玄（1277～1360、諡号・無相大師）に自らの離宮を賜り、禅寺として創建させたことに始まる。本展では、妙心寺に伝わる名僧たちの墨跡や頂相・袈裟、妙心寺を外護した諸大名の肖像、中世以来妙心寺に伝来する唐物・唐絵、室町時代から江戸時代にいたる各時期の障壁画などの名宝を展示し、妙心寺の歴史と文化について紹介する。	**エ　妙心寺** **次年度に評価**		
2123-1	（奈良国立博物館） 目標入場者数　28万人 ア　「天馬 ―シルクロードを翔ける夢の馬―」（4月5日～6月1日） 目標入場者数　3万人 天馬の伝説に焦点をあて、ギリシャ・ローマから西アジア、中国、日本へとシルクロードでつながる古代文化の東西交流の様相を紹介する。	**【奈良国立博物館】** **ア　天馬―シルクロードを翔ける夢の馬―** ・会　　期　4 月 5 日（土）～6 月 1 日（日）までの 58 日間（開館は 50 日間）。 ・会　　場　東西新館 ・主　　催　奈良国立博物館 ・陳列品総数　163 件（うち国宝 8 件、重文 22 件、イタリアから 12 件、アメリカから 7 件、中国から 12 件の一級文物クラスの作品を借用・展示） ・入場者数　3 万 1,910 人（目標 3 万人） ・観覧料金　一般 1,000 円、高・大生 700 円、小・中生無料 ・アンケート満足度　81％ ・シルクロードを通じた西洋と東洋の文化交流を扱った本展覧会は、当館が独自に企画した特別展としては初めての試みである。 ・財団法人全国競馬・畜産振興会を共同主催に迎え、さらにエクソン・モービル社からの後援を仰ぐなど、実業界との新たな共同事業を開拓し得た。	A	順調
2123-2	イ　「国宝 法隆寺金堂展」（6月14日～7月21日） 目標入場者数　4万人 世界遺産に登録された法隆寺の金堂須弥壇改修にあわせ、金堂内の諸尊像ほかを一堂に公開する。	**イ　国宝　法隆寺金堂展** ・開会期間　6 月 14 日～7 月 21 日（33 日間） ・会　　場　東新館 ・主　　催　奈良国立博物館、朝日新聞社、法隆寺 ・陳列件数　27 件（うち指定品 13 件）	S	順調

		・入場者数　13 万 2,919 人 ・観覧料金　一般　1,200 円　高・大生　800 円　小・中生　500 円 ・アンケート結果　満足度　75% ・出陳件数こそ少ないものの、世界遺産・法隆寺金堂に安置される仏像のうち釈迦三尊・薬師如来像を除く全てが出陳された。とりわけ、会期半ば以降とはいえ、わが国最古の四天王像（国宝）が 4 躯全てが出陳されたことは空前絶後のことで、多くの方から高い関心を集めた。		
2123-3	ウ　「西国三十三所 ―観音霊場の祈りと美」（8月1日～9月28日） 目標入場者数　3万人 歴史ある各霊場に伝えられた宝物の数々を開陳し、西国三十三所の歴史と信仰の遺産や信仰に基づく美の世界を展示する。	**ウ　西国三十三所展** ・主催　奈良国立博物館、NHK 奈良放送局、NHK サービスセンター、NHK プラネット近畿、読売新聞大阪本社 ・特別協力　西国三十三所札所会 ・会期　8 月 1 日～9 月 28 日（52 日間） ・会場　奈良国立博物館 東・西新館 ・出陳件数　190 件（国宝 10 件、重文 60 件）※2 会場合計では 195 件 ・入場者数　10 万 6411 人（目標 3 万人） ・観覧料金　一般 1200 円　高・大生 800 円　小・中生 500 円 ・アンケート結果　満足度 89%	S	順調
2123-4	エ　「第60回正倉院展」（予定） 目標入場者数　18万人 奈良時代の優れた文化財を鑑賞するまたとない機会として、正倉院に保管される聖武天皇御遺愛の品々や、東大寺大仏開眼会で用いられた法具・調度・楽器などの宝物から約70数件を借り受け、公開展示する。	**エ　第 60 回正倉院展** ・開会期間　10 月 25 日～11 月 10 日（17 日間） ・会　　場　東西新館 ・主　　催　奈良国立博物館 ・陳列品総件数　69 件（うち初出陳 18 件） ・入場者数　26 万 3,765 人（目標 18 万人） ・観覧料金　一般 1,000 円、高・大生 700 円、小・中生 400 円 ・アンケート結果満足度　　75% ・正倉院展は正倉院宝物が一般に公開される唯一の機会であり、毎年多くの観覧者を迎えている。 ・今年度は 17 日間の会期では最高の入館者数を数えたが、会場の混乱は例年より少なく、またアンケートによる満足度は昨年や一昨年を上回ることができた。 ・第 60 回目の今年は、白瑠璃碗や紫檀木画双六局をはじめとする優品 69 件が出品された。 ・今年の傾向は佩飾品、天蓋などの荘厳具が比較的多く含まれていること、そして紅龍、椰子実などの異色の宝物が出品されたことも特筆される。	A	順調

		・天皇皇后両陛下の行幸啓、高円宮妃殿下のご視察があった。		
2124-1	（九州国立博物館） 目標入場者数　33万人 ア　「国宝 大絵巻展 京都国立博物館所蔵・寄託の名宝一挙大公開」（20年3月22日～6月1日） 目標入場者数　10万人 京都国立博物館の企画協力により、同館の所蔵品および寄託品のうち平安時代から室町時代にいたる国宝・重文の絵巻を一堂に集め、独特の表現手法をもつ日本の美術と文学の織りなす魅力的な物語絵巻の世界を紹介する。	**【九州国立博物館】** **ア　国宝　大絵巻展** ・　開会期間　3 月 22 日（土）～6 月 1 日（日）（64 日間） ・　会　　場　特別展室 ・　主　　催　九州国立博物館、西日本新聞社、RKB 毎日放送 ・　陳列品総件数：26 件(国宝 9 作品・重文 14 作品) ・　入場者数：131,197 人(目標入場者数 10 万人) ・　入場料金：一般 1300 円、高大生 1000 円、小中生 600 円 ・　アンケート結果：満足度 94％ 京都国立博物館所蔵品および寄託品を中心として平安時代から室町時代にいたる国宝・重文の絵巻 20 数件を展示し、独特の表現手法をもつ日本の美術と文学の織りなす魅力的な物語絵巻の世界を紹介。展示構成は第一章「あつめる－王朝の絵巻－」、第二章「つたえる－高僧の生涯－」、第三章「ささげる－神仏への信仰－」、第四章「たのしむ－御伽草子の世界－」の構成からなる。	S	順調
2124-2	イ　「東大から宝物がやってくる展」（仮称）（7月12日～8月24日）（予定） 目標入場者数　5万人 100年を超える歴史を持つ東京大学史料編纂所の歴史史料は国宝島津家文書、重要文化財13件をはじめ、その点数は25万点を超える。南九州を支配した島津家と薩摩藩の紹介、海外に対する窓口であった九州の対外交流史料、教科書にも登場する数多くの東大の宝物を展示する。	**イ　島津の国宝と篤姫の時代展** ・開会期間　7 月 12 日～8 月 24 日（40 日間） ・会　　場　特別展室 ・主　　催　九州国立博物館、ＮＨＫ福岡放送局、ＮＨＫプラネット九州、西日本新聞社 ・陳列品総件数：100 点(うち国宝:49 点、重要文化財:18 件) ・入場者数：15 万 2,420 人（目標入場者数　5 万人） ・入場料金　一般 1,200 円、高大生 900 円、小中生無料 ・　アンケート結果　満足度 80％ ・　第一章「国宝「島津家文書」の世界」、第二章「対外交流の窓口」、第三章「東大の名宝」の構成からなり、展示作品は絵画・書跡・考古・工芸の多彩な分野にわたる。 ・　山本博文（東京大学史料編纂所教授）と女優・真野響子氏の対談（収録・テレビ放映あり）、ＮＨＫ大河ドラマ「篤姫」に出演した宮崎あおい氏と堺雅人氏のトークショー（収録・テレビ放映あり）、書家・武田双雲氏による書イベントを企画実行した。	A	順調
2124-3	ウ　「国宝　天神さま－菅原道真の時代と天満宮の至宝－」（9月23日～11月30日） 目標入場者数　10万人 「天神さま」こと菅原道真は、類い希なる才能と波乱に満ちた生涯から、	**ウ　国宝　天神さま―菅原道真の時代と天満宮の至宝―** ・開会期間　9 月 23 日～11 月 30 日（60 日間） ・会　　場　特別展室 ・主　　催　九州国立博物館、太宰府天満宮、西日本鉄道株式会社、	S	順調

	「詩文の神」「学問の神」として人々の信仰を集め、日本人にもっとも親しまれている神様といえよう。本展覧会は、天神信仰の美術だけでなく、菅原道真が生きた時代と天神信仰のひろがりを総合的に紹介した展覧会である。国宝・北野天神縁起絵巻をはじめ、多くの国宝・重要文化財を含む全国の天満宮の至宝や道真ゆかりの品々が、道真終焉の地「大宰府」に会する。	西日本新聞社、ＴＮＣテレビ西日本、ＴＶＱ九州放送 ･陳列品総件数：120 件(うち国宝:18 点、重要文化財:21 点) ･入場者数： 174,698 人（目標入場者数　10 万人） ・入場料金　一般 1,300 円、高大生 1,000 円、小中生 600 円 ・アンケート結果　満足度 90% ･第 1 部 菅原道真 波乱の生涯、第 2 部 天神信仰のひろがり、第 3 章 天神さまの芸能とまつりとして構成し、展示作品は考古・工芸・彫刻・絵画・書跡の分野にわたる。 ・開催記念トークショー、天神さまの門前町サミット、記念シンポジウム「天神さま太宰府」、国宝北野天神縁起絵巻平成記録本展、北野天神縁起絵巻シンポジウム、天神さま研究所報告会などの催事を企画実行した。 ･福岡県内の児童約 28 万 5 千人に特製招待券を配布し、来館児童にガイドブック「天神さま学習帳」を配布した。		
2124-4	エ　「工芸のいま　－九州・沖縄の伝統工芸－」（仮称）（21年1月1日～3月15日）（予定） 目標入場者数　8万人 日本工芸会西部支部に属する伝統工芸作家の代表作品を集め、九州・沖縄の工芸の現状と今後の展望を示す展覧会。九州・沖縄の伝統工芸に関連した人間国宝の作品もあわせて展示する。	**エ　工芸のいま　伝統と創造　－九州・沖縄の作家たち－** ・開会期間　21 年 1 月 1 日（木）～3 月 16 日（月）（65 日間） ・会　　場　特別展室 ・主　　催　九州国立博物館、日本工芸会西部支部、朝日新聞社、ＮＨＫ福岡放送局 ・陳列品総件数：161 件(うち人間国宝　第 1 部 7 人　第 2 部 21 人) ・入場者数：72,637 人(目標入場者数 8 万人) ・入場料金：一般 1200 円、高大生 900 円、小中生 400 円 ・アンケート結果：満足度 88% ・第 1 部 日本工芸会西部支部の現役正会員 137 人による 2000 年以降の代表作。 ・第 2 部 九州･沖縄の工芸の隆盛をもたらした作家 21 人の代表作。 ・北野武監督阿川佐和子氏トークショー、金子賢治氏講演会、碗琴演奏会、出品作家の作品による茶会、茶のセミナー、博多山笠・唐津くんち座談会などを開催。 ・陶芸部会、染織部会では講師を招いての研究会を開催。	A	順調
2131	**③展覧会広報活動の取組み** 法人としての広報活動を展開する。 ・法人概要、年報を作成する。 ・法人ウェブサイトを運用する。 （東京国立博物館） 平常展の活性化に重点をおいた広報活動を行う。	**③展覧会広報の取組み** **【東京国立博物館】** ・東京国立博物館ニュース、フロアガイド、総合パンフレット、展示・催し物のご案内、庭園ガイドマップを改訂発行した。 ・ウェブサイトは随時更新し、最新情報の提供に努めた。 ・博物館情報をメールマガジンにより配信した。またメールマガジン	A	順調

	1) 「東京国立博物館ニュース」の発行・配付（年 6 回） 2) ウェブサイトのリニューアル及びウェブサイトによる情報提供（更新年 300 回以上） 3) 広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等 4) 年間スケジュールリーフレットの制作・配付 5) 「総合案内パンフレット」（7 か国語）「フロアガイド」（4 か国語）等パンフレットの制作・配付 6) マスコミ媒体と連携した広報活動の展開 7) 電子メールマガジンの配信 8) 携帯サイトの開発を検討する	の登録・解約の受付、配信を安全かつ利用者の利便性を高めるシステムを正式に導入した。 ・特集陳列の周知印刷物を制作、配布した。 ・マスコミ媒体と連携した広報活動の展開に努めた。		
2132	（京都国立博物館） 1) 「博物館だより」の発行・配布（年 4 回） 2) 「News Letter」（英文）の発行・配布（年 4 回） 3) 年間スケジュールリーフレット「催事案内」の発行・配布 4) 特集陳列チラシの作成・配布 5) ウェブサイトによる情報提供（日本語、英語）（常時更新） 6) モバイルサイトによる情報提供（常時更新） 7) 「展示案内」リーフレット（6 カ国語）の作成・配布 8) マスコミ媒体と連携した広報活動の展開 9) メールマガジンの配信	**【京都国立博物館】** メールマガジンの発行 「博物館だより」の発行・配布（4 回） 「News Letter」の発行・配布（4 回） 「年間スケジュール」リーフレットの作成・配布 「展示案内」リーフレット（6 ヶ国語）の作成・配布 特集陳列リーフレットの作成・配布 ウェブサイトによる情報提供（日本語・英語） モバイルサイトによる情報提供 マスコミ媒体と連携した広報活動の展開	A	順調
2133	（奈良国立博物館） 1) 平常展の魅力に重点化した博物館だよりを発行する。（年4回） 2) 電子メールサービスによる展覧会及びイベント情報の発信。 3) メディア及び公共交通機関との協力による広報の充実を図る。 4) 年間スケジュールリーフレット「展示案内」の発行・配布 5) 特集陳列チラシの作成・配布 6) ウェブサイトのリニューアルを行い、情報提供機能の強化を図る。 7) 館内配置図リーフレット（7 カ国語）の作成・配布。 8) マスコミ媒体と連携した広報活動の展開を図る。 9) 地元の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動の展開を図る。 10) 液晶ディスプレイによる情報提供を行う。	**【奈良国立博物館】** ・ホームページのリニューアル（15 回） ・奈良国立博物館だより　年 4 回発行 ・奈良国立博物館リーフレット（七ヶ国語）発行 日本語 10 万部、英語 1 万部、韓国語 8 千部、中国語 5 千部、仏・独・西語各 2 千部 ・奈良国立博物館展示案内を年 2 回発行 ・電子メールマガジンによる博物館情報の発信 ・配信回数 13 回、登録者 3,978 人 ・特別展「国宝　法隆寺金堂」では、法隆寺と相互で入場券の割引を実施 ・平常展の入場割引券を発行	A	順調
2134	（九州国立博物館） 1) 文化交流展室の展示ストーリーを、日本文化にはじめて接する海外の来館者にも理解しやすいような、外国語のパンフレットまたはガイドブックを	**【九州国立博物館】** ・外国語のガイドブック(中国語)・マップ(英語・中国語・韓国語)を刊行した。 ・テーマを定めたトピック展示の特性を踏まえて、web コンテンツや	A	順調

	刊行する。 2) 特別展の実施に伴う広報・宣伝材料の制作 3) マスコミ媒体と連携した広報活動の展開 4) 「九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ」の発行（年 4 回） 5) 現在はもちろん過去や将来の展示リストを検索・紹介し、新鮮な展示情報を情報発信するためのウェブデータベースを公開し、常時更新する。 6) 地元の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動の展開 7) 九州観光推進機構を通じた海外への広報・営業活動の展開	ちらし・ポスター・リーフレット・図録などを、昨年の倍以上に刊行し、新聞紙上での広報等を通じて新鮮な展示を来館者に提供できた。 ・特別展の実施に伴う広報・宣伝材料を制作した。 ・マスコミ媒体と連携した広報活動を展開した。 ・「九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ」を発行した。（年 4 回） ・ウェブサイトによる情報提供を行った。（日本語・英語）（常時更新） ・地元の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動を行った。 ・九州観光推進機構を通じた海外への広報・営業活動を行った。		
2141	**④黒田記念館所蔵作品の公開機会拡大** （東京国立博物館） 黒田記念館での展示の他、東京国立博物館本館において特集陳列「黒田記念館　黒田清輝の作品」を、東京藝術大学美術館と共催で開催(21 年 3 月 3 日～4 月 12 日)し、所蔵作品の公開機会を拡大する。	**④　黒田記念館** 平成 21 年 3 月 3 日から 4 月 12 日まで、東京国立博物館本館の展示室において、特集陳列「黒田清輝のフランス留学」を開催した。重要文化財「智・感・情」など、通常は黒田記念館で保管・展示している黒田作品と、通常は平成館や本館で保管・展示している黒田作品に加え、東京藝術大学所蔵の黒田清輝関連作品も合わせて展示し、黒田の留学時代の足跡をたどる。規模・質とも、他館であれば充分に特別展となる展示となり、好評を博した。	A	順調

定量評価	20 年度	19 年度	目標値	評定
【平常展】外国語パネルの設置（%）				
東京国立博物館	**97%**	**95%**	**80%**	**A**
京都国立博物館	**100%**	**100%**	**80%**	**A**
奈良国立博物館	**77%**	**56%**	**80%**	**B**
九州国立博物館	**82%**	**63%**	**80%**	**A**
【平常展】陳列替件数（件）				
東京国立博物館	319	319	200	A
京都国立博物館	39	53	18	A
奈良国立博物館	12	21	15	B
九州国立博物館	386	375	100	A
【平常展】総陳列件数（件）				
東京国立博物館	7172	10223	6000	A
京都国立博物館	1081	1611	650	A
奈良国立博物館	605	928	800	B
九州国立博物館	3146	2012	1200	A
【特別展】開催回数（件）				
東京国立博物館	**8**	**5**	**3～4**	**A**
京都国立博物館	**3**	**3**	**2～3**	**A**

		奈良国立博物館	**4**	**3**	**2～3**	**A**
		九州国立博物館	**4**	**4**	**2～3**	**A**
		【特別展】入館者数（人）				
		醍醐寺展（海外展）	59,998		―	
		東京国立博物館	179,407		1,010,000	A
		薬師寺展	794,909		400,000	S
		オルセー展	58,342		50,000	A
		対決展	326,784		120,000	S
		スリランカ展	80,865		100,000	B
		大琳派展	308,213		140,000	S
		福沢諭吉展	73,128		100,000	B
		妙心寺展	151,833		100,000	A
		サムライ展（海外展）	(102,000)		―	
		京都国立博物館	260,099		110,000	A
		暁斎展	76,686		30,000	A
		蒔絵展	67,050		50,000	A
		京都御所展	116,363		30,000	A
		奈良国立博物館	535,005		280,000	A
		天馬展	31,910		30,000	A
		国宝法隆寺金堂展	132,919		40,000	S
		西国三十三カ所展	106,411		30,000	S
		正倉院展	263,765	248,389	180,000	A
		九州国立博物館	530,952		330,000	A
		国宝大絵巻展	131,197		100,000	A
		東大展	152,420		50,000	A
		天神展	174,698		100,000	A
		工芸の今展	72,637		80,000	B
		【展覧会広報】				
		東京国立博物館				
		博物館ニュースの発行（回）	6	6	6	A
		ウェブサイトの更新（回）	3,616	4,547	300	A
		京都国立博物館				
		博物館だよりの発行（回）	4	4	4	A
		News Letter の発行（回）	4	4	4	A
		奈良国立博物館				
		博物館だよりの発行	4	4	4	A

		九州国立博物館 季刊アジアージュの発行（回）	4	4	4	A

(2) 歴史・伝統文化の理解促進

【中期目標】歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、機構の人的資源を活用した教育普及活動を実施すること。
①子どもから高齢者までを対象とした幅広い学習機会を提供すること。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回ること。
②ボランティアや支援団体を育成し、相互の協力により教育普及活動の充実を図ること。

【中期計画】

歴史・伝統文化の理解促進を図るとともに、その中心的拠点としてふさわしい教育普及事業に重点化する。
①学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。
②－1 教育普及活動の充実に寄与するようボランティア活動を支援し、ボランティアの資質向上に努める。
②－2 企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

【主な計画上の評価指標】

○講演会、ギャラリートーク等の参加者数の各館の年間平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るようにすること
○ボランティア活動を支援すること
○企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図ること

【19 年度評価における主な指摘事項】

○効果の高い活動については、4 館で情報の交換を行い 4 館同時企画なども検討すると、マスコミなどの注目を集められると思う。
○ＰＤＡについて各館共同開発の機運を盛り上げてほしい。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
2211	**(2) 日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解促進** 日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解促進を図り、国立博物館としてふさわしい教育普及事業に重点化する。 **① 学習機会の提供** （東京国立博物館） 1) ナショナルセンターとして日本の歴史・文化及び東洋文化の理解促進を図るための教育普及の先導的事業を実施する。 表慶館は特別展で使用するため、本館 20 室を教育普及スペース「みどりのライオン」と位置づけ、適宜、小講堂等も活用し、内容に応じた環境を設定しながら事業を展開する。 ・特集陳列「博物図譜」（4 月 1 日～5 月 25 日）関連ハンズオン体験コーナー・申込制ワークショップ ・親と子のギャラリー「博物館の水族館」（6 月 25 日～8 月 31 日）関連申込制ワークショップ ・特集陳列「彦根更紗と景徳鎮」（9 月 9 日～10 月 19 日）関連ハンズオン体験コーナー	**①学習企画の提供** **【東京国立博物館】** 1)先導的事業のモデル化及び実践 ○親と子のギャラリー（平常展の一環として実施する教育普及展示） ・「博物館の水族館」6/25～8/31(31 日間)平成館企画展示室 ○体験型プログラムの実施 ・オリジナルスタンプを使った「日本のもようでデザインしよう」等体験プログラムを実施（ほぼ毎日開催）。作品鑑賞を深め、伝統文化の理解の手がかりとなった。 ・展示に関連したワークショップを、大人、高校生、家族など対象別に実施（年間8プログラム　16回実施）。 ・「みどりのライオン」プロジェクト みんなで楽しむ教育普及スペース「みどりのライオン」を表慶館から本館に移設した。 2)学校との連携事業の推進 ・スクールプログラム（小・中・高等学校団体対象）	A A	順調 順調

	・特集陳列「装飾料紙と鑑賞料紙」（11 月 5 日～12 月 14 日）関連申込制ワークショップなど 2)　学校との連携事業を推進する。 ・スクールプログラム（鑑賞支援・体験型プログラム等）の実施（小・中・高等学校） ・インターンシップの実施（大学） ・東京藝術大学との連携事業を継続して実施する。 ・キャンパスメンバーズ（大学会員制度）による大学との連携を継続して実施する。 ・全国高等学校美術・工芸教育研究会との連携事業の実施 ・教員鑑賞会・ガイダンスの実施（小・中・高等学校）	ガイダンス、鑑賞支援プログラム、体験型プログラムなどを提供。伝統文化の理解促進に寄与した。 就業体験の受け入れを行った。 ・高等学校の単位制授業に連続する教育プログラムを提供（共催：国立西洋美術館、東京国立近代美術館）。連携する高等学校以外からも広く参加者を受け入れた。 ・全国高等学校美術・工芸教育研究会の会員研修会への協力・講演等 3 件（7／30～8／1　共催：東京芸術大学） ・教員特別鑑賞会・ガイダンスの実施　計 2 回 このほか、地域ごとの教員グループ研修を実施　計 4 回 ・大学院生を対象とした、インターンシップを実施。 ・キャンパスメンバーズ加入校を対象とした事業を実施した。 キャンパスメンバーズ博物館セミナー キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の歴史、保存修復、博物館情報、教育普及事業等について当館の職員が実例を交えた解説を実施。 キャンパスメンバーズ教育連携事業 キャンパスメンバーズ加入校の学芸員志望学生を対象として、作品の取り扱いを含む博物館実務全般について演習・実習形式による体験的講座を実施。 2)-2 学校との連携の推進　大学との連携事業 ・東京芸術大学との連携事業大学院生と当館研究員が連携して準備を行ない、陳列品を前に平易な言葉で20分程度解説することにより、来館者の鑑賞の補助ができた。 ・当館蔵の仏画を部分模写して制作工程模型を作成し、特殊な技法を紹介すると共に、ギャラリートークを行なって制作過程を説明することで、来館者の鑑賞を手助けした。 ハンズオン体験コーナーに於ける陳列期間：平成21年1月14日～3月29日 ・上記2件（ギャラリートークのみを行うものと、制作工程模型制作とそれについてのギャラリートークを行うもの）の合計 大学院生7名、ギャラリートーク回数62回、参加者数1890名	A	順調
	3)　文化財を分かりやすく理解するための講座・講演会等を実施する。 4)　教育普及イベント 文化財を分かりやすく理解するため、平常展を題材にした教育普及イベントを実施する。 ・特集陳列「ワヤン」（7 月 29 日～10 月 18 日）に伴い、ワヤン公演を予定。	3)-6）講演会・列品解説・講座等の実施 月例講演会：実施 12 回、テーマ講演会：実施 2 回、記念講演会：実施 15 回 列品解説（ギャラリートーク等）：実施 101 回 連続講座：実施 1 回（3 日）、イブニングレクチャー：実施 1 回、 教育的イベント：ワヤン上演　実施 1 回 その他 夜桜コンサート、トークショー、薬師寺展ガイダンス、万燈会、禅トーク、坐禅	A	順調

	5) 列品解説・月例講演会・テーマ講演会・連続講座等を実施する。 6) より幅広い層に文化財に親しむ機会を提供するため、金曜夜間開館時を利用した列品解説、セミナー、教育イベント、ワークショップなどを開催する。	会、呈茶、保存修復見学ツアー、恩賜上野動物園・国立科学博物館連携事業上野の山でゾウめぐり、台東区連携事業横山大観ツアー 本年度は、前年度に比べ、特別展関連の教育的イベントの実施回数が減少したため、これにより参加者数も減少したが、1回あたりの参加者数の平均値はこれまでの実績を上回った。		
2212	(京都国立博物館) 1) 既刊の博物館ディクショナリーをウェブサイトに掲載し、充実を図る。 2) 教員及び外国人からモニターを委嘱し、提言を受けるとともに学校教育への博物館利用を図る。 3) 展示・収蔵品に関連する土曜講座を開催する。 4) 夏期講座を開催する。 5) 京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座を担当する。 6) 京都橘大学との連携事業を継続して実施する。 7) キャンパスメンバーズ（大学会員制度）を継続し、大学との連携を図る。	**【京都国立博物館】** ・土曜講座を土曜日の午後に開催（36回） ・夏期講座「文化の波及と変容Ⅱ」を実施(7/30～8/1) ・小・中学生向け作品解説シート（博物館ディクショナリー）を継続して発行（8回） ・京都大学大学院人間・環境学研究科、歴史文化社会論講座を担当 ・キャンパスメンバーズを継続し、大学と連携（29校（平成21年3月31日現在）） ・京都橘大学との連携を行い、解説ボランティアによる展示解説を実施 ・「留学生の日」(11/15)を実施 ・「少年少女博物館くらぶ」(7/26）を実施	A	順調
2213	(奈良国立博物館) 1) 奈良県内小中学校220校にメールマガジンを配信する。 2) 奈良市内小学校5年生を対象に生涯学習授業を実施する。 3) 教員向けの講座を開き博物館理解促進を図る。 4) 展示品に関するサンデートークを随時実施する。 5) 特別展等に際してシンポジウム及び講座を開催する。 6) 夏期講座を開催する。 7) 特別陳列に因み、伝統的行事を体験する催しを実施する。 8) 放送大学の面接授業を実施する。（約150名） 9) 奈良女子大学及び神戸大学との連携講座を継続して実施する。 10) キャンパスメンバーズ（大学会員制度）を拡充し、大学との連携を図る。	**【奈良国立博物館】** ・特別展に伴う公開講座の実施　19回 ・当館関係者によるサンデートークの実施　　12回（毎月1回） ・夏季講座の実施　8月19日～8月21日（3日間)、　参加者362名 ・正倉院シンポジウムの実施　11月3日 ・世界遺産学習実践研修会（於．奈良教育大学）の共同開催　2009年1月11日 ・職場体験（中学生）の受入　　4名 ・解説ボランティアによる作品解説 展示会場での解説　　延べ320日 学校団体案内　　57件 一般グループ案内　　60件 正倉院展の講堂解説　　102回（正倉院展会期中毎日4～6回） 世界遺産学習の受入　　36回（奈良市内の全小学校5年生を対象に実施）	A	順調
2214	(九州国立博物館) 1) 博物館における体験型事業の充実を図る。 ・教育普及ゾーンで活用する様々な教育キットの開発 ・幅広い層に向け体験活動の促進を図るため、教育活動の場を提供 ・博物館科学施設等において、博物館の諸活動を体験できるプロ	**【九州国立博物館】-1** ① 体験型展示室「あじっぱ」の一画「あじ庵」を4月と10月に展示替えした。4月は「中国の吉祥文様」がテーマで、10月は新規に資料を購入した「ベトナム」がテーマであった。 また、小・中学生を対象に、体験型展示室「あじっぱ」の「あじぎゃら」で、博物館の学芸員の仕事の一部を体験できるワークショップ「なりきり学芸員体	A	順調

	グラムの開発 ・アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムの開発 2) 九州大学との共同研究の成果に基づき、平常展を利用して来館者のニーズに合った情報提供を行うためのＰＤＡ（携帯情報端末）によるプログラムを研究・開発する。 3) 学校教育との連携事業を実施する。 ・ジュニア学芸員(高校生)事業の実施 ・博物館活用の促進を図るため、教員研修の場の設置 ・博物館の理解促進を図るため、社会体験活動の場の設置 ・学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出しを実施する。 4) シンポジウムを開催する。 5) 特別展記念講演会を開催する。 6) 文化交流展、特別展に関連した教育普及事業を実施する。 7) ギャラリートークを随時実施する。 8) 文化施設等へ講師を派遣する。 9) 特別展の内容に親しみをもたせ、より良く理解するためのワークショップを開催するとともに、文化交流展示の内容とも連携した事業展開を行う。 10）近隣大学等と文化財保存技術および展示・教育普及に関する共同研究を計画する。 11）放送大学の面接授業を実施する。(5 人) 12）キャンパスメンバーズ（大学会員制度）による大学等との連携を継続して実施する。 13）博物館実習生の受け入れを実施する。 14）インターンシップによる研修生の受け入れを実施する。	験」を実施した。 ② 夏休みこども向けイベントとして、小・中学生を対象に 7 月 19 日～8 月 1 日、「行こうよ！あじっぱ夏祭り」を実施した。 ③ 児童生徒を対象とした教育普及事業 学校貸出キット「きゅうぱっく」の運用、中学生の職場体験、高校生のインターンシップ、高校生のジュニア学芸員活動、総合的な学習の受け入れなどを実施した。 ④ 大学との連携など 博物館実習、筑紫女学園大学との連携によるガムランワークショップの実施。 ⑤ 教員対象プログラム 7月と9月に特別展の教員対象内覧会を実施した。また、教育センターキャリアアップ講座、「きゅうぱっく」を活用した研修会、学芸員による高等学校歴史研究会への研修を実施した。 -2 ①毎週火曜日（火曜休館の週はお休み）に研究員によるミュージアムトークを実施した。(月 2　～4 回で 15 分～30 分程度)。1 回の平均参加人数は 30 名程度である。 開催にあたっては昨年と同様に講師の調整は担当研究員が行い、実際の運営にあたってはボランティアコーディネーター指導により、ボランティアの手で行われている。当館では展示替えが頻繁に行われていることから、展示解説ボランティアにとっても資料学習の良い機会となっている。 ②学校教育と連携事業を実施した。 ③特別展記念講演会・ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ・ﾄｰｸｼｮｰを開催した。 -3 キャンパスメンバーズ制度に、教育機関（大学・専門学校・高校）が、新規および継続で入会した。また、会員校からの依頼で特別展の出張講義を実施した。 キャンパスメンバーズ加入数　22 校 大　学　11 校 短期大学　3 校 専門学校　2 校 高等学校　6 校 特別展の出張講義　9 件	A A	順調 順調
2221-1	**②－1　ボランティア活動の支援** （東京国立博物館） 1) 各種教育普及事業の補助活動の充実を図る。	**②－1　ボランティア活動の支援** **【東京国立博物館】** ・ 活動充実のため、ハンズオン体験コーナー等で作業を補助する活動を設けた。	A	順調

	2) ボランティア自身による自主的な企画立案による活動の充実を図る。 3) 各種解説ツアーを実施する。	ハンズオン体験コーナー利用者数：38,893 人 ・各種イベント補助の機会を設けた。補助回数 21 回 ・ガイドツアーの充実を図った。 実施回数 404 回、参加人数 10,693 人 ・児童・生徒の就業体験を受け入れた。 学校数 33 校、生徒数 117 人 ・職員による研修を行い活動に資した。 実施回数 174 回、参加人数のべ 2,820 人		
2222-1	（京都国立博物館） 1) 大学（京都橘大学）との学術交流による解説ボランティアを実施する。 2) 調査研究ボランティアを募集し、各種事業活動の充実を進める。	**【京都国立博物館】** ・大学（京都橘大学）との学術協定に基づき、学生が解説ボランティアとして活動した。 8 月 5 日から 8 月 29 日までの毎火・水・金曜日に、1 日 2 回、考古・陶磁・彫刻の展示作品について、当館職員による事前講習ののち、来館者に解説を行った。 ・調査・研究支援ボランティアの募集と各種事業活動の充実を進めた。当館職員が行う収蔵品調査、社寺調査等の調査・研究業務の補助として、調査作品の計測、調書の作成、撮影等を行った。また、展示替えの際、作品の移動、収納等の作業の補助を行った。	A	順調
2223-1	（奈良国立博物館） 1) ボランティアを受け入れ、展示解説、インフォメーション、学習普及事業補助等の充実を図る。 2) ボランティアに対する指導助言体制を充実するとともにボランティアに対する研修の充実を図る。 3) ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。	**【奈良国立博物館】** ・週末の来館者対応を強化するため、新規に 6 名の増員を行った。 これに伴い、新旧のボランティア希望者を対象に、当館職員による研修を実施した。 ・特別展、特別陳列の開催ごとに 1～2 回、当館職員による展示内容の研修を実施し、併せて図録の配布を行い自己学習を奨励した。 ・正倉院展会期中に行うボランティア講堂解説は、教育室作成の資料をもとに、立会研修を実施し、さらに実地の自主トレーニングを推奨している。 ・展示内容に関する疑問について質問用紙を用意し、学芸部職員がこれに回答対応している。 ・ボランティア室の環境整備を行い、蔵書を増加した。	A	順調
2224-1	（九州国立博物館） 1) ボランティアを受け入れ、展示解説部会、教育普及部会、館内案内部会（日本語、英語、中国語、韓国語）、環境部会、イベント部会、資料整理部会、サポート部会、学生部会の充実を図る。 2) ボランティアに対し継続的な基礎研修・専門研修を実施する。 3) ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。	**【九州国立博物館】** ① 展示解説ボランティアが主に予約団体に対して 4 階文化交流展示室の展示解説を実施。 ② 教育普及ボランティアが“あじっぱ”で、来館者と共に活動することを通して、アジア各国の文化や生活を紹介。 ③ 館内案内ボランティアが日本語・英語・韓国語・英語で来館者に対応。また、バックヤードツアーにも対応。 ④ 環境ボランティアが博物館科学課の指導のもとＩＰＭ活動のサポート。	A	順調

⑤　イベント・学生ボランティアによるお正月・GWなどにあわせたイベントの企画・実施。
⑥　サポートボランティアに広報紙の作成や他館ボランティアとの交流の企画・実施。
⑦　資料整理ボランティアによる“秋吉コレクション（郷土人形）”の調書作成。
⑧　他館などのイベントへの参加・出展を3回（館）実施。
⑨　活動報告書の作成

〔対応来館者数〕※事前予約分のみ（当日受付対応は除く）
展示解説：6213人　　館内案内：8876人
バックヤード：3118人

〔研修会〕
全体研修：10回　　部会別研修：95回　　グループ研修：3回

②－2　博物館支援者の増加

企業との連携及び「友の会」活動の活性化を図る。
1)　「友の会」等の会員制度によるリピーターの養成に努める。
2)　「友の会」会員を対象とした事業を実施する。
3)　企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
4)　公共交通機関等とのタイアップによる広報の充実に努める。

2221-2
（東京国立博物館）
1)　賛助会員制度の継続・拡充を図る。
2)　地域、企業との連携・拡充を図る。

②－2 博物館支援者の増加

【東京国立博物館】

友の会、パスポート及び賛助会等の会員の確保に努めるとともに、地域や企業との連携を推進した。

1)友の会・パスポート・平常展割引パス　会員数

種　別		20年度	（参考）19年度
友の会（1万円）		1,913 人	1,379 人
パスポート	一般4,000円	1万9,547人	1万8,742人
	学生2,500円	858 人	1,193 人
平常展割引パス（2,000円）		30 人	39 人

・19年度に開始したオンラインによる「友の会」「パスポート」の申し込み受付数は、順調に増加している。（利用者319名）

2)賛助会　会員数

	20年度	(参考)19年度
特別会員	13団体	16団体
維持会員	26団体・個人157人	24団体・個人124人

・会員対象の特別鑑賞会等の実施　特別展内覧会　4回　事業報告会　1回

3)地域、機関との連携

①上野のれん会、上野法人会、上野の山文化ゾーン協議会等、地域の会合等に参加するとともに、台東区及び台東区所管財団法人、東京都、財団法人東芝国際交流財団、株式会社東京美術、三菱商事株式会社等と、展覧会の同時期開催、イベントへの協力、「留学生の日」協賛、障害者向け内覧会等、さまざまな事業を行った。

		②日本大学芸術学部との共催で、所沢市教育委員会後援、埼玉県民芸術文化祭協賛事業として、埼玉県所沢市に位置する柳瀬荘を会場に、「柳瀬荘アート・教育プロジェクト」を開催し、ワークショップ、美術学科教職員展、舞劇などの5つのプログラムを行った。（参加者合計約886名）		
2222-2	（京都国立博物館） 1） 支援団体が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力する。 2） 企業等との連携により、施設を活用したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。	**【京都国立博物館】** ・支援団体が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力した。 ・企業との連携により、施設を活用したイベントの実施及び広報活動の充実を図った。 ・「友の会」事業を継続して実施した。 会員数　2,932 人	B	ほぼ順調
2223-2	（奈良国立博物館） 1） 賛助会員制度の見直し・拡充を図る。 2） 地域、企業との連携・拡充を図る。	**【奈良国立博物館】** ・友の会 会員数　2,815 人（一般 2,623 人、学生 162 人、家族 30 人） ・賛助会 特別支援会員：6 団体、特別会員：1 団体、一般会員（個人）：25 人、（団体）：17 団体 ・特別展「天馬-シルクロードを翔ける夢の馬-」実施につき、企業から協力金を獲得 ・奈良名観光イベント「ライトアッププロムナード・なら　2008」、「なら燈花会」に協力	A	順調
2224-2	（九州国立博物館） 1） 賛助会員制度を設置し、会員の獲得に努める。 2） 財団や近隣地域等と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。	**【九州国立博物館】** ①賛助会員制度においては、設置の検討を行ったが、他館の状況等調査を行った結果、諸課題により当館で新たに実施するには難しいと判断した。 ②友の会およびパスポート会員においては、昨年度同様で推移している。 ③本年度で来館者数 500 万人を突破した。 ④支援団体や近隣地域と連携したイベントを実施した。	A	順調

定量評価	20 年度	19 年度	目標値	評定
学習機会の提供　講演会等参加者数（人）				
東京国立博物館	**12,332**	**11,361**	**10,915**	**A**
講演会	7,134	4,770		
連続講座（夏期講座）	356	288		
公開講座	68	2,369		
列品解説	4,774	3,934		
京都国立博物館	**3,413**	**4,489**	**5,181**	**C**

		土曜講座	3,254	4,329		
		夏期講座	159	160		
		奈良国立博物館	**3,655**	**2,949**	**3,542**	A
		公開講座	2,706	1,943		
		夏季講座	362	358		
		サンデートーク	587	648		
		九州国立博物館	**5,507**	**4,168**	**5,255**	A
		シンポジウム	1,555	316		
		特別展記念講演会	2,670	1,892		
		特別展連続講座	0	0		
		ミュージアム講座	186	640		
		ミュージアムトーク	1,096	1,320		
		放送大学の面接授業の実施（人）				
		奈良国立博物館	178	150	150	A
		九州国立博物館	37	34	5	A
		小中学校へのメールマガジンの配信（校）				
		奈良国立博物館	220	220	220	A

(3) 快適な観覧環境の提供

【中期目標】国民に親しまれる施設を目指し、入館者の立場に立った観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行い、入館者の期待に応えること。
①高齢者、身体障害者、外国人等を含めた入館者本位の快適な観覧環境を形成すること。
②入場料金及び開館時間の弾力化など、利用者の要望や利用形態等を踏まえた管理運営を行うこと。
③ミュージアムショップやレストラン等のサービスの充実を図ること。

【中期計画】

(3) 快適な観覧環境の提供

国民に親しまれる施設を目指し、入館者の立場に立った観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。
①施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。
②一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から入館者のニーズを把握し、入場料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。
③ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。

【主な計画上の評価指標】
○施設のバリアフリー化を進めること
○利用者のニーズを踏まえ、入場料金や開館時間の弾力かなどの管理運営の改善を行う
○利用者の意見を踏まえ、ミュージアムショップやレストラン等を改善すること

【19 年度評価における主な指摘事項】
○混雑緩和対策については、夜の開館延長日を金曜、土曜の 2 日間に増やすなど柔軟性のある対策を検討すべきである。
○多言語化は十分達成しているとは言い難い。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	(3)　快適な観覧環境の提供 ①　観覧環境の整備プログラム等の策定	①観覧環境の整備プログラムの策定 【東京国立博物館】	A	順調
2311	（東京国立博物館） 1)　点字版パンフレット等を配布する。 2)　多国語による案内及び誘導サイン等を順次整備する。 3)　より快適な観覧環境を構築するため、展示照明を順次整備する。 4)　日本語版パンフレットは、従来の「日本美術の流れ」を引き続き制作・配布するとともに、内容について再検討する。英語、中国語、韓国語パンフレットは、よりわかりやすい内容に改めたカラー版パンフレットを配布する。 5)　特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、入館者に対するサービスの向上を図る。	○点字解説等の改訂 視覚障害のある方に構内を紹介するための、点字版パンフレットの作成に取り組み、本年度あらたに 10 部を増刷した。 ○4カ国語パンフレットの制作 ・「日本美術の流れ」展示のテーマ解説および主な展示作品の解説をまとめた日本語パンフレットを作成した。作品の展示替えに応じて、更新を行った。 年間計36回更新・制作（第128号－163号） ・外国人に「日本美術の流れ」を理解してもらうために、よりわかりやすい解説を盛り込み、カラー図版を多用した英語、中国語、韓国語カラーパンフレットを配布した。 ○展示照明の整備 より快適な観覧環境を構築するため、展示照明の整備を順次進めた。 ・本館 11 室 特集陳列「六波羅蜜寺の仏像」のためのカッタースポットライトによる照明 ・既存展示ケース用に開発された上部光ファイバー用特注先端レンズ器具を追加整備した ○音声ガイドによる情報提供 下記の特別展で実施（貸出数：計 305,135 件） ・特別展「国宝　薬師寺展」 146,444 件 ・特別展「対決　巨匠たちの日本美術」 63,056 件 ・特別展「スリランカ展」 7,112 件 ・特別展「大琳派展」 52,248 件 ・特別展「福沢諭吉展」 7,157 件 ・特別展「妙心寺展」 29,118 件 ○その他環境整備 平成館,東洋館の多目的トイレにオストメイト対応設備（2 箇所）を設置した。		
2312	（京都国立博物館） 1)　快適な観覧環境を提供するための平常展示館の建替プログラムを推進する。 2)　6 カ国語（日本語、英語、仏語、中国語、韓国語、西語）リーフレットを継	【京都国立博物館】 ・平常展示館の建替に伴う先行熱源設置工事が完了し、南門売店増築工事が着工された。 ・平常展示館の建替に先行して、旧事務棟渡り廊下の解体作業及び発	A	順調

	続して制作する。 3) 特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、入館者に対するサービスの向上を図る。	掘調査に着手した。 ・6 カ国語の「展示案内」リーフレットを制作した。平常展示館閉館に伴い「展示案内（日本語版）」と庭園マップを改訂した。 ・展示テーマごとに外国語（英語）パネルを設置した。 ・特集陳列「坂本龍馬」及び特別展覧会において音声ガイドによる情報提供を実施した。「japan 蒔絵」展においては、英語による音声ガイドも提供した。 ・特別展覧会「京都御所ゆかりの至宝」において入館待ち時間をきめ細かく情報提供し、観覧の便を図った。 ・当館職員並びに売店、レストラン従業員、（財）京都古文化保存協会学生ボランティアを対象として「マナー講習会」を開催し、接遇技能の修得に努めた。 ・東山消防署の協力により、消防訓練を実施した。また、普通救命講習及びＡＥＤの取扱い講習会を開催した。 ・ＡＥＤを平常展示館のほかに特別展示館に設置した。平常展示館閉館後は南門改札場所付近に移設し、館外からも利用することを可能とした。		
2313	（奈良国立博物館） 1) 快適な観覧環境を提供するための展示施設の計画的な整備を実施する。 2) 7 カ国語（日本語、英語、独語、仏語、西語、中国語、韓国語）リーフレットを継続して制作する。 3) 混雑が予想される展覧会について、入館者調整や陳列品の配置や音声ガイドの解説場所等の工夫を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。	**【奈良国立博物館】** ・男子用トイレに小児用小便器と車椅子用手すりを 3 カ所設置。 ・「正倉院展」期間中に入場待ち列用テントを拡充、看護師の館内常駐を実施。 また混雑緩和のため、定期的な入場制限、11 月 2 日の団体入場禁止、混雑状況のホームページ掲載などを実施。 オータムレイト券購入者に記念品（第 1 回の入場券を模したしおり）を配布した。 ・地下回廊に携帯電話接続のため、携帯電話各社によるアンテナを設置。 ・本館から地下回廊へ降りる階段に転倒防止用のテープを設置。 ・国宝　法隆寺金堂展で博物館、法隆寺の相互割引を実施。	A	順調
2314	（九州国立博物館） 1) 快適な観覧環境を提供するための展示施設等の調査・分析及び検討を進める。 2) 7 カ国語（日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語）リーフレットを継続して制作する。 3) 特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、入館者に対するサービスの向上を図る。	**【九州国立博物館】** ・リーフレットを引き続き 7 カ国語（日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語）を作成した。 ・九博概要を新しく 3 カ国語（日本語、中国語、韓国語）を作成した。 ・4 階にある救護室入口に車椅子利用者対応としてスロープを設置し、段差の解消を行った。 ・多目的トイレ（3ヵ所）にオストメイト対応設備を設置した。 ・特別展ごとに展覧会の内容のより深い理解を助けるための音声ガイ	A	順調

		ドを作成した。 ・特別展では、観覧者の理解を助けるための普及プロジェクトを実施した。 ・中国語による展示ガイドブックおよび英語・中国語・韓国語の簡単な展示解説付マップを作成、配布して海外からの来館者に対応することとした。 ・中国語・韓国語による展示の時代背景を簡単に解説するキャプションを作成し、主要な展示品にそって掲示した。これにより、音声ガイド以外でも展示情報が得られるようにした。		
2321	**②　一般入館者の満足度調査及び専門家の批評聴取** 一般入館者、専門家を対象に満足度調査を定期的に実施し、調査結果を展示等に反映させるほか、必要なサービスの向上に努める。 （東京国立博物館・京都国立博物館・九州国立博物館） 入館者のニーズを引き出すため入館者調査を実施し、その結果を改善に生かす。	**②一般入館者の満足度調査及び専門家の批評聴取** **【東京国立博物館】** 20 年度は通常行っている特別展アンケートに加え、来館者満足度調査、非来館者意識調査を実施した。調査結果については東京国立博物館来館者研究会（リーダー井上企画課長）で分析し、21 年度に具体的な改善策を提言する予定である。 ○平常展満足度調査（20 年 10 月 1 日～21 年 3 月 31 日） 回収サンプル数　522 件　満足度　84．6% ○非来館者意識調査 インターネット調査及びグループインタビュー ○特別展アンケート すべての特別展で実施し、概ね高い満足度を得ることができた。	A	順調
2322	（京都国立博物館・奈良国立博物館） 特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。	**【京都国立博物館】** ・　入館者アンケートを実施 平常展満足度　70% 回答数 758 件（とても良い 41%、良い 29%、普通 15%、あまり良くない 4%、 よくない 4%） 特別展覧会「暁斎」満足度　94% 回答数 1,337 件（良い 80%、まあまあ良い 14%、どちらともいえない 2%、 あまり良くない 1%、よくない 1%） 特別展覧会「japan 蒔絵」満足度　95% 回答数 807 件（良い 71%、普通 24%） 特別展覧会「京都御所ゆかりの至宝」満足度　87% ・特別展等に関する専門家の展覧会評を求め、「博物館だより」に掲載した。	A	順調

2323		**【奈良国立博物館】** ・平常展アンケート（全開館日） 回答数　1,202 件（良い 67%、普通 10%、良くない 4%） ・英語版平常展アンケート（全開館日） 回答数　49 件 ・特別展アンケート 「天馬―シルクロードを翔ける夢の馬―」 回答数 124 件（良い 81%、普通 11%、良くない 4%） 「国宝　法隆寺金堂展」 回答数 391 件（良い 75%、普通 16%、良くない 7%） 「西国三十三所―観音霊場の祈りと美―」 回答数 342 件（良い 89%、普通 7%、良くない 1%） 「第 60 回　正倉院展」 回答数 624 件（良い 75%、普通 15%、良くない 7%） ・特別展について、専門家からの展覧会評を「博物館だより」に1回掲載	A	順調
2324		**【九州国立博物館】** ①館内に設置しているアンケート調査から得られた意見・要望に対して、可能なものについては改善を行った。 ②九州大学との共同研究により、ユニバーサルデザインによる空間評価等の結果から、館内の サインの見直し、エントランス内の案内所の再配置等を計画している。	A	順調
2331	**③　ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実** ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。 （東京国立博物館） 1)　オリジナルグッズを開発し、サービス向上に努める。	**③　ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実** **【東京国立博物館】** ミュージアムショップやレストラン等の利用者サービスの向上に努めた。 また、ミュージアムショップに関連した企画等に協力した。 ・ミュージアムショップを運営する東京国立博物館運営協力会(以下「協力会」という。)と、「ミュージアムショップグッズ開発等会議」を開催し、商品の充実及びオリジナル商品の製作について協議・検討を行った。 ・新たな絵はがきについて、3年計画中2年目の今年度は、24種類を製作した。 ・当館が監修した新たなミュージアムグッズとして、館蔵品のフィギアおよびレプリカを製作した。	A	順調

		・昨年度、リニューアルオープンしたミュージアムショップ（デザイン室が企画・監修として参加）では、前年度に比べ、来館者一人当りの売上額が増加した。 ・レストランでは、正月にお年玉プレゼントや甘酒の振る舞いサービスの実施、季節毎にメニューを変える等サービスの向上に努めた。 ・昨年度リニューアルオープンしたカフェの「アジアンカフェ」は好評であり、前年度に比べ売上げが増加した。		
2332	（京都国立博物館） 1） ミュージアムショップのリニューアルを行い、サービス向上に努める。 2） レストラン利用者にアンケート調査を行いサービス向上に努める。	**【京都国立博物館】** ・当館の観覧者サービスの一環として欠かせないものとしてミュージアムショップやレストランがある。これらの運営は、当館が主体となって運営すべきであるが、人員や財源等の問題から長年に亘って外部業者に委託を行っている状況にある。 【ミュージアムショップ】 ・絵はがき販売総数は 303 種類におよび、そのうち当館所蔵品をデザインとして監修した絵はがき数は 139 種類に上っている。 ・当館とミュージアムショップが協力し、オリジナルグッズとしてエコバック及び収蔵作品の一部をモチーフとした風呂敷を新規制作した。これらのグッズは、外国人観覧者に好評であった。 【レストラン】 ・季節に応じたメニュー（抹茶ミルク、黒みつオーレ）を取り扱うことで利用者へのサービスを図った。 ・新メニュー（和風きのこスパゲッティ・カルボナーラ等）を増やす等、利用者の要望に応えた。 ・これらは、レストランを利用した人達のアンケート調査を元に改善したものである。 利用者と直に接するミュージアムショップやレストランの従業員を対象に接客研修を行った。	A	順調
2333	（奈良国立博物館） 1） オリジナルグッズを開発し、サービス向上に努める。 2） レストランメニューを改善し、サービス向上に努める。	**【奈良国立博物館】** ・レストランメニューをリニューアル（単品メニューの充実） ・「正倉院展」では常設のレストラン及びミュージアムショップ以外に、敷地内に飲食店及びおみやげ店が出店	A	順調
2334	（九州国立博物館） 1） オリジナルグッズを開発し、サービスの向上に努める。 2） 特別展に関連した特別メニューを提供するなど、サービスの向上に努める。	**【九州国立博物館】** ・特別展、文化交流展の展示替えやイベントに合わせてミュージアムショップの商品陳列を見直した。 ・レストランでは特別展に関連したメニューを提供した。	A	順調

3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

(1)　収蔵品等に関する調査研究成果の発信

【中期目標】収蔵品等に関する調査研究の成果を多様な方法により積極的に公表し、広く博物館関係者の知見の向上に資すること。

【中期計画】	**【主な計画上の評価指標】**
(1)　収蔵品等に関する調査研究の成果を研究紀要、学術雑誌、展覧会に関わる刊行物、学会及びインターネット等を活用して広く発信する。また、各種セミナー、シンポジウムを開催する。	○刊行物の発行、学会、インターネット、各種セミナー、シンポジウムを通じて研究成果を広く公表すること。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	(1)　調査研究の成果の発信	**(1)　調査研究の成果の発信**		
3111	(東京国立博物館) 1)　博物館情報アーカイブを運用し、収蔵品・調査研究等に関する情報公開の充実を図る。 2)　国際的な講演・研究集会を開催する。 3)　紀要・図版目録等を刊行する。 4)　修理報告書を刊行する。 5)　法隆寺献納宝物調査概報を刊行する。 6)　研究誌「ＭＵＳＥＵＭ」(年6回) を刊行する。	**【東京国立博物館】** 定期刊行物 (研究誌『ＭＵＳＥＵＭ』・紀要・図版目録・修理報告書・法隆寺献納宝物調査概報・研究図録) 6件、特別展図録 (平城遷都1300年記念『国宝　薬師寺展』等)・特集陳列印刷物 (『六波羅蜜寺の仏像』等) 11件、その他 (『東京国立博物館日本美術50選』の中国語版・韓国語版) 2件を刊行した。これらの出版物により、国内外に広く当館の収蔵品に関する調査研究の成果を発信することができた。	A	順調
3112	(京都国立博物館) 1)　平安仏教とその造形 (仮題) に関するシンポジウムを開催する。 2)　特別展覧会「japan 蒔絵－宮殿を飾る 東洋の燦めきー」に因む国際シンポジウムを開催 (11月8日) する。 3)　研究紀要「学叢」を刊行する。 4)　社寺調査報告書を刊行する。 5)　文化財修理報告書を刊行する。	**【京都国立博物館】** ・「平安仏教とその造形」に関しては、シンポジウム「摂関期にみる美術の諸相」を開催(6/16)し、79人が参加し、活発な討論が行われた。 ・平成20年度の国際シンポジウムは、11月8日　に京都国立国際会館で開催し、3名が研究発表を行い、4名でパネル・ディスカッションが行われた。190人が参加し、活発な討論がなされた。	A	順調
3113	(奈良国立博物館) 1)　研究紀要「鹿園雑集」を刊行し、ウェブサイトで公開する。 2)　正倉院展に因むシンポジウムを開催する。 3)　国際的な講演・研究集会を開催する。 4)　文化財修理報告書刊行のため、資料整理等を実施する。 5)　入場無料ゾーンを利用し、調査研究活動実績をパネル等で公開する。	**【奈良国立博物館】** 『天馬－シルクロードを翔る夢の馬』(特別展図録)、『国宝　法隆寺金堂展』(特別展図録)、『建築を表現する－弥生時代から平安時代まで』(特別陳列図録)、『西国三十三所　観音霊場の祈りと美』(特別展図録)、『第60回正倉院展』(特別展図録)、『The 60th Annual EXHIBITION OF SHOSO-IN TREASURES』(特別展英語版図録)、『おん祭と春日信仰の美術』(特別陳列図録)、以上7冊の展覧会目録を刊行した (以上刊行物は全て作品解説付き、展覧会担当研究員の総論や各論を掲載)。また毎年行われる特別陳列の図録『お水取り』は完売につき、補訂を行った上で増刷刊行した。さらに60回の正倉院展の歩みを集成した「正倉	A	順調

3114	（九州国立博物館） 1)　研究紀要「東風西風」の刊行 2)　国際的な講演・研究集会の開催 3)　文化財修理報告書刊行及び教育普及事業活用のための資料整理等 4)　保存修復活動の成果を教育普及事業に反映させる。	院展60回の歩み」を編集し、刊行した。 正倉院学術シンポジウム「正倉院展60回　その歴史と未来」（11月3日、奈良県新公会堂、参加者数177名）を開催し、過去3回のシンポジウムの記録と成果を集成した当館編「正倉院宝物に学ぶ」（思文閣出版発行）を刊行した。 前年度に引き続き、ホームページ上で研究紀要『鹿園雑集』のバックナンバーを公開し、また文化財保存修理所で修理した文化財を写真パネル等で展示した。さらに従来からの読売新聞「鹿園観照－奈良国立博物館で見る名宝」に加えて新たに産経新聞に「祈りの美」の連載を開始し、展示作品について定期的な紹介を行った。 **【九州国立博物館】** ①特集陳列「博物館と文化財修理―九州国立博物館文化財保存修復施設開設3周年記念―」の開催と図録刊行。展覧会は5月13日から6月22日。 ②研究紀要『東風西声』第4号を刊行（3月発行）。 ③九州国立博物館開館3周年を記念して、韓国国立中央博物館、韓国国立扶餘博物館から専門家を招き、古代の大宰府、そして倭に影響を与えた百済をテーマにしたシンポジウムを開催した。	A	順調

定量評価	20年度	19年度	目標値	評定
研究誌の刊行 東京国立博物館（MUSEUM）	6回	6回	6回	A

(2)　海外研究者の招聘

【中期目標】国内外の博物館関係者との研究会の開催や研究者の交流等を行い、国際的な博物館の拠点となることを目指すこと。

【中期計画】
(2)　海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムを開催するなど博物館活動に対する示唆が得られるよう努める。

【主な計画上の評価指標】
○海外の優れた研究者を招聘し、博物館活動に対する示唆を得ること。

【19年度評価における主な指摘事項】
○ＡＮＭＡの準備をしっかりと進めてほしい。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
3211	**(2)　海外研究者の招聘等研究交流の実施** （国立文化財機構） 日中韓国立博物館長会議を東京で開催する。 （東京国立博物館）	**(2)　海外研究者の招聘等研究交流の実施** **【東京国立博物館】** 欧米、中国、韓国より計15名の研究者を招へいし、当館研究員延べ25名を欧州、北米、中国、韓国等へ派遣して、展覧会事業の推進およ	A	順調

	1) 海外の博物館・美術館等の研究者を招へいし、海外の研究者との交流を促進する。(6 人程度) 2) 外国人研究員・外国人研修生を受け入れる。(2 人程度) 3) 当館職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。(6 人程度) 4) 諸外国における国際会議、研究集会等へ積極的に参加する。	び学術交流を行った。これらの交流活動により、欧米・アジア主要館との連携を強化、また当館収蔵品とその保存・活用についての意見交換を行った。 また、日中韓国立博物館館長会議を開催、三館の協力体制を確認、連携を深めた。さらに、中国の故宮博物院との協力について覚書を締結し、収蔵品の保存、活用、また相互貸借についての協力体制を明文化した。 スリランカより計 4 名の研修を受け入れた。		
3212	(京都国立博物館) 1) 海外の博物館・美術館等の研究者を招へいし、海外の研究者との交流を推進する。(5 人程度) 2) 当館職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。(1～2 人) 3) 諸外国における国際会議へ積極的に参加する。	**【京都国立博物館】** 海外からの研究者の招聘　9 名 海外への研究員の派遣　10 名 国際会議への派遣　4 名	A	順調
3213	(奈良国立博物館) 1) 国際交流協定を締結している博物館を中心として、海外の博物館との交流を活発に行う。 2) 海外の博物館・美術館等の研究者を招へいし、海外の研究者との交流を推進する。(6人程度) 3) 当館職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。(6 人程度)	**【奈良国立博物館】** 国際交流協定を結んでいる四機関との間で研究員の招聘及び派遣を行い、文化財の調査研究を実施した。内訳は中国・上海博物館（当館からは 3 名を 10 日間派遣)、中国国家博物館（研究員 2 名を 1 ヶ月間招聘、当館から研究員 2 名を約 1 ヶ月間派遣)、中国・河南博物院（研究員 2 名を 1 ヶ月間招聘)、韓国国立慶州博物館（研究員 1 名を 1 ヶ月間招聘、当館から研究員 1 名を 3 週間派遣）である。 このほか文化庁「外国人芸術家招へい事業」により中国・西安碑林博物館長・趙力光氏を、同「在外日本古美術品に係る博物館・美術館研究協力事業」によりメトロポリタン美術館から研究員 1 名を、同「アジア諸国博物館・美術館研究協力事業」により韓国・国立中央博物館から研究員 1 名、中国・陝西歴史博物館から研究員 1 名を招聘し、国内各地で文化財調査、博物館等施設の視察を行っていただき、当館研究員との間で情報交換等を行った。	A	順調
3214	(九州国立博物館) 1) 海外の博物館・美術館等の研究者を招へいし、海外の研究者との交流を促進する。(5 人程度) 2) 当館職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。(1 人程度) 3) 国際交流活動推進へ向けての基盤を整備するとともに海外博物館等との交流並びに調査を実施する。	**【九州国立博物館】** ○海外研究者の招へい　15 人（目標 5 人程度） ○海外への研究員派遣 ・「文化財保存国際交流セミナー『漆工品の保存修理』における講演 ・JICA 草の根技術協力事業「文化財の保存と地域の活性化」研修のため ・「第 2 回文化財保存国際セミナー」 ・平成 20 年度外国人芸術家・文化財専門家招へい事業に係る招へい ・日中共同遼文化研究に関する研究員の招へい	A	順調

・九州国立博物館保存修復事業等に係る協力のため
・九州国立博物館開館 3 周年記念国際シンポジウム「百済、倭そして大宰府」講演

定量評価	20 年度	19 年度	目標値	評定
海外研究者招聘（人）				
東京国立博物館	15	10	6	A
京都国立博物館	9	7	5	A
奈良国立博物館	9	9	6	A
九州国立博物館	18	38	5	A
外国人研究員・研修生の受入れ（人）				
東京国立博物館	4	2	2	A
研究員派遣（人）				
東京国立博物館	25	22	6	A
京都国立博物館	18	21	1～2	A
奈良国立博物館	6	6	6	A
九州国立博物館	35	44	1	A

(3) 博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施

【中期目標】国内外の文化財の修理・保存処理の充実に寄与すること。

【中期計画】
(3) 博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。

【主な計画上の評価指標】
○博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施すること

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
3311	(3) 保存修理者への研修プログラム （東京国立博物館） 修理事業者を対象とした研修会を開催する。 保存修理を学ぶ大学院生を対象にしたインターンを受け入れる。	(3) 保存修理者への研修プログラム **【東京国立博物館】** 1. 特定非営利活動法人文化財保存支援機構が主催する専門家セミナーに東京国立博物館が共催し、東京国立博物館を会場として平成 20 年 8 月 3 日（日）～14 日（木）の 10 日間、「文化財保存修復専門家養成実践セミナー」を開催した。東京国立博物館は講師・プログラムの選定、およびセミナー会場としての修理施設の提供を行った。本セミナーの対象は、社会で活動している文化財保存修復専門家及び専門家を目指す学生である。内容としては、国内外で活躍できる高度な能力を持つ専門家を育成するために、基礎能力の格段の向上	A	順調

		を目指すものであり、既に現場で活躍している講師陣による実践セミナーである。2ヵ年で1クールであるため、平成20年及び21年で1クールを終了する。 2. 文化財保存修復学会との共催により、特集陳列「東京国立博物館コレクションの保存と修理」展にちなみ修理技術者を対象にした研修会を3月21日（土）に開催。2件の修理事例の発表及び特集陳列の解説を実施した。 3. 大学院生のインターンを11月4日(月)～14日(金)間での間、3名受け入れた。		
3312	(京都国立博物館) 修理事業者を対象とした特別展覧会開催に合わせた研修会を開催する。	**【京都国立博物館】** ・毎月1回文化財保存修理所内工房を当館研究員が巡回し、修理技術者に指導・助言を行った。また、2か月に1回修理技術者と当館との定例会議を開催した。 ・当館にて開催の特別展覧会において修理技術者に対する研修会を実施した。 参加者　「暁斎」展　62人 「japan　蒔絵」展　38人 「京都御所ゆかりの至宝」展　44人	A	順調
3313	(奈良国立博物館) 修理事業者と協力し研修会を開催する。	**【奈良国立博物館】** ○修理所巡回（毎月1回）を実施した。館長、副館長および学芸部研究員らが修理所の各三工房を見学し、修理途中の文化財の修理状況を視察し、修理中に分かった新知見を通して新たに文化財としての価値を高めるようなデスカッションを技術者と行い、それによって文化財に対する深い理解と相互の交流・研鑽に努めた。 ○平成21年3月19日（木）　午後5時から6時30分。当館講堂。 北村昭斎工房の漆工品修理について、近年の修理実績のなかから、琉球および中国明時代の漆工品修理について、修理品の概要、修理中の調査および新知見、修理方針、修理技術などについて、スライドを使用して発表し、学芸部研究員、修理所工房のスタッフとデスカッションを行い、文化財修理にたいする多様な価値観および思想について見識を深めた。	A	順調
3314	(九州国立博物館) 1)　修理事業者を対象とした研修会を開催する 2)　修理事業者と協力し、研修会を開催する	**【九州国立博物館】** ①　市民協同型IPM活動に関する研究会　第1～4回 7月10日、8月23日、10月26日、2月8日　参加者数のべ230名	A	順調

		② 九州国立博物館文化財保存国際交流セミナー 第1回「漆工品の保存修理」5月16日　参加者34名 第2回「アジアにおける文化財の保存修復」9月29日　参加者56名 第3回「装こう技術による紙文化財の保存修復」11月4～7日参加者のべ58名 ③ a 文化財保存修復研修（地元大学の文化財保存技術専攻学生7名対象）8月4～8日 b 古文書保存基礎講座（地元博物館文化財関係者 32 名対象）1月20日、27日 ④ 漆工品の取り扱い講座（当館職員及び関係者）2月2日　参加者20名		

(4)　公私立の博物館等への貸与の推進

【中期目標】収蔵品の地方における観覧の機会を確保するため、貸与に関する情報を公開するなど、収蔵品の貸与を推進すること。

【中期計画】	**【主な計画上の評価指標】**
(4)　収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を推進する。収蔵品の貸与については、貸与に関する情報を公開するなど具体的措置を講ずることとする。	○公私立博物館等に対する支援のため、収蔵品の貸与に関する情報を公開すること

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	(4)　収蔵品の貸与	**(4)　収蔵品の貸与**		
3411	（東京国立博物館） 1)　国内の博物館等で開催する展覧会へ収蔵品を約1,000件貸与する。 2)　長崎歴史文化博物館の平常展示のため、引き続き約80件を長期貸与する。 3)　海外の美術館・博物館等で開催する展覧会へ約100件を貸与する（海外交流展出品作品を含む） 4)　国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。 5)　収蔵品貸与拡充の一環として、特別協力を行う。 東京都写真美術館開催「紫禁城写真展　～100年の時を経て、今初めて明らかにされる中国王朝最後の姿」（平成20年3月29日～5月18日）	**【東京国立博物館】** 国内の公立・私立の博物館が実施した特別展および平常展示に、列品および寄託品を多数貸与した。 ・考古資料相互貸借事業は、二つの博物館と協力して実施した。 ・長期貸与のなかで特筆すべきは、17年度以来継続している長崎歴史文化博物館に対するキリシタン関係遺物貸与である。同館への貸与品と、九州国立博物館への長期管理換品、そして当館での展示品とがそれぞれ一定の質を保つよう、調整している。	A	順調
3412	（京都国立博物館） 国内外の博物館等へ収蔵品を貸与する。（約120件）	**【京都国立博物館】** ・45機関に対し246件の貸与を行った。（うち海外1機関に対し1件）（館蔵品についての貸与件数） ・特別観覧件数　902件	A	順調
3413	（奈良国立博物館） 国内外の博物館等へ収蔵品を貸与する。（約100件）	**【奈良国立博物館】** ・館蔵品と寄託品の貸出は、展覧会にして44件、展示会場にして47	A	順調

3414	（九州国立博物館） 収蔵品の充実に努め、貸与の体制を整備する。	館（巡回展のため会場数の方が多い）、作品件数にして 163　件。 貸与先内訳（のべ） 外国 1 館、国立 8 館、公立 28 館、私立 9 館　その他 1 館 貸与作品内訳 館蔵品 70 件（絵画 20 件、彫刻 10 件、書跡 3 件、漆工 3 件、金工 15 件、染織 3 件、考古 16 件） 寄託品 93 件（絵画 43 件、彫刻 17 件、書跡 6 件、漆工 3 件、金工 18 件、染織 2 件、考古 4 件） **【九州国立博物館】** 国内 28 機関・海外 2 機関に所蔵品および借用品（東京国立博物館からの長期管理換品を含む）を貸与した。	A	順調

定量評価	20 年度	19 年度	目標値	評定
収蔵品の貸与件数（件）				
東京国立博物館	1,205	1,302	1,180	A
国内展覧会への貸与	1012	1,118	1,000	A
うち長崎歴史文化博物館	80	80	80	A
海外展覧会への貸与	113	184	100	A
京都国立博物館	246	171	120	A
奈良国立博物館	163	137	100	A
九州国立博物館	51	127	－	－

(5)　公私立博物館等に対する援助・助言

【中期目標】全国の博物館等の運営に対する援助、助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努めること。

【中期計画】
(5)　公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努める。なお、援助・助言の実施については今期 5 年間の実績が前中期目標期間の実績を上回るよう努める。

【主な計画上の評価指標】
○公私立博物館等に対する援助・助言の実績が前中期目標期間の実績を上回ること。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
3511	**(5)　公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進** 公私立の博物館・美術館が開催する展覧会及び運営等の援助・助言をする。 （東京国立博物館） 公立の博物館・美術館等が開催する展覧会に対する指導、助言等を行う。新規貸与館に対する環境調査は、東京文化財研究所と協力して指導助言を行う。	**(5)　公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進** **【東京国立博物館】** 文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業にて協力（64 件） 文化財の展示にかかる指導助言（18 件） 講演会やセミナー等における講演等での協力（42 件） 作品の展示・保存環境についての調査・指導（10 件）	A	順調

3512	（京都国立博物館） 公立の博物館・美術館等が開催する展覧会の企画・展示等に協力する。	**【京都国立博物館】** 文化財の展示、修理にかかる指導助言（20 件） 講演会、セミナー等における講演等での協力（32 件） 地方公共団体の文化財保護審議会等会議にて協力（34 件） 文化財の調査にかかる指導助言（28 件）	A	順調
3513	（奈良国立博物館） 公立の博物館・美術館等が開催する展覧会に対する指導、助言等を行う。 「国宝　鑑真和上展」（仮称）（静岡県立美術館） 「石山寺の美」（仮称）（明石市立文化博物館、弘前市立博物館、岡崎市美術博物館） 「法隆寺の名宝と聖徳太子の文化財展」（石川県立美術館）	**【奈良国立博物館】** 「国宝　鑑真和上展」（静岡県立美術館、20 年 7 月 12 日～8 月 31 日、同館・唐招提寺・静岡新聞社・静岡放送主催）、「法隆寺の名宝と聖徳太子の文化財展」（石川県立美術館、20 年 9 月 20 日～10 月 24 日、同館・法隆寺主催）、「石山寺の美　観音・紫式部・源氏物語」（明石会場＝明石市文化歴史博物館、20 年 4 月 5 日～5 月 11 日、同館・石山寺・神戸新聞社主催。弘前会場＝弘前市立博物館、同 9 月 6 日～10 月 5 日、同館・石山寺・弘前市教育委員会・東奥日報社主催。岡崎会場＝岡崎市美術博物館、同 10 月 12 日～11 月 16 日、同館・石山寺・中日新聞社主催。横浜会場＝そごう美術館、21 年 3 月 7 日～29 日、同館及び石山寺主催）において学術協力を行い、出陳作品の選定・集荷・陳列・保存・返却の助言ならびに補助、目録の編集協力等を行い、展覧会全般に関して協力援助を行った。 韓国国立中央博物館で開催された「統一新羅彫刻特別展」（12 月 15 日～3 月 1 日）への館蔵品、寄託品の出陳に協力し、所蔵者への交渉、作品の輸送、展示などを行った。	A	順調
3514	（九州国立博物館） 公私立博物館・美術館等対する指導・助言等を行う。	**【九州国立博物館】** 公私立博物館等で開催された研究集会および講演会において指導・助言を行った。	A	順調

定量評価	20 年度	19 年度	目標値	評定
公私立博物館・美術館への指導助言（件）				
東京国立博物館	134	124	40	A
京都国立博物館	114	81	12	A
奈良国立博物館	5	5	5	A
九州国立博物館	47	38	12	A

4　文化財に関する調査及び研究の推進

(1)　文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進

【中期目標】文化財の各分野に関する基礎的・体系的な調査及び研究や、総合的な視点に基づく文化財の調査研究手法の開発等を推進することにより、国及び地方公共団体における文化財保護施策の企画立案及び文化財の評価等に係る業務の基盤形成に寄与すること。

特に、文化財保護法の改正によって新たに保護の対象となった文化的景観、民俗技術などに関する調査及び研究を推進し、今後の指定等の業務に係る基礎的な知見を形成すること。

【中期計画】

(1)　文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進

文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究として、国内外の機関との共同研究や研究交流も含めて以下の課題に取り組むことにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。

①文化財保護法の一部改正に伴い新たに保護対象となった文化的景観、民俗技術に関する基礎的・体系的な調査・研究を実施し、今後の指定をはじめとする保護施策に関する資料と指針を提供する。

②我が国の有形文化財及びそれに係わる諸外国の文化財に関し、以下の課題に重点的に取り組む。

ⅰ　日本を含む東アジア地域における美術の価値形成の多様性の解明

ⅱ　我が国における近現代美術の歴史の解明

ⅲ　美術や文化財に対する理解を深めるための美術の創作のプロセスの解明

ⅳ　古都所在寺社所蔵の歴史資料・書跡資料等に関する原本調査を通じた日本の歴史、文化の研究

ⅴ　歴史的建造物の保存・修復・活用に関し重点物件に係る調査・研究を通じた基礎データの収集整理・公開

③我が国の古典芸能及び伝統的工芸技術等の無形文化財の伝承実態を把握するとともに、その伝承・公開の基礎となる技法・技術を明らかにする。

④我が国の風俗習慣、民俗芸能、民俗技術など無形民俗文化財の現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等を明らかにするとともに、各地の保存団体や保護行政担当者等とこれら研究成果及び問題意識の共有化を図り、「無形民俗文化財の映像記録作成ガイドライン（仮称）」等の指針を作成し公表する。

⑤平城京、藤原京、飛鳥地域を中心とした我が国及び関連する中国・韓国等諸外国の遺跡の発掘調査並びに共同研究を行うとともに、出土品・遺構の調査研究及び庭園等に関する基礎的な調査・研究を実施し、それにより古代日本の都城の構造及び建造物の様式並びに瓦・陶磁器・金属器等の手工業生産技術の実態やその変遷過程、庭園等の変遷過程、飛鳥地域の歴史等の解明に寄与する。

⑥遺跡の保存・整備・活用に関する一体的な調査・研究、技術開発の推進及び整備事例のデータベース化等により、個々の遺跡の現況に応じた適切な保存修理・整備に資する。また、これに関連して、平城宮跡・藤原宮跡の整備・公開・活用に関する調査・研究を行い、文化庁が行う平城宮跡及び飛鳥・藤原宮跡の整備・復原事業に関して、専門的・技術的な協力・助言を行う。

【主な計画上の評価指標】(1)～(5)共通

○中期計画に示された課題や文化財保護政策のニーズに沿って、研究の目的、テーマを適切に設定すること。

○それぞれの調査研究を計画に沿って適切に実施すること。また、我が国の文化財保護政策上、緊急に保存修復の措置等が必要となった場合において、必要な実績的調査研究を迅速かつ適切に実施すること。

○調査研究の成果により我が国の文化財保護政策に寄与するとともに、学術雑誌等への論文の掲載、学会、研究会での発表、データベースの追加等により定量的観点からも調査研究の成果を確保すること。

【19年度評価における主な指摘事項】(1)～(5)共通

○研究の中には報告書などの「成果物」がないものも含まれているが、これは展示関連事業に時間が余儀なく取られているためであり、研究と展示活動の調和や研究の公開制が求められる。

○外部へのわかりやすい情報発信が一般人の理解のために必要である。

○なぜそのテーマを選んで研究しているのか、基礎的な情報蓄積の到達点はどこで、何年くらいで到達するものなのか不明である。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
4115-10	(1)　文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究として、国内外の機関との共同	①ーア 文化的景観に関する調査研究 四万十川流域において実施した文化的景観に関する調査研究によ	A	順調

	研究や研究交流も含めて以下の課題に取り組むことにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。	って得た内容の整理・考察や、開催した研究集会等を通じて、文化的景観の在り方や調査研究法、保護施策等に関する検討を行った。また、文化的景観に関連する国内外の情報の収集を行い、その成果を資料集としてまとめ、関係者、関係機関等に配布した。		
4115-20	① 文化財保護法の一部改正に伴い新たに保護対象となった文化的景観、民俗技術に関する基礎的・体系的な調査・研究を実施し、今後の指定をはじめとする保護施策に関する資料と指針を提供する。 ア 文化的景観の体系化や保護策に関する研究を行うとともに、ケーススタディーとして高知県四万十川流域の調査研究を行う。 イ 民俗技術に関して、都道府県・市町村における保護の現状に関して、四国・九州地方を中心に調査を行い、資料を収集する。（④と一体で実施）	**①－イ 民俗技術に関する調査・資料収集（④ 無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究と一体的に実施）** 無形民俗文化財の伝承実態調査として民俗芸能・民俗行事の実地調査を実施し、公開の実態調査としては、各種芸能大会の調査を実施した。無形民俗文化財研究協議会では、民俗技術をテーマに取り上げ、関係者と協議することができた。無形文化遺産の記録情報データベースについては、すでに 3000 件以上のデータを収集・整理済み、現在も補足調査が進行中で、着実に実現に向かっている。	A	順調
4125-10	② 我が国の有形文化財及びそれに関わる諸外国の文化財に関し、以下の課題に重点的に取り組む。 ア 日本を含む東アジア地域における美術の価値形成の多様性を解明するために、報告書を平成 21 年度に刊行することを目指して、近年の記録媒体や分析手法等の進展に対応しながら調査研究し、美術史研究の資料学的基盤を整備、確立して、国内外の研究交流を行う。	**②－ア 東アジアの美術に関する資料学的研究** (1) 情報資料の収集のための調査：大村西崖・黒田清輝に関する国内外での調査。 (2) 美術史研究のためのコンテンツの形成：『日本絵画史年紀資料集成（15 世紀）』のデータ入力。『日本美術年鑑』所収の古美術文献データの校正作業。 (3) 研究会の開催：「満谷国四郎デッサンに関する研究会」「平安時代の彫刻史と建築史の学際的研究会」の開催。オープンレクチャーの開催。	A	順調
4125-20	イ 我が国における近現代美術の歴史を解明するために、日本の近現代美術に関する研究資料を収集、整理し、総合的な視点に基づく研究手法を開発するとともに、多様化する現代美術の動向に関する調査研究を行い、基礎資料を形成し、平成 20 年度に報告書を刊行する。	**②－イ 近現代美術に関する総合的研究** 未公刊資料の調査研究として、黒田清輝関連資料、笹木繁男主宰現代美術資料センター寄贈資料の整理・調査を進め、既刊の『日本美術年鑑』所載データをウェブ上に公開するための校正を行った。資料にもとづく研究協議、成果公開としては、『昭和期美術展覧会の研究　戦前篇』をまとめ、また、研究会を通じて近現代美術に関する研究協議を行った。	A	順調
4125-30	ウ 美術の創作のプロセスを解明して、美術や文化財に対する理解を深めるために、報告書を平成 22 年度に刊行することを目指して、文化財に関する諸分野と連携しながら、基礎的なデータを収集、蓄積し、制作過程や技法、材料の歴史的変遷を明らかにする調査研究を行う。	**②－ウ 美術の技法・材料に関する広領域的研究** 本研究は美術作品が基盤としている材料・技法・制作の過程等を文献史料あるいは作品に対しての科学的手法による分析を援用しながら解明することを目的とする。本年度は天平時代の脱活乾漆像、近世の絵巻などについて実地調査するとともに、諸々の関連資料の調査を行い、情報収集に努めた。また、奈良時代史料にあらわれた彩色語彙の収集につとめ、データベースをホームページ上で公開し、逐次、その更新に努めた。	A	順調
4125-40	エ 日本の歴史、文化の源流等の実態を探るため、古都所在寺社が所蔵する歴	**②－エ 古都所在寺社の歴史資料等に関する調査研究**	A	順調

	史資料・書跡資料等に関する調査結果の報告書及びデータベースを作成することを目指し、今年度は興福寺、東大寺、薬師寺、大宮家等の所蔵資料の原本調査、記録作成を実施するとともに、その一部公表に向けて整理検討を行う。	興福寺については、数年にわたり準備を進めてきた『興福寺典籍文書目録第四巻』を発刊した。東大寺についても、先年の調査で発見した東大寺大勧進文書集についての研究成果を、『南都仏教』に掲載した。これは重源以後の東大寺大勧進に関する基礎史料である。大宮家については、「大宮家文書データベース」のデータを追加し、成巻文書分すべてを公開した。また、当研究所所蔵の「関野貞日記」の釈文を公表した。		
4125-50	オ　わが国の文化財建造物の保存・修復・活用に向けた歴史的建造物、伝統的建造物群及び近代化遺産等に関する基礎データを蓄積し、分析・研究を行うとともに、古代建築の今後の保存と復原に資するため、古代建築の諸構法についての再検証を行い、得られた成果を整理するとともに、一般公開を図る。	**②－オ 歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究** 文化財建造物の保存修理に関する基礎データである所内保管資料の整理等の作業を行い、「建造物現状変更説明」については出版物として刊行・配布し、「ガラス乾板」については画像をデジタルデータ化し、一般公開を推進した。また、古代建築の諸構法に関する再検証作業を継続的に実施し、研究成果を研究集会等で公表した。このほか、昨年度実施した出雲大社境外社建築等の調査研究成果を報告書として刊行・配布した。	A	順調
4135-00	③　平成 22 年度に無形文化財の伝承実態に関する報告書を刊行することを目指し、20 年度は前年度に収集した無形文化財に関する音声・映像記録のデータベースの構築に努め、その成果の一部を公開講座として発表する。さらに能楽における小道具、文楽における下座の実態調査、関西の歌舞伎資料の調査を実施する。また、伝統芸能の中で、伝承の著しい謡曲、講談の記録作成を行う。 伝統芸能以外の分野においては、工芸技術を中心に基本文献や映像資料等の収集を行う。 また、無形文化遺産分野についての国際的研究交流として、韓国をはじめとする近隣諸国との研究交流を実施する。	**③ 無形文化財の保存・活用に関する調査研究** 文化財保護委員会が作成した音声資料、各地の博物館が所蔵する龍笛・能管のＸ線透過撮影、文化財保護法による工芸技術の保護の実態等について調査研究をおこない、無形文化遺産部所蔵音声資料の整理をおこなった。無形文化遺産分野での国際的研究交流では、韓国国立文化財研究所の無形文化遺産研究室と合意書を結び、研究員の相互派遣を実施した。	A	順調
	④　我が国の風俗慣習、民俗芸能、民俗技術など無形民俗文化財の現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等について考察し、平成 22 年度に報告書を刊行することを目指して、平成 20 年度は、無形民俗文化財の現在における伝承実態、伝承組織、公開のあり方等について、現地調査公開実態調査等を実施し、データの蓄積を図る。また、無形民俗文化財研究協議会を実施し、その成果を報告書にまとめる。さらに、無形民俗文化財の映像記録についての全国的なデータベースを構築することを目指して、情報収集を行う。	**④ 無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究** ①－イ参照	－	－
4155-10	⑤　国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び文化財建造物に関する基礎的調査研究を実施する。 ア　平城京跡及び飛鳥・藤原京跡について、古代都城の実体解明のため本年度	**⑤－ア－1 平城宮跡第一次大極殿院地区南面回廊跡（第 431 次）の発掘調査** 平城宮第 1 次大極殿院南面築地回廊の発掘調査で、南面における最後の調査である。既往の調査成果を参考に発掘調査を進めたところ、回	A	順調

	は以下の地区の発掘調査を実施する。 （平城京跡）平城宮跡第一次大極殿院地区、薬師寺境内ほか （飛鳥・藤原京跡）藤原宮跡朝堂院地区、石神遺跡、甘樫丘東麓遺跡ほか	廊の基壇上で礎石の痕跡を確認し、基壇縁では雨落溝などを検出。大極殿院の広場では奈良時代前半に敷設された礫敷を検出し、それらが2度にわたり敷き直されていたことを再確認した。また、築地回廊基壇では掘込地業を確認し、回廊芯を掘り残していることも明らかとなった。		
4155-11		**⑤－ア－2 平城宮跡第一次大極殿院地区西面回廊跡（第 432 次）の発掘調査** 平城宮第1次大極殿院西面築地回廊の発掘調査。既調査範囲に挟まれた未発掘地での調査で、築地回廊の基壇及び雨落溝などを検出。この調査に続いて実施した第 436～438 次と併せ、西面築地回廊の全容を明らかにした。	A	順調
4155-12		**⑤－ア－3 平城宮跡第一次大極殿院地区西面回廊跡（第 436 次）の発掘調査** 西面築地回廊の東雨落溝、掘立柱塀、凝灰岩暗渠を確認した。これらの遺構の重複関係を詳細に検討した結果、西面築地回廊の変遷や改修の具体的な様相などを明らかにすることができた。	A	順調
4155-13		**⑤－ア－4 平城宮跡第一次大極殿院地区西面回廊跡（第 437 次）の発掘調査** 第一次大極殿院西面回廊の基壇本体、基壇にともなう雨落溝、回廊基壇をこわして造営した掘立柱塀、回廊基壇を破壊した土坑などを検出した。回廊の規模や構造、西面基壇の変遷が明らかになった。	A	順調
4155-14		**⑤－ア－5 平城宮跡第一次大極殿院地区西面回廊跡（第 438 次）の発掘調査** (1) Ⅰ～Ⅲ期の遺構を確認し、各時期がそれぞれ東西対称に計画されていることが改めて確認された。 (2) 合計3面の礫敷き面を良好な状態で検出し、回廊内部の礫敷きの変遷を確認した。大極殿と後殿のみが建っていたⅠ期と、生活空間として利用されていたⅡ期とでは、礫の大きさが異なり、区画内の機能に合わせて舗装を変えている点は注目される。 (3) Ⅲ期の東西排水溝で凝灰岩の石組暗渠を良好な状態で検出した。	A	順調
4155-15		**⑤－ア－6 平城宮跡東方官衙地区（第 440 次）の発掘調査** 木簡が出土する土坑の全容が明らかになり、土坑に前後する掘立柱建物などが確認された。土坑からは大量の土器片、瓦片のほか、金属器、木器、木簡、木屑などが出土した。	A	順調
4155-16		**⑤－ア－7 平城京右京三条一坊八坪（第 448 次）の発掘調査** 右京三条一坊八坪の状況を明らかにすることができた。具体的には、奈良時代後半の遺構の検出と、近代以降の土地利用の変遷を把握	A	順調

		することができた。		
4155-17		**⑤－ア－8 藤原宮跡朝堂院地区の発掘調査** 大極殿院南門の前面にあたる朝堂院朝庭北端部の発掘調査を実施し、礫敷きの広場と排水施設など朝庭部の構造を明らかにするとともに、幡にともなうと考えられる遺構など朝庭で行われた儀式に関連する遺構を確認した。また、下層遺構の調査では、藤原宮造営時の運河や建物建設に関わる排水溝などを検出し、それらの変遷から、藤原宮の造営過程の解明につながる重要な手がかりを得た。	A	順調
4155-18		**⑤－ア－9 石神遺跡の発掘調査** 19 年度の第 20 次調査で確認した遺跡中心部の東限施設の延長を検出し、7 世紀中頃における石神遺跡の東限を確定した。東限の区画施設は掘立柱塀で、南北棟建物が併設され、区画に沿って外郭の通路がめぐる状況を明らかにした。また、東限施設は二度にわたる建て替えが行われていたことも判明した。7 世紀後半になると、それまでの東限よりさらに東側に建物等が展開することを確認し、土地利用が大きく変化することを明らかにした。	A	順調
4155-19		**⑤－ア－10 甘樫丘東麓遺跡の発掘調査** 7 世紀代のものと推定される整地層、石敷、柱穴、土坑及び整地層を掘り込む幅 3～4mの溝などを検出した。整地層に埋め立てられた人頭大の礫群を確認したが、これは第 146 次調査で確認した石垣状遺構の一部と考えられる。また、中近世の墓と考えられる底部に炭を敷いた土壙 1 基を検出した。以上のように今回の調査では、遺跡の性格及び甘樫丘における土地利用の変遷を考えるうえで重要な資料を得ることができた。	A	順調
4155-20	イ　出土遺物及び遺構に関する調査、分析、復原的研究を総合的・多角的に実施することを目的として、平成 20 年度及び平成 20 年度以前の発掘により出土した出土遺物（木製品・金属製品・土器・土製品・木簡・瓦等）の分類分析研究及び保存処理を実施するとともに遺構の研究を行う。そしてその成果の一部を『飛鳥藤原京木簡二』、『平城宮大極殿復原研究』瓦編等として刊行する。	**⑤－イ－1 平城京跡出土遺物・遺構の調査研究等** 本年度の発掘調査に伴う出土遺物・遺構の整理・分析研究、図面・写真の作成などの基礎作業を行い、平成 21 年度刊行の『奈良文化財研究所紀要 2009』の報告を準備し、発掘調査成果速報展を実施した。昨年度以前の調査に伴う出土遺物についての調査を継続して実施し、報告・展示も行った。『第一次大極殿復原に関する調査研究』基壇編、『同』屋根編、『近世瓦の研究』を刊行した。また、『地下の正倉院―長屋王家木簡の世界』を開催した。	A	順調
4155-21		**⑤－イ－2 飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等** 本年度の発掘調査により出土した木製品・金属製品・石製品・動植物遺存体、土器・土製品・瓦塼類、木簡などの整理、分析研究、及び発掘遺構の図面・写真資料の整理・作成、分析作業を年間を通じて実施し、成果の一部を公表した。前年度までの発掘調査成果を公開する	A	順調

		ための基礎的整理・分析・復原研究を行い、『飛鳥藤原京木簡二－藤原京木簡一－』等の公刊図書に取りまとめた。また、出土遺物の保存処理を継続的に実施した。		
4155-30	ウ　アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する調査研究並びに研究協力について、北魏洛陽城等に関する中国社会科学院考古研究所との共同研究、中国の生産遺跡（唐三彩窯跡及び生産品）に関する河南省文物考古研究所との共同研究、隋唐墓に関する遼寧省文物考古研究所との共同研究、日本の古代都城並びに韓国古代王京に関する韓国国立文化財研究所との共同研究を協定に基づいて実施する。	**⑤－ウ アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究** A漢魏洛陽城において 2400 ㎡の共同発掘調査を実施。B遼寧省における唐代墓出土品の調査を実施。C 黄冶窯跡及び白河窯跡生産された青磁・白磁・唐三彩・唐青花の系譜的系統的把握の基礎となる視点が明確になった。D日本の古代都城並びに韓国古代王京の形成と発展に関する共同研究を実施。	A	順調
4155-40	エ　平安時代庭園に関する調査・研究の一環として、平成 20 年度は平安時代中期の発掘遺構・現存庭園・史料等について情報収集・調査を行うとともに、関係する研究者を集めて研究会を開催する。	**⑤－エ 庭園に関する調査研究** 「平安時代の禁苑と離宮の庭」と題して開催した研究会では、奈良時代の宮廷の苑の系譜や園池配置の思想的背景、唐長安城禁苑の影響などに関する報告の他、具体的な庭園遺構として長岡京北苑、平安京神泉苑など計 4 件の事例報告があり、平安時代庭園の理解を深めた。なお、昨年度開催の研究会の報告書を刊行した。また、平安時代前期と中期の庭園遺構のデータを中心に収集・整理を行い、公開している発掘庭園データベースの内容の更新を行った。	A	順調
4155-50	オ　飛鳥時代の壁画古墳についての調査研究を行うとともに、東アジアにおける工芸美術史研究の一環として、鏡や梵鐘を中心とした工芸品の調査を行う。また、飛鳥時代木造建築遺物の研究として、山田寺出土部材の研究を行う。	**⑤－オ 東アジア史における飛鳥の研究及び飛鳥時代工芸技術の研究** 山田寺出土部材の展示においては、経年的に計測調査を行っており、本年も計測を継続した。その結果大きな変化がないことを確認した。飛鳥地方壁画古墳の研究としては 12 月に中国河北省文物研究所において、河北省出土壁画墓のはぎ取り壁画の調査を行った。飛鳥時代の工芸技術の研究としては、東京都武蔵国府跡と長野県榎垣外遺跡出土の同型小型八花鏡の調査を行った。また奈良国立博物館所蔵霊安寺出土唐式鏡 4 面の調査も行った。	A	順調
4165-10	⑥　遺跡の保存・整備・活用に関する一体的な調査・研究、技術開発の推進及び整備事例のデータベース化等により、個々の遺跡の現況に対応した適切な保存修復・整備の向上に資する。また、これに関連して、平城宮跡・藤原宮跡の整備・公開・活用に関する調査･研究を行い、文化庁が行う平城宮跡及び飛鳥・藤原宮跡の整備・復原事業に関して、専門的・技術的な協力・助言を行う。	**⑥－ア 遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究** 遺跡等における遺構露出展示について、基礎的な情報収集を行うとともに、埋蔵文化財センター保存修復科学研究室と合同で研究集会を開催し、調査研究上の具体的課題を検討した。また、昨年度の成果について、報告書を刊行・配布するなど、その普及等を行った。	A	順調
4165-20	ア　遺跡の保存・整備計画段階から整備後における管理・運営と公開・活用に至るまでの調査研究を行うとともに、遺構の露出展示を伴う整備例の資料収集とデータベース化を進め、露出展示の成果と課題に関する研究集会を開催する。 イ　遺構の安定した公開･展示を行うことを目的とした事前調査法、保存技術	**⑥－イ 遺構の安定した公開・展示を行うことを目的とした事前調査法、保存技術並びに監視技術の開発的研究** 遺跡の水分状態を調査する方法を開発するため、宮畑遺跡において気象観測ステーションを設置するとともに、遺跡断面に地中温度センサーと土壌水分計を設置して、データ収集を行った。また、水分特性と不飽和透水係数を求めるための実験装置を導入し、実験を開始した。	A	順調

	ならびに監視技術の開発的研究の一環として、遺跡の水分状態や石材の劣化状態を把握する技術の応用研究、平城宮跡遺構展示館等における遺構安定化薬剤の実地試験に取り組む。	さらに、遺構土壌を安定化させる土壌安定化剤を試作して室内実験を行い、土壌を良好に安定化させる効果があることを確認した。		
4165-30	ウ　平城宮跡、藤原宮跡について、公開活用及び整備の具体的方策を研究し、文化庁が行う平城宮跡第一次大極殿正殿復原をはじめとする整備・公開・活用に関して、専門的・技術的な援助・助言を行う。文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究として、国内外の機関との共同研究や研究交流も含めて以下の課題に取り組むことにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。	**⑥ーウ 文化庁が行う平城宮跡第一次大極殿正殿復原をはじめとする整備・公開・活用に関する専門的・技術的な援助・助言** 長年にわたって行ってきた第一次大極殿に関する諸研究を、報告書に纏めた。また、文化庁が行う第一次大極殿復原事業に伴う文部科学省文教施設部主催の会議等に出席し、専門的な観点から、助言を行った。さらには、平城宮跡の国営公園化に伴って、国営飛鳥歴史公園事務所が主催する『平城宮跡　基本計画検討委員会』及び『国営平城宮歴史公園第一次大極殿院広場設計検討業務検討委員会』開催にあたり事務局に資料提供するとともに委員会に出席した。	A	順調

(2)　文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進

【中期目標】最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査及び研究を通じて、文化財の保存・修復に係る技術・技法や材料の開発・評価等を推進し、文化財の保存や修復の質的向上に寄与すること。

【中期計画】

(2)　文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進

文化財の調査手法に関する以下の研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。

①光に対する物性を利用した高精彩のデジタル画像を形成する手法に関する調査・研究を行い、文化財の色や形状・肌合いなどを正確かつ詳細に再現することを目指す。

②小型可搬型機器の開発及び応用研究を行い、文化財の材質調査をその場で行えるようにする。また、有機化合物の物質同定を目的とした新規手法の検討及びその応用研究を行い、金属文化財や顔料など無機化合物に関する元素分析及び構造解析手法の確立等を目指す。

③遺跡調査における新たな指標や属性分析法の確立に関する研究会等を行い、全国における遺跡調査・研究の質的向上と発掘作業の効率化に資する。

④木質古文化財の年輪年代測定法等を進め、考古学・建築史・美術史の研究に資する。

⑤遺跡出土の動植物遺体や古土壌の考古科学的分析により、過去の生業活動の解明と環境復元を行う。

【主な計画上の評価指標】

○

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
4215-00	**(2) 文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進** 文化財の調査手法に関する以下の研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。 ①　光に対する物性を利用した高精細デジタル画像を形成する手法に関し、文化財	**① 高精細デジタル画像の応用に関する調査研究** 脆弱な材料で構成されている我が国の貴重な文化財の高精細な画像や特殊撮影画像の公開と多目的な利用に供すべく、平等院と行った共同研究成果を『平等院鳳凰堂調査資料目録―カラー画像編―』として刊行した。また、國立故宮博物院(台湾)との共同研究の成果	A	順調

	の色や形状・肌合いなどを正確かつ詳細に再現し、公開することを目指して、調査・研究を行う。	として『孫過庭書譜光学検測報告』の成果報告書を刊行した。他機関との共同調査研究として宮内庁三の丸尚蔵館と「春日権現験記絵巻」「動植彩絵」の調査撮影を、奈良国立博物館との共同調査研究として「春日権現験記絵巻披見台」および「法隆寺金堂釈迦三尊ならびに薬師如来台座羽目板」の調査・撮影を行った。		
4225-00	② 可搬型蛍光X線分析装置による彩色文化財の材質調査を推進するとともに、有機染料分析のための光学的調査方法の基礎的検討を行う。また、文化財の材質構造に関する調査・助言を行う。	**② 文化財の非破壊調査法の研究** 非破壊調査手法に関して実験室規模での基礎的研究を推進するとともに、ポータブル蛍光X線分析装置や反射スペクトル測定システムなどを用いて博物館・美術館等の所蔵作品の彩色材料調査を実施した。	A	順調
4235-10	③ 遺跡調査における新たな指標や属性分析法の確立に関する研究等を行い、全国における遺跡調査・研究の質的向上と発掘作業の効率化に資する。 ア 官衙関連遺跡の指標や属性分析法の確立に関する研究等を継続し、資料収集とデータベース化を進めて順次一般公開するとともに、新たに寺院遺跡発掘調査において抽出すべき基本的属性についてのデータ収集と分析をおこなう。	**③ーア 遺跡データベースの作成と公開** 官衙関係遺跡の建物データについて、建物群の性格などの属性項目を新設し、柱穴の形状・柱筋の通り具合の属性を数値化する方法を検討し、データベースの更新及び公開を行った。また、寺院遺跡の属性分析を踏まえたデータベースを新規に作成し、九州から中国地方の一部までのデータベースを公開した。	A	順調
4235-10	イ 遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法を研究し、全国の遺跡調査の質的向上と発掘作業の効率化に資するべく、機器の更新と実地テストを通じたデータの収集と分析を継続する。	**③ーイ 遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法の研究** 遺跡の測量・探査技術の向上と有効利用法の研究を推進し、大学・自治体と連携して実践を行った。測量では、三次元レーザスキャナ及び写真測量の技術的検討と実践を行い、石造物や考古資料の図化法の検討や摩滅資料の判読、安価で導入可能な機器の試験を実施した。探査では、GPR の走査方法の改善と新たな機器の試作と試行、GPS による位置精度向上実験を行い、柱穴の確認に成功した。	A	順調
4245-00	④ 遺跡出土木材、木造建築物、木造美術工芸品などの年輪年代測定を実施し、考古学、建築史学、美術史、歴史学研究に資する。とりわけ、当研究所で開発したマイクロフォーカスX線CTやデジタル画像による非破壊年輪年代測定法は、非破壊を原則とする文化財調査にとって理想的なので、実施事例の拡充を図る。また、年輪画像計測技術のさらなる進歩と普及を目指し、技術開発についても取り組む。	**④ 年輪年代学研究** 3府県下8遺跡から出土した考古学関連の木材試料、国宝1棟・重文3棟を含む7府県下8棟の建造物、国宝1点を含む7府県下の15躯の木彫像並びに1点の工芸品、2府県下2点の歴史資料に対して年輪年代調査を実施した。また、年輪のデジタル画像計測に関する技術開発に取り組み、特許取得を果たした。以上の研究成果の一部を、論文等8件、学会発表等9件として発表した。	S	順調
4255-00	⑤ 動植物遺存体による環境考古学的研究の継続を行う。また、各種計測機器、マイクロスコープを活用して実験品や出土骨に残る加工痕の観察方法を確立し、骨角器製作技術の研究を推進する。さらに中国、韓国、台湾や、北米北西海岸の日本の先史時代の動植物利用と対比できる遺跡の発掘に積極的に参加し、これまで国内の遺跡で開発してきた微細遺物選別法の実践を行い、環太平洋世界の中での農耕・牧畜の起源や動植物利用に関する比較研究を行う。	**⑤ 遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究** 国内外の学会、研究会において、これまでの環境考古学、特に貝塚、湿地遺跡、動物利用などの研究成果を発表し、研究交流を深めた。また、19年度から継続してきた奈良県橿原遺跡、佐賀県東名遺跡群などの分析を行い、発掘報告書を執筆した。	A	順調

(3)　科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進

【中期目標】国や地方公共団体の要請に応じて、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急性の高い文化財の保存・修復に係る実践的な調査及び研究を実施すること。

【中期計画】

(3)科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進

最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査及び研究として以下の課題に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。

①生物被害を受けやすい木質文化財（社寺等建造物、彫刻など）の劣化診断や被害防止対策を確立する。

②環境の調査手法、モデル実験やシミュレーション技術を用いた環境の解析手法の確立のための研究及び実践を行い、文化財を取り巻く保存環境の現状を把握し、改善することに資する。

③屋外文化財の保存・修復の手法を確立する。また、文化財の防災についてその予防と被災後の情報収集を行い、文化財防災のネットワーク化の一層の推進を図る。

④考古資料の材質・構造の調査法に関して、特にレーザーラマン分光分析法や高エネルギーＸ線ＣＴ・ＣＲ法の実用化を図る。また、考古資料の保存・修復に関する実践的な研究を実施する。

⑤伝統的修復材料や合成樹脂などの物性、製作技法、利用技法に関する調査・研究をもとに、修復材料・技法の評価及び開発を行う。また、海外の文化財保存担当者を対象に、日本の修復材料の使用法や修理技術に関する研修等を行い本国での基本的な作品の取り扱いや保存処理に反映させる。

⑥近代の文化遺産に特徴的な鉄、コンクリート、プラスティックなどの複合素材及び技法について国際共同研究を実施し、その成果をもとに国内所在の近代文化遺産の保存・修復に関する手法を開発する。

【主な計画上の評価指標】

○

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
4315-00	**(3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する先端的調査研究等の推進** 最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査及び研究として以下の課題に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。 ① 生物被害を受けやすい木質文化財（寺社等建造物、彫刻など）の劣化診断や被害防止対策の確立のため、調査研究を行う。平成 22 年度に報告書を刊行する。	**① 文化財の生物劣化対策の研究** 歴史的建造物での生物被害状況調査では、日光輪王寺本堂の虫害を調査した結果、オオナガシバンムシによる被害であることが明らかになった。また、部材内部の状況を調べるために、レジストグラフやＣＴなどの手法を用いて、調査を行い、部分解体修理による調査の一助となった。また、調査手法および歴史的建造物などの維持管理をテーマとする研究会を開催し、今後取り組むべき問題点を明らかにした。	A	順調
4325-00	② 環境の調査手法、モデル実験やシミュレーション技術を用いた環境の解析手法の確立のための研究及び実践を行う。平成 22 年度に報告書を刊行する	**②文化財の保存環境の研究** 文化財施設内の温湿度解析の対象として、静岡県立美術館のロダン館を選択し、熱・換気回路網計算プログラムを用いて温湿度解析を行った。空気汚染物質への対策研究としては、これまでの成果を学会等で報告すると共に、「文化財の保存環境を考慮した博物館の省エネ化」というテーマで研究会を開催した。	A	順調

4335-00	③　韓国と日本国内の石造・木質文化財調査を行い、磨崖仏などの劣化要因究明及び修復材料・技術の開発を日韓共同で行う。文化財防災情報システムから地震や台風など過去の災害を対象に調査を行う。また、システムを活用して防災体制の整備に役立てる。 さらに大形塑像等の防災体制について基礎的調査を開始する。	**③－1 周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究** 石造文化財や木造建造物など屋外に位置する文化財について周辺環境の観測を行った。また、その結果に基づいて劣化要因を解明し、周辺環境の影響を軽減する方法および修復材料・技法の開発・評価を行った。詳細には、(1) 臼杵磨崖仏・熊野磨崖仏における劣化要因調査、凍結防止策やクリーニング手法の検討、(2) 木造建造物の腐朽菌や藍藻類の生息分布と周辺環境の調査、(3) 大韓民国・国立文化財研究所との共同調査、共同研究発表会の実施を行った。	A	順調
4335-01		**③－2 文化財の防災計画に関する調査研究** 平成 20 年度は、(1) 地理情報システム（GIS）に基づいた文化財防災情報システムの改良：史跡や重伝建地区などの平面情報について入力が可能となるようにした。(2) 平成 19 年に発生した能登半島地震および新潟県中越沖地震により被災した文化財について、1 年経過後の保存修復状況の現地調査を実施した。(3) 東大寺法華堂安置仏像群および塑像四天王立像（戒壇堂所在）の耐震対策を講ずるための基礎的調査を開始した。	A	順調
4345-00	④　考古資料の材質・構造の調査法に関して、特にレーザーラマン分光分析法や高エネルギーＸ線ＣＴ・ＣＲ法の実用化を図る。また、考古資料の保存・修復に関する実践的な研究を実施する。 ア　考古遺物の完全非破壊非接触分析法としてのレーザーラマン分光法の応用をめざし、標準試料および考古遺物のラマンスペクトルの収集蓄積ならびにデータベースの構築を継続するとともに、短波長レーザーの応用可能性の検討をおこなう。 イ　高エネルギーＸ線ＣＴ法およびＸ線ＣＲ法を応用し、考古遺物の内部構造ならびに材質推定法の基礎的研究をおこなう。 ウ　繊維製遺物や漆製遺物などの有機質遺物の分析法の実用化とデータベース作成をおこなう。 エ　木製遺物に対する超臨界溶媒乾燥法の基礎的研究と実用化をめざし、強化含浸薬剤の検討ならびに乾燥条件の基礎データの集積と検討をおこなう。 オ　遺跡および遺物の保存修復の現状と課題を広く検討するため、保存科学研究集会を開催する。	**④ 考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究** 1) ガラス製品のレーザーラマン分光分析に関する文献を収集し、標準試料のスペクトルを集積した。 2) 鉄製品に付着する繊維痕跡を XCR 撮影することにより、その製作技法を明らかにした。 3) 漆製遺物の分析において、有機溶剤への溶解性を利用した新たな分析手法を確立した。 4) リグノフェノール含浸処理後に超臨界溶媒乾燥を行う処理においてスケールアップを図った。 5) 遺跡整備研究室と合同で「埋蔵文化財の露出展示における成果と課題」の研究集会を開催した。	A	順調
4355-00	⑤　文化財修復材料の現地調査及び自然科学的な分析などを行う。文化財などの修復に使用された合成樹脂の劣化状態を調査する。また海外の文化財保存担当者を対象に、和紙についての材料学・修復・装こうなどの講義と、クリーニングや装丁などの実技を行い、基礎的な知識を教授する。在外の日本古美術品を対象に事前調査及び修復を行い、修復後、展示活用する。さらに、専門家を現地に派遣して修復を行う。	**⑤－1 伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究** 建造物などに使用する漆塗装の耐候性向上に向けた基礎実験を継続するとともに、漆工品生産に関する伝統技術の調査を行い、その内容を報告書に掲載した。また、紙に関しては、基礎データの集積と整理作業を行い、その内容も報告書に掲載した。また、本研究所が携わった修復事業のうち研究所が所蔵する資料の目録作成化作業を継続し、	A	順調

		ネガフィルムなどの資料に関しては、デジタルデータ化も継続した。また第 2 回伝統的修復材料及び合成樹脂に関する研究会を開催してのべ 107 名の出席を得た。		
4355-01		**⑤−2 国際研修「紙の保存と修復」** 2008 年 9 月 8 日～26 日の期間で 10 カ国から 10 名を迎え入れて研修を行った。2 時間を 1 コマとし、講義 4 コマ、実習 19 コマ行った。紙本文化財の修復理念、材料学の講義を行った。実習では、掛軸修復、和綴じ冊子製作、屏風・掛け軸の取扱などを行った。またスタディーツアーでは美濃を訪れ、和紙の原料・製造から流通までを和紙産地の歴史とともに学習した。また、日本の修復工房を訪れ現状を視察した。また報告書を作製した。	A	順調
4355-02		**⑤−3 在外日本古美術品保存修復協力事業** 平成 20 年度は、10 館 10 点の作品（絵画 5 点、工芸品 5 点）を修復した。うち 1 点(工芸品 1 点が 19 年度からの継続、2 点（絵画 1 点、工芸品 1 点）を海外で修復した。工芸品の事前調査はチェコ外務省、チェコ国立美術館、国立ナープルステク博物館、デンマーク国立博物館などヨーロッパで 8 館 21 点の調査を行った。また、平成 19 年度に修復した絵画、工芸品の修理状況をまとめて「在外日本古美術品保存修復協力事業」の報告書を刊行した。	A	順調
4365-00	⑥ ドイツ技術博物館との共同研究に関する打ち合わせ及び欧米での修復事例調査を行う。船の科学館・手宮機関車庫などでの劣化調査、かがみがはら航空宇宙科学博物館・大樹町航空宇宙実験施設などでの測定データの回収と評価、日本航空協会所蔵の青焼き図面の劣化調査と資料収集を行い、再発色に関する研究を進める。	**⑥ 近代の文化遺産の保存修復に関する研究** 今年度は近代化遺産の利活用をテーマとして研究を行った。鉄構造物の保存に関する関係者を招き、研究会を開催しそれぞれの立場から鉄構造物の保存と活用に関する発表を行った。また、設計図面などに多く使われている青図の再発色に関する研究も実施した。屋外展示されている鉄道車両や航空機などの文化財の防錆対策のため、試験片を使った屋外暴露試験にて、塗装仕様と劣化速度の相関についても検討している。昨年度の研究会をまとめた報告書も刊行した。	A	順調

(4) 国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施

【中期目標】 ------

【中期計画】	**【主な計画上の評価指標】**
(4) 高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業など、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。	○

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
4415-00	**(4)　我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。** ①　文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。 ②　国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存活用に関して技術的に協力する。	**①−1 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力** キトラ古墳では、4 月に月像を剥ぎ取り、11 月にはすべての天文図の剥ぎ取りを完了して天井無地部分の剥ぎ取りに着手し、北壁の一部も剥ぎ取った。石室内の点検及びカビ処置も定期的に行った。また、石室内微生物調査および環境調査は継続して行った。高松塚古墳では、壁画の状態記録のため損傷図面を作成した。また、壁画の処置方法について模擬壁にてテストを行いバイオフィルムによる汚れのクリーニング方法などを確立した。	A	順調
4415-01		**①−2 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力** 高松塚古墳石室解体にともなうフォトマップ作製の手順、及び方法を取りまとめた『高松塚古墳壁画フォトマップ資料』の出版。フォトマップを基にしたブルーレイハイビジョンディスク動画に対する、英語・中国語・韓国語版のナレーションを追加し、『高松塚古墳壁画フォトマップ資料』に添付して、高松塚古墳壁画の理解の深化、公開・普及に努めた。	A	順調

(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

【中期目標】有形文化財の収集・保管・公衆の観覧等に必要な調査研究を計画的に実施すること。

【中期計画】

(5)　有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究を実施し、その保存と活用を推進することにより、次世代への継承及び我が国文化の向上に寄与する。

①収集・保管に関する研究を実施し、有形文化財の保存に寄与する。

ⅰ 保存環境の調査研究等を実施することにより、収蔵品の保存環境の向上を図る。

ⅱ 日本の文化財及び日本の文化に影響を与えた東洋諸地域を中心に東洋全般にわたる各国固有の文化財の調査研究を実施する。

ⅲ 収蔵品の調査研究を重視し、特に重要な項目については特別調査を実施する。また、特別展及び海外展実施に向けた事前調査を実施する。

ⅳ トータルケアシステム構築に向けた応用研究を実施し、有形文化財の恒久的保存と持続的公開を具現化する。

ⅴ 修復文化財に関する調査研究を実施し、補修紙製作、剥落止め等修復方針決定に寄与する。

ⅵ 収蔵品について、科学的分析に基づく保存・修復に関する調査研究を実施し、文化財の適切な保存・展示・活用に反映させる。

②公衆への観覧を図るための研究を実施し、有形文化財の活用に寄与する。

ⅰ 有形文化財の展示デザインシステムを構築するための応用研究を実施する。

ⅱ 博物館情報学を構築するための研究を実施する。

【主な計画上の評価指標】

○

iii 博物館教育理論の構築に関する研究を実施し、有形文化財理解の推進に寄与する。
iv 京都文化を中心にした文化財の調査研究を実施し、展示することにより、国民の文化財保存に対する意識の高揚に寄与する。
v 平安仏教とその造形に関する調査研究を実施し、展示することにより、国民の文化財保存に対する意識の高揚に寄与する。
vi 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究を実施し、展覧会の活性化に反映させる。
vii 我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究を実施し、仏教美術の解説の充実を図る。
viii 仏教美術の光学的調査研究を実施し、作品の材料・技術の解明に寄与する。
ix 日本とアジア諸国との文化交流に関する文化財の調査研究を実施し、これらの文化財の収集・保管・展示、教育普及事業等を展開する。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
4511-01	(5) 有形文化財に係る調査研究 ① 収集・保管のための調査研究の実施 競争的資金の獲得に努めつつ、収蔵・寄託する文化財に関する研究、保存・展示環境の改善に関する研究を進めるとともに、次の研究課題に重点的に取り組む。 (東京国立博物館) 1) 特別調査法隆寺献納宝物(第28次)「聖徳太子絵伝」第3回	**1) 特別調査法隆寺献納宝物(第30次)「聖徳太子絵伝」第4回** **(12) 法隆寺献納宝物聖徳太子絵伝の調査研究(科学研究費補助金)と同時に実施)** 本太子絵伝の本紙(画絹)は、平絹のほか、立涌文様の綾が使用されていたことが知られていたが、今回の調査によって新たに花菱文様の綾布があることがわかった。また、図様については天明6年、吉村周圭によって描かれた現舎利殿壁面のいわゆる天明模本から推測することが多かったが、今回は現本を精査することによって、各図様の内容についても明らかになった。	A	順調
4511-02	2) 特別調査「書跡」第5回(17年度写経1回、18年度写経2回実施、19年度古文書1回、20年度古文書1回)	**2) 特別調査「書跡」第5回,第6回** 収蔵古文書のうち、徳川斉昭筆とされる鉛筆書きの書簡について、他機関収蔵の書状と比較して筆跡を検討した結果、紛れもなく斉昭自筆であることが判明した。鉛筆を利用した書状・書付類は幕末に輸入され明治期に入って普及することになるが、幕末と推定される本書簡も時代相を反映したもので貴重である。	A	順調
4511-03	3) 特別調査金地屏風の金箔地についての調査研究―尾形光琳風神雷神屏風を中心に	**3) 特別調査金地屏風の金箔地についての調査研究―尾形光琳風神雷神屏風を中心に** 当館収蔵の尾形光琳筆「風神雷神図屏風」を対象として、蛍光エックス線と実体顕微鏡による分析調査を行ない、データの集積を進めた。	B	ほぼ順調
4511-04	4) 応挙館障壁画の復元に関する調査研究(今年度は、主に修理未了(まくりの壁画)の障壁画について検討)	**4) 応挙館障壁画の復元に関する調査研究(今年度は、主に修理未了(まくりの壁画)の障壁画について検討)** 現在まくりの状態で保管されている壁画の現状を調査検討し、その概要を把握することで、適切な修理方法を決定するための重要な参考資料を得ることができた。	A	順調
4511-05	5) 館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究	**5) 館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究** ・江戸時代末から明治時代前期の洋書のうち、歴史的意義の深いものについて、調査を行った。 ・前年度に調査を行ったオランダ語書籍を中心に、特集陳列を企画して展示するとともに、学術的意義を紹介したパンフレットを作成、配布した。	A	順調

4511-06	6) ガンダーラの仏教寺院の伽藍配置と遺物に関する研究（今年度は報告書の執筆）	**6) ガンダーラの仏教寺院の伽藍配置と遺物に関する研究** 1995～99 年に実施したザールデリー遺跡の発掘調査の一部を「Zar Dheri: A Buddhist Temple in Hazara Division, Pakistan」、「The finds from Zar Dheri」として発表した。 また、同遺跡の発掘調査報告書を現在準備中である。さらに、本遺跡の遺物を中心とした特別展を米国において開催する計画をパキスタン考古局などと検討中である。	A	ほぼ順調
4511-07	7) 博物館の環境保存に関する研究	**7) 博物館の環境保存に関する研究** 館内の展示ケースで発見された紙魚に端を発し、全館的な駆除を緊急かつ段階的に実施することができた。緊急性と周辺への影響を考慮しつつ 1）紙魚を発見した展示ケースおよび展示室の薫蒸、2）講堂およびロビーなどの周辺施設の清掃・薫蒸、3）特別展示室全域の清掃･薫蒸、4）考古展示室の清掃･薫蒸、5）全館的な清掃を段階的に施工し、緊急の防虫対策とした。	A	順調
4511-08	8) 東洋民族資料に関する調査研究	**8) 東洋民族資料に関する調査研究** 当館所蔵の東洋民族資料に対する総合的な調査を通して、主に 3 つの成果があった。①箱書きや付札の内容などを含む総合的なデータベースの作成により、研究・展示・保存などに必要な基礎情報が従来よりも一層充実した形で整備された。②保存状態も記録したことにより、脆弱な材質でできた資料や劣化しつつある資料のより安全な保管、および遊離していた部分の本体への接合に寄与した。③とくに南太平洋の資料について、民族誌や最新の研究成果と照合することで、過去の台帳の記載内容を補足、修正することができた。	A	順調
4511-09	9) 耐震性の高い展示手法に関する研究	**9) 耐震性の高い展示手法に関する調査研究** 特別展覧会(「国宝　薬師寺展」「福沢諭吉展」「妙心寺展」)において展示デザインの立案段階から参画し、地震発生時に転倒、落下が生じて損傷を受ける危険性の高い文化財を安全に陳列する手法を提案し、実現化した。 「文化財建造物等の地震対策に関する日中専門家ワークショップ」(文化庁主催、於中国四川省成都市)に参加し当館の活動を報告するとともに、中国国内の地震対策の現状に関する情報収集を行った。	A	順調
4511-10	10）大型油彩画のロール状保存と木枠に張り込まない展示手法法の開発に関する調査研究	**10) 大型油彩画のロール状保存と木枠に張り込まない展示手法の開発に関する調査研究** 京都工芸繊維大学工芸資料館所蔵および京都川島織物資料館所蔵の「武士の山狩」に関する下絵、織見本などの調査を通じ、作品の成立に関する基礎的な情報の収集を行った。また、紙製太巻き軸の開発から得られた方法論が油彩画のロール状保存にも有効であることが確認できた。	A	順調
4511-11	11）韓国国立中央博物館所蔵の高麗漆器の保存に関する国際共同研究（韓国国立中央博物館）	**11) 韓国国立中央博物館所蔵の高麗漆器の保存に関する国際共同研究** 数百の小片に分かれた断片の詳細な観察を通じて、各小片の位置、箱の形状及び寸法、木地及び塗膜の構造、顔料の種類、螺鈿・描金の組成などについて多数の知	A	順調

		見を得ることができた。		
4511-12	12）「法隆寺献納宝物聖徳太子絵伝の調査研究」（科学研究費補助金・平成 17 年度～20 年度）	12） 1)参照		
4511-13	13）日本における木彫像の樹種と用材観に関する調査研究（科学研究費補助　金）	**13） 日本における木彫像の樹種と用材観に関する調査研究（科学研究費補助金）** 今年度は岐阜県の神社三ヵ所に所蔵される神像を調査し、美術史的基礎データ、写真データ、樹種の科学的識別のための木片資料の収集を実施した。韓国では木彫像を見学し、国立中央博物館の研究員と調査を実施する方法について協議した。	A	順調
4511-14	14）書画料紙の加工法及び保存に関する基礎的研究（科学研究費補助金）	**14） 書画料紙の加工法及び保存に関する基礎的研究（科学研究費補助金）** 東京国立博物館・陽明文庫・大阪市立美術館などに収蔵されている作品で、装飾料紙を用いた写経・古筆・典籍を中心に、一部古文書なども含め、展示履歴などによって把握できる情報をもとに、調査対象となる作品のリスト作成と調査対象の絞り込みを行った。今年度の主な調査対象は、写経と古筆であり、作成したリストをもとにデジタル写真撮影と、作品の筆跡および料紙に関する基礎調査を実施した。また、入木道関係の古文献資料のデジタル化を行った。	A	順調
4511-15	15）目録学の構築と古典学の再生（科学研究費基盤Ｓ。研究代表者：田島公 東大教授。平成 19-23 年度）	**15） 目録学の構築と古典学の再生（科学研究費補助金）** 1　明治時代に館蔵となった菊亭家（今出川家）旧蔵の古典籍類について、前年度に引き続き調査を行い、詳細な目録を作成した。 2　館蔵の歴史資料を精査し、特に公家文化の実態を示す画像資料の残存状況を確認した。これらについては、次年度以降詳細な調査やデジタル画像作成を計画している。	A	順調
4511-16	16）国立博物館の機能と役割の変遷に関する基礎的研究　－館史資料の分析を中心に－（科学研究費補助金）	**16） 国立博物館の機能と役割の変遷に関する基礎的研究－館史資料の分析を中心に－（科学研究費補助金）** 東京国立博物館が保管している、列品録、列品台帳、収蔵品目録、東京国立博物館刊行物を中心に、館蔵品の収蔵にかかわる経緯等の調査を実施した。また、収蔵作品の調査を実施した。	A	順調
4511-17		**17） 博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究（科学研究費補助金）** これまでに集積した各種のデータを博物館の空間と関連付けて保存・検索できるデータ活用システムの構築に着手した。具体的には、1）作品の状態に関わる保存カルテ、貸与点検調書、修理報告書、2）作品の組成に関わる X 線透過写真、蛍光 X 線分析データ、顕微鏡写真、3）作品を保管・展示する環境に関わる温湿度、生物生息、空気環境、4）作品や関連資材の所在情報のデータベース化である。	A	順調
4511-18		**18） 東京国立博物館所蔵・正倉院関係資料の研究（科学研究費補助金）** 東博が所蔵する正倉院裂の全体の約 8 割の写真撮影を行なった。写真撮影はデジタルカメラで行ない、全体と一部の作品については拡大画像を撮影している。また、正倉院関係資料の調査も行なった。東博所蔵の資料のデータ収集と、奈良博が所蔵	A	順調

		する関係資料のデータを収集した。		
4511-19		**19)　東京国立博物館所蔵写真資料データベース（科学研究費補助金）** 『東京国立博物館所蔵幕末明治期写真目録』の刊行により、鶏卵紙による主要な写真の公開は行われているが、この目録には収録されておらず、貴重でありながらほとんど知れることのなかった写真を整理し、公開することができた。その中で小川一真撮影による「北京城写真」の公開では「紫禁城写真展」（東京都写真美術館・平成 20 年 3 月 29 日～5 月 18 日）の開催にあたり、大きな役割を果たした。	A	順調
4511-20		**20)　東京国立博物館所蔵古文書データベース（科学研究費補助金）** B-1253 土佐家文書　全 10 巻についての上記事業概要で記した調査の実施とデータベース化 B-1721 諸寺院文書　全 2 巻についての上記事業概要で記した調査の実施とデータベース化 B-2060 香宗我部文書　全 6 巻についての上記事業概要で記した調査の実施とデータベース化	A	順調
4511-21		**21)　大航海時代以降の東西交流が中国・日本の陶磁器に与えた影響について** 平成 20 年 9 月 9 日～10 月 19 日　東京国立博物館　特集陳列「茶人好みのデザイン～彦根更紗と景徳鎮」　開催 平成 20 年 9 月 20 日　東京国立博物館月例講演会　三館（五島美術館・大倉集古館）合同企画「更紗を語る」　開催 平成 20 年 11 月 29 日　茶の湯文化学会　東京例会発表「特集陳列　茶人好みのデザイン～彦根更紗と景徳鎮を振り返って一茶陶としての明の五彩・染付の位置づけを考える一」 平成 20 年 12 月 13・14 日　愛知県陶磁資料館シンポジウム「海のシルクロードとアジア」出席 平成 20 年 1 月 23 日・24 日　京都国立博物館・大阪市立東洋陶磁美術館にて作品調査	A	順調
4511-22		**22)　平成 21 年度　特集陳列「趙之謙」に関する調査研究** 北京故宮博物院、京都国立博物館、大阪市立美術館所蔵の趙之謙および関連作品の調査を行った。国内の個人が所蔵する一部の作品についても、出品の承諾を得た。関連資料を収集し、趙之謙の事跡をまとめ、年表に整理した。また未発表の趙之謙尺牘を調査、その内容を読み進めている。	A	順調
4511-23		**23)　明治時代の宝物調査における写真資料に関する調査―横山松三郎、小川一真、早崎梗吉、安村喜当の事跡を中心に―** 北京と西安で現地調査を行い、宝物調査で撮影された写真資料と対照できる画像を撮影した。また、早崎梗吉が同行した調査では、写真の受け入れ経緯をたどる過程で、館蔵品に同宝物調査で蒐集された拓本資料があることが明らかとなったこと	A	順調

		は大きな成果であった。		
4511-24		**24)　朝鮮王朝時代の工芸作品に関する調査、研究** 2008 年秋、10 日間、研修のため韓国ソウルへ赴き、朝鮮王朝時代の皇帝・后妃の衣裳に関する研究史・同時代の建築史・絵画史・科学史等の講義を受けた。また、現地において当館の展示・研究に活用するための書籍を購入した。列品の調査については、日本女子大学の鄭銀志氏を招聘し、主に染織品の制作年代や造形的な特徴、関連する研究書・論文等について具体的な教示を受けた。	A	順調
4511-25		**25)　中国宋時代の越州窯青磁が、その後の青磁生産の展開、中国国内の生活文化に与えた影響についての調査** 諸事情により、中国における調査は変更、延期せざるを得なかったが、博多から出土した越州窯青磁、およびその周辺窯に位置づけられる青磁と、国内の博物館・美術館に所蔵されている完形の越州窯青磁の調査を行うことができた。 さらに、宋時代の越州窯の動向を考えるうえで欠かすことのできない、唐宋時代の金属器、漆器および龍泉窯青磁等の作品の調査も行うことができた。	A	順調
4511-26		**26)　金沢北条氏領下総国下河辺庄の総合的研究** 室町から江戸時代(15～17 世紀)にかけての下総国下河辺庄の支配に関連する古文書・古記録など文献資料の収集。特に在地領主戸張氏にかかわる古文書の収集・確認。	A	順調
4511-27		**27)　歴史資料調査** 当館で所蔵する歴史資料のうち、P1～570 番台までの上記調査の実施。P500 番までの当館列品への編入完了。特に書家市河米庵の拓本類は市河寛斎・米庵父子によって収集されたことが判明し、また短期間に全国的な古碑等の採拓作業が展開されていた事実が、採拓年代の検討により浮かび上がってきた。ここに市河父子の背景に存在した全国に影響を及ぼし得る有力者による支援活動が推測されるに至った。	A	順調
4511-28		**28)　有形文化財に係る調査研究** 館蔵品・寄託品・それらの関連品および今後収集・展示の対象となりうる文化財と、その周辺領域に関して、美術史・考古学・博物館学の各見地から学会・研究会・学術雑誌上で各種の発表をした。	A	順調
4512-01	（京都国立博物館） 1)　近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究	**1)　近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究** 禅林寺にて行った今回の調査では、応永九年の銘を持つ銅製の花瓶が、すでに当館に寄託されている個人蔵の物と対であったことが判明したことや、また未指定の仏涅槃図が、重要文化財に指定されているものより時代的にさかのぼる優品であること、また近世末期から近代にかけて原派の手になる歴代門主の肖像画が多く伝存しており近世画壇の一端を知ることができたことなどの成果を得た。	A	順調

4512-02	2) 平安仏教とその造形に関する調査研究	**2) 平安仏教とその造形に関する調査研究** 「摂関期にみる美術の諸相」という研究発表と座談会を開催し、その報告書を刊行した。	A	達成
4512-03	3) 日本における木の造形的表現とその文化的背景に関する総合的考察（科学研究費補助金）	**3) 日本における木の造形的表現とその文化的背景に関する総合的考察（科学研究費補助金）** 平成 19 年度に調査を行なった八坂神社随神像についての調査報告を当館発行の『学叢』第 30 号（平成 20 年 5 月発行）に発表した。香川県与田寺の不動明王立像に関して三次元計測を行ない、当初の首の向きを復元的に考察した。浜松市の黄檗寺院、大雄寺と宝林寺において予備調査を行ない、黄檗宗本山の萬福寺にも無い、貴重な初期史料が伝存することがわかった。	A	順調
4512-04	4) 建仁寺両足院に所蔵される五山文学関係典籍類の調査研究（科学研究費補助金）	**4) 建仁寺両足院に所蔵される五山文学関係典籍類の調査研究（科学研究費補助金）** 都合 4 回の調査を実施し、全体 180 箱のうち、第 101 箱から第 140 箱までの調査をほぼ終了している。	A	達成
4512-05	5) 修復文化財に関する資料収集及び調査研究	**5) 修復文化財に関する資料収集及び調査研究** 平成 20 年度に新規搬入された作品の「修理計画書（設計書）」にもとづき、データを入力し、平成 19 年度に完成、搬出した作品については、各工房より提出された「修理解説書（報告書）」にもとづき、データを追加、更新した。また、平成十四・五年度に修理が完成した作品に関する報告を『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告』第 4 号に掲載した。また、修理時に発見された銘文 6 件を「銘文集成」として報告した。	A	順調
4512-06	6) 等伯に関する調査研究（客員研究員）	**6) 等伯に関する調査研究（客員研究員）** 長谷川等伯展に出品する候補作品のうちのおよそ半数を調査し、新たな視点からの検討を加えた。その中には新発見の作品も含まれている。その成果は当該年度発行の当館研究紀要に掲載予定である。	A	順調
4512-07	7) 近世絵画に関する調査研究（客員研究員）	**7) 近世絵画に関する調査研究（客員研究員）** 京都を中心とした近世絵画に関する作家研究、作品研究については、着々と研究が進んでいる。特別展覧会「絵画の冒険者 暁斎 Kyosai」は予想以上の反響を呼んだが、準備期間における節目節目での客員研究員の監修・アドバイスは、きわめて有効・適切なものであり、連携協力室長および客員研究員の有機的な連携が功を奏して、展示計画・図録作成をはじめ同展のさまざまな内容充実を実現、結果、同展成功に結びついた。	A	順調
4512-08	8) 文化財情報に関する調査研究（客員研究員）	**8) 文化財情報に関する調査研究（客員研究員）** ほぼ各月ごとに研究打合会を実施し、これに基づいてシステム全体における問題点を抽出し、その見直しや改良を行った。	A	達成
4512-09	9) 訓点資料としての典籍に関する調査研究（客員研究員）	**9) 訓点資料としての典籍に関する調査研究（客員研究員）** 平安時代の古写経の訓点については、その成果の一部を仏教美術研究上野記念財	A	達成

		団のシンポジウムで研究発表を行った（宇都宮氏）。加えて当館に保管されている漢籍のうち、世説新書や玉篇、及びそれらの紙背聖教に付された訓点の調査を行った。		
4512-10	10）彫刻に関する調査研究（客員研究員）	**10）彫刻に関する調査研究** 特別展覧会「妙心寺」展出品の棄丸坐像に関して研究を進めたところ、新たな事実が判明し、その成果を同展目録に「ふたつの棄丸像―天正十九年の豊臣秀吉―」と題して発表した。また、平成十九年度に開催した特別展覧会「藤原道長」出品作である即成院観音菩薩像に関し、開催時の調査で得られた成果を『鳳翔学叢』第5号（平成二十一年三月発行）に論文として発表した。	A	順調
4512-11		**11）西域出土文献に関する調査研究** サンクトペテルブルグにあるロシア科学アカデミー東洋写本研究所所蔵の東洋写本コレクションの調査を実施した。	A	達成
4512-12		**12）中・近世の金属工芸品の製作と受用にみる江南、嶺・湖南、瀬戸内の地域特質と相互文化認識、交流媒体の研究（トヨタ財団研究助成）** 中国・韓国の博物館、大学などが所蔵する銅器の共同調査を、現地の分担者と進めた。その結果、これまで日本でほとんど紹介されてこなかった銅器類の情報を多く得ることができ、また分担者や所蔵館の研究者との議論を通して、相互の問題意識を高めることができた。日本国内に所在する銅器類とその関連資料・絵画・文献等についても、個別調査を各分担者で進めた。さらに国内分担者が参加して研究会を行い、問題意識の共有と情報交換を行った。	A	順調
4512-13		**13）宸翰（天皇の書）の歴史学的見地からみた調査・研究** 調査に基づく研究成果としては、「妙心寺本坊、塔頭に所蔵されている文化財の調査研究」（(5)-②-ⅳ）との関係で、当館の所蔵する重要文化財「花園天皇宸翰消息　1幅」の資料としての位置づけを明らかにし、論文を発表した。関係資料の館外調査では、これまで展示に供されたことのない重要文化財「後伏見天皇宸翰御消息　1巻」（個人蔵）を精査する機会を得、本事業の趣旨を披瀝したところ、これを新たに寄託品として加えることができた。	A	順調
4512-14		**14）瑞光寺ならびに建仁寺両足院所蔵陶磁の調査研究** のべ91件の伝世陶磁器の調書を作成し、伝世陶磁器研究ではこれまであまり注目されていなかった種類の中国陶磁をはじめとして、多数の寄託品候補を見いだすことができた。	A	順調
4513-01	（奈良国立博物館） 1）　南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等を実施	**1）　南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等を実施** 法隆寺、西国三十三所霊場及び関連文化財を蔵する諸寺、円教寺、金峯山寺、春日大社等への働きかけを行って所蔵文化財の調査を実施し、その成果を特別展・特別陳列に反映させるとともに、報道発表などを通して発信した。	A	順調
4513-02	2）　仏教美術の光学的調査研究（東京文化財研究所との共同研究）	**2）仏教美術の光学的調査研究（東京文化財研究所との共同研究）** 飛鳥時代の重要な絵画資料である釈迦三尊像台座・薬師如来坐像台座（法隆寺蔵）	A	順調

		の彩色画について、本格的な光学調査を実施し、彩色画の貴重な高精細画像及び基礎データを入手できた。さらに日本の絵巻を代表する作例である春日権現験記絵巻にかつて附属していた披見台についても、表面に描かれる金銀泥絵の高精細画像及び顔料成分データを入手することができ、中世仏教絵画史研究に貴重な基礎資料を提供することが可能となった。		
4513-03	3) 仏教美術写真収集及びその調査研究	**3) 仏教美術写真収集及びその調査研究** 館内外の貴重な文化財の撮影をおこない、カラーおよびモノクロ・フィルムを多数蓄積し、基本情報を整備することができた。これらは情報システムへ登録をおこなって検索利用を可能とし、さらに別途公開台紙を作成して一般の閲覧に供している。	A	順調
4513-04	4) 我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究	**4) 我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究** 学術交流協定を締結している中国・韓国の博物館との間で研究員の派遣・受け入れを行い、活発な研究交流・情報交換を行うことができた。また特別展開催の前提として行った、中国・朝鮮半島で制作された文物に対する調査研究の成果を、展示及び図録等に反映させることができた。	A	順調
4513-05	5) 当館所蔵品についての調査研究（客員研究員）	**5) 当館所蔵品についての調査研究（客員研究員）** 新収蔵品に対する調査研究を重点的に実施し、平常展での公開と併行して研究成果を広く発信することができた。従来からの収蔵品についても継続的に調査研究を行い、その成果を展示及び刊行物などに反映することができた。	A	順調
4513-06	6) 統一新羅期の道具瓦集成（科学研究費補助金）	**6) 統一新羅期の道具瓦集成（科学研究費補助金）** 昨年度から3ヵ年の計画で、韓国国内で最も多い所蔵資料数を誇る韓国国立慶州博物館（以下、慶州博）ほか、韓国国立中央博物館や東国大学校博物館などの所蔵資料を中心に、実測や写真撮影、熟覧を行い、資料化を進めている。	A	順調
4513-07	7) 古墳時代中期における対外交渉の特質と地域圏の形成・展開過程（科学研究費補助金）	**7) 古墳時代中期における対外交渉の特質と地域圏の形成・展開過程（科学研究費補助金）** 19 年度の作業に引き続き、五条猫塚古墳の出土品の実測図作成を推進した。さらに、これまでに蓄積したＸ線写真や図面の画像データをパソコンに取り込み、個々の遺物に関する法量や形態、出土位置などの基礎的項目をデータベースに入力し、これらに予備的な検討を行った。来年度以降の本格的な検討・比較研究に必要な基礎的作業を大幅に推進することができた。	A	順調
4514-01	（九州国立博物館） 1) 日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究	**1) 日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究** JICA の草の根技術協力事業で「文化財の保存と地域の活性化」をテーマにタイ王国芸術局国立博物館事務局と共同研究を行った。7/21～29 に研究員 3 名を派遣、日本での無形文化財と保存の取り組み、遺跡の市民共生等発表。9/25～10/16 バンコク国立博物館等の研究員 3 名を受入れ、文化財保存と平常展示、特別展示による活用、遺跡の保存と地域共生などについての研修を行った。この事業は 21 年度も	A	順調

		継続し、日本・タイの文化を比較する展覧会の開催を計画。		
4514-02	2) 文化財の材質・構造等に関する共同研究（客員研究員）	**2) 文化財の材質・構造等に関する共同研究** 平成 20 年度から泉屋博古館の所有する中国青銅器のコレクションについて、継続的な展示と X 線 CT ｽｷｬﾅを中心とする科学的な調査を実施することになった。科学的な調査結果と実物展示を通して広く観覧者に公開できる体制が整った。	A	順調
4514-03	3) 博物館における文化財保存修復に関する研究（客員研究員）	**3) 博物館における文化財保存修復に関する研究（客員研究員）** 吉備国際大学から 2 名、九州産業大学から 2 名、別府大学から 3 名の合計 7 名が参加した。少人数のため、実践的な研修が実施できた。	A	順調
4514-04	4) 彩色水浸文物の保存科学的研究　―中国江蘇省泗水王陵出土文物の保存―（科学研究費補助金）	**4) 彩色水浸文物の保存科学的研究　―中国江蘇省泗水王陵出土文物の保存―（科学研究費補助金）** インド・ニューデリー市で開催された国際博物館会議文化財保存部門 ICOM-CC（International Council of Museums）において、研究成果を発表した。また、中国南京博物院と共同で研究報告書を製作した。	A	順調
4514-05	5) ＶＲ画像を活用した日本装飾古墳デジタルアーカイブの構築（科学研究費補助金）	**5) ＶＲ画像を活用した日本装飾古墳デジタルアーカイブの構築（科学研究費補助金）** 今年度の研究では、装飾古墳のうち石室 2 基(日田市ガランドヤ 1・2 号墳)、横穴墓 4 基(山鹿市小原大塚横穴墓・山鹿市小原浦田横穴墓)を対象とした。その結果、本研究でデジタルアーカイブされた装飾古墳の総数は、石室 8 基・横穴墓 4 基で、福岡・大分・熊本県に亘った。特に横穴墓は前面が開放空間のため画像調整に困難が予測されたが、おおむね良好な成果を得た。また、装飾古墳撮影も、別府市鬼の岩屋 1・2 号墳で実施した。	A	順調
4514-06	6) 古代工芸の美術史・産業史・地域史の基礎資料としての内国勧業博覧会出品作品の研究（科学研究費補助金）	**6) 近代工芸の美術史・産業史・地域史の基礎資料としての内国勧業博覧会出品作品の研究（科学研究費補助金）** 第一回内国勧業博覧会、第二回内国勧業博覧会について、それぞれの出品写真帖のデータを文字・画像データベースを作成した。これに第二回内国勧業博覧会については帝国博物館購入品のデータベースと、それに対応し、現存する作品の画像データベースの作成を進めつつある。 内国勧業博覧会を紹介する絵画資料を収集しつつある。	A	順調
4514-07	7) 博物館危機管理としての市民協同型 IPM システム構築に向けての基礎研究（科学研究費補助金）	**7) 博物館危機管理としての市民協同型 IPM システム構築に向けての基礎研究（科学研究費補助金）** 博物館における IPM 体制維持のためのボランティア活動についてのプログラム作りができ、また、地元 NPO 法人の導入も順調にすすみ、直接参加型市民活動としての IPM による博物館危機管理システムの構築に向けての計画を着実に進めることができた。研究会の成果については、収録 DVD によりボランティア研修会等市民向けに活用、普及をはかっている。	A	順調
4514-08	8) 博物館におけるＸ線ＣＴスキャンデータの活用（科学研究費補助金）	**8) 博物館におけるＸ線ＣＴスキャンデータの活用（科学研究費補助金）** 本年度から、泉屋博古館の中国古代青銅器のコレクションを借用し調査を進めて	A	ほぼ順調

		いる。また、春日市の出土銅戈の調査を実施し、新たな成果を上げてきた。これらの成果については、日本文化財科学会にて発表した。		
4514-09	9) 古代東南アジアにおける三尊像図像の研究ータイ・ミャンマーの図像を中心にー（科学研究費補助金）	**9) 古代東南アジアにおける三尊像図像の研究ータイ・ミャンマーの図像を中心にー（科学研究費補助金）** 昨年度までの調査成果に加え、新たに収集した資料のデータ整理をファイルメーカで進めた。データ整理を通して三尊像図像とそれに付随する装飾文様の地域を越えた共通性が見えてきた。三尊像とそれに関連する図像全体についてもデータ化し比較検討を行った。	A	ほぼ順調
4514-10	10）超高精細大容量画像の安全・ダイナミック表示総合システムの開発（科学技術振興機構）	**10）超高精細大容量画像の安全・ダイナミック表示総合システムの開発（科学技術振興機構）** 伊能忠敬が作成した日本地図はすなわち伊能図副本の九州六箇国沿海地図の高精細デジタル化を実施した。9 億画素にもおよぶ高精細デジタルデータを斜光線・赤外線で取得して解析した。その結果、伊能図副本の特徴とされる針穴を明瞭に検出した。この結果を一般市民に公開すべく、来年度に向けて、スーパーハイビジョン（4000 本）の番組製作を計画中である。	A	順調
4514-11		**11） 近世初期日本絵画における粉本使用例の基礎調査（科学研究費補助金）** 昨年度までの調査成果に加え、新たに収集した資料のデータ整理とデータベース化を進めた。また東京国立博物館や東京藝術大学が所蔵する粉本調査や、粉本利用の明らかな「北野天神縁起絵巻」作品群の調査を遂行した。	A	順調
4514-12		**12）埴輪に認められる赤色顔料についての基礎的研究（科学研究費補助金）** 今年度は九州地方の教育委員会を中心に訪問し調査をおこない、調査資料は約 150 点となった。 埴輪に認められる赤色顔料は全てベンガラであったが、調査後、埴輪に使用されるベンガラに地域性が認められる見通しがついた。この地域性は墳墓で使われていたベンガラの地域性とも一致しているようである。	A	ほぼ順調
4514-13		**13） 被災した近現代歴史資料の救済のための簡便な真空凍結乾燥法の開発（科学研究費補助金）** 昨年度作製した簡便な真空凍結乾燥装置を用いて、歴史資料での応用を試みた。資料は、金沢文化財保存修復研究所からの提供で、水濡れ古文書および固着した古文書を使い復元試験を行った。試験日数は 20 日余りを要したが、概ね良好な復元が可能となった。装置では、トラップの容量が不足して改善の必要が確認できた。	A	順調
4514-14		**14） 近世初期対馬藩の政治構造と日朝交流（科学研究費補助金）** 今年度は研究テーマ「中近世日朝交流と偽使・偽書」の遂行に重点をおき、下記の研究成果を得た。 ①荒木和憲「十六世紀末期対馬宗氏領国における柳川氏の台頭」（九州史学研究会編『境界からみた内と外』岩田書院、2009 年） ②荒木和憲「対馬宗氏の対朝鮮外交戦術」（荒野泰典・石井正敏・村井章介編『日	A	順調

		本の対外関係』5、吉川弘文館、刊期未定）		
4514-15		**15） 室町時代の仏教絵画を中心とする東アジアの宗教美術に関する調査研究（科学研究費補助金）** 本年度は当該のテーマについて次の二つの観点から研究対象とし、下記の成果を得た。 （1）東福寺の画僧・明兆の作品のうち、足利将軍家の関与が想定される三十三観音図（東福寺）の図像と表現について基礎的な知見を得ることが出来た。 （2）足利将軍家をめぐる時代状況を考察し、かつ東アジアの観音変相図を検討することを通じて、三十三観音図の造像目的を考察するための資料を収集した。	A	順調
4514-16	②公衆への観覧を図るための研究 特別展、特別陳列等の展示の対象となる文化財の調査研究を行い、展示に反映させるほか、次の研究課題に重点的に取り組む。	**16） トルキ山遼墓出土品から見た唐滅亡後の東アジアにおける工芸技術（科学研究費補助金）** フフホトの内蒙古文物考古研究所および内蒙古博物館の作品資料調査3回（延べ7名）と内蒙古自治区内の博物館資料調査（延べ2名）を実施したほか、内蒙古研究所研究員を招聘し、当館、徳島県立鳥居記念館および東京国立博物館の資料調査および関係機関見学および遼代墓葬文化および遼代工芸に関する講演会を実施した。また、当館保管の重要文化財遼代千仏石幢について、三次元立体測量を実施した。	A	順調
4521-01	（東京国立博物館） 1） 博物館環境デザインに関する調査研究	**1） 博物館環境デザインに関する調査研究** 展示のデザインのクオリティの向上を成立させるための設計技術や、デザインを実現・維持するための現場監理・物品管理に関する技術について、過去の事例や、他館における具体的な事例を調査した。 また以上の技術・手法を、当館においてどのようなシステムで導入・実施が可能かを整理し、実現可能なものについては館内の展示において実施した。	A	順調
4521-02	2） 博物館美術教育に関する調査研究	**2） 博物館美術教育に関する調査研究** 本館 20 室「みどりのライオン」での博物館ガイダンスやハンズオン体験コーナー、制作工程模型展示は開始から一年間で 10 万人を超える利用者があり、当館における博物館教育プログラムとして定着した館がある。加島及び鈴木は、このプログラムを博物館教育の見地から調査研究し口頭発表した。	A	順調
4521-03	3） 博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築（科学研究費補助金）	**3） 博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築（科学研究費補助金）** 現地調査のみならず海外における博物館教育に関する国際学会等にも出席。参考とすべき先進的な教育・普及プログラムに関する多くの情報を入手でき、さらに研究者間の交流も深めることができた。	A	順調
4521-04	4） 博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	**4） 博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究** 東京国立博物館における収蔵品管理システムのプロトタイプについて、収蔵品検索機能、平常展管理機能、鑑査会議管理機能の各機能を継続的に運用し、改善すべき課題を抽出するとともに随時改善を重ねて性能向上を図った。また、あらたに貸	A	順調

		与管理機能について機能要件を調査のうえ実装し、運用を開始した。さらに、文化財移動情報登録システムと連動して、収蔵品の所在情報の一元管理に向けた試験的な機能の実装を行った。		
4521-05	5) 凸版印刷と協同で、ミュージアム・シアターでの公開に向けた研究を実施する。	**5) 凸版印刷と協同で、ミュージアム・シアターでの公開に向けた研究を実施する。** 東京国立博物館と凸版印刷のスタッフが共同で、本年度は東京国立博物館の収蔵品の中かから法隆寺献納宝物の国宝灌頂幡について①デジタルアーカイブによる情報蓄積、②ＶＲ（バーチャルリアリティ）手法を用いたコンテンツの開発、③ミュージアム・シアターでのコンテンツの一般公開に関する調査研究を行なった。	A	順調
4522-01	（京都国立博物館） 1) 妙心寺本坊、塔頭（麟祥院及び衡梅院）に所蔵されている文化財の調査研究により、特別展覧会「妙心寺展」（仮称）の開催に反映する。	**1) 妙心寺本坊、塔頭に所蔵されている文化財の調査研究** 調査に基づく研究の成果としては、妙心寺本坊および退蔵院、慈恩寺の所蔵する重要文化財「花園天皇宸翰消息」が当館所蔵のものと本来は一具であることが判明したので、これらの位置づけや重要性について論文を執筆した。ほか、各分野の調査成果は、刊行された図録『妙心寺』に反映されている。	A	順調
4522-02	2) 輸出漆器に関する調査研究により、特別展覧会「japan 蒔絵－宮殿を飾る 東洋の燦めき－」の開催に反映する。	**2) 輸出漆器に関する調査研究により、特別展覧会「japan 蒔絵－宮殿を飾る 東洋の燦めき－」の開催に反映する。** 本展は 12 月 23 日―1 月 26 日の会期で、東京のサントリー美術館へも巡回した。サントリー美術館では日頃多くて 8%台の図録購入率が 11%まで伸びたとのことで、京都の文化を東京の人々により深く知っていただく機会を提供できた。	A	順調
4522-03	3) 妙顕寺・本満寺・本圀寺などに所蔵される文化財の調査研究により、特別展覧会「日蓮展」（仮称）の開催に反映する。	**3) 妙顕寺・本満寺・本圀寺などに所蔵される文化財の調査研究により、特別展覧会「日蓮展」（仮称）の開催に反映する。** 京都日蓮法華宗関係資料を調査し、その歴史的位相を把握することができた。特に、新出資料または長年所在不明だった作品が多数発見されたことは特筆に値する。	A	順調
4523-01	（奈良国立博物館） 1) 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究成果の一部を「国宝法隆寺金堂展」並びに特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」及び「お水取り」に反映させる。	**1) 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究成果の一部を「国宝法隆寺金堂展」並びに特別陳列「おん祭りの春日信仰の美術」及び「お水取り」に反映させる。** 法隆寺、西国三十三所霊場及び関連文化財を蔵する諸寺、円教寺、金峯山寺、春日大社等への働きかけを行って所蔵文化財の調査を実施し、その成果を特別展・特別陳列に反映させるとともに、報道発表などを通して発信した。	A	順調
4523-02	2) 我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究成果の一部で、平常展の充実を図る。	**2) 我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究成果の一部で平常展の充実を図る。** 学術交流協定を締結している中国・韓国の博物館との間で研究員の派遣・受け入れを行い、活発な研究交流・情報交換を行うことができた。また特別展開催の前提として行った、中国・朝鮮半島で制作された文物に対する調査研究の成果を、展示及び図録等に反映させることができた。	A	順調
4524-01	（九州国立博物館） 高齢者・障がい者・外国人の利用者の視点に立った、展示の内	**1) 高齢者・障がい者・外国人の利用者に対しての、展示の内容・方法、施設整備、管理運営面からの改善、改修方策についての調査研究**	A	順調

	容・方法、施設整備、管理運営面からの研究・実践(UMP：Universal Museum Project)を展開する。	ベンチの設置により、お客様からのアンケートや、監視員に寄せられる意見で、「休憩場所が少ない」という意見が激減した。これは、お客様の満足度が向上したことであると判断している。また、スロープやオストメイト対応設備によるハード面の整備が、より一層進んだ。サインの改善についても、誘導性が向上したことはもとより、景観面の向上も図ることができた。		
4524-02		**2) 音声ガイドのコンテンツ評価と検証** 展示解説コンテンツの改善を通じて来館者の満足度向上を試みた結果、来館者の展示物での滞在時間が前回の実験時より長くなり、また音声解説の聴取時間も長くなった。これまでの調査分析から問題点の見つけ出し、改善を行った結果、来館者の展示室滞在時間が長くなったことは、来館者の展示に対する理解と博物館体験の満足度向上に繋がったものと考えられる。	A	順調

5 文化財の保存・修復に関する国際協力の推進

【中期目標】文化財の保存・修復に関する国際協力の拠点としての位置づけを明確化するとともに、その機能の充実を図ること。また、研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークの構築、アジア諸国等における文化財の保存・修復　協力、技術移転・専門家養成等の支援等、有機的・総合的な事業展開を行い、人類共通の財産である文化財の保存・修復に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与すること。

(1) 保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤の整備

【中期目標】文化財の保存・修復に関する国際協力の拠点としての位置づけを明確化するとともに、その機能の充実を図ること。

【中期計画】

(1) 文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤整備を行う。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア諸国において文化財の保存・修復事業を推進する。

【主な計画上の評価指標】

○情報の収集・分析及びその提供を行うこと。
○国際協力のネットワークを構築すること。

【19 年度評価における主な指摘事項】

○奈文研発行『日韓文化財論集 1』の体裁は韓国研究者のためにも、完全バイリンガルの論集にすべきである。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
5115-00	(1) 文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤整備を行う。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際	**① 文化財保存施策の国際的研究** 文化財保存施策の国際的研究について、以下の事業を実施した。 1. 世界各地で開催された研究会やワークショップに積極的に参加し、文化財の保存に関わる各種の情報を収集し、分析した。	A	順調

	協力のネットワークを構築し､その成果をもとにアジア諸国において文化財の保存・修復事業を推進する。 ① ユネスコ、ICOMOS、ICOM などが行う主要な国際会合へ出席し、情報の収集を行うとともに諸外国の文化財保護施策等の調査を行う。アジア地域の文化財保護機関と連携し、タイにおいて文化遺産国際ワークショップを行い、この地域における文化財情報の収集に努めるとともに、今後の協力関係を築く基礎とする。また、国際協力に関する国内ワークショップを開催する。	2. 国際ワークショップの開催：アジア各国の専門家を招へいしてアジアの文化財について考えるラウンドテーブル形式の国際会議を 1 回、国内外の専門家を講師とする一般公開の国内専門家向け研究集会を 1 回､計 2 回開催した。		
5125-10	② 文化財の保存修復事業及び国際共同研究事業を以下のように実施する。 ア カンボジア・アンコール遺跡群のタ・ネイ遺跡及び西トップ寺院遺跡において建築史的、考古学的、保存科学的調査を実施する。タイ・スコータイ遺跡及びアユタヤ遺跡では、生物被害に関する保存科学的調査研究を行う。	**②－ア－1 アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査研究** 石材表面への微生物繁茂を軽減するために、表面に撥水剤を塗布することの効果とその弊害について具体的に検証した。そうした微生物を繁茂しにくくする環境条件について、タイのスコータイ遺跡で検討した。さらに、微生物が石材の風化に与える影響について､カンボジアのアンコール遺跡において検討した。また、タイとのこれまでの共同研究成果を公表する報告会をバンコクで開催した。	A	順調
5125-11		**②－ア－2 カンボジア・アンコール遺跡群の西トップ寺院遺跡の建築史的、考古学的、保存科学的調査** 6 月 5 日と 6 日に現地で開催された本年第 1 回目の国際調整委員会へ参加。本年第 1 回目の調査は 8 月 1 日から 13 日の間、考古班と建築班が実施した。11 月には雨期を経過した後の遺跡の状態確認の現地調査を行った。12 月 1 日と 2 日に第 2 回目の国際調整委員会に参加。1 月 29 日から 2 月 7 日の間、第 2 回目の調査を考古班と保存科学班が行った。招聘事業は 3 月 23 日から 31 日まで。若手研究者 2 名を招聘した。	A	順調
5125-20	イ 龍門石窟の保存修復に関する調査研究を龍門石窟研究院と共同で実施する。西安唐代陵墓石彫像の保存修復事業を西安文物保護修復センターと共同で実施する。また、敦煌莫高窟壁画保存と制作技法に関する現地調査及び研究を実施し、報告書を作成する。	**②－イ－1 龍門石窟及び陝西省唐代陵墓石彫像の保存修理に関する調査研究** 2 つの調査研究が本年度で終了するにあたり、龍門石窟研究院に対する助言を行うとともに、これまでの活動を総括し広くその内容を紹介するパンフレットを作成した。また西安市で石造文化財の保存に関するシンポジウムを開催し、報告書を作成した。	A	順調
5125-21		**②－イ－2 敦煌壁画の保護に関する共同研究** 共同調査・研究は 3 年目を迎え、壁画の制作材料と技法に関する知見の蓄積が進みつつある。写真撮影作業は天井の全景を含む全てが完了した。光学調査と分析調査は、未着手の部分での作業とここまでの検討で不十分な部分での作業を反復して行っている。日中双方のメンバーの連携が取れ、作業の一部分を完全に中国側に委託することが可能になるなど、顕著な進歩が見られる。	A	順調
5125-30	ウ アフガニスタン（主としてバーミヤーン）及びイラクの文化財保存修復協力事業を実施し、また、あわせて周辺地域の文化財	**②－ウ 西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業** アフガニスタン及びイラクから文化財専門家を招へいして人材育成・技術移	A	順調

	調査研究を実施し、西アジア諸国等における文化財の保存協力事業に役立てるとともに、これらの成果について報告書を作成する。	転を実施。バーミヤーン遺跡の保存に関し、専門家会議への出席、報告書の作成・出版、外部機関との共同研究を実施。西アジア周辺諸国における文化遺産保護に関する調査・研究等としては、タジキスタン出土の壁画片の保存修復及び文化財専門家の人材育成・技術移転、アジナ・テパ仏教寺院の保存修復、アジャンター壁画の保存修復を実施し、あわせて国際会議等へ参加。		

(2) 諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進

【中期目標】研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークの構築、アジア諸国等における文化財の保存・修復　協力、技術移転・専門家養成等の支援等、有機的・総合的な事業展開を行い、人類共通の財産である文化財の保存・修復に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与すること。

【中期計画】	**【主な計画上の評価指標】**
(2)　諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転を積極的に進める。 また、アジア諸国の文化財保護担当者や保存・修復専門家などの人材養成に関する支援事業を国内外で実施するとともに、人材養成に必要な教材や教育手法に関する研究開発を行う。	○諸外国への技術移転を積極的に進めること。 ○アジア諸国における専門的な人材の育成のための支援事業等を行うこと。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
5205-10	(2)　諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転を積極的に進める。また、アジア諸国の文化財保護担当者や保存・修復専門家などの人材養成に関する支援事業を国内外で実施するとともに、人材養成に必要な教材や教育手法に関する研究開発を行う。 ア　中国、アフガニスタン、イラク等の考古学、建造物保存専門家及び歴史資料保存専門家養成研修を国内並びに現地で実施する。	**ア 諸外国の文化財保存修復専門家養成** 諸外国における専門家の研修を実施する際の教材として使用することを目的にして、次の教材を作成した。すなわち、1.「水浸木材の保存修復」ＤＶＤ。2.「水侵木材の保存修復」テキスト。3.「Conservation for water logged wood」テキスト、である。これらは、遺跡から出土した水浸木材の適切な修復方法をしているばかりではなく、そもそも遺跡から脆弱な水浸木材を取り上げる方法にまで言及しており、発掘から保存まで広く網羅した内容に仕上がっている。	A	順調
5205-20	イ　国際協力機構、ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力を行う。	**イ 国際協力機構、ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力** 国際協力機構及びアジアユネスコ文化センターが計画した研修の多くの部分を担当した。参加者はアジア太平洋地域諸国で文化財の保護に携わる、まだ経験が十分でない研究者であり、今般の各研修により、研修生に対して有益な成果をもたらすことができた。	A	順調

6　情報発信機能の強化

【中期目標】調査及び研究の成果について、迅速な報告書の発行、利用価値の高いデータベースの構築等により、適時適切な公表を推進するとともに、施設の有効活用を図ることにより、研究者をはじめ広く社会に還元すること。

(1) 情報基盤の整備充実

【中期目標】 ------

【中期計画】

(1) 文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を図る。
　また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図る。

【主な計画上の評価指標】

○ネットワークセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備充実を図ること。
○文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図ること。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
6115-00	(1) 文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を図る。また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図る。 ① ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を図る。	**①−1 情報システムの整備** システム管理については、保守契約等の協議、メールアカウントの管理、コンピュータ・ウィルス対策を行い、現在のネットワーク環境の維持に努めた。またネットワーク環境の整備の一環として、動画サーバの導入、フロアスイッチの更新、センタスイッチの増設を進め、情報基盤の充実を図った。さらに国立文化財機構情報化担当者会議に出席し、機構としてのセキュリティ・ポリシーの制定、グループウェアの導入、VPN 接続などについて協議した。	A	順調
6115-01		**①−2 ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実** コンピュータウィルスについて、唯一 USB ワームの被害報告があったが、注意喚起とユーザによる各コンピュータのチェックを行ない、それ以上の感染被害も出ることなく運用できた。	A	順調
6125-00	② 文化財に関する専門的アーカイブの拡充を図る。	**②−1 専門的アーカイブの拡充** 1)公開用 SQL データ・画像データの更新 2)近現代美術関係文献および美術全集掲載図版目録のデータベース化、『日本美術年鑑』のテキスト化 3)劣化が進む貴重雑誌の CD-ROM 化 4)ガラス乾板等のデジタル化に向けての点検・整理	A	順調
6125-01		**②−2 東京文化財研究所七十五年史編纂事業** 『東京文化財研究所七十五年史　本文編』(仮称) を平成 21 年度に刊行することをめざし、沿革編および調査研究編の原稿作成、編集、校正を進めた。	A	順調
6125-02		**②−3 無形文化財に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化** 2006 年度までに受入れ手続きが完了した資料の内、経年変化に伴う音質劣化が懸念されるオープンテープのデジタル化を昨年度に引き続き実施した。所蔵画像資料のデジタル化については、データベース作成の一環として、昨年度寄贈を受けた歌舞伎写真（故・梅村豊撮影）の整理に本格的に着手した。	A	順調

6135-00	③　文化財関係資料や図書の収集・整理・公開・提供について充実するよう努める。	**③－1 国際資料室の整備** 情報収集、データベース化：平成 13 年から収集している世界各国の文化財保護に関連する法令について、和訳を行うとともに、保護の対象とする文化財により分類、データベース化した。 情報の発信として出版物の PDF 化を実施した。また、「文化財保護関連法令集イラク」および「文化財保護関連法令シリーズ」として日本、ウズベキスタン、モンゴルの法令集を出版した。	A	順調
6135-01		**③－2 文化財関係資料や図書の収集・整理・公開・提供の充実** 遺跡の発掘調査報告書、歴史的建造物の修理報告書等歴史・考古学分野を中心に図書・逐次刊行物の購入及び寄贈による収集・整理を行った。また、発掘調査関係の遺跡、建造物、庭園等の写真の収集、整理を行った。	A	順調
6145-00	④　文化財情報電子化の研究に基づき、データベースの充実を図る。	**④－1 文化財保存修復国際情報データベース化に関する研究** 情報収集、データベース化：平成 13 年から収集している世界各国の文化財保護に関連する法令について、和訳を行うとともに、保護の対象とする文化財により分類、データベース化した。 情報の発信として出版物の PDF 化を実施した。また、「文化財保護関連法令集イラク」および「文化財保護関連法令シリーズ」として日本、ウズベキスタン、モンゴルの法令集を出版した。	A	順調
6145-02		**④－2 文化財情報電子化の研究に基づくデータベースの充実** 遺跡情報の分析と世界的な標準化に関する研究に基づき『遺跡情報交換標準の研究第 2 版』を刊行した。 文化財情報の電子化を進め、業務用並びに公開用のデータベースの充実を図った。	A	順調

(2)　研究所の研究成果の発信

【中期目標】 ------

【中期計画】

(2)　文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を平成 17 年度の実績以上刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数を前期中期計画期間の年度平均以上確保する。

【主な計画上の評価指標】

○公開講演会、現地説明会、国際シンポジウム等を積極的に行うこと。
○ＨＰの充実を図り、ＨＰアクセス件数を前期中期計画期間の年度平均以上確保すること。

【19 年度評価における主な指摘事項】

○ユネスコの無形文化遺産保護条約の取組みに「先進国日本」の立場から積極的に貢献し、文化庁との協力体制を強化してほしい。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期

6215-00	(2)　文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を平成 18 年度の実績以上刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数を前期中期計画期間の年度平均以上確保する。 ①　定期刊行物の刊行 ○『東京文化財研究所年報』 ○『東京文化財研究所概要』 ○『東文研ニュース』 ○『美術研究』（年 3 冊） ○『日本美術年鑑』（年 1 冊） ○『無形文化遺産研究報告』（年 1 冊） ○『無形民俗文化財研究協議会報告書』（年 1 冊） ○『保存科学』（年 1 冊） ○『奈良文化財研究所紀要』 ○『奈良文化財研究所概要』 ○『奈文研ニュース』 ○『埋蔵文化財ニュース』	**①－1 『東京文化財研究所年報』・『東京文化財研究所概要』・『東文研ニュース』の刊行** 『年報』2007 年度版、『概要』2008 年度版、『東文研ニュース』33 号-36 号、『東文研ニュースダイジェスト』（『東文研ニュース』英語版）をそれぞれ刊行し、媒体の特質に応じて、研究所のさまざまな活動を広報した。	A	順調
6215-01		**①－2 『平成 19 年度日本美術年鑑』・『美術研究』の 刊行** 『日本美術年鑑』を年 1 冊、『美術研究』を年 3 冊刊行することを目的とする。今年度は『平成 19 年版　日本美術年鑑』及び、『美術研究』395～397 号を刊行することができた。	A	順調
6215-02		**①－3 「無形文化遺産研究報告」・「無形民俗文化財研究協議会報告書」**の刊行 1) 主として無形文化遺産部研究員の業績に基づく論考・報告・資料紹介等を内容とする『無形文化遺産研究報告』第 3 号の刊行。 2) 平成 20 年 11 月 20 日に開催した無形民俗文化財研究協議会での事例報告・総合討議を内容とする『第 3 回無形民俗文化財研究協議会報告書』の刊行。	A	順調
6215-03		**①－4 『保存科学 48 号』の出版** 25 本の投稿を受け、外部査読者 2 名を含む編集委員会で査読し、報文 9 本、報告 16 本、計 25 本の掲載を決定した。本誌体裁は変更せず、総頁数 245 頁、600 部印刷、関係諸機関に 580 部配付した。	A	順調
6215-04		**①－5 第 31 回文化財の保存・修復に関する国際研究集会報告書の刊行** 文化財の保存・修復に関する国際研究集会（第 31 回）「文化財を取り巻く環境の調査と対策」報告書（英文）を刊行した（英文、A4 サイズ、フルカラー、約 200 ページ、印刷部数 500 部）。海外講演者 8 名、日本人講演者等 7 名計 15 論文と会場での質疑応答、総合討議を掲載。会議出席者と国内外の関係機関へ配付した。	A	順調
6225-00		**②－1 研究報告書、年報、研究論文集、図録等の刊行** 紀要等 2 点、ニュース 2 種 8 点、研究報告書・研究論文集 9 点、史料等 9 点、図録・カタログ 5 点、リーフレット 2 点、合計 35 点を刊行し、研究成果を順調に刊行できた。	A	順調
6225-01	②　公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等 ○国際シンポジウムの開催（年 1 回） ○公開学術講座（オープンレクチャー）（年 1 回） ○公開講演会（年 4 回）（飛鳥資料館特別展に伴う講演会（年 2 回）を含む） ○現地説明会（年 6 回）	**②－2 第 32 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会** 2008（平成 20）年 12 月 6～8 日の三日間にわたり、東京国立博物館平成館大講堂にて開催。のべ 281 名の参加者があった。なおこの研究集会の関連企画として、2008 年 10 月 9 日から 12 月 25 日まで東京国立博物館黒田記念館にて「湖畔 VS 湖畔」と題し、現代美術家の福田美蘭氏による《湖畔》を黒田清輝の《湖畔》と対峙させて展示を行った。	A	順調
6225-02		**②－3 平成 20 年度オープンレクチャー**	A	順調

		平成 20 年度に第 42 回企画情報部オープンレクチャー「人とモノの力学」と題して 4 講演を 2 日間にわたり開催した（参加者数：277 人、アンケートによる満足度：90%（回収率：68%）。		
6225-03		**②－4 公開講演会、現地説明会等の開催** 研究所が行う調査研究を適時適切に国民に公表するため、公開講演会を 2 回、飛鳥資料館特別講演会を 1 回、計 3 回の公開講演会等を開催した。また、発掘調査に伴う現地説明会等を平城地区、飛鳥藤原地区あわせて計 5 回実施した。 参加延べ人数は、公開講演会等が 520 名、現地説明会等が 5,064 名に上り、開催回数、参加者数ともに従来の水準を維持し順調に事業が実施できた。	A	順調
6235-00	③ ホームページアクセス件数の前期中期計画期間の年度平均以上の確保	**③－1 ホームページの運用** キッズページの試作、メールマガジン導入の準備など、ホームページの内容の充実を図り、研究所がもつ情報発信機能の向上に努めた。	A	順調
6235-01		**③－2 ホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数の前期中期計画期間の年度平均以上の確保** サーバを更新し、各コンテンツへのアクセススピードを向上させるとともに更新回数も増加させ、情報発信に努めた。	A	順調

定量評価	20 年度	19 年度	目標値	評定
定期刊行物の刊行				
美術研究	3	3	3	A
日本美術年鑑	1	1	1	A
保存科学	1	1	1	A
国際シンポジウムの開催	1	1	1	A
公開学術講座（オープンレクチャー）	1	1	1	A
公開講演会	3	4	4	B
現地説明会	5	6	6	B
ホームページのアクセス（件）	**2,106,989**	**2,449,875**	**1,122,695**	**A**
うち東京文化財研究所	1,405,278	1,526,409		
うち奈良文化財研究所	701,711	923,466		

(3) 研究所所管の展示公開施設の充実

【中期目標】 ------

【中期計画】	【主な計画上の評価指標】
(3) 黒田記念館、平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことに資する。入館者数については、前期中期計画期間の年度平均以上確保する。	○入館者数については、前期中期計画期間の年度平均以上を確保すること。

【19 年度評価における主な指摘事項】
○黒田記念館の一層の公開体制拡大を含めた公開施設の活用やボランティアへの活動支援を一層進めてほしい。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
6305-01	(3) 黒田記念館、平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことに資する。入館者数については、前期中期計画期間の年度平均以上確保する。 ○黒田記念館における作品の展示公開 常設展（毎週木曜日、土曜日の午後開館） 共催展の開催（1 回） 年間目標入館者数 10,200 人 ○平城宮跡資料館における展示・公開 常設展（月曜日、年末年始休館 無料公開） 発掘速報展（年 1 回） 年間目標入館者数 72,500 人 ○飛鳥資料館における常設展示の充実と特別展示の開催 常設展示（月曜日、年末年始休館 有料公開） 特別展示（年 2 回） 企画展の開催（年 1 回） 年間目標入館者数 55,400 人 ○藤原宮跡資料室における展示・公開 常設展（土・日曜日、祝日、休日、年末年始休館 無料公開） 年間目標入館者数 3,800 人	**○ 黒田記念館における作品の展示公開** 一般公開入場者 19,038 人 「写された黒田清輝Ⅱ」（黒田記念館二階展示室、09.3.19-7.9） 「近代洋画の巨匠 黒田清輝展」（神戸市立小磯記念美術館、08.7-19-8.31）入場者 18,757 人	A	順調
		○ 平城宮跡資料館における展示公開（「平城遷都 1300 年記念事業」と一体で実施） 平城宮跡資料館において常設展及び速報展等を実施し、調査研究の成果の公開に努め、好評を博した。	A	順調
6305-02		**○ 飛鳥資料館における展示公開** 春期特別展 「キトラ古墳壁画十二支―子・丑・寅―」を 4 月 18 日から 6 月 22 日まで開催し、期間中の 5 月 9 日から 5 月 25 日までキトラ古墳壁画特別公開を合わせて行い、獣頭人身像子丑寅を展示した。 会期中の 5 月 17 日には記念講演会「キトラ古墳の壁画をめぐる諸問題」を開催した。夏期企画展示は「飛鳥古寺巡礼」を 8 月 1 日から 8 月 31 日まで開催した。秋期特別展は「まぼろしの唐代精華 黄冶三彩窯の考古新発見」を 10 月 17 日から 12 月 7 日まで開催し、期間中の 10 月 18 日に、平城宮跡資料館においてシンポジウム「河南黄冶唐三彩窯の考古新発見」を行った。冬季企画展は例年通り「飛鳥の考古学 2008－平成 19 年度の発掘調査の成果から－」を 2 月 3 日から 3 月 1 日まで開催した。	A	順調
6305-03		**○ 藤原宮跡資料室における展示公開** 藤原宮跡資料室において、常設展示、発掘調査成果の速報展示などを通年で実施し、展示公開の充実が図られた。エントランス部分では、発掘調査成果を速やかに公開するため速報コーナーを設け継続して多様な調査成果を公開した。併せて、展示のための資料制作、各地の博物館等への出陳も行った。	A	順調

定量評価	20 年度	19 年度	目標値	評定
入館者数				
黒田記念館	19,038	13,707	10,531	A
平城宮跡資料館	92,597	85,486	72,500	A

		飛鳥資料館	84,608	100,825	55,400	A
		藤原宮跡資料室	4,423	6,885	4,486	B

(4) 文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力

【中期目標】 ------

【中期計画】	【主な計画上の評価指標】
(4) 文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力し、支援を実施する。また、宮跡等への来訪者に文化財に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティア事業を運営するとともに、各種ボランティアに対して、活動機会・場所の提供等の支援を行う。	○文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力すること。また、ボランティアへの活動支援を行うこと。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
6405-00	(4) 文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力し、支援を実施する。また、宮跡等への来訪者に文化財に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティア事業を運営するとともに、各種ボランティアに対して、活動機会・場所の提供等の支援を行う。 ○ 平城宮跡解説ボランティア事業の運営 ○ 各種ボランティアに対する活動機会・場所の提供、文化財に関する学習会の実施等への支援	**○ 文化庁平城宮跡等管理事務所との連絡調整及び連携協力** ◇平城宮跡及び飛鳥・藤原宮跡における文化庁平城宮跡等管理事務所の運営に対し、積極的な協力を行った。 ◇平城宮跡、藤原宮跡の維持管理のために、宮跡地内の草刈・植栽業務等を次のとおり実施した。 ○平城宮跡〔対象面積：915,150 ㎡〕 ○藤原宮跡〔対象面積：257,840 ㎡〕	A	順調
6405-01		**○ 平城宮跡解説ボランティア事業の運営** ボランティア解説者の学習等による知識による案内解説は、解説を受けた来訪者の満足度から十分な成果が認められる。	A	順調
6405-02		**○ 各種ボランティアに対する活動機会・場所の提供、文化財に関する学習会の実施等への支援** ボランティア解説者の学習等による知識による案内解説は、解説を受けた来訪者の満足度から十分な成果が認められる。 また、他のボランティア団体への支援により、解説ボランティア事業の活性化に繋がった。	A	順調

(5) 平城宮遷都 1300 年記念事業への協力

【中期目標】 ------

【中期計画】	【主な計画上の評価指標】
(5) 奈良県の「平城遷都 1300 年記念事業」にあわせ、平城京についてのこれまでの調査・研究成果を生かした展示・公開事業を行う。	○奈良県の「平城遷都 1300 年記念事業」にあわせ、平城京についてのこれまでの調査・研究成果を活かした展示・公開事業を行うこと。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期

	(5)　奈良県の「平城遷都 1,300 年記念事業」に向け最新の調査・研究に基づく平城宮跡資料館の展示リニューアル、及び古代都城等に関する国際共同研究の成果の展示・公開について検討を始める。	6－(3)　平城宮跡資料館の展示公開と一体的に実施		

(6)　文化財情報・研究成果の公表

【中期目標】 ------

【中期計画】

(6)　文化財情報・研究成果などを広く公表すること等を通じて歴史・伝統文化に対する理解が深まるよう努める。

①ウェブサイト等自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、広く国内　外に情報を発信する。

　ウェブサイトのアクセス件数は年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回ることとする。

②－1 収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、デジタル化を推進し、文化財情報システム等により広く積極的に公開する。また、収蔵品等に関するデジタル化件数は、年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るようにする。

②－2 美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能を充実させる。

【主な計画上の評価指標】

○ウェブサイトのアクセスの年間平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回ること。

○収蔵品等に関するデジタル化件数は、年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るようにすること。

○情報資料を収集し、レファレンス機能を充実させること。

【実績】

【19 年度評価における主な指摘事項】

○九博が実施している「双方向」システムの導入が今後は機構全体の課題になると思われる。

○アクセス数は驚異的であるが、むしろ目標数の設定を再検討しても良いのではないか。

○収蔵品のデジタル画像化は急務である。文字情報のみでも検索機能を伴った機構全体の「作品悉皆目録」の公開を望む。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	(6)　文化財情報の公開促進 文化財に関する情報を積極的に発信し、国内外における日本文化への理解を深める。 **①　ウェブサイト等による情報の発信** ウェブサイトのアクセス件数が増加するよう内容の充実を図る。	**(6)　文化財情報の公開促進** **①　ウェブサイト等による情報の発信**		
6611	（東京国立博物館） 1）情報アーカイブにおいて公開中の文化財データベースの充実を図る。 2）携帯電話サイトによる情報提供サービスについて検討する。	**【東京国立博物館】** ・情報アーカイブサイトでの調査研究成果の公開を継続し、機能等の問題点を検討した。 ・列品管理プロトタイプデータベースを更新し、列品情報の公開を行うための条件の整備を推進した。 ・これまで未公開であったモノクロフィルムの画像データベースを館内業務などで公開した。来年度は「東京国立博物館情報アーカイブ・ウェブサイト」において公開予定である。 ・来年度中に古文書の画像データベースを公開する見通しである。	A	順調
6612	（京都国立博物館） 1）　携帯電話端末用ウェブサイトの充実を図り、利用者の拡大とサービスの向	**【京都国立博物館】** 携帯電話端末用ウェブサイトの充実を図り、利用者の拡大とサー	A	順調

	上を図る。 2) 学術研究公開の一環として、研究紀要「学叢」をウェブサイトで公開する。	ビスの向上に努めた。 ・学術研究公開の一環として、研究紀要「学叢」をウェブサイトで公開した。 ・京都国立博物館メールマガジンを継続配信し、加入者数は 3,342 件である。 ・管理サーバの導入により、定義ファイルの自動更新、ウイルスチェック及びセキュリティ強化を実施した。		
6613	（奈良国立博物館） 当館保有の文化財の写真並びに研究成果の公開の充実を図る。	**【奈良国立博物館】** ・PC 用ホームページを全面的に構築しなおし 2 月より公開を始めた。これにより更なる文化財情報発信の基盤が整った。 ・研究紀要『鹿園雑集』10 号を刊行し、論文 3 本、国際研究集会の研究報告 2 本、資料紹介 2 本ほか各種調査報告 3 本を掲載した。 ・展覧会図録を 7 冊刊行した。 ・広報誌「奈良国立博物館だより」（年 4 回刊行）の各号に、文化財調査研究成果の一端を掲載し、また 3 号にわたり展示活動への取り組みについて掲載した。	B	順調
6614	（九州国立博物館） ウェブサイトで提供する情報の充実を図り、利用者から意見を吸い上げられる体制を検討する。	**【九州国立博物館】** ①九州国立博物館のホームページをリニューアル ②ホームページ利用者からの意見を、ホームページ内の九博メールで対応 ③特別展ごとに「ブログるぽ」の実施	A	順調
6621-1	**②－1 デジタル化の推進** 1) 収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。 2) 収蔵品の国宝について、5 か国語（日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語）の説明を付したデジタル高精細画像（e 国宝）の提供を継続して行う。 （東京国立博物館） 1) 収蔵品等の写真の高精細デジタル化を実施する（4×5 フィルム 3,000 枚。マイクロフィルム 20,000 枚）。 2) 収蔵品のうち、国指定文化財を新規撮影し、高精細デジタル画像化を図る。 3) 収蔵品の基本情報のデータ化・文書記述言語（ＸＭＬ）化を実施する。 4) 法隆寺献納宝物について、5 か国語（日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語）の説明を付したデジタル高精細画像（「法隆寺献納宝物デジタルアーカイブ」）等の提供を法隆寺宝物館にて継続して実施する。	**②－1 デジタル化の推進** **【東京国立博物館】** 1) 収蔵品等のモノクロ画像のデジタル化に着手し、マイクロフィルムは目標を大きく上回るデジタル化を行った。 2) 国指定文化財のカラーフィルムのデジタル化と、モノクロフィルムの遡及入力を実施した。 3) 美術品台帳のテキストデジタル化で、収蔵品の基本情報を充実させ、モノクロフィルムはデータの精度を向上させた。 4) 法隆寺献納宝物のデジタルアーカイブの提供を継続した。今後は利便性の向上と、内容の更新につとめていきたい。	A	順調

6622-1	（京都国立博物館） 1） 収蔵品のデジタルデータを作成する。（約 2,500 件） 2） 当館所蔵の指定文化財の画像を高精細画像化し、ウェブサイト上で公開する。	**【京都国立博物館】** ・収蔵品のデジタルデータを作成し、文化財情報システム及び公開収蔵品データベースへの登録を暫時行っている。 ・当館所蔵の指定文化財の画像を高精細画像化し、重要文化財高精細画像データベース「KNM Gallery」としてウェブサイト上で公開した。	A	順調
6623-1	（奈良国立博物館） 1） ウェブサイトに掲載中の写真検索システムの個別データを約 2,000 件追加更新する。 2） 当館所蔵の指定文化財の画像を高精細画像化し、ウェブサイト上で公開する。 3） デジタル高精細画像を活用し、有料画像提供の推進を図る。	**【奈良国立博物館】** 本事業は、仏教美術を中心とした文化財に関わる情報資源の蓄積を図り、館内における調査研究に活用するとともに、広く一般への公開をおこなうことを目的としている。 ・ 当館で調査研究および写真撮影をおこなった文化財の情報を、情報システムへ登録し、データを 6,989 件更新した。 ・ 上記のうち公開準備のできたものを写真検索システムへ登録し、データを 4,019 件更新・公開した。 ・ 重要文化財を中心とした収蔵品の写真原板を 910 件デジタル化した。 ・ 当館所蔵のガラス乾板を 500 件デジタル化した。 ・ 重要文化財等の収蔵品データベースの公開にむけて、テキストデータ、高精細画像データの整備をおこなった。 今年度は、調査及び写真撮影を行った文化財の情報整備と写真原板整理を重点的に行った結果、登録データを大きく増加させることができた。また収蔵品データベースの公開に向けて、写真原板のデジタル化も例年より大きく推進させることができた。	A	順調
6624-1	（九州国立博物館） 収蔵品のデジタルデータを作成する。（600 件）	**【九州国立博物館】** 収蔵品のデジタルデータを作成した。（3,963 件）	A	順調
6621-2	**②－2 博物館関係資料の収集、レファレンス機能の強化** 美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。 （東京国立博物館） 1） 収蔵品・出品作品等の写真撮影及び関連データを整備し、学芸業務支援システムの構築を進める。（約3,000件） 2） 資料館において、美術史等の情報及び資料を一般に広く公開するために、図書管理システムを軸とした図書資料などのデータ整備を推進し、レファレンス機能とサービスの充実を図る。 3） 法隆寺宝物館において、観覧者向け図書コーナーサービスを継続実施す	②－2 博物館関係資料の収集、レファレンス機能の強化 【東京国立博物館】 〈収集〉 ・購入図書395冊、寄贈・交換図書7,386冊、館蔵品等の写真資料4,703 枚 〈整理〉 ・新規整理 図書 7,781 冊・逐次刊行物 3,638 冊、遡及入力 図書 5,709 冊 〈資料整備〉 ・雑誌等の製本 581 冊、修理製本 186 冊 ・バーコードラベル貼付と合わせてデータの確認作業を実施し、累計で 130,824 枚のバーコードラベルを図書に貼付した。あわせて	A	順調

	る。 4) 図書資料の良好なコレクション構築のために収集方針を策定する。 5) ナショナルセンターとしての国立博物館における資料館の機能を充実させ、有効活用へ向けた利用計画を策定する。	今年度は約 17,000 件のデータ修正を行った。 〈公開〉 ・視聴覚コーナーで 230 点のビデオ、DVD 等を公開した ・OPAC で図書 155,836 冊、雑誌 5,074 タイトル、目次・論文データ 4,000 件を公開し、レファレンスサービスを充実させた。 ・法隆寺宝物館の図書コーナーを継続実施した。		
6622-2	(京都国立博物館) 1) 収蔵品・出品作品等の写真撮影及び社寺調査等での写真撮影並びに関連データを整備する。(約 5,000 件)	**【京都国立博物館】** ・収蔵品、展覧会出品作品等の撮影写真、及び社寺調査等での撮影写真並びに関連データを整備した。 ・写真は漸次写真画像管理システムに登録し、各種データベースへの二次提供を行った。 登録件数 6,478 件	A	順調
6623-2	(奈良国立博物館) 1) 古写真・ガラス乾板等を登録整備する。 2) 収蔵品・出品作品等の写真撮影及び関連データを整備する。(約3,000件) 3) 西新館の観覧者向け図書コーナーの充実を図る。 4) 蔵書検索システム及び所蔵写真検索の充実を図る。	**【奈良国立博物館】** 本事業は、博物館の根幹である展示・研究活動を支援すべく、関連する図書・雑誌等の資料を収集・整理し、学芸業務の情報資源として活用するものである。また一般利用者に対しても当該資料を当館仏教美術資料研究センターにおいて公開し、情報サービスをおこなっている。 図書の新規受入は、1,520 冊、展覧会カタログは 489 冊を数えた。これにより、同センターの保有する資料の総数は図書約 65,000 冊、展覧会カタログ約 10,000 冊、雑誌約 3,000 タイトルとなった。これらについては随時書誌データを図書管理システムに入力し、検索の利用に供している。今年度は中国仏教関係の資料を重点的に収集し、不足していた領域の資料の充実を推進させることができた点も特筆される。 一方、同センターの書架が分野によっては飽和状態にあるため利用頻度で分別し、利用頻度の低い資料については別置場所を確保し、利用空間を確保した。	A	順調
6624-2	(九州国立博物館) 1) 収蔵品・出品作品等の写真撮影及び関連データを整備する。(約600件) 2) 海外調査で撮影した写真やビデオを展示や教育普及事業で活用するための整備を行う。 3) 博物館資料(収蔵品、図書、写真など)の横断的データベース、対馬宗家文書データベースの効率的な運用を検討し、実施する。	**【九州国立博物館】** ・収蔵品・出品作品等の写真撮影及び関連データを整備している。(6,633件) ・博物館資料(収蔵品、図書、写真など)の横断的データベースの効率的な運用を検討し、実施する。 ・海外調査(ベトナム)で撮影した写真やビデオをあじっぱ等の展示や教育普及事業で活用している。	A	順調

		定量評価	20年度	19年度	目標値	評定
		ウェブサイトのアクセス（件）				
		東京国立博物館	**5,211,261**	**5,504,468**	**1,928,966**	**A**
		京都国立博物館	**1,409,634**	**733,885**	**521,965**	**A**
		奈良国立博物館	**1,230,774**	**1,402,834**	**670,948**	**A**
		九州国立博物館	**5,699,860**	**5,943,616**	**783,487**	**A**
		収蔵品のデジタル化（件）				
		東京国立博物館	**139,000**	**124,996**	**18,829**	**A**
		うち4×5フィルム	17,400	3,396	3,000	A
		うちマイクロフィルム	121,600	121,600	20,000	A
		京都国立博物館	**6,478**	**8,047**	**4,359**	**A**
		奈良国立博物館	**8,399**	**4,584**	**4,584**	**A**
		九州国立博物館	**3,963**	**3,295**	**1,890**	**A**
		写真検索システムデータ追加更新（件）				
		奈良国立博物館	6,989	3,889	2,000	A
		収蔵品・出品作品等のデータ整備（件）				
		東京国立博物館	4,703	3,642	3,000	A
		京都国立博物館	6,478	4,256	5,000	A
		奈良国立博物館	6,457	3,240	3,000	A
		九州国立博物館	6,633	1,000	600	A

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

【中期目標】地方公共団体や大学、研究機関とのネットワークや連携協力体制を構築し、機構が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を図り、我が国全体の文化財の収集・展示、調査・研究の質的向上に寄与すること。また、地方公共団体等の指導者層を主たる対象とする高度な研修事業や、若手研究者の育成に寄与するため実践的な連携大学院教育を実施し、今後の我 が国の文化財保護における中核的な人材を育成すること。

【中期計画】	**【主な計画上の評価指標】**
我が国の文化財に関する調査・研究のナショナルセンターとして、これまでの調査・研究の成果を活かし、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行うことにより、我が国全体の文化財　の調査・研究の質的向上に寄与する。また、専門指導者層を対象とした研修等を行い、文化財保護に必要な人材を養成する。 (1)　地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本法人が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。	○文化財に関する協力・助言の円滑勝積極的な実施を行うこと。 ○埋蔵文化財に関する高度な研究成果をもとに、中核となる文化財担当者に、各種の研究を実施するとともに、参加者等に対するアンケート調査で80%以上の満足度が得られるようにすること。

(2)　文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等で中核となる文化財担当者に埋蔵文化財に関する研修及び保存科学に関する保存担当学芸員研修を実施する。なお、参加者等に対するアンケート調査を行い、80%以上の満足度が得られるようにする。 　また、東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育を実施し、若手研究者の育成に寄与する。	○連携大学院教育を実施し、若手研究者の育成に寄与すること。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
7105-00	我が国の文化財に関する調査・研究のナショナルセンターとして、これまでの調査・研究の成果を活かし、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行うことにより、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与する。また、専門指導者層を対象とした研修等を行い、文化財保護に必要な人材を養成する。 (1)　地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本法人が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。 　埋蔵文化財保護行政に資する調査研究を行うとともに、地方公共団体等への協力・助言・専門的知識の提供等について管理・調整する。また、これまで蓄積した調査・研究の成果を活かし、他機関等との共同研究及び受託事業を実施する。	**(1)－1 無形文化遺産に関する助言** 　平成 20 年度は、無形文化遺産の保存・伝承・活用等に関して㈶伝統文化活性化国民協会への 18 件の助言をはじめとして、73 件の助言を実施した。	A	順調
7105-01		**(1)－2 文化財の修復及び整備に関する調査・助言** 　今年度は、件数として 30 件を数え、指導助言先やその内容も多岐にわたり、複数回の指導助言に及んだ。今後も継続して指導助言を実施し適正に文化財が保存修復されるように努めるとともに、私たちも新たな知見を得て、的確な指導助言が行えるように努力する。	A	順調
7105-02		**(1)－3 地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言** 地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等の事業について、専門委員会委員への就任等を通して、建造物修理、史跡整備、出土文字資料調査、発掘調査等に関する専門的・技術的な助言を行った。地方公共団体等の委員就任件数 169 件、援助・助言実施件数（出張依頼を受けた件数）322 件（委員会出席 154、審議会出席 18、指導 49、調査 17、講演 20、その他 64）	A	順調
7105-03		**(1)－4 地方公共団体が行う平城京域発掘調査への援助・助言** 20 年度は、平城宮・京域で、合計 12 件の調査を実施した。その結果、平城京内において掘立柱建物の立て替えた状況や条坊側溝を検出した。また平城宮北部では地表から遺構面までが浅く、南部では深い傾向にあることを確かめた。	A	順調
7105-04		**(1)－5 地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言** 特別史跡藤原宮跡、史跡飛鳥寺跡等において地方公共団体が行う発掘調査への援助・助言の事業は、7 件あり、主に飛鳥寺跡等の史跡の現状変更に対する事前調査である。緊急性を要する事前調査に効率よく対応し、藤原宮並びに飛鳥・藤原地域についての基礎資料を継続的に蓄積している。特に、飛鳥寺伽藍周辺の調査では、瓦敷き、石組溝等古代の遺構を良好な状態で検出した。	A	順調

7215-00	(2)　文化財に関する高度な研究成果をもとに地方公共団体等で中核となる文化財担当者に埋蔵文化財に関する研修、保存科学に関する保存担当学芸員研修を実施する。なお、参加者等に対するアンケート調査を行い、80%以上の満足度が得られるようにする。 　また、東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育を実施し、若手研究者の育成に寄与する。 ①　埋蔵文化財担当者研修 一般研修 1 課程、専門研修 13 課程、計 14 課程実施 研修人数のべ 174 人	**(2)－① 埋蔵文化財担当者研修** 　遺跡の発掘調査や保存・整備等に関し、必要な知識と技術の研鑽を図るため、地方公共団体等の埋蔵文化財担当者を対象として、一般研修 1 課程、専門研修 13 課程、計 14 課程の研修を実施し、延べ 170 名が受講した。 　研修受講者全員に対するアンケート調査では、全員から「有意義だった」「役に立った」との回答を得ており、充実した研修が実施できた。	A	順調
7225-00	②　博物館・美術館等の保存担当学芸員研修を行う。 ○　期間 2 週間、受講生 25 名程度	**(2)－② 博物館・美術館等保存担当学芸員研修** 第 25 回保存担当学芸員研修および保存担当学芸員フォローアップ研修を実施し、どちらも高い満足度を得た。	A	順調
7235-00	③　東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進 ○　東京藝術大学：システム保存学（保存環境学、修復材料学） ○　京都大学：共生文明学（文化・地球環境論） ○　奈良女子大学：比較文化学（文化史論）	**(2)－③ 連携大学院教育　東京藝術大学：システム保存学（保存環境学、修復材料学）** 次に上げる講義と演習を各教官が担当した。文化財保存学演習（木川）、保存環境計画論（佐野）、保存環境学特論（石崎、木川）、修復計画論（川野邊）、修復材料学特論（中山、北野）	A	順調
7235-01		**(2)－③ 京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進** 　京都大学大学院人間・環境学研究科において 6 名（遺跡調査法論、考古資料分析論、建築遺構分析論、保存科学論、環境考古学論、年輪年代学論）、奈良女子大学大学院人間文化研究科において 3 名（日本考古学の諸問題、歴史資料論、歴史考古学特論）が客員教授・准教授として担当。平成 20 年度の受入学生数は京都大学 12 名であった。	A	順調

定量評価	20 年度	19 年度	目標値	評定
参加者満足度				
埋蔵文化財担当者研修	**100%**	**100%**	**80%**	**A**
保存担当学芸員研修	**100%**	**100%**	**80%**	**A**
埋蔵文化財担当者研修　実施過程	14 課程	13 課程	14 課程	A
延べ人数	170	155	174	B
保存担当学芸員研修　期間	2 週間	2 週間	2 週間	A
受講生	29	32	25	A

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

【中期目標】法人統合のメリットも最大限に生かし、業務の充実かつ効率化を図るとともに、事務、事業、組織等の見直し、外部委託の推進等により、経費の合理化を図ること。
　運営費交付金を充当して行う業務については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、特殊業務経費を除き、5 年間で一般管理費は 15%以上、業務経費は 5%以上の削減を図ること。
　また、「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」（平成 18 年法律第 47 号）に基づき、平成 18 年度以降の 5 年間において国家公務員に準じた人件費削減を行うとともに、国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与体系の見直しを行う。更に、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針 2006」（平成 18 年 7 月 7 日閣議決定）に基づき、国家公務員の改革を踏まえ、人件費改革を平成 23 年度まで継続すること。
　さらに、機構の業務運営に際しては、一般管理業務の本部への一元化、集約化等を図り、統合後 5 年間で、19 年度一般管理費（物件費）の 10%相当の経費を 5 年間で削減を図ること。

1　業務の効率化

【中期目標】--------

【中期計画】

1　職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上に考慮する。また、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、さらに、外部委託の推進等により、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き 5 年期間中一般管理費 15%以上、業務経費 5%以上の業務の効率化を図る。
　　さらに、法人統合のメリットも最大限に生かしつつ業務の効率化に務め、機構の業務運営に際しては、一般管理業務の本部への一元化、集約化等を図り、19 年度一般管理費（物件費）の 10%相当を統合後 5 年間で削減を図る。
　具体的には下記の措置を講じる。
(1) 共通的な事務の一元化による業務の効率化
(2) 使用資源の減少
　・省エネルギー（5 年期間中 1 年に 1．03%の減少）
　・廃棄物減量化（一般廃棄物排出量を 5 年期間中 5%減少）
　・リサイクルの推進
(3) 施設有効使用の推進
　・施設の利用推進
(4) 民間委託の推進
　・一般管理部門を含めた組織・業務の見直しを行い、民間開放をさらに積極的に進める。
　・館の警備・清掃業務について民間委託を推進する。
　・来館者サービスを中心に業務の見直しを行い、民間委託を積極的に進める。
(5) 競争入札の推進
　・契約業者の競合を一層推進することにより、経費の効率化を図る。

【主な計画上の評価指標】

○中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き 5 年期間中一般管理費 15%以上、業務経費 5%以上の業務の効率化を図ること。
○省エネルギー5 年期間中、1 年に 1.03% 減少を図ること。
○施設の有効利用の推進を図ること。
○民間委託の推進を図ること。
○競争入札の推進を図ること。
○保有固定資産について、減損会計の情報（保有目的、利用実績など）を考慮し、充分な推進を図ること。
○官民競争入札等の推進を図ること。

【19 年度評価における主な指摘事項】
○コンプライアンス体制については従来から整備に努めているが、財務に関する内部統制に関して体制の整備・強化が必要である。
○業務経費 5%の削減目標に対し、1 年に 1.03%（5%÷5）減少を図るというやり方はあまりにも数式だけの便法とも判断される。削減項目、削減方法を洗い出し、実現できるものはどんどん進めていくというやり方が望ましい。
○民間委託の推進については、経費削減を図るだけでなく、今後はサービスや安全面等の向上に結ぶつくものでなくてはならない。官民競争入札等の推進にあたってもそれらの点を十分検討する必要がある。
○一般競争入札の促進が数値として判明するような統計処置が必要だと考える。
○文化財の修復における契約のあり方をナショナルセンターとして地方に示してほしい。

<table>
<tr><th rowspan="2">処理
番号</th><th rowspan="2">年度計画</th><th rowspan="2">主な実績</th><th colspan="2">自己評価</th></tr>
<tr><th>年度</th><th>中期</th></tr>
<tr><td>9110</td><td>(1)　各施設の共通的な事務の一元化による業務の効率化
財務、人事、企画事務の共通的な事務の一元化を推進し事務の効率化を図る。
・独立行政法人整理合理化計画（19年12月24日閣議決定）の方針に基づき、国立博物館各館における展覧会企画等について連絡・調整を行い、企画機能強化を図ることとし、その具体的なあり方について平成20年度内に結論を得る。</td><td>(1)　各施設の共通的な事務の一元化による業務の効率化
20年度4月から人事給与システムを一元化し、事務作業の効率化及び費用の削減に努めた。</td><td>A</td><td>順調</td></tr>
<tr><td>9120</td><td>(2)　省エネルギー、リサイクルの推進
1)　光熱水量の使用状況を把握し、管理部門を中心に引き続き節減に努める。　（年間1.03%減少）
2)　廃棄物の分別収集を徹底し、リサイクルを引き続き推進する。（一般廃棄物排出量を年間1.03%減少）</td><td>(2)　省エネルギー、リサイクルの推進
・　光熱水料の節減のため、より安価な契約方法の検討に加え、エネルギー効率の良い機器への交換、日常の節電節水の周知徹底、夏季の軽装励行、冷暖房の省エネ運転等を行った。
・　廃棄物削減では、ミスコピーの防止及び両面印刷の励行、館内LAN・電子メール等の活用による文書のペーパーレス化を行った。
○使用資源の推移等
光熱水料金　（単位：千円）
<table><tr><th>事項</th><th>19年度</th><th>20年度</th><th>差額</th></tr><tr><td>電気料</td><td>397,304</td><td>427,588</td><td>30,284</td></tr><tr><td>水道料</td><td>89,081</td><td>84,044</td><td>△5,037</td></tr><tr><td>ガス料</td><td>114,008</td><td>138,811</td><td>24,803</td></tr><tr><td>計</td><td>600,393</td><td>650,443</td><td>50,050</td></tr></table>○電気・ガスを19年度単価ベースにした場合
<table><tr><th>事項</th><th>19年度</th><th>20年度</th><th>差額</th></tr><tr><td>電気料</td><td>397,304</td><td>390,591</td><td>△6,713</td></tr><tr><td>水道料</td><td>89,081</td><td>84,044</td><td>△5,037</td></tr><tr><td>ガス料</td><td>114,008</td><td>111,955</td><td>△2,053</td></tr><tr><td>計</td><td>600,393</td><td>586,590</td><td>△13,803</td></tr></table>参考）光熱水量使用量
<table><tr><th>事項</th><th>19年度</th><th>20年度</th><th>差額</th></tr><tr><td>電気料</td><td>28,188,500kwh</td><td>27,687,305kwh</td><td>△501,195kwh</td></tr><tr><td>水道料</td><td>160,186 m³</td><td>150,410 m³</td><td>△9,776 m³</td></tr><tr><td>ガス料</td><td>1,805,639 m³</td><td>1,771,924 m³</td><td>△33,715 m³</td></tr></table></td><td>A</td><td>ほぼ順調</td></tr>
</table>

○廃棄物排出量　（単位：kg）

事項	19年度	20年度	増減率（%）
一般廃棄物	237,974	247,491	4.0

○東博（東洋館引越）・京博（平常展示館建替）に伴い排出された一般廃棄物量を差し引いた場合

事項	19年度	20年度	増減率（%）
一般廃棄物	237,974	215,931	△9.3

リサイクル実施例
(1) 廃棄物の分別収集
(2) リサイクル業者への古紙受け渡し
(3) 再生紙の発注等

9131

(3) 施設有効使用の推進

博物館4施設

1) 講座・講演会等を開催する。

2) 講堂等の利用案内を関係団体、学校等に対し積極的に行う。

3) 国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。

文化財研究所2施設

セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を図る。

(3) 施設有効使用の推進

【東京国立博物館】

パーティー、コンサート、撮影への施設利用（平常展も観覧いただくようにし、新たな入館者の開拓も目的とする）、茶室の貸出等の促進による施設の有効利用を図る。

施設名	平成20年度
講堂等	385件
茶室	124件
その他（本館・表慶館・ラウンジ・前庭）	65件
合　　計	574件

入館者の拡大を目的とするコンサートとして
・ハーバード大学男性ア・カペラコーラスグループ「クロコディロス」公演（6月15日　共催：（財）東芝国際交流財団）
・「ファミリーコンサート」（7月20日　共催：東京クラリネットクワイアー）
・「オペラの午後」（12月28日　制作協力：瀧井敬子）
・「エフゲニ・ザラフィアンツ　ピアノコンサート」（6月22日　共催：サロン・ド・ソネット）
等を、講演会として、
・「東大寺講演会」（9月25日　共催：東大寺）
演芸として、
・「新春東博寄席」（1月11日）
など様々なイベントを実施した。

A　順調

9132		**【京都国立博物館】** 講堂等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進を図った。 平常展示館講堂 ・　展覧会等に関する講演会（講座回数 36 回　聴講者数　合計 3,254 名） ・　夏期講座（開催日 3 日間　申込者 177 名　当日参加者　159 名） ・　イベント開催 「京都・らくご博物館」（開催日 3 日 入場者数 525 名） ミュージアムコンサート バロック音楽で綴る「平常展示館ファイナルコンサート（開催日 1 日　入場者 101 名） 「平常展示館ファイナルコンサート」（開催日 1 日 2 回公演　入場者　345 名） 特別展示館 ・　「japan 蒔絵」プレイベントコンサート（開催日 1 日　入場者 184 名） 庭園（丸池周辺） ・　自転車発電エコライブ（開催日 1 日　参加者 約 100 名） また、外部団体等の講演会・研修会等への施設の貸し出しを積極的に行った。 外部使用件数 講堂　　12 件（無料件数含む） 研修室　19 件（　〃　） 茶室　　29 件（　〃　） 計　57 件	A	順調
9133		**【奈良国立博物館】** ・施設の利用 講堂：公開講座（19 回）、サンデートーク（12 回）、正倉院展ボランティア解説（17 日間計 102 回）、世界遺産学習（36 校） ・イベント等の実施（計 28 回） 敷地内：唐招提寺の蓮展示、なら燈花会、音燈華、馬とのふれあいイベント 講堂：まほろば寄席、JRA 競走馬総合研究所特別連続講座、中国琵琶及び揚琴によるコンサート、立松和平氏による講演会 仏教美術資料研究センター：チェンバロコンサート、源氏物語オペラ 地下回廊：競走馬の特別展示、絵画コンクール入賞作品展示、 西新館ロビー：写真と仏画で巡る西国三十三所	A	順調
9134		**【九州国立博物館】** ・文化交流展示室を紹介する講座の開催や各特別展で関連する講演会を開催した。 ・ミュージアムホール、エントランスホール、研修室等において、各種団体主催のイベントを開催するとともに、希望団体にはミュージアムホール、研修室の貸出を行った。 ・各種国際シンポジウム、アジア諸国に関するイベント、留学生の日のイベント等を開催し		

た。
・ガムランワークショップや、コンサートの開催等を継続的に実施し、施設の有効活用を促進した。
ミュージアムホールの利用　72 件
研修室の利用　61 件
その他(ｴﾝﾄﾗﾝｽﾎｰﾙ 外)　60 件

9135 【東京文化財研究所】 A 順調
・セミナー室、会議室等を利用することにより、施設の有効利用の推進を図った。
・研究成果を広く一般にも公表するためのオープンレクチャーを毎年秋に開催。また、このレクチャーは、台東区との連携事業として「上野の山文化ゾーンフェスティバル」の講演会シリーズのプログラムの一つとしても企画された。

9136 【奈良文化財研究所】 A 順調
施設の有効利用及び調査研究の進展並びに行政サービスの向上を包括的にとらえて、事業運営の展開を図った。

施設名	20 年度
平城宮跡資料館講堂	107 件
平城宮跡資料館小講堂	137 件
寄宿舎施設	1,824 件
その他（本庁舎・監理棟・収蔵庫等）	11 件
合計	2,079 件

① 調査研究成果を公表する場として、また、調査研究の進展に資することを目的として多岐
にわたる各研究分野において、講習会・研究会・学会等を開催した。
② 広く国民に文化財への理解を求めるべく、セミナー及び一般参加型のイベント等を開催した。
③ 一般利用申し出への行政サービスの向上を図る方針のもとに、ＨＰ上での施設利用紹介等による積極的有効利用（貸付等）の促進を図った。
④ 奈良文化財研究所が企画実施する研修等に際して、宿泊施設の有効活用を図った。
⑤ 飛鳥資料館講堂において、団体入館者の要望に応えて、大型モニター映像による集合解説を実施した。(年間 17 回・1 回平均 50 名参加)
⑥ 上記のほか、平城宮跡資料館、飛鳥資料館の各ミュージアムショップ（売店）の運営を外部委託し、図録等の販売を通して来館者の利便に供した。

9140 **(4) 民間委託の推進** A 順調
（東京国立博物館）
・電気設備保守業務及び機械設備保守業務の一部を継続して外部委託

(4) 民間委託の推進
・ 電気設備保守業務、機械設備保守業務、売札業務、昇降機設備保守点検業務、各種事務補助作業等について、民間委託を実施している。
・ 博物館の清掃業務については、全ての博物館で民間委託を実施しており、警備・展示室

<table>
<tr><td></td><td>・資料館業務の一部外部委託を継続して実施
・出版企画業務の一部外部委託実施に向け検討
（京都国立博物館）
・看視案内業務、インフォメーション業務及び設備管理業務の一部業務委託
・通用門の受付・案内・警備業務、及び清掃業務の外部委託
（奈良国立博物館）
・建物設備の運転・管理業務の外部委託
・警備及び看視案内の一部並びに売札業務の外部委託
（九州国立博物館）
・建物設備の運転・管理業務の外部委託
・警備業務・看視案内業務の外部委託
（東京文化財研究所・奈良文化財研究所）
・一般管理部門を含めた組織・業務の見直しを行い，民間委託をさらに積極的に進める。
・所の警備・清掃業務について民間委託を推進する。
・来所者サービスを中心に業務の見直しを行い，民間委託を積極的に進める。</td><td>監視等業務についても大部分、民間委託を実施している。また、研究所についても、警備・清掃業務を外部委託している。
・ 来館者サービスに関しては、インフォメーション業務、図書貸出等業務について民間委託を実施している。</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>9150</td><td>(5) 一般競争入札の推進
・一般競争入札を推進することにより、経費の効率化を図る。
・独立行政法人整理合理化計画（19 年 12 月 24 日閣議決定）の方針に基づき、東京国立博物館及び東京文化財研究所の施設管理・運営業務（展示等の企画運営を除く）について、21 年度実施の民間競争入札に向けた準備をする。</td><td>(5) 一般競争入札の推進
・ 一般競争契約の限度額は国の規準と同額としているが、基準額に達しない契約の場合も、可能なものについては一般競争入札を実施している。
・ 新たに電子複写機賃貸借及び保守、職員定期診断、人材派遣契約、空調設備等の運転管理業務他請負、清掃業務、昇降機保守業務、自家用工作物保安業務等を一般競争入札で行い経費効率化を図った。
また、ホームページ作成など一部の契約について企画競争を実施している。

一般競争入札件数
<table><tr><th>年度</th><th>19 年度</th><th>20 年度</th><th>増減</th></tr><tr><td>件数</td><td>98 件</td><td>142 件</td><td>44 件</td></tr></table></td><td>A</td><td>順調</td></tr>
<tr><td>9160</td><td>(6) 自己収入の増大
独立行政法人整理合理化計画（19 年 12 月 24 日閣議決定）の方針に基づき、20 年度中に自己収入の数値目標を策定する。</td><td>(6) 自己収入の増大
・独立行政法人整理合理化計画の勧告に従い、自己収入の増大計画について、具体的な数値目標を立てるべく、ワーキンググループを設け、21 年度計画に反映した。

21 年度計画（抜粋）
(6) 定量的な目標の設定</td><td>A</td><td>順調</td></tr>
</table>

		独立行政法人整理合理化計画（19年12月24日閣議決定）の方針に基づき、外部資金の活用及び自己収入の増大に向けて、以下の定量的な目標の達成を目指す。 1)機構全体において、入場料収入（共催展を除く）及びその他収入について、1.16%の増加を目指す。 2)機構全体において、寄附金226件及び科学研究費補助金76件の確保を目指す。				
		定量評価	**20年度**	**19年度**	**目標値**	**評定**
		一般管理費の効率化（対前年度比%）	0.93%増	7.49%	3.20%	C（A）
		業務経費の効率化（対前年度比%）	6.95%	+7.74%	1.03%	A
		光熱水量費の削減（対前年度比%）	+8.34% （単価を前年ベースにした場合2.30%減）	+1.60%	1.03%	C（A）
		一般廃棄物の削減（対前年度比%）	+4.0%	2.9%	1.03%	C
		統合による経費削減（対前年度比%）	1.52% （施設整備費補助金加算額消費税を除いた場合6.95%減）	4.96%	2.09%	C（A）

2　事業評価の実施及び職員の意識改善

【中期目標】--------	
【中期計画】2　外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回以上事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。	【主な計画上の評価指標】 ○コンプライアンス体制（倫理行動規程の策定、第三者を入れた倫理委員会等の設置、監事による内部統制についての評価の実施）を整備すること。 【19年度評価における主な指摘事項】 ○コンプライアンス体制及び内部統制については、実行プランが全般的に不完全である。また統合作業に追われ年度計画予算の移し替え作業を行わなかったことについては財務に関する内部統制を徹底すべきである。具体的には、予算策定作業、予算統制に不備があったことや問題が発見された際に上司に報告する体制の徹底がなされていないと考えられる。さらに統合業務や日々の照会への対応に追われ上記の点が充分に対応できない問うことであれば財務組織が脆弱（人が足りない）という問題点も考えられる。今後その点について真摯に反省し体制の整備・強化を図っていただきたい。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期

9220	**2　事業評価の実施及び職員の意識改善** 理事長のリーダーシップのもとに、事業を推進する。 1)　自己点検評価や外部有識者による外部評価等を行い、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させる。 2)　各種研修・講習会を通じて、職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図るとともに、職員を外部の研修に派遣し、その資質の向上を図る。	**2　事業評価の実施及び職員の意識改善** 1)　コンプライアンス体制の整備 ○いままで各施設での制定等で運用していた「文化財購入に関する手続き」等の規定について、機構全体として更なる透明性を図る観点から、統一した規定として整備した。 ・「独立行政法人国立文化財機構有形文化財の収集等に関する規程」 ・「独立行政法人国立文化財機構修理契約委員会要項」 ・公募・企画競争に係る手続き等に関する標準マニュアル ○決算事務のスムーズな実施のため、「決算業務について」及び「20 年度決算スケジュール」等について事務局長通知を行うなど、法人本部と各施設担当者での情報の共有に努めた。 2)運営改善コンクールを開催し、職員の意識及び意欲の向上を図った。 ○スケジュール 7 月 1 日～ 7 月 31 日　募集 11 月 18 日　審査委員会開催(委員長 :佐々木理事長) 12 月 11 日　表彰 ○応募総数　39 件 ○結果　佳作　4 件 ・生理用品の自動販売機の設置 ・撮影者申込増加のための撮影紹介パンフレット作成・HP の掲載方法の修正 ・研究者一覧（データベース）の作成 ・機構内規程集のウェブ化	A	順調

3　機構が管理する情報の安全性向上

【中期目標】--------

【中期計画】3　機構が管理する情報の安全性向上のため、必要な措置をとる。	**【主な計画上の評価指標】** ○機構が管理する情報の安全性向上のため、必要な措置をとること。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
9320	**3　機構が管理する情報の安全性向上のため、必要な措置をとる。** 機構が管理する情報の安全性向上の方策について、19 年度の検討を基に、具体的な方針を策定する。	**3　機構が管理する情報の安全性向上のため、必要な措置をとる。** 1)機構情報システム管理規程に基づく規定の策定 20 年度は 19 年度に策定した「独立行政法人国立文化財機構 情報システム管理規程（平成 20 年 3 月 14 日制定）に基づき、機構においては以下の規定を策定した。	A	順調

		・情報課委員会組織要項 ・情報格付け基準 ・情報セキュリティ対策要項 ・ネットワーク管理運用要項 ・情報システム調達・導入基準 ・セキュリティインシデント対応手順 ・情報システム点検・評価要項 ・情報システム監査要項 2)情報システム点検・評価の実施 情報システム点検・評価要項に基づき、ⅰ)各施設で規定する手順等の整備状況、ⅱ)物理的・技術的セキュリティ対策の実施状況等について、各施設で自己点検評価を実施し、各施設における情報セキュリティ体制のさらなる整備に努めた。 3)情報システム監査の実施 20 年度は奈良国立博物館を対象に実施した。		

4　人件費の抑制

【中期目標】

【中期計画】4「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」（平成 18 年法律第 47 号）に基づき、国家公務員に準じた人件　費改革に取り組み、平成 18 年度からの 5 年間において、△5%以上の人件費削減を行う。また、国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与体系の見直しを行う。更に、「経済財政運営と構造改革に関する基　本方針 2006」（平成 18 年 7 月 7 日閣議決定）に基づき、国家公務員の改革を踏まえ、人件費改革を平成 23 年度まで継続する。ただし、今後の人事院勧告を踏まえた給与改定分については削減対象から除く。また、削減対象の「人件費」の範囲は、各年度中に支給した報酬（給与）、賞与、その他の手当の合計額とし、退職金、福利厚生費　は含まない。

その際、役職員の給与に関し、国家公務員の給与構造改革を踏まえた、地場賃金の適正な反映、年功的な給与上昇の抑制、勤務実績の給与等への反映等に取り組む。

【主な計画上の評価指標】

○平成 18 年度からの 5 年間において△5%以上の人件費削減を行う。

○また、役職員の給与に関し、国家国務院の給与構造改革を踏まえた、地場賃金の適正な反映、年功的な給与上昇の抑制、勤務実績の給与等への反映等に取り組むこと。

【19 年度評価における主な指摘事項】

○職員があまりに多忙で目標を持てないようであれば、機構のミッションを改めて確認し、かけがえのないすばらしい職場であることを認識できるような何らかの体制づくりも必要と考える。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
9440	4　「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律（平成 18 年法律第 47 号)」「経済財政運営と構造改革に関する基本方針 2006（平成 18 年 7 月 7 日閣議決定)」を踏まえ、人件費の抑制を図る。	・人件費削減実績	A	順調

	17年度（A分類実績ベース）	18年度	19年度	20年度	22年度目標値（17年度に比して△5.00%）
実績（千円）	2,878,750	2,789,360	2,773,688	2,745,389	2,734,812
前年度に対する削減率	－	△3.11%	△0.56%	△1.02%	－
17年度に対する削減率	－	△3.11%	△3.65%	△4.63%	－
17年度に対する削減率（補正値）	－	△3.11%	△4.35%	△5.33%	－

・人事給与統合システムが平成20年4月から稼働し、機構全体として統一的な処理ができるようになった。さらに人件費の削減に向けたシミュレーション等により人件費に関する計画を企画・立案することができた。

定量評価	20年度	19年度	目標値	評定
5年で5%の人件費削減（17年度比）	4.63%	3.65%	22年度までに5.0%削減	A

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

【中期目標】税制措置も活用した寄付金や自己収入の確保、予算の効率的な執行等に努め、適切な財務内容の実現を図ること。

1　**自己収入の増加**

税制措置も活用した寄付金などの外部資金、施設使用料等の財源の 多様化を図り、法人全体として積極的に自己収入の増加に努めること。

また、自己収入額の取り扱いにおいては、各事業年度に計画的な収　支計画を作成し、当該収支計画による運営に努めること。

2　**固定的経費の節減**

管理業務の節減を行うとともに、効率的な施設運営を行うこと等により、固定的経費の節減を図ること。

【中期計画】管理業務の効率化を図る観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算による運営に努める。

また、収入面に関しては、実績を勘案しつつ、税制措置も活用した寄付金などの外部資金、施設使用料等の財源の多様化を図り、法人全体として積極的に自己収入の増加に努めることにより、計画的な収支計画による運営を図る。

【主な計画上の評価指標】

○外部資金等を積極的に導入することにより、計画的な収支計画による運営を図ること。
○適切な効率化を見込んだ予算による運営に努めること。
○税制措置も活用した寄附金などの外部資金、施設利用等の財源多様化を図ること。
○法人全体として積極的に自己収入の増加に努めること。
○総利益を計上した場合には目的積立金を申請すること。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	予算 （単位：百万円） 区　分 / 金 額 収入 運営費交付金 8,772 施設整備費補助金 1,698 展示事業等収入 1,109 受託収入 26 計 11,605 支出 管理経費 2,398 うち人件費 909 うち一般管理費 1,489 業務経費 7,483 うち人件費 2,727			

うち調査研究事業費	1,445
うち情報公開事業費	156
うち研修事業費	22
うち国際研究協力事業費	305
うち展示出版事業費	158
うち展覧事業費	2,549
うち教育普及事業費	121
施設整備費	1,698
受託事業費	26
計	11,605

収支計画

（単位：百万円）

区　　分	金 額
費用の部	7,967
経常経費	7,967
管理経費	1,839
うち人件費	909
うち一般管理費	930
業務経費	5,696
うち人件費	2,727
うち調査研究事業費	902
うち情報公開事業費	97
うち研修事業費	14
うち国際研究協力事業費	190
うち展示出版事業費	99
うち展覧事業費	1,591
うち教育普及事業費	76
受託事業費	26
減価償却費	406
収益の部	7,967
運営費交付金収益	6,426
展示事業等の収入	1,109
受託収入	26

資産見返運営費交付金戻入	155
資産見返物品受贈額戻入	251

資金計画

（単位：百万円）

区　　分	金 額
資金支出	11,605
業務活動による支出	7,561
投資活動による支出	4,044
資金収入	11,605
業務活動による収入	9,907
運営費交付金による収入	8,772
展示事業等による収入	1,109
受託収入	26
投資活動による収入	1,698
施設整備費補助金による収入	1,698

Ⅳ　その他主務省令で定める業務運営に関する事項

【中期目標】

1　人事管理（定員管理、給与管理、意識改革等）、人事交流の適切な実施により、内部管理事務の改善を図ること。また、効率的かつ効果　的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用すること。

2　業務の目的・内容に適切に対応するため長期的視野に立った施設・設備の整備計画を作成し、整備をすること。

【中期計画】

1　人事計画に関する計画

(1) 方針

①国家公務員制度改革や類似独立行政法人等の人事・給与制度改革の動向を勘案しつつ、職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討し、導入する。

②調査研究の機動的実施など研究を効率的かつ効果的に実施するため、任期付研究員制度を導入する。

③人事交流を促進するとともに、職員の資質向上を図るための研修機会の提供に努める。また、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用する。

(2) 人員に係る指標

常勤職員については、その職員数の抑制を図る。

（参考 1）

1) 期初の常勤職員数　367 人

2) 期末の常勤職員の見込み　355 人

（参考 2）中期目標期間中の人件費総額見込額

14,343 百万円

但し、上記の額は、役職員に対し支給する報酬（給与）、賞与、その他の手当の合計額であり、退職金、福利厚生費を含まない。

2　別紙のとおりの施設整備に関する計画に沿った整備を推進する。

【主な計画上の評価指標】

○

【19 年度評価における主な指摘事項】

○任期付研究員制度の積極的な活用と人事交流の活性化を並行して進めていくことを期待する。人事交流については、特に管理部門を中心に民間との流動性を図るよう検討する必要がある。

○事務系職員の場合、従前の国家公務員では何の変化ももたらさないのではないかと思われることから、もっと刷新する手段としては、民間人の登用なども念頭に置くべきと思われる。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
0110	1　人事に関する計画 (1)近隣大学等との交流を進め、優秀な人材を確保する。	**(1)　人事交流** 〈事務系職員〉 ・本部事務局及び各施設において、東京大学、京都大学、大阪大学、九州大学及び西洋美術館等との人事交流を実施し、人材の確保と適材適所の人員配置を行った。 ・また、東京都特別区との人事交流を実施し、職員の能力向上を図った。 〈研究系職員〉	A	順調

		・職員の適性・能力、年齢構成及び業務の効率化など総合的に勘案し、新規に研究職員を 17 名採用した。 ・また、文化庁（13 名）との人事交流を行っている。		
0120	(2)各種研修を積極的に実施し、また、職員を外部の研修に派遣するなど、その資質の向上を図る。	**(2) 職員の資質向上** 機構職員としての資質向上を図るため、新任職員や職員を対象とした各種研修（3 件）及びハラスメントに関する研修（1 件）を実施した。また、他機関で実施する研修に積極的に参加した。	A	順調
0130	(3)非公務員化のメリットを活かした制度の活用方法について引き続き検討する。	**(3)非公務員化のメリットを活かした制度の活用** ・平成 19 年度において、技術職員及び技能・労務職員について、当面対象とする職種を絞って機構独自で採用可能とする規定の整備を行ったところである。平成 20 年度において技術職員（写真技士）を京都国立博物館で 1 名、また労務職員（衛士）を奈良国立博物館で 1 名採用した。 ・平成 20 年度においては、さらに上記規定の適用を広げ、新たに施設の維持管理を行う技術職員（電気）を東京国立博物館で 1 名、技術職員（写真技士）を奈良国立博物館で 1 名独自選考を実施し、平成 21 年 4 月に採用予定である。 ・平成 20 年度において、常勤の研究職員に準じた有期雇用職員の人事制度を新たに整備した。これは、専門的事項の調査研究を行う研究職と高度な専門知識と経験等を有する専門職を対象として採用可能とするものである。その結果、平成 20 年度に東京国立博物館で 1 名及び東京文化財研究所で 3 名を採用した。	A	順調
	2 施設・設備に関する計画 別紙のとおり **施設・設備に関する計画** （単位：百万円） 施設・整備の内容 / 予定額 / 財源 京都国立博物館 平常展示館建替工事（19 年度～24 年度） / 1,699 / 施設整備費補助金			

Ⅱ 20年度自己点検評価報告書　個別表

i 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1111

中項目	1　歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

事業名	(1)－1　適時・適切な収集			
担当者	担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	列品管理課長　谷　豊信
実績・成果	・国民共有の貴重な財産として永く後世へ伝えられるべき、優れた作品7件（内、重要文化財2件）を購入した。 ・運営費交付金に加えて、寄付金800万円を得ることができ、計2億3,000万円を収蔵品購入にあてることができた。 内訳：絵画１件（内、重文１件）、 書跡１件、彫刻２件（内、重文１件） 漆工１件、染織２件 決算額　２億3,000万円			
補足事項	・重要文化財「般若菩薩像」（絵画）は、独尊の画像であり、類例が知られていない貴重な資料である。色調も明るく、保存状態がよく展示効果も高い。 ・重要文化財「十二神将立像 申神」は京都の浄瑠璃寺伝来と伝えられる12躯の一つ。色調もよく残っており、展示効果が高い。 ・豊臣秀吉直筆の書状は、聚楽第普請に関わる内容であり、太閤記などで広く知られた人物も登場する。展示に供すれば観覧客の注目をあつめるものと期待される。 ・上記の書状は、寄付金によって購入することができた。寄付金による購入は、国の時代には、難しかったことであり、独立行政法人制度の特色を生かしたものである。	 購入品　重要文化財　般若菩薩像		

定量的評価

項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
収蔵品件数	112,529件	－	－	経	111,559	111,588	112,439	112,529
うち国宝	87件	－	－	年	88	88	87	87
うち重要文化財	622件	－	－	変	611	612	619	622
購入件数	7件	－	－	化	29	10	13	7

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。 （東京国立博物館） 日本を中心にして広く東洋諸地域にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1112

中項目	1　歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

事業名	(1)－1　適時・適切な収集			
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　若杉準治
実績・成果	・博物館展示の活性化と高次の調査研究の対象となり、国民が文化の豊かさを実感することができる貴重な作品8件を購入した。 ・購入に際しては中期目標にもあるとおり、「京都文化」を意識しているが、今年度は京狩野の絵画2件、京都の寺院及び旧家伝来の作品各1件、ゆかりのある作品1件を購入できた。 ・内訳：絵画7件　染織1件 ・決算額　1億4,515万円			
補足事項	・明皇貴妃図屏風は、 京狩野の二代である狩野山雪の手になる金地濃彩画の優品で、同じく京狩野の永良の手になる白梅群鶏図とともに、将来に計画されている「京狩野展」での活用が期待される。 ・蹴鞠寿老図は平成17年に開催した「蕭白展」が契機となって新出した作品で、小品ながら、曽我蕭白のユーモラスな一面を見せる。			



耕作図屏風　伝狩野元信筆　6曲1隻

・耕作図屏風は「室町時代の狩野派」で初出品された作品で、狩野元信真筆の可能性を残す重要な作品である。
・王寅筆山水図押絵貼屏風は、清末の来泊画人と知られる王寅の三度目の在日時の制作になる大作で、日中の文化交流を語る資料としても重要である。
・「すゝか」奈良絵本改装絵巻は、坂上田村麻呂を主人公にした異類退治の物語で、鞍馬寺の毘沙門天や清水寺の観音など京都の寺院縁起との関連を持つ点で京都国立博物館にふさわしく、また同類他本に比して絵を豊富に含む点でも価値が高い。
・羅地刺繍釈迦阿弥陀二尊図は、染織史からも仏教美術史からも重要でありながら、京都国立博物館にはこれまで所蔵がなかった繍仏資料として初の収集品である。
・護摩爐壇形図像は、密教修法に際して整えられる護摩壇を図示したもので、京都の高山寺に伝来していたことが明らかな、鎌倉時代初頭の白描図像として貴重な作品である。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
収蔵品件数	6,417件	－	－		6,260件	6,320件	6,386件	6,417件
うち国宝	27件	－	－		27件	27件	27件	27件
うち重要文化財	177件	－	－		181件	181件	177件	177件
購入件数	8件	－	－		19件	17件	36件	8件

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。 （京都国立博物館） 京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1113

中項目	1　歴史・伝統文化の保存の継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

事業名	(1)－1　適時・適切な収集			
担当者	担当部課	学芸部企画室	事業責任者	企画室長　稲本泰生
実績・成果	彫刻部門 1 件（木造南無仏太子立像＝1 躯、鎌倉時代）、絵画部門 1 件（聖徳太子及び道慈律師像＝2 幅、室町時代）、書跡部門 4 件（額安寺大塔供養願文＝1 巻、鎌倉時代。大方広如来不思議境界経＝1 巻、平安時代。蘇磨呼童子請問経・巻下＝1 巻、平安時代。額安寺文書＝5 巻、鎌倉～南北朝時代）、金工部門 1 件（金銅独鈷杵＝1 口、鎌倉時代）以上計 7 件の文化財を購入し、新たな館蔵品とした。決算額は 9 千万円であった。			
補足事項	① 彫刻部門の新規購入品は多くの遺品がある南無仏太子像の中でも古例に属し、かつ作行もすぐれ、平常展・企画展の構成に大きく貢献すると考えられる。 ② 彫刻以外の 6 件の旧所蔵者は、いずれも大和郡山市・額安寺である。今回の購入によって、奈良地方の文化財の巷間への流出・散佚を防止し、かつまとまった資料群としての一体性を保持しえたことは、「南都古社寺伝来の文化財の調査研究・収集・公開を行う機関」としての、当館が担うべき社会的責任に鑑みても、重大な意義を有する。 ③ 絵画部門の新規館蔵品は対幅をなすが、聖徳太子像はいわゆる「水鏡御影」の古例として、道慈律師像は奈良時代の高僧・道慈の現存唯一の肖像として、ともに非常に高い資料的価値を有しており、今後の展示構成を行う上で大きな意義をもつ。 ④ 書跡部門 4 件のうち額安寺大塔供養願文及び額安寺文書は額安寺の歴史に関わる重要な史料である。ことに前者は華麗な装飾が施され、二件の古写経とともに高い展示効果が期待できる。また工芸部門の 1 点も西大寺系の律僧・忍性に関わる伝承をもつ優品である。いずれも当館が特に力を入れている南都の仏教及び仏教美術の歴史に関する調査研究・展示活動の一層の充実を図る上で、大いに活用が可能な文化財である。	 絹本著色聖徳太子像		

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	収蔵品件数	1,805 件	－	－	経年変化	1,736	1,790	1,794	1,805
	うち国宝	12 件	－	－		12	12	12	12
	うち重要文化財	100 件	－	－		96	98	99	100
	購入件数	7 件	－	－		5	0	2	7

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、F の理由）
中期計画記載事項	体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。 （奈良国立博物館） 仏教美術を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1114

中項目	1　歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

事業名	(1)－1　適時・適切な収集			
担当者	担当部課	文化財課	事業責任者	資料登録室長　小林公治
実績・成果	・日本とアジア諸国との文化交流を中心とした文化財を収集する当館の設置目的に則し、且つ国民共有の貴重な財産として長く後世へ伝えられるべき優れた作品30件を購入した。 （うち重要文化財１件） 内訳：絵画６件　書跡７件　彫刻１件　陶磁１件 漆工２件　染織７件　考古４件　歴史資料２件 決算額　５億7,148万円			
補足事項	・絵画分野の購入品は、朝鮮時代 16 世紀山水画、室町時代狩野派絵画であり、それぞれ当館の代表的所蔵品として活用が期待される。 ・書跡分野購入品は南北朝時代高僧の墨跡として貴重かつ重要文化財に指定された名品であり、中国との文化交流を語る歴史資料としても活用できる。 ・彫刻分野購入品は朝鮮半島新羅時代の特徴をよく示す如来立像であり、東アジアの古代金銅仏の一として活用できる。 ・陶磁は柿右衛門様式の色絵磁器置物であり、希少且つ優品である。 ・漆工分野の購入品は中国南宋時代の堆朱および高台寺様式の蒔絵の優れた作品である。 ・染織分野購入品３件は、いずれも琉球の紅型で、当館では初めての購入品として今後の活用が期待できる。 ・歴史資料分野の購入品は、ほとんど購入の機会のないベトナムの村落関係文書類一括である。日本でも希有の収蔵品として今後の研究や活用が期待される。			



重要文化財
「孤峯覺明墨蹟与保樹大姉法語」

定量的評価

項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
収蔵品件数	370件	—		経年変化	237	281	333	370
うち国宝	3件	—			3	3	3	3
うち重要文化財	25件	—			21	23	24	25
購入件数	30件	—			9	26	42	30

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	日本とアジア諸国との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1121

中項目	1　歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

事業名	(1)－2　寄贈・寄託品の受入と活用			
担当者	担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	列品管理課長　谷　豊信
実績・成果	・作品の寄贈は 81 件に上った。 ・新規寄託は 38 件（内、重文 2 件)。 ・寄託減は 31 件（内、重文 5 件）であった。内、当館に寄贈となったものが 2 件、当館が購入したもの 2 件（内、重文 2 件)、九州国立博物館への寄託変更 2 件（内、重文 1 件)、所蔵者による取り下げが 25 件(内、重文 4 件)であった。その結果、寄託総数は 2,750 件（国宝 53 件、重文 260 件）となった。 ・登録美術品については、増減がなかった。			
補足事項	・文化財のご寄贈は、所有者の意思によるものであり、毎年、ご寄贈のお申し出があることは、文化財保存のため当館が努力していることが高く評価されていることの表れと考えられる。 ・個人収集家・社寺などに働きかけた結果、38 件の新規寄託があり、平常展と研究の充実をはかることができた。寄託減も 31 件あるが、所蔵者の経済的事情によると思われる取下げのほかにも、当館への寄贈、当館の購入もあり、また寄託先を地元の博物館等に変更する動きなどもあり、理由は単純ではない。 ・寄託品の数と質を維持していくために、今後も所蔵者に寄託を働きかける必要がある。 ・登録美術品制度は、個人所有の文化財の公開促進のため文化庁が推奨している制度であり、今後も文化庁と連携をとりつつ適切な運用を図る。	 新規寄託品　　重要文化財 刀　金象嵌銘　来国次　本阿（花押）		

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	寄贈品件数	81 件	－	－	経年	144	71	26	81
	寄託品件数	2,750 件	2,400 件	A	変化	2,718	2,773	2,743	2,750
	うち新規寄託品件数	38 件	－	－		376	94	17	38
	登録美術品件数	3 件	－	－			3	3	3

年度実績 評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、F の理由）
中期計画 記載事項	収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1122

中項目	1　歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

事業名	(1)－2　寄贈・寄託品の受入と活用			
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　若杉準治
実績・成果	（寄贈） ・今年度、寄贈は21件で、寄贈者は8人であった。 内訳　絵画5件　陶磁1件　漆工9件　染織4件　考古2件 （寄託） ・今年度の新規寄託は111件。建替工事中のため平常展示での活用はできないが、例年通りの数があり、研究資料として、また特別展覧会での活用が見込まれる。 内訳　絵画42件　書跡9件　彫刻3件　陶磁25件　漆工14件　染織4件 考古10件　金工4件			
補足事項	・寄贈では、実業家で歌人としても知られる川田順氏の収集品を子孫の川田泉氏より絵画、人形をご寄贈いただき、また京都の伝統工芸、漆工の工房の関係者である西村要象氏の収集品から絵画、漆工の寄贈があった。 ・寄託では、妙心寺方丈の襖絵 102 面の一括寄託があり、春の妙心寺展で早速活用した。 ・春に開催した「河鍋暁斎」展の出品作品及び関係資料 2 件の寄託もあり、特別展覧会が寄託品の充実に寄与した例として特筆される。 ・また染織で、檀王法林寺から繍仏 3 点の寄託があり、初の館蔵品となった購入の繍仏の研究資料として、また計画中の浄土教関係の特別展覧会への活用が期待される。 ・寄託品の返却件数　120 件			


薄蒔絵文庫

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	新規寄贈品件数	21 件	－	－	経年	6	42	30	21
	寄託品件数	6,145 件	6,000 件	A	変化	6,197	6,179	6,154	6,145
	うち新規寄託品件数	111 件	－	－		－	104	117	111

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1123

中項目	1　歴史・伝統文化の保存の継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

事業名	(1)－2　寄贈・寄託品の受入と活用			
担当者	担当部課	学芸部企画室	事業責任者	企画室長　稲本泰生
実績・成果	寄贈については、書跡部門において 3 名の所蔵者から計 4 件の受け入れを行った。寄託については新規に 15 件（うち重要文化財 2 件）の受け入れを行い、総数は 2,067 件を数えるに至った。			
補足事項	① 質の高い書跡 4 点の寄贈を受け、館蔵品を充実させることができた。うち佑賢和歌懐紙（春日懐紙）、春日版板木（顕揚聖教論巻第十一）、東大寺中興縁起の 3 件は南都に開花した宗教文化の貴重な史料であり、奈良に立地する当館の蔵品に相応しい。また、6 字河臨法も、非常に興味深い内容を含む修法次第の貴重な写本であり、仏教美術を主柱とする当館の展示に広く活用できる品である。なお、寄託品については、23 件（国宝 5 件、重文 4 件含む）を寄託者に返却した。 ② 特別展「天馬－シルクロードを翔ける夢の馬」に際して借用した鎌倉時代絵画の名品、観音経絵（石川・本土寺蔵、重要文化財）及び熊野垂迹神曼荼羅（滋賀・錦織寺蔵）を寄託品に加えることができたことは、特別展を契機に強化された所蔵者との信頼関係が、寄託品の増加につながった好例として特筆される。 ③ 鎌倉時代の大仏殿様四天王像の新出資料で、鮮やかな彩色がのこる現光寺四天王像を平常展で公開するなど、前年度に新規寄託を受けた文化財を積極的に活用し、当館の展示内容を充実させることができた。			



本土寺蔵　絹本著色観音経絵

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	新規寄贈品件数	4 件	－	－	経年変化	4	54	2	4
	寄託品件数	2,067 件	2,060	A		1,951	1,957	2,057	2,067
	うち新規寄託品件数	15 件	－	－		15	38	113	15

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、F の理由）
中期計画記載事項	国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1124

中項目	1　歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

事業名	(1)－2　寄贈・寄託品の受入と活用			
担当者	担当部課	文化財課	事業責任者	資料登録室長　小林公治
実績・成果	寄贈 7 件（重要美術品 1 件 2 点） （内訳　刀剣 2 件、陶磁 1 件、考古 4 件） 　分野としては上記 3 分野にわたる寄贈がある。考古遺物は日本国内九州の出土品のほか、古く海外で出土し重要美術品に指定されていたものがある。また江戸時代に欧米に向けて輸出された陶磁器など、優れた文化財の寄贈を受けた。 新規寄託 46 件 （内訳　彫刻 2 件、書跡 2 件、陶磁 6 件、染織 4 件、考古 32 件） 　5 分野にわたる寄託を受けた。このうち彫刻は対馬に長く伝世された朝鮮渡来の仏像 2 体や、北部九州で出土したとされる、まとまった経筒類の寄託を受けるなど、今後の活用が大いに期待される充実した内容となった。			
補足事項	・寄贈品のうち刀剣類については、室町時代長船派初代康永の作品を含む中近世を中心としたコレクションの一括寄贈であり、今後の活用が期待できる。 ・陶磁器の寄贈品は、有田で近世に製作された大形の輸出用有蓋壺で、里帰り品であり、当館の目的とも合致した優品である。 ・考古寄贈品は、戦前より重要な楽浪遺物として紹介され、また重要美術品として指定されていた 2 件や日本国内外の出土遺物であり、今後の活用が期待できる。 ・寄託品のうち、書跡はいずれも九州に縁の深い江戸時代人物のものであり、展示等に活用が期待される。 ・陶磁類は、西アジアの古代ガラス瓶などであり、当館でより充実した交流史展示への活用が期待できる。 ・考古遺物は、北部九州出土の経筒類や中世の中国・高麗鏡などであり、まとまった資料として活用できる。 ・染織は、琉球などを中心としたもので、活用が期待される。	 重要美術品　嵌玉金銅熊脚		

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	寄贈品件数	7 件	—	—	経年変化	19	6	10	7
	寄託品件数	1,105 件	350 件	A		404	1,506	1,091	1,105
	うち新規寄託品件数	46 件	—	—		404		214	46

年度実績 評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、F の理由）
中期計画 記載事項	収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1211-1

中項目	1　歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

事業名	（2）適切な管理・保存　(1/2)			
担当者	担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	列品管理課長　谷　豊信
実績・成果	・列品とすべき歴史資料と和書の整理・登録作業を行なった。 ・本年度から RFID・バーコード等を利用して収蔵品の所在情報を電子的に記録するシステムの開発を始めた。 ・列品管理に万全を期すため、列品情報整備事業を今年度から開始した（平成 25 年度まで継続の予定)。 ・来年度から東洋館の耐震補強工事が実施されることなったため、東洋館の収蔵品を避難するため準備作業を行った。			
補足事項	・本年度は歴史資料 326 件を列品に登録した。 ・所在情報記録システムの実証実験は、東洋漆工分野の全列品 500 余件を対象に実施した。小規模ではあったが、RFID・バーコード等を使用することによって、簡便な操作によって収蔵品の所在を確実に記録することができることを確認した。			



RFID タグによる収蔵品所在確認の実証実験

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	―	―	―	―	経年変化				

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	国民共有の財産である文化財を永く次世代へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1211-2

中項目	1　歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

事業名	(2) 適切な管理・保存　(2/2)			
担当者	担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	保存修復課長　神庭信幸

実績・成果

・収蔵庫及び展示室など 346 地点の温湿度を計測し、環境の評価及び処置を実施した。空気環境に関しては、収蔵庫及び外気など 33 地点におけるアルデヒド類及び有機酸類などを計測した。環境評価に基づき、除加湿器の設置、フィルターの交換などの措置を講じた。
・収蔵庫など 479 地点における生物生息状況を冬季と夏季の 2 回にわたり調査した。また、ゴキブリなどの生活害虫を防除するため、夏季に防虫薬剤を全館に設置した。
・展示場及び収蔵庫における地震対策として、特にガラス器や土器などの考古遺物の展示固定方法について検討を加え、転倒による破損を防ぎ、かつ外観を損なわない展示支持具の製作を行った。
・本格修理のための列品調査、対症修理の実施、列品貸与の点検として合計 2,693 件の保存カルテを作成した。
・収蔵庫、展示室など 178 箇所の温湿度に関し、その状態から 3 段階に環境を分類（クラスⅠ、Ⅱ、要注意）した平成 19 年次報告書を作成した。
・列品の貸与・返却及び借用の際に、輸送中の梱包ケース内とトラックなどの輸送機材に発生する振動・衝撃に関し、国内外合わせの計 11 件（薬師寺展、クレムリン博物館貸与品）の輸送を調査した。

補足事項

・列品の輸送中の振動衝撃に関する調査では、飛行場内におけるドリー牽引時の振動・衝撃が大きいことが明らかになり、それについて具体的な対応を検討する時期に来ている。



ドリーによる梱包ケースの牽引

定量的評価

項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
保存カルテ	2,693	500 － － －	－ － － －	経年変化	918	1,392	1,725	2,693

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1212

中項目	1　歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

事業名	(2) 適切な管理・保存			
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　若杉準治
実績・成果	・平常展示館の建て替えに伴い、同館内収蔵庫から館蔵品、寄託品のすべてを東収蔵庫等に移動した。 ・展示室及び収蔵庫における適正な温湿度管理を行った。 ・特別展示館耐震診断業務の結果報告を行った。 ・半年ごとに実施している寄託品の期間継続にともなう点検を着実に実施した。 ・館蔵品に係る保存カルテを作成した。 　実績　174件			
補足事項	・空調設備機器については予防的なメンテナンスときめ細かな運転監視を行い、展示室及び収蔵庫の温湿度環境の適正管理を行っている。 ・将来構想検討委員会において、特別展示館耐震診断業務の結果報告がなされた。これを受け、引き続き建設事業小委員会において耐震補強の工法、方針等を検討することとなった。 ・館蔵品の保存カルテについて、目標以上に作成でき、館蔵品の保存状況についての情報蓄積が進んだ。			

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	保存カルテ作成件数	174 件	100 件程度	A		91 件	96 件	140 件	174 件

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1213

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

事業名	(2)適切な管理・保存			
担当者	担当部課	学芸部　保存修理指導室	事業責任者	上席研究員　鈴木喜博

実績・成果

・館内の文化財害虫生息状況を把握するため、文化財の保管および展示にかかわる個所を中心に防虫トラップを定期的に設置して回収した。昨年度の 11 月から始めており、1 年余りの調査結果を蓄積した。

・展示室および展示ケース内の温湿度の管理を図るため、無線ランによるリアルタイムの温湿度管理システムの構築を図り、春の「天馬展」、夏の「法隆寺展」で実験的に実施し、「西国三十三所展」で本格的に実施した。「正倉院展」ではさらに内容を深めたシステムを構築した。これによって、かかる温湿度管理については科学的判断のもとで即応することが可能になった。

補足事項

・防虫トラップは昨年度と同様に、展示室収蔵庫文化財修理所等 150 箇所に設置し、1 か月ごとに回収したものを外部業者に調査委託した。3 年間のデータの蓄積が必要とされており、引き続き実施する予定である。

・無線ランによる温湿度管理システムは引き続き、後半の特別陳列でも構築して実施した。
・また以前からの毛髪計およびデータロガの温湿度計も引き続き使用し、計測機器の正確度を高めた。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
保存カルテ作成件数	108 件	100 件	A	経年変化	104	102	103	108

年度実績評価総括

S　Ⓐ　B　C　F
（S、Fの理由）

中期計画記載事項

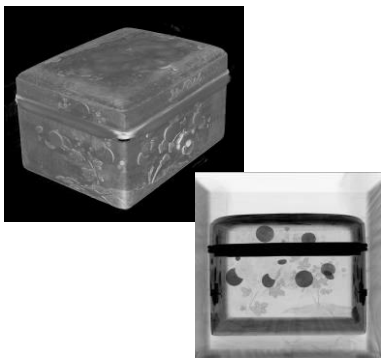
国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1214

中項目	1　歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

事業名	(2)　適切な管理・保存			
担当者	担当部課	博物館科学課	事業責任者	環境保全室長　今津　節生
実績・成果	①収蔵庫・展示室等 250 ヵ所に粘着トラップを設置し定期的モニタリングを実施し害虫侵入箇所と館内の害虫の生息状況を早期発見対処した。文化財搬入に際し、殺虫殺黴処理を実施した。ボランティア活動との連携により IPM 活動の普及に努めた。 ②常設展示室 70 箇所、特別展示室 30 箇所に温湿度計を設置して、環境データを解析した。 ③展示品を中心に、X 線 CT スキャナや三次元計測装置を用いて保存状況と構造調査を実施した。測定結果は予防的保存に役立てると共に展示に反映した。 ④保存カルテ　文化交流展示室の露出展示資料や寄贈資料および修理資料を中心に 289 件を作成した。 ⑤収蔵庫 26 箇所に温湿度計を設置して環境データを解析した。また、空気質を調査して館内汚染物質の軽減を図り、収蔵環境の改善を行った。			
補足事項	・ 市民協同型ＩＰＭ活動に関する科学研究費により、ボランティア活動へのさらなる指導支援をすすめることができた。 ・ 環境データを解析しながら外気の環境変化に合わせて微調整することで、極めて安定した展示環境を維持することができた。その結果、±1℃、±5%RH の展示環境を達成した。 ・ 収蔵庫環境は外気の環境変化に合わせて微調整することで、±1℃、±2%RH の安定した保存環境を達成した。 ・ 展示品・収蔵品を中心に X 線 CT スキャナや三次元計測装置による調査を実施し、研究成果を当館紀要に公表すると共に、菊蒔絵手箱のように展示に反映した。 ・ 開館 4 年目で展示・収蔵環境をより安定させることができた。今後は安定化を維持したままで、より一層の効率化を図りながらエネルギーの削減に寄与したい。			



X 線 CT スキャナを用いた
菊蒔絵手箱の調査

定量的評価

項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
保存カルテ作成件数	289 件	200 件	A	経年	500	205	252	289
CT スキャン調査	40 件	－	－	変化	－	3	35	40
三次元計測	42 件	－	－		－	5	20	42
殺虫殺黴処置	6 件	－	－		12	2	5	6

年度実績 評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、F の理由）
中期計画 記載事項	国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、展示場、収蔵庫の労朽化に対応するとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1311

中項目	1　歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

事業名	(3)　計画的な修理			
担当者	担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	保存修復課長　神庭信幸

実績・成果

1)修理計画立案に向けて、修理候補作品の選定のために新たに指定・未指定合わせて 563 件の作品の調査を実施した。これまで調査を終えたものと合わせ約 2000 件の作品が今後の修理計画に反映される。調査には必要に応じ X 線透過撮影、光学実体顕微鏡なども使用した。指定品については、国宝絵画 1 件について具体的な修理計画の策定を開始し、修理方針案の作成を行った。
2)作品の応急（対症）修理を 690 件実施。本格修理を 75 件実施した。
3)データベース構築のために 19 年度本格修理 101 件の修理内容についてデジタル化を実施した。18 年度に実施した本格修理に関して、東京国立博物館文化財修理報告書Ⅸを刊行した。

補足事項

1)絵画、書跡などの本紙あるいは敷き紙などについて、植物繊維の同定を 38 件実施し、本紙の保存に関して検討を行った。
2)修理前あるいは修理中に実施した科学的調査は、K-25674 盆、A-11776 両界曼荼羅、A-10601 一字金輪像、J-36697 埴輪 挂甲武装男子など 25 件である。
3)X線透過撮影を従来のフィルムを使用した湿式方法からデジタルフラットパネルを利用しデジタル化を図った。



フラットパネルを使用したデジタル X 線装置

定量的評価

項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
本格修理件数	75	70	A	経年	144	97	101	75
保存修復関係資料（前年度修理実施分）のデータベース化	101	－	－	変化	136	144	97	101

年度実績評価総括

S　Ⓐ　B　C　F
（S、Fの理由）

中期計画記載事項

国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、展示場、収蔵庫の労朽化に対応するとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1312

中項目	1　歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

事業名	(3) 計画的な修理			
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　若杉準治
実績・成果	・近年の収集品（特に寄贈品）を中心に、展示、研究等に活用できることを期して修理を行った。 ・収蔵庫の移転にともない、移動及び今後の管理等における損傷を未然に防ぐための修理を行った。 ・修理に関して契約方法等の見直しを行い、業者選定の公平性、透明性を高める努力を行った。 実績　絵画13件　書跡1件　彫刻1件　染織2件			
補足事項	・寄贈を受けた後、計画的に修理を実施している須磨コレクションの中国絵画のうち、今年度は 10 件を修理し、未表装のものや大破のため公開困難で、緊急性の高い作品の修理が一段落した。 ・近世から続く京都の商家に伝来した襖絵を修理し、大破のため公開困難であった作品の公開が可能になった。			

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	収蔵品修理件数	17 件	10 件程度	A		16	11	15	17
	文化財保存修理所修復資料のデータベース化	686 件	250 件程度	A		2,183	2,870	2,377	686

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	修理、保存処理を要する収蔵品等については、機構の保存科学・修復技術担当者が連携し、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を取り入れ、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1313

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

事業名	(3)計画的な修理			
担当者	担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	上席研究員　鈴木喜博

実績・成果

・国民共有の財産として長く後世へ伝えるため、館蔵品のうちの6件の修理に着手し、あるいは竣工した。計8件。
　内訳　彫刻1件、絵画2件（重要文化財　2カ年継続事業　第1年度)、染織1件、書跡1件（重要文化財　2カ年継続事業　第1年度)、考古資料3件。

補足事項

・なお国宝刺繍釈迦如来説法図（勧修寺伝来）の修理については、文化庁美術学芸課と協議後、当館として独自に装こう師連盟の修理技術者を招聘し、当館学芸員と一緒に損傷状況を確認した。あわせて、修理に臨む姿勢を協議し、以下のことを確認した。まず応急修理を行い、次に予算的処置が整った段階で本修理を考えていく。その間、当館で修理検討委員会を開催し、染織関係の有識者を招聘し、本図の修理についての助言を仰ぐこととした。開催は来年度前半を考え、その後に応急修理を実施する計画を確認した。



木造毘沙門天立像　解体修理

定量的評価

項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
修理件数	8件	4件	A	経年変化	8	4	10	8

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	修理、保存処理を要する収蔵品等については、機構の保存科学・修復技術担当者が連携し、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を取り入れ、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1314

中項目	1　歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

事業名	(3)　計画的な修理			
担当者	担当部課	博物館科学課	事業責任者	保存修復室長　藤田励夫
実績・成果	①　館蔵品を中心に、展示や損傷の程度を勘案して、緊急性の高い文化財 25 件を修理した。 ②　館蔵品および九州をはじめとする館外の文化財修理のため、当館の保存修復諸施設を積極的に活用した。(15 件) ③　表具用裂などの修理材料収集を行い、実際の修理に役立てるとともに、資料として保存を計った。 ④　修理指針の検討のため、各分野の担当研究員とともに修理経過をみながら検討を重ねた。 ⑤　修理指針の検討のための調査について、紙繊維の分析、絵画彩色の蛍光 X 線分析や顕微鏡観察による調査、X 線、CT スキャンを活用した調査を実施した。 ⑥　カビなどの生物被害について、顕微鏡観察やサンプルの培養などを行った。			
補足事項	①　館費による修理件数 25 件(絵画 8、書跡 1、彫刻 2、建築 1、漆工 2、考古 10、歴史資料 1) ②　修復施設 1～3 と 4(12～3 月)では、館所蔵品のほか国宝修理装潢師連盟が重要文化財・京都国立博物館所蔵旧円満院宸殿障壁画や福岡県指定・高良大社所蔵祭神縁起など 21 件を、4(6～10 月)では（財）美術院が重要文化財・真木大堂所蔵木造大威徳明王像など 6 件の修理を実施した。5 では㈱芸匠が 11 件、6 では輪島口工芸社が 2 件の館所蔵品等の修理を実施した。(40 件) ③　収集した表具裂は表具の取り合わせにも活用した。また、伝統的な材料の資料として保存、公開、修理への利用等に資した。 ④・⑤　修理技術者により技術的な判断に加えて、絵画、書跡、漆工、彫刻、考古などの各専門分野を持つ研究員や最新分析機器を駆使した文化財科学専門の研究員と共同して、最善の修理を行うことができた。 ⑥　生物被害への対応策を検討するため、カビや虫についての調査を充実させた。			



祭神縁起・社寺大観図(高良大社蔵)

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	修理件数（館費）	25 件	15	S	経年	31	10	22	25
	修復施設の活用（補助事業等）	15 件	－	－	変化			8	15
	科学的調査	10 件	－	－				10	10

年度実績 評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、F の理由）
中期計画 記載事項	修理、保存処理を要する収蔵品等については、機構の保存科学・修復技術担当者が連携し、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を取り入れ、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2111

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

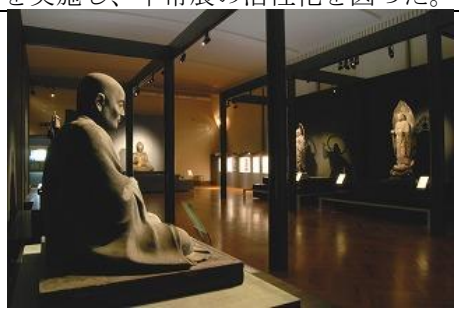
事業名	(1)　展示の充実　①平常展			
担当者	担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	列品管理課長　谷　豊信

実績・成果

・本館、平成館、法隆寺宝物館、東洋館において、日本の考古、美術、工芸、民族資料、歴史資料および東洋の考古、美術、工芸に関する平常展示および特集陳列を行った。
・文化庁との共催により、平成 20 年に新たに指定された国宝・重要文化財を展示した。
・特別企画として正月に「博物館に初もうで」を開催した。
・分かりやすく魅力的な展示を目指し、平成館考古展示室の展示の手直しを実施した。
・本館 2 階の主要展示ケースのガラスに低反射フィルムを貼り、鑑賞の妨げとなる光の写りこみを大幅に減少させた。
・特集陳列は「黒田清輝のフランス留学」他計 79 件を実施し、平常展の活性化を図った。

補足事項

・本年度の特集陳列のうち、「六波羅蜜寺の仏像」と「自在」は、特集陳列のために借用した作品を中心とした展示であった。遠隔地からの輸送費等の経費負担はあったが、内容の充実した展示となり、好評を博した。
・文化庁との共催で開催した「平成 20 年新指定国宝・重要文化財」では、32 件（うち国宝 1 件、重要文化財 31 件）の新たな指定品をいち早く公開し、文化財行政について周知を図ることができた。
・「博物館に初もうで」では、干支にちなんだ特集陳列と伝統芸能にかかわる新春イベントを合わせて行い、好評を得た。新春恒例の行事として、年を追うごとに定着してきており、海外からの来館者も含め、多数の観覧者でにぎわった。
・法人の考古資料相互貸借事業経費により、福島県埋蔵文化財センター白川館からの借用品を中心に特集陳列「古代技術の保存と復原－古墳時代金属器の修理・模造・復元－」を開催した。また長野県立歴史館からの借用品を中心に、「特集陳列長野県の弥生土器・土師器・須恵器－土器の変遷と生活の変化－」を開催した。
・東京藝術大学美術館、東京文化財研究所および当館が協力し、特集陳列「黒田清輝のフランス留学」を開催した。重要文化財「智・感・情」を含む優品で構成し、他館であれば特別展としてもおかしくない質と規模の展示で好評を博した。





上：特集陳列「六波羅蜜寺の仏像」
下：特集陳列「黒田清輝のフランス留学」

定量的評価

項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
平常展入場者数	412,675 人	－	－		340,989	361,173	334,297	412,675
陳列替回数	319 件	200 回	A		320	308	319	319
陳列総件数	7,172 件	6,000 件	A		10,443	7,283	10,223	7,172
特集陳列実施回数	79 件	－	－		59	70	84	79
外国語パネルの設置	97%	80%	A				95%	97%

年度実績評価総括

S　Ⓐ　B　C　F
（S、Fの理由）

中期計画記載事項

平常展は、展観事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を充分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解の促進に寄与する展示を実施する。また、特集陳列の充実を図るなど再来館者の増加が期待できる魅力ある展示にも努め、作品キャプションについてはすべてに外国語を付すとともに、展示テーマごとにその時代背景などを説明した外国語パネル等を 80%以上設置する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2112

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1)展示の充実　①平常展			
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　赤尾栄慶
実績・成果	・　定期的な陳列替の実施　39 回 ・　陳列総件数　1,081 件 ・　時期に応じて、京都文化を中心とした独創的な特集陳列等を実施した ・　活発な収集を通じて、新たな資料の発掘に努め、平常展の充実を図る ・　特集陳列の企画を実施（4 回） 特集陳列「平安時代の考古遺物―源氏物語の時代―」 特集陳列「新収品展」 特集陳列「杉本哲郎　アジャンタ・シーギリヤ壁画模写―70 年目の衝撃―」 特集陳列「坂本龍馬」 ・　修理完成記念特別公開展示を実施 「山形・熊野神社の神像」(4/2～/29) ・　特別公開「篤姫をめぐる人と刀剣・甲冑」の企画を実施(10/22～2/7)			
補足事項	平常展示館建替工事にともない、平常展示館が平成 20 年 12 月 7 日をもって一時休館した。  特集陳列「杉本哲郎」			

定量的評価

項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
平常展入場者数	141,965 人	－	－	経年変化	153,174	146,752	165,080	141,965
陳列総件数	1,081 件	650 件	A		2,037	1,550	1,611	1,081
陳列替回数	39 回	18 回	A		67	59	53	39
特集陳列実施回数	4 回	－	－		7	8	7	4
外国語パネル設置	100%	80%	A		－	－	100	100

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、F の理由）
中期計画記載事項	平常展は、展観事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解の促進に寄与する展示を実施する。また、特集陳列の充実を図るなど再来館者の増加が期待できる魅力ある展示にも努め、一層の入場者の確保を図る。また、展示に関する外国語説明を一層充実させることに努め、作品キャプションについては全てに外国語訳を付すとともに、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を 80%以上設置する。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2113

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1) 展示の充実　①平常展			
担当者	担当部課	学芸部企画室	事業責任者	企画室長　稲本泰生

実績・成果

年度を通して本館における平常展「仏教美術の名品」(彫刻部門)、「中国古代青銅器」を開催し、西新館では平常展「仏教美術の名品」(考古・工芸・絵画・書跡部門) を開催した。その中には「繍仏と染織の美」(6 月 14 日～7 月 13 日、西新館)、「とてもよく似た二つの仏像－金峯山寺の釈迦如来像と兵庫県所蔵の天部像」(1 月 14 日～、本館) の特集展示が含まれる。また時節に応じた小ギャラリー「雛人形」(21 年 2 月 17 日～3 月 15 日) を開催した。陳列替は 12 回に及んだ。

企画展示としては、「建築を表現する－弥生時代から平安時代まで」(20 年 6 月 14 日～7 月 13 日、西新館)、「おん祭と春日信仰の美術」(20 年 12 月 6 日～1 月 18 日、東新館)、「お水取り」(21 年 2 月 7 日～3 月 15 日、東新館) の計 3 回の特別陳列を開催した。

補足事項

① 前年度に引き続き、本館及び西新館において、仏教美術に関しては国内外いずれをとっても他に類をみない、高水準の展示を行うことができた。特筆すべきは本館で好評の「注目の逸品」コーナーを 20 年 11 月から西新館にも設置したことで、著名な作品や学芸部が特に選んだ作品を、詳細な解説を付して展示している。また平常展における英文の作品解説を増加させ、外国人来館者に対するサービスをより向上させることができた。

② 本館平常展では当館修理所にて修理が完了した 4 件を公開し、文化財修理の意義も併せて紹介した。ことに兵庫県所蔵の天部像はこれと酷似する金峯山寺所蔵釈迦如来像を別途借用して比較展示し、「とてもよく似た二つの仏像」と題する特集展示とした。修理作品の公開に加え、学術的な新知見をも盛り込んだ意欲的な試みとして注目を集め、多くの取材を受けた。

③ 本館回廊部分にスポット照明設備がないため、非常に質の高い仏像彫刻を展示しているにも関わらず、その魅力を十分に引き出しきれていない。

「仏教美術の名品」
国宝　透彫舎利容器





「とてもよく似た二つの仏像－金峯山寺の釈迦如来像と兵庫県所蔵の天部像」

定量的評価

項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
平常展入場者数	112,849 人	－	－	経年変化	113,983	137,739	131,336	112,849
陳列替回数	12 件	15	B		22	20	21	12
陳列総件数	605 件	800	B		895	1,014	928	605
特集陳列等実施件数	6 件	－	－		12	11	10	6
外国語パネル等の設置	77.1%	80%	B				55.8%	77.1%

年度実績評価総括

S　Ⓐ　B　C　F
（S、Fの理由）

中期計画記載事項

平常展は、展観事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解の促進に寄与する展示を実施する。また、特集陳列の充実を図るなど再来館者の増加が期待できる魅力ある展示にも努め、一層の入場者の確保を図る。また、展示に関する外国語説明を一層充実させることに努め、作品キャプションについては全てに外国語訳を付すとともに、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を 80%以上設置する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2114

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1)　展示の充実　　①　平常展			
担当者	担当部課	企画課	事業責任者	文化交流展室長　河野一隆

実績・成果

- 文化交流展示室では、当館のテーマである日本の文化交流を重視する観点から、例年通り、計画的に 386 回にわたる展示替えを行い、3146 件の文化財を展示した。
- 展示替え情報は、当館ＨＰやちらし、広報メディアを通じて来館者へ提供した。
- 昨年に引き続いて、文化交流展示室内で期間を限定して、特定のテーマを掘り下げたトピック展示を実施した（17 回）。このうち、当館外部の機関などと共同で主催したトピック展示も 5 回実施した。
- トピック展示ではちらしやポスター、リーフレットや図録などを作成し、関連したシンポジウムも開催して、展示だけでない情報発信ができた。
- 京都泉屋博古館と共同研究を締結し、当館のコレクションには無かった中国古代青銅器の展示を継続的に行うことができるようになった。
- 増え続ける外国からの来館者、とくに中国・韓国からの来館者に対し、中国語ガイドブックおよび英語・中国語・韓国語の簡単な展示解説付きマップを作成し、展示室の内容を紹介した。
- 特集陳列は「あおもり縄文展～ＪＯＭＯＮを世界へ、三内丸山からの発進～」他計 16 件実施し、好評を博した。

補足事項

- 国宝・重文を含む多数の優れた文化財による展示、特定の動線を持たない、体験的な展示を多数盛り込んでいる、露出展示品と観覧者の距離が大変近い、といった当館ならではの文化交流展の特徴が理解、定着されつつある。
- 特に、海外からの団体ツアーや個人客へも、ガイドブックやマップを完備し、好評を博している。
- 展示の歴史的背景については、音声ガイドのみの解説であったが、中国語・韓国語による解説文も作成し、ケーステーマに隣接して掲載した。
- 装飾古墳バーチャルシアターは、例年通り新コンテンツを作成し、10 月から公開した。
- 関連第 11 室を 1 室へ改造し、トピック展示開催のためのコストパフォーマンスを向上させた。この結果、昨年度から好評だったトピック展示の開催数は、年間 15 回と 3 倍になり、「あおもり縄文展～ＪＯＭＯＮを世界へ、三内丸山からの発進～」（11 月 22 日～12 月 21 日、46,050 人来館）のように特別展に匹敵するほどの内容の展示も開催することができた。





「よみがえる弥生都市」展
(8/20～11/16)
上：開会式　下：展示風景

定量的評価

項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
平常展入場者数	241,423 人	－	－		211,887	501,540	341,282	241,423
特集陳列	17 回	－	A		8	6	5	17
作品への外国語キャプション	100%	－	A				100	100
時代背景の外国語パネル（音声ガイドで対応を含む）	82%	80%	A				63	82
陳列替回数	386 回	100	A		84	299	375	386
陳列総件数	3,146 件	1,200	A		1,200	2,044	2,012	3,146

年度実績評価総括

Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ

（Ｓ、Ｆの理由）

中期計画記載事項

平常展は、展観事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解の促進に寄与する展示を実施する。また、特集陳列の充実を図るなど再来館者の増加が期待できる魅力ある展示にも努め、一層の入場者の確保を図る。また、展示に関する外国語説明を一層充実させることに努め、作品キャプションについては全てに外国語訳を付すとともに、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を 80%以上設置する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	目標値を計画以上の成果が達成できている。

【書式A】　施設名 東京国立博物館・奈良国立博物館　処理番号 2120

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	（1）展示の充実　②特別展等　(1/1) 海外展「聖なる山の寺宝　醍醐寺・日本密教の僧院」			
担当者	担当部課	学芸企画部企画課（東博） 学芸企画室（奈良博）	事業責任者	学芸研究部長　島谷弘幸（東博） 企画室長　稲本泰生（奈良博）
実績・成果	・開会期間　20 年 4 月 25 日～8 月 24 日（122 日間） ・会場　ドイツ連邦共和国国立芸術展覧会ホール ・主催　東京国立博物館、奈良国立博物館、醍醐寺、ドイツ連邦共和国国立芸術展覧会ホール ・作品件数　167 件（うち国宝 9 件、重要文化財 74 件） ・入館者数　59,998人 ・真言密教の代表的な寺院である醍醐寺に焦点をあて、絵画、書跡、彫刻、工芸といった多岐にわたる分野から代表的な名宝 167 件を精選し、ドイツ・ボンにおいて展示した。日本仏教、ことに日本密教の歴史と文化の所産である名宝の数々は、来館者の興味関心に大いにこたえるもので、好評を得た。ドイツのみならずヨーロッパ諸国に日本密教の名品を紹介した本展は、日独両国の友好親善に寄与し、ヨーロッパにおける日本の文化的地位の向上に資するものとなった。			
補足事項	・独立行政法人国立文化財機構の 2 館が共同して事業に取り組んだことにより、独法内での連携強化につながったばかりでなく、より効率的な運営を図ることができた。 ・密教と山岳信仰を軸にきわめて特徴的な仏教文化を開花させた醍醐寺の文化財の意義を国外で紹介し、認知度を高めることに貢献できた。 ・本展への参加を通し、仏教美術の専門館としての当館の特性を、国外にも広くアピールすることができた。 ・調査研究や特別展の開催等、将来の当館の事業に対して協力を得る際に不可欠である醍醐寺との信頼関係を、より強固なものとすることができた。 ・前年度までの準備作業も含めた、東京国立博物館及びドイツ側主催者との共同作業を通して館外のノウハウに接することで、研究員は多くの貴重な経験を蓄積することができた。	 国宝 訶梨帝母像		

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	入館者数	59,998 人	－	－					

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、F の理由）
中期計画記載事項	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 （1）展示の充実 ②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 （東京国立博物館） 年 3～4 回程度
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1) 展示の充実　②特別展等（1/8）　平城遷都 1300 年記念「国宝 薬師寺展」			
担当者	担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	出版企画室長　浅見龍介
実績・成果	・開会期間　20 年 3 月 25 日～6 月 8 日（67 日間） ・会場　平成館　特別展示室第 1～4 室 ・主催　東京国立博物館、法相宗大本山薬師寺、NHK、NHK プロモーション、読売新聞社 ・作品件数　47 件（うち国宝 8 件、重要文化財 5 件） ・入館者数　79万4,909人 ・入場料金　一般1500円、大学生1200円、高校生900円　中学生以下無料 ・アンケート結果　満足度　84.3% ・平城遷都1300年を記念し、日本仏教彫刻の最高傑作のひとつとして知られる薬師寺金堂の日光・月光菩薩立像（国宝）をそろって寺外で初公開した。また、聖観音菩薩立像（国宝）、吉祥天像（国宝）などの彫刻・絵画の名宝とともに草創期の薬師寺の姿を物語る考古遺物なども展示することにより、薬師寺の歴史と文化を総合的に紹介することができ、大好評を得た。			
補足事項	・予想を大幅に上回る入場者があったことから、待ち時間が 2～3 時間に及ぶような場合があった。今後、混雑が予想される展覧会では、これまで以上に様々な対策を講じていく必要がある。ただし、会場内では、作品をゆったりした空間で展示したことから、混雑してはいたものの、観覧環境をある程度良好な状態に保つことができた。			



チラシ画像

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	入館者数	79 万 4,909 人	40 万人	S	経年変化				

年度実績評価総括	Ⓢ　A　B　C　F （S、F の理由） 日光・月光菩薩像は、背面も美しいため、360 度見ることができるよう配置し、さらに、プラットホームのような一段高い造作を設けて、来館者がやや上方の視点からも鑑賞できるようにし、薬師寺金堂では実現不可能な空間を創造した。こうしたことから、大多数の方々から好評を博し、目標をはるかに上回る入館者があった。
中期計画記載事項	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 (1) 展示の充実 ②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 （東京国立博物館） 年 3～4 回程度
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	（1）展示の充実　②特別展等（2/8） 日仏交流 150 周年記念　オルセー美術館コレクション特別展 「フランスが夢見た日本―陶器に写した北斎、広重」			
担当者	担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	東洋室長　今井敦
実績・成果	・開会期間　20 年 7 月 1 日～8 月 3 日（30 日間） ・会場　表慶館　1 階 ・主催　東京国立博物館、オルセー美術館、日本経済新聞社 ・作品件数　132 件 ・入館者数　5万8,342人 ・入場料金　一般 1000 円、大学生・高校生 700 円、中学生以下無料 ・アンケート結果　満足度　70.9% ・日仏両国の間に外交関係が樹立されて150周年に当たる本年、オルセー美術館が所蔵する「セルヴィス・ルソー」と「セルヴィス・ランベール」と呼ばれる陶器を、日本ではじめてまとめて展示した。あわせて、これらのテーブルウェアの図柄のもとになった浮世絵や版画家フェリックス・ブラックモンのエッチングを展示することにより、今まであまり知られていなかった日仏文化交流の豊かな内容の一端を広く紹介することができた。			
補足事項	・フランスにおけるジャポニズム活動に対して、陶器という新たな分野での交流の一面を示すことができ、学術的にも大きな意義があった。			



セルヴィス・ルソー
丸皿 伊勢海老に茄子図
オルセー美術館蔵

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	入館者数	5 万 8,342 人	5 万人	A	経年変化				

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、F の理由）
中期計画記載事項	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 （1）展示の充実 ②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 （東京国立博物館） 年 3～4 回程度
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-3

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1) 展示の充実　②特別展等 (3/8) 創刊記念『國華』120 周年・朝日新聞 130 周年 特別展「対決―巨匠たちの日本美術」			
担当者	担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	上席研究員　松原茂
実績・成果	・開会期間　20 年 7 月 8 日～8 月 17 日 (37 日間) ・会場　平成館　特別展示室第 1～4 室 ・主催　東京国立博物館、國華社、朝日新聞社 ・作品件数　110 件（うち国宝 11 件、重要文化財 39 件） ・入館者数　32万6,784人 ・入場料金　一般1500円、大学生1200円、高校生900円　中学生以下無料 ・アンケート結果　満足度　85.3% ・運慶と快慶、狩野永徳と長谷川等伯など、美術研究専門誌『國華』が誌上で顕彰してきた中世から近代までの日本美術史上に輝く巨匠たちを2人ずつ組み合わせ、その作品を「対決」させるという斬新な展示構成により、日本美術の特質や素晴らしさを一般にわかりやすい形で紹介した。過去2年間の展覧会アンケートの中では、最も高い満足度を得た。			
補足事項	・これまでの展覧会の内容とかなり異なった「対決」という視点に対して、予期した以上に大きな反響があり、それが多数の観客の動員につながった面がある。  チラシ画像			

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	入館者数	32 万 6,784 人	12 万人	S	経年変化				

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、F の理由） わかりやすいテーマ設定や充実した内容によって、目標を大きく上回る入場者を数え、アンケート調査にも見られるように、近年の特別展では最も高い評価を得た展覧会の一つとなった。
中期計画記載事項	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 (1) 展示の充実 ②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 （東京国立博物館） 年 3～4 回程度
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-4

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1) 展示の充実　②特別展等（4/8）　「スリランカ―輝く島の美に出会う」			
担当者	担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	平常展調整室長　小泉惠英
実績・成果	・開会期間　20年9月17日～11月30日（65日間） ・会場　表慶館　1階・2階 ・主催　東京国立博物館、読売新聞、スリランカ民主社会主義共和国文化・国家遺産省 ・作品件数　198件 ・入館者数　8万865人 ・入場料金　一般1200円、大学生1000円、高校生800円、中学生以下無料 ・アンケート結果　満足度　80.0％ ・仏像やヒンドゥー神像、仏具などの宗教芸術作品や、美しい宝石をふんだんにあしらった宝飾品など、国宝級を含む約200件におよぶスリランカ美術の粋を一堂に集めて展示した。スリランカの仏教美術をまとめて紹介した、日本で初めての本格的な展覧会として画期的なものであり、両国の友好親善に寄与することができた。 一般には南アジアの美術に対する関心が予想以上に低く、目標入館者数を下回った。			
補足事項	・スリランカ国をあげて展覧会に対して全面的な協力をいただき、その結果、諸外国でこれまで開催したスリランカの文化・美術に関する展覧会と比較しても、高水準の内容となった。			



スリランカ展チラシ

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	入館者数	8万865人	10万人	B	経年変化				

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 (1) 展示の充実 ②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 （東京国立博物館） 年3～4回程度
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	ほぼ順調

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-5

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1) 展示の充実　②特別展等 (5/8) 尾形光琳生誕 350 周年記念「大琳派展―継承と変奏―」			
担当者	担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	絵画彫刻室長　田沢裕賀
実績・成果	・開会期間　20 年 10 月 7 日～11 月 16 日 (36 日間) ・会場　平成館　特別展示室第 1～4 室 ・主催　東京国立博物館、NHK、NHK プロモーション ・作品件数　242 件（うち国宝 7 件、重要文化財 34 件） ・入館者数　30万8,213人 ・入場料金　一般1500円、大学生1200円、高校生900円、中学生以下無料 ・アンケート結果　満足度　84.7% ・尾形光琳の生誕350年を記念し、光悦・宗達・光琳・乾山・抱一・其一の六人を中心に、個性豊かな琳派の世界を紹介した。琳派の系譜と各作家の独自性を具体的に検証することにより、およそ100年ごとに花開いた琳派芸術の特色とその意義について明らかにした。絵画・書跡・工芸など各分野の国宝・重要文化財はもちろん、海外の美術館が所蔵する琳派の優品を一堂に集めた結果、アンケートに見るように、過去最高に近い満足度を達成した。			
補足事項	・総花的な琳派展ではなく、作者や作品を一定の範囲に絞り込んだことによって、より理解しやすく、かつ水準の高い内容となった。  チラシ画像			

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	入館者数	30 万 8,213 人	14 万人	S	経年変化				

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、F の理由）
中期計画記載事項	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 (1) 展示の充実 ②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 （東京国立博物館） 年 3～4 回程度
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-6

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1) 展示の充実　②特別展等 (6/8) 「慶應義塾創立 150 年記念　特別展「未来をひらく福澤諭吉展」」			
担当者	担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部保存修復課保存修復室研究員　三笠景子
実績・成果	・開会期間　21 年 1 月 10 日～3 月 8 日 (50 日間) ・会場　表慶館 1 階・2 階、本館特別 2 室 ・主催　東京国立博物館、慶應義塾、フジサンケイグループ (主管:産経新聞社) ・作品件数　346 件 (うち国宝 3 件、重要文化財 17 件) ・入館者数　7万3,128人 ・　入場料金　一般1200円、大学生1000円、高校生800円　中学生以下無料 第 1 会場(表慶館)は上記観覧料が必要。第 2 会場(本館特別 2 室) は、平常展料金でも観覧可能。 ・アンケート結果　満足度　　87.4% 本展覧会は、慶應義塾創立 150 周年を記念して開催したもので、福澤諭吉の遺品、遺墨、書簡、自筆草稿、著書などをとおして福澤の先導的な思想と活動を紹介するとともに、慶應義塾ゆかりの美術品などを展示した。表慶館だけでなく、本館特別 2 室に釈迦金棺出現図などの名品を展示することで、多角的な展示となり、観覧者からは好評を得たが、文化財を展示する東京国立博物館の通常の展示と異なり、資料的な展示品が多数をしめ、また、広報面での内容周知が必ずしも十分ではなかったことなどから、目標入場者数には達しなかった。			
補足事項	貴重な歴史資料を紹介しながら、明治という時代を浮き彫りにしたことで、学術的に高度な内容を平易に紹介することにつながった。			



『未来をひらく福澤諭吉』展チラシ

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	入館者数	7 万 3,128 人	10 万人	B	経年変化				

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F (S、F の理由)
中期計画記載事項	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 (1) 展示の充実 ②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年 3～4 回程度
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-7

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1)　展示の充実　②特別展等（7/8） 「開山無相大師 650 年遠諱記念　特別展「妙心寺」」			
担当者	担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	特別展室長　救仁郷秀明
実績・成果	・開会期間　21 年 1 月 20 日～3 月 1 日（36 日間） ・会場　平成館　特別展示室　第 1 室～第 4 室 ・主催　東京国立博物館、臨済宗妙心寺派大本山妙心寺、読売新聞東京本社 ・作品件数　176 件（うち国宝 4 件、重要文化財 43 件、重要美術品 2 件） ・入館者数　15万1,833人 ・入場料金　一般1200円、大学生1000円、高校生800円　中学生以下無料 ・アンケート結果　満足度　　73.8％(未集計) ・開山無相大師 650 年遠諱にちなみ、本山および塔頭の名宝を中心に、妙心寺の歴史と文化について紹介した。東京では大規模な妙心寺展は初めてであり、好評を得た。			
補足事項	首都圏ではよく知られていない妙心寺の作品、なかでもとくに近世の華やかな襖絵・屏風が注目され、当初の予想を超える入館者数を得た。  チラシ画像			

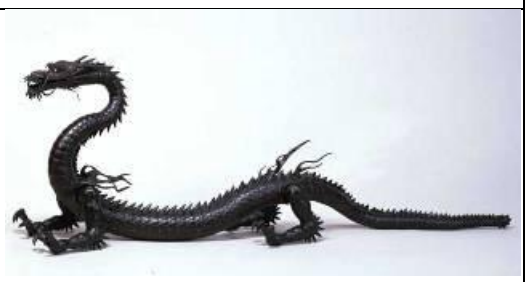
定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	入館者数	15 万 1,833 人	10 万人	A	経年変化				

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、F の理由）
中期計画記載事項	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 (1) 展示の充実 ②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 （東京国立博物館） 年 3～4 回程度
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-8

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	（1）展示の充実　②特別展等（8/8） 海外展　東京国立博物館所蔵日本美術展「サムライ－日本の武家の宝物」			
担当者	担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	上席研究員　原田一敏
実績・成果	・開会期間　20年5月23日～7月16日（55日間） ・会場　モスクワ　クレムリン博物館　ベルタワー展示室及びパトリアーク宮殿柱の間 ・主催　東京国立博物館、ロシア連邦モスクワ・クレムリン博物館 ・作品件数　73件（うち国宝1件、重要文化財4件） ・入館者数　10万2,000人 ・入場料金　-- ・アンケート結果　実施せず ・東京国立博物館が収蔵する文化財の中から、日本の武家文化に関わる優品を特に選んで展示し、海外における日本文化紹介の一助とした。東京国立博物館のコレクションがまとまった形でロシアにおいて紹介されたのは今回が初めてのことであり、ロシアの人々に優れた日本の古美術品に親しんでいただく絶好の機会となった。1日あたりの入場者数は、クレムリン博物館の企画展史上、最も多数にのぼり、大変な好評を博した。			
補足事項	・ロシア国内の新聞やテレビ等において、頻繁に報道されるなど、ロシアにおける日本文化に対する関心の高さがうかがわれた。 ・アメリカ、トルコ、ヨーロッパ等で所蔵品による展覧会を計画している。こうした展覧会は、日本の伝統文化普及に資するものとして重要であり、開催地での日本文化に対する関心を高める意味で非常に重要な役割を担うことが期待される。			



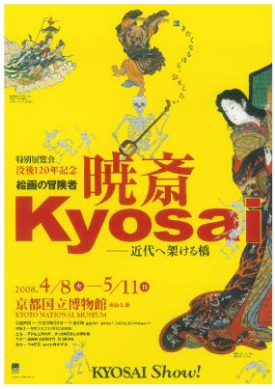
自在龍置物

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	入館者数	10万2,000人	－	－	経年変化				

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 （1）展示の充実 ②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 （東京国立博物館） 年3～4回程度
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2122-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1)　展示の充実　②特別展等　(1/3) 特別展覧会「絵画の冒険者 暁斎　Kyosai ―近代へ架ける橋―」			
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	連携協力室長　山下善也
実績・成果	浮世絵・狩野派を学び、幕末・明治期の江戸・東京で活躍した河鍋暁斎（1831～89）の画業を回顧する展覧会。暁斎のユニークな画風は特に海外で大きな関心を呼んできたが、暁斎の全貌をうかがえる展覧会はこれまでにはなかった。奇想的な作品はもとより、暁斎の骨格を形づくった狩野派的側面を知ることのできる作品を網羅した初の大規模展となった。 ・開催期間　4 月 8 日～5 月 11 日(30 日間) ・会　　場　特別展示館 ・主　　催　京都国立博物館、(財) 河鍋暁斎記念美術館 ・陳列品総件数　135 件 ・海外からの出陳件数　24 件 （大英博物館、ライデン国立民族学博物館、イギリス：イスラエル・ゴールドマンコレクション） ・入場者数　7 万 6,686 人(目標 3 万人) ・入場料金　一般 1200 円、大高生 800 円、中小生 400 円 ・アンケート結果　満足度 94%			
補足事項	・準備の調査過程で新出の暁斎作品を数多く見出し、初公開することができた。代表作の公開と合わせ、今後の暁斎研究、近世・近代絵画研究に新たな筋道を提示した。 ・イギリスから 23 件、オランダから 1 件と、海外からの出品作も充実させることができ、総合的な紹介を実現した。 ・単純な時系列の展示ではなく、「1. 「狂斎」の時代、2. 冥界・異界、鬼神・幽霊、3. 少女たつへの鎮魂歌、4. 巨大画面への挑戦、5. 森羅万象、6. 笑いの絵画、7. 物語、年中行事、8. 暁斎の真骨頂」というように、画面の形態や主題などの点で、変化にとんだ展示構成をとった。これにより、暁斎画の特色や魅力を感じ取ることができ、その間に「本画と下絵」「写生と粉本」という特集をはさみ、絵が生まれる秘密を解き明かせるよう工夫した。  「暁斎」展チラシ ・本格的な規模としては初の暁斎大回顧展ということもあり、さまざまなメディアで取り上げられた。その結果、わずか 1 か月（実質 30 日）の開催期間にもかかわらず、多くの数の入館者を記録した（1 日平均 2474 人）。 ・展覧会図録の購買率も高く、約 16000 冊、4.3 人に一人、25%近くの方が図録を求められた。また、インターネットのブログには、開幕初日から「展覧会をみて大変おもしろかった」という感想が多くの人々により記され、その記述は日を追って増え、閉幕時には、目を通しおおせないほどになった。監視者から、どの観覧者も滞留時間が長かったという報告もあった。いずれも、展示内容に対する反応の大きさを物語っている。			

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	入場者数	76,686 人	30,000 人	A	経年変化				

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、F の理由）
中期計画記載事項	特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 （京都国立博物館） 年 2～3 回程度
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2122-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1)　展示の充実　②特別展等（2/3） 特別展覧会「japan 蒔絵　―宮殿を飾る　東洋の燦めき―」			
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	主任研究員　永島明子

実績・成果

16 世紀末以来、京都で作られ海外に輸出された日本の蒔絵は、富と権力の象徴として各国の王侯貴族に愛された。その輸出量は蒔絵の歴史に少なからぬ影響を与えた。欧州各国の貴重なコレクションに国内の名品を加え、輸出漆器の歴史を紹介する初の大規模展覧会となった。



・開催期間　10 月 18 日～12 月 7 日（44 日間）
・会場　特別展示館
・主催　京都国立博物館　読売新聞大阪本社　ＮＨＫ京都放送局
・陳列品総件数　284 件　うち海外資料　164 件（57.7%）
・国宝 5 件　重要文化財 12 件　重要美術品 1 件
・初公開作品 155 件（54.6%）　うち世界初公開　56 件（19.7%）
・入場料金　一般 1,400 円、大高生 900 円、中小生 400 円
・入場者数　67,050 人　（目標 5 万人）
・アンケート結果　満足度　95%

輸出磁器ほど知られていない輸出漆器の歴史を、マリー･アントワネットやポンパドゥール侯爵夫人などにゆかりの実物作品によって通観できるこれまでにない展示となった。

展覧会図録を日英バイリンガルとした結果､日本語を読めない人々へも京都の文化を紹介することができた。海外からも図録の要望が寄せられた。

指定文化財の展示規制上、実現不可だが、ヨーロッパへの巡回希望も多く寄せられた。

陳列品中イギリスの V&A 美術館の所蔵品が､アメリカ合衆国ロサンゼルスのゲッティ美術館へ巡回することになり、本展の作品解説が採用され、図録 350 冊が買いとられた。

補足事項

・スウェーデン王室はじめ海外 11 機関から全面的賛同を得て、非公開品やヨーロッパ内でも貸し出しの難しい品の数々を、日本に居ながらにして見ることのできる展覧会となった。
・国内所蔵者の協力を得て、平安時代からの国内伝世品を同時に並べることにより、輸出漆器の特徴が顕著となり、蒔絵の様式変化を歴史を追って目の当たりにできる展示となった。
・観覧者の多くが蒔絵の魅力に開眼したとか、蒔絵の見方が変わったとの感想を寄せてくださり、京都で育まれた日本の伝統工芸の魅力を広く紹介することと､多くの人に新しい知の世界を切り開く機会を提供することができ、有意義であった。
・展示数はすでに十分すぎるほどではあったが、予算の関係上、海外所蔵者の地域を限定せざるを得ず、たとえば中国に輸出された蒔絵の優品を展示することができなかった｡アジア諸国への輸出も研究が熟していないため、展覧会に含めることができなかった。しかし、アジア地域との関連性をパネルで説明した結果、日本の輸出漆器と世界史の関係性を理解していただくことができた。いずれ実物展示がなされることが望ましい。
・展示室の設備が古く、予算も限られているため、工芸品を美しく展示するための台や照明を十分に用意できなかった（再利用した展示台の高さが高すぎる場合が多かった）。今後は展覧会予算内の配分に一層の工夫を凝らしたい。また展示ケースや照明設備の改善を期待したい。
・近代の万国博覧会への流れは紹介できたが、近代の蒔絵の優品は展覧会に含まれなかった。いずれ近代美術館などの協力を仰ぎ、別の展覧会として企画したい。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
入場者数	67,050 人	50,000 人	A					

年度実績評価総括

S　Ⓐ　B　C　F
（S、F の理由）

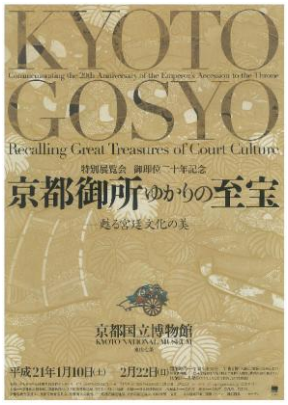
中期計画記載事項

特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
（京都国立博物館）
年 2～3 回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2122-3

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1)　展示の充実　②特別展等（3/3） 特別展覧会「御即位二十年記念 京都御所ゆかりの至宝―甦る宮廷文化の美―」			
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	工芸室長　久保智康
実績・成果	京都御所で歴代天皇が育んだ豊穣な宮廷文化の全貌を顧みる展覧会。御所をはじめ宮内庁で伝えてきた品々に加えて、天皇の下賜品や移築された御所建物に付属する障壁画の名品までを一堂に展観するはじめての機会となった。 ・開催期間　21 年 1 月 10 日～2 月 22 日(45 日間) ・会　　場　特別展示館 ・主　　催　京都国立博物館、京都新聞社、ＮＨＫ京都放送局、NHK プラネット近畿 ・陳列品総件数　130 件 ・海外からの出陳件数　0 件 ・入場者数　　116,363 人(目標 3 万人) ・入場料金　一般 1300　円、大高生 900　円、中小生 400　円 ・アンケート結果　満足度　87%			
補足事項	・絵画、工芸の各分野担当者が京都御所において調査を行い、その成果をもとに宮内庁京都事務所からの出品作品を決定した。その結果、多くの作品が宮内庁以外で初公開されることとなり、各人の専門的な立場からの新見解を展示・図録に多く盛り込むことができた。 ・宮内庁の特別協力を得て、御物を所管する侍従職をはじめ、書陵部・三の丸尚蔵館・京都事務所の各機関から、これまでにない多数の出品を得ることができた。 ・1 京都と天皇の遺宝、2 桂宮家と桂離宮、3 宮廷と仏教、4 宮廷の装束、5 御所の工芸、6　紫宸殿の荘厳―賢聖障子絵―、7 御所をかざった障壁画、8 御所の障屏画、という 8 つのテーマで構成し、宮廷美術の特色が各コーナーごとに明確になるよう配慮した。  「京都御所ゆかりの至宝」チラシ ・宸翰や、装束、といった通有の宮廷文化の要素だけでなく、篤い仏教信仰のもとに生み出された仏教美術、かつて御殿をかざった障壁画が想像以上に京都周辺の門跡寺院等に移築され、いまも用いられていることなど、新たな宮廷美術の視点を示すことができた。 ・以上のような配慮により好評を博すことができ、比較的入館者が厳しい冬の開催ながら、目標を大きく上回る 11 万人余の入場者を得ることができた。また TV、ラジオ、新聞、雑誌等の取材もきわめて多く、さらに芦屋市・宇治市・京都市中京区などの各文化センターで、本展を紹介する講演を行って、非常に大きな関心を呼んだ。			

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	入場者数	116,363 人	30,000 人	A	経年変化				
年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、F の理由）								
中期計画記載事項	特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 （京都国立博物館） 年 2～3 回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調に成果を上げている。				

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2123-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1)展示の充実　②特別展（1/4） 「天馬－シルクロードを翔ける夢の馬－」			
担当者	担当部課	学芸部教育室	事業責任者	教育室長　吉澤　悟
実績・成果	・会　　期　4月5日（土）～6月1日（日）までの58日間（開館は50日間）。 ・会　　場　東西新館 ・主　　催　奈良国立博物館 ・陳列品総数　163件（うち国宝8件、重文22件、イタリアから12件、アメリカから7件、中国から12件の一級文物クラスの作品を借用・展示） ・入場者数　3万1,910人（目標3万人） ・観覧料金　一般1,000円、高・大生700円、小・中生無料 ・アンケート満足度　81% ・シルクロードを通じた西洋と東洋の文化交流を扱った本展覧会は、当館が独自に企画した特別展としては初めての試みである。 ・財団法人全国競馬・畜産振興会を共同主催に迎え、さらにエクソン・モービル社からの後援を仰ぐなど、実業界との新たな共同事業を開拓し得た。			
補足事項	・ユーラシア大陸を俯瞰するスケールの大きさは、近年の展覧会には珍しいものであり、相応の評価を得ている。ペガサスの意匠によって、ギリシア文化と法隆寺の宝物がつながることを示したことは、毎年正倉院展を擁し、かつ仏教美術を得意とする当館の活動の裾野の広さを示すものであり、国際的役割を象徴する事業であった。 ・広報面で準備不足なところがあり、入館者数は必ずしも伸びていない点が反省される。			



天馬展チラシ

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	入場者数	31,910人	30,000人	A	経年変化				

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 （奈良国立博物館）　年2～3回程度
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	ほぼ順調

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2123-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1)展示の充実　②特別展（2/4） 国宝　法隆寺金堂展			
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	部長補佐　岩田茂樹
実績・成果	・開会期間　6 月 14 日～7 月 21 日（33 日間） ・会　　場　東新館 ・主　　催　奈良国立博物館、朝日新聞社、法隆寺 ・陳列件数　27 件（うち指定品 13 件） ・入場者数　13 万 2,919 人 ・観覧料金　一般　1,200 円　高・大生　800 円　小・中生　500 円 ・アンケート結果　満足度　75% ・出陳件数こそ少ないものの、世界遺産・法隆寺金堂に安置される仏像のうち釈迦三尊・薬師如来像を除く全てが出陳された。とりわけ、会期半ば以降とはいえ、わが国最古の四天王像（国宝）が 4 躯全て出陳されたことは空前絶後のことで、多くの方から高い関心を集めた。			
補足事項	・金銅外陣にはめこまれている壁画 12 面が全て出陳され、会場内を金堂内部空間を再現したかのような濃密な仏教的空間することができた。 ・修理完了後まもない中の間・西の間の天蓋や、釈迦三尊、阿弥陀三尊、薬師如来像の台座など、今後、金堂そのものの解体修理でもないかぎり、出陳の不可能な作品を間近に鑑賞する唯一の機会を設けることができた。 ・展示に際しては、照明方法に工夫をこらした。とくにフレーミングスポットや、電球色 LED とﾃﾞｨﾌｭｰｻﾞｰの併用により、高い効果をあげることに成功し、好評を博した。 ・図録は今後の決定版ともいうべき充実した内容の豪華本としたが、当初印刷分を完売し、増刷を行った。			



国宝法隆寺金堂展チラシ

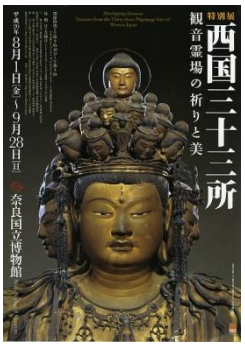
定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	入場者数	132,919 人	40,000 人	S	経年変化	－	－	－	－

年度実績評価総括	Ⓢ　Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｆ （Ｓ、Ｆの理由）　新しい照明方法の導入等により、大きな成果をあげ、それが来館者増にもつながったと考えられるため。
中期計画記載事項	特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 （奈良国立博物館）　年 2～3 回程度
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2123-3

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1)展示の充実　②特別展（3/4） 西国三十三所展			
担当者	担当部課	学芸部教育室	事業責任者	教育室研究員　清水　健
実績・成果	・主催　奈良国立博物館、NHK 奈良放送局、NHK サービスセンター、NHK プラネット近畿、読売新聞大阪本社 ・特別協力　西国三十三所札所会 ・会期　8 月 1 日～9 月 28 日（52 日間） ・会場　奈良国立博物館 東・西新館 ・出陳件数　190 件（国宝 10 件、重文 60 件）　※2 会場合計では 195 件 ・入場者数　10 万 6,411 人（目標 3 万人） ・観覧料金　一般 1,200 円　高・大生 800 円　小・中生 500 円 ・アンケート結果　満足度 89％			
補足事項	・本展覧会は平成 20 年 10 月 18 日～11 月 30 日の会期で、やや件数を減らして名古屋市博物館に巡回し、当地でも好評を得た。 ・本展覧会は 2 館を巡回する共催展であったが、展示構成、展示品については終始当館学芸部を中心に検討をし、当館学芸部が主体的役割を果たして決定した。 ・西国三十三所をテーマにした展覧会は他館で過去 2 回開催されていたが、秘仏を含む新資料を加え、最新の研究動向を踏まえて、新たな切り口を設けて展示を構成した。 ・52 日間とやや長い会期であったが、三十三所の各札所の所蔵品がいつ来館しても 1 点以上みられるよう、展示替に工夫を凝らし、来館者の満足度を高められるよう努力した。 ・図録の販売部数は 7907 冊（購入率 7．46％）、音声ガイドの貸出台数は 9903 台（利用率 9．38％）、いずれも当初の予想以上に高かった。 ・会場の最後に巡礼絵図を複写拡大した特殊加工シート（約 6×7 メートル）を床面に貼付し、来館者に絵図上に乗って巡礼気分を味わってもらう試みが奏功し、好評を博した。 ・会期中に借用した文化財の光学調査を行い、大きな成果を得た。またこれを直ちに報道発表し、集客へもつなげた。加えて講演会も実施し、調査の知見の普及に努めた。			



西国三十三所展チラシ


展示室風景（巡礼絵図を興味深くみる観覧者）

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	入場者数	106,411 人	30,000 人	S	経年変化				

年度実績評価総括	Ⓢ　A　B　C　F （S、F の理由） 当初目標を大きく上回る来館者が得られた。
中期計画記載事項	特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 （奈良国立博物館）　年 2～3 回程度
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2123-4

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1)展示の充実　②特別展（4/4） 第60回正倉院展			
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	部長補佐　内藤　　栄
実績・成果	・開会期間　10月25日～11月10日（17日間） ・会　　場　東西新館 ・主　　催　奈良国立博物館 ・陳列品総件数　69件（うち初出陳18件） ・入場者数　26万3,765人（目標18万人） ・観覧料金　一般1,000円、高・大生700円、小・中生400円 ・アンケート結果満足度　　75% ・正倉院展は正倉院宝物が一般に公開される唯一の機会であり、毎年多くの観覧者を迎えている。 ・今年度は17日間の会期では最高の入館者数を数えたが、会場の混乱は例年より少なく、またアンケートによる満足度は昨年や一昨年を上回ることができた。 ・第60回目の今年は、白瑠璃碗や紫檀木画双六局をはじめとする優品69件が出品された。 ・今年の傾向は佩飾品、天蓋などの荘厳具が比較的多く含まれていること、そして紅龍、椰子実などの異色の宝物が出品されたことも特筆される。 ・天皇皇后両陛下の行幸啓、高円宮妃殿下のご視察があった。			
補足事項	・展覧会目録のほか、60回を記念し、『正倉院展　60回のあゆみ』、『正倉院宝物に学ぶ』を出版した。 ・会期中に3回の公開講座のほか、毎日5回（土曜日は講座のため回数が減る）のボランティア解説、シンポジウムを開催した。 ・宝物の安全、および会場混雑の解消のため、ケースを囲む手摺りを2箇所試験的に造作し、期待通りの効果を得た。 ・混雑によるケース内の環境変化を防ぐため、気密性と調湿性に優れたケースを導入し、期待通りの効果を得ることができた。	 白瑠璃碗と手摺り付き展示ケース		

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	入場者数	263,765人	180,000人	A	経年変化	234,391	283,515 (20日間)	248,389	263,765

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 （奈良国立博物館）　　年2～3回程度
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2124-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1)　展示の充実　　②　特別展(1/4) 国宝　大絵巻展			
担当者	担当部課	企画課	事業責任者	資料管理室　畑　靖紀
実績・成果	・　開会期間　3 月 22 日（土）～6 月 1 日（日）(64 日間) ・　会　　場　特別展室 ・　主　　催　九州国立博物館、西日本新聞社、 RKB 毎日放送 ・　陳列品総件数：26 件(国宝 9 作品・重文 14 作品) ・　入場者数：131,197 人(目標入場者数 10 万人) ・　入場料金：一般 1,300 円、高大生 1,000 円、小中生 600 円 ・　アンケート結果：満足度 94% ・　京都国立博物館所蔵品および寄託品を中心として平安時代から室町時代にいたる国宝・重文の絵巻 20 数件を展示し、独特の表現手法をもつ日本の美術と文学の織りなす魅力的な物語絵巻の世界を紹介。展示構成は第一章「あつめる－王朝の絵巻－」、第二章「つたえる－高僧の生涯－」、第三章「ささげる－神仏への信仰－」、第四章「たのしむ－御伽草子の世界－」の構成からなる。			
補足事項	・　絵巻に焦点をあてた大規模な展覧会としては九州ではじめてのものである。 ・　1 作品の展示場面を長くすることで物語を追って見てもらうことができた。 ・　絵巻の特徴である「さわる」鑑賞者との近い距離、「うごかす」くり広げる動作が必要ということを、展示手法で観覧者に体感してもらう工夫をした。前者としては展示台を新規作成し、展示ケースガラス面により近く設置した。後者としては、教育普及体験ゾーンにて「絵巻をうごかす」体験キットを設置した。 ・　展示室内に映像コーナー2 箇所を設け、京都の公家・社寺・民衆の歴史と美術を紹介するとともに、絵巻の物語をわかりやすく絵解きして紹介した。 ・　記念講演会「絵巻の面白さと読み方」（夏目房之介氏)、「描かれた物語－絵巻の世界」（若杉準治氏)、「絵巻の魅力－物語の楽しみ方」（畑靖紀研究員）のほか、おしゃべり絵巻朗読会を企画実行した。			


国宝 大絵巻展展示風景 1


国宝 大絵巻展風景 2

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	入場者数	131,197 人	100,000 人	A	経年変化				

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、F の理由） 入場者数が目標値を上回った。図録の普及につとめ、図録購入者が入場者の 5%に達し、九博では従来にない高い数値を示した。
中期計画記載事項	特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	計画以上の成果を上げた。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　2124-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1)　展示の充実　　②　特別展(2/4) 島津の国宝と篤姫の時代展			
担当者	担当部課	企画課	事業責任者	保存修復室長　藤田励夫
実績・成果	・開会期間　7 月 12 日～8 月 24 日（40 日間） ・会　　場　特別展室 ・主　　催　九州国立博物館、ＮＨＫ福岡放送局、ＮＨＫプラネット九州、西日本新聞社 ・陳列品総件数：100 点(うち国宝:49 点、重要文化財:18 件) ・入場者数：15 万 2,420 人（目標入場者数　5 万人） ・入場料金　一般 1,200 円、高大生 900 円、小中生無料 ・アンケート結果　満足度 80％ ・第一章「国宝「島津家文書」の世界」、第二章「対外交流の窓口」、第三章「東大の名宝」の構成からなり、展示作品は絵画・書跡・考古・工芸の多彩な分野にわたる。 ・山本博文（東京大学史料編纂所教授）と女優・真野響子氏の対談（収録・テレビ放映あり）、ＮＨＫ大河ドラマ「篤姫」に出演した宮崎あおい氏と堺雅人氏のトークショー（収録・テレビ放映あり）、書家・武田双雲氏による書イベントを企画実行した。			
補足事項	・　東大史料編纂所の所蔵資料を公開する特別展は、東京以外の地では初めての開催であり、その開催意義は大きい。 ・　幕末の薩摩藩と日本、海外交流の窓口であった九州というテーマを設定したが、このテーマは当館・文化交流展示室のテーマとも重なる。本展を文化交流展示室と合わせて観覧していただくことにより、テーマ理解への相乗効果が高まった。 ・　会期が夏休みにかかることもあり、難解な歴史資料をわかりやすく解説した教育普及リーフレット、グラフィックを作成した。また、キャプションを通常より大型化し、文字を読みやすくするなど工夫した。 ・　図録は、雑誌風の体裁とし、論文のほかコラムを多く掲載、好評を得て完売した。 ・　ＮＨＫ大河ドラマ「篤姫」の影響により、本展への関心が高かったため、ドラマで使用された衣装や小道具を展示。観覧者の好評を得た。 ・　「篤姫」への関心を、「篤姫」関連以外の作品へ結びつけることが難しかった。			



島津の国宝と篤姫の時代展風景

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	入場者数	152,420 人	50,000 人	A	経年変化				

年度実績評価総括	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ （Ｓ、Ｆの理由）
中期計画記載事項	特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2124-3

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1)　展示の充実　　②　特別展(3/4) 「国宝　天神さま―菅原道真の時代と天満宮の至宝―」			
担当者	担当部課	企画課	事業責任者	研究員　松川博一
実績・成果	・開会期間　9 月 23 日～11 月 30 日（60 日間） ・会　　場　特別展室 ・主　　催　九州国立博物館、太宰府天満宮、西日本鉄道株式会社、西日本新聞社、 ＴＮＣテレビ西日本、ＴＶＱ九州放送 ･陳列品総件数：120 件(うち国宝:18 点、重要文化財:21 点) ･入場者数：　174,698 人（目標入場者数　10 万人） ・入場料金　一般 1,300 円、高大生 1,000 円、小中生 600 円 ・アンケート結果　満足度 90％ ･第 1 部 菅原道真 波乱の生涯、第 2 部 天神信仰のひろがり、第 3 章天神さまの芸能とまつりとして構成し、展示作品は考古・工芸・彫刻・絵画・書跡の分野にわたる。 ・開催記念トークショー、天神さまの門前町サミット、記念シンポジウム「天神さま太宰府」、国宝北野天神縁起絵巻平成記録本展、北野天神縁起絵巻シンポジウム、天神さま研究所報告会などの催事を企画実行した。 ・福岡県内の児童約 28 万 5 千人に特製招待券を配布し、来館児童にガイドブック「天神さま学習帳」を配布した。			
補足事項	・本展は西日本鉄道創設 100 周年記念としての位置づけもあることから、西鉄福岡駅ステーションジャック（9 月 24 日～9 月 30 日）や吊革公告（9 月 10 日～11 月 30 日）などの広報事業を展開し、展覧会の認知度向上に成果をもたらした。 ・本展は地元ゆかりのテーマであることから、太宰府天満宮参道商店街関係者の特別招待や、福岡県内児童への特製招待券配布など地元に対する働きかけを強化させた。 ・ＷＥＢを活用して天神情報をひろく募集し、その成果を特別展会場内で紹介し好評を得た。また、寄せられた天神情報については報告会を開催し、広く市民への還元を試みた。	 国宝 天神さま展示風景		

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	入場者数	174,698 人	100,000 人	A	経年変化				
年度実績評価総括	Ⓢ　Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｆ （Ｓ、Ｆの理由）　　太宰府天満宮との関係強化、目標を上回る入場者数								
中期計画記載事項	特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。								

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2124-4

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1)　展示の充実　　②　特別展(4/4) 「工芸のいま　伝統と創造　－九州・沖縄の作家たち－」			
担当者	担当部課	企画課	事業責任者	企画課長　伊藤嘉章
実績・成果	・　開会期間　1 月 1 日（木）～3 月 16 日（月）(65 日間) ・　会　　場　特別展室 ・　主　　催　九州国立博物館、日本工芸会西部支部、朝日新聞社、ＮＨＫ福岡放送局 ・　陳列品総件数：161 件(うち人間国宝　第 1 部 7 人　第 2 部 21 人) ・　入場者数：72,637 人(目標入場者数 8 万人) ・　入場料金：一般 1,200 円、高大生 900 円、小中生 400 円 ・　アンケート結果：満足度 88% ・　第 1 部 日本工芸会西部支部の現役正会員 137 人による 2000 年以降の代表作。 ・　第 2 部 九州･沖縄の工芸の隆盛をもたらした作家 21 人の代表作。 ・　北野武監督阿川佐和子氏トークショー、金子賢治氏講演会、碗琴演奏会、出品作家の作品による茶会、茶のセミナー、博多山笠・唐津くんち座談会などを開催。 ・　陶芸部会、染織部会では講師を招いての研究会を開催。			
補足事項	･本展は国立博物館として初めて本格的に無形文化財の展示を行なったもの。 ･九州沖縄の地場産業とも関りの深い伝統工芸の作家に焦点をあてることで、九州に立地する国立博物館としての役割を果たした。 ･九州･沖縄の現役作家については、研究員によって調査を行い、それにより展示・図録の制作を行なった。これにより、作家、観客から高い評価を得ることが可能となった。 ･展示では、従来の伝統工芸の展示と一線を画した、博物館でないとできない展示ということで､多くの観客の興味を喚起するとともに、それぞれの作品の魅力を最大限に活かすことを試みた。 ･天候不順等により、入場者数の目標は達成されなかったが、観覧者の満足度は高いものがあった。	 工芸のいま展示風景		

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	入場者数	72,637 人	80,000 人	B	経年変化				

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Ｆの理由）
中期計画記載事項	特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2131

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1)－③　展覧会広報活動の取組み			
担当者	担当部課	学芸企画部広報室	事業責任者	広報室長　立道惠子
実績・成果	・東京国立博物館ニュース、フロアガイド、総合パンフレット、展示・催し物のご案内、庭園ガイドマップを改訂発行した。 ・ウェブサイトは随時更新し、最新情報の提供に努めた。 ・博物館情報をメールマガジンにより配信した。またメールマガジンの登録・解約の受付、配信を安全かつ利用者の利便性を高めるシステムを正式に導入した。 ・特集陳列の周知印刷物を制作、配布した。 ・マスコミ媒体と連携した広報活動の展開に努めた。			
補足事項	・特集陳列「六波羅蜜寺の仏像」7 月 10 日～9 月 21 日)、 「中国書画精華」(9 月 9 日～11 月 3 日)、「黒田清輝のフランス留学」(2009 年 3 月 3 日～4 月 12 日)開催にあたり、周知印刷物の制作、DM、交通広告を行なった。また特集陳列「蘭亭序」(3 月 4 日～5 月 6 日)「法帖と帖学派」(2009 年 3 月 4 月 26 日)については台東区立書道博物館、特集陳列「茶人好みのデザイン～彦根更紗と景徳鎮」については大倉集古館ならびに五島美術館と連携して周知印刷物を制作するなど、特集陳列の広報に努めた。 ・上野駅公園口に東京国立博物館広報枠を新たに設置した。 ・「月刊うえの」「月刊書道界」「展覧会ガイド」「にっぽにあ」等に加え「毎日小学生新聞」で収蔵品を紹介する連載ページ(1 年間、全 46 回)を確保した。また 264 媒体に月 1 回プレスリリース送付、臨時情報を 2 回送付するなど、マスコミ媒体との連携による広報を行なった。マスコミの取材・撮影・写真貸出し等約 480 件、掲載(新聞・雑誌・インターネット等)約 540 件			



上野駅公園口に新たに設置された広告枠

定量的評価

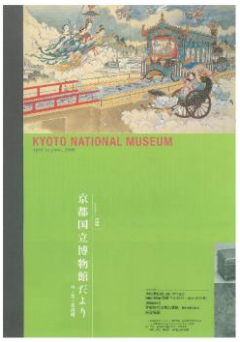
項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
東京国立博物館ﾆｭｰｽの発行	6 回	6 回	A	経年変化	6	6	6	6
ウエブサイトの更新	3,616 回	300 回	A		－	3,000	4,547	3,616
電子メールマガジン配信	53 回	－	－		60	58	57	53
登録者数	14,247 名	－	－		13,286	15,138	16,758	14,247

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、F の理由）
中期計画記載事項	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 (1) 展示の充実 ③個々の展覧会において、広報に積極的に取り組む。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2132

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1)展示の充実　③展覧会広報			
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　赤尾栄慶
実績・成果	メールマガジンの発行（15回） 「博物館だより」の発行・配布（4回） 「News Letter」の発行・配布（4回） 「年間スケジュール」リーフレットの作成・配布 「展示案内」リーフレット（6ヶ国語）の作成・配布 特集陳列リーフレットの作成・配布 ウェブサイトによる情報提供（日本語・英語） モバイルサイトによる情報提供 マスコミ媒体と連携した広報活動の展開			
補足事項	・「博物館だより」は、年4回、それぞれ1万部から1万5,000部発行し、観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか、郵送希望者にも発送している。			



「京都国立博物館だより 158号」

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	博物館だよりの発行	4回	4回	A		4回	4回	4回	4回
	News Letterの発行	4回	4回	A		4回	4回	4回	4回
	展示案内リーフレットの作成	6ヶ国語	6ヶ国語	A		6ヶ国語	6ヶ国語	6ヶ国語	6ヶ国語

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	個々の展覧会において、広報に積極的に取り組む。また、展覧会の入場者数については、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2133

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1)展示の充実　③展覧会広報			
担当者	担当部課	総務課渉外室	事業責任者	渉外室長　添田美由紀
実績・成果	・ホームページのリニューアル ・奈良国立博物館だより　年4回発行 ・奈良国立博物館リーフレット（七ヶ国語）発行 日本語10万部、英語1万部、韓国語8千部、中国語5千部、仏・独・西語各2千部 ・奈良国立博物館展示案内を年2回発行 ・電子メールマガジンによる博物館情報の発信 ・配信回数13回、登録者3,978人 ・特別展「国宝　法隆寺金堂」では、法隆寺と相互で入場券の割引を実施 ・平常展の入場割引券を発行			
補足事項				

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	博物館だより発行 メールマガジン登録者数	4回 3,978件	4回 －	A －	経年変化	4回 1,776	4回 2,826	4回 3,413	4回 3,978

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	個々の展覧会において、広報に積極的に取り組む。また、展覧会の入館者数については、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2134-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1)　展示の充実　　③　展覧会広報 1/2			
担当者	担当部課	企画課	事業責任者	文化交流展室長　河野一隆 特別展室長　伊藤信二
実績・成果	①外国語のガイドブック(中国語)・マップ(英語・中国語・韓国語)を刊行した。 ②テーマを定めたトピック展示の特性を踏まえて、web コンテンツやちらし・ポスター・リーフレット・図録などを、昨年の倍以上に刊行し、新聞紙上での広報等を通じて新鮮な展示を来館者に提供できた。 ③　特別展の実施に伴う広報・宣伝材料を制作した。			
補足事項	①例年実施しているアンケートに加えて、来館者動向の調査を、九州大学金大雄研究室との共同研究として、および科学研究費による研究としても実施した。これらによって実際の来館者の動向がよく捉えられ、今後の文化交流展室の展示活動に大きな指針が得られた。 ②トピック展示では、文化庁・青森県や、九州内自治体・九州大学総合博物館と共同主催して行う企画もあり、当館の自主的な企画の枠を越えた新鮮な展示を提供すると同時に、広報することができた。 ③ 特別展では、ポスター･チラシを制作。うち 2 回の展覧会で先行・本チラシおよび先行・本ポスターと複数制作するとともに、広報資料を制作し、チラシ・ポスターとともに関東・関西圏の雑誌、メディア約 300 媒体と九州圏内の情報誌約 150 媒体に送付した。			



トピック展示「奴国の南」展覧会風景



先行ポスター



本ポスター

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	個々の展覧会において、広報に積極的に取り組む。また、展覧会の入館者数については、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2134-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1)　展示の充実　　③　展覧会広報 2/2			
担当者	担当部課	広報課	事業責任者	広報課長　石橋和夫
実績・成果	①　マスコミ媒体と連携した広報活動を展開した。 ②　「九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ」を発行した。(年 4 回) ③　ウェブサイトによる情報提供を行った。(日本語・英語)(常時更新) ④　地元の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動を行った。 ⑤　九州観光推進機構を通じた海外への広報・営業活動を行った。			
補足事項	①　イベントやトピック展示の開催など 79 件のリリースを記者クラブに資料提供した。また、特別展の開催に関する記者発表やプレスプレビューを実施した。 ②　「九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ」を 4 月 1 日、7 月 1 日、10 月 1 日、1 月 1 日の 4 回発行した。 ③　ウェブサイトによる情報提供の充実を図るため、ホームページのリニューアルを行った。 ④　地元の市、商工会、観光協会等と例月の協議会を開催し、情報を交換した。また、地元の太宰府天満宮参道の商店を対象とした特別展内覧会を開催した。これにより、地元観光協会による特別展ごとのバナー広告などを自主的に制作してもらうなど広報の幅が広がった。 ⑤　九州観光推進機構を通じ、東アジアの旅行業者等に随時情報を提供した。			



季刊情報誌アジアージュ

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	「九博季刊情報誌アジアージュ」の発行	4 回	4 回	A	経年変化	0	3	4	4

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、F の理由）
中期計画記載事項	個々の展覧会において、広報に積極的に取り組む。また、展覧会の入館者数については、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2141

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1) 展示の充実　④黒田記念館所蔵作品の公開機会の拡大			
担当者	担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	列品管理課長　谷　豊信
実績・成果	・平成 21 年 3 月 3 日から 4 月 12 日まで、東京国立博物館本館の展示室において、特集陳列「黒田清輝のフランス留学」を開催した。重要文化財「智・感・情」など、通常は黒田記念館で保管・展示している黒田作品と、通常は平成館や本館で保管・展示している黒田作品に加え、東京藝術大学所蔵の黒田清輝関連作品も合わせて展示し、黒田の留学時代の足跡をたどる。規模・質とも、他館であれば充分に特別展となる展示となり、好評を博した。			
補足事項	  特集陳列「黒田清輝の留学時代」 上：重文「智・感・情」 下：「読書」			

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	特集陳列展示件数	34 件	－	－	経年			44	34
	内、黒田記念館収蔵品数	18 件	－	－	変化			44	18

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	黒田記念館については、東京国立博物館に所属を移し、所蔵作品を東京国立博物館でも展示するなど公開機会を拡大する。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2211-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(2) 歴史・伝統文化の理解促進　①学習機会の提供　(1/4)			
担当者	担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育普及室長　小林牧
実績・成果	1)先導的事業のモデル化及び実践 ○親と子のギャラリー（平常展の一環として実施する教育普及展示） ・「博物館の水族館」6/25～8/31(31 日間)平成館企画展示室 ○体験型プログラムの実施 ・オリジナルスタンプを使った「日本のもようでデザインしよう」等体験プログラムを実施（ほぼ毎日開催)。作品鑑賞を深め、伝統文化の理解の手がかりとなった。 ・展示に関連したワークショップを、大人、高校生、家族など対象別に実施（年間8プログラム　16回実施)。 ・「みどりのライオン」プロジェクト みんなで楽しむ教育普及スペース「みどりのライオン」を表慶館から本館に移設した。			
補足事項	・先導的事業のモデル化及び実践 昨年の実績に基づいて、展示と関連した体験型プログラムを改良、発展させた。各プログラムは、新規来館者の来館のきっかけとなると同時に、さまざまな年齢層の初心者からリピーターまでそれぞれのレベルやニーズに応じて作品鑑賞を深め、伝統文化への興味関心をより高めることができた。博物館における先導的教育普及事業のモデル化をすすめ、実践することができた。 ・「みどりのライオン」プロジェクト 教育普及スペース「みどりのライオン」を特別展の開催にともない本館に移設したところ、一般来館者の利用が増大し、歴史と伝統文化の理解の促進に寄与した。 いっぽうで、学校団体の利用に際しての、集合場所、荷物の預り、昼食場所の提供など、団体向けサービスが低下した面もあった。			



親と子のギャラリー展示風景



ハンズオン体験コーナー
「日本のもようでデザインしよう」

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	体験型ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ参加者数	75,675 人	―	―	経年変化	107,113	98,939	113,492	75,675

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2211-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(2)　歴史・伝統文化の理解促進　①学習機会の提供　(2/4)			
担当者	担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育普及室長　小林牧
実績・成果	2)学校との連携事業の推進 ・スクールプログラム（小・中・高等学校団体対象） ガイダンス、鑑賞支援プログラム、体験型プログラムなどを提供。伝統文化の理解促進に寄与した。 就業体験の受け入れを行った。 ・高等学校の単位制授業に連続する教育プログラムを提供（共催：国立西洋美術館、東京国立近代美術館）。連携する高等学校以外からも広く参加者を受け入れた。 ・全国高等学校美術・工芸教育研究会の会員研修会への協力・講演等 3 件（7／30～8／1　共催：東京芸術大学） ・教員特別鑑賞会・ガイダンスの実施　計 2 回 このほか、地域ごとの教員グループ研修を実施　計 4 回 ・大学院生を対象とした、インターンシップを実施。			
補足事項	・スクールプログラムでは、児童・生徒の鑑賞体験を深め、伝統文化の理解を促進することができた。同時に、公共施設におけるマナーを習得させ、博物館および文化財保護に関する意識を高めることもできた。美術作品を鑑賞し、伝統文化に触れる機会を得ることは、児童・生徒にとって将来の大きな糧になると同時に、博物館にとっては、来館者層の拡大と将来のリピーターの養成につながるものである。 ・教員に対する研修を行うことによって、学校教育の現場における鑑賞教育のよりよい展開と伝統文化に対する理解を促進することができた。 ・インターンシップを通して、学生の研究意欲、職業意識を高め、将来の有望な博物館研究員の養成に寄与した。			



スクールプログラム受講風景

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	ｽｸｰﾙﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	133 校 5,857 人	―	―		76 校 1,704 人	87 校 1,580 人	187 校 4,646 人	左記
	教員内見会	868 人	―	―		516 人	965 人	408 人	
	ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ	18 大学 25 人	―	―		―	18 大学 18 人	12 大学 20 人	

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2211-3

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(2)　歴史・伝統文化の理解促進　①学習機会の提供　(3/4)			
担当者	担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	ボランティア室長　鷲塚麻季

実績・成果

2)学校との連携の推進　大学との連携事業

・東京芸術大学との連携事業大学院生と当館研究員が連携して準備を行ない、陳列品を前に平易な言葉で20分程度解説することにより、来館者の鑑賞の補助ができた。

・当館蔵の仏画を部分模写して制作工程模型を作成し、特殊な技法を紹介すると共に、ギャラリートークを行なって制作過程を説明することで、来館者の鑑賞を手助けした。

　ハンズオン体験コーナーに於ける陳列期間：平成21年1月14日～3月29日

・上記2件（ギャラリートークのみを行うものと、制作工程模型制作とそれについてのギャラリートークを行うもの）の合計

　大学院生7名、ギャラリートーク回数62回、参加者数1,878名

・キャンパスメンバーズ加入校を対象とした事業を実施した。

キャンパスメンバーズ博物館セミナー

　キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の歴史、保存修復、博物館情報、教育普及事業等について当館の職員が実例を交えた解説を実施。

キャンパスメンバーズ教育連携事業

　キャンパスメンバーズ加入校の学芸員志望学生を対象として、作品の取り扱いを含む博物館実務全般について演習・実習形式による体験的講座を実施。

補足事項

・ギャラリートーク実施者にとっては、参加者にわかりやすい内容や話し方を工夫することが貴重な経験となり、参加者は作品鑑賞の理解を深めることができた。

・制作工程模型の作成は、古典的技法を追体験することにより、制作者自身が新知見を得ることができ、その説明を受けた観覧者が作品の制作に関して疑問を解く手がかりを得ることができた。

・総じて東京芸術大学との連携事業において、模型の制作・ギャラリートークを行うことで、学生の学習意欲を喚起し（当館の所蔵作品における新知見を見出す等）、発表する機会を提供した。その結果として博物館の事業および文化財について、来館者に対し多角的な視点での鑑賞・理解を一層深めることにつながった。

・キャンパスメンバーズ対象事業については、博物館セミナー及び教育連携事業について事前に広報活動を行ったため、昨年に比べ、参加校が大幅に増加した。講義も、展示のみならず、保存・展示デザイン・教育など、東博ならではの内容であった。学生もたいへん意欲があり、活発な意見交換が行われ、充実したものになった。



ギャラリートークの様子

定量的評価

項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
東京藝術大学登録者数	7人	－	－	経年変化	17人	9人	9人	7人
キャンパスメンバーズ加入校数	29校	－	－		－	16校	22校	29校

年度実績評価総括

S　Ⓐ　B　C　F

（S、Fの理由）

中期計画記載事項

学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2211-4

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(2)　歴史・伝統文化の理解促進　①学習機会の提供　(4/4)			
担当者	担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育講座室長　白井克也

実績・成果

3)-6) 講演会・列品解説・講座等の実施
月例講演会：実施 12 回、テーマ講演会：実施 2 回、記念講演会：実施 15 回
列品解説（ギャラリートーク等）：実施 101 回
連続講座：実施 1 回（3 日）、イブニングレクチャー：実施 1 回、
教育的イベント：ワヤン上演　実施 1 回
その他
夜桜コンサート、トークショー、薬師寺展ガイダンス、万燈会、禅トーク、坐禅会、呈茶、保存修復見学ツアー、恩賜上野動物園・国立科学博物館連携事業上野の山でゾウめぐり、台東区連携事業横山大観ツアー

本年度は、前年度に比べ、特別展関連の教育的イベントの実施回数が減少したため、これにより参加者数も減少したが、1 回あたりの参加者数の平均値はこれまでの実績を上回った。

補足事項

・多様な講座・講演会等により、文化財に対する理解と親しみを促進した。
・前年の「今後聞きたい講演会」アンケート集計結果を踏まえ、上位項目の「刀剣・鎧」をテーマとした「刀剣鑑賞入門」を月例講演会で行い、聴講者の希望に応じた。
・夜間開館時を利用して金曜日夕方に有名人によるトークショー、万燈会、列品解説などを開催し、新たな来館者層の開拓に努めた。
・受講者募集においてインターネットによる応募や、1 件 2 名のペア受講券などを定着させ、特別展関連イベント等にも適用を拡大した。特に後者は親子、夫婦、友人、介護などの関係を解体せずに参加できる機会を増やし、より気楽で親しみやすい企画とすることに成功した。
・展示作品の使用時の姿を生き生きと伝えるための芸能・音楽でのパフォーマンスを新たに事業化し、今年度は特集陳列「ワヤンーインドネシアの影絵人形」に関連して日本ワヤン協会によるワヤン公演「クレスノ使者に立つ」を開催した。



連続講座風景

定量的評価

項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
講演会等の実施回数	132 回	―	―		83	98	141	132
参加者数	12, 332 人	10, 915	A		10, 712	11, 035	11, 361	12, 332
うち								
講演会　実施回数	29 回							
参加者数	7, 134 人							
連続講座実施回数	1 回							
参加者数	356 人							
公開講座実施回数	1 回							
参加者数	68 人							
列品解説実施回数	101 回							
参加者数	4, 774 人							

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、F の理由）
中期計画記載事項	学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2212

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(2)　歴史・伝統文化の理解促進　①学習機会の提供			
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　赤尾栄慶
実績・成果	・土曜講座を土曜日の午後に開催（36 回） ・夏期講座「文化の波及と変容Ⅱ」を実施(7/30～8/1) ・小・中学生向け作品解説シート（博物館ディクショナリー）を継続して発行（8 回） ・京都大学大学院人間・環境学研究科、歴史文化社会論講座を担当 ・キャンパスメンバーズを継続し、大学と連携（29 校（平成 21 年 3 月 31 日現在）） ・京都橘大学との連携を行い、解説ボランティアによる展示解説を実施 ・「留学生の日」(11/15)を実施 ・「少年少女博物館くらぶ」(7/26）を実施			
補足事項	・外国人留学生の「留学生の日」入館者は、同伴者を含め 163 名。平常展示の観覧により文化財への理解を深める機会を提供するとともに、お茶会を催し、留学生を通じて、日本の伝統文化の国外への発信を行った。  「留学生の日」			

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	講演会等　参加者数	3,413 人	5,181 人	C					
	実施回数	39 回	－	－					
	うち土曜講座参加者数	3,254 人	－	－		4,975	4,827	4,329	3,254
	実施回数	36 回	－	－		44	47	45	36
	夏季講座参加者数	159 人	－	－					
	実施回数	3 回	－	－					
	キャンパスメンバーズ加入校	29 校	－	－			15	21	29

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、F の理由）
中期計画記載事項	歴史・伝統文化の理解促進を図るとともに、その中心的拠点としてふさわしい教育普及事業に重点化する。 ①学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2213

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(2)歴史・伝統文化の理解促進　①学習機会の提供			
担当者	担当部課	学芸部教育室	事業責任者	教育室長　吉澤　悟

実績・成果

・特別展に伴う公開講座の実施　19 回
・当館関係者によるサンデートークの実施　　12 回（毎月 1 回）
・夏季講座の実施　8 月 19 日～8 月 21 日（3 日間）、　参加者 362 名
・正倉院シンポジウムの実施　11 月 3 日
・世界遺産学習実践研修会（於．奈良教育大学）の共同開催　2009 年 1 月 11 日
・職場体験（中学生）の受入　　4 名
・解説ボランティアによる作品解説
　展示会場での解説　延べ 320 日
　学校団体案内　57 件
　一般グループ案内　60 件
　正倉院展の講堂解説　102 回（正倉院展会期中毎日 4～6 回）
　世界遺産学習の受入　36 回（奈良市内の全小学校 5 年生を対象に実施）

補足事項

・世界遺産学習は、奈良市教育委員会と協業し、市内の小学校の 5 年生を対象に行っている事業。世界遺産や文化財への理解や伝承の大切さ、愛郷心などを育むことを目的に、解説ボランティアによるレクチャーと実際の仏像観察などを行っている。各回に 40～100 名を超える児童が来館。
・夏季講座は奈良女子大学 COE 研究との共同主催事業。


公開講座風景

定量的評価

項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
講演会等　参加者数	3,655 人	－	－		4,073	2,743	2,949	3,655
実施回数	34 回	－	－		38	27	30	34
うち特別展等講座参加者数	2,706 人	－	－		2,947	1,586	1,943	2,706
実施数	19 回	－	－		19	12	15	19
満足度	90%	－	－		82	86.3	87	90
うち夏季講座　参加者数	362 人	－	－		434	486	358	362
実施回数	3 日	－	－		3	3	3	3
満足度	90%	－	－		82.5	93	84	90
うちｻﾝﾃﾞｰﾄｰｸ　参加者数	587 人	－	－		692	671	648	587
実施数	12 回	－	－		16	12	12	12
小中学校へのﾒｰﾙﾏｶﾞｼﾞﾝの配信	220 校	220 校	A		220	220	220	220
放送大学面接授業	178 人	150 人			170	160	150	178
キャンパスメンバーズ加入校	25 校	－				12	20	25

年度実績評価総括　S　Ⓐ　B　C　F
（S、F の理由）

中期計画記載事項　学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2214-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(2)　歴史・伝統文化の理解促進　　①　学習機会の提供(1/3)			
担当者	担当部課	交流課	事業責任者	主任研究員　　永井真佐美

実績・成果

① 体験型展示室「あじっぱ」の一画「あじ庵」を 4 月と 10 月に展示替えした。4 月は「中国の吉祥文様」がテーマで、10 月は新規に資料を購入した「ベトナム」がテーマであった。
また、小・中学生を対象に、体験型展示室「あじっぱ」の「あじぎゃら」で、博物館の学芸員の仕事の一部を体験できるワークショップ「なりきり学芸員体験」を実施した。
② 夏休みこども向けイベントとして、小・中学生を対象に 7 月 19 日～8 月 1 日、「行こうよ！あじっぱ夏祭り」を実施した。
③ 児童生徒を対象とした教育普及事業
学校貸出キット「きゅうぱっく」の運用、中学生の職場体験、高校生のインターンシップ、高校生のジュニア学芸員活動、総合的な学習の受け入れなどを実施した。
④ 大学との連携など
博物館実習、筑紫女学園大学との連携によるガムランワークショップの実施。
⑤ 教員対象プログラム
7 月と 9 月に特別展の教員対象内覧会を実施した。また、教育センターキャリアアップ講座、「きゅうぱっく」を活用した研修会、学芸員による高等学校歴史研究会への研修を実施した。

補足事項

①「中国の吉祥文様」では、体験コーナーの他、映像を流し、今の北京を実感してもらうように心掛けた。また、ベトナムでも、映像を流すと同時に体験コーナーも充実させた。「なりきり学芸員体験」は教育普及部ボランティアの司会進行の下、定常開催が可能になり、ほぼ毎週末、ホームページに日時を告知して実施した。
② 教育普及部のボランティアの協力の下、12 日間の会期のなかで、絵本の読み聞かせ、紋切り型ワークショップ、京劇のお面のぬりえ、ユンノリ・ダコンの 4 種類のプログラムを実施した。
③ 学校貸出キット「きゅうぱっく」は小・中学校・高等学校の他、各種イベントでも活用された。また、第 2 回キッズデザイン賞でコミュニケーションデザイン部門賞を受賞した。中学生の職場体験は館内外の協力の下、プログラムが確立し、より充実したものとなった。
⑤ 教育センターと協働したキャリアアップ講座や須玖小学校の教員研修では、具体的な学習指導案が提出され、博学連携が一歩前進した。


「きゅうぱっく」を活用した授業


中学生の職場体験

定量的評価

項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
あじ庵の展示替え	2 回	－		経年	－		2	2
なりきり学芸員体験	63 回	－		変化	－		45	63

年度実績評価総括

S　Ⓐ　B　C　F
（S、Fの理由）

中期計画記載事項

学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2214-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(2)　歴史・伝統文化の理解促進　　①　学習機会の提供(2/3)			
担当者	担当部課	展示課 企画課	事業責任者	主任研究員　　森井啓次 文化交流展室長　河野一隆 特別展室長　　伊藤信二
実績・成果	①毎週火曜日（火曜休館の週はお休み）に研究員によるミュージアムトークを実施した。(月 2～4 回で 15 分～30 分程度)。1 回の平均参加人数は 30 名程度である。 　開催にあたっては昨年と同様に講師の調整は担当研究員が行い、実際の運営にあたってはボランティアコーディネーター指導により、ボランティアの手で行われている。当館では展示替えが頻繁に行われていることから、展示解説ボランティアにとっても資料学習の良い機会となっている。 ②学校教育と連携事業を実施した。 ③特別展記念講演会・ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ・ﾄｰｸｼｮｰを開催した。			
補足事項	①全研究員が担当し、キャプションだけでは伝えられない情報を来館者に伝えることができている。更なるミュージアムトークの充実を図り、聴講者の増加とリピーター確保につなげたい。 ②3 回の特別展で、中高教員対象の内覧会を実施 ③各特別展では記念講演会・ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ・ﾄｰｸｼｮｰを実施した。内容は外部講師や著名ゲストを迎えての、より親しみやすい内容のものと、館外・館内研究者による学術的なものの二面を打ち出し、各層の期待に応えるものとなった。またいずれの特別展でも、地元自治体への出張講演を複数回実施した。			


ミュージアムトーク風景

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	ﾐｭｰｼﾞｱﾑﾄｰｸ								
	実施回数	37 回	－			66	47	42	37
	参加者数	1,096 人	－			2,411	1,806	1,320	1,096
	講演会等								
	実施回数	19 回				23	24	61	19
	参加者数	4,411 人	5,255	B		7,144	4,282	4,168	4,411
	内、特別展記念講演会								
	実施回数	11 回				2	12	7	11
	参加者数	2,670 人				550	2,153	1,892	2,670
	内、ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ								
	実施回数	6 回				6	3	1	6
	参加者数	1,555 人				1,700	640	316	1,555
	内、ﾄｰｸｼｮｰ								
	実施回数	-回				－	－	－	-
	参加者数	-人				－	－	－	-
	内、ﾐｭｰｼﾞｱﾑ講座								
	実施回数	2 回						11	2
	参加者数	186 人						640	186

年度実績評価総括	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ （Ｓ、Ｆの理由）
中期計画記載事項	学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2214-3

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(2)　歴史・伝統文化の理解促進　①　学習機会の提供(3/3)			
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	総務課長　樋口理央
実績・成果	キャンパスメンバーズ制度に、教育機関（大学・専門学校・高校）が、新規および継続で入会した。また、会員校からの依頼で特別展の出張講義を実施した。 キャンパスメンバーズ加入数　22校 大　学　11校 短期大学　3校 専門学校　2校 高等学校　6校 特別展の出張講義　9件			
補足事項	キャンパスメンバーズには、本年度から九州地区で最大級の学生数を有する九州大学が加入し、文化交流展示室に6,287人の入場があった。 出張講義については、研究員の人数や業務に限りがあるため、増やすには難しいという課題もある。  出張講義の様子			

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	キャンパスメンバーズ加入校	22校	－	－	経年変化	－	－	21	22

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2221-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(2)歴史・伝統文化の理解促進　②－1 ボランティア活動の支援			
担当者	担当部課	博物館教育課	事業責任者	ボランティア室長　鷲塚麻季
実績・成果	・ 活動充実のため、ハンズオン体験コーナー等で作業を補助する活動を設けた。 ハンズオン体験コーナー利用者数：38,893 人 ・各種イベント補助の機会を設けた。補助回数 21 回 ・ガイドツアーの充実を図った。 実施回数 404 回、参加人数 10,693 人 ・児童・生徒の就業体験を受け入れた。 学校数 33 校、生徒数 117 人 ・職員による研修を行い活動に資した。 実施回数 174 回、参加人数のべ 2,820 人			
補足事項	・各種教育普及事業の補助、ボランティア自身による自主的な企画立案による活動、各種解説ツアーの実施により、来館者の生涯学習機会の増大に寄与し、来館者へのサービスの向上をはかることができた。 ・各種ボランティア活動を通じてボランティアを育成し、相互協力により教育普及活動の充実が図られてきている。	 子どもたちのアートスタジオ（根付づくり）の様子		

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	ボランティア数 うち生涯学習ボランティア登録者数	171 人 164 人	－	－	経年変化	152 人	151 人	153 人	164 人
	うち東京芸術大学学生ボランティア数	7 人							

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2222-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(2) 歴史・伝統文化の理解促進　②－1　ボランティア活動の支援・資質向上			
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	連携協力室長　山下善也
実績・成果	・大学（京都橘大学）との学術協定に基づき、学生が解説ボランティアとして活動した。 8月5日から8月29日までの毎火・水・金曜日に、1日2回、考古・陶磁・彫刻の展示作品について、当館職員による事前講習ののち、来館者に解説を行った。 ・調査・研究支援ボランティアの募集と各種事業活動の充実を進めた。当館職員が行う収蔵品調査、社寺調査等の調査・研究業務の補助として、調査作品の計測、調書の作成、撮影等を行った。また、展示替えの際、作品の移動、収納等の作業の補助を行った。			
補足事項	・学生が解説ボランティアとして、8月5日から8月29日までの毎火・水・金曜日に1日2回（13時30分、15時）、平常展示館1階にて、考古・陶磁・彫刻の展示作品について、当館職員による事前講習ののち、来館者に解説を行った。 ・調査・研究支援ボランティアの募集を行い、社寺調査をはじめとした各種調査研究活動に参加し、活動の充実を図った。	 解説ボランティア		

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	ボランティア数	30人	－	－	経年変化	23人	23人	23人	30人

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	歴史・伝統文化の理解促進を図るとともに、その中心的拠点としてふさわしい教育普及事業に重点化する ②－1　教育普及活動の充実に寄与するようボランティア活動を支援し、ボランティアの資質向上に努める。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2223-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(2)歴史・伝統文化の理解促進　②－1 ボランティア活動の支援・資質向上			
担当者	担当部課	学芸部教育室	事業責任者	教育室長　吉澤　悟

実績・成果

・週末の来館者対応を強化するため、新規に 6 名の増員を行った。
　これに伴い、新旧のボランティア希望者を対象に、当館職員による研修を実施した。
・特別展、特別陳列の開催ごとに 1～2 回、当館職員による展示内容の研修を実施し、併せて図録の配布を行い自己学習を奨励した。
・正倉院展会期中に行うボランティア講堂解説は、教育室作成の資料をもとに、立会研修を実施し、さらに実地の自主トレーニングを推奨している。
・展示内容に関する疑問について質問用紙を用意し、学芸部職員がこれに回答対応している。
・ボランティア室の環境整備を行い、蔵書を増加した。

補足事項

・解説ボランティアには自己学習と班内研鑽を推奨し、来館者に向かっては人柄を生かした柔軟な対応を依頼している。
・解説ボランティアの活動は火曜から日曜までの開館日であるが、年に 5～6 回の月曜日開館および年末年始の開館においても活動可能な人に対応してもらうよう依頼している。


解説ボランティアによる案内

定量的評価

項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
ボランティア数	102 人	－	－	経年変化	99	85	96	102

年度実績評価総括　Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ
（Ｓ、Ｆの理由）

中期計画記載事項　教育普及活動の充実に寄与するようボランティア活動を支援し、ボランティアの資質向上に努める。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2224-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(2)　歴史・伝統文化の理解促進　　②―1　ボランティア活動の支援・資質向上			
担当者	担当部課	交流課	事業責任者	主任研究員　上野 知彦
実績・成果	①　展示解説ボランティアが主に予約団体に対して4階文化交流展示室の展示解説を実施。 ②　教育普及ボランティアが“あじっぱ”で、来館者と共に活動することを通して、アジア各国の文化や生活を紹介。 ③　館内案内ボランティアが日本語・英語・韓国語・英語で来館者に対応。また、バックヤードツアーにも対応。 ④　環境ボランティアが博物館科学課の指導のもとＩＰＭ活動のサポート。 ⑤　イベント・学生ボランティアによるお正月・ＧＷなどにあわせたイベントの企画・実施。 ⑥　サポートボランティアに広報紙の作成や他館ボランティアとの交流の企画・実施。 ⑦　資料整理ボランティアによる“秋吉コレクション（郷土人形）”の調書作成。 ⑧　他館などのイベントへの参加・出展を3回（館）実施。 ⑨　活動報告書の作成 〔対応来館者数〕※事前予約分のみ（当日受付対応は除く） 展示解説：6,213人　　館内案内：8,876人　　バックヤード：3,118人 〔研修会〕 全体研修：10回　　部会別研修：95回　　グループ研修：3回			
補足事項	①　予約団体だけでなく、常時、質問を受けたり、個人・グループに解説を行っている。 ②　ものづくり体験なども常時行っている。 ③　火・金曜日には予約団体、日曜日は当日受付でバックヤードツアーを行い、博物館の好評な取り組みと1つとなっている。 ④　博物館科学課の指導のもと、害虫除去、温湿度測定、収蔵庫メンテナンスなど快適な博物館環境の維持に大きな貢献をしている。 ⑥　ボランティアの横のつながりの構築、各部会の活動のサポートを行っている。 ⑦　活動の成果を“あじぎゃら”で発表している。 ⑧　兵庫県立「人と自然の博物館」主催のボランティア集会など、他館のイベントに九博ボランティアとして参加。	 バックヤードツアーの様子  あじっぱでのボランティアの活動の様子		

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	ボランティア数	388人	―	-	経年	293	293	293	388
	全体研修会	10回	―	-	変化	6	7	17	10
	部会別研修	95回	―	-		120	120	105	95
	グループ研修	3回	―	-		―	―	54	3

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	教育普及活動の充実に寄与するようボランティア活動を支援し、ボランティアの資質向上に努める。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2221-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(2) 歴史・伝統文化の理解促進　②―2　博物館支援者の増加			
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	総務課長　吉田勇人

実績・成果

友の会、パスポート及び賛助会等の会員の確保に努めるとともに、地域や企業との連携を推進した。

1)友の会・パスポート・平常展割引パス　会員数

種　別		20 年度	(参考) 19 年度
友の会（1 万円）		1,913 人	1,379 人
パスポート	一般 4,000 円	19,547 人	18,742 人
	学生 2,500 円	858 人	1,193 人
平常展割引パス（2,000 円）		30 人	39 人

・19 年度に開始したオンラインによる「友の会」「パスポート」の申し込み受付数は、順調に増加している。(利用者 319 名)

2)賛助会　会員数

	20年度	(参考)19年度
特別会員	13団体	16団体
維持会員	26団体・個人157人	24団体・個人124人

・会員対象の特別鑑賞会等の実施　特別展内覧会　4 回　事業報告会　1 回

3)地域、機関との連携

①上野のれん会、上野法人会、上野の山文化ゾーン協議会等、地域の会合等に参加するとともに、台東区及び台東区所管財団法人、東京都、財団法人東芝国際交流財団、株式会社東京美術、三菱商事株式会社等と、展覧会の同時期開催、イベントへの協力、「留学生の日」協賛、障害者向け内覧会等、さまざまな事業を行った。

②日本大学芸術学部との共催で、所沢市教育委員会後援、埼玉県民芸術文化祭協賛事業として、埼玉県所沢市に位置する柳瀬荘を会場に、「柳瀬荘アート・教育プロジェクト」を開催し、ワークショップ、美術学科教職員展、舞劇などの 5 つのプログラムを行った。(参加者合計約 886 名)

補足事項

1)・「友の会」「パスポート」のオンライン申込みサービスは定着しつつあり、利用者は順調に増加している。

2)・団体維持会員・特別会員については不況の影響のため、前年度以上に厳しい状況となった。企業等に対する積極的なアプローチを考えていきたい。
・個人の維持会員数は前年度同様、順調に伸びている。

3)・地域との連携事業を進めるためには、相互の資源を活かせる企画を、展示計画と連動させつつ早期に立てることが重要である。
・新規に、所沢の柳瀬荘を活用した企画を地元の日本大芸術学部と共催し、地域の住民を取り込んだ活動を実施し、一定の成果があったので、今後も継続していく。
・企業との連携を今後さらに推進していくためには、企業側にも魅力となるような事業を提案するなどの工夫を図っていく必要があると思われる。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
友の会会員数	1,913 人	―	―	経	1,377	1,346	1,341	1,913
パスポート会員数	19,547 人	―	―	年	17,889	18,705	16,035	19,547
賛助会員特別会員数	13 団体	―	―	変	14	16	16	13
維持会員（団体）数	26 団体	―	―	化	22	22	24	26
維持会員（個人）数	157 人	―	―		77	112	123	157

年度実績評価総括

S　Ⓐ　B　C　F

（S、Fの理由）

中期計画記載事項

歴史・伝統文化の理解促進を図るとともに、その中心的拠点としてふさわしい教育普及事業に重点化する。

企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2222-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(2)　歴史・伝統文化の理解促進　　②－2　博物館支援者の増加			
担当者	担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	総務課長　大西真一 企画室長　赤尾栄慶

実績・成果

・支援団体が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力した。
・企業との連携により、施設を活用したイベントの実施及び広報活動の充実を図った。
・「友の会」事業を継続して実施した。
　会員数　2,932 人



バロックコンサート

補足事項

・支援団体（社団法人清風会）が行う鑑賞会（5 回）・見学会（4 回）・会報（4 回）の解説・執筆に協力した。
・企業との連携によるコンサートを実施し、特別展覧会のプレイベントコンサートや平常展示館建て替え工事に伴うファイナルコンサート、初めての試みとして庭園の青空のもとで、自転車エコライブ、さらに米朝事務所の制作協力による「京都・らくご博物館」（4 回）を実施した。合わせて、特別展覧会などの広報を行った。
・「友の会」会員数においては、平常展示館建て替え工事のため、12 月 7 日（日）で同館を閉館したことを受け、加入者数は前年度に比べ約 290 名減少している。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
友の会会員数	2,932 人	－	－		2,386 人	3,784 人	3,224 人	2,932 人

年度実績評価総括	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ （Ｓ、Ｆの理由）
中期計画記載事項	歴史・伝統文化の理解促進を図るとともに、その中心的拠点としてふさわしい教育普及事業に重点化する ②－2　企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図る。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	ほぼ順調

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2223-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(2)歴史・伝統文化の理解促進　②－2 博物館支援者の増加			
担当者	担当部課	総務課渉外室	事業責任者	渉外室長　添田美由紀
実績・成果	・友の会 会員数　2,815 人（一般 2,623 人、学生 162 人、家族 30 人） ・賛助会 特別支援会員：6 団体、特別会員：1 団体、一般会員（個人）：25 人、（団体）：17 団体 ・特別展「天馬-シルクロードを翔ける夢の馬-」実施につき、企業から協力金を獲得 ・奈良名観光イベント「ライトアッププロムナード・なら　2008」、「なら燈花会」に協力			
補足事項	 賛助会員芳名板  ライトアッププロムナード・なら			

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	友の会会員数	2,815 件	－	－	経年	2,613	2,288	2,439	2,815
	賛助会数（総数）	49 件	－	－	変化	28	35	45	49

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2224-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(2)　歴史・伝統文化の理解促進　　②―2　博物館支援者の増加			
担当者	担当部課	総務課 交流課	事業責任者	総務課長　樋口理央 事務主査　元永行英
実績・成果	①賛助会員制度においては、設置の検討を行ったが、他館の状況等調査を行った結果、諸課題により当館で新たに実施するには難しいと判断した。 ②友の会およびパスポート会員においては、昨年度同様で推移している。 ③本年度で来館者数 500 万人を突破した。 ④支援団体や近隣地域と連携したイベントを実施した。			
補足事項	①賛助会員制度は、他館での会員に対する優遇措置が税制面で税務署から指摘を受けたこともあり、新たに賛助会員制度を作るのは難しいと判断し、その代替措置として、当館ホームページを利用した寄付金のお願いをしているところである。 ④支援団体や近隣地域と連携したイベント ・「九州国立博物館を愛する会」と連携して「九博こどもフェスタ」を開催。館内ボランティアや周辺自治体の協力も得て、地域のこどもたちを対象にしたイベントを実施できたもの。 ・（財）九州国立博物館振興財団と連携して、「百済の美」写真展を開催。百済と関係の深い太宰府の博物館として有意義な催しを実施できたもの。 ・福岡女子短期大学（太宰府市）と連携して館内のカフェで定期的にコンサートを実施。地域連携の促進及び館内施設の有効利用を図った。 ・エントランスホールにて博多山笠・長崎ランタンフェスティバル・九州各地のひなまつり等の展示を通して、地域の代表的な催事を来館者に広く周知した。 ・内容を勘案したうえで、自治体や文化団体の主催するイベントを受入れ各団体との連携を強化するとともに、来館者サービスを促進した。	 九博こどもフェスタ風景		

定量的評価

項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
友の会 会員数	154	―	―	経年	312	229	167	154
パスポート会員数	3,120	―	―	変化	1,552	1,312	3,252	3,120

年度実績 評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画 記載事項	企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図る。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2311-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(3)快適な観覧環境の提供　①観覧環境の整備プログラム等の策定　(1/5)			
担当者	担当部課	博物館教育課	事業責任者	ボランティア室長　鷲塚麻季
実績・成果	○点字解説等の改訂 視覚障害のある方に構内を紹介するための、点字版パンフレットの作成に取り組み、本年度あらたに10部を増刷した。			
補足事項	・視覚障害のある方が展示を理解するための有効な手段となっている。 ・当館のバリアフリー化の促進にも寄与した。 ・今後、より多くの方々に利用してもらえるよう、周知方法等についても検討していきたい。			



点字パンフレット

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	配布部数	9部	－	－	経年	－	－	9部	9部
	増刷部数	10部	－	－	変化	－	－	10部	10部

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	国民に親しまれる施設を目指し、入館者の立場に立った観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2311-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(3) 快適な観覧環境の提供　①観覧環境の整備プログラム等の策定　(2/5)			
担当者	担当部課	博物館教育課・列品管理課・企画課	事業責任者	教育普及室長　小林牧
実績・成果	○4カ国語パンフレットの制作 ・「日本美術の流れ」展示のテーマ解説および主な展示作品の解説をまとめた日本語パンフレットを作成した。作品の展示替えに応じて、更新を行った。 年間計36回更新・制作（第128号－163号） ・外国人に「日本美術の流れ」を理解してもらうために、よりわかりやすい解説を盛り込み、カラー図版を多用した英語、中国語、韓国語カラーパンフレットを配布した。			
補足事項	・展示を理解するための有効な手段として、外国からの多くの来館者に利用された。 ・ナショナルセンターとして、日本の伝統文化の理解促進に寄与した。 ・英語、中国語、韓国語によるカラーパンフレットは、より基礎的な情報で構成したため、わかりやすいと好評を得た。また、内容が作品の展示替えに左右されないので、長期間にわたって配布できるようになった。			



カラーパンフレット
英語版、中国語版、韓国語版

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	日本語パンフレット更新・制作回数	36 回	－	－	経年変化	－	－	39 回	36 回

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	国民に親しまれる施設を目指し、入館者の立場に立った観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2311-3

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	（3）快適な観覧環境の提供　①観覧環境の整備プログラム等の策定　（3/5）			
担当者	担当部課	企画課	事業責任者	デザイン室長　木下史青
実績・成果	○展示照明の整備 より快適な観覧環境を構築するため、展示照明の整備を順次進めた。 ・本館 11 室 特集陳列「六波羅蜜寺の仏像」のためのカッタースポットライトによる照明 ・既存展示ケース用に開発された上部光ファイバー用特注先端レンズ器具を追加整備した			
補足事項	・彫刻を主体とした特集陳列のため、作品の見せ方に効果的な、カッタースポット（フレーミングスポットライト）照明器具を新規に購入・使用した。 ・以前から使用しているカッタースポットライトの光源が100V仕様であることから、色温度が低かったが、新規購入器具では、12Vミラー付ハロゲンランプを使用しているため、仏像をよりシャープな光で見せることが可能となった。 ・既存の展示ケースに付属の光ファイバー照明は、十分な光量が得られないため、展示効果に支障があったが、18年度に新規に開発した先端レンズ器具を、順次追加整備している。	 本館 11 室 特集陳列「六波羅蜜寺の仏像」 カッタースポットライト約 40 灯による展示照明を行った。 （うち約 20 灯が新規購入分の器具を使用）		

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	国民に親しまれる施設を目指し、入館者の立場に立った観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2311-4

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(3) 快適な観覧環境の提供　①観覧環境の整備プログラム等の策定　(4/5)		
担当者	担当部課　企画課	事業責任者	特別展室長　救仁郷秀明
実績・成果	下記の特別展で実施 ・特別展「国宝　薬師寺展」　146,444 件 ・特別展「対決　巨匠たちの日本美術」　63,056 件 ・特別展「スリランカ展」　7,112 件 ・特別展「大琳派展」　52,248 件 ・特別展「福沢諭吉展」　7,157 件 ・特別展「妙心寺展」　29,118 件 貸出数：計 305,135 件		
補足事項			

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	音声ガイド貸出件数	305,135 件	—	A	経年変化			256,441	305,135

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	国民に親しまれる施設を目指し、入館者の立場に立った観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2311-5

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　　①　快適な観覧環境の提供(5/5)			
担当者	担当部課	経理課	事業責任者	経理課長　金子寛志
実績・成果	①平成館,東洋館の多目的トイレにオストメイト対応設備（2 箇所）を設置した。			
補足事項	○多目的トイレにオストメイト対応設備を設置した。 オストメイトサイン  オストメイト対応設備 			

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2312

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	（3）快適な観覧環境の提供　①　快適な観覧環境の提供			
担当者	担当部課	総務課、学芸部	事業責任者	総務課長　大西真一 学芸部長　小松大秀
実績・成果	・平常展示館の建替に伴う先行熱源設置工事が完了し、南門売店増築工事が着工された。 ・平常展示館の建替に先行して、旧事務棟渡り廊下の解体作業及び発掘調査に着手した。 ・6カ国語の「展示案内」リーフレットを制作した。平常展示館閉館に伴い「展示案内（日本語版）」と庭園マップを改訂した。 ・展示テーマごとに外国語（英語）パネルを設置した。 ・特集陳列「坂本龍馬」及び特別展覧会において音声ガイドによる情報提供を実施した。「japan 蒔絵」展においては、英語による音声ガイドも提供した。 ・特別展覧会「京都御所ゆかりの至宝」において入館待ち時間をきめ細かく情報提供し、観覧の便を図った。 ・当館職員並びに売店、レストラン従業員、（財）京都古文化保存協会学生ボランティアを対象として「マナー講習会」を開催し、接遇技能の修得に努めた。 ・東山消防署の協力により、消防訓練を実施した。また、普通救命講習及びＡＥＤの取扱い講習会を開催した。 ・ＡＥＤを平常展示館のほかに特別展示館に設置した。平常展示館閉館後は南門改札場所付近に移設し、館外からも利用することを可能とした。			
補足事項	・将来構想検討委員会建設事業小委員会において、博物館の外構整備に関する基本計画が策定され、将来構想検討委員会委員会にて承認された。 ・音声ガイド利用台数 「坂本龍馬」：1,792 台 「絵画の冒険者　暁斎」：8,608 台 「japan 蒔絵」：7,452 台 「京都御所ゆかりの至宝」：15,717 台 「妙心寺」：1,028 台（3 月末現在）  消防訓練大会でのＡＥＤ取扱展示訓練 ・特別展覧会において、日よけテントの設置、自動販売機の増設、休憩所の設置等、来館されたお客様に十分配慮した。 ・事務職員はすべて普通救命講習を受講しており、衛士は上級救命講習を受講している。ＡＥＤ取扱についても機会があるごとに繰り返し訓練している。 ・京都市消防局及び京都市内事業所等で組織する「安心救急ネット京都」創設にあたり、加入登録を行い、ＡＥＤ設置、救命講習の受講等応急手当の普及啓発に組織的に取り組んでいる。			

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	音声ガイド貸出件数	34,597 件	－	－		19,787 件	53,232 件	50,344 件	34,597 件
	リーフレット	6 カ国語	6 カ国語	A		6 カ国語	6 カ国語	6 カ国語	6 カ国語

年度実績評価総括	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ （Ｓ、Ｆの理由）
中期計画記載事項	国民に親しまれる施設を目指し、入館者の立場に立った観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。 ①施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2313

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(3)快適な観覧環境の提供　①快適な観覧環境の提供			
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	渉外室長　添田美由紀
実績・成果	・男子用トイレに小児用小便器と車椅子用手すりを3カ所設置。 ・「正倉院展」期間中に入場待ち列用テントを拡充、看護師の館内常駐を実施。 また混雑緩和のため、定期的な入場制限、11月2日の団体入場禁止、混雑状況のホームページ掲載などを実施。 オータムレイト券購入者に記念品（第1回の入場券を模したしおり）を配布した。 ・地下回廊に携帯電話接続のため、携帯電話各社によるアンテナを設置。 ・本館から地下回廊へ降りる階段に転倒防止用のテープを設置。 ・国宝　法隆寺金堂展で博物館、法隆寺の相互割引を実施。			
補足事項	・「正倉院展」での入場待ちテントを拡充し、全員に提供することができたため、観覧者の満足度向上につながった。また、オータムレイト券に記念品を加えることで訴求性を強め、ピーク時の混雑緩和に寄与することが出来た。 ・これまで地下で携帯電話がつながらなかったため、多客時の待ち合わせなどに支障をきたしていたが、接続できるようになり、待ち合わせが容易になるなど観覧者の満足度向上につながった。			



手摺り付き小便器



携帯電話アンテナ

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	音声ガイド貸付件数	60,356件	－	－		39,467	41,490	37,110	60,356
	リーフレット	7カ国	7カ国	A		7カ国	7カ国	7カ国	7カ国

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2314-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　　①　快適な観覧環境の提供(1/2)			
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	総務課長　樋口理央
実績・成果	①リーフレットを引き続き 7 カ国語（日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語）を作成した。 ②九博概要を新しく 3 カ国語（日本語、中国語、韓国語）を作成した。 ③4 階にある救護室入口に車椅子利用者対応としてスロープを設置し、段差の解消を行った。 ④多目的トイレ（3 ヵ所）にオストメイト対応設備を設置した。			
補足事項	○多目的トイレにオストメイト対応設備を設置した。今後は弱視者に対応した誘導ブロックの色の変更を計画しているところである。 ○当館の概要については、より分かり易くビジュアルなものにするべく見直した。また、多言語対応として、日本語版・中国版・韓国語版の 3 カ国語を作成した。来年度は、英語版を追加して作成予定。			


オストメイトサイン


オストメイト対応設備


救護室入口スロープ

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	リーフレット作成	7 カ国語	7 カ国語		経年変化				

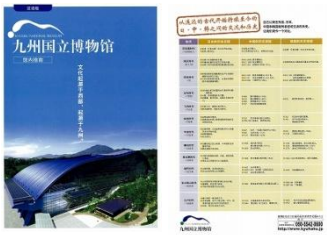
年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、F の理由）
中期計画記載事項	施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2314-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　　①　快適な観覧環境の提供(2/2)			
担当者	担当部課	企画課	事業責任者	文化交流展室長　河野一隆 特別展室長　伊藤信二
実績・成果	①　特別展ごとに展覧会の内容のより深い理解を助けるための音声ガイドを作成した。 ②　特別展では、観覧者の理解を助けるための普及プロジェクトを実施した。 ③　中国語による展示ガイドブックおよび英語・中国語・韓国語の簡単な展示解説付マップを作成、配布して海外からの来館者に対応することとした。 ④　中国語・韓国語による展示の時代背景を簡単に解説するキャプションを作成し、主要な展示品にそって掲示した。これにより、音声ガイド以外でも展示情報が得られるようにした。			
補足事項	①　「国宝天神さま」展では、音声ガイドの利用促進のため、音声案内者として、女優の市原悦子氏を起用した。 ②　普及プロジェクトの例として、特別展「国宝　天神さま」では、展示室内に「天神さま研究所」を開設し、全国からホームページを利用して天神さま情報を収集・公開した。さらに「天神さま学習帳」を作成し、小学生対象に配布し、普及につとめた。 ④　来館者動向の調査を九州大学金大雄研究室との共同研究ならびに科学研究費等を活用して実施し、分かり易い展示研究を進めた。 　また、中国からの大規模団体客ツアーに対応するため、文化交流展示室の内容を紹介する中国語ガイドブックを作成し、英語・中国語・韓国語による簡単な展示解説付マップを作成し、配布した。			



中国語ガイドブック表紙、裏紙


中国語ガイドブックの内容

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	音声ガイド貸出件数	67,663 件	－	－	経年変化	76,743	69,552	74,367	67,663
	うち特別展	59,547 件	－	－		74,362	59,707	62,661	59,547
	うち文化交流展示	8,116 件	－	－		2,381	9,845	11,706	8,116

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2321

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(3)　快適な観覧環境の提供 ②満足度調査及び専門家からの批評聴取による管理運営の改善			
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	総務課長　吉田勇人
実績・成果	20年度は通常行っている特別展アンケートに加え、来館者満足度調査、非来館者意識調査を実施した。調査結果については東京国立博物館来館者研究会（リーダー井上企画課長）で分析し、21年度に具体的な改善策を提言する予定である。 ○平常展満足度調査（20年10月1日～21年3月31日） 回収サンプル数　522件　満足度　84．6% ○非来館者意識調査 インターネット調査及びグループインタビュー ○特別展アンケート すべての特別展で実施し、概ね高い満足度を得ることができた。			
補足事項	・特別展アンケートでは、満足度の高いものが多かった。この結果を踏まえ、次年度以降の展覧会でも高い満足度を維持するよう、アンケートを積極的に活用していきたい。			

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	・平常展	84．6%							
	・薬師寺展満足度	84．3%							
	・フランスが夢見た日本展満足度	70．9%							
	・対決展満足度	85．3%							
	スリランカ展満足度	80．0%			経年変化				
	・大琳派展満足度	84．7%							
	・福澤諭吉展満足度	87．4%							
	・妙心寺展満足度	73．8%							

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	国民に親しまれる施設を目指し、入館者の立場に立った観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。 ②一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から入館者のニーズを把握し、入場料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2322

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(3)快適な観覧環境の提供 ②満足度調査及び専門家からの批評聴取による管理運営の改善			
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　赤尾栄慶
実績・成果	・　入館者アンケートを実施 平常展満足度　70% 回答数 758 件（とても良い 41%、良い 29%、普通 15%、あまり良くない 4%、よくない 4%） 特別展覧会「暁斎」満足度　94% 回答数 1,337 件（良い 80%、まあまあ良い 14%、どちらともいえない 2%、あまり良くない 1%、良くない 1%） 特別展覧会「japan 蒔絵」満足度　95% 回答数 807 件（良い 71%、まあまあ良い 24%、どちらともいえない 2%、あまり良くない 1%、良くない 1%） 特別展覧会「京都御所ゆかりの至宝」満足度　87% 回答数 1,036 件（良い 57%、まあまあ良い 30%、どちらともいえない 5%、あまり良くない 3%、良くない 1%） ・特別展等に関する専門家の展覧会評を求め、「博物館だより」に掲載した。			
補足事項	・平常展及び特別展覧会において入館者アンケートを実施した。特に回答する必要のある場合には、電話等で回答した。特別展覧会に関して、特に高い評価を得ている。 ・特別展覧会「絵画の冒険者　暁斎」に対する専門家の展覧会評を「博物館だより 160 号」に掲載した。			

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	平常展満足度	70%	－		経年変化	71%	73%	72%	70%
	暁斎展満足度	94%	－						
	蒔絵展満足度	95%	－						
	御所展満足度	87%							

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	国民に親しまれる施設を目指し、入館者の立場に立った観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。 ②一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から入館者のニーズを把握し、入場料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2323

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(3)快適な観覧環境の提供 ②満足度調査及び専門家からの批評聴取による管理運営の改善			
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	渉外室長　添田美由紀
実績・成果	・平常展アンケート（全開館日） 回答数　1,202 件（良い 67%、普通 10%、良くない 4%） ・英語版平常展アンケート（全開館日） 回答数　49 件 ・特別展アンケート 「天馬―シルクロードを翔ける夢の馬―」 回答数 124 件（良い 81%、普通 11%、良くない 4%） 「国宝　法隆寺金堂展」 回答数 391 件（良い 75%、普通 16%、良くない 7%） 「西国三十三所―観音霊場の祈りと美―」 回答数 342 件（良い 89%、普通 7%、良くない 1%） 「第 60 回　正倉院展」 回答数 624 件（良い 75%、普通 15%、良くない 7%） ・特別展について、専門家からの展覧会評を「博物館だより」に 1 回掲載			
補足事項	・正倉院展アンケート結果のうち、「良い」が昨年度に比べて 7 ポイント上昇し、「良くない」が 5%減少した。 ・正倉院展アンケート回答数が前年度より減少した。アンケート記載ブースが休憩所がわりに利用され、記載する場所が塞がれていたことが原因と思われるので、次回は立ったまま記載できるスタンドを導入するなど、アンケートが書きやすくなるよう改善する。			

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	平常展満足度	67%	－	－	経年	66%	68%	66%	67%
	天馬展満足度	81%	－	－	変化	－	－	－	
	法隆寺金堂展満足度	75%	－	－		－	－	－	
	西国三十三所満足度	89%	－	－		－	－	－	
	正倉院展満足度	75%	－	－		71%	67%	68%	75%

年度実績 評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、F の理由）
中期計画 記載事項	一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から入館者のニーズを把握し、入場料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2324

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(3)　快適な観覧環境の提供 ②　満足度調査及び専門家からの批評聴取による管理運営の改善			
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	総務課長　樋口理央
実績・成果	①館内に設置しているアンケート調査から得られた意見・要望に対して、可能なものについては改善を行った。 ②九州大学との共同研究により、ユニバーサルデザインによる空間評価等の結果から、館内のサインの見直し、エントランス内の案内所の再配置等を計画している。			
補足事項	①・クレームの多かった案内版不足を是正。（ＪＲ二日市駅でのアクセス掲示、ホームページでの分かり易いアクセス案内等） ・エントランスに休憩スペースが不足していたため、ベンチを増設した。その結果、館内アンケートによる休憩スペース不足への苦情が前年度から比べ約 1／3 に減少した。 ②九州大学の森田研究室との共同研究により、館内における不統一だったサインを統一しつつあり、無駄に多かった掲示を削減した。また、今後エントランスに来られたお客様に対して、文化交流展室（4 階）の展示（特にトピック展）に足を運んでいただけるようにどのように掲示を充実するかを中心に研究し、次年度においては仮の掲示を用いて調査を行い、更なるサインの改善を図る。			



ベンチ増設

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20

年度実績評価総括	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ （Ｓ、Ｆの理由）
中期計画記載事項	一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から入館者のニーズを把握し、入場料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2331

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ③ミュージアムショップやレストラン等の改善			
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	総務課長　吉田勇人
実績・成果	ミュージアムショップやレストラン等の利用者サービスの向上に努めた。また、ミュージアムショップに関連した企画等に協力した。 ・ミュージアムショップを運営する東京国立博物館運営協力会(以下「協力会」という。)と、「ミュージアムショップグッズ開発等会議」を開催し、商品の充実及びオリジナル商品の製作について協議・検討を行った。 ・新たな絵はがきについて、3年計画中2年目の今年度は、24種類を製作した。 ・当館が監修した新たなミュージアムグッズとして、館蔵品のフィギアおよびレプリカを製作した。 ・昨年度、リニューアルオープンしたミュージアムショップ（デザイン室が企画・監修として参加）では、前年度に比べ、来館者一人当りの売上額が増加した。 ・レストランでは、正月にお年玉プレゼントや甘酒の振る舞いサービスの実施、季節毎にメニューを変える等サービスの向上に努めた。 ・昨年度リニューアルオープンしたカフェの「アジアンカフェ」は好評であり、前年度に比べ売上げが増加した。			
補足事項	・若い世代にもアピールできる商品として、世界中にコレクターが存在するフィギアである「ベアブリック」の「風神雷神」版(館蔵品をモチーフとしたもの)を、新たに製作販売した。 ・新たなミュージアムグッズとして、館蔵品の如来像を忠実に80%縮小した、完成度の高いレプリカを製作した。(21 年度から発売予定) ・ミュージアムグッズについては、絵はがきやレプリカだけでなくその他の商品についてもその都度協力会と協議を重ね、新たな商品の開発に貢献した。 ・ミュージアムショップのリニューアルは、お客様からの好意的な意見をいただいただけでなく、成果をあげることにもつながった。 ・今後も、ミュージアムショップやレストランと連携協力を図りながら、利用者のニーズをより適切に反映できるよう努めていく必要がある。	 如来像レプリカ		

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
					経年変化				
年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）								
中期計画記載事項	国民に親しまれる施設を目指し、入館者の立場に立った観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。 ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。								

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2332

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(3)　快適な観覧環境の提供 ③　ミュージアムショップやレストラン等の改善			
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	総務課長　大西真一

実績・成果

・当館の観覧者サービスの一環として欠かせないものとしてミュージアムショップやレストランがある。これらの運営は、当館が主体となって運営すべきであるが、人員や財源等の問題から長年に亘って外部業者に委託を行っている状況にある。



ミュージアムショップ

【ミュージアムショップ】
・絵はがき販売総数は 303 種類におよび、そのうち当館所蔵品をデザインとして監修した絵はがき数は 139 種類に上っている。
・当館とミュージアムショップが協力し、オリジナルグッズとしてエコバック及び収蔵作品の一部をモチーフとした風呂敷を新規制作した。これらのグッズは、外国人観覧者に好評であった。

【レストラン】
・季節に応じたメニュー（抹茶ミルク、黒みつオーレ）を取り扱うことで利用者へのサービスを図った。
・新メニュー（和風きのこスパゲッティ・カルボナーラ等）を増やす等、利用者の要望に応えた。
・これらは、レストランを利用した人達のアンケート調査を元に改善したものである。
・利用者と直に接するミュージアムショップやレストランの従業員を対象に接客研修を行った。

補足事項

・博物館のミュージアムショップやレストランは、利用者にとって快適に過ごせる時間と空間、さらにやすらぎの場でもあるので、より充実を図っていく必要がある。
・エコバックは、特別展覧会図録が収まる大きさであり、京博のロゴをデザイン化されたもので、使用されるごとに博物館の広報の担い手となっている。
・新規のオリジナルグッズは、幅広い層に購入が可能なワンコイン料金(500 円、100 円等)の商品を開発し、より一層の利用者への利便性向上を図った。
・展覧会ごとに関連グッズや関連書籍等を取り揃え、利用者へのサービスを行った。
・博物館に足を運ぶことが出来ないお客様には、通信販売でも対応した。
・レストランメニューに「今だけ、季節限定」と古都をイメージした商品を引き続き拡充していく。

平常展示館建て替え工事に伴いレストランの営業は、特別展覧会期間中のみの変則的なオープン・ミュージアムショップについては、店舗の確保が出来ず、当分の間通信販売となる。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
		－	－					

年度実績評価総括

Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ
（Ｓ、Ｆの理由）

中期計画記載事項

国民に親しまれる施設を目指し、入館者の立場に立って観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。
③ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	ほぼ順調

【書式Ａ】

施設名	奈良国立博物館	処理番号	2333

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(3)快適な観覧環境の提供 ③ミュージアムショップやレストラン等の改善			
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	渉外室長　添田美由紀
実績・成果	・レストランメニューをリニューアル（単品メニューの充実） ・「正倉院展」では常設のレストラン及びミュージアムショップ以外に、敷地内に飲食店及びおみやげ店が出店			
補足事項	・レストランは、昨年度セットメニューを充実させたので、今年度は単品メニューを充実させた。 ・平常遷都 1300 年記念グッズ（ピンバッジ）の販売を開始した。			



レストラン新メニュー


正倉院展おみやげ店

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2334

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(3)　快適な観覧環境の提供 ③　ミュージアムショップやレストラン等の改善			
担当者	担当部課	広報課	事業責任者	広報課長　石橋和夫
実績・成果	①　特別展、文化交流展の展示替えやイベントに合わせてミュージアムショップの商品陳列を見直した。 ②　レストランでは特別展に関連したメニューを提供した。			
補足事項	①　文化交流展の文化財をモチーフにした商品を開発し、開館3周年記念商品や詰め合わせセットを販売した。 また、特別展のテーマに沿った商品陳列を行った。 ②　特別展に関連したメニューを提供した。 特別展「工芸のいま　伝統と創造　九州沖縄の作家たち」では福岡の「筑前煮」、北九州の「鯖のぬか炊き」、さつまいもあん（鹿児島）をキンカン（宮崎）に見立てた「唐芋金環風」などを取り合わせた期間限定弁当を提供した。			



開館3周年記念詰め合わせ商品

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20

年度実績 評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画 記載事項	ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 3111

中項目	3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(1)　収蔵品等に関する調査研究成果の発信			
担当者	担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	出版企画室長　浅見龍介
実績・成果	定期刊行物（研究誌『ＭＵＳＥＵＭ』・紀要・図版目録・修理報告書・法隆寺献納宝物調査概報・研究図録）6 件、特別展図録（平城遷都 1300 年記念『国宝　薬師寺展』等）・特集陳列印刷物（『六波羅蜜寺の仏像』等）11 件、その他（『東京国立博物館日本美術 50 選』の中国語版・韓国語版）2 件を刊行した。これらの出版物により、国内外に広く当館の収蔵品に関する調査研究の成果を発信することができた。			
補足事項	・『法隆寺献納宝物調査概報ＸＸⅨ』は、国宝聖徳太子絵伝 10 面のうち、第 3・4 面についての詳細な調査報告である。彩色の剥落等により図様が不明瞭であったが、拡大写真を多用し、解説を付すことによって描かれた内容が把握できるようになった。聖徳太子研究に寄与するところが大きい。 ・研究図録『骨角器』は、当館所蔵の骨角器全点の図面と論文を収めたもので、この分野の研究の最新成果を示すものである。 ・『日本美術 50 選』中国語版、韓国語版は、海外からの観覧者に対応するため、新たに作成したものである。 ・『東京国立博物館紀要』は、これまで未紹介の江戸時代の大小絵暦に関する研究論文（田沢裕賀）、中世染織品の中でも特色ある辻が花に関する研究論文（小山弓弦葉）を収録する。当館所蔵品の詳細な研究報告は、研究員の責務を果たすものである。 ・特集陳列の図録のうち『六波羅蜜寺の仏像』は、3000 部を売り上げ、大きな反響を呼んだ。展示のリーフレットは 5000 部を無償で配布したが、ほぼ残部がなくなるほど多数の要望があり、多くの来館者に研究成果を発信することができた。 ・東京国立博物館創立 150 年（平成 34 年）を視野にすえ、今年度から 150 年史編纂プロジェクトを立ち上げた。『MUSEUM』に館史に関する論文、報告も積極的に掲載することとし、本年度には 1 本の論文を掲出した。			



特集陳列「自在置物」図録

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	定期刊行物	6 件	6 件	A	経年	4	5	5	6
	特別展図録･特集陳列印刷物	11 件	8 件	A	変化	8	4	5	11
	その他	2 件	3 件	B		2	－	1	2

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、F の理由）
中期計画記載事項	収蔵品等に関する調査研究の成果を研究紀要、学術雑誌、展覧会に関わる刊行物、学会及びインターネット等を活用して広く発信する。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 3112

中項目	3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(1)　収蔵品等に関する調査研究成果の発信			
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　赤尾栄慶
実績・成果	・「平安仏教とその造形」に関しては、シンポジウム「摂関期にみる美術の諸相」を開催(6/16) ・　国際シンポジウム「輸出漆器が語る東西交流の 400 年」を開催 ・研究紀要「学叢」第 30 号を刊行した			
補足事項	・「平安仏教とその造形」に関しては、シンポジウム「摂関期にみる美術の諸相」を開催(6/16)し、79 人が参加し、活発な討論が行われた。 ・平成 20 年度の国際シンポジウムは、11 月 8 日　に京都国立国際会館で開催し、3 名が研究発表を行い、4 名でパネル・ディスカッションが行われた。190 人が参加し、活発な討論がなされた。	 「国際シンポジウム」		

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	国際シンポジウム参加人数	190 人	―		経年変化	261 人	152 人	285 人	190 人

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	収蔵品等に関する調査研究の成果を研究紀要、学術雑誌、展覧会に関わる刊行物、学会及びインターネット等を活用して広く発信する。また、各種セミナー、シンポジウムを開催する。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 3113

中項目	3　我が国における博物館ナショナルセンターとしての博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(1)収蔵品等に関する調査研究成果の発信			
担当者	担当部課	学芸部企画室	事業責任者	企画室長　稲本泰生

実績・成果

『天馬－シルクロードを翔る夢の馬』(特別展図録)、『国宝　法隆寺金堂展』(特別展図録)、『建築を表現する－弥生時代から平安時代まで』(特別陳列図録)、『西国三十三所　観音霊場の祈りと美』(特別展図録)、『第 60 回正倉院展』(特別展図録)、『The 60th Annual EXHIBITION OF SHOSO-IN TREASURES』(特別展英語版図録)、『おん祭と春日信仰の美術』(特別陳列図録)、以上 7 冊の展覧会目録を刊行した(以上刊行物は全て作品解説付き、展覧会担当研究員の総論や各論を掲載)。また毎年行われる特別陳列の図録『お水取り』は完売につき、補訂を行った上で増刷刊行した。さらに 60 回の正倉院展の歩みを集成した「正倉院展 60 回の歩み」を編集し、刊行した。

正倉院学術シンポジウム「正倉院展 60 回　その歴史と未来」(11 月 3 日、奈良県新公会堂、参加者数 177 名)を開催し、過去 3 回のシンポジウムの記録と成果を集成した当館編「正倉院宝物に学ぶ」(思文閣出版発行)を刊行した。

前年度に引き続き、ホームページ上で研究紀要『鹿園雑集』のバックナンバーを公開し、また文化財保存修理所で修理した文化財を写真パネル等で展示した。さらに従来からの読売新聞「鹿園観照－奈良国立博物館で見る名宝」に加えて新たに産経新聞に「祈りの美」の連載を開始し、展示作品について定期的な紹介を行った。

補足事項

① 特別展・特別陳列等の開催に伴って展覧会目録等を刊行し、作品解説を付すにとどまらず、展覧会の企画・開催によって得た最新の調査研究の成果を発表することによって、充実した内容であるとの評価を多数得た。
② 正倉院学術シンポジウムでは、同展が第 60 回を迎えたことに因むテーマ設定を行って第一級で活躍する研究者を招聘して研究発表・討論を一般公開で行い、近代史上に占める正倉院宝物及び正倉院展の意味を深く検討し、広く示すことができた。
③ 正倉院展が第 60 回を迎えたことを記念して「正倉院展 60 回の歩み」「正倉院宝物に学ぶ」の 2 冊の書物を刊行し、既に同展の歴史に関する基礎資料及び正倉院宝物に関する最新の調査研究の水準を集成・発信するとともに、当館で同展がかくも長く開催され続けてきたことの意義を広くアピールすることができた。
④ 新聞紙上に展示品・所蔵品についての解説や研究成果の発表を行い、当館の活動を広く一般にアピールできた。


正倉院学術シンポジウム風景

定量的評価

項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、F の理由）
中期計画記載事項	収蔵品等に関する調査研究の成果を研究紀要、学術雑誌、展覧会に関わる刊行物、学会及びインターネット等を活用して広く発信する。また、各種セミナー、シンポジウムを開催する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 3114

中項目	3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(1)　収蔵品等に関する調査研究成果の発信			
担当者	担当部課	博物館科学課 文化財課 交流課	事業責任者	保存修復室長　藤田励夫 研究員　荒木和憲 主任主事　久保田資子
実績・成果	①特集陳列「博物館と文化財修理―九州国立博物館文化財保存修復施設開設 3 周年記念―」の開催と図録刊行。展覧会は 5 月 13 日から 6 月 22 日。 ②研究紀要『東風西声』第 4 号を刊行（3 月発行）。 ③九州国立博物館開館 3 周年を記念して、韓国国立中央博物館、韓国国立扶餘博物館から専門家を招き、古代の大宰府、そして倭に影響を与えた百済をテーマにしたシンポジウムを開催した。			
補足事項	①文化財修理について、具体的に一般の方々へ対して情報を発信することができた。図録は文化財修復関係の学生等の教材としても活用できる。 ③シンポジウムの開催に合わせて友好館である韓国国立公州博物館から研究員を招聘し、交流促進を図った。			



シンポジウム開催風景

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	国際シンポジウム　参加者	385 人	―		経年	1,700	640	586	385
	回　数	1 回	―		変化	6	3	4	1

年度実績 評価総括	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ （Ｓ、Ｆの理由）
中期計画 記載事項	収蔵品等に関する調査研究の成果を研究紀要、学術雑誌、展覧会に関わる刊行物、学会及びインターネット等を活用して広く発信する。また、各種セミナー、シンポジウムを開催する。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 3211

中項目	3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(2)海外研究者の招聘・海外への研究員派遣			
担当者	担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	国際交流室長　鬼頭智美

実績・成果

欧米、中国、韓国より計 15 名の研究者を招へいし、当館研究員延べ 25 名を欧州、北米、中国、韓国等へ派遣して、展覧会事業の推進および学術交流を行った。これらの交流活動により、欧米・アジア主要館との連携を強化、また当館収蔵品とその保存・活用についての意見交換を行った。

また、日中韓国立博物館館長会議を開催、三館の協力体制を確認、連携を深めた。さらに、中国の故宮博物院との協力について覚書を締結し、収蔵品の保存、活用、また相互貸借についての協力体制を明文化した。

スリランカより計 4 名の研修を受け入れた。

補足事項

・欧米およびアジア(特に中国・韓国)の主要館との連携は順調に強化されている。
・定期学術交流として、中国・故宮博物院が加わり、中国との研究交流の基点となることが期待される。
・保存分野においても専門家を招へいし、セミナーを開催、中国における文化財保存の現状についてタイムリーな情報を得ることができた。
・欧米の主要館が構成する国際展覧会オーガナイザー会議（IEO）に運営委員会メンバーとしてアジアで唯一参加し、欧米各館に対して、アジアの博物館美術館の現状理解と、ネットワークの拡充につとめた。
・スリランカ展開催に合わせて、コロンボ国立博物館及びスリランカ考古局から派遣された 4 名の研究員に対し、保存修復、収蔵品管理、教育普及、危機管理などに関する研修を行い、アジア地域の博物館交流の一助とした。



日中韓国立博物館長会議（20.10 月）

定量的評価

項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
海外研究者の招聘	15 名	6 名	A	経年	13	9	10	15
海外への研究者派遣	25 名	6 名	A	変化	6	14	22	25
海外研修生の受入	4 名	2 名	A		1	2	2	4

年度実績評価総括

S　Ⓐ　B　C　F
（S、Fの理由）

中期計画記載事項

我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与
海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムを開催するなど博物館活動に対する示唆が得られるよう努める。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 3212

中項目	3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(2)　海外研究者の招聘			
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　赤尾栄慶
実績・成果	海外からの研究者の招聘　9名 海外への研究員の派遣　18名 国際会議への派遣　4名			
補足事項	平成20年度に開催した国際シンポジウムでは、チェコ・プラハ工芸大学フィリップ・スホメ副学長、オランダ・ライデン大学のシンティア・フィアレイ研究員をお迎えした。 また、平成21年度開催予定の特別展覧会「シルクロード　文字を辿って－ロシア探検隊収集の文物－」に関する打ち合わせのため、ロシア科学アカデミー東洋写本研究所イリナ・ポポヴァ所長を招へいした。			

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	海外からの研究者招聘	9人	5人程度	A	経年	13人	9人	7人	9人
	海外への研究員の派遣	18人	1～2人	A	変化	18人	15人	21人	18人

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムを開催するなど博物館活動に対する示唆が得られるように努める。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 3213

中項目	3　我が国における博物館ナショナルセンターとしての博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(2)海外研究者の招聘			
担当者	担当部課	学芸部企画室	事業責任者	企画室長　稲本泰生
実績・成果	国際交流協定を結んでいる四機関との間で研究員の招聘及び派遣を行い、文化財の調査研究を実施した。内訳は中国・上海博物館（当館からは3名を10日間派遣)、中国国家博物館（研究員2名を1ヶ月間招聘、当館から研究員2名を約1ヶ月間派遣)、中国・河南博物院（研究員2名を1ヶ月間招聘)、韓国国立慶州博物館（研究員1名を1ヶ月間招聘、当館から研究員1名を3週間派遣）である。 このほか文化庁「外国人芸術家招へい事業」により中国・西安碑林博物館長・趙力光氏を、同「在外日本古美術品に係る博物館・美術館研究協力事業」によりメトロポリタン美術館から研究員1名を、同「アジア諸国博物館・美術館研究協力事業」により韓国・国立中央博物館から研究員1名、中国・陝西歴史博物館から研究員1名を招聘し、国内各地で文化財調査、博物館等施設の視察を行っていただき、当館研究員との間で情報交換等を行った。			
補足事項	① 国際交流協定を結ぶ4館との間の交流では、将来の共同調査や展覧会開催に向けた実りある調査・情報交換を行うことができた。 ② 文化庁主催の各種招聘事業においても、諸外国の主要博物館との友好関係を強化し、当館の今後の調査研究・展示活動を充実させる上で有効な成果をあげることができた。 ③ 当館からの研究員派遣では、派遣先で文化財調査を行うことによって、仏教美術に関する当館の調査研究・展示活動を広くアジア的視野に立って展開する上で、貴重な情報の収集を行うことができた。 ④ 中国・隋唐時代の主要文物を多数所蔵する西安碑林博物館から館長を、また陝西歴史博物館から仏教造像を専門とする研究員を招聘し、平成22年度に開催を予定している平城遷都1300年記念大遣唐使展に対する助力を得る上で、特に有意義な交流を行うことができた。			

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	海外の研究者招聘	9人	6人程度	A	経年	10	10	9	9
	職員の海外への派遣	6人	6人程度	A	変化	13	16	6	6

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムを開催するなど博物館活動に対する示唆が得られるよう努める。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 3214

中項目	3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(2)　海外研究者の招へい			
担当者	担当部課	総務課 交流課	事業責任者	総務課長　樋口理央 主任主事　久保田資子

実績・成果

○海外研究者の招へい　18 人（目標 5 人程度）
○海外への研究員派遣

・「文化財保存国際交流セミナー『漆工品の保存修理』における講演
・JICA 草の根技術協力事業「文化財の保存と地域の活性化」研修のため
・「第 2 回文化財保存国際セミナー」
・平成 20 年度外国人芸術家・文化財専門家招へい事業に係る招へい
・日中共同遼文化研究に関する研究員の招へい
・九州国立博物館保存修復事業等に係る協力のため
・九州国立博物館開館 3 周年記念国際シンポジウム「百済、倭そして大宰府」講演

補足事項

○ＪＩＣＡ草の根技術協力事業
　平成 19 年度（2007 年）からは、3 年間の予定で独立行政法人国際協力機構（ＪＩＣＡ）と協力してタイ王国との交流事業を開始した。
本事業は、日タイ間で文化財の保存修復と地域活性化へ向けての利活用に係る専門家派遣及び研修員受け入れを行うことにより、文化財の保存活用の中核となる博物館の整備や研究員の博物館運営・文化財保存・教育普及等の意識向上を図り、もって、文化財を利活用した地域の振興に寄与することを目的としている。



研修の様子

定量的評価

項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
海外の研究者招へい	18 人	5 人程度	A	経年	10	17	38	18
海外博物館等への派遣	35 人	1 人程度	A	変化	40	32	44	35

年度実績評価総括

Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ
（Ｓ、Ｆの理由）

中期計画記載事項

海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムを開催するなど博物館活動に対する示唆が得られるよう努める。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 3311

中項目	3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	（3）博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムの検討、実施			
担当者	担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	保存修復課長　神庭信幸
実績・成果	1. 特定非営利活動法人文化財保存支援機構が主催する専門家セミナーに東京国立博物館が共催し、東京国立博物館を会場として平成 20 年 8 月 3 日（日）～14 日（木）の 10 日間、「文化財保存修復専門家養成実践セミナー」を開催した。東京国立博物館は講師・プログラムの選定、およびセミナー会場としての修理施設の提供を行った。本セミナーの対象は、社会で活動している文化財保存修復専門家及び専門家を目指す学生である。内容としては、国内外で活躍できる高度な能力を持つ専門家を育成するために、基礎能力の格段の向上を目指すものであり、既に現場で活躍している講師陣による実践セミナーである。2 ヵ年で 1 クールであるため、平成 20 年及び 21 年で 1 クールを終了する。 2. 文化財保存修復学会との共催により、特集陳列「東京国立博物館コレクションの保存と修理」展にちなみ修理技術者を対象にした研修会を 3 月 21 日（土）に開催。2 件の修理事例の発表及び特集陳列の解説を実施した。 3. 大学院生のインターンを 11 月 4 日(月)～14 日(金)間での間、3 名受け入れた。			
補足事項	１．セミナーカリキュラムは 5 テーマに沿って配分（51 時間） ①「保存修復事業における調査診断法ー」 無機分析（3 時間）、工学調査（3 時間）、模写模造（3 時間） ②「環境保全概論」 温湿度（3 時間）、生物生息（3 時間）、 ③基礎修理設計 東洋絵画（3 時間）、油彩画（3 時間）　、彫刻（3 時間）、染織（3 時間）、考古（3 時間）、石材（3 時間） ④基礎材料論 紙・布（3 時間）、金属（3 時間） ⑤特講 倫理（1.5 時間）、保護法（1.5 時間）、臨床保存（3 時間）、対症修理（1.5 時間） 2.　「東京国立博物館コレクションの保存と修理」にちなんだ修理技術者研修会。「梅樹禽鳥図屏風の修理」及び「コレクションの修理方針の決定と修理技術者」に関する発表と討議。特集陳列「東京国立博物館コレクションの保存と修理」展の解説を実施した。 3.　東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学 1 名 東京学芸大学大学院教育学研究科文化遺産教育 1 名 京都工芸繊維大学大学院先端ファイブロ科学 1 名			



三輪九博館長による講義風景

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、F の理由）
中期計画記載事項	

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 3312

中項目	3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(3)　博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムの検討、実施			
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　村上　隆
実績・成果	・毎月1回文化財保存修理所内工房を当館研究員が巡回し、修理技術者に指導・助言を行った。 また、2か月に1回修理技術者と当館との定例会議を開催した。 ・当館にて開催の特別展覧会において修理技術者に対する研修会を実施した。 参加者　「暁斎」展　62人 「japan　蒔絵」展　38人 「京都御所ゆかりの至宝」展　44人			
補足事項	・文化財保存修理所巡回によって、修理技術者へ専門的な立場から指導・助言を行うことで双方の見識にプラスとなった。			

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 3313

中項目	3　我が国における博物館ナショナルセンターとしての博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(3)博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムの検討、実施			
担当者	担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	上席研究員　鈴木　喜博

実績・成果

○修理所巡回（毎月 1 回）を実施した。館長、副館長および学芸部研究員らが修理所の各三工房を見学し、修理途中の文化財の修理状況を視察し、修理中に分かった新知見を通して新たに文化財としての価値を高めるようなデスカッションを技術者と行い、それによって文化財に対する深い理解と相互の交流・研鑽に努めた。

○平成 21 年 3 月 19 日（木）　午後 5 時から 6 時 30 分。当館講堂。
北村昭斎工房の漆工品修理について、近年の修理実績のなかから、琉球および中国明時代の漆工品修理について、修理品の概要、修理中の調査および新知見、修理方針、修理技術などについて、スライドを使用して発表し、学芸部研究員、修理所工房のスタッフとデスカッションを行い、文化財修理にたいする多様な価値観および思想について見識を深めた。

補足事項

○平成 21 年 3 月 11 日(水)　文化財保存修理所の特別見学を開催し、一般の方々に対する文化財修理の認識について深めてもらう機会をつくった。これによって文化財修理所の各工房においても、修理の新情報についての取り組み方や、文化財修理の作業内容の公開の仕方を学習し、開かれた修理を志向する意識を育むように努めた。募集定員の 10 倍以上の応募者があり非常に盛況であった。


奈良国立博物館
文化財保存修理所特別公開
3月11日
10：00～ 13：00～
15：00～

修理所公開チラシ

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20

年度実績評価総括　S　Ⓐ　B　C　F
（S、Fの理由）

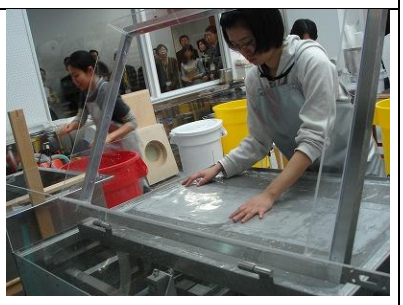
中期計画記載事項　博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 3314

中項目	3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(3)　博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムの検討、実施				
担当者	担当部課	博物館科学課	事業責任者	課長 特任研究員 保存修復室長 研究員	本田光子①②④ 村田忠繁②③ 藤田励夫②③④ 志賀智史②③④
実績・成果	①　市民協同型 IPM 活動に関する研究会　第 1～4 回 7 月 10 日、8 月 23 日、10 月 26 日、2 月 8 日　参加者数のべ 230 名 ②　九州国立博物館文化財保存国際交流セミナー 第 1 回「漆工品の保存修理」5 月 16 日　参加者 34 名 第 2 回「アジアにおける文化財の保存修復」9 月 29 日　参加者 56 名 第 3 回「装こう技術による紙文化財の保存修復」11 月 4～7 日参加者のべ 58 名 ③　a 文化財保存修復研修（地元大学の文化財保存技術専攻学生 7 名対象）8 月 4～8 日 b 古文書保存基礎講座（地元博物館文化財関係者 32 名対象）1 月 20 日、27 日 ④　漆工品の取り扱い講座（当館職員及び関係者）2 月 2 日　参加者 20 名				
補足事項	①　昨年度 5 回の研究会を開催したのを受けて、今年度は 4 回の研究会を開いた。また、当館で開催された文化財保存修復学会第 30 回記念大会に併せて、市民アカデミー、バックヤードツアーを開催し、のべ 413 名の参加者を迎えた。 ②　第 1 回は、ウクライナの専門家を招聘し、日本の重要無形文化財保持者らとともに漆工品の保存修復のセミナーを開催した。第 2 回は、タイ、大韓民国から保存科学の専門家を招聘し、各国の文化財保存の現状を学ぶセミナーを開催した。第 3 回は、大韓民国で活動する装潢分野の修復技術者 2 名を招聘し、研究員と修復技術者、修復技術者同士の研究面、技術面での交流をおこない、その活動の一端を講演会として市民に公開した。 ③　a 地元 3 大学の学生を対象に装こう技術の研修を実施した。 b 当館での「寒糊炊き」をともに経験し、初級の装こう技術の研修を 2 会場で行った。 ④　漆工品の取り扱いとクリーニング方法についての講座を開催した。				


②九州国立博物館文化財保存国際交流セミナー　第 3 回「装こう技術による紙文化財の保存修復」


③a 文化財保存修復研修

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	研修会等開催回数	10 回	8 回	A	経年変化	―	―	11	10

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、F の理由）
中期計画記載事項	博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 3411

中項目	3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(4)　公私立の博物館等への貸与の推進			
担当者	担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	列品管理課長　谷　豊信
実績・成果	・国内の公立・私立の博物館が実施した特別展および平常展示に、列品および寄託品を多数貸与した。 ・考古資料相互貸借事業は、二つの博物館と協力して実施した。 ・長期貸与のなかで特筆すべきは、17 年度以来継続している長崎歴史文化博物館に対するキリシタン関係遺物貸与である。同館への貸与品と、九州国立博物館への長期管理換品、そして当館での展示品とがそれぞれ一定の質を保つよう、調整している。			
補足事項	・貸与に当たっては、先方の施設および責任体制の確認、作品の保存状況の確認、先方の事前調査への対応、作品が輸送・展示に耐えるかの判定、希望が重複した場合の調整、引渡し時および返却時の状況確認を行った。 ・考古相互貸借事業の成果は以下の通り。福島県埋蔵文化財センター白河館には考古資料 42 件を貸与した。当館は 34 件を借用し、特集陳列「古墳時代金属器の修理・復原」を開催した。長野県立歴史館には 9 件（内、重文 1 件）を貸与した。当館は 29 件を借用し、特集陳列「長野の弥生土器・土師器・須恵器」を開催した。			



特集陳列
「長野の弥生土器・土師器・須恵器」

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	貸与件数	1,125 件	―	―	経年変化	1,337	1,329	1,302	1,125
	うち国内の貸与件数	1,012 件	1,000 件	―					
	うち海外の貸与件数	113 件	―	―					
	貸与先施設数	135 件	―				142		135

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、F の理由）
中期計画記載事項	収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館に対し、展示等の充実に寄与するための貸与を促進する。収蔵品の貸与については、貸与に関する情報を公開するなど具体的措置を講ずることとする。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 3412

中項目	3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(4) 公私立の博物館等への貸与の推進			
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　若杉準治
実績・成果	・45機関に対し246件の貸与を行った。（うち海外1機関に対し1件） （館蔵品についての貸与件数） ・特別観覧件数　902件			
補足事項	・公私立博物館、美術館からの要請により、当館の展示計画との調整を行ったうえで、積極的に収蔵品の貸与を行い、各博物館、美術館の展示の充実に寄与した。 ・「@KYOTOMUSE Digital Archives」（artize.net）を介したデジタル画像の提供事業を継続的に行っている。			

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	貸与件数 うち海外への貸与件数	246件 1件	約120件 －	A －	経年変化	230件	232件 8件	171件 3件	246件 1件

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を推進する。収蔵品の貸与については、貸与に関する情報を公開するなど具体的措置を講ずることとする。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 3413

中項目	3　我が国における博物館ナショナルセンターとしての博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(4)公私立の博物館等への貸与の推進			
担当者	担当部課	学芸部列品室	事業責任者	岩田茂樹
実績・成果	・館蔵品と寄託品の貸出は、展覧会にして 44 件、展示会場にして 47 館（巡回展のため会場数の方が多い）、作品件数にして 163　件。 貸与先内訳（のべ） 外国 1 館、国立 8 館、公立 28 館、私立 9 館　その他 1 館 貸与作品内訳 館蔵品 70 件（絵画 20 件、彫刻 10 件、書跡 3 件、漆工 3 件、金工 15 件、染織 3 件、考古 16 件） 寄託品 93 件（絵画 43 件、彫刻 17 件、書跡 6 件、漆工 3 件、金工 18 件、染織 2 件、考古 4 件）			
補足事項	・目標値をクリアしており、順調に推移している。 ・たんに数的目標に到達することを第一義とするのだけではなく、展覧会の意義と作品の保存状態を慎重に検討しつつ貸し出しており、到達度は高いと考える。			



「薬師如来坐像」
韓国国立中央博物館
「統一新羅彫刻展」に貸与

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	貸出件数	163 件	100 件	S	経年変化	147	161	137	163

年度実績評価総括	Ⓢ　A　B　C　F （S、Fの理由）　当初計画の貸出数をすでに 1．5 陪以上超えており、他館を通じて広く国内外の人々に優れた文化財を披露できたと思われるため。
中期計画記載事項	収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を推進する。収蔵品の貸与については、貸与に関する情報を公開するなど具体的措置を講ずることとする。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 3414

中項目	3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(4)　公私立の博物館等への貸与の推進			
担当者	担当部課	文化財課	事業責任者	研究員　荒木和憲
実績・成果	国内 28 機関・海外 2 機関に所蔵品および借用品（東京国立博物館からの長期管理換品を含む）を貸与した。			
補足事項	○国内機関への貸与については、文化庁・京都国立博物館・奈良国立文化財研究所のほか、九州・沖縄管内の公私博物館・美術館、および九州・沖縄管外の公私立博物館・美術館（栃木県立美術館・静岡県立美術館・たつの市埋蔵文化財センター・京都文化博物館・徳川美術館・サントリー美術館・大和文華館など）からの出品要請に協力し、国宝 1 件・重要文化財 3 件を含む所蔵品・借用品を貸与した。 ○海外機関への貸与については、韓国釜山市博物館特別展「韓国と日本」展および韓国国立古宮博物館特別展「仕立てと装いの芸術、装潢」展への出品要請に協力し、重要文化財 6 件を含む所蔵品・借用品を貸与した。			



国宝　栄花物語（当館蔵）
京都文化博物館特別展
「源氏物語千年紀展」出品

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	貸与件数	51 件	－	－	経年	47	116	127	51
	うち海外への貸与件数	19 件	－	－	変化	0	1	18	19

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、F の理由）
中期計画記載事項	収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を推進する。収蔵品の貸与については、貸与に関する情報を公開するなど具体的措置を講ずることとする。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 3511

中項目	3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(5) 公私立博物館等に対する援助・助言			
担当者	担当部課	学芸研究部	事業責任者	学芸研究部長　島谷　弘幸
実績・成果	文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業にて協力（64 件） 文化財の展示にかかる指導助言（18 件） 講演会やセミナー等における講演等での協力（42 件） 作品の展示・保存環境についての調査・指導（10 件）			
補足事項	・国内・海外の博物館・美術館からの要望に応じ、展覧会での展示方法や作品調査にかかる指導・助言を行い、また講演会等における発表や講師での協力をした。 ・これにより各機関の展示企画を充実させ、調査研究活動に貢献するとともに、日本文化の紹介を通じて国際交流の発展にも寄与した。			

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	公私立博物館・美術館への援助・助言	134 件	40 件	A	経年変化	45	56	124	134

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、F の理由）
中期計画記載事項	公立の博物館・美術館等が開催する展覧会に対する指導、助言等を行う。新規貸与館に対する環境調査は、東京文化財研究所と協力して指導助言を行う。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式Ａ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 3512

中項目	3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(5)　公私立博物館等に対する援助・助言			
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　赤尾栄慶
実績・成果	文化財の展示、修理にかかる指導助言（20 件） 講演会、セミナー等における講演等での協力（32 件） 地方公共団体の文化財保護審議会等会議にて協力（34 件） 文化財の調査にかかる指導助言（28 件）			
補足事項				

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	公私立博物館･美術館への援助・助言	114 件	12 件	A	経年変化	44 件	36 件	81 件	114 件

年度実績評価総括	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ （Ｓ、Ｆの理由）
中期計画記載事項	公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努める。なお、援助・助言の実施については今期 5 年間の実績が前中期目標期間の実績を上回るよう努める。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 3513

中項目	3　我が国における博物館ナショナルセンターとしての博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(5)　公私立博物館に対する援助・助言			
担当者	担当部課	学芸部企画室	事業責任者	企画室長　稲本泰生
実績・成果	「国宝　鑑真和上展」(静岡県立美術館、20 年 7 月 12 日～8 月 31 日、同館・唐招提寺・静岡新聞社・静岡放送主催)、「法隆寺の名宝と聖徳太子の文化財展」(石川県立美術館、20 年 9 月 20 日～10 月 24 日、同館・法隆寺主催)、「石山寺の美　観音・紫式部・源氏物語」(明石会場＝明石市文化歴史博物館、20 年 4 月 5 日～5 月 11 日、同館・石山寺・神戸新聞社主催。弘前会場＝弘前市立博物館、同 9 月 6 日～10 月 5 日、同館・石山寺・弘前市教育委員会・東奥日報社主催。岡崎会場＝岡崎市美術博物館、同 10 月 12 日～11 月 16 日、同館・石山寺・中日新聞社主催。横浜会場＝そごう美術館、21 年 3 月 7 日～29 日、同館及び石山寺主催）において学術協力を行い、出陳作品の選定・集荷・陳列・保存・返却の助言ならびに補助、目録の編集協力等を行い、展覧会全般に関して協力援助を行った。 韓国国立中央博物館で開催された「統一新羅彫刻特別展」(12 月 15 日～3 月 1 日）への館蔵品、寄託品の出陳に協力し、所蔵者への交渉、作品の輸送、展示などを行った。			
補足事項	1　「鑑真和上展」「法隆寺展」「石山寺展」への協力を通して、関西地区所在の仏教関連文化財の他地域における紹介・普及に、多大な貢献を果たすことができた。 2　国立中央博物館への協力をとおして日本の仏教美術の海外における紹介普及に貢献することができた。 3　これら展覧会への協力を通して、特別展等、将来の当館の事業に対して協力を得る際に不可欠である唐招提寺､法隆寺及び石山寺及び韓国国立中央博物館との信頼関係を､より強固なものとすることができた。			

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	公私立博物館･美術館への援助・助言	5 件	5	A	経年変化	3	7	5	5

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、F の理由）
中期計画記載事項	公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努める。なお、援助・助言の実施については今期 5 年間の実績が前中期目標期間の実績を上回るよう努める。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 3514

中項目	3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(5)　公私立博物館等に対する援助・助言			
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	総務課長　樋口理央
実績・成果	公私立博物館等で開催された研究集会および講演会において指導・助言を行った。			
補足事項	当館研究員が指導・助言を行った主なものとしては、以下のとおりである。 ・熊本博物館館内研修に関する講師（熊本市立熊本博物館） ・田熊石畑遺跡発掘の遺物（青銅器）取り上げに関する指導（宗像市教育委員会） ・釜山博物館開館 30 周年記念国際交流展に伴う出品資料の輸送・開梱・展示に関する指導（大韓民国　釜山博物館） ・石見銀山遺跡調査に関する指導（島根県教育庁） ・福井県朝倉氏遺跡の遺跡整備全般と保存処理事業に関する指導（福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館）			



館長の講演風景

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	公私立博物館・美術館等への援助・助言件数	47 件	12 件		経年変化	46	57	38	47

年度実績評価総括	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ （Ｓ、Ｆの理由）
中期計画記載事項	公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努める。なお、援助・助言の実施については今期 5 年間の実績が前中期目標期間の実績を上回るよう努める。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4115-10
（様式 1）

業務実績書

研究所 No 1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化的景観に関する調査研究（(1)-①-ア）

【事業概要】
文化的景観の概念整理など基礎的な研究に資するために、ケーススタディとして高知県四万十川流域を対象とした文化的景観の調査研究を行うとともに、景観の体系化や保護策に関する研究を行う。

【担当部課】	文化遺産部	【プロジェクト責任者】	文化遺産部長　山中敏史

【スタッフ】
平澤　毅、清水重敦、惠谷浩子［以上、文化遺産部］、宮城俊作［奈文研客員研究員］

【主な成果】
四万十川流域において実施した文化的景観に関する調査研究によって得た内容の整理・考察や、開催した研究集会等を通じて、文化的景観の在り方や調査研究法、保護施策等に関する検討を行った。また、文化的景観に関連する国内外の情報の収集を行い、その成果を資料集としてまとめ、関係者、関係機関等に配布した。

【年度実績概要】
1.　四万十川流域の文化的景観に関する調査研究
四万十川流域の文化的景観に関する現地調査を行うとともに、調査対象地域である津野町・檮原町・中土佐町・四万十町・四万十市の各行政担当者等との協議を通して、各地域個別の文化的景観保存活用計画を作成した。以上の作業の過程で、調査や保存計画立案の手法や在り方について検討した。
2.　情報の収集
文化的景観の基礎的・体系的な調査研究の一環として、文化的景観に関する基礎的な情報（国内外の関係法令、各重要文化的景観選定地の概要、文化的景観に関連する文献等）の収集を行った。収集した情報は『文化的景観基礎資料集【未定稿】』としてまとめ、文化的景観研究集会（第 1 回）で参考資料として配布した。
3.　研究集会の開催
「文化的景観とは何か？－その輪郭と多様性をめぐって－」というテーマで、2009 年 2 月 20・21 日に平城宮跡資料館講堂で文化的景観研究集会（第 1 回）を開催し、計 195 名の参加を得た。発表は、基調講演 2 件（1. 都市保全学と文化的景観、2. 景観生態学と文化的景観）基調報告 2 件（1. 文化庁の取組、2. 国土交通省の取組）、重要文化的景観に関する取組の実績と課題に関する事例報告 5 件の計 9 件である。発表後、これらの講演者及び報告者、並びに座長の計 9 名による総合討議を行った。これに合わせ、『文化的景観研究集会（第 1 回）講演・報告資料集』を作成した。



研究集会の様子

【実績値】
研究集会等開催数：1 回（資料集①、②）、参加者数：地方自治体職員（文化財、都市計画、企画ほか）等、195 名。
論文数：5 件（③～⑦）
研究発表件数：5 件（⑧～⑩）

【備考】
①文化的景観プロジェクトチーム編『文化的景観研究集会（第 1 回）講演・報告資料集』、2009. 2
②文化的景観プロジェクトチーム編『文化的景観基礎資料集【未定稿】』、2009. 2
③惠谷浩子「川に関わる信仰の地形 －四万十川流域を対象として－」、『奈良文化財研究所紀要』2008、2008. 6
④惠谷浩子「輪島市三井町の『アテ』 －林業の文化的景観－」、『遺跡学研究』第 5 号、2008. 11
⑤平澤毅「重要文化的景観としての森林」、『日本林学会大会学術講演集』2009、2009. 3
⑥惠谷浩子「『四万十川流域の文化的景観』における林業の評価」、『日本林学会大会学術講演集』2009、2009. 3
⑦惠谷浩子「世界遺産と文化的景観」（京都市文化史民局主催「世界遺産登録における現状と今後」についての勉強会）、2008. 12
⑧惠谷浩子「四万十川流域の文化的景観」、文化的景観研究集会（第 1 回）、2009. 2
⑨平澤毅「重要文化的景観としての森林」、第 120 回日本森林学会大会、2009. 3
⑩惠谷浩子「『四万十川流域の文化的景観』における林業の評価」、第 120 回日本森林学会大会、2009. 3

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4115-10
（様式 2）

自己点検評価調書

研究所 No 1

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

備考
「四万十川流域の文化的景観」に関する調査研究の一環として行った保存計画の策定を通じ、文化的景観の調査から保存計画立案までの在り方や手法に関する検討ができた点が高く評価できる。また研究集会等を通じ、関係者間で文化的景観の情報を普及・共有するとともに、様々な観点からの議論を通じて文化的景観の有効性と課題についての検討を進めることができた。当研究を通じ、未だ視点、論点が定まらない「文化的景観」の概念を、各地域の関係者と検討できたことは、文化財保護行政を遂行する面で有効であり、将来に結びつく重要な成果を上げることができた。

2．定量的評価

観点	論文数等	調査回数				
判定	A	A				

備考
研究成果については、学会や学術雑誌等への公表を順調に行うことができた。本年度開催した研究集会には 195 名の参加を得、文化的景観の課題等に関する活発な議論ができた。また参加者の内 97%の参加者から有意義であったという評価を得た。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	四万十川流域を対象とした調査研究や情報の収集、研究集会等の実施、学会や学術雑誌等での研究成果発表などを十分実施できた。これらの成果を踏まえつつ、今後も文化的景観に関する調査研究を通じて、文化的景観の保護を図る上での課題を見極めて、その解決策等についての検討を引き続き図っていく。特に、文化的景観研究集会に関しては、地方公共団体や専門家等からの評価も高く、次年度以降もこれを開催していくべき事業であると判断される。文化的景観は地域住民の視点・意見を把握することが必要であるが、さらに、住民に対する普及・啓発も重要な視点であるため、今後は住民を対象とした場での研究成果の公表等も目指していく。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	文化的景観に関する事例調査や研究集会等を通じて、文化的景観の課題等に関する検討を当初の計画通り進めることができた。本年度の成果を受け、次年度以降は、文化的景観基礎資料集の刊行や四万十川流域の文化的景観に関する調査研究のとりまとめを進めていく。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4115-20
（様式 1）

業務実績書

研究所 No 2

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	民俗技術に関する調査・資料収集　((1)-①-イ) 無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究　((1)-④)

【事業概要】
風俗慣習、民俗芸能、民俗技術など無形民俗文化財の伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等についての調査研究を行い、その成果をデータベースとして構築する。さらに研究協議会の開催を通じて各地の保存団体や保護行政担当者等とこれら研究成果及び問題意識の共有化を図る。
また文化財保護法の一部改正に伴い新たに保護対象となった民俗技術に関する基礎的な調査研究を実施し、保護施策に資するデータを提供する。

【担当部課】	無形文化遺産部	【プロジェクト責任者】	部長　宮田繁幸

【スタッフ】
俵木　悟（無形文化遺産部）、大島暁雄、服部比呂美（客員研究員）

【主な成果】
無形民俗文化財の伝承実態調査として民俗芸能・民俗行事の実地調査を実施し、公開の実態調査としては、各種芸能大会の調査を実施した。無形民俗文化財研究協議会では、民俗技術をテーマに取り上げ、関係者と協議することができた。無形文化遺産の記録情報データベースについては、すでに 3000 件以上のデータを収集・整理済み、現在も補足調査が進行中で、着実に実現に向かっている。

【年度実績概要】
無形民俗文化財の伝承実態の調査として、鹿児島県いちき串木野市大里で行われる国指定重要無形民俗文化財「市来の七夕踊」について、とくに稽古を中心とした伝承過程と、それを通じて形成される社会関係に重点を置いて調査を行った。また、埼玉県鶴ケ島市脚折に伝わる民俗行事「脚折雨乞」について、とくに造り物の龍蛇の製作、その材料の収集等に注目して調査を行った。さらに、近年継続して行っている安房地方のみのこ踊りについて、千葉県伝統文化伝承事業実行委員会の映像記録作成事業に協力するかたちで実地調査を行った。
公開の実態調査としては、関東、九州の各ブロック別民俗芸能大会、京の郷土芸能祭、秋篠音楽堂伝統芸能公演等の公開確認調査を実施した。
新たに保護の対象となった民俗技術に関する調査としては、三河地方の伝統的な花火の一種である「立物花火」について、愛知県新城市東新町を中心に、立物花火に関する技術と、伝承主体である「立物花火保存会」の実態調査等を行った。
無形民俗文化財研究協議会は、その第 3 回を「無形民俗文化財に関わるモノの保護」をテーマとして、2008 年 11 月 20 日に開催した。その成果は報告書として刊行し、関係者に配布するとともに、HP 上で広く一般に公開している。
さらに、無形文化財・無形民俗文化財・文化財保存技術に関して作成された記録類の所在情報データベースを構築することを目指し、伝統文化活性化国民協会と協力して全国の地方自治体にアンケート調査を実施した。

【実績値】
論文等掲載数　　1 件（①）
研究会等発表件数　2 件（②、③）
＜参考指標＞
報告書刊行　1 件（④）

【備考】
①俵木　悟「無形文化遺産の映像記録作成の意義と課題－無形の民俗文化財を中心に－」　『地域政策研究』45　地方自治研究機構　08.12.1
②宮田繁幸「日本の無形文化遺産の保護と普及」　富川世界無形文化遺産ＥＸＰＯ国際学術会議　08.10.11
③俵木　悟「日本の無形民俗文化財の映像記録事業」　韓国国立文化財研究所ワークショップ（韓国国立文化財研究所）　08.10.16
④『第 3 回無形民俗文化財研究協議会報告書』　2009.3.31

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4115-20

自己点検評価調書

研究所 No 2

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性	継続性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2．定量的評価

観点	論文等掲載数	発表件数				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	無形民俗文化財研究協議会では、民俗技術をテーマとして取り上げ、時宜に適ったテーマとして大きな反響を得た。実地調査としては、無形民俗文化財の伝承状況の調査の一環として、単なる学術的な調査にとどまらず、映像記録作成事業に協力するなど、伝承に実質的に貢献する、応用性のある試みも行った。また、無形文化遺産の記録情報データベース構築作業に着手し、公開へ向けての準備を進めるなど、記録作成事業の現場で役立ててもらうことが期待できるという点で、応用性ある成果と言える。以上の状況を総合的に判断して、Ａと判定した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本調査研究は、年度当初の計画通りに実施されており、目的を順調に達成した。調査研究活動については、今後もこのペースを維持していきたい。平成 21 年度は、通常の調査研究活動に加え、無形文化遺産の記録情報データベースを完成させ、公開することを予定している。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4125-10
（様式 1）

業務実績書

研究所 No 3

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	東アジアの美術に関する資料学的研究　((1)-②-ア)

【事業概要】
日本を含む東アジア地域の美術を対象に、人とモノとが複雑に絡み合って多様に展開する価値形成のしくみを解明することを目指す。研究にあたっては、より質の高い資料の提示が求められる時勢に対応して、新しい技術、精度、信頼性、網羅性など必要な条件を満たすこれからの美術資料のあり方や可能性を探り、資料の収集・蓄積・公表等においてそれを具体的に実現することに留意している。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	文化形成研究室長　塩谷　純

【スタッフ】
中野照男（副所長）、勝木言一郎、山梨絵美子、田中　淳、津田徹英、綿田　稔、皿井　舞、江村知子（以上、企画情報部）、相澤正彦、吉田千鶴子、三上　豊、森下正昭（以上、客員研究員）

【主な成果】
(1) 情報資料の収集のための調査：大村西崖・黒田清輝に関する国内外での調査。
(2) 美術史研究のためのコンテンツの形成：『日本絵画史年紀資料集成（15 世紀）』のデータ入力。『日本美術年鑑』所収の古美術文献データの校正作業。
(3) 研究会の開催：「満谷国四郎デッサンに関する研究会」「平安時代の彫刻史と建築史の学際的研究会」の開催。オープンレクチャーの開催。

【年度実績概要】
(1) 情報資料の収集のための調査
美術批評家・美術史家の大村西崖に関する資料調査（塩谷・吉田）。洋画家黒田清輝に関するフランス、ベルギーでの現地調査（田中）。
(2) 美術史研究のためのコンテンツの形成
平成 22 年度に『日本絵画史年紀資料集成（15 世紀）』を刊行すべく、古美術展カタログ等に散在する情報を抽出して統合するための仮登録作業を継続して行っている。事業の発展性を考慮し、絵画に限らず 15 世紀の年紀を有するものすべてを登録することを旨としたため、今年度は約 1,000 件（うち絵画は約 500 件、ともに重複データをふくむ）の情報を集め、統合作業にとりかかった（綿田）。また『日本美術年鑑』所収の古美術文献データの校正作業を行った（皿井）。
(3) 研究会の開催
企画情報部研究会として、5 月 7 日に「満谷国四郎デッサンに関する研究会」を角田拓朗氏（神奈川県立歴史博物館）・廣瀬就久氏（岡山県立美術館）を発表者、赤木里香子氏（岡山大学）、杉野文香氏（倉敷市立美術館）をコメンテーターとして開催、5 月 28 日に「平安時代の彫刻史と建築史の学際的研究会」を冨島義幸氏（滋賀県立大学）・皿井舞を発表者、山本勉氏（清泉女子大学）をコメンテーターとして開催した。またオープンレクチャーを本研究と関連させ、「人とモノの力学」というテーマのもと 10 月 3・4 日に開催した。

【実績値】
学会誌等への掲載論文数 2 件（①②）
学会等での発表件数 3 件（③～⑤）

【備考】
①綿田稔「自牧宗湛（下）」　『美術研究』395　2008.8
②綿田稔「聚光院の成立時期についての一仮設―障壁画作期議論の前提として」　『美術研究』396 2008.11
③皿井舞「「国風文化論」再考のための試論」　企画情報部研究会　2008.5.28
④勝木言一郎「鬼子母神の源流をたずねる」　企画情報部オープンレクチャー　2008.10.3
⑤田中淳「写真のなかの芸術家たち―黒田清輝を中心に」　企画情報部オープンレクチャー　2008.10.4

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4125-10

自己点検評価調書

研究所 No 3

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点	論文等掲載数	発表件数				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	今年度は「満谷国四郎デッサンに関する研究会」および「平安時代の彫刻史と建築史の学際的研究会」と、テーマを設定した研究会を二度開催し、所外の研究者を交えて新たな知見を得ることができた。また黒田清輝の足跡に関するフランス、ベルギーでの現地調査を行い、その知見をオープンレクチャーで発表するなど、調査研究の成果の公開にも努めたため、A と判定した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	『日本絵画史年紀資料集成（15 世紀）』刊行に向けてのデータ入力も順調に進み、また『黒田清輝関連フランス語資料集』の次年度刊行に向けても、フランス、ベルギーでの現地調査を行い、有益な成果を得られた。また黒田清輝のような美術家にくわえ、今年度より着手した大村西崖をはじめとする美術批評家・美術史家の調査研究も、今後積極的に推進していきたい。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4125-20
（様式 1）

業務実績書

研究所 No　4

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	近現代美術に関する総合的研究（(1)-②-イ）

【事業概要】
多様化する現代美術の動向の調査研究を含め、日本近代美術の研究資料のあり方、研究の手法の開発、研究成果の公開の仕方を研究し、文化財行政に寄与することを目的としている。そのため、具体的には、第 1 にこれまで未公開の基礎資料の収集整理の上、データ化等の公開にむけた調査研究を行う。第 2 に資料にもとづく研究協議、論文等の研究成果の公開を進める。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	近・現代視覚芸術研究室長　山梨絵美子

【スタッフ】
田中　淳、塩谷　純、山梨絵美子（以上、企画情報部）、三上　豊（客員研究員）

【主な成果】
未公刊資料の調査研究として、黒田清輝関連資料、笹木繁男主宰現代美術資料センター寄贈資料の整理・調査を進め、既刊の『日本美術年鑑』所載データをウェブ上に公開するための校正を行った。資料にもとづく研究協議、成果公開としては、『昭和期美術展覧会の研究　戦前篇』をまとめ、また、研究会を通じて近現代美術に関する研究協議を行った。

【年度実績概要】
1　未公開資料の収集整理とデータ化に向けた調査研究では以下の 3 件を行うことができた。
(1) 平成 18 年 2 月、および 19 年 10 月に黒田清輝夫人である黒田照子のご遺族である金子家から寄贈を受けた黒田清輝関係写真等の資料を整理し、画像をデータ化し、保存公開に向けて準備を進めた。その成果の一部を黒田記念館で「写された黒田清輝Ⅱ」として展示公開した。
(2) 笹木繁男主宰現代美術資料センター寄贈資料の整理を進めた。
(3) 既刊の『日本美術年鑑』の文献データの校正を行い、ウェブ上で公開するための作業を行った。

2　資料にもとづく研究協議、論文等の研究成果の公開促進としては、以下を行った。
(1)『昭和期美術展覧会の研究　戦前篇』の刊行に向け、編集、校正作業を行った。
(2) 近現代研究協議として、以下を行った。
平成 20 年 5 月 7 日　「五姓田派デッサン群の明滅　黒田記念館蔵満谷国四郎デッサン群を支点として」角田拓朗（神奈川県立歴史博物館）、「満谷国四郎の画業における、黒田記念館蔵デッサン群の位置について」廣瀬就久（岡山県立美術館）コメンテーター：赤木里香子（岡山大学）、杉野文香（倉敷市立美術館）
平成 20 年 7 月 23 日　「有島生馬とフォトグラファー田中敏男」田中淳、「藤雅三≪破れたズボン」再発見報告」　高橋秀治（愛知県美術館）

【実績値】
研究会等発表　3 件（①～③）
論文掲載数　　3 件（④～⑧）
報告書刊行　　1 件（⑨）

【備考】
①山梨絵美子　「五姓田派の位置―江戸と明治のはざまで」神奈川県立歴史博物館　08.9.14
②山梨絵美子　「失われゆくものの自覚―高橋由一、小林清親を中心に」国際基督教大学　09.1.31
③山梨絵美子　1920－40 年代日本近代洋画における東洋美術の再評価　韓国国立中央博物館　09.3.25
④塩谷　純「菊池容斎―雅俗を越えて」『激動期の美術』ぺりかん社　08.10
⑤塩谷　純　「床の間の上の裸婦―小林古径「髪」より」　『昭和期美術展覧会の研究　戦前篇』東京文化財研究所　09.4
⑥田中　淳　「「統制」と「国際」の時代―戦中期の有島生馬を中心に」　同上
⑦山梨絵美子「渡辺豊次郎／豊洲―「画家」になれなかった「絵師」」『激動期の美術』ぺりかん社　08.10
⑧山梨絵美子「黒田清輝のフランス留学」　特集陳列「黒田清輝のフランス留学」図録（東京国立博物館、09.3）
⑨『昭和期美術展覧会の研究　戦前篇』　東京文化財研究所　2009.4

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4125-20

自己点検評価調書

研究所 No 4

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点	研究会発表数	論文掲載数	報告書刊行数			
判定	A	A	A			
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	未公開資料の収集整理とデータ化、および近現代視覚芸術に関する調査研究ともに順調に推進することができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
ほぼ順調	報告書の印刷・刊行に遅れを生じたが、全体としては中期計画に従って実施することができた。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4125-30
（様式 1）

業務実績書

研究所 No 5

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	美術の技法・材料に関する広領域的研究　((1)-②-ウ)

【事業概要】
文化財にかかわる諸分野との提携による作品の多角的研究を目指す。具体的には作品を構成する材料や用いられた技法、制作の過程・作品の成り立ち、生成されてから今日にまでそれがどのように受容され、あるいは伝来してきたかなどを、関係の文献史料や、あるいは作品そのものに対する科学的分析（X線撮影など）を援用しながら解明し、文化財についてより深く考究していくことを目的としている。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	広領域研究室長　綿田　稔

【スタッフ】
田中　淳、山梨絵美子、勝木言一郎、津田徹英、塩谷　純、皿井　舞、江村知子、土屋貴裕（以上、企画情報部）

【主な成果】
本研究は美術作品が基盤としている材料・技法・制作の過程等を文献史料あるいは作品に対しての科学的手法による分析を援用しながら解明することを目的とする。本年度は天平時代の脱活乾漆像、近世の絵巻などについて実地調査するとともに、諸々の関連資料の調査を行い、情報収集に努めた。また、奈良時代史料にあらわれた彩色語彙の収集につとめ、データベースをホームページ上で公開し、逐次、その更新に努めた。

【年度実績概要】
本年度は脱活乾漆技法の解明のため大阪市立美術館蔵の作例を調査した。また近世絵画の作例として「虫の歌合絵巻」（兵庫県個人蔵）を調査した。その他、山口県立美術館蔵の雲谷派縮図を精査し、大津市歴史博物館において仏教彫刻関係の情報収集を行った。また「東アジアの美術に関する資料学的研究」と共同で黒田清輝滞欧期関係資料の現地調査をおこなった。また、美術工芸品の彩色を考えてゆくうえで、史料にあらわれた関係語彙とその使用例を総覧することを目的に彩色関係資料データベース（語彙・史料編）のデータ集積を行った。集積に際しては『大日本古文書』などの公刊史料（活字本）をもとに、その中から奈良時代史料にあらわれた彩色関係の語彙を抽出し、分類したうえで、彩色語彙データベースをホームページにおいて公開するとともに、逐次、更新して精度を上げることに努めた。さらに前年度に寄贈を受けた資料のうち、技法材料研究ととくに関わりの深い柳澤孝旧蔵資料の公開に向けての整理に着手し、当面の暫定的な整理を終えた。

【実績値】
彩色関係資料データベース　入力件数　1,285 件
論文掲載数　　1 件（①）
発表件数　　2 件（②,③）

【備考】
①津田徹英「滋賀・錦織寺不動明王立像の周辺―不動明王彫像の額上髪にあらわれた花飾りへのまなざし―」　『仏教芸術』299 号　pp. 53-87　08.7
②津田徹英「天平の脱活乾漆技法をめぐる二、三の問題」　総合研究会　東京文化財研究所地階セミナー室　08.9.2
③皿井　舞「仏像の修理・修復―サンフランシスコ・アジア美術館の脱活乾漆像をめぐって―」　第 32 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「“オリジナル”の行方―文化財アーカイブ構築のために」東京国立博物館平成館大講堂　08.12.7

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4125-30

自己点検評価調書

研究所 No 5

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点	論文掲載数	発表件数	データ集積数			
判定	A	A	A			
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	美術や文化財に対する理解を深めるための美術の創作のプロセスの解明を行うべく、実作例と史料の双方からアプローチを行っている。計画 3 年度としては十分な成果を得られたため、Ａと判断した

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	全般的に計画通りに進捗したと考える。次年度以降も一層の深化が期待でき、計画的に調査研究・史料収集・データ整理を継続したい。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4125-40
（様式 1）

業務実績書

研究所 No　6

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	古都所在寺社の歴史資料等に関する調査研究　((1)-②-エ)

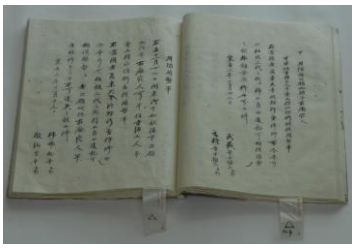
【事業概要】
古都に所在する寺社が所蔵する歴史資料や書跡資料について継続的、悉皆的に整理・写真撮影・調書作成等の調査を行い、現存資料の実態の把握に努め、その調査成果を目録、データベース等により、また重要資料については翻刻を行い公開する。このような調査は文化財の総合的研究の基礎をなすものであり、その上で記載内容を分析して文化財の歴史的性格・特徴等を研究し、日本の歴史、文化の研究に資する。調査にあたって撮影した写真は焼き付けを作成し、研究者等の研究に供する。

【担当部課】	文化遺産部	【プロジェクト責任者】	歴史研究室長　吉川　聡

【スタッフ】
渡辺晃宏、馬場 基、市 大樹、山本 崇、浅野啓介、古藤真平［以上、都城発掘調査部］、綾村 宏［奈文研客員研究員］

【主な成果】
興福寺については、数年にわたり準備を進めてきた『興福寺典籍文書目録第四巻』を発刊した。東大寺についても、先年の調査で発見した東大寺大勧進文書集についての研究成果を、『南都仏教』に掲載した。これは重源以後の東大寺大勧進に関する基礎史料である。大宮家については、「大宮家文書データベース」のデータを追加し、成巻文書分すべてを公開した。また、当研究所所蔵の「関野貞日記」の釈文を公表した。

【年度実績概要】
本年度は、興福寺・薬師寺・東大寺・唐招提寺・氷室神社大宮家所蔵の書跡資料・歴史資料調査を行った。興福寺調査は、調査した資料について再確認・写真撮影を進め、第 71 函～第 80 函、長持函、東金堂文書、国宝重要文化財指定資料の目録を『興福寺典籍文書目録第四巻』(奈良文化財研究所史料第 83 冊)として刊行した。写真撮影は、マイクロフィルムで第 89 函・第 90 函を、またブローニー版、一部は赤外線写真で長持函の一部を撮影した。薬師寺調査は、第 31 函～第 53 函の調書作成と、第 24 函の写真撮影を継続して実施した。


東大寺大勧進文書集

東大寺は、東大寺図書館収蔵庫第 4 号室収蔵の新修東大寺文書聖教の調査を、科学研究費補助金も充当して実施した。第 5 函・第 15 函の写真撮影を実施し、また中村準一寄贈文書の第 98 函・99 函を調査して、目録データをパソコンに入力した。また、第 2 函 1 括 1 号の「東大寺大勧進文書集」について調査研究を行い、その成果を『南都仏教』に掲載した。

唐招提寺所蔵資料については、惣倉所在の近代書類を調査し、全体の再分類作業を行った上で、第 2 函のラベル貼り・目録データのパソコンへの入力作業を実施した。氷室神社大宮家文書については、昨年度に引き続き奈良市教育委員会との間で共同研究を行い、未成巻文書の調書作成、写真撮影を実施した。また、公開データベース「大宮家文書データベース」のデータを追加し、成巻文書分すべてのデータを公開した。

当研究所所蔵の資料については、「関野貞日記」の翻刻作業を進め、関野貞研究会編『関野貞日記』(中央公論美術出版、2009 年)の一部として出版した。

その他調査協力の依頼を受けて、滋賀県石山寺聖教調査や、文化庁依頼の醍醐寺聖教調査などに協力した。

【実績値】
論文等数：論文 3 件（①～③)、発表件数 1 件(④)
収集資料点数
興福寺：調書原本校正資料点数 511 点、写真撮影資料点数 301 点
薬師寺：調書作成資料点数 328 点、写真撮影資料点数 47 点
東大寺：調査データ入力資料点数 1265 点、写真撮影資料点数 584 点
唐招提寺：調査データ入力資料点数 62 点
大宮家：データ入力資料点数 403 点、写真撮影資料点数 92 点

【備考】
①奈良文化財研究所『興福寺典籍文書目録第四巻』奈良文化財研究所史料第 83 冊、2009.3
②吉川聡・黒岩康博・清水重敦「世路之志保里」「当用日記」(明治 32 年～38 年)『関野貞日記』関野貞研究会編、中央公論美術出版、2009.2 所収
③吉川聡・小原嘉記・遠藤基郎「「東大寺大勧進文書集」の研究」『南都仏教』91 号 2008.12 所収
④吉川聡「東大寺大勧進文書集」奈良文化財研究所第 19 回総合研究会口頭発表　2009.1

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4125-40

自己点検評価調書

研究所 No 6

1．定性的評価

観点	正確性	適時性	継続性	発展性		
判定	A	A	A	A		

備考
古都に所在する寺社には、未だに調査・整理されていない歴史資料・書跡資料が数多く存在している。その内容を把握し、保存を図り、史料として利用できる状態にまで整理することは、極めて適時性が高い調査である。そのため、着実に中断なく全容を把握する調査を実行しており、正確性・継続性に優れている。このような調査が今後の所蔵者の管理の基礎となり、また研究の基礎となるものであり、発展性がある。今年度は特に、数年来の調査成果を目録・翻刻・論稿等の形で公表できた。以上よりＡと判定した。

2．定量的評価

観点	調査対象箇所数	論文等数	発表件数	データ入力件数		
判定	A	A	A	A		

備考
調査対象箇所数は、年度計画に掲げた寺社をすべて調査した。論文等数・発表件数・データ入力件数は、それぞれ目標値 1 件・1 件・500 件であり、実績値はそれと同等または上回っているので、Ａと判定した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	興福寺、東大寺、薬師寺、氷室神社大宮家の調査は計画通り実施した。その成果の公表も、興福寺は『興福寺典籍文書目録第四巻』、東大寺は「「東大寺大勧進文書集」の研究」、大宮家は「大宮家文書データベース」の追加、という形で実現することができた。また、関野貞関係資料についても、日記の調査・翻刻を進めて、『関野貞日記』の中にその成果を収めることができた。以上の進捗状況を総合的に判定してＡとした。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究事業は堅調に実現し、その成果も多く公表できた。特に、『興福寺典籍文書目録第四巻』では永年の調査研究成果を公表できた。しかし、興福寺には、まだ目録刊行に至っていない資料・未調査の資料が多く存在するので、今後はそれらの資料の調査を積極的に推進していく必要がある。他の寺社についても、成果の公表ばかりではなく、地道な調査研究を継続的に推進する必要がある。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4125-50
（様式 1）

業務実績書

研究所 No 7

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究　((1)-②-オ)

【事業概要】
わが国の文化財建造物の保存・修復・活用に向けた歴史的建造物、伝統的建造物群及び近代化遺産等に関する基礎データを蓄積し、分析・研究を行うとともに、古代建築の今後の保存と復原に資するため、古代建築の諸構法についての再検証（調査研究）を行い、得られた成果を整理するとともに、一般公開を図る。

【担当部課】	文化遺産部	【プロジェクト責任者】	建造物研究室長　窪寺茂

【スタッフ】島田敏男、箱崎和久、黒坂貴裕、大林潤、番　光、渡邉晃宏［以上、都城発掘調査部］、清水重敦、［文化遺産部］、西田紀子［企画調整部］、速水侑子、山下秀樹［以上、奈良県］他計 19 名（但し古代建築の諸構法に関する研究協力者として）

【主な成果】
文化財建造物の保存修理に関する基礎データである所内保管資料の整理等の作業を行い、「建造物現状変更説明」については出版物として刊行・配布し、「ガラス乾板」については画像をデジタルデータ化し、一般公開を推進した。また、古代建築の諸構法に関する再検証作業を継続的に実施し、研究成果を研究集会等で公表した。このほか、昨年度実施した出雲大社境外社建築等の調査研究成果を報告書として刊行・配布した。

【年度実績概要】
1. 所内で保管している文化財建造物保存修理時の「建造物現状変更説明」資料のうち、1962 年度から 1964 年度分のワード文書化、図版調整を行い、その成果を本文編と図版編に分けて刊行・配布した。また、同じく所内保管の文化財建造物等の撮影ガラス乾板（長野県分）を整理して、画像をデジタル化した（デジタル化は外注）。また、上記ガラス乾板及び建造物保存図並びに同摺拓本資料について、外部への資料提供を実施した。なお、建造物の基礎データ収集等を目的とした京都府近代和風建築総合調査を受託し、この報告書刊行にあたり、編集及び原稿執筆・図面調整を担当した。
2. 古代建築の諸構法に関する調査研究では、殿堂構造に関する建築遺構資料の収集・整理・研究と、扁額形状と建築構造との相関を究明するための調査研究などを行い、2009 年 3 月 8 日開催の研究集会で発表するとともに、参加した研究協力者等と討議した。これらの研究成果については、次年度以降に報告書として刊行する予定である。
3. 上記の扁額に関する研究成果を、現在工事中の平城宮第一次大極殿の復原扁額に反映させ、この意匠設計作業について協力した。なお、この件で、2008 年 5 月 26 日に所内検討会を開催した。このほか、同復原工事の施工に関する技術面での援助・助言を随時行った。


研究集会の開催風景

4. 昨年度実施した出雲大社境外社建築に関する調査研究内容を取り纏めた報告書の刊行・配布を行った。
5. 海外関連事業として、日中韓の 3 国の文化財研究所における共同研究の一環として、2008 年 5 月下旬に韓国ソウル市等で、次年度国際シンポジウム開催へ向けた会議に参加した。また、一昨年度刊行したベトナム・ドゥオンラム村集落調査報告書の英語版報告書を刊行し、海外関係機関等にこれを配布した。

【実績値】
論文等数 13 件（公刊図書 5 件①～⑤、論文等 8 件⑥～⑬）　　学会等発表件数 1 件（⑭）
保管建造物関係資料整理：写真乾板デジタル化 918 枚、現状変更資料入力等 1962～1964 年分
古代建築研究現地資料収集：扁額現地調査 9 件
古代建築勉強会・研究会等開催件数 2 件
保管建造物資料の外部者利用数：乾板写真 4 件 118 枚、建造物保存図 4 件 64 枚、摺拓本 2 件 49 枚

【備考】
①Nara National Research Institute for Cultural Properties『Hamlet Survey Report Duong Lam Village』2009.2　②奈良文化財　研究所『重要文化財建造物現状変更説明 1962～1964（本文編）』2009.2　③奈良文化財研究所『重要文化財建造物現状変更説明 1962～1964（図版編）』2009.2　④奈良文化財研究所『出雲大社境外社 社殿等建造物調査報告』2009.3　⑤京都府教育委員会『京都府近代和風建築総合調査報告書』2009.3 ⑥山下秀樹ほか 3 名「扁額の意匠と構造－平城宮第一次大極殿正殿扁額の復原考察」⑦清水重敦ほか 2 名「古代寺院建築における特異な基壇・平面とその構造」⑧大林潤「境外社の造替と建築形式－出雲大社境外社の調査より－」⑨西田紀子「高知県中芸地区の森林鉄道遺産」（⑥～⑨『奈良文化財研究所紀要 2008』2008.6 ）⑩清水重敦「古社寺保存会草創期に作成された建造物等級表について」『日本建築学会計画系論文集』2008.9 ⑪清水重敦「伊東忠太と『日本建築』保存」『明治聖徳記念学会紀要』2008.11　⑫窪寺茂「日中韓における文化財建造物の保存－建造物修理の昨今」『NPO 木の建築 22』風土社 2008.12　⑬清水重敦「奈良県における古社寺保存と関野貞」『関野貞日記』中央公論美術出版 2009.2　⑭清水重敦「古代の寄棟造構造と加守廃寺六角堂　加守廃寺六角堂復元研究その 2」『日本建築学会大会学術講演梗概集』2008.9

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4125-50

自己点検評価調書

研究所 No 7

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性	正確性	
判定	A	S	A	A	A	

備考
文化財建造物保存修理事業等で作成された貴重な記録である「建造物現状変更説明」「ガラス乾板」の資料整理、デジタル化作業は近年継続的に実施しており、地味な作業ではあるが高く評価できる。古代建築の諸構法の研究は、研究所がこれまで継続してきた調査研究に基づきつつ、これを発展させるため、新たに「技術・技法」等の視点を加え研究するもので、独創性のある研究内容といえる。たとえば、扁額の研究では、古代における扁額形状の特徴を建築構造との連関で究明し、この成果を現在復原工事実施中の大極殿の扁額復原に直接反映させた。これまでの扁額研究は額字を中心とした研究に留まっており、これを建築構造と関係付けた研究ははじめてものである。よって、独創性の観点からＳと評価できる。受託業務として行った京都府近代和風建築総合調査では、近代化の中で発展した諸建築の具体相を解明することができ、わが国の近代和風建築の研究と保存に対する多大な貢献をなす成果をあげた点は、高く評価してよい。

2．定量的評価

観点	論文等数	資料整理数				
判定	A	A				

備考
論文等数では、目標値の 6 件に対して 14 件に達し、Ａと判定した。資料整理数は特に目標値を掲げていないが、十分に成果が認められるので、Ａと判定した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財建造物の保存修理に関する基礎データの整理等については計画通り実施でき、この継続的な実施によって、本事業の重要性が認知されるようになっている。受託の形態で行った京都府の近代和風建築総合調査において諸建築の具体相を究明できたことは、委託者はもちろん、文化庁等の調査に寄せる期待に応えることになり評価できるとともに、将来実施する建築調査に反映できる。古代建築の研究に関しても、予定通りの成果をあげている。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	所内保管の建造物関係資料についての整理等作業、古代建築の諸構法に関する研究とも順調に進捗している。前者は地味な作業であるが、これを継続させることの重要性をさらにアピールさせたい。後者の研究は、研究所が蓄積した過去の研究成果を元にした本研究所ならではの研究として、今次中期計画に掲げたものであり、研究成果をより高める必要がある。今年度の成果を元に、次年度においては本研究の実施にさらに力を注ぎたい。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4135-00
（様式 1）

業務実績書

研究所 No　8

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	無形文化財の保存・活用に関する調査研究　((1)-③)

【事業概要】
わが国の無形文化財、並びに文化財保存技術の伝承実態を把握し、その保護に資するため、伝承の基礎となる技法・技術の実態や変遷の調査研究、及び資料の収集を行い、現状記録の必要な対象を精査して記録作成をおこなう。
また、無形文化遺産分野についての国際的研究交流として、アジア地域を中心とした諸外国の関係機関との具体的交流を推進するための協議を行う。

【担当部課】	無形文化遺産部	【プロジェクト責任者】	部長　宮田繁幸

【スタッフ】
宮田繁幸、高桑いづみ、飯島　満、俵木　悟、菊池理予（以上、無形文化遺産部）

【主な成果】
文化財保護委員会が作成した音声資料、各地の博物館が所蔵する龍笛・能管のＸ線透過撮影、文化財保護法による工芸技術の保護の実態等について調査研究をおこない、無形文化遺産部所蔵音声資料の整理をおこなった。無形文化遺産分野での国際的研究交流では、韓国国立文化財研究所の無形文化遺産研究室と合意書を結び、研究員の相互派遣を実施した。

【年度実績概要】
文化財保護委員会が作成した音声資料について調査を行い、能楽囃子の記録について、第3回無形文化遺産部公開学術講座で「音声資料からたどる能の変遷―文化財保護委員会作成の音声資料をめぐって―」と題して発表した。
徳川美術館、岩国市吉川史料館、下関市立長府博物館、愛媛県村上水軍博物館などが所収する龍笛・能管についてＸ線透過撮影調査を行い、従来とは異なる工法を発見した。従来の工法から、龍笛の破損箇所を修理する過程で能管が派生した、という説が生まれていたが、この説に再考を要する発見である。
無形文化遺産部所蔵の音声資料、昭和期の歌舞伎写真を整理し、写真家梅村豊氏(1923－2007)撮影の歌舞伎舞台写真の整理を進めた。
工芸技術に関しては、特に染織分野に関する文化財保護法における工芸技術の保護の変遷について調査した。また、名物切の一種として室町時代に舶載された黄緞と海気の受容、葛布製造の現状、明治以降の京焼について調査研究を行い、成果を公表した。
近年の伝承に変化が著しい宝生流と喜多流の謡曲について、昨年度にひきつづき、流儀の最長老今井泰男師による番謡、近藤乾之助師ほかによる番謡、喜多六平太師による番謡の音声記録を行った。
無形文化遺産分野での国際的研究交流では、韓国国立文化財研究所の無形文化遺産研究室と合意書を結び、研究員の相互派遣を実施した。

【実績値】
論文等掲載数　4 件（①～④）
研究会等発表件数　7 件（⑤～⑪）
＜参考指標＞
記録作成数　38 件（宝生流謡曲 25　喜多流謡曲 3　講談 10）
公開講座の開催　1 件

【備考】
①飯島満「文楽忠臣蔵四段目の由良助」『歌舞伎　研究と批評』40　pp28-44　歌舞伎学会　08.9.10
②飯島満「文楽の映像資料」　『国文学解釈と教材の研究　臨時増刊』　pp56-61　至文堂　08.10.25
③高桑いづみ「X線透過撮影による能管･龍笛の構造解明」『無形文化遺産部研究報告』第3号　pp.1-20　09.3
④菊池理予「無形文化遺産としての工芸技術 - 染織分野を中心として - 」『無形文化遺産研究報告』第3号　pp.37-60　09.3
⑤菊池理予「黄緞と海気に関する歴史的研究」　第 23 回国際服飾学術会議　08.8.21
⑥高桑いづみ「X 線調査から判明した能管・龍笛の制法」東洋音楽学会第 59 回大会　08.11.16
⑦菊池理予「無形文化遺産としての工芸技術 - 染織分野を中心として - 」第 3 回総合研究会 08.12.2
⑧飯島満「古典芸能の伝承と変遷―人形浄瑠璃文楽の場合―」第 32 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会　08.12.7
⑨高桑いづみ「能島村上家伝来横笛の歴史的意義」　瀬戸内しまなみ大学「水軍講座」08.12.14
⑩飯島満「日本の音声資料と SP レコードの五十年」　第 3 回無形文化遺産部公開学術講座 08.12.16
⑪高桑いづみ「明治・大正・昭和の名人たち」　第 3 回無形文化遺産部公開学術講座 08.12.16

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4135-00

自己点検評価調書

研究所 No　8

1．定性的評価

観点	独創性	発展性	効率性	継続性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2．定量的評価

観点	論文数等	発表数等				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	プロジェクト 3 年目で、文化財保護委員会作成資料の調査、選定保存技術の調査も成果をあげつつある。文化財保護委員会作成記録に関しては調査結果の一部を公開学術講座で公表した。これは他の機関が行っていない調査で独創性が強く、公共性も高い。また、管楽器のＸ線調査は、地方での講演会も開催されるほど地域の高い関心をよんだ。今後も、この調査を継続する予定である。以上の観点を総合してＡと判定した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究は、その進捗度、内容において一定の水準を維持しつつ、比較的堅調に実現できたと考える。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4155-10
（様式 1）

業務実績書

研究所 No　9

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究
プロジェクト名称	平城宮跡第一次大極殿院地区南面回廊跡（第 431 次）の発掘調査（(1)-⑤-ア）

【事業概要】
平城宮第 1 次大極殿院地区における発掘調査。調査地は第 1 次大極殿院を区画する南面築地回廊の東端部にあたり、調査面積は約 630 ㎡。調査期間は平成 20 年 4 月 1 日～同年 6 月 26 日である。調査成果は平成 20 年 6 月 7 日に開催した現地説明会で公表し、約 700 名の参加があった。

【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【プロジェクト責任者】	副所長　山崎信二

【スタッフ】
森川　実、深澤芳樹、島田敏男、山本　崇［以上、都城発掘調査部］、牛嶋　茂［企画調整部］

【主な成果】
平城宮第 1 次大極殿院南面築地回廊の発掘調査で、南面における最後の調査である。既往の調査成果を参考に発掘調査を進めたところ、回廊の基壇上で礎石の痕跡を確認し、基壇縁では雨落溝などを検出。大極殿院の広場では奈良時代前半に敷設された礫敷を検出し、それらが 2 度にわたり敷き直されていたことを再確認した。また、築地回廊基壇では掘込地業を確認し、回廊芯を掘り残していることも明らかとなった。

【年度実績概要】
平城宮第 1 次大極殿院南面築地回廊の発掘調査で、南面築地回廊（SC5600）における最後の調査である。調査範囲は東楼 SB7802 の東隣に残っていた未調査地で、調査面積は約 630 ㎡。発掘調査は平成 20 年 4 月 1 日にはじまり、同年 6 月 26 日に終了した。調査成果は次のとおり。

① 第一次大極殿院南面築地回廊の礎石の痕跡を、推定どおりの位置で確認。南側の礎石据付痕跡は水田の拡張によって大きく損なわれ、一部は完全に失われていたが、北側は良好に遺存。築地回廊の柱間が従来説（4.55m）どおりであることを再確認した。また基壇の南北縁では、雨落溝や基壇外装の抜取溝などを検出した。
② 築地回廊の基壇が、掘込地業と版築とで築成されていることを再確認。掘込地業は回廊芯を掘り残していることも判明し、東面築地回廊と構造が類似することが明らかとなった。
③ 大極殿院内庭部では、下層礫敷～上層礫敷に対応する混礫層・砂層を確認。隣接地における既往調査（第 77 次）の所見と一致。

なお、遺物量はきわめて少なく、土器類はごく少量である。

瓦は回廊廃絶時に廃棄されたもので、築地回廊の所用瓦とみられる。



南面築地回廊の基壇近影（第 431 次）

【実績値】
論文等数　（論文 2 件①②）
発表件数　（現地説明会 1 回、報道発表 1 回）
出土品　（軒瓦・丸・平瓦 50 箱、土器（整理箱）5 箱、木製品 5 点）
記録作成数　遺構実測図 19 枚、遺構写真 20 枚

【備考】
①森川実「平城宮第一次大極殿院（平城第 431 次）の調査」『奈良文化財研究所紀要 2009』（予定）
②「平城宮第一次大極殿院の調査（平城第 431 次）」『奈文研ニュース』No.30

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4155-10

自己点検評価調書

研究所 No　9

1．定性的評価

観点	適時性	継続性				
判定	A	A				

備考
適時性・・・現地説明会を開催し、調査成果を迅速に公表した。
継続性・・・既往の調査成果を踏まえ、大極殿院回廊の構造解明に寄与した。

2．定量的評価

観点	論文等数	発表件数				
判定	A	A				

備考
論文等数・・・・『奈良文化財研究所紀要 2009』において調査成果を報告
発表等件数・・・現地説明会（平成 20 年 6 月）にて今次調査の成果を速報

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	大極殿院回廊の構造解明に寄与し、その成果を論文・発表で迅速に公表した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	適切かつ順調に調査を行い、南面築地回廊の調査を終了させた。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4155-11
（様式 1）

業務実績書

研究所 No10

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	平城宮跡第一次大極殿院地区西面回廊跡（第 432 次）の発掘調査　((1)-⑤-ア)

【事業概要】
平城宮第 1 次大極殿院地区における発掘調査。調査地は第 1 次大極殿院を区画する西面築地回廊の南端部にあたり、調査面積は約 940 ㎡。調査期間は平成 20 年 4 月 1 日～同年 10 月 26 日である。調査成果は平成 20 年 9 月 28 日に開催した現地説明会（第 436 次と合同）で公表し、約 730 名の参加があった。

【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【プロジェクト責任者】	副所長　山崎信二

【スタッフ】
森川　実、深澤芳樹、島田敏男、山本　崇、和田一之輔、浅野啓介、高橋千奈津［以上、都城発掘調査部］、牛嶋　茂［企画調整部］

【主な成果】
平城宮第 1 次大極殿院西面築地回廊の発掘調査。既調査範囲に挟まれた未発掘地での調査で、築地回廊の基壇及び雨落溝などを検出。この調査に続いて実施した第 436～438 次と併せ、西面築地回廊の全容を明らかにした。

【年度実績概要】
平城宮第 1 次大極殿院西面築地回廊南端部の発掘調査。調査範囲は西面築地回廊における未調査地のひとつで、南は第 296 次、北は第 192 次に接している。調査面積は約 940 ㎡。発掘調査は 2008 年 4 月 11 日にはじまり、8 月～9 月下旬までの中断を経て同年 10 月 22 日に終了した。調査成果は次のとおり。

④ 第一次大極殿院南面築地回廊の基壇を約 50m にわたり確認。基壇上の礎石据付痕跡は水田時の削平によってすべて失われていたが、奈良時代前半に比定される掘立柱塀 SA13404 の柱穴を検出。このうち 1 基には柱根（コウヤマキ材）が残っており、柱の下には瓦や塼を礎板として据えた状況を確認した。

⑤ 調査区北東部で築地回廊の東雨落溝や基壇外装の抜取溝などを検出。雨落溝には上層・中層及び下層のものがあり、都合 2 度の改修を受けている。一方、基壇の西半部では削平著しく、西雨落溝および外装の抜取溝はすでに失われていた。

⑥ 平城宮初の塼仏が出土。原位置を失っているが十二尊連坐塼仏の一部で、山田寺出土のそれと同原形品とみられる。

なお、遺物量はきわめて少なく、土器類はごく少量である。瓦は回廊廃絶時に廃棄されたもので、築地回廊の所用瓦とみられる。また、塼は掘立柱塀の柱穴に礎板として用いられたものである。



第 432 次全景（南西から）

【実績値】
論文等数　（2 件①②）
発表件数　（現地説明会 1 回、報道発表 1 回）
出土品　（軒瓦・丸・平瓦 175 箱、土器（整理箱）8 箱）
記録作成数　（遺構実測図 39 枚、遺構写真 30 枚）

【備考】
①森川実・和田一之輔・今井晃樹・大林潤「平城宮第一次大極殿院西面回廊（平城第 432・436・437 次）の調査」『奈良文化財研究所　紀要 2009』（予定）
②「平城宮第一次大極殿院西面回廊（平城第 432・436・437 次）」の調査『奈文研ニュース』No.31

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4155-11
（様式 2）

自己点検評価調書

研究所 No10

1．定性的評価

観点	適時性	継続性				
判定	A	A				

備考
適時性・・・第 436 次と併せて現地説明会を開催し、調査成果を迅速に公表した。
継続性・・・既往の調査成果を踏まえ、第 436～438 次と併せて大極殿院回廊の構造解明に寄与した。

2．定量的評価

観点	論文等数	発表件数				
判定	A	A				

備考
論文等数・・・・『奈良文化財研究所紀要 2009』において調査成果を報告
発表等件数・・・現地説明会（平成 20 年 9 月）にて今次調査の成果を速報

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	第 436～438 次と併せて大極殿院西面築地回廊の構造解明に寄与し、その成果を論文・発表で迅速に公表した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	適切かつ順調に調査を行い、後続の調査（第 436 次・437 次）と併せて西面築地回廊の調査を完了した。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4155-12

業務実績書

研究所 No11

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	平城宮跡第一次大極殿院地区西面回廊跡（第 436 次）の発掘調査　((1)-⑤-ア)

【事業概要】
平城宮跡の整備構想のひとつである第一次大極殿院地区の復原整備事業に先立ち、復原に必要な基礎資料を得るために発掘調査を行う。調査対象地は西面築地回廊の中ほどにあたる（平城第 28 次調査区と平城第 315 次調査区の間）。
調査面積は 880 ㎡で、調査期間は平成 20 年 6 月 26 日～同年 11 月 18 日である。調査成果は現地説明会や紀要などで公表した。

【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【プロジェクト責任者】	副所長　山崎　信二

【スタッフ】
西口寿生、和田一之輔、浅野啓介、高橋知奈津［以上、都城発掘調査部］、牛嶋　茂、中村一郎［以上、企画調整部］

【主な成果】
西面築地回廊の東雨落溝、掘立柱塀、凝灰岩暗渠を確認した。これらの遺構の重複関係を詳細に検討した結果、西面築地回廊の変遷や改修の具体的な様相などを明らかにすることができた。

【年度実績概要】
西面築地回廊に関連する遺構として、東雨落溝を検出した。東雨落溝は拳程度の大きさの河原石を使ってつくられており、その石の大きさなどから 3 時期に分けられ、具体的な様相を把握することができた。すなわち、雨落溝の造り替えは前段階の雨落溝を破壊するといった大きな改変ではなく、その上に石を詰めたりあるいは石を組んだりするのみであり、改修という表現が適当である。
奈良時代中葉には西面築地回廊は取り壊され、かわりに掘立柱塀がつくられる。この塀の柱穴を検討した結果、柱穴の底には地盤沈下を防ぐために礎盤として磚や瓦を敷いているといった地業の具体相が明らかとなった。さらに、柱根が 3 本遺存していたので、柱の直径が約 50 ㎝であること、樹種はコウヤマキであることなどがわかった。
以上、築地回廊の様相解明及び今後の整備復原事業にとって有益な基礎資料を多々得ることができた。



写真　東雨落溝（南から）

東雨落溝の改修の様子がよくわかる。すなわち、側石には拳大の円礫を用いるいっぽう、溝の中には小礫を敷き詰める。さらに、その後の改修時には、溝を埋めるように拳大の円礫を詰めている。
なお、東雨落溝に東接する礫敷きは、大極殿院内部の内庭バラス敷きである。

【実績値】
論文等数　（論文 1 件④、解説等 2 件①②、その他 1 件③）
発表件数　（記者発表 1 回、現地説明会 1 回）
出 土 品　（瓦磚類コンテナ 240 箱分、土器類コンテナ 5 箱分、柱根 3 点）
記録作成数　（実測図 35 枚、写真（4×5）315 枚）

【備考】

① 都城発掘調査部「平城第 432 次・436 次調査-記者発表資料-」2008.9
② 都城発掘調査部「平城第 432 次・436 次調査-現地説明会資料-」2008.9
③ 和田一之輔「平城宮第一次大極殿院西面築地回廊の調査」『奈文研ニュース No.31』2008.12
④ 森川実・和田一之輔・今井晃樹・大林潤「第一次大極殿院西面築地回廊（平城第 432・436・437 次）の調査」『奈良文化財研究所紀要 2009』（予定）

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4155-12

自己点検評価調書

研究所 No11

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性			
判定	A	A	A			

備考
適時性：第一次大極殿院回廊の復原整備に寄与
発展性：平城宮の全体像解明への手がかりを得た。
継続性：平城宮における発掘調査成果の蓄積

2．定量的評価

観点	公表数	調査概報				
判定	A	A				

備考
公 表 数：記者発表及び現地説明会を開催
調査概報：迅速に調査成果を公表

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	第 436～438 次と併せて大極殿院西面築地回廊の構造解明に寄与し、その成果を論文・発表で迅速に公表した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本調査研究は、年度当初の計画通り実施されており、目的を順調に達成した。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 4155-13
（様式 1）

業務実績書

研究所 No12

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	平城宮跡第一次大極殿院地区西面回廊跡（第 437 次）の発掘調査　((1)-⑤-ア)

【事業概要】
第 1 次大極殿院築地回廊ＳＣ13400、掘立柱塀ＳＡ13404、築地回廊東辺の雨落溝、内庭部の礫敷き、土坑などを検出し、大極殿院西面の遮蔽施設及び周囲の関連施設の構造や変遷を明らかにした。

【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【プロジェクト責任者】	副所長　山崎信二

【スタッフ】
西口寿生、渡辺晃宏、和田一之輔、国武貞克、今井晃樹、浅野啓介、大林　潤、高橋知奈津、鈴木智大、加藤雅士［以上、都城発掘調査部］、石村　智、牛嶋　茂、中村一郎［以上、企画調整部］

【主な成果】
第一次大極殿院西面回廊の基壇本体、基壇にともなう雨落溝、回廊基壇をこわして造営した掘立柱塀、回廊基壇を破壊した土坑などを検出した。回廊の規模や構造、西面基壇の変遷が明らかになった。

【年度実績概要】
今回の調査区は南北を平城第 217 次と第 315 次の調査区にはさまれた未発掘地で、南北 24m、東西 18m、調査面積は 390 ㎡である。調査は 2008 年 7 月 3 日に開始し 11 月 26 日に終了した。調査区の中央には南北方向の第一次大極殿院西面の築地回廊ＳＣ13400 が検出された。断割調査の結果、東西幅約 12ｍの掘込地業部分を検出した。厚い整地をしたのち、厚さ 10 ㎝ほどの土を何層かにわけて積土している。築地回廊の東側には雨落溝と大極殿院内庭部の礫敷きを検出した。この部分は少なくとも 3 回の改修があった。築地回廊の西辺では築地回廊をこわして造営した掘立柱塀ＳＡ13404 の柱穴を 4 基検出した。柱間寸法は約 4.5ｍ（15 尺等間）。柱穴は地山面を掘り抜き、底部に磚や瓦を置いて礎盤とし柱を立てていた。柱間が約 9ｍ（30 尺）のところは塀にともなう門遺構である。以上から大極殿院西面の回廊や塀及び関連施設の構造や変遷が明らかになった。



全景写真（南西から）

【実績値】
論文等件数：2 件（論文 1 件①、その他 1 件②）
出土品数　：土器 4 箱、軒瓦 20 箱、丸平瓦 400 箱、金属製品 14 点、石器 3 点
記録作成数：実測図 22 枚、写真 4×5　138 枚

【備考】
①渡辺晃宏・森川実・和田一之輔・今井晃樹・大林潤「平城宮跡第一次大極殿院西面回廊（平城第 432・436・437 次）の調査」『奈良文化財研究所紀要 2009』（予定）
②森川実・和田一之輔・今井晃樹・大林潤「平城宮第 1 次大極殿西面回廊の調査」『奈文研ニュース』2008. 12

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4155-13

自己点検評価調書

研究所 No12

1．定性的評価

観点	発展性	継続性	正確性			
判定	A	A	A			

備考
発展性：第一次大極殿院西面回廊の全容が明らかになった。
継続性：計画通りに調査を実施している。
正確性：従来明らかになっていた点をさらに詳細に追究した。

2．定量的評価

観点	論文等数	記録件数				
判定	A	A				

備考
論文等数…「奈良文化財研究所紀要 2009」において調査成果を報告
発表等件数…報道発表で、調査成果を速報

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	第一次大極殿院西面回廊の全容が明らかになった。西面回廊の構造や変遷について従来より詳細な資料を得ることができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本調査研究は、年度当初の計画通り行われており、目的を順調に達成した。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4155-14
（様式 1）

業務実績書

研究所 No13

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	平城宮跡第一次大極殿院地区西面回廊跡（第 438 次）の発掘調査　((1)-⑤-ア)

【事業概要】
本年度は、第一次大極殿院地区南面・西面回廊の未発掘部分の調査を計画し、合計 5 つの調査区を設定した。第 438 次調査は西面築地回廊の北部にあたり、Ⅰ～Ⅲ期の西面回廊の遺構と、Ⅲ期殿舎地区内の遺構の検出が期待された。
調査区は、295 次調査（1998 年度）、316 次調査（2000 年度）の調査区と重複する。調査面積は約 550 ㎡（南北 25m、東西 27m）。調査は 9 月 24 日より開始し、12 月 22 日に終了した。

【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【プロジェクト責任者】	副所長　山崎信二

【スタッフ】
渡辺晃宏、今井晃樹、大林潤、鈴木智大、国武貞克、加藤雅士［以上、都城発掘調査部］、石村智、牛嶋茂、中村一郎［以上、企画調整部］

【主な成果】
(1) Ⅰ～Ⅲ期の遺構を確認し、各時期がそれぞれ東西対称に計画されていることが改めて確認された。
(2) 合計 3 面の礫敷き面を良好な状態で検出し、回廊内部の礫敷きの変遷を確認した。大極殿と後殿のみが建っていたⅠ期と、生活空間として利用されていたⅡ期とでは、礫の大きさが異なり、区画内の機能に合わせて舗装を変えている点は注目される。
(3) Ⅲ期の東西排水溝で凝灰岩の石組暗渠を良好な状態で検出した。

【年度実績概要】
第 438 次調査は、第一次大極殿院地区西面回廊における最後の調査となり、これまで当研究所で継続して行ってきた当地区の調査研究の成果を追認した。
当地区の遺構は、大きく 3 時期に分けられ、Ⅰ期はさらにⅠ-1～4 の 4 時期に区分される。本調査では以下の遺構を確認した。
Ⅰ-1 期：築地回廊基壇とその雨落溝、回廊内部の礫敷舗装（下層礫敷）
Ⅰ-3 期：掘立柱塀と、回廊内部の礫敷舗装（中層礫敷）
Ⅱ期：築地回廊礎石抜取穴と礫敷舗装（上層礫敷）、Ⅰ期の雨落溝を破壊する南北溝、瓦溜まり
Ⅲ期：築地塀基壇外装、回廊内部の掘立柱塀、暗渠をともなう排水路
以上の成果は、過去の周辺調査と齟齬はなく、特に礫敷舗装面は、これまで 2 時期のみを検出していたが、新たに中層礫敷面を確認するという成果を得た。また、Ⅲ期の遺構は、過去の当地区の東側の対称地でも同様の遺構を検出しており、当地区が奈良時代当初より、8 世紀の初頭まで、東西対称の配置計画の下使用されていたことが判明した。このほか、中世の鋳造遺構や井戸を検出している。
遺物は、土器・瓦・金属器などが出土した。
検出した掘立柱の埋土について、有機炭素含有量と粒度について、応用地質株式会社へ分析を依頼した。
調査の記録は、20 分の 1 の実測図を作成し、且つヘリコプターによる垂直写真を撮影し、図化を行った。

【実績値】
論文等数：3 件（論文 1 件③、解説等 1 件②、その他 1 件③）
出土品　：土器整理用コンテナ 27 箱、軒瓦 8 箱、雑瓦 244 箱、木製品 4 点、金属器 22 点、石器 4 点、木炭 236.1g
記録件数：図面 31 枚、写真 35㎜ フィルム 26 本、4×5 フィルム 133 枚、航空撮影フィルムアルバム 1 冊、図化図面筒 2 本分土質分析報告書 1 式

【備考】
①森川実・和田一之輔・今井晃樹・大林潤「平城宮第 1 次大極殿西面回廊の調査」『奈文研ニュース』2008.12
②「平城第 438 次調査（第一次大極殿院西面回廊）　記者発表資料」2008.12
③「第一次大極殿院西面回廊の調査　－平城第 432.436.437.438 次調査」『奈文研紀要 2009』（予定）

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4155-14

自己点検評価調書

研究所 No13

1．定性的評価

観点	発展性	継続性	正確性			
判定	A	A	A			

備考
発展性:第 1 次大極殿院地区において、奈良時代前半より 8 世紀初頭の西面回廊の全容が明らかになった。
継続性：計画通りに調査を実施している。
正確性：従来の成果を追認したうえで、新たな知見を得ている。

2．定量的評価

観点	論文等数	記録件数				
判定	A	A				

備考
論文等数…「奈良文化財研究所紀要 2009」において調査成果を報告し、記者発表を行っている。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	第 1 次大極殿院西面回廊の全容が明らかになった。西面回廊の構造や変遷について従来の成果を追認したうえで、新たな成果を得ている。また、土壌分析という科学的視点からも調査を行っている。以上の成果を評価し、Ａとする。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本調査研究は、年度当初の計画通り行われており、目的を順調に達成した。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4155-15
（様式 1）

業務実績書

研究所 No14

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	平城宮跡東方官衙地区（第 440 次）の発掘調査　((1)-⑤-ア)

【事業概要】
本調査は、平城宮跡中枢部の 1 つ東区朝堂院地区と東院地区の間に位置する東方官衙地区において、遺構の広がり、区画単位の解明及び遺構深度などの実態を解明する目的で実施した。昨年度からはじまったこの地区における調査の第 3 回目である。

【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【プロジェクト責任者】	副所長　山崎信二

【スタッフ】
渡辺晃宏、今井晃樹、大林　潤、鈴木智大、国武貞克、加藤雅士［以上、都城発掘調査部］、石村　智、牛嶋　茂、中村一郎［以上、企画調整部］

【主な成果】
木簡が出土する土坑の全容が明らかになり、土坑に前後する掘立柱建物などが確認された。土坑からは大量の土器片、瓦片のほか、金属器、木器、木簡、木屑などが出土した。

【年度実績概要】
昨年度の第 429 次調査区の南側で検出した土坑の全容を明らかにするために、東西 17m、南北 15m、調査面積 255 ㎡の調査区を設定し、平成 20 年 11 月 19 日より開始した。昨年度に実施した第 429 次調査区の南で検出した土坑の全容を明らかにすることを目的とした。土坑は東西約 10m 南北約 7m の不整形で、深さは検出面から 1m ほどである。土坑内からは土器片、瓦片、金属片のほか、大量の木屑、自然木などがあり、この木屑層から木器や木簡も出土した。木屑層には大量の木簡や木簡の削り屑があると予想されるため 2600 箱ほど土ごととりあげた。木簡の内容は人名や習書が多く、そのほか宝亀年間の紀年や衛府にかかわる木簡などが目立つ。このほか、同様の土坑が 3 基確認されたほか、土坑によって壊された東西棟の掘立柱建物が数棟、便を溜めたと思われる穴が数基検出された。
以上の成果は、東方官衙地区における官衙の配置や規模、性格を把握するだけでなく、東方官衙全体の構造を解明するうえでも重要な資料となる。



土坑全景（北東から）

【実績値】
論文等数　（論文 1 件①、その他 1 件②）
出土品　（土器 60 箱　軒瓦 11 箱　丸平瓦 260 箱、木簡および木器 2600 箱）
記録件数　（実測図等 23 枚、写真（4×5）175 枚）

【備考】
①今井晃樹「東方官衙地区（平城第 440 次）の調査」『奈良文化財研究所紀要 2009』（予定）
②今井晃樹「平城宮第 440 次　東方官衙の調査」『奈文研ニュース』2009.3

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4155-15

自己点検評価調書

研究所 No14

1．定性的評価

観点	正確性	発展性	継続性			
判定	A	A	A			

備考
正確性：検出遺構・出土資料の 性格な検討、資料化による貢献を行った。
発展性：新たな調査成果をうけ、平城宮及び東方官衙地区の構造解明にむけた基礎データを提示できた。
継続性：5 カ年計画の中で継続的に調査を行い、調査面積の蓄積のみならず、より集約的効率的な成果の検討を行った。

2．定量的評価

観点	発掘調査箇所数	出土遺物数				
判定	A	A				

備考
発掘調査箇所数：年度計画に従い調査を行った。
出土遺物数：これまでにない量の貴重な遺物を大量に取り上げた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本調査によって東方官衙地区の構造解明や遺構変遷を明らかにすることができた。また、今後の継続調査に大きな指針を与えることとなった。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画に従い発掘調査が行われ、着実に成果をあげてきている。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4155-16
（様式 1）

業務実績書

研究所 No15

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	平城京右京三条一坊八坪（第 448 次）の発掘調査　((1)-⑤-ア)

【事業概要】
平城京遷都 1300 年祭に伴う平城京歴史館（仮称）建設に際する事前調査である。調査面積は 1100 ㎡で、調査期間は平成 21 年 1 月 6 日から 3 月 23 日である。

【担当部課】	都城発掘調査部(平城)	【プロジェクト責任者】	副所長　山崎信二

【スタッフ】
林　正憲、難波洋三、馬場　基、高橋知奈津、鈴木智大［以上、都城発掘調査部］

【主な成果】
右京三条一坊八坪の状況を明らかにすることができた。具体的には、奈良時代後半の遺構の検出と、近代以降の土地利用の変遷を把握することができた。

【年度実績概要】
調査区中央において建築廃材等を大量に投棄した池を検出した。これは 1929 年に当該地に設けられた競馬場に関連する施設である可能性が高い。出土した廃材は、戦時中に存在していた興亜機械工業の建築廃材と考えられる。埋め立てたのは興亜機械工業接収後、基地施設を造営した米軍と推定される。なお、この池はさらに西側に広がっていた昭和以降の大きな池を一部埋め立てて造られている。
したがって、調査区内で検出された奈良時代の遺構面は、調査区東側と北側にわずかに残されている状況であった。
東側では、L 字状の溝とその周囲に広がる瓦溜まりを検出した。L 字状の溝の内側では整地土が確認されるのみで、遺構等は検出されなかった。このことから、溝は基壇外装の抜取で、整地土上面に基壇建物が存在していたものと類推される。
北側でも瓦溜まりが検出されたが、東側に比べて土器の出土量が多いため、性格の異なるものと考えられる。遺構等で特に顕著なものはなかった。
出土した瓦から、今回検出した遺構面は奈良時代後半のものと考えられる。念のため、奈良時代前半の遺構面を探したが、検出されなかった。
なお、池の底からは弥生～古墳時代の流路が確認されている。

【実績値】
論文等数　　1 件
出土品　　軒瓦 65 点、丸・平瓦 100 kg、土器（整理箱）10 箱
記録作成数　遺構実測図 28 枚、遺構写真 74 枚

【備考】
林　正憲「平城京右京三条一坊八坪（第 448 次）の調査」『奈良文化財研究所紀要 2009』

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4155-16
（様式 2）

自己点検評価調書

研究所 No15

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性	継続性		
判定	A	A	A	A		

備考
　これまで情報のなかった右京三条一坊八坪の状況を明らかにすることができた。特に、奈良時代後半の基壇建物の痕跡を確認できたことは評価できる。また、近代以降の土地利用の変遷についても明らかとなった。

2．定量的評価

観点	調査概報					
判定	A					

備考
　発掘調査の成果について、『奈良文化財研究所紀要 2009』に掲載し、広く公表する。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	これまで不明な点の多かった右京三条一坊八坪の状況を明らかにすることができた。特に、奈良時代後半の状況を確認できたことは評価できる。また、近代以降の土地利用についても知見を得ることができた。今後も周辺の調査を重ねることによって、さらなる情報の蓄積が期待できる。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	平城京の調査研究は着実に前進しつつある。今後も発掘成果を定期的に公表するとともに、周辺の調査状況などを手がかりに全体像の把握に努めたい。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 4155-17
（様式 1）

業務実績書

研究所 No16

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	藤原宮跡朝堂院地区の発掘調査　((1)-⑤-ア)

【事業概要】
「飛鳥・藤原」地域は、わが国古代国家成立期の舞台であり、6 世紀末から 8 世紀初めに至る間、政治・経済・文化の中心であった。本研究は、発掘調査を通じて古代国家の具体像を復元すべく学際的な調査研究を行うものである。その成果を広く公開し、遺跡の保存・活用についても取り組んでいる。藤原宮跡は、わが国初の本格的都城を備えた宮殿遺跡であり、平成 11 年度から中枢部の実態解明のための計画調査を実施している。

【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部長　松村恵司

【スタッフ】
玉田芳英、小田裕樹、高田貫太、番　光、木村理恵、次山　淳、黒坂貴裕、関広尚世、若杉智宏［以上、都城発掘調査部］、井上直夫、岡田　愛［以上、企画調整部］

【主な成果】
大極殿院南門の前面にあたる朝堂院朝庭北端部の発掘調査を実施し、礫敷きの広場と排水施設など朝庭部の構造を明らかにするとともに、幡にともなうと考えられる遺構など朝庭で行われた儀式に関連する遺構を確認した。また、下層遺構の調査では、藤原宮造営時の運河や建物建設に関わる排水溝などを検出し、それらの変遷から、藤原宮の造営過程の解明につながる重要な手がかりを得た。

【年度実績概要】
本研究は、藤原宮朝堂院朝庭部の空間利用の解明、朝庭儀式に関わる遺構の確認、藤原宮造営に関わる遺構の検出などを目的として実施した。藤原宮の朝堂院では、これまでの調査により朝堂の周囲などで一部礫敷きが検出されていたが、朝庭内部の本格的な発掘調査は今回がはじめてである。調査期間は 2008 年 4 月 1 日～11 月 11 日。調査面積は 1250 ㎡。

藤原宮期の朝庭部に関する調査では、朝庭が礫敷きの広場であったことが判明し、広場は調査区内で南から北へ低くなるが、大極殿院南門周辺では基壇状に高まる。南門の前面から南へ向かう通路状施設とその側溝を設けており、東西・南北方向の暗渠が排水のために設置されていた。朝庭内の儀式に関連して、幡にともなうと考えられる遺構群を検出した。東西 1.6～1.8m、南北 0.8m、深さ 0.5mの柱堀形に、大小 2 つの抜取穴が東西にならぶ構造で、東西に 3m間隔で 8 本ならぶ。藤原宮における幡遺構の検出例としては初例であり、他の古代都城にあっても朝庭部における幡遺構の検出例は初例である。藤原宮における朝庭儀礼の実態を明らかにするうえで重要な資料である。

礫敷き面の下層の調査において、藤原宮の造営に関わる遺構を検出した。造営のための物資を運搬したと考えられる運河は、幅 3～4m、深さが 2mあり、過去の調査も含めると、藤原宮内を南北 500m以上にわたり直線的に設けられていたことが判明した。さらに、運河埋め立て後の排水溝や大極殿院南門建設時の排水施設なども検出した。

なお、2008 年 6 月 30 日から 7 月 2 日（3 日間）の現場公開で 1025 人の見学者、9 月 27 日の現地説明会に 952 人の見学者があった。

【実績値】
論文等数　　3 件（論文 1 件、その他 2 件）
発表件数　　4 件（現地説明会 1 件、現地見学会 1 件、報道発表 2 件）
出土遺物　　軒瓦 207 点、丸平瓦 353 箱、土器 42 箱、木簡 26 点、木製品・獣骨など
記録作成数　遺構実測図 106 枚、写真（4×5）255 枚

【備考】
① 小田裕樹ほか「朝堂院朝庭の調査－第 153 次」『奈良文化財研究所紀要 2009』2009.6
② 玉田芳英「藤原宮朝堂院朝庭部の調査（飛鳥藤原第 153 次）」『奈文研ニュース 30』2008.9
③ 小田裕樹「藤原宮朝堂院朝庭の調査（飛鳥藤原第 153 次）」『奈文研ニュース 31』2008.12
④ 奈良文化財研究所「藤原宮朝堂院朝庭の調査　現地説明会資料」2008.9

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4155-17

自己点検評価調書

研究所 No16

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	独創性	継続性		
判定	A	A	A	A		

備考
適時性：藤原宮中枢部（朝堂院）の全体解明への寄与
発展性：藤原宮中枢部の造営過程を復元するための手がかりを得た。
独創性：幡遺構をはじめとする朝庭儀礼に関わる遺構を確認した。
継続性：藤原宮中枢部に対する計画調査の継続

2．定量的評価

観点	論文等数	発表件数				
判定	A	A				

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本調査は、藤原宮朝堂院朝庭部における初の本格的な発掘調査であり、朝堂院における朝庭部の構造を明らかにするとともに、藤原宮の造営過程に関する運河、排水溝などの各種遺構を検出し、変遷過程の詳細を明らかにした。また、調査成果の公開も適切に行い得たので、総合的にＡと判断した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本調査研究は、年度当初の計画通りに実施されており、かつ目的を順調に達成した。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4155-18
（様式 1）

業務実績書

研究所 No17

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	石神遺跡の発掘調査　((1)-⑤-ア)

【事業概要】
「飛鳥・藤原」地域は、わが国古代国家成立期の歴史的な舞台であり、6 世紀末から 8 世紀初めに至る間、政治・経済・文化の中心であった。本研究は発掘調査を通じて古代国家の具体像を復元すべく学際的な調査研究を行うものである。その成果を広く公開し、遺跡の保存活用についても取り組んでいる。石神遺跡は、飛鳥の宮殿遺跡として重要な遺跡であり、この遺跡の実態解明のため、1981 年度より継続的に計画調査を実施している。

【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部長　松村恵司

【スタッフ】
青木　敬、市　大樹、豊島直博、石田由紀子［以上、都城発掘調査部］、山崎　健［埋蔵文化財センター］、井上直夫、岡田　愛［以上、企画調整部］

【主な成果】
19 年度の第 20 次調査で確認した遺跡中心部の東限施設の延長を検出し、7 世紀中頃における石神遺跡の東限を確定した。東限の区画施設は掘立柱塀で、南北棟建物が併設され、区画に沿って外郭の通路がめぐる状況を明らかにした。また、東限施設は二度にわたる建て替えが行われていたことも判明した。7 世紀後半になると、それまでの東限よりさらに東側に建物等が展開することを確認し、土地利用が大きく変化することを明らかにした。

【年度実績概要】
石神遺跡は、7 世紀中頃には外交上の饗宴施設があったと考えられている。19 年度の第 20 次調査において中心部の東限となる施設の有力な候補とみなされる南北方向の建物を確認し、この東限施設の延長線上及び周辺状況を確認することを目的として、その南側に対して発掘調査を実施した。調査面積は 480 ㎡。調査期間 2008 年 10 月 2 日～2009 年 3 月 3 日である。

調査の結果、第 20 次調査で検出した南北棟建物と筋をそろえる総柱建物、及び南へ延びる掘立柱塀を確認した。また、ほぼ位置を同じくして、これらの建物に先行する南北方向の掘立柱建物及び掘立柱塀を確認した。さらに、この遺構群に先行する瓦葺建物の存在を確認した。瓦葺建物以外の遺構群のうち後の二時期の遺構は、いずれも 7 世紀初頭までの土器を含む整地土上に展開し、それより東には遺構が展開しないことから、7 世紀前半から中頃にかけて営まれた東限施設と判断できる。その後、調査区一帯を 7 世紀中頃の土器を含む土によって大規模に整地し、その上面で前述の東限施設を越えて遺構が展開する状況を確認した。これらのことから、7 世紀中頃の石神遺跡は、第 20 次調査によって想定されていた東限ライン上に、整地の後二回にわたって東限施設を建て替えていたことが明らかになり、遺跡の東西規模が約 130ｍであることが確定した。また、7 世紀後半以降再度整地した後に、それまでの東限ラインよりもさらに東側に建物が造営され、遺跡範囲が東側へ展開し、遺跡の性格が大きく変化することを確認した。

なお、2009 年 2 月 14 日に現地説明会を実施し、1611 名の見学者があった。

【実績値】
論文等数　　2 件（論文 1 件、その他 1 件）
発表件数　　2 件（現地説明会 1 件、報道発表 1 件）
出土遺物　　軒瓦 2 点、丸平瓦 14 箱、土器 52 箱、金属製品 17 点、石製品 223 点など
記録作成数　遺構実測図 35 枚、写真（4×5）23 枚



石神遺跡第 21 次調査区全景（西から）

【備考】
① 青木敬ほか「石神遺跡の調査－第 156 次」『奈良文化財研究所紀要 2009』2009.6
② 青木　敬「石神遺跡の調査（第 156 次）」『奈文研ニュース 32』2009.3
③ 奈良文化財研究所「石神遺跡第 21 次調査現地説明会資料」2009.2

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4155-18
（様式 2）

自己点検評価調書

研究所 No17

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性	正確性		
判定	A	A	A	A		

備考
適時性：石神遺跡中枢部の東限解明への寄与
発展性…石神遺跡東部に対する今後の調査への見通しを得た
継続性…石神遺跡に対する計画調査の継続
正確性…飛鳥の都市構造復元にかかわる数値・データを得た

2．定量的評価

観点	論文等数	発表件数				
判定	A	A				

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本調査で、計画調査の目的である石神遺跡中心区画の東限施設を確認したことにより、その四至が確定した。また、7 世紀における二度の大規模な整地を確認し、遺構変遷や時期決定に関する良好な資料を得ることができた。区画塀や通路状施設の確認は、飛鳥の都市構造を解明するうえで、重要な発見といえる。調査成果の一般への公開も適切に行い得たので総合的にＡと判断した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本調査研究は、年度当初の計画通り実施されており、課題であった石神遺跡中心部の東限施設をほぼ確定したことで、石神遺跡の規模や全体像の解明へ向けて目的を順調に達成した。なお、7 世紀後半には、土地利用の変化に伴う遺跡範囲の拡大が考えられるため、遺構の広がりを追究すること、及び東限施設北部の様相を明らかにすることが今後の課題である。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4155-19

（様式 1）

業務実績書

研究所 No18

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	甘樫丘東麓遺跡の発掘調査　((1)-⑤-ア)

【事業概要】

「飛鳥・藤原」地域は、わが国古代国家成立期の舞台であり、6 世紀末から 8 世紀初めに至る間、政治・経済・文化の中心であった。本研究は、発掘調査を通じて古代国家の具体像を復元すべく学際的な調査研究を行うものである。その成果を広く公開し、遺跡の保存・活用についても取り組んでいる。甘樫丘は、蘇我氏が邸宅を構えたことで知られ、本遺跡はその関連遺跡として実態解明のための計画調査を 2006 年度より実施している。

【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部長　松村恵司

【スタッフ】

豊島直博、丹羽崇史、市　大樹、青木　敬、石田由紀子、箱崎和久、若杉智宏、木村理恵、加藤雅士［以上、都城発掘調査部］、山崎　健［埋蔵文化財センター］、井上直夫、岡田　愛［以上、企画調整部］

【主な成果】

7 世紀代のものと推定される整地層、石敷、柱穴、土坑及び整地層を掘り込む幅 3～4mの溝などを検出した。整地層に埋め立てられた人頭大の礫群を確認したが、これは第 146 次調査で確認した石垣状遺構の一部と考えられる。また、中近世の墓と考えられる底部に炭を敷いた土壙 1 基を検出した。以上のように今回の調査では、遺跡の性格及び甘樫丘における土地利用の変遷を考えるうえで重要な資料を得ることができた。

【年度実績概要】

甘樫丘は、飛鳥川の左岸に位置する丘陵で、その麓にはいくつかの谷地形が形成されている。甘樫丘東麓遺跡は、東麓にある谷地のひとつに立地し、2006 年度の造園修景に先立つ遺跡確認調査によって、7 世紀の建物群の存在が明らかになった。2007 年度より全面的な学術調査に着手し、これまでに石垣状遺構、掘立柱建物群、炉跡などを検出している。本年度の調査区は、2007 年度の第 146 次調査で検出した石垣状遺構の全容の解明、大型建物・居住空間の有無の確認、遺構群のより詳細な変遷の解明を目的として、第 146 次調査地の南に接して谷の北東部に設定した。調査面積は、1150 ㎡。調査は 2008 年 12 月 16 日に開始し、2009 年 3 月 10 日現在継続中。

調査区西部を中心に、複数の柱穴、土坑等を検出し、調査区東部では、石敷遺構を部分的に確認した。石敷遺構は、第 146 次調査で検出した 7 世紀中頃の石敷との関連が注目される。調査区中央付近では、幅 3～4 mの南北溝を検出した。第 141 次調査では、調査区壁面で整地層を掘り込む溝状の落ち込みが確認されており、今回検出した溝はその延長部にあたる。さらに、整地土に埋め立てられた人頭大の礫群を検出した。これは第 146 次調査で確認した石垣状遺構の一部と考えられる。また、中近世の墓と考えられる底部に炭を敷いた土壙 1 基を検出した。

出土遺物には、整理箱 29 箱分の飛鳥時代から近世にかけての土器類、瓦類、鉄製品、鉱滓、碁石、紡錘車、土馬、漆付土器などがある。

【実績値】

論文等数　1 件（①）

出土遺物　土器類 29 箱、瓦類 1 箱、金属製品、石製品等

【備考】

① 丹羽崇史ほか「甘樫丘東麓遺跡の調査－第 157 次」『奈良文化財研究所 2009』2009.6

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4155-19

自己点検評価調書

研究所 No18

1．定性的評価

観点	適時性	継続性	発展性			
判定	A	A	A			

備考
適時性：蘇我氏邸宅推定地の解明に向けた調査
継続性：計画調査の継続による遺跡全容の解明
発展性：今後の調査への見通しを得た。

2．定量的評価

観点	論文等数					
判定	A					

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本調査では、計画調査の目的である遺跡東北部分の遺構のありかたを確認したことにより、遺跡の全体像解明に向けての良好な資料を得ることができた。また、遺構の展開状況から、次年度の調査への見通しを得ることができたため、総合的にＡと判断した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本調査研究は、年度当初の計画通り実施されており、課題であった石垣遺構の東南方向への延長部の状況を確認するとともに、周辺の土地利用を確認したことで、甘樫丘東麓遺跡の性格及び全体像解明に向けての目的を順調に達成した。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良文化財研究所　処理番号 4155-20

業務実績書

研究所 No19

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	平城京跡出土遺物・遺構の調査研究等　((1)-⑤-イ)

【事業概要】
20 年度の発掘調査による平城宮・京跡出土の木製品・金属製品・石製品・土器・土製品・瓦磚類・木簡などの整理・分析研究、出土遺構の整理・分析研究、出土遺構の図面及び写真作成・分析研究を、年間を通じて実施し、昨年度以前の調査において出土した遺物について、報告書刊行またはその準備作業としての再調査を行う。また、出土遺物の科学的保存処理を継続して実施する。

【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【プロジェクト責任者】	副所長　山崎信二

【スタッフ】
難波洋三、和田一之輔、城倉正祥、国武貞克、西口壽生、神野　恵、森川　実、加藤雅士、深澤芳樹、今井晃樹、林　正憲、渡辺晃宏、山本　崇、馬場　基、浅野啓介、島田敏男、大林　潤、高橋知奈津、鈴木智大［以上、都城発掘調査部］、牛嶋　茂、中村一郎［以上、企画調整部］

【主な成果】
本年度の発掘調査に伴う出土遺物・遺構の整理・分析研究、図面・写真の作成などの基礎作業を行い、平成 21 年度刊行の『奈良文化財研究所紀要 2009』の報告を準備し、発掘調査成果速報展を実施した。昨年度以前の調査に伴う出土遺物についての調査を継続して実施し、報告・展示も行った。『第一次大極殿復原に関する調査研究』基壇編、『同』屋根編、『近世瓦の研究』を刊行した。また、『地下の正倉院―長屋王家木簡の世界』を開催した。

【年度実績概要】
・本年度の発掘調査による出土遺物について
平城宮・京跡で出土した木製品・金属製品・石製品・土器・土製品・瓦磚類・木簡などの整理・分析研究、出土遺構の図面・写真作成・分析研究、及び出土遺物の科学的保存処理は、発掘調査研究の基礎作業であり、年間を通じて発掘調査と併行して遅滞なく実施した。このうち昨年度末から本年度初めにかけて実施した平城宮東方官衙地区の発掘調査の成果について、発掘調査速報展「平城宮跡東方官衙の調査」を文化財情報課と協力して平城宮跡資料館において開催した（平成 20 年 7 月 1 日から 8 月 31 日まで）。



展示リーフレット

・平成 19 年度以前の出土遺物について
『平城宮発掘調査報告（第一次大極殿院）』、及び『平城宮木簡七』の刊行に向けての再整理・分析を重点的に実施した。平成 18 年度の調査で検出した西大寺食堂院跡の井戸の遺物の整理過程で、正倉院宝物に類例のある刀子山形金具を発見し、報告した。平城宮内出土の類例の調査も行った。
出土から 20 年になる長屋王家木簡の優品を広く公開するために、「地下の正倉院展―長屋王家木簡の世界」を平城宮跡資料館において実施した（平成 20 年 10 月 21 日から 11 月 30 日まで）。
・報告書などの刊行について
平城宮第一次大極殿院復原整備研究に伴う報告書として、『第一次大極殿復原に関する調査研究』基壇編、『同』屋根編を、また『近世瓦の研究』（山崎信二著。奈良文化財研究所学報 78）を刊行した。

【実績値】
論文数等計 6 件（報告書等 4 件①～④、解説等 2 件⑤・⑥）

【備考】
①『第一次大極殿復原に関する調査研究』基壇編、2009.3
②『第一次大極殿復原に関する調査研究』屋根編、2009.3
③『近世瓦の研究』（奈良文化財研究所学報 78）2008.11
④『奈良文化財研究所紀要 2009』2009（予定）
⑤『地下の正倉院展―長屋王家木簡の世界』2008.10
⑥「西大寺食堂院井戸跡出土の刀子山形金具」（『奈文研ニュース』32）2009.3

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4155-20

自己点検評価調書

研究所 No19

1．定性的評価

観点	継続性	発展性	適時性	正確性		
判定	A	A	A	A		

備考
継続性：厖大な歴史資料の基礎的分析研究
発展性：新たな資料提示方法の追究
適時性：新出土資料についての知識供与による文化財活用
正確性：蓄積されている資料の正確な資料化による貢献

2．定量的評価

観点	論文等数					
判定	A					

備考
論本等数：当初予定の刊行物を順調に刊行できたことに加え、新しい成果を適時公表することができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	平城宮・京跡で出土した厖大な考古・文字資料を継続的に整理・分析し、それぞれの研究に東アジア的視点で検討を加えたことで、総合的にみてＡと判断した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	これまでの研究を基礎として、さらに新しい方法を加味・活用して、研究を深化した。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4155-21
（様式 1）

業務実績書

研究所 No20

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等　((1)-⑤-イ)

【事業概要】
本年度の発掘調査により飛鳥・藤原京跡で出土した木製品・金属製品・石製品・動植物遺存体、土器・土製品・瓦塼類、木簡などの整理、分析研究、及び発掘遺構の図面・写真資料の整理・作成、分析作業を年間を通じて実施し、合わせて前年度までの発掘調査成果を報告書等で公開するための基礎的整理・分析・復原研究を行う。また、出土遺物の保存処理を継続的に実施した。

【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部長　松村恵司

【スタッフ】
豊島直博、青木　敬、廣瀬　覚、木村理恵、玉田芳英、小田裕樹、丹羽崇史、関広尚世、若杉智宏、次山　淳、中川あや、高田貫太、石田由紀子、箱崎和久、黒坂貴裕、番　光、市　大樹［以上、都城発掘調査部］、井上直夫、岡田　愛［以上、企画調整部］

【主な成果】
本年度の発掘調査により出土した木製品・金属製品・石製品・動植物遺存体、土器・土製品・瓦塼類、木簡などの整理、分析研究、及び発掘遺構の図面・写真資料の整理・作成、分析作業を年間を通じて実施し、成果の一部を公表した。前年度までの発掘調査成果を公開するための基礎的整理・分析・復原研究を行い、『飛鳥藤原京木簡二－藤原京木簡一－』等の公刊図書に取りまとめた。また、出土遺物の保存処理を継続的に実施した。

【年度実績概要】
①　本年度の発掘調査による出土遺物・遺構について
本年度、飛鳥・藤原京跡で出土した木製品・金属製品・石製品・動植物遺存体、土器・土製品・瓦塼類、木簡などの整理、分析研究、発掘遺構の図面及び写真資料の整理・作成、分析作業、及び出土遺物の保存と保存処理は、発掘調査研究の基礎作業であり、年間を通じて野外での発掘調査と並行して、各研究室において計画的に遅滞なく実施した。成果の一部は、『奈良文化財研究所紀要 2009』等で公表した。
②　前年度までの出土遺物・遺構について
発掘調査成果を、計画中の『藤原京左京六条三坊発掘調査報告』等の報告書として公刊するための基礎的整理・分析・復原研究、出土遺物の保存処理を継続的に実施した。藤原京条坊に関連する発掘成果をデータ化する作業は、前年度に引き続いて実施した。木簡については、2006 年度に実施した石神遺跡の出土品を中心に取りまとめた『飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報（二十二）』、奈良文化財研究所調査の藤原京出土木簡を集成した『飛鳥藤原京木簡二－藤原京木簡一－』を出版した。

【実績値】
公刊図書等数　4 件（①②③④）

【備考】
① 奈良文化財研究所『奈良文化財研究所紀要 2009』2009.6
② 奈良文化財研究所『飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報』2008.11
③ 奈良文化財研究所『飛鳥藤原京木簡二－藤原京木簡一－』2009.3
④ 奈良文化財研究所『古代瓦研究Ⅲ－川原寺式軒瓦の成立と展開－』2009.3

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4155-21

自己点検評価調書

研究所 No20

1．定性的評価

観点	適時性	継続性	独創性	発展性		
判定	A	A	A	A		

備考
適時性：新出土資料の迅速な公開と活用
継続性：膨大な歴史資料の基礎的分析研究および保存
独創性：新たな資料分析方法の追究
発展性：蓄積された歴史資料の正確な資料化

2．定量的評価

観点	公刊図書数					
判定	A					

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	出土遺物・遺構についての整理調査を、野外での発掘調査と併行して遅滞なく計画通りに実施することができた。また、図書等の刊行を通じて、調査成果の公開も適切に行い得たので、総合的にＡと判断した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	報告書作成のための遺物・遺構整理作業を、ほぼ予定通り進めることができた。出版物の刊行も計画通りに行い得た。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4155-30
（様式 1）

業務実績書

研究所 No21

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究　((1)-⑤-ウ)

【事業概要】
Ａ：漢長安城桂宮発掘調査報告書の作成、唐大明宮太液池発掘調査出土品の整理、漢魏洛陽城跡の共同発掘調査を実施し日本の都城との関連を追究し、調査・研究の成果を公刊する。
Ｂ：朝陽地区隋唐墓出土副葬遺物を共同で整理・比較研究し、日本都城成立期の交流を考察しその成果を公表する。
Ｃ：鞏義市黄冶唐三彩窯跡及び製品の共同研究を実施し、日本の奈良三彩との関連を考察し、成果を公刊する。
Ｄ：日本と韓国の都城・王京形成の共同研究を実施し、古代における両国の文化交流を跡付ける。

【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【プロジェクト責任者】	副所長　山崎信二等

【スタッフ】
Ａ：山崎信二・今井晃樹［以上、都城発掘調査部］他 9 名（王巍・銭国祥他）、
Ｂ：小林謙一・小池伸彦［以上、企画調整部］他 11 名(田立坤・呂学明他)
Ｃ：西口壽生・玉田芳英［以上、都城発掘調査部］他 6 名（孫新民・趙志文)、
Ｄ：松村恵司、次山淳、高田貫太［以上、都城発掘調査部］他 20 名（崔孟植、金甫相）

【主な成果】
Ａ漢魏洛陽城において 2400 ㎡の共同発掘調査を実施。Ｂ遼寧省における唐代墓出土品の調査を実施。Ｃ黄冶窯跡及び白河窯跡生産された青磁・白磁・唐三彩・唐青花の系譜的系統的把握の基礎となる視点が明確になった。Ｄ日本の古代都城並びに韓国古代王京の形成と発展に関する共同研究を実施。

【年度実績概要】
Ａ：漢魏洛陽城については延べ 11 名の研究員を中国に派遣し、2008 年 4 月～6 月、11 月～12 月の約 5 ヶ月間、漢魏洛陽城宮城内において 2400 ㎡の共同発掘調査を実施した。
Ｂ：2008 年 10 月に 8 名、3 月に 6 名の研究員を派遣し襯布廠唐墓・紡績廠唐墓など出土遺物を調査した。11 月には遼寧省文物考古研究所他の 6 名を招聘し研究会を開催した。
Ｃ：2008 年 5 月・11 月に研究員を中国河南省文物考古研究所に派遣し、鞏義市水地河・白河地区にて出土した唐三彩・北魏青磁などを調査した。同年 10 月には中国側から 5 名が来日し、学術講演を実施した。
Ｄ：大韓民国国立文化財研究所との共同研究では、17 名の研究者が参加し、7 名の派遣、9 名の招聘を実施した。慶州国立文化財研究所との共同発掘調査では、各 1 名 2 ヶ月間の相互派遣を実施した。



河南省の遺物調査風景

【実績値】
論文等数 6 件（①～⑥）
記録件数：Ａ遺構平面図断面図等 30 枚、Ｂ写真、3D の記録多数、Ｃ遺物調書約 250 枚、遺物写真約 300 枚

【備考】
①今井晃樹「漢魏洛陽城における日中共同調査」『奈文研ニュース』29、2008.6
②城倉正祥「漢魏洛陽城・北魏宮城 2 号門の調査」『奈文研ニュース』32、2009.3
③小池伸彦「隋唐墓出土副葬品の調査」『奈文研ニュース』30、2008.9
④小池伸彦「遼寧省隋唐墓出土品秋の調査」『奈文研ニュース』31、2008.12
⑤李柱憲・兪洪植「日韓発掘調査交流に参加して」『奈文研ニュース』30、2008.9
⑥青木　敬「2008 年度日韓発掘調査交流」『奈良文化財研究所第 18 回総合研究会資料』2008.1

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4155-30

自己点検評価調書

研究所 No21

1．定性的評価

観点	独創性	発展性	適時性			
判定	A	A	A			

備考
独創性：最新情報提供による古代史の再検討
発展性：日本文化の源流を探る基礎的研究
適時性：成果報告の発表

2．定量的評価

観点	成果報告	記録件数				
判定	A	A				

備考
成果報告：速報性を重視した報告を行った。
論文件数：これまで未公開の貴重な学術資料について多くの記録調書を作成した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	中国および韓国で、遺跡・遺物を共同で調査し、相互の研究を向上させたほか、計画どおりに事業を実施できたので、総合的にＡと判断した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画通りに実施、成果をあげることができ、次年度には発掘調査にある程度長い期間参加する準備ができたため。国際共同研究は都城発掘調査部が担当し、4 本の研究を総合的に組み立て、古代史の解明に資する成果の達成を目指す。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4155-40
（様式 1）

業務実績書

研究所 No22

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	庭園に関する調査研究　((1)-⑤-エ)

【事業概要】
五カ年計画では平安時代庭園を取り上げており、平安時代の発掘遺構・現存庭園・史料等について情報収集・調査研究を行う。平成 20 年度はその一環として、関係する研究者を集めて研究会を開催するとともに、発掘庭園データベースの内容の更新を行う。

【担当部課】	文化遺産部	【プロジェクト責任者】	景観研究室長　内田和伸

【スタッフ】
平澤毅、粟野隆、惠谷浩子［以上、文化遺産部］

【主な成果】
「平安時代の禁苑と離宮の庭」と題して開催した研究会では、奈良時代の宮廷の苑の系譜や園池配置の思想的背景、唐長安城禁苑の影響などに関する報告の他、具体的な庭園遺構として長岡京北苑、平安京神泉苑など計 4 件の事例報告があり、平安時代庭園の理解を深めた。なお、昨年度開催の研究会の報告書を刊行した。また、平安時代前期と中期の庭園遺構のデータを中心に収集・整理を行い、公開している発掘庭園データベースの内容の更新を行った。

【年度実績概要】
「平安時代の禁苑と離宮の庭」と題する研究会を平成 20 年 10 月 31 日に開催した。参加者は 25 名で、討論を行った。
内田和伸（奈良文化財研究所）「宮殿・苑地配置の思想的背景」、北田裕行（奈良女子大学）「隋唐長安城の後園と三苑」、國下多美樹（向日市埋蔵文化財ｾﾝﾀｰ）「長岡京北苑研究の現状」、長戸満男（京都市埋文研）「神泉苑の調査」、吉野秋二（奈良女子大学）「日本古代の禁苑と離宮」、古閑正浩（大山崎町教育委員会）「河陽離宮と周辺の景観」、鈴木忠司（京都文化博物館）「雲林院跡の調査」。
古代の文献に「園」や「苑」など庭園を示す名称は散見されるが、六国史の中での「苑」は王宮に隣接・付属し、天皇や大王が領有する“禁苑”として使用されており、『日本書紀』にみえる「白錦後苑」、『続日本紀』の「松林苑」「南苑」「城北苑」、『日本略紀』の「神泉苑」は意識して区別する必要性があることが共通認識となった。隋唐長安城では太極宮の北部に四海を意匠した庭が設けられるなど禁苑の園池の意匠をみる上で示唆に富む事例が報告された。北苑と呼ぶ、長岡宮北方で検出された池の遺構については庭園ではない可能性が高い一方、物集女車塚古墳に隣接する箇所で回廊状の遺構が検出され、松林苑内で古墳が苑地に転用されている状況を思わせ注目された。神泉苑は発掘調査だけでなく立会調査・試掘調査も含めて検討すると八町分の敷地の内、約半分が池沼など湿潤な地形状況であり、造営当時を考察する上で有効なデータが示された。河陽離宮については立地の多面的な意味、雲林院庭園については園池に張り出す亭の遺構が平城宮東院庭園の建物と似た地下構造をもつことなどが注目された。なお、研究会に合わせて昨年度の研究会報告書を刊行した。
平安時代前期・中期の発掘庭園データの収集・整理をする一方、発掘庭園データベースについては新規データ 45 件、追記データ 25 件を更新した。

【実績値】
刊行図書件数：1 件（①）
論文等件数　：論文 2 件（②・③）、学会発表等：3 件（④～⑥）
発掘庭園データベース更新：新規データ 45 件、追記データ 25 件

【備考】
①奈良文化財研究所『平安時代庭園に関する研究 2』2008.10.31、②内田和伸「平城京松林苑の保存と風致」遺跡学研究第 5 号 2008 日本遺跡学会、③内田和伸「古代の思想と平城宮第一次大極殿院」奈良女子大学 COE プログラム報告集 2009.3 奈良女子大学 、④内田和伸「藤原宮の儀式・政治空間としての庭」日本庭園学会関西研究会 2008.9.13 、⑤内田和伸「宮殿・苑地配置の思想的背景」古代庭園研究会 2008.10.31、⑥内田和伸「藤原宮の儀式・政治空間としての庭」日本庭園学会シンポジウム 2009.2.8

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良文化財研究所　処理番号 4155-40

自己点検評価調書

研究所 No22

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性			
判定	A	A	A			
備考						

2．定量的評価

観点	収集資料数	発表数				
判定	A	A				
備考 研究会報告：一冊、論文発表数：2 件、学会等発表数：3 件 発掘庭園データベース更新：新規データ 45 件、追記データ 25 件						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	平安時代の寝殿造り庭園に大きな影響を与えたと考えられている神泉苑を含め、六国史で苑と記される禁苑の系譜などを整理し、古代都城に附属する禁苑と離宮の庭園という側面で、最新の発掘成果などを共有することができた。また、隋唐の宮廷園池の意匠に関する文献史料の提示もあり、今後、平安時代の庭園遺構の意匠の見立てなどを考える上で有効と思われる。さらに、発掘庭園データベースでは新規分・追記分ともに多数を更新することができた。今後は、掲載可能な図や写真を加え、さらなる充実を図りたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	平安時代庭園を考える上で重要な神泉苑や、禁苑の系譜を考える上で重要な長岡京の園池に関するデータも収集することができ、他の平安時代初期の庭園と合わせて検討を進めることができた。これによって先の五カ年計画で実施した奈良時代庭園との空白期を埋めることができ、都城制と庭園研究の関連性を深めることができた。来年度は平安時代中期・後期の庭園に関するデータの収集・研究を進めたい。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4155-50
（様式 1）

業務実績書

研究所 No23

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	東アジア史における飛鳥の研究及び飛鳥時代工芸技術の研究　((1)-⑤-オ)

【事業概要】
重要文化財山田寺出土部材の展示を第二展示室で行っており、その経年変化の計測研究を行う。アジア史の中の飛鳥文化の研究として飛鳥地方壁画古墳の研究を行う。飛鳥時代の工芸技術の研究として飛鳥・奈良時代の金工品の研究を行う。なかでも展示中の重要文化財高松塚古墳出土海獣葡萄鏡を中心とした唐式鏡の研究を行う。

【担当部課】	飛鳥資料館	【プロジェクト責任者】	学芸室長　杉山　洋

【スタッフ】
加藤真二、西田紀子［以上、企画調整部］

【主な成果】
山田寺出土部材の展示においては、経年的に計測調査を行っており、本年も計測を継続した。その結果大きな変化がないことを確認した。飛鳥地方壁画古墳の研究としては 12 月に中国河北省文物研究所において、河北省出土壁画墓のはぎ取り壁画の調査を行った。飛鳥時代の工芸技術の研究としては、東京都武蔵国府跡と長野県榎垣外遺跡出土の同型小型八花鏡の調査を行った。また奈良国立博物館所蔵霊安寺出土唐式鏡 4 面の調査も行った。

【年度実績概要】
出土部材展示の経年変化の研究：当館では 1982 年に出土した山田寺東回廊の出土部材を、保存処理後に復元展示している。日本においてはこうした出土建築部材の出土処理後の展示公開は当館が初めてであり、木材の経年変化の遺跡研究が必要とされてきた。そのために展示後にセンサーを設置し、計測を続けてきている。その結果、大きな変化がないことを確認し、引き続き展示を行っている。
壁画古墳の研究としては、飛鳥地方の壁画古墳についての資料を収集すると共に、特に中国における壁画古墳の現状と、その保存に関する資料収集を行った。
飛鳥時代の工芸技術の研究としては、当館保管の高松塚古墳出土海獣葡萄鏡にちなみ、唐式鏡の研究、わけても海獣葡萄鏡を中心とする研究を継続している。本年は東京都武蔵国府跡と長野県榎垣外遺跡出土の同型小型八花鏡の調査を行った。また奈良国立博物館所蔵霊安寺出土唐式鏡 4 面の調査も行った。



榎垣外遺跡出土鏡(左)、東京都武蔵国府跡出土鏡(右)

【実績値】
山田寺出土回廊部材　経年変化計測値
中国河北省出土古墓壁画調査　写真 40 点、集成写真 1 点
研究図録 1 冊
長野県岡谷市教育委員会における調査結果の発表

【備考】
「同型鏡の研究」飛鳥資料館研究図録第 11 冊　2009.3

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4155-50

自己点検評価調書

研究所 No23

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
判定	A	A	A	A		

備考
適時性：需要・必要性、公共性、国際性、緊急性、公開性
独創性：オリジナリティ、発想・着想、新規性、卓越性
発展性：多様性、応用性・汎用性、影響性
継続性：期間、質・内容、量、基礎性

2．定量的評価

観点	論文等数	発表件数				
判定	A	A				

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	当初研究計画通り、金工品の調査を進め研究図録を刊行することができた。また壁画古墳の研究は春期特別展示として成果を公開することができた。山田寺の出土部材についても、継続的な調査を推進し、保存内容についての問題点を見いだすこともなく、順調に継続展示が進行している。以上の進捗状況を総合的に判定してＡとした。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本年度の計画を当初の予定とおり遂行したことから、当事業は順調であると判定した。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4165-10
（様式 1）

業務実績書

研究所 No24

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究　((1)-⑥-ア)

【事業概要】
遺跡の保存・整備・活用に関する研究の一環として、遺跡の保存・整備計画段階から整備後における管理・運営と公開・活用に至るまでの調査研究を行うとともに、遺構の露出展示を伴う整備例の資料収集とデータベース化を進めるほか、露出展示の成果と課題に関する研究集会を開催する。

【担当部課】	文化遺産部	【プロジェクト責任者】	遺跡整備研究室長　平澤　毅

【スタッフ】
山中敏史、粟野　隆［以上、文化遺産部］黒崎　直、高瀬要一［以上、奈文研客員研究員］

【主な成果】
遺跡等における遺構露出展示について、基礎的な情報収集を行うとともに、埋蔵文化財センター保存修復科学研究室と合同で研究集会を開催し、調査研究上の具体的課題を検討した。また、昨年度の成果について、報告書を刊行・配布するなど、その普及等を行った。

【年度実績概要】
1. 遺跡の整備に関する調査研究活動の一環として、遺跡整備事例に関する現地調査・情報収集を実施した。
2. 2009年1月30・31日に、「埋蔵文化財の保存・活用における遺構露出展示の成果と課題」のテーマによる平成20年度遺跡整備・保存修復科学合同研究集会を平城宮跡資料館講堂で開催した。発表内容は、「研究集会開催趣旨及び『遺構露出展示に関する調査研究』について」のほか、『遺構露出展示の意義と計画』に関する基調講演1件、『様々な遺構露出展示の実績と課題』に関する事例報告5件、『遺構露出展示のための調査法』に関する技術報告4件で、講演・報告を踏まえた総合討議を行った。なお、研究集会参加者からアンケートの回収率は出席者の77%で、うち97%から有意義であったとの回答を得た。
3. 研究集会開催後、来年度にこの研究集会の報告書を刊行する準備として総合討議の内容の整理等を行った。
4. 昨年度の研究集会「遺跡の保存管理・公開活用と指定管理者制度」の 成果について、「奈良文化財研究所紀要2008」に報告するとともに、報告書を編集・刊行した。
5. 遺構の露出展示に関する整備状況についての情報収集を継続するとともに、データベース化を進めるにあたっての項目の見直しや、露出展示における問題点の把握と今後のあり方について検討を進めた。
6. 遺構露出展示の実例に関して、都道府県教育委員会文化財保護主幹課に対し、遺構露出展示事例の把握について協力を求め、現段階における把握状況を一覧表にまとめた。


遺跡整備・保存修復科学合同研究集会

7. 全国の地方公共団体教育委員会文化財保護主幹課及び埋蔵文化財センター等に対して平成19年度に刊行した報告書、発行したＣＤの配布をおこない、昨年度の成果の公表に努めた。

【実績値】
1. 研究集会等開催数：1回（資料集①）　参加者数：地方自治体職員等約180名。（現地見学会参加者数：約50名）
2. 刊行図書数：1件（②）
3. 論文等数：10 件（論文 4 件③～⑥、発表 6 件⑦～⑫）。

【備考】

①文化遺産部遺跡整備研究室・埋蔵文化財センター保存修復科学研究室編『平成20年度遺跡整備・保存修復科学合同研究集会　講演・報告資料集』、2009.1
②奈良文化財研究所『遺跡の保存管理・公開活用と指定管理者制度　－平成19年度　遺跡整備・活用研究集会（第2回）報告書－』、2008.12
③平澤毅「遺跡の保存管理・公開活用と指定管理者制度」、奈良文化財研究所紀要2008、2008.6
④平澤毅「日本における近代造園遺産の保護」、『遺跡学研究』第5号、2008.11
⑤平澤毅「遺産保護に関する国際的枠組み」、『遺跡学研究』第5号、2008.11
⑥粟野隆「コンクリートと近代造園」、『遺跡学研究』第5号、2008.11
⑦平澤毅「文化遺産の保護の歩みと整備・活用をめぐる近年の動向」、平成20年度兵庫県埋蔵文化財調査成果報告会、2008.10
⑧平澤毅「名勝地としての文化財庭園」、第5回文化財庭園フォーラム、2008.10
⑨粟野隆「洋風庭園と日本近代」、奈良文化財研究所第103回公開講演会、2008.10
⑩平澤毅「文化財としての景観」、平成20年度鳥取県文化財保護行政担当者会議、2008.12
⑪平澤毅「世界遺産委員会における近年の動向～遺産の評価・登録と保全状況のモニタリングをめぐって～」京都市文化史民局主催「世界遺産登録における現状と今後」についての勉強会、2008.12
⑫平澤毅「研究集会開催趣旨及び『遺構露出展示に関する調査研究』について」、平成 20 年度遺跡整備・保存修復科学合同研究集会、2009.1

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4165-10

自己点検評価調書

研究所 No24

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

備考
19 年度開催した研究集会のテーマである「指定管理者制度」については、遺跡の保存管理・公開活用の観点から包括的な検討を行った事例がほとんど皆無であり、また、制度導入後の見直しの時期が迫っていることから、19 年度実施した研究集会の報告書を取りまとめて全国の関係機関等に配布したことは極めて高く評価できる。また、遺跡における遺構露出展示に関する検討については、全国に展開する事例の把握を行い、研究集会を通じて、取り組むべき具体的課題を検討した意義は極めて大きい。さらに、平成 20 年に公布・施行された『地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律』など、近年の動向を把握し、遺跡整備における今後の課題等を検討しつつ、講演会等での解説等を通じて取組の方向性等について検討を行ったことなどを含め、調査研究の取組の成果は極めて良好であると評価できる。

2．定量的評価

観点	研究会等の開催回数	論文等件数	事例調査等件数		
判定	A	A	A		

備考
遺構露出展示に関して検討すべき課題を網羅的観点から検討するために埋蔵文化財センター保存修復科学研究室と合同で開催した研究集会は、全国各地及び様々な分野から約 180 名もの参加が得られ、その情報や課題の共有等において高く評価できる。また、都道府県教育委員会文化財保護主管課等の協力の下、遺構露出展示に関してさらに調査すべき事例について 700 件余りの所在を確認できたことは、今後の調査研究を進める上で不可欠の情報を把握した点で重要な意義を有する。また、論文・講演等を通じて、遺跡整備に関して、保存管理対象の理解、保存管理手法及び技術的事項を含む遺跡整備に関わる観点から近年の動向や調査研究成果等の解説・普及を行った件数も高く評価できる。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	当初の計画通り事業を実施でき、また、今後の調査研究に関して取り組むべき具体的な課題を明らかにできた。特に、第 3 回を迎えた研究集会については、はじめて他部局（埋蔵文化財センター保存修復科学研究室）との合同の下で実施したことにより、今後の学際的検討の具体的な基礎を築くことができたことが有意義であり、参加者の評価も高く、文化財保護と地域活性化の観点などから最新の動向を踏まえつつ、さらに充実を図っていくべき事業であると判断される。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	遺跡整備に関する情報の収集・整理・公開に関する検討を様々な観点から進めることができた。特に、埋蔵文化財センター保存修復科学研究室と合同で遺構露出展示について開催した研究集会は、遺構露出展示における今後の取組の方向性を検討し、関係する文化財保護行政機関、研究者等と情報の共有を深め、また、今後の情報交換体制を構築していく上で極めて有効な機会のひとつとなったと評価できる。次年度以降、全国の実情をさらに詳細に把握し、遺構露出展示に関する調査研究として包括的な取組を進め、中期計画における成果の取りまとめ、公表の適切かつ効果的な在り方について検討を進める必要がある。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4165-20
（様式 1）

業務実績書

研究所 No25

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	遺構の安定した公開・展示を行うことを目的とした事前調査法、保存技術並びに監視技術の開発的研究　((1)-⑥-イ)

【事業概要】
遺構の安定した公開･展示を行うことを目的とした事前調査法､保存技術並びに監視技術の開発的研究の一環として、遺跡の水分状態や石材の劣化状態を把握する技術の応用研究、平城宮跡遺構展示館等における遺構安定化薬剤の実地試験に取り組む。

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【プロジェクト責任者】	保存修復科学研究室長　高妻洋成

【スタッフ】
降幡順子［都城発掘調査部］、脇谷草一郎［企画調整部］

【主な成果】
遺跡の水分状態を調査する方法を開発するため、宮畑遺跡において気象観測ステーションを設置するとともに、遺跡断面に地中温度センサーと土壌水分計を設置して、データ収集を行った。また、水分特性と不飽和透水係数を求めるための実験装置を導入し、実験を開始した。さらに、遺構土壌を安定化させる土壌安定化剤を試作して室内実験を行い、土壌を良好に安定化させる効果があることを確認した。

【年度実績概要】
1) 遺跡を露出展示するためには、遺跡の土壌中において水がどのような状態で分布しているかを知る必要がある。遺跡の水分状態を把握し、その変化を予測する方法としては、当該環境での気象観測を行い、実際の土壌における地中温度や土壌水分量を測定してパラメータを求め､地中の 3 次元的な水分状態をシミュレーションにより求める方法が有効である。このような手法を確立するため、福島市宮畑遺跡において、気象観測ステーションを設置し､断ち割り調査などで検出された遺構断面に地中温度センサー、水ポテンシャルセンサー及び土壌水分計を設置し、データ収集を行った。設置後半年間のデータからは、遺構面直上に降雨による水分量の変化を示す層が存在すること、遺構を構成する土壌はきわめて飽和度が高いことが明らかとなった。


宮畑遺跡における気象観測

2) 遺構土壌中での水の挙動を把握するためには、土壌の不飽和透水係数を求める必要がある。本年度は東京大学大学院農学生命科学研究科及び東京農工大学大学院共生科学技術研究院の協力を得て、不飽和透水係数を測定するための実験装置を導入し、実験を開始した。そして、平城宮跡などで採取した土壌などを用いた実験により、不飽和透水係数を求めることが可能となった。
3) 遺構を露出展示する際には、土壌表面からの蒸散による乾燥の進行とひび割れの発生、塩類析出による遺構の崩壊、湿潤状態での蘚苔類の繁茂などの問題が生じることが多い。これらの現象を抑制するために、ポリシロキサンを骨格成分とする土壌安定化剤を新たに試作し、その効果を確かめるための水ポテンシャルの測定実験を行った。その結果、この土壌安定化剤を適用した土壌の水ポテンシャルは、無処理の土壌の水ポテンシャルよりも低下し、安定化していることが明らかとなった。今後は、土壌安定化剤の配合比などを検討し、土壌の水分特性に柔軟に対応できるデータの集積を行っていく必要がある。

【実績値】
発表件数：　2 件
論文等数：　4 件

【備考】
論文発表・学会発表等については別添統計表参照

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4165-20

自己点検評価調書

研究所 No25

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
宮畑遺跡及びガランドヤ古墳などにおいてフィールド調査を実施することにより、遺跡保存の具体的な問題点の抽出を行い、それに対する検証としての室内実験及び解決策としての遺構安定化実験を繰り返すなかで、効率よく適切な遺構保存の方法を検討することができた。

2．定量的評価

観点	発表件数	論文等数				
判定	A	A				

備考
日本文化財科学会第 25 回大会において発表 2 件を行い、同大会研究発表要旨集に 2 件及び奈良文化財研究所紀要 2008 に 2 件の、合計 4 件の論文を発表した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	調査研究事業を当初計画どおり順調に達成することができたことから、総合的評価を A と判定した。遺跡土壌を安定化させるためには、個々の遺跡土壌の物性に適した土壌安定化剤を適用する必要があり、21 年度には、土壌安定化剤の配合比を種々に変えた実験にも取り組む予定である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本年度の計画を当初の計画どおり実施できたことから、順調であると判定した。21 年度は、このペースを維持しつつ、遺跡保存に関する調査法についてフィールドにおける試験を重ねるとともに、新たな手法の開発に取り組む予定である。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4165-30
（様式 1）

業務実績書

研究所 No26

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化庁が行う平城宮跡第一次大極殿正殿復原をはじめとする整備・公開・活用に関する専門的・技術的な援助・助言　((1)-⑥-ウ)

【事業概要】
平城宮跡・藤原宮跡の整備・公開・活用に関する調査研究のため、文化庁の行う平城宮跡第一次大極殿院地区の復原整備計画に沿った実践的調査研究を実施するとともに、『特別史跡平城宮跡保存整備基本計画推進計画』に基づく具体的整備に対して専門的・技術的な援助・助言を行うため、復原に関する資料の整理、新たに行うべき調査研究の計画案などを提示するとともに、文化庁記念物課や文部科学省文教施設企画部の主催する会議等に参画し、専門的・技術的な援助・助言を行う。

【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【プロジェクト責任者】	副所長　山崎信二

【スタッフ】
山崎信二、島田敏男、渡辺晃、深澤芳樹、西口壽生、大林潤、高橋知奈津、鈴木智大、箱崎和久、黒坂貴裕［以上、都城発掘調査部］、窪寺茂、清水重敦［以上、企画調整部］、今西康益［管理部］

【主な成果】
長年にわたって行ってきた第一次大極殿に関する諸研究を、報告書に纏めた。また、文化庁が行う第一次大極殿復原事業に伴う文部科学省文教施設部主催の会議等に出席し、専門的な観点から、助言を行った。さらには、平城宮跡の国営公園化に伴って、国営飛鳥歴史公園事務所が主催する『平城宮跡　基本計画検討委員会』及び『国営平城宮歴史公園第一次大極殿院広場設計検討業務検討委員会』開催にあたり事務局に資料提供するとともに委員会に出席した。

【年度実績概要】
約 12 年間にわたって行ってきた大極殿復原に関する諸々の研究成果を 4 冊の報告書として出版する予定で、今年度は 4 冊のうち『Ⅰ　基壇・基礎』と『Ⅳ　屋根』を出版した。報告書の内容は、大極殿復原に直接関わる研究のみならず、古代建築復原に資する数多くの論考からなる。また、可能な限り、基礎データを示すこととし、本報告書は大極殿の復原根拠及び復原の経緯を示すだけでなく、各地で行われている古代建築復原検討に資するような基礎データ及び研究成果を提供し得た。また、本研究で明確となった課題について、今後の古代建築研究につながるものと考える。
第一次復原事業に関しては、連絡会議等を通して、専門的な見地から助言を行うとともに、施工監理者・施工者の要請に基づき、随時指導・助言を行った。また、工事工程の写真撮影を行い、工事記録の作成に努めた。
また、平城宮の整備に関しては、平城宮の国営公園化に伴って、今年度 5 月に文化庁が策定した『特別史跡平城宮跡保存整備基本計画推進計画』に基づいて今後の平城宮の整備計画を策定する国営飛鳥歴史公園事務所が主催の『平城宮跡　基本計画検討委員会』及び『国営平城宮歴史公園第一次大極殿院広場設計検討業務検討委員会』の開催にあたり事務局に資料提供するとともに委員会に出席した。

【実績値】
刊行図書　『平城宮第一次大極殿の復原に関する研究　Ⅰ　基壇・基礎』
　　『平城宮第一次大極殿の復原に関する研究　Ⅳ　屋根』
文化庁事業への協力
・『国営飛鳥・平城宮跡歴史公園　平城区域　基本計画検討委員会』　出席　4 回
・『国営平城宮歴史公園第一次大極殿院広場設計検討業務検討委員会』　出席　3 回
・『大極殿復原事業に関する連絡会議』　出席　11 回
大極殿復原事業にかかる指導・助言　25 回

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良文化財研究所　処理番号 4165-30

自己点検評価調書

研究所 No26

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
第一次大極殿復原に関する研究は、これまでにない視点での研究も行い、出版した報告書では、古代建築の復原研究に資する数多くのデータを掲載した。また、第一次大極殿の復原及び大極殿院の復原整備計画に向けて、発掘遺構の再検討及び整備事業計画者への資料提供を積極的に行った。

2．定量的評価

観点	協力回数					
判定	A					

備考
会議出席のみならず、様々なかたちで協力を行い得た。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	第一次大極殿の復原について、現在進行中の工事に際して随時適切な助言を行ったこと、復原の根拠となった研究成果を整理して報告書の刊行を行ったこと、また、平城宮の整備に関して、度重なる資料提供及び会議出席を行い、事業の目的を十分に達したと考え、総合的評価をＡとする。次年度も引き続き、第一次大極殿に復原根拠となった研究成果の公表に努めるとともに、平城宮の整備に関わる諸資料の提供及び研究を継続する予定である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本研究事業は、継続的に行っているもので、研究の段階も順調に進み、同時に文化庁事業への協力も順調に行っており、今後もこのペースを維持しつつ、研究内容の向上に努めたい。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4215-00
（様式 1）

業務実績書

研究所 No27

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	高精細デジタル画像の応用に関する調査研究　((1)-①)

【事業概要】
前の中期計画 5 カ年中に開発した高精細デジタル画像形成の手法を用い、着色仏画・彩色壁画・油彩画・日本画・漆絵などの美術品を対象とし、それぞれについて、1）光に対する物性の検討、2）光物性の画像化に関わる技術開発、3）形成画像の汎用的な活用法（表示・出力）に関する条件整備を行い、広範な文化財研究を支援するために不可欠な研究画像を形成し、それらを応用・利用する方法を探ることを目的とする。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	文化財アーカイブズ研究室長　津田徹英

【スタッフ】
田中　淳、山梨絵美子、勝木言一郎、塩谷　純、綿田　稔、皿井　舞、江村知子、土屋貴裕、城野誠治、中村節子、中村明子、井上さやか、鳥光美佳子（以上、企画情報部）

【主な成果】
脆弱な材料で構成されている我が国の貴重な文化財の高精細な画像や特殊撮影画像の公開と多目的な利用に供すべく、平等院と行った共同研究成果を『平等院鳳凰堂調査資料目録―カラー画像編―』として刊行した。また、國立故宮博物院(台湾)との共同研究の成果として『孫過庭書譜光学検測報告』の成果報告書を刊行した。他機関との共同調査研究として宮内庁三の丸尚蔵館と「春日権現験記絵巻」「動植彩絵」の調査撮影を、奈良国立博物館との共同調査研究として「春日権現験記絵巻披見台」および「法隆寺金堂釈迦三尊ならびに薬師如来台座羽目板」の調査・撮影を行った。

【年度実績概要】
1.他機関との共同研究：本研究は、先の中期計画において開発した画像形成技術を用いた画像の汎用的な活用・運用を行う方法・技法の研究に重点を置いている。脆弱な材料で構成されている我が国の貴重な文化財を間近で精査・鑑賞する機会は限定されている。文化財の高精細な画像や特殊撮影画像を公開し、多目的な利用に供することは、文化財への理解を深め、実物の保存と共に活用の道を開く有効な方法である。デジタルコンテンツの多目的利用の一環として、平成 17 年度に行った平等院当局との鳳凰堂仏後壁の共同研究成果のうち『平等院鳳凰堂調査資料目録―カラー画像編―』を刊行した。また、平成 17 年度に國立故宮博物院（台湾）との共同研究として行った孫過庭筆「書譜」の成果報告書を刊行した。
2.今年度の他機関との共同調査研究：宮内庁三の丸尚蔵館（「春日権現験記絵巻」「動植彩絵」の調査・撮影（5/19-23, 6/16-27, 9/1-3, 8, 11/25-28, 12/1-5, 10-12, 17-19, 1/20-23, 26-30）奈良国立博物館（「春日権現験記絵巻披見台」および「法隆寺金堂釈迦三尊ならびに薬師如来台座羽目板」08.11.4－7）を行った。
3.デジタルコンテンツの多目的利用の一環としての画像展示：東京文化財研究所エントランスパネル展示「洛中洛外図屏風(ロイヤル・オンタリオ美術館蔵)の展示について」(4/1-8/26)

【実績値】

報告書の刊行	2 件（①、②）
学術雑誌等への掲載論文数	2 件（③、④）
学会研究会等での発表件数	2 件（⑤、⑥）
画像展示の件数	1 件（⑦）

【備考】
①『平等院鳳凰堂仏後壁調査資料目録―カラー画像編―』08.12
②故宮博物院『孫過庭書譜光学検測報告』08.10
③城野誠治「文化財を捉える撮影の方法と特殊性　多様な文化財にいかに対応するか」『国宝鳳凰堂の仏後壁 平等院王朝の美』(09.2)pp.82-83
④城野誠治「謎解きが始まろうとしている 新たな歴史を刻む発見」『国宝鳳凰堂の仏後壁 平等院王朝の美』(09.2)pp14-19
⑤江村知子「彦根屏風の表現について―日本絵画史の視点から」総合研究会 08.7.1
⑥城野誠治「光学的手法による彦根屏風の調査」総合研究会 08.7.1
⑦東京文化財研究所エントランスパネル展示「洛中洛外図屏風(ロイヤル・オンタリオ美術館蔵)の展示について」(4/1-8/26)

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4215-00

自己点検評価調書

研究所 No27

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	調査箇所数	論文数	発表数			
判定	A	A	A			
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	定性的にも定量的にも目標を達成する成果を得ることができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	高精細デジタル画像の文化財への応用研究について関心は高く、それに応えての報告書・論文・発表によって、その成果についての認知度・注目度は大きい。今後も積極的に成果公開に努めたい。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4225-00
（様式 1）

業務実績書

研究所 No28

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化財の非破壊調査法の研究　((2)-②)

【事業概要】
文化財の材質調査をその場で行うことを目的に、小型可搬型機器の開発研究およびその応用研究を行う。金属文化財や顔料などの無機化合物に対して、その場での元素分析および構造解析手法の確立を行う。また、染料など有機化合物の物質同定を目的とした新たな非破壊調査法の調査･研究を行う。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	保存修復科学センター長　石﨑武志

【スタッフ】
早川泰弘、佐野千絵、木川りか、吉田直人、犬塚将英　（以上、保存修復科学センター）

【主な成果】
非破壊調査手法に関して実験室規模での基礎的研究を推進するとともに、ポータブル蛍光Ｘ線分析装置や反射スペクトル測定システムなどを用いて博物館・美術館等の所蔵作品の彩色材料調査を実施した。

【年度実績概要】
5 年計画の第 3 年度として、下記の 2 点に重点をおいて研究を実施し、以下の成果を得た。

1）可搬型機器による彩色文化財の材質調査とデータ解析
ポータブル蛍光Ｘ線分析装置による絵画の彩色や工芸品などの材質調査を行い、その材料や技法を明らかにする研究を推進した。適用作品の地域・時代を拡大し、より広範囲の資料を対象とするとともに、高精細画像や反射分光法などによる調査データとの連関を図り、より信頼性の高いデータの蓄積を行った。

2）有機染料分析に関する検討とその応用
ファイバー送受光型紫外・可視反射スペクトル測定システムによる染料の非破壊分析に関する研究を引き続き行った。基礎的検討として、実資料での使用を想定したハンディ型顕微鏡との併用による微小部スペクトル測定の実用性について検討した。応用研究としては、国立公文書館に所蔵されている重要文化財「天保国絵図」などの彩色調査を行った。

【実績値】
論文等数　2 件（①,②）
発表件数　2 件（③,④）
報告書　　1 件（⑤）

【備考】
①早川泰弘：「銅系緑色顔料の多様性とその使用例」　『保存科学』 48、pp.109-118、09.03
②吉田直人：「可視反射分光スペクトル法による染料分析－近世絵図資料彩色調査への応用－」、歴史学研究、841、35-42、08.06
③早川泰弘、城野誠治：「国宝彦根屏風の彩色材料調査」　日本文化財科学会第 25 回大会、鹿児島国際大学 08.6.14-15
④吉田直人：「ハンディ型光学顕微鏡との組み合わせによる彩色材料の可視反射分光分析」　日本文化財科学会第 25 回大会、鹿児島国際大学 08.6.14-15
⑤早川泰弘：「国宝伴大納言絵巻蛍光 X 線分析結果」　東京文化財研究所編　pp. 76、09.01

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4225-00

自己点検評価調書

研究所 No28

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	学術雑誌等への掲載論文等数	学会研究会等での発表件数				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	基礎研究の着実な遂行、ならびに応用研究として実施した各博物館・美術館などと協同した作品調査研究、さらに速やかな成果公開を果たし、高い調査研究水準を保つことができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	研究計画の第 3 年度として、基礎的研究を進展させるとともに、応用的研究として多くの作品調査を実施し、貴重な調査データの蓄積を図った。論文・学会発表などで速やかな成果公開も果たし、計画通りの研究進捗状況である。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4235-01
（様式 1）

業務実績書

研究所 No29

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	遺跡データベースの作成と公開　((2)-③-ア)

【事業概要】
官衙関連遺跡の指標や属性分析法の確立に関する研究等を継続し、資料収集とデータベース化を進めて順次一般公開するとともに、新たに寺院遺跡発掘調査において抽出すべき基本的属性についてのデータ収集と分析を行う。

【担当部課】	文化遺産部	【プロジェクト責任者】	文化遺産部長　山中敏史

【スタッフ】
森本晋［企画調整部］、志賀崇、清野陽一［京都大学大学院 人間・環境学研究科博士後期課程］

【主な成果】
官衙関係遺跡の建物データについて、建物群の性格などの属性項目を新設し、柱穴の形状・柱筋の通り具合の属性を数値化する方法を検討し、データベースの更新及び公開を行った。また、寺院遺跡の属性分析を踏まえたデータベースを新規に作成し、九州から中国地方の一部までのデータベースを公開した。

【年度実績概要】
① 各地の官衙関連遺跡について、建物群の性格に関する属性項目を新設し、データを追加入力した。
② 平成18年度以降刊行の報告書のめくり作業を行い、国府・郡衙・城柵遺跡やその他官衙関連遺跡等の資料を収集整理した。
③ 掘立柱建物の柱掘方の形状について、建物単位での方形・円形等の形状のばらつき具合を把握する方法として、形状毎に柱穴数を数え、また、桁行柱筋、対向側柱の柱筋通り具合については、各柱列の柱穴数の内、柱筋にのる柱穴数を分数で示して数値化する方法を考案し、データ入力した。
④ 上記の新たな属性分析法を取り入れてデータベースを補訂し、新出資料も追加して一般公開した。
⑤ 官衙関連遺跡の研究に関しては、昨年度の研究集会「地方行政単位の成立と在地社会の成立」の論文報告集を編集・刊行した。
⑥ 古代寺院遺跡の建物遺構を中心とした属性分析を進め、それに基づいて寺院遺跡データベース構造を作成して資料収集・整理を進め、中国地方以西のデータについて、奈良文化財研究所ホームページで一般公開した。



古代寺院建物データ入力画面（部分）

【実績値】
官衙関係遺跡データベース入力・補訂件数：遺跡マスタ約160件、文献データ約1,800件、建物データ約1,400件、画像データ約1,800件
古代寺院遺跡データベース入力・補訂件数：遺跡マスタ約300件、文献データ約2,100件、建物データ約430件、画像データ約900件
公開データ数：官衙関係遺跡：遺跡マスタ約1,200件、文献データ約11,000件、建物データ約14,000件等
古代寺院遺跡：遺跡マスタ約260件、文献データ約2,200件、建物データ約370件等
刊行図書：論文報告集1件（①）
論文等数：論文２件（②③）
講演件数：１回（④）

【備考】
①山中敏史編『地方行政単位の成立と在地社会』奈良文化財研究所、2009.1
②志賀　崇「畿内と龍角寺の文字瓦」『房総と古代王権』高志書院、2009.2
③山中敏史「古代藤枝地域における田租と出挙」『藤枝市史研究』10 号、2009.3
④山中敏史「奈良に都があった頃の遠江と地方の役所」浜松市、2008.10.

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4235-01
（様式 2）

自己点検評価調書

研究所 No29

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性	効率性	正確性	独創性
判定	A	A	A	A	A	A

備考
　データベース作成を継続し、さらに新たな属性表現の導入を試みるとともに、各地で情報共有化が要望されてきた古代寺院遺跡のデータについてもデータベース作成を本格的に開始したという点で、適時性と発展性も増した。

2．定量的評価

観点	データベース入力件数	論文数	講演数		
判定	A	A	A		

備考
　毎年増加する官衙関係遺跡のデータの追加入力とあらたな寺院遺跡データの収集・入力作業を進め、目標値を上まわる入力作業を達成できた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	データベース入力件数の定量的目標値を大幅に上まわったほか、新たに属性項目の数値化を試み、客観的な建物データ分析の基礎を築いた。 　また、新たに古代寺院遺跡のデータベースを作成し、西日本の一部ながら一般公開できたことは、特に各地で寺院遺跡の調査・研究にあたっている者にとって、情報の共有化につながるとともに、遺跡から抽出すべき遺構の属性についての指標を提示するものもあり、寄与するところが大きい。今後、新発見の官衙関係遺跡データの継続的な収集・整理とともに、全国に及ぶ古代寺院のデータベースを作成し公開していくことにしたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	官衙関連遺跡のデータベースの作成が順調に進んでいる。そして、官衙関係建物遺構の属性の一部について、定量的分析を進めるための数値化を進めるなど、遺跡調査や建物遺構分析における新たな指標を示すことができた。また、新たに寺院遺跡のデータベースを構築し、官衙遺跡と合わせてデータ収集・整理を開始し、当初計画より早い段階で一部公開もでき、各地の寺院発掘調査における指針を提示できたことは大きな意義を持つ。今後は、官衙関係遺跡の新出資料の追加及び各データの補充、寺院データの収集・データベース化を継続し、利用しやすい形での一般公開をさらに推進していくことが必要である。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4235-20
（様式 1）

業務実績書

研究所 No30

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法の研究　((2)-③-イ)

【事業概要】
遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法を研究し、全国の遺跡調査の質的向上と発掘作業の効率化に資するべく、方法の検討と実地での実践によるデータの収集と分析を行う。本事業は、現在の遺跡調査の実態に鑑み、従前の方法との乖離を埋めつつ、新たな技術の有効利用法を研究・提示することで、当該分野における指針としての役割を果たすことを目的としている。

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【プロジェクト責任者】	遺跡・調査技術研究室長　小澤　毅

【スタッフ】
金田明大［埋蔵文化財センター］、西村康、西口和彦［以上、奈文研客員研究員］

【主な成果】
遺跡の測量・探査技術の向上と有効利用法の研究を推進し、大学・自治体と連携して実践を行った。測量では、三次元レーザスキャナ及び写真測量の技術的検討と実践を行い、石造物や考古資料の図化法の検討や摩滅資料の判読、安価で導入可能な機器の試験を実施した。探査では、GPR の走査方法の改善と新たな機器の試作と試行、GPS による位置精度向上実験を行い、柱穴の確認に成功した。

【年度実績概要】
測量・計測分野では、京都国立博物館蔵の安祥寺盤竜石柱を計測し、複雑な形状をもつ対象物の三次元計測の有効性を確認した。また、生駒市の森家墓所を計測し、摩滅して判読不能な碑文の解読に成功した。このほか、中国遼寧省の隋唐期墳墓出土資料についても継続してデータを取得し、図化の方法を検討した。さらに、既存機器の 1/10 以下の経費で導入可能な機器の導入と精度の検証作業を実施して、その有効性を明らかにした。また、遺跡用の三次元レーザスキャナの機種選定を行い、導入することができた。今後、実地試験を通じて使用法に習熟したのち、実際の利用を進める予定である。

探査分野では、大学や自治体と協力して、各地で GPR・磁気･電気による探査を実践した。水戸市台渡里遺跡では正倉の区画溝や倉庫の地業・柱穴を確認し、建て替えを判読することができた。そして、低周波のアンテナによる柱穴の確認に初めて成功した。また、平城宮東方官衙地区では木簡廃棄土坑の範囲を確定し、発掘計画の立案に寄与した。並行して、既存の探査データについても整理とデータ化を進めている。


電気探査作業状況（綾羅木郷遺跡）

埋蔵文化財担当者研修では、遺物観察調査過程と遺跡測量過程を担当し、遺跡地図情報過程の講師として出講した。

国内の学会においては、日本文化財科学会、日本文化財探査学会で研究成果を発表したほか、大韓民国文化財 GIS 国際会議において、日本の地理情報システム利用に関する報告を行った。また、2009 年に予定している CIPA 会議の準備をすすめ、DDCH（文化遺産のデジタルドキュメンテーションと利活用に関するワークショップ）を共催した。

【実績値】
発表件数：　5 件
論文等数：　6 件
遺跡探査実施件数：　12 件
三次元計測資料数：　72 点
遺跡測量実施件数：　1 件
研修実施件数：　3 件
大学講義：2 件

【備考】
論文発表・学会発表等については別添統計表参照

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良文化財研究所　処理番号 4235-20

自己点検評価調書

研究所 No30

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性	継続性		
判定	A	A	A	A		

備考
適時性：技術革新が進行するなかで的確な指針を欠く現況の改善
発展性：全国の遺跡調査への応用性と影響力
効率性：時間的投資・人的投資の効率化
継続性：事業中断以前を含めた、黎明期以来のデータの継続的収集

2．定量的評価

観点	探査実施件数	発表件数	研修件数	計測実施件数		
判定	S	A	A	A		

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	測量・探査ともに、課題としているワークフローの確立や機器の開発が進展し、それに対応して作業の迅速化や結果の向上、自治体などへの協力と成果の還元が達成できたため、A と判定する。反面、多方面からの要求に応えるために、研究補助者やその作業空間の確保が必要だが、現状では充分対処できていないことから、研究スタッフの負担が大きくなっている。したがって、これ以上の研究の拡大は事実上困難であり、スタッフの拡充と作業空間の確保、他機関との連携の見直しなど、早急な改善を必要とする。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順　調	新しい方法・機器の導入と試行、他組織との連携による成果の蓄積という点では、当初の予想を超える進展をみせており、全国各地からの依頼や問い合わせも急増している。三次元データや探査データの処理は時間がかかる作業であるが、研究補助者の雇用と育成により、三次元データにおいては一定量の処理が可能になった。しかし、現在の作業環境では新規の試行は困難な状況にあり、RTK-GPS など調査研究上必要な機器の導入においても、周辺諸国と比べていまだ立ち後れている現状が懸念される。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4245-00
（様式 1）

業務実績書

研究所 No31

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	年輪年代学研究（(2)-④）

【事業概要】
遺跡出土木材、木造建築物、木造美術工芸品などの年輪年代測定を実施し、考古学、建築史学、美術史、歴史学研究に資する。とりわけ、当研究室で開発した X 線 CT やデジタル画像を用いた測定方法は、非破壊を原則とする文化財調査にとって理想的なので、実施事例の拡充を図る。また、年輪画像計測技術のさらなる進歩と普及を目指し、技術開発についても取り組む。これらの研究成果を、学会、学術論文、各種報告書として発表する。

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【プロジェクト責任者】	年代学研究室長　肥塚隆保

【スタッフ】
大河内隆之［埋蔵文化財センター］、光谷拓実、伊東隆夫、藤井裕之［以上、奈文研客員研究員］、
児島大輔［日本学術振興会特別研究員］

【主な成果】
3 府県下 8 遺跡から出土した考古学関連の木材試料、国宝 1 棟・重文 3 棟を含む 7 府県下 8 棟の建造物、国宝 1 点を含む 7 府県下の 15 躯の木彫像並びに 1 点の工芸品、2 府県下 2 点の歴史資料に対して年輪年代調査を実施した。また、年輪のデジタル画像計測に関する技術開発に取り組み、特許取得を果たした。以上の研究成果の一部を、論文等 8 件、学会発表等 9 件として発表した。

【年度実績概要】
考古学関連：3 府県下 8 遺跡から出土した木材試料の年輪年代調査及び樹種同定を実施した。
建築史関連：国宝 1 棟・重文 3 棟を含む 7 府県下 8 棟の建造物に対して、年輪年代調査を実施した。特筆すべきは、国宝法隆寺金堂の修理に伴う年輪年代調査である。調査対象とした内陣天井板と支輪板の中に樹皮を剥いだだけの板材が含まれており、667 年と 668 年に伐採されたヒノキ材が用いられていることが明らかになった。この結果は、2004 年度に実施した法隆寺西院伽藍の年輪年代調査成果をあらためて裏付けるものである。
美術史関連:国宝 1 点を含む 7 府県下の 15 躯の木彫像並びに 1 点の工芸品に対して年輪年代調査を実施した。特筆すべきは、山口県長徳寺薬師如来坐像の年輪年代調査である。解体修理に際してマイクロフォーカス X 線 CT とデジタル画像計測による年輪年代調査を行った結果、1067 年の年輪年代が得られた。この像は心材のみからなるので、造像に際して切削された辺材や心材に含まれていた年輪数を考慮すると、11 世紀末ないし 12 世紀頃とする美術史学的な視点からの所見に矛盾しない。
歴史関連：2 府県下 2 点の文字資料の年輪年代調査及び樹種同定を実施した。特筆すべきは、滋賀県栗東歴史民俗博物館に寄託されている延徳三年(1491)と墨書された金勝寺制札の年輪年代調査である。この制札は心材のみから成り、調査の結果、1438 年の年輪年代が得られた。原木から製材する課程で切削された辺材や心材に含まれていた年輪数を考慮すると、年輪年代と制札に書かれた年代が整合し、年輪年代と歴史資料との関係を示す好例となった。
技術開発関連：年輪のデジタル画像計測に関するコンピュータアルゴリズムの日本国特許が成立した。発明者が奈良文化財研究所に入所する以前から手がけてきた技術なので、この特許の出願人の名義は発明者となっているが、奈良文化財研究所で年輪年代学研究を進める上で欠かすことのできない重要な技術である。

【実績値】
論文等数： 8 件（うち 1 件は原著論文査読あり）
発表件数： 9 件（うち 3 件は国際学会）
工業所有権件数： 1 件


マイクロフォーカス X 線 CT 装置に設置した長徳寺薬師如来坐像の背板

【備考】
論文発表・学会発表等については別添統計資料参照
工業所有権：特許「木材の年輪箇所検出方法および年輪幅計測方法」（発明者・出願人：大河内隆之）特許第 4218824 号

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4245-00

自己点検評価調書

研究所 No31

1．定性的評価

観点	適時性	継続性	発展性	独創性	効率性	正確性
判定	S	S	S	S	S	S

備考
適時性：解体修理や博物館での展示替などの機会を逃すことなく調査を実施し、考古学・建築史・美術史等に関連した木材から得られた年輪年代情報を、速やかに多くの研究者に提供した。
独創性・発展性：マイクロフォーカス X 線 CT による非破壊年輪年代測定の技術やデジタル画像計測は、当研究室で開発した新規性を伴う独創的な技術であり、特許出願や特許取得を果たすことで、今後さらに発展する可能性がある。
効率性：年輪年代測定対象に応じて、年輪読取機による計測手法、デジタル画像計測手法、マイクロフォーカス X 線 CT による非破壊年輪計測手法などを適材適所で選択し、効率的かつ効果的に研究を遂行した。
継続性：年輪データを継続的に集積している。
正確性：法隆寺金堂の事例のように、過去に行った年輪年代調査成果と本年度の調査結果が 1 年も違えることなく正確に合致するのが、年輪年代学研究の特質である。

2．定量的評価

観点	論文等数	発表件数				
判定	S	S				

備考
論文等件数・学会発表件数ともに、目標値と昨年度実績を上回っている。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
S	定性的評価における 6 項目、及び定量的評価における 2 項目がいずれも S であることから、S と判断した。とりわけ、担当者の開発した年輪のデジタル画像計測に関する技術が特許取得を果たしたのは、当初の計画を上回る成果であり、今後、年輪年代学研究をさらに発展させる素地が整ったことになる。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	当該年度における調査研究事業は、その進捗度からみて、順調に実施できたと考えられる。本年度の目標達成に満足することなく、引き続き中期計画の遂行に邁進したい。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4255-00
（様式 1）

業務実績書

研究所 No32

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究　((2)-⑤)

【事業概要】
動植物遺存体による環境考古学的研究の継続を行う。また、実験品や出土骨に残る加工痕の観察方法を確立し、骨角器製作技術や動物解体技術の研究を推進する。さらに中国、韓国、台湾や、北米北西海岸の日本の先史時代の動植物利用と対比できる遺跡の発掘に積極的に参加し、これまで国内の遺跡で開発してきた微細遺物選別法の実践を行い、東アジア、環太平洋世界の中での農耕・牧畜の起源や動植物利用に関する比較研究を行う。

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【プロジェクト責任者】	環境考古学研究室長　松井章

【スタッフ】
山崎健［埋蔵文化財センター］、橋本裕子［奈文研客員研究員］、樋廻理恵子、藤田芙美［以上、奈文研派遣職員］、丸山真史、菊地大樹、納屋内高史、ルブナ・オマル［以上、京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程］、永井理恵、大和槙［以上、京都大学大学院人間・環境学研究科博士前期課程］

【主な成果】
国内外の学会、研究会において、これまでの環境考古学、特に貝塚、湿地遺跡、動物利用などの研究成果を発表し、研究交流を深めた。また、19 年度から継続してきた奈良県橿原遺跡、佐賀県東名遺跡群などの分析を行い、発掘報告書を執筆した。

【年度実績概要】
4 月にセネガル国ダカールで開催された国際会議、Shell Energy, Prehistoric Coastal Resources Strategies で、日本の貝塚の特質とその研究成果について発表を行った。6 月にはアイルランド共和国ダブリン大学で開催された世界考古学会議で、日本の湿地遺跡の研究成果について発表し、分科会の座長を務めた。7 月は、縄文文化と北西海岸先史文化との比較研究のため、アメリカ合衆国ワシントン州マッド・ベイ遺跡の発掘に参加したほか、台湾国立大学朱有田(Yu-Ten Ju)准教授から招聘を受け、台湾における考古科学とくにイノシシの DNA 分析の国際共同研究について打合せを行った。9 月には、日本哺乳類学会において、家畜に関する研究の発表を行った。11 月は日本考古学協会において、弥生時代の狩猟・漁撈に関する発表を行い、シンポジウムの司会を務めた。

動物骨格標本は、ポニー、オオサンショウウオ、ウシ、クロコダイルなどの希少な骨格標本を製作または購入できた。また、これまで奈文研で作製・収集してきた現生動物骨格標本のうち、哺乳類のリストを『埋文ニュース』136 号として刊行し、他の組織、研究者への公開を行った。この標本リストは、今後、他の種類を追加・増補していく予定である。


エゾジカ猟

このほか、奈良県橿原遺跡、佐賀県東名遺跡などから出土した動物骨、鹿角に残る傷痕を観察、記録化に努め、傷痕を残す原因となった利器の判別を試み、成果を挙げつつある。あわせて、橿原遺跡から出土した骨角器の再整理を行い、骨角器の製作技術を復元するなどの成果も挙げた。また、動物解体技術の研究については、11 月の動物考古学研究集会でモンゴルの動物解体に関する発表を行い、1 月には北海道でエゾジカ猟に参加し、動物解体の調査を行った。

【実績値】
標本作製（収集）数：魚類 75 点、鳥類 19 点、哺乳類 23 点、両生類／爬虫類 12 点
論文等数：論文　2 件、報告書　9 件、その他　8 件
発表件数：海外　2 件、国内　14 件

【備考】
論文発表・学会発表等については別添統計表参照

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4255-00

自己点検評価調書

研究所 No32

1．定性的評価

観点	独創性	発展性	継続性			
判定	A	A	A			

備考
独創性：全時代、全社会階層をカバーする人間と動物の文化誌の考古学からの解明
発展性：動物考古学から出発し、歴史学、民俗学、民族学へと学問分野を拡大
継続性：19 年度出版した『動物考古学』（京大出版会）に続き、20 年度より『環境考古学 8、標本リスト：哺乳類編』（埋文ニュース）を刊行、順次、種類別の標本リストを公開・刊行する計画

2．定量的評価

観点	論文等数	発表件数				
判定	A	A				

備考
国際学会 2 件（セネガル：発表、アイルランド：発表・座長）国内学会及び講演 14 件（日本考古学協会発表、座長ほか）を行ったことから、評価をＡとする。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	プロジェクトの目的達成に対し十分な成果を挙げたことと、その成果を国内外の研究者、一般に公表し、さらに新しい研究の切り口を切り開くことができたため、Ａとする。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	20 年度も多くの国際学会、国内研究会などで研究発表を行い、これまで挙げた成果を紹介してきた。現生動物骨格標本の収集も、いよいよ絶滅種、希少種へと収集の目標が絞られ、いっそうの充実を見せつつある。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4315-00
（様式 1）

業務実績書

研究所 No33

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化財の生物劣化対策の研究　((3)-①)

【事業概要】
歴史的建造物や彫刻等、屋外環境に近い空間にある文化財は、生物被害を受けやすい環境にあるが、その劣化の早期検出や被害防止対策について、研究はまだ十分な状況とはいえない。本プロジェクトでは、特に屋外に近い環境に置かれた文化財の生物劣化対策を確立することを目標に、生物による被害の現況について集約し、早期発見のためのシステム作りや劣化の防止手法の開発など、保存科学的研究を行う。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	センター長　石﨑武志

【スタッフ】
木川りか、佐野千絵、犬塚将英、吉田直人、間渕創、吉川也志保（以上、保存修復科学センター）、藤井義久（京都大学）、トム・ストラング（カナダ保存研究所）

【主な成果】
歴史的建造物での生物被害状況調査では、日光輪王寺本堂の虫害を調査した結果、オオナガシバンムシによる被害であることが明らかになった。また、部材内部の状況を調べるために、レジストグラフやＣＴなどの手法を用いて、調査を行い、部分解体修理による調査の一助となった。また、調査手法および歴史的建造物などの維持管理をテーマとする研究会を開催し、今後取り組むべき問題点を明らかにした。

【年度実績概要】
(1) 古墳や歴史的建造物など、屋外環境に近く、高湿度になる現場の生物被害状況調査
日光輪王寺本堂の修理において虫害が発見されたが、その周辺では今まで経験のない激しい被害であった。その加害虫を調査し、「オオナガシバンムシ」であることが明らかとなった。また、レジストグラフを使って、梁など重要な材の内部状況の調査を現地で行うとともに、一部の部材については、ＣＴによって内部の状況を調査した。オオナガシバンムシは、わが国の歴史的建造物ではおそらく初めての発見例と考えられる。対策などについて調査結果に基づき協議を行った。
(2) 高湿度環境における文化財（木や紙などが材料のもの）についての試験
一時的に使用する防カビ剤について、作業者や観覧者に対して臭いや有害な揮発物質などの影響が少なく、効果があるかなどを検討した。また、文書などに出現して問題となるフォクシングについて、フォクシング部位から単離されたカビを用い、紙の上での生理的な性質を調査した。
(3) 害虫侵入早期検出のための基礎研究
害虫侵入の早期検出手法および、歴史的建造物などの維持管理について研究会を行い、今後の問題点を明らかにした。
テーマ：「屋外等の木質文化財の維持管理　問題点と今後」　平成 20 年 10 月 6 日（月）（参加者 79 名）
＜プログラム＞
奈良県教育委員会　神田雅章氏　「寺社等建造物や木彫像などの管理と生物被害上の最近の問題点」
京都大学　藤井義久氏　「文化財建造物の劣化診断と維持管理体制の課題と展望」
九州国立博物館　本田光子氏「屋外で公開された文化財等を博物館内で展示、収蔵する際の対応について」
河上信行建築事務所　河上信行氏「弥生時代等の復元建物における維持管理の現状と課題」

【実績値】
論文数　2 件　　(①,②)
学会研究会等での発表件数　2 件　　(③,④)
研究会　1 回

【備考】
①日光山輪王寺本堂におけるオオナガシバンムシ *Priobium cylindricum* による被害事例について（小峰幸夫、木川りか、原田正彦、藤井義久、藤原裕子、川野邊渉）「保存科学」48、pp.207-214、09.03
②古墳等の高湿度作業環境下での使用を想定した木材保存剤のかび抵抗性試験とＴＶＯＣ測定（間渕創、佐野千絵、木川りか）「保存科学」48、pp.175-182、09.03
③高松塚古墳発掘／石室解体作業に伴う取り合い部・断熱覆屋使用木材等の防カビ対策（木川りか、間渕創、高妻洋成、降幡順子、肥塚隆保）文化財保存修復学会第 30 回大会、08.5.17-18
④Foxing が発生した紙試料からの真菌の分離および代謝物の蛍光に関する報告（吉川也志保、木川りか）文化財保存修復学会第 30 回大会、08.5.17-18

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4315-00

自己点検評価調書

研究所 No33

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
歴史的建造物や古墳など、生物被害を受けやすい文化財の生物劣化対策は急務である。
本研究は時機を得たテーマであり、研究を進めるなかで現状での問題点が明らかになり、今後の方向性を示すことができた。

2．定量的評価

観点	論文数	研究発表件数	研究会			
判定	A	A	A			

備考
研究成果は、論文、学会での研究発表を通して、すみやかに公表することができた。
また、研究会では、79 名の文化財関係者と問題点を共有し、議論をすることができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	現場調査、基礎研究の実施、専門研究者間の交流、すみやかな研究成果公開を果たし、本課題について必要不可欠な調査研究を実施することができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本課題において重要な劣化診断について現地で調査を行い、併行していた基礎研究の成果も取り入れて検討ができた。また、次年度の研究成果の普及に向けて、歴史的建造物などを対象とする維持管理についての議論を進めることができた。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4325-00
（様式 1）

業務実績書

研究所 No34

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化財の保存環境の研究　((3)-②)

【事業概要】
文化財を取り巻く保存環境の現状を把握し改善することを目的として、様々な文化財を取り巻く環境の調査手法、モデル実験やシミュレーション技術を用いた環境の解析手法の確立のための研究を行う。また、地方公共団体等が設置する文化財の収蔵・公開施設に対して、その依頼に応じて環境調査を行い、専門的・技術的な援助・助言を行う。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	保存修復科学センター長　石﨑武志

【スタッフ】
佐野千絵、犬塚将英、早川泰弘、木川りか、吉田直人（以上、保存修復科学センター）、三浦定俊、呂俊民、カリル　マグディ（以上、客員研究員）、小椋大輔、三村　衛（以上、京都大学）、白石靖幸（北九州市立大学）

【主な成果】
文化財施設内の温湿度解析の対象として、静岡県立美術館のロダン館を選択し、熱・換気回路網計算プログラムを用いて温湿度解析を行った。空気汚染物質への対策研究としては、これまでの成果を学会等で報告すると共に、「文化財の保存環境を考慮した博物館の省エネ化」というテーマで研究会を開催した。

【年度実績概要】
本年度は、文化財施設内の温湿度解析の対象として、静岡県立美術館のロダン館を選択し、熱・換気回路網計算プログラムを用いて温湿度解析を行い、実測した温湿度データとの比較を行った。今回作成した計算モデルから得られた計算結果と実測結果は概ね対応した。また、栗東歴史民俗博物館を解析対象として、省エネルギーを考えて一部の空調を停止した場合に、収蔵庫、展示室内の温湿度がどのように変化するかに関するシミュレーションを行った。7 月 10 日に、「博物館での文化財の保存と活用に関する国際動向」というテーマで研究会を開催した。
博物館資料の保存のための空気汚染物質への対策研究としては、これまでの成果を学会等で報告すると共に、12 月 15-16 日に「中級研修－博物館・美術館等の空気環境最適化のための基礎と実践－」を行った（参加者 40 名）。「汚染物質計測のための仕様書を策定し、報告書を読みとき結果を評価し、建築設計や空調設備技術者と対策について検討することができる力を身につける」を目的に、講義と実演で構成した。参加者アンケートでは、用語集の提供、必要な機器・スペース等の情報が得られたことについて評価が高く、必要な資材・機材に関する情報をネット上で公開して欲しいとの希望があった。
12 月 4 日に開催した「文化財の保存環境を考慮した博物館の省エネ化」というテーマの研究会では、米国ゲティー保存研究所の前川信氏に「博物館・美術館・図書館・資料館での継続性を考えた環境管理方法」、北九州市立大学の白石靖幸氏に「建築物の総合環境性能評価手法と評価事例の紹介」の講演を頂きさらに九州国立博物館および埼玉県立歴史と民俗の博物館での保存環境を考慮した省エネ化の取り組みについて講演を頂くと共に討論を行った。

【実績値】
論文等数　3 件（①,②,③）　　研究会開催　2 件
発表件数　3 件（④,⑤,⑥）

【備考】
①呂俊民、佐野千絵他：「ポーラ美術館における室内空気清浄化のための火山ガスの調査」『保存科学』48、pp.13-20、09.03
②犬塚将英、福西大輔、石崎武志：「熊本城「細川家舟屋形」の保存環境調査」『保存科学』48、pp.147-152、09.03
③T.Ishizaki, C. Sano and S. Miura: Non destructive investigation of water content profile of the lime plaster wall in tumulus. Proc. In Situ monitoring of Monumental Surfaces, pp.385-390, 08.10
④犬塚将英、石崎武志、龍泉寺由佳：「石水博物館千歳文庫内の温湿度解析、文化財保存修復学会第 30 回大会、08.5.17-18
⑤呂俊民、佐野千絵他：展示・保存環境の酸性雰囲気改善のための研究―実測データに基づく解析―、文化財保存修復学会第 30 回大会、08.5.17-18
⑥呂俊民、佐野千絵他：ポーラ美術館における作品素材を用いた環境モニタリング、文化財保存修復学会第 30 回大会、08.5.17-18

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4325-00

自己点検評価調書

研究所 No34

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点	学術雑誌等への掲載論文等数	学会研究会等での発表件数	研究会			
判定	A	A	A			
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	美術館・博物館での環境調査、海外の研究者との情報交換、研究会の実施、学会や紀要での研究成果公表など予定通り実施し、高い調査研究水準を保つことができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	研究計画の第 3 年度として、環境のシミュレーションに関する現地調査および基礎的な研究も行い、研究は予定通り進んでいる。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4335-00
（様式 1）

業務実績書

研究所 No35

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究　((3)-③)

【事業概要】
屋外に位置する美術工芸品、文化財建造物等は、周辺環境の変化が大きな劣化要因となる。本研究では、周辺環境が文化財に及ぼす影響を評価し、予測手法の確立や新たな保存修復技法や材料の開発を目的とする。また、石造文化財の保存修復に関して韓国・国立文化財研究所との共同研究を行う。詳細には双方で対象を設け（日本側：臼杵磨崖仏（大分県臼杵市)、韓国側：雲住寺)、現地観測や修復材料の試験などを行う。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	副センター長　川野邊　渉

【スタッフ】
早川典子、森井順之（以上、保存修復科学センター）
朽津信明（文化遺産国際協力センター）

【主な成果】
石造文化財や木造建造物など屋外に位置する文化財について周辺環境の観測を行った。また、その結果に基づいて劣化要因を解明し、周辺環境の影響を軽減する方法および修復材料・技法の開発・評価を行った。詳細には、(1) 臼杵磨崖仏・熊野磨崖仏における劣化要因調査、凍結防止策やクリーニング手法の検討、(2) 木造建造物の腐朽菌や藍藻類の生息分布と周辺環境の調査、(3) 大韓民国・国立文化財研究所との共同調査、共同研究発表会の実施を行った。

【年度実績概要】
石造文化財や木造建造物など屋外に位置する文化財について、周辺環境の観測を行った。また、その結果に基づいて劣化要因を解明し、その影響を軽減する方法および修復材料・技法の開発・評価を試みた。
今年度の主な成果は次の通りである。
(1) 臼杵磨崖仏では今後の修復事業のために、劣化機構の把握を目的とした気象や岩体水分などの長期連続観測を実施している。平成 20 年度は、臼杵磨崖仏古園石仏群、ホキ石仏第二群第一龕、熊野磨崖仏大日如来像を対象に、殺菌灯照射による着生生物のクリーニング施工および評価を実施した。また、ホキ石仏第二群の凍結破砕防止策として寒冷時の覆屋閉鎖実験を継続した。
(2) 木造建造物の腐朽に関して富貴寺大堂（豊後高田市）を対象に周辺環境調査を継続し、腐朽菌や藍藻類の生息分布と周辺環境の関係について把握を行った。
(3) 今年度の大韓民国・国立文化財研究所との共同研究は、2008（平成 20）年 11 月 6 日、国立文化財研究所講堂にて研究発表会を開催した。また、2009 年 2 月には、臼杵磨崖仏（日本）および雲住寺（韓国）に両国の研究者が集合し、寒冷時の石材凍結およびその周辺環境に関する調査を共同で実施した。

【実績値】
報告書：1 件（①）
論文等：4 件（②～⑤）
発表等：5 件（⑥他）

【備考】
①日韓共同研究報告書 2008－文化財保存環境と復元技術研究－　国立文化財研究所（韓国）／東京文化財研究所　102p　08.11
②森井『臼杵磨崖仏における凍結劣化防止策の検討―予測とその評価―』　日韓共同研究報告書 2008　pp. 63-82　08.11
③朽津『石塔で認められる彩色表現について』　日韓共同研究報告書 2008　pp. 15-26　08.11
④森井・川野邊・山路・柏谷『紫外線照射装置を用いた磨崖仏着生生物の除去』　保存科学 48　pp. 21-32　09.3
⑤MORII, M “Conservation Environment and Conservation Studies for Stone Heritages in Japan” Proc. of the 2008 International Symposium on Conservation Science for Cultural Heritage, National Research Institute of Cultural Heritage, pp. 25-27, 08.9
⑥森井『臼杵磨崖仏における凍結破砕防止策の検討（3）―覆屋内温熱環境の予測と凍結防止策の提案―』日本文化財科学会第 25 回大会　鹿児島国際大学　08.6.14-15　　（他 4 件）

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4335-00

自己点検評価調書

研究所 No35

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	論文数	発表件数	報告書刊行数			
判定	A	A	A			
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究について、石造文化財を中心に劣化要因を解明し対策の提案が出来た。また、大韓民国・国立文化財研究所との共同研究では、情報交換のみならず共同成果を意識した研究交流を開始することができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順　調	5 年計画の中で、調査研究は順調に進んでいる。特に、石造文化財の保存修復では、凍結破砕や植物繁茂など主要な劣化要因に関して対策の立案が出来た。今後もこのペースを維持しつつ、必要な調査研究などを進めていきたい。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4335-01
（様式 1）

業務実績書

研究所 No36

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化財の防災計画に関する調査研究　((3)-③)

【事業概要】
阪神淡路大震災などの大地震で被害を受けた文化財は数多く、また、平成 10（1998）年の台風 7 号による倒木被害を受けた室生寺五重塔など、自然災害による文化財被害の甚大さは記憶に新しい。本調査研究では、文化財防災情報システムから地震や台風など過去の災害を対象に調査を行うとともに、システムを活用して防災体制の整備に役立てる。さらに東大寺の塑像群の防災体制について基礎的調査を開始する。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	副センター長　川野邊　渉

【スタッフ】
中山俊介、森井順之、加藤雅人（以上、保存修復科学センター）
二神葉子（文化遺産国際協力センター）

【主な成果】
平成 20 年度は、(1) 地理情報システム（GIS）に基づいた文化財防災情報システムの改良：史跡や重伝建地区などの平面情報について入力が可能となるようにした。(2) 平成 19 年に発生した能登半島地震および新潟県中越沖地震により被災した文化財について、1 年経過後の保存修復状況の現地調査を実施した。(3) 東大寺法華堂安置仏像群および塑像四天王立像（戒壇堂所在）の耐震対策を講ずるための基礎的調査を開始した。

【年度実績概要】
平成 20 年度の成果は次の通りである。
(1) 地理情報システム（GIS）に基づいた文化財防災情報システムについて、史跡や重要伝統的建造物群保存地区など平面情報が必要なものにも対応可能なように改良を行った。また、平成 20 年 6 月 14 日に発生した岩手・宮城内陸地震では、震度速報値から被災が予測される文化財の抽出を行い実際の報告との比較を行った。さらに、三重県を対象に県指定まで含めた建造物文化財の所在地データベースを作成するとともに文化財防災情報システムへ反映させた。
(2) 平成 19 年に発生した能登半島地震および新潟県中越沖地震により被災した文化財について、1 年経過後の保存修復状況の現地調査を実施した。能登半島地震で被災した文化財の多くは既に修理工事を終えていたが、七尾城跡（国史跡）のような大規模史跡では現在でも整備工事が行われている現状を確認した。
(3) 東大寺法華堂安置仏像群および塑像四天王立像（戒壇堂所在）の耐震対策を講ずるための基礎的調査を開始した。法華堂安置仏像群のほとんどは展示のために移動したことがなく重量などの情報が乏しいため、重量推定のための三次元計測を一部実施した。

【実績値】
論文等：1 件（①）
発表等：1 件（②）

【備考】
①Yoko Futagami: An approach to disaster prevention and rescue of cultural properties by using GIS in Japan -example of the National Research Institute for Cultural Properties, Tokyo-. Expert Meeting on Cultural Heritage in Asia and the Pacific -Restoration and conservation of immovable heritage damaged by natural disasters-, National Research Institute for Cultural Properties, Tokyo and the Fine Arts Department, Ministry of Culture, Thailand, pp. 91-100, 09.01
②二神葉子・隈元　崇・森井順之・高尾　曜『国指定文化財ＧＩＳデータベースを用いた文化財の被害予測と災害レスキューへの活用』　文化財保存修復学会第 30 回記念大会　九州国立博物館　08.5.17

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4335-01

自己点検評価調書

研究所 No36

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	論文数	発表件数				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財の防災計画に関して、文化財防災情報システムの改良や大地震後の被災文化財の現状調査を行った。また、仏像群の耐震対策に関する研究を開始、基礎情報の収集を行った。今後は、仏像群の安置施設や仏像自身の耐震診断などを行う予定である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順　調	5 年計画の中で、調査研究は順調に進んでいる。今年度、予定通り文化財防災情報システムの開発を終了し、今後は運用実験を進める予定である。今後もこのペースを維持しつつ、さらに仏像群の耐震対策に関する研究などを進めていきたい。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4345-00
（様式 1）

業務実績書

研究所 No37

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究　((3)-④)

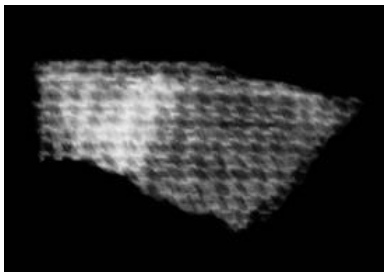
【事業概要】
標記プロジェクトに関して、1）考古遺物の完全非破壊非接触分析法としてのレーザーラマン分光法の応用研究、2）高エネルギーX 線 CT 法及び X 線 CR 法の応用研究、3）繊維製遺物や漆製遺物などの分析法の実用化とデータベース作成、4）木製遺物に対する超臨界溶媒乾燥法の基礎的研究と実用化、5）埋蔵文化財の露出展示に関する課題を広く検討するための保存科学研究集会の開催、に取り組む。

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【プロジェクト責任者】	保存修復科学研究室長　高妻洋成

【スタッフ】
降幡順子［都城発掘調査部］、脇谷草一郎［企画調整部］、大河内隆［埋蔵文化財センター］、平澤毅、粟野隆［以上、文化遺産部］、佐藤昌憲［奈文研客員研究員］

【主な成果】
1）ガラス製品のレーザーラマン分光分析に関する文献を収集し、標準試料のスペクトルを集積した。
2）鉄製品に付着する繊維痕跡を XCR 撮影することにより、その製作技法を明らかにした。
3）漆製遺物の分析において、有機溶剤への溶解性を利用した新たな分析手法を確立した。
4）リグノフェノール含浸処理後に超臨界溶媒乾燥を行う処理においてスケールアップを図った。
5）遺跡整備研究室と合同で「埋蔵文化財の露出展示における成果と課題」の研究集会を開催した。

【年度実績概要】
1）ガラス製品の製作技法の解明と劣化状態の診断法の確立を目的としたレーザーラマン分光分析法の応用研究に着手した。本年度は、既往の研究成果について文献資料を収集するとともに、ガラス標準試料のラマンスペクトルを取得・収集した。
2）鉄製品に錆化・付着している繊維痕跡に対して、イメージングプレートを用いた高精細拡大撮影を行い、織構造・織密度・撚糸・繊維種等の製作技法に関する知見を得た。また、中世末の古活字を XCT により高精細撮影を行い、得られた断層画像から樹種を推定するとともに、墨の付着状況、木取りについて明らかにした。


鉄製品付着繊維痕跡の XCR 像

3）縄文時代の土器に残る漆と推定されていた黒色物質が、クロロホルムへの溶解性の違いと溶解残渣の FT-IR 分析から、漆、漆とアスファルトの混合物、アスファルトの 3 つに分けられることを明らかにした。また、絹製品の錆化機構について、シンクロトロン顕微赤外分析法による分析を進めた。
4）リグノフェノール含浸処理後に超臨海溶媒乾燥を行う処理において、木材試料のサイズを大きくし、乾燥効率などに関する検討を行った。また、マンニトール含浸後、貧溶媒として第 3 ブチルアルコールに投入し、マンニトールを材内において析出させる予備実験を行った。
5）遺跡整備研究室と合同で「埋蔵文化財の露出展示における成果と課題」と題した研究集会を開催し、遺跡の露出展示の事例紹介、遺跡露出展示における調査法などの技術報告と総合討議を行い、問題点の共有化と今後の課題について議論した。

【実績値】
発表件数： 8 件
論文等数： 10 件

【備考】
論文発表・学会発表等については別添統計表参照

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4345-00

自己点検評価調書

研究所 No37

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
レーザーラマン分光分析の応用研究の一環としてガラス製遺物への応用に着手し、標準試料のラマンスペクトルの蓄積を開始した。木製品の保存処理法の開発研究では、継続して超臨界溶媒乾燥法の開発に取り組み、スケールアップを行うことができた。また、継続して遺物の調査分析を行い、多くの遺物について重要な知見を得ることができた。

2．定量的評価

観点	発表件数	論文等数	研究集会参加者数		
判定	A	A	A		

備考
文化財保存修復学会での発表 4 件、日本文化財科学会での発表 6 件、合計 10 件の学会発表を行い、文化財保存修復学会研究発表要旨集に 4 件、日本文化財科学会研究発表要旨集に 4 件、マテリアル学会誌に 1 件、木質炭化学会誌に 1 件、合計 10 件の論文を発表した。また、研究集会では 185 名の参加者を得て、事例報告や技術報告に加え、総合討議において活発な議論を行うことができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	調査研究事業を当初計画どおり順調に達成することができたことから、総合的評価をＡと判定した。次年度はこのペースを維持しつつ、とくにレーザーラマン分光分析法を用いたガラス製遺物の調査分析法の確立を進める予定である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	20 年度の計画を当初の計画どおり実施できたことから、順調であると判定した。19 年度は、このペースを維持しつつ、特に遺物の材質構造調査法の開発研究におけるガラス製遺物のレーザーラマン分光分析について、データの蓄積と応用開発を進める予定である。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4355-00
（様式 1）

業務実績書

研究所 No38

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究（(3)-⑤）

【事業概要】
本プロジェクトでは、文化財修復材料について、製造法・適用法などを調査研究し、適正な文化財修復を行うための基礎を築くことを目的とする。伝統的修復材料に関しては、製法・使用技法・材料物性などを研究することにより、伝統技術を記録し、その有効性を科学的に検証する。一方、近年文化財に使用されるようになった合成樹脂に関して、その使用事例を再確認する。さらに、これらの調査や研究から得られた結果をもとに、現在の環境も踏まえ、より文化財修復に適した技術や材料を開発することをも目的とする。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	副センター長　川野邊　渉

【スタッフ】
北野信彦、加藤雅人、早川典子、坪倉早智子（以上、保存修復科学センター）

【主な成果】
建造物などに使用する漆塗装の耐候性向上に向けた基礎実験を継続するとともに、漆工品生産に関する伝統技術の調査を行い、その内容を報告書に掲載した。また、紙に関しては、基礎データの集積と整理作業を行い、その内容も報告書に掲載した。また、本研究所が携わった修復事業のうち研究所が所蔵する資料の目録作成化作業を継続し、ネガフィルムなどの資料に関しては、デジタルデータ化も継続した。また第 2 回伝統的修復材料及び合成樹脂に関する研究会を開催してのべ 107 名の出席を得た。

【年度実績概要】
伝統的修復材料と技術に関して、調査研究を行った。具体的には、昨年度から行っている建造物などに使用する漆塗装の耐候性向上に向けた基礎実験を継続し、収集された実験データの整理と検討を行った。さらに、漆塗料および漆工品生産に関する伝統技術の調査では、岩手県二戸市浄法寺地区周辺にわずかに残された漆室の漆工材料と用具（民俗資料）の整理を実施するとともに、歴史的な漆塗料の分析調査を行った。
また、紙に関しては、収集した試料の繊維組成分析を行ない、適切な紙を選ぶための基礎データを集積し、データベース化に向けた整理を行った。
また、本研究所が携わった修復事業のうち、研究所が所蔵する資料を分類整理した目録作成を継続した。さらに、ネガフィルムなどの資料に関しては、デジタルデータ化も継続して進めた。さらに、修復に用いられた合成樹脂に関する調査を行った。
また、「漆を通じてみた日本と海外との交流　ー漆文化財の調査と保存修復の現状と課題―」というテーマで、第 2 回伝統的修復材料及び合成樹脂に関する研究会を開催した。
日時：2008 年（平成 20）年 11 月 27 日　13:20～17:40
会場：東京文化財研究所　地階セミナー室
講演：1,北野信彦（東京文化財研究所）「輸入漆塗料の流通と使用（文化財科学の立場から）」、2, 日高薫（国立歴史民俗博物館）「輸出漆器の歴史と性格（漆工史の立場から）」、3,宮腰哲雄（明治大学理工学部）「漆工品と漆塗料の分析（分析化学の立場から）」、4,山下好彦（漆工品修復技術者）「輸出漆器の保存修復作業の問題点（修復技術の立場から）」、5,参加者全員「総合討論」

【実績値】

発表件数	2 件（①,②）
論文数	1 件（③）
報告書刊行数	1 件（④）
研究会	1 件（⑤）

【備考】
①北野信彦・窪寺茂「明治期修理における建築塗装の一方法」文化財保存修復学会第 30 回記念大会 太宰府市中央公民館 2008.5.17
②北野信彦「輸入漆の流通と使用」第 2 回伝統的修復材料及び合成樹脂に関する研究会「漆を通じてみた日本と海外との交流-漆文化財の調査と保存修復の現状と課題-」2008.11.27
③北野信彦・小檜山一良・木下保明・竜子正彦・本多貴之・宮腰哲雄「桃山文化期における輸入漆塗料の流通と使用に関する調査(Ⅱ)」『保存科学　第 48 号』p.133-146 東京文化財研究所
④『伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究報告書 2008 年度』p.123 東京文化財研究所　2009.3
⑤第 2 回伝統的修復材料及び合成樹脂に関する研究会「漆を通じてみた日本と海外との交流」2008.11.27 開催

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4355-00

自己点検評価調書

研究所 No38

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点	発表件数	刊行書発行数				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	建造物などに使用する屋外漆塗装の耐候性や漆に関する伝統技術の基礎資料の蓄積、紙の分析手法など、文化財の修復材料に関して有益な基礎的知見を収集することができた。本研究所が携わった修復事業のうち、研究所が所蔵する資料を分類整理し、目録作成を継続した。 これにより次年度以降には成果の公開が容易になると考えられる。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順　調	本プロジェクトで実行してきた手法の有効性が明らかになってきており、それに伴い重要な知見も蓄積されつつあることから、計画の実施状況は順調である。次年度以降も引き続き、基礎的知見の収集と資料目録化を推進する予定である。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4355-01
（様式 1）

業務実績書

研究所 No39

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	国際研修「紙の保存と修復」((3)-⑤)

【事業概要】
日本絵画などの日本の紙本文化財は海外の美術館・博物館で所蔵され公開されている。所蔵館には修復部門が存在するものの、日本の紙本文化財の修復の専門家が所属していることは稀であり、そのため海外の保存担当者や学芸員、修復技術者からの修復についての問い合わせも多い。そこで文化財研究所は、ICCROM と共同で 10 カ国 10 人の参加者を募り国際研修会を開催し、日本紙本文化財の保存と修復についての研修を行う。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	副センター長　川野邊　渉

【スタッフ】
北野信彦、加藤雅人、坪倉早智子、早川典子（以上、保存修復科学センター）

【主な成果】
2008 年 9 月 8 日～26 日の期間で 10 カ国から 10 名を迎え入れて研修を行った。2 時間を 1 コマとし、講義 4 コマ、実習 19 コマ行った。紙本文化財の修復理念、材料学の講義を行った。実習では、掛軸修復、和綴じ冊子製作、屏風・掛け軸の取扱などを行った。またスタディーツアーでは美濃を訪れ、和紙の原料・製造から流通までを和紙産地の歴史とともに学習した。また、日本の修復工房を訪れ現状を視察した。また報告書を作製した。

【年度実績概要】
期間：2008 年 9 月 8 日（月曜日）～26 日（金曜日）
場所：東京文化財研究所
参加者（研修生）：Ingrid SEGEBARTH・ラ カンブル国立美術学校（ベルギー）、Maria Soledad CORREA SALAS・国立保存修復センター（チリ）、Shan WANG・中国文化遺産研究院（中国）、Jan HYBNER・プラハ芸術建築デザイン大学（チェコ）、Johanna Magdalena WEIDRINGER・ヘルツォーク　アウグスト図書館（ドイツ）、Caroline DE STEFANI・大英図書館（英国）、Maria Luisa GIORGI・国立東洋美術館ローマ（イタリア）、Mony CHHOUN・カンボジア国立図書館（カンボジア）、Naiyana YAMSAKA・タイ国立公文書館（タイ）、Marie-France LEMAY・イェール大学図書館付属ベイニック貴重図書写本図書館（米国）、以上計10名
研修内容：
・講義「紙の基礎知識・加藤雅人（東京文化財研究所）」「文化財修復に用いられる膠着材について・川野邊渉（東京文化財研究所）」「東洋絵画書跡の材料とその使い方・山本記子（株式会社　文化財保存）」「日本の紙文化財の保存と修復・池田寿（文化庁）」
・実習「装潢概論」「掛軸修理（補紙・裏打・折伏入れ・軸装）」「和綴じ冊子製作」「構造と取り扱い（屏風・掛軸）」（有限中間責任法人　国宝修理装潢師連盟）
・スタディーツアー「美濃（長谷川和紙工房、和紙の里会館、美濃史料館、上有知湊）」「京都（岡墨光堂・本社工房、光影堂・本社工房、修美・京都国立博物館修理所工房、松鶴堂・京都国立博物館修理所工房）」
アンケート：回収率 100%、満足度 100%。
報告書：上記内容について、英文和文併記の報告書を作製した。

【実績値】
研修開催数　　1 回
報告書数　　1 件　(①)

【備考】
①「International Course on Conservation of Japanese Paper 2008」155p　2009.3

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4355-01

自己点検評価調書

研究所 No39

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点	研修会開催数	報告書刊行数				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	紙文化財の修復技術者、保存担当（責任）学芸員、文化財保存修復系教育機関の教員などを、海外から 10 名招いて研修を行ったが、アンケート結果から満足度が高いとの評価を得ている。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	次年度は漆工芸品に関する研修であるので内容は変更するが、本年度のコンセプトを引き継ぎ研修生に有益な研修を行うこととする。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4355-02
（様式 1）

業務実績書

研究所 No40

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	在外日本古美術品保存修復協力事業　((3)-⑤)

【事業概要】
海外の美術館、博物館が所蔵する評価の高い作品の修復に協力し、併せて対象作品を所蔵している博物館等と共同で、保存修復に関連する研究を行う事業である。この事業により修復した作品の公開によって、わが国の修復技術に対する理解が深まり交流が促進されている。当研究所は修理内容の検討、修理作品の写真記録の作成および整理・保存、輸送手続きに責任を持って当たっている。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	副センター長　川野邊　渉

【スタッフ】
中山俊介、北野信明、加藤雅人（以上、保存修復科学センター）、佐野智典、髙橋直久（以上、管理部）、中野照男(副所長)、津田徹英、塩谷　純、綿田　稔、江村知子、城野誠治、勝木言一郎、皿井　舞（以上、企画情報部）、清水真一（文化遺産国際協力センター）

【主な成果】
平成 20 年度は、10 館 10 点の作品（絵画 5 点、工芸品 5 点）を修復した。うち 1 点(工芸品 1 点が 19 年度からの継続、2 点（絵画 1 点、工芸品 1 点）を海外で修復した。工芸品の事前調査はチェコ外務省、チェコ国立美術館､国立ナープルステク博物館､デンマーク国立博物館などヨーロッパで 8 館 21 点の調査を行った。また、平成 19 年度に修復した絵画、工芸品の修理状況をまとめて「在外日本古美術品保存修復協力事業」の報告書を刊行した。

【年度実績概要】
平成 20 年度は､10 館 10 点の作品を修復した(うち 1 点が 19 年度からの継続､2 点が海外での修復(◆印))。
＜絵画＞
1)「松に孔雀図屏風」　6 曲 1 隻　グレーター・ビクトリア美術館
2)「星曼荼羅図」　1 幅　バンクーバー博物館
3)「虫歌合絵巻」　1 巻　ローマ国立東洋美術館
4)「遊女立姿図」（宮川長春筆）　1 面　キョッソーネ東洋美術館
5) ◆「達磨図」　1 幅　ケルン東洋美術館　(2 年計画の 1 年目)
＜工芸品＞
1)「住吉蒔絵文台」　1 基　ヴィクトリア&アルバート美術館
2)「花鳥紋章蒔絵楯」　1 基　アシュモリアン美術館
3)「近江八景蒔絵香棚」　1 対　市立ヴェルケ・メディジチ博物館　(2 年計画の 1 年目)
4)「楼閣山水蒔絵箱」　1 合　オーストリー応用美術博物館　(2 年計画の 2 年目)
5) ◆「花樹鳥獣蒔絵螺鈿洋櫃」　1 基　ケルン東洋美術館　(3 年計画の 3 年目)

平成 20 年度、工芸品の事前調査はチェコ外務省、チェコ国立美術館、国立ナープルステク博物館、デンマーク国立博物館、ベルリン東洋美術館、ケルン東洋美術館などヨーロッパで 10 館 29 点の調査を行った。また、平成 19 年度に修復した絵画、工芸品の修理状況をまとめて「在外日本古美術品保存修復協力事業」の報告書を刊行した。

【実績値】
事前調査　1 件、　修復件数　10 件
ケルンにおけるワークショップ　1 件
ベルリンにおける講演会　1 件
報告書刊行数　1 件①

【備考】
①『在外日本古美術品保存修復協力事業報告書　平成 20 年度　(絵画／工芸品)』　235p　東京文化財研究所　09.3

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4355-02

自己点検評価調書

研究所 No40

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点	調査件数	修復件数	報告書刊行数			
判定	A	A	A			
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	今年度は 10 館、10 点の作品の修復を実施した。海外においても、修復家を派遣し、修復作業を実施したとともに海外の修復家、学芸員などを対象にしたワークショップを開催した。このように海外における日本絵画や工芸品を修復したり、ワークショップを開催することによりその技術、取扱い方法を伝えるだけでなく再び展示することができるようになりその価値を高めることができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順　調	今年度も引き続き、事前調査を実施しており、来年度、再来年度に向けて、修復する候補作品を抽出している。今後はより広範囲な美術館、博物館から、収蔵庫に眠っている価値ある日本絵画と工芸品を修復し、再度展示可能な姿にするべく努力を重ねる。また、海外において修復技術を伝えることにもなお一層の努力を傾注する。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4365-00
（様式 1）

業務実績書

研究所 No41

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	近代の文化遺産の保存修復に関する研究（(3)-⑥）

【事業概要】
近代の文化遺産は、絵画、彫刻、木造建造物など従来の文化財とは、規模、材質、製造方法などに大きな違いがあるため、その保存修復方法や材料にも大きな違いがある。本研究では、近代の文化遺産の保存修復を行う上で必要とされる材料と技術について調査研究を行う。具体的には、大型構造物の劣化機構の解明とその修復方法の究明、航空機、船舶、鉄道車両などの保存修復上の問題点とその解決方法の究明を目指している。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	近代文化遺産研究室長　中山俊介

【スタッフ】
川野邊渉、森井順之、中村明子（以上、保存修復科学センター）、朽津信明（文化遺産国際協力センター）、小堀信幸、横山晋太郎、長島宏行（以上、客員研究員）

【主な成果】
今年度は近代化遺産の利活用をテーマとして研究を行った。鉄構造物の保存に関する関係者を招き、研究会を開催しそれぞれの立場から鉄構造物の保存と活用に関する発表を行った。また、設計図面などに多く使われている青図の再発色に関する研究も実施した。屋外展示されている鉄道車両や航空機などの文化財の防錆対策のため、試験片を使った屋外暴露試験にて、塗装仕様と劣化速度の相関についても検討している。昨年度の研究会をまとめた報告書も刊行した。

【年度実績概要】
今年度は近代化遺産の中でも鉄構造物の利活用に関する手法や問題点をテーマとして研究を行った。国内において、屋外に保管されている鉄構造物の保存修復に実際に携わっている担当者の方お二人と塗料メーカーの方を招き、屋外展示されている鉄構造物の利活用を考えた保存と修復方法に関する手法や問題点に関する検討会を平成 20 年 11 月 21 日に東京文化財研究所地階セミナー室にて実施した。さらに、ドイツ技術博物館の主任学芸員とともに屋外展示されている鉄構造物（高炉やシップリフト等）について現地にて情報交換を実施した。また国内にいては福岡県北九州市の新日鉄東田第 1 高炉跡や関連施設、群馬県富岡市の富岡製糸場に保存されている鉄水槽、熊本県荒尾市の三井万田坑跡などの現地調査を実施した。さらに、屋外展示されている鉄道車両や航空機等の金属を主体とした文化財に関しても同様に現地調査を実施した。加えてそのような屋外展示されている鉄道車両や航空機などの金属を主体とする文化財の防錆対策のために各種サンプルを作成し小樽市総合博物館、船の科学館、かかみがはら航空宇宙科学博物館、大樹町多目的航空公園、海上自衛隊鹿屋航空基地での曝露実験も継続して実施している。これらの地点では、試料の受けた紫外線量をはじめ、温度、湿度などの測定も行い、これらの塗装仕様と劣化速度の相関についても検討している。屋外展示航空機の環境測定も継続している。

【実績値】
論文数　　4 件（①～④）
発表件数　　2 件（⑤～⑥）
報告書刊行数　3 件（⑦～⑨）

【備考】
①中山俊介　「Issues Concerning the conservation of Steel Vessels in Japan」　Issues Surrounding the Conservation of Modern Heritage、pp.39-43、09.3
②中山俊介　「On the utilization of Railway Cultural Properties」　Utilization of Railway Cultural Properties、pp.6-10、09.3
③中山俊介　「On the Operation of Tramcars and the Conservation of Cultural Properties」Utilization of Railway Cultural Properties、pp.42-48、09.3
④中山俊介　「航空機の保存修復と活用」　航空機遺産の保存と活用、pp.5-13　09.3
⑤中山俊介　「鉄構造物の保存と修復」　近代の文化遺産の保存修復に関する研究会、東京文化財研究所、08.11.21
⑥中山俊介　「近代化遺産の保存と活用」シンポジウム「日本の技術史を見る眼」第 27 回　中部産業遺産研究会、09.2.28
⑦『Issues Surrounding the Conservation of Modern Heritage』　東京文化財研究所　44p　09.3、
⑧『Utilization of Railway Cultural Properties』　東京文化財研究所　95p　09.3、
⑨『航空機遺産の保存と活用』　東京文化財研究所　　57p　09.3

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4365-00

自己点検評価調書

研究所 No41

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	論文数	発表件数	報告書刊行数			
判定	A	A	A			
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	近代文化遺産の保存と活用について、各種の調査及び関係する専門家を招いた研究会を開催した。今後の修復材料の開発、修復技法の開発に関する重要な成果を得る事が出来た。また、現地調査や研究会を通じて近代文化遺産の重要性を多くの方々に認識いただいた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順　調	第三年次として、継続している現地調査から重要な調査結果を収集することが出来、また、研究会を通じて多くの研究者との連携も可能となり、今後の研究を進める上で、重要な成果を得た。次年度以降も今年度の成果を元にさらに調査研究を発展させることが可能となった。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4415-00
（様式 1）

業務実績書

研究所 No42

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力（(4)-①）

【事業概要】
キトラ古墳：石室内の環境調査と壁画の取り外し作業を実施
高松塚古墳：壁画の修理及び修理環境の保全並びに壁画の劣化原因及び劣化防止対策措置などの調査・研究を実施

【担当部課】	保存修復科学センター（東文研）、都城発掘調査部（飛鳥藤原地区）、埋蔵文化財センター、文化遺産部（奈文研）	【プロジェクト責任者】	保存修復科学センター長　石﨑武志（東文研） 埋蔵文化財センター長　肥塚隆保（奈文研）

【スタッフ】
佐野千絵、早川泰弘、木川りか、吉田直人、犬塚将英、間渕創、川野辺渉、中山俊介、北野信彦、早川典子、森井順之、加藤雅人、坪倉早智子（以上、東文研）松村恵司、廣瀬覚、内田和伸、井上直夫、中村一郎、岡田愛、石田由紀子、玉田芳英、高妻洋成、降幡順子、脇谷草一郎、（以上、奈文研）、宮原晋一（奈良県教育委員会）、水野敏典（奈良県立橿原考古学研究所）、相原嘉之、長谷川透（明日香村教育委員会）、花谷浩（出雲市教育委員会）高橋克壽（花園大学）片山一道（京都大学大学院理学研究科）

【主な成果】
キトラ古墳では、4 月に月像を剥ぎ取り、11 月にはすべての天文図の剥ぎ取りを完了して天井無地部分の剥ぎ取りに着手し、北壁の一部も剥ぎ取った。石室内の点検及びカビ処置も定期的に行った。また、石室内微生物調査および環境調査は継続して行った。高松塚古墳では、壁画の状態記録のため損傷図面を作成した。また、壁画の処置方法について模擬壁にてテストを行いバイオフィルムによる汚れのクリーニング方法などを確立した。

【年度実績概要】
キトラ古墳
4 月に「月像」を剥ぎ取り、11 月にはすべての天文図の剥ぎ取りを完了して天井無地部分の剥ぎ取りに着手し、北壁の一部も剥ぎ取った。石室内の点検及びカビ処置も定期的に行った。これまでに取り外した漆喰片については随時経過観察と処置を行っている。「子・丑・寅」については平成 20 年 5 月の公開のための額装を完成させ、平成 21 年度の公開に向けて「青龍」の処置を行った。
6 月に石室内の微生物調査を実施した。8 箇所のサンプルから菌類約 80 株が分離されたが、今回石室内で新たに検出された属は見当たらなかった。バクテリアについては、8 箇所のうち、3 箇所のサンプルから酢酸菌の一種が分離、同定された。また、石室内および周辺の環境管理は継続して行っている。
高松塚古墳
昨年度に引き続き、壁画の状態記録のため損傷図面を作成した。天 3、東女子については昨年度中に完成しており、今年度は残りの 9 面全 63 項目中、45 項目の図面を完成させた。壁画の処置方法について模擬壁にてテストを行い、布海苔水溶液による漆喰の強化、次亜塩素酸ナトリウム水溶液を用いたバイオフィルムによる汚れのクリーニング方法などを確立した。
石室解体中に採取した試料について、微生物の分離と同定を行った。次年度の近辺土壌の微生物の解析とあわせて石室の微生物との関連を調査する予定である。また、石室や取り合い部でこれまで使用された履歴のある樹脂などの材料について、石室から分離された主要なカビの生育の度合いを調査した。
劣化原因調査および保存修復処理の実施に有用な情報を得るため、主に「白虎」の分析・調査を実施した。実施に先立ち、分析用フレームを作成し、このフレームに測定機器を取り付け分析作業を行った。蛍光 X 線分析では漆喰から検出される鉛の分布状況などを確認した。また顕微鏡を用いた描線部分の詳細な表面観察を行い、白虎の描線部分を覆う白色物質が存在することがわかった。
発掘調査の結果、古墳南端で 2 条の石詰め暗渠を新たに検出した。また、墳丘の形状については、直径 23mの円墳とする従来の復元案が妥当であることが確認できた。

【実績値】
論文　4 件（①,②,③,④）

【備考】
①国宝高松塚古墳壁画の材料調査の変遷（佐野千絵、他）「保存科学」48、pp. 119-132、09. 03
②国宝高松塚古墳壁画修理作業室の一般公開時における環境測定（犬塚将英、他）「保存科学」48、pp. 153-158、09. 03
③キトラ古墳保護覆屋内の環境について(4)（森井順之、他）「保存科学」48、pp. 159-166、09. 03
④キトラ古墳の微生物等の状況報告（2008）（木川りか、他）「保存科学」48、pp. 167-174、09. 03

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4415-00

自己点検評価調書

研究所 No42

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	正確性			
判定	A	A	A			
備考						

2．定量的評価

観点	援助・助言 実施件数					
判定	A					
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	キトラ古墳、高松塚古墳ともに、本年度の計画を予定通り遂行し、良好な成果を上げることができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	高い調査研究の水準で事業を進めることができた。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4415-01
（様式 1）

業務実績書

研究所 No43

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力（(4)-①）

【事業概要】
本事業は、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施するもので、文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関して技術的な協力を行った。

【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部長　松村恵司

【スタッフ】
松村恵司、高田貫太、丹羽崇史［以上、都城発掘調査部］、井上直夫、中村一郎、岡田　愛、加藤真二、石村　智［以上、企画調整部］

【主な成果】
高松塚古墳石室解体にともなうフォトマップ作製の手順、及び方法を取りまとめた『高松塚古墳壁画フォトマップ資料』の出版。フォトマップを基にしたブルーレイハイビジョンディスク動画に対する、英語・中国語・韓国語版のナレーションを追加し、『高松塚古墳壁画フォトマップ資料』に添付して、高松塚古墳壁画の理解の深化、公開・普及に努めた。

【年度実績概要】
高松塚古墳石室解体にともなうフォトマップ作製の手順、及び方法を取りまとめ、『高松塚古墳壁画フォトマップ資料』（奈良文化財研究所史料第 81 冊）を出版した。フォトマップを基にしたブルーレイハイビジョンディスク・ショートバージョン（10 分）、ロングバージョン（50 分）の 2 種類の動画に対して、日本語のナレーションに対応して、英語、中国語、韓国語のナレーションを追加し、日本語を含めて 4 カ国語の選択可能なものとした。

【実績値】
出版物等 1 件（①）
ブルーレイハイビジョンディスク・ナレーション翻訳 1 件（②）

【備考】
① 奈良文化財研究所『高松塚古墳フォトマップ資料』奈良文化財研究所史料第 81 冊　2009.3
② 奈良文化財研究所『ブルーレイハイビジョンディスク　高松塚古墳 2006（日・英・中・韓国語）』2009.3

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4415-01

自己点検評価調書

研究所 No43

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	正確性		
判定	A	A	A	A		

備考
　フォトマップデータの撮影手順と編集方法を紹介した『高松塚古墳壁画フォトマップ資料』の公刊により、解体された石室と壁画の正確な記録を公開し、後世に残すことができた。これは、国宝高松塚古墳壁画の恒久保存対策に対する国民の理解を得るうえで、きわめて重要な公開普及活動といえる。また、高品質なフォトマップデータの利用により、正確な色と形のハイビジョン動画製作が可能となり、新たな文化財の記録・公開方法を提示することができた。

2．定量的評価

観点	出版等数					
判定	A					

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	実測図にかわる精度のきわめて高い古墳壁画フォトマップの公刊は、今後の古墳壁画研究の重要な基礎資料となるものである。また、考古学では、はじめて制作を試みた正確なハイビジョン動画は、高松塚古墳壁画の理解の深化や、多様な文化財の新たな記録、公開手法として注目されるものである。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	今後も多様な文化財の記録、公開方法としてフォトマップと動画の作製の需要が増すものと予想され、それに向けて機材の改善を行うことが期待される。

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-01
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1)　特別調査法隆寺献納宝物（第 30 次）「聖徳太子絵伝」第 4 回（(5)-①-iii）

【事業概要】
聖徳太子の事績を描いた日本最古の遺品である「聖徳太子絵伝」（もと法隆寺絵殿の障子絵）の制作について、本紙（立涌文綾）、彩色など、制作当初（1069 年）の姿がどのようなものであったかを、肉眼観察および科学的な分析によって調査研究する。科学研究費補助金（基盤研究 A）による「法隆寺献納宝物聖徳太子絵伝の調査研究」とリンクさせる。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	上席研究員　原田一敏

【スタッフ】
松原茂（上席研究員 9 月迄）、澤田むつ代（上席研究員）、島谷弘幸（学芸研究部長）、神庭信幸（保存修復課長）、救仁郷秀明（企画課特別展室長）、田沢裕賀（調査研究課絵画・彫刻室長）、沖松健次郎（企画課出版企画室主任研究員）、松嶋雅人（列品管理課平常展調整室主任研究員）、小林達朗（調査研究課絵画・彫刻室主任研究員）、小山弓弦葉（調査研究課工芸・考古室主任研究員）、和田浩（保存修復課環境保存室研究員）、若杉準治（京都国立博物学芸部列品管理室長）、谷口耕生（奈良国立博物館学芸部保存修理指導室研究員）、中野照男（東京文化財研究所副所長）、村重寧（早稲田大学名誉教授）、東野治之（奈良大学文学部教授）、早川泰弘（東京文化財研究所保存修復科学センター分析科学研究室長）、朝賀浩（文化庁文化財部美術学芸課文化財調査官）

【主な成果】
本太子絵伝の本紙（画絹）は、平絹のほか、立涌文様の綾が使用されていたことが知られていたが、今回の調査によって新たに花菱文様の綾布があることがわかった。また、図様については天明 6 年、吉村周圭によって描かれた現舎利殿壁面のいわゆる天明模本から推測することが多かったが、今回は現本を精査することによって、各図様の内容についても明らかになった。

【年度実績概要】
5 年計画の第 4 年目。10 面のうち第 7 面と第 8 面について、外部の研究者も交え、絵画および染織の専門家が肉眼および拡大写真による入念な調査を行い、まず現状の図様が聖徳太子の事蹟のどの場面をどのように表しているのかを検討し、内容を特定した。また、第 1 年度に調査した第 1･2 面に引き続いて今年度は第 3・4 面の図様の紹介と内容の検討を詳細に示した概報を公刊した。科研の補助金により、第 7 面から第 10 面までの各面を 32 分割（レンズの収差を補正するため、実際は各面 153 カット）で撮影した高精彩デジタル画像を連結して 6 面分の大画像を製作した。18 年度までにデジタル化した X 線写真を同様に連結し、第 1～10 各面の大画像を製作した。

【実績値】
調査および検討会　　5 回（内 4 回は科研費による）
収集資料点数　　デジタル高精細画像　616 点　（科研費による）
　　デジタル高精細連結大画像　4 点　（科研費による）
　　デジタル X 線連結大画像　　4 点　（科研費による）
　　4×5 スチール写真画像　　30 点　（科研費による）
調査概報の刊行　　2 冊


高精細デジタル画像を連結して作成した第 5・6 面

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-01

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
「法隆寺献納宝物聖徳太子絵伝」の調査研究の成果として、17 年度に調査した第 1,2 面、18 年度に調査した第 3,4 面の調査概報を刊行する作業の中で、調査方針を確立し、それにしたがって今年度はポイントを絞った調査を進めることができた。また高精細デジタル画像は 10 面すべてを撮影することができた。多方面の研究者の知見を得ることができ、今後の成果の公刊に反映することが可能となった。

2．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数	調査概報			
判定	A	A	A			

備考
科学研究費補助金を活用して、調査検討会を 6 回開催し、充実した調査および内容の検討ができた。また、デジタルによる撮影を 10 面すべての撮影が完了した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	法隆寺献納宝物の「聖徳太子絵伝」は、美術史上重要な作品であるにもかかわらず、従来、10 面からなる特大画面の詳細な図版が公刊されていなかった。19 年度から始まった概報公刊は今年度で 4 面まで終えることができ、美術史研究に寄与するところは大きい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	5 年計画の中で、調査研究は順調に進んでいる。概報の公刊が 2 年ずつずれるのは当初からの予定である。今後もこのペースを維持しつつ、高精彩デジタル撮影は完了したので、今後は赤外線撮影、顔料分析など科学的な調査の充実をはかりたい。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-02
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2)　特別調査「書跡」第 5 回, 第 6 回（(5)-①-ⅲ）

【事業概要】
平成 20 年 7 月 9 日(水)～11 日(金), 平成 20 年 12 月 10 日(水)～12 日(金)
東京国立博物館における文化財の中の書跡の特別調査。今後の展示や研究の進展の向上に結びつけることを目的とする。昨年度に引き続き当館書跡収蔵品の中の古文書について抽出して調査を 2 回実施した。古文書学に基づき、記載内容の検討, 形式・様式の分類, 使用された料紙の素材分析を行い、1 通ごとの古文書名称の特定作業を行い, 法量計測, 写真撮影など基礎データを収集した。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	学芸研究部長　島谷弘幸

【スタッフ】
松原茂（上席研究員　9 月迄)、高橋裕次（博物館情報課長)、富田淳（調査研究課長)、田良島哲（列品管理課登録室長), 冨坂賢（保存修復課保存修復室長)、丸山猶計（企画課特別展室研究員)、髙梨真行（調査研究課書跡・歴史室研究員)、赤尾栄慶（京都国立博物館学芸部企画室長), 羽田聡（京都国立博物館学芸部企画室研究員)、湯山賢一（奈良国立博物館長)、西山厚（奈良国立博物館学芸部長)、野尻忠（奈良国立博物館学芸部情報サービス室研究員)、藤田励夫（九州国立博物館学芸部博物館科学課保存修復室長)、荒木和憲（九州国立博物館学芸部文化財課資料登録室研究員)、池田寿（文化庁文化財部美術学芸課主任文化財調査官)、横内裕人（文化庁文化財部美術学芸課文化財調査官)、地主智彦（文化庁文化財部美術学芸課歴史資料部門調査官)、梅澤亜希子（文化庁文化財部美術学芸課文部科学技官）

【主な成果】
収蔵古文書のうち、徳川斉昭筆とされる鉛筆書きの書簡について、他機関収蔵の書状と比較して筆跡を検討した結果、紛れもなく斉昭自筆であることが判明した。鉛筆を利用した書状・書付類は幕末に輸入され明治期に入って普及することになるが、幕末と推定される本書簡も時代相を反映したもので貴重である。

【年度実績概要】
昨年度の調査が、家伝文書を中心とした群単位の古文書を対象としたのに対し、本年度は巻子・掛幅や、「マクリ」と呼ばれる非表装の古文書を主な対象として調査を実施した。基本的には、当館の列品番号ごとを単位として、1 通ごとの古文書について法量を計測し、差出・宛所の特定から内容を解析し、無記年の古文書については年代推定を試みた。1 通ごとに古文書の名称を付し、写真をデジタル撮影した。そして可能な限り文字の解読を実施した。また特色ある花押・印判(朱印・黒印)や署名などについては関連する他機関所蔵の古文書との比較検討もあわせて内容解析の一助とした。料紙については、顕微鏡や厚さ計などを用いて使用された原料分析も行った。この調査の結果は当館「情報アーカイブス」を介して、本年度より開始された文部科学省科学研究補助金公開促進費による事業「東京国立博物館古文書データベース」に反映させる（平成 21 年 6 月頃公開予定)。

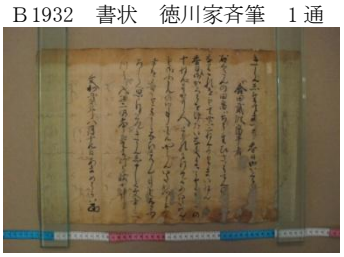
【実績値】
第 1 回　平成 20 年 7 月 9 日(水)～11 日(金)
【調査日数】　3 日間
【調査員・調査補助員】　のべ 42 人
【調査数】　列品数 69 件(古文書数　121 通)
【作成画像数】　381 カット
第 2 回　平成 20 年 12 月 10 日(水)～12 日(金)
【調査日数】　3 日間
【調査員・調査補助員】　のべ 46 人
【調査数】　列品数 73 件(古文書数　198 通)
【作成画像数】　758 カット







B 1932　書状　徳川家斉筆　1 通



B 1722 尼妙海寄進状　1 通

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-02

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	B	A	A	A	

備考
書跡の列品として分類されている古文書について、差出や筆者内容等について新しい情報を付加することに成功した。また所在確認の意味からも 1 通ごとの写真の撮影によってそれぞれの保存状態の把握にもつながった。他機関研究者を含めての調査により分野・時代を超えた学際的な検討が可能となった。

2．定量的評価

観点	調査回数	調査資料数	撮影画像数			
判定	A	A	A			

備考
本年度2回の実施により,所蔵する古文書の約4割の調査が完了したことになる。前年度に対し調査件数(本年度 142 件)、撮影画像数（本年度 1139 カット）の大幅な増加となった。
また本年度より開始した文部科学省科学研究補助金公開促進費による事業「東京国立博物館古文書データベース」による公開の為の情報基盤の確保にもつながり,国内外の研究者への提供が可能となる。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	古文書の内容については今後の平常陳列のキャプションや解説での新たな情報提供のために,より多くのテキストデータの形での解読が必要である。特に次年度以降の対照となるものが中世から近世にかけての書状であるため,文字の解読と内容の把握は必須となることが想定される。 文化庁ならびに国立博物館の専門研究者が一堂に集まり、調査を行い、新知見も得られた。各機関の研究者が集まることで、最新の研究結果を反映させた知見を共有でき、今後の研究および陳列に寄与する点が多い。21 年度以降も継続する。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究事業は、その進捗度、従来の水準を維持しつつ 17・18 年度の写経に引き続き、昨年、本年の古文書調査について順調に実現できたと考える。 調査研究については、今後もこのペースを維持しつつ、目録作成やデータベースの公開にむけて努力し、さらに調査研究の成果を展示に反映することにも力を注ぎたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-03

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	3)　特別調査金地屏風の金箔地についての調査研究―尾形光琳風神雷神屏風を中心に（(5)-①-ⅲ）

【事業概要】
尾形光琳の「紅白梅図屏風」（MOA 美術館蔵）の金地が金箔ではなく、金泥によるものだという調査結果が注目されている。これをうけて、当館が収蔵する光琳の「風神雷神図屏風」をはじめ、各派各時代の金地屏風を、同条件の下で調査し、金地についての客観性のあるデータを蓄積することを目的とする。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課絵画・彫刻室長　田沢裕賀

【スタッフ】
松原茂（上席研究員　9 月迄）、神庭信幸（保存修復課長）、松嶋雅人（列品管理課平常展調整室主任研究員）、荒木臣紀（保存修復課環境保存室主任研究員）、和田浩（保存修復課環境保存室研究員）

【主な成果】
当館収蔵の尾形光琳筆「風神雷神図屏風」を対象として、蛍光エックス線と実体顕微鏡による分析調査を行ない、データの集積を進めた。

【年度実績概要】
当館収蔵の絵画作品の中から、尾形光琳筆の「風神雷神図屏風」を選んで金色部分の化学分析を行なった。本年度は 2 回実施。
第 1 回目の調査では、肉眼観察で金箔の厚さが異なって見える部分数箇所を選んで、蛍光エックス線により金箔と想定される部分のサンプル調査・成分分析を行なった。
第 2 回目の調査では、第 1 回目の調査と同一箇所を選んで、実体顕微鏡による、観察調査を行なった。第 3 回目は、これまでの 2 回の調査結果をふまえて分析結果の検討を行い、調査箇所による Fe の含有比率に違いのあること、顕微鏡写真により紙の繊維の見え方に違いのあることが判明した。

【実績値】

調査回数
化学分析調査　2 回
蛍光エックス線調査　4 ヶ所
顕微鏡写真　5 ヶ所　28 カット撮影
分析結果検討会　1 回

収集資料数
蛍光エックス線調査　4 ヶ所
顕微鏡写真　5 ヶ所　28 カット撮影



金箔地調査風景

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-03

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	B	A	B	B	

備考
本調査は、現在注目されている金地作品の箔使用に関する調査で、多くのサンプルからデータを集めることで、各時代のさまざまな流派の絵画制作上の特徴をより客観的に研究する基礎調査としてきわめて重要なものである。20 年度は、主要作品である尾形光琳筆「風神雷神図屏風」の調査を行なったが、サンプルの収集法などの検討に時間を多く費やした。

2．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数				
判定	B	B				

備考
他の業務との組織的調整が難しく、計画的に調査を組むことが出来なかったものの、実作品を対象とした調査を 2 度行なうことができた。21 年度には、他業務との調整を図り、十分な作業時間を確保することで、より多くの作品を対象とした調査を計画的に実施し、客観的なサンプリング調査となるような量のデータを集めていきたい。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	20 年度の 2 回の調査により、一応の方法論確立とデータ集積をはじめることが出来た。ただし、分析に充分な時間が割けなかったのが今後の課題である。21 年度は、より多くの作品を対象とした調査を実施することで、客観性のあるデータ集積をめざしたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
ほぼ順調	担当者が大きな展覧会準備にかかわって、時間的な余裕がなかったこともあり、年度内の調査時期が遅れ、十分なデータ集積が果たせなかった。業務を整理し、時間を有効に活用できるよう、綿密な計画を立てて調査回数を増やすことで、データ集積をさらに進める必要がある。 今後は、調査・データ集積範囲を光琳以外の作品や、金箔など素材そのものに拡げることで調査の充実をはかりたい。

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-04
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	4)　応挙館障壁画の復元に関する調査研究（今年度は、主に修理未了（まくりの壁画）の障壁画について検討）（(5)-①-ｖ）

【事業概要】
　大日本印刷株式会社の特別協力を得て、応挙館の一の間、二の間の障壁画をすべて、デジタル画像処理によって複製するための調査研究を行い、その成果として複製を完成させ、応挙館の室内空間を復元することによって、一般に公開する。
　とりはずした障壁画については、必要な修理を行い、随時、平常展において一般公開する予定である。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	列品管理課平常展調整室主任研究員　松嶋雅人

【スタッフ】
松原茂（上席研究員　9 月迄）、神庭信幸（保存修復課長）、救仁郷秀明（企画課特別展室長）、田沢裕賀（調査研究課絵画・彫刻室長）、須賀信介（研究支援者・経理課係長（設備担当））

【主な成果】
　現在まくりの状態で保管されている壁画の現状を調査検討し、その概要を把握することで、適切な修理方法を決定するための重要な参考資料を得ることができた。

【年度実績概要】
　大日本印刷株式会社の特別協力を得て、応挙館の一の間、二の間の障壁画をすべて、デジタル画像処理によって複製するための調査研究を行い、その成果として全画面の複製を完成させた。これによって応挙館の室内空間が復元されることによって、一般に公開することが可能となった。
　今年度は、とりはずした障壁画の必要な修理を行い、随時、平常展において一般公開を可能とする適切な修理方法を検討するため、まくりの状態で保管されている壁画の調査を行った。

【実績値】

調査回数：　1 回

まくりの壁画についての全体的な状態を把握：33 枚



竹図壁貼付（書院一之間北側違棚左）



竹図壁貼付（書院一之間北側違棚中）

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-04

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	B	B	A	

備考
　まくりの状態の画面を調査検討することで、江戸後期の水墨画作品にみられる墨、和紙等の素材についての知見が新たに得られた。

2．定量的評価

観点	調査回数					
判定	B					

備考
　今年度は作品調査の回数を十分に確保できなかったため、来年度はより十全な調査を重ねて、修理計画に遺漏ないようデータをさらに収集していきたい。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	まくりの壁画の調査研究を重ねたことにより、とりはずした障壁画の修理実施の方針を立てる上で、重要な参考資料とすることができた。この調査研究により、建築物に付随する障壁画の保存と公開について、汎用できる方法論とデータを得ることができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	今後は、とりはずした障壁画の修理計画の立案、実施のため、適切な修理方法を決定するため、まくりの壁画の調査研究を多角的な方法によって、さらに進めていく。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-05

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	5)　館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究（(5)-①-ⅲ）

【事業概要】

東京国立博物館が所蔵する漢籍・洋書に関する書誌学的調査である。これらは、博物館草創期の明治時代初期に、文部省より引き継いだ江戸幕府旧蔵資料を中心とする資料群よりなっている。また洋書にはドイツ人医師シーボルトより献納された数百冊を含んでいる。詳細調査を実施し、その学術的意義を明らかにする。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	博物館情報課長　高橋裕次

【スタッフ】
田良島哲（列品管理課登録室長）、松田清（客員研究員、京都大学大学院）

【主な成果】
＊ 江戸時代末から明治時代前期の洋書のうち、歴史的意義の深いものについて、調査を行った。
＊ 前年度に調査を行ったオランダ語書籍を中心に、特集陳列を企画して展示するとともに、学術的意義を紹介したパンフレットを作成、配布した。

【年度実績概要】
＊ 前年度のオランダ語書籍に引き続き、本年度は、主として博物館の創始者の一人である田中芳男に関連したフランス語を中心とする洋書の調査を行った。
＊ 平成 20 年 10 月 28 日から 12 月 7 日まで本館第 16 室を会場として、特集陳列「世界への扉―東京国立博物館の洋書コレクション―」を開催し、調査を行った洋書 16 件を公開した。
＊ 特集陳列にあわせて、陳列の内容を紹介するパンフレット（カラー、4 ページ）を刊行した。刊行した 5000 部は会期中に品切れとなった。

【実績値】

調査回数　1 回

論文掲載数　1 件：田良島哲「世界への扉―東京国立博物館の洋書コレクション―」
（特集陳列リーフレット　平成 20 年 11 月 28 日）



メーリアン『スリナム産昆虫変態図譜』

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-05
（様式 2）

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
本調査は江戸幕府旧蔵資料の総合的研究と並行して行っており、特に江戸時代伝来の書籍については伝来を詳細に確認できたことが大きな成果である。今後は、フランス、イギリス、ロシアなどの洋書について、引き続き、詳細調査を実施する予定である。

2．定量的評価

観点	調査回数					
判定	B					

備考
調査成果の公開に重点をおいたこともあり、本年度は集中的な調査が１回であった。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	洋書のうち、オランダ関係についてその全貌を把握した上、その成果を展示の形で公開することができた。調査体制など調査を促進する体制作りを検討したい。また、公開については引き続き実施したい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	館内に専門担当者がいないため客員研究員が主体となっているが、可能な範囲での調査は実施できている。今後は公開成果を基盤に、競争的資金の獲得によるより詳細な調査を促進する方策を検討する。

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-06
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	6)　ガンダーラの仏教寺院の伽藍配置と遺物に関する研究（(5)-①-ⅱ）

【事業概要】
1992 年～2000 年に東京国立博物館で実施したパキスタンにおける考古学調査の成果を総括し、最終的に調査報告書を作成する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	列品管理課平常展調整室長　小泉惠英

【スタッフ】
望月幹夫（特任研究員）

【主な成果】
1995～99 年に実施したザールデリー遺跡の発掘調査の一部を「Zar Dheri: A Buddhist Temple in Hazara Division, Pakistan」、「The finds from Zar Dheri」として発表した。
また、同遺跡の発掘調査報告書を現在準備中である。さらに、本遺跡の遺物を中心とした特別展を米国において開催する計画をパキスタン考古局などと検討中である。

【年度実績概要】
ザールデリー遺跡発掘調査の成果の一部を以下の形で刊行した。
1)「Zar Dheri: A Buddhist Temple in Hazara Division, Pakistan」
『Orientations』vol. 39, no. 7, October 2008 (Orientations Magazine Ltd.)
2)「The finds from Zar Dheri」
『Gandhara -The Buddhist Heritage of Pakistan- Legend, Monasteries, and Paradise』November 2008, (Verlag Philipp von Zabern, Mainz)
ザールデリー遺跡の発掘調査報告書を現在準備中である。本年度は執筆ならびに図版作成を進めた。
また、この調査の成果を示す将来的な計画として、本遺跡の遺物を中心とした特別展を米国において開催する計画をパキスタン考古局などと共同で検討中である。
さらに、1992～96 年までのパキスタン、ハザーラ地方の遺跡踏査の成果について、以下の研究会において口頭発表した。
「パキスタン、ハザーラ地方の仏教遺跡」(「ガンダーラ美術の資料集成とその統合的研究」第 3 回研究会・研究代表者：宮治昭龍谷大学教授)。

【実績値】
論文
1)「Zar Dheri: A Buddhist Temple in Hazara Division, Pakistan」
『Orientations』vol. 39, no. 7, October 2008 (Orientations Magazine Ltd.)
2)「The finds from Zar Dheri」
『Gandhara -The Buddhist Heritage of Pakistan- Legend, Monasteries, and Paradise』November 2008, (Verlag Philipp von Zabern, Mainz)
口頭発表
「パキスタン、ハザーラ地方の仏教遺跡」(「ガンダーラ美術の資料集成とその統合的研究」第 3 回研究会・研究代表者：宮治昭龍谷大学教授)。

【備考】
1)「Zar Dheri: A Buddhist Temple in Hazara Division, Pakistan」
『Orientations』vol. 39, no. 7, October 2008 (Orientations Magazine Ltd.)
2)「The finds from Zar Dheri」
『Gandhara -The Buddhist Heritage of Pakistan- Legend, Monasteries, and Paradise』November 2008, (Verlag Philipp von Zabern, Mainz)

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-06

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	B	A	

備考
当館の実施した海外調査で考古学的な成果も大きく、諸外国の学界からの注目度も高い。

2．定量的評価

観点	論文発表数					
判定	A					

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	報告作成に向けて、関連論文作成にも大いに成果を示している。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
ほぼ順調	遺構、遺物の研究についての研究成果を示している。報告書作成準備についても進行中であるが、当初計画よりもやや遅れが出ている。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-07

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	7)　博物館の環境保存に関する研究（(5)-①-ｉ）

【事業概要】
東京国立博物館における文化財の保存環境及び展示環境について調査研究し、今後の環境の向上に結びつけることを目的として実施する。

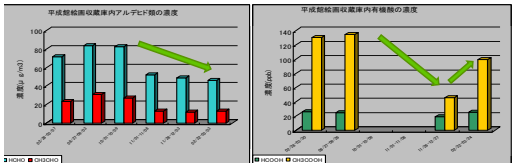
【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復課長　神庭信幸

【スタッフ】
塚田全彦（保存修復課環境保存室長、7 月迄）、荒木臣紀（保存修復課環境保存室主任研究員、11 月から）、和田浩（保存修復課環境保存室研究員）

【主な成果】
館内の展示ケースで発見された紙魚に端を発し、全館的な駆除を緊急かつ段階的に実施することができた。緊急性と周辺への影響を考慮しつつ 1）紙魚を発見した展示ケースおよび展示室の薫蒸、2）講堂およびロビーなどの周辺施設の清掃・薫蒸、3）特別展示室全域の清掃･薫蒸、4）考古展示室の清掃･薫蒸、5）全館的な清掃を段階的に施工し、緊急の防虫対策とした。

【年度実績概要】
ホルムアルデヒドなどのアルデヒド類、酢酸などの有機酸や大気汚染物質である窒素酸化物などに関して、博物館内の空気成分の調査研究を実施し、現状の正確な把握を目指した。アルデヒド類の濃度に関して危険性が高い箇所に関し、その除去法について具体的な検討と部分的な対処を試行的に実施した。温湿度に関しては、測定結果に対応した湿度分布地図を作成し、注意を要する区域の視覚化を行った。輸送中の梱包ケース内の振動・衝撃について、実際の輸送に関して調査を行い、得られた結果を解析して問題点を明らかにした。生物生息に関しては、展示室で発見された紙魚に対する対処から、作品、展示ケース、展示室の殺虫薫蒸および全館清掃を実施した。

【実績値】
研究会発表件数　2 件
　文化財保存修復学会国際学会
　「収蔵庫内の空気成分に関する長期的なモニタリング」
　「温湿度データ管理と自動化のポイント」
論文掲載数　1 件
　　学会予稿集 1 篇所載
調査回数　生物生息調査 1 回、空気環境調査 2 回、
　　外、全館的な湿度調査を継続的に実施



吸着剤の交換と濃度変化

【備考】
神庭信幸、塚田全彦、和田浩、市川佐織、金鐘旭：収蔵庫内の空気成分に関する長期的なモニタリング、文化財保存修復学会第 30 回大会、福岡、2008
神庭信幸、和田浩：温湿度データ管理と自動化のポイント、文化財保存修復学会第 30 回大会、福岡、2008

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-07

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
温湿度、生物生息、振動・衝撃、空気成分に関する計測と、その結果に対応した環境整備を実施した。当初の計画に従い、所定の成果を得ることができている。

2．定量的評価

観点	研究発表件数	論文掲載件数	調査回数			
判定	A	A	A			

備考
文化財保存修復学会第 30 回大会（福岡）において研究成果を公表し、活発な質疑応答を行った。
生物生息調査 1 回、空気環境調査 2 回の外、全館的な湿度調査を継続的に実施。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財を取り巻くさまざまな環境因子について、現実的な状況を具体的かつ正確に把握することが可能になり、事業の改善に役立てながら文化財の安全の確立に寄与している。今後は更なる調査の実施と、現象のメカニズムの解明にも発展させていきたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画通り実施されており、当該年度計画を 100%達成。

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-08
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	8)　東洋民族資料に関する調査研究（(5)-①-ⅲ）

【事業概要】
東京国立博物館が所蔵する約 3500 件の東洋民族資料を対象として、総合的な調査研究をおこなう。従来の台帳の記載内容を踏まえながら形状、材質のほかに、旧蔵者がつけた札や箱書きの内容や保存状態など実際の観察を通してしか分からない情報を、画像とともに一括してデータベース化する。これにより、研究・陳列・保管・修理などに必要な基礎情報を従来より充実した形で整備する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	列品管理課長　谷　豊信

【スタッフ】
澤田むつ代（上席研究員）、小山弓弦葉（調査研究課工芸・考古室主任研究員）、土屋裕子（保存修復課保存修復室主任研究員）、日高慎（保存修復課保存修復室主任研究員）、猪熊兼樹（列品管理課貸与特別観覧室研究員）、川村佳男（調査研究課東洋室研究員）、三笠景子（保存修復課保存修復室研究員）、丸山清志（客員研究員）

【主な成果】
当館所蔵の東洋民族資料に対する総合的な調査を通して、主に 3 つの成果があった。①箱書きや付札の内容などを含む総合的なデータベースの作成により、研究・展示・保存などに必要な基礎情報が従来よりも一層充実した形で整備された。②保存状態も記録したことにより、脆弱な材質でできた資料や劣化しつつある資料のより安全な保管、および遊離していた部分の本体への接合に寄与した。③とくに南太平洋の資料について、民族誌や最新の研究成果と照合することで、過去の台帳の記載内容を補足、修正することができた。

【年度実績概要】
約 3500 件の東洋民族資料のうち、本年度は約 6 割分の調査を完了した。データベースには、各資料の計測値・員数・形状・材質・所在・画像などに加えて、保存状態も入力した。これにより、紙・毛皮・鉄など劣化や錆による変形や損壊がとくに懸念される材質の資料に対して、現状よりもさらに適切な保管方法を考える基礎データが整った。また、当館の東洋民族資料は大部分が明治から昭和初期にかけて入ったため、歴史資料としての側面も具えている。そこで当館収蔵以前の箱書きや札が添えてあれば逐一その内容を記録し、伝来や年代の解明に役立てるようにした。例えば、明治年間の「東宮御下附」による資料には、献納者が採集した場所と年代が附属の箱や札などに記されていることがある。また徳川頼貞寄贈の資料には、京都にあった銅駄人類学研究室の札が掛けられているものが多い。これらの内容を記録することで、資料が皇室や銅駄人類学研究室に入る以前の来歴だけでなく、資料の年代を知る有力な手がかりにもなる。そのうえ、銅駄人類学研究室の札にはかつての登録番号も残されていることが多いので、この番号を記録することにより、同研究室のコレクションが形成されていく過程を復元するためのきっかけにもなる。
東洋民族資料のうち南太平洋の資料については、客員研究員の丸山清志氏の協力のもと民族誌や最新の考古学的成果と照合しながら、より詳細に調査を進めた。当館の東洋民族資料は大部分が明治時代から昭和初期にかけて収蔵されたものであり、収蔵時点で作成された調書にもとづいて編まれた台帳の知見は、当然ながら収蔵当時の情報量や研究水準を超えるものではなかった。そのため、その内容には現在からみると不備や誤りも少なくない。南太平洋の民族資料に対する本年度の調査を通して、帳簿に記載された内容のうち、特に名称と用途に関して補足、修正を加えて一層の充実を目指した。

【実績値】
調査件数　約 2000 件、調書作成点数　約 2000 点、データ入力点数　300 点、
台帳の記載内容に補足・修正を加えた件数　139 件、保管状況を改善した件数　58 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-08

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	B	A	

備考
東洋民族資料が数年以内に東洋館から移動する可能性を見据えて、保存状態・付属品を含む網羅的な調査研究に踏み切った。結果的に来年度からの東洋館耐震補強工事にともなう移動が決定し、時宜に適った調査研究となった。しかし、効率的な調査研究方法の確立に時間がかかった。採集地や材質の異なる資料が混在しているが、館内スタッフや客員研究員の協力を得て、調査研究の正確性を実現することができた。

2．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数				
判定	A	A				

備考
東洋民族資料の 6 割（2000 点）程度を調査した。東洋館の耐震補強工事に備えた業務や特別展の準備などの緊急課題や日常業務と平行しながら、ほぼ週 1 回のペースで実施した。資料の点数と調査のペースを考慮すれば、調査結果についてはデータベース入力までが初年度の限界であり、概報の刊行まではとても手が回らなかった。しかし、調査の主眼を置いた南太平洋の民族資料については、来年度の特集陳列「南太平洋の暮らしと祈り」で成果の一部を還元する。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	東洋民族は当館に専門の担当者がいなかったため、一部を除いて長らく展示も調査も行われなかった。担当者がいたとしても、地域や材質が多岐に渡る同資料を一人で網羅的に調査することは極めて困難だった。幸いにして館内外の専門家の協力のもとグループ体制を整えることで、東洋民族の系統的な調査研究が可能となった意義は大きい。しかし、秋季以降は他業務との関連から週 1 回の調査ペースを維持するのが精一杯となった。調査成果の刊行とあわせて、調査回数の維持・増加と作業の一層の効率化が次年度の課題である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
ほぼ順調	他の業務との兼ね合いを計りながら、調査研究は順調に進んでいる。成果報告の公刊は次年度以降とするのは当初からの予定である。来年度夏以降に予定されている東洋館の耐震補強工事に伴う収蔵品の移動、およびその後の保管状況により、今後もこのペースを維持できるか不安はあるが、調査の一層の効率化と充実をはかりたい。

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-09
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	9)　耐震性の高い展示手法に関する調査研究（(5)-①-ｉ）

【事業概要】
考古・工芸分野の器物の展示手法を中心に、地震による転倒などに関する安全性の見直しを行う。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復課長　神庭信幸

【スタッフ】
塚田全彦（保存修復課環境保存室長、7 月迄）、荒木臣紀（保存修復課環境保存室主任研究員、11 月から）、和田浩（保存修復課環境保存室研究員）

【主な成果】
特別展覧会(「国宝　薬師寺展」「福沢諭吉展」「妙心寺展」)において展示デザインの立案段階から参画し、地震発生時に転倒、落下が生じて損傷を受ける危険性の高い文化財を安全に陳列する手法を提案し、実現化した。
「文化財建造物等の地震対策に関する日中専門家ワークショップ」(文化庁主催、於中国四川省成都市)に参加し当館の活動を報告するとともに、中国国内の地震対策の現状に関する情報収集を行った。

【年度実績概要】
平成館および表慶館における特別展に出品される大型文化財の転倒対策を研究し、実際に安定台を製作して適用した。特に表慶館での特別展においては建造物床下基礎部分の構造調査を行った。調査結果を基に重量の大きい作品を陳列する際の展示プランの立案を行い、作品と展示台とを強固に一体化する工夫を提案し、地震による転倒を予防するための展示を実現化した。平成館での特別展においては免震装置上に陳列される立体物を展示台に固定するための施工管理を中心に活動を行った。
「文化財建造物等の地震対策に関する日中専門家ワークショップ」(文化庁主催、於中国四川省成都市)に参加し「博物館の地震対策」を講演した。講演により当館の活動を報告後、現地博物館職員との討議を通じて中国国内の地震対策の現状に関する情報収集を行った。また、成都市内の三星堆博物館、金沙博物館を見学し、青銅器や土器の展示における耐震対策の現状を視察した。

【実績値】
調査回数　4 回、施工回数　5 回
「国宝　薬師寺展」『日光菩薩像』『月光菩薩像』、「福沢諭吉展」『手古奈』、「妙心寺展」『玩具船』、「阿修羅」『阿修羅像』など、4 回の調査及び 5 件の施工に関し展示支持具設計に対する助言を行い、地震発生時における転倒防止策を講じた。
「文化財建造物等の地震対策に関する日中専門家ワークショップ」(於中国四川省成都市)にて「博物館の地震対策」を講演。三星堆博物館、金沙博物館の見学。



「福沢諭吉展」『手古奈』の展示台

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-09

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
作品を保全するために安全な展示は欠くことができない。一方見やすい展示デザインの追及も必要である。転倒防止のための支持具は両者を併せもつものを目指して検討・製作を行った。当初の計画に従い、所定の成果を得ることができている。

2．定量的評価

観点	調査回数	施工回数				
判定	A	A				

備考
作品ごとに形状や状態が異なることから、それぞれの状態に合わせながらの製作になる。特に、特別展展示における転倒防止策の検討を具体的に実施した。
当館の上記活動を海外において報告し、他館の現状を視察するとともに情報収集を行った。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	転倒を防止する保存安定台を展示室に設置して、安全性の向上を図ることができた。こうした取り組みに関し、今後は検討過程や結果を他館や関連分野の研究者にも公開できるように改善していきたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画通り実施されており、当該年度計画を 100%達成。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-10
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	10)　大型油彩画のロール状保存と木枠に張り込まない展示手法の開発に関する調査研究（(5)-①-vi）

【事業概要】
　大型油彩画を数多く扱うルーブル美術館及びフランスの保存専門家と共同で、科学的な裏づけに基づき、木枠に張り込むことなく、同時に絵具にかかる負担を最小限に抑えながら、場所をとらないようにロール状に巻いて保存する方法の開発と、必要に応じて安全に展示する方法の開発である。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復課長　神庭　信幸

【スタッフ】
塚田全彦（保存修復課環境保存室長、7 月迄）、土屋裕子（保存修復課保存修復室主任研究員）、木島隆康（東京藝術大学大学院教授）、山梨絵美子（東京文化財研究所企画情報部文化財アーカイブス研究室長）

【主な成果】
　京都工芸繊維大学工芸資料館所蔵および京都川島織物資料館所蔵の「武士の山狩」に関する下絵、織見本などの調査を通じ、作品の成立に関する基礎的な情報の収集を行った。また、紙製太巻き軸の開発から得られた方法論が油彩画のロール状保存にも有効であることが確認できた。

【年度実績概要】
- 大型カンバスを支持体とする油彩画「武士の山狩」の制作技術に関する調査。
- 「武士の山狩」2 枚の光学調査（普通光、斜光線、紫外線蛍光、赤外線反射写真撮影）およびそのデータ整理と分析

【実績値】
調査回数
　京都工芸繊維大学工芸資料館における資料調査 1 回
　京都川島織物資料館における資料調査 1 回

研究会発表件数　1 回
　文化財保存修復学会 30 回大会
　「簡易万能型の太巻芯の活用―博物館における対症修理」

論文掲載数
　文化財保存修復学会 30 回大会予稿集 1 篇所載


京都工芸繊維大学工芸資料館における資料調査

【備考】
　鈴木晴彦、本多聡、米倉乙世、神庭信幸、土屋裕子、松田麻美：簡易万能型の太巻芯の活用―博物館における対症修理、文化財保存修復学会 30 回大会予稿集、2008 年 5 月 17･18 日、福岡

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-10

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
国内の残る「武士の山狩り」に関する関連資料の調査を通じ、作品の制作技術に関する基礎的情報の収集を行うことができた。当初の計画に従い、所定の成果を得ることができている。

2．定量的評価

観点	研究発表件数	論文掲載件数	調査回数			
判定	A	A	A			

備考
昨年度の撮影によって得た高精度デジタル映像の合成を行い、作品の制作技術や保存状態に関する解析を実施した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	作品の対症修理を実施しながら、本格修理に必要な修理設計の検討を行った。作品の状態、制作技術など種々の情報を得るための事前調査も予定通り進行している。調査検討結果に基づき、修理設計を行う予定である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画通り実施されており、当該年度計画を 100％達成。

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-11
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	11)　韓国国立中央博物館所蔵の高麗漆器の保存に関する国際共同研究（(5)-①-ⅱ）

【事業概要】
韓日両国の国際共同研究による高麗螺鈿漆器の修理・復元事業は、劣化・崩壊した漆器に対して、両国で蓄積された研究および技術的ノウハウを適用し、漆器の本来的価値をだれもが認識可能な状態に回復し、公開することが目的である。本事業の研究プロセスは、高麗漆器の再評価にとどまらず、韓日の保存修理および復元複製に関し、理念と技術の両面において一層の発展をもたらす。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復課長　神庭信幸

【スタッフ】
北村謙一（重要無形文化財保持者・漆工品修理）、室瀬和美（重要無形文化財保持者・目白漆芸文化財研究所代表）、岡田文男（京都造形芸術大学教授）

【主な成果】
数百の小片に分かれた断片の詳細な観察を通じて、各小片の位置、箱の形状及び寸法、木地及び塗膜の構造、顔料の種類、螺鈿・描金の組成などについて多数の知見を得ることができた。

【年度実績概要】
科学調査の実施：破損した漆器に対して、可能な限りの科学的調査と分析を実施し、制作材料および方法などを明確化する。
調査結果の評価：調査結果を分析・検討し、崩壊以前の寸法や表現などの状態の正確な推定、制作材料および技法の全容の解明、精度の高い制作年代の推定を行う。中央博と日本側が共同で行う。
修理仕様の策定：調査結果に基づき、修理後の外観をどの程度まで復元するか、断片の強化・クリーニング・変形修整の方法、強化後の断片の接合方法、接合した断片を箱状に保持する方法など、修理仕様を策定する。

【実績値】
現地ソウルにて漆器現品の詳細調査 1 回、国内での検討会 1 回、京都にて関連作品の修理に関する調査 1 回を開催。日本側の検討結果をまとめた中間報告書を韓国中央博物館に提出。


高麗螺鈿漆器の調査

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-11

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
　極めて希少な漆工品遺物である高麗漆器の破片残片に関して、漆工品の保存修理および分析の国際専門家チームによって共同調査及び研究を行い、遺物の保存指針のみならず、具体的な修理について検討を実施した。

2．定量的評価

観点	調査回数					
判定	A					

備考
　現地ソウルにて漆器現品の詳細調査 1 回、国内でのこれまでの調査の総括のための検討会 1 回を開催。また、京都にて関連作品の修理に関する調査を 1 回開催。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	調査成果は中間報告書として次年度に韓国中央博物館から刊行の予定である。漆塗膜、顔料、描金、螺鈿、木地、下地、布などについて詳細なデータを得ることができ、劣化以前の状態の復元が可能になりつつある。また、修理および復元製作のための方法論、材料などの検討も進み、具体的な修理着手への準備は整いつつある。次年度では、修理仕様の確定を目指している。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画通り実施されており、当該年度計画を 100%達成。

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-12
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	12)　法隆寺献納宝物聖徳太子絵伝の調査研究（科学研究費補助金）（(5)-①-ⅲ） ［1)　特別調査法隆寺献納宝物（第 30 次）「聖徳太子絵伝」第 4 回（(5)-①-ⅲ）と共同で実施］

【事業概要】
聖徳太子の事績を描いた日本最古の遺品である「聖徳太子絵伝」（もと法隆寺絵殿の障子絵）の制作について、本紙（立涌文綾）、彩色など、制作当初（1069 年）の姿がどのようなものであったかを、肉眼観察および科学的な分析によって調査研究する。科学研究費補助金（基盤研究 A）による「法隆寺献納宝物聖徳太子絵伝の調査研究」とリンクさせる。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	上席研究員　原田一敏

【スタッフ】
松原茂（上席研究員 9 月迄）、澤田むつ代（上席研究員）、島谷弘幸（学芸研究部長）、神庭信幸（保存修復課長）、救仁郷秀明（企画課特別展室長）、田沢裕賀（調査研究課絵画・彫刻室長）、沖松健次郎（企画課出版企画室主任研究員）、松嶋雅人（列品管理課平常展調整室主任研究員）、小林達朗（調査研究課絵画・彫刻室主任研究員）、小山弓弦葉（調査研究課工芸・考古室主任研究員）、和田浩（保存修復課環境保存室研究員）、若杉準治（京都国立博物学芸部列品管理室長）、谷口耕生（奈良国立博物館学芸部保存修理指導室研究員）、中野照男（東京文化財研究所副所長）、村重寧（早稲田大学名誉教授）、東野治之（奈良大学文学部教授）、早川泰弘（東京文化財研究所保存修復科学センター分析科学研究室長）、朝賀浩（文化庁文化財部美術学芸課文化財調査官）

【主な成果】
本太子絵伝の本紙（画絹）は、平絹のほか、立涌文様の綾が使用されていたことが知られていたが、今回の調査によって新たに花菱文様の綾布があることがわかった。また、図様については天明 6 年、吉村周圭によって描かれた現舎利殿壁面のいわゆる天明模本から推測することが多かったが、今回は現本を精査することによって、各図様の内容についても明らかになった。

【年度実績概要】
5 年計画の第 4 年目。10 面のうち第 7 面と第 8 面について、外部の研究者も交え、絵画および染織の専門家が肉眼および拡大写真による入念な調査を行い、まず現状の図様が聖徳太子の事蹟のどの場面をどのように表しているのかを検討し、内容を特定した。また、第 1 年度に調査した第 1･2 面に引き続いて今年度は第 3・4 面の図様の紹介と内容の検討を詳細に示した概報を公刊した。科研の補助金により、第 7 面から第 10 面までの各面を 32 分割（レンズの収差を補正するため、実際は各面 153 カット）で撮影した高精彩デジタル画像を連結して 6 面分の大画像を製作した。18 年度までにデジタル化した X 線写真を同様に連結し、第 1～10 各面の大画像を製作した。

【実績値】
調査および検討会　　5 回（内 4 回は科研費による）
収集資料点数　　デジタル高精細画像　616 点　（科研費による）
デジタル高精細連結大画像　4 点　（科研費による）
デジタル X 線連結大画像　　4 点　（科研費による）
4×5 スチール写真画像　　30 点　（科研費による）
調査概報の刊行　　2 冊


高精細デジタル画像を連結して作成した第 5・6 面

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-12

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
「法隆寺献納宝物聖徳太子絵伝」の調査研究の成果として、17 年度に調査した第 1,2 面、18 年度に調査した第 3,4 面の調査概報を刊行する作業の中で、調査方針を確立し、それにしたがって今年度はポイントを絞った調査を進めることができた。また高精細デジタル画像は 10 面すべてを撮影することができた。多方面の研究者の知見を得ることができ、今後の成果の公刊に反映することが可能となった。

2．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数	調査概報			
判定	A	A	A			

備考
科学研究費補助金を活用して、調査検討会を 6 回開催し、充実した調査および内容の検討ができた。また、デジタルによる撮影を 10 面すべての撮影が完了した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	法隆寺献納宝物の「聖徳太子絵伝」は、美術史上重要な作品であるにもかかわらず、従来、10 面からなる特大画面の詳細な図版が公刊されていなかった。19 年度から始まった概報公刊は今年度で 4 面まで終えることができ、美術史研究に寄与するところは大きい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	5 年計画の中で、調査研究は順調に進んでいる。概報の公刊が 2 年ずつずれるのは当初からの予定である。今後もこのペースを維持しつつ、高精彩デジタル撮影は完了したので、今後は赤外線撮影、顔料分析など科学的な調査の充実をはかりたい。

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-13
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	13)　日本における木彫像の樹種と用材観に関する調査研究（科学研究費補助金） （(5)-①-ⅱ）

【事業概要】
　日本に現存する仏像、神像等の木彫像の樹種について調査研究し、日本特有の木の文化、歴史の理解を深めることを目的として実施する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	特任研究員　金子啓明

【スタッフ】
浅見龍介（企画課出版企画室長）、丸山士郎（博物館情報課情報管理室長）、和田浩（保存修復課環境保存室研究員）、能城修一（森林総合研究所木材特性研究領域樹種識別担当チーム長）、藤井智之（森林総合研究所関西支所長）

【主な成果】
　今年度は岐阜県の神社三ヵ所に所蔵される神像を調査し、美術史的基礎データ、写真データ、樹種の科学的識別のための木片資料の収集を実施した。韓国では木彫像を見学し、国立中央博物館の研究員と調査を実施する方法について協議した。

【年度実績概要】

岐阜県関市高賀神社の平安時代の神像 16 躯、高山市の飛騨一宮水無神社の平安から室町時代の神像 50 躯、高山市荒城神社の神像 3 躯を調査し、美術史的基礎データ、写真データ、樹種の科学的識別のための木片資料の収集を実施した。樹種の分析については森林総合研究所の能城が担当し、現在分析中である。これらの神像は、いずれも様式的には京都の像の作風を反映しながら、やや簡素化しており都との距離を示している。森林も近く、地域的な特色もあるだろうが、3 ヵ所の異なる神社において多数の神像を調査したことにより、美濃、飛騨地方については把握できたと言ってよい。樹種の分析結果を待って、成果を発表したい。
　韓国には木彫像が少ないこともあって、従来研究が進んでいない。植生が異なるので単純に比較できないが、周辺国として把握しておきたい。彫刻に適した材として日本から輸出した木材を使用している可能性もある。韓国の木彫像の多くが寺院所蔵であるため、日本の研究者だけでは調査することは不可能である。国立中央博物館と連携して実施する方向で協議を開始した。

【実績値】

調査作品件数
　全 68 件
　　神像 64 件　仏像 4 件
写真データ　830 点
木片資料　　120 点

論文掲載数　1 件
　金子啓明「日本の木彫像の樹種と用材観」
　（『木の文化と科学』海青社　平成 20 年 4 月 30 日）



女神坐像（岐阜・高賀神社

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-13

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	B	A	

備考
神像彫刻は非公開のものが多いが、近年神社側の方針転換により調査を受け容れる神社も出てきた。日本固有の文化としての神の研究が求められているのであろう。神と木は密接な関係があり、神像の調査研究は今後注目を集めると考えられる。ただし、調査の許可を得るまでに時間がかかるため、調査日程に非効率なところがあるのは否めない。早い段階での所蔵者との交渉が必要である。

2．定量的評価

観点	調査作品件数	収集資料数				
判定	A	A				

備考
神像彫刻は非公開のものが多く、調査も困難である。神像調査の 64 件は異例の数字といえる。また、各像について詳細な写真データと、木片資料が得られた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	神像彫刻については所蔵者が非公開とする例が多く、美術史的調査が充分には行き届いていない。また、樹種の科学的識別についてはほとんど実施されていない状況にある。今回は昨年とは異なる地域に調査を設定し、これまで調査が充分でない作品について実地調査し、木片資料を得ることが可能となった。これまでの調査の蓄積に基づき 21 年度には成果を詳細に分析し、公表する必要があると認識している。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	4 年計画の中で、調査研究は順調に進んでいる。今後もこのペースを維持しつつ、さらに年輪年代分析なども取り入れ、科学的な調査の充実をはかりたい。

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-14
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	14)　書画料紙の加工法及び保存に関する基礎的研究（科学研究費補助金）（(5)-①-ｖ）

【事業概要】
国内外に所蔵される東アジアの書道史に関わる作品について、1 点ごとに詳細な書誌や伝来などの情報と、デジタル画像を収集する。さらに、科学機器を用いて、料紙の技法、変遷、使用法を実証するとともに、時代による書風の特徴やその変化などを調査研究する。また、作品の修理にともなうカルテなどの情報から、さらに詳しい分析を行う。これらによって、書の作品の存在意義を、料紙と書風という二つの側面から科学的に解明し、料紙と書風の相関関係をも考察する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	学芸研究部長　島谷弘幸

【スタッフ】
松原茂（上席研究員　9 月迄）、高橋裕次（博物館情報課長）、富田淳（調査研究課長）、神庭信幸（保存修復課長）、丸山猶計（企画課特別展室研究員）、和田浩（保存修復課環境保存室研究員）、赤尾栄慶（京都国立博物館学芸部企画室長）

【主な成果】
東京国立博物館・陽明文庫・大阪市立美術館などに収蔵されている作品で、装飾料紙を用いた写経・古筆・典籍を中心に、一部古文書なども含め、展示履歴などによって把握できる情報をもとに、調査対象となる作品のリスト作成と調査対象の絞り込みを行った。今年度の主な調査対象は、写経と古筆であり、作成したリストをもとにデジタル写真撮影と、作品の筆跡および料紙に関する基礎調査を実施した。また、入木道関係の古文献資料のデジタル化を行った。

【年度実績概要】
1. 東京国立博物館所蔵の装飾料紙作品の調査とデータ化
昨年度に引き続き、東京国立博物館が所蔵する装飾料紙作品の調査とデータ化を行った。今年度は、その成果をもとに、特集陳列「装飾料紙と鑑賞料紙」と題して本館特別 1 室を使って約 20 件の代表的な作品の展示を行い、配布資料も作成してデータの公開をはかった。
2. 特別展に関係する作品の調査とデータ化
本年度、東京国立博物館で開催した特別展「大琳派展」においては、本研究と関係の深い作品が一堂に展示された。それらの作品についても、詳細なデータを収集した。
3. 他機関への調査
今年度は、京都・陽明文庫、大阪・大阪市立美術館、韓国・中央博物館、台湾などに出張し、他期間の所蔵する装飾料紙を用いた写経・古筆・典籍等の調査を行なった。許可の出た作品に関しては、東京国立博物館内部での調査と同様に、顕微鏡による料紙の拡大画像の撮影を行い、データの充実をはかった。

【実績値】
特集陳列「装飾料紙と鑑賞料紙」（本館特別 1 室、平成 20 年 11 月 5 日～12 月 14 日）を開催
研究会などでの発表
島谷弘幸「仮名の成立と古筆の美」社団法人　日本交通協会　平成 20 年 7 月 4 日　ほか全 7 件
論文掲載数
島谷弘幸『文人の書』（『日本の美術』504 号、至文堂、平成 20 年 5 月 10 日）　ほか全 7 件
調査件数　50 件、写真撮影点数　150 点、データ入力点数　300 点、文献資料のデジタル化　5 件

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-14
（様式 2）

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
本研究は 2 年目にあたり、調査方針の再検討も行ったが、その調査方法は確立してきたと言える。その方法にしたがって他機関においてもすみやかに調査を進めることができた。科学研究費を使用して、協力者を増やし、より多くの情報を得ることができた。

2．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数				
判定	A	A				

備考
科学研究費補助金を活用して、国内での出張調査に加えて、韓国や台湾への調査が実施できた。さらに、他機関においても、ほとんどの場合顕微鏡による料紙の拡大写真を撮影し、装飾料紙に関するより詳細なデータを得ることができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	東アジアの書道史に関わる膨大な資料を有する博物館の特徴を生かした調査を実施して、その成果を特集陳列で公開した。光学顕微鏡などの科学機器を用いた客観的なデータを広く収集して、調査の内容をさらに充実したものにすると同時に、さらなる成果を刊行物などで公開していく方針である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	中国、韓国など、これまでの博物館の国際交流の実績を反映して、海外においても、東アジアの書道史に関わる資料の調査を今年度は行うことができた。その調査を継続的に行っていく必要がある。また、今後も所在情報や、調査方法について、相互に連絡を取り合っていきたいと考えている。

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-15
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	15)　目録学の構築と古典学の再生（科学研究費補助金）((5)-①-ⅱ)

【事業概要】
日本古典学の研究基盤再生のための新しい学問領域として、日本独自の「目録学」を構築し、天皇家・主要公家文庫のデジタル画像を蔵書群毎に集積し、蔵書目録等を利用してその旧蔵形態を共時的に復原するとともに、伝統的な知識体系の構造や具体相を解明することを目的とする。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	列品管理課登録室長　田良島哲

【スタッフ】
島谷弘幸（学芸研究部長）、福原紗綾香（調査研究課研究支援者）

【主な成果】
1　明治時代に館蔵となった菊亭家（今出川家）旧蔵の古典籍類について、前年度に引き続き調査を行い、詳細な目録を作成した。
2　館蔵の歴史資料を精査し、特に公家文化の実態を示す画像資料の残存状況を確認した。これらについては、次年度以降詳細な調査やデジタル画像作成を計画している。

【年度実績概要】
1　菊亭家旧蔵古典籍類は、明治 26 年（1893）に同家から博物館が入手したもので、歌書、史書、日記類、部類記など 100 余件、約 780 点が含まれる。多くは蔵書印からその伝来が知られていたが、今回の調査で館史資料に含まれていた受入時の目録と照合し、蔵書印のないものも含め、現存する菊亭本の全貌を明らかにすることができた。さらに形状、寸法、本奥書を含む奥書等をすべて調査し、基礎的な情報を確定した。いずれも江戸時代の良質の写本であり、本研究に寄与するところ大である。
2　館蔵に含まれる歴史資料のうち、公家の儀式や調度に関する画像資料を調査した。これまで確認したところでは、江戸時代から明治時代にかけての装束、輿車、舞楽等に関する写生図類が多く見られる。次年度はこれらの資料について詳細な調査を行う予定である。

【実績値】

菊亭家旧蔵古典籍 110 件 787 点について詳細目録作成。

歴史資料のうち画像資料類 116 件について、現状を確認。

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-15

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
本創成研究にふさわしい素材を選定し、古典籍の研究として必要十分な基礎情報を蓄積し、今後の発展的研究に備えることができた。

2．定量的評価

観点	調査回数	調査資料数				
判定	A	A				

備考
研究支援者が日常的に目録の作成支援に従事し、目標とした菊亭家旧蔵古典籍類の目録を完成することができた。目録については刊行に向けて、原稿を準備した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	当館の歴史資料・和書類は多数にのぼるが、詳細な調査が行われたものは少なく、今回の科学研究費による調査を通じて、詳細情報を蓄積することができた。同時に本創成研究に対して、その趣旨にふさわしい基礎的な知見を提供した。次年度以降も関連する歴史資料・和書について積極的に調査を進める体制を作ることができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画どおり推移している。

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-16
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	16）国立博物館の機能と役割の変遷に関する基礎的研究－館史資料の分析を中心に－（科学研究費補助金）（(5)-①-ⅲ）

【事業概要】
東京国立博物館では、2,046 件が館史資料として登録されている。内容は日本における博物館の歴史そのものであり、昭和 25 年(1950)に文化財保護法が施行され、文化財保護委員会が設置されるまで、日本の文化財保護行政の中心に位置した博物館のあり方を検討する際の貴重な資料である。本研究では、これらの資料について調査を実施し、その細目などを明らかにして、今後の博物館学研究の指針となるべき資料を整理、分類、分析し、研究の成果を一般に公開していくことを目標とする。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	博物館情報課情報管理室長　丸山士郎

【スタッフ】
島谷弘幸（学芸研究部長）、高橋裕次（博物館情報課長）、木下史青（企画課デザイン室長）、鬼頭智美（企画課国際交流室長）、白井克也（博物館教育課教育講座室長）、伊藤嘉章（九州国立博物館学芸部企画課長）

【主な成果】
東京国立博物館が保管している、列品録、列品台帳、収蔵品目録、東京国立博物館刊行物を中心に、館蔵品の収蔵にかかわる経緯等の調査を実施した。また、収蔵作品の調査を実施した。

【年度実績概要】
1. 東京国立博物館館蔵品の収蔵にかかわる経緯等の調査
館蔵品の中でもとくに、近代彫刻の収蔵経緯等について、東京国立博物館が保管している資料を使用して、調査を行なった。その成果は、来年度発行予定の刊行物にて報告する予定である。また、東京国立博物館の歴史に深く関わりを持つ作品の収蔵経緯等の調査も行なった。たとえば、明治 20 年代に博物館も関係し臨時全国宝物取調が行なわれたが、その際に博物館が宝物取調の結果から模写・模造作品を制作した。それらの模写・模造の多くが現在東京国立博物館に保管されており、彫刻では竹内久一、森川杜園など、絵画では横山大観、菱田春草などの現在は大家とされる作家の模写・模造作品で貴重である。これらの収蔵経緯等を調査し、データ化を行なっている。
2. 収蔵作品の調査
館蔵品の収蔵経緯等を調査すると同時に、作品本体の調査も行なった。近代彫刻に関する作品の調査は、やはり来年度発行の刊行物にその成果を反映させる予定である。また、東京国立博物館が開館と定める明治 5 年（1872）に行なわれた湯島聖堂博覧会には、当時博物館に勤めていた蜷川式胤による模写作品がたくさん出品された。それらの模写作品の多くは、博覧会の時点で博物館に寄贈されている。これら蜷川の模写作品には、いつどこで模写したものなのか記載されていることが多いため、作品本体の調査を行なうとともに、それらをデータ化している。それは、初期の博物館職員がどのような活動を行なっていたのかを知る上で重要なデータとなるであろう。

【実績値】
作品調査　　15 件
列品録　　デジタル化　30 件
刊行物のデジタル化　63 冊

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-16

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	B	

備考
デジタル化した文字データについては、さらに校正の必要がある。

2．定量的評価

観点	調査件数	デジタル化件数				
判定	A	A				

備考
列品録等の文献調査、作品調査は随時おこなっている。作品の写真は、当館ホームページのカラーフィルム検索でも公開した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	当館の収蔵品の収蔵に関する情報はこれまでほとんど調査されてこなかったが、当研究によって一部ではあるが明らかとなった。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	3 年計画の中で、調査研究は順調に進んでいる。来年度は成果をまとめた報告書を刊行する。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-17

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	17)　博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究（科学研究費補助金）((5)-①-ⅳ)

【事業概要】
保存と公開という博物館の使命を持続的なものとするためには、あらゆるリスクを予測し、リスクを回避するための対策を事前に講じることによって、高い安全性に裏付けられた活動へと博物館を質的に転換する必要がある。そのためには、従来行われてきた基礎研究及び個別的対処を統合し、機動的かつ実効的な臨床保存学を確立する必要がある。その具体的な方法論としてトータルケアシステムの構築について研究を行う。

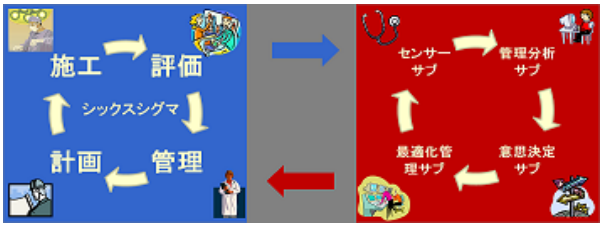
【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復課長　神庭　信幸

【スタッフ】
塚田全彦（保存修復課環境保存室長、7 月迄）、荒木臣紀（環境保存室主任研究員、11 月から）、土屋裕子（保存修復課保存修復室主任研究員）、和田浩（保存修復課環境保存室研究員）

【主な成果】
これまでに集積した各種のデータを博物館の空間と関連付けて保存・検索できるデータ活用システムの構築に着手した。具体的には、1）作品の状態に関わる保存カルテ、貸与点検調書、修理報告書、2）作品の組成に関わる X 線透過写真、蛍光 X 線分析データ、顕微鏡写真、3）作品を保管・展示する環境に関わる温湿度、生物生息、空気環境、4）作品や関連資材の所在情報のデータベース化である。

【年度実績概要】
東京国立博物館が所蔵する文化財コレクションに対して、基礎研究に留まらず、臨床研究としての保存科学を実践するため、平成 10 年度からさまざまな手段、方法論、処置法、装置類（コンサーヴェーション・ツール）を開発・整備してきた。それらは測定（Measure）、分析（Analysis）、改善(Improve)、管理（Control）という 4 つの段階に分類される。これまでに開発した保存管理手法は、1)履歴・環境情報の収集と解析に時間を要する、2)将来予測と改善策の立案が困難であり、その結果として正確かつ円滑な実践を阻害する。本年度は履歴・環境情報の収集と解析に関して、データの意味づけ、保管・活用の仕方について、実践を通じた研究を行った。

【実績値】
研究会発表件数　2 件
　国際学会「IIC2008 on Conservation and Access, London」1 回
　「Measurement and Analysis of Global Transport Environment Of Packing Cases for Cultural Properties」
　国際学会「ISTA 2008, Beijing」1 回
　「Transportation of Cultural Properties」
論文掲載数
　書籍共著「臨床保存学について」1 篇所載
　国際学会予稿集　　2 篇所載



輪唱 保存学支援システムの概念図

【備考】
Nobuyuki Kamba, Hiroshi Wada, Masahiko Tsukada, Yoshihiro Takagi, and Ken Imakita : Measurement and Analysis of Global Transport Environment Of Packing Cases for Cultural Properties, IIC London Conference 2008, Conservation and Access, 15-19 September, 2008

Nobuyuki Kamba, Masahiro Takagi: Transportation of Cultural Properties, 2008 ISTA-China Packaging Symposium, Beijing, October 20-22, 2008

神庭信幸：臨床保存学について、『博物館への挑戦－何がどこまでできたのか』、日高真吾・園田直子編、p34-44、三好企画、2008

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-17

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
作品の状態、履歴及び環境の情報の収集と解析に関して、実践を通じた研究を行った。当初の計画に従い、所定の成果を得ることができている。

2．定量的評価

観点	研究発表件数	論文掲載件数	研究計画・方法			
判定	A	A	A			

備考
科学研究費補助金（基盤（S）（平成 20 年～24 年））を活用して、データ管理サブシステム構築のために集積したデータの規格化、データ分析サブシステム構築のためにシステム設計、センサーサブシステム構築のために二次元バーコードによる所在管理手法の導入を実施。また、一部成果を共著にて刊行および国際学会にて 2 回の発表を行った。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	保存と公開を実践しつつ、安全性をより向上させるために、現状の解析と改善を具体的に実施し、臨床保存学の具体的な機能が明確化できた。現在構築中の支援システムの精度の向上を図ると同時に、将来予測に立脚した現状判断が可能なように、目標とするシステムの確立を目指したい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画通り実施されており、当該年度計画を 100%達成。

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-18
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	18)　東京国立博物館所蔵・正倉院関係資料の研究（科学研究費補助金）((5)-①-ⅲ)

【事業概要】
東京国立博物館(以下、東博)が所蔵する約 1,300 点の正倉院の染織品〈以下、正倉院裂〉(一部法隆寺の染織品を含む)である正倉院裂の調査とデータ収集を目標とする。東博は、明治 5 年(1872)の正倉院開封以来、昭和 22 年 (1947) まで正倉院宝物の管理に関わってきたため、明治時代の正倉院宝物の修理に関する資料等、正倉院宝物の模写・模造、古写真、展覧会の記録、出版物を所蔵する。それら東博所蔵資料の調査や、宮内庁書陵部・奈良国立博物館(以下、奈良博)等の所蔵する関係資料も調査とデータ収集を行なう。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	上席研究員　澤田　むつ代

【スタッフ】
高橋裕次(博物館情報課長)、浅見龍介(学企画課出版企画室長)、丸山士郎（博物館情報課情報管理室長)、西山厚(奈良国立博物館学芸部長)

【主な成果】
東博が所蔵する正倉院裂の全体の約 8 割の写真撮影を行なった。写真撮影はデジタルカメラで行ない、全体と一部の作品については拡大画像を撮影している。また、正倉院関係資料の調査も行なった。東博所蔵の資料のデータ収集と、奈良博が所蔵する関係資料のデータを収集した。

【年度実績概要】
1. 東博が所蔵する正倉院裂の調査・データ収集
東博が所蔵する約 1,300 点(一部法隆寺裂を含む)の正倉院裂のうち、全体の 3 割まで、現状、法量、品質形状、銘記、修理等の調査と記録を行なった。また調査と同時に、デジタルカメラによる写真撮影（全体図、拡大図）を行ない、公開に備えている。
2. 東博他で所蔵する正倉院関係資料の全体像の把握
東博においては、その草創期から現在にいたるまで、正倉院に関わる様々な資料を保管している。まずは、それらの資料の全体像の把握につとめた。東博所蔵の関連資料に関しては、デジタルカメラによる記録写真の撮影を始め、その資料の概要に関するデータも収集し始めている。
さらに、東博以外の機関が所蔵する正倉院関係資料に関しての把握も行なった。とくに奈良博においては、その歴史においても正倉院との関連が深く、まずは、明治時代の古い資料に関するデータ収拾を行なった。同じく、宮内庁書陵部が所蔵する関係資料の全体像の確認を行なった。

【実績値】
1. 写真撮影
正倉院裂の新規デジタル写真撮影　1150 枚
正倉院関係資料　記録写真撮影　150 枚

2. 研究発表数　1 件
講演会：澤田むつ代「飛鳥・奈良時代のさまざまな染織技法－現在の染織技法の基－」(平成 21 年 2 月 28 日、於：九州国立博物館)


正倉院御物写より

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-18
（様式 2）

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
代表者澤田が以前執筆した論文「正倉院頒布裂」のデータをもとに、効率よく正倉院裂の調査を行なうことができた。科学研究費補助金によって、奈良博の研究者の協力を得ることができ、奈良博での調査もすみやかに行なうことができた。

2．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数				
判定	A	A				

備考
科学研究費補助金を活用して、正倉院裂や模造品等の調査を 8 回以上行ない、充実した調査および内容の検討ができた。また、デジタルによる新規撮影が順調に進んでいる。さらに、東博・奈良博所蔵の関係資料のデータ収集も行なうことができた（一部 21 年度に継続）。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	東博所蔵の正倉院裂は、美術史・染織史上重要な作品であるにもかかわらず、従来、詳細な図版が公刊されておらず、その存在もほとんど知られてこなかった。本研究では、その多くのデータを収集しているところである。正倉院裂の調査の回数を増やし、全体像を把握するとともに、類裂との照合、模造品との対比等を行ない、図版の公開に備える。同時に正倉院に関わる資料等も一括してまとめることが今後の課題である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	3 年計画の中で、調査研究は順調に進んでいる。正倉院裂の図版と資料の公開を目指すとともに、今後もこのペースを維持しつつ、さらに関係資料のデータの充実をはかりたい。

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-19

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	19)　東京国立博物館所蔵写真資料データベース（科学研究費補助金）((5)-①-ⅲ)

【事業概要】

東京国立博物館では、江戸時代末から昭和初期にかけて撮影された 15,000 点余りにのぼる写真資料を所蔵している。これらの写真資料については、以前より外部の機関や研究者から利用の要望があるにもかかわらず、画像を簡便に確認するすべがなかった。本事業では画像データベースを作成し、各分野に寄与できる研究資料としてウェブ上で一般に公開することを目的とする。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課長　富田　淳

【スタッフ】

冨坂賢（保存修復課保存修復室長）、高梨真行(調査研究課書跡・歴史室研究員)、藤瀬雄輔（列品管理課映像作製室員）

【主な成果】

『東京国立博物館所蔵幕末明治期写真目録』の刊行により、鶏卵紙による主要な写真の公開は行われているが、この目録には収録されておらず、貴重でありながらほとんど知れることのなかった写真を整理し、公開することができた。その中で小川一真撮影による「北京城写真」の公開では「紫禁城写真展」（東京都写真美術館・平成 20 年 3 月 29 日～5 月 18 日）の開催にあたり、大きな役割を果たした。

【年度実績概要】

『東京帝室博物館美術課列品写真目録』(大正 8 年刊行)、『東京国立博物館所蔵幕末明治期写真資料目録 1～3』(平成 11･12･14 年刊行)に基づき、写真資料の撮影およびデータ入力を行った。今年度は文久 2 年(1862)、江戸幕府がオランダに派遣した内田正雄によって将来された『万国写真帖（PHOTOGRAPHISCH WERRELD ALBUM)』（全 21 冊）を中心に、明治 29 年（1896）に日本の宝物写真と交換に、ルーブル博物館から寄贈された「ミロのヴィーナス」やミレー「落穂拾い」などの博物館の収蔵品の写真や、明治 8 年（1875)、墺国博覧会事務局から引き継いだフランスやイタリアの景観写真『仏国写真帖(VUES DE PARIS)』、『北伊太利写真帖(NORTHERN ITALY)』『南伊太利写真帖（SOUTHERN ITALY)』など、主に諸外国で撮影された文化財、景観、風俗写真を対象とした。撮影は写真資料の体裁、装丁を明らかにするため、全紙撮影、台紙の裏面、またアルバム等では表紙、見返し、白紙を含む全頁撮影を原則とし、文字データは画像番号、名称、撮影者、法量、品質形状、時代、員数、墨書、備考（題箋、付箋、印章、特記事項）について制作した。また、検索システムでは、上記の項目による詳細検索のほか、新たに分類別検索を設け、撮影場所、アルバム名、撮影者からの検索を可能とした。

【実績値】

写真撮影およびデータ作成資料点数　約 4,600 件
（内訳）　万国写真帖　約 2,300 件
　　ルーブル美術館寄贈写真　約 100 点
　　伊国威内斯ヘネーシック夜景・ヴェニス風景　約 30 件
　　北伊太利・南伊太利写真帖　約 300 件
　　仏国写真帖　約 90 件
　　その他風景写真　約 20 件
　　文化財写真　約 1760 件
公開画像　約 10,700 画像

調査回数　撮影日数 80 日、データ整理 52 日



「水晶宮の気球下部」『万国写真帖』より

【備考】

「東京国立博物館情報アーカイブ」(http://webarchives.tnm.jp/archives/)、東京国立博物館所蔵古写真 WEB データベース」(http://dbs.tnm.jp/kaken/oldphotos.html)

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-19

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
台紙全紙、裏面、表紙、見返し等の撮影も行い、これまで問い合わせが多かった台紙張りの状態やアルバムの装丁、文字データの確認ができるよう、撮影に配慮した。

2．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数				
判定	A	A				

備考
今年度は 4600 件のデータを扱った。（撮影日数 80 日。データ整理 52 日）

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	ウェブ上での画像データベースの公開も一般に知られるようになり、館外からの問い合わせも増えつつある。検索システムでは、新たに分類別検索として撮影場所、アルバム名、撮影者からの検索が可能となった。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	4 年計画で、画像の公開は概ね順調に進んでいる。 21 年度もこのペースを維持しつつ、撮影をすすめ、あわせて諸データの充実をはかり、より完備されたデータベースとして公開したい。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-20
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	20）　東京国立博物館所蔵古文書データベース（科学研究費補助金）（(5)-①-ⅲ）

【事業概要】
文部科学省科学研究費補助金(公開促進費データベース)を利用して、東京国立博物館で所蔵する古文書について、とくに書跡に分類される収蔵品の中から抽出して調査を実施した。古文書学に基づき,記載内容の検討,形式・様式の分類,使用された料紙の素材分析を行い,1 通ごとの古文書名称の特定作業を行い,法量計測,写真撮影など基礎データを収集した。また可能な限り古文書に記載された文字を翻刻し、差出・宛所や記載人物の特定作業を行った。最終的に画像とテキストを統合したデータベースを東京国立博物館情報アーカイブスで公開する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課書跡･歴史室研究員　髙梨真行

【スタッフ】
高橋裕次（博物館情報課長）、丸山猶計（企画課特別展室研究員）

【主な成果】
B-1253 土佐家文書　全 10 巻についての上記事業概要で記した調査の実施とデータベース化
B-1721 諸寺院文書　全 2 巻についての上記事業概要で記した調査の実施とデータベース化
B-2060 香宗我部文書　全 6 巻についての上記事業概要で記した調査の実施とデータベース化

【年度実績概要】
下記収蔵古文書の調査・研究の上データベース化
B-1253 土佐家文書　全 10 巻
B-1721 諸寺院文書　全 2 巻
B-2060 香宗我部文書　全 6 巻
平成 20 年 7 月 9 日(水)～11 日(金),12 月 10 日(水)～12 日(金)の 2 期間にわたって当館で実施された特別調査「書跡」の古文書調査の成果を取り入れ,下記収蔵古文書についての調査・研究の実施
B-1760 日御碕神社文書(写)　全 2 巻
B-1854～1875 白河結城文書各通　全 1 幅　22 枚
B-1773 里見家伝来文書　全 8 巻　2 枚
B-1372 画家手簡帖　13 幅　3 巻の調査・研究を実施し,特集陳列「画家の手紙」平成 21 年 2 月 3 日～3 月 15 日にて展示し,成果の一部を図録にて公表

【実績値】
B-1253 土佐家文書　全 10 巻→古文書 125 通+目録のデータベース(画像約 150 カット撮影)
B-1721 諸寺院文書　全 2 巻→古文書 42 通のデータベース(画像約 50 カット撮影)
B-2060 香宗我部文書　全 6 巻→古文書 60 通のデータベース化(画像約 100 カット撮影)
B-1760 日御碕神社文書(写)　全 2 巻→実施中
B-1854～1875 白河結城文書各通　全 1 幅　22 枚→古文書 22 通の調査(画像約 70 カット撮影)
B-1773 里見家伝来文書　全 8 巻　2 枚→古文書 11 通の調査(画像約 30 カット撮影)
B-1372 画家手簡帖　13 幅　3 巻→図録「特集陳列　画家の手紙」刊行(丸山研究員執筆)


土佐家文書巻 2(後柏原天皇綸旨)


香宗我部文書巻 3(足利義昭御内


諸寺院文書　(東宮量仁親王令旨)

論文掲載数　1 件：東京国立博物館所蔵徳川家康書状(はりま殿宛)―自署「大ふ」の表記をめぐって―
(『MUSEUM6』613 号　平成 20 年 4 月)

【備考】
本成果は当館情報アーカイブス上「東京国立博物館所蔵古文書データベース」にて 2009 年 6 月頃公開予定

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-20
（様式 2）

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	B	A	B	A	

備考
古文書の重要な項目である文書名の付与と文字内容のテキスト化に成功した。また公開を前提とした比較的精細度の高い画像による撮影が実施し得た。

2．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数				
判定	A	A				

備考
科学研究費補助金を活用して、恒常的に調査・研究を行うとともに,博物館において年度内 2 期間実施された特別調査「書跡」（古文書）の成果も取り入れ、公開の促進につながったことは大きい。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	歴史学を中心とした文献を利用する諸学において古文書の需要は大きい。特に当館では特別観覧等の形で利用者に対し提供を行ってきたが、一定数の古文書のデータベース化に伴う情報アーカイブスでの公開よって、画像・テキスト双方の比較的容易なアクセスが可能となる。本年度は複数単位の家伝文書を中心にデータベース化を進めてきたが、次年度は 1 紙物や掛幅装の書状類、また明治期の良質な古文書写についても調査・研究を進めて行きたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	昨今、韓国において各機関で所蔵する朝鮮王朝時代に出された古文書の研究進展には目覚しいものがある。本年度、漢字を利用した古文書というアジア圏に共通する題材を、科学研究補助金の導入によって調査・研究を実施し,データベースという形で公開する前提が整備できたことは、法人全体としての計画にある「我が国における博物館のナショナルセンターとしての機能の強化」および当館の年度計画にある「博物館情報アーカイブを運用し、収蔵品・調査研究等に関する情報公開の充実を図る」という事項に対応した、一定の成果として位置づけられるのではないかと考えている。

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-21
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	21）　大航海時代以降の東西交流が中国・日本の陶磁器に与えた影響について（(5)-①-ⅱ）

【事業概要】
本調査は、東西の人的・物的交流が、ヨーロッパや中国、朝鮮半島、日本の陶磁器、金銀器、漆器、ガラス、染織等の造形、またその需要に与えた影響に関する研究の一環である。今回は、いわゆる大航海時代、つまり 16 世紀を前後した時期に中国から貿易品として日本に将来された中国陶磁を取り上げ、調査を試みた。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復課　三笠景子

【スタッフ】

【主な成果】
平成 20 年 9 月 9 日～10 月 19 日　東京国立博物館　特集陳列「茶人好みのデザイン～彦根更紗と景徳鎮」 開催
平成 20 年 9 月 20 日　東京国立博物館月例講演会　三館（五島美術館・大倉集古館）合同企画「更紗を語る」開催
平成 20 年 11 月 29 日　茶の湯文化学会　東京例会発表「特集陳列　茶人好みのデザイン～彦根更紗と景徳鎮を振り返ってー茶陶としての明の五彩・染付の位置づけを考えるー」
平成 20 年 12 月 13・14 日　愛知県陶磁資料館シンポジウム「海のシルクロードとアジア」出席
平成 20 年 1 月 23 日・24 日　京都国立博物館・大阪市立東洋陶磁美術館にて作品調査

【年度実績概要】
平成 20 年 9 月 9 日～10 月 19 日に、東京国立博物館平成館企画展示室において、特集陳列「茶人好みのデザイン～彦根更紗と景徳鎮」を開催し、17～18 世紀に生産され、日本に将来された中国景徳鎮の五彩と青花磁器を取り上げた。これを受け、9 月 20 日の当館の月例講演会では、「更紗を語る」と題して染織の専門研究者を招聘した。また 11 月に茶の湯文化学会東京例会にて口頭発表「特集陳列　茶人好みのデザイン～彦根更紗と景徳鎮　を振り返ってー茶陶としての明の五彩・染付の位置づけを考えるー」を行った。特集陳列の成果として、当時日本に将来された中国陶磁のうち、日本からの注文制作があったと考えられている一群について、その注文の背景には茶の湯・懐石という日本独自の文化があり、同じく貿易品であり上流階級者たちに親しまれたインドや中国の染織の文様やその配置に関連があるのではないかという試論をたてた。
この試論に関連しては、平成 19 年度に新収品となった「瑠璃釉白花花文大皿」を取りあげ、その研究史の位置づけを見直し、当時の染織品との技術的な関連を指摘する論考をＭＵＳＥＵＭに発表する予定である。

【実績値】
平成 20 年 9 月 9 日～10 月 19 日　東京国立博物館　特集陳列「茶人好みのデザイン～彦根更紗と景徳鎮」 開催
平成 20 年 9 月 20 日　東京国立博物館月例講演会　三館（五島美術館・大倉集古館）合同企画「更紗を語る」開催
平成 20 年 11 月 29 日　茶の湯文化学会　東京例会発表（口頭）「特集陳列　茶人好みのデザイン～彦根更紗と景徳鎮　を振り返って―茶陶としての明の五彩・染付の位置づけを考える―」
平成 21 年 1 月 23 日・24 日　京都国立博物館・大阪市立東洋陶磁美術館にて作品調査
・京都国立博物館所蔵　東福寺出土　青白磁香炉
・大阪市立東洋陶磁美術館所蔵　青花龍波涛文扁壺、国宝油滴天目ほか

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-21
（様式 2）

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
　中国陶磁研究は、近年、中国国内および東南アジア諸国を中心に、各地で発掘調査が進んでいる。その結果、膨大な出土資料に恵まれたが、造形の根拠や日本に見られるような注文制作の可能性のある作品に関する研究は進展をみていない。よって、物流に着目し、他の工芸品との関連から考察を試みる本研究には意義があると考える。

2．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数				
判定	B	A				

備考
　今年度に開催された愛知県陶磁資料館（平成 20 年 12 月 13・14 日）のシンポジウムに出席し、調査予定地にはいくつか変更が生じた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	多少の変更は生じたが、展示および講演会の企画、学会での発表、そして論文の投稿（予定）など、調査を活かし、研究成果として公にすることができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	すでに公に発表できたもの、またそれを予定しているもののほかに、平成 21 年夏には当館において特別展「染付～藍が彩る器」の開催を予定しており、本助成による研究成果を大いに活かすことができると考える。

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-22
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	22)　平成 21 年度　特集陳列「趙之謙」に関する調査研究（(5)-①-ⅲ）

【事業概要】
2009 年 8 月から 9 月にかけて、東京国立博物館と台東区立書道博物館は、中国の清時代を代表する書家・趙之謙（1829～84）の生誕 180 年を記念して、表記の特集陳列を共同で企画し、同時期に開催する。この事業は、開催に先立ち、内外に所蔵される趙之謙作品および関連作品を調査し、その成果を展示および出版物に反映させようとするものである。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課長　富田淳

【スタッフ】
鍋島稲子（台東区立書道博物館研究員）

【主な成果】
北京故宮博物院、京都国立博物館、大阪市立美術館所蔵の趙之謙および関連作品の調査を行った。国内の個人が所蔵する一部の作品についても、出品の承諾を得た。関連資料を収集し、趙之謙の事跡をまとめ、年表に整理した。また未発表の趙之謙尺牘を調査、その内容を読み進めている。

【年度実績概要】
1　下記機関の所蔵する趙之謙および関連作品の調査を行い、法量、品質、所用印などを記録した。他作品との比較検討のため、デジタルカメラによる撮影も行った。
①北京故宮博物院所蔵品
②京都国立博物館所蔵品
③大阪市立美術館所蔵品
2　個人所蔵作品の調査
国内で開催された趙之謙展には、
①趙撝叔先生遺作展覧会(1942 年･美術倶楽部)
②趙之謙没後七十年記念特別陳列(1954 年･東京国立博物館)
③趙之謙没後八〇年記念特別陳列(1964 年･東京国立博物館)
④逝世百年趙之謙記念展(1985 年･美術倶楽部)
などがある。
当時の出品資料をもとに、現在個人が所蔵する趙之謙作品を付き止め、出品の承諾を得た。

【実績値】
・国内調査：京都国立博物館・大阪市立美術館・台東区立書道博物館
・国外調査：北京故宮博物院
上記機関の趙之謙および関連作品を調査、約 500 カットの画像を撮影した。

資料収集：国内個人所蔵作品画像データ約 200 カットを収集した。また、趙之謙の行略を含む『悲盦賸墨』等の基本資料を入手した。

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-22

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
内外の美術館・博物館に連絡をとり、効率よく作品を調査することができた。

2．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数				
判定	A	A				

備考
助成金を活用することによって、内外の趙之謙および関連作品の調査を行い、趙之謙作品の編年を補完することができた。また未発表の尺牘資料についても、画像を入手することができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	国内に所蔵される趙之謙の作品は、公的機関の所蔵分はある程度調査が進んでいたが、個人蔵については充分に把握されていない状況にあった。今回の調査では、個人蔵についても昨今の所蔵状況を確認できた。また未公開の資料を調査したことは、資料を読み進めることによって、今後の趙之謙究に寄与しうることが期待される。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	当初の予定に従って、調査研究は順調に進んでいる。個人の所蔵については、まだ確認できない作品もあるので、今後それらの状況についても情報を収集し、調査を進めたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-23

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	23)　明治時代の宝物調査における写真資料に関する調査―横山松三郎、小川一真、早崎梗吉、安村喜当の事跡を中心に―((5)-①-ⅲ)

【事業概要】
東京国立博物館では江戸末から昭和初期にかけて撮影された写真資料を 15,000 件あまり収蔵する。『東京国立博物館所蔵幕末明治期写真目録』の刊行や古写真ＷＥＢデータベースにより、多くの写真が公開されるにいたったが、未だ充分な調査研究が進んでいない状況にある。本事業では当館が収蔵する写真資料のうち、横山松三郎、小川一真、早崎梗吉、安村喜当の 4 人の写真師に焦点をあて、彼らが手掛けた宝物調査に関する撮影についての調査を進め、特集陳列や図版目録の作成に寄与できる研究を目的とする。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課書跡・歴史室長　冨坂 賢

【スタッフ】
関紀子（調査研究課絵画・彫刻室任期付研究員）

【主な成果】
北京と西安で現地調査を行い、宝物調査で撮影された写真資料と対照できる画像を撮影した。また、早崎梗吉が同行した調査では、写真の受け入れ経緯をたどる過程で、館蔵品に同宝物調査で蒐集された拓本資料があることが明らかとなったことは大きな成果であった。

【年度実績概要】
本事業では、明治時代に行われた文化財調査での記録写真に注目し、本館収蔵写真に関わる横山松三郎、小川一真、早崎稔吉、安村喜当の事績を追う。今年度は、明治 34 年(1901)に東京帝国大学の調査で北京城を撮影した小川一真と、明治 26 年（1893）に岡倉天心の清国美術調査に同行して龍門石窟や西安周辺寺院や史跡の撮影を行った早崎稔吉、元当館職員であり明治 30 年代に近畿から関東の宝物写真を撮影、後に自費で中国に渡り、北京、上海、南京、杭州の写真撮影を行った安村喜当が撮影した写真のうち、北京、西安で撮影された写真について実地調査し、撮影された場所の特定と現状との比較を行い、写真撮影を行った。
北京は地壇・前門・故宮・景山公園・北山公園・頤和園（小川一真）、碧雲寺（安村喜当）、天寧寺（早崎梗吉、安村喜当）、天壇（小川一真、早崎梗吉、安村喜当）を調査し写真撮影を行った。
西安は安房宮・順陵・崇文寺塔・精進寺塔・西岳廟・華山・臥龍寺・興教寺・大雁塔、宝慶寺・碑林（早崎梗吉）を調査し写真撮影を行った。

【実績値】
調査回数：国内調査 1 回、中国調査 2 回

国内調査：京都・奈良
北京調査：地壇、前門、故宮、景山
北山公園、頤和園、碧雲寺、
天寧寺、天壇を調査
約 450 画像撮影
西安調査：安房宮、順陵、崇文寺塔、
精進寺塔・西岳廟・華山
臥龍寺、興教寺・大雁塔
宝慶寺塔・碑林を調査
約 700 画像撮影



小川一真　明治 34 年（1901）撮影



平成 20 年 11 月 13 日現在
「北京城写真　正陽門」

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-23

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
　これまで、あまり知られていなかった写真資料に注目し、同宝物調査で蒐集された当館の収蔵品との関連性を見い出すことができた。

2．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数				
判定	A	A				

備考
　国内での調査を 1 回、中国での調査を 2 回行い、写真資料と対比できる画像を撮影した。また、同宝物調査で蒐集された当館の収蔵品の調査も行った。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	現地調査によって、すでに失われたものや、撮影当初とは異なる状況など、被写体の現状を確認することができた。また、写真資料の当館への受け入れ経緯をたどる過程で、関係資料に関しても調査の幅を広げることができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	2 年計画の中で、調査研究は順調に進んでいる。今後は、調査の範囲を広げるとともに、当館が収蔵する関連資料にとどまらず、他機関が収蔵する写真資料および関連資料の調査を行い、データの充実をはかりたい。

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-24
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	24)　朝鮮王朝時代の工芸作品に関する調査、研究((5)-①-ⅱ)

【事業概要】
従来、調査が不十分であった朝鮮王朝時代に関する列品を再調査し、今後朝鮮王朝時代の工芸作品の展示を充実させるため、専門の研究者を外部から招聘し、当館所蔵の作品（染織、漆工の列品を中心に）の共同調査を行う。同時に、より専門的な情報の提供を受け、今後の展示・研究に生かす。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課東洋室長　今井　敦

【スタッフ】
澤田むつ代（上席研究員）、小山弓弦葉（調査研究課工芸・考古室主任研究員）、三笠景子（保存修復課保存修復室研究員）

【主な成果】
2008 年秋、10 日間、研修のため韓国ソウルへ赴き、朝鮮王朝時代の皇帝・后妃の衣裳に関する研究史・同時代の建築史・絵画史・科学史等の講義を受けた。また、現地において当館の展示・研究に活用するための書籍を購入した。列品の調査については、日本女子大学の鄭銀志氏を招聘し、主に染織品の制作年代や造形的な特徴、関連する研究書・論文等について具体的な教示を受けた。

【年度実績概要】
2008 年東洋館第 10 室　朝鮮工芸の展示において、2 度の特集陳列の企画を行った。
ソウル研修では、国立古宮博物館、国立中央博物館における作品の展示方法、展示内容を見学し、衣服や簪、王冠などそれぞれの作品の形態に適した展示具、展示台を調査した。この成果を次年度の当館の展示に活かす予定である。
列品の調査では、日本女子大学で朝鮮通信使に関する文献・絵画史料をもとに、朝鮮王朝時代の服飾を研究している鄭銀志氏の立会い、協力のもと、朝鮮工芸の列品の調査、撮影を行い、調書を作成している。

【実績値】
平成 20 年　特集陳列
①「朝鮮染織・装身具Ⅰ　朝鮮王朝時代の女性の生活と美」　5 月 20 日（火）～7 月 6 日（日）
①　朝鮮染織・装身具Ⅱ　朝鮮王朝時代の文人の生活」　7 月 8 日（火）～8 月 24 日（日）

列品調査（平成 21 年 2 月現在）
調査回数　3 回
調査点数　32 点 TI-428／429／430／431／432／433／434／435／436／437／438
440／441①②／442／443／444／445／446／447／448／449
TK-926／1170／1171／1172／1236／1237①②／1325／1667
TG-2878

平成 21 年　特集陳列（予定）
①「朝鮮染織・装身具Ⅰ　タイトル未定」　4 月 28 日（火）～6 月 7 日（日）

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-24
（様式 2）

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	B	A	A	B	A	

備考
宮廷文化を取り上げた 2008 年の韓国国際交流財団のワークショップにおいて、韓国で染織や歴史、工芸、建築などの専門家の話を聞くことができ、より専門的で、新しい研究状況を知ることができた。外部からの招聘研究者に関しては、選定に時間がかかったが、高度な知見に基づく具体的な教示を得ることができ、今後より正確な研究および展示が期待できる。

2．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数				
判定	A	A				

備考
3 回の調査では、当館東洋染織小倉コレクションの列品のうち、展示可能な作品をすべて調査し終えた。またこの調査において、これまで未整理であった東洋民族の列品のなかで、展示可能な作品の調査を行い、その歴史的位置づけが明らかになった。この成果を今後の展示に反映させたい。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	展示スペースや方法上の問題があったことや、詳細な調査が行われていなかったことから、これまで十分に活用されていなかった列品を展示に活かすことができるようになった。また調査によって、列品の具体的な制作年代や位置づけが明らかになり、研究資料としても注目すべき稀少な作品が含まれていることがわかった。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	日本国内には数少ない朝鮮王朝時代の服飾の研究者を招聘し、教示を受け、次年度の展示に活かすことができた。ひきつづき、定期的な調査の機会をもうけながら、東洋民族の列品を中心に、調査を続けたい。

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-25
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	25）中国宋時代の越州窯青磁が、その後の青磁生産の展開、中国国内の生活文化に与えた影響についての調査（(5)-①-ⅱ）

【事業概要】
中国国内および日本から出土した越州窯青磁に関する調査、日本の博物館・美術館に所蔵されている越州窯青磁に関する調査

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復課保存修復室研究員　三笠景子

【スタッフ】

【主な成果】
諸事情により、中国における調査は変更、延期せざるを得なかったが、博多から出土した越州窯青磁、およびその周辺窯に位置づけられる青磁と、国内の博物館・美術館に所蔵されている完形の越州窯青磁の調査を行うことができた。
さらに、宋時代の越州窯の動向を考えるうえで欠かすことのできない、唐宋時代の金属器、漆器および龍泉窯青磁等の作品の調査も行うことができた。

【年度実績概要】
申請者は、大学在学中より中国越州窯青磁の研究を続けており、平成 16 年に修士論文「北宋期越州窯青磁に関する再考察～その貿易陶磁的性格と日本における受容の様相」を提出した。今回は福岡市埋蔵文化財センターにおける調査において、博多における平成 16 年以降の最新の発掘情報を得ることができた。それに基づき、貿易窓口であった博多からの越州窯青磁の出土傾向を整理する。
また、作品調査、見学に関しては、出光美術館、大阪市立東洋陶磁美術館、和泉市久保惣記念美術館、藤井斉成会有鄰館、沖縄県立埋蔵文化財センター、福岡市立埋蔵文化財センターにて、越州窯青磁およびその関連作品、資料を調査、見学することができた。

【実績値】
平成 20 年 9 月 1 日　　出光美術館（有楽町）　フスタート出土越州窯青磁陶片調査
平成 20 年 10 月 17 日～19 日 和泉市久保惣記念美術館、藤井斉成会有鄰館　金属器、漆器調査
平成 20 年 12 月 19 日　出光美術館（中近東文化センター）越州窯青磁紀年銘「蓮弁文四耳壺」調査
平成 21 年 1 月 30 日　大阪市立東洋陶磁美術館　「李秉昌博士記念公開講座　高麗翡色の秘密を探る」シンポジウム参加
平成 21 年 2 月 6 日～8 日　沖縄県立埋蔵文化財センター　「土でつくられた緑の宝石『小型青磁』」展見学
福岡市立埋蔵文化財センター　博多出土越州窯青磁陶片、その他中国・東南アジア・朝鮮陶磁陶片調査、資料収集

収集資料数　　主に 2004 年以降の発掘調査報告書（福岡市教育委員会　編）
鴻臚館跡　15 号、16 号、17 号
博多　96～117 号
箱崎　24 号、25 号、29 号、30 号、31 号等　計 30 冊分

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-25

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
越州窯青磁の貿易陶磁的性格を考えるうえで、博多における出土状況を把握することはきわめて重要であると考える。さらに、中国唐宋時代に青磁を中心にして、陶磁器が人々の日常生活のうえで欠かすことのできない器としてその位置を確立していくことを考えると、金属器、漆器との造形上、および受容面での影響関係を探る本調査は、今後の中国工芸の研究において有効であると考える。

2．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数				
判定	A	B				

備考
今回の調査で、日本国内の博物館・美術館所蔵の越州窯青磁の完形作品をほぼ把握することができた。また、近年の博多における発掘報告情報を整理し、最新の情報に基づいて、越州窯青磁の出土傾向、受容の状況を整理することが可能になった。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	日本国内から出土する唐宋時代の越州窯青磁について、その生産年代や生産地を特定するのにきわめて重要と思われる、浙江省慈渓市寺龍口窯址出土資料に関する全容を得ることが困難な状況である。ひきつづき、国内における出土状況の整理と、金属器・漆器等、他工芸との関連から、越州窯青磁の興隆と衰退までの経過と、その後の中国、朝鮮半島で生産された青磁への影響について考察していきたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	金属器、漆器の中国国内における使用状況（発掘報告書に基づいて、出土遺物の情報整理）および日本における越州窯青磁の出土状況を整理し、これらの事実と、今年度の作品調査で得られた事実とを比較検討した内容を、論文もしくは口頭発表等の機会をもうけ発表する予定である。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-26
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	26)　金沢北条氏領下総国下河辺庄の総合的研究((5)-①-ⅱ)

【事業概要】
文部科学省科学研究補助金基盤（C）金沢北条氏領下総国下河辺庄の総合的研究（研究代表　金沢文庫主任学芸員永井晋）の研究分担者として、室町時代以降の文献収集を担当。下総国下河辺庄の文献研究・地誌研究を行う。同地に関しての古文書・記録等の写真撮影と編年的整理。近世・近代に伝わる中世文書に関しての地誌類の精査。寺社・城館跡・遺跡・文化財・古地図・航空写真・都市計画図などによる中世的景観の復元。中世利根川の流路・水路・水量・水運・に関する調査と分析などを行う。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課書跡・歴史室研究員　髙梨真行

【スタッフ】

【主な成果】
室町から江戸時代(15～17 世紀)にかけての下総国下河辺庄の支配に関連する古文書・古記録など文献資料の収集。特に在地領主戸張氏にかかわる古文書の収集・確認。

【年度実績概要】
下総国下河辺庄に関する中世(戦国～安土桃山時代)の文献収集
下総国下河辺庄(現埼玉県吉川市周辺)の現地調査　平成 20 年 11 月 30 日実施
埼玉県吉川市,越谷市,松伏町の関連史跡について文献上で認知される場所の現地での確認作業。
下総国下河辺庄に関する勉強会・検討会　平成 21 年 2 月 23 日　於吉川市市民交流センターおあしす

【実績値】
収集・整理文献史料
古文書 23 通(「梁田文書」「戸張文書」)
系図　　2 件(「戸張滉家由緒書」　戸張滉家文書の内)

調査内容の概報
高梨真行「中近世移行期の戸張氏 ―市域の在地領主層の動向と変遷」(『吉川市史編さんだより』15 号,2008 年 10 月,吉川市教育委員会)

11 月 30 日(水)旧下河辺庄域実地調査
大相模郷大聖寺(越谷市相模町)→増森・徳川家康鷹狩の地(越谷市増森)
→下河辺庄赤岩郷赤岩新宿(松伏町)赤岩→戸張氏館跡・芳川神社(吉川市吉川)
→下河辺庄河辺三ヶ寺・延命寺(吉川市吉川)
→旧下妻街道(草加市柿木)
記録事項:54 項目　撮影画像 80 カット


大相模不動堂


戸張館跡（現芳川神社）


旧下妻街道（草加市柿木付近）

3 月 8 日(日) 旧風早庄域実地調査
根木内歴史公園（根木内城跡）→慶林寺→平賀本土寺→大谷口歴史公園（小金城跡）（以上全て松戸市内）
記録事項:23 項目　撮影画像 104 カット

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-26
（様式 2）

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	B	B	

備考
　文献収集だけではなく、実地調査の実施によって対象地域の現状の把握も可能となり、文献読解の進展に大いに役立った。

2．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数				
判定	A	B				

備考
　年度 2 回の実地調査によって、下河辺庄に属した現在の地勢についての大まかな理解につながった。また戸張氏という同地域内に室町時代から江戸時代にかけて活躍した在地領主の調査・研究が進められ、自治体における編纂事業（吉川市）への反映も可能となった。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	現地調査を実施して、文献上では確認できない環境および地勢的な情報が得られたものの、基本となる文献資料の収集を増やす必要性を感じた。次年度は下河辺庄の中心となる吉川市、吉川市、松伏町とともに、新たに関宿(野田市)や古河(古河市)など文献の収集範囲を拡大させたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本研究の主眼は、文献史料と地域・環境との総合研究により、中世における下河辺庄領域の復元が目的である。次年度は計画の最終年度にあたるため、研究報告 論文を予定している。本年度実施した現地と密接につながる文献資料の収集から、現環境の把握によって地域の変遷を分析する有効な指標を入手することができたと判断される。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-27
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	27)　歴史資料調査((5)-①-ⅲ)

【事業概要】
第 1 回　平成 20 年 8 月 4 日(月)～8 日(金),11 日（月）～15 日（金）
　当館収蔵品の内、歴史資料に分類される拓本類の調査。法量計測、銘文確認・翻刻・検討、年代推定、内容検討、原典（現物の碑その他の所在地等）の確認を実施
第 2 回　平成 21 年 1 月 20 日・(火)21 日(水)・30 日（金)・2 日（月）～6 日（金)・9 日（月)・10 日（火)・12 日（木)・13 日（金）
　当館収蔵品の内、歴史資料に分類される明治期に実施された国内寺社宝物類の調査にかかる描画、有職故実関係資料についての法量計測、内容確認・検討、筆者（模写者）の確認、年代推定、原典（現物のその他の所有者等）の確認を実施

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課書跡・歴史室長　冨坂　賢

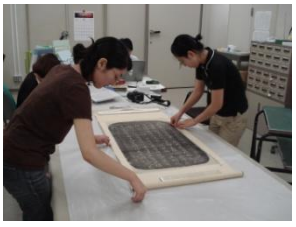
【スタッフ】
髙梨真行（調査研究課書跡・歴史室研究員）

【主な成果】
　当館で所蔵する歴史資料のうち、P1～570 番台までの上記調査の実施。P500 番までの当館列品への編入完了。特に書家市河米庵の拓本類は市河寛斎・米庵父子によって収集されたことが判明し、また短期間に全国的な古碑等の採拓作業が展開されていた事実が、採拓年代の検討により浮かび上がってきた。ここに市河父子の背景に存在した全国に影響を及ぼし得る有力者による支援活動が推測されるに至った。

【年度実績概要】
　第 1 回の調査では、歴史資料に含まれる拓本類の調査を実施した。国内外の有名な古碑などを中心としたもので、元弘板碑、多賀城碑拓本、那須国造碑や、高句麗広開土王碑や寺院の鐘銘、墓誌銘、瓦銘、石造物銘や仏像の光背や仏具の銘などにもわたった。こうした拓本について、法量計測、銘文の翻刻、採拓年代、採拓者推定、採拓状況の考察、原典の所在地と内容の検討などを行った。

【実績値】
第 1 回　平成 20 年 8 月 4 日(月)～8 日(金),11 日（月）～15 日（金）
【調査日数】　10 日間
【調査員・調査補助員】　延べ 22 人
【調査数】　列品数 214 件（240 点）※形態は掛幅装、巻子装、鋪、枚等
【作成画像数】　1,052 カット







P-13 那須国造碑拓本

第 2 回　平成 21 年 1 月 20 日(火)21 日(水)・30 日（金)・2 月 2 日（月）～6 日（金)・9 日（月)・10 日（火)・12 日（木)・13 日（金）
【調査日数】　14 日間
【調査員・調査補助員】　のべ 28 人
【調査数】　列品数 240 件(383 点)
【作成画像数】　863 カット

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-27

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	B	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数				
判定	A	B				
備考 年度内 2 回の調査であり、調査した資料数は収蔵資料数と比較すると限定的な数値であった。						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	収蔵資料の基礎となるデータの収集と資料名称の確定が可能となった。また、蔵書印や落款等から可能な限り各点の来歴復元を試みて成果が得られた。年度 2 期間の調査が資料確認の機会であるが、調査可能な資料数には限界があり、次年度からは恒常的な調査実施と整理に努力したい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	歴史資料収蔵品の調査・研究は、法人の中期計画における「3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与（1）収蔵品等に関する調査研究の成果を研究紀要、学術雑誌、展覧会に関わる刊行物、学会及びインターネット等を活用して広く発信する。また、各種セミナー、シンポジウムを開催する。」とする目的に一致し、館蔵品として列品への編入作業は基本的な成果として位置づけられる。また、歴史資料に含まれる国内外所在古碑などの拓本類の調査成果の展開によって「4　文化財に関する調査及び研究の推進　（1）文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進　②我が国の有形文化財及びそれに係わる諸外国の文化財に関し、以下の課題に重点的に取り組む。ⅳ 古都所在寺社所蔵の歴史資料・書跡資料等に関する原本調査を通じた日本の歴史、文化の研究」とする計画の更なる向上に発展する可能性を有していると判断される。

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-28
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	28）　有形文化財に係る調査研究

【事業概要】

館蔵品・寄託品・それらの関連品および今後収集・展示の対象となりうる文化財を調査研究し、あわせて保存・展示・公開に関する調査研究を進める。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課長　富田淳

【スタッフ】
原田一敏（上席研究員）、後藤健（上席研究員）、澤田むつ代（上席研究員）、松本伸之（学芸企画部長）、加島勝（博物館教育課長）、谷豊信（列品管理課長）、救仁郷秀明（学芸企画部企画課特別室長）、浅見龍介（企画課出版企画室長）、鬼頭智美（企画課国際交流室長）、白井克也（博物館教育課教育講座室長）、田沢裕賀（調査研究課絵画・彫刻室長）、古谷毅（調査研究課工芸・考古室長）、今井敦（調査研究課東洋室長）、竹内奈美子（企画課特別展室主任研究員）、沖松健次郎（企画課出版企画室主任研究員）、松嶋雅人（列品管理課平常展調整室主任研究員）、小山弓弦葉（調査研究課工芸・考古室主任研究員）、日高慎（保存修復課保存修復室主任研究員）神辺知加（博物館教育課教育講座室研究員）、猪熊兼樹（列品管理課貸与特別観覧室研究員）、川村佳男（調査研究課東洋室研究員）、三笠景子（保存修復課保存修復室研究員）、植田彩芳子（企画課特別展室任期付研究員）

【主な成果】

館蔵品・寄託品・それらの関連品および今後収集・展示の対象となりうる文化財と、その周辺領域に関して、美術史・考古学・博物館学の各見地から学会・研究会・学術雑誌上で各種の発表をした。

【年度実績概要】

・内外の学会・研究会で、各種の発表をした。
・学術雑誌に各種の論考を発表し、著書を刊行した。

【実績値】
学会・研究会等発表件数：12 名 15 回
「ラピスラズリの道、王の道、絹の道」後藤健ほか
論文等掲載数：20 名 39 編
『中国の文房具－文房四宝を中心に』至文堂・日本の美術№504 松本伸之ほか

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-28

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
東京国立博物館『ＭＵＳＥＵＭ』をはじめとする各種学会誌・紀要等の学術誌や学会・研究会において、平素の調査研究で得た成果、あるいは平常陳列・特別展に係る業務・他館への協力の中で得た最新の学術情報を、多岐の分野にわたって発表しえた。

2．定量的評価

観点	研究発表件数	論文掲載数				
判定	A	A				

備考
学会・研究会等発表件は海外を含み 12 名 16 回、論文等の発表は 19 名 68 編。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	絵画・書跡・工芸・考古などの各ジャンルにわたり、最新の学術情報を盛り込んだ情報を発信しえた。特別展や通常業務などを通して研究成果は蓄積されているが、今後はよりすみやかな公開につとめるようにしたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	研究計画に基づき順調に進捗している。

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-01
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4. 文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1)　近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究　((5)-①-ⅳ)

【事業概要】
京都を中心とした近畿地方の社寺のうち、文化財がある程度集中して所蔵され、かつ近年学術調査が行われていない社寺を採り上げ、所蔵文化財を悉皆調査する。
調査は、各分野の専門研究員が同時に参加し、相互に情報交換しながら進め、調書の作成、写真撮影を行う。今回は、禅林寺の調査を行った。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	列品管理室長　若杉準治

【スタッフ】
西上実（上席研究員）、山下善也（連携協力室長）山本英男（美術室長）、赤尾栄慶（企画室長）、久保智康（工芸室長）、浅湫毅（主任研究員）、中村康（文化財管理監）、 尾野善裕（主任研究員）、山川曉（主任研究員）、永島明子（主任研究員）、羽田聡（研究員）、大原嘉豊（研究員）、比嘉飛鳥

【主な成果】
禅林寺にて行った今回の調査では、応永九年の銘を持つ銅製の花瓶が、すでに当館に寄託されている個人蔵の物と対であったことが判明したことや、また未指定の仏涅槃図が、重要文化財に指定されているものより時代的にさかのぼる優品であること、また近世末期から近代にかけて原派の手になる歴代門主の肖像画が多く伝存しており近世画壇の一端を知ることができたことなどの成果を得た。

【年度実績概要】
禅林寺は浄土宗西山禅林寺派の本山として、これまでも文化財調査や古文書調査がおこなわれ、また所蔵文化財の展覧会も開催されているが、分野的にかたよったものであり、悉皆調査はおそらくこれが初めてである。
調査は平成 21 年 2 月 16 日（月）～20 日（金）の 5 日間、禅林寺の鶴寿台に調査場所を設定し、2 棟の収蔵庫に保管されている文化財について、寺の宝物台帳を参考に実施した。また、障壁画、仏像、仏具等、諸堂に保管されている文化財については、現地ないし調査場所へ移動して調査した。
調査は上記博物館の各担当研究員のほか、当館の客員研究員、調査員、さらに京都大学に設けられている当館の客員講座である博物館文化財学講座の大学院生等を加えたメンバーで実施した。
総調査件数は、絵画 90 件、書跡 64 件、彫刻 21 件、陶磁 20 件、染織 9 件、漆工 24 件、金工 34 件の計 262 件であった。また撮影は約 350 カットであった。
調査は悉皆を基本としているが、5 日間という限られた時間であったために、多量に伝存する書跡分野、拝観寺院であるために観覧時間には調査ができない仏像や障壁画については所在確認のみで、別日に補足調査を要するものが残っている。

【実績値】

調査回数　　1 回（5 日間）
調査件数　　262 件

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-01

（様式 2）

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

平成 22 年度に実施を予定している「法然展」にそなえて、浄土宗寺院を対象とした調査の一環として実施したもので、「源空」の所持署名のある当時の聖教の存在を確認したり、法然に先行する浄土教の僧としての永観関係資料を得るなどの成果を上げ、展覧会の充実が期待できた。

2．定量的評価

観点	調査回数	調査件数				
判定	A	A				

備考

現今なかなか日程調整の難しい研究員の一週間という限られた時間での同時調査という方法は、年一回が限界である。またそのなかで 260 余件を調査し、資料（調書、写真）を収集できた。現在は調査カードと紙焼き写真を揃えている段階である。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	浄土宗西山禅林寺派総本山である禅林寺の文化財の全容を把握し、その大部分について調査データを得られた。また、予定されている「法然」展に関して、新たに加えるべき出品候補を得たこと、また寺院との良好な関係を築けたことで大きな意義がある。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	中期計画では、具体的対象寺院名はあげられていないが、予定されている展覧会を視野に入れながら個別計画を立て、調査を進めることで中期計画の目標を実現できる。

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-02
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2)　平安仏教とその造形に関する調査研究（京都）((5)-①-ｖ)

【事業概要】
平安仏教の美術・造形にかかわる作品や図像及び関連資料を収集、整備する。
報告書の刊行、シンポジウム（研究座談会）の開催により、成果を公開する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	上席研究員　西上実

【スタッフ】
若杉準治（列品管理室長）、山本英男（美術室長）、山下善也（連携協力室長）、大原嘉豊（研究員）、赤尾栄慶（企画室長）、羽田　聡（研究員）、淺湫　毅（主任研究員）、久保智康（工芸室長）、尾野善裕（主任研究員）、山川　暁（主任研究員）、永島明子（主任研究員）、宮川禎一（考古室長）、中村　康（文化財管理監）、金井杜男（調査員）

【主な成果】
「摂関期にみる美術の諸相」という研究発表と座談会を開催し、その報告書を刊行した。

【年度実績概要】

特集陳列「平安時代の考古遺物―源氏物語の時代―」を見学の後、「摂関期の訓点資料」（大阪大谷大学　宇都宮啓吾教授）・「道長時代の仏画」（当館　大原嘉豊研究員）・「上東門院彰子埋納の金銀鍍宝相華唐草文経箱をめぐる二、三の問題」（東京国立博物館　加島勝博物館教育課長）の研究発表があり、それに引き続いて「摂関期にみる美術の諸相」という座談会を開催した。

【実績値】
・研究発表及び座談会参加者　79 名
・仏教美術研究上野記念財団助成研究会報告書第 36 冊「研究発表と座談会　摂関期にみる美術の諸相」を編集中

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-02
（様式 2）

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	B	A	

備考
　平安仏教の美術について多面的に調査研究し、多岐にわたる資料を収集し、展覧会や特集陳列などに関連した研究発表と座談会を開催した。

2．定量的評価

観点	参加者数					
判定	A					

備考
　研究発表及び座談会「摂関期にみる美術の諸相」を開催し、79 名の参加者を得て活発な討論がなされた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	4 カ年の継続事業のうち、最終年次の事業計画について達成できた。 本調査研究の蓄積は、当館の展観事業及び関連資料の収集に大いに資するものである。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
達成	多岐にわたる分野の資料について収集・整備ができ、また、研究資料を広く公開することで、仏教美術研究の発展に資することができた。最終年度には、これまでの研究であまり触れられなかった平安時代の訓点資料や工芸分野の研究発表を行い、全体を通して平安仏教とその造形というテーマを見通せるようにした。

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-03
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	3)　日本における木の造形的表現とその文化的背景に関する総合的考察（科学研究費補助金　((5)-①-ⅱ）

【事業概要】
先史時代より明治時代に至るまでの、樹木を素材・主題とした美術工芸遺品を通じて、従来蓄積されてきた歴史学の諸成果をフィードバックしながら、日本の木の文化を、他の東アジア諸国との比較史的視座を援用しつつ、跡づけることを目的とする。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	館長　佐々木　丞平

【スタッフ】
西上実（上席研究員）、若杉準治（列品管理室長）、山本英男（美術室長）、山下善也（連携協力室長）、大原嘉豊（研究員）、赤尾栄慶（企画室長）、羽田聡（研究員）、淺湫毅（主任研究員）、中村康（文化財管理監）、小松大秀（学芸部長）、久保智康（工芸室長）、尾野善裕（主任研究員）、山川曉（主任研究員）、永島明子（主任研究員）、宮川禎一（考古室長）、村上隆（保存修理指導室長）

【主な成果】
平成 19 年度に調査を行なった八坂神社随神像についての調査報告を当館発行の『学叢』第 30 号（平成 20 年 5 月発行）に発表した。香川県与田寺の不動明王立像に関して三次元計測を行ない、当初の首の向きを復元的に考察した。浜松市の黄檗寺院、大雄寺と宝林寺において予備調査を行ない、黄檗宗本山の萬福寺にも無い、貴重な初期史料が伝存することがわかった。

【年度実績概要】
事業2年度の本年は､昨年度の調査をふまえて引き続き調査を行なうとともに､次年度以降の調査について､4ヶ所の社寺および地元教育委員会との間で、連携に関する協議を行なった。
昨年度に続き､これまで京都国立博物館が収集してきた京都社寺の所蔵品に関するデータの再整理および､昨年度あらたに調査で得られたデータを、事業目的に即して順次データベース化していった。
また、事業目的に即した社寺調査を行ための、マイクロスコープを購入した。これにより、肉眼では確認困難な、書画や染織品の細部構造等の観察が可能となり、大きく調査に寄与した。
社寺調査の候補目的地としては、引き続き静岡県に焦点をあて、浜松市の黄檗寺院で事前調査を行なうとともに、京都からみて静岡と対称的な位置にある、島根県出雲市において事前調査を実施した。
研究分担者は、各自事業目的にそって個人研究を遂行した。個人研究においては海外との比較も視野に置き 3 件の海外調査も行なった。また、国内においては、京都・法界寺の秘仏十二神将を調査した。その際には専門の撮影技師が同行し、大判カメラでの撮影を行なうとともに、デジタルカメラによる撮影も行なった。

【実績値】
調査実績データベース化　2,525 点（1 月末の暫定数）
調査機材整備　1 件
個人研究出張調査　国内 6 件・海外 3 件
科研調査による成果の公表　2 件

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-03
（様式 2）

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	S	A	A	B	A	

備考
適時性については博物館事業における公開性及び緊張性を増す環境問題と絡む点、独創性・発展性については適時性での理由をもとにした人文系では先駆的総合研究である点、効率性に関しては各研究分担者の本務である博物館事業との兼ね合いにおける時間的投資量という点、正確性についてはデータの収集という点からみて、それぞれ評価を下した。

2．定量的評価

観点	調査実績 データベース化	調査機材 整備	共同調査のため の事前予備調査	研究分担者による 個人研究（出張調査）		
判定	A	A	A	B		

備考
事業初年度として、目標は概ね達成されている。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	第 2 年度にあたる 20 年度は、昨年度の調査によって得られた成果を基に、さらに知見を深める方向で、発展的調査を行なった。それとともに、次年度以降の充実した調査のために、調査候補となっている社寺および地元の教育委員会等関係諸機関との連携を深めることを視野に置き、本調査および事前調査を行なった。その目標はほぼ達成されたが、博物館業務の多様化にともなう時間的制約の中で、21 年度以降はより効率的、組織的に研究を深め、さらに充実した成果の公表へとつなげる努力が一層必要であると考えている。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	全研究職員を研究分担者とする競争的資金の導入によって、館全体の研究を活性化している点で意義が深いと思量するが、緊密な研究上の連携を更に行う必要がある。

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-04
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	4)　建仁寺両足院に所蔵される五山文学関係典籍類の調査研究（科学研究費補助金）((5)-①-ii)

【事業概要】
　建仁寺両足院に所蔵される五山文学関係典籍類を順次調査し、それらの調書を作成し、それらの目録を作成する（科学研究費）。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	企画室長　赤尾栄慶

【スタッフ】
　羽田　聡（研究員）、西上　実（上席研究員）、山本英男（美術室長）
（外部研究者）興膳　宏、米谷　均、山城喜憲、藤本幸夫、井上　進、川本慎自、堀川貴司、宇都宮啓吾、梶浦晋、金　文京、柳田征司、住吉朋彦

【主な成果】
　都合 4 回の調査を実施し、全体 180 箱のうち、第 101 箱から第 140 箱までの調査をほぼ終了している。

【年度実績概要】
　全体 180 箱のうち、第 101 箱から第 140 箱までの調査を実施し、各々の箱に納められている書跡・典籍類の関して、一冊ごとにその書名・法量・装訂・外題・首題・尾題・版式・行数・訓点・奥書・刊記などの書誌学的調査と内容に関する調査を実施し、それぞれを調書に記入した。

【実績値】
　全体 180 箱のうち、第 101 箱から第 140 箱までの約 40 箱についての調査をほぼ終了し、調書を作成した。

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-04

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点	調査終了箱数					
判定	A					
備考 調査終了箱数は 40 箱となった。						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	4 カ年の継続事業のうち、第 2 年度の事業計画について達成できた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
達成	年次計画を予定通り実施した。

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-05
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4．文化財に関する調査及び研究の推進		
プロジェクト名称	5)　修復文化財に関する資料収集及び調査研究　((5)-①-v)		
【事業概要】 文化財保存修理所において修復が行われている文化財に関して情報を収集する。			
【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存修理指導室長　村上隆
【スタッフ】 淺湫毅（主任研究員)、伊東史朗（調査員）			
【主な成果】 平成 20 年度に新規搬入された作品の「修理計画書（設計書)」にもとづき、データを入力し、平成 19 年度に完成、搬出した作品については、各工房より提出された「修理解説書（報告書)」にもとづき、データを追加、更新した。また、平成十四・五年度に修理が完成した作品に関する報告を『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告』第 4 号に掲載した。また、修理時に発見された銘文 6 件を「銘文集成」として報告した。			
【年度実績概要】 文化財保存修理所の工房に搬入される新規修理作品に関して、データを収集し、データベースに登録した。 過去の修理作品に関してもデータの更新、整理作業を行なった。 毎月行っている文化財保存修理における修理工房の巡回時のほか、適宜工房において、修復中にしか得ることの出来ない情報（作品の構造や使用材料、内部納入品や銘文など）を収集し、分析を行なった。 『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告書』第 4 号に掲載する平成 14・15 年度修理作品のデータを整理するとともに、同年の修理で発見された銘文の解読作業を行なった。 また、これらの業務に調査員伊東史朗氏の協力を得た。			
【実績値】 20 年度は 112 件の新規修復文化財の搬入があり、これらの作品に関してデータを収集するとともに、データベースへの登録を行なった。(3 月末日) 過去のデータに関して 2641 回追加、更新を行なった。(同上) 修理所の巡回を 12 回行なった。その他、新発見の事実や銘文の調査を適宜行なった。 21 年 3 月に『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告書』第 4 号（14・15 年度分）を発行した。			
【備考】			

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-05

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
限られた期間中にあらゆる側面からの調査を行い、データ収集に努めた。

2．定量的評価

観点	データ収集件数	データ追加更新件数			
判定	A	A			

備考
目標件数は達成されている。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財保存修理所で行なわれる修理作品から得られる情報はおおむね収集できた。 また、その成果を報告書に反映した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	20 年度に収集された情報をさらに充実させる為、他年度と関連づけながらさらなる情報の収集をはかりたい。

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-06
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	6)　等伯に関する調査研究（客員研究員）　((5)-①-ⅱ)

【事業概要】
　全国の美術館・博物館、社寺に遺る長谷川等伯関連の作品および資料の調査研究を行う。社寺調査への参加と協力を行う。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	美術室長　山本英男

【スタッフ】
奥平俊六（客員研究員）

【主な成果】
　長谷川等伯展に出品する候補作品のうちのおよそ半数を調査し、新たな視点からの検討を加えた。その中には新発見の作品も含まれている。その成果は当該年度発行の当館研究紀要に掲載予定である。

【年度実績概要】
　長谷川等伯の出身地である石川県の寺院や美術館に所蔵される作品（約 30 件）を調査するとともに、京都や東京に所在する作品（25 件）を調査し、整理分類した。
　さらに、京都禅林寺における社寺悉皆調査に参加、協力した。

【実績値】
　石川県の寺院や美術館に所蔵される作品を調査した。(約 30 件)
　また、京都や東京に所在する作品を調査した。(25 件)

　調査件数　約 55 件

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-06
（様式 2）

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
　長谷川等伯関連の作品調査の成果として、徹底した作品資料の調査と、綿密な分析を行うことができた。それにより、これまで曖昧な状況にあった等伯の画風展開を明確にするための基礎作りができたといえる。

2．定量的評価

観点	調査件数					
判定	A					

備考
　長谷川等伯関連作品の所在と保存状況、伝来など詳細なデータの記録と整理を行えたことで、特別展覧会「長谷川等伯」開催のための基礎が確立された。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	長谷川等伯は桃山時代の巨匠だが、その遺作が各地に分蔵されるため、その詳細な整理分類はなかなか行えない状況にあった。それだけに、悉皆調査に近い形での本調査は等伯研究にとって価値のあるものといえる。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究は順調に進展している。来年度も同じ主旨により、調査研究を進めていく予定であり、平成 23 年度の特別展覧会においてその成果が披瀝されることになる。

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-07
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	7)　近世絵画に関する調査研究（客員研究員）　((5)-①-ⅳ)

【事業概要】
京都文化の一端を明らかにすることを目的として、客員研究員である同志社大学教授狩野博幸氏に、京都を中心とした近世絵画に関する作家研究、作品研究の実施を依頼した。あわせて、平成 20 年 4 月 8 日～5 月 11 日に開催される京都国立博物館の自主企画、特別展覧会「絵画の冒険者 暁斎　Kyosai」の監修を依頼し、当館連携協力室長と協力して展覧会に関わる研究を行う。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	連携協力室長　山下　善也

【スタッフ】
狩野博幸（客員研究員）

【主な成果】
京都を中心とした近世絵画に関する作家研究、作品研究については、着々と研究が進んでいる。特別展覧会「絵画の冒険者 暁斎　Kyosai」は予想以上の反響を呼んだが、準備期間における節目節目での客員研究員の監修・アドバイスは、きわめて有効・適切なものであり、連携協力室長および客員研究員の有機的な連携が功を奏して、展示計画・図録作成をはじめ同展のさまざまな内容充実を実現、結果、同展成功に結びついた。

【年度実績概要】
自主企画の特別展覧会「絵画の冒険者 暁斎　Kyosai」の客員研究員による監修、近世絵画担当研究員による企画実施という連携は、同展成功に不可欠なものであった。
狩野博幸客員研究員の洛中洛外図、伊藤若冲、曾我蕭白をはじめとする近世絵画研究は年々深化しているが、それを通じ、京都国立博物館館蔵品・寄託品の価値がいっそう高まってきている。とともに、客員研究員から当館近世絵画担当研究員への適切な指導・助言が連携協力室長の調査研究の諸活動に対して実に大きな刺激と力を与えていることは、特筆しなければならない。さらに、同客員研究員および近世絵画担当研究員の著作活動をつうじて、一般の人々の京都文化に対する興味を喚起し、ひいては博物館に対する理解を深めている。

【実績値】

『特別展覧会　絵画の冒険者 暁斎　Kyosai』展図録　京都国立博物館　2008 年

調査回数　　12 回
収集資料数　320 点
調査概報　　4 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-07

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数	調査概報			
判定	A	A	A			
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	特別展覧会「絵画の冒険者 暁斎　Kyosai」は、国内外から高い評価をいただき（年末の朝日新聞ベスト展覧会のひとつにもあげられた)、成功をおさめた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	客員研究員の京都国立博物館の諸活動に対する指導・助言等及び近世絵画担当研究員と同客員研究員との協力により、近世絵画に関する調査研究は順調に進んでいる。

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-08
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
プロジェクト名称	8)　文化財情報に関する調査研究（客員研究員）　((5)-①-ⅱ)		
【事業概要】 当館のホームページや文化財情報システムに関する調査研究を実施した。（客員研究員）。			
【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	企画室長　赤尾栄慶
【スタッフ】 山田奨治（客員研究員）			
【主な成果】 ほぼ各月ごとに研究打合会を実施し、これに基づいてシステム全体における問題点を抽出し、その見直しや改良を行った。			
【年度実績概要】 ほぼ各月ごとに研究打合会を実施し、これに基づいてシステム全体における問題点を抽出し、緊急性の高い事項から、その見直しや改良を行った。平常展示館が立て替えのため、閉鎖されていることから、それに伴う機材の移行措置なども行った。			
【実績値】 ほぼ各月ごとに研究打合会を実施し、これに基づいてシステム全体における問題点を抽出し、緊急性の高い事項から検討し、可能な限り、その見直しや改良を行った。平常展示館が立て替えのため、12月7日をもって閉鎖されたことから、それに伴う機材の移動なども行った。 研究打合会　11 回			
【備考】			

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-08
（様式 2）

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点	打合会					
判定	A					
備考 定期的に調査研究会を実施している。（合計 11 回）						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	定期的に調査研究会を実施し、実績として、「KNM Gallery」を 6 カ国語対応（日本語、英語、韓国語、スペイン語、フランス語、中国語）で閲覧できるように改良した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
達成	緊急性の高い事項から、順次検討を行っており、予算を勘案しながら実施している。

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-09

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
プロジェクト名称	9)　訓点資料としての典籍に関する調査研究（客員研究員）((5)-①-ⅲ)		
【事業概要】 訓点資料のうち、平安時代の古写経や漢籍に付された訓点に関する調査研究を実施した。(客員研究員)。			
【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	企画室長　赤尾栄慶
【スタッフ】 羽田　聡（研究員） 宇都宮啓吾（客員研究員）			
【主な成果】 平安時代の古写経の訓点については、その成果の一部を仏教美術研究上野記念財団のシンポジウムで研究発表を行った（宇都宮氏)。加えて当館に保管されている漢籍のうち、世説新書や玉篇、及びそれらの紙背聖教に付された訓点の調査を行った。			
【年度実績概要】 従来は古写経の訓点を中心としたが、本年度は訓点資料の中でも漢籍を中心に、本文及びその紙背聖教に付された平安時代の訓点を調査研究した。			
【実績値】 研究発表も行い、新出資料である玉篇の断簡については、書誌学的調査行い、その紙背聖教の訓点も詳しく調査した。 研究発表　1 回			
【備考】			

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-09

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点	研究発表					
判定	A					
備考 研究発表を 1 回開催した。						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	古写経のみならず、漢籍の写本の訓点を詳しく調査した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
達成	館蔵品の訓点資料を順次、調査している。

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-10
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4．文化財に関する調査及び研究の推進		
プロジェクト名称	10）彫刻に関する調査研究　((5)-①-ⅲ)		
【事業概要】 当館に保管および寄託される仏像を中心とした彫刻作品の調査、研究			
【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	主任研究員　淺湫　毅
【スタッフ】 井上一稔（客員研究員）			
【主な成果】 特別展覧会「妙心寺」展出品の棄丸坐像に関して研究を進めたところ、新たな事実が判明し、その成果を同展目録に「ふたつの棄丸像―天正十九年の豊臣秀吉―」と題して発表した。また、平成十九年度に開催した特別展覧会「藤原道長」出品作である即成院観音菩薩像に関し、開催時の調査で得られた成果を『鳳翔学叢』第 5 号（平成二十一年三月発行）に論文として発表した。			
【年度実績概要】 当館が保管、あるいは当館が社寺より寄託を受けている彫刻作品の調査および写真資料の収集を、新たに行なった。 社寺、個人宅など、館外に所在する彫刻作品の調査・撮影を行ない、一部作品は寄託いただいた。 上記調査作品の関連文献、史料の収集および研究を行なった。 これらの調査に際し、客員研究員の井上一稔氏の協力を得た。 過去の研究データに基づき特別展覧会および特集陳列、平常陳列の作品選定、展示、解説を行なった。 平常展示館の閉館にともなう作品の移動を行なった。			
【実績値】 特別展覧会『京都御所ゆかりの至宝』を開催にあたり、図録に作品解説の執筆を行なった。 将来の特別展準備のための調査を妙心寺塔頭（妙心寺展）および松前・法華寺（日蓮展）で行なった。 永観堂禅林寺において社寺調査を行ない、彫刻作品の調査を担当した。 その他、出雲市・大寺薬師、京都・法界寺において彫刻作品の調査・撮影を行なった。また昨年度調査を行なった静岡・建穂寺の調査結果を 21 年 5 月発行の『学叢』（京都国立博物館発行）に掲載する予定である。 論文　「定朝第三世代の作風に関する一試論」（『鳳翔学叢』5 号）他 1 篇 報告　「増上寺三解脱門の釈迦三尊像および十六羅漢像について」（『学叢』30 号）他 2 篇			
【備考】			

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-10
（様式 2）

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
　彫刻作品の調査の成果を、特別展覧会、平常展示等の作品展示および、図録、解説等により公開できた。次年度以降の展観事業の準備として継続的に調査・研究を行っている。

2．定量的評価

観点	論文数					
判定	A					

備考
　計画的に調査を行い、論文に反映させることができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	当館の所蔵、寄託作品に関する情報は順調に得られており、館外での作品調査に際しても重要な情報が収集された。引き続き特別展覧会等で成果を公開したい。 　一方、平常展示館が長期閉館することにより、平常展示においてこれまで行ってきた成果の公開が難しくなるが、報告書、論文等それにかわる成果公開を考えたい

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	継続的に、順次彫刻作品に関する情報は、順調に収集されている。 　本研究によって得られた情報を将来の展覧会に生かせるよう、さらなる情報の収集を図りたい。

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-11
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
プロジェクト名称	11）西域出土文献に関する調査研究　((5)-①-ⅱ)		
【事業概要】 サンクトペテルブルグにあるロシア科学アカデミー東洋写本研究所所蔵の中央アジアおよびその周辺の文献に関する調査研究を行った。(調査員)。			
【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	企画室長　赤尾栄慶
【スタッフ】 羽田　聡（研究員)、高田時雄（調査員）			
【主な成果】 サンクトペテルブルグにあるロシア科学アカデミー東洋写本研究所所蔵の東洋写本コレクションの調査を実施した。			
【年度実績概要】 サンクトペテルブルグにあるロシア科学アカデミー東洋写本研究所所蔵の東洋写本コレクションの調査を実施し、次年度に開催予定の特別展覧会の事前調査とした。			
【実績値】 サンクトペテルブルグにあるロシア科学アカデミー東洋写本研究所所蔵の東洋写本コレクションの調査を実施し、次年度に開催予定の特別展覧会の作品リストを作成し、中央アジア周辺の文献を中心に 151 件を選定した。 また、平成 21 年 2 月 9 日～14 日に、ロシア科学アカデミー東洋写本研究所イリナ・ポポヴァ所長を招へいし、打ち合わせを行った。 事前調査回数　2 回			
【備考】			

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-11

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点	事前調査					
判定	A					
備考 事前調査を 2 回実施した。						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	サンクトペテルブルグにあるロシア科学アカデミー東洋写本研究所所蔵の東洋写本コレクションの調査を実施し、次年度に開催予定の特別展覧会の作品リストを作成した。 同研究所の所長を招聘し、打合会を実施した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
達成	事前調査を実施し、次年度開催予定の特別展覧会の準備を行った。

【書式Ｂ】　　施設名　京都国立博物館　　処理番号　4512-12
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	12）中・近世の金属工芸品の製作と受用にみる江南、嶺・湖南、瀬戸内の地域特質と相互文化認識、交流媒体の研究（トヨタ財団研究助成）((5)-①-ⅱ)

【事業概要】
中世・近世の交易の要であった中国の江南、韓国の嶺・湖南、日本の瀬戸内という 3 地域において、製作あるいは受用された金属工芸品を調査して、製作技術・意匠・用途などの地域間交流の実態を解明し、それを惹起した地域相互の文化認識のあり方、それらを媒介した人や組織などを解明する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	工芸室長　久保智康

【スタッフ】
王牧（中国浙江省文物鑒定中心研究員）、崔應天（韓国東国大学校教授）、金恩愛（韓国 AMORE 美術館研究員）、羽田聡（京都国立博物館研究員）、塚本麿充（大和文華館学芸員）、上里隆史（法政大学沖縄学研究所研究員）、三笠景子（東京国立博物館研究員）、多比羅菜美子（根津美術館学芸員）、家塚智子（京都市芸術大学講師）、服部敦子（帝塚山大学講師）

【主な成果】
中国・韓国の博物館、大学などが所蔵する銅器の共同調査を、現地の分担者と進めた。その結果、これまで日本でほとんど紹介されてこなかった銅器類の情報を多く得ることができ、また分担者や所蔵館の研究者との議論を通して、相互の問題意識を高めることができた。日本国内に所在する銅器類とその関連資料・絵画・文献等についても、個別調査を各分担者で進めた。さらに国内分担者が参加して研究会を行い、問題意識の共有と情報交換を行った。

【年度実績概要】
中国における共同調査：杭州市歴史博物館所蔵の銅器類の調査、福建省福建博物館所蔵の同省南平市窖蔵出土の元代倣古銅器の一括資料約 50 点の詳細調査、江西省宜春市博物館所蔵の宜春窖蔵出土の銅器 30 点の詳細調査を行い、宜春窖蔵一括品が南平窖蔵一括品よりも微妙に古い銅器群である可能性が確認された。今後このような一括銅器群の下限を比較し、組列していくことで、倣古銅器（日本における唐物銅器）の実質的な編年がはじめて可能となることを予想させしめた。
韓国における調査：東国大学校、高麗大学校、仏教中央博物館所蔵の高麗・朝鮮時代の銅器について基礎的な情報収集を行い、詳細調査の準備を進めた。とりわけ東国大学校には、中国および日本を源流とした仏具が数点所蔵されており注目された。
国内調査：大分県日出町沖嶋神社のクリス剣、新潟県十日町市伊達八幡館遺跡ほか新潟県下出土の銅器、福岡市誓願寺伝来の舶載仏具、長浜城博物館所蔵の中世仏具、三重県津市養徳寺跡出土中世仏具などの調査を行った。これらの成果と、妙心寺展事前調査で得られた山内諸寺伝来仏具の調査成果を合わせて、唐物仏具が室町時代において、擬唐物仏具へと展開する過程で、いかなる特色が発現していったかを検討した。
このほか、各研究分担者が栃木、沖縄、福岡、大阪において関連作品、文献の調査を進めた。
2 月には、全分担者が集まり研究会を開催し、成果の中間発表を行った。

【実績値】
研究会発表　分担者 8 名による発表（2 月 15 日）
論文発表　久保智康「新安沈船に積載された金属工芸品―その性格と新安船の回航性をめぐって―」『九州と東アジアの考古学』5 月
久保智康「唐物銅器とその「和物下」―妙心寺伝来品を中心に―」『妙心寺』（展覧会図録）1 月

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-12
（様式 2）

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点	調査回数	発表回数				
判定	A	B				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	国内外の関係作品の調査を積極的に行い、その成果は自治体の文化財保護行政にも活用された。国内外の研究者と共同調査を行い、問題意識の共有を進めることが出来た。国内分担者による研究会を行い、成果の中間的な確認を行うことが出来た。また『京都御所ゆかりの至宝』『妙心寺展』の展覧会図録において、研究成果の一部を反映することができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本研究は 21 年 10 月で終了する。これまでの調査頻度をさらに高めて、できる限り綿密な調査データを構築する。10 月初旬には中国・韓国・国内の全分担者によって、公開のセミナーを開催し、成果を公表したい。

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-13
（様式 1）

業務実績書

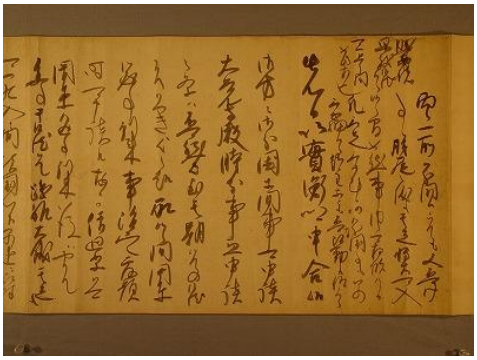
中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	13）宸翰（天皇の書）の歴史学的見地からみた調査・研究　((5)-①-iii)

【事業概要】
宸翰（天皇の書）は、京都国立博物館の書跡部門における館蔵品および寄託品をふくめた収蔵品において、質・量ともに他館に誇るべき大きなコレクションを形成している。本事業は、これまで書道史の側面から語られることの多かった宸翰について、「その発生から多様化までを歴史学に立脚して解釈する」という問題意識のもと、収蔵品を中心に調査し、情報を蓄積することを目的とする。また、調査の成果は誌上での公開や講座をつうじて還元し、なおかつ将来的にはこれらを取り入れた特別展覧会の開催も目的とする。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	研究員　羽田　聡

【スタッフ】

【主な成果】
調査に基づく研究成果としては、「妙心寺本坊、塔頭に所蔵されている文化財の調査研究」((5)-②-iv)との関係で、当館の所蔵する重要文化財「花園天皇宸翰消息　1 幅」の資料としての位置づけを明らかにし、論文を発表した。関係資料の館外調査では、これまで展示に供されたことのない重要文化財「後伏見天皇宸翰御消息　1 巻」（個人蔵）を精査する機会を得、本事業の趣旨を披瀝したところ、これを新たに寄託品として加えることができた。



重要文化財「後伏見天皇宸翰御消息　1 巻」（個人蔵、部分）

【年度実績概要】
宸翰とひとくちにいっても、内容的には日記・文書・詠草・懐紙・経典から画賛や額字まで作品に多様性があり、時代幅もかなりある。かような点にかんがみ、本事業は年度ごとに分野や時代を区切って調査を実施している。
平成 20 度は前年度に引き続き、いわゆる宸翰様が大成した鎌倉時代末期から南北朝時代の宸翰のうち、①とくに鎌倉時代末期における持明院統、具体的には伏見・後伏見・花園天皇宸翰の調査をおこなった。また、新規の作業として、②宸翰のうち和歌懐紙の調査を実施した。さらに、付随する情報のみでは判断できない作品の来歴、あるいは戦災などにより現存しない、散逸した可能性のある宸翰について知るため、③売立目録に掲載された宸翰の情報収集もあわせておこなった。
調査の方針として、①および②は一点ごとに調書を作成し、デジタルカメラで撮影のうえ、解読した本文をテキストデータとして入力し、撮影した画像とともに保管した。また、③売立目録の情報収集に関しては、当館はかなりの数の目録を所蔵しているので、それらを一冊ずつ総まくりしたうえ、関係資料があれば一点ごとにコピーをとり、ひとまず時代ごとにファイルを作成した。

【実績値】
掲載論文数　羽田聡「京都国立博物館所蔵「花園天皇宸翰消息」について」（『学叢』第 30 号、2008 年 5 月）
羽田聡「紙背に経典の書写された和歌懐紙」（『年報三田中世史研究』第 15 号、2008 年 10 月）
羽田聡「売立目録と近世天皇の宸翰」（京都国立博物館編『京都御所ゆかりの至宝―甦る宮廷文化の美―』、2009 年 1 月）　3 篇
講座数　羽田聡「近世天皇の書―和歌懐紙の不思議―」（京都国立博物館土曜講座、2009 年 1 月 17 日）
羽田聡「行海の懐紙」（長野県立歴史館講演会、2009 年 2 月 6 日）　2 回
調査点数　資料約 30 点　売立目録約 30 冊
調書作成点数　約 30 点
撮影資料枚数　約 120 枚（1 点あたり、平均 4 カット）

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-13

（様式 2）

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

備考

本事業は宸翰を歴史学の見地に立脚して見直す、というこれまでにない発想に基づいており、応用性が見込まれる。現在のところ、ほかの事業と兼ね合いながらも効率よく、かつ継続的に調査が実施され、収蔵品に関してはデータの蓄積が進みつつある。また、将来的には展覧会の開催という公共性および公開性という側面も持ち合わせる。

2．定量的評価

観点	論文掲載数	講演数	調査点数	調書作成点数	撮影資料点数	
判定	A	A	A	A	A	

備考

年度の計画としてあげた持明院統天皇の宸翰、および和歌懐紙の調査および撮影については、19 年度とおなじ水準を維持しつつ、詳細な調書を作成した。売立目録の総まくりについては、全体の十分の一程度を終了させ、限られた時間を有効に使いデータを集めている。また、調査の成果をふまえた研究論文 3 篇が公刊され、かつ一般にむけた講座 2 回を行うことで、本事業の目的の一つとする成果の還元という点においても十分な実績をあげることができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	持明院統天皇の宸翰、および和歌懐紙の調査および撮影については、19 年度とおなじ水準を維持しつつ細な調書を作成し、売立目録の総まくりとあわせてデータの収集および蓄積につとめた。また、本事業に対する理解が得られたことで、重要な作品が寄託品として加わり、当館の根幹事業たりうる収蔵品の増加にもつながった。この点を考慮するならば、館外の関連作品も視野に入れながら、調査を継続するようつとめたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本事業において、【年度実績概要】に計画としてかかげた 3 つの作業は、ほかの事業と兼ね合いながらも滞りなく実施されたと考える。なおかつ、誌上での公開や講座をつうじて、成果を還元することにも十分に配慮した。21 年度もこの 3 点を継続して行うことで、状態の維持につとめるとともに、具体的な展覧会の開催時期についても検討したい。

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-14
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	14）瑞光寺ならびに建仁寺両足院所蔵陶磁の調査研究　((5)-①-ⅱ)

【事業概要】
伝世陶磁を多数所蔵している京都の瑞光寺と建仁寺の塔頭である両足院所蔵陶磁器の調査を実施し、寄託品の充実を図ると同時に、近い将来に開催を計画中の特別展覧会の充実を図る

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	主任研究員　尾野善裕

【スタッフ】
谷口愛子（調査員）
橘　倫子（調査・研究支援ボランティア）
森下愛子（調査・研究支援ボランティア）

【主な成果】
のべ 91 件の伝世陶磁器の調書を作成し、伝世陶磁器研究ではこれまであまり注目されていなかった種類の中国陶磁をはじめとして、多数の寄託品候補を見いだすことができた。

【年度実績概要】
瑞光寺に関しては、のべ 2 日間の調査を実施し、悉皆調査（調書作成）を完了。
建仁寺両足院についても、1 月末現在で 2 日間の調査を行い、48 件分の調書を作成した。悉皆調査は未了であるが、既調査分の中から寄託候補品を本年度末頃に博物館へ搬入の予定。

【実績値】
調査回数　　4 回
調書作成件数　91 件（瑞光寺 43 件、建仁寺両足院 48 件）

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-14
（様式 2）

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
地元社寺からの依頼を受けて、速やかに実施することができた。調査方法については、過去に開催した「京焼」「憧れのヨーロッパ陶磁」展の準備に際してとった方法を踏襲しており、今後新たな特別展開催に向けての基礎資料を蓄積することができた。また、調査に際しては、京都国立博物館の独自の制度である調査研究支援ボランティア 2 名の参加を得ることができ、低廉な調査経費であったにもかかわらず、質の高い調書の作成ができた。

2．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数				
判定	A	A				

備考
建仁寺両足院の調査を完遂できなかったが、のべ 4 日間の現地調査は、昨今の博物館の著しい業務繁忙化の中では、ほとんど確保できる上限数値である。調書作成件数は、1 日あたり 20 件強であり、一見少なく思われるかもしれないが、これは調査に際して洗浄・クリーニングを会わせて実施していることによるもので、作業効率は極めて高いといえる。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	これまで未公表であった伝世文化財の調査を行い、博物館への寄託候補品多数を見いだすとともに、地元社寺との信頼関係の緊密化を図ることができた。建仁寺両足院については、調査を完遂できていないため、来年度も調査を継続して実施し、新たな作品の発見に努める予定であり、既に先方の内諾を得ている。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	年度当初に計画していなかった事業であるが、多数の寄託候補品を見いだすとともに、近い将来に計画している特別展覧会に向けての基礎資料を蓄積することができ、中期計画に対して順調に成果を挙げることができた。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良国立博物館　　処理番号 4513-01
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1)　南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等を実施（(5)-①-ⅱ）

【事業概要】
近隣社寺へ奈良国立博物館に対する積極的な協力の働きかけを行って所蔵文化財の調査研究等を行い、その成果を事業（展示等）に反映させる。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	学芸部長　西山　厚

【スタッフ】
【奈良国立博物館学芸部】鈴木喜博（上席研究員）、岩田茂樹（美術室長）、内藤栄（工芸考古室長）、稲本泰生（企画室長）、中島博（情報サービス室長）、吉澤悟（教育室長）、宮崎幹子（資料室長）、谷口耕生（保存修理指導室員）、斎木涼子（列品室員）、岩戸晶子（工芸考古室員）、野尻忠（情報サービス室員）、清水健（教育室員）、永井洋之（企画室員）、北澤菜月（企画室員）

【主な成果】
法隆寺、西国三十三所霊場及び関連文化財を蔵する諸寺、円教寺、金峯山寺、春日大社等への働きかけを行って所蔵文化財の調査を実施し、その成果を特別展・特別陳列に反映させるとともに、報道発表などを通して発信した。

【年度実績概要】
① 法隆寺金堂四天王像（国宝）について、赤外線写真による制作当初の彩色確認などの調査を実施し、その成果を特別展「国宝　法隆寺金堂展」の展示解説パネル、展覧会図録等に反映させた。
② 奈良県を中心とする地域の西国三十三所霊場札所が蔵する主要な文化財、また長谷寺式十一面観音像及び興福寺南円堂式不空羂索観音像に関連する文化財の調査を実施し、その成果を特別展「西国三十三所観音霊場の祈りと美」に反映させた。
③ 特別展「西国三十三所　観音霊場の祈りと美」に出陳された円教寺（兵庫県姫路市）所蔵・性空上人像の X 線撮影を行って像内納入品の存在を確認し、報道発表を行った。画期的成果として多くのメディアで取り上げられ、同像は本年度、重要文化財に指定されるに至った。
④ 当館修理所にて修理が完了した兵庫県所蔵の天部像が奈良・金峯山寺所蔵釈迦如来像と酷似することに着目して比較研究を行い、釈迦像を借用して「とてもよく似た二つの仏像」と題する特集展示を開催した。比較研究の成果は報道発表で公表し、展示解説パネル等にも反映させた。
⑤ 春日若宮おん祭に関する文化財調査を実施し、その成果を特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」に反映した。
⑥ 唐招提寺の収蔵品及び同寺金堂基壇発掘時における出土品（橿原考古学研究所所管）の調査を行った。その成果を 21 年度春季特別展「国宝鑑真和上展」に反映させた。

【実績値】
社寺調査対象数　　14
論文掲載件数　　5 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良国立博物館　処理番号 4513-01

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
南都諸社寺等に所蔵される文化財の調査は、奈良に立地する当館の基本的不可欠な作業の一つであると位置づけられる。こうした調査を通じて、近隣社寺との交流・信頼関係が一層深まりつつあり、今後の当館の企画・事業に好影響が期待される。

2．定量的評価

観点	調査回数					
判定	A					

備考
展覧会企画に沿った調査研究が中心になっており、その点では必要十分な条件を満たしている。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	特別展「国宝　法隆寺金堂展」、同「西国三十三所－観音霊場の祈りと美」に出陳した近隣社寺を中心とした所蔵品の事前調査の成果は展示及び展覧会図録に反映され、高い評価を得た。春日大社の若宮おん祭に関する文化財調査の成果は特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」に反映された。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	仏教美術と奈良の文化を調査研究展示活動の主眼としている当館にとって、近隣社寺の宝物調査は必須の事業である。20 年度も東大寺や春日大社を初めとする社寺の宝物調査を行うことにより、展覧会を活性化させ、学術的成果をあげることもできた。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4513-02
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2）仏教美術の光学的調査研究（東京文化財研究所との共同研究）　((5)-①-vi)

【事業概要】
奈良国立博物館と東京文化財研究所との間で締結した協定書に基づき、両機関の共同研究として仏教美術作品の光学的調査を実施し、使用材料、製作過程等について検討するとともに、高精細デジタルコンテンツを作成する。光学的調査は、①高精細フルカラー画像の作成、②可視光励起による高精細蛍光画像の作成、③高精細反射近赤外線画像の作成、④高精細透過近赤外線画像の作成、⑤蛍光エックス線による非破壊分析、を実施する。

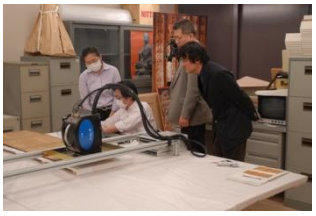
【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	学芸部長　西山　厚

【スタッフ】　［奈良国立博物館］：岩田茂樹（美術室長）、中島博（情報サービス室長）、稲本泰生（企画室長）、宮崎幹子（研究員）、谷口耕生（研究員）、［東京文化財研究所］：田中淳（企画情報部長）、津田徹英（文化財アーカイブズ研究室長）、早川泰弘（分析科学研究室長）、江村知子（研究員）、城野誠治（専門職員）

【主な成果】
飛鳥時代の重要な絵画資料である釈迦三尊像台座・薬師如来坐像台座（法隆寺蔵）の彩色画について、本格的な光学調査を実施し、彩色画の貴重な高精細画像及び基礎データを入手できた。さらに日本の絵巻を代表する作例である春日権現験記絵巻にかつて附属していた披見台についても、表面に描かれる金銀泥絵の高精細画像及び顔料成分データを入手することができ、中世仏教絵画史研究に貴重な基礎資料を提供することが可能となった。

【年度実績概要】
奈良国立博物館において、展覧会出陳を機会に借用した国宝釈迦三尊像台座・国宝薬師如来坐像台座（以上、奈良・法隆寺蔵）および春日権現験記絵披見台（奈良・春日大社蔵）について、それぞれ、①高精細デジタルカメラによるフルカラー画像作成、②可視光励起による蛍光画像作成、③高精細反射近赤外線画像作成、④蛍光エックス線を用いた非破壊分析等の調査を実施し、肉眼では観察できない絵画技法の解明や顔料の成分分析を行った。そこで得られた画像データ、分析結果をもとに両機関研究員の間で検討会を実施した結果、国宝釈迦三尊像台座・国宝薬師如来坐像台座については、従来の肉眼観察では不鮮明だった台座四面の彩色画の図様を明瞭に判別することが可能となり、飛鳥時代の仏教絵画研究に重要な資料を入手することができた。また春日権現験記絵披見台については、蛍光画像を用いることによって従来不鮮明だった表面の金銀泥絵による春日野の風景描写を明瞭に確認することができたことに加え、同作品と同時期に制作されたと従来考えられてきた中世絵巻の代表作である春日権現験記絵巻（宮内庁三の丸尚蔵館蔵）と彩色技法などを比較・検討することによって、その一具性を確認するための基礎データを入手することができた。併せて同作品に用いられる金具の目視による調査を実施し、さらには東京国立博物館染色担当研究員を招聘して同作品背面に使用される綾の組織を観察する調査も実施し、同作品の制作年代が春日権現験記絵巻と同時期であることを総合的に検証した。一方、平成 19 年度より継続的に調査を続けている国宝天台高僧像（兵庫・一乗寺蔵）については、展覧会に伴う上記 3 件の調査を急遽行うことになったため、本年度中の追加調査が実施できなかったが、調査報告書を平成 22 年度に刊行するための追加調査計画について検討を行った。併せて次年度以降、大徳寺所蔵五百羅漢図など新規調査対象選定についても検討を重ねた。

【実績値】
作品調査実施回数　1 回（1 週間実施）
研究会開催件数　2 回（奈良国立博物館で 2 回）
論文掲載数　　次年度に奈良国立博物館紀要『鹿園雑集』で報告予定。
調査作品数　3 件 3 点　・国宝　釈迦三尊像台座（法隆寺蔵）　1 点
・国宝　薬師如来坐像台座（法隆寺蔵）　1 点
・春日権現験記絵披見台（春日大社蔵）　1 点



【備考】
両機関研究員の日程確保が難しいなる状況の中で、19 年度には 1 週間程度の調査を 2 度実施できていたものが、本年度は 1 回しかできなかった。また、当初予定していた天台高僧像の調査が実施できず、その代わりに展覧会出陳作品の調査を急遽実施した。

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良国立博物館　　処理番号 4513-02

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	B	A	

備考
普段は法隆寺の金堂内に安置されているため全く調査の機会がなかった釈迦三尊像・薬師如来坐像の台座に、初めて本格的な光学調査を実施することができた。また、東京文化財研究所が春日権現験記絵巻の調査を継続的に実施していることを踏まえ、当初一具だった披見台の調査を実施した。いずれも展覧会出陳というまたとない機会を捉えた調査対象の選択だった。

2．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数	調査概報			
判定	B	A	B			

備考
前年度には 1 週間程度の調査日程を 2 回確保できていたにもかかわらず、本年度は 1 回しか確保することができなかった。両機関ともに多岐にわたる業務が増える中、長期にわたる調査日程を調整することが極めて困難になっていることが背景にある。そうした状況下で 3 件の重要作品を調査できた実績は評価すべきであるが、収集したデータの処理・分析に時間がかかっており、年度内の成果報告はできなかった。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	最新鋭の光学機器を用いた調査の実施により、従来は不明だった文化財の材質や構造を明らかにすることができ、また文化財の保存・修理を将来行う上での指針となる詳細な現状記録を残すことができた。特に本年度は飛鳥時代と鎌倉時代の重要絵画作品について詳細な調査を実施し、共同研究のメンバー以外にも当該作品を総合的に評価するために外部の研究者を招聘して調査を実施することができた。ただし調査データの解析にあたっては、未だデータの蓄積が十分でないために判断を保留せざるを得ない部分もあり、特に春日権現験記絵披見台については、当初一具だった春日権現験記絵巻との比較検討も実施できておらず、次年度以降も同様の調査を重ねていくことで、分析の精度を高めていきたい。また調査前・調査後の検討会をより綿密に行う一方、現在は 1 週間程度かかる 1 回あたりの調査実施期間を圧縮して、スムーズな日程調整を実現にするとともに、作品自体への負担を軽減したい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究事業は、その進捗度、従来の水準を維持しつつ比較的堅調に実現できたと考える。調査研究については、今後もこのペースを維持しつつ、目録作成やデータベースの公開に力を注ぎたい。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4513-03

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	3）仏教美術写真収集及びその調査研究（(5)-①-ⅱ）

【事業概要】
収蔵品・寄託品および館外から借用した仏教美術を中心とする文化財の写真撮影をおこなう。その際、文化財の基本情報を整備するとともに情報システムへ登録をおこない利活用できる体制を整える。特にカタログや美術書などには掲載されていない、作品の側面、背面、内側などの撮影を多数おこない、構造理解や製作技法の解明に資する貴重な写真を豊富に蓄積し、学術研究や保存を目的とした利用に資する資料として整備することを主要な目的とする。

【担当部課】	学芸部資料室	【プロジェクト責任者】	資料室長　宮崎　幹子

【スタッフ】
【奈良国立博物館学芸部】鈴木喜博（上席研究員）、岩田茂樹（美術室長）、内藤栄（工芸考古室長）、稲本泰生（企画室長）、中島博（情報サービス室長）、吉澤悟（教育室長）、宮崎幹子（資料室長）、谷口耕生（保存修理指導室員）、斎木涼子（列品室員）、岩戸晶子（工芸考古室員）、野尻忠（情報サービス室員）、清水健（教育室員）、永井洋之（企画室員）、北澤菜月（企画室員）、森村欣司（資料室員）

【主な成果】
館内外の貴重な文化財の撮影をおこない、カラーおよびモノクロ・フィルムを多数蓄積し、基本情報を整備することができた。これらは情報システムへ登録をおこなって検索利用を可能とし、さらに別途公開台紙を作成して一般の閲覧に供している。

【年度実績概要】
今年度の撮影では、移動の困難な仏像の写真や内部構造の X 線写真など貴重な資料が多く蓄積できた。特筆すべきものとしては、特別展『西国三十三所－観音霊場の祈りと美』に際して、観音信仰にかかわる多数の文化財の撮影を集中的におこなった。特に圓教寺所蔵・性空上人坐像については、カラーおよびモノクロ撮影によって像のありようを多面的に記録すると同時に、X 線撮影により像内の瑠璃壺と見られる納入物の存在を明らかにすることができた。
さらに来年度の特別展『聖地寧波－日本仏教 1300 年の源流～すべてはここからやって来た』の開催に向けて、出陳予定の大徳寺所蔵・五百羅漢像（八十二幅のうちの四十二幅）の撮影をおこなった。中国宋時代の仏教絵画の傑作である本画像の重要かつ貴重な資料を多数蓄積することができた。
また収蔵品、寄託品の国宝などを中心に写真のデジタル化を推進し、ガラス乾板についても館の歴史資料として重要な写真を中心にデジタル化をおこなった。

【実績値】
収集した写真枚数は以下の通り。
カラー・ポジ（4×5）　3,079 枚、カラー・ブローニ　312 枚
モノクロ　2,965 枚、ブローニ　4 枚、X 線　97 枚

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良国立博物館　処理番号 4513-03

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	B	B	A	A	A	

備考
　この事業は継続性の高いものであり、短期的な成果や画期性を期待すべきでなく、間断なく質の高い資料を蓄積できた点を評価したい。

2．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数	調査概報			
判定	A	B	A			

備考
　回数や収集資料数は多ければ良いわけではないが、質や継続性を勘案しても、本年度は充分な調査をこなしており、収集資料も豊富であったと評価したい。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	過去 5 年間の平均撮影枚数は約 7 千枚であるのに対して、単純な撮影枚数では若干下回っている。しかしながら実績概要でも述べたとおり、歴史的に重要であり、撮影および調査の機会を得ることが通常では困難な文化財について、調査を実施して質の高い資料の収集が叶い、学術研究の利用に資することのできた意義は大変大きい。今後とも調査研究や展覧会の開催と密接に連携した資料の蓄積を続けたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	昨今の写真のデジタル化の勢いを鑑みた場合、機材と人材の確保を含めた長期的な展望が今後とも必要であると思われる。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良国立博物館　　処理番号 4513-04
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	4)　我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究（(5)-①-ⅱ）

【事業概要】
仏教美術の専門館であり、日本仏教美術に関するもののみならず、広くアジアを視野に入れた展示を構成している奈良国立博物館の特長に鑑みて、中国や朝鮮半島における文化財とわが国の文化財の比較研究を実施する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	学芸部長　西山　厚

【スタッフ】
【奈良国立博物館学芸部】鈴木喜博（上席研究員）、岩田茂樹（美術室長）、内藤栄（工芸考古室長）、稲本泰生（企画室長）、中島博（情報サービス室長）、吉澤悟（教育室長）、宮崎幹子（資料室長）、谷口耕生（保存修理指導室員）、斎木涼子（列品室員）、岩戸晶子（工芸考古室員）、野尻忠（情報サービス室員）、清水健（教育室員）、永井洋之（企画室員）、北澤菜月（企画室員）

【主な成果】
学術交流協定を締結している中国・韓国の博物館との間で研究員の派遣・受け入れを行い、活発な研究交流・情報交換を行うことができた。また特別展開催の前提として行った、中国・朝鮮半島で制作された文物に対する調査研究の成果を、展示及び図録等に反映させることができた。

【年度実績概要】
① 学術交流協定を結んでいる中国・上海博物館に 3 名、同・中国国家博物館に 2 名、韓国・国立慶州博物館に 1 名を派遣した。また、中国・河南博物院から 2 名、中国国家博物館から 2 名、慶州博物館から 1 名の研究員を受け入れた。
② 特別展「天馬－シルクロードを翔ける夢の馬」では、仏教と天馬の関係にも留意しつつ、中国からの借用品を含む、中国で制作された関連作品群の展示を行い、展覧会図録にも調査研究の成果を反映させた。
③ 特別展「国宝　法隆寺金堂展」開催にあたり、法隆寺の出陳文化財と中国・朝鮮半島の文物の比較検討を行って、展覧会図録等に調査研究の成果を反映させた。
④ 特別展「第 60 回正倉院展」では、東アジア文化圏の中で正倉院宝物の意義を考察し、展示及び展覧会図録に反映した。また正倉院宝物の源流をシルクロードに探る取材のため研究員を派遣し、パネル展示や連載記事に協力した。
⑤ 中国宋元時代及び日本中世における東アジア海域交流に関連する作品調査を行うためにアメリカ及び中国に 1 名を派遣した。その成果は 21 年度特別展「憧憬の中国仏教－聖地寧波をめぐる人と美術」に反映させる予定である。
⑥ 22 年度春季特別展「平城遷都 1300 年記念大遣唐使展」開催の事前調査のため中国にのべ 2 名、米国に 1 名の研究員を派遣し、中国で制作された関連作品を主たる対象とした事前調査・資料収集を行った。

【実績値】
研究員の派遣　12 名
研究員の受入　5 名
学会、研究会等発表件数　7 件
論文掲載件数　　4 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良国立博物館　処理番号 4513-04

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
我が国の仏教美術を研究する上で、中国・韓国をはじめとする海外の仏教文化研究は必要不可欠である。そのために数箇所の研究機関と学術交流協定を基軸として効率的に調査研究を進め、その成果を当館の特別展等に反映させるように努めている。

2．定量的評価

観点	研究員の派遣人数	研究員の受入人数	学会、研究会等発表件数	論文掲載件数	
判定	A	A	A	A	

備考
展覧会企画に沿った調査研究ができ、その点では必要十分な条件を満たしている。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	上海博物館（中国）・河南博物院（中国）・中国国家博物館（中国）・国立慶州博物館（韓国）の四館と研究員の交流を行うことで、広くアジア諸国を視野に入れた調査研究を行うことができた。特別展「天馬」では、東西交渉史を考える上で非常に重要なモチーフである天馬に関連する作品を展示し、高い評価を得た。その中には、中国で制作された品も多数含まれる。「第 60 回正倉院展」においても、正倉院宝物の源流をシルクロードで調査した成果をパネル展示などに活用した。また中国・アメリカでの中国文物の調査を展開し、その成果は 21 年度特別展「聖地寧波－日本仏教 1300 年の源流～すべてはここからやって来た」及び 22 年度特別展「平城遷都 1300 年記念大遣唐使展」の内容を充実させることになった。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	わが国とアジア諸国との文化交流に関する文化財の調査研究は次第に蓄積を増しており、こうした成果によって 21 年度特別展「聖地寧波－日本仏教 1300 年の源流～すべてはここからやって来た」及び 22 年度特別展「平城遷都 1300 年記念大遣唐使展」の内容を充実させることができた。23 年度以降も中国との交流をメインテーマとする複数の特別展を計画中で、今後も引き続き調査研究を続けていく必要がある。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良国立博物館　　処理番号 4513-05

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	5)　当館所蔵品についての調査研究（客員研究員）　((5)-①-ⅲ)

【事業概要】

従来からの収蔵品について継続的に調査研究を実施する。なお、新収蔵品については具体的な公開等を見越して重点的にこれを行う。調査研究の成果は、展覧会、印刷物、インターネット等を通じて公表し、広く斯界の学術的発展に資する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	学芸部長　西山　厚

【スタッフ】

【奈良国立博物館学芸部】鈴木喜博（上席研究員）、岩田茂樹（美術室長）、内藤栄（工芸考古室長）、稲本泰生（企画室長）、中島博（情報サービス室長）、吉澤悟（教育室長）、宮崎幹子（資料室長）、谷口耕生（保存修理指導室員）、斎木涼子（列品室員）、岩戸晶子（工芸考古室員）、野尻忠（情報サービス室員）、清水健（教育室員）、永井洋之（企画室員）、北澤菜月（企画室員）

【主な成果】

新収蔵品に対する調査研究を重点的に実施し、平常展での公開と併行して研究成果を広く発信することができた。従来からの収蔵品についても継続的に調査研究を行い、その成果を展示及び刊行物などに反映することができた。

【年度実績概要】

① 前年度購入した越中国射水郡鳴門村墾田図についての調査研究の成果を、平常展での初公開と連動させて「日本歴史」、「奈良国立博物館だより」等各種メディアで詳しく紹介した。
② 五條市猫塚古墳出土品に関して、細かな観察に基づく再検討を実施した。
③ 特別展「天馬－シルクロードを翔ける夢の馬」、特別陳列「建築を表現する－弥生時代から平安時代まで」開催に向けて行った関連収蔵品調査（前者の実施は前年度）の成果を、展示及び展覧会図録に反映した。

【実績値】

展覧会図録　2 冊
新収蔵品の調査研究成果の学術雑誌、新聞、館の刊行物等への掲載　5 回

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良国立博物館　　処理番号 4513-05

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
収蔵品の調査研究は各部門による定期的継続的な点検調査を通して、平常展をはじめとして新たな成果を公開している。また、新収蔵品等についても集中的な調査を実施しており、この成果を公開しているのは前述の通りである。

2．定量的評価

観点	図録の作成	学術雑誌等への掲載				
判定	A	A				

備考
調査研究成果について、質の高い図録等として発表することができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	新収蔵品となった作品の調査研究を進め、その成果を平常展及び各種刊行物等に反映させた。また事前調査としての様々な館蔵品調査の成果は、特別展「天馬」及び特別陳列「建築を表現する」に反映され、高い評価を得た。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	従来からの収蔵品及び新収蔵品についての調査が継続的に実施され、その成果は評価の高い展覧会を生み、また展覧会図録等の出版物やインターネット等を通じて公表された。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良国立博物館　　処理番号 4513-06
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	6)　統一新羅期の道具瓦集成（科学研究費補助金）（(5)-①-ⅱ）

【事業概要】
日本の瓦生産において大きく影響を与えたと考えられる朝鮮半島の様相を日本と比較検討することを目的として、特に研究が遅れている道具瓦を取り上げる。これまでと描く文様に偏りがちだった鬼瓦と鴟尾について出土数が多い統一新羅の資料を対象に集成を行い、これまで研究を進め明らかにしてきた日本での鬼瓦の技術的観点を援用しつつ、製作技術など技術的観点にもとづくデータを採取し、基礎的資料を作成する。

【担当部課】	学芸部工芸考古室	【プロジェクト責任者】	工芸考古室員　岩戸　晶子

【スタッフ】

【主な成果】
昨年度から 3 ヵ年の計画で、韓国国内で最も多い所蔵資料数を誇る韓国国立慶州博物館（以下、慶州博）ほか、韓国国立中央博物館や東国大学校博物館などの所蔵資料を中心に、実測や写真撮影、熟覧を行い、資料化を進めている。

【年度実績概要】

今年度は 8－9 月と 2 月に韓国での調査を行い、昨年に引き続いて慶州博にて調査を実施したほか、新たに東国大学校博物館にて調査を行った。東国大学校では慶州各地で出土した鬼瓦とその笵を調査し、特に出土資料としての鬼瓦笵は日本で出土を見ず、韓国国内でも非常に珍しいものである。これまでの調査ではこの笵による製品の調査も行っており、今回の調査によって鬼瓦製作技術に関する非常に多くの知見が得られた。慶州博では昨年度に引き続き雁鴨池出土の鬼瓦の調査を行っている。とくに 8 月には緑釉鬼瓦について集中的な調査を行った。日本では平安時代になって初めて登場する緑釉鬼瓦であるが、調査の結果統一新羅の緑釉鬼瓦は初期段階に限定されることが新たに判明した。2 月の調査は現在進行中であるが、同笵関係の確認や改笵の可能性がある資料を集中的に調査している。

昨年度の予定では、日本にあるコレクション内に含まれる統一新羅道具瓦についても調査する予定であったが、最大のコレクションであった井内コレクションが全て韓国の柳琴瓦当博物館に寄贈されるという予期できない事態が起こり、現在、計画の変更を余儀なくされている。年度内には天理参考館所蔵の鬼瓦も調査予定である。

【実績値】

調査日数は延べ 32 日。

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良国立博物館　　処理番号 4513-06

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	B	A	

備考
　韓国における古代瓦の研究は文様を対象としたものに偏重しており、道具瓦も例外ではなかった。そういった意味では、独創的であり、基礎データを提示することによってこれからの研究の進展が期待できるものである。また、本調査は、プロジェクト責任者のこれまでの研究成果を基にして、奈良国立博物館における慶州博との学術交流などの人的交流の成果を基に、可能となったものである。

2．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数				
判定	B	B				

備考
　科学研究費を活用し、韓国での調査は着実にすすめている。国内の資料に対する調査が既述のとおり予定変更を余儀なくされており、今年度は捗らなかった。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	最も対象資料を多く所蔵する慶州博では担当者が異動によって交代するなどのハプニングもあったが、密に連絡を取り合い、当初の予定通りの計画で調査を遂行できている（現在進行中。）当初日本国内で調査予定であった資料の大部分が韓国に移動したため、次年度はこの調査をどうするかについて早急に検討･交渉することが課題である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	3 年計画の中で、調査研究は順調に進んでいる。今後もこのペースを維持しつつ、さらに調査の充実をはかりたい。次年度は最終年度ということもあり、調査だけでなく分析も含めて研究を進めたい。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良国立博物館　　処理番号 4513-07
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	7)　古墳時代中期における対外交渉の特質と地域圏の形成・展開過程（科学研究費補助金）((5)-①-ⅱ)

【事業概要】
本研究は、日本の国家形成をみる上で基点となる古墳時代中期に焦点をあて、外来的な文化要素を徹底して検討することを目的としている。ケース・スタディとして奈良県五条猫塚古墳の出土品を選定しており、その再整理と詳細検討を行う中から生じた問題を、他の地域や遺跡出土の資料に当てはめ、新たな視点から外来的要素の発現メカニズムを探る計画である。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	教育室長　吉澤　　悟

【スタッフ】
研究分担者；岩戸晶子（当館　工芸考古室員）、魚津知克（大手前大学講師）
研究協力者；岩本崇（大手前大学史学研究所）、加藤一郎（宮内庁書陵部）、阪口英毅（京都大学文学部）、川畑純（京都大学大学院）、初村武寛（京都府立大学大学院生）

【主な成果】
19 年度の作業に引き続き、五条猫塚古墳の出土品の実測図作成を推進した。さらに、これまでに蓄積したＸ線写真や図面の画像データをパソコンに取り込み、個々の遺物に関する法量や形態、出土位置などの基礎的項目をデータベースに入力し、これらに予備的な検討を行った。来年度以降の本格的な検討・比較研究に必要な基礎的作業を大幅に推進することができた。

【年度実績概要】
平成 19 年度は、五条猫塚古墳の出土品の再整理とそこから抽出される技術的特性な何かという問題を考えることを主目的とした。甲冑や鉄製武具、埴輪などを専門的に研究している大学研究者、大学院生の精鋭を集めて整理チームを作り、数多くの実測図やＸ線写真を作成し、数回の検討会を開催し、問題点の整理を行った。
平成 20 年度は、前年度の作業を受けて、前半期は不足の情報を補うために実測作業を進めた。特に挂甲小札と鉄鏃は大量にありながらも種類が多岐にわたるため、その分類と正確な図化が必要であり、主戦力をここに注ぐことにした。結果、今年度にほぼ図化を完成させることができた。
後半期は、主にパソコンへ画像を取り込み、基礎データ入力などを進めて、研究スタッフ全員が出土品の全貌を見通すことができ、かつ共通の問題意識のもとに検討を進められる環境作りを推進した。当年度の作業の中からもいくつかも新発見と問題点が表れ、これを話し合う場を数回設けることにした。
未だ文章報告のかたちにはなっていないが、これまでの整理・検討から以下の内容に高い蓋然性が指摘できる段階に至っている。すなわち、金銅製帯金具や鉄製武器・武具など本古墳の出土品は、形態や製作技法などに大陸や半島からの技術的影響が強く看取されるが、その実態は、渡来した工人による直接の作品ではなく、わが国の在来の技術や生産体制に技術指導が行われたもの、あるいは少数グループによる技術的交流をうかがわせるものであり、大陸・半島の単純な模倣ではなかった。これが単一氏族による自己完結的な現象であるとは考え難く、本古墳を営んだ勢力が大陸・半島技術の窓口となり、周辺地域の技術レベルを牽引する役割を果たし、ひいては列島全体に起きている国家形成の胎動の基盤を支えるものとなったと考えられる。
最終年度の平成 21 年度には、これまで蓄積した基礎情報と上記の検討成果をより深化させ、個々のスタッフが推進する研究成果を取りまとめる準備をすすめる予定である。同時に、その概要をまとめて公表すべくレポート作成を計画している。

【実績値】
五条猫塚古墳の武具、農耕具、埴輪ほかの実測図を通算で約 700 枚。遺物の 8～9 割を実測図化し得た。実測図およびＸ線写真の約 7 割を画像データ化した。
寸法や形態分類、出土位置などの基礎情報を入力したデータベースを作成した。
小検討会　期間中 2 回、全体会議 1 回開催。

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良国立博物館　　処理番号 4513-07

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
本古墳の出土品は日本国内の研究者はもとより、韓国研究者にも大いに注目されている。ことに技術交流に関する研究論文も昨今は頻繁であり、基礎情報の整理は周囲に嘱望されているものである。また、腐食・崩壊によって失われつつある鉄製品の情報を、可能なかぎり正確に記録化しておくことは、当該分野の将来的な研究においても大きな寄与をもたらすものと思われる。

2．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数				
判定	A	A				

備考
大量の実測図や基礎情報を収集し得た。報告は来年度以降の作業である。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	基礎資料の蓄積と整理を果たした点で、今年度は相応の評価が得られると思われる。次年度はこの成果をもとにした内外スタッフの検討会を増やし、研究の深化をはかり、同時に概要を公表する準備をすすめて行きたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本研究は、古代東アジアの対外交流史において重要な位置を占めると考えている。特に仏教美術を専門とする当館の活動においては、中国や韓国からもたらされた外来文化の受容形態を考える本研究は基幹的な役割を果たすはずである。本研究は 3 ヶ年の時限をもってなされるが、その成果は中・長期的な活動において発展的に継承されるべき内容である。今年度は重要な基礎情報を蓄積と整理ができ、問題点を見出すことができたことは、次年度以降への発展につながるものであろう。年度実績としては「順調」とするのが穏当と思われる。

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-01
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1）日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究　（(5)-①-ⅱ）

【事業概要】
JICA 草の根技術協力事業「文化財の保存と観光資源としての利活用」として、タイにおいて、文化財の保存活用センターとしての役割をになう博物館としての立場から専門家派遣、研修生受入を実施。

【担当部課】	企画課	【プロジェクト責任者】	企画課長　伊藤　嘉章

【スタッフ】
森田　稔（学芸部長）、原田あゆみ（企画課研究員）、赤司善彦（展示課長）

【主な成果】
JICA の草の根技術協力事業で「文化財の保存と地域の活性化」をテーマにタイ王国芸術局国立博物館事務局と共同研究を行った。7/21～29 に研究員 3 名を派遣、日本での無形文化財と保存の取り組み、遺跡の市民共生等発表。9/25～10/16 バンコク国立博物館等の研究員 3 名を受入れ、文化財保存と平常展示、特別展示による活用、遺跡の保存と地域共生などについての研修を行った。この事業は 21 年度も継続し、日本・タイの文化を比較する展覧会の開催を計画。

【年度実績概要】
九博は JICA の草の根技術協力事業として「文化財の保存と地域の活性化」をテーマにタイ王国芸術局国立博物館事務局と共同研究を行った。
7/21～29 に研究員 3 名を派遣、タイ・バンコク国立博物館にてセミナーを開催。日本側からは、日本での無形文化財と保存の取り組み、遺跡の市民共生などについて発表を行なった。タイ側からは、タイの国立博物館事務局の業務についての紹介とタイの博物館活動の状況説明、平成 19 年度の日本での研修の報告があった。
9/25～10/16 バンコク国立博物館等の研究員 3 名を受入れた。博物館における文化財保存と平常展示、特別展示による活用、遺跡の保存と地域共生、無形文化財としての工芸技術の保存などについての研修を行った。また、タイ研究員によるタイの文化財、及び博物館の置かれている状況などの報告会を開催した。
この事業は 21 年度も継続される。さらにその相互研修の成果をもととして、数年後にタイにおいて日本とタイとの共同で、相互の文化を比較するという視点での展覧会の開催を計画。その予備調査としてタイ・バンコクの博物館・美術館の状況調査を実施した。

【実績値】
7/21～29 タイへの研究員 3 名　派遣
9/25～10/16　バンコク国立博物館などの研究員 3 名を受け入れ、研修の実施。
2/14～17 タイへの調査員 4 名　派遣


研修風景

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-01

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
本事業は、文化財が持つ様々な可能性という面に着目し、その保存と活用が単に文化財を守るという意味を超えた役割を果たしうるということを示すものである。日本国内で行うこうした文化財の「活用」を交流によって伝えることが、アジア諸国における文化財行政について新たな展開を促すものとなる。

2．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数	調査概報			
判定	A	A	A			

備考
招聘は文化財保存・活用の現場に携わる方々とし、実質的な研修を行った。その滞在日数も実質的かつ参加型の研修を多方面から行いうるものとして 3 週間弱という日程とし、効果を挙げている。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財の保存と活用というテーマ設定は、従来の枠を越えた取り組みであり、国立博物館が海外に対して大きな貢献をするひとつの道が出来上がった点は大きく評価される。その成果を両国共同で作り上げる展覧会に向けて、タイでの展覧会開催に向けての枠組み、内容等のついての共通理解も形成されつつある。次年度は JICA 研修の最終年度であり、それに向けての調整も進んでいる。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	博物館が主体となる文化財を通した交流では、従来は一方的な方向となることが多かったのに対して、双方向を企図し、それに向けて順調に進展をしつつある。今後については、これらの交流の成果を実践するものとして、展覧会の実施等に向けて、博物館以外の協力体制をも模索しながら、より大きな成果を目指すものとする。

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-02
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2）文化財の材質・構造等に関する共同研究（(5)-①-vi）

【事業概要】
九州国立博物館において、X 線 CT を用いて文化財の内部構造調査を行い、文化財の健康状態や制作技法を理解し、得られた成果を展示に活用することを目的とする。

【担当部課】	博物館科学課	【プロジェクト責任者】	環境保全室長　今津　節生

【スタッフ】
臺信祐爾（文化財課長）、河野一隆（企画課文化交流展室長）、市元塁（文化財課研究員）、楠井隆志（展示課主任研究員）、松川博一（展示課研究員）

【主な成果】
平成 20 年度から泉屋博古館の所有する中国青銅器のコレクションについて、継続的な展示と X 線 CT ｽｷｬﾅを中心とする科学的な調査を実施することになった。科学的な調査結果と実物展示を通して広く観覧者に公開できる体制が整った。

【年度実績概要】
九州国立博物館の展示に借用する文化財を中心に、1 年間で約 300 件の CT 調査を実施した。得られた成果は、常設展での展示の際に活用している。また、特別展で借用した陶磁器の調査で、江戸時代の有田焼の人形の製作工程などが明らかになった。
外部との連携としては、住友コレクションとして世界的に著名な泉屋博古館の所有する中国青銅器について中国古代青銅器の展示に合わせ X 線 CT ｽｷｬﾅを中心とする科学的な調査を実施した。その結果、中国古代青銅器の製作技術を非接触非破壊で解明することができた。この研究成果は日本文化材科学会と文化財保存修復学会で発表した。

【実績値】
調査件数　約 200 件
日本文化材科学会での発表　　10 件
文化財保存修復学会での発表　1 件



X 線 CT 画像による青銅器の技法解明

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-02
（様式 2）

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
効率性では、安全・敏速に撮像できる体制が整った。国内各博物館等からの調査要請が多く、我が国の文化財科学情報のセンターとしての期待が高まっている。今後は、得られたデータを共同利用するための工夫が必要である。

2．定量的評価

観点	調査件数	学会発表数				
判定	A	A				

備考
保存修復学会には約 900 名の研究者が参加した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財用の X 線 CT としては、世界的で最も優れた装置の一つであり、研究者の間からその有用性について高い評価をいただいた。21 年度は、より幅広い他機関との連携を目指しデータの活用を進めたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	九州国立博物館では展示に際し文化財を常に借用するため、X 線 CT スキャナ装置で文化財所蔵者と共同調査し成果を上げることで、他の博物館との連携が進みつつある。21 年度は、得られた成果を本博物館の展示へ公開し観覧者に供したい。

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-03
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	3）博物館における文化財保存修復に関する研究（客員研究員）((5)-①-ｉ)

【事業概要】
当館文化財保存修復施設の機能と利点を活かし、西日本地域の大学で文化財保存修復を学ぶ学部生・大学院生を対象とした研修を実施する。

【担当部課】	博物館科学課	【プロジェクト責任者】	研究員　志賀　智史

【スタッフ】
篠崎悠美子（客員研究員）、藤田励夫（保存修復室長）、松尾かをる（研究補佐員）、藤岡春樹（国宝修理装コウ師連盟九州支部長）、田畔徳一（国宝修理装コウ師連盟九州支部顧問）、小笠原温（国宝修理装コウ師連盟九州支部主任技師）

【主な成果】
吉備国際大学から 2 名、九州産業大学から 2 名、別府大学から 3 名の合計 7 名が参加した。少人数のため、実践的な研修が実施できた。

【年度実績概要】
別府大学篠崎悠美子教授を客員研究員とし、保存修復施設を利用し、地域の大学との協業を果たすことを目的とした短期インターンシップ研修プログラムを17～19年度の実績を踏まえ検討、改善した。成果は8月4日から5日間にわたり国宝修理装こう師連盟の協力を受け、吉備国際大学と九州産業大学、別府大学の学生7名に対して、装こう技術に関する短期インターンシップ「文化財保存修復研修」として開催した。研修では障壁画下貼り作製に関する講義と実習を通して、文化財保存修復についての理解と研鑽を深めた。

【実績値】

研修開催実績	平成 17 年度より 4 回目	
今年度研修参加学生	吉備国際大学	2 名
	九州産業大学	2 名
	別府大学	3 名
	計	7 名



【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-03

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点	参加者数					
判定	A					
備考 実習としては適切な数である。						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財を伝えるため修復技術者の育成は必要不可欠であるが、このような研修を行っている機関は極めて少ない。少数の研修生で毎年継続することに意味のある事業であり、平成 21 年度以降も実施する計画である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	博物館における文化財保存修復のあり方について、一定の方向性が示せたのではないかと考える。対象を大学・大学院で文化財保存修復を学ぶ学生に限定すべきかどうかは 21 年度以降の検討課題である。

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-04
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	4）彩色水浸文物の保存科学的研究　―中国江蘇省泗水王陵出土文物の保存―（科学研究費補助金）((5)-①-ｉ)

【事業概要】
中国江蘇省泗水の前漢墓から発見された彩色水浸文物の保存を通して、文化財保存に関する国際的な研究交流と技術開発を行うと共に、文化財保存技術に関する日本の技術を中国に移転することで、九州国立博物館による国際的な研究交流に貢献する。

【担当部課】	博物館科学課	【プロジェクト責任者】	環境保全室長　今津　節生

【スタッフ】
三輪嘉六（館長）、鳥越俊行（博物館科学課研究員）、西浦忠輝（国士舘大学教授）、伊藤幸司（財団法人大阪市文化財協会研究員）、沢田正昭（国士舘大学教授）、ANDRAS　MORGOS（筑波大学教授）、張　金萍（南京博物院研究員）

【主な成果】
インド・ニューデリー市で開催された国際博物館会議文化財保存部門 ICOM-CC（International Council of Museums）において、研究成果を発表した。また、中国南京博物院と共同で研究報告書を製作した。

【年度実績概要】
泗水王陵出土の水浸出土の保存科学的な研究を経て、以下のことが判明した。
① 泗水王陵墓から発見された飽水状態の水浸出土木材は、腐朽度にばらつきが大きい。出土木材の腐朽度を示す含水率は 150～1600%に達し、収縮率も 8～90%にも及ぶ。
② 化学分析の結果、腐朽度の増加に伴って、水浸出土木材から 1%NaOH 溶液への抽出量は増加した。
③ 水浸出土木材の赤外分光分析（FTIR）の結果、木材の腐朽が進むにしたがって、セルロースとヘミセルロースの分解が顕著であることが判明した。
④ 樹種の違いによる糖アルコール溶液の拡散の違いを検討した結果、含浸時間の増加に伴って溶液の木材内部への拡散は進むが、樹種の違いによる拡散の差が極めて大きいことが判明した。

これらの研究成果をもとに、南京博物院では実際に文物の保存処理をおこない、九州国立博物館では保存処理技術の技術移転を進めた。今年度は研究の最終年度にあたるので、南京博物院と共同で研究報告書を作成した。

【実績値】
学会研究発表
国内学会　文化財保存修復学会第 29 回大　　1 回
国際学会　国際博物館会議文化財保存部門 ICOM-CC　1 回



保存処理を終えた犬形木製品

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-04
（様式 2）

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
　文化財保存を通じた具体的な国際貢献として国際性・適時性に富む研究であり、中国側の評価も高く十分な成果が認められる。研究成果の技術移転を通じて今後の発展性も高く、十分に成果が認められる。

2．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数	調査概報			
判定	A	A	A			

備考
　文化財保存の世界で最大級の国際会議である国際博物館会議文化財保存部門 ICOM-CC において、研究発表を行った（ﾆｭｰﾃﾞﾘｰ、2000 名参加）。また、国内では文化財保存修復学会で研究発表を行った（福岡、900 名参加）。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	発見間もない貴重な文化財を日中の研究協力によって保存方法を開発し技術移転しようとする点において、適時性、独創性、発展性において目標を達成した。実際の保存処理は中国で実施しているので今後はさらに効率的な研究をおこなえるように改善を進めてゆきたい。保存処理の文物の公開にあたっても、日本の展示技術を技術移転すると共に、日本での初公開に向けて努力してゆきたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画通りに実施されており当該年度計画を 100%達成して順調に研究を進めている。 本研究は文化財の保存技術の向上や国際貢献に結びついた研究として、中期計画にそった研究内容である。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-05

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	5）ＶＲ画像を活用した日本装飾古墳デジタルアーカイブの構築（科学研究費補助金） （(5)-①-ｉ）

【事業概要】

本研究では、日本列島に分布する装飾古墳を対象とし、写真測量技術を応用して壁画に影響を与えることなく、石室全体を客観的に記録する方法を開発した。この技術を活用して装飾古墳の記録・管理の事業を展開し、博物館や web 上で展示・公開するためのデジタルアーカイブを構築する。これにより装飾古墳を 3 次元的に記録する研究基盤を確立する。また、装飾古墳の現状記録としては、石室構造や文様の写真を高精細画像として撮影する。

【担当部課】	企画課	【プロジェクト責任者】	文化交流展示室長　河野　一隆

【スタッフ】

研究分担者　赤司善彦(九州国立博物館)
研究協力者　池田朋生(熊本県装飾古墳館)・西住欣一郎・木村龍生(熊本県教育委員会)
宮崎歩(山鹿市教育委員会)・矢羽田幸宏(日田市教育委員会)
武廣正純・天賀光広・村上浩明(（株）とっぺん)
牛嶋茂(奈良文化財研究所)・南部裕樹(立命館大学)・下森弘之(別府市教育委員会)

【主な成果】

今年度の研究では、装飾古墳のうち石室 2 基(日田市ガランドヤ 1・2 号墳)、横穴墓 4 基(山鹿市小原大塚横穴墓・山鹿市小原浦田横穴墓)を対象とした。その結果、本研究でデジタルアーカイブされた装飾古墳の総数は、石室 8 基・横穴墓 4 基で、福岡・大分・熊本県に亘った。特に横穴墓は前面が開放空間のため画像調整に困難が予測されたが、おおむね良好な成果を得た。また、装飾古墳撮影も、別府市鬼の岩屋 1・2 号墳で実施した。

【年度実績概要】

本研究では、福岡県に隣接する筑後川水系の大分県日田市ガランドヤ 1・2 号墳、菊池川水系の熊本県山鹿市小原大塚横穴墓・小原浦田横穴墓を対象として VR 画像を作成した。この研究は、人手による実測図や写真によって記録・管理されてきた装飾古墳に対して、写真測量技術を応用し、非接触によって壁画に影響を与えることなく VR 画像を作成し、石室全体を客観的に記録するための方法の開発と実践の研究である。これにより、石室と壁画の記録方法が従来の実測図の作成と比べて飛躍的にスピードアップしただけでなく、壁画とカビ等の汚損や石室の崩壊などの石室内における位置関係を 3 次元的に記録できるようになり、装飾古墳の保存のためのデータ基盤が確立した。また、今年度は横穴墓の VR 化作業にも挑戦した。横穴墓は前面が開放空間となっており、精確な形状取得や画像調整の作業にも困難が予測されたが、試行錯誤の結果、石室と変わらない程度の良好な成果を得ることができた。この方法で製作した VR 画像データは、通常は内部に立ち入れない装飾古墳を博物館で展示することにも活用できる。VR 画像は文化財の保存・普及に新しくかつ最適な記録手段であることを提言したい。

また、大分県別府市鬼の岩屋 1・2 号墳を対象として、4×5 フィルムおよび 6×6 フィルムによる写真撮影を実施した。両古墳とも、現時点での鮮明な記録写真が無く、50 枚以上の良好な文様の全体およびアップの撮影に成功し、装飾古墳の現状を記録した貴重な資料となった。

これらの成果の一部は、文化財保存修復学会・日本文化財科学会をはじめとする関連諸学会や月刊文化財などの学術誌、福岡県装飾古墳連絡協議会などの行政研究会などで発表・公開し、普及啓蒙に努めた。

【実績値】

- VR 画像の製作を行った装飾古墳は、石室墳 2 基(日田市ガランドヤ 1・2 号墳)および横穴墓 4 基(山鹿市小原大塚横穴 2 基・小原浦田横穴 2 基)の計 6 基である。通算の蓄積された古墳数は 12 基となった。
- 横穴墓の VR 画像化にはじめて成功した。
- 写真撮影を行った古墳は 2 基(別府市鬼の岩屋 1・2 号墳)である。通算の撮影された古墳数は 4 基となった。


ガランドヤ 1 号墳 VR 画

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-05

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
・年度当初の計画通り実施することができた。

2．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数	調査概報			
判定	B	A	A			

備考
・昨年度に比べると調査の着手が少し遅れ、調査した古墳基数は変わらないが、現場への訪問数がやや減少した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	おおむね、年度当初に描いた通りの計画が遂行できた。装飾古墳に対する立ち入り制限については自治体ごとに差があり、それが一部の調査着手の遅れにも繋がった。調査の安全性に対する理解を共有させるためにも来年度には調査のガイドラインを策定したい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	昨年からの蓄積では、調査基数・地域とも順調な拡大を続けている。来年度には、九州外への展開も一部見据えて、調査を遂行していきたい。

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-06
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	6）近代工芸の美術史・産業史・地域史の基礎資料としての内国勧業博覧会出品作品の研究（科学研究費補助金）（(5)-①-ⅱ）

【事業概要】
日本の近代史の展開に大きな意味を持った工芸の展開について、その展開の契機となった内国勧業博覧会の出品作を中心とした基礎資料を整備する。

【担当部課】	企画課	【プロジェクト責任者】	企画課長　伊藤　嘉章

【スタッフ】
小川幹生（名古屋市博物館学芸課学芸員）、土井久美子（大阪市立美術館学芸課学芸員）、高橋美奈子（山種美術館学芸部長）

【主な成果】
第一回内国勧業博覧会、第二回内国勧業博覧会について、それぞれの出品写真帖のデータを文字・画像データベースを作成した。これに第二回内国勧業博覧会については帝国博物館購入品のデータベースと、それに対応し、現存する作品の画像データベースの作成を進めつつある。
内国勧業博覧会を紹介する絵画資料を収集しつつある。

【年度実績概要】
調査方針の検討と現状の情報整理のために、各研究協力者によってデータ集成を進め、これとともに研究会を開催した。工芸の分野別によるデータ整理の分担及び、情報収集、整理作業について協議するとともに、これまでの調査成果を共有することとした。関連すると思われる近代工芸を所蔵する機関・個人について、作品の調査を実施した。国会図書館の所蔵する近代新聞･雑誌資料から、関係記事について収拾した。内国勧業博覧会出品が明らかな作品について新たな撮影を実施した。地域の研究者に研究データの一部を提供し、新たなデータを入手した。

【実績値】
研究会開催
第一回内国勧業博覧会・・・写真帖データ、褒章授与人データの複合
　　データベースによりデータ化。
第二回内国勧業博覧会・・・第一回に、帝室博物館購入データを加えて
　　データ化を進めている。
第三回以降　内国勧業博覧会　関連絵画資料の収集。

地域研究者との情報交換によるデータ収集



鹿児島県に残る馬尾掛管

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-06
（様式 2）

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
本研究は、今後の研究の基礎となるデータを集成するものであり、従来の文字情報のみに頼るものから、実際の作品にまで迫ることを目的とすることに独創性がある。これによって当時の評価も研究の対象とすることが可能となる。

2．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数	調査概報			
判定	A	A	－			

備考
第一回内国勧業博覧会については写真帖データ、褒章授与人データの複合データベースによりデータ化し、第二回内国勧業博覧会についてはこれに加えて、帝室博物館購入データを加えてデータ化を進めている。地域研究者との情報交換を進めつつある。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	従来、別個に存在していたデータを有機的に結合させ、さらに実作品との結合を進めている。帝室博物館購入品を加えたことにより、現存品についての検討も踏まえる必要が生れ、これにより近代における工芸の位置づけの展開も検討の対象となってきている。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	現時点で、データ化が進みつつある。今後としてはその成果を暫時公開することで、より多くの情報を得る方策を考える必要がある。これにより多角的な研究の展開が可能となっていく。

【書式Ｂ】　　施設名　九州国立博物館　　処理番号　4514-07
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	7）博物館危機管理としての市民協同型 IPM システム構築に向けての基礎研究（科学研究費補助金）（(5)-①-ｉ）

【事業概要】
九州国立博物館では文化財環境の保全については IPM（総合的有害生物管理）による体制で生物被害対策など一連の活動を行なっているが、その根幹となる日常管理の一部に、ボランティアや NPO 法人による市民の直接参加をすすめるための基礎研究を行なう。

【担当部課】	博物館科学課	【プロジェクト責任者】	博物館科学課長　本田　光子

【スタッフ】
三輪嘉六（館長）、今津節生（環境保全室長）、藤田励夫（保存修復室長）、鳥越俊行（博物館科学課研究員）、志賀智史（博物館科学課研究員）

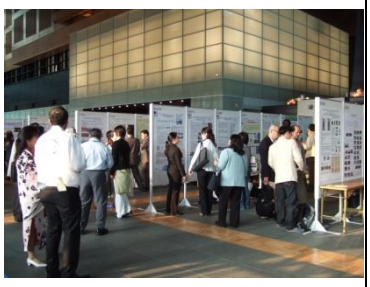
【主な成果】
博物館における IPM 体制維持のためのボランティア活動についてのプログラム作りができ、また、地元 NPO 法人の導入も順調にすすみ、直接参加型市民活動としての IPM による博物館危機管理システムの構築に向けての計画を着実に進めることができた。研究会の成果については、収録 DVD によりボランティア研修会等市民向けに活用、普及をはかっている。

【年度実績概要】
市民による IPM 活動のモデル構築の一環として、4 回にわたり、「市民協同型 IPM 研究会」を開催した。一般公開は 1 回とし、基本的には九州国立博物館ボランティアや地元 NPO 法人等既に何らかの IPM 活動経験者に絞り、実践的なテーマで 3 回実施した。その結果、昨年に引き続き、同研究会参加者の中から、今後の研究活動の実質的作業を進める市民グループが形成される地盤が整ってきた。
こうした活動の指針となる関連機関の IPM に関する取り組みについてヒアリング調査を実施し、さらに IPM 活動の実務に深い関心を寄せる市民に対して、より実務的な研究会（IPM 活動ワークショップ）を開催した。このワークショップ参加者の中で形成されたワーキンググループを市民レベルでの実践的研究活動母体へと指導育成し、今後の連携・協同を目指す課題を導きだした。



第 2 回市民協同型 IPM 研究会

【実績値】
・市民協同型 IPM 研究会（4 回:目標 4 回）を開催した。
　参加者　延 230 名（目標 190 名毎回 30×3、100×1）
・関連機関のヒアリング調査（2 機関）
・ワークショップの開催（2 回:目標 2 回）
　受講者（30 名:目標 30 名）
・研究発表　文化財保存修復学会　5 月 17 日～18 日（5 件:目標 5 件）


文化財保存修復学会
ポスターセッション

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-07
（様式 2）

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
　文化財保護活動への市民の直接参加は、極めて時勢に適ったテーマであり、しかも、文化財保護の枠組みの中で比較的浸透の遅い IPM 活動をこれまでと違った観点から取り組んでいるので、適時性・独創性はＡとした。発展性、効率性、正確性については、今後の成果をみなければ評価の難しいところであるが、現時点で、新しい活動の展開がみえてきたこと、研究の一部がすでに的確、正確な内容で業務に反映されていること。などから、発展性、効率性、正確性においてはＡとした。

2．定量的評価

観点	研究会 開催回数	研究会 参加者人数	ヒアリング 回数	ワークショップ 開催回数	ワークショップ 受講者数	研究発表 件数
判定	A	A	A	A	A	A

備考
　市民ボランティア、地元 NPO 法人など対象の研究会、ワークショップとも、熱心な参加者（延 230 名）、受講者（延 30 名）により各回充実した内容であった。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	研究会などへの参加者数などからみても、テーマおよびその実践当初計画の社会的妥当性が確認できる。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	博物館における IPM 体制維持のためのボランティアや NPO 法人の導入（直接参加型市民活動）を着実に進めることができた。

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-08
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	8）博物館におけるＸ線ＣＴスキャンデータの活用（科学研究費補助金）（(5)-①-vi）

【事業概要】
九州国立博物館において、Ｘ線ＣＴを用いて文化財の内部構造調査を行い、文化財の状態調査や製作技法を理解し、得られた成果を文化財の保存や展示へ活用することを目的とする。

【担当部課】	博物館科学課	【プロジェクト責任者】	研究員　鳥越　俊行

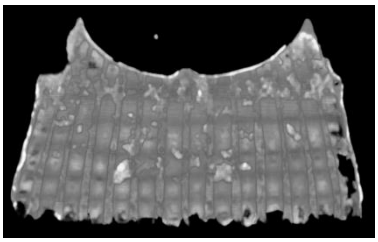
【スタッフ】
臺信祐爾（文化財課長）、今津節生（博物館科学課環境保全室長）、河野一隆（企画課文化交流展室長）、市元塁（企画課研究員）

【主な成果】
本年度から、泉屋博古館の中国古代青銅器のコレクションを借用し調査を進めている。また、春日市の出土銅戈の調査を実施し、新たな成果を上げてきた。これらの成果については、日本文化財科学会にて発表した。

【年度実績概要】
九州国立博物館の展示で借用する文化財、他の博物館や大学、県や市町村の教育委員会などから調査依頼のあった文化財を中心に、一年間で約 300 件の X 線 CT 調査を実施した。得られた成果は、展示で活用したり、所蔵者に資料の状態を説明したりする際に用いている。
本年度は、文化交流展示で借用している京都の泉屋博古館が所有する中国古代青銅器のコレクションについて、製作技法の調査を実施した。装置の調整と測定条件の最適化によって、これまで困難であった青銅器の内部構造や製作技法の一端を明らかにした。
また、外部からの依頼調査の例では、元興寺文化財研究所から持ち込まれた福井県坂井市大善寺の本尊の調査がある。18 世紀中頃の木造十一面観音像の体内に、別の銅像の頭部が納められていたことを明らかにした。
さらに、佐賀県の九州陶磁文化館の依頼で陶磁器 5 点を調査し、その成果を九州陶磁文化館の夏の企画展「やきもののかたち　人と動物」で展示解説に用いた。

これらの調査の成果は、文化財保存修復学会と日本文化財科学会で発表した。

【実績値】
調査件数　約 300 件
文化財保存修復学会での発表　2 件
日本文化財科学会での発表　　8 件


縄文時代の漆塗櫛の CT 断面像

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-08
（様式 2）

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	B	

備考
　正確性では、一部の測定に不具合が生じたため、装置の更なる調整を進めデータが正確に得られるよう調整を進めていく。

2．定量的評価

観点	調査回数	学会発表件数				
判定	A	B				

備考
　国内の学会ではポスター発表を行ったが、国際会議でも発表をしていきたい。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財の X 線 CT としては、世界で最も優れた装置の一つであり、研究者の間からその有用性について高い評価を頂いた。博物館や大学、県や市町村の教育委員会など文化財関係者との連携を今後も進めていきたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
ほぼ順調	九州国立博物館では、展示に際し文化財を常に借用するため、X 線 CT スキャナで文化財の所蔵者と共同調査を実施している。調査の成果は、展示での活用や製作技法の解明に向け今後も調査を継続していく。

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-09
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	9）古代東南アジアにおける三尊像図像の研究－タイ・ミャンマーの図像を中心に－（科学研究費補助金）（(5)-①-ⅱ）

【事業概要】
古代東南アジアの三尊像図像の成立と展開について明らかにするための基礎データの構築。主な対象はミャンマーのモン、ピューの造形とタイのドヴァーラヴァティーが中心になる。なお、古代東南アジアの三尊像図像の出現については、インドパーラ朝下の様々な文物との比較が必要であるため、調査地としてインドも視野にいれ、基礎資料を作成する。

【担当部課】	企画課	【プロジェクト責任者】	研究員　原田　あゆみ

【スタッフ】
協力者：藤田励夫（九州国立博物館博物館科学課保存修復室長）
Dr. Sakchai Saisingha（シラパコーン大学東南アジア美術史）
Mr. Rungroot Thamrungruan シラパコーン大学東南アジア美術史）

【主な成果】
昨年度までの調査成果に加え、新たに収集した資料のデータ整理をファイルメーカで進めた。データ整理を通して三尊像図像とそれに付随する装飾文様の地域を越えた共通性が見えてきた。三尊像とそれに関連する図像全体についてもデータ化し比較検討を行った。

【年度実績概要】
古代東南アジアの三尊像図像の成立と展開について明らかにするための基礎データを構築しようとする本調査研究では、上座仏教下にあって判然としなかった大乗仏教の図像を掘り起こすことを主要な課題として、下記の成果を得た。
（1） タイを調査実施国とし、上座部仏教以外のヒンドゥー、大乗仏教に関する資料を調査した。特に、東南アジア大陸部に共通してみられる装飾文様も含め比較研究する上で有益な資料を得ることができた。


タイ王国ワット・スタット内 2008.7.

(2) 三尊像図像がテクストとどう関係したかを探るために、特にドヴァーラヴァティーの法輪とそれに付随した三尊像図像に注目し、ディヴィヤ・アヴァダーナ中にみられる五趣輪廻図の描き方について検討した。

【実績値】
論文掲載数
1.「ドヴァーラヴァティー時代の法輪図像－パナッサボーディーに乗る三尊像の成立と展開－」
2007 年度『鹿島美術研究』第 25 号

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-09

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	B	A	A	B	A	
備考						

2．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数	調査概報			
判定	B	A	B			
備考 当初予定のインド国内における調査は、インド国内におけるテロ事件発生により、調査を延期した。また、本研究の協力者を、日本国内の資料を調査、意見交換をすることを目的とし、招聘予定だったが、11 月にタイの空港占拠が発生、非常事態宣言により渡航が見合わせられた。						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本研究の調査対象であるミャンマーのモン、ピューとタイのドヴァーラヴァティーの三尊像図像とそれに関係する資料については、予定通り調査収集がかなった。また、三尊像図像がテクストとどう関係したかを探るため、先学の研究を基礎とし、ディヴィヤ・アヴァダーナと図像の比較検討を行うことができた。今後、ミャンマーのこれまでの図像研究をさらに検討し、テクスト研究を続けていく必要を感じている。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
ほぼ順調	当初予定していた調査、および協力者との意見交換が、テロおよび政治的混乱のため、かなわなかった。ただし、本調査および意見交換は次年度に繰り越しを申請し実施を希望している。

【書式Ｂ】　　施設名　九州国立博物館　　処理番号　4514-10
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	10）超高精細大容量画像の安全・ダイナミック表示総合システムの開発（科学技術振興機構）（(5)-①-ｉ）

【事業概要】
京都大学との共同研究によって、文化財のデジタル化に適用する入力装置及びソフトウェア開発を目指した研究開発をおこなう。その画像データを用いて、科学情報を備えた文化財のコンテンツ化を行い、同時に新しい展示手法を提案する。

【担当部課】	博物館科学課	【プロジェクト責任者】	環境保全室長　今津　節生

【スタッフ】
赤司善彦（展示課長）、藤田励夫（保存修復室長）、井手　亜里（京都大学教授）、大島　寧（エステナイン京都（株）部長）

【主な成果】）
伊能忠敬が作成した日本地図はすなわち伊能図副本の九州六箇国沿海地図の高精細デジタル化を実施した。9 億画素にもおよぶ高精細デジタルデータを斜光線・赤外線で取得して解析した。その結果、伊能図副本の特徴とされる針穴を明瞭に検出した。この結果を一般市民に公開すべく、来年度に向けて、スーパーハイビジョン（4000 本）の番組製作を計画中である。

【年度実績概要】
デジタルアーカイブが文化財保存に必要かつ有効な手段であると一般的にも認識され、国内外様々な分野からのデジタル化依頼が活発化してきている。文化財や知的財産のデジタル化には、セキュリティ対策が重要事項であることから、本課題である「安全」かつ「ダイナミック」で、新規性に富んだ展示手法の提案・確立に対する要求も多く集まっている。
20 年度は、19 年度末に常設した大型入力装置をつかって、本館所蔵品の絵画作品、染色製品、古地図、および漆芸作品などの高精細デジタル化を中心に高精細デジタル化を進めた。また、新規性に富んだ展示手法の提案を目指して、バックヤードツアーにおけるデジタル情報の展示を実施した。

【実績値】

国内学会　　文化財保存修復学会第 30 回大会　1 回



伊能図副本の高精細デジタル化　桜島付近

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-10
（様式 2）

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
　世界最先端の超高画質デジタル撮影技術を文化財へ応用する独創的な研究である。研究の発展性・正確性に関して十分に成果が認められる。将来の継続性については、再現性のある高精細のデジタル情報を有しており、今後の継続的な情報蓄積によって大きな成果が期待できる。

2．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数	調査概報			
判定	A	A	A			

備考
　学会発表件数としては適切であり、保存修復学会には約 900 名の研究者が参加した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	デジタルアーカイブが文化財保存に必要かつ有効な項手段であることは一般的にも認識され、国内外様々な分野からのデジタル化依頼が活発化してきている。文化財や知的財産のデジタル化には、セキュリティ対策が重要事項であることから、本課題である「安全」かつ「ダイナミック」で、新規性に富んだ展示手法の提案・確立に対する要求は大きい。 　本研究の独創性・適時性は内外から高く評価され発展性も大きい。本年度に設置された高精細大型平面スキャナを活用して、効率性、正確性を追求した文化財の高精細デジタル化が進められている。21 年度はこの成果を一般市民に還元するための共同研究をおこなえるように改善を進めてゆきたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	文化財保存におけるデジタルアーカイブの有効活用は、今後の文化財保存や展示の向上にむけた重要課題である。

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-11
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	11）近世初期日本絵画における粉本使用例の基礎調査（科学研究費補助金）((5)-①-ⅱ)

【事業概要】
粉本の流通過程と使用法に注目することで、16 世紀日本において、新興絵師がいかに旧勢力の中に進出していったかを明らかにする。具体的には、粉本をどのように入手し、使用したかを、従来美術史研究の対象から外されていたレベルの作品を含めて網羅的に調査し、その図様の継承を追うことで、従来の文字史料に依存した絵師のネットワークの再構築を行う。

【担当部課】	企画課	【プロジェクト責任者】	研究員　金井　裕子

【スタッフ】

【主な成果】
昨年度までの調査成果に加え、新たに収集した資料のデータ整理とデータベース化を進めた。また東京国立博物館や東京藝術大学が所蔵する粉本調査や、粉本利用の明らかな「北野天神縁起絵巻」作品群の調査を遂行した。

【年度実績概要】
2008 年度では、主に過去の調査データの整理と、新規調査のための機器の準備、および本研究の中核を成す作品である「大原御幸図屏風」作品群のうち、未調査の国内外作品の調査研究を行った。またこれを補完する文字史料として、東京国立博物館所蔵『土佐家文書』と東京藝術大学付属図書館所蔵『住吉家鑑定控』を活用した。

これら基礎史料の収集に併せ、粉本を利用し転写されたと思われる作品群の調査を行った。特に鎌倉時代に描かれた「北野天神縁起絵巻」（弘安本、京都・北野天満宮）、室町時代後期の「北野天神縁起絵巻」（文亀本、京都・北野天満宮）、江戸時代初期の「北野天神縁起絵巻」（元和本、福岡・太宰府天満宮）、江戸時代中期の「天満宮縁起」（鳥飼本、福岡・鳥飼八幡宮）の 4 作品について重点的に調査を行った。これらは時代を超えてほぼ同じ図様が忠実に継承された典型例の一つであり、その転写方法や経緯を探ることで、粉本の流通と図様継承について具体的な知見を得た。

またこれに加え、江戸時代における図様の継承を大局的に考察するために、近年注目が集まっている中国絵画や朝鮮絵画と日本絵画の関係性に焦点をあて、朝鮮絵画調査を大和文華館と栃木県立美術館で、中国絵画調査を徳川美術館で行い、具体的な知見を得た。

なお以上の研究成果を報告するため、九州国立博物館特別展「国宝　天神さま」に関連するシンポジウム「北野天神縁起絵巻」において発表を行った。

【実績値】
＜論文掲載数＞
特別展「国宝　天神さま」展覧会カタログ　1 回
特集陳列カタログ『博物館と文化財修理』1 回
シンポジウム報告書『北野天神縁起絵巻』1 回
＜調査＞
2008/10/17　　東京国立博物館調査
2008/11/8～9　大和文華館および徳川美術館調査
2008/12/12　　栃木県立美術館調査

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-11

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
本研究は昨今の研究動向を意識しつつ、現在注目を集めている近世の朝鮮絵画と日本海画の比較からその影響関係について考察を行っている。また本研究における粉本調査は大画面絵画だけでなく巻子や軸装作品についても応用できる概念であり、発展性・拡張性が極めて高く、上記項目についていずれも充分な成果を挙げることができたと考えられる。

2．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数	調査概報			
判定	B	A	B			

備考
通常業務の繁忙と先方の都合のため、今年度予定していた海外学術調査が制約された。しかし、今年度の研究に最低限必要な調査は実施でき、「調査概報」にかかる目標値である「論文掲載数」1回をこえる実績値を残し、充分な成果を挙げることができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	予定していた調査のうち海外分が制約されたものの、国内調査において充分な成果を挙げることができた。次年度においては今年度調査の結果を踏まえた上で、延期した海外調査を実施する。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究は、研究内容の水準を保ちつつ、順調に遂行できたと考える。

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-12
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	12）埴輪に認められる赤色顔料についての基礎的研究（科学研究費補助金）((5)-①-ⅱ)

【事業概要】
　埴輪に認められる赤色顔料について、粒子の形態分類や組成分類を行い、編年と地域性を検討することを目的として実施する。

【担当部課】	博物館科学課	【プロジェクト責任者】	研究員　志賀　智史

【スタッフ】

【主な成果】
　今年度は九州地方の教育委員会を中心に訪問し調査をおこない、調査資料は約 150 点となった。
埴輪に認められる赤色顔料は全てベンガラであったが、調査後、埴輪に使用されるベンガラに地域性が認められる見通しがついた。この地域性は墳墓で使われていたベンガラの地域性とも一致しているようである。

【年度実績概要】
　今年度は九州地方の教育委員会を中心に訪問し調査をおこなった。調査資料は約 150 点となった。
埴輪に認められる赤色顔料は全てベンガラであった。出土ベンガラは直径約 1μｍのパイプ状の粒子を含むものと含まないものに大別されるが、調査を終えた九州地方北部のベンガラには、玄界灘沿岸ではパイプ状の粒子を含まないベンガラを用い、筑後川流域ではパイプ状の粒子を含むベンガラが用いられていた。過去に行った調査では近畿地方北半の埴輪の赤色顔料も全てベンガラであり、パイプ状の粒子を含んでいた。埴輪に使用されるベンガラに地域性が認められる見通しがついた。この地域性は墳墓で使われていたベンガラの地域性とも一致しているようである。来年度は、近畿、中国、四国地方の埴輪の調査を継続しておこなう予定である。

【実績値】
論文 1 件
・志賀智史 2009「墳墓に用いられた赤色顔料の一様相」『東風西声』1-13 頁,九州国立博物館

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-12

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	B	A	
備考						

2．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数	調査概報			
判定	A	A	A			
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	分析結果を元に考古学的な検討を行うという独創的な研究である。今年度の調査結果から埴輪のベンガラに地域性が認められる見通しがついたため、最終年度の調査結果が期待できる。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
ほぼ順調	平成 20 年度新規で採択された科学研究費である。来年度も継続して調査を行い、最終年度の平成 22 年に成果をまとめたい。

【書式Ｂ】　　施設名　九州国立博物館　　処理番号　4514-13
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	13)　被災した近現代歴史資料の救済のための簡便な真空凍結乾燥法の開発（科学研究費補助金）（(5)-①-ⅱ）

【事業概要】
　可搬式の簡便な真空凍結乾燥装置を開発、作製して、被災時の文化財救済の一方法としての真空凍結乾燥法の応用の可能性を探る。とりわけ、水濡れ資料や、劣化のために頁が固着した資料を対象に本装置の機能性や安全性を確認し、災害時での活用に備える。

【担当部課】	博物館科学課	【プロジェクト責任者】	特任研究員　村田　忠繁

【スタッフ】
　川本耕三（元興寺文化財研究所）井上美知子（元興寺文化財研究所）大久保治（元興寺文化財研究所）
　藤田浩明（大阪市文化財協会）中村晋也（金沢学院大学）中越一成（金沢文化財保存修復研究所）

【主な成果】
　昨年度作製した簡便な真空凍結乾燥装置を用いて、歴史資料での応用を試みた。資料は、金沢文化財保存修復研究所からの提供で、水濡れ古文書および固着した古文書を使い復元試験を行った。試験日数は 20 日余りを要したが、概ね良好な復元が可能となった。装置では、トラップの容量が不足して改善の必要が確認できた。

【年度実績概要】
　昨年度、元興寺文化財研究所（奈良県）において作成した簡便な真空凍結乾燥装置を実務として応用すべく、金沢学院大学、金沢文化財保存修復研究所（石川県）の協力で古文書を用いて試験を実施した。装置は自家用車で搬送し可搬型装置の利便性を確認できた。現地では、ほぼ半日で装置の組み立てが完了し、予備凍結、減圧試験を行い、本試験に臨んだ。資料は 3 種類を選定し、状態記録および重量測定を行った後に資料への加水をした。加水後の重量を測定し、冷凍庫で予備凍結を行った。資料の凍結が確認できた翌日より真空乾燥を行い、定期的に重量を測定しながら資料観察をした。
　試験開始後、乾燥速度が速いのとトラップのフラスコの管の径が小さいために、トラップの管の部分で凍結し減圧に不具合を生じた。20 日余りの試験で、水濡れ文書の解消や、頁固着の乖離ができた。
　本試験により、自然災害での被災における歴史資料救済の一方法として応用可能であることが確認できた。


真空凍結乾燥装置での試験
（金沢文化財保存修復研究所）

【実績値】
　真空凍結乾燥装置搬送試験（奈良―金沢）
　劣化した紙資料の真空凍結乾燥試験
　学会研究発表　文化財保存修復学会第 30 回大会

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-13
（様式 2）

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	B	B	

備考
　既存の装置ではなく簡便で可搬型の装置を作成し、災害に備えるべく試験を実施したことは、文化財の災害対策が急がれる今、適時性や発展性が認められる。コンパクトで使いやすい装置開発においては、その独創性が有効である。
　試験において改善点が認められたことは、今後の研究課題として更なる効率性や正確性を求めていきたい。

2．定量的評価

観点	試験回数	試験資料数	研究発表件数			
判定	A	B	A			

備考
　装置を使い本資料で試験したことは評価できる。データを整備するには、より多くの資料数が望まれる。
　研究発表は、順当なものといえる。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	初年度の装置開発に続き、遠隔地での試験実施、試験の完了、問題点の発見等、今年度の研究課題を、成果をもって進めることができている。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	遠隔地での試験実施、試験の完了、問題点の発見等、文化財救済方法を実用化するうえでの過程を順調に踏まえることができている研究である。

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-14
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	14)　近世初期対馬藩の政治構造と日朝交流（科学研究費補助金）((5)-①-ⅱ)

【事業概要】
本研究の目的は、中近世日朝交流史を「偽使」「偽書」というキーワードによって連続的にとらえるとともに、とかく日朝外交事件としての側面が注目されがちである「柳川一件」について、対馬藩の御家騒動としての側面に重点をおいて再検討することである。具体的な研究テーマとしては、(1)「中近世日朝交流と偽使・偽書」、(2)「柳川一件の政治史的分析」を設定している。

【担当部課】	文化財課	【プロジェクト責任者】	研究員　荒木　和憲

【スタッフ】

【主な成果】
今年度は研究テーマ「中近世日朝交流と偽使・偽書」の遂行に重点をおき、下記の研究成果を得た。
①荒木和憲「十六世紀末期対馬宗氏領国における柳川氏の台頭」(九州史学研究会編『境界からみた内と外』岩田書院、2009 年)
②荒木和憲「対馬宗氏の対朝鮮外交戦術」(荒野泰典・石井正敏・村井章介編『日本の対外関係』5、吉川弘文館、刊期未定)

【年度実績概要】

本研究は研究テーマ (1)「中近世日朝交流と偽使・偽書」、(2)「柳川一件の政治史的分析」からなり、本年度は (1) の遂行に重点をおいた。より具体的には、小テーマ（ⅰ）「偽日本国王使・偽造国書の通時的把握」、（ⅱ）「宗氏領国・対馬藩の外交担当者」を設定して研究を遂行した。

小テーマ（ⅰ）については、中世から近世初期にかけて宗氏領国・対馬藩が創出した偽日本国王使（室町将軍・豊臣秀吉・徳川将軍名義の偽使)、および偽造国書に関する通時的な検討を試みた。その結果、従来の研究では等閑視されがちであった豊臣政権期の偽使・偽書の問題を適切に位置づけることができ、さらに室町政権期から徳川政権期にいたるまでの偽使・偽書の問題についても通時的に把握することができた。この研究成果については、荒木和憲「対馬宗氏の対朝鮮外交戦術」(荒野泰典・石井正敏・村井章介編『日本の対外関係』5、吉川弘文館、刊期未定）にまとめている。

小テーマ（ⅱ）については、中世末期から近世初期にかけての宗氏領国・対馬藩において外交担当者として活躍した柳川氏の事蹟について、同時代史料にもとづく再検討を試みた。その結果、近世中期以降に成立した編纂物に依拠してきた通説は大幅に修正されるべきであることが明らかとなり、柳川氏が宗氏領国・対馬藩のなかで台頭し、近世初期の対朝鮮外交に強大な影響力をもつことになった過程を再構成することができた。この研究成果については、荒木和憲「十六世紀末期対馬宗氏領国における柳川氏の台頭」(九州史学研究会編『境界からみ外』岩田書院、2009 年）にまとめている。

なお、本年度の学術調査については、国立国会図書館・国立公文書館において中近世日朝交流関係史料を中心とした史料の調査・収集作業を実施した。

【実績値】

調査回数 2 回
論文数 2 本

【備考】
荒木和憲「十六世紀末期対馬宗氏領国における柳川氏の台頭」
荒木和憲「対馬宗氏の対朝鮮外交戦術」

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-14
（様式 2）

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
近年、中近世日朝交流史研究の進展はめざましく、「偽使」「偽書」という視角から再検討がおこなわれ、従来の歴史像が修正されつつある。本研究は昨今の研究動向を意識しつつ、日朝交流と宗氏領国・対馬藩の内部構造との連関を重視したものであり、適時性および独創性・発展性が認められる。

2．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数	調査概報	学術論文		
判定	B	B	―	A		

備考
通常業務の繁忙のため、学術調査のための出張が大幅に制約され、調査回数および収集資料数が当初の計画を下回った。しかし、今年度の研究に最低限必要な調査は実施でき、学術論文 2 本を作成することができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	科研費申請書に記載した今年度の研究課題をすべてクリアし、その成果として論文 2 本を執筆することができた。ただし、通常業務の都合に制約され、調査回数が少なかったので、次年度は調査回数を増やせるよう年度計画を改善する。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	今年度の研究課題をすべてクリアしており、進捗状況は順調である。次年度は学術調査の機会を十分に確保し、より充実した研究成果をあげられるよう計画を策定する。

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-15
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	15)　室町時代の仏教絵画を中心とする東アジアの宗教美術に関する調査研究（科学研究費補助金）（(5)-①-ⅱ）

【事業概要】
　室町時代に政治権力者や有力寺院が関与して制作･受容された仏教絵画について基礎的な調査研究を行い、その造形的・文化的な意義を中国・朝鮮を含めた東アジアの宗教美術のなかに位置付けることを目的として実施する。

【担当部課】	文化財課	【プロジェクト責任者】	研究員　畑　靖紀

【スタッフ】

【主な成果】
　本年度は当該のテーマについて次の二つの観点から研究対象とし、下記の成果を得た。
（1）東福寺の画僧・明兆の作品のうち、足利将軍家の関与が想定される三十三観音図（東福寺）の図像と表現について基礎的な知見を得ることが出来た。
（2）足利将軍家をめぐる時代状況を考察し、かつ東アジアの観音変相図を検討することを通じて、三十三観音図の造像目的を考察するための資料を収集した。

【年度実績概要】
　従来、研究成果の非常に少ない室町時代の仏教絵画を主要な対象として基礎的なデータを収集して作品の歴史的な意義を考察し､それらを東アジアの宗教美術のなかに位置付けることを目的とする本調査研究では、足利将軍家が関与する寺院、特に禅宗おける造像を研究対象とした。その理由は公武関係や対外関係を尊重する同家が宗教政策上、禅宗を重視するため、この環境で時代を代表する仏教絵画が制作されたと考えるためである。本年度は東福寺で活躍した画僧・明兆(1352-1431)の現存作例に注目し、特に足利義持の関与が想定される三十三観音図（東福寺）を考察の対象とした。
　まず本図の図像について典拠とされる『出相観音経』洪武 28 年(1395)版を検討し､さらに雪舟筆観音図（個人蔵ほか）や鶴洲筆木庵性瑫・高泉性激・千呆性俊賛観音変相図（東京国立博物館)、朝鮮仏画の観音三十二応現図（知恩院）と比較をすることを通じて、その図像および表現の特質について具体的な知見を得た。
　また本図の造像目的について同時代の足利将軍家をめぐる状況を文献から検討し､加えて雪舟筆観音図(個人蔵ほか）や観音三十二応現図（知恩院）に関する先行研究なども参照しながら、信仰の側面から作品を理解するための基礎的な資料を収集した。
　なお以上の研究成果を公開するため、上記作品のうち数件を含む仏教絵画を、申請者が企画担当した九州国立博物館文化交流展示トピック展示「変化する観音」において展示した。

【実績値】

論文掲載数
　国際シンポジウム報告書
　『東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成』1 回
　特集陳列カタログ『博物館と文化財修理』1 回
　展覧会カタログ　『特別展国宝天神さま』1 回　（計 3 回）

展示公開数
　九州国立博物館文化交流展示トピック展示
　「変化する観音」1 回（計 1 回）


展示公開風景

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-15
（様式 2）

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
　定性的評価については、国際性・オリジナリティ・多様性・人的投資・基礎性・達成値の観点から、充分な成果が認められると判断される。

2．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数	調査概報			
判定	A	A	A			

備考
　定量的評価については、「調査概報」にかかる目標値である「論文掲載数」1 回をこえる実績値をのこしている点が特筆され、充分な成果と判断される。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	定性的評価については特に国際性とオリジナリティの観点から、定量的評価については国際シンポジウムの成果から、別記の総合的判断が妥当であると考える。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究は、研究内容の水準を保ちつつ、順調に遂行できたと考える。 　科学研究費による本事業については、今後も外部資金などを積極的に活用する方法により、調査研究を継続してゆきたいと考える。

【書式Ｂ】　　施設名　九州国立博物館　　処理番号　4514-16
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	16)　トルキ山遼墓出土品から見た唐滅亡後の東アジアにおける工芸技術（科学研究費補助金）（(5)-①-ⅲ）

【事業概要】
907 年の唐滅亡後、遼、宋、高麗、日本の諸国は、唐の制度・文化を規範としつつ、それぞれに独自の文化を醸成してきたことはよく知られている。まだ十分な基礎的研究条件が整っていなかった遼代文化についても、ようやく近年、内蒙古自治区トルキ山遼墓など、各地で重要な発掘が相次ぎ、考古学的情報を伴う実物資料が飛躍的に増えた。現地で調査研究を実施している内蒙古文物考古研究所と工芸技術の変遷を軸に遼代文化研究の基礎固めとなる共同研究を実施するものである。

【担当部課】	文化財課	【プロジェクト責任者】	文化財課長　臺信　祐爾

【スタッフ】
今津節生（当館博物館科学課環境保全室長）、伊藤信二（当館企画課特別展室長）、市元塁（当館企画課特別展室研究員）

【主な成果】
フフホトの内蒙古文物考古研究所および内蒙古博物館の作品資料調査 3 回（延べ 7 名）と内蒙古自治区内の博物館資料調査（延べ 2 名）を実施したほか、内蒙古研究所研究員を招聘し、当館、徳島県立鳥居記念館および東京国立博物館の資料調査および関係機関見学および遼代墓葬文化および遼代工芸に関する講演会を実施した。また、当館保管の重要文化財遼代千仏石幢について、三次元立体測量を実施した。

【年度実績概要】
7 月に、スタッフ 2 名がフフホトの内蒙古文物考古研究所に赴き、本科研調査の内容と進め方について協議した。次いで遼の故地である巴林右旗・巴林左旗・敖漢旗・赤峰に設置された博物館において資料調査と意見交換を実施した。
8 月には、スタッフ 3 名および研究協力者 1 名が内蒙古文物考古研究所・博物館に赴き、作品調査および意見交換を実施した。
11 月には、文化庁の外国人芸術家・文化財専門家招へい事業枠による同研究所所長塔拉氏来日にあわせて、内蒙古文物考古研究所研究員ら 2 名を招聘し、当館において遼代並行期である平安時代工芸品（螺鈿鞍など）の共同調査を実施するとともに、遼代墓葬文化と遼代工芸に関する講演会を企画した。考古・人類学者鳥居龍蔵を顕彰する徳島県立鳥居記念館で、遼代関連資料を調査し、徳島県立博物館担当者らと意見交換した。その後、東京国立博物館で平安時代および遼代の工芸品（鏡、鉢、染織品、陶磁器など）を調査した。馬の博物館において遼代馬具を中心に調査した。横浜ユーラシア文化館を見学した。
1 月には、スタッフ 2 名が文物考古研究所で、遼代工芸作品を中心に調査と意見交換をした。
12 月から 1 月にかけて、当館が保管し、現在 4 階の文化交流展示室に展示している、重要文化財遼代千仏石幢について、九州大学芸術工科学部都共同で、高さ 5.5m の石幢について詳細な三次元測量を実施した。測量データについて現在整理中であるが、高すぎたり、暗くてよく見えない細部についても明快な情報が利用できるようになると期待される。

【実績値】
遼・契丹文化研究講演会
内蒙古文物考古研究所所長塔拉　　「遼代都城とトルキ山遼墓の考古発見と研究」
内蒙古文物考古研究所研究員孫建華　「内蒙古地区遼代墓葬の発見と研究」
参加者　約 30 名　（目標値　15 名）

発表　今津節生ほか
「内蒙古自治区トルキ山遼墓出土彩色木棺の保存」　保存修復学会（会場九州国立博物館）


慶陵発掘緑釉軒平瓦

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-16
（様式 2）

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
　近年の重要な発掘品についても、これらを保管研究している内蒙古文物考古研究所との共同研究体制が構築できたため、これまでにない成果が期待される。

2．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数	調査概報			
判定	A	A	A			

備考
　今回購入した赤外線対応デジタルカメラによって、木棺に描かれた絵画作品下絵の墨線を検出し、完成画面との比較検討などに役立てることができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	内蒙古文物考古研究所関係者との共同研究体制が構築でき、現地調査および国内共同調査についても実施することができたため、順調な滑り出しといえる。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究は中期計画に沿った内容として遂行できたと考える。 次年度も現地調査および、国内共同調査を実施して、本研究の基礎的資料収集を継続する。遼代文化に関する講演会についても、継続して企画実施したいと考えている。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-01
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
プロジェクト名称	1)　博物館環境デザインに関する調査研究　((5)-②-ｉ)		
【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	企画課デザイン室長　木下史青

【事業概要】
東京国立博物館における文化財の展示環境について調査研究し、今後の展示環境の向上に結びつけることを目的として実施する。

【スタッフ】
矢野賀一（企画課デザイン室研究員）

【主な成果】
展示のデザインのクオリティの向上を成立させるための設計技術や、デザインを実現・維持するための現場監理・物品管理に関する技術について、過去の事例や、他館における具体的な事例を調査した。
また以上の技術・手法を、当館においてどのようなシステムで導入・実施が可能かを整理し、実現可能なものについては館内の展示において実施した。

【年度実績概要】

① 特別展『スリランカ―輝く島の美に出会う』　9 月 17 日～11 月 30 日（写真）
- 歩くことの出来る床面下における展示手法
- 高単一指向性 LED 照明システムによる薄レリーフへの照明手法
- カラーチェンジング LED システムによる彫刻の背景へのライティング

② 特集陳列『六波羅蜜寺の仏像』7 月 10 日～9 月 21 日（写真）
- 高色温度ダイクロハロゲン・カッタースポットライトによる彫刻への照明手法

③ 本館 14 室工芸　特集陳列『自在置物－本物のように自由に動かせる昆虫や蛇』
2008 年 11 月 18 日～2009 年 2 月 1 日（写真）
- 自在置物の姿勢を固定する展示具、照明効果を考慮したガラス展示台の作成
- 演出的な案内誘導サインの作成

【実績値】
研究会発表件数　　5 回
- 日本文化資源学会
- 総合地球環境学研究所
- じんもんこん　等

論文掲載数　　4 回
・日本写真学会誌、美術雑誌等

他館調査　　国内外多数
- 大阪市立東洋陶磁美術館（大阪）
- 沖縄県立博物館美術館（沖縄）
- 東京大学総合研究博物館（東京）
- ケ･ブランリー博物館（パリ）
- ルーブル美術館（パリ）
- 狩猟博物館（パリ）　等


①特別展　『スリランカ―輝く島の美に出会う』


②特集陳列　『六波羅蜜寺の仏像』


③特集陳列　『自在置物―本物のように自由に動かせる昆虫や蛇』

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-01

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	B	A	

備考
博物館における展示・公開は技術的な裏づけの調査研究に基づき、時代に会った見せ方と見え方の評価が求められる。またデザインのクオリティの向上を成立させるための設計技術や、デザインを実現・維持するための現場監理・物品管理に関する技術について、他館における具体的な事例調査を行った。

2．定量的評価

観点	研究発表件数	論文掲載数				
判定	A	B				

備考
研究・調査によって明らかになった技術・手法を、当館の特別展および平常展において、どのようなシステムで導入・実施が可能かを整理し、研究会・論文等で発表した。また実現可能なものについては館内の展示において実施し、継続的に調査を行っている。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	計画的に導入を継続している、質の高い展示・照明システムにより、展示のバリエーションが広がったといえる。さらに照明器具の問題点についてメーカーと改良を進めている。具体的には 21 年度予定の特別展・平常展への導入・実施に向け、デザインを進めている。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究事業は、その進捗度、従来の水準を維持しつつ比較的堅調に実現できたと考える。調査研究については、今後もこのペースを維持しつつ、独創的アイデアの創出と技術開発および館内展示システムの充実に力を注ぎたい。

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-02
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
プロジェクト名称	2)　博物館美術教育に関する調査研究（(5)-②-ⅲ）		
【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	博物館教育課長　加島　勝

【事業概要】
当館表慶館に教育普及事業を専門に行なうスペース「みどりのライオン」を表慶館から本館 20 室へ移設し、平常展示と密接に関連した博物館教育事業の理論と実践に関する調査研究を実施し、その内容は韓国国立中央博物館で開催された博物館教育国際シンポジウム等で発表した。

【スタッフ】
鈴木みどり（博物館教育課教育普及室主任研究員）

【主な成果】
本館 20 室「みどりのライオン」での博物館ガイダンスやハンズオン体験コーナー、制作工程模型展示は開始から一年間で 10 万人を超える利用者があり、当館における博物館教育プログラムとして定着した館がある。加島及び鈴木は、このプログラムを博物館教育の見地から調査研究し口頭発表した。

【年度実績概要】
- 当館表慶館に教育普及事業を専門に行なうスペース「みどりのライオン」を表慶館から本館20室へ移設し、スライドショー「東京国立博物館ガイダンス」、ハンズオン体験コーナー「日本のもようでデザインしよう！」、制作工程模型展示「押出仏ができるまで」の博物館教育事業を実施した。
- 上記事業を博物館教育の一事例として、その理論と実践について以下のように発表した。
  加島勝「東京国立博物館の教育普及活動の方法」（平成20年度博物館職員研修。口頭発表）
  鈴木みどり「東京国立博物館の教育普及事業―3つのアプローチ―」（韓国国立中央博物館博物館教育国際シンポジウム。口頭発表）
  鈴木みどり「東京国立博物館の教育普及事業―平常陳列を念頭において―」（韓国国立中央博物館教育国際シンポジウム『The role and prospect of exhibition related education program』）

【実績値】

論文掲載数　『The role and prospect of exhibition related education program』所載　1 篇
研究会発表件数　平成 20 年度博物館職員研修　1 回
韓国国立中央博物館博物館教育国際シンポジウム　1 回

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-02
（様式 2）

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
　教育普及事業を専門に行なうスペース「みどりのライオン」での平常展示と密接に関連した博物館教育事業を国際シンポジウムや国内の博物館職員研修で報告できたことは、今後の国内外の博物館教育研究に寄与するところがきわめて大きい。

2．定量的評価

観点	論文掲載数	研究会回数				
判定	A	A				

備考
　これまで『ＭＵＳＥＵＭ』誌において博物館教育に関する論文は、個別的に掲載されることはあっても、特集号が組まれることはなかった。博物館教育関連論文 5 篇を掲載した同誌特集号によって、当館の博物館教育に関する情報がまとまって発信できた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	当館表慶館に教育普及事業を専門に行なうスペース「みどりのライオン」を本館に移設したことで、博物館のガイダンス機能をもたせることができ、各種レクチャーや体験型プログラム、制作工程模型展示などを、一般から学校団体まで幅広い層に向けて展開することが可能となった。これは当館の博物館育を推進する上でも大きな成果といえる。またこの事業を通して博物館教育の理論と実践について、担当研究員が研究し、その内容を広く内外に発信できたと思う。したがってＡと判定した。今後さらに研究を続け、博物館美術教育に関する情報発信を精力的に行っていきたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	博物館美術教育に関する調査研究は、教育普及課の研究員を中心に概ね研究計画にそったかたちで順調に進められていると考える。今後も有形文化財を活用しながら博物館美術教育理論の構築ならびに実践的プログラムの開発に取り組んでいきたい。

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-03
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	3）博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築（科学研究費補助金）（(5)-②-ⅲ）

【事業概要】

博物館教育・普及事業の事例分析を通して、日本の伝統文化に関する博物館における先駆的教育・普及理論を構築し、実践的プログラムを開発する。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	企画課長　井上洋一

【スタッフ】
加島勝（博物館教育課長）、鬼頭智美（企画課国際交流室長）、小林牧（博物館教育課教育普及室長）、白井克也（博物館教育課教育講座室長）、鷲塚麻季（ボランティア室長）、田沢裕賀（調査研究課絵画・彫刻室長）、鈴木みどり（博物館教育課教育普及室主任研究員）、神辺知加（教育講座室研究員）、藤田千織（ボランティア室研究員）、遠藤楽子（広報室研究員）、高梨真行（調査研究課書跡・歴史室研究員）

【主な成果】
現地調査のみならず海外における博物館教育に関する国際学会等にも出席。参考とすべき先進的な教育・普及プログラムに関する多くの情報を入手でき、さらに研究者間の交流も深めることができた。

【年度実績概要】

現地調査の実施。今回海外では、この分野において積極的に教育普及理論や伝統文化をテーマにした事業を展開している韓国、中国、シンガポール、オーストラリア、イギリスの博物館・美術館を訪問し、直接教育普及担当者にインタビューを行い、各教育プログラムの理論とその実践活動について調査を行った。また、カナダで行われた国際学会にも参加。国内では九州・北陸地方を中心に同様の調査を行った。こうした現地調査等で得られたデータをもとに研究会で討議、分析を行った。

【実績値】
現地調査実施館
韓国 5、中国 5、シンガポール 5、オーストラリア 5、イギリス 5、日本 5

研究会　6 回

研究発表　5 件

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-03
（様式 2）

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
本研究において現代的な教育普及事業のあり方について多方面から有益な情報を得るとともに、その情報をもとに研究会等での討議・分析を行い、その成果を実際の当館の教育普及事業に反映させている。

2．定量的評価

観点	現地調査実施館	研究会				
判定	A	A				

備考
適宜研究会を開催し、現地調査の事例報告・分析等を中心に行ってきた。また、当館招へい海外研究者を交えての意見交換も行った。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	研究会等の実施に関しては概ね良好。現地調査に関しても順調で、海外における博物館教育に関する国際学会等にも出席。参考とすべき先進的な教育・普及プログラムに関する多くの情報を入手でき、さらに研究者間の交流も深めることができた。 本研究の最終年度にあたる来年度は、これまでの研究成果をふまえ、シンポジウム等を開催し、博物館・美術館における意義深い教育・普及活動の実践のための理論と、それに基づいたプログラムの実践結果をまとめる予定である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本事業は、研究スタッフの協力の下、概ね研究計画にそったかたちで順調に進められていると考える。調査研究については、今後もこのペースを維持しつつ、日本の伝統文化に関する博物館における先駆的教育・普及理論を構築し、実践的プログラムを開発すべく努力したい。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-04
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	4)　博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究（(5)-②-ⅱ）

【事業概要】
東京国立博物館における収蔵品管理システムの開発を通じて、資料情報と学芸業務情報の有機的な関連について調査研究し、博物館における効果的・効率的な情報の管理および蓄積、活用のための環境構築に資することを目的とする。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	博物館情報課情報管理室長　丸山士郎

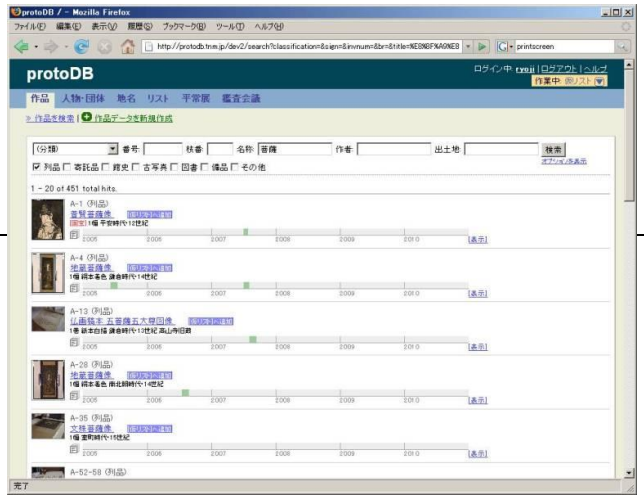
【スタッフ】
村田良二（博物館情報課情報管理室研究員）

【主な成果】
東京国立博物館における収蔵品管理システムのプロトタイプについて、収蔵品検索機能、平常展管理機能、鑑査会議管理機能の各機能を継続的に運用し、改善すべき課題を抽出するとともに随時改善を重ねて性能向上を図った。また、あらたに貸与管理機能について機能要件を調査のうえ実装し、運用を開始した。さらに、文化財移動情報登録システムと連動して、収蔵品の所在情報の一元管理に向けた試験的な機能の実装を行った。

【年度実績概要】
収蔵品管理システムの運用を継続することにより、収蔵品のデータ更新・追加・訂正を円滑に行える環境を維持し、運用経験から改善のための課題を抽出した。これらの課題については、随時システムを更新することにより迅速に対応した。特に、平常展における陳列案作成機能に関して、より多くの研究員にとって利用しやすいようデータ作成のインターフェースを改善した。
収蔵品の貸与に関しては、データがこれまで統合されていなかったが、本年度は貸与業務の支援のための機能要件を調査し、既存のシステムに機能追加することで平常展等の他のデータと統合的に扱えるようになった。
収蔵品管理システムとは別に開発した文化財移動情報登録システム（プロトタイプ）と連動して、所在情報の一元管理に向けた機能を試験的に実装した。

【実績値】

作品データ件数	179,156 件
平常展データ件数	1,722 件
鑑査会議データ件数	12
貸与データ件数	289 件
論文掲載数	5 件
研究発表数	6 件



収蔵品管理システム（プロトタイプ）

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-04

（様式 2）

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
博物館のシステムに必要な機能を着実に開発しており、業務の円滑化と情報の効果的な蓄積につながっている。最新の技術も取り入れており、博物館におけるシステムのあり方を先導的に示すものとなっている。

2．定量的評価

観点	収集データ件数					
判定	A					

備考
効果的な業務支援機能により、学芸業務を行う流れのなかで効率的に無理のないデータ収集が可能になっている。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	収蔵品のデータ蓄積と業務支援を密接に連動させたシステムにおいて効果的にデータの蓄積を行えることが確認された。今後はこれまでに実装されていない業務支援機能、特に修理計画関連業務を支援する機能、長期・短期管理換業務を支援する機能等の開発を進め、さらに総合的な博物館情報システムとして発展させることが課題である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	各分野の研究員、業務担当者と連携をとりながらシステム開発を継続し、博物館におけるシステムの参照実装となるよう、さらに調査研究を進めていく。

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-05
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	5)　凸版印刷と協同で、ミュージアム・シアターでの公開に向けた研究を実施する。((5)-②-ⅲ)

【事業概要】
　東京国立博物館における文化財の展示環境について調査研究し、今後の展示環境の向上に結びつけることを目的として実施する。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	博物館教育課長　加島勝

【スタッフ】
金子啓明（特任研究員）、谷豊信（列品管理課長）、富田淳（調査研究課長）、丸山士郎（博物館情報課情報管理室長）、田良島哲（列品管理課登録室長）

【主な成果】
　東京国立博物館と凸版印刷のスタッフが共同で、本年度は東京国立博物館の収蔵品の中かから法隆寺献納宝物の国宝灌頂幡について①デジタルアーカイブによる情報蓄積、②ＶＲ（バーチャルリアリティ）手法を用いたコンテンツの開発、③ミュージアム・シアターでのコンテンツの一般公開に関する調査研究を行なった。

【年度実績概要】

① 法隆寺献納宝物国宝灌頂幡の既存フィルムから画像のデジタルアーカイブを行なった。
② 灌頂幡が製作当初掲げられていた様子を再現するために、法隆寺西院伽藍（金堂、五重塔）の撮影取材を行なった。
③ ①②でえられたデジタルデータをもとに、東京国立博物館と凸版印刷のスタッフが共同で調査研究を実施し、ＶＲ手法を用いて製作当初の灌頂幡の姿を復元し、当時の法隆寺で用いられていた様子を再現するコンテンツ「国宝金銅灌頂幡」を製作した。
④ ③のコンテンツを館内のミュージアム・シアターで試験的に上映し、ＶＲ手法を用いたコンテンツ利用した常設展示品の新たな鑑賞法の開発に関する調査研究を行なった。
⑤ ④の結果、ＶＲでは展示では見えない個所、今は失われている個所、製作された当時の使用状況など具体的に再現できるので、ＶＲを見た後での展示室での作品鑑賞することや、逆に展示室で作品鑑賞の後でＶＲを観ることによって、シアターと展示室を結ぶ双方向でのこれまでにない美術品鑑賞方法を提示することができた。

【実績値】
　コンテンツ作成数　1：「国宝金銅灌頂幡」

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-05

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	B	A	
備考						

2．定量的評価

観点	コンテンツ作成数					
判定	A					
備考 ＶＲ手法を用いて製作当初の灌頂幡姿を復元し、コンテンツ「国宝金銅灌頂幡」を製作した。						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	収集したデジタルデータを基に製作した、コンテンツ「国宝金剛灌頂幡」を利用して、これまでにない常設展示活用法に関する調査研究を実施することができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本研究の最終年度である次年度に向けて順調に進捗している。

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4522-01
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1)　妙心寺本坊、塔頭に所蔵されている文化財の調査研究　((5)-②-iv)

【事業概要】
平成 21 年 3 月 24 日（火）から同年 5 月 10 日（日）まで開催される特別展覧会「開山無相大師 650 年遠諱記念　妙心寺」展を視野に入れつつ、妙心寺本坊および山内塔頭に所蔵される文化財を調査することを目的とする。あわせて、博物館の有する文化財に関する情報を蓄積するとともに、調査に基づく研究の成果を講座あるいは誌上で公開し、広く還元することも目的とする。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	研究員　羽田　聡

【スタッフ】
小松大秀（学芸部長）、山下善也（連携協力室長）、赤尾栄慶（企画室長）、淺湫　毅（主任研究員）、大原嘉豊（研究員）、尾野善裕（主任研究員）、久保智康（工芸室長）、永島明子（主任研究員）、西上　実（上席研究員）、山内麻衣子（研究員）、山川　曉（主任研究員）、山本英男（美術室長）、若杉準治（列品管理室長）

【主な成果】
調査に基づく研究の成果としては、妙心寺本坊および退蔵院、慈恩寺の所蔵する重要文化財「花園天皇宸翰消息」が当館所蔵のものと本来は一具であることが判明したので、これらの位置づけや重要性について論文を執筆した。ほか、各分野の調査成果は、刊行された図録『妙心寺』に反映されている。

【年度実績概要】
18 年度の妙心寺本坊・麟祥院（京都）・龍安寺、同 19 年度の衡梅院・隣華院・退蔵院・麟祥院（東京）の調査、ならびに本坊の追加調査につづき、本年度は残された妙心寺山内の塔頭、さらには京都市外の主たる妙心寺派寺院の調査に加え、展覧会での図録作成をみすえた写真撮影を重点的に行った。調査および撮影の日程は以下のとおり。
20 年 4 月 3 日（木）　慈恩寺（岐阜県郡上市）の調査
同年 7 月 3 日（木）～11 日（金）　東海庵・霊雲院・天球院・天授院・龍泉庵・大心院・春光院・智勝院・桂春院・長慶院・蟠桃院・金臺寺・海福院（以上、妙心寺山内）・龍潭寺（京都府亀岡市）の調査および撮影、妙心寺本坊・麟祥院・衡梅院・隣華院・退蔵院の追加調査および撮影
同年 8 月 27 日（水）　慈恩寺（岐阜県郡上市）の撮影
同年 10 月 15 日（水）～16 日（木）　梅龍寺（岐阜県関市）・大宝寺（長野県飯田市）の調査および撮影
同年 11 月 5 日（水）～6 日（木）　松蔭寺（静岡県沼津市）の調査および撮影
調査にあたっては、重要度の高い作品は調書を作成し、デジタルカメラで撮影した。また、確実に展覧会への出陳が見込まれるもの、それ以外でも重要と認められるものについてはアーカイブの構築を視野にいれつつ、より精度の高い機材による撮影を行った。
これらの作業と並行して、年度末に開催される特別展覧会「開山無相大師 650 年遠諱記念　妙心寺」展の出陳作品の選定、および図録の作成を行った。

【実績値】
著作数　東京国立博物館・京都国立博物館・読売新聞社編『妙心寺』（読売新聞社、2009 年 1 月）　1 篇
論文掲載数　羽田聡「京都国立博物館所蔵「花園天皇宸翰消息」について」（『学叢』第 30 号、2008 年 5 月）
淺湫毅「ふたつの棄丸坐像―天正十九年の豊臣秀吉―」（『妙心寺』、2009 年 1 月）
久保智康「唐物銅器とその「和様化」」―妙心寺伝来仏具を中心に―」（『妙心寺』、2009 年 1 月）
羽田聡「妙心寺の古文書」（『妙心寺』、2009 年 1 月）
山下善也「妙心寺屏風、友松・山楽絵画の輝き」（『妙心寺』、2009 年 1 月）
山本英男「妙心寺と狩野元信」（『妙心寺』、2009 年 1 月）　6 篇
調査資料点数　書画約 120 点　工芸約 50 点　彫刻約 10 点
調書作成点数　書画約 70 点　工芸約 30 点　彫刻約 4 点
撮影資料点数　書画約 70 点　工芸約 30 点　彫刻約 4 点

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4522-02
（様式 2）

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	B	A	A	A	A

備考
展覧会という公共性および公開性の高さにも結びつく本事業は、これまで四箇年にわたり継続的に行うことができている。とくに、妙心寺本坊と山内塔頭については、人的および時間的な効率に配慮しつつ、所蔵する作品をかなり網羅的に調査したため、展覧会にとどまらず、将来的には博物館の有する文化財情報の蓄積に寄与するという汎用性も持ちあわせる。

2．定量的評価

観点	著作数	論文掲載数	調査資料点数	調書作成点数	撮影資料点数	
判定	A	A	A	A	A	

備考
文化財調査、情報の蓄積という観点からみると、妙心寺本坊と山内塔頭については所蔵する作品をかなり網羅的に調査し、調書の作成、および撮影を行った。さらに、過去四箇年の調査をふまえた著作 1 篇、研究論文 6 篇が公刊されたことで、本事業の目的の一つである成果の還元という点においても十分な実績をあげることができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	妙心寺本坊と山内塔頭については所蔵する作品をかなり網羅的に調査し、調書の作成、および撮影を行うことで情報の蓄積につとめた。また、京都市外の妙心寺派寺院についても調査を実施したことにより、作品の関係性などについて新たな知見を得て論文を発表した。かような調査の成果はすでに誌上での公開がなされており、展覧会開催後は講座での公開などを通じて還元の促進を図りたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	妙心寺本坊および山内塔頭に所蔵される文化財の調査研究事業は、19 年度の水準を維持しつつ、計画通り実施されたと考える。なおかつ、年度末に開催をひかえた特別展覧会「開山無相大師 650 年遠諱記念　妙心寺」展の図録も刊行され、これまでの調査成果を誌上でひろく還元することにつとめた。これまでの蓄積したデータを展覧会終了後、博物館および所蔵者間でどのように活用してゆくか、より具体的に検討したい。

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4522-02
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4. 文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2) 輸出漆器に関する調査研究により、特別展覧会「japan 蒔絵－宮殿を飾る 東洋の燦めき－」の開催に反映する。((5)-②-iv)

【事業概要】
平成 20 年 10 月 18 日（土）～12 月 7 日（日）に開催される「「japan 蒔絵－宮殿を飾る 東洋の燦めき－」展の開催を視野に入れつつ、輸出漆器に関する調査研究を行う。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	主任研究員　　永島　明子

【スタッフ】

【主な成果】
本展は 12 月 23 日―1 月 26 日の会期で、東京のサントリー美術館へも巡回した。サントリー美術館では日頃多くて 8%台の図録購入率が 11%まで伸びたとのことで、京都の文化を東京の人々により深く知っていただく機会を提供できた。

【年度実績概要】
輸出漆器展に出陳予定であった作品を調査・採寸し写真撮影を行った。あわせて関連文献を読破し、一般の人にも興味を持ってもらえるような概論を 1 本、輸出漆器の通史がわかる 7 つの章解説、7 つのコレクションに関するコラム、284 件中 228 件の作品解説（残りは専門の各担当に依頼）、全作品の複数図版とそのキャプション、それぞれの完全英訳、参考文献 202 件などを 360 ページの図録にまとめ、海外の研究者からも高い評価を得た。
20 年度は 19 年暮れにオランダで発見された新資料や、パリ装飾美術館のジャパニングの作品のほか、国内においては国立歴史民俗博物館、日本文化研究センター、南蛮文化館、神戸市立博物館などで作品を実見した結果、展覧会図録のみならず、土曜講座や国際シンポジウムでも、京都で作られ、輸出された蒔絵の、ヨーロッパでの大きな反響について、公衆に理解しやすい内容を最新の研究成果として提供することができた。
本展は 12 月 23 日―1 月 26 日の会期で、東京のサントリー美術館へも巡回した。サントリー美術館では日頃多くて 8%台の図録購入率が 11%まで伸びたとのことで、京都の文化を東京の人々により深く知っていただく機会を提供できた。
また、本展の解説文の一部は、アメリカのゲッティ美術館の展覧会にも採用され、本事業は、アメリカの公衆にも京都文化を知らせる結果となった。

【実績値】
- 入場者　　67,050　人
- 展覧会図録『japan 蒔絵―宮殿を飾る　東洋の燦めき―　Export Lacquer ： Reflection of the West in Black and Gold Makie』読売新聞大阪本社（バイリンガル・360 ページ）
- 国際シンポジウム『輸出漆器が語る東西交流の 400 年』参加者　190 人
- 土曜講座『王様と漆』ほか各種講演。

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4522-02
（様式 2）

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	S	A	B	A	

備考
輸出漆器の研究はこの 10 年で目覚しく発展している。その研究成果を注ぎ込んだ大型展は、世界でもはじめての試みであった。展覧会は海外の研究者からも高い評価を受け、はるばる見学に来た人もいたほか、図録の要望が数多く寄せられた。よって、適時性、独創性、発展性、正確性は、申し分ないといえる。

2．定量的評価

観点	入場者数	図録売上・配布数	シンポジウム	土曜講座など講演聴講者数		
判定	A	A	A	A		

備考
10 件近い大小の講演やテレビ出演を通じて多くの公衆に内容を伝えることができ、国の内外で高い評価を得た図録を執筆できたのでＡとした。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
S	御所展、妙心寺展、日蓮展、ハプスブルク展のための調査出張や原稿執筆を進めつつ、本展のような海外所蔵が六割を占める大型展を実現するのは並大抵の仕事量ではない。その中で、完成した展覧会に対する一般来館者の満足度も高く、内外の研究者たちの反応も極めて良かった。インターネットのブログでの反響も顕著であり、京都で作られた蒔絵に対する関心を高めることができたと思う。図録を日英バイリンガルにしたため、海外からの反応が特に大きく、海外に向けても京都国立博物館の存在をアピールできたと思う。蒔絵の貿易や生産の現状はわからないことも多いので一層研究を深め、海外機関から提案のあった研究協力も強めて、新たなテーマを開拓していきたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
達成	中期計画にかかげた入場者の目標値も達成し、来館者の満足度も高く、国の内外に京都文化の広がりや奥深さを伝えることができた。今後の研究につながる人脈も広がったため、非常に有意義な調査･研究ができたと思う。

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4522-03
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	3)　妙顕寺・本満寺・本圀寺などに所蔵される文化財の調査研究により、特別展覧会「日蓮展」（仮称）の開催に反映する　((5)-②-ⅳ)

【事業概要】
本圀寺・頂妙寺など京都十六本山に所蔵される文化財の調査研究により、特別展覧会「日蓮と法華の名宝」展の開催に反映することを目的とする（京都）。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	研究員　大原　嘉豊

【スタッフ】
小松大秀（学芸部長）、西上 実（上席研究員）、若杉準治（列品管理室長）、山本英男（美術室長）、山下善也（連携協力室長）、赤尾栄慶（企画室長）、羽田 聡（研究員）、淺湫 毅（主任研究員）、中村. 康（文化財管理監）、久保智康（工芸室長）、尾野善裕（主任研究員）、山川曉（主任研究員）、永島明子（主任研究員）、宮川禎一（考古室長）、村上隆（保存修理指導室長）

【主な成果】
京都日蓮法華宗関係資料を調査し、その歴史的位相を把握することができた。特に、新出資料または長年所在不明だった作品が多数発見されたことは特筆に値する。

【年度実績概要】
1 月 22－24 日　本圀寺調査を行った。同寺は近年退転し、六条の故地を離れ、山科に移転したが、寺宝はよく護持されていることが確認された。
3 月 5 日　頂妙寺調査を行った。三十番神を巡る吉田神道関係文書が新たに確認されたのは、日蓮法華宗史の上で貴重な発見だった。
3 月 6 日　妙伝寺調査を行った。
4 月 22 日　南・北真経寺の御霊宝調査を行った。普段は他見が厳重に禁止されているものである。
6 月 19 日　北野法華寺事前調査を行った。京都府指定法華曼荼羅の調査を行った。午後に寂光寺本因坊関係資料の調査を行った。
6 月 20 日　大阪妙泉寺の日像坐像調査、大阪妙光寺の大覚大僧正坐像調査を行った。
7 月 25 日　北海道松前法華寺　日蓮坐像調査を行った。
8 月 21 日　本隆寺虫払いに合わせて調査を行った。
8 月 24 日　立本寺虫払いに合わせて調査を行った。
8 月 25 日　本隆寺虫払いに合わせて調査を行った。
10 月 31 日　本能寺調査を行った。
11 月 17 日　妙覚寺　華芳塔調査を行った。

【実績値】

業務多端のおりから、15ヶ寺の調査を完遂することが出来た。調整に苦心したが、関係寺院ご協力のおかげだと考えている。
報告書類刊行の企画ではないが、展覧会図録においてこの成果は反映させる予定である。

収集資料数　200 点

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4522-03
（様式 2）

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
平成 21 年の秋に予定されている展覧会の事前調査を兼ねており、時間的制約が多かったが、悉皆調査に準じた水準の高い調査も相当数こなすことができたのは、意義が大きかったと考えている。日蓮法華宗美術の研究はあまり進んでおらず、学術的にも意義が大きいと考える。

2．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数	調査概報			
判定	S	S	B			

備考
本圀寺・頂妙寺という京都の屈指の由緒と寺宝数を誇る本山を調査できたのは、今後の博物館活動にとって意義が頗る大きい。15ヶ寺の調査というのは、年三度の特別展覧会及び平常展示をこなしつつ、関係寺院との調整を勘案すると、一展覧会の事前調査として国立博物館が一年に実施する回数としては限界に近い数値と考えている。当然ながら連動して収集資料数は多い。但し、調査概報については、公刊を予定しておらず、展覧会図録に適宜反映させるという形式をとるため、評価としては下げざるを得なかった。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	特別展覧会実施に向けた事前調査が計画の端緒にあるが、その時間的・規模的制約にもかかわらず、研究員全員による体制を敷き、悉皆調査に準じた調査を実施している。新出作品の発見はいうまでもなく、また、調査によって得られた文化財情報を調査先諸寺院に伝えることで、文化財保護の意識を高めることにも貢献しており、意義が頗る大きい。ことに、工芸関係は調査能力のある研究者が限られているため、価値の再認識という点で所蔵者には非常に感謝されている。完備した報告書刊行に連動させられないことが残念であるが、展覧会図録にその成果を盛り込むことで、研究者の関心を喚起することにつとめたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	展覧会計画の中で、調査研究は順調に進んでいる。平成 20 年度末までに、京都十六本山の調査を終えるべく予定している。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良国立博物館　　処理番号 4523-01
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1)　南都諸社寺等に関する計画的な調査研究成果の一部を「国宝法隆寺金堂展」並びに特別陳列「おん祭りの春日信仰の美術」及び「お水取り」に反映させる。((5)-②-ⅶ)

【事業概要】
近隣社寺へ奈良国立博物館に対する積極的な協力の働きかけを行って所蔵文化財の調査研究等を行い、その成果を事業（展示等）に反映させる。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	学芸部長　西山　厚

【スタッフ】
【奈良国立博物館学芸部】鈴木喜博（上席研究員）、岩田茂樹（美術室長）、内藤栄（工芸考古室長）、稲本泰生（企画室長）、中島博（情報サービス室長）、吉澤悟（教育室長）、宮崎幹子（資料室長）、谷口耕生（保存修理指導室員）、斎木涼子（列品室員）、岩戸晶子（工芸考古室員）、野尻忠（情報サービス室員）、清水健（教育室員）、永井洋之（企画室員）、北澤菜月（企画室員）

【主な成果】
法隆寺、西国三十三所霊場及び関連文化財を蔵する諸寺、円教寺、金峯山寺、春日大社等への働きかけを行って所蔵文化財の調査を実施し、その成果を特別展・特別陳列に反映させるとともに、報道発表などを通して発信した。

【年度実績概要】
① 法隆寺金堂四天王像（国宝）について、赤外線写真による制作当初の彩色確認などの調査を実施し、その成果を特別展「国宝　法隆寺金堂展」の展示解説パネル、展覧会図録等に反映させた。
② 奈良県を中心とする地域の西国三十三所霊場札所が蔵する主要な文化財、また長谷寺式十一面観音像及び興福寺南円堂式不空羂索観音像に関連する文化財の調査を実施し、その成果を特別展「西国三十三所観音霊場の祈りと美」に反映させた。
③ 特別展「西国三十三所　観音霊場の祈りと美」に出陳された円教寺（兵庫県姫路市）所蔵・性空上人像のＸ線撮影を行って像内納入品の存在を確認し、報道発表を行った。画期的成果として多くのメディアで取り上げられ、同像は本年度、重要文化財に指定されるに至った。
④ 当館修理所にて修理が完了した兵庫県所蔵の天部像が奈良・金峯山寺所蔵釈迦如来像と酷似することに着目して比較研究を行い、釈迦像を借用して「とてもよく似た二つの仏像」と題する特集展示を開催した。比較研究の成果は報道発表で公表し、展示解説パネル等にも反映させた。
⑤ 春日若宮おん祭に関する文化財調査を実施し、その成果を特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」に反映した。
⑥ 唐招提寺の収蔵品及び同寺金堂基植発掘時における出土品（橿原考古学研究所所管）の調査を行った。その成果を 21 年度春季特別展「国宝鑑真和上展」に反映させた。

【実績値】
社寺調査対象数　14

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良国立博物館　処理番号 4523-01

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
南都諸社寺等に所蔵される文化財の調査は、奈良に立地する当館の基本的不可欠な作業の一つであると位置づけられる。こうした調査を通じて、近隣社寺との交流・信頼関係が一層深まりつつあり、今後の当館の企画・事業に好影響が期待される。

2．定量的評価

観点	調査回数					
判定	A					

備考
展覧会企画に沿った調査研究が中心になっており、その点では必要十分な条件を満たしている。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	特別展「国宝　法隆寺金堂展」、同「西国三十三所－観音霊場の祈りと美」に出陳した近隣社寺を中心とした所蔵品の事前調査の成果は展示及び展覧会図録に反映され、高い評価を得た。春日大社の若宮おん祭に関する文化財調査の成果は特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」に反映された。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	仏教美術と奈良の文化を調査研究展示活動の主眼としている当館にとって、近隣社寺の宝物調査は必須の事業である。20 年度も東大寺や春日大社を初めとする社寺の宝物調査を行うことにより、展覧会を活性化させ、学術的成果をあげることもできた。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良国立博物館　　処理番号 4523-02
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2)　我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究成果の一部で平常展の充実を図る。（(5)-②-vii）

【事業概要】
仏教美術の専門館であり、日本仏教美術に関するもののみならず、広くアジアを視野に入れた展示を構成している奈良国立博物館の特長に鑑みて、中国や朝鮮半島における文化財とわが国の文化財の比較研究を実施する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	学芸部長　西山　厚

【スタッフ】
【奈良国立博物館学芸部】鈴木喜博（上席研究員）、岩田茂樹（美術室長）、内藤栄（工芸考古室長）、稲本泰生（企画室長）、中島博（情報サービス室長）、吉澤悟（教育室長）、宮崎幹子（資料室長）、谷口耕生（保存修理指導室員）、斎木涼子（列品室員）、岩戸晶子（工芸考古室員）、野尻忠（情報サービス室員）、清水健（教育室員）、永井洋之（企画室員）、北澤菜月（企画室員）

【主な成果】
学術交流協定を締結している中国・韓国の博物館との間で研究員の派遣・受け入れを行い、活発な研究交流・情報交換を行うことができた。また特別展開催の前提として行った、中国・朝鮮半島で制作された文物に対する調査研究の成果を、展示及び図録等に反映させることができた。

①平常展工芸部門において中・韓・日の舎利容器・密教法具の比較研究の成果に基づき各地域の作例の比較展示構成をした。また絵画部門では中国・日本の羅漢図及び僧侶の肖像における図像の交流・系譜に関する調査研究に基づき、「注目の逸品」コーナーの絵画部門において館蔵品の「十六羅漢像」と「大道和尚像」を比較展示した。この研究成果は関連講座でも発表された（2009 年 2 月 15 日ｻﾝﾃﾞｰﾄｰｸ・中島博「大道和尚像」）。
②中国・韓国・日本の文化財における建築表現の比較研究の成果を、特別陳列「建築を表現する」の展示構成・解説及び展覧会図録等に反映させた。

【実績値】
平常展への成果の反映　5 回
企画展への成果の反映　1 回

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 奈良国立博物館　処理番号 4523-02

（様式 2）

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
　我が国の仏教美術を研究する上で、中国・韓国をはじめとする海外の仏教文化研究は必要不可欠である。そのために数箇所の研究機関と学術交流協定を基軸として効率的に調査研究を進め、その成果を当館の特別展等に反映させるように努めている。

2．定量的評価

観点	平常展への反映	企画展示への反映				
判定	A	A				

備考
　調査研究の成果を積極的に反映させており、その点では必要十分な条件を満たしている。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	学術交流協定を締結している上海博物館（中国）・河南博物院（中国）・中国国家博物館（中国）・国立慶州博物館（韓国）との研究員の交流などをとおして行った、アジア諸国を視野に入れた調査研究の成果を平常展・企画展（特別陳列等）に反映させることができた。その過程で、中国・韓国・日本の三国の作例を比較展示してその共通点・相違点を浮き彫りにするなどの工夫を行った。また絵画部門では、東アジア全域にわたって展開した、山水を背景とする聖僧のイメージの系譜を実作品に即して紹介し、羅漢図と高僧の肖像画の相互関係を明らかにする展示を行った。この成果は展示期間中に行われた講座でも公表され、やや専門的とはいえ非常に意欲的な取り組みとして、高い評価を得た点も特筆される。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	わが国とアジア諸国との文化交流に関する文化財の調査研究は次第に蓄積を増しており、こうした成果によって 20 年度平常展及び特別陳列「建築を表現する」の内容を充実させることができた。今後も引き続き調査研究を続け、その成果を展示に反映していく必要がある。

【書式Ｂ】　　施設名　九州国立博物館　　処理番号　4524-01
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1)　高齢者・障がい者・外国人の利用者に対しての、展示の内容・方法、施設整備、管理運営面からの改善、改修方策についての調査研究（(5)-②-ｉ）

【事業概要】
ユニバーサル・ミュージアムという観点から、高齢者・障害者・外国人等、多様なニーズを持った来館者に快適な鑑賞環境を提供するため、設備・サイン・演出・運営等、総合的に研究と実験を行い、すべての人が利用しやすい快適な観覧環境づくりを目指す。

【担当部課】	総務課	【プロジェクト責任者】	総務課長　樋口理央

【スタッフ】
総務課施設係主任　安藤英崇

【主な成果】
ベンチの設置により、お客様からのアンケートや、監視員に寄せられる意見で、「休憩場所が少ない」という意見が激減した。これは、お客様の満足度が向上したことであると判断している。また、スロープやオストメイト対応設備によるハード面の整備が、より一層進んだ。サインの改善についても、誘導性が向上したことはもとより、景観面の向上も図ることができた。

【年度実績概要】

九州国立博物館は開館して 3 年目を迎えた。以前からお客様よりアンケートで寄せられる意見では、エントランスホールに休憩のためのスペースが少ないという意見が圧倒的に多かった。当館の 1 階エントランスホールは 4 層吹き抜けで床面積 1500 ㎡を超える多目的利用可能な大空間であり、来館者が集い・交流するスペースであるため、休憩スペースの増設は急務の課題であった。既存のベンチが 10 台あったが、これらのベンチと場所を分離して、新たにベンチを 10 台増設した。これにより、約 30 人分の休憩スペースを新たに確保できた。これ以降、休憩場所が少ないというような声もほとんど聞かなくなった。利用状況は年配のお客様を中心に非常に多い。エントランスホールでのイベントが毎週のように行われているため、イベントのレイアウトにあわせて、ベンチの位置も適宜変更している。
館内には救護室が 1 階、3 階、4 階（お客様が利用するフロア）に配置されているが、4 階の救護室は入り口の手前に階段があり、車椅子利用者に対してバリアフリーではなかった。当館は車椅子を利用するお客様が多いため、この段差を解消するためにスロープを設置した。
オストメイト（人工膀胱、人口肛門）対応の水栓器具を 1 階、3 階、4 階の多目的トイレに設置した。平成 18 年に改正されたバリアフリー法では、既存の博物館についても、バリアフリー法の基準に適合させるように努力義務が課せられており問題点を順次、改善している。
サインについては、開館以降お客様からの苦情や指摘がある都度、貼り紙やスタンドサインを場当たり的に増やしてきた経緯があり、表現や色彩に統一感がなく、秩序立っていなかったが、それらのサインは一度全て撤去した。その上で、新たに設置するサインはデザインを、当館のイメージカラーに統一しているところである。また、今後は九州大学との共同研究等により、更なるサイン、利用者の視点に立ったレイアウト等順次改善していく予定である。

【実績値】

お客様アンケートで寄せられた休憩場所に関する意見の件数

H18－15 件
H19－13 件
H20－　5 件


1F エントランスに設置したベンチ

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4524-01

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	効率性	正確性			
判定	A	A	A			
備考						

2．定量的評価

観点	調査回数					
判定	－					
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	快適性の向上を目指した取り組みにより、来館者の側に立った状況把握に努めた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	施設のバリアフリー化が着実に進行した。入館者の立場に立ち、利用者の要望を取り入れながら、更に快適な観覧環境づくりを進めたい。

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4524-02
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2)　音声ガイドのコンテンツ評価と検証　((5)-②-ⅱ)

【事業概要】
当館では外国人観覧者に対する展示解説は、音声ガイド（無料）により提供している。昨年度に来館者の利用実態や評価について追跡調査とアンケート調査を実施した。展示内容に対する理解度と満足度を向上させるためには、既存のコンテンツを改良することと、新しいコンテンツを作成することが考えられた。今年度は前年度の評価に基づいたコンテンツ案を試行し、さらにその評価と検証をおこなった。

【担当部課】	展示課	【プロジェクト責任者】	展示課長　赤司善彦

【スタッフ】
赤司善彦（展示課長）・河野一隆（文化交流展室長）・永野間一成（総務係長）、九州大学大学院芸術工学府金大雄研究室

【主な成果】
展示解説コンテンツの改善を通じて来館者の満足度向上を試みた結果、来館者の展示物での滞在時間が前回の実験時より長くなり、また音声解説の聴取時間も長くなった。これまでの調査分析から問題点の見つけ出し、改善を行った結果、来館者の展示室滞在時間が長くなったことは、来館者の展示に対する理解と博物館体験の満足度向上に繋がったものと考えられる。

【年度実績概要】
・音声ガイドコンテンツの速度検証
被験者を対象に、それぞれ解説速度が異なる音声解説コンテンツを聴取し、聞き取りやすさに関するアンケート調査を実施した。韓国語の音声解説において多数が、適切な解説速度として、既存の解説速度（約 245 文字/分）より、1.2 倍早い解説速度（約 294 文字/分）がもっとも好まれていることが分かった。以上の結果から、シナリオ作成後のナレーション収録において、聞き取りやすい適切な解説速度を十分に計画し、積極的に反映する必要があると考えられる。
・ＢＧＭの検証
展示観覧において音声解説機器を利用した来館者に対し、BGM（背景音楽）のある解説コンテンツが展示鑑賞に与える影響を調べることにした。アンケート調査は、BGM 付きの解説コンテンツに対する来館者の満足度、コンテンツとの調和性、観覧集中度に関する質問で構成。また、BGM を挿入した 9 件の解説コンテンツを聴いた外国人来館者と BGM が挿入されていないコンテンツを聞いた来館者の展示物での聴取時間を比較・分析し、展示集中度の差を調べた。
・対話式シナリオの検証
携帯型音声解説機器による、展示解説の充実化を図るとともに、会話式解説コンテンツが来館者に与える影響について検討した。アンケート調査は、会話式解説コンテンツの分かりやすさに関する質問と説明式解説コンテンツとの選好度に関するアンケート調査を実施した。
・来館者行動ログデータ取得システムによる評価
アンケート調査や追跡観察調査、そして赤外線システムからの来館者行動分析などの考察を踏まえて、改善された展示解説コンテンツに対して再評価を行った。

【実績値】
・**音声ガイドコンテンツの速度検証**　被験者 25 人（19 才未満 5 名、20 歳～35 歳 5 名、36 歳～50 歳 5 名、51 歳 65 歳 5 名、65 歳以上 5 名）
・**ＢＧＭの検証**　アンケート参加者 328 人のうち、有効回答者数 322 人（外国人 107 人、日本人 215 人）
・**対話式シナリオの検証**　参加者・有効回答者数　同上
・**来館者行動ログデータ取得システムによる評価**　携帯型音声解説機器を使用した外国人及び日本人の来館者。外国人来館者 36 人（英：16 人、韓：12 人、中：8 人）、日本人来館者 53 人

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4524-02
（様式 2）

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
音声ガイド等の機器類に対する来館者の利用実態や評価について調査した例はこれまであまり知られていない。数多く展示作品情報の中から、文化的背景のちがう国の来館者に適切な解説情報を提供することが、来館者の満足度を向上させるには必要である。その点で本研究は大いに注目できる。

2．定量的評価

観点	音声ガイドコンテンツの速度検証	ＢＧＭの検証	対話式シナリオの検証	来館者行動ログデータ取得システムによる評価
判定	A	A	A	A

備考
アンケート参加者 328 人のうち、有効回答者数 322 人（外国人 107 人、日本人 215 人）から有益なデータを得ることができた。本調査の主旨からすれば、来館者のニーズを知る上で充分である。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	九州大学の研究者との活発な論議をベースに、魅力的なコンテンツを作成する方策として、これまでにない視点でコンテンツ作成を試行した。これを客観的に評価し、検証することができ、今後の魅力あるコンテンツ作成につなげるための研究を行うことができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究は中期計画に沿った内容として遂行できたと考える。 21 年度以降この成果を活かした新しい音声ガイドコンテンツを制作することにしたい。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 5115-00
（様式 1）

業務実績書

研究所 No44

中期計画の項目	5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進
プロジェクト名称	文化財保存施策の国際的研究（(1)-①）

【事業概要】
日本国内における文化財保護政策・施策の充実に、また日本が行う国際協力事業の円滑な実施に必要とされる、文化財の概念やその保護の理念、保護のための各種施策に関する国際情報を収集し分析、報告する。また文化遺産に関する国際ワークショップを国内外で開催してこれら情報の共有の場を提供することにより専門家国際ネットワークの構築を図り、文化遺産分野での日本の国際貢献、日本からの情報発信に寄与する。これらの事業により得た国際情報は、国際情報データベースに蓄積、また国際資料室に配架して公開する。

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【プロジェクト責任者】	センター長　清水真一

【スタッフ】
清水真一、岡田　健、山内和也、朽津信明、二神葉子、友田正彦、江草宣友、廣野　幸、高多加奈子、今井健一朗、宇野朋子、有村　誠、影山悦子、秋枝ユミイザベル、邊牟木尚美、島津美子、鈴木　環（以上、文化遺産国際協力センター）、前田耕作、ウーゴ・ミズコ（以上、客員研究員）

【主な成果】
文化財保存施策の国際的研究について、以下の事業を実施した。
1. 世界各地で開催された研究会やワークショップに積極的に参加し、文化財の保存に関わる各種の情報を収集し、分析した。
2. 国際ワークショップの開催：アジア各国の専門家を招へいしてアジアの文化財について考えるラウンドテーブル形式の国際会議を 1 回、国内外の専門家を講師とする一般公開の国内専門家向け研究集会を 1 回、計 2 回開催した。

【年度実績概要】
1. 文化財保存施策に関する国際情報の収集・分析、活用
世界各地で開催された研究会やワークショップに積極的に参加し、文化財の保存に関わる各種の情報を収集し、分析した。主なものは以下である。シルクロードの世界遺産一括登録に関するユネスコ作業部会（西安）。ユネスコ世界遺産委員会（ケベック）。タンロン皇城遺跡の保存に関するワークショップ（ハノイ）。東アジア木造建造物の彩色・塗装の保存に関する国際セミナー（北京）。
2. 文化遺産国際ワークショップの開催
アジア文化遺産国際会議：東南アジアの専門家をタイ王国に招聘し、「被災後の遺跡の修復と保存」をテーマとした専門家会議を開催した（日時：2009 年 1 月 14～16 日、場所：バンコク市及びアユタヤ市）。
国際文化財保存修復研究会：上記会議が外国人専門家・機関を主たる参加者として国際的な連携の構築を目指しているのに対し、本研究会は、日本国内への国際情報の発信と、国際協力に関する国内専門家の情報交換・連携強化を目的として国内向け一般公開の研究会として開催している。本年度は、「遺跡保存と水」をテーマに開催し（日時：2008 年 9 月 19 日、場所：東京文化財研究所セミナー室）、それに伴う報告書を刊行した。

【実績値】
国際ワークショップ開催件数：　2 件
報告書刊行件数：　2 件（①,②）
外国人招へい者数：　アジア文化遺産国際会議：6 人　国際文化財保存修復研究会：2 人
国際ワークショップのうち一般公開分（国際文化財保存修復研究会）参加者数：　75 人
国際ワークショップのうち一般公開分（国際文化財保存修復研究会）参加者満足度：　100％

【備考】
①国際文化財保存修復研究会報告書「遺跡保存と水」08.12
②「Restoration and conservation of immovable heritage damaged by natural disasters」 09.01

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 5115-00

自己点検評価調書

研究所 No44

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	ワークショップ開催件数	参加者数	満足度	報告書刊行件数		
判定	A	A	A	A		
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財保存施策に関する調査研究事業は予定通り終了し、日本の文化財保護施策の策定に有効な情報を収集し、国際情報データベースの充実に貢献した。国際・国内ワークショップも所定の成果をあげ、国際情報の交換、専門家ネットワークの構築、国内外への情報発信に貢献した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究、国際・国内ワークショップとも、これまでの成果をもとに、それらを着実に発展させる形で実現できたと考える。調査研究については、今後もこのペースを維持しつつ事業を進め、国内の文化財保護施策の充実に貢献する。国際ワークショップについては今後とも国際的に時宜を得たテーマの開発に力を注ぎ、専門家ネットワークの構築、国内外への情報発信に貢献する。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 5125-10
（様式 1）

業務実績書

研究所 No45

中期計画の項目	5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進
プロジェクト名称	アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査研究（(1)-②-ア）

【事業概要】
アジア諸国では、煉瓦、土、石など、各地の遺跡に共通して用いられている材料が認められる。本研究では、地域で区切って研究を行うのではなく、各文化財に共通して用いられている素材を調査・研究することから、その素材で形作られた多くの文化財の保存修復に寄与することを目的とする。具体的には、材料の物性とその劣化に関する基礎的な研究を行うことから、それぞれの材料が劣化しにくい条件を考察し、材料に対して、あるいは遺跡の環境に対して、材料劣化を起こしにくい条件を与えることで、文化財の保存修復に貢献する。

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【プロジェクト責任者】	主任研究員　朽津信明

【スタッフ】
清水真一、二神葉子、宇野朋子（以上、文化遺産国際協力センター）、鉾井修一、柏谷博之（以上、客員研究員）

【主な成果】
石材表面への微生物繁茂を軽減するために、表面に撥水剤を塗布することの効果とその弊害について具体的に検証した。そうした微生物を繁茂しにくくする環境条件について、タイのスコータイ遺跡で検討した。さらに、微生物が石材の風化に与える影響について、カンボジアのアンコール遺跡において検討した。また、タイとのこれまでの共同研究成果を公表する報告会をバンコクで開催した。

【年度実績概要】
石材の表面に微生物が繁茂することを避ける目的で、石材表面に撥水剤が塗布される形で保存対策が取られる場合が少なくないが、過去にそうした撥水処理が施された文化財について、その後の状況を詳細に調べることから、撥水処理の効果と弊害について検討した。その結果、直接雨の影響がない部分では、処理後 20 年が経過しても引き続き効果が持続し、微生物繁茂が起きていないのに対して、表面に凹凸があり、日射が乏しく水分蒸発が乏しい部位では、たとえ撥水効果は持続していても、石材に染み込めない水の影響でかえって微生物繁茂が促進されている状況が明らかにされた。これは、撥水処理を行うためには、部位の環境条件を十分に理解し、適切な環境において実行される必要があることを示している。
こうした基礎研究を受けて、タイ・スコータイ遺跡においては、具体的にどのような環境であれば撥水処理の効果が得られ、どのような環境であればかえって弊害が引き起こされるかについて現地調査を進めた。具体的には、遺跡周辺の温度・湿度・風速・風向・日射などの各種環境データを計測するとともに、微生物が繁茂している部位としていない部位とにおける蒸発量の違いを計測し、現実に撥水効果が得られやすい環境条件と弊害を起こし得る環境条件とについて解析した。また、カンボジア・アンコール遺跡群のタ・ネイ遺跡において、砂岩の試料を多数作成し、その強度や帯磁率に関する初期条件を計測した後、微生物が繁茂しやすいと想定される環境としにくいと想定される環境とにそれぞれを設置し、その後の変化を調べる実験を開始した。試料の中には既に微生物が繁茂し始めたものもあり、そうしたものでは強度低下が観察され始めている。こうした解析が、遺跡で今後適切に生物繁茂を軽減していく方向を検討することに貢献すると期待される。

【実績値】
報告書刊行　2 冊　(①,②)
論文掲載数　2 編　(③,④)
学会発表数　3 件　(⑤～⑦)

【備考】
①『アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査・研究　平成 20 年度成果報告書』09.03
②『Conservation of monuments in Thailand IV』　08.12
③朽津信明・二神葉子「飯田市・文永寺石室五輪塔における蘚苔類の繁茂について」『保存科学』47　pp. 111-120　09.03
④朽津信明「いわゆる「宋風獅子」の岩質について」　『考古学と自然科学』58　pp.1-11
⑤朽津信明「表面に微生物が繁茂する石材の表面風化状況について」日本応用地質学会平成 20 年度研究発表会　横浜市開港記念会館 08.10.30, 31
⑥川本伸一・鉾井修一・小椋大輔・宇野朋子「スコータイ遺跡における仏像の保存に関する研究　周辺気象の計測と藻の繁茂状況」日本建築学会大会 08.09
⑦朽津信明・二神葉子「飯田市・文永寺石室五輪塔における蘚苔類の繁茂について」　日本文化財科学会第 25 回大会　鹿児島国際大学 08.6.14,15

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京文化財研究所　処理番号 5125-10

自己点検評価調書

研究所 No45

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点	報告書刊行数	論文掲載数	学会発表数			
判定	A	A	A			
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	報告書刊行、論文数、学会発表件数ともに、計画通りの数字が得られたことからＡと判断した。また、順調にデータが蓄積されていることから、次年度にも同等の成果が期待される。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	当初の計画通り、順調にデータが蓄積されている。次年度以降もさらに継続してデータを増やす予定である。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良文化財研究所　処理番号 5125-11

業務実績書

研究所 No46

中期計画の項目	5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進
プロジェクト名称	カンボジア・アンコール遺跡群の西トップ寺院遺跡の建築史的、考古学的、保存科学的調査（(1)-②-ア）

【事業概要】
カンボディア王国アンコール遺跡群において、現地のＡＰＳＡＲＡ機構と共同研究を行い、文化遺産の保護と人材育成に貢献する。平成 18 年度から新たな中期計画に基づき西トップ寺院を対象とした共同研究を継続した。

【担当部課】	企画調整部	【プロジェクト責任者】	展示企画室長　杉山　洋

【スタッフ】
肥塚隆保、高妻洋成［以上、埋蔵文化財センター］、豊島直博、林正憲、大林潤、番　光［以上、都城発掘調査部］、石村智［企画調整部］、清水重敦［文化遺産部］

【主な成果】
6 月 5 日と 6 日に現地で開催された本年第 1 回目の国際調整委員会へ参加。本年第 1 回目の調査は 8 月 1 日から 13 日の間、考古班と建築班が実施した。11 月には雨期を経過した後の遺跡の状態確認の現地調査を行った。12 月 1 日と 2 日に第 2 回目の国際調整委員会に参加。1 月 29 日から 2 月 7 日の間、第 2 回目の調査を考古班と保存科学班が行った。招聘事業は 3 月 23 日から 31 日まで。若手研究者 2 名を招聘した。

【年度実績概要】
本年はまず 6 月 5 日と 6 日に現地シエムリアップで開催された国際調整委員会へ参加し、西トップ寺院の調査成果と今後の計画を発表した。さらにこの時期に合わせ西トップ寺院の状態等の調査を行った。西トップ寺院の状態は年々悪化しており、本年 5 月に前面の 40 石あまりが落下している。この状況をもとに今回現地でアプサラの遺跡維持管理担当者と今後の西トップ寺院の応急保護対策を話し合った。次に本年第 1 回目の調査として 8 月 1 日から 13 日の期間で考古班と建築班の調査を行った。考古班は南小塔の南西部にトレンチを設定し、南小塔付近の基礎状況の調査を行った。基壇東面に塼を組み合わせた遺構が検出された。建築班は中央塔を中心に図面の作成に当たった。11 月には雨期を経過した後の遺跡の状態確認のために現地調査を行った。12 月 1 日と 2 日に現地で本年第 2 回目となる国際調整委員会が開催された。1 月 29 日から 2 月 7 日にかけて本年第 2 回目の考古班の調査を行った。今次は保存科学班による保存科学的基礎調査を行うとともに、来年度以降に予定される西トップ寺院の報告書作成に備え、出土遺物の基礎調査を行った。合わせて昨年度、外務省所管の草の根無償援助で建設されたタニ窯跡群の遺跡博物館について、その展示につての指導助言と、当研究所で発掘した遺物の選定を行った。

本年度の招聘事業は 3 月 23 日から 31 日まで、若手研究者 2 名を招聘し、研究所の活動を始め、日本の考古学調査の概要を視察した。



西トップ寺院（東から）

【実績値】
国際会議での発表　2 回

【備考】
① 国際調整委員会　ソキメック　ホテル 2008.6.2-3
② 国際調整委員会　ソキメック　ホテル 2008.12.1-2

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良文化財研究所 処理番号 5125-11

自己点検評価調書

研究所 No46

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2．定量的評価

観点						
判定						
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	20年度も当初予定した調査予定を順調に進行することができた。また、中央塔に関する様々な事実を明らかにすることができた。招聘事業も確実に進行し、相手国文化財保護機関からも一定の評価を得ることができた。以上の進捗状況を総合的に判定してＡとした。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	20年度の計画を当初の予定どおり遂行したことから、当事業は順調であると判定した。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 5125-20
（様式 1）

業務実績書

研究所 No47

中期計画の項目	5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進
プロジェクト名称	龍門石窟及び陝西省唐代陵墓石彫像の保存修理に関する調査研究（(1)-②-イ）

【事業概要】
中国龍門石窟の保存に協力するため、龍門石窟研究院との緊密なパートナーシップを構築し、龍門石窟の現状を詳細に調査し、保存修復の方法についての研究と具体的な処置、人材の養成などを実施する。陝西省所在の唐時代の乾陵、橋陵、順陵に附属する石彫像の保存修理に関して、科学的研究と保存修理作業を行うと共に、石彫像保存地区の保存計画策定の研究を行う。

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【プロジェクト責任者】	保存計画研究室長　岡田　健

【スタッフ】
清水真一、杉崎佐保恵（以上、文化遺産国際協力センター）

【主な成果】
2 つの調査研究が本年度で終了するにあたり、龍門石窟研究院に対する助言を行うとともに、これまでの活動を総括し広くその内容を紹介するパンフレットを作成した。また西安市で石造文化財の保存に関するシンポジウムを開催し、報告書を作成した。

【年度実績概要】
1）龍門石窟の保護に関する指導助言
7 月 14 日～17 日の日程で龍門石窟へ赴き、龍門石窟の保護に関して、環境、修復技術、管理運営等の各項目を現地で精査し、龍門石窟研究院及び同石窟で修復作業を担当している中国文化遺産研究院等に対して指導助言を行った。
2）石造文化財の保存に関するシンポジウム
陝西省唐代陵墓石彫像保護修復事業（文化財保護・芸術研究助成財団からの受託事業）と本プロジェクト「龍門石窟及び陝西省唐代陵墓石彫像の保存修理に関する共同研究」が本年度で終了するにあたり、11 月 17 日、18 日の日程で西安市において「石造文化財の保存に関するシンポジウム」を開催し、その成果を中国各機関・大学等の専門家に披露するとともに、各種の問題について意見交換と交流を図った。
主催　西安文物保護修復センター（中国国家文物局石質文物保護科学研究重点基地）/　東京文化財研究所
参加者　中国国内の石造文化財の保存に携わる専門家　約 30 名/　日本側参加者　4 名
研究会内容
森井順之（東文研）　九州臼杵摩崖石仏覆い屋建造後の環境観測
友田正彦（東文研）　石造遺跡の保存管理―アンコール遺跡群の場合―
津田豊（(株) ジオレスト：UNESCO 龍門プロジェクト専門家）　龍門石窟の結露現象
方雲（中国地質大学・武漢）　順陵石刻の亀裂変形観測
甄広全（西安文物保護修復センター）　石質保護材料研究
朱一清（中衛康隆ナノ科技発展公司）　石質文物保護材料とその評価体系
万俐（南京博物院）　江蘇句容貌山華陽洞摩崖題刻の保護
馬濤（西安文物保護修復センター）乾陵石刻の表面保護処理
3）報告書の作成
2 つの調査研究が本年度で終了するにあたり、龍門石窟に関してはこれまでの活動の全貌を示すパンフレット「世界遺産・龍門石窟の保護のための国際協力―その足跡と成果―」を、陝西省唐代陵墓については各年の成果をまとめた報告書「日中共同唐代陵墓石彫像保護修復プロジェクト～その経緯と成果～」を作成した。

【実績値】
研究会　1 回
報告書　1 冊

【備考】
報告書「日中共同唐代陵墓石彫像保護修復プロジェクト～その経緯と成果～」09.3

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京文化財研究所　処理番号 5125-20

自己点検評価調書

研究所 No 47

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性			
判定	A	A	A			
備考						

2．定量的評価

観点	報告書作成	研究会				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	調査研究の最終年度として、成果のまとめを行った。陝西省での活動実績が評価され、次年度からの陝西省考古研究院との新たな共同研究（墳墓壁画の記録保存の方法研究）へのスムーズな移行が実現されようとしている。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	その進捗度、従来の水準を維持しつつ比較的堅調に実現できたと考える。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 5125-21
（様式 1）

業務実績書

研究所 No48

中期計画の項目	5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進
プロジェクト名称	敦煌壁画の保護に関する共同研究（(1)-②-イ）

【事業概要】
敦煌壁画に関して、敦煌研究院と共同で調査研究を行う。これは、壁画の制作材料と技法を古代のシルクロードを通じた文化交流、技法・材料の移動という観点から研究し、敦煌壁画を総合的に理解しようとするものである。具体的な研究項目としては、1)壁画制作技法・制作材料に関する光学的方法及び分析的方法を用いた総合研究、2)放射性炭素年代測定法による主要窟の年代同定に関する研究、3)日中の若手研究者育成、を実施している。

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【プロジェクト責任者】	保存計画研究室長　岡田　健

【スタッフ】
山内和也、朽津信明、谷口陽子、宇野朋子、高林弘実、津村宏臣（以上、文化遺産国際協力センター）、籾井基充（東京美術倶楽部）、中村俊夫（名古屋大学）、齋藤努（歴史民族博物館）

【主な成果】
共同調査・研究は 3 年目を迎え、壁画の制作材料と技法に関する知見の蓄積が進みつつある。写真撮影作業は天井の全景を含む全てが完了した。光学調査と分析調査は、未着手の部分での作業とここまでの検討で不十分な部分での作業を反復して行っている。日中双方のメンバーの連携が取れ、作業の一部分を完全に中国側に委託することが可能になるなど、顕著な進歩が見られる。

【年度実績概要】
1）合同調査：6 月 1 日～6 月 29 日の日程で、前年度に引き続き第 285 窟天井の壁画に対する写真撮影、その他の壁面に対する研究に必要な資料写真の撮影を行った。各壁の壁画の状態記録作業を継続実施した。第 285 窟において 14C 年代測定に供する試料 18 点の再採取を行った。
2）第 285 窟の光学調査：8 月、第 285 窟東壁・北壁の銘文について、敦煌研究院保護研究所のメンバーが光学調査を行った。
3）合同調査：9 月 6 日～10 月 19 日の日程で、第 285 窟壁画に蛍光 X 線と分光光度計を用いた非接触分析調査を実施した。夏季に実施した光学調査のデータをもとに第 285 窟東壁・北壁の銘文について確認調査を実施した。鉛同位対比に関する研究に関連して鉛系顔料を使用した壁画について、莫高窟各窟で観察を行った。3 次元ディジタルスキャンを用いて第 285 窟内の記録を行った。建築史的視点から莫高窟各窟の観察を行った。
4）敦煌派遣研修：6 月 1 日～10 月 19 日の日程で、日本から大学院修士課程修了の研修員 2 名を敦煌に派遣した。
5）国際シンポジウムでの発表：9 月 22 日～24 日の日程で敦煌研究院で開催された「2008 古遺址保護国際学術討論会」で「環境と石窟の劣化の関係に関する研究」と題して報告を行った。
6）敦煌研究員の来日研究： 1 月 22 日～3 月 14 日の日程で、郭青林研究員が来日し、名古屋大学年代測定センターにおいて 14C 年代測定に関する試験と研究を行った。2 月 3 日～3 月 14 日の日程で、柴勃隆研究員が来日し、東京文化財研究所において劣化状態調査、光学調査で収集したデータの整理と検討を行い、データベース構築のための GIS を応用したシステム開発のための研究を行った。
7）共同研究についての討議：2 月 22 日～25 日の日程で、敦煌研究院において本年度作業の総括と、次年度以降の研究計画について討議を行った。今後 2 年間で実施するデータベース構築に向けて、具体的な体制作りに着手した。第 285 窟で実施する測量作業について、同研究院考古研究所の担当者と打合せを行った。
8）報告書の作成：東京文化財研究所と敦煌研究院両者共同の 2008 年度成果報告書を編集し、発行した。

【実績値】
報告書　1 冊（①）
学会発表　1 回（②）
国際シンポジウム発表　1 回

【備考】
①報告書「敦煌壁画の保護に関する日中共同研究 2008」09.3
②敦煌莫高窟第 285 窟壁画に使用された彩色材料の非破壊分析（高林弘実ほか）文化財保存修復学会第 30 回大会　08.5.17

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 5125-21

自己点検評価調書

研究所 No48

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	報告書作成					
判定	A					
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	シルクロード沿線の壁画研究が注目される中、近年開発が進んでいる可搬型観測機器の導入、積極的な外部研究機関との連携などが実現し、調査による新たな発見に基づく研究方法の改善、科学的分析手法の確立も順調に行われているため、A と判定した。敦煌研究院との研究者同士の意思疎通も順調に図られていて、研究の一層の発展が期待できる。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	これまでの経験を生かしつつ、堅調に実現できたと考える。研究の進展とともに研究項目が増えており、人員配置、報告書への反映の仕方など、改善すべき点を見直しつつ、次年度へ向けて順調に作業を進めている。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 5125-30
（様式 1）

業務実績書

研究所 No49

中期計画の項目	5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進
プロジェクト名称	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（(1)-②-ウ）

【事業概要】
西アジア諸国の文化財の保護・保存・修復に関する協力・支援事業の一環として、とくに内戦・紛争によって破壊の危機にさらされているアフガニスタン及びイラクの文化財の調査研究を行い、それに基づいて文化財保護支援事業の優先順位を定め、破壊された文化財の保存・修復事業を通して、関連する分野の技術移転を図るとともに、当該国から強い要請を受けている人材育成を行い、自国民の手による文化財保護事業の確立の支援を目指す。また、あわせて周辺地域（特に中央アジア、インド）の文化財の調査研究を実施する。

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【プロジェクト責任者】	センター長　清水真一

【スタッフ】
山内和也、朽津信明、宇野朋子、有村　誠、影山悦子、島津美子、邊牟木尚美、鈴木　環（以上、文化遺産国際協力センター）、前田耕作、岩井俊平、西山伸一、谷口陽子（以上、客員研究員）、小林謙一、井上和人、窪寺　茂、森本　晋、石村智、脇谷草一郎（以上、奈良文化財研究所）、中村俊夫（名古屋大学）、佐々木達夫（金沢大学）、木口裕史（株式会社パスコ）、島　馨（応用地質株式会社）

【主な成果】
アフガニスタン及びイラクから文化財専門家を招へいして人材育成・技術移転を実施。バーミヤーン遺跡の保存に関し、専門家会議への出席、報告書の作成・出版、外部機関との共同研究を実施。西アジア周辺諸国における文化遺産保護に関する調査・研究等としては、タジキスタン出土の壁画片の保存修復及び文化財専門家の人材育成・技術移転、アジナ・テパ仏教寺院の保存修復、アジャンター壁画の保存修復を実施し、あわせて国際会議等へ参加。

【年度実績概要】
1．アフガニスタン：(1)文化財専門家研修事業（ユネスコ受託事業と連携）①考古学専門家の人材育成・技術移転：7 月 18 日～12 月 22 日、考古学研究所研究員 2 名（受託事業による招へい者 1 名）②バーミヤーン仏教石窟出土の樺皮文書の保存修復及び専門家の人材育成・技術移転：11 月 13 日～1 月 30 日、カーブル博物館職員 2 名（受託事業による招へい者 2 名）　(2)バーミヤーン遺跡保存のための専門家会議への出席（6 月 12、13 日、ミュンヘン、3 名）　(3)報告書の出版（備考欄の報告書①～④）　(4)外部機関・団体との共同研究等：金沢大学（アフガニスタン・バーミヤーン遺跡出土陶器の研究）、株式会社パスコ（バーミヤーン石窟遺構の現状記録調査のための研究）、株式会社応用地質（バーミヤーン遺跡保存のための崖崩壊予測および地下探査に関する研究）、同志社大学（アジナ・テパ遺跡における遺跡環境アセスメントとデジタルアーカイブ）、名古屋大学年代測定総合研究センター（バーミヤーン仏教壁画の年代測定）
2．イラク：(1)文化財専門家研修事業（ユネスコ受託事業と連携）：7 月 1 日～12 月 10 日、イラク国立博物館職員 2 名（受託事業による招へい者 2 名）
3．西アジア周辺諸国における文化遺産保護に関する調査研究等：(1)タジキスタン国立古物博物館所蔵の壁画片の保存修復及び文化財専門家の人材育成・技術移転（文化遺産国際協力拠点交流事業と連携）　(2)タジキスタン、アジナ・テパ仏教寺院の保存修復（ユネスコ受託事業と連携）　(3)インド：アジャンター壁画の保存修復（文化遺産国際協力拠点交流事業と連携）　(4)国際会議等への参加：UNESCO Sub-regional Workshop on Serial Nomination for Central Asian Petroglyph Sites（5 月 27 日～31 日、1 名）、UNESCO Sub-regional Workshop on the Serial World Heritage Nomination of the Silk Roads（6 月 2 日～5 日、2 名）

【実績値】
招へい者数：6 名　職員派遣数：17 名
報告書作成：4 件（①～④）　学会発表件数：2 件（⑤,⑥）

【備考】
①バーミヤーン遺跡保存事業概報－2007 年度（第 8 次ミッション）－
②*Preliminary Report on the Safeguarding of the Bamiyan Site 2007 -8th Mission-*
③バーミヤーン仏教石窟出土樺皮仏典の保存修復
④*Preliminary Report on the Environmental Investigation for the Conservation of the Bamiyan Site: 2005 and 2006 Seasons*
⑤アフガニスタン・バーミヤーン仏教壁画に関する調査と成果　09.3.15
⑥タジキスタン、アジナ・テパ仏教寺院の保存事業－2008 年度の成果－　09.3.15

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 5125-30

自己点検評価調書

研究所 No49

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点	招へい者	職員派遣数	報告書作成数	発表件数		
判定	A	A	A	A		
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	アフガニスタン、イラクに関しては、治安等の問題に配慮しつつ、人材育成・技術移転等の可能な事業を効率的に実施しており、成果が上がっている。また、周辺諸国の文化遺産保護に関しても、人材育成・技術移転を核として、着実に成果を上げている。以上の点からＡと判断した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	治安情勢等の様々な問題に配慮しながらも、計画に沿って事業が実施されており、着実に成果が上がっている。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 5205-10
（様式 1）

業務実績書

研究所 No50

中期計画の項目	5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進
プロジェクト名称	諸外国の文化財保存修復専門家養成（(2)-ア）

【事業概要】
文化遺産の保存修復を実施するためには、経験豊かな修復専門家の関与が必要不可欠である。しかし紛争や治安の不安定な状態が長期間続いた国々では、文化遺産を保存・修復する人材が決定的に不足しており、その養成が緊急的課題になっている。そのため諸外国における専門家の研修を実施する際の教材として使用することを目的にし、DVD 映像とテキストを作成する。

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【プロジェクト責任者】	センター長　清水真一

【スタッフ】
山内和也、朽津信明、宇野朋子、大場詩野子、大久保伊織、広野 幸（以上、文化遺産国際協力センター）、青木繁夫（客員研究員）、西尾太加二（財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所）

【主な成果】
諸外国における専門家の研修を実施する際の教材として使用することを目的にして、次の教材を作成した。すなわち、1.「水浸木材の保存修復」ＤＶＤ。2.「水侵木材の保存修復」テキスト。3.「Conservation for water logged wood」テキスト、である。これらは、遺跡から出土した水浸木材の適切な修復方法をしているばかりではなく、そもそも遺跡から脆弱な水浸木材を取り上げる方法にまで言及しており、発掘から保存まで広く網羅した内容に仕上がっている。

【年度実績概要】
諸外国における専門家の研修を実施する際の教材として使用することを目的にした。

「水浸木材の保存修復」（DVD）は、遺跡などのから出土した木質遺物の変形を防止し、形状を保ちながら後世に残すための保存修復処置の方法を DVD20 分程度にまとめた。特に、修復処理だけではなく、発掘時に脆弱な水浸木材を遺構から取り上げる方法についても解説したことから、発掘から保存公開までを網羅した、完全版としての映像を完成することができた。内容としては、実際の修復現場で行われている一般的な複数の手法と手順を映像としてまとめたものを英語と日本語のナレーションで作成した。研修対象者に説明し、英語・日本語の言語での説明以外に、映像として残すことで水浸木材の修復処置方法を的確に分かりやすく説明することが可能になり、利用しやすくなった。

「水浸木材の保存修復」（テキスト）は、上記ＤＶＤのテキスト版に相当するが、ＤＶＤ映像だけでは含められなかった詳細等を記述し、また適度に簡潔にすることで参照しやすくした。参考文献や使用した道具類の入手先を掲載することで参考にしやすくなったと考える。文化財の保存修復に関わる専門家の研修や同様の文化財を取り扱う担当者への解説として効率的な活用が可能となった。

「Conservation for water logged wood」テキストは、上記テキストの英語版に当たる。これにより、同内容を海外の研究者、研修生なども参照できるようになった。

【実績値】
ＤＶＤ編集　1 巻　(①)
テキスト作成　2 冊 (②,③)

【備考】
① 文化遺産国際協力センター編集　「水浸木材の保存修復」ＤＶＤ　09.03
② 文化遺産国際協力センター編集　「水浸木材の保存修復」テキスト　09.03
③ 文化遺産国際協力センター編集　「Conservation for water logged wood」テキスト　09.03

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京文化財研究所　処理番号 5205-10

自己点検評価調書

研究所 No50

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2．定量的評価

観点	ＤＶＤ作整数	テキスト作成数				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	計画通りにＤＶＤとテキスト作成が出来たので、Ａと判断した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	ＤＶＤとテキストが完成し、当初の計画通り順調に進行している。次年度もそれぞれのテーマごとに引き続き製作していく予定である。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 5205-20
（様式 1）

業務実績書

研究所 No51

中期計画の項目	5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進
プロジェクト名称	国際協力機構、ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力（(2)-イ）

【事業概要】
諸外国に対して文化財の保存・修復に関する技術移転を積極的に進める。また、アジア諸国の文化財保護担当者や保存・修復専門家などの人材養成に関する支援事業を国内外で実施するとともに、人材養成に必要な教材や教育手法に関する研究開発を行う。

【担当部課】	企画調整部	【プロジェクト責任者】	国際遺跡研究室長　井上和人

【スタッフ】
小林謙一、石村智、脇谷草一郎、中村一郎、杉山洋［以上、企画調整部］、高妻洋成、大河内隆之［以上、埋蔵文化財センター］、島田敏男、黒坂貴裕、難波洋三、馬場基、今井晃樹［以上、都城発掘調査部］平澤毅、内田和伸、粟野隆、清水重敦［以上、文化遺産部］

【主な成果】
国際協力機構及びアジアユネスコ文化センターが計画した研修の多くの部分を担当した。参加者はアジア太平洋地域諸国で文化財の保護に携わる、まだ経験が十分でない研究者であり、今般の各研修により、研修生に対して有益な成果をもたらすことができた。

【年度実績概要】
ユネスコアジア文化センター（ACCU）及び国際協力機構（JICA）が実施する諸研修事業に協力した。
① ACCU の実施する文化遺産保護に資する研修 2008（個人研修・ウズベキスタン 3 名）への協力
　ウズベキスタンから招聘した 3 名の研究者に対して保存科学に関わる研修を実施した。
　担当：埋蔵文化財センター
　期間：2008 年 7 月 17 日～7 月 31 日
② ACCU の実施する文化遺産保護に資する研修 2008（集団研修・アジア太平洋地域 16 名）への協力
　遺跡の整備と管理・遺跡遺物の保存科学・遺物の記録方法・年輪年代法に関する研究を実施した。
　担当：企画調整部・都城発掘調査部・埋蔵文化財センター
　期間：2008 年 9 月 17 日～9 月 29 日
③ ACCU の実施する文化遺産の保護に関する研修 2008（個人研修・カンボジア 3 名）への協力
　カンボジア・アンコール遺跡保護整備局からの招聘研究者に対して遺跡博物館及び遺跡の管理に関する研修を実施した。
　担当：企画調整部・文化遺産部
　期間：2008 年 11 月 19 日～12 月 1 日
④ JICA の実施する文化遺産の保護と活用に関する研修（ベトナム 11 名）への協力
　町並み保存に関する講義、見学を実施した。
　担当：企画調整部・都城発掘調査部
　期間：2009 年 2 月 25 日～3 月 4 日

【実績値】
研修回数　4 回
研修生数　30 名

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 5205-20

自己点検評価調書

研究所 No51

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点	研修回数	研修生数				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	国際協力機構及びアジアユネスコ文化センターからの協力依頼に全面的に応じて、充実した内容の研修を実施することができたから、Ａと判定した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	例年と同様に、研修主催機関からの要請に最大限応じて、アジア太平洋地域から招聘した各国で文化財保護についてこれから枢要な機能を果たすことになる若手の研究者達に十分な基礎知識などを伝達することができ、国際貢献に大いに資することができたから、Ａと判定した。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6115-00
（様式 1）

業務実績書

研究所 No51

中期計画の項目	6　情報発信機能の強化
プロジェクト名称	情報システムの整備((1)-①)

【事業概要】
文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を図る。また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図る。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	情報システム研究室長　勝木言一郎

【スタッフ】
綿田　稔,江村知子（以上、企画情報部）,横山隆史（管理部 LAN 委員）,俵木　悟（無形文化財部 LAN 委員）,吉田直人,加藤雅人（以上、保存修復科学センターLAN 委員）,二神葉子（文化遺産国際協力センターLAN 委員）

【主な成果】
システム管理については、保守契約等の協議、メールアカウントの管理、コンピュータ・ウィルス対策を行い、現在のネットワーク環境の維持に努めた。またネットワーク環境の整備の一環として、動画サーバの導入、フロアスイッチの更新、センタスイッチの増設を進め、情報基盤の充実を図った。さらに国立文化財機構情報化担当者会議に出席し、機構としてのセキュリティ・ポリシーの制定、グループウェアの導入、VPN 接続などについて協議した。

【年度実績概要】
1．システム管理
所内におけるシステム管理については、システム管理者がシステム全体の日常的な運用をはじめ、保守契約等の協議、メールアカウントの管理、コンピュータ・ウィルス対策を行った。

2．ネットワーク環境の整備
現在のユーザー環境を維持しつつ、より効率的運用ができるように、動画サーバを導入するとともに、フロアスイッチを更新し、センタスイッチを増設した。

3．情報セキュリティ
国立文化財機構情報化担当者会議に出席し、機構としてのセキュリティ・ポリシーの制定、グループウェアの導入、VPN 接続などについて協議した。

【実績値】

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6115-00

自己点検評価調書

研究所 No52

1．定性的評価

観点	適時性	効率性	継続性	正確性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2．定量的評価

観点						
判定						
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	情報システムの整備についてはネットワーク環境の更新に伴い、セキュリティの強化及び高速化が図られた結果、適時性、効率性、継続性、正確性が向上したと判断した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	情報システムの整備についてはセキュリティの強化及び高速化を図るに当たり、現在のユーザー環境を維持しつつ、より効率的な運用ができるよう、ネットワーク環境の段階的な更新を進めた。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6115-01
（様式 1）

業務実績書

研究所 No53

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化
プロジェクト名称	ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実（(1)-①）

【事業概要】
コンピュータウイルスをはじめとする様々な脅威から研究所の情報を守り、正確な情報を発信して行くため、ネットワークのセキュリティを強化する。また、文化財情報の電子化によるデータベース及びホームページに掲載された情報の所内外への提供を推進するため、サーバ機器・ネットワークといった情報基盤システムの整備・充実を行う。

【担当部課】	管理部文化財情報課	【プロジェクト責任者】	文化財研究課長　平石 憲良

【スタッフ】
太田 仁［管理部］ ほか 1 名

【主な成果】
コンピュータウィルスについて、唯一 USB ワームの被害報告があったが、注意喚起とユーザによる各コンピュータのチェックを行ない、それ以上の感染被害も出ることなく運用できた。

【年度実績概要】
ウィルス対策ソフトは、サーバ・PC とそれぞれ別の会社のものを使用し安全を確保して来たが、USB ワームの被害報告が一件あった。これは所外の PC で USB フラッシュメモリを使用したため感染した事が原因で、ファイアーウォール及びサーバで行なっている Web 用・メール用のウィルス対策は万全であったといえる。
夏以降、本研究所のアドレスを詐称するメールが急増したようで、それに対するバウンズメールが届き、迷惑メール対策サーバの処理能力以上送られて来るようになった。ファイアーウォールの設定を変更することにより、迷惑メール及びウイルススキャンの処理スピードを確保した。
また、グループウエアサーバも更新しメール利用環境を向上させた。

【実績値】

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良文化財研究所　処理番号 6115-01

自己点検評価調書

研究所 No53

1．定性的評価

観点	継続性	正確性				
判定	A	A				

備考
継続性：適切なソフトウエア及び機器の更新を行なった。
正確性：情報漏洩・改竄、ネットワークを介してのウィルス感染は皆無であった。

2．定量的評価

観点						
判定						

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	USB ワームによる被害報告が 1 件あったが、他への感染もなく、年度を通してみると充分なセキュリティが確保できたと考える。次年度以降もセキュリティに関する情報提供及び注意喚起に努めたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	ネットワーク機器及びサーバについては安定稼動できている。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6125-00
（様式 1）

業務実績書

研究所 No54

中期計画の項目	6　情報発信機能の強化
プロジェクト名称	専門的アーカイブの拡充（(1)-②）

【事業概要】
文化財関連の図書等の文字資料およびアナログ・デジタル画像資料の登録・管理、一般利用者へのそれらの提供、そのためのデータベースや検索システムの構築・運用を行い、質の高い専門的アーカイブの拡充を図る。あわせて、上記アーカイブに必要不可欠である画像形成技術等の継続的な更新を行い、最先端の研究活動を支援することを目的とする。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	文化財アーカイブズ研究室長　津田徹英

【スタッフ】
田中　淳、山梨絵美子、勝木言一郎、塩谷　純、綿田　稔、皿井　舞、江村知子、土屋貴裕、城野誠治、中村節子、中村明子、井上さやか、鳥光美佳子（以上、企画情報部）

【主な成果】
1)公開用 SQL データ・画像データの更新
2)近現代美術関係文献および美術全集掲載図版目録のデータベース化、『日本美術年鑑』のテキスト化
3)劣化が進む貴重雑誌の CD-ROM 化
4)ガラス乾板等のデジタル化に向けての点検・整理

【年度実績概要】
1)資料閲覧室の運営：文化財に関する諸資料の収集・管理・公開・データベースの構築・運用を基本に、より充実したアーカイブ形成に努めた。その一環として近現代美術関係文献および美術全集掲載図版目録のデータベース化、インターネット上での公開を目指して『日本美術年鑑』のテキスト化を行った。また、劣化が進む資料類の保護対策の一環として貴重雑誌の CD－ROM 化をすすめるとともに、所蔵ガラス乾板のデジタル化にむけての点検・整理を行った。国内外の関連機関との協力関係構築とへの取り組みと有効な資料公開システム構築のため協議を行った。
2)画像情報室：他部・センター、他機関との共同調査研究により文化財の画像資料の収集・作成を行った。06 年度より継続の尾高鮮之助、和田新撮影フィルムについては文化遺産国際協力センターの協力を得て画像をデジタル化した。
企画情報部にて作成・更新中の 35 種データベース：所蔵和漢書(～07),受入和漢書(08 年度分),所蔵洋書,所蔵簡易図書,売立目録,所蔵美術館博物館収蔵目録,和雑誌誌名,所蔵洋雑誌誌名,所蔵中国雑誌誌名,所蔵韓国雑誌誌名,所蔵和雑誌巻号(～02),所蔵洋雑誌巻号(～05),所蔵和雑誌巻号(03 以降),所蔵洋雑誌巻号(06 以降),所蔵中国雑誌巻号,所蔵韓国雑誌巻号,所蔵地方公共団体刊行報告書,所蔵香取秀真資料関係,展覧会(02 まで), 展覧会(03 以降),近現代作家名,近現代展覧会開催情報(44 以降),写真原板,キャビネット写真,古美術文献目録(明治～65),近現代美術文献目録(59～90),美術館博物館名,東京文化財研究所年表,所蔵古美術展図録目次(89～01),美術研究総目次,所蔵近現代図録目次(48～90 年),撮影調査票,古美術展覧会開催情報(44 以降),物故者記事,美術懇話会,開所記念展覧会出品目録,
インターネット公開中の研究資料検索システムに提供中の 13 種データベース：美術関係図書,伝統芸能関係図書,保存修復関係図書,売立目録,展覧会カタログ,和雑誌,写真原板,美術関係文献,『保存科学』所載文献,伝統芸能関係三雑誌所載文献,『美術研究』所蔵文献,近現代美術展覧会開催情報,伝統楽器情報,

【実績値】
通常フルカラー画像撮影件数 1,200 件、特殊画像撮影件数 387 件、デジタル画像撮影の全体に占める割合 99%、図書書受入数:和漢書 706 件.洋書 7 件,展覧会図録・報告書等 1,993 件,雑誌 2,191 件(受入総数 4,897 件),35 種の目録所在情報(作成件数 68,523 件,収録件数 717,282 件,公開件数 702,511 件),インターネットで公開中の目録累計数 13 種,資料閲覧室の利用状況:公開日総数 141 日・利用者年間合計 987 人

【備考】
所内イントラによる目録の公開　http://www2.tobunken.go.jp

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6125-00

自己点検評価調書

研究所 No54

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	文献資料受入件数	画像資料収集件数	データベース公開件数	閲覧者利用者数		
判定	A	A	A	A		
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	定性的にも定量的にも目標値を満たし、閲覧室利用者の増加にみられるように国民の文化財理解にも資することができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	さらなる国内外の関連機関との調査・協議を進め、当研究所の文化財アーカイブの特色を生かした資料収集および公開を進めて行きたい。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6125-01
（様式 1）

業務実績書

研究所 No55

中期計画の項目	6　情報発信機能の強化
プロジェクト名称	東京文化財研究所七十五年史編纂事業((1)-②)

【事業概要】
本事業は、東京国立文化財研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が昭和 5 年 6 月に設立されてから平成 17 年で 75 周年を迎えたのを機に、当所の歴史を跡づけ、さらには東京国立博物館との統合を迎える平成 18 年までの記録を残すことを目的として、資料収集及びそのデータ化を図り、所史を編集する。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	近・現代視覚芸術研究室長　山梨絵美子

【スタッフ】
中野照男、後藤嘉信（以上管理部）、高桑いづみ（無形文化遺産部）、佐野千絵、川野辺渉（以上保存修復科学センター）、岡田　健（文化遺産国際協力センター）、田中　淳、塩谷　純、山梨絵美子、中村節子、中村明子、井上さやか（以上、企画情報部）

【主な成果】
『東京文化財研究所七十五年史　本文編』（仮称）を平成 21 年度に刊行することをめざし、沿革編および調査研究編の原稿作成、編集、校正を進めた。

【年度実績概要】
『東京文化財研究所七十五年史　本文編』（仮称）を以下のような内容で平成 21 年度に刊行することをめざし、沿革編および調査研究編の原稿作成、校正を進めた。

【沿革・機構編】
前史／帝国美術院附属美術研究所時代／文部省付属美術研究所時代／国立博物館付属美術研究所時代／東京国立文化財研究所時代／独立行政法人文化財研究所時代

【調査研究編】
美術部／無形文化遺産部／保存科学部／修復技術部／情報資料部／文化遺産国際協力センター

【資料編】
旧職員物故者略歴／年表

【実績値】

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6125-01
（様式 2）

自己点検評価調書

研究所 No55

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	効率性	正確性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2．定量的評価

観点						
判定						
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	昨年度刊行された資料編をもとに、作業を進めることができた。近年、組織の改変が頻度を増す中で、当研究所の責務を見直す契機ともなっている。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	次年度での刊行に向けて作業を進めることができた。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6125-02
（様式 1）

業務実績書

研究所 No56

中期計画の項目	6　情報発信機能の強化
プロジェクト名称	無形文化財に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化（(1)-②）

【事業概要】
無形文化遺産部が所蔵する音声・画像・映像資料のデジタル化。前中期計画（平成 17 年度終了）の事業案策定後の購入・寄贈にかかるアナログ資料を中心に、これまでに収集蓄積してきた分野を補完する資料の媒体転換を重点的に実施する。併せて、デジタル化を済ませた音声資料は、インデックス付与を含む整理を推進する。この事業は、将来的には資料のデータベース公開と音声・画像等の配信を目指すものである。

【担当部課】	無形文化遺産部	【プロジェクト責任者】	部長　宮田繁幸

【スタッフ】
高桑いづみ、飯島　満、俵木　悟、菊池理予（以上、無形文化遺産部）
土田牧子、綿貫　潤、星野厚子（以上、研究補佐員）

【主な成果】
2006 年度までに受入れ手続きが完了した資料の内、経年変化に伴う音質劣化が懸念されるオープンテープのデジタル化を昨年度に引き続き実施した。所蔵画像資料のデジタル化については、データベース作成の一環として、昨年度寄贈を受けた歌舞伎写真（故・梅村豊撮影）の整理に本格的に着手した。

【年度実績概要】
現在、無形文化遺産部が推進している音声記録のデジタル化は、これまでに収集蓄積してきた資料を補完する分野のものに重点を置いている。具体には、資料的な価値が高く、なおかつ年代的に溯る資料の絶対数が少ない古曲（河東節・一中節・宮薗節・荻江節）、および、旧芸能部の時代には収集実績の比較的少なかった新内節や諸芸（舌耕芸など）の分野であり、今年度は 233 枚のＣＤを作成した。また、媒体変換を完了した音声資料から、インデックス付与済み CD を 116 枚作成した。
所蔵画像資料のデジタル化事業の一環として実施しているデータベース作成の内、今年度は昨年度寄贈を受けた歌舞伎写真（故・梅村豊撮影）の整理を中心に行った。整理の結果、それらはモノクロだけで 8 万枚以上に及ぶ規模であることが確認されたが、その内、昭和 30 年代のモノクロネガ 841 点について所蔵一覧を公表した。このほか、無形文化財関連の作成ＤＶＤ511 枚を登録した。

【実績値】
作成資料［ＣＤ］349 枚　　［ＤＶＤ］511 枚

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6125-02

自己点検評価調書

研究所 No56

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2．定量的評価

観点	資料作成数					
判定	A					
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	新たに寄贈された資料を中心に、劣化が懸念される貴重なアナログ資料の媒体変換を行うとともに、デジタル化しただけでは一般の利用には供しがたい音声資料へのインデックス付与も着実に実施している。また、専門の研究者も少なく、現存資料の確認すら十分に行われていない古曲などに加え、これまで収集実績の乏しかった分野の資料整理も併せて遂行している。以上の状況を総合的に判断して、Ａと判定した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	事業は、従来の水準を維持している。また、所蔵資料の内、写真資料については、将来的なデータベース公開へ向けて、所蔵一覧の作成を着実に進めている。以上により、事業の進捗状況を順調と判定した。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6135-00
（様式 1）

業務実績書

研究所 No57

中期計画の項目	6　情報発信機能の強化
プロジェクト名称	国際資料室の整備（(1)-③）

【事業概要】
本プロジェクトは、国際資料室に配置する外国の文化財や文化財保存修復事業に関する蔵書・資料の質及び量を充実させ,国際文化財保存修復協力センターでの関連の研究や事業に利用するとともに,国内外の関連分野の専門家が閲覧・利用できるようにする。同時に,資料のデータベース化を行い,利用者の便を図る。

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【プロジェクト責任者】	主任研究員　二神葉子

【スタッフ】
清水真一、岡田　健、山内和也、朽津信明、友田正彦（以上、文化遺産国際協力センター）

【主な成果】
情報収集、データベース化：平成 13 年から収集している世界各国の文化財保護に関連する法令について、和訳を行うとともに、保護の対象とする文化財により分類、データベース化した。
情報の発信として出版物の PDF 化を実施した。また、「文化財保護関連法令集　イラク」および「文化財保護関連法令シリーズ」として日本、ウズベキスタン、モンゴルの法令集を出版した。

【年度実績概要】
1　資料の収集とデータベース化
今年度はインド、インドネシア、中国などの文化財に関する資料及び世界遺産、保存科学、文化財保護制度などに関する書籍 1,003 点（和漢書 347 点、洋書 656 点）、雑誌 235 点の資料を収集し、データベース化した。

2　『国際資料室蔵書目録』の作成
2008（平成 21）年 3 月に、今年度に国際資料室で受け入れてデータベース化した 1,003 点（和漢書 347 点、洋書 656 点）の資料、及び国際資料室で所蔵する雑誌 438 種類を掲載した『国際資料室蔵書目録』を発行した。

【実績値】
目録作成数　1 件

【備考】
『国際資料室蔵書目録』　171p　09.3.31

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6135-00

自己点検評価調書

研究所 No57

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性			
判定	A	A	A			
備考						

2．定量的評価

観点	目録作成数					
判定	A					
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	調査研究業務に必要な資料を効率的に多数収集し、データベース化している。内容は外国の調査地で収集した資料や、文化財保護制度に関する外国語文献など独創的である。次年度以降も、本センターの他事業との連携をいっそう強化し、資料の収集を実施する。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	資料の収集は例年の実績を堅持し、順調に実施することができた。今後も、書籍に限定せず会議資料や機関のパンフレット、地図など、多様な資料の充実に努めたい。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6145-00
（様式 1）

業務実績書

研究所 No58

中期計画の項目	6　情報発信機能の強化
プロジェクト名称	文化財保存修復国際情報データベース化に関する研究（(1)-④）

【事業概要】
世界各地の文化財およびその保存修復に関する情報を収集・整理し、調査研究に活用するとともに、関連分野の専門家に対して効果的に発信していくことを目的にデータベースを作成する
また、文化遺産国際協力センターでこれまでに実施してきた事業の成果をデータベース化して公開する。
さらに、ウェブサイトを利用してセンターの事業について広報を行う。

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【プロジェクト責任者】	主任研究員　二神葉子

【スタッフ】
清水真一、岡田　健、山内和也、朽津信明、友田正彦（以上、文化遺産国際協力センター）

【主な成果】
情報収集、データベース化：平成 13 年から収集している世界各国の文化財保護に関連する法令について、和訳を行うとともに、保護の対象とする文化財により分類、データベース化した。
情報の発信として出版物の PDF 化を実施した。また、「文化財保護関連法令集　イラク」および「文化財保護関連法令シリーズ」として日本、ウズベキスタン、モンゴルの法令集を出版した。

【年度実績概要】
1　情報の収集とデータベース化
平成 13 年度から収集を行っている世界各国の文化財保護に関連する法令について、引き続き法令を収集するとともに、日本の文化財保護法で用いられている分類を手がかりとして、昨年度に引き続き各国の法令が対象とする文化財による分類を行い、データベース化を実施している。

2　情報の発信
これまでに和訳した世界各国の文化財保護に関連した法令の条文について PDF 化を行い、ウェブサイトに公開している。印刷物としては、まず、文化遺産国際協力センターが文化遺産保護の専門家を招へいして研修を行うなどの国際協力事業を行っているイラクの文化財保護に関する法令をアラビア語から和訳し、「文化財保護関連法令集　イラク」として印刷・出版した。また、今年度に文化遺産保護に関する交流について教育・文化・科学省を相手側として合意書を締結したモンゴル、平成 19 年度に中央アジア 5 カ国を招いて「アジア文化遺産国際会議」を開催したウズベキスタンの法令についても、モンゴル語、ロシア語からそれぞれ和訳し、関連資料とともに「文化財保護関連法令シリーズ」として出版した。さらに、日本の文化財保護法について、各条文に関連する判例の要旨を添付するとともに、最新の改正を反映した英訳がなかったことから英訳を行い、やはり「文化財保護関連法令シリーズ」として出版した。なお、法令の翻訳にあたっては、あえて原語に忠実で説明的な直訳を心がけることで、日本語の類似の制度などとの混同を避ける工夫を図っている。
このほか、平成 13 年度～17 年度の「アジア文化財保存セミナー」報告書を PDF 化した。さらに、文化遺産国際協力センターのウェブサイトで、最新の出版物の目次やプレスリリース等を掲載することで、研究成果を公開している。

【実績値】
法令集作成数　4 件

【備考】
文化財保護関連法令集　イラク
文化財保護関連法令シリーズ　3　日本、4　ウズベキスタン、5　モンゴル

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6145-00

自己点検評価調書

研究所 No58

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	独創性			
判定	A	A	A			
備考						

2．定量的評価

観点	出版物作成数	データベース作成数				
判定	A	A				
備考 文化財保護に関する法令の収集・翻訳、さらに出版は他に例がない事業であり独創的であり、当該分野への貢献度を高く評価するものである。今年度は法令集をシリーズ化して出版することができた。また、研究成果の発信も速やかに実施している。これらの事業を来年度以降も引き続き行っていく。						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財保存修復および国際協力に関する資料の蓄積、および本センターの調査研究成果の発信を順調に実施することができた。 次年度以降も当該年度の水準を維持し、いっそうの資料収集・整理、成果発信を実施していきたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	5 年計画の中で、調査研究は順調に進んでいる。今後もさらに資料の収集・蓄積と発信を行っていきたいと考えている。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6135-01
（様式 1）

業務実績書

研究所 No59

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化
プロジェクト名称	文化財関係資料や図書の収集・整理・公開・提供の充実（(1)-③）

【事業概要】
文化財に関する資料・図書を計画的に収集・整理し、外部の研究者及び一般の利用者に積極的に公開・提供するための方策を検討し、実施する。

【担当部課】	管理部文化財情報課	【プロジェクト責任者】	文化財情報課長　平石憲良

【スタッフ】
太田 仁［管理部］ ほか 6 名

【主な成果】
遺跡の発掘調査報告書、歴史的建造物の修理報告書等歴史・考古学分野を中心に図書・逐次刊行物の購入及び寄贈による収集・整理を行った。また、発掘調査関係の遺跡、建造物、庭園等の写真の収集、整理を行った。

【年度実績概要】
図書の整理:
遺跡の発掘調査報告書、歴史的建造物の修理報告書等歴史・考古学分野を中心とする資料の収集・整理を行った。また、国立情報学研究所が構築している大学図書館等の総合目録データベース(NACSIS-CAT)に遡及入力を行なう等、所外の利用者への情報提供も行った。

利用者サービス:
図書資料室は一般公開施設と位置づけ広く利用に供している。遠隔地からの図書利用については、国立情報学研究所が行なっている NACSIS-ILL を通じてサービスを行った。

写真の登録:
図書資料以外では、発掘調査関係の遺跡、建造物、庭園等の写真の収集、整理を行った。

【実績値】

受入数:

購入図書	986 冊
寄贈図書	9,148 冊
雑誌	1,301 タイトル
写真	4,102 点

利用者サービス:

一般利用者数	481 人
利用冊数	3,008 冊
来館者複写件数	883 件

遠隔利用:

複写件数	692 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6135-01

自己点検評価調書

研究所 No59

1．定性的評価

観点	適時性	継続性				
判定	A	A				
備考						

2．定量的評価

観点	資料の受入数	目録所在情報作成件数	利用者数	複写件数		
判定	A	A	A	A		
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本研究所の図書資料室は他機関からの寄贈資料が蔵書の多くを占めるが、今後はナショナルセンターとして国内に無い資料等の計画的収集も考えて行きたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	考古学分野を中心とする専門図書館と位置づけられる本研究所の図書資料室であるが、利用者数、利用冊数、複写件数いずれも増加が続いており極めて順調といえる。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6145-01
（様式 1）

業務実績書

研究所 No60

中期計画の項目	6　情報発信機能の強化
プロジェクト名称	文化財情報電子化の研究に基づくデータベースの充実（(1)-④）

【事業概要】
文化財情報の電子化及びシステムの構築に関する研究を行い、文化財の特性に対応したシステムによるデータベースの構築を継続、データの拡充を行う。一般に公開するデータベースへとデータを提供するとともに、内部の業務用データベースのデータ拡充もあわせて行う。

【担当部課】	企画調整部	【プロジェクト責任者】	文化財情報研究室長 森本　晋

【スタッフ】

【主な成果】
遺跡情報の分析と世界的な標準化に関する研究に基づき『遺跡情報交換標準の研究第 2 版』を刊行した。文化財情報の電子化を進め、業務用並びに公開用のデータベースの充実を図った。

【年度実績概要】
文化財情報の電子化及びシステム構築については、研究会等においてそれらの研究成果を公表するとともに、所外の研究状況について情報を収集し、今後のシステム構築、改良等の検討材料とした。10月には地理情報システム学会大会において「遺構情報モデルへの時間スキーマ適用法の検討」と題して、遺構情報の分析に関する研究成果を発表した。また、11月に第13回となる遺跡GIS研究会を開催し、LRFによる簡易測量とGISアーカイブの現状、電子化された発掘調査報告書の統合的分析手法の検討と開発、三次元計測とGISミクロからマクロまで、位置と向きを利用した写真と3次元モデルの連携について研究発表が行われた。2月には遺跡情報を交換するための基礎研究成果を『遺跡情報交換標準の研究第2版』として刊行した。
文化財情報の電子化として、全文、木簡、図書、抄録、写真、遺跡、航空写真等の各データベースにおいて、データの更新整理並びに追加入力を行い、正確なデータの充実に努めた。また、業務用のデータベースについては、各担当で作成したデータの追加を行った。
データベースへの入力に際しては、事前にデータ整理研究が必要である。本年度も個々のデータについて広い範囲の文献や参考書目等の調査を行いながらデータの拡充を行った。
写真データベースの基礎となる写真の電子化に関しては、35㎜、ブローニ、4×5、8×10、ガラス乾板、奈文研が発注した空中写真について電子化を継続した。航空写真データベースにおいては、入力の基礎となる原フィルムからのマイクロフィルム作成、マイクロフィルムからの電子画像の作成を継続して行った。

【実績値】
データベースの件数　平成20年度末　（　）内は平成19年度末の値
全文 141,373（119,648）、木簡 147,550（152,352）、図書 269,826（298,341）、抄録 54,679（49,476）、写真 193,219（180,204）、遺跡 402,908（383,816）、航空写真 1,170,332（1,130,890）

【備考】
地理情報システム学会第17回研究発表大会
第 13 回遺跡 GIS 研究会

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6145-01

自己点検評価調書

研究所 No60

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点						
判定						
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	総じて事業は順調かつ効率的に進捗していることから、総合評価をＡにした。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	各データベースにおいて、着実にデータの充実が進んでいる。システムの改良を行いつつ、新規入力のみならず、既存データの更新も推進し、全体として当初計画通り進捗しているので、順調と判定した。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6215-00
（様式 1）

業務実績書

研究所 No61

中期計画の項目	6　情報発信機能の強化
プロジェクト名称	『東京文化財研究所年報』･『東京文化財研究所概要』･『東文研ニュース』の刊行　((2)-①)

【事業概要】
『年報』『概要』『ニュース』など広報三誌の編集・刊行は、研究所が進める広報活動の中核に位置づけられる。それらの目的は、媒体に応じて、調査・研究、国際協力の推進、調査研究成果の発信、協力・助言など、研究所が担うさまざまな活動を、対外向けに情報発信することにある。またそれらのデータはホームページ上でも PDF ファイル形式でも配信されている。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	情報システム研究室長　勝木言一郎

【スタッフ】
田中　淳, 山梨絵美子, 津田徹英, 塩谷　純, 綿田　稔, 皿井　舞, 江村知子, 土屋貴裕, 城野誠治, 中村明子, 井上さやか, 鳥光美佳子, 中村節子（以上、企画情報部）

【主な成果】
『年報』2007 年度版、『概要』2008 年度版、『東文研ニュース』33 号-36 号、『東文研ニュースダイジェスト』(『東文研ニュース』英語版）をそれぞれ刊行し、媒体の特質に応じて、研究所のさまざまな活動を広報した。

【年度実績概要】
1.『年報』2007 年度版の刊行
2007 年度版の構成は従来通り、機構、年度計画及びプロジェクト報告、その他の研究活動、個人の研究業績、研究交流、主な所蔵資料、研究所関係資料、東京文化財研究所プロジェクト索引とした。

2.『概要』2008 年度版の刊行
2008 年度版の構成は昨年度版にならい、組織、職員一覧、各部・センターの紹介、研修・助言・指導、大学院教育・公開講座、情報発信、刊行物、資料とした。またその割付は従来通り、日英 2 カ国語を併記し、図版を多用した。

3.『東文研ニュース』の刊行
『東文研ニュース』の構成は、従来通り、四半期ごとの活動報告、文化財の研究方法や研究所の歴史などを一般向けに解説したコラム、刊行物の案内、新人紹介、人事異動などとした。また『東文研ニュースダイジェスト』(『東文研ニュース』英語版』) を刊行し、海外の読者向けに情報発信を進めた。

【実績値】
刊行物数　「東京文化財研究所年報」2007 年度版　1,000 部
『東京文化財研究所概要』2008 年度版　4,000 部
『東文研ニュース』第 33 号・第 34 号・第 35 号・第 36 号　4,000 部

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6215-00

自己点検評価調書

研究所 No61

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	刊行物数					
判定	A					
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	『年報』『概要』『ニュース』の刊行に際し、いずれも紙面の内容を見直し、その充実を図った。またそれらの配布先を検討したほか、一般向けへの配布を拡大した。こうした結果、広報企画事業の適時性、独創性、発展性、効率性、継続性、正確性が改善された。したがって実績の総合評価も十分な成果が認められると結論した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	『年報』『概要』『ニュース』の刊行に際し、いずれも紙面の内容を見直し、その充実を図ったこと、そしてそれらの配布先を検討したほか、一般向けへの配布を拡大したことから、東京文化財研究所における広報活動の事業展開が拡充された。こうした実績から、当年度における中期計画の実施状況は順調であると判断した。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6215-01
（様式 1）

業務実績書

研究所 No62

中期計画の項目	6　情報発信機能の強化
プロジェクト名称	『平成 19 年度日本美術年鑑』・『美術研究』の 刊行（(2)-①）

【事業概要】
各年の美術活動と美術研究、批評の状況を記録するために、昭和 11 年以来刊行を続けている『日本美術年鑑』を年 1 冊刊行するとともに、昭和 7 年 1 月以来、日本・東洋の古美術、日本の近代・現代美術等に関わる研究論文・図版解説・書評、展覧会評、研究資料、研究ノート等を掲載する『美術研究』を年 3 冊刊行する。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	近・現代視覚芸術研究室長　山梨絵美子

【スタッフ】
田中　淳、勝木言一郎、津田徹英、塩谷　純、綿田　稔、皿井　舞、江村知子、土屋貴裕（以上、企画情報部）、相澤正彦、三上　豊、吉田千鶴子、森下正昭（以上、企画情報部客員研究員）、中野照男（副所長）

【主な成果】
『日本美術年鑑』を年 1 冊、『美術研究』を年 3 冊刊行することを目的とする。今年度は『平成 19 年版　日本美術年鑑』及び、『美術研究』395～397 号を刊行することができた。

【年度実績概要】
①『平成 19 年版　日本美術年鑑』
2006（平成 18）年美術界年史、美術展覧会（企画展、作家展、団体展）、美術文献目録（定期刊行物所載文献、美術展覧会図録所載文献（企画展、作家展））、物故者
②『美術研究』395 号
鄭岩（加藤直子訳）「漢代喪葬画像における観者の問題」
綿田稔「自牧宗湛（下）」
田中淳「研究ノート　尾高鮮之助と岸田劉生」
小林未央子「研究ノート　なめらかな表面のために―小出楢重再考―」
③『美術研究』396 号
渡邊雄二「聚光院方丈障壁画を語る文脈」
綿田稔「聚光院の成立時期についての一仮説―障壁画作期議論の前提として―」
高橋秀治「研究ノート　藤雅三《破れたズボン》発見報告」
綿田稔「展覧会評　狩野永徳展」
④『美術研究』397 号
林玲愛（守屋美佐子訳）「高句麗古墳の角抵図に登場する「西域人」のイメージ」
角田拓朗「満谷国四郎《自画像》の彷徨い―五姓田派の所在を問うことの意味―」
田中淳「図版解説　萬鉄五郎　《軽業師》および《太陽と道》」
津田徹英「書評　大西磨希子『西方浄土変の研究』」

【実績値】
『日本美術年鑑』刊行数　1 点　（①）
『美術研究』刊行数　　3 点　（②～④）

【備考】
①　『平成 19 年版　日本美術年鑑』東京文化財研究所　08.3
②　『美術研究』395 号　東京文化財研究所　08.8
③　『美術研究』396 号　東京文化財研究所　08.11
④　『美術研究』397 号　東京文化財研究所　09.3
各配布先リスト

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京文化財研究所　処理番号 6215-01

自己点検評価調書

研究所 No62

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	正確性	継続性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2．定量的評価

観点	刊行物件数	配布部数				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	広く文化財、美術史研究の情報を調査収集、データ化した『日本美術年鑑』は、計画通り刊行できた。しかし、情報量の増大にともなう編集作業の増大は、情報のより精査が必要になっている点、及び編集作業の効率化を次年度にむけた改善点としてあげたい。また、『美術研究』においては、研究論文だけではなく、書評、展覧会評、研究ノートなど、将来の研究成果を見据えた萌芽的な研究をも掲載するようにしたことなどで、各号が質量ともに充実する傾向にあり、この点は評価できる。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	中期計画にあげた実施状況は、順調である。『日本美術年鑑』については、情報の調査収集と編集作業の効率化にむけて、あらためて問題点を改善し、次年度にむけて改善したいと考えている。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6215-02
（様式 1）

業務実績書

研究所 No63

中期計画の項目	6　情報発信機能の強化
プロジェクト名称	「無形文化遺産研究報告」・「無形民俗文化財研究協議会報告書」の刊行（(2)-①）

【事業概要】
文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を平成 19 年度の実績以上刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数を前期中期計画の年度平均以上確保する。

【担当部課】	無形文化遺産部	【プロジェクト責任者】	部長　宮田繁幸

【スタッフ】
高桑いづみ、飯島　満、俵木　悟、菊池理予（以上、無形文化遺産部）
大島暁雄、深津（福岡）裕子、森下愛子、服部比呂美（以上、客員研究員）
土田牧子（以上、研究補佐員）

【主な成果】
1）主として無形文化遺産部研究員の業績に基づく論考・報告・資料紹介等を内容とする『無形文化遺産研究報告』第 3 号の刊行。
2）平成 20 年 11 月 20 日に開催した無形民俗文化財研究協議会での事例報告・総合討議を内容とする『第 3 回無形民俗文化財研究協議会報告書』の刊行。

【年度実績概要】
○『無形文化遺産研究報告』第 3 号を以下の内容で刊行した。
高桑いづみ「X線透過撮影による能管・龍笛の構造解明」、近藤静乃「現行法会における付物・付楽の諸相―2008 年勤修の法会に関する調査報告―」、菊池理予「無形文化財としての工芸技術―染織分野を中心として―」、深津裕子「伝統工芸技術の記録と保存―江戸時代後期の「葛布地道中着」に用いられた素材の復元を事例として―」、森下愛子「近代京都の陶芸技術にみる古典へのまなざし―革新と復古の間で京焼陶工が目指したもの―」、大島暁雄「民俗行事の変化とその評価について―愛知県「鳥羽の火まつり」を例に―」、服部比呂美「立物花火の技術伝承―愛知県新城市東新町「立物保存会」の事例から―」、土田牧子「〔資料紹介〕梅村豊撮影歌舞伎写真」、飯島満「国立音楽大学附属図書館寄贈　竹内道敬旧蔵音盤目録（3）」

○「無形民俗文化財に関わるモノの保護」をテーマとした『第 3 回無形民俗文化財研究協議会報告書』を以下の内容で刊行した。
I.序にかえて、II.趣旨説明、III.報告：1.「年中行事における飾り物継承の諸問題―七夕馬とツクリモノ―」 服部比呂美（東京文化財研究所無形文化遺産部客員研究 員）、報告：2.「西塩子の回り舞台の復活と活用」石井聖子（常陸大宮市歴史民俗資料館大宮館）、報告：3.「長浜曳山祭における曳山の保存と修復について―祭りのなかで曳山を活かしつづける方途―」橋本章（長浜市長浜城歴史博物館）、報告：4.「江名子バンドリの製作技術の材料確保、保護するための取り組み」田中彰（高山 市教育委員会事務局参事兼文化財課長）・保木隆（江名子バンドリ保存会代表）、IV. 総合討議、V. 参考資料、VI.アンケート結果、VII.あとがき

【実績値】
発行数　　2 件（①,②）
発行部数　1,200 部（『無形文化遺産研究報告』第 3 号　231p　700 部、『第 3 回無形民俗文化財研究協議会報告書』　126p　500 部）

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6215-02

自己点検評価調書

研究所 No63

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性			
判定	A	A	A			
備考						

2．定量的評価

観点	発行部数					
判定	A					
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	『無形文化遺産研究報告』：今回は、無形文化財の芸能、工芸技術、無形民俗文化財の民俗行事、民俗技術の論考や報告、資料紹介等、幅広い内容の報告書となった。本誌は、将来の無形文化遺産全般の保護行政や研究に資する報告書となることをめざしているが、その目的に適うものとなっている。 『無形民俗文化財研究協議会報告書』：当研究所でおこなった無形民俗文化財に関する研究協議会の報告書で、会場での研究報告や総合討議の様相を掲載したものである。今後もこれまでの研究を踏まえながら、協議会をおこない、報告書の刊行を見る予定である。 以上を総合的に判断して、Ａと判定した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	両誌とも年１回の刊行が達成できたため、順調と判断した。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6215-03
（様式 1）

業務実績書

研究所 No64

中期計画の項目	6　情報発信機能の強化
プロジェクト名称	『保存科学』48 号の出版（(2)-①）

【事業概要】
保存修復科学センター・文化遺産国際協力センターで行われた文化財の保存・修復に関する調査・研究に基づく資料の作成・公開を目的とし、年 1 回研究論文集『保存科学』を刊行する。様々な文化財の科学的調査結果や基礎研究に関する論文、受託研究に関する研究報告・修復処置概報などの活動報告を掲載する。また、より一層の研究成果の公開につとめるため、『保存科学』掲載論文の電子化（画像ファイル化）を行い、最終的にインターネット上での全文掲載による公開を行う。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	センター長　石﨑武志

【スタッフ】
川野邊渉、清水真一、佐野千絵（編集担当）

【主な成果】
25 本の投稿を受け、外部査読者 2 名を含む編集委員会で査読し、報文 9 本、報告 16 本、計 25 本の掲載を決定した。本誌体裁は変更せず、総頁数 245 頁、600 部印刷、関係諸機関に 580 部配付した。

【年度実績概要】
保存修復科学センター長、副センター長、文化遺産国際協力センター長、東京国立博物館学芸研究部保存修復課長・神庭信幸氏、東京藝術大学大学院美術研究科教授・稲葉政満氏の 5 名からなる編集委員会によって編集を行った。平成 20 年度は、25 件の研究論文・報告を掲載した『保存科学』第 48 号を発行した。論文題目を以下に記す。
1. 過去の高松塚古墳石室内の温湿度変動解析－保存施設稼働時の気象条件の影響と発掘直後の仮保護施設の影響－ 2. ポーラ美術館における室内空気清浄化のための火山ガスの調査 3. 紫外線照射装置を用いた磨崖仏着生生物の除去 4. 飯田市・文永寺石室五輪塔における蘚苔類の繁茂について 5. 二酸化炭素処理・酸化エチレン処理がジアゾタイプ複写物に及ぼす影響 6. 色材の“デジタルカメラ分光分析”に関する基礎的検討 7. 三十三間堂の外観塗装材料である赤色顔料に関する調査 8. 敦煌莫高窟第 285 窟北壁壁画に描かれた如来および菩薩の衣の彩色技法－赤色表現を例として－ 9. 敦煌莫高窟第 285 窟南壁龕楣の彩色材料および技法 10. 敦煌莫高窟第 285 窟壁画の保存状態 11. 銅系緑色顔料の多様性とその使用例 12. 国宝高松塚古墳壁画の材料調査の変遷 13. 桃山文化期における輸入漆塗料の流通と使用に関する調査（Ⅱ） 14. 熊本城「細川家舟屋形」の保存環境調査 15. 国宝高松塚古墳壁画修理作業室の一般公開時における環境測定 16. キトラ古墳保護覆屋内の環境について(4)－周辺風環境の解析および覆屋内環境監視－ 17. キトラ古墳の微生物等の状況報告（2008） 18. 古墳等の高湿度作業環境下での使用を想定した木材保存剤のかび抵抗性試験と TVOC 測定 19. 現地保存される古墳・遺構等における土壌及び石材に対する殺菌消毒剤の効果について 20. 昭和初期和紙の褐色斑からの真菌分離および蛍光に関する報告 21. 日光山輪王寺本堂におけるオオナガシバンムシ *Priobium cylindricum* による被害事例について 22. 穿孔抵抗測定法を用いた文化財建造物の構造部材の虫害評価に関する一考察－日光輪王寺における虫害を事例として－ 23. X 線 CT スキャナによる虫損部材の調査 24.「殺虫／殺菌処理、防虫剤などについての緊急アンケート」調査結果について 25. 展示公開施設の館内環境調査報告－平成 19 年度－

【実績値】
印刷部数　600 部
配付部数　580 部
本誌体裁Ｂ5、総頁数 245 頁

【備考】
1. 「保存科学」第 48 号　245p　09.3.31
2. 配布先リスト

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6215-03

自己点検評価調書

研究所 No64

1．定性的評価

観点	適時性	正確性	継続性	効率性	発展性	独創性
判定	A	A	A	A	A	A

備考
掲載論文はいずれも初出論文であり、査読を経て正確性が高く、将来の研究発展への寄与も著しく高い。各論文で取り上げている諸問題は適時性が高く、国内外専門研究機関からの評価も高い。

2．定量的評価

観点	印刷部数	掲載論文数	印刷頁数			
判定	A	A	A			

備考
Ｂ4 版体裁の本誌として限界量の刷り上がり約 250 頁のボリュームがあり、研究動向を把握する上で研究者にとって必須な状況にある。印刷・配付部数については適宜見直しを行い、印刷形態での配付の限界を見極め、ホームページ上にすみやかに各論文を掲載し、インターネット公開を進めている。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	新規性の高い論文・研究情報を安定してすみやかに公開・提供し、国内外の研究者にとって重要な情報源として確立している。印刷総頁数は限界量となっており、将来的に掲載論文数が増えていく場合には、2 分冊化についても検討すべき時期が来ている。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	確実に刊行を重ねており、今号で 48 号を数えている。国内研究情報を集約した基本の研究雑誌として、外部からの評価は高い。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6215-04
（様式 1）

業務実績書

研究所 No65

中期計画の項目	6　情報発信機能の強化
プロジェクト名称	第 31 回文化財の保存・修復に関する国際研究集会報告書の刊行（(2)-①）

【事業概要】
文化財の保存・修復に関する国際研究集会（第 31 回）「文化財を取り巻く環境の調査と対策」報告書（英文）を刊行する。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	センター長　石﨑武志

【スタッフ】
佐野千絵、三浦定俊、犬塚将英、木川りか（以上、保存修復科学センター）

【主な成果】
文化財の保存・修復に関する国際研究集会（第 31 回）「文化財を取り巻く環境の調査と対策」報告書（英文）を刊行した（英文、A4 サイズ、フルカラー、約 200 ページ、印刷部数 500 部）。海外講演者 8 名、日本人講演者等 7 名　計 15 論文と会場での質疑応答、総合討議を掲載。会議出席者と国内外の関係機関へ配付した。

【年度実績概要】
下記の内容の報告書を刊行した。
Environmental changes and historic remains conservation: In case study of Buddhist cave-temples at Mogao Grottoes,Dunhuang,northwestern China
Lascaux cave (France): A difficult problem of conservation
A geotechnical study for conservation of the Muryong Royal Tomb of the Baekje Dynasty, Korea
Thermal and moisture characteristics of the Takamatsuzuka Tumulus mound and its cooling
Environmental monitoring as a decision making tool
The Lascaux cave: monitoring of microbiological activities
Microbiological issues in the conservation of mural paintings of Takamatsuzuka and Kitora tumuli in Japan Microbiological survey of the stone chambers of Takamatsuzuka and Kitora tumuli, Nara Prefecture,
Japan: a milestone in elucidating the cause of biodeterioration of mural paintings
Control of temperature and humidity surrounding the stone chamber of Takamatsuzuka Tumulus during its dismantlement
Geotechnical properties of Takamatsuzuka Tumulus and its stability
Integrated non-invasive techniques for the diagnosis and conservation of mural paintings and other pictorial works
Application of the hammering test and acoustic emission technique to stone cultural properties
Effect of climatic load on the material properties of the Humayun Sandstone
Prediction of mold fungus formation probability on critical building components in residential dwellings
The Lascaux cave and the climate change
Overall Discussions

【実績値】
文化財の保存・修復に関する国際研究集会報告書「文化財を取り巻く環境の調査と対策」(英文)
印刷部数　500 部
国際研究集会出席者、国内関係諸機関、海外専門研究機関へ配付

【備考】
1. 第 31 回文化財の保存・修復に関する国際研究集会「文化財を取り巻く環境の調査と対策」報告書の刊行　平成 21 年 3 月
2. 配布先リスト

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6215-04

自己点検評価調書

研究所 No65

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性	正確性	独創性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
壁画の現地保存における被害事例とその計測・評価、環境解析およびその対策事例を含む総合的な内容となった。環境計測、シミュレーション解析、微生物学的手法による解析など多岐にわたる研究手法を含み、当該分野で類を見ない充実した内容となった。特に高松塚古墳の事例について日本の専門研究者が多数執筆し、海外への情報発信を的確におこなっている点を評価した。

2．定量的評価

観点	印刷部数	印刷頁数	掲載論文数			
判定	A	A	A			

備考
当初予定に比べて、執筆者から提供された原稿が豊富で総頁数も増え、海外への情報発信のために印刷部数も見直して増やすなど、ニーズを読みとり適宜計画を変更し、より良い報告書刊行ができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	壁画の現地保存における被害事例とその計測・評価、環境解析およびその対策事例を含む総合的な内容に加え、イタリア、フランス、ドイツなど諸外国の取り組みをふんだんに盛り込み、特に壁画の保存計画策定について、有用な事例集を編纂できた。海外への情報発信の1成果として、今後の研究交流の礎になると期待する。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	単年度の事業であり、本年の予定を順調に達成した。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6215-05

（様式 1）

業務実績書

研究所 No66

中期計画の項目	6　情報発信機能の強化
プロジェクト名称	研究報告書、年報、研究論文集、図録等の刊行（(2)-①）

【事業概要】
文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を平成 17 年度の実績以上刊行する。

【担当部課】	奈良文化財研究所	【プロジェクト責任者】	所長　田辺征夫

【スタッフ】

【主な成果】
紀要等 2 点、ニュース 2 種 8 点、研究報告書・研究論文集 9 点、史料等 9 点、図録・カタログ 5 点、リーフレット 2 点、合計 35 点を刊行し、研究成果を順調に刊行できた

【年度実績概要】
（紀要など）『奈良文化財研究所紀要 2008』2008.6、3,000 部
『奈良文化財研究所概要 2008』2008.6、3,500 部
（ニュース）『奈文研ニュース』NO.29、2008.6、3,000 部、『奈文研ニュース』NO.30、2008.9、3,000 部
『奈文研ニュース』NO.31、2008.12、3,000 部『奈文研ニュース』NO.32、2009.3、3,000 部
『埋蔵文化財ニュース』NO.134(遺跡の保存整備のための事前調査法)、2008.12、3,500 部、
『埋蔵文化財ニュース』NO.135(年輪年代学と画像計測)、2009.3、3,500 部、
『埋蔵文化財ニュース』NO.136(標本リストー哺乳類編ー)、2009.3、3,500 部、
『埋蔵文化財ニュース』NO.137（埋蔵文化財関係統計資料)、2009.3、3,500 部
（研究報告書、研究論文集等）
『平安時代庭園に関する研究 2ー平成 19 年度古代庭園研究会報告書ー』）2008.10、300 部
『Hamlet Survey Report Duong Lam Village Ha Tay Province
Sosialist Republic of Viet Nam』2008.9、700 部
『平城宮第一次大極殿研究　基壇・礎石編』(奈文研学報第 79 冊)2009.2、600 部
『平城宮第一次大極殿研究　屋根編』(奈文研学報第 80 冊)2009.3、600 部
『近世瓦の研究』(奈文研学報第 78 冊)2009.3、500 部
『古代地方行政単位の成立と在地社会』(古代官衙・集落研究集会報告書)2009.1、1,000 部
『遺跡情報交換標準の研究 2』2009.2、2,700 部
『出雲大社境外社建造物調査報告書』2009.3、500 部
『遺跡の保存管理・公開活用と指定管理者制度ー平成 19 年度遺跡整備・活用研究集会(第 2 回)報告書ー』2008.11、800 部
（史料等）『平城宮出土陶硯集成Ⅱ』(奈文研史料第 80 冊)2009.3、600 部
『高松塚古墳フォトマップ資料集』(奈文研史料第 81 冊）2009.3、1,000 部
『飛鳥藤原京木簡 2　藤原京木簡 1 本文編』(奈文研史料第 82 冊）2009.3、600 部
『飛鳥藤原京木簡 2　藤原京木簡 1 図版編』(奈文研史料第 82 冊）2009.3、600 部
『興福寺典籍文書目録第 4 巻』(奈文研史料第 83 冊）2009.3、600 部
『山内清男資料　17』(奈文研史料第 84 冊）2009.3、700 部
『飛鳥藤原宮出土木簡概報 22』2008.11、1,000 部
『重要文化財建造物現状変更説明 1962ー1964』(本文編）2009.2、500 部
『重要文化財建造物現状変更説明 1962ー1964』(図版編）2009.2、500 部
（図録、カタログ等）
『キトラ古墳壁画ー子丑寅ー』2008.3、6,000 部
『まぼろしの唐代精華ー黄冶唐三彩窯の考古新発見ー』(飛鳥資料館図録第 49 冊）2008.10、4,000 部
『冬期企画展　飛鳥の考古学 2008』(飛鳥資料館カタログ第 20 冊)2009.2、2,000 部
『金属工芸史の研究』2009.3、600 部
『地下の正倉院展ー長屋王家木簡の世界ー』2008.10、10,000 部
（リーフレット）
『平城宮跡第一次大極殿院回廊の調査ー平城第 432･436 次調査ー』2008.9、2,000 部
『藤原宮朝堂院朝庭の調査(飛鳥藤原第 153 次調査現地説明会資料』2008.9、2000 部

【実績値】
新聞、雑誌等への寄稿および資料提供数、1,506 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6215-05

自己点検評価調書

研究所 No66

1．定性的評価

観点	適時性	継続性	正確性			
判定	A	A	A			

備考
適時性：調査研究の実施状況
継続性：紀要、ニュース等の継続発行
正確性：調査報告書のデータ

2．定量的評価

観点	紀要等刊行数	研究報告書、研究論文集刊行数	図録、史料等の刊行数	新聞、雑誌等への寄稿および情報提供数
判定	A	A	A	A

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	年次ごとの調査研究事業の報告である紀要等 2 点、ニュース 2 種 8 点、研究報告書・研究論文集 9 点、史料等 9 点、図録・カタログ 5 点、リーフレット 2 点、合計 35 点を刊行し、研究成果を順調に刊行できたことで A と判定した。次年度も、本年度にまして、多様な研究成果、特に継続的な調査研究の成果を、専門家だけでなく、一般向けにも分かりや水すい形での刊行に努めたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	紀要、ニュース、研究報告書、研究論文集、図録、史料などの刊行は順調に実施している。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6225-00
（様式 1）

業務実績書

研究所 No67

中期計画の項目	6　情報発信機能の強化
プロジェクト名称	第 32 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会（(2)-②）

【事業概要】
第 32 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会は「“オリジナル”の行方―文化財アーカイブ構築のために」をテーマに、企画情報部の担当で開催した。近年の複製技術やデジタル技術の目覚ましい革新など、アーカイブを取り巻く環境は激変している。そこで文化財とは何かという原点に立ち返りつつ、“オリジナル”という概念を軸として、文化財アーカイブはどうあるべきかという問題意識の共有化を図る国際研究集会を企画した。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	企画情報部長　田中　淳

【スタッフ】
中野照男（副所長）、勝木言一郎、山梨絵美子、津田徹英、綿田　稔、皿井　舞、江村知子（以上、企画情報部）、相澤正彦、森下正昭（以上、客員研究員）

【主な成果】
2008（平成 20）年 12 月 6～8 日の三日間にわたり、東京国立博物館平成館大講堂にて開催。のべ 281 名の参加者があった。なおこの研究集会の関連企画として、2008 年 10 月 9 日から 12 月 25 日まで東京国立博物館黒田記念館にて「湖畔 VS 湖畔」と題し、現代美術家の福田美蘭氏による《湖畔》を黒田清輝の《湖畔》と対峙させて展示を行った。

【年度実績概要】
プログラムは以下の通り。
基調講演　　モノより思い出、思い出よりモノ　塩谷純
セッション 1：モノ／“オリジナル”と対峙する
二点の中国古書蹟における光学調査　何傳馨（國立故宮博物院）
室町時代狩野派扇面画の“オリジナル”―宋画との関連―　マシュー・P・マッケルウェイ（コロンビア大学）
肉筆浮世絵と浮世絵版画―浮世絵研究者にとってのオリジナル―　浅野秀剛（大和文華館）
写真―オリジナルという認識の共有　岡塚章子（江戸東京博物館）
現代美術とオリジナル　松本透（東京国立近代美術館）
セッション討議　司会：相澤正彦（成城大学）・山梨絵美子
セッション 2：モノの彼方の“オリジナル”
「おじいさんの斧」：日本文化史におけるオーセンティシティと再生―宇治橋を例に―　タイモン・スクリーチ（ロンドン大学 SOAS）
『諸説不同記』と「現図」胎蔵曼荼羅　津田徹英
燈明寺（東明寺）「六」観音像をさぐる　シェリー・ファウラー（カンザス大学）
古典芸能の伝承と変遷―人形浄瑠璃文楽の場合―　飯島満
雪舟というオリジナルな存在―作家論の功罪―　綿田稔
仏像の修理・修復―サンフランシスコ・アジア美術館の脱活乾漆像をめぐって―　皿井舞
更新のオーセンティシティ―木造建築におけるオリジナル―　清水重敦（奈良文化財研究所）
セッション討議　司会：勝木言一郎・森下正昭
基調講演　オリジナルとその保存―文化財アーカイブの可能性と限界―　加藤哲弘（関西学院大学）
セッション 3：“オリジナル”を伝えること
鼎談　敦煌文書とアーカイブ　赤尾栄慶（京都国立博物館）・マーク・バーナード（大英図書館）・中野照男
サー・ロバート・ウィット・ライブラリーと矢代幸雄の美術研究所構想　山梨絵美子
遊興文化の残映―彦根屏風の光学調査と情報化―　江村知子
屋外彫刻調査保存研究会の活動について　田中修二(大分大学)
総合討議　司会：佐野みどり(学習院大学)・田中淳

【実績値】
海外から招へいの発表者 5 名
国内から招へいの発表者・司会者 8 名

【備考】
第 32 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会　“オリジナル”の行方―文化財アーカイブ構築のために』（予稿集）　400 部

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6225-00

自己点検評価調書

研究所 No67

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点	開催回数	印刷物数				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	日本・東洋の美術を中心としながら、西洋の美学や現代美術、無形文化財をも視野に入れ、とくに文化財アーカイブの立場から“オリジナル”をとらえようとするテーマ設定には、多くの関心が寄せられ、フロアも交えた活発な議論が行われた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	いずれも高い水準で実施でき、順調と判断した。なお各発表・討議の内容の詳細については次年度に報告書を刊行する予定である。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6225-01
（様式 1）

業務実績書

研究所 No68

中期計画の項目	6　情報発信機能の強化
プロジェクト名称	平成 20 年度オープンレクチャー（(2)-②）

【事業概要】
企画情報部の美術史研究の成果を一般に公表することを目的とする。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	企画情報部長　田中　淳

【スタッフ】
山梨絵美子、勝木言一郎、津田徹英、塩谷　純、綿田　稔、皿井　舞、江村知子、土屋貴裕（以上、企画情報部）

【主な成果】
平成 20 年度に第 42 回企画情報部オープンレクチャー「人とモノの力学」と題して 4 講演を 2 日間にわたり開催した（参加者数：277 人、アンケートによる満足度：90％（回収率：68％）。

【年度実績概要】
企画情報部では、研究成果を広く公表するために公開学術講座を毎年秋に開催しており、本年で 42 回目を迎えた。昨年度同様、今年度も金曜日と土曜日の午後、2 日間連続で開講し、聴講者の便宜を図るように努めた。今回も昨年度に引き続き「人とモノの力学」をテーマに掲げた。個々の講演内容は以下の通りである。なお、この講座は、上野の山文化ゾーン連絡協議会が主催して毎年秋に開く「上野の山文化ゾーンフェスティバル」の講演会シリーズのプログラムとしても企画されている。
今回は 2 日間でのべ 277 人の参加があり、参加者にアンケートを実施したところ、191 人から回答を得た（回収率：68％）。結果は、「たいへん満足した」64 人、「おおむね満足した」91 人、「普通だった」13 人、「不満が残った」3 人、回答者の 91％が満足感を得たことがわかった。

第 1 日：2008 年 10 月 3 日（金）午後 1:30～4:30、東京文化財研究所セミナー室
「鬼子母神の源流をたずねる」勝木言一郎（東京文化財研究所）
「クチャ地域の石窟に描かれた供養者像とその信仰について」中川原育子（名古屋大学）
第 2 日目：2008 年 10 月 4 日（土）午後 1:30～4:30、東京文化財研究所セミナー室
「写真のなかの芸術家たち―黒田清輝を中心に」田中淳（東京文化財研究所）
「明治 10 年・西南戦争と上野公園地図」青木茂（文星芸術大学）

【実績値】
参加者数：277 人
満足度　：90％（回収率 68％）

【備考】
アンケート集計表

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6225-01
（様式 2）

自己点検評価調書

研究所 No68

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2．定量的評価

観点	参加者数	満足度				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財に関する調査・研究に基づく成果・新発見を、時宜に適応しながら、公表することができ、その参加者数も満足度も目標値を満たしたので、Ａと判断した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	当初の計画通り、進捗した。次年度以降も文化財に関する調査・研究に基づく成果・新発見を、公開講演というかたちで開催していきたい。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6225-02

（様式 1）

業務実績書

研究所 No69

中期計画の項目	6　情報発信機能の強化
プロジェクト名称	公開講演会、現地説明会等の開催（(2)-②）

【事業概要】
文化財に関する調査・研究に基づく成果について、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。

【担当部課】	管理部文化財情報課、 管理部業務課	【プロジェクト責任者】	文化財情報課長　平石憲良 業務課長　東　博信

【スタッフ】
永井あつ子、桑原隆佳、今西康益、飯田信男、石田義則、三本松俊徳［以上、管理部］

【主な成果】
研究所が行う調査研究を適時適切に国民に公表するため、公開講演会を２回、飛鳥資料館特別講演会を１回、計３回の公開講演会等を開催した。また、発掘調査に伴う現地説明会等を平城地区、飛鳥藤原地区あわせて計５回実施した。
参加延べ人数は、公開講演会等が 520 名、現地説明会等が 5,064 名に上り、開催回数、参加者数ともに従来の水準を維持し順調に事業が実施できた。

【年度実績概要】
Ⅰ．公開講演会等
1．第 102 回公開講演会 平成 20 年 6 月 28 日（土） 参加者数 220 人
演題・講演者「平城宮跡国営公園化のこと」　奈良文化財研究所長　田辺 征夫
「西大寺食堂院の井戸と古代」　都城発掘調査部　大林 潤
「造形意識の変革－霊廟建築に見る装飾意匠とその手法」　建造物研究室長　窪寺 茂
ｱﾝｹｰﾄ結果= 回収数 147 人・回収率 66.8%満足度Ａ=146 人（99.3%）/Ｂ=1 人（0.7%）/Ｃ=0 人（0%）
2．第 103 回公開講演会 平成 20 年 10 月 25 日（土） 参加者数 220 人
演題・講演者「復原大極殿の棟飾りについて」　奈良文化財研究所長　田辺 征夫
「平城宮とその周辺の先史時代」　都城発掘調査部　森川 実
「洋風庭園と日本近代」　文化遺産部　粟野 隆
ｱﾝｹｰﾄ結果= 回収数 147 人・回収率 66.8%満足度Ａ=147 人（100%）/Ｂ=0 人（0%）/Ｃ=0 人（0%）
3．飛鳥資料館特別講演会「河南黄冶唐三彩窯の考古新発見」 平成 20 年 10 月 18 日（土） 参加者数 80 人
演題・講演者「唐三彩の生産と供給」　京都橘大学教授　巽 淳一郎
「鞏義黄冶窯とその他唐三彩窯の異同」　河南省文物考古研究所長　孫 新民
「唐青花の起源と発展」　中国文化遺産研究院　劉 蘭華
「鞏義黄冶窯の考古新収穫」　河南省文物考古研究所　郭 大森

Ⅱ．発掘調査現地説明会等
1．平城第 431 次（中央区第 1 次大極殿院）発掘調査　平成 20 年 6 月 7 日（土）
参加者数　807 人　報告者　森川 実　調査面積　630 ㎡
ｱﾝｹｰﾄ結果=回収数 283 人・回収 35.1% 満足度Ａ=153 人（54.1%）/Ｂ=127 人（44.9%）/Ｃ=3 人（1.0%）
2．飛鳥藤原第 153 次（朝堂院朝庭部） 発掘調査の現場公開　平成 20 年 6 月 30 日（月）～7 月 2 日（水）
参加者数　965 人　調査面積　約 1,650 ㎡
3．飛鳥藤原第 153 次（藤原宮朝堂院朝庭）発掘調査　平成 20 年 9 月 27 日（土）
参加者数　953 人　報告者　小田 裕樹　調査面積　約 1,650 ㎡
ｱﾝｹｰﾄ結果=回収数 270 人・回収率 28.3 % 満足度Ａ=180 人（66.7%）/Ｂ=90 人（33.3%）/Ｃ=0 人（0%）
4．平城第 432 次・436 次（第 1 次大極殿院西面回廊）発掘調査　平成 20 年 9 月 28 日（日）
参加者数　728 人　報告者　和田 一之輔　調査面積　936 ㎡（432）、880 ㎡（436）
ｱﾝｹｰﾄ結果=回収数 244 人・回収率 33.5%満足度Ａ=161 人（ 66.0%）/Ｂ=80 人（32.8%）/Ｃ=3 人（1.2%）
5．飛鳥藤原第 156 次（石神遺跡第 21 次） 発掘調査　平成 21 年 2 月 14 日（土）
参加者数　1,611 人　報告者　青木 敬　調査面積　480 ㎡
ｱﾝｹｰﾄ結果=回収数 263 人・回収率 16.3%満足度Ａ=178 人（67.7%）/Ｂ=82 人（31.2%）/Ｃ=3 人（1.1%）

【実績値】
Ⅰ 公開講演会等 年 3 回：参加者延数 520 人　回収数 294 人・回収率 66.8%：
Ａ大変満足である：293 人（99.7%）/Ｂおおむね満足である：1 人（0.3%）
/Ｃあまり満足でない：0 人（0 %）
Ⅱ 発掘調査現地説明会等　年 5 回：参加者延数 5,064 人
内ｱﾝｹｰﾄ実施回数 4 回：参加者延数 4,099 人　回収 1,060 人　回収率 25.9%：
Ａ大変満足である：672 人（63.4%）/Ｂおおむね満足である：379 人（35.8%）
/Ｃあまり満足でない： 9 人（0.8%）


飛鳥藤原第 153 次発掘調査現説風景

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6225-02
(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No69

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
判定	A	A	A	A		

備考
適時性：発掘調査等研究成果の適時適切な公開
独創性：公開内容の新規性及び卓越性
発展性：遺跡等の重要性の確認と社会への影響性
継続性：研究成果の継続的な社会還元

2．定量的評価

観点	開催回数	参加者数	参加者満足度			
判定	A	A	A			

備考
開催回数
公開講演会：年 3 回、現地説明会等：年 5 回
参加者数
公開講演会：年延 350 人以上、現地説明会：年延 3,000 人以上
参加者満足度
現地説明会：80%以上

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	公開講演会については、年 3 回実施し、発掘調査現地説明会等については、5 回実施し、いずれも多数の参加者があった。これらの参加者に対し行ったアンケートでは、公開講演会で 100%、発掘調査現地説明会等で 99．2%の「大変満足である」、「おおむね満足である」という結果を得ている。 これらの結果を総合的に判断して、Ａと認めたものである。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	公開講演会、現地説明会等の開催事業は、開催回数、参加者数ともに、従来の水準を維持し、順調に実施できたと考える。 今後もこのペースを維持しつつ、調査研究の成果に基づく講演、現地説明会等の内容及び配付資料の充実、アンケート調査による参加者ニーズの把握等に力を注ぎ、さらに参加者数の増加と満足度の向上に努めたい。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6235-00
（様式 1）

業務実績書

研究所 No70

中期計画の項目	6　情報発信機能の強化
プロジェクト名称	ホームページの運用((2)-③)

【事業概要】
研究所の研究・業務等を広報するためホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数を前期中期計画期間の年度平均以上確保する。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	情報システム研究室長　勝木言一郎

【スタッフ】
綿田　稔,江村知子,中村明子（以上、企画情報部）,横山隆史（管理部 LAN 委員）,俵木　悟（無形文化財部 LAN 委員）,吉田直人,加藤雅人（以上、保存修復科学センターLAN 委員）,二神葉子（文化遺産国際協力センターLAN 委員）

【主な成果】
キッズページの試作、メールマガジン導入の準備など、ホームページの内容の充実を図り、研究所がもつ情報発信機能の向上に努めた。

【年度実績概要】
1. ホームページの運用
東京文化財研究所のホームページは、研究所における情報発信機能の一翼を担う重要なメディアであり、また文化財研究のデジタル・アーカイブとしての役割を果たす。とくに平成 20 年度はキッズページの試作、メールマガジン導入の準備など、ホームページの内容の充実を図った。
平成 20 年度のホームページアクセス件数は 1,405,278 件であった。

【実績値】
ホームページアクセス件数：1,405,278 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6235-00

自己点検評価調書

研究所 No70

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	ホームページアクセス件数					
判定	A					
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	ホームページの運用については、ホームページアクセス件数の高さから、適時性、独創性、発展性、効率性、継続性、正確性の向上を裏付ける結果だと判断した。したがって実績の総合評価も十分な成果が認められると結論した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	ホームページの運用については、ホームページが研究所の広報活動の一翼を担うとともに、かつ文化財研究のデジタル・アーカイブとして多角的な情報発信を行ってきたことがホームページアクセス件数からも裏付けられた。こうした実績から、当年度における中期計画の実施状況は順調であると判断した。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6235-01
（様式 1）

業務実績書

研究所 No71

中期計画の項目	6 情報発信機能の強化
プロジェクト名称	ホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数の前期中期計画期間の年度平均以上の確保（(2)-③）

【事業概要】
研究所の事業・研究成果をはじめ、施設・案内など様々な広報をしているホームページであり、常に拡充を図っている。社会への広報の目安となるアクセス件数を把握し、より一層の情報提供に努める。

【担当部課】	管理部文化財情報課	【プロジェクト責任者】	文化財情報課長　平石憲良

【スタッフ】
太田 仁［管理部］ ほか 1 名

【主な成果】
サーバを更新し、各コンテンツへのアクセススピードを向上させるとともに更新回数も増加させ、情報発信に努めた。

【年度実績概要】
ホームページは研究所の事業・研究成果を広報する重要なメディアであるが、本研究所では共同通信社の提供する文化財関係のニュースを流すなど多角的な情報発信を続けている。記者発表・発掘現場説明会・公開講演会をはじめとする所内の情報についても、最新の情報を提供している。20 年度はサーバを更新し、アクセススピードも向上させた。

【実績値】
ホームページアクセス件数：701,711 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6235-01

自己点検評価調書

研究所 No71

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	継続性	正確性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2．定量的評価

観点	ホームページアクセス件数					
判定	A					
備考 前中期計画中の平均ホームページアクセス件数 ： 368,000 件						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	ホームページによる記者発表・現場説明会の案内等の多角的な情報発信は前中期の平均アクセス数を大きく上回っているので充分に行なえたと考えるが、多少減少傾向になっている。次年度以降はインターネットの利用状況を調べ直し、適切な情報発信を行いたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本研究所のホームページはコンスタントにアクセスされ続けており、公開データベースを含めて精度の高い情報を提供できたと考えられる。この実績から今年度の中期計画の実施状況は順調と判断した。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6305-00
（様式 1）

業務実績書

研究所 No72

中期計画の項目	6　情報発信機能の強化
プロジェクト名称	黒田記念館における作品の展示公開（(3)）

【事業概要】
当研究所は、黒田清輝の芸術を顕彰するために黒田記念館において作品や資料、研究成果を公開するとともに、地方文化の振興に資するために、昭和 52 年からの事業として「近代日本洋画の巨匠　黒田清輝」展を年 1 回地方において共催している。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	近・現代視覚芸術研究室長　山梨絵美子

【スタッフ】
田中　淳、塩谷　純、綿田　稔、皿井　舞（以上、企画情報部）

【主な成果】
一般公開入場者　19,038 人
「写された黒田清輝Ⅱ」（黒田記念館二階展示室、09.3.19-7.9）
「近代洋画の巨匠　黒田清輝展」（神戸市立小磯記念美術館、08.7-19-8.31）入場者　18,757 人

【年度実績概要】
①一般公開（無料）：毎週木・土曜日　午後 1 時～4 時、特別公開：2008（平成 20）年 10 月 29 日～11 月 3 日、入場者数　19038 人（2008 年 4 月 3 日～3 月 28 日）
なお、黒田記念室のパンフレット（A4 サイズ、三つ折）を作成し、来館者に無料で配布した。
また、記念館 2 階の展示室を会場に、「特集展示　写された黒田清輝Ⅱ」と題して、平成 18、19 年度に遺族から寄贈をうけた黒田清輝関係写真等から 27 点を選び、原寸大に複製した画像を展示公開した（会期：2009 年 3 月 19 日～7 月 9 日）。また、国際シンポジウムとの関連で、黒田清輝「湖畔」と福田美蘭の同作品を基にした「湖畔」を展示する「湖畔ＶＳ湖畔」を開催した（08.10.9～12.26）。
②2009 年 2 月 12 日から 3 月 21 日まで、来館者にアンケートを実施した。2,246 人の来館者に対して、312 人から回答を得た（来館者数の 13.89%）。回答は、「満足した」及び「おおむね満足した」97.43%、「不満が残った」6 人（1.6%）、その他であり、アンケート回答の 97.43%が満足感を得たことになる。
③平成 20 年度地方共催展は下記のように開催した。
会場：神戸市立小磯良平記念美術館、会期：2007（平成 19）年 7 月 19 日（土）～8 月 31 日（日）
主催：東京国立博物館、東京文化財研究所、神戸市立小磯良平記念美術館、神戸新聞社
開催日数：38 日、　入場者：18,757 人　陳列点数：油彩・パステル画 85 点、素描 62 点、写生帖 17 冊、書簡 4 通、日記 5 冊、参考出品 2 点、記録写真 16 点（以上、黒田記念館所蔵作品）　図録：A4 版変形、182 ページ
会期中の 2008（平成 20）年 7 月 27 日（日）、会場出口において来館者にアンケート調査を実施し、161 人から回答を得た（入館者数 279 人に対して、回収率 57,7%）。満足度として「満足」、「おおむね満足」の回答が、100%をしめた。
④作品貸与：2 件 8 点
黒田清輝「編物」「残雪」「昔語り下絵（構図Ⅱ）」（以上油彩画）：「明治の洋画」展（茨城県近代美術館、08.8.2－9.23）1 件 3 点
満谷国四郎「提灯」「娘習作」「娘習作」（以上油彩）、「人物」「写生帖」（以上素描）：「五姓田のすべて―近代絵画への架け橋」展（神奈川県立歴史博物館　08.8.9－9.28）1 件 5 点

【実績値】
黒田記念館　アンケート、同集計表　入場者の満足度：97.4%
共催展：　入場者　18757 人　入場者の満足度：100%
作品貸与件数：2 件 8 点

【備考】
黒田記念館　アンケート、同集計表
共催展　アンケート集計表
「特集陳列　写された黒田清輝Ⅱ」パンフレット

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6305-00
（様式 2）

自己点検評価調書

研究所 No72

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性	正確性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2．定量的評価

観点	黒田記念館 入館者数	同記念館 入館者満足度	共催展 入場者数	同入場者 満足度	作品貸与数	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	黒田記念館の公開、共催展開催、作品の貸与、および黒田記念館における研究展示ともに順調に行うことができた。今年度は、国際シンポジウムとの関連企画として「湖畔ＶＳ湖畔」の展示も行われ、研究と展示公開との結びつきを強めることができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	中期計画に従って事業を進めることができた。今後も、建物と作品および調査研究が一体化した展示公開を目指していきたい。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6305-01
（様式 1）

業務実績書

研究所 No73

中期計画の項目	6　情報発信機能の強化
プロジェクト名称	平城宮跡資料館における展示公開（「平城遷都 1300 年記念事業」と一体で実施） ((3)(5))

【事業概要】
平城宮跡資料館において、常設展、速報展等を実施する。

【担当部課】	企画調整部	【プロジェクト責任者】	企画調整部長　小林謙一

【スタッフ】
千田剛道［企画調整部］、桑原隆佳［管理部］

【主な成果】
平城宮跡資料館において常設展及び速報展等を実施し、調査研究の成果の公開に努め、好評を博した。

【年度実績概要】
展示：平城宮跡資料館において、常設展、速報展等を開催した。常設展は通年開催し、速報展等は以下の 3 件開催した。
○特別企画展「地下の正倉院展－長屋王家木簡の世界－」(2008.10.21 日(火)～11.30(日))
1988 年に出土した平城京三条三坊にあたる長屋王家木簡約 60 点を展示した。
○発掘速報展「平城宮跡東院地区中枢部の調査(平城第 423 次)」(2008.4.22 日(火)～5.25(日))
平城宮跡東院地区中枢部の調査(平城第 423 次)について、現地説明会(平成 20 年 1 月 19 日)以降の調査検討の成果を含めて写真パネル、図面、土器、瓦などを展示した。
○発掘速報展「平城宮東方官衙地区の調査(平城第 429 次)」(2008.7.1(火)～8.31(日))
平城宮東方官衙地区の調査(平城第 429 次)について、現地説明会(平成 20 年 3 月 30 日)以降の成果について、写真パネル、図面、唐草文鬼瓦や、灯明皿などの出土品、木簡写真などを展示した。
アンケート：平城宮跡資料館において、入館者に対するアンケート調査を行った。
アンケート実施期間　2008 年 10 月 21 日(火)～11 月 30 日(日)
アンケート回収率

入館者数	回収数	回収率
13,723 名	320 名	2.33%

常設展に対する満足度

入館者数	回収数	回収率	満足度(普通以上)
13,723 名	320 名	2.33%	94.7%

詳細：とても良い　かなり良い　普通　あまり良くない　まったく良くない　無回答
35.0%　41.6%　18.1%　1.3%　3.1%　0.9%
特別企画展「地下の正倉院展－長屋王家木簡の世界」に対する満足度

入館者数	回収数	回収率	満足度(普通以上)
13,723 名	320 名	2.33%	90.0%

詳細：とても良い　かなり良い　普通　あまり良くない　まったく良くない　無回答
38.1%　31.0%　20.9%　2.8%　2.8%　4.4%

【実績値】

平成 20 年度の入館者数	入館者の満足度	公開日数	展示品貸し出し件数
92,597　人	94.7%	308 日	20 件

【備考】
展示に因んでカタログを作成した。
特別企画展『地下の正倉院展－長屋王家木簡の世界』2008.10

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6305-01

自己点検評価調書

研究所 No73

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性			
判定	A	A	A			
備考						

2．定量的評価

観点	入館者数	入館者の満足度				
判定	A	A				
備考 年間入館者数　92,597 名（目標：72,500 名）						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	展示内容及び発掘速報展、特別企画展の実施などの順調な開催を評価し、Ａと判定した。次年度は、平城宮跡資料館の改装及び展示のリニューアルを予定しており、展示の一層の充実にむけて努力したい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	常設展、速報展ともに順調に開催できた。特に速報展では、各発掘現場の現地説明会以後の調査成果をもりこんだ展示を意図している。また、長屋王家木簡について、特別企画展として、通常は、資料保存のため展示をひかえている木簡現物を制限付きながら公開でき、観覧者から好評を博したことも特筆される。次年度には平城宮跡資料館の改装及び展示のリニューアルを予定しており、調査研究の速報的な公開など、展示の一層の充実にむけて努力したい。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6305-02
（様式 1）

業務実績書

研究所 No74

中期計画の項目	6　情報発信機能の強化
プロジェクト名称	飛鳥資料館における展示公開（(3)）

【事業概要】
飛鳥資料館において特別展を春秋の 2 回開催するとともに、企画展を開催する。春期特別展ではキトラ古墳壁画の特別公開を合わせて行う。平常展示においては第一・第二展示室の展示の維持管理を行うとともに、展示の手直しを適宜行った。

【担当部課】	飛鳥資料館	【プロジェクト責任者】	学芸室長　杉山　洋

【スタッフ】
加藤真二、西田紀子［以上、飛鳥資料館］

【主な成果】
春期特別展 「キトラ古墳壁画十二支―子・丑・寅―」を 4 月 18 日から 6 月 22 日まで開催し、期間中の 5 月 9 日から 5 月 25 日までキトラ古墳壁画特別公開を合わせて行い、獣頭人身像子丑寅を展示した。 会期中の 5 月 17 日には記念講演会「キトラ古墳の壁画をめぐる諸問題」を開催した。夏期企画展示は「飛鳥古寺巡礼」を 8 月 1 日から 8 月 31 日まで開催した。秋期特別展は「まぼろしの唐代精華　黄冶三彩窯の考古新発見」を 10 月 17 日から 12 月 7 日まで開催し、期間中の 10 月 18 日に、平城宮跡資料館においてシンポジウム「河南黄冶唐三彩窯の考古新発見」を行った。冬季企画展は例年通り「飛鳥の考古学 2008－平成 19 年度の発掘調査の成果からー」を 2 月 3 日から 3 月 1 日まで開催した。

【年度実績概要】
春期特別展 「キトラ古墳壁画十二支―子・丑・寅―」を 4 月 18 日から 6 月 22 日まで開催した。獣頭人身十二支俑、康君墓誌蓋、韓国金庾信墓十二支浮き彫り拓本等を展示した。期間中の 5 月 9 日から 5 月 25 日までキトラ古墳壁画特別公開を合わせて行い。今回は獣頭人身像子丑寅を展示した。 会期中の 5 月 17 日には記念講演会「キトラ古墳の壁画をめぐる諸問題」を開催した。

夏期企画展示としては「飛鳥古寺巡礼」を 8 月 1 日から 8 月 31 日まで開催した。飛鳥の古寺の現在を新たに写真と発掘調査の成果を交えた展示を行った。

秋期特別展は「まぼろしの唐代精華　黄冶三彩窯の考古新発見」は 10 月 17 日から 12 月 7 日まで開催した。研究所が中国河南省と行ってきた共同研究の成果である、中国でも屈指の唐三彩窯である黄冶窯跡の研究成果を中心に、出土品 90 点を借用して展示を行った。期間中の 10 月 18 日に、平城宮跡資料館においてシンポジウム「河南黄冶唐三彩窯の考古新発見」を行った。日本側からは巽淳一郎氏（京都橘大学教授）、中国側からは孫新民氏（河南省文物考古研究所長）、郭木森氏（河南省文物考古研究所館員）、劉蘭華氏（中国文化遺産研究院研究員）による講演を行った。

冬季企画展は例年通り「飛鳥の考古学 2008－平成 19 年度の発掘調査の成果からー」を 2 月 3 日から 3 月 1 日まで開催した。昨年調査した石神遺跡、真弓鑵子塚古墳、竹田遺跡、檜隈寺跡、島庄遺跡出土品などを展示した。


キトラ古墳壁画
獣頭人身像　寅

【実績値】
刊行図書：4冊
講演会　：2回
年間総入館者数：84,608名　　特別展入館者数：68,366名

【備考】
春期特別展図録「キトラ古墳壁画十二支子丑寅」
夏期企画展パンフレット「飛鳥古寺巡礼」
秋期特別展図録「河南黄冶唐三彩窯の考古新発見」
冬期企画展「飛鳥の考古学 2008－平成 19 年度の発掘調査の成果からー」

春期特別展　記念講演会「キトラ古墳の壁画をめぐる諸問題」5 月 17 日
秋期特別展　記念シンポジウム「河南黄冶唐三彩窯の考古新発見」10 月 18 日

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6305-02

自己点検評価調書

研究所 No74

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	正確性			
判定	A	A	A			

備考
適時性：需要・必要性、公共性、国際性、緊急性、公開性
独創性：オリジナリティ、発想・着想、新規性、卓越性
正確性：数値・データ、達成値、網羅性

2．定量的評価

観点	論文等数	発表件数	入館者数			
判定	A	A	A			

備考
特別展図録：4 冊
講演会　　：2 回
年間入館者数：84,608 名（目標：55,400 名）

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	展覧会を春夏秋冬の4回開催し、展示図録等も順調に刊行することができた。講演会は2回開催し、そのうちの秋期の1回はシンポジウム形式とし、より来聴者への訴求度を増したと評価できる。定量的にも目標とする入館者数を大きく上回っている。こうした進捗状況を総合的に判定してＡとした。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本年度の計画を当初の予定どおり遂行したことから、当事者は順調であると判定した。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6305-03
（様式 1）

業務実績書

研究所 No75

中期計画の項目	6　情報発信機能の強化
プロジェクト名称	藤原宮跡資料室における展示公開（(3)）

【事業概要】
都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）に併設された藤原宮跡資料室およびエントランスにおいて、常設展示、発掘調査成果の速報展示などを実施し、展示公開の充実をはかる。

【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部長　松村恵司

【スタッフ】
豊島直博、廣瀬　覚、青木　敬、木村理恵、玉田芳英、小田裕樹、丹羽崇史、関広尚世、若杉智宏、次山　淳、中川あや、高田貫太、石田由紀子、箱崎和久、黒坂貴裕、番　光、市　大樹、降幡順子［以上、都城発掘調査部］、井上直夫、岡田　愛［以上、企画調整部］

【主な成果】
藤原宮跡資料室において、常設展示、発掘調査成果の速報展示などを通年で実施し、展示公開の充実が図られた。エントランス部分では、発掘調査成果を速やかに公開するため速報コーナーを設け継続して多様な調査成果を公開した。併せて、展示のための資料制作、各地の博物館等への出陳も行った。

【年度実績概要】
都城発掘調査部飛鳥・藤原地区庁舎に併設された藤原宮跡資料室において、通年にわたり常設展示を実施した。また、申請のあった団体等へは展示説明、藤原宮跡、発掘調査現場の案内等の応対をした。
エントランス部分では、発掘調査成果を速やかに公開するための速報コーナーを設け、藤原宮大極殿院南門出土地鎮具（2008 年 3 月 18 日～2008 年 4 月 18 日）、藤原宮大極殿院南門（第 148 次）、甘樫丘東麓遺跡（第 151 次）、藤原宮朝堂院朝庭部（第 153 次）の速報展示を実施した。また、保存処理の終了した石神遺跡（第 19 次）出土敷葉工法遺構の切り取り資料、キトラ古墳石室石材の展示・公開を実施した。
地方公共団体の博物館等の求めに応じ、各種展覧会への保管遺物並びに模型・模造品等の出陳、保管遺物のレプリカ作製を行った。

【実績値】
平成 20 年度の入室者数 4,423 人、開室日 242 日、各種団体等への展示説明 11 件、遺物等貸し出し等件数 11 件、レプリカ作製依頼 1 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6305-03

自己点検評価調書

研究所 No75

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	継続性	発展性		
判定	A	A	A	A		

備考
適時性：発掘調査・研究成果の速やかな公開
独創性：展示公開のための出土遺物・遺構の保存修復作業
継続性：常設展示及び速報展示の恒常化
発展性：速報展示における展示方法、内容の工夫

2．定量的評価

観点	入室者数					
判定	A					

備考
年間入室者数：4,423 名（目標：3,800 名）

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	常設展示とともに、エントランスでの速報展示コーナーが定着し、調査成果公開の速報性がより高まった。入室者数も適切であり、総合的にＡと判断した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	速報展示等も、充実した内容のもとに継続的に実施されており、順調と判断した。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6405-00

（様式 1）

業務実績書

研究所 No76

中期計画の項目	6　情報発信機能の強化
プロジェクト名称	文化庁平城宮跡等管理事務所との連絡調整及び連携協力（(4)）

【事業概要】

文化庁平城宮跡等管理事務所の運営に対する積極的協力を以下のとおり実施する。

○施設の公開・利用等に係る連絡調整及び連携協力

○各種行事、発掘調査等の連絡調整

○修繕等に係る相談、状況の把握、等

【担当部課】	管理部業務課	【プロジェクト責任者】	業務課長　東　博信

【スタッフ】

今西康益、飯田信男、志野愛由美、三本松俊徳、松本正典［以上、管理部］

【主な成果】

◇平城宮跡及び飛鳥・藤原宮跡における文化庁平城宮跡等管理事務所の運営に対し、積極的な協力を行った。

◇平城宮跡、藤原宮跡の維持管理のために、宮跡地内の草刈・植栽業務等を次のとおり実施した。

○平城宮跡〔対象面積：915,150 ㎡〕

○藤原宮跡〔対象面積：257,840 ㎡〕

【年度実績概要】

◇平城宮跡及び飛鳥・藤原宮跡における文化庁平城宮跡等管理事務所の運営に対し、積極的な協力を行った。

○宮跡利用申込みに対する連絡及び申込者との打合せ

○各種行事、発掘調査等に係る連絡調整

○大極殿の特別公開、平城宮跡の国営公園化、平城遷都 1300 年記念事業等の公開・活用事業に対する協力・支援

○宮跡内建物、工作物等の修繕に当たり、状況の把握、文化庁・業者との連絡調整、現場監理等

・平城宮跡内東院庭園池循環設備修理

・平城宮跡内グレーチング設置工事

・平城宮跡内松枯処分

○住民等からの苦情対応・取次ぎ

・宮跡内水路、道路等の修理改善等

・アレルギー発生対応

・蜂の巣駆除

○平城宮跡内禁止行為への対応・異状報告

・平城宮跡内火災対応

○所轄消防署との連絡調整

○溝蓋盗難・強盗事件捜査協力のための警察署との打合せ

◇平城宮跡、藤原宮跡の維持管理のために、宮跡地内の草刈・植栽業務等を次のとおり実施した。

○平城宮跡〔対象面積：915,150 ㎡〕

・草刈り等（芝、雑草、草花類）

実施時期：4～11 月　作業員：6 名(うち派遣 3 名)

作業回数：1～6 回(整備エリアによって作業回数が異なる)

・植栽等（表示、景観樹木類）

実施時期：12～3 月　作業員：6 名(うち派遣 3 名)

作業回数：1～6 回(整備エリアによって作業回数が異なる)

・その他

側溝等工作物清掃維持、害虫駆除

○藤原宮跡〔対象面積：257,840 ㎡〕

・草刈り等（芝、雑草、草花類）

実施時期：4～11 月　作業員：3 名(＋外部委託)

作業回数：1～2 回(整備エリアによって作業回数が異なる)

・植栽等（表示、景観樹木類）

実施時期：12～3 月　作業員：3 名(＋外部委託)　　作業回数：1 回

・その他

耕作物用水路等隣接部清掃維持、側溝等工作物清掃維持、害虫駆除

【実績値】

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6405-00

自己点検評価調書

研究所 No76

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
判定	A	A	A	A		

備考
適時性：緊急性の高い連絡・修繕相談等へ適時に対応
独創性：宮跡内建物、工作物等の維持管理に寄与
発展性：専門知識を生かした協力による人的投資上の効率性
継続性：需要に応じた継続的な連携協力体制

2．定量的評価

観点						
判定						

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	平城宮跡・藤原宮跡等の公開・活用に必要な準備等に積極的に協力し、また、平城宮跡等において発生する緊急性の高い連絡等に、良く対応している。 さらに、平城宮跡国営公園化や平城遷都 1300 年祭記念事業の実施に伴う専門的支援を行っており、これら事業の推進に伴う文化庁等からの相談等に良く対応している。 これら実績から、Ａとしたものである。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	施設の公開・利用等の連絡、各種行事・工事・発掘調査の連絡、修繕相談・状況の把握等、各業務について積極的に協力できた。 特に、修繕相談等は、緊急性の高い場合が多かったが、適時・的確に対応できた。 なお、今後、平城宮跡国営公園化や平城遷都 1300 年祭記念事業の実施に伴い、平城宮跡等の管理の協力・支援のあり方について検討する。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6405-01
（様式 1）

業務実績書

研究所 No77

中期計画の項目	6　情報発信機能の強化
プロジェクト名称	平城宮跡解説ボランティア事業の運営（(4)）

【事業概要】
平城宮跡の来訪者に平城宮跡解説ボランティアが、平城宮跡資料館、遺構展示館、復原建物等の案内・解説を行うことにより、 研究所の調査研究の成果を発信するとともに、平城宮跡の歴史や文化遺産に対する理解を深めてもらう。
年間約 8 万人に解説事業を行い、解説ボランティアについては、継続的に約 100 名確保し、研修、学習会の実施や解説資料の配付等の積極的な活動支援を行う。

【担当部課】	管理部文化財情報課	【プロジェクト責任者】	文化財情報課長　平石憲良

【スタッフ】
千田剛道［企画調整部］、永井あつ子、桑原隆佳［以上、管理部］

【主な成果】
ボランティア解説者の学習等による知識による案内解説は、解説を受けた来訪者の満足度から十分な成果が認められる。

【年度実績概要】
20 年は平城宮跡を訪れた約 8 万人に案内・解説を行った。平城宮跡は小・中学校の校外学習の場としても活用され、その説明は解説ボランティアに依頼されることが多く、学校関係者等から高い評価を得ている。
この事業は、9 年を超え定着してきているが更に充実させるため、解説を受けた来訪者にアンケート調査を行った結果、 93．4%が良かったと答えている。
解説ボランティアの活動支援として、解説のための専門研修（8 日間）、「続日本紀」読書会（毎月 1 回）等を実施し、解説資料の配付を行うなど積極的に支援した。
○アンケート調査集計表（回答 197）
ボランティアの解説を受けられた方にお尋ねします。解説の満足度はいかがですか。
1　とてもよい　101（51．3%）　2　かなりよい　43（21．8%）
3　ふつう　40（20．3%）　4　あまりよくない　3（ 1．5%）
5　まったくよくない　10（ 5．1%）

【実績値】
・解説ボランティア：131 名　・ボランティア解説延べ人数：約 8 万人
・ 各種ボランティアに対する学習会等
専門研修　8 日間／年
『続日本紀』読書会　1 日間／月

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6405-01

自己点検評価調書

研究所 No77

1．定性的評価

観点	継続性	効率性	発展性	正確性		
判定	A	A	A	A		

備考
継続性：ボランティア解説者の学習等により基礎的知識は十分な成果を認める。
効率性：ボランティア解説者の案内は十分に成果を認める。
発展性：ボランティア解説者の来訪者への影響は十分な成果を認める。
正確性：ボランティア解説事業の運営に十分な成果を認める。

2．定量的評価

観点	ボランティア登録者数	事業参加者数	参加者の満足度			
判定	A	A	A			

備考
ボランティア登録者数：100 人
事業参加者数　　：45,000 人
参加者の満足度　　：80％

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	ボランティア解説者の学習成果により、ボランティア解説を受けた方の満足度が 93．4％が良かったと答えていることから、総合的に判断してＡと認めたものである。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	解説ボランティア事業は、ボランティアの更なる研修、事業参加者数の増加、ボランティアへの積極的な支援も順調に実現できたと考える。今後もこのペースを維持しつつ平城宮跡の公開活用に力を注ぎたい。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6405-02
（様式 1）

業務実績書

研究所 No78

中期計画の項目	6　情報発信機能の強化
プロジェクト名称	各種ボランティアに対する活動機会・場所の提供、文化財に関する学習会の実施等への支援（(4)）

【事業概要】
平城宮跡で活動しようとする各種ボランティア、また文化財関係のボランティアに対して要請があれば、平城宮跡（施設を含む）を活動の場所として提供することや、文化財に関する学習会等への講師の派遣を行う等の支援を行い、ボランティア団体の育成に寄与する

【担当部課】	管理部文化財情報課	【プロジェクト責任者】	文化財情報課長　平石憲良

【スタッフ】
千田剛道［企画調整部］、永井あつ子、桑原隆佳［以上、管理部］

【主な成果】
ボランティア解説者の学習等による知識による案内解説は、解説を受けた来訪者の満足度から十分な成果が認められる。
また、他のボランティア団体への支援により、解説ボランティア事業の活性化に繋がった。

【年度実績概要】
各種ボランティアに対する学習会等を実施した。
平成 13 年 11 月に設立された「特定非営利活動法人平城宮跡サポートネットワーク」に対して、活動機会、場所、講師等の派遣等、積極的な活動支援を行った。具体的には、平城宮跡の清掃活動への用具等の提供、平城っ子歴史教室への講師派遣、平城京かるたの監修等の協力、市民参加の平城宮跡クリーンフェスティバル、平城宮跡歴史文化講座を行った。それらは新聞等でも紹介され好評であった。
また、「特定非営利活動法人なら・観光ボランティアガイドの会」から朱雀門、東院庭園でボランティア解説をしたいとの要請があり、活動場所の提供を行った。

【実績値】
・各種ボランティアに対する学習会等

専門研修	8 日間／年
平城宮跡クリーンフェスティバル	1 日間／年
清掃活動	11 日間／年
平城宮跡歴史文化講座	3 日間／年
万葉集勉強会	1 日間／月
平城っ子歴史教室	1 日間／月

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6405-02

自己点検評価調書

研究所 No78

1．定性的評価

観点	継続性	効率性	発展性	正確性		
判定	A	A	A	A		

備考
継続性：各種ボランティアへの支援には、十分な成果を認める。
適時性：各種ボランティアへの支援は、学習会の実施等十分な成果を認める。
効率性：各種ボランティアへの場所の提供要請等には、十分な成果を認める。

2．定量的評価

観点	ボランティア登録者数	事業参加者数	参加者の満足度			
判定	A	A	A			

備考
ボランティアに対する学習会実施回数：2 回
参加者数：150 人

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	「特定非営利活動法人平城宮跡サポートネットワーク」に対して、平城宮跡の清掃活動への用具等の提供、平城っ子歴史教室への講師派遣への講師派遣、市民参加の平城宮跡クリーンフェスティバル及び平城宮跡歴史文化講座への場所提供等、種々の支援を行い、活動の活性化に貢献した。これらを総合的に判断して、Ａと認めたものである。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	各種ボランティアの要請に対し、積極的に支援し、各事業が行われた。今後も各種ボランティア育成に寄与したい。

【書式Ａ】　施設名　東京国立博物館　処理番号　6611

中項目	6　情報発信機能の強化

事業名	(6)　文化財情報の公開促進 ①　自主媒体の活用、マスメディアとの連携強化			
担当者	担当部課	学芸企画部博物館情報課	事業責任者	博物館情報課長　高橋裕次
実績・成果	・情報アーカイブサイトでの調査研究成果の公開を継続し、機能等の問題点を検討した。 ・列品管理プロトタイプデータベースを更新し、列品情報の公開を行うための条件の整備を推進した。 ・これまで未公開であったモノクロフィルムの画像データベースを館内業務などで公開した。来年度は「東京国立博物館情報アーカイブ・ウェブサイト」において公開予定である。 ・来年度中に古文書の画像データベースを公開する見通しである。			
補足事項	・「東京国立博物館情報アーカイブ・ウェブサイト」を運用し、研究員の調査研究成果の一部と科学研究費による成果を公開するとともに、科学研究費による成果である古写真データベースをこれまでの6,676件から14,907件に拡充した。 ・「東京国立博物館ウェブサイト」の「画像検索機能」の検索対象画像をこれまでの約5万点から約5万1千点に拡充した。 ・ウェブサイトにおけるカラーフィルムの画像検索機能を改善し、検索速度を向上させる準備をした。 ・将来的な収蔵品情報の外部への公開を見据えた「列品管理プロトタイプデータベース」の構築を進め、業務遂行上で列品の貸与に関する情報を円滑に検索、取得できる機能を充実化した。 ・モノクロフィルムの画像データベースを、館内業務および資料館での一般利用に提供を開始した。 ・科学研究費の成果である古文書の画像データベースの公開の準備を行った。			



情報アーカイブ・ウェブサイト

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	ｳｪﾌﾞｻｲﾄへのｱｸｾｽ件数	5,211,261件	1,928,966	A	経年変化	2,923,564	3,680,028	5,504,468	5,211,261
	検索対象画像の拡充	約51,000点	－	－		約26,000	約26,000	約50,000	約51,000

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	ウェブサイト等自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、広く国内外に情報を発信する。 ウェブサイトのアクセス件数は年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回ることとする。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名　京都国立博物館　処理番号　6612

中項目	6　情報発信機能の強化

事業名	(6)　文化財情報・研究成果の公表 ①　自主媒体の活用、マスメディアとの連携強化			
担当者	担当部課	総務課、学芸部	事業責任者	総務課長　大西真一 列品管理室長　若杉準治

実績・成果

・携帯電話端末用ウェブサイトの充実を図り、利用者の拡大とサービスの向上に努めた。
・学術研究公開の一環として、研究紀要「学叢」をウェブサイトで公開した。
・京都国立博物館メールマガジンを継続配信し、加入者数は 3,342 件である。
・管理サーバの導入により、定義ファイルの自動更新、ウイルスチェック及びセキュリティ強化を実施した。





特別展紹介・収蔵品データベース（モバイルサイト）



学叢 WEB 公開

補足事項

・パソコン向けサイト及び携帯電話端末用サイト内の特別展覧会、特集陳列、平常展示、各種講座・イベント等、各コンテンツを適宜更新し、モバイルユーザーに対して、最新の博物館情報が提供に努めた。
・携帯電話端末用サイト内の収蔵品データベースの掲載データを追加し、アーカイブとしての充実に努めた。また、モバイル収蔵品データベースの収蔵品画像の拡大機能は、引き続き㈱NTT ドコモの協力により、実証実験を兼ねた提供を行う。
・学叢 WEB 公開は、現在販売中のものの在庫状況・販売現況及び学術的価値を総合的に判断しながら、適宜オンラインでの公開を促進し、さらに大学・博物館等の研究活動に寄与する。
・京都国立博物館メールマガジンの継続運用を行い、24 号まで刊行。臨時号の配信も行う。加入者は順調に増加しており、昨年度より、984 件登録者が増加した。
・ウイルス対策システムのリプレースを実施し、継続的な情報資源に対するセキュリティ強化を図った。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
ウェブサイトへのアクセス件数	1,409,634 件	521,965 件	A		572,936	757,812	733,885	1,409,634

年度実績評価総括

S　Ⓐ　B　C　F
（S、F の理由）

中期計画記載事項

　文化財情報・研究成果などを広く公表すること等を通じて歴史・伝統文化に対する理解が深まるよう努める。
①ウェブサイト等自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、広く国内外に情報を発信する。
　ウェブサイトのアクセス件数は年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回ることとする。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 6613

中項目	6　情報発信機能の強化

事業名	(6)文化財情報・研究成果の公表 ①自主媒体の活用、マスメディアとの連携強化			
担当者	担当部課	学芸部情報サービス室	事業責任者	情報サービス室研究員　野尻　忠
実績・成果	・PC 用ホームページを全面的に構築しなおし 2 月より公開を始めた。これにより更なる文化財情報発信の基盤が整った。 ・研究紀要『鹿園雑集』10 号を刊行し、論文 3 本、国際研究集会の研究報告 2 本、資料紹介 2 本ほか各種調査報告 3 本を掲載した。 ・展覧会図録を 7 冊刊行した。 ・広報誌「奈良国立博物館だより」（年 4 回刊行）の各号に、文化財調査研究成果の一端を掲載し、また 3 号にわたり展示活動への取り組みについて掲載した。			
補足事項	・2 月 1 日に PC 用ホームページを更新した後、ソフトの不具合によりアクセス件数のカウントができない状態が続いた。（4 月より復旧予定）			

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	ｳｪﾌﾞｻｲﾄｱｸｾｽ件数	1,230,774	670,948	A		986,133	1,249,608	1,402,834	1,230,774

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、F の理由）
中期計画記載事項	ウェブサイト等自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、広く国内外に情報を発信する。 ウェブサイトのアクセス件数は年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回ることとする。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	ほぼ順調

【書式Ａ】　　施設名 九州国立博物館　処理番号 6614

中項目	6　情報発信機能の強化

事業名	(6)　文化財情報・研究成果の公表 ①　自主媒体の活用、マスメディアとの連携強化			
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	総務課長　樋口理央
実績・成果	①九州国立博物館のホームページをリニューアル ②ホームページ利用者からの意見を、ホームページ内の九博メールで対応 ③特別展ごとに「ブログるぽ」の実施			
補足事項	①当館ホームページを見に来られる方に対して、「見やすさ」、「わかりやすさ」をモットーにリニューアルを行った。また、夜間、休日の情報掲載や迅速な情報提供も出来る限り即時対応に努めている。 ②利用者からの質問、意見等については、適切に九博メールでの回答を行っている。 ③「ブログるぽ」は、WEB 上でブログ執筆希望者を募集し、実際に特別展を観覧した方に、撮影禁止の館内画像等を提供して、ブログを書いてもらう仕組みとなっている。これは、ネット社会へ柔軟に対応した先駆的事例であり、特別展の広報活動の一環でもある。	 ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞのﾘﾆｭｰｱﾙ前  ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞのﾘﾆｭｰｱﾙ後		

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	ウェブサイトアクセス件数	5,699,860 件	5,000,000	A	経年変化	－	7,118,540	5,943,616	5,699,860

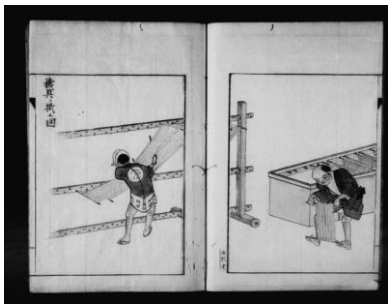
年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、F の理由）
中期計画記載事項	ウェブサイト等自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、広く国内外に情報を発信する。ウェブサイトのアクセス件数は年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回ることとする。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 6621-1

中項目	6　情報発信機能の強化

事業名	（6）文化財情報の公開促進 ②－1　デジタル化の推進			
担当者	担当部課	学芸企画部博物館情報課	事業責任者	博物館情報課長　高橋裕次
実績・成果	1）　収蔵品等のモノクロ画像のデジタル化に着手し、マイクロフィルムは目標を大きく上回るデジタル化を行った。 2）　国指定文化財のカラーフィルムのデジタル化と、モノクロフィルムの遡及入力を実施した。 3）　美術品台帳のテキストデジタル化で、収蔵品の基本情報を充実させ、モノクロフィルムはデータの精度を向上させた。 4）　法隆寺献納宝物のデジタルアーカイブの提供を継続した。今後は利便性の向上と、内容の更新につとめていきたい。			
補足事項	1）　収蔵品等の写真の高精細デジタル化 ・所蔵品等の 4×5 カラーフィルムの高精細デジタル化を実施した。 ・これまで未着手であった昭和 40 年代以前の所蔵品等の 4×5 モノクロフィルムの高精細デジタル化を実施した。 ・18 年度から撮影を開始した所蔵品等のマイクロフィルムの高精細デジタル化を実施した。 ・カラーのデジタルデータについては、来館者をはじめとする幅広い利用者の求めに応じて、利用に供した。 ・マイクロフィルムについては、インターネットを通じた情報提供ができる環境構築の検討と準備を進めた。 2）　国指定文化財の新規撮影・高精細デジタル画像化 ・国指定文化財のカラーおよびモノクロフィルム画像のデジタル化を実施した。 3）　収蔵品の基本情報のデータ化 ・美術品台帳のテキストデジタル化を実施した。 ・これまで未整理であったモノクロフィルムの被写体データの調査をした。 4）　法隆寺献納宝物のデジタル高精細画像等の提供 ・事業計画のとおり法隆寺献納宝物デジタルアーカイブの提供を継続した。			



マイクロフィルムデジタル化
（《諸国製造品》）

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	デジタルデータ作成件数	139,000 件	23,000 件 (18,829 件)	A －	経年変化	20,556	4,472	153,000	139,000
	うち 4×5 フィルム	17,400 件	3,000 件						
	うちマイクロフィルム	121,600 件	20,000 件						
	収蔵品の基本情報のデータ化	553,000 字	300,000 字	A		70 万	50 万	30 万	55 万 3 千

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、F の理由）
中期計画記載事項	文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図る。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 6622-1

中項目	6　情報発信機能の強化

事業名	(6)　文化財情報・研究成果の公表 ②-1　デジタル化の推進			
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	総務課長　大西真一
実績・成果	・収蔵品のデジタルデータを作成し、文化財情報システム及び公開収蔵品データベースへの登録を暫時行っている。 ・当館所蔵の指定文化財の画像を高精細画像化し、重要文化財高精細画像データベース「KNM Gallery」としてウェブサイト上で公開した。			
	 公開収蔵品データベース		 重要文化財高精細画像公開システム「KNM　Gallery」	
補足事項	・収蔵品のデジタルデータを作成し、文化財情報システム（館内研究・管理用）及び公開収蔵品データベース（一般公開）に暫時登録し、当館デジタルアーカイブ及び公開情報サービスを行う。 ・当館所蔵指定文化財の画像の約 9 割を高精細画像化し、六カ国語（日英韓中仏西）での提供を 20 年度にウェブサイト上で公開した。			

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
	デジタルデータ作成件数	6,478 件	4,359 件	A		5,568 件	6,169 件	8,047 件	6,478 件
年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、F の理由）								
中期計画記載事項	文化財情報・研究成果などを広く公表すること等を通じて歴史・伝統文化に対する理解が深まるよう努める。 ②－1 収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すため、デジタル化を推進し、文化財情報システム等により広く積極的に公開する。また、収蔵品等に関するデジタル化件数は、年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るようにする。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調に成果を上げている。					

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 6623-1

中項目	6　情報発信機能の強化

事業名	(6)文化財情報・研究成果の公表　②－1 デジタル化の推進			
担当者	担当部課	学芸部資料室	事業責任者	資料室長　宮崎幹子

実績・成果

本事業は、仏教美術を中心とした文化財に関わる情報資源の蓄積を図り、館内における調査研究に活用するとともに、広く一般への公開をおこなうことを目的としている。

- 当館で調査研究および写真撮影をおこなった文化財の情報を、情報システムへ登録し、データを 6,989 件更新した。
- 上記のうち公開準備のできたものを写真検索システムへ登録し、データを 4,019 件更新・公開した。
- 重要文化財を中心とした収蔵品の写真原板を 910 件デジタル化した。
- 当館所蔵のガラス乾板を 500 件デジタル化した。
- 重要文化財等の収蔵品データベースの公開にむけて、テキストデータ、高精細画像データの整備をおこなった。

今年度は、調査及び写真撮影を行った文化財の情報整備と写真原板整理を重点的に行った結果、登録データを大きく増加させることができた。また収蔵品データベースの公開に向けて、写真原板のデジタル化も例年より大きく推進させることができた。

補足事項

- 収蔵品・寄託品、展覧会等で借用した文化財について写真撮影をおこない、その情報をシステムに継続して登録しており、情報の蓄積・公開が順調に進んでいる。
- 重要文化財等の収蔵品データベースの公開にむけて、図版目録や台帳掲載の基本情報、解説文をデータベースに継続して登録した。また、高精細画像データの整備も進めている。今後とも関連情報のさらなるデジタル化を図る。



写真検索システム

定量的評価

項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
登録データ	6,989 件	2,000 件	A	経年変化	3,591	3,838	3,889	6,989
公開データ	4,019 件	－	－		2,169	2,058	2,017	4,019
デジタル化件数	8,399 件	8,471 件	B		3,775	3,830	4,584	8,399
		－	－					

年度実績評価総括

Ⓢ　Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｆ

（Ｓ、Ｆの理由）

今年度は既存原板の整理を集中的に行った結果、処理数が大幅に増加した。

中期計画記載事項

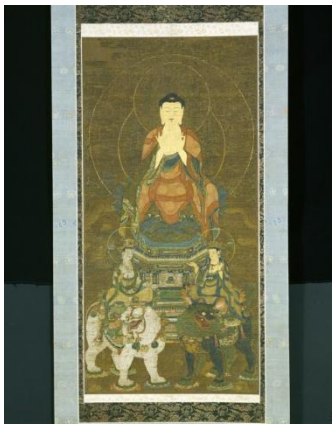
収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、デジタル化を推進し、文化財情報システム等により広く積極的に公開する。また、収蔵品等に関するデジタル化件数は、年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るようにする。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 6624-1

中項目	6　情報発信機能の強化

事業名	(6)　文化財情報・研究成果の公表 ②―1　デジタル化の推進			
担当者	担当部課	文化財課	事業責任者	文化財課長　臺信祐爾
実績・成果	収蔵品のデジタルデータを作成した。(3,963 件)			
補足事項	新たに撮影した収蔵品・出品作品をデジタル撮影した。また、フィルム撮影の写真についても順次3種類のデジタルデータ（300ＫＢ、2ＭＢ、120ＭＢ）に変換した。 本年度から文化庁が推進する「文化遺産オンライン」に当館情報をアップした。			



（新規撮影作品）
重要文化財釈迦三尊像（梅林寺蔵）

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	デジタルデータ作成件数	3,963 件	600 件	A	経年変化	1,914	2,898	3,295	3,963

年度実績評価総括	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ （Ｓ、Ｆの理由）
中期計画記載事項	収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、デジタル化を推進し、文化財情報システム等により広く積極的に公開する。また、収蔵品等に関するデジタル化件数は、年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るようにする。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 6621-2

中項目	6　情報発信機能の強化

事業名	(6)　文化財情報の公開促進 ②－2　博物館関係資料の収集、レファレンス機能の強化			
担当者	担当部課	学芸企画部博物館情報課	事業責任者	博物館情報課長　高橋裕次
実績・成果	〈収集〉 ・購入図書395冊、寄贈・交換図書7,386冊、館蔵品等の写真資料4,703 枚 〈整理〉 ・新規整理 図書 7,781 冊・逐次刊行物 3,638 冊、遡及入力 図書 5,709 冊 〈資料整備〉 ・雑誌等の製本 581 冊、修理製本 186 冊 ・バーコードラベル貼付と合わせてデータの確認作業を実施し、累計で 130,824 枚のバーコードラベルを図書に貼付した。あわせて今年度は約 17,000 件のデータ修正を行った。 〈公開〉 ・視聴覚コーナーで 230 点のビデオ、DVD 等を公開した ・OPAC で図書 155,836 冊、雑誌 5,074 タイトル、目次・論文データ 4,000 件を公開し、レファレンスサービスを充実させた。 ・法隆寺宝物館の図書コーナーを継続実施した。			
補足事項	〈収集〉 ・博物館の調査研究や事業・運営に有用な図書を購入、交換・寄贈等により収集した。また、館蔵品を中心に撮影した写真資料を整備した。 〈整理〉 ・遡及入力は、書庫内の登録済み未整理図書(和書)約 1,000 冊、一般洋書 1,660 冊、東京国立博物館の展覧会目録の複本類等を中心に実施した。 〈資料整備〉 ・通常雑誌製本に加え、考古学会寄贈および松浦氏寄贈の外国語雑誌の合冊製本を実施した。 ・所蔵図書のバーコード貼付を行い、図書館システム導入時のデータ既存の図書全て(不明本を除く)への貼付作業を完了した。 〈公開〉 ・閲覧室に視聴覚資料コーナーを新設し、公開可能な中より 230 点のビデオ、DVD 類を閲覧室に開架した。 ・図書・逐次刊行物の遡及入力を継続して推進した。また東京国立博物館刊行物「Museum」、「紀要」、カタログ(2002 以降) 等の目次・論文データの入力により、OPAC 検索対象件数を大幅に増加した。 ・OPAC の更新を行い、雑誌一覧(Ａ to Ｚ)、コーナー図書、My Library(館内のみ)等を公開して検索の利便性を高め、また、美術館図書室横断検索にも継続して参加した。 ・マイクロフィルムの冊子体目録を作成した。 ・これらの整備の結果を、レファレンスサービスの充実に役立てることができた。			





（上）視聴覚資料コーナー
（下）OPAC レファレンスサービス画面

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	収蔵品等の写真撮影・関連ﾃﾞｰﾀ整備	4,703 件	3,000 件 －	A －	経年変化	5,432	4,472	3,642	4,703
	新規図書整理	7,781 件	－	－		6,045	1,118	4,013	7,781
	遡及図書整理	5,709 件	－	－		－	－	4,574	5,709

年度実績評価総括	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ （Ｓ、Ｆの理由）
中期計画記載事項	6　情報発信機能の強化 ②－2 美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能を充実させる。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式Ａ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 6622-2

中項目	6　情報発信機能の強化

事業名	(6) 文化財情報・研究成果の公表 ②－2　情報、資料の収集・蓄積、レファレンス機能の充実			
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　若杉準治
実績・成果	・収蔵品、展覧会出品作品等の撮影写真、及び社寺調査等での撮影写真並びに関連データを整備した。 ・写真は漸次写真画像管理システムに登録し、各種データベースへの二次提供を行った。 登録件数　6,478件			
補足事項	・観覧者向け図書閲覧サービスコーナーは、平常展示館の閉鎖とともに終了した。			

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	収蔵品・出品作品等の写真撮影及び関連データの整備	6,478 件	約 5,000 件	A	経年変化	5,595	5,910	4,256	6,478

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能を充実させる。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 6623-2

中項目	6　情報発信機能の強化

事業名	(6)文化財情報・研究成果の公表 ②－2 情報、資料の収集・蓄積、レファレンス機能の充実			
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	
実績・成果	本事業は、博物館の根幹である展示・研究活動を支援すべく、関連する図書・雑誌等の資料を収集・整理し、学芸業務の情報資源として活用するものである。また一般利用者に対しても当該資料を当館仏教美術資料研究センターにおいて公開し、情報サービスをおこなっている。 図書の新規受入は、1,520 冊、展覧会カタログは 489 冊を数えた。これにより、同センターの保有する資料の総数は図書約 65,000 冊、展覧会カタログ約 10,000 冊、雑誌約 3,000 タイトルとなった。これらについては随時書誌データを図書管理システムに入力し、検索の利用に供している。今年度は中国仏教関係の資料を重点的に収集し、不足していた領域の資料の充実を推進させることができた点も特筆される。 一方、同センターの書架が分野によっては飽和状態にあるため利用頻度で分別し、利用頻度の低い資料については別置場所を確保し、利用空間を確保した。			
補足事項	従前より仏教美術に関する資料の充実化をはかっているが、関連研究分野の拡張化や学際化が近年著しく、当館でも新たな分野の資料の強化・整備がさらに必要である。今後とも、仏教美術関係の資料収集はもとより、多様な資料の蓄積をはかると共に、効率のよい資料整理・公開の方法についても検討して行きたい。			

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	図書	1,520 件	－	－	経年変化	950	1,930	2,280	1,520
	展覧会カタログ	489 件	－	－		1,044	460	532	489
	収蔵品・出品作品等の写真撮影・関連データの整備	6,457 件	3,000	A		9,118	8,406	3,240	6,457

年度実績評価総括	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ （Ｓ、Ｆの理由）
中期計画記載事項	美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能を充実させる。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	ほぼ順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 6624-2-1

中項目	6　情報発信機能の強化

事業名	(6)　文化財情報・研究成果の公表 ②―2　情報、資料の収集・蓄積、レファレンス機能の充実　(1/2)			
担当者	担当部課	文化財課	事業責任者	研究員　畑　靖紀
実績・成果	①　収蔵品・出品作品等の写真撮影及び関連データを整備している。(6,633件) ②　博物館資料（収蔵品、図書、写真など）の横断的データベースの効率的な運用を検討し、実施する。			
補足事項	①収蔵品・出品作品などについて 2,000 件を超す写真を撮影し、写真データベースの充実を図った。 ②博物館資料（収蔵品、図書、写真など）の横断的データベースは、稼働中の業務システムにおいて効率的に運用している。購入・寄託・寄贈や借用などにともなう新規の収蔵品や図書データは随時入力するとともに、既存データについても未記入項目の遡及入力を実施し充実を図っている。  収蔵品写真撮影風景			

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	収蔵品・出品作品等の写真撮影および関連データ整備件数	6,633 件	600 件	A	経年変化	3,996	3,479	12,556	6,633

年度実績評価総括	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ （Ｓ、Ｆの理由）
中期計画記載事項	美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能を充実させる。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 6624-2-2

中項目	6　情報発信機能の強化

事業名	(6)　文化財情報・研究成果の公表 ②―2　情報、資料の収集・蓄積、レファレンス機能の充実（2/2）			
担当者	担当部課	交流課	事業責任者	主任研究員　永井　真佐美
実績・成果	海外調査（ベトナム）で撮影した写真やビデオをあじっぱ等の展示や教育普及事業で活用している。			
補足事項	○　教育普及施設である体験型展示室「あじっぱ」の一画の「あじ庵」でドンホー版画のぬりえや民族衣装の着せ替え、天秤棒担ぎなどの体験コーナーを設置した。 ○　「あじ庵」で、「ハノイの街」「ベトナム伝統の技」「水上人形劇」などの映像を流した。 ○　ディスプレイで、中秋節をはじめベトナムを代表するような生活習慣がわかるような雑貨などを展示した。 ○　体験型展示室「たなだ」に、ハノイの街を再現した覗きＢＯＸを設置した。			


あじ庵「カフェ・ハノイ」



ベトナム・ディスプレイ

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	ハンズオン資料	136 件	100 件	A	経年変化				136

年度実績評価総括	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ （Ｓ、Ｆの理由）
中期計画記載事項	美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能を充実させる。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 7105-00
（様式 1）

業務実績書

研究所 No79

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	無形文化遺産に関する助言（(1)）

【事業概要】
地方公共団体等の依頼に基づき、それらの実施する無形文化財・無形民俗文化財の調査・保存・修復・整備・活用などの事業に対し助言を行う。

【担当部課】	無形文化遺産部	【プロジェクト責任者】	部長　宮田繁幸

【スタッフ】
高桑いづみ、飯島　満、俵木　悟、菊池理予（以上、無形文化遺産部）

【主な成果】
平成 20 年度は、無形文化遺産の保存・伝承・活用等に関して㈶伝統文化活性化国民協会への 18 件の助言をはじめとして、73 件の助言を実施した。

【年度実績概要】
平成 20 年度は、無形文化遺産の保存・伝承・活用等に関する各種委員会等へ出席し、以下の助言を行った。
1 ㈶伝統文化活性化国民協会への助言　18 件
2 日本ユネスコ協会連盟への助言　2 件
3 ㈶日本青年館への助言　4 件
4 石川県教育委員会・輪島市教育委員会への助言　4 件
5 千葉県伝統文化伝承委員会への助言　4 件
6 日本芸術文化振興会への助言　12 件
7 日本放送協会への助言　4 件
8 文化庁伝統文化課への助言　4 件
9 社会教育実践センターへの助言　1 件
10 文化庁芸術文化課文化活動振興室への助言　20 件

【実績値】

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 7105-00

自己点検評価調書

研究所 No79

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性			
判定	A	A	A			
備考						

2．定量的評価

観点	助言件数					
判定	A					
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本事業は、依頼を受けて行うものであり、あらかじめ個々の助言について予定することは出来ないが、本年度も各種委員会等への出席及び助言の依頼が前中期計画時の平均値以上寄せられており、無形文化遺産分野での様々な要望に的確に対応できたものと考える。以上の状況を総合的に判断して、Ａと判定した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	例年通りの助言依頼に順調に対応できたと考える。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 7105-01
（様式 1）

業務実績書

研究所 No80

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	文化財の修復及び整備に関する調査・助言（(1)）

【事業概要】
地方公共団体等の実施する文化財の調査・保存・整備・活用などの事業を援助・助言するために、文化財の修復及び整備に関する調査を行う。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	副センター長　川野邊　渉

【スタッフ】
中山俊介、北野信彦、早川典子、加藤雅人、森井順之、坪倉早智子（以上、保存修復科学センター）

【主な成果】
今年度は、件数として 30 件を数え、指導助言先やその内容も多岐にわたり、複数回の指導助言に及んだ。今後も継続して指導助言を実施し適正に文化財が保存修復されるように努めるとともに、私たちも新たな知見を得て、的確な指導助言が行えるように努力する。

【年度実績概要】
・財団法人日本航空協会評議員　（川野邊 渉）
・有限責任中間法人国宝装潢師連盟資格試験委員会　（川野邊 渉）
・石川県文化財保存修復工房運営委員会　（川野邊 渉）
・文化財建造物修理主任技術者講習会（上級コース）　（川野邊 渉、中山俊介）
・日光山輪王寺宝物殿における劣化工芸品の修復に関する指導助言　（川野邊 渉、中山俊介）
・京都市埋蔵文化財研究所に対する木製品保存処理に関する現地指導　（北野信彦）
・国宝臼杵磨崖仏の保存修復に関する指導助言　（川野邊 渉、森井順之、早川典子、朽津信明）
・国指定史跡大分県高瀬石仏の保存修復に関する指導助言　（川野邊 渉、森井順之）
・仙台市春日社古墳出土漆革楯の保存修復作業に関する指導助言　（北野信彦）
・東京大学埋蔵文化財調査室における出土資料の保存方法に関する指導助言　（北野信彦）
・国宝高松塚古墳壁画の保存修復に関する指導助言及び活用検討会出席　（川野邊 渉、北野信彦、加藤雅人、森井順之、坪倉早智子）
・特別史跡キトラ古墳壁画の保存修復に関する指導助言　（川野邊 渉、北野信彦、加藤雅人、森井順之、坪倉早智子）
・重要文化財熊野磨崖仏の保存修復に関する指導助言　（川野邊 渉、森井順之）
・佐賀県指定史跡　鵜殿石仏群の保存修復に関する指導助言　（川野邊 渉、森井順之）
・日光市の世界遺産環境モニタリングに関する指導助言　（川野邊 渉、森井順之）
・長崎県上五島町江袋教会の焼損に関する被害調査と保存修復に関する指導助言　（川野邊 渉）
・特別史跡、特別名勝醍醐寺三宝院庭園からの出土木樋の保存修復に関する現地指導　（北野信彦）
・兵庫県立考古博物館における出土漆器の保存修復に関する指導助言　（北野信彦）
・松浦市鷹島海底遺跡からの元寇関連出土資料の保存処置に関する指導助言　（北野信彦）
・東京農工大学科学博物館内の資料保存に関する指導助言　（中山俊介）
・重要文化財旧手宮鉄道施設の保存修復に関する指導助言　（川野邊 渉、中山俊介）
・重要文化財明治丸の保存修復に関する指導助言　（中山俊介）
・重要文化財富岡製糸場内の鉄製水槽の保存修復に関する指導助言　（中山俊介）
・近代化遺産の修理等に係る指針策定に関する指導助言　（中山俊介）
・重要文化財養源院杉戸絵に付着した物質の除去に関する指導助言　（川野邊渉、坪倉早智子）
・重要文化財　0.5ｔ及び３ｔスチームハンマーの修復後モニタリングに関する指導助言（森井順之）
・第５福竜丸の船体及びエンジンの保存修復に関する指導助言　（川野邊 渉、中山俊介）
・陸上自衛隊入間基地内修武台記念館内における航空機の保管環境に関する指導助言　（中山俊介）
・国指定名勝池田氏庭園内洋館の保存修復に関する指導助言　（川野邊 渉、中山俊介）
・重要文化財東京駅舎本屋のドーム内レリーフの保存修復に関する指導助言　（川野邊 渉、中山俊介）

【実績値】
指導助言実施件数　：　30 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 7105-01

自己点検評価調書

研究所 No80

1．定性的評価

観点	適時性	継続性	正確性			
判定	A	A	A			
備考						

2．定量的評価

観点	指導助言件数					
判定	A					
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	重要文化財を含む各種文化財の保存修復に関して、それぞれの保有団体、所有者の方々あるいは修復を担当する団体に対して、指導助言を行った。またその過程において、私たちも、現地を調査する機会を得、更に知見を得ることが出来た。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順　調	今年度は、件数は 30 件と昨年よりも上回った。また、その内容も多岐にわたり、複数回の指導助言に及んだ。今後も継続して指導助言を実施し適正に文化財が保存修復されるように努めるとともに、私たちも新たな知見を得るように努力する。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 7105-02
（様式 1）

業務実績書

研究所 No81

中期計画の項目	7　地方公共団体等への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言　((1))

【事業概要】
地方公共団体等が行う遺跡、建造物等の調査・整備・修復・保存等について、専門委員会委員への就任等を通して、必要な事項に関し援助・助言を行う。

【担当部課】	奈良文化財研究所	【プロジェクト責任者】	所長　田辺征夫

【スタッフ】

【主な成果】
地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等の事業について、専門委員会委員への就任等を通して、建造物修理、史跡整備、出土文字資料調査、発掘調査等に関する専門的・技術的な助言を行った。地方公共団体等の委員就任件数 169 件、援助・助言実施件数（出張依頼を受けた件数）322 件（委員会出席 154、審議会出席 18、指導 49、調査 17、講演 20、その他 64）

【年度実績概要】
地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等の事業について、専門委員会委員への就任等を通して、建造物修理、史跡整備、出土文字資料調査、発掘調査等に関する専門的・技術的な助言を行った。

① 地方公共団体等による文化財建造物等の調査、修復、整備について、学術的、技術的側面からの具体的な援助・助言を現地等で行った。主なものには、調査関係として京都府近代和風建築総合調査、修復・整備関係として兵庫県史跡和田岬砲台、奈良市東大寺境内整備、奈良市特別史跡・特別名勝平城京左京三条二坊宮跡庭園、奈良市名勝依水園庭園、京都市元離宮二条城建造物などがある。このほか、奈良県橿原市文化財審議会、奈良市文化財保護審議会、奈良県立民俗博物館運営協議会などにおいて、専門的立場からの助言等を行った。

② 地方公共団体等による遺跡の発掘調査における調査方法や検出した遺構の性格、建物遺構の構造的特徴についての援助・助言、遺跡・名勝などの保存管理や整備事業に係る調査、価値評価、実施内容、構想・計画の立案などの援助・助言を行った。主なものには、岩手県盛岡市史跡志波城跡、宮城県東松島市赤井遺跡、福島県須賀川市史跡上人壇廃寺、茨城県水戸市台渡里廃寺跡・大串遺跡、群馬県伊勢崎市三軒屋遺跡、太田市天良七堂遺跡などがある。

③ 地方公共団体等が発掘調査を行った全国のべ 23 の遺跡から出土した木簡・墨書土器、漆紙文書などの出土文字資料約 350 点について、その釈読・写真撮影などの調査・研究に関する援助・助言を行った。主なものには、奈良市平城京跡、京都府木津川市馬場南遺跡・北綺田遺跡群、大阪府枚方市禁野本町遺跡、兵庫県姫路市豆腐町遺跡・豊岡市祢布ヶ森遺跡、静岡県ケイセイ遺跡・鳥居松遺跡、滋賀県甲賀市宮町遺跡などがある。

【実績値】
地方公共団体等の委員就任件数　169 件
援助・助言実施件数（出張依頼を受けた件数）　322 件
（委員会出席 154 件, 審議会出席 18 件, 指導 49 件, 調査 17 件, 講演 20 件, その他 64 件）

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 7105-02
（様式 2）

自己点検評価調書

研究所 No81

1．定性的評価

観点	継続性	適時性	発展性			
判定	A	A	A			

備考
継続性：依頼機関への対応
適時性：実施業務に適時・適切に対応
発展性：的確な援助・助言による実施業務の順調な実現

2．定量的評価

観点	援助・助言実施件数					
判定	A					

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	地方公共団体等が行う遺跡、建造物などの調査・整備・修復・保存等に関して、援助・助言を的確に行うことができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	現在、全国で行われている遺跡の発掘調査、保存・整備・復原事業や、建造物の調査、修理事業について、各担当機関から専門的な援助・助言を求められ、適時・適切に対応している。奈文研に対する社会的要求に応えるべく、今後も的確に対応する。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 7105-03
（様式 1）

業務実績書

研究所 No82

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	地方公共団体が行う平城京域発掘調査への援助・助言（(1)）

【事業概要】
平城宮跡の隣接地や平城京の寺院跡などの重要地区内において、近年とみに小規模開発が進んでいる。この開発に対して宮及び宮周辺における奈良時代を含む土地利用の実態把握と遺構深度などを明らかにする目的で発掘調査を実施した。

【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【プロジェクト責任者】	副所長　山崎信二

【スタッフ】
難波洋三、和田一之輔、城倉正祥、国武貞克、西口壽生、神野恵、森川実、加藤雅士、深澤芳樹、今井晃樹、林正憲、島田敏男、大林潤、高橋知奈津、鈴木智大、渡辺晃宏、馬場基、山本崇、浅野啓介［以上、都城発掘調査部］

【主な成果】
20 年度は、平城宮・京域で、合計 12 件の調査を実施した。その結果、平城京内において掘立柱建物の立て替えた状況や条坊側溝を検出した。また平城宮北部では地表から遺構面までが浅く、南部では深い傾向にあることを確かめた。

【年度実績概要】
平城宮に密接に関連する平城京域発掘調査への援助・助言は、総数 12 件あり、主に開発行為に対する事前発掘調査である。発掘の総面積は 434 ㎡、調査期間は 2008 年 5 月 7 日～2009 年 2 月 3 日の間、延べ 120 日におよぶ。

次数	調査地	調査原因	面積	期間	概要
434	平城宮東院南方	住宅建設	112 ㎡	080507～080616	奈良時代の 5 時期におよぶ重複した掘立柱建物を検出
435	法華寺旧境内	住宅建設	5.5 ㎡	080616・17	目立った遺構なし
439	興福寺旧境内	住宅建設	19.5 ㎡	080701～080811	東六坊大路西側溝の他は、埋甕など主として中近世の遺構
441	平城京右 3.1.15	住宅建設	42 ㎡	080818～080829	中世の土坑を検出
442	法華寺旧境内	住宅建設	101 ㎡	080901～080925	奈良時代の掘立柱建物 4 基、焼土塊を検出
443	平城京左 1.2.10	住宅建設	12 ㎡	080924～081001	奈良時代の柱穴 2 基検出
444	平城宮	住宅建設	66 ㎡	081006～081020	奈良時代の整地層を検出
445	平城宮	住宅建設	9 ㎡	081104・05	中世の土坑等を検出
447	平城宮	住宅建設	18 ㎡	081022～081029	中世の炉壁片等を検出
449	平城京左 1.2.9	住宅建設	28 ㎡	090113～090119	奈良時代の時期が重複した掘立柱建物を検出
452	平城宮	住宅建設	9 ㎡	090126・27	現地表下 700ｍで地山検出、目立った遺構なし
453	平城京西一坊大路	住宅建設	12 ㎡	090202・03	現地表下 1.5ｍで地山検出、目立った遺構なし

【実績値】
論文等 1 件（論文①）
出土品　瓦磚など 100 箱、土器 35 箱、金属器・木器など 10 箱
記録作成数　実測図 65 枚、遺構写真（4×5）160 枚

【備考】
山本崇「平城宮跡東院南方（平城第 434 次）の調査」『奈良文化財研究所紀要 2009』（予定）

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良文化財研究所　処理番号 7105-03

自己点検評価調書

研究所 No82

1．定性的評価

観点	継続性	適時性	正確性			
判定	A	A	A			

備考
継続性：データ収集のため規模の大小にかかわらず発掘調査を継続する。
適時性：開発に対応する迅速性
正確性：文化財行政に協力する事前調査

2．定量的評価

観点	援助・助言 実施件数					
判定	A					

備考
対象地区の開発行為に、すべて対応した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	緊急性を要する発掘調査に効率よく対応し、平城宮・京についての基礎資料を継続的に蓄積していることからＡと判断した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	平城宮・京の構造や変遷を検討するために有効な基礎データを得た。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 7105-04
（様式 1）

業務実績書

研究所 No83

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言（(1)）

【事業概要】
「飛鳥・藤原」地域は、わが国古代国家成立期の歴史的な舞台であり、6 世紀末から 8 世紀初めに至る間、政治・経済・文化の中心であった。本研究は、地方公共団体と連携し、発掘調査を通じて古代国家の具体像を復元すべく学際的な調査研究を行うものである。その成果を広く公開するとともに、遺跡の保存・活用についても取り組んでいる。

【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部長　松村恵司

【スタッフ】
次山　淳、黒坂貴裕、小田裕樹、関広尚世、石田由紀子、市　大樹、豊島直博、青木　敬、箱崎和久、丹羽崇史、若杉智宏、木村理恵［以上、都城発掘調査部］、山崎　健［埋蔵文化財センター］、井上直夫、岡田　愛［以上、企画調整部］

【主な成果】
特別史跡藤原宮跡、史跡飛鳥寺跡等において地方公共団体が行う発掘調査への援助・助言の事業は、7 件あり、主に飛鳥寺跡等の史跡の現状変更に対する事前調査である。緊急性を要する事前調査に効率よく対応し、藤原宮並びに飛鳥・藤原地域についての基礎資料を継続的に蓄積している。特に、飛鳥寺伽藍周辺の調査では、瓦敷き、石組溝等古代の遺構を良好な状態で検出した。

【年度実績概要】
特別史跡藤原宮跡及び飛鳥・藤原地域において地方公共団体が行う発掘調査への援助・助言の事業は、総数 5 件あり、主に史跡等の現状変更に対する事前調査である。

次　数	調査地	調査原因	面積	調査期間	概　要
152-1	藤原宮跡	水路改修	1.8 ㎡	2008.4.24	立会調査。
152-2	飛鳥寺	住宅建設	15	2008.7.15～18	発掘調査。瓦敷、石組溝検出。
152-3	飛鳥寺	住宅建設	12.8	2008.7.23～25	発掘調査。顕著な遺構なし。
152-4	藤原京跡	住宅建設	38	2008.10.1～10	発掘調査。溝等を検出。
152-5	飛鳥寺	倉庫建設	95	2008.10.28～12.2	発掘調査。石組溝等を検出。
152-8	古宮遺跡	住宅建設	56	2009.2.17～3.5	発掘調査。溝等を検出。
152-9	藤原宮跡	植栽地整備	16403	2009.3.16～	立会調査。

【実績値】
論文等数　：4 件（①～④）
出土遺物　：軒瓦 4 点、丸平瓦 10 箱、土器 6 箱、金属製品 13 点、など。
記録作製数：遺構実測図 15 枚、写真（4×5）88 枚

【備考】
① 次山　淳「飛鳥寺の調査－第 152-2 次」『奈良文化財研究所紀要 2009』2009.6
② 次山　淳「飛鳥寺の調査－第 152-3 次」『奈良文化財研究所紀要 2009』2009.6
③ 石田由紀子「藤原京左京三条十一坊の調査－第 152-4 次」『奈良文化財研究所紀要 2009』2009.6
④ 市　大樹「飛鳥寺の調査－第 152-5 次」『奈良文化財研究所紀要 2009』2009.6

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 7105-04

自己点検評価調書

研究所 No83

1．定性的評価

観点	適時性	継続性				
判定	A	A				

備考
適時性：開発行為に対応する迅速性、地方公共団体の文化財行政に対する協力
継続性：飛鳥藤原京地域に関する遺跡情報の収集のために、規模の大小にかかわらず調査を継続して行った。

2．定量的評価

観点	援助・助言数	論文等数				
判定	A	A				

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	年間 7 件の案件に対して、迅速かつ適切に対処し、地方公共団体の行う埋蔵文化財行政に対して、協力することができた。また、これらの調査を通して継続的に遺跡のデータを収集し、蓄積を図ったことから、総合的にＡと判断した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	緊急性を要する事前調査に効率よく対応し、藤原宮並びに飛鳥・藤原地域についての基礎資料を継続的に蓄積している。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 7215-00
（様式 1）

業務実績書

研究所 No84

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	埋蔵文化財担当者研修（(2)-①）

【事業概要】
地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者に対する研修を実施する。
研修受講者のうち平均 80%以上の者から「有意義だった」、「役に立った」と評価されるよう研修内容の充実を図る。

【担当部課】	企画調整部、 管理部業務課	【プロジェクト責任者】	企画調整部長　小林謙一 業務課長　東　博信

【スタッフ】
小池伸彦［企画調整部］、今西康益、石田義則、三本松俊徳［以上、管理部］
研修内容に応じ、研究所職員の適任者及び外部の学識経験者が講師を行っている。

【主な成果】
遺跡の発掘調査や保存・整備等に関し、必要な知識と技術の研鑽を図るため、地方公共団体等の埋蔵文化財担当者を対象として、一般研修 1 課程、専門研修 13 課程、計 14 課程の研修を実施し、延べ 170 名が受講した。
研修受講者全員に対するアンケート調査では、全員から「有意義だった」「役に立った」との回答を得ており、充実した研修が実施できた。

【年度実績概要】
一般研修 1 課程、専門研修 13 課程の計 14 課程を実施し、延べ 170 名が受講した。
また研修受講者に対し、「今回受講した研修が『有意義だった』あるいは『役に立った』と思うか、思わないか」のアンケート調査を行った結果、100%の者から『思う』の回答を得た。

		実施期日（日数）	定員	受講者数	満足度
一般研修	遺物観察調査課程	8 月 18 日～ 9 月 12 日（26 日）	12 人	12 人	100%
専門研修	保存科学Ⅰ(無機質遺物)課程	5 月 13 日～ 5 月 21 日（ 9 日）	10 人	6 人	100%
	保存科学Ⅱ(有機質遺物)課程	5 月 21 日～ 5 月 29 日（ 9 日）	10 人	9 人	100%
	掘立柱建物・礎石建物遺構調査課程	6 月 9 日～ 6 月 13 日（ 5 日）	12 人	13 人	100%
	文化財写真Ⅰ(基礎)課程	7 月 7 日～ 7 月 23 日（17 日）	10 人	9 人	100%
	文化財写真Ⅱ(応用)課程	7 月 23 日～ 8 月 6 日（15 日）	10 人	6 人	100%
	鉄製武器類調査課程	10 月 6 日～10 月 10 日（ 5 日）	10 人	13 人	100%
	遺跡測量課程	10 月 20 日～10 月 31 日（12 日）	12 人	5 人	100%
	遺跡地図情報課程	11 月 18 日～11 月 21 日（ 4 日）	16 人	15 人	100%
	自然科学的年代決定法課程	12 月 1 日～12 月 5 日（ 5 日）	12 人	6 人	100%
	中近世城郭調査整備課程	12 月 11 日～12 月 18 日（ 8 日）	20 人	29 人	100%
	報告書作成課程	1 月 14 日～ 1 月 23 日（10 日）	16 人	23 人	100%
	寺院遺跡調査課程	2 月 2 日～ 2 月 6 日（ 5 日）	12 人	16 人	100%
	生物環境調査課程	2 月 17 日～ 2 月 25 日（ 9 日）	12 人	8 人	100%

計 14 課程　実施日数 139 日　受講者数/定員数 170 人/174 人　満足度 100%

【実績値】
実施課程数　14 課程（一般研修 1 課程、専門研修 13 課程）
受講者数　170 人　（一般研修 12 人、専門研修 158 人）
受講者の満足度　100%


中近世城郭調査整備課程講義風景

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 7215-00

自己点検評価調書

研究所 No84

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性		
判定	A	A	A	A		

備考
適時性：研修の需要・必要性、公共性、緊急性への対応
独創性：研修内容のオリジナリティ、新規性、卓越性
発展性：発掘・保存・整備等に関する技術の全国的な水準向上
効率性：時間的投資、人的投資、設備的投資上の効率性

2．定量的評価

観点	研修実施回数	受講者数	受講者の満足度			
判定	A	A	A			

備考
実施課程数　14 課程
受講者数　170 人
受講者の満足度　80%以上

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本年度の埋蔵文化財担当者研修は、当初予定した課程を全て実施している。受講者は、当初予定した受講者数をほぼ満たす受講者となった。また、それら受講者に対し、アンケートをした結果、全ての受講者が、「有意義であった。」「役に立った。」と思っている回答を得ている。これらのことから、総合的に判定し、Ａと判定した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	当年度は計画どおり 14 課程の研修を実施し、受講者数は、年度計画の 174 人に対し 170 人であった。 研修受講者に対するアンケートでは、「今回受講した研修が『有意義だった』或いは『役に立った』」と『思う』との回答が 100%という結果であった。 研修の実施に当たっては、各課程の企画・運営について研修企画委員会を開催し、前回実施した研修結果の分析及び研修終了者のアンケート結果を基に、カリキュラム編成に係る意見交換を行い、研修内容の充実に努めており、今後も同様に対応していきたい。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 7225-00
（様式 1）

業務実績書

研究所 No85

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	博物館・美術館等保存担当学芸員研修（(2)-②）

【事業概要】
近年、全国の博物館や美術館など文化財保存施設の多くにおいて、資料保存を担当する職員が配置されているが、専門教育を受けたものは少なく、また学ぶ機会も多くはないのが現状である。当研修は、資料保存担当者に、自然科学的見地からの文化財保存に関する基礎的かつ幅広い知識や技術を講義および実習を通じて学んでいただき、その資質の向上をもって文化財の保護に資することを目的とし、開催するものである。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	保存修復科学センター長　石﨑武志

【スタッフ】
佐野千絵、早川泰弘、木川りか、吉田直人、犬塚将英（保存修復科学センター）

【主な成果】
第 25 回保存担当学芸員研修および保存担当学芸員フォローアップ研修を実施し、どちらも高い満足度を得た。

【年度実績概要】
昭和 59 年度の開始以来 25 目となる「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」を平成 20 年 7 月 14 日から 7 月 25 日の 2 週間実施した（参加者 29 名）。前半週では主に保存環境や生物被害対策に関する講義と実習を行い、後半週では、文化財の種類ごとの劣化と修復に関する講義を中心とするカリキュラム構成で研修を行った。保存環境実習の現場実践として行う「ケーススタディ」は埼玉県立歴史と民俗の博物館で実施し、4 人ないし 3 人のグループがそれぞれ実習テーマを設定し、温湿度や害虫管理などに関して調査を行った。さらにその結果の発表と質疑応答を行った。この研修により、受講生は、資料保存に対する科学的な知識と方法論を習得した。

また、受講経験者を対象に、最新の保存技術に関する研究成果などに関する情報提供を目的として行う「保存担当学芸員フォローアップ研修」を 6 月 2 日に実施した（参加者 65 名）。今回のフォローアップ研修では、シミュレーションによる文化財施設の温湿度解析、殺虫剤であるジクロロボスの使用についての知見、カビ対策マニュアルについての報告をそれぞれテーマとして取り上げた。これらは、保存環境についての最新の情報であるため、参加者の関心を集め、活発な質疑応答が行われた。

【実績値】
実施回数　1 回
研修受講者数　29 名
受講者の満足度　100%　（アンケート回収率　97%）

【備考】
１．　学芸員研修応募要綱
２．　フォローアップ研修プログラム

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 7225-00
（様式 2）

自己点検評価調書

研究所 No85

1．定性的評価

観点	適時性	継続性	発展性	正確性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2．定量的評価

観点	研修参加者数	参加者満足度				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	講義実習内容に対する受講生からの評価が高く、実施後のアンケートでもほぼ全員から満足しているとの回答を得た。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	準備段階から実施まで計画通りに進行した。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 7235-00
（様式 1）

業務実績書

研究所 No86

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	連携大学院教育　東京藝術大学：システム保存学（保存環境学、修復材料学）((2)-③)

【事業概要】
　1995（平成 7）年 4 月より東京芸術大学大学院と連携して大学院教育を行い、21 世紀の文化財保存を担う人材を育成している。システム保存学教室は、文化財の保存環境を研究する保存環境学講座と保存修復に用いる材料について研究する修復材料学講座の二講座から成っている。
各講座 3 名ずつの研究所員が連携教員として研究教育指導に当たっている。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	センター長　石﨑　武志

【スタッフ】
　石﨑武志、佐野千絵、木川りか、川野邊渉、中山俊介、北野信彦（以上、保存修復科学センター）、鈴木規夫（所長）、松島朝秀（平成 20 年 7 月 15 日まで）、間渕創（平成 20 年 7 月 16 日より）（東京芸術大学非常勤助教）

【主な成果】
　次に上げる講義と演習を各教官が担当した。文化財保存学演習（木川）、保存環境計画論（佐野）、保存環境学特論（石崎、木川）、修復計画論（川野邊）、修復材料学特論（中山、北野）

【年度実績概要】
　次に上げる講義と演習を各教官が担当した。
　文化財保存学演習（木川）、保存環境計画論（佐野）、保存環境学特論（石崎、木川）、修復計画論（川野邊）、修復材料学特論（中山、北野）
　保存環境学計画論では、文化財を劣化させる熱・水分・光・汚染空気・生物などが文化財の材質にどの様な影響をあたえるか劣化を防ぐにはどうすれば良いか、また文化財の公開に関する法規制等の講義を行った。
　保存環境学特論では、博物館展示室や収蔵庫などの室内におかれた文化財や、屋外に展示されている文化財の保存方法について、主に温湿度の制御や生物被害対策の最新の研究成果を中心に講義、実習を行った。
　修復計画論では、合成樹脂の文化財への応用についてのこれまでの使用例を解説する講義と、合成樹脂を実際に用いて基礎的な実験を行い、その特性について学ぶ実習を行った。
　修復材料学特論では、近代文化遺産の保存科学と文化財資料の保存修復作業およびそれに伴う各種分析等についての講義を行った。

【実績値】

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 7235-00

自己点検評価調書

研究所 No86

1．定性的評価

観点	発展性	効率性	継続性			
判定	A	A	A			
備考						

2．定量的評価

観点						
判定						
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	研究現場から得られる新しい情報を加えるなど、学生にとって有益で高い水準の内容の授業や演習を行うことができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	年度当初に予定した授業・演習計画通り、事業は進捗した。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 7235-01
（様式 1）

業務実績書

研究所 No87

中期計画の項目	7　地方公共団体等への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進　((2)-③)

【事業概要】
京都大学大学院人間・環境学研究科及び奈良女子大学大学院人間文化研究科と協定を締結、連携・協力し、文化財保存・活用に関する幅広い知識と高度な技術を兼ね備えた次代の研究者及び技術者の育成を図る。

【担当部課】	奈良文化財研究所	【プロジェクト責任者】	所長　田辺征夫

【スタッフ】
山中敏史、松村恵司、肥塚隆保、松井章（京都大学客員教授）窪寺茂、大河内隆之（京都大学客員准教授）小林謙一、渡邉晃宏（奈良女子大学客員教授）次山淳（奈良女子大学客員准教授）

【主な成果】
京都大学大学院人間・環境学研究科において 6 名（遺跡調査法論、考古資料分析論、建築遺構分析論、保存科学論、環境考古学論、年輪年代学論）、奈良女子大学大学院人間文化研究科において 3 名（日本考古学の諸問題、歴史資料論、歴史考古学特論）が客員教授・准教授として担当。平成 20 年度の受入学生数は京都大学 12 名であった。

【年度実績概要】
京都大学大学院人間・環境学研究科における平成 20 年度の実施状況については下記のとおりである。
①山中敏史（遺跡調査法論）
各種遺跡の発掘調査や研究例の検討作業を通じて、遺跡の調査研究法を学ぶとともに、政治的・社会的環境の歴史的展開の実態を追究する方法を考究した。
②松村恵司（考古資料分析論）
遺跡から出土する考古遺物が内包する諸属性の分析方法を学ぶとともに、歴史像復原に向けた考古資料の有効性と限界性について考究した。
③窪寺茂（建築遺構分析論）
近世以前に建設された寺院、神社、住宅系の建築遺構に見られる建築的特質を、建築史や文化史の側面から把握し分析する方法を考究した。
④肥塚隆保（保存科学論）
文化財資料の科学的調査、特に対象物の特殊性を考慮した非破壊分析手法とその解析手法について考究した。
⑤松井章（環境考古学論）
考古遺跡から出土する貝殻や骨・種子などの動植物遺体の研究を通じて、人間と自然との相互作用、動植物利用の歴史、古環境の復元などについて考究した。
⑥大河内隆之（年輪年代学論）
年輪年代学の原理と方法、学史、関連する諸学との関わり、応用事例などについて考究した。

【実績値】
受入学生数　京都大学　修士・博士課程 11 名　研究生 1 名

【備考】
教官研究費及び学生の教育費は連携大学が支出

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 7235-01

自己点検評価調書

研究所 No87

1．定性的評価

観点	効率性	適時性	発展性			
判定	A	A	A			

備考
効率性：研究水準の社会的評価
適時性：時代の要請
発展性：若手研究者層の充実、人材確保

2．定量的評価

観点	受入学生数					
判定	A					

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財保存・活用に関する幅広い知識と高度な技術を兼ね備えた人材の育成を順調に行うことができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	連携大学との協定に基づき、計画的かつ継続的に実施している。

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8000-01
（様式 3）

業務実績書（受託事業）

研究所 No　7-1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	平成 20 年度京都府近代和風建築総合調査事業（受託）（(1)②オ）		
【担当部課】	文化遺産部	【事業責任者】	建造物研究室長　窪寺茂

【スタッフ】
清水重敦、窪寺茂、粟野隆［以上、文化遺産部］、島田敏男、箱崎和久、黒坂貴裕、大林潤、番　光、高橋知奈津［以上、都城発掘調査部］、西田紀子［企画調整部］

【年度実績概要】

本受託事業では、京都府内に所在する明治から昭和初期にかけて建設された文化財的価値を有する近代和風建築のうち、京都府近代和風建築総合調査委員会において選定された 57 件の物件につき、その歴史調査、実測調査、技法調査、写真撮影を実施し、配置図及び平面図の作成と文化財としての学術評価を行った。また、その成果を平成 19 年度に当研究所において実施した受託事業「平成 19 年度京都府近代和風建築総合調査事業」の成果と合わせて調査報告書の原稿としてまとめ、今年度の調査票と合わせて京都府教育委員会に提出した。報告書の出版業務は、京都府教育委員会による直接執行である。

調査では、京都市、宮津市、福知山市、亀岡市、南丹市、向日市、宇治市、京田辺市、木津川市、井手町、和束町、精華町の各市町村に所在する近代和風建築を現地調査した。建築類型の上では、住宅建築として町家、農家、邸宅、郊外住宅、集合住宅、寮を、宗教建築として寺院、神社を、商業建築として旅館、揚屋を、その他として町並みと、多岐にわたる対象を調査した。



松殿山荘の建築（宇治市木幡）
本事業により京都府内の近代和風建築の多様さが具体的に示されたが、この建築は造形、規模、思想いずれをとっても他に類をみない独自性を持つ。

調査の結果として、これまで不明瞭であった京都府における近代和風建築の現存状況と、建築類型の広がりの幅が明らかになったこと、近代和風建築の技術の具体相が明らかとなったこと、近代和風建築に関わった施主、設計者、施工者の具体名が多数明らかとなり、近代京都における建築事情が解明されたこと、があげられる。京都府における近代和風建築は、質、両ともに関東周辺のそれと双璧をなす位置にあり、その具体相を解明した本調査は、京都府に留まらず、日本全体における近代和風建築の研究と保存に対して多大な貢献をなす成果を上げ得たものと考える。

【実績値】
調査票 150 枚、実測野帳 225 点、デジタル写真 7300 点、報告書原稿 687 ページ。

【受託経費】
875 千円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8000-02

（様式 3）

業務実績書（受託事業）

研究所 No15-1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	平城京右京三条一坊八坪（第 448 次）の調査（受託）（(1) ⑤ア）		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	副所長　山崎信二

【スタッフ】

林　正憲、難波洋三、馬場　基、高橋知奈津、鈴木智大［以上、都城発掘調査部］

【年度実績概要】

本調査は平城京遷都 1300 年祭にともなう平城京歴史館（仮称）建設に際する事前調査である。調査面積は 1100 ㎡で、調査期間は平成 21 年 1 月 6 日から 3 月 25 日（予定）である。

調査区中央において建築廃材等を大量に投棄した池を検出した。これは 1929 年に当該地に設けられた競馬場に関連する施設である可能性が高い。出土した廃材は、戦時中に存在していた興亜機械工業の建築廃材と考えられる。埋め立てたのは興亜機械工業接収後、基地施設を造営した米軍であろう。なお、この池はさらに西側に広がっていた昭和以降の大きな池を一部埋め立てて造られている。

したがって、調査区内で検出された奈良時代の遺構面は、調査区東側と北側にわずかに残されている状況であった。

東側では、L 字状の溝とその周囲に広がる瓦溜まりを検出した。L 字状の溝の内側では整地土が確認されるのみで、遺構等は検出されなかった。このことから、溝は基壇外装の抜取で、整地土上面に基壇建物が存在していたものと類推される。

北側でも瓦溜まりが検出されたが、東側に比べて土器の出土量が多いため、性格の異なるものと考えられる。遺構等で特に顕著なものはなかった。

出土した瓦から、今回検出した遺構面は奈良時代後半のものと考えられる。念のため、奈良時代前半の遺構面を探したが、検出されなかった。

なお、池の底からは弥生～古墳時代の流路が確認されている。

【実績値】

林　正憲「平城京右京三条一坊八坪（第 448 次）の調査」『奈良文化財研究所紀要 2009』

【受託経費】

31,748 千円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8000-03
（様式 3）

業務実績書（受託事業）

研究所 No16－1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	「平成 20 年度　大和紀伊平野農業水利事業（二期）団体営飛鳥 2 工区（縄手線）改修工事」に伴う埋蔵文化財発掘調査（受託）（(1)⑤ア）		
【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【事業責任者】	都城発掘調査部長　松村恵司

【スタッフ】
豊島直博、黒坂貴裕、青木　敬、市　大樹、石田由紀子［以上、都城発掘調査部］、山崎　健［埋蔵文化財センター］、井上直夫、岡田　愛［以上、企画調整部］

【年度実績概要】
本調査は、近畿農政局による農業用水路の改修に伴う事前の発掘調査である。調査地は、奈良県橿原市縄手町のＪＡ橿原市鴨公支店駐車場内に位置し、藤原宮の内裏西官衙地区に相当する。発掘調査は、分水溝の新設区間の形状に合わせ、東西の最大幅 8m、南北 20m、総面積は 62.5 ㎡、調査期間は 2008 年 12 月 1 日から 12 月 15 日までである。

調査区内では、藤原宮の造営に伴う整地土はすでに削平されていたが、弥生時代と古墳時代の土器を含む堆積土の上面で、溝 2 条と土坑 1 基を確認した。溝はいずれも東西方向に流れ、幅約 1.2m。北側の溝は後述する土坑によって壊されている。南側の溝は深さ約 30 ㎝である。2 本の溝は並行し、心々間距離は約 7m である。過去の調査所見から、藤原宮の先行条坊、四条条間小路の道路側溝と考えられる。溝からは遺物が出土しなかった。土坑は東側部分が調査区外に続き、確認した大きさは東西約 3m、南北 2.4mの楕円形、深さは約 50 ㎝である。中世の羽釜の破片が出土した。本調査区では、四条条間小路の両側溝を確認したものの、藤原宮に関連する建物跡は認められなかった。藤原宮内の西北部にあたり、建物の希薄な場所であることが判明した。宮内の建物配置や空間利用を知る上で、重要な成果が得られた。

また、上記発掘調査区周辺にて、2008 年 11 月 25 日から工事立会を行った。水路管の埋設経路に合わせて総延長約 110m、幅約 1.5m、総面積約 165 ㎡が対象となったが、新設区間は総延長 30m で、その他は既設管の取り替えである。土層及びその年代については上記発掘調査所見と同様であり、立会において遺構は確認されなかった。

出土遺物は、コンテナ 2 箱程度で、瓦類、須恵器、土師器、弥生土器などがある。

【実績値】
論文等数 1 件　豊島直博「内裏西官衙地区の調査－第 152-6 次」『奈良文化財研究所紀要 2009』2009.6
出土品　軒瓦 1 点、丸平瓦 1 箱、土器 1 箱など
記録作成数　実測図　6 枚、写真（4×5）　4 枚

【受託経費】
734 千円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8000-04
（様式 3）　　業務実績書（受託事業）

研究所 No16－2

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	特別史跡藤原宮跡（別所町南北水路）発掘調査（受託）（(1)⑤ア）		
【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【事業責任者】	都城発掘調査部長　松村恵司

【スタッフ】
木村理恵、丹羽崇史、箱崎和久、若杉智宏、加藤雅士［以上、都城発掘調査部］、井上直夫、岡田　愛［以上、企画調整部］

【年度実績概要】
本調査は、農業用水路の改修工事に伴うものであり、橿原市教育委員会の委託を受けて実施した。調査地は、別所集落の北方を北流する水路と重複し、昨年度実施した第 149-10 次調査区から道路を隔てた南延長上に位置する。この地点は、藤原宮跡の東南部にあたり、朝堂院東地区とよばれ、官衙域が想定されている。
調査の結果、調査地の南部では、藤原宮南面大垣の柱穴 1 基、及び内濠・外濠を検出した。また、内濠のすぐ北側で、1 辺約 1.5m の掘形をもつ柱穴を検出しており、宮の南限施設の様相を知るうえでの手がかりが得られた。調査区は、長さ約 100m・幅約 2m、調査面積はおよそ 200 ㎡である。調査期間は、2009 年 1 月 13 日～2 月 16 日。



調査区全景（南東から）

【実績値】

論文等数 1 件	木村理恵「朝堂院東地区の調査―第 152-7 次」『奈良文化財紀要 2009』2009.6
出土品	軒瓦 1 点、丸平瓦 16 箱、土器類 5 箱、銭貨 2 点、など
記録作成数	遺構実測図 14 枚、写真（4×5）20 枚

【受託経費】
3,900 千円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8000-05
（様式 3）

業務実績書（受託事業）

研究所 No19－1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	平城京跡　興福寺旧境内（第 450 次）の調査（受託）（(1) ⑤イ）		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	副所長　山崎信二

【スタッフ】
加藤雅士、今井晃樹、大林潤、国武貞克、鈴木智大、渡辺晃宏［以上、都城発掘調査部］

【年度実績概要】
この調査は商業施設建設に伴うもので、調査地は平城京跡左京三条六坊十二・十三坪、興福寺旧境内（果園・園地）、奈良町遺跡にあたる。調査面積は、東西約 10m南北約 2mの約 20 ㎡である。

調査の結果、北東の一部が現代の攪乱を受けている以外は、近世の包含層が良好な状態で残っていた。遺構は一部中世のものを含むが、多くは近世以降のものである。

検出した主な遺構としては、地山上で検出し鎌倉時代の土師器が出土した土坑 SK01、同じく地山上で検出した円形の柱穴と見られる土坑 SK03、下層包含層上面で検出した多量の炭・焼土が詰まり、近世の土器を含む廃棄土坑 SK04、上層包含層中で検出した甕を倒立させて埋めた水琴窟遺構とみられる SX01、上層包含層中で検出した落ち込み状遺構 SX02 などがある。

敷地内には調査の直前まで年代不明の町屋が空家の状態で建っていた。調査地はこの町屋の収益棟や主屋の土間部分に当たる。今回これに直接関係する遺構は確認できなかったが、廃棄土坑や水琴窟遺構など、町屋の暮らしを彷彿とさせる遺構や遺物の一端を明らかにすることができた。

なお、東六坊坊間東大路とその東西両側溝は、削平されたとみられ、確認できなかった。

特記すべき遺物には、廃棄土坑 SK02 から出土した底部外面に「市宅」と書かれた古代の墨書土器Ａがある。



全景（東から）

【実績値】
論文　加藤雅士「興福寺旧境内（平城第 450 次）の調査」『奈良文化財研究所紀要 2009』（予定）
出土品　瓦磚類 8 箱、土器類 7 箱、焼土・金属類 1 箱
記録作成　実測図 1 枚、4×5 写真 3 枚

【受託経費】
399 千円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8000-06
（様式 3）

業務実績書（受託事業）

研究所 No19－2

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	薬師寺（第 451 次）の調査（受託）((1) ⑤イ)		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	副所長　山崎信二

【スタッフ】
林　正憲、難波洋三、馬場　基、高橋知奈津、鈴木智大［以上、都城発掘調査部］

【年度実績概要】
本調査は平成 20～22 年度にわたる薬師寺防災施設敷設工事に伴う事前調査である。
今年度の敷設工事は基本的に既設配管沿いに行われるため、発掘調査は新規掘削部分においてのみ行うこととした。
具体的には、回廊南東隅の箇所と、若宮社西側の避雷針設置箇所である。調査面積は約 6 ㎡である。回廊東南隅部分トレンチでは、既設の電線・水道管等のため、掘り下げができた部分は極めて狭いが、現地表下約 1．4mで旧調査時遺構検出面を確認した。遺構は確認していない。若宮社西側トレンチでは、平安時代～現代の整地層を確認し、中世の礎石らしき石とその据え付け穴を現地表下約 1．2mで、奈良時代の遺物包含層を現表下約 1．8mで確認した。安全上の理由等によりそれ以上の掘り下げはできず、奈良時代の遺構は確認できなかった。





【実績値】
出土品　瓦磚類 4 箱　土器類 1 箱
記録作成　実測図 2　4×5 写真 6 枚
論文　　なし

【受託経費】
195 千円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8000-07
（様式 3）

業務実績書（受託事業）

研究所 No20-1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区檜隈寺跡周辺遺跡発掘調査（受託）((4) ②)		
【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【事業責任者】	都城発掘調査部長　松村恵司

【スタッフ】
関広尚世、石田由紀子、若杉智宏、次山　淳、小田裕樹、黒坂貴裕、市　大樹、豊島直博、青木　敬、箱崎和久、丹羽崇史、木村理恵［以上、都城発掘調査部］、井上直夫、岡田　愛［以上、企画調整部］

【年度実績概要】
本調査は、国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区の整備事業に関わる事前調査である。調査地は、明日香村南西部にあり、南東から北西に派生する丘陵上に位置する。この丘陵には、渡来系氏族である東漢氏の氏寺と考えられる檜隈寺が所在する。今年度は、檜隈寺周辺における遺構の存在状況を確認するために、南北約 380m、東西約 150mの範囲に 12 カ所の調査区を設け、発掘調査を実施した。調査期間は、2008 年 7 月 1 日～2009 年 3 月 18 日。調査面積は、計 1630 ㎡である。

第 1・2 調査区は、中世以降の耕作によって古代の遺構は大きく削平されていた。第 3 調査区では、谷地形を調査区壁面で確認し、檜隈寺講堂北側の平坦地がこれらの谷を埋め立てて造成されていることが判明した。第 4 調査区も、大部分が中世以降の耕作によって削平を受けていたが、調査区北端で人頭大の礫が落とし込まれた土坑 1 基を検出した。第 5 調査区では、耕作溝や瓦器の入るピット群と、 掘立柱建物の東西 3 間×南北 2 間分、柵列 1 条を検出した。 第 6 調査区では、調査区西側で耕作溝、調査区中央壁面で土坑 2 基を確認した 。第 7 調査区も、中世の耕作による削平が著しく、調査区北東部で 3 基の柱穴を検出した他は、顕著な遺構は確認できなかった。第 8 調査区は、檜隈寺金堂西側にある南北道路により東区と西区に分かれる。東区内は、檜隈寺金堂の下成基壇の南西隅部分にあたるものの、基壇外装に用いられた玉石は抜き取られ、基壇も大部分が削平されていた。西区は、檜隈寺の回廊推定部分にあたるが、後世の削平が著しく、中世の掘立柱建物と塀が検出されたほかは、古代に関わる遺構は認められなかった。第 9 調査区では、土坑 4 基を確認し、第 10 調査区では、古代の溝 1 条と土坑 2 基を検出した。第 11・12 調査区では、中世の耕作による削平のため古代に関わる遺構は認められなかった。

【実績値】
論文等数 1 件　関広・石田・若杉ほか「檜隈寺周辺の調査-第 155 次」『奈良文化財研究所紀要 2009』2009.6
出土遺物　　軒瓦 37 点、丸・平瓦 111 箱、土器 10 箱、金属製品 37 点、石製品 9 点など
記録作成数　　遺構実測図 133 枚、写真（4×5）　75 枚

【受託経費】
28,297 千円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8000-08
（様式 3）

業務実績書（受託事業）

研究所 No22-1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	琴ノ浦温山荘園庭園調査（受託）（(1) ⑤エ）		
【担当部課】	文化遺産部	【事業責任者】	景観研究室長　内田和伸

【スタッフ】
小澤毅（考古学）［埋蔵文化財センター］、清水重敦（建築史）、粟野隆（庭園史）［以上、文化遺産部］、高橋知奈津（庭園史）［都城発掘調査部］、中村一郎（写真）［企画調整部］

【年度実績概要】

本調査は、和歌山県海南市に所在する近代の和風庭園「琴ノ浦温山荘園」について、名勝として国指定を目指すための基礎的調査であり、財団法人琴ノ浦温山荘園から受託調査研究（単年度事業）として実施したものである。

調査対象は現在公開されている庭園部分（約 48000 ㎡）とし、庭園の全体構成（主屋の東と西に展開する池泉庭等）及び細部意匠（池泉護岸、飛石技法等）、植栽（木本・草本類あわせて 74 種）、建築（3 棟）、工作物類（門 5 棟、石灯籠 21 基、石塔 2 基等）について、その特徴を明らかにした。

また、財団法人琴ノ浦温山荘園が別途行っている地形測量の図面監修もあわせて実施し、地物（庭石・池泉、園路、植栽、建築等）の現地照合作業に基づく測量平面図の加筆・修正、庭園水面部分（約 8700 ㎡）のレベル測量を実施した。測量平面図に関しては、縮尺別（1/100、1/400、1/800、1/1200）に全体調整を行った。あわせて、ニッタ株式会社及び財団法人琴ノ浦温山荘園に所蔵されている図面類、古写真、造営記録を中心とした資料整理を実施し、特に重要なものは大判写真撮影を行った。そして本庭園は黒江湾の海水を取水した「潮入の庭」であることから、国内の歴史的庭園における潮入の庭 10 例を収集し、立地・水源、水面の規模・構成に関して分析・考察を実施するとともに、温山荘園の造園史的位置づけを行った。さらに本庭園にはモルタル製の擬石・擬木が池泉護岸や飛石、階段土留め、庭園家具等に異様なほどふんだんに使用されていることから、近代日本の庭園・公園におけるコンクリート利用の歴史、擬石・擬木を利用した近代の庭園・公園事例を収集し、温山荘園の造園史的な位置づけ・評価を行った。

以上の学術的な調査・研究を本調査では実施するとともに、本庭園の保存・活用に関して、管理活用体制、企画・展示・情報発信、維持管理・修理・修景、植栽管理などの点について、優先的に取り組んでいくべき課題と対応策を示した。

これらの成果は『琴ノ浦温山荘園庭園調査報告書』としてとりまとめた。


調査風景

【実績値】
調査面積（庭園）：約 48000 ㎡
調査棟数（建造物）：3 棟
同定植栽種：74 種、調査工作物類（門 5 棟、石灯籠 21 基、石塔 2 基等）
監修図面：1/100 平面図 45 枚、1/400 平面図 1 枚、1/800 平面図 1 枚、1/1200 平面図 1 枚
調査写真：400 カット、大判写真 35 カット
刊行図書数：1 件　（財団法人琴ノ浦温山荘園『琴ノ浦温山荘園庭園調査報告書』2009．3）

【受託経費】
1,880 千円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8000-09

（様式 3）

業務実績書（受託事業）

研究所 No30－1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	胡桃館遺跡詳細分布調査（受託）（(2) ③イ）		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	主任研究員 金田明大

【スタッフ】
小澤毅［埋蔵文化財センター］、西村康、西口和彦［以上、奈文研客員研究員］

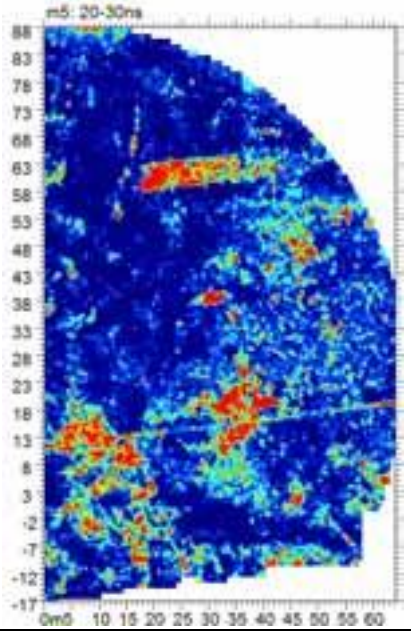
【年度実績概要】

胡桃館遺跡は平安時代の集落遺跡として著名であり、特に十和田火山灰の土石流による埋没家屋の存在は、全国的に注目されている。

北秋田市教育委員会は、本研究所と連携して、出土文字資料及び建築部材の調査を実施してきた。しかし、遺跡の範囲や遺構配置が不明なため、今回、物理探査手法を用いた探査を実施することになった。探査を要する範囲はきわめて広大であり、複数年の実施が予定されている。

20 年度は、2 回の現地作業を実施した。まず 7 月は、遺跡の中心部分と考えられている水田が耕作のため探査ができない状況にあり、本遺跡の探査に有効な方法の検討と、すでに遺構が明らかになっている箇所における反応の検討を主眼として、既調査地および野球場の探査を行った。この結果、既調査地の反射は発掘の影響もあり明瞭ではないが、野球場からは平面方形の反射が 3 ヵ所存在することが注目された。このうちの 2 ヵ所は隣接して一列に並んでおり、規模のうえからも埋没家屋の可能性が指摘できる。あわせて、探査手法としては GPR（地中レーダ）が有効であることが判明した。

11 月の調査では、水田部分の探査を行い、複数の異常を明らかにすることができた。これらは方形の平面をもつもので、聞き取り調査による木材の出土地点に近いことが注目される。今後、これらの成果をさらに分析したのち、確認調査を行って、成果の検証と遺跡範囲や遺構配置の検討に進みたい。



レーダ探査成果（A 地点）

【実績値】
探査面積： 12,974 ㎡
探査地点： 9 地点
概要報告作成： 1 件

【受託経費】
2,077 千円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8000-10

（様式 3）

業務実績書（受託事業）

研究所 No30－2

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	福岡県筑紫郡那珂川町安徳台遺跡群のレーダー及び磁気探査（受託）((2) ③イ)		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	主任研究員 金田明大

【スタッフ】
小澤毅［埋蔵文化財センター］、西村康、西口和彦［以上、奈文研客員研究員］

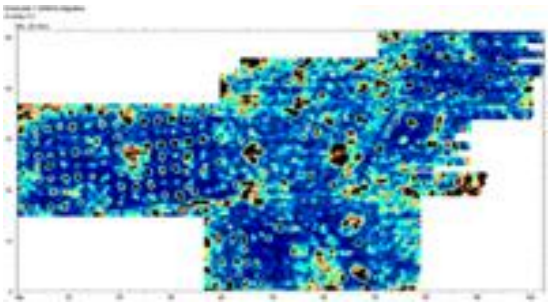
【年度実績概要】

安徳台遺跡（福岡県）は、弥生時代から中世にいたる集落・墓地・居館が確認されている複合遺跡である。なかでも弥生時代の大型甕棺・竪穴建物の存在で著名であるが、その範囲と詳細な遺構配置の把握が課題となっていた。

史跡の整備を視野に入れ、安徳台遺跡の保護を進めてきた那珂川町教育委員会の委託を受けて、このたび奈良文化財研究所埋蔵文化財センターでは安徳台遺跡の総合探査を実施した。

その結果、本年度探査した 4 地点のうち、1 地点で甕棺の範囲を推定することができた。また、2 地点で直線的に並ぶ遺構と考えられる異常部を認め、データの検討により、その形状から甕棺の埋納や住居の存在の可能性が高いことを指摘した。そして、これらの成果を受けて那珂川町が実施した試掘調査により、竪穴住居を異常部に確認することができた。この結果、安徳台及びその周辺における遺構の詳細探査が、今回の手段で可能であることが判明した。

安徳台遺跡は広大な範囲に広がることが推定されており、今回、探査の有効性が確認されたことで、今後も他地点を含めた探査事業の継続を予定している。



安徳台 GPR 探査成果（III 地点）

【実績値】
探査面積： 18,246 ㎡
探査地点： 4 地点
概要報告作成： 1 件

【受託経費】
997 千円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8000-11
（様式 3）

業務実績書（受託事業）

研究所 No31-1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	伏見稲荷大社奥宮の年輪年代調査（受託）（(2) ④ ）		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	年代学研究室長　肥塚隆保

【スタッフ】
大河内隆之［埋蔵文化財センター］

【年度実績概要】

伏見稲荷大社奥宮の解体修理に際し、社殿造営の経緯を明らかにすべく、年輪年代法による調査を実施した。この調査では、伏見稲荷大社奥宮に使用されている建築部材の中から年輪数が約 100 層以上あると思われる化粧裏板 9 点を選定し、調査対象を奈良文化財研究所に輸送したうえで、マイクロフォーカス X 線 CT を用いて実施した。年輪幅の計測は、調査担当者らが開発した年輪画像計測ソフトウェアを用い、年輪年代測定は、主に近畿地方の建造物や考古資料などのデータを基に作成された暦年代の確定しているヒノキの標準パターンと照合することで行った。

年輪年代調査を実施した 9 点の化粧裏板のうち、8 点の年輪年代が確定した。それら 8 点の化粧裏板には、辺材の一部が残存するもの（以下、辺材型と称する）4 点、辺材部を欠く心材のみのもの（以下、心材型と称する）4 点が含まれていた。

辺材型の化粧裏板 4 点から 1580 年から 1593 年にかけての年代が得られたことにより、伏見稲荷大社奥宮の化粧裏板の原木伐採の時期は、1593 年を上限とする 16 世紀末ないし 17 世紀初頭頃と考えられる。また、年輪年代の確定した 8 点の化粧裏板のうち、少なくとも 6 点については、相互の年輪データの相関性がきわめて強いことから、それぞれ同一の原木に由来する蓋然性が高い。ゆえに、今回調査対象とした化粧裏板の用材調達は、一括のものであると考えられる。

以上の年輪年代調査により、伏見稲荷大社奥宮では、1593 年を上限とする 16 世紀末ないし 17 世紀初頭頃に、化粧裏板に手を加えるような大規模な造営が行われたことが明らかになった。ただし、この造営が、奥宮現社殿の建立であったのか、あるいは既存社殿の修理であったのかは、化粧裏板以外の建築部材の年輪年代情報が得られていないため、今回の調査結果からは判断することができない。

【実績値】
大河内隆之「伏見稲荷大社奥宮の年輪年代調査」『伏見稲荷大社奥宮修理工事報告書』伏見稲荷大社、2008

【受託経費】
208 千円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8000-12
（様式 3）

業務実績書（受託事業）

研究所 No32-1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	東名遺跡出土動物遺存体調査（受託）((2) ⑤)		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	環境考古学研究室長　松井　章

【スタッフ】
丸山真史［京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程］、永井理恵［京都大学大学院人間・環境学研究科博士前期課程］

【年度実績概要】
本年度の分析は、第一、第二貝塚出土の動物遺存体、破片数で 5,404 点にのぼる。そのうち種名と部位名まで同定できたのは、魚類 597 点、爬虫類 325 点、鳥類 15 点、哺乳類 2,337 点の計 3,274 点で、約 90%がイノシシとニホンジカが圧倒的多数を占める。そのほかにスズキ、ボラ科、スッポンなど、計 39 種類を同定することができた。

出土部位で最も多いのは鹿角である。鹿角は骨角器の素材として多用され、今回、いくつかの新知見を得ることができた。なかでも直径 1 ㎜ほどの細かな穴を多数連ね、幾何学紋様を施した装身具はこれまで知られておらず、縄文時代早期として、ほかに類を見ない優品である。以下に本遺跡の鹿角の加工技術について報告する。


鹿角製装飾品（径 1 ㎜程の列点文で幾何学的な文様を描く）

東名遺跡では、完形の鹿角も出土するが、多くは骨角器の素材を取るために割られ、なかでも枝角の分岐部が多い。加工痕には擦り切りと打ち割りの 2 種類があり、擦り切りは断面 U 字型もしくはその一部で、表面に微細な線状痕が多数観察できる。打ち割りは、鹿角の表面を連続して加撃し、整形したものである。なお、いずれの場合でも、加工部が髄（海綿状組織）に及ぶと、そこで折り取っている。

鹿角破片の形状と、その加工痕を観察した結果、素材として枝角の分岐部の幅広い部分を用い、その内外面の加工を同時に行ってから半截したことを明らかにできた。また、同様の素材から加工した例が複数あり、素材の選択から、整形、細部加工の工程に規則性が存在したことも判明した。

このほか、角座の裏面（前頭骨側）の残存状態から、約半数の出土例が落角を素材としていたことがわかった。鹿角の弾力性はそこに含まれる脂肪やタンパク質によるもので、落角となり風化が進むと、それらが急速に脱落して枯れ角状態となり、割れやすくなる。そのため、晩冬から春先の落角の季節には、意図的に落角の採集が行われたことを明らかにできた。

【実績値】
同定及び計測を行い分析した動物骨： 5,404 点

【受託経費】
1,530 千円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8000-13
（様式 3）

業務実績書（受託事業）

研究所 No37－1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	長野県千曲市社宮司遺跡出土の六角木幢保存修復業務委託（受託）((3) ④)		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	保存修復科学研究室長　高妻洋成

【スタッフ】
降幡順子［都城発掘調査部］、脇谷草一郎［企画調整部］

【年度実績概要】
長野県社宮司遺跡より出土した六角木幢の 5 ヵ年にわたる保存処理研究受託事業の最終年度である。この六角木幢は全国でも出土例がなく、宝珠、笠、幢身、風招・風鐸に用いられている材は樹種が異なっている。また、幢身には、彩色を失いつつも仏画がわずかな凸線としてかろうじて残存している。保存処理指導委員会では、この六角木幢を真空凍結乾燥法により保存処理することが決定され、保存処理が本研究所に委託された。本年度は、六角木幢の真空凍結乾燥処理をすべて終了し、すべての遺物を返却した。また、5 ヵ年にわたる保存処理研究について報告書を作成した。



六角木幢の宝珠部分（保存処理後）

【実績値】
報告書作成： 1 件

【受託経費】
500 千円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8000-14
（様式 3）

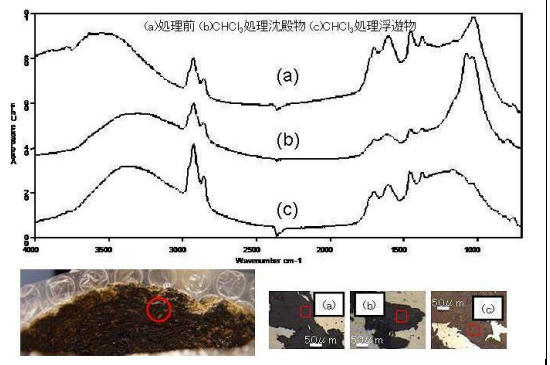
業務実績書（受託事業）

研究所 No37－2

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	秋田県漆下遺跡出土漆関連遺物分析調査（受託）((3) ④)		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	保存修復科学研究室長　高妻洋成

【スタッフ】
降幡順子［都＠城発掘調査部］、脇谷草一郎［企画調整部］

【年度実績概要】
秋田県漆下遺跡より出土した土器には、漆と思われる暗褐色ないし黒色の物質が付着ないしは塊状に残存している。これらの漆に関連すると思われる遺物について、縄文時代の漆工技術の一端を明らかにすることを目的に、種々の調査分析を行った。本年度は 2 ヵ年にわたる受託研究の第 2 年度であり、FT-IR 分析と顕微鏡観察を実施した。その結果、FT-IR 分析におけるクロロホルムへの溶解性の違いから、漆関連遺物に付着している物質が、漆のみ、アスファルトのみ、漆とアスファルトの混合物の 3 種に分かれることが明らかとなった。今後、アスファルトをどのように混合させたのかなどについて検討をおこなう必要がある。



漆下遺跡出土黒色物質の FT-IR 分析

【実績値】
報告書作成： 1 件

【受託経費】
530 千円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8000-15
（様式 3）

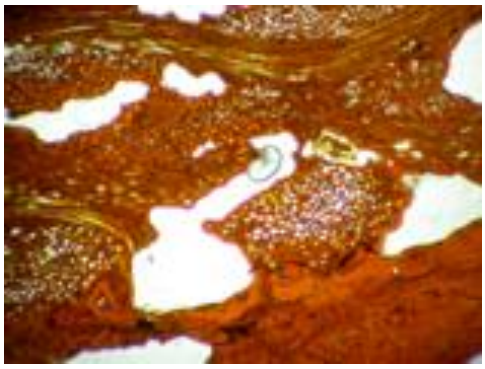
業務実績書（受託事業）

研究所 No37－3

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	重要文化財奈良県黒塚古墳出土品事前調査並びに保存修理（受託）((3) ④)		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	保存修復科学研究室長　高妻洋成

【スタッフ】
降幡順子［都城発掘調査部］、脇谷草一郎［企画調整部］

【年度実績概要】
奈良県黒塚古墳より出土した遺物は、国の重要文化財に指定されている。このうち、青銅鏡についてはすでに保存処理が終了しているが、鉄製品についてはまだ保存修理がなされていない。奈良文化財研究所では平成 19 年度から同古墳出土の鉄製品の事前調査並びに保存修理を受託している。保存修理に際しての事前調査では、X 線 CT スキャンから、サビで塊状となった状態で刀剣類の残存状況を明らかにした。また、実体顕微鏡観察や X 線 CR 法による透過撮影像から、多くの遺物の表面に布などの繊維製品の痕跡が存在することが明らかとなり、これらの痕跡について詳細な調査を進めた。その結果、それぞれの繊維について、撚糸、織構造、漆塗装などの材質的特徴と構造的特徴に関する知見が得られ、ヤリの刃部の結索の技法、剣の柄の布の巻き方などを明らかにすることができた。保存修理にあたっては、これらの繊維痕跡の情報を欠失しないよう、実体顕微鏡下において慎重にクリーニングを実施し、アクリル樹脂含浸などにより安定化を図った。



剣の柄に巻かれている繊維痕跡の断面顕微鏡写真

【実績値】
報告書作成： 1 件

【受託経費】
18,000 千円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8000-16

（様式 3）

業務実績書（受託事業）

研究所 No37－4

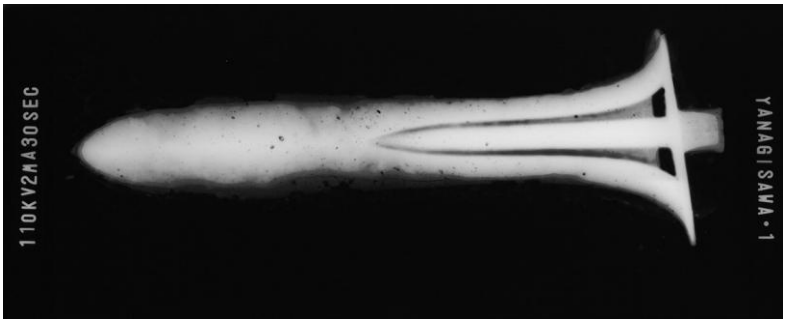
中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	長野県中野市柳沢遺跡出土の青銅器保存修復業務委託（受託）((3) ④)		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	保存修復科学研究室長　高妻洋成

【スタッフ】

降幡順子［都城発掘調査部］、脇谷草一郎［企画調整部］

【年度実績概要】

長野県中野市柳沢遺跡は、銅戈 7 本が埋納状態で発見されるという、全国でもきわめて類例の少ない遺跡である。同遺跡では、これらの銅戈に加え、銅鐸も出土している。銅戈は大阪湾型が 6 本に九州型が 1 本という構成で、特に中国地方よりも東で九州型の銅戈が出土した例としては初めてである。奈良文化財研究所では、これらの銅戈・銅鐸を良好な状態で保存するため、種々の事前調査を通じて、適切な保存修理を行うための受託研究を実施している。20 年度は、銅戈 3 本について事前調査と保存修理を行った。銅戈の事前調査では、X 線 CT スキャン、X 線透過撮影、蛍光 X 線元素分析、精密化学分析を行い、遺物の現状・材質を詳細に調査した。そして、これらの調査結果に基づいて適切な保存修理を策定し、保存修理を実施した。事前調査及び保存修理に関する経過並びに成果については、本年度の年度実績報告書を作成し、報告を行った。



柳沢遺跡出土 1 号銅戈の X 線透過撮影像

【実績値】

報告書作成： 1 件

【受託経費】

3,900 千円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8000-17
（様式 3）

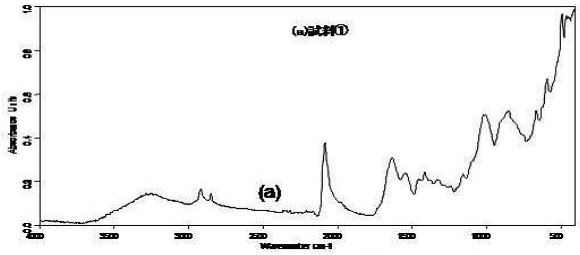
業務実績書（受託事業）

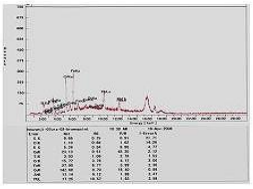
研究所 No37－5

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	宝山寺獅子閣材料分析調査（受託）((3) ④)		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	保存修復科学研究室長　高妻洋成

【スタッフ】
降幡順子［都城発掘調査部］、脇谷草一郎［企画調整部］

【年度実績概要】
宝山寺獅子閣は、明治 17 年以来、宝山寺の客殿として利用されてきた「擬洋風」の建造物であり、国の重要文化財に指定されている。このたび、平成 17 年度より 5 年計画で、基盤の歪みと壁面のひび割れなどを是正するための解体修理が行われている。解体修理にあたっては、建立当初の形態に復旧させるため、さまざまな材料の分析が必要となる。奈良文化財研究所は、この材料分析を奈良県から委託された。そして、クロスの下貼りに用いられた紙、クロス、床板などの塗装、壁の仕上げなど多くの材料に関する分析を行い、明治当初の建築に用いられた材料について、多くの知見を得ることができた。







宝山寺のクロス下貼り

【実績値】
報告書作成： 1 件

【受託経費】
500 千円

【受託】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8000-18
（様式 3）

業務実績書（受託事業）

研究所 No42－1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務（(4) ①）		
【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	保存修復科学センター長　石﨑武志

【スタッフ】
佐野千絵、早川泰弘、木川りか、吉田直人、犬塚将英、間渕　創、川野辺　渉、中山俊介、北野信彦、早川典子、森井順之、加藤雅人、坪倉早智子（以上、東文研）

【年度実績概要】
高松塚古墳は平成 19 年に解体が行われ、現在壁画は保存修理施設において保管されている。そして古墳壁画を取り巻く温湿度環境が適切に保たれているかを監視するために、温湿度測定を継続してきた。さらに今年度は、春と秋の二度にわたり、保存修理施設の一般公開が行われた。来場者の数は合計で約 9000 人であったが、一般公開期間中も古墳壁画を取り巻く温湿度環境に影響がなかったことを測定結果から確認した。また、壁画のみならず、見学通路における二酸化炭素の濃度測定も行い、来場者の方々にとって安全な環境で見学して頂いたことも確認した。

高松塚古墳壁画の劣化要因の解明のために墳丘部の地震解析を行い、墳丘部の割れ目が地震により生ずる過程のシミュレーションを行った。

石室解体中に採取した試料について微生物の分離と同定を行った。次年度の近辺土壌の微生物の解析とあわせて石室の微生物との関連を調査する予定である。また、石室や取り合い部でこれまで使用された履歴のある樹脂などの材料について、石室から分離された主要なカビの生育の度合いを調査した。また、殺菌処置に使用された薬剤が薄まったときに微生物に及ぼす影響や、分離された微生物が漆喰の成分である炭酸カルシウムに及ぼす影響についても検討中である。壁画の修復が行われている施設の浮遊菌調査や、虫についても必要に応じて調査を行った。

昨年度に引き続き、壁画の状態記録のため損傷図面を作成した。天 3、東女子については昨年度中に完成しており、今年度は残りの 9 面全 63 項目中、45 項目の図面を完成させた。壁画の処置方法について模擬壁にてテストを行い、布海苔水溶液による漆喰の強化、次亜塩素酸ナトリウム水溶液を用いたバイオフィルムによる汚れのクリーニング方法などを確立した。今年度は、天 3 については漆喰層の 1 度目の強化を終了、バイオフィルムの漂白と漆喰層の 2 度目の強化を行っている。東女子については漆喰層の 1 度目の強化を終了した。天 4 については漆喰層表面を被っている樹脂膜の除去を行っている。

【実績値】

【受託経費】
54,213,821 円

【受託】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8000-19

（様式 3）

業務実績書（受託事業）

研究所 No42－2

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	特別史跡キトラ古墳保存対策等調査（(4) ①）		
【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	保存修復科学センター長　石﨑武志

【スタッフ】

佐野千絵、木川りか、吉田直人、犬塚将英、間渕　創、川野辺　渉、中山俊介、北野信彦、早川典子、森井順之、加藤雅人、坪倉早智子（以上、東文研）

【年度実績概要】

小前室の空調設定を 11℃として連続運転している。石室内は 95%RH 以上、小前室は 90%RH 以上という高湿度に保たれている。土壌水分計の更新（平成 20 年 6 月 6-7 日）とその後の動作を監視したが、特に問題は生じていない。その他センサー類（雨量計、風向風速計、温度湿度センサー数点）の更新は平成 21 年 3 月に行った。空調系ポンプからの漏水が数回起こり、更新について助言した。小前室内の追加の樹脂施工、墳丘シート掛け増し工事が 1 月 29-30 日にあり、技術的な助言と作業管理を担当した。

平成 20 年 6 月に石室内の微生物調査を実施した。8 箇所のサンプルから菌類約 80 株が分離されたが、今回石室内で新たに検出された属は見当たらなかった。バクテリアについては、8 箇所のうち、3 箇所のサンプルから酢酸菌の一種が分離、同定された。この種類のバクテリアは酢酸を産生し、炭酸カルシウムを溶解する可能性があることから、漆喰への影響が懸念された。殺菌剤の一部については、分解産物が栄養源になる可能性なども考慮し、現在は物理的な除去と局所的な殺菌に限定して処置を行い、経過を観察した。平成 20 年に天井天文図の取り外し・保護が完了した現在、今後の点検方法については新たな検討を要する時期にきている。また、浮遊菌調査結果をふまえ、施設内の清浄度管理のため、除菌清掃などを実施した。

4 月に「月像」を剥ぎ取り、11 月にはすべての天文図の剥ぎ取りを完了して天井無地部分の剥ぎ取りに着手し、北壁の一部も剥ぎ取った。石室内の点検及びカビ処置も定期的に行った。これまでに取り外した漆喰片については随時経過観察と処置を行っている。「子・丑・寅」については平成 20 年 5 月の公開のための額装を完成させ、平成 21 年度の公開に向けて「青龍」の処置を行った。また、剥ぎ取った天文図漆喰片の適切な処置方法を検討するために模擬漆喰を作成して実験を行い、作業台の検討なども行った。今後の無地部分の剥ぎ取りのための治具の改良も行った。

【実績値】

【受託経費】

41,222,272 円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8000-20

（様式 3）

業務実績書（受託事業）

研究所 No43－1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務（受託）((4)①)		
【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【事業責任者】	都城発掘調査部長　松村恵司

【スタッフ】

松村恵司、廣瀬覚、番光、木村理恵、降幡順子［以上、都城発掘調査部］、井上直夫、岡田愛［以上、企画調整部］、水野敏典［奈良県立橿原考古学研究所］、相原嘉之［明日香村教育委員会］

【年度実績概要】

平成 18～19 年度にかけて実施した高松塚古墳石室解体に伴う発掘調査の成果及び出土資料の整理作業を進めるとともに、高松塚古墳仮整備に伴う発掘調査を実施した。

石室解体に伴う発掘調査の整理作業に関しては、図面・写真類を整理するとともに、取り外し漆喰や切り取り版築の台帳登録、データベース作成などを行い、概要を報告した。また、発掘成果を一般向けに普及公開する目的で、パンフレットを編集発行した。さらに、石室解体に伴う発掘調査時に撮影した記録ビデオの編集作業を進めた。出土資料の保存処理作業として、版築層サンプルの樹脂強化作業、石室周囲で捕獲したムシ類のアルコール液浸作業、発掘時に型取りした地震痕跡の模型作成を実施した。

仮整備に伴う発掘調査は、2008 年 7 月 1 日より開始し、2009 年 2 月 13 日まで実施した。調査面積 360 ㎡。古墳の南西部では、地滑り及び後世の水田耕作時に既に当初の墳丘の形状が失われていたものの、南東部では、明瞭に残存する墳丘裾の版築層及びそれをとりまく周溝を検出した。その結果、従来通り、直径 23mの円墳とする復元案の妥当性を追認した。また、墳丘南斜面には、古墳中軸線を挟んで東西 4mの対称の位置で 2 条の石詰め暗渠排水溝を検出した。さらに、墳丘南～南西にかけては、大規模に谷を埋め立て墳丘基盤面の整備を行っている状況も明らかとなった。

以上の調査成果により、仮整備にむけて必要となる墳丘に対する正確な情報が得られるとともに、暗渠排水溝の設置や墳丘構築以前の基盤面造成のあり方が明らかになり、高松塚古墳の構築過程を復原するうえで重要な成果が得られた。

【実績値】

論文等数 2 件　①松村恵司・廣瀬覚「高松塚古墳の調査－第 154 次」『奈良文化財研究所紀要 2009』2009.6
②松村・廣瀬・岡林・相原「高松塚古墳の石室解体に伴う発掘調査」『日本考古学』第 27 号 日本考古学協会　2009.5

出土品　土器片コンテナ 5 箱　瓦 24 点（平瓦 17 点、丸瓦 7 点）

記録作成　実測図 85 枚　写真（4×5）132 枚

【受託経費】

137,265 千円（契約額）

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8000-21

（様式 3）

業務実績書（受託事業）

研究所 No43－2

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	特別史跡キトラ古墳保存・活用等調査業務（受託）（(4)①）		
【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【事業責任者】	都城発掘調査部長　松村恵司

【スタッフ】

玉田芳英、石田由紀子、豊島直博、降幡順子［以上、都城発掘調査部］、井上直夫、中村一郎、岡田　愛［以上、企画調整部］

【年度実績概要】

都城発掘調査部では、特別史跡キトラ古墳の石室内外より発掘調査によって出土した遺物に対して、分析と保存処理及び展示活用のための作業を実施した。このうち、石室内出土の琥珀玉に関しては、産地等の分析を引き続き進めるとともに、保存修復を行った。2007 年度に制作した銀装大刀復元品を、飛鳥資料館特別展『キトラ古墳壁画　十二支子・丑・寅』において展示公開した。また、保存処理の完了した石室石材について接合・修復作業を行い、石室南壁の欠損部分として復元した。本資料は、仮設保護覆屋内で管理され一般には見ることのできない石室の実物資料として展示活用の材料となるものと考えられ、報道発表後、藤原宮跡資料室において公開した。

また、フォトマップデータに基づくブルーレイハイビジョンディスク動画、ショートバージョン（10 分）、ロングバージョン（50 分）の 2 種類を製作した。

【実績値】

制作物　1 件　①　奈良文化財研究所『ブルーレイハイビジョンディスク　キトラ古墳壁画 2004』2009.3
論文等数 1 件　①　豊島直博「キトラ古墳出土銀装大刀の復元品」『奈文研ニュース』30　2008.9
報道発表 2 件　①「キトラ古墳出土銀装大刀の復元品製作について」2008.4
②「キトラ古墳出土の石室石材の復原」2009.2

【受託経費】

27,701 千円（契約額）

【受託】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8000-22

（様式 3）

業務実績書（受託事業）

研究所 No44－1

中期計画の項目	5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進		
【事業名称】	諸外国における文化財輸出規制を規定した法令に関する調査（(1) ①）		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	センター長　清水真一

【スタッフ】

二神葉子、今井健一朗（以上、文化遺産国際協力センター）

【年度実績概要】

日本の文化財保護法では、国宝を含む重要文化財の輸出は、展覧会への出品等一時的なものを除いて原則禁止されており、また、登録文化財では国への届出が必要である。しかし、国指定文化財以外には輸出規制は設けられておらず、未指定の文化財が競売にかけられる等の問題が発生している。そこで、諸外国での同様の事例に対する対応を知るため、平成 20 年 12 月～平成 21 年 3 月に、特に文化財保護制度が発達しており、また、多くの文化財を有する調査対象各国（イギリス、ドイツ、フランス、イタリア、中国、韓国、アメリカ）の文化財保護に関する主要な法令の条文について、文化財の輸出規制に関する調査を実施した。

法律上の文化財の定義に基づき文化財とみなされるもののうち、政府によって「指定」「登録」などの認定行為がなされた文化財について、他と区別した扱いがなされることとなる。そして、これらの文化財の輸出は、今回の調査対象の各国とも原則禁止とされている。

しかし、これ以外の未指定の文化財については、緊急指定の規定は、損傷を防止するための手段としては存在するものの、緊急的な輸出差し止めの規制が存在する国は限られている。指定という行為が特定の限定された文化財に対して特別な扱いをするために行われている以上、「未指定」文化財に対する規制は存在しないのが通常である。ただし、韓国の文化財保護法には、未指定の文化財に関しても原則輸出禁止をうたっており、一般文化財と誤認されるおそれのある物品を輸出する際には文化財庁長の確認を必要とするとの規定がある。このように、すべての文化財の輸出について規制をかけることを可能としているが、実際の運用は困難と思われ、運用の実態についてさらに調査する必要があると思われる。

なお、輸出規制に関して規定した基本的な法令に関する調査項目についてそれぞれまとめた国別の比較表、概要の解説、および法令の条文の和訳をあわせて報告書とした。

【実績値】

報告書「諸外国における文化財輸出規制を規定した法令に関する調査　報告書」

【受託経費】

729,985 円

【受託】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8000-23
（様式 3）

業務実績書（受託事業）

研究所 No47－1

中期計画の項目	5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進		
【事業名称】	陝西省唐代陵墓石彫像保護修理事業（(1) ②イ）		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	保存計画研究室長　岡田　健

【スタッフ】
杉崎佐保恵（文化遺産国際協力センター）

【年度実績概要】
本事業は、財団法人文化財保護・芸術研究助成財団からの受託による。

1）最終年度作業実施についての打合せと現場視察
4 月 23、24 日の日程で西安市を訪れ、陝西省文物局、西安文物保護修復センター他の担当者と事業最終年度の作業実施について打合せと橋陵の修復作業現場の視察を実施した。事業対象である順陵、乾陵、橋陵での作業を完了させること。中国側によって報告書を作成すること。石彫像の保護修復に関するシンポジウムを開催すること。国家文物局及び財団への報告のための総括評価委員会を開催することが確認された。

2）唐陵石彫像保護修理事業指導委員会・専門家委員会の開催
6 月 21 日から 24 日の日程で、西安市において第 4 回目の指導委員会・専門家委員会を開催した。日本からは専門委員として西浦忠輝（国士舘大学教授）、根立研介（京都大学教授）のほか、清水真一（文化遺産国際協力センター長）、岡田健が出席した。
会議では、2007 年度に実施した橋陵、順陵での考古調査、橋陵、順陵での環境整備作業の進展状況、橋陵、順陵での石像修復作業、5.12 四川地震で影響を受けた順陵での基盤沈下と亀裂の観測について報告がなされ、委員から高い評価が得られた。橋陵の修復整備作業現場を視察した。

3）作業の進捗状況
2007 年度は乾陵、順陵での修復作業が順調に進められ、2008 年度の完成を目指している。報告書は、中国側が担当し、2009 年度内に刊行される予定となっている。

4）事業完了評価委員会の開催
3 月 16 日から 18 日の日程で、西安市において事業完了の総括と評価の委員会を開催した。

本事業は、日本から提供の申し出があった資金を活用し、中国側各機関の参加のもと、順調に作業を進めてきた。考古学調査を十分に行い、各陵墓、各門の石彫像の当初の状態を復元的に考察し、それを根拠とした整備作業と修理作業を実施した。これまで石彫像の保護は、亀裂の修復や表面の風化防止処理といった対処療法のみに終わっていたが、このような総合的な保護修理事業を実現できたことに関して、中国側担当者は自信を深め、また専門委員会、陝西省文物局、国家文物局も高い評価を与えている。

【実績値】

【受託経費】
1,245,200 円（うち間接経費 113,200 円）

【受託】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8000-24

（様式 3）

業務実績書（受託事業）

研究所 No47－2

中期計画の項目	5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進		
【事業名称】	龍門石窟保護修復プロジェクト（(1) ②イ）		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	保存計画研究室長　岡田　健

【スタッフ】

清水真一（文化遺産国際協力センター）、石﨑武志（保存科学修復センター）、津田　豐（(株)ジオレスト）、中田英史（(有)ウッドサークル）、西浦忠輝（国士舘大学）

【年度実績概要】

ユネスコ／日本信託基金によって 2001 年 11 月から開始された中国龍門石窟保護修復プロジェクトに、ユネスコのコンサルタント兼プロジェクト専門家として参加している。

1) 第 7 年目契約

2007 年 7 月から 2008 年 3 月 31 日を期間として結んだ第 6 年目の契約が終了した段階で、2008 年 9 月までの工期を残しているにもかかわらず、当初計画案においてコンサルタント用に準備された経費がなくなってしまった。このため、ユネスコ北京事務所が経費内から資金を調達するまでの間、実質の作業ができなくなった。第 7 年目の契約は、結局 9 月から 2009 年 2 月までを目途として結ばれたが、2009 年 2 月に総括の三者会議とシンポジウムを開催することにしたため、3 月までの延長手続きを行った。

2) 専門家会議の実施

11 月 13 日から 15 日の日程で洛陽市で開催される専門家会議に出席し、作業完了に向けての点検と協議を行った。会議では、潜渓寺洞上部で実施した防水処理作業について修正点を指摘し、施工業者に指導を行った。事業完了を記念するシンポジウムをクムトラ石窟保護修理事業と合同で実施することが決まった。

3) 最終専門家会議・日中政府ユネスコ三者会議

2 月 20 日に北京市中国文化遺産研究院で日中専門家会議を開いて事業最終の総括と報告作成を行い、同日開催された日中政府ユネスコ三者会議で報告させた。

4) 事業完了記念シンポジウム

2 月 21 日に同研究院講堂で、事業完了記念シンポジウムを開催した。

【実績値】

シンポジウムでの発表（岡田健、津田豊）

【受託経費】

15,300USD

【受託】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8000-25
（様式 3）

業務実績書（受託事業）

研究所 No49－1

中期計画の項目	5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進		
【事業名称】	ユネスコ／バーミヤーン遺跡保存修復事業（(1)②ウ）		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	地域環境研究室長　山内和也

【スタッフ】
清水真一、山内和也、宇野朋子、有村　誠、影山悦子、邊牟木尚美、島津美子、鈴木　環、廣野　幸（以上、文化遺産国際協力センター）、前田耕作、谷口陽子、西山伸一、岩井俊平（以上、客員研究員）、井上和人、窪寺　茂、森本　晋、石村　智、脇谷草一郎（以上、奈良文化財研究所）

【年度実績概要】
文化遺産国際協力センターは、2004 年より、ユネスコ文化遺産保存日本信託基金によるバーミヤーン遺跡保存事業に参画し、バーミヤーンの文化遺産保護のために様々な活動を行ってきた。アフガニスタン国内の治安悪化を考慮し、本年度は日本国内においてアフガニスタンの考古学専門家の人材育成・技術移転、バーミヤーン仏教石窟出土の樺皮文書の保存修復及び専門家の人材育成・技術移転を実施した。

①考古学専門家の人材育成・技術移転

アフガニスタン考古学研究所より研究員 1 名を招へいし、7/18～12/22 にかけて、東京文化財研究所（7/18～9/12、12/15～12/22）、流山市教育委員会（8/25～8/28）、奈良文化財研究所（9/16～12/12）において研修を実施した。研修では、フィールド調査で必要な発掘、測量の方法や最新の機器の使用方法、また発掘後の室内作業として、遺物の実測、拓本、インクトレースによる製図などが指導された。それぞれの機関で、共通した研修内容を繰り返し指導することができたので、研修生の研修内容に対する理解と習熟度は高かった。研修の最後には、アフガニスタンの考古学事情や研修内容を発表する報告会「アフガニスタン人考古学専門家による研修成果発表会」を実施した。

②バーミヤーン仏教石窟出土の樺皮文書の保存修復及び専門家の人材育成・技術移転

バーミヤーン仏教石窟から出土した樺皮仏典断片 600 点あまりを東京文化財研究所に移送し、仏典の保存修復処置を行った。あわせて、カーブル博物館より職員 2 名を招へいし、11/13～1/30 にかけて、文書の保存修復とそれに関わる基礎的な技術や知識に関する研修を実施した。仏典断片はそれぞれ延展処置後、スライドガラスにマウントし、特製の保存ケースに収納した。研修終了にあたり、「バーミヤーン仏教石窟出土の樺皮仏典の保存修復」を開催し、研修内容の報告を行なった。なお、研修生の帰国にあわせて保存修復処置を終えた全ての仏典断片をカーブル博物館に返還した。

【実績値】
報告会 2 回：「アフガニスタン人考古学専門家による研修成果発表会」（08.12.17）、「バーミヤーン仏教石窟出土の樺皮仏典の保存修復」（09.01.19）
報告書 1 件：Report on the Training Programme for the UNESCO Japanese Funds-in-Trust Project ”Safeguarding of the Bamiyan Site 2008”（①）

【受託経費】
70,000USD（間接経費 15%含む）

【受託】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8000-26
（様式 3）

業務実績書（受託事業）

研究所 No49－2

中期計画の項目	5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進		
【事業名称】	タジキスタン共和国アジナ・テパ仏教寺院の保存修復事業（(1) ②ウ）		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	地域環境研究室長　山内和也

【スタッフ】
山内和也、有村　誠（以上、文化遺産国際協力センター）、西山伸一、津村宏臣（以上、客員研究員）

【年度実績概要】
文化遺産国際協力センターは、2006 年より、ユネスコ文化遺産保存日本信託基金による「タジキスタン共和国アジナ・テパ仏教寺院の保存事業」プロジェクトに参加してきた。これまで、保存修復に先立って必要な遺跡のクリーニングや遺跡範囲を確認する試掘などの考古学調査を実施してきた。本年度は、（ストゥーパのある中庭に面した）塔院区南東の壁の精査と仏教寺院の外壁を確認するための試掘調査を実施した。また、アジナ・テパの立地や周辺遺跡との関連性を明らかにするために、周辺の考古学的な踏査も実施した。

①塔院区南東の壁の精査
塔院区南東の壁は、涅槃仏が発見された部屋の前に位置し、その一部は 2007 年度の調査で確認されていた。今回の調査では、より広範囲にこの壁を検出する作業を行った。その結果、中庭と涅槃仏の部屋をつなぐ入口と中庭に面した壁に付属するベンチ状の遺構が確認された。

②仏教寺院の外壁を確認するための試掘調査
これまで調査によって北側と東側において外壁が確認されている。本年度は、遺跡の東側と西側にあらたに調査区をもうけて試掘を行った。その結果、それぞれの調査区で、練り土（パフサ）で構築された壁を確認した。これまでの調査によって、アジナ・テパの仏教寺院は独立した周壁がめぐるのではなく、寺院建築そのものが外壁の役割を果たしていたことが明らかとなった。こうして考古学調査に得られた情報は、寺院本来の姿に近づけて遺跡を保存整備する際に重要な指針となる。

③遺跡周辺の考古学的な踏査
アジナ・テパ遺跡の周辺にどのような遺跡が存在するのか確認するために考古学的な踏査を実施した。遺跡周辺には、チョルグル・テパや「殉教者墓（シャヒードボボ）」と呼ばれるイスラーム時代の遺跡や塚がいくつか確認されたが、アジナ･テパ遺跡と同時代と考えられる 7～8 世紀に位置づけられる遺跡については、確認されなかった。

【実績値】
報告書 2 件：Report of the activities carried out in 2008 by NRICP, Tokyo (UNESCO Japanese Funds-in-Trust Project Preservation of the Buddhist Monastery of Ajina Tepa, Tajikistan)（①）
『タジキスタン、アジナ・テパ仏教寺院の保存事業―2008 年度の成果―』第 16 回西アジア発掘調査報告会、発表および西アジア発掘報告集、2009.03.15（②）

【受託経費】
9,881USD（間接経費 15％含む）

【受託】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8000-27

（様式 3）

業務実績書（受託事業）

研究所 No50－1

中期計画の項目	5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進		
【事業名称】	タンロン皇城遺跡の保存に関する専門家派遣と研修事業（(2) ア）		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	センター長　清水真一

【スタッフ】

二神葉子、田代亜紀子、井上和人（奈良文化財研究所）

【年度実績概要】

タンロン皇城遺跡は、平成 14 年 10 月にハノイの中心部で発見された。1000 年以上にわたって政治の中心地であったと考えられ、ベトナムだけでなく日本を含む周辺諸国の歴史学・考古学研究上もきわめて重要な遺跡である。この遺跡の保存に関して、ベトナム政府からの要請に基づき、ベトナム側と日本の協力体制を築きながら遺跡の包括的保存修復・整備を実施していくため、2007 年 3 月に日越合同専門委員会が設置された。これ以降、二国間協力体制のもとに専門家派遣が実施されてきた。

本事業では特に、平成 18 年度草の根文化無償資金協力によりベトナムに供与されたタンロン皇城遺跡の考古学的調査用機材を有効に活用し、また、当該遺跡の適切な考古学的解釈を可能とするため、平成 20 年 5 月 8 日～17 日、現地に専門家を派遣して研修を行った。具体的には、昨年度までに実施した日本側による考古測量研修の成果をふまえてベトナム側がこれまでに作成した遺構実測図をもとに、検出遺構の解析作業を実施し、当該遺跡の調査に携わっているベトナム側若手研究者に対して、遺構分析の手法、および作業の成果に関する研修を実施した。また、研修の効果的な進展と、成果の共有を目的として、前回・今回の委託事業での遺構分析研修の成果をまとめた報告書をベトナム語へ翻訳した。報告書の翻訳は、文化財保存の研修での通訳も務めたハノイ国家大学のベトナム人日本研究者が行い、専門用語に関する監修を、日本人のベトナム考古学研究者が行うことで、正確な内容の伝達に努めた。報告書は図面とともに、ベトナム側カウンターパートであるタンロン皇城遺跡発掘調査の責任者に渡され、今後彼らがまとめる調査報告書に内容が反映されることとなる。さらに、日本側関係者間での情報共有を図るため、図面を除く本事業および前回の委託事業で行った遺構分析の成果と、ベトナム語版の成果報告、および事業報告をまとめた報告書を作成した。



タンロン皇城遺跡での遺構分析研修

【実績値】

報告書「文化庁委託　タンロン皇城遺跡の保存に関する専門家派遣と研修事業　報告」　08.07

【受託経費】

878,163 円

【受託】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8000-28

（様式 3）

業務実績書（受託事業）

研究所 No50－2

中期計画の項目	5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進		
【事業名称】	タンロン皇城遺跡の保存に係る専門家派遣（(2) ア）		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	センター長　清水真一

【スタッフ】

清水真一、友田正彦（以上、文化遺産国際協力センター）、青木繁夫、田代亜紀子（文化遺産国際協力コンソーシアム）、井上和人（奈良文化財研究所）、上野邦一（奈良女子大学）

【年度実績概要】

タンロン皇城遺跡は、平成 14 年 10 月にハノイの国会議事堂建設予定地で発見された。その後、日越両政府の合意のもと日越両専門家による協力体制が築かれつつある。本事業は、考古・建築および保存科学の各分野専門家を現地に派遣し、ベトナム側専門家や遺跡保存センター、社会科学院考古研究所の関係者等との協議を通じて、従来日本が行ってきた同遺跡に関する協力の成果を総括するとともに、ユネスコ信託基金事業等を通じた今後の支援の方向性につき双方の認識を共有することを目的とする。

考古分野の支援としては、ホアンジウ 18 番地遺跡における出土遺構の再精査が既に大きな成果を挙げてきたが、今回も D2/3 と呼ばれる発掘区を対象に遺構の分析・検討作業を実施した。同時に、講習を通じて、平城京、藤原京等における日本の長年の経験に基づく複雑な重層的都城遺構の調査手法を、考古学院スタッフに技術移転した。ホアンジウ 18 番地遺跡の出土遺構については、その緊急的な保存処置および将来的な展示方法についての検討が急務であり、遺構現地で継続している環境計測用の日本政府供与機材について現状確認と記録データ採取を行った。また、考古学院若手スタッフに対する保存科学分野の基礎的研修も行った。

首都ハノイの中心部に位置するこの遺跡においては、発展する都市環境のなかで考古学的遺跡をどのように保存活用すべきかが課題であり、我が国が従来蓄積してきた都城研究の成果や埋蔵遺構保存活用の取り組み等を紹介することは大きな意義がある。本事業では、タンロン皇城遺跡に関する包括的かつ広域的な保存管理計画の策定に向けて、今回協議を通じて、その基本的方向性を提示することができた。

【実績値】

報告書『タンロン皇城遺跡保存に関する専門家派遣　報告』　09.03

【受託経費】

864,800 円

【受託】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8000-29
（様式 3）

業務実績書（受託事業）

研究所 No50－3

中期計画の項目	5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進		
【事業名称】	文化遺産国際協力コンソーシアム事業（(2) ア）		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	センター長　清水真一

【スタッフ】
豊島久乃、田代亜紀子、小角由子、谷口　仁、土居香菜子　（文化遺産国際協力センター）
青木繁夫　（客員研究員）

【年度実績概要】
文化遺産国際協力に係わる諸課題について議論するための分科会を計 14 回、専門家会合を計 3 回開催すると共に、会員間の情報共有を促進するための場として研究会を 2 回開催した。コンソーシアム活動を広報するために、1 月には、文化庁、朝日新聞社と共催で、一般市民向けの公開シンポジウムを行ったほか、国際協力事業を紹介するパンフレットの作成、公式ウェブサイトのデータ追加を行った。さらに、モンゴル、ベトナムへの調査団等派遣支援を行ったほか、諸国国際協力体制調査としてオーストラリアおよび欧州 3 ヶ国での聞き取り調査を実施した。

Ⅰ．コンソーシアムの企画・運営
・運営委員会を 2 回開催して、活動方針等を協議したほか、3 月には研究会と併せて総会を開催した。
・国際シンポジウム「私の文化遺産再発見」を開催した。
・企画分科会、東南アジア分科会、西アジア分科会、東アジア・中央アジア分科会を計 14 回開催した。
・モンゴル専門家会合を 2 回、イエメンに関する勉強会を 1 回開催した。
・広報活動のため、パンフレット作成や、一般向けウェブサイトのデータ追加を行った。

Ⅱ．情報共有と情報発信
・会員専用コミュニティ・サイトを改修し、より会員のニーズや検索要件にマッチする機能を追加した。
・研究会「文化遺産保全の国際動向アップデート　ワークショップ」、「経済開発協力と文化遺産国際協力」を開催した。
・報告書『モンゴル国　ヘンティ県所在碑文調査報告書』を冊子にまとめ公開した。
・報告書『リビング・ヘリテージの国際協力 - 町並み保存の現在と未来 -』 を公開した。
・先進国の国際協力体制調査のため、豪州およびドイツ、スウェーデン、ノルウェーにて調査を実施した。

Ⅲ．文化遺産国際協力に関することがら
・モンゴル政府からの要請に基づき、ヘンティ県所在の碑文に関する保存上狭長さを行った。
・イエメン政府からの要請に基づき、2008 年 10 月に豪雨による洪水の被害を受けたイエメン　シバームおよびその周辺の被害状況調査を行った。

【実績値】
運営委員会の開催：2 回、総会の開催：1 回
国際シンポジウムの開催：1 回
分科会の開催：　4 分科会(企画分科会、東南アジア分科会、西アジア分科会、東・中央アジア分科会)　合計 14 回
専門家会議の開催：　合計 3 回
研究会の開催　2 回
諸国国際協力体制調査実施数：　4 カ国　（豪州、ドイツ、スウェーデン、ノルウェー）

（成果物ドキュメント名）
①「協力相手国調査　モンゴル　(2008 年 2 月調査報告書)」　(2009 年 3 月、200 部)
②「協力相手国調査　モンゴル　モンゴル　ヘンティ県遺跡状況調査 報告書」　(2009 年 3 月、100 部)
③「文化遺産国際協力事業紹介」　(2009 年 3 月　1000 部)
④「Japan’s International Cooperation in Heritage Conservation」　(2009 年 3 月　500 部)

【受託経費】
48,000 千円

【受託】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8000-30

(様式 3)

業務実績書（受託事業）

研究所 No50-4

中期計画の項目	5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進		
【事業名称】	文化遺産国際協力拠点交流事業（(2) ア）		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	センター長　清水真一

【スタッフ】

(1)インドネシア：朽津信明、二神葉子、秋枝ユミイザベル、田代亜紀子、森井順之（修復技術部）

(2)モンゴル：二神葉子、豊島久乃、秋枝ユミイザベル、鈴木規夫（所長）、宮田繁幸（無形文化遺産部）

(3)中央アジア：山内和也、島津美子、邊牟木尚美、松岡秋子、宇野朋子、影山悦子（以上、文化遺産国際協力センター）、増田久美（東京藝術大学）、谷口陽子（筑波大学）、大橋拓子、エミリー・シェクルン、ステファニー・ボガン、アントニオ・イアッカリーノ（以上、保存修復家）

(4)インド：山内和也、宇野朋子、鈴木　環、島津美子（以上、文化遺産国際協力センター）、森本　晋（奈良文化財研究所）、福山泰子（中部大学）、上原永子（名古屋大学）、佐々木淑美（筑波大学）、大橋拓子、田川新一朗（以上、保存修復家）、檜山智美（東京大学）

(5)タイ：○宮田繁幸、星野　紘、上野智子（以上、無形文化遺産部）

【年度実績概要】

我が国と長期的な関係の構築が望ましいと考えられる外国のしかるべき機関に対し日本国内の機関が行う人材育成・交流事業について、我が国の文化遺産保護への積極的な国際貢献を行うことを業務の目的とする。本業務の項目は下記の 5 項目である。

(1)インドネシア文化観光局ボロブドゥール遺跡保存研究所との拠点交流事業：平成 20 年 10 月にインドネシア側の専門家を招へいし、日光、北海道フゴッペ洞窟等での現地調査および講演会を行った。また、平成 21 年 2 月にインドネシアを訪れ、ボロブドゥール遺跡での現地調査を行うとともに、日本とインドネシアのモニタリング事例に関するワークショップを開催した。

(2)モンゴル教育・文化・科学省およびモンゴル国立文化遺産センターとの拠点交流事業：平成 20 年 6 月に同省との事前協議を行い、アマルバヤスガラント寺院を視察した。同年 9 月 9 日には、教育・文化・科学省文化芸術局の間で人材育成と交流に関する合意書と覚書を締結し、10 日・11 日にウランバートルで日本とモンゴルの文化遺産の保護制度に関するワークショップを開催した。

(3)中央アジア諸国における文化遺産保護に関する拠点交流事業：7 月、8 月、11 月にミッションを派遣し、タジキスタン国立古物博物館所蔵の壁画片の保存修復作業を現地の研修生とともに行った。1 次・2 次ミッションで壁画片の写真撮影、状態調査、クリーニングテスト、保管方法の検討を行い、3 次ミッションでは、2 点の断片を選んで本格的な修復作業を開始した。

(4)インド考古局との壁画保存に関する拠点交流事業：11 月 21 日にインド考古局デリー本部において、インド考古局との共同調査の実施に正式に合意した。これにより平成 21 年 2 月に第 1 次ミッションを派遣し、壁画の状態調査を開始した。

(5)タイ王国文化教育省国家文化委員会事務局（ONCC）との拠点交流事業：平成 20 年 6 月、8 月に今年度の交流実施について ONCC との協議を行ったが、その後タイの政局混乱による状況変化に伴い、10 月、平成 21 年 1 月と再度協議を重ねた。それに基づき、3 月 2 日から 6 日に、タイ東北部ノンブアランプー県及びバンコク近郊で、民俗芸能、工芸技術、保存技術等の無形文化遺産保護の現状調査を実施した。

【実績値】

報告書 6 件（①～⑥）

(1)①インドネシア文化観光省ボロブドゥール遺跡保存研究所との研究交流業務報告書（2008 年度）

(2)②報告書　日本およびモンゴルの文化財保護に関するワークショップ

③ семинар Монгол Японы соёлын өвийн хамгаалалт　【上記報告書のモンゴル語版】

(3)④「東京文化財研究所と中央アジア諸国における文化財保護に関する拠点交流事業」タジキスタン国立古物博物館が所蔵する壁画片の修復 2008 年度（第 1 次、2 次、3 次、4 次ミッション）2008 年度業務報告書

⑤ワークショップ「中央アジア出土壁画の保存修復」

(4)⑥「東京文化財研究所とインド考古局との壁画保存に関する拠点交流事業」アジャンター壁画の保存修復に関する調査研究事業 2008 年度業務報告書

【受託経費】

59,419 千円

【受託】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8000-31
（様式 3）

業務実績書（受託事業）

研究所 No50－5

中期計画の項目	5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進		
【事業名称】	日中韓共同によるシルクロード沿線の文化財保護修復技術人員の育成プログラム（(2) ア）		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	保存計画研究室長　岡田　健

【スタッフ】
清水真一（文化遺産国際協力センター）

【年度実績概要】
本事業は、財団法人文化財保護・芸術研究助成財団の依頼により、中国文化遺産研究院との共同で、2006-2010 年の 5 年間で、シルクロード沿線の文化財保護修復技術のレベルを引き上げることを目的として、新疆、青海、寧夏、甘粛、陝西、河南の 6 省・自治区からの研修生を対象に、土遺跡、古建築、考古現場、陶磁金属、壁画、紙類、紡織品の保護修復および博物館技術の 8 項目の専門分野について、トレーニングを行うものである。

1) 古建築保護修復専攻　期間：3 カ月半（4 月 3 日～7 月 11 日）、研修員の人数：12 名
古建築保護専攻は 2008 年度から連続 2 年で同じメンバーが参加して実施される。1 年目に理論講座と各種調査の実習、保護修復計画の作成を研修し、2 年目に参加する修復実習作業のための基礎を身につけることを目的にしている。日中両国の講師による授業が行われ、前半の理論講座には 5 名、後半の故宮紫禁城慶寿堂第三院での現場実習には 5 名の専門家をそれぞれ日本から派遣した。

2) 土遺跡保護専攻　期間：3 カ月（4 月 16 日～7 月 13 日）、研修生の人数：13 名
土遺跡保護専攻は 2006 年度から連続 3 年で同じメンバーが参加して実施された。最終年となる今年度は、甘粛省瓜州市郊外にある踏実大墓門闕について現場実習による修復作業を実施、完成し、同時に 3 年間の理論・実践に及ぶ研修内容を集大成し、報告書を作成した。日本からは途中 2 名の講師が現地へ赴き、修復結果についての評価と研修生との討論を行った。10 月 31 日、3 年間の全日程を終了した。

3) 2009 年度古建築保護専攻現場実習地の視察
2 月 28 日から 3 月 3 日の日程で、財団法人文化財建造物保存技術協会の近藤光雄事業部長を青海省西寧の塔爾寺へ派遣し、2009 年度古建築コースの現場実習地を視察させ、カリキュラム作成のための意見を求めた。

4) 契約変更
2008 年来世界を襲っている経済危機の影響で、本事業の資金提供者である日本サムスン社から財団へ資金の調達が予定通りには行かないとの予想から、資金の減額についての申し入れがあった。これを承け、財団と当研究所が協議し、来年度以降の経費節約について検討し、当研究所使用分の金額についての契約変更を行った。このため本年度経費から 1,980,000 円を財団へ返却、来年度以降の使用分へ充当した。

5) 12 月 6 日 BS 朝日 21:00～「よみがえれ！シルクロードの輝き/サムスン・シルクロード文化財保護フェローシップ特別番組」で本プログラムを紹介した。

【実績値】
古建築保護修復専攻　期間：3 カ月半（4 月 3 日～7 月 11 日）、研修員の人数：12 名
土遺跡保護専攻　期間：3 カ月（4 月 16 日～7 月 13 日）、研修生の人数：13 名

【受託経費】
7,988,100 円（うち間接経費 727,100 円）　ただし、1,980,000 円を返却。

【受託】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8000-32
（様式 3）

業務実績書（受託事業）

研究所 No50－6

中期計画の項目	5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進		
【事業名称】	ユネスコ／日本信託基金 イラク博物館における修復研究室復興プロジェクト（(2) ア）		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	地域研究室長　山内和也

【スタッフ】
山内和也、有村　誠、宇野朋子、影山悦子、島津美子、鈴木　環、辺牟木尚美（以上、文化遺産国際協力センター）、青木繁夫、谷口陽子、西山伸一、犬竹　和（以上、客員研究員）、高妻洋成、肥塚隆保、降幡順子、脇谷草一郎（以上、奈良文化財研究所）、西尾太加二、大森信宏（以上、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所）

【年度実績概要】
当事業は 2005 年度に開始し、本年度で 4 年目となる。本年度は、イラク国立博物館より中央修復室長のブタイナー・M・アブドゥルフセイ氏、修復家のタームル・R・アブドゥラー氏の 2 名の保存修復専門家を招へいした。

2008 年 7 月 1 日から 12 月 10 日の約半年間にわたり、主に木製品の保存修復研修とそれに関連する保存修復技術の習得のための実習を行った。

まず、東京文化財研究所において、3 週間の日本語研修とノートパソコンを使った書類の作成、パソコン、デジカメの使い方についての講習を行った。7 月末から 9 月末までの 2 ヶ月にわたり、文化財保存の基礎的な講義、木製品の保存修復に関係する講義と木製品の保存修復実習（写真）を行なった。保存修復実習では、フェルケール博物館より 18 世紀頃の船箪笥を修復教材として借用し、保存修復の方針決定、保存修復作業、修理報告書の作成までの一連の作業を実施した。10 月中旬に修復が完了した船箪笥をフェルケール博物館へ返却した。


船箪笥の保存修復実習

10 月は、静岡県埋蔵文化財調査研究所において、水浸木材の保存と保存修復のための研修を行った。水浸木材の保存のための基礎的な講義、木材の保存と劣化に関する基礎的な講義、脆弱な水浸木材を遺跡から取り上げる実習、木材の同定のためのプレパラート作成実習、その他保存修復に関わる作業について研修した。その後、九州国立博物館において保存修復や材料分析のための最新技術の見学、博物館での文化財の管理システムについての見学などを行った。

11 月は、奈良文化財研究所において、主に金属器の保存修復について研修を行った。イラク国立博物館の修復研究所に、2005 年 3 月に供与された機材と同種の機材を使い、劣化状態の分析、材質調査、保存修復まで、一連の作業について実習を行った。

最後に、東京文化財研究所においてレポートの作成、成果の発表を行い、研修を終了した。両研修生ともに、研修に対して非常に意欲的に取り組んでいた。自国に戻り、得られた技術をイラク国立博物館や地方の博物館のスタッフへ伝え、また、若手修復家を研修することに役立ててくれることを願う。

【実績値】
報告 3 件：Training Programme for the Conservation and the Use of Conservation Equipment UNESCO/Japanese Funds- in-Trust Project, “Rehabilitation of the Conservation Laboratories at the Iraq Museum in Baghdad”報告書（英語）（①）
フェルケール博物館所蔵　船箪笥修復報告書（日本語）（②）
A Report on the restoration of the wooden cabinet （FUNA-DANSU）　報告書（英語）（③）
修復 1 件：フェルケール博物館所蔵　船箪笥の保存修復

【受託経費】
95,000USD

【受託】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8000-33
(様式 3)

業務実績書（受託事業）

研究所 No50－7

中期計画の項目	5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進		
【事業名称】	四川大地震文化財復興支援に関する現地調査（(2) ア）		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	保存計画研究室長　岡田　健

【スタッフ】
清水真一（文化遺産国際協力センター）

【年度実績概要】
1) 調査の目的
5 月 12 日、中国四川省で汶川県を震源とするマグニチュード 8 の地震が発生し、震源地を中心に建物の倒壊、山岳の崩落等によって多数の死傷者が出る大災害となった。長い歴史があり、多くの文化財を有する四川省では、文化財にも重大な被害が出た。日本政府は、地震発生直後の人命救助隊の派遣に引き続いて、各省庁から実施可能な項目をリストアップした「支援パッケージ」を中国政府に対して提出した。6 月末までにその回答が戻り、文化庁が提出した「文化財復興支援のための日中専門家交流」を実施することになった。今回の調査は、文化庁の委託を受けた東京文化財研究所が、今後の日本による文化財復興支援実施のため現状を把握し、現地文化財保護部門の担当者との意見交換を行って、本年度に実施する具体的な支援活動計画作成のための情報収集を行うことが目的である。
2) 調査期間　　9 月 25 日（木）～9 月 30 日（火）
3) 調査人員
清水真一（東京文化財研究所文化遺産国際協力センター長)、岡田健（同　保存計画研究室長）
脇山佳奈（通訳：四川大学留学生）
4) 調査日程
9 月 26 日　江油県雲岩寺、安県文星塔、安県開禧寺
9 月 27 日　什邡龍居寺、三星堆博物館。視察後、張耀輝氏(Mr)（三星堆博物館副館長/広漢市文物局長)、陳修元氏(Mr)（広漢市文物局副局長)、楊洋氏(Mr)（広漢市文物局副局長/文物遺産部長）と会談。
9 月 28 日　金沙遺址博物館。視察後、王毅氏(Mr)（成都金沙遺址博物館長/成都博物院長)、朱章義氏(Mr)（成都金沙遺址博物館副館長)、朱小南(Mr)（四川省文物管理局文物保護處長)、李蓓氏、郎俊彦氏と会議。
5) 結果
視察と三星堆博物館、金沙博物館で実施した専門家同士の話し合いを通じて、以下の方向性が確認された。
ⅰ 日本の専門家 10 名以内が四川省を訪れ、文化財の地震対策をテーマとした研究会を行い、専門家同士の交流を図る。
ⅱ 内容としては建造物、博物館収蔵品を考える。
ⅲ 時期は来年の春節明けが相応しい。（春節は 1 月 26 日）
6) 文化庁への報告とその後の展開
以上の結果を文化庁に報告した。文化庁はこれを承け、専門家派遣による建造物、博物館収蔵品をテーマとしたワークショップを開催することを決定した。その後文化庁から受託機関の公募があり、当研究所が応募して担当することが決まった。（事業の詳細は 49-8 を参照）

【実績値】

【受託経費】
834,555 円（うち間接経費 108,855 円）

【受託】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8000-34

（様式 3）

業務実績書（受託事業）

研究所 No50－8

中期計画の項目	5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進		
【事業名称】	四川震災復興に係る文化財協力（専門家交流）事業（(2) ア）		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	センター長　清水　真一

【スタッフ】

清水真一、岡田　健、友田正彦、豊島久乃（以上、文化遺産国際協力センター）、和田　浩（東京国立博物館）、村上裕道（兵庫県教育委員会）、中澤重一（中澤技術士事務所）、林　章二（清水建設株式会社技術研究所）小嶋はるか（財団法人文化財建造物保存技術協会）、包慕萍（東京大学生産技術研究所＝通訳）、胡惠琴（北京工業大学建築與城市規劃学院＝通訳）、李逸定（上海桐井建材有限公司＝通訳）

【年度実績概要】

昨年5月、四川省西部を震源として発生した大地震により、当地の文化財にも多くの被害が発生した。その復興に向けて、既に中国各地より多くの専門家や技術者が派遣され、担当する現場で作業を開始している。この機会をとらえて、これらの関係者と日本から派遣する専門家が一堂に会するワークショップを平成21年2月9日～13日に中国成都で開催した。

文化庁と中国国家文物局が共催したワークショップには、日本において文化財分野の地震対策に実際に関わってきた建築史・保存修復・建築構造・基礎地盤工学・施工技術・博物館学・文化財行政といった各分野の専門家を派遣した。同時に派遣された文化庁文化財鑑査官および震災対策部門主任調査官とともに、阪神淡路大震災以来文化財の地震対策に取り組んできた日本の知見や経験を具体的事例に即して紹介し、あわせて今回震災において浮き彫りとなった様々な課題と今後の中国における文化財の地震対策について中国側関係者と活発な意見交換等を行った。

また、セッションの間には、今回地震で被災し、目下、復興作業が行われている現場を日中専門家が合同で訪問し、実際に現場が直面している問題点等について意見を交わすことで、支援の実効性および即効性をより高めることができた。

なお、1月27日には、日本側講師全員が集まり、各発表者間の内容調整等をおこなう事前会議を開催した。さらに、ワークショップ開催後には、中国側発表を含む講義資料や、質疑応答等の内容、視察概要などをまとめた報告書を500部作成した。今後、文化財の地震対策に関する各種支援等においても教材として有効に活用されることが期待できる。

【実績値】

報告書『文化財建造物の地震対策に関する日中専門家ワークショップ報告書』2009.3

【受託経費】

8,384,995 円

【受託】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8000-35

（様式 3）

業務実績書（受託事業）

研究所 No80－1

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
【事業名称】	関西大学博物館所蔵重要文化財高坏形土器の復元修理（(1)）		
【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	副センター長　川野邊　渉

【スタッフ】
北野信彦（保存修復科学センター）、犬竹　和（修復家）

【年度実績概要】
本事業で復元修理を行った高坏土器は、大正 8 年に大阪府藤井寺市国府遺跡から出土した資料である。同遺跡から出土した縄文鉢形土器（平成 18 年度受託研究にて修復完了）、籠型土器（平成 19 年度受託研究にて修復完了）などと共に重要文化財に指定されている。本資料も、近年にいたって、以前の復元で使用された修復材料の劣化が認められ、再修復を要する状態にあった。使用されていた石膏や接着剤は、経年変化による劣化が著しく、本資料の取り扱いにも支障をきたすような状態であった。そこで、平成 18 年度、平成 19 年度受託研究に引き続き、今回は本資料の再修復を行うこととなった。今回の再修復でも土器が展示や学術研究に活用されることを目的とし、石膏に代わる土器修復材料であり、質感・耐久性などにすぐれた補修用擬土を使用して修復した。

概　　要
◇修復対象　高坏形土器
◇修復概要
1）解体およびクリーニング・・・劣化した石膏は超音波メスで除去。接着剤は有機溶剤を使用して除去し解体した。
2）土器の強化・・・劣化して脆弱になった土器破断面をアクリル樹脂で強化した。
3）接合・・・アクリル樹脂を使用して破片を接合した。
4）復元・・・補修用擬土を充填し、常温で乾燥後、整形し文様を施した。55℃の定温乾燥機に入れ樹脂を硬化させた。

【実績値】
受託事業報告書　　1 件
本事業は関西大学から依頼

【受託経費】
1,365 千円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8000-36

（様式 3）

業務実績書（受託事業）

研究所 No81－1

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
【事業名称】	徳島市観音寺遺跡（阿波国府推定地）出土木簡の総合的研究（受託）((1))		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	副所長　山崎信二

【スタッフ】

渡辺晃宏、馬場基、市大樹、山本崇、浅野啓介［以上、都城発掘調査部］、中村一郎［企画調整部］、高妻洋成［埋蔵文化財センター］、大橋育順［(財)徳島県埋蔵文化財センター］、和田萃［京都教育大学名誉教授］

【年度実績概要】

平成 17 年度以来実施している観音寺遺跡等出土木簡の総合的研究の第Ⅱ期の第 2 年度目。今年度は、当初予定の 60 点に加え、平成 19 年度出土の 11 点を含めた計 71 点の木簡について、引き続き最新の機器を用いた再解読を行ってその歴史的な評価を確定し、また木簡ごとに最適な手法を選択した上で、科学的な保存処理を実施した。

① 水漬け状態における釈文の再検討を、最新鋭の赤外線テレビカメラ装置を用いて実施し、釈文案を作成した。釈読検討会は、これまで観音寺遺跡・敷地遺跡出土木簡の釈読に携わってこられた京都教育大学名誉教授の和田萃氏にもご参加いただき、従来の釈読を踏まえて実施した。

② 同上について、4×5 モノクロ写真（ネガ）、4×5 カラー写真（ポジ）、デジタルカメラによる赤外線撮影 3 種類の撮影を行った。原版は、奈文研と(財)徳島県埋蔵文化財センターの双方に保管している。

③ ①②の作業終了後、埋蔵文化財センター保存修復工学研究室において科学的な保存処理を実施した。保存処理方法は、木簡の状況に応じて真空凍結乾燥法と高級アルコール法の適切な方を選択した。

④ 保存処理後、①と同じ要領で、再度釈読検討会を実施し、最終的に釈文を確定した。

⑤ 保存処理後の状態について、②と同じ要領で写真撮影を実施した。

以上の調査の結果、今年度対象の木簡についても従来の釈読に加えて、さらに読みを深めることができた。また、保存処理によってさらに墨痕が鮮明になる場合があり、最新の機器を使用したことや、これまで奈文研に於ける永年にわたる木簡解読技術の蓄積ともあいまって、従来明らかでなかった文字を解読することができ、従来の釈文を訂正すべき部分があることが明らかになった。

具体的な調査成果については、委託主体である(財)徳島県埋蔵文化財センターに業務完了報告書の形で報告した。前年度の成果と合わせて同センターから報告書が刊行される予定である。

観音寺遺跡等出土の個々の木簡の釈読を確定してその歴史的価値を明らかにする一方、貴重な資料を確実に後世に残すために最善の科学的保存処理を実施することができた。4 箇年に及んだ受託研究によって、観音寺遺跡出土木簡が、評制下を含む阿波国府関連の遺物であることが明確になるだけでなく、名方郡家に関わる木簡の存在も判明し、時間的・空間的な広がりをもつ全国的に見ても有数の木簡群であることを明らかにできた。



物忌札

【実績値】

解読木簡点数 71 点、水漬け状態の写真撮影モノクロ 71 点・カラー71 点・赤外線デジタル 71 点、保存処理後の写真撮影モノクロ 71 点・カラー71 点・赤外線デジタル 71 点
木簡の科学的保存処理 71 点

【受託経費】

1,391 千円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8000-37
（様式 3）

業務実績書（受託事業）

研究所 No81－2

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
【事業名称】	祢布ヶ森遺跡出土木簡の保存処理等総合的研究（受託）((1))		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	副所長　山崎信二

【スタッフ】
渡辺晃宏、馬場基、市大樹、山本崇、浅野啓介［以上、都城発掘調査部］、中村一郎［企画調整部］、高妻洋成［埋蔵文化財センター］、加賀見省一、前岡孝彰［以上、豊岡市但馬国府・国分寺館］

【年度実績概要】

但馬国府推定地である兵庫県豊岡市所在の祢布ヶ森遺跡から平成 20 年春に出土した木簡約 200 点について、科学的な保存処理を実施した上で釈読を確定し、その歴史的な意義を明らかにするための事業である。祢布ヶ森遺跡出土の個々の木簡の釈読を確定してその歴史的価値を明らかにする一方貴重な資料を確実に後世に残すために最善の科学的保存処理を実施することができた。また、保存処理前後の二度にわたってカラー・モノクロ・赤外線の三種類の写真撮影を行い、最新の機器と蓄積されたノウハウによって釈読作業を行った。

その結果、『詩経』の語句が習書された木簡や「五百井女王」の名の書かれた木簡、城崎郡からの「御調料」の茜の荷札をはじめとする、国府の行政事務や文化環境を彷彿とさせる豊かな内容が読みとれ、全国有数の国府遺跡出土木簡群であることを明確にできた。

① 水漬け状態における釈文の検討を、最新鋭の赤外線テレビカメラ装置を用いて実施し釈文案を作成
② 同上について、4×5 モノクロ写真（ネガ）、4×5 カラー写真（ポジ）、デジタルカメラによる赤外線撮影 3 種類の撮影を行った。原版は、奈文研と但馬国府国分寺館の双方に保管している。
③ ①②の作業終了後、埋蔵文化財センター保存修復工学研究室において科学的な保存処理を実施した。保存処理方法は、木簡の状況に応じて真空凍結乾燥法と高級アルコール法の適切な方を選択した。
④ 保存処理後、①と同じ要領で、再度釈読検討会を実施し、最終的に釈文を確定した。
⑤ 保存処理後の状態について、②と同じ要領で写真撮影を実施した。

以上の調査の結果、出土からあまり日を置かずに良好な状態で釈読を確定することができ、また早めに保存処理を行うことができた。今回の木簡群には多数（約 125 点）の削屑が含まれているが、平城宮跡出土木簡で試みている真空凍結乾燥法によって、良好な状態で処理を施すことができた。受託研究による多量の削屑の科学的保存処理は、今回が初めてである。

具体的な調査成果については、委託主体である但馬国府国分寺館に業務完了報告書の形で報告した。今後先方と相談の上、研究成果の公表方法を検討していきたいと考える。


詩経木簡赤外画像

【実績値】
解読木簡点数約 200 点、
水漬け状態の写真撮影モノクロ約 200 点・カラー約 200 点・赤外線デジタル約 200 点、
保存処理後の写真撮影モノクロ約 200 点・カラー約 200 点・赤外線デジタル約 200 点
木簡の科学的保存処理約 200 点（うち削屑約 125 点）

【受託経費】
1,603 千円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8000-38
（様式 3）

業務実績書（受託事業）

研究所 No81－3

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
【事業名称】	「発掘調査のてびき」作成に係わる業務（受託）((1))		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	文化遺産部長　山中敏史

【スタッフ】
小林謙一［企画調整部］、小澤毅、金田明大［以上、埋蔵文化財センター］、松村恵司、深澤芳樹［以上、都城発掘調査部］ほか

【年度実績概要】
『発掘調査の手引き』は 1966 年に文化庁文化財保護部から刊行され、数多く版を重ねてきたが、このたび約 40 年ぶりに全面改訂し、あらたな『発掘調査のてびき』を作成することとなった。前回と同様、文化庁の事業として行い、まず『集落遺跡・調査編』と『整理・報告書編』の 2 冊を同時に刊行することが決定している。当研究所は、文化庁の委託を受けて、上記 2 冊の作成作業の事務局と実際の編集作業全般を担当する。

本年度は、7 月・11 月・1 月にそれぞれ 2 日間をあてて、奈良で 3 回の作成作業部会を開催した。前年度に引き続き、文化庁委員、地方公共団体委員、奈良文化財研究所委員が一堂に会して、『集落遺跡・調査編』及び『整理・報告書編』の構成と内容を検討した。また、これらの作成作業部会の検討成果と事務局によるそのとりまとめを受けて、3 月に東京で作成委員会を開催し、本年度の事業報告を行うとともに、それに対する指導と助言を受けた。

『集落遺跡・調査編』は、構成や内容について細部の修正作業を進め、編集とレイアウトを終了した。また、『整理・報告書編』は、原稿を集約して構成や内容に関する調整を行い、編集とレイアウトを終えたが、刊行までには、なお両者の内容の擦り合わせと修正作業が必要である。

【実績値】
作成作業部会開催件数： 3 回
作成委員会開催件数： 1 回
実績報告書： 1 件

【受託経費】
6,295 千円

ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

【書式Ａ】　施設名 国立文化財機構　処理番号 9110

中項目	1　職員の意識改革、サービスの向上、業務の効率化

事業名	(1)　事務の一元化			
担当者	担当部課	総務企画課	事業責任者	総務企画課長　藤本慎也
実績・成果	20 年度 4 月から人事給与システムを一元化し、事務作業の効率化及び費用の削減に努めた。			
補足事項				

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
年度実績評価総括	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ （Ｓ、Ｆの理由）								
中期計画記載事項	1　職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上に考慮する。また、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、さらに、外部委託の推進等により、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き 5 年期間中一般管理費 15%以上、業務経費 5%以上の業務の効率化を図る。 　さらに、法人統合のメリットも最大限に生かしつつ業務の効率化に務め、機構の業務運営に際しては、一般管理業務の本部への一元化、集約化等を図り、19 年度一般管理費（物件費）の 10%相当を統合後 5 年間で削減を図る。								

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 9120

中項目	1　職員の意識改革、サービスの向上、業務の効率化

事業名	(2)　使用資源の減少			
担当者	担当部課	本部財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所管理部、奈良文化財研究所管理部管理課	事業責任者	事務局長　金谷史明

実績・成果

・　光熱水料の節減のため、より安価な契約方法の検討に加え、エネルギー効率の良い機器への交換、日常の節電節水の周知徹底、夏季の軽装励行、冷暖房の省エネ運転等を行った。
・　廃棄物削減では、ミスコピーの防止及び両面印刷の励行、館内 LAN・電子メール等の活用による文書のペーパーレス化を行った。

○使用資源の推移等

光熱水料金　（単位：千円）

事項	19 年度	20 年度	差額
電気料	397,304	427,588	30,284
水道料	89,081	84,044	△5,037
ガス料	114,008	138,811	24,803
計	600,393	650,443	50,050

○電気・ガスを 19 年度単価ベースにした場合

事項	19 年度	20 年度	差額
電気料	397,304	390,591	△6,713
水道料	89,081	84,044	△5,037
ガス料	114,008	111,955	△2,053
計	600,393	586,590	△13,803

参考）光熱水量使用量

事項	19 年度	20 年度	差額
電気料	28,188,500kwh	27,687,305kwh	△501,195kwh
水道料	160,186 ㎥	150,410 ㎥	△9,776 ㎥
ガス料	1,805,639 ㎥	1,771,924 ㎥	△33,715 ㎥

○廃棄物排出量　（単位：kg）

事項	19 年度	20 年度	増減率（%）
一般廃棄物	237,974	247,491	4.0

○東博（東洋館引越）・京博（平常展示館建替）に伴い排出された一般廃棄物量を差し引いた場合

事項	19 年度	20 年度	増減率（%）
一般廃棄物	237,974	215,931	△9.3

リサイクル実施例
(1) 廃棄物の分別収集　(2) リサイクル業者への古紙受け渡し　(3) 再生紙の発注等

補足事項

・光熱水料については、節水の周知徹底により水道料は減少した。電気料及びガス料は、国際的な原油価格高騰による燃料費上昇等の影響で増加しているが、節約の周知徹底により、使用量は減少しており、19 年度単価ベースにした場合、料金も減少する。
・一般廃棄物については、東京国立博物館の東洋館引越し、及び京都国立博物館の平常展示館建替工事に伴い増加しているが、これらの廃棄量を差し引いた場合、減少する。
・この他、「環境物品等の調達の推進を図るための方針」を定め、これを推進した。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
光熱水料	2.3%減	年間 1.03%減	A	経年	－	－	1.6%増	2.3%減
一般廃棄物排出量	9.3%減	年間 1.00%減	A	変化	－	－	2.9%減	9.3%減

年度実績評価総括

S　Ⓐ　B　C　F
（S、Fの理由）

中期計画記載事項

(2) 使用資源の減少
・　省エネルギー（5 年期間中 1 年に 1．03%の減少）
・　廃棄物減量化（一般廃棄物排出量を 5 年期間中 5%減少）
・　リサイクルの推進

中期計画に対して順調に成果を上げているか。　中期計画に対してほぼ順調に成果をあげている。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 9131

中項目	1　職員の意識改革、サービスの向上、業務の効率化

事業名	(3)　施設有効使用の推進			
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	総務課長　吉田勇人

実績・成果

パーティー、コンサート、撮影への施設利用（平常展も観覧いただくようにし、新たな入館者の開拓も目的とする）、茶室の貸出等の促進による施設の有効利用を図る。

施設名	平成 20 年度
講堂等	385 件（内　有償貸付　104 件）
茶室	124 件（内　有償貸付　69 件）
その他（本館・表慶館・ラウンジ・前庭）	65 件（内　有償貸付　65 件）
合　　計	574 件　　収入額　26,829,670

入館者の拡大を目的とするコンサートとして
・ハーバード大学男性ア・カペラコーラスグループ「クロコディロス」公演（6月15日　共催：（財）東芝国際交流財団）
・「ファミリーコンサート」（7月20日　共催：東京クラリネットクワイアー）
・「オペラの午後」（12月28日 制作協力：瀧井敬子）
・「エフゲニ・ザラフィアンツ　ピアノコンサート」（6月22日　共催：サロン・ド・ソネット）
等を、講演会として、
・「東大寺講演会」（9月25日　共催：東大寺）
演芸として、
・「新春東博寄席」（1月11日）
など様々なイベントを実施した。

補足事項

・ドラマ、ファッション誌等への建物の撮影についてもかなり定着し、問い合わせは非常に多い。また、今年度よりボランティアによるガイドツアー『東博たてもの散歩』において、各建物の由来だけではなく、最近の利用法として過去の撮影実績を織り交ぜて説明できるよう情報提供し、このような取り組みについてもアピールした。
・来館者に展示観覧と併せてコンサート等を楽しんでいただけるよう、イベントの開催時間を開館時間中に設定することに努めた。
・来館者数が比較的少ない平常展のみの期間に開催できるイベントを重点的に行い、来館者数の増加に貢献した。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
施設の有効利用件数	574	－	－		792	751	885	574
うち有償利用件数	238	－	－		171	233	350	238

年度実績評価総括

S　Ⓐ　B　C　F
（S、Fの理由）

中期計画記載事項

(3) 施設有効使用の推進
・施設の利用推進

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　　施設名 京都国立博物館　処理番号 9132

中項目	1　職員の意識改革、サービスの向上、業務の効率化

事業名	(3)　施設有効使用の推進		
担当者	担当部課　総務課	事業責任者	総務課長　大西真一

実績・成果

講堂等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進を図った。


平常展示館講堂（夏期講座）

平常展示館講堂
- 展覧会等に関する講演会（講座回数 36 回　聴講者数　合計 3,254 名）
- 夏期講座(開催日 3 日間　申込者 177 名　当日参加者　159 名)
- イベント開催
  「京都・らくご博物館」(開催日 3 日　入場者数 525 名)
  ミュージアムコンサート
  バロック音楽で綴る「平常展示館ファイナルコンサート（開催日 1 日　入場者 101 名）
  「平常展示館ファイナルコンサート」(開催日 1 日 2 回公演　入場者　345 名)

特別展示館
- 「japan 蒔絵」プレイベントコンサート（開催日 1 日　入場者 184 名）

庭園（丸池周辺）
- 自転車発電エコライブ（開催日 1 日　参加者 約 100 名）

また、外部団体等の講演会・研修会等への施設の貸し出しを積極的に行った。

外部使用件数		使用料
講堂	12 件（無料件数含む）	22,500 円
研修室	19 件（　〃　）	7,875 円
茶室	29 件（　〃　）	313,425 円
計	57 件	343,800 円

補足事項

講堂の活用
- 昭和 48 年から毎週土曜日に開講の「京都国立博物館土曜講座」の会場として活用し、現在では開講件数 1,670 回を超える当館の長寿看板講座となっている。
- 当館の恒例となっている夏期講座の講演会場として使用している。
- 展覧会開催に関連するコンサート会場として使用し、開催の都度、販売チケットが完売に近い状況である。
- 四季それぞれの時候にあわせた「京都・らくご博物館」の開催会場として活用し、毎回ほぼ満席の盛況にある。

特別展示館の中央ホール
- 特別展覧会のプレイベントとして、同館の中央ホールで日本古来の雅楽器を使用したコンサートを開催したところ、満員の盛況であった。

庭園（丸池周辺）
- エコライブは、青空の下、前日の暖かい日からこの冬一番の寒さの中開催、一般観覧者も自転車発電のこぎ手として参加、観客とも大盛況。

茶室
- 当館に茶室が設けられていることが徐々に浸透してきたのか茶道愛好家の利用が多い。

上記の講堂については、平常展示館建て替え工事に伴いリニューアルオープンするまで、約 5 年間使用できない。このため、「土曜講座」・「らくご博物館」の開催会場は、館外の施設を利用し、今後も継続開催する。

項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
施設の有効利用件数	57 件	－			137 件	138 件	56 件	57 件
うち有償利用件数	29 件	－			62 件	68 件	30 件	29 件

年度実績評価総括　S　Ⓐ　B　C　F
（S、Fの理由）

中期計画記載事項
(3) 施設有効使用の推進
- 施設の利用推進

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 9133

中項目	1　職員の意識改革、サービスの向上、業務の効率化

事業名	(3)施設有効使用の推進			
担当者	担当部課	総務課渉外室	事業責任者	渉外室長　添田美由紀
実績・成果	・施設の利用 講堂：公開講座（19 回）、サンデートーク（12 回）、正倉院展ボランティア解説（17 日間計 102 回）、世界遺産学習（36 校） ・イベント等の実施（計 28 回） 敷地内：唐招提寺の蓮展示、なら燈花会、音燈華、馬とのふれあいイベント 講堂：まほろば寄席、JRA 競走馬総合研究所特別連続講座、中国琵琶及び揚琴によるコンサート、立松和平氏による講演会 仏教美術資料研究センター：チェンバロコンサート、源氏物語オペラ 地下回廊：競走馬の特別展示、絵画コンクール入賞作品展示、 西新館ロビー：写真と仏画で巡る西国三十三所			
補足事項	 			

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	施設の有効利用件数	84 件	－	－	経年	69	79	122	84
	うち有償利用件数	23 件	－	－	変化	20	28	18	23

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	(3) 施設有効使用の推進 ・施設の利用推進

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 9134

中項目	1　職員の意識改革、サービスの向上、業務の効率化

事業名	(3)　施設有効使用の推進			
担当者	担当部課	交流課	事業責任者	事務主査　元永行英
実績・成果	・文化交流展示室を紹介する講座の開催や各特別展で関連する講演会を開催した。 ・ミュージアムホール、エントランスホール、研修室等において、各種団体主催のイベントを開催するとともに、希望団体にはミュージアムホール、研修室の貸出を行った。 ・各種国際シンポジウム、アジア諸国に関するイベント、留学生の日のイベント等を開催した。 ・ガムランワークショップや、コンサートの開催等を継続的に実施し、施設の有効活用を促進した。 ミュージアムホールの利用　72 件（内　有料　3 件） 研修室の利用　61 件（内　有料 42 件） その他(ｴﾝﾄﾗﾝｽﾎｰﾙ 外)　60 件（内　有料　0 件）			
補足事項	・特別展関連講演会 島津の国宝と篤姫の時代展記念講演会『5 人の篤姫～「維新前後風刺画」にみる幕末の日本～』（期間：7/19, 参加者数：300 名）等を開催した。 ・各種団体主催イベント 開館 3 周年記念協賛「温泉足湯」～お！館外（ここ）にもあった　至福の時間～（期間：10/11～10/13, 参加者数：500 名）等を開催した。 ・国際シンポジウム 九州国立博物館開館 3 周年・日本考古学協会創立 60 周年・太宰府発掘調査 40 周年記念国際シンポジウム「百済、倭そして太宰府」（期間：12/6・7, 参加者数：385 名）等を開催した。 ・コンサート きゅーはくミュージアムコンサートを毎月開催した。 ・特別展関連イベント及び「留学生の日」イベントとして、菅公（カンコー）学生服フェスティバルを開催した。 （期間：11/9）			


きゅーはくミュージアムコンサート

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	施設の有効利用件数	193 件	―	―	経年	―	―	188	193
	うち有償利用件数	45 件	―	―	変化	―	―	28	45

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	(3) 施設有効使用の推進 ・施設の利用推進
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 9135

中項目	1　職員の意識改革、サービスの向上、業務の効率化

事業名	(3)　施設有効利用の推進			
担当者	担当部課	東京文化財研究所管理部	事業責任者	管理部長　北出猛夫
実績・成果	・セミナー室、会議室等を利用することにより、施設の有効利用の推進を図った。 ・研究成果を広く一般にも公表するためのオープンレクチャーを毎年秋に開催。また、このレクチャーは、台東区との連携事業として「上野の山文化ゾーンフェスティバル」の講演会シリーズのプログラムの一つとしても企画された。			
補足事項	 第 42 回オープンレクチャー「人とモノの力学」の模様			

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	施設の有効利用数	140 件	―	―	経年	―	―	266	140
	うち有償利用数	21 件	―	―	変化	―	―	40	21

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	(3) 施設有効使用の推進 ・施設の利用推進
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている

【書式A】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 9136

中項目	1　職員の意識改革、サービスの向上、業務の効率化

事業名	(3) 施設有効利用の推進			
担当者	担当部課	管理部業務課	事業責任者	業務課長　東　博信

実績・成果

施設の有効利用及び調査研究の進展並びに行政サービスの向上を包括的にとらえて、事業運営の展開を図った。

施設名	20 年度
平城宮跡資料館講堂	107 件　(内　有償貸与　2 件)
平城宮跡資料館小講堂	137 件　(内　有償貸与　0 件)
寄宿舎施設	1,824 件　(内　有償貸与 64 件)
その他（本庁舎・監理棟・収蔵庫等）	11 件　(内　有償貸与　5 件)
合計	2,079 件　(内　有償貸与 71 件)

① 調査研究成果を公表する場として、また、調査研究の進展に資することを目的として多岐にわたる各研究分野において、講習会・研究会・学会等を開催した。
② 広く国民に文化財への理解を求めるべく、セミナー及び一般参加型のイベント等を開催した。
③ 一般利用申し出への行政サービスの向上を図る方針のもとに、ＨＰ上での施設利用紹介等による積極的有効利用（貸付等）の促進を図った。
④ 奈良文化財研究所が企画実施する研修等に際して、宿泊施設の有効活用を図った。
⑤ 飛鳥資料館講堂において、団体入館者の要望に応えて、大型モニター映像による集合解説を実施した。(年間 17 回・1 回平均 50 名参加)
⑥ 上記のほか、平城宮跡資料館、飛鳥資料館の各ミュージアムショップ（売店）の運営を外部委託し、図録等の販売を通して来館者の利便に供した。

補足事項

平成 19 年度実績

施設名	19 年度
平城宮跡資料館講堂	164 件（内　有償貸与　2 件)
平城宮跡資料館小講堂	168 件（内　有償貸与　5 件)
寄宿舎施設	1,471 件（内　有償貸与　56 件)
飛鳥資料館講堂	18 件（内　有償貸与　0 件)
その他（本庁舎・監理棟・収蔵庫等）	20 件（内　有償貸与　12 件)
合計	1,841 件（内　有償貸与　75 件)

定量的評価

項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
施設の有効利用件数	2,079件71件	―	―			―	1,841	2,079
うち有償利用件数		―	―			―	75	71

年度実績評価総括　S　Ⓐ　B　C　F
（S、Fの理由）

中期計画記載事項
(3) 施設有効使用の推進
・施設の利用推進

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 9140

中項目	1　職員の意識改革、サービスの向上、業務の効率化

事業名	(4)　民間委託の推進			
担当者	担当部課	本部財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所管理部、奈良文化財研究所管理部管理課	事業責任者	事務局長　金谷　史明
実績・成果	・　電気設備保守業務、機械設備保守業務、売札業務、昇降機設備保守点検業務、各種事務補助作業等について、民間委託を実施している。 ・　博物館の清掃業務については、全ての博物館で民間委託を実施しており、警備・展示室監視等業務についても大部分、民間委託を実施している。また、研究所についても、警備・清掃業務を外部委託している。 ・　来館者サービスに関しては、インフォメーション業務、図書貸出等業務について民間委託を実施している。			
補足事項	・　外部委託が可能な業務については、概ね民間委託が進められている。 ・　来館者・非来館者についての調査を外部委託で実施し、サービスの向上に反映させるよう努めている。 ・　また、複数の業務についての包括契約化、複数年契約、近隣の機関及び法人内同一地域での一括契約などの実施により、経費の効率化を図っている。 ・　外部委託の増加に伴い、契約手続きや指導・監督の業務負担も増加するなど、人件費削減が更に求められている現状では、限られた職員での対応が困難な場合も生じてきている。			

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	―	―	―	―	経年変化	―	―	―	―

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	(4) 民間委託の推進 ・　一般管理部門を含めた組織・業務の見直しを行い、民間開放をさらに積極的に進める。 ・　館の警備・清掃業務について民間委託を推進する。 ・　来館者サービスを中心に業務の見直しを行い、民間委託を積極的に進める。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	中期計画に対して順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 9150

中項目	1　職員の意識改革、サービスの向上、業務の効率化

事業名	(5)　競争入札の推進			
担当者	担当部課	本部財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所管理部、奈良文化財研究所管理部管理課	事業責任者	事務局長　金谷　史明

実績・成果

・ 一般競争契約の限度額は国の規準と同額としているが、基準額に達しない契約の場合も、可能なものについては一般競争入札を実施している。
・ 新たに電子複写機賃貸借及び保守、職員定期診断、人材派遣契約、空調設備等の運転管理業務他請負、清掃業務、昇降機保守業務、自家用工作物保安業務等を一般競争入札で行い経費効率化を図った。
・ また、ホームページ作成など一部の契約について企画競争を実施している。

一般競争入札件数

年度	19 年度	20 年度	増減
件数	98 件	142 件	44 件

補足事項

・ 総務省からの要請に基づき、「独立行政法人整理合理化計画」の一環として、随意契約の見直しを行い、随意契約によることがやむを得ないものを除き、本年度から順次競争契約に移行を図っている。
・ 独立行政法人整理合理化計画（19 年 12 月 24 日閣議決定）の方針に基づき、東京国立博物館及び東京文化財研究所の施設管理・運営業務（展示等の企画運営を除く）について、21 年 10 月開始へ向けて民間競争入札準備を進めている。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
―	―	―	―	経年変化	―	―	98 件	142 件

年度実績評価総括

S　Ⓐ　B　C　F
（S、Fの理由）

中期計画記載事項

(5) 競争入札の推進
・ 契約業者の競合を一層推進することにより、経費の効率化を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	中期計画に対して順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 国立文化財機構　処理番号 9160

中項目	1　職員の意識改革、サービスの向上、業務の効率化

事業名	(6)　自己収入の増大			
担当者	担当部課	総務企画課	事業責任者	総務企画課長　藤本慎也
実績・成果	・独立行政法人整理合理化計画の勧告に従い、自己収入の増大計画について、具体的な数値目標を立てるべく、ワーキンググループを設け、21 年度計画に反映した。 21 年度計画（抜粋） (6)　定量的な目標の設定 独立行政法人整理合理化計画（19 年 12 月 24 日閣議決定）の方針に基づき、外部資金の活用及び自己収入の増大に向けて、以下の定量的な目標の達成を目指す。 1)機構全体において、入場料収入（共催展を除く）及びその他収入について、1.16%の増加を目指す。 2)機構全体において、寄附金 226 件及び科学研究費補助金 76 件の確保を目指す。			
補足事項				

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
					経年変化				

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	1　職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上に考慮する。また、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、さらに、外部委託の推進等により、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き 5 年期間中一般管理費 15%以上、業務経費 5%以上の業務の効率化を図る。 さらに、法人統合のメリットも最大限に生かしつつ業務の効率化に務め、機構の業務運営に際しては、一般管理業務の本部への一元化、集約化等を図り、19 年度一般管理費（物件費）の 10%相当を統合後 5 年間で削減を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式Ａ】　施設名 国立文化財機構　処理番号 9220

中項目	2　事業評価の実施及び職員の意識改善

事業名	2　事業評価の実施及び職員の意識改善			
担当者	担当部課	総務企画課	事業責任者	総務企画課長　藤本慎也
実績・成果	1)　コンプライアンス体制の整備 ○いままで各施設での制定等で運用していた「文化財購入に関する手続き」等の規定について、機構全体として更なる透明性を図る観点から、統一した規定として整備した。 ・「独立行政法人国立文化財機構有形文化財の収集等に関する規程」 ・「独立行政法人国立文化財機構修理契約委員会要項」 ・公募・企画競争に係る手続き等に関する標準マニュアル ○決算事務のスムーズな実施のため、「決算業務について」及び「20 年度決算スケジュール」等について事務局長通知を行うなど、法人本部と各施設担当者での情報の共有に努めた。 2）運営改善コンクールを開催し、職員の意識及び意欲の向上を図った。 ○スケジュール 7 月 1 日～ 7 月 31 日　募集 11 月 18 日　審査委員会開催（委員長：佐々木理事長） 12 月 11 日　表彰 ○応募総数　39 件 ○結果　佳作　4 件 生理用品の自動販売機の設置 撮影者申込増加のための撮影紹介パンフレット作成・HP の掲載方法の修正 研究者一覧（データベース）の作成 機構内規程集のウェブ化			
補足事項	2) ・佳作に入選した 4 件については、21 年度に順次実施予定である。 ・継続性が大事であるので、職員の意欲喚起と運営の改善のためにも 21 年度も引き続き実施する予定である。			

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	コンクール応募総数	39 件	－	－	経年変化				

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、F の理由）
中期計画記載事項	2　外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年 1 回以上事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 9330

中項目	3　情報の安全性向上

事業名	3　情報の安全性向上			
担当者	担当部課	本部総務企画課	事業責任者	総務企画課長　藤本慎也
実績・成果	1)機構情報システム管理規程に基づく規定の策定 20 年度は 19 年度に策定した「独立行政法人国立文化財機構 情報システム管理規程（平成 20 年 3 月 14 日制定）に基づき、機構においては以下の規定を策定した。 ・情報課委員会組織要項 ・情報格付け基準 ・情報セキュリティ対策要項 ・ネットワーク管理運用要項 ・情報システム調達・導入基準 ・セキュリティインシデント対応手順 ・情報システム点検・評価要項 ・情報システム監査要項 2)情報システム点検・評価の実施 情報システム点検・評価要項に基づき、ⅰ)各施設で規定する手順等の整備状況、ⅱ)物理的・技術的セキュリティ対策の実施状況等について、各施設で自己点検評価を実施し、各施設における情報セキュリティ体制のさらなる整備に努めた。 3)情報システム監査の実施 20 年度は奈良国立博物館を対象に実施した。			
補足事項				

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	－	－	－	－	経年変化				
年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）								
中期計画記載事項	3 機構が管理する情報の安全性向上のため、必要な措置をとる。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調に成果を上げている。					

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 9440

中項目	4　人件費の削減

事業名	4　人件費の削減			
担当者	担当部課	総務企画課	事業責任者	総務企画課長　藤本慎也

実績・成果

・人件費削減実績

	17年度（A分類実績ﾍﾞｰｽ）	18年度	19年度	20年度	22年度目標値（17年度に比して△5.00%）
実績（千円）	2,878,750	2,789,360	2,773,688	2,745,389	2,734,812
前年度に対する削減率	－	△3.11%	△0.56%	△1.02%	－
17年度に対する削減率	－	△3.11%	△3.65%	△4.63%	－
17年度に対する削減率(補正値)	－	△3.11%	△4.35%	△5.33%	－

・人事給与統合システムが平成20年4月から稼働し、機構全体として統一的な処理ができるようになった。さらに人件費の削減に向けたシミュレーション等により人件費に関する計画を円滑に企画・立案することができた。

補足事項

※人件費削減実績表中の「補正値」とは、「行政改革の重要方針」（平成17年12月24日閣議決定）による人事院勧告を踏まえた官民の給与較差に基づく給与改定分を除いた削減率である。なお、平成18年、平成19年、平成20年の行政職(一)職員の年間平均給与の増減率はそれぞれ0%、0.7%、0%である。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
人件費削減率（17年度比較）	△4.63%	17年度決算額に比して5年間で5%削減	－	経年変化	－	△3.11%	△3.65%	△4.63%

年度実績評価総括

S　Ⓐ　B　C　F

（S、Fの理由）

中期計画記載事項

「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」（平成18年法律第47号）に基づき、国家公務員に準じた人件費改革に取り組み、平成18年度からの5年間において、△5%以上の人件費削減を行う。また、国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与体系の見直しを行う、更に、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006」（平成18年7月7日閣議決定）に基づき、国家公務員の改革を踏まえ、人件費改革を平成22年度まで継続する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

Ⅳ　その他主務省令で定める業務運営に関する事項

【書式Ａ】　施設名　本部事務局　処理番号　0110

中項目	1　人事に関する計画

事業名	(1)　近隣大学等との交流を進め、優秀な人材を確保する。			
担当者	担当部課	総務企画課	事業責任者	総務企画課長　藤本慎也

実績・成果

〈事務系職員〉
・本部事務局及び各施設において、東京大学、京都大学、大阪大学、九州大学及び西洋美術館等との人事交流を実施し、人材の確保と適材適所の人員配置を行った。
・また、東京都特別区との人事交流を実施し、職員の能力向上を図った。

〈研究系職員〉
・職員の適性・能力、年齢構成及び業務の効率化など総合的に勘案し、新規に研究職員を17名採用した。
・また、文化庁（13名）との人事交流を行っている。

年度	本部・東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	年度計（人）
18	14（東大、西美）	11（京大）	7（阪大、京大、阪教大、奈女大）	7（九大、東大）	7（東大、医科歯科大、千葉大）	9（京大、阪大、滋賀大、滋賀医科大）	55
19	18（東大、医科歯科大、西美、政研大）	11（京大）	9（阪大、京大、阪教大、奈女大）	7（九大、東大、九工大）	5（東大、医科歯科大、千葉大）	8（京大、阪大、滋賀大、滋賀医科大）	58
20	16（東大、西美、政研大）	10（京大、民博）	9（阪大、京大、北九州高専）	8（九大、九工大）	6（東大、医科歯科大）	7（京大、阪大、滋賀大、総地研）	56

※昨年度まで4月1日現在だった人数を、本年度から各年度末現在の人数でカウントした。

補足事項

・事務系職員において、近隣大学等との交流数が11法人あり、20年度は新たな法人（大学共同利用機関法人人間文化研究機構（国立歴史民俗博物館及び総合地球環境学研究所））との人事交流を行い、近隣大学等との交流範囲を拡大させ、優秀な人材を確保した。また、人事交流者数も56名と、引き続き優秀な人材を確保し、計画に対し順調に成果をあげている。
・今後の課題としては、事務系職員において、他法人からの受け入れが交流の中心となっているが、今後は双方向の人事交流を増加させる必要がある。
・研究職員については、文化庁との双方向の人事交流が行われているが、交流の多様化と交流先の拡大を図る必要がある。しかし、退職手当の通算ができない場合が多く、難しい問題がある。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価	経年変化	17	18	19	20
			－					

年度実績評価総括　S　Ⓐ　B　C　F
（S、Fの理由）

中期計画記載事項　(1)近隣大学等との交流を進め、優秀な人材を確保する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 0120

中項目	1　人事に関する計画

事業名	(2)　各種研修を積極的に実施し、また、職員を外部の研修に派遣するなど、その資質の向上を図る。			
担当者	担当部課	総務企画課	事業責任者	総務企画課長　藤本慎也

実績・成果

機構職員としての資質向上を図るため、新任職員や職員を対象とした各種研修（3件）及びハラスメントに関する研修（1件）を実施した。

また、他機関で実施する研修に積極的に参加した。

研修名称	日程	受講対象者	受講者数
新任職員研修会	H20.7.28～ H20.7.30	平成19年度以降の新任職員	30人
接遇研修	H20.7.28	平成19年度以降の新任職員	27人
個人情報保護についての講演会	H20.7.29	平成19年度以降の新任職員及び本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所全職員及び近隣独立行政法人職員	約100人
ハラスメントに関する研修会	H20.10.30	本部事務局、東京国立博物館のハラスメント防止等委員会委員及び相談員等	18人

補足事項

- 新任職員に対しては、機構職員としての必要な業務・組織等についての基礎的知識及び執務要領を修得させ、新任職員の資質の向上を図ることができた。
- 接遇研修の企画及び実施により、機構職員としての資質向上を図るとともに、修得した知識等（お客様からの苦情への対応方法等）を業務に反映させることができた。
- 「独立行政法人等の保有する個人情報の適切な管理のための措置に関する指針について」に基づき、保有個人情報の取扱いに従事する職員に対し、保有個人情報の取扱いについて、理解を深め、個人情報の保護に関する意識の高揚を図ることができた。
- ハラスメントに関する規程を平成20年4月に整備し、ハラスメント防止等委員会を設置した。また、ハラスメント相談員及びハラスメント防止等委員会委員との連携を目的とした研修会を開催し、問題発生から解決までの対応についてシミュレーションを実施して、対応時の問題点等を再認識することができた。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
研修機会の提供	4件		－	経年変化	－	－	3件	4件

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、Fの理由）
中期計画記載事項	(2)各種研修を積極的に実施し、また、職員を外部の研修に派遣するなど、その資質の向上を図る。
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

【書式Ａ】　　施設名　本部事務局　　処理番号　0130

中項目	1　人事に関する計画

事業名	(3)　非公務員化のメリットを活かした制度の活用			
担当者	担当部課	総務企画課	事業責任者	総務企画課長　藤本慎也
実績・成果	・　平成 19 年度において、技術職員及び技能・労務職員について、当面対象とする職種を絞って機構独自で採用可能とする規定の整備を行ったところである。平成 20 年度において技術職員（写真技士）を京都国立博物館で 1 名、また労務職員（衛士）を奈良国立博物館で 1 名採用した。 ・　平成 20 年度においては、さらに上記規定の適用を広げ、新たに施設の維持管理を行う技術職員（電気）を東京国立博物館で 1 名、技術職員（写真技士）を奈良国立博物館で 1 名独自選考を実施し、平成 21 年 4 月に採用予定である。 ・　平成 20 年度において、常勤の研究職員に準じた有期雇用職員の人事制度を新たに整備した。これは、専門的事項の調査研究を行う研究職と高度な専門知識と経験等を有する専門職を対象として採用可能とするものである。その結果、平成 20 年度に東京国立博物館で 1 名及び東京文化財研究所で 3 名を採用した。			
補足事項	・　選考の方法等については、さらに検討し、改善していく必要性があると考える。 ・　研究職員においても、人事の流動化を図りたいが、退職手当の通算の問題があるので、難しい状況にある。			

定量的評価	項目	実績	目標値	評価		17	18	19	20
	機構独自の採用	6 名		－	経年変化	－	－	－	6 名

年度実績評価総括	S　Ⓐ　B　C　F （S、F の理由）
中期計画記載事項	(3)非公務員化のメリットを活かした制度の活用方法について引き続き検討する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調に成果を上げている。

Ⅲ　施設概要

【東京国立博物館】

土地・建物　　（㎡）

土地面積	１２０，２５８（黒田記念館、柳瀬荘含む）		
建物	建築面積		２１，８９６
	延面積		７１，６４２
展示館	展示面積	計	１８，２３５
	収蔵庫面積	計	８，８１５
	本館	建	６，６０２
		延	２２，４１６
		展示面積	７，３４６
		収蔵庫面積	４，０８７
	東洋館	建	２，８９２
		延	１２，５３１
		展示面積	３，４０９
		収蔵庫面積	２，２９３
	平成館	建	５，５２９
		延	１９，３９３
		展示面積	４，４７１
		収蔵庫面積	２，１１９
	法隆寺宝物館	建	１，９３５
		延	４，０３１
		展示面積	１，４６２
		収蔵庫面積	２９１
	表慶館	建	１，１３０
		延	２，０７７
		展示面積	１，１７９
	黒田記念館	建	７０５
		延	１，９５８
		展示面積	３６８
		収蔵庫面積	２５
	その他	建	３，１０３
		延	９，２３６

【京都国立博物館】

土地・建物　　(㎡)

土地面積	５３，１８２		
建物	建築面積		８，１１２
	延面積		１３，９８９
展示館	展示面積	計	２，０７０
	収蔵庫面積	計	２，７１１
	特別展示館	建	３，０１５
		延	３，０１５
		展示面積	２，０７０
		収蔵庫面積	８０３
	管理棟	建	５９０
		延	１，９５４
	資料棟	建	４１４
		延	１，１２５
	文化財保存修理所	建	７２８
		延	２，８５６
	技術資料参考館	建	１０１
		延	３０４
	東収蔵庫	建	１，０８４
		延	１，９９６
		収蔵庫面積	１，４１２
	北収蔵庫	建	３１０
		延	６８２
		収蔵庫面積	４９６
	その他	建	１，８７０
		延	２，０５７

【奈良国立博物館】

土地・建物　　（㎡）

土地面積	７８，７６０		
建物	建築面積		６，７６９
	延面積		１９，１１６
展示館	展示面積	計	４，０７９
	収蔵庫面積	計	１，５５８
	本館	建	１，５１２
		延	１，５１２
		展示面積	１，２６１
	本館付属棟	建	３４１
		延	６６４
		展示面積	４７０
	東新館	建	１，８２５
		延	６，３８９
		展示面積	８７５
		収蔵庫面積	１，３９４
	西新館	建	１，６４９
		延	５，３９６
		展示面積	１，４７３
	仏教美術資料研究センター	建	７１８
		延	７１８
	文化財保存修理所	建	３１９
		延	１，０３６
	地下回廊	延	２，１５２
		収蔵庫面積	１６４
	その他	建	４０５
		延	１，２４９

【九州国立博物館】

土地・建物　　（㎡）

土地面積	１６０，７１５		
			（法人　１０，７３３ 県　１４９，９８２）
建物	建築面積		１４，６２３
	延面積		３０，６７５
			（法人　９，０４８ 県　６，０３４ 共用　１５，５９３）
展示館	展示面積	計	５，４４４
			（法人　３，８４４ 県　１，３７５ 共用　２２５）
	収蔵庫面積	計	４，５１８
			（法人　２，７４４ 県　１，３３５ 共用　４３９）

【東京文化財研究所】

土地・建物　　（㎡）

土地面積	４，１８１	
建物	建築面積	２，２５８
	延面積	１０，６２３

【奈良文化財研究所】

土地・建物　　（㎡）

	土地面積	建物	
本館地区	８，８６０	建築面積 延面積	２，７５４ ６，７５５
平城宮跡資料館地区	（文化庁所属の国有地を無償使用）	建築面 延面積	１０，６３１ １６，１５０
都城発掘調査部 （飛鳥・藤原地区）	２０，５１５	建築面積 延面積	６，０１６ ９，４７７
飛鳥資料館地区	１７，０９３	建築面積 延面積	２，６５７ ４，４０４

Ⅳ　財務諸表

目　　次

１．貸借対照表

２．損益計算書

３．キャッシュ・フロー計算書

４．行政サービス実施コスト計算書

５．利益の処分に関する書類

６．注記（重要な会計方針等）

７．附属明細書

貸　借　対　照　表

平成21年3月31日現在

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

科　　目	金　　額		科　　目	金　　額	
（資産の部）			（負債の部）		
Ⅰ　流動資産			Ⅰ　流動負債		
現金及び預金		3,342,987,835	運営費交付金債務		1,349,950,272
たな卸資産		34,935,842	預り寄附金		152,337,054
前払費用		888,563	未払金		1,787,462,753
未収金		663,610,970	未払費用		51,314,775
その他の流動資産		790,564	前受金		262,500
流動資産合計		4,043,213,774	預り金		145,874,409
Ⅱ　固定資産			その他の流動負債		1,804,331
1有形固定資産			流動負債合計		3,489,006,094
建物	56,395,859,299		Ⅱ　固定負債		
減価償却累計額	−12,566,176,144	43,829,683,155	資産見返負債		
構築物	3,397,611,375		資産見返運営費交付金	2,030,093,683	
減価償却累計額	−1,283,245,482	2,114,365,893	資産見返寄附金	72,891,453	
機械・装置	175,585,296		資産見返物品受贈額	112,715,533	
機械・装置減価償却累計額	−143,964,226	31,621,070	建設仮勘定見返運営費交付金	122,850,000	
車両運搬具	47,169,953		建設仮勘定見返施設費	1,526,352,500	
減価償却累計額	−33,363,764	13,806,189	資産見返負債合計	3,864,903,169	
工具器具備品	3,977,488,398		その他の固定負債		
減価償却累計額	−2,134,736,515	1,842,751,883	長期未払金	22,665,705	
収蔵品		97,361,532,121	固定負債合計		3,887,568,874
土地		44,410,675,104	負債合計		7,376,574,968
建設仮勘定		1,663,388,000			
有形固定資産合計		191,267,823,415	（純資産の部）		
2無形固定資産			Ⅰ　資本金		
ソフトウエア		115,941,453	政府出資金		104,713,813,740
電話加入権		5,266,800	資本金合計		104,713,813,740
無形固定資産合計		121,208,253	Ⅱ　資本剰余金		
3投資その他の資産			資本剰余金		96,766,650,953
保証金		1,283,000	損益外減価償却累計額（−）		−14,440,088,051
長期前払費用		48,175	損益外減損損失累計額（−）		−2,343,600
投資その他の資産合計		1,331,175	資本剰余金合計		82,324,219,302
固定資産合計		191,390,362,843	Ⅲ　利益剰余金		
			前中期目標期間繰越積立金		13,927,549
			積立金		701,196,259
			当期未処分利益		303,844,799
			（うち当期総利益　303,844,799 ）		
			利益剰余金合計		1,018,968,607
			純資産合計		188,057,001,649
資産合計		195,433,576,617	負債純資産合計		195,433,576,617

（注）運営費交付金から充当されるべき退職給付の見積額は2,410,755,233円であります。

（注）運営費交付金から充当されるべき賞与の見積額は226,414,064円であります。

損益計算書

（平成20年4月1日～平成21年3月31日）

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

経常費用			
業務費			
人件費		3,124,517,214	
業務経費			
調査研究業務費	1,026,184,085		
情報公開業務費	129,843,076		
研修業務費	20,220,519		
国際研究協力業務費	225,055,975		
展示出版業務費	113,644,030		
展覧業務費	893,819,278		
教育普及業務費	61,558,975		
受託業務費	473,851,648		
その他業務費	925,490,607	3,869,668,193	
減価償却費		318,985,956	7,313,171,363
一般管理費			
人件費	900,762,146		
一般管理経費	1,153,177,381		
減価償却費	80,471,960	2,134,411,487	
財務費用		1,731,773	
雑損		980,347	2,137,123,607
経常費用合計			9,450,294,970
経常収益			
運営費交付金収益		6,860,581,294	
受託収入			
政府関係受託収入		445,831,086	
地方自治体・民間受託収入		116,072,735	
入場料収入		1,159,899,582	
展示事業等附帯収入		423,211,236	
財産利用収入		150,666,609	
寄附金収益		80,156,106	
施設費収益		131,620,933	
資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金戻入	361,397,466		
資産見返寄附金戻入	9,841,807		
資産見返物品受贈額戻入	14,527,814		
建設仮勘定見返施設費戻入	11,926,950	397,694,037	
財務収益			
受取利息		19,938	
その他財務収益		2,785	
雑益		5,338,228	
経常収益合計			9,771,094,569
経常利益			320,799,599
臨時損失			
固定資産除却損			20,480,869
			20,480,869
臨時利益			
固定資産売却益			66,570
			66,570
当期純利益			300,385,300
前中期目標期間繰越積立金取崩額			3,459,499
当期総利益			303,844,799

キャッシュ・フロー計算書

（平成20年4月1日～平成21年3月31日）

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

Ⅰ　業務活動によるキャッシュ・フロー	
人件費支出	-3,950,309,982
業務支出	-4,857,051,421
科学研究費支出	-304,457,224
運営費交付金収入	8,771,089,000
科学研究費収入	351,715,000
展示事業等収入	1,584,726,739
財産利用収入	152,481,205
受託収入	438,976,099
寄附金収入	168,051,990
その他の業務収入	90,895,745
小計	2,446,117,151
利息の受取額	19,938
利息の支払額	-1,731,773
業務活動によるキャッシュ・フロー	2,444,405,316
Ⅱ　投資活動によるキャッシュ・フロー	
施設費による収入	2,020,029,650
有形固定資産の取得による支出	-3,546,567,853
無形固定資産の取得による支出	-48,240,326
固定資産売却による収入	66,570
その他投資活動による支出	-354,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	-1,575,065,959
Ⅲ　財務活動によるキャッシュ・フロー	
リース債務の支払による支出	-16,255,476
Ⅳ　資金増加額	853,083,881
Ⅴ　資金期首残高	2,489,903,954
Ⅵ　資金期末残高	3,342,987,835

（注記事項）

（１）資金の期末残高の貸借対照表科目の内訳

現金及び預金勘定	3,342,987,835 円
資金期末残高	3,342,987,835

（２）重要な非資金取引

①現物寄附の受入

陳列品	421,347,160
その他の有形固定資産	12,000,000
合計	433,347,160

行政サービス実施コスト計算書

（平成20年4月1日～平成21年3月31日）

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

Ⅰ　業務費用		
損益計算書上の費用		
業務費	7,313,171,363	
一般管理費	2,134,411,487	
財務費用	1,731,773	
雑損	980,347	
臨時損失	20,480,869	9,470,775,839
（控除）		
受託収入	−561,903,821	
入場料収入	−1,159,899,582	
展示事業附帯収入	−337,937,888	
財産利用収入	−150,666,609	
寄附金収益	−80,156,106	
財務収益	−22,723	
雑益	−5,338,228	
資産見返寄附金戻入	−9,841,807	
臨時利益	−66,570	−2,305,833,334
Ⅱ　損益外減価償却相当額		
損益外減価償却相当額	2,507,105,125	
損益外固定資産除売却相当額	300,642,536	2,807,747,661
Ⅲ　引当外賞与見積額		−21,313,954
Ⅳ　引当外退職給付増加見積額		−172,815,672
Ⅴ　機会費用		
国有財産無償使用の機会費用	147,126,074	
政府出資等の機会費用	2,407,664,505	2,554,790,579
Ⅵ　行政サービス実施コスト		12,333,351,119

（注記）

・国有財産無償使用の機会費用の計算方法については、国の庁舎等の使用又は収益を許可する場合の取扱の基準（昭和33年1月7日付大蔵省管財局長通知蔵管1号）を準用しております。

・政府出資等の機会費用の計算利率については、国債の利回り及び昨今の市場情勢を勘案し、1.34%としております。

利益の処分に関する書類

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

Ⅰ	当期未処分利益		303,844,799
	当期総利益	303,844,799	
Ⅱ	利益処分額		303,844,799
	積立金	303,844,799	

注記事項

Ⅰ．重要な会計方針

１．運営費交付金収益の計上基準

人件費のうちの役員給与、職員給与、法定福利費並びに管理部門の経費（特に指定するものを除く）及び減価償却費については、業務の実施が運営費交付金と期間的に対応しているため期間進行基準（一定の期間の経過を業務の進行とみなし、運営費交付金債務を収益化する方法）を採用しております。

人件費のうちの退職手当並びに事業部門の経費及び管理部門の経費のうち特に指定するものについては、業務達成基準（当該業務等の達成度に応じて、財源として予定されていた運営費交付金債務を収益化する方法）を採用しております。

人件費のうち公務災害補償費、財務費用、その他計画外の発生費用については、費用進行基準（発生費用の額を限度として運営費交付金債務を収益化する方法）を採用しております。

２．減価償却の会計処理方法

（１）有形固定資産

定額法により行っております。

なお、主な資産の耐用年数は以下のとおりであります。

建物	２年～５８年
構築物	２年～６３年
機械装置	２年～　５年
車両運搬具	２年～　７年
工具器具備品	２年～２０年

また、特定の償却資産（独立行政法人会計基準第８６）の減価償却相当額については、損益外減価償却累計額として資本剰余金を減額しております。

（２）無形固定資産

定額法により行っております。なお、法人内利用のソフトウエアについては、法人内における利用可能期間（５年）に基づいております。

３．退職給付に係る引当金及び見積額の計上方法

役職員の退職給付については運営費交付金により財源措置がなされるため、退職給付に係る引当金は計上しておりません。

また、行政サービス実施コスト計算書における引当外退職給付増加見積額は、自己都合退職金要支給額の当期増加額に基づき計上しております。

４．賞与に係る引当金及び見積額の計上方法

役職員の賞与については運営費交付金により財源措置がなされるため、賞与に係る引当金は計上しておりません。

また、行政サービス実施コスト計算書における引当外賞与見積額は、当事業年度の引当外賞与見積額から前事業年度の同見積額を控除した額を計上しております。

５．たな卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品･･･最終仕入原価法を採用しております。

６．収蔵品の評価方法

国からの承継分については、承継時の物品目録上の価額をもって評価しており、新規取得分については取得時の価額をもって評価しております。

７．行政サービス実施コスト計算書における機会費用の計上方法

①国有財産無償使用の機会費用の計算方法

国の庁舎等の使用又は収益を許可する場合の取扱の基準（昭和33年1月7日付大蔵省管財局長通知蔵管第１号）を準用して算出しております。

②政府出資等の機会費用の計算に使用した利率

１０年利付国債の平成２１年３月末利回りを参考にして１．３４％で計算しております。

８．リース取引の処理方法

リース料総額が３００万円以上のファイナンス・リース取引については、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

リース料総額が３００万円未満のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

９．消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっております。

Ⅱ．固定資産の減損

該当なし

Ⅲ．重要な債務負担行為

京都国立博物館平常展示館建替工事　　9,949,480,000 円

第２期　附属明細書

自：平成20年 4月 1日
至：平成21年 3月31日

１．　固定資産の取得及び処分並びに減価償却費（「第86特定の償却資産の減価に係る会計処理」による損益外減価償却相当額も含む。）及び減損損失の明細

２．　たな卸資産の明細

３．　有価証券の明細

４．　長期貸付金の明細

５．　長期借入金及び債券の明細

６．　引当金の明細

７．　法令に基づく引当金等の明細

８．　保証債務の明細

９．　資本金及び資本剰余金の明細

１０．　積立金の明細

１１．　目的積立金の取崩しの明細

１２．　運営費交付金債務及び当期振替額等の明細

１３．　運営費交付金以外の国等からの財源措置の明細

１４．　役員及び職員の給与の明細

１５．　セグメント情報

１６．　主な資産、負債、費用及び収益の明細

16. 主な資産、負債、費用及び収益の明細

（1）現金及び預金の明細　（単位：円）

区　分	金　額
現　金	15,029,937
普　通　預　金	3,327,957,898
合　計	3,342,987,835

（2）資産見返運営費交付金の明細　（単位：円）

区　分	金　額
建　物	1,095,608,897
構　築　物	54,556,064
車　両　運　搬　具	5,740,536
工　具　器　具　備　品	778,957,914
ソ　フ　ト　ウ　ェ　ア	94,151,272
差　入　敷　金　・　保　証　金	1,079,000
合　計	2,030,093,683

１．固定資産の取得及び処分並びに減価償却費(「第86特定の償却資産の減価に係る会計処理」による損益外減価償却相当額も含む。)及び減損損失の明細

（単位：円）

資産の種類		期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	減価償却累計額		減損損失累計額			差引当期末残高	摘要
							当期償却額		当期損益内	当期損益外		
有形固定資産（償却費損益内）	建物	1,433,083,470	71,793,214	8,673,265	1,496,203,419	359,537,787	97,924,162	0	0	0	1,136,665,632	
	構築物	64,970,174	4,693,500	0	69,663,674	12,398,494	5,060,151	0	0	0	57,265,180	
	機械装置	319,725	0	0	319,725	287,752	143,876	0	0	0	31,973	
	車両運搬具	40,362,959	0	205,758	40,157,201	28,744,170	3,395,027	0	0	0	11,413,031	
	工具器具備品	2,091,693,772	221,143,918	19,073,000	2,293,764,690	1,323,962,265	256,062,415	0	0	0	969,802,425	
	計	3,630,430,100	297,630,632	27,952,023	3,900,108,709	1,724,930,468	362,585,631	0	0	0	2,175,178,241	
有形固定資産（償却費損益外）	建物	55,403,178,437	309,715,350	813,237,907	54,899,655,880	12,206,638,357	1,993,324,465	0	0	0	42,693,017,523	
	構築物	3,221,887,734	126,707,700	20,647,733	3,327,947,701	1,270,846,988	172,022,787	0	0	0	2,057,100,713	
	機械装置	175,265,571	0	0	175,265,571	143,676,474	71,838,237	0	0	0	31,589,097	
	車両運搬具	7,106,997	0	94,245	7,012,752	4,619,594	2,323,933	0	0	0	2,393,158	
	工具器具備品	1,596,685,775	0	4,856,250	1,591,829,525	810,774,250	264,977,684	0	0	0	781,055,275	
	計	60,404,124,514	436,423,050	838,836,135	60,001,711,429	14,436,555,663	2,504,487,106	0	0	0	45,565,155,766	
非償却資産	工具器具備品	79,894,183	12,000,000	0	91,894,183	0	0	0	0	0	91,894,183	その他有形固定資産含む
	収蔵品	95,898,214,485	1,463,317,636	0	97,361,532,121	0	0	0	0	0	97,361,532,121	
	土地	44,410,675,104	0	0	44,410,675,104	0	0	0	0	0	44,410,675,104	
	建設仮勘定	238,350,000	1,540,538,000	115,500,000	1,663,388,000	0	0	0	0	0	1,663,388,000	
	計	140,627,133,772	3,015,855,636	115,500,000	143,527,489,408	0	0	0	0	0	143,527,489,408	
有形固定資産合計	建物	56,836,261,907	381,508,564	821,911,172	56,395,859,299	12,566,176,144	2,091,248,627	0	0	0	43,829,683,155	
	構築物	3,286,857,908	131,401,200	20,647,733	3,397,611,375	1,283,245,482	177,082,938	0	0	0	2,114,365,893	
	機械装置	175,585,296	0	0	175,585,296	143,964,226	71,982,113	0	0	0	31,621,070	
	車両運搬具	47,469,956	0	300,003	47,169,953	33,363,764	5,718,960	0	0	0	13,806,189	
	工具器具備品	3,768,273,730	233,143,918	23,929,250	3,977,488,398	2,134,736,515	521,040,099	0	0	0	1,842,751,883	その他有形固定資産含む
	収蔵品	95,898,214,485	1,463,317,636	0	97,361,532,121	0	0	0	0	0	97,361,532,121	
	土地	44,410,675,104	0	0	44,410,675,104	0	0	0	0	0	44,410,675,104	
	建設仮勘定	238,350,000	1,540,538,000	115,500,000	1,663,388,000	0	0	0	0	0	1,663,388,000	
	計	204,661,688,386	3,749,909,318	982,288,158	207,429,309,546	16,161,486,131	2,867,072,737	0	0	0	191,267,823,415	
無形固定資産（償却費損益内）	ソフトウエア	169,682,645	50,703,100	0	220,385,745	105,483,765	36,872,285	0	0	0	114,901,980	
	電話加入権	4,914,000	0	0	4,914,000	0	0	2,343,600	0	0	2,570,400	
	計	174,596,645	50,703,100	0	225,299,745	105,483,765	36,872,285	2,343,600	0	0	117,472,380	
無形固定資産（償却費損益外）	ソフトウエア	4,571,861	0	0	4,571,861	3,532,388	2,618,019	0	0	0	1,039,473	
	電話加入権	2,696,400	0	0	2,696,400	0	0	0	0	0	2,696,400	
	計	7,268,261	0	0	7,268,261	3,532,388	2,618,019	0	0	0	3,735,873	
無形固定資産合計	ソフトウエア	174,254,506	50,703,100	0	224,957,606	109,016,153	39,490,304	0	0	0	115,941,453	
	電話加入権	7,610,400	0	0	7,610,400	0	0	2,343,600	0	0	5,266,800	
	計	181,864,906	50,703,100	0	232,568,006	109,016,153	39,490,304	2,343,600	0	0	121,208,253	
投資その他の資産	保証金	929,000	354,000	0	1,283,000	0	0	0	0	0	1,283,000	
	長期前払費用	152,674	48,175	152,674	48,175	0	0	0	0	0	48,175	
	計	1,081,674	402,175	152,674	1,331,175	0	0	0	0	0	1,331,175	

２．たな卸資産の明細

（単位：円）

種類	期首残高	当期増加額		当期減少額		期末残高	摘要
		当期購入・製造・振替	その他	払出・振替	その他		
貯蔵品等	46,264,587	44,642,675	0	40,648,288	15,323,132	34,935,842	
計	46,264,587	44,642,675	0	40,648,288	15,323,132	34,935,842	

(注)当期減少額その他は、経年等による売却可能性のないものについての評価替えによるものであります。

３．有価証券の明細

当該年度は有価証券を保有していないため、記載を省略しております。

４．長期貸付金の明細

当該年度は長期貸付金に関して該当がないため、記載を省略しております。

５．長期借入金及び債券の明細

当該年度は長期借入金及び債券に関して該当がないため、記載を省略しております。

６．引当金の明細

当該年度は引当金を計上していないため、記載を省略しております。

７．法令に基づく引当金等の明細

当該年度は法令に基づく引当金等を計上していないため、記載を省略しております。

８．保証債務の明細

当該年度は保証債務に関して該当がないため、記載を省略しております。

９．資本金及び資本剰余金の明細

（単位：円）

区分		期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	摘要
資本金	政府出資金	104,713,813,740	0	0	104,713,813,740	
	計	104,713,813,740	0	0	104,713,813,740	
資本剰余金	施設費補助金	2,934,849,880	436,423,050	0	3,371,272,930	京都国立博物館施設整備費分
	目的積立金	469,592,463	0	0	469,592,463	
	運営費交付金	7,539,432,378	1,031,930,150	0	8,571,362,528	収蔵品購入
	寄附金等	46,000,000	8,000,000	0	54,000,000	寄附金による収蔵品の取得
	贈与	84,847,212,716	433,347,160	0	85,280,559,876	収蔵品寄贈受入等
	収蔵品編入	1,153	2,040,326	0	2,041,479	一般物品から収蔵品への組み入れ
	損益外固定資産除売却差額	−148,198,438	−833,979,885	0	−982,178,323	出資資産等の除却
	計	95,688,890,152	1,077,760,801	0	96,766,650,953	
	損益外減価償却累計額	−12,365,408,604	−2,507,105,125	−432,425,678	−14,440,088,051	出資財産等の減価償却相当、減は京都国立博物館建替えに伴う除却分
	損益外減損損失累計額	−103,255,271	0	−100,911,671	−2,343,600	京都国立博物館建替えに伴う除却分
	差引計	83,220,226,277	−1,429,344,324	−533,337,349	82,324,219,302	

10．積立金の明細

（単位：円）

区　　分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	摘要
通則法44条1項積立金	287,274,512	413,921,747	0	701,196,259	（注１）
前中期目標期間繰越積立金	17,387,048	0	3,459,499	13,927,549	（注２）
合　　計	304,661,560	413,921,747	3,459,499	715,123,808	

（注１）通則法44条1項積立金の当期増加額は、平成19年度利益処分によるものであります。

（注２）前中期目標期間繰越積立金の当期減少額の内訳は次のとおりであります。

ファイナンスリース損益に係る取崩額	586,910
寄附金購入資産分に係る減価償却相当分取崩額	82,797
受託研究費購入資産分に係る減価償却相当分取崩額	2,789,792

11．目的積立金の取崩しの明細

（単位：円）

区　　分		金　　額	摘　　要
目的積立金取崩額	前中期目標期間繰越積立金	586,910	ファイナンスリース損益に係る取崩額
	前中期目標期間繰越積立金	82,797	寄附金購入資産分に係る減価償却相当分取崩額
	前中期目標期間繰越積立金	2,789,792	受託研究費購入資産分に係る減価償却相当分取崩額
	合　　計	3,459,499	

12. 運営費交付金債務及び当期振替額等の明細

（１）運営費交付金債務の増減の明細　　（単位：円）

交付年度	期首残高	交付金当期交付額	当期振替額					期末残高
			運営費交付金収益	資産見返運営費交付金	建設仮勘定見返運営費交付金	資本剰余金	小計	
19年度	751,735,711	0	268,737,894	37,569,067	0	445,428,750	751,735,711	0
20年度	0	8,771,089,000	6,591,843,400	242,793,928	0	586,501,400	7,421,138,728	1,349,950,272
合計	751,735,711	8,771,089,000	6,860,581,294	280,362,995	0	1,031,930,150	8,172,874,439	1,349,950,272

（２）運営費交付金債務の当期振替額の明細

①平成19年度交付分　　（単位：円）

区分		金額	内容
業務達成基準による振替額	運営費交付金収益	268,737,894	①業務達成基準を採用した経費：人件費のうちの退職手当並びに事業部門の経費及び管理部門の経費のうち特に指定するもの ②当該業務に係る損益等 ア）損益計算書に計上した費用の額：268,737,894円 （退職手当：28,976,000円、一般管理費：123,159,990円、調査研究事業費：66,270,548円、 展覧事業費：50,331,356円） イ）自己収入にかかる収益計上額：該当なし ウ）固定資産の取得額：482,997,817円 （陳列品購入費：445,428,750円、一般管理費：25,179,000円、調査研究事業費：12,390,067円） ③運営費交付金収益化額の積算根拠 業務等の達成度に応じて、財源として予定されていた運営費交付金の計画額を収益化
	資産見返運営費交付金	37,569,067	
	建設仮勘定見返運営費交付金	0	
	資本剰余金	445,428,750	
	計	751,735,711	
期間進行基準による振替額	運営費交付金収益	0	―
	資産見返運営費交付金	0	
	建設仮勘定見返運営費交付金	0	
	資本剰余金	0	
	計	0	
費用進行基準による振替額	運営費交付金収益	0	―
	資産見返運営費交付金	0	
	建設仮勘定見返運営費交付金	0	
	資本剰余金	0	
	計	0	
会計基準第８０第３項による振替額		0	―
合計		751,735,711	

②平成20年度交付分　　（単位：円）

区　分		金　額	内　容
業務達成基準による振替額	運営費交付金収益	2,561,683,065	①業務達成基準を採用した経費：人件費のうちの退職手当並びに事業部門の経費及び管理部門の経費のうち特に指定するもの ②当該業務に係る損益等 ア）損益計算書に計上した費用の額：2,561,683,065円 （退職手当：308,682,719円、調査研究事業費：880,693,970円、展覧事業費：636,946,772円、教育普及事業費：53,800,500円、情報公開事業費：162,046,152円、研修事業費：20,951,122円、国際研究協力事業費：278,126,775円、展示出版事業費：133,487,055円、その他業務費：86,948,000円） イ）自己収入にかかる収益計上額：1,818,784,184円 （入場料収入:1,159,899,582円、展示事業等附帯収入：423,211,236円、財産利用収入：150,666,609円、寄附金収益：80,156,106円、財務収益：22,723円、雑益：5,338,228円） ウ）固定資産の取得額：778,578,608円 （陳列品購入費：583,201,250円、調査研究事業費：133,824,374円、展覧事業費：31,217,083円、教育普及事業費：861,000円、情報公開事業費：13,170,848円、研修事業費：1,909,278円、国際研究協力事業費：4,349,625円、展示出版業務費：10,045,150円） ③運営費交付金収益化額の積算根拠 業務等の達成度に応じて、財源として予定されていた運営費交付金の計画額を収益化
	資産見返運営費交付金	192,077,208	
	建設仮勘定見返運営費交付金	0	
	資本剰余金	586,501,400	
	計	3,340,261,673	
期間進行基準による振替額	運営費交付金収益	4,029,856,338	①期間進行基準を採用した経費：人件費のうちの役員給与、職員給与、法定福利費並びに管理部門の経費（特に指定するものを除く）及び減価償却費 ②当該業務に係る損益等 ア）損益計算書に計上した費用の額：4,029,856,338円 （役職員給与：2,849,530,943円、法定福利費：324,543,555円、一般管理費：855,781,840円） イ）自己収入にかかる収益計上額：該当なし ウ）固定資産の取得額：50,716,720円（一般管理費） ③運営費交付金収益化額の積算根拠 期間が経過したので、財源として予定されていた運営費交付金の計画額を収益化
	資産見返運営費交付金	50,716,720	
	建設仮勘定見返運営費交付金	0	
	資本剰余金	0	
	計	4,080,573,058	
費用進行基準による振替額	運営費交付金収益	303,997	①業務達成基準を採用した経費：財務費用 ②当該業務に係る損益等 ア）損益計算書に計上した費用の額：303,997円 イ）自己収入にかかる収益計上額：該当なし ウ）固定資産の取得額：該当なし ③運営費交付金収益化額の積算根拠 経費等の全額を運営費交付金収益として収益化
	資産見返運営費交付金	0	
	建設仮勘定見返運営費交付金	0	
	資本剰余金	0	
	計	303,997	
会計基準第８０第３項による振替額		0	―
合　計		7,421,138,728	

（３）運営費交付金債務残高の明細　　（単位：円）

交付年度	運営費交付金債務残高		残高の発生理由及び収益化等の計画
20年度	費用進行基準を採用した業務に係る分	0	―
	業務達成基準を採用した業務に係る分	1,349,950,272	①業務達成基準を採用した業務は全ての業務である。 ②運営費交付金債務残高は、陳列品購入、文化財修理、情報システムの整備、退職手当など翌年度に執行予定の運営費交付金の計画額である。 ③翌事業年度に繰り越した運営費交付金債務残高については、翌事業年度において収益化する予定である。
	期間進行基準を採用した業務に係る分	0	―
	計	1,349,950,272	

13．運営費交付金以外の国等からの財源措置の明細

施設費の明細　（単位：円）

区　　分	当期交付額	左記の会計処理内訳			摘要
		建設仮勘定見返施設費	資本剰余金	その他	
京都国立博物館 平常展示館建替工事	1,975,348,000	1,395,890,000	436,423,050	143,034,950	
奈良国立博物館 西新館耐震補強工事	15,475,433	14,962,500	0	512,933	
合　　計	1,990,823,433	1,410,852,500	436,423,050	143,547,883	

（注）その他の内訳は、「施設費収益：131,620,933円」と「建設仮勘定見返施設費戻入：11,926,950円」であります。

14. 役員及び職員の給与の明細

区　分	報　酬　又　は　給　与		退　　職　　手　　当	
	支　　給　　額	支 給 人 員	支　　給　　額	支 給 人 員
役　員	（　　2,880）　千円 71,030	（　　2　）　人 4	（　　0　）　千円 2,766	（　　0　）　人 1
職　員	（　　473,187） 2,674,359	（　　299　） 340	（　　2,263　） 427,710	（　　20　） 23
合　計	（　　476,067） 2,745,389	（　　301　） 344	（　　2,263　） 430,476	（　　20　） 24

（1）　支給人員数は、平均人員数であります。

（2）　役員報酬基準の概要　　理事長　　９９４，０００円（期末における金額）
理事１名　　８４３，０００円（期末における金額）
理事２名　　９２２，０００円（期末における金額）
その他諸手当については、独立行政法人国立文化財機構役員報酬規程に基づき支給しております。
非常勤役員の報酬は、１２０，０００円を月額として支給しております。

（3）　役員退職手当基準の概要　役員の退職手当は、独立行政法人国立文化財機構役員退職手当規程に基づき支給しております。

（4）　職員給与基準の概要　　職員の給与は、基本給及び諸手当としております。
基本給は、一般職の職員の給与に関する法律（昭和２５年法律第９５号）及び人事院規則を準用し、独立行政法人国立文化財機構職員給与規程に基づき支給しております。

（5）　職員退職手当基準の概要　職員の退職手当は、国家公務員退職手当法を準用し、独立行政法人国立文化財機構職員退職手当規程に基づき支給しております。

（6）　非常勤の役員及び職員に係るものは、上段括弧書外数で記載しております。

（7）　上記の金額には、法定福利費は含まれておりません。

（8）　中期計画における予算上の人件費には、非常勤の役員・職員に係る給与は含まれておりません。

15. セグメント情報　（平成20年4月1日～平成21年3月31日）

独立行政法人 国立文化財機構　　（単位：円）

区　分	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	計	共　通	合　計
Ⅰ事業費用,事業収益及び事業損益									
事業費用									
業務費	1,987,639,593	669,610,154	723,180,289	1,132,893,685	987,893,363	1,811,954,279	7,313,171,363	0	7,313,171,363
人件費	917,532,536	320,799,653	285,533,896	238,677,185	448,413,813	913,560,131	3,124,517,214	0	3,124,517,214
業務経費	1,022,201,531	343,879,439	421,978,801	671,122,383	533,914,233	876,571,806	3,869,668,193	0	3,869,668,193
調査研究業務費	264,888,789	69,288,899	68,287,312	184,966,690	68,247,308	370,505,087	1,026,184,085	0	1,026,184,085
情報公開業務費	0	0	0	0	37,017,494	92,825,582	129,843,076	0	129,843,076
研修業務費	0	0	0	0	1,723,373	18,497,146	20,220,519	0	20,220,519
国際研究協力業務費	0	0	0	0	173,404,202	51,651,773	225,055,975	0	225,055,975
展示出版業務費	0	0	0	0	15,409,212	98,234,818	113,644,030	0	113,644,030
展覧業務費	319,829,556	233,589,285	145,924,424	194,476,013	0	0	893,819,278	0	893,819,278
教育普及業務費	40,367,584	5,835,661	15,001,790	353,940	0	0	61,558,975	0	61,558,975
受託業務費	0	0	0	0	238,112,644	235,739,004	473,851,648	0	473,851,648
その他業務費	397,115,602	35,165,594	192,765,275	291,325,740	0	9,118,396	925,490,607	0	925,490,607
減価償却費	47,905,526	4,931,062	15,667,592	223,094,117	5,565,317	21,822,342	318,985,956	0	318,985,956
一般管理費	407,570,930	429,221,461	201,906,727	168,736,300	230,106,518	409,297,550	1,846,839,486	287,572,001	2,134,411,487
人件費	181,390,146	83,116,912	101,417,017	62,018,672	111,128,414	198,247,645	737,318,806	163,443,340	900,762,146
一般管理経費	200,719,131	339,014,266	81,603,771	86,489,872	118,710,115	208,797,819	1,035,334,974	117,842,407	1,153,177,381
減価償却費	25,461,653	7,090,283	18,885,939	20,227,756	267,989	2,252,086	74,185,706	6,286,254	80,471,960
財務費用	13,088	0	0	303,997	452,292	962,396	1,731,773	0	1,731,773
雑損	105,802	0	354,375	510,300	9,870	0	980,347	0	980,347
事業費用計	2,395,329,413	1,098,831,615	925,441,391	1,302,444,282	1,218,462,043	2,222,214,225	9,162,722,969	287,572,001	9,450,294,970
事業収益									
運営費交付金収益	1,594,481,864	686,198,597	538,744,162	907,612,987	963,112,921	1,889,868,423	6,580,018,954	280,562,340	6,860,581,294
受託収入	0	0	45,000,000	3,068,250	240,028,566	273,807,005	561,903,821	0	561,903,821
入場料収入	611,637,800	126,568,850	265,581,736	134,177,251	1,812,805	20,121,140	1,159,899,582	0	1,159,899,582
展示事業等附帯収入	182,141,892	108,160,622	57,141,979	24,854,792	10,839,590	37,693,984	420,832,859	2,378,377	423,211,236
財産利用収入	109,949,812	11,575,161	20,838,177	3,056,293	1,716,104	3,531,062	150,666,609	0	150,666,609
寄附金収益	14,519,819	18,914,804	38,961,483	90,000	7,000,000	670,000	80,156,106	0	80,156,106
施設費収益	0	131,108,000	512,933	0	0	0	131,620,933	0	131,620,933
資産見返負債戻入	72,407,679	27,674,777	34,553,531	238,886,420	3,826,494	14,058,882	391,407,783	6,286,254	397,694,037
財務収益	15,993	2,785	0	0	0	3,945	22,723	0	22,723
雑益	167,314	1,976,584	407,710	1,181,600	1,073,014	430,894	5,237,116	101,112	5,338,228
事業収益計	2,585,322,173	1,112,180,180	1,001,741,711	1,312,927,593	1,229,409,494	2,240,185,335	9,481,766,486	289,328,083	9,771,094,569
事業損益	189,992,760	13,348,565	76,300,320	10,483,311	10,947,451	17,971,110	319,043,517	1,756,082	320,799,599

（単位：円）

区　分	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	計	共　通	合　計
Ⅱ総資産									
流動資産	1,233,966,845	319,409,765	341,113,039	1,162,052,917	220,767,800	449,616,472	3,726,926,838	316,286,936	4,043,213,774
固定資産	86,879,415,642	36,224,357,105	29,350,229,004	25,589,797,123	7,062,780,926	6,209,222,498	191,315,802,298	74,560,545	191,390,362,843
建物	15,198,879,073	2,477,188,793	5,331,093,708	12,707,848,517	4,208,383,815	3,851,618,886	43,775,012,792	54,670,363	43,829,683,155
収蔵品	43,881,202,802	22,658,540,258	19,572,110,151	11,153,414,189	0	96,264,721	97,361,532,121	0	97,361,532,121
土地	26,832,788,000	9,071,896,900	3,875,010,204	458,980,000	2,650,000,000	1,522,000,000	44,410,675,104	0	44,410,675,104
その他の固定資産	966,545,767	2,016,731,154	572,014,941	1,269,554,417	204,397,111	739,338,891	5,768,582,281	19,890,182	5,788,472,463
総資産	88,113,382,487	36,543,766,870	29,691,342,043	26,751,850,040	7,283,548,726	6,658,838,970	195,042,729,136	390,847,481	195,433,576,617
Ⅲ損益外減価償却相当額及び引当外退職給付増加見積額									
損益外減価償却相当額	780,067,584	145,440,060	261,087,715	685,037,589	302,691,073	329,260,840	2,503,584,861	3,520,264	2,507,105,125
損益外固定資産除売却相当額	0	300,604,837	0	0	0	37,699	300,642,536	0	300,642,536
前中期目標期間繰越積立金取崩額	−4,167	82,797	0	591,077	458,385	2,331,407	3,459,499	0	3,459,499
引当外賞与増加見積額	−4,995,331	−2,328,620	−2,619,684	−948,697	−3,124,230	−6,028,742	−20,045,304	−1,268,650	−21,313,954
引当外退職給付増加見積額	−45,079,864	8,913,084	−26,082,616	14,022,192	24,429,560	−156,206,972	−180,004,616	7,188,944	−172,815,672

（注）　1．事業の種類の区分方法及び事業の内容

（1）東京国立博物館
我が国を代表する博物館として、日本を中心にして広く東洋諸地域にわたる文化財について収集･保管･展示、調査研究、教育普及事業等を行っております。

（2）京都国立博物館
平安時代から江戸時代に至る京都文化を中心とした文化財について、収集･保管･展示、調査研究、教育普及事業等を行っております。

（3）奈良国立博物館
仏教美術を中心とした文化財について、収集･保管･展示、調査研究、教育普及事業等を行っております。

（4）九州国立博物館
日本とアジア諸国との文化交流を中心とした文化財について、収集･保管･展示、調査研究、教育普及事業等を行っております。
なお、事業の実施に当たっては、福岡県等と連携協力を行っております。

（5）東京文化財研究所
美術、伝統芸能並びに文化財の保存・修復に関する調査・研究等を行っております。

（6）奈良文化財研究所
遺跡、建造物、庭園等の不動産的文化財に関する調査・研究等を行っております。

2．事業収益のうち国又は地方公共団体による財源措置等は、運営費交付金収益及び施設費収益であります。

3．事業費用のうち共通の項目に含めた配賦不能な金額は287,572,001円であり、全て本部事務局に係る費用であります。

4．総資産のうち共通の項目に含めた金額は390,847,481円であり、全て本部事務局に係る資産であります。

平成20年度　　決算報告書

（単位：円）

区　　分	予　算　額	決　算　額	差　　額	備　　考
収　　入				
運営費交付金	8,771,089,000	8,771,089,000	0	
施設整備費補助金	1,698,075,000	1,872,138,200	174,063,200	（注記）１
展示事業等収入	1,108,959,000	1,786,055,022	677,096,022	
受託収入	26,000,000	513,835,571	487,835,571	（注記）２
その他寄附金等	0	126,920,000	126,920,000	
計	11,604,123,000	13,070,037,793	1,465,914,793	
支　　出				
運営事業費	9,880,048,000	9,779,136,563	100,911,437	
管理経費	1,995,591,000	2,006,317,813	-10,726,813	
人件費	908,763,000	833,063,062	75,699,938	
一般管理費	1,086,828,000	1,173,254,751	-86,426,751	（注記）３
業務経費	7,884,457,000	7,772,818,750	111,638,250	
人件費	2,726,741,000	2,674,361,198	52,379,802	
調査研究事業費	1,444,536,000	1,448,185,896	-3,649,896	
情報公開事業費	155,600,000	145,589,935	10,010,065	
研修事業費	21,832,000	22,129,797	-297,797	
国際研究協力事業費	304,957,000	229,405,600	75,551,400	
展示出版事業費	158,517,000	111,928,351	46,588,649	
展覧事業費	2,950,925,000	3,078,797,998	-127,872,998	（注記）４
教育普及事業費	121,349,000	62,419,975	58,929,025	
施設整備費	1,698,075,000	2,106,222,633	-408,147,633	（注記）１
受託事業費	26,000,000	502,796,388	-476,796,388	（注記）２
計	11,604,123,000	12,388,155,584	-784,032,584	

（注記）

１．施設整備費補助金及び施設整備費の差額は、主に前年度からの繰越により生じた差額であります。

２．受託収入及び受託事業費について、予算額と決算額の差異が多額になったのは、当初の受入見込みになかった受託発掘調査、受託調査研究の契約があったためであります。

３．一般管理費は、京都国立博物館平常展示館建替関連経費及び施設整備費補助金により消費税納付額が増加したものであります。

４．展覧事業費は、特別展に伴う経費が増加したものであります。

平成20年度（第2期）事業報告書

目　　次

1.　国民の皆様へ

2.　基本情報
(1)　法人の概要
(2)　本社・支社等の住所
(3)　資本金の状況
(4)　役員の状況
(5)　常勤職員の状況

3.　簡潔に要約された財務諸表
①　貸借対照表
②　損益計算書
③　キャッシュ･フロー計算書
④　行政サービス実施コスト計算書
・財務諸表の科目

4.　財務情報
(1)　財務諸表の概況
①　経常費用、経常収益、当期総損益、資産、負債、利益剰余金（又は繰越欠損金）、キャッシュ･フローなどの主要な財務データの経年比較・分析（内容・増減理由）
②　セグメント事業損益の経年比較・分析（内容・増減理由）
③　セグメント総資産の経年比較・分析（内容・増減理由）
④　目的積立金の申請状況、取崩内容等
⑤　行政サービス実施コスト計算書の経年比較・分析（内容・増減理由）
(2)　施設等投資の状況（重要なもの）
①　当事業年度中に完成した主要施設等
②　当事業年度において継続中の施設等の新設・拡充
③　当該事業年度中に処分した主要施設等
(3)　予算・決算の概況
(4)　経費削減及び効率化目標との関係

5.　事業の説明
(1)　財源構造
(2)　財務データ及び業務実績報告書と関連付けた事業説明

独立行政法人国立文化財機構　平成 20 年度事業報告書

1.　国民の皆様へ

独立行政法人国立文化財機構は、東京・京都・奈良・九州（太宰府）の国立博物館を設置・運営する独立行政法人国立博物館と、文化財に関する基礎的な調査研究及び先端的な調査研究を実施する独立行政法人文化財研究所の２法人が統合して設立された法人です。統一的なマネジメントの下で国の文化財保護行政を総合的に支え、社会の要請に機動的・効果的に対応することを目的として平成 19 年４月に設置されました。

歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と次代への継承、文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信及び文化財に関する調査・研究の推進等を任務としております。

平成 20 年度は統合後２年目を迎え、企画機能の強化、情報の共有化や制度の統一化等を促進するため６施設連絡協議等会議を開催して更なる業務の質の向上・効率化の向上に努めました。本年度は長年の懸案事項であった施設の老朽化等の対策として、京都国立博物館の平常展示館建替工事や、耐久性の著しく低いと診断された東京国立博物館、奈良国立博物館の展示館等の耐震補強工事等に着手するなど、施設・設備面の充実にも取り組みました。業務については東京国立博物館で 79 万人の入館者があった「薬師寺展」をはじめ、４博物館で延べ 21 件の特別展を開催したこともあり、平常展も含めて独立行政法人化後最高の 399 万人を超える多くの方々にご観覧いただくことができました。また文化財に関する新たな調査手法の研究開発においては「木材の年輪箇所検出方法および年輪幅計測方法」が特許の取得を果たし、地道な研究成果が実を結んだことが特筆されます。

財務面では、国からの運営費交付金は毎年効率化係数により削減されており、極めて厳しい状況にあります。今後も不断の効率化による支出の削減に努めるとともに、一層の自己収入の増加を目指して外部資金の獲得などに取り組んでまいります。

今後の当法人は、国の文化財保護行政の土台をしっかりと支えていくという大きな使命を抱え、文化財の保存と活用、またそのための基礎研究と最先端の研究という、四つの大きな柱を機能させることを目標に、更なる活性化を推進すべく努力していく所存です。国民の皆様におかれましては、当法人の事業及び運営へのご理解とご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

2. 基本情報

(1) 法人の概要

① 法人の目的

独立行政法人国立文化財機構は、博物館を設置して有形文化財（文化財保護法（昭和二十五年法律第二百十四号）第二条第一項第一号に規定する有形文化財をいう。以下同じ。）を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、文化財（同項に規程する文化財をいう。以下に同じ。）に関する調査及び研究等を行うことにより、貴重な国民的財産である文化財の保存及び活用を図ることを目的としております。（独立行政法人国立文化財機構法第三条）

② 業務内容

当法人は、独立行政法人国立文化財機構法第三条の目的を達成するため以下の業務を行います。

(1) 博物館を設置すること。
(2) 有形文化財を収集し、保管して公衆の観覧に供すること。
(3) 前号の業務に関連する講演会の開催、出版物の刊行その他の教育及び普及の事業を行うこと。
(4) 第一号の博物館を文化財の保存又は活用を目的とする事業の利用に供すること。
(5) 文化財に関する調査及び研究を行うこと。
(6) 前号に掲げる業務に係る成果を普及し、及びその活用を促進すること。
(7) 文化財に関する情報及び資料を収集し、整理し、及び提供すること。
(8) 第二号、第三号及び前三号の業務に関し、地方公共団体並びに博物館、文化財に関する調査及び研究を行う研究所その他これらに類する施設（次号において「地方公共団体等」という。）の職員に対する研修を行うこと。
(9) 第二号、第三号及び第五号から第七号までの業務に関し、地方公共団体等の求めに応じて援助及び助言を行うこと。
(10) 前各号の業務に附帯する業務を行うこと。

③ 沿革

平成 19 年 4 月　独立行政法人国立博物館と独立行政法人文化財研究所が統合し、独立行政法人国立文化財機構として設立

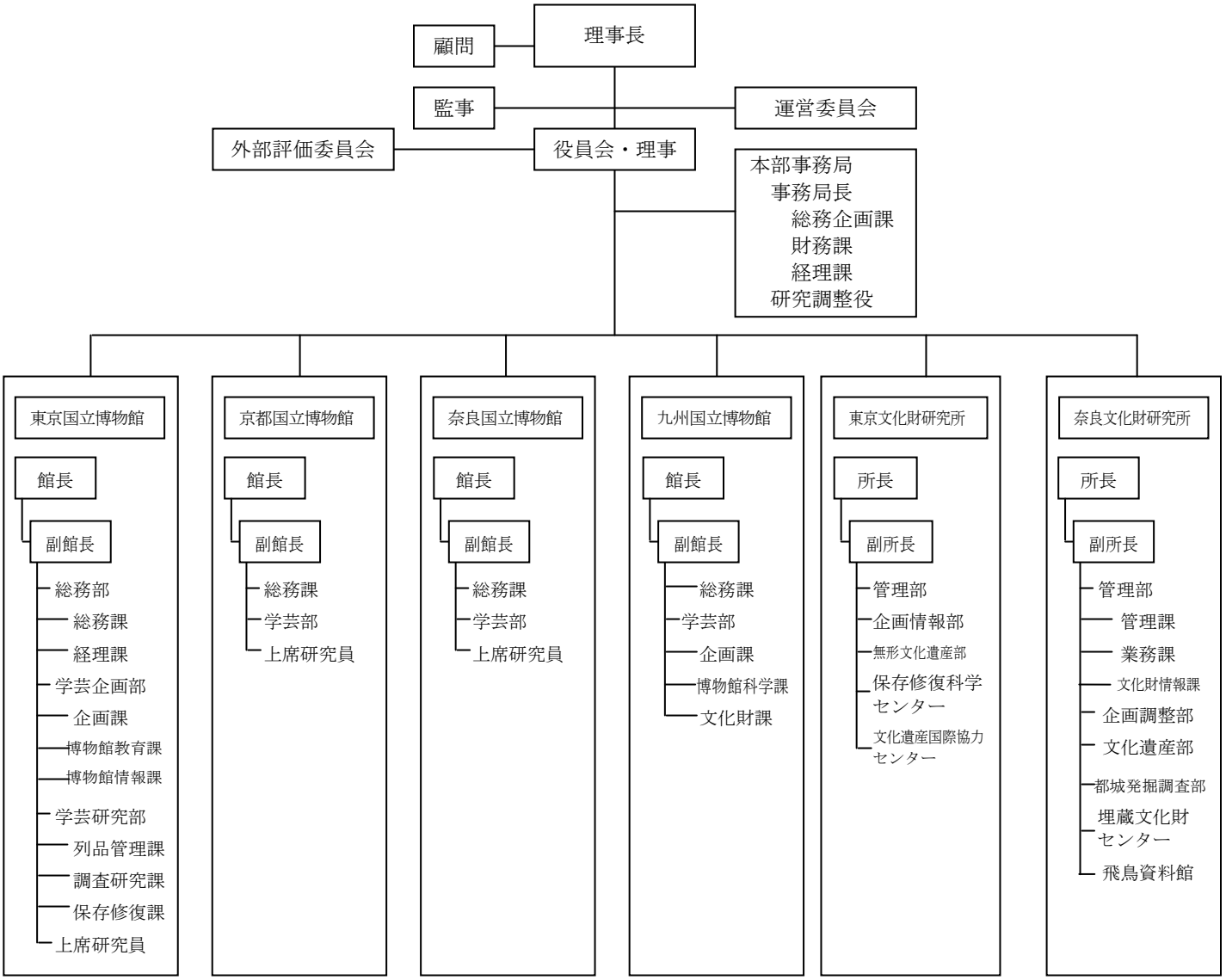
④ 設立根拠法

独立行政法人国立文化財機構法（平成 11 年法律第 178 号）

⑤ 主務大臣（主務省所管課等）

文部科学大臣（文化庁文化財部美術学芸課）

⑥ 組織図（平成 21 年 3 月 31 日現在）



(2) 本社・支社等の住所

本社：東京都台東区上野公園 13－9

支社：東京都台東区上野公園 13－9（東京国立博物館）

東京都台東区上野公園 13－43（東京文化財研究所）

京都府京都市東山区茶屋町 527（京都国立博物館）

奈良県奈良市登大路町 50（奈良国立博物館）

奈良県奈良市二条町 2－9－1（奈良文化財研究所）

福岡県太宰府市石坂 4－7－2（九州国立博物館）

(3) 資本金の状況

（単位：百万円）

区　分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
政府出資金	104,714	0	0	104,714
資本金合計	104,714	0	0	104,714

(4) 役員の状況

役職	氏名	任期	担当	経歴
理事長	佐々木丞平	自 平成19年4月1日 至 平成21年3月31日		昭和45年4月　京都府教育委員会 昭和47年4月　文化庁入庁 昭和56年4月　京都大学 平成3年3月　京都大学文学部教授 平成12年4月　京都大学附属図書館長(併任) 平成12年11月　京都大学大学文書館長 平成17年3月　退職 平成17年4月　(独)国立博物館理事（(兼)京都国立博物館長） 平成19年3月　退職
理　事	佐藤禎一	自 平成19年4月1日 至 平成21年3月31日		昭和39年4月　文部省入省 平成9年7月　文部事務次官 平成12年3月　退職 平成12年6月　文部省顧問 平成12年7月　日本学術振興会理事長 平成15年1月　ユネスコ日本政府代表部特命全権大使 平成18年10月　政策研究大学院大学理事（非常勤）
理　事	鈴木規夫	自 平成19年4月1日 至 平成21年3月31日		昭和42年3月　東京書籍株式会社 昭和46年6月　サントリー美術館 昭和52年7月　文化庁入庁 平成13年4月　文化庁文化財部文化財鑑査官 平成16年3月　退職 平成16年4月　独立行政法人文化財研究所理事 平成17年4月　独立行政法人文化財研究所理事長 平成19年3月　退職（統合による旧法人役員身分の消滅）
理　事	遠藤啓	自 平成19年4月1日 至 平成21年3月31日		昭和50年4月　文部省入省 平成13年1月　文化庁文化部長 平成14年8月　内閣府官房審議官（沖縄大学院大学担当） 平成17年5月　文部科学省　退職 平成17年5月　北海道大学理事・事務局長
監　事	雪山行二	自 平成19年4月1日 至 平成21年3月31日		昭和51年4月　国立西洋美術館 平成4年9月　国立西洋美術館学芸課長 平成10年9月　退職 平成10年10月　愛知県美術館副館長 平成14年4月　横浜美術館長
監　事	篠原啓慶	自 平成19年4月1日 至 平成21年3月31日		昭和38年4月　三菱工業株式会社入社 昭和44年10月　公認会計士芹沢政光事務所入所 昭和49年2月　監査法人中央会計事務所 昭和53年2月　税理士事務所を開設　現在に至る 昭和62年12月　中央監査法人代表社員就任 平成10年5月　同上役職を退任 平成13年4月　独立行政法人国立博物館監事

（注）経歴の具体的記載内容は、「独立行政法人等の役員に就いている退職公務員等の状況等の公表について」により公表されているものを参考とする。

(5) 常勤職員の状況

常勤職員は平成 20 年度末において 345 人（前期末比 1 人増加、0.29%増）であり、平均年齢は 44 歳（前期末 43 歳）となっている。このうち、国等からの出向者は 15 人、民間からの出向者は 0 人です。

3. 簡潔に要約された財務諸表

① 貸借対照表

（単位：百万円）

資産の部	金額	負債の部	金額
流動資産		流動負債	
現金・預金	3,343	運営費交付金債務	1,350
未収金	664	未払金	1,787
その他	36	その他	352
流動資産合計	4,043	流動負債合計	3,489
固定資産		固定負債	
有形固定資産		資産見返負債	3,865
建物	43,830	その他の固定負債	23
収蔵品	97,362	固定負債合計	3,888
土地	44,411		
その他	5,666	負債合計	7,377
無形固定資産	121	純資産の部	
投資その他資産	1	資本金	104,714
固定資産合計	191,391	資本剰余金	82,324
		利益剰余金	1,019
		純資産合計	188,057
資産合計	195,434	負債純資産合計	195,434

② 損益計算書

（単位：百万円）

	金額
経常費用(A)	9,450
業務費	
人件費	3,125
業務経費	3,870
減価償却費	319
一般管理費	
人件費	901
一般管理経費	1,153
減価償却費	80
その他	2
経常収益(B)	9,771
運営費交付金収益	6,861
受託収入	562
入場料収入	1,160
その他	1,188
臨時損益(C)	-20
その他調整額(D)	3
当期総利益(B－A＋C＋D)	304

③ キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	金額
Ⅰ業務活動によるキャッシュ・フロー(A)	2,444
人件費支出	-3,950
運営費交付金収入	8,771
自己収入等	2,695
その他の支出	-5,162
その他収入	90
Ⅱ投資活動によるキャッシュ・フロー(B)	-1,575
Ⅲ財務活動によるキャッシュ・フロー(C)	-16
Ⅳ資金に係る換算差額(D)	0
Ⅴ資金増加額（又は減少額）(E＝A＋B＋C＋D)	853
Ⅵ資金期首残高(F)	2,490
Ⅶ資金期末残高(G＝F＋E)	3,343

④ 行政サービス実施コスト計算書

（単位：百万円）

	金額
Ⅰ業務費用	7,165
損益計算書上の費用	9,471
（控除）自己収入等	-2,306
（その他の行政サービス実施コスト）	
Ⅱ損益外減価償却相当額	2,808
Ⅲ引当外賞与見積額	-21
Ⅳ引当外退職給付増加見積額	-173
Ⅴ機会費用	2,554
Ⅵ行政サービス実施コスト	12,333

■ 財務諸表の科目

① 貸借対照表

現金・預金　：現金、預金

その他（流動資産）　：たな卸資産、前払費用、未収金など

有形固定資産　：土地、建物、機械装置、車両、工具、収蔵品など独立行政法人が長期にわたって使用または利用する有形の固定資産

無形固定資産　：ソフトウエア、電話加入権など無形の固定資産

その他（固定資産）　：保証金及び長期前払費用が該当

運営費交付金債務等　：独立行政法人の業務を実施するために国から交付された運営費交付金、施設費及び寄附金のうち未実施の部分に該当する債務残高

未払金等　：未払金で１年以内に支払期限が到来するもの、給与等に係る未払費用、前受金など

その他（流動負債）　：給与からの控除額に係る預り金など

資産見返負債　：固定資産（償却資産）取得額のうち未償却分の財源に相当する額

その他（固定負債）　：リース長期未払金など
政府出資金　　：国からの出資金で、独立行政法人の財産的基礎を構成
資本剰余金　　：国から交付された運営費交付金、施設費、または目的積立金、寄附金などで取得した資産、寄贈により取得した資産の取得財源で、独立行政法人の財産的基礎を構成するもの
利益剰余金　　：独立行政法人の業務に関連して発生した剰余金の累計額
繰越欠損金　　：独立行政法人の業務に関連して発生した欠損金の累計額

② 損益計算書
業務費　　：独立行政法人の業務に要した費用
人件費　　：給与、賞与、法定福利費等、独立行政法人の職員等に要する経費
減価償却費　　：業務に要する固定資産の取得原価をその耐用年数にわたって費用として配分する経費
運営費交付金収益等：国からの運営費交付金、補助金等のうち、当期の収益として認識した収益
自己収入等　　：入場料収入、展示事業附帯収入、受託収入などの収益
その他(収益)　　：固定資産の減価償却額について資産見返勘定を取崩した資産見返負債戻入（収益）など
臨時損益　　：固定資産の売却損益、災害損失等が該当
その他調整額　　：前中期目標期間繰越積立金の取崩額が該当

③ キャッシュ・フロー計算書
業務活動によるキャッシュ・フロー：独立行政法人の通常の業務の実施に係る資金の状態を表し、サービスの提供等による収入、原材料、商品又はサービスの購入による支出、人件費支出等が該当
投資活動によるキャッシュ・フロー：将来に向けた運営基盤の確立のために行われる投資活動に係る資金の状態を表し、固定資産の取得・売却等による収入・支出が該当
財務活動によるキャッシュ・フロー：増資等による資金の収入・支出、債券の発行・償還及び借入れ・返済による収入・支出等、資金の調達及び返済などが該当

④ 行政サービス実施コスト計算書
業務費用　　：独立行政法人が実施する行政サービスのコストのうち、独立行政法人の損益計算書に計上される費用
損益外減価償却相当額　　：償却資産のうち、その減価に対応すべき収益の獲得が予定されないものとして特定された資産の減価償却費相当額（損益計算書には計上していないが、累計額は貸借対照表に記載している）

損益外減損損失相当額　　：独立行政法人が中期計画等で想定した業務を行ったにもかかわらず生じた減損損失相当額（損益計算書には計上していないが、累計額は貸借対照表に記載している）

引当外賞与見積額　　：財源措置が運営費交付金により行われることが明らかな場合の賞与引当金増加見積額（損益計算書には計上していないが、仮に引き当てた場合に計上したであろう賞与引当金見積額を貸借対照表に注記している）

引当外退職給付増加見積額：財源措置が運営費交付金により行われることが明らかな場合の退職給付引当金増加見積額（損益計算書には計上していないが、仮に引き当てた場合に計上したであろう退職給付引当金見積額を貸借対照表に注記している）

機会費用　　：政府から出資された土地・建物等の出資額及び政府から譲与を受け資本剰余金となっている収蔵品等の金額を市場で運用した場合に得られたであろう運用益相当額などが該当

4. 財務情報

(1) 財務諸表の概況

① 経常費用、経常収益、当期総損益、資産、負債、キャッシュ・フローなどの主要な財務データの経年比較・分析

(経常費用)

平成20年度の経常費用は9,450百万円と、前年度比354百万円増(3.9%増)となっている。これは、調査研究業務費が前年度比140百万円増(15.8%増)となったことが主な要因である。

(経常収益)

平成20年度の経常収益は9,771百万円と、前年度253百万円増（2.7%増）となっている。これは、入場料収入が前年度比79百万円増（7.3%増）及び展示事業附帯収入が前年度比114百万円増（36.7%増）となったことが主な要因である。

(当期総利益)

上記経常収益の状況及び臨時損失として20百万円を計上した結果、平成２０年度の当期総利益は304百万円と、前年度比△110百万円減（△26.6%減）となっている。

(資産)

平成20年度末現在の資産合計は195,434百万円と、前年度末比1,387百万円増となっている。これは、各博物館における収蔵品の増加が主な要因である。

(負債)

平成20年度末現在の負債合計は7,377百万円と、前年度末比1,982百万円増となっている。これは、京都国立博物館平常展示館建替工事に伴う建設仮勘定見返施設費の増加が主な要因である。なお、運営費交付金債務は、陳列品購入の次年度執行予定に伴う増加が主な要因である。

（業務活動によるキャッシュ・フロー）

平成２０年度の業務活動によるキャッシュ・フローは 2,444 百万円と、前年度比 167 百万円減（6.4%減）となっている。これは、運営費交付金収入が 271 百万円減（3.0%減）となったことが主な要因である。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

平成２０年度の投資活動によるキャッシュ・フローは△1,575 百万円と、前年度比 997 百万円減（38.8%減）（収入額の増）となっている。これは、施設費による収入が前年度比 2,020 百万円増（100%増）となったことが主な要因である。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

平成２０年度の財務活動によるキャッシュ・フローは△16 百万円と、前年度比 4 百万円減（20.0%減）（支出額の減）となっている。これは、リース債務の支払いによる支出が 4 百万円減（20.0%減）となったためである。

主要な財務データの経年比較（国立文化財機構）　（単位：百万円）

区分	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度
経常費用	－	－	－	9,096	9,450
経常収益	－	－	－	9,518	9,771
当期総利益	－	－	－	414	304
資産	－	－	－	194,047	195,434
負債	－	－	－	5,395	7,377
利益剰余金（又は繰越欠損金）	－	－	－	719	1,019
業務活動によるキャッシュ・フロー	－	－	－	2,612	2,444
投資活動によるキャッシュ･フロー	－	－	－	-2,572	-1,575
財務活動によるキャッシュ・フロー	－	－	－	-20	-16
資金期末残高	－	－	－	2,490	3,343

＜参考情報＞主要な財務データの経年比較（国立博物館）　（単位：百万円）

区分	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度
経常費用	5,709	6,579	5,390	－	－
経常収益	5,414	6,486	5,780	－	－
当期総利益	-65	-84	287	－	－
資産	174,883	175,305	175,633	－	－
負債	5,148	4,827	4,762	－	－
利益剰余金（又は繰越欠損金）	187	21	290	－	－
業務活動によるキャッシュ・フロー	1,956	1,298	2,642	－	－
投資活動によるキャッシュ・フロー	0	0	0	－	－
財務活動によるキャッシュ・フロー	0	-13	-13	－	－
資金期末残高	3,789	2,672	2,076	－	－

＜参考情報＞主要な財務データの経年比較（文化財研究所）　（単位：百万円）

区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
経常費用	3,565	3,684	3,655	－	－
経常収益	3,628	3,656	3,712	－	－
当期総利益	86	-17	50	－	－
資産	19,527	19,212	18,806	－	－
負債	1,139	1,266	1,345	－	－
利益剰余金（又は繰越欠損金）	151	121	54	－	－
業務活動によるキャッシュ・フロー	156	-74	-92	－	－
投資活動によるキャッシュ・フロー	0	0	0	－	－
財務活動によるキャッシュ・フロー	-1	-4	-5	－	－
資金期末残高	1,024	866	394	－	－

（注1）当年度を含めて5年度の推移を記載する。

（注2）対前年度比において著しい変動が生じている場合は、その理由を脚注する。

（注3）各計数に重要な影響を及ぼす事象（会計方針の変更等）がある場合は、その旨脚注する。

② セグメント事業損益の経年比較・分析

（施設別セグメント情報）

事業損益は321百万円で対前年度比△101百万円の減（△24.0%減）となっているが、これを施設毎に分析していくと、東京国立博物館においては、調査研究業務費の増加が主な要因となり、対前年度比△103百万円の減（△35.1%減）となっている。

京都国立博物館においては、一般管理経費（施設整備に伴う支払消費税の増加）が主な要因となり、対前年度比△8百万円の減（△36.6%減）となっている。

奈良国立博物館においては、受託収入の増加が主な要因となり、対前年度比35百万円の増（85.9%増）となっている。

九州国立博物館においては、入場料収入の減少により対前年度比△29百万円の減（△73.7%減）となっている。

東京文化財研究所においては、受託収入の減少が主な要因となり、対前年度比△9百万円の減（△46.3%減）となっている。

奈良文化財研究所においては、展示事業等附帯収入の増加が主な原因となり、対前年度比12百万円の増（216.0%増）となっている。

事業損益の経年比較　（単位：百万円）

国立文化財機構	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
東京国立博物館	－	－	－	293	190
京都国立博物館	－	－	－	21	13
奈良国立博物館	－	－	－	41	76
九州国立博物館	－	－	－	40	11
東京文化財研究所	－	－	－	20	11
奈良文化財研究所	－	－	－	6	18
共通	－	－	－	1	2
計	－	－	－	422	321

＜参考情報＞事業損益の経年比較　（単位：百万円）

国立博物館	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
東京国立博物館	-265	-7	124	－	－
京都国立博物館	-8	-22	36	－	－
奈良国立博物館	-21	-8	97	－	－
九州国立博物館	該当なし	-50	128	－	－
共通	-1	-6	2	－	－
計	-295	-93	387	－	－

＜参考情報＞事業損益の経年比較　（単位：百万円）

文化財研究所	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
東京文化財研究所	9	-20	12	－	－
奈良文化財研究所	38	-69	11	－	－
共通	16	61	35	－	－
計	63	-28	58	－	－

③ セグメント総資産の経年比較・分析

（施設別セグメント情報）

総資産は195,434百万円で前年度比1,387百万円の増（0.7%増）となっている。これを施設毎に分析していくと、東京国立博物館においては、通常の減価償却費の計上による減少が主な要因となり、対前年度比△8百万円の減（△0.01%減）となっている。

京都国立博物館においては、平常展示館建替工事に伴う資産の増加が主な要因となり、対前年度比1,613百万円の増（4.6%増）となっている。

奈良国立博物館においては、通常の減価償却費の計上による減少が主な要因となり、対前年度比△60百万円の減（△0.2%減）となっている。

九州国立博物館においては、陳列品の増加が主な要因となり、対前年度比395百万円の増(1.5%増）となっている。

東京文化財研究所においては、通常の減価償却費の計上が主な要因となり、対前年度比△340百万円の減（△4.5%減)、奈良文化財研究所においても、通常の減価償却費の計上が主な要因となり、対前年度比△221百万円の減（△3.2%減）となっている。

総資産の経年比較　（単位：百万円）

国立文化財機構	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
東京国立博物館	－	－	－	88,121	88,113
京都国立博物館	－	－	－	34,931	36,544
奈良国立博物館	－	－	－	29,751	29,691
九州国立博物館	－	－	－	26,357	26,752
東京文化財研究所	－	－	－	7,624	7,284
奈良文化財研究所	－	－	－	6,880	6,659
共通	－	－	－	383	391
計	－	－	－	194,047	195,434

＜参考情報＞総資産の経年比較　（単位：百万円）

国立博物館	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
東京国立博物館	91,664	84,744	84,496	－	－
京都国立博物館	34,094	34,493	34,623	－	－
奈良国立博物館	29,345	29,535	29,915	－	－
九州国立博物館	該当なし	25,693	26,430	－	－
共通	19,780	840	169	－	－
計	174,883	175,305	175,633	－	－

＜参考情報＞総資産の経年比較　（単位：百万円）

文化財研究所	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
東京文化財研究所	11,973	11,714	11,445	－	－
奈良文化財研究所	7,062	7,074	7,235	－	－
共通	492	424	126	－	－
計	19,527	19,212	18,806	－	－

④ 目的積立金の申請、取崩内容等

当期総利益 303,844,799 円のうち、中期計画の剰余金の使途において定めた博物館・研究所業務に充てるため、303,774,817 円を目的積立金として申請している。

当期利益のうち 69,982 円は、目的積立金の申請対象としていないが、これは運営費交付金から生じた利息や国から承継した資産（備品）の売却に伴う収益など、法人の自己努力によらない分である。

なお、利益の発生については、入場料収入等の収入実績が自己収入予算を上回ったことが主な要因となっている。

⑤ 行政サービス実施コスト計算書の経年比較・分析

平成２０年度の行政サービス実施コストは 12,333 百万円と、前年度比 273 百万円増（2.3%増）となっている。これは、京都国立博物館平常展示館建替工事に伴う固定資産除売却相当額の増加が主な要因である。

行政サービス実施コストの経年比較　（単位：百万円）

区分　国立文化財機構	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
業務費用	－	－	－	7,013	7,165
うち損益計算書上の費用	－	－	－	9,109	9,471
うち自己収入	－	－	－	-2,096	-2,306
損益外減価償却相当額	－	－	－	2,545	2,507
損益外減損損失相当額	－	－	－	102	0
損益外固定資産除売却相当額	－	－	－	7	301
引当外賞与見積額	－	－	－	5	-21
引当外退職給付増加見積額	－	－	－	-42	-173
機会費用	－	－	－	2,430	2,554
（控除）法人税等及び国庫納付金	－	－	－	0	0
行政サービス実施コスト	－	－	－	12,060	12,333

＜参考情報＞行政サービス実施コストの経年比較　（単位：百万円）

区分　国立博物館	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度
業務費用	4,659	5,086	3,973	－	－
うち損益計算書上の費用	5,710	6,606	5,492	－	－
うち自己収入	-1,051	-1,520	-1,519	－	－
損益外減価償却相当額	1,492	2,008	1,881	－	－
損益外減損損失相当額	0	34	2	－	－
損益外固定資産除売却相当額	8	0	18	－	－
引当外賞与見積額	0	0	0	－	－
引当外退職給付増加見積額	45	-20	112	－	－
機会費用	2,061	2,895	2,694	－	－
（控除）法人税等及び国庫納付金	0	0	0	－	－
行政サービス実施コスト	8,265	10,003	8,680	－	－

＜参考情報＞行政サービス実施コストの経年比較　（単位：百万円）

区分　文化財研究所	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度
業務費用	3,235	3,139	2,930	－	－
うち損益計算書上の費用	3,565	3,686	3,662	－	－
うち自己収入	-330	-547	-732	－	－
損益外減価償却相当額	429	420	424	－	－
損益外減損損失相当額	0	0	2	－	－
損益外固定資産除売却相当額	0	0	0	－	－
引当外賞与見積額	0	0	0	－	－
引当外退職給付増加見積額	-21	-21	36	－	－
機会費用	382	449	420	－	－
（控除）法人税等及び国庫納付金	0	0	0	－	－
行政サービス実施コスト	4,025	3,987	3,812	－	－

(2)　施設等投資の状況（重要なもの）

①当事業年度中に完成した主要施設等

該当無し

②当事業年度において継続中の主要施設等の新設・拡充

＜京都国立博物館＞

京都国立博物館平常展示館建替工事

＜奈良国立博物館＞

西新館耐震補強工事

③当事業年度中に処分した主要施設等

京都国立博物館平常展示館建替工事による当該建物取壊し

(3) 予算・決算の概況

国立文化財機構　　（単位：百万円）

区分	16年度		17年度		18年度		19年度		20年度		
	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算	差額理由
《収入》											
運営費交付金	－	－	－	－	－	－	9,042	9,042	8,771	8,771	
施設整備費補助金	－	－	－	－	－	－	711	148	1,698	1,872	前年度よりの繰越
展示事業収入	－	－	－	－	－	－	1,098	1,558	1,109	1,786	
その他寄附金等	－	－	－	－	－	－	0	148	0	127	
受託収入	－	－	－	－	－	－	26	527	26	514	当初見込外契約の増加
計	－	－	－	－	－	－	10,877	11,423	11,604	13,070	
《支出》											
運営事業費	－	－	－	－	－	－	10,140	10,341	9,880	9,779	
・人件費	－	－	－	－	－	－	3,560	3,483	3,635	3,507	
・業務経費	－	－	－	－	－	－	6,580	6,858	6,245	6,272	
（一般管理費）	－	－	－	－	－	－	1,754	1,191	1,087	1,173	納付消費税額の増
（展覧事業費）	－	－	－	－	－	－	2,591	3,780	2,951	3,079	
（調査研究事業費）	－	－	－	－	－	－	1,449	1,261	1,445	1,448	
（教育普及事業費）	－	－	－	－	－	－	125	70	121	63	
（国際研究協力事業費）	－	－	－	－	－	－	314	249	305	229	
（情報公開事業費）	－	－	－	－	－	－	161	166	156	146	
（研修事業費）	－	－	－	－	－	－	23	22	22	22	
（展示出版事業費）	－	－	－	－	－	－	163	119	158	112	
受託事業費	－	－	－	－	－	－	26	486	26	503	当初見込外契約の増加
施設整備費	－	－	－	－	－	－	711	148	1,698	2,106	前年度よりの繰越
計	－	－	－	－	－	－	10,877	10,975	11,604	12,388	

＜参考情報＞国立博物館　（単位：百万円）

区分	16年度		17年度		18年度		19年度		20年度		
	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算	差額理由
《収入》											
運営費交付金	5,956	5,956	6,622	6,622	6,103	6,103	－	－	－	－	
施設整備費補助金	2,470	2,159	312	312	0	0	－	－	－	－	
展示事業収入	580	995	681	1,339	1,045	1,478	－	－	－	－	
その他寄附金等	0	51	0	51	0	51	－	－	－	－	
その他収入	0	0	0	0	0	0	－	－	－	－	
計	9,006	9,161	7,615	8,324	7,148	7,632	－	－	－	－	
《支出》											
運営事業費	6,536	7,179	7,303	9,158	7,148	6,863	－	－	－	－	
・人件費	2,277	2,345	2,316	2,257	2,367	2,083	－	－	－	－	
・業務経費	4,259	4,834	4,987	6,901	4,781	4,780	－	－	－	－	
（一般管理費）	403	664	789	1,001	830	860	－	－	－	－	
（展覧事業費）	1,983	2,580	3,311	4,744	3,143	2,984	－	－	－	－	
（調査研究事業費）	448	573	771	1,039	692	868	－	－	－	－	
（教育普及事業費）	106	114	116	117	116	68	－	－	－	－	
（九州国立博物館（仮称）設立等準備事業費）	1,319	903	0	0	0	0	－	－	－	－	
施設整備費	2,470	2,159	312	808	0	518	－	－	－	－	
計	9,006	9,338	7,615	9,966	7,148	7,381	－	－	－	－	

＜参考情報＞文化財研究所　（単位：百万円）

区分	16年度		17年度		18年度		19年度		20年度		
	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算	差額理由
《収入》											
運営交付金	3,216	3,216	3,046	3,046	2,985	2,985	－	－	－	－	
展示事業等収入	21	41	21	43	42	63	－	－	－	－	
受託収入	27	257	27	475	26	627	－	－	－	－	
附帯収入	0	3	0	6	0	10	－	－	－	－	
その他寄附金等	0	8	0	18	0	8	－	－	－	－	
固定資産売却益	0	2	0	0	0	0	－	－	－	－	
計	3,264	3,527	3,094	3,588	3,053	3,693	－	－	－	－	
《支出》											
運営事業費	3,237	3,192	3,067	3,145	3,027	3,024	－	－	－	－	
・人件費	1,367	1,307	1,256	1,305	1,320	1,301	－	－	－	－	
・調査研究事業費	630	661	613	637	583	623	－	－	－	－	
・展示出版事業費	152	137	140	131	165	140	－	－	－	－	
・情報公開事業費	181	197	179	186	162	187	－	－	－	－	
・研修事業費	24	24	23	23	23	24	－	－	－	－	
・国際研究協力事業費	321	327	321	329	317	286	－	－	－	－	
・平城宮跡公開活用支援事業費	70	69	67	80	0	0	－	－	－	－	
・管理費	492	470	468	454	457	463	－	－	－	－	
施設整備費	0	14	0	36	0	516	－	－	－	－	
受託事業費	27	249	27	466	26	590	－	－	－	－	
附帯業務費	0	2	0	3	0	6	－	－	－	－	
その他寄附金	0	8	0	18	0	8	－	－	－	－	
計	3,264	3,465	3,094	3,668	3,053	4,144	－	－	－	－	

(4)　経費削減及び効率化目標との関係

法人においては、当中期目標期間終了年度における一般管理費を、前中期目標期間の最終年度に比べて、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き 5 年期間中で一般管理費 15%以上の削減を目標としている。

この目標を達成するため、具体的には下記の措置を講じる。

①共通的な事務の一元化による業務の効率化

②使用資源の減少

・省エネルギー（5 年期間中 1 年に 1．03%の減少）

・廃棄物減量化（一般廃棄物排出量を 5 年期間中 5%減少）

・リサイクルの推進（古紙の回収、ディスプレイ材料の再利用徹底等）

③施設有効使用の推進

・施設の利用推進

④民間委託の推進

・一般管理部門を含めた組織・業務の見直しを行い、民間開放をさらに積極的に進める。

・各施設の警備・清掃業務について民間委託を推進する。

・来館者サービスを中心に業務の見直しを行い、民間委託を積極的に進める。

⑤競争入札の推進

・契約業者の競合を一層推進することにより、経費の効率化を図る。

・包括契約、近隣他機関や法人内同一地域での共同購入及び複数年契約への変更等により、経費の効率化を図る。

国立文化財機構

（一般管理費全体で削減目標を定めているため区分は「一般管理費」のみ）　（単位：百万円）

区分	前中期目標期間終了年度		当中期目標期間					
	金額	比率	平成 18 年度		平成 19 年度		平成 20 年度	
			金額	比率	金額	比率	金額	比率
一般管理費	1,455	100%	－	－	1,191	81.9%	1,173	80.6%

※比率は対前中期目標終了年度

＜参考情報＞

国立博物館

（一般管理費全体で削減目標を定めているため区分は「一般管理費」のみ）　（単位：百万円）

区分	前中期目標期間終了年度		当中期目標期間					
	金額	比率	平成 18 年度		平成 19 年度		平成 20 年度	
			金額	比率	金額	比率	金額	比率
一般管理費	1,001	100%	860	85.9%	－	－	－	－

※比率は対前中期目標期間終了年度

＜参考情報＞

文化財研究所

（一般管理費全体で削減目標を定めているため区分は「一般管理費」のみ）　　（単位：百万円）

区分	前中期目標期間終了年度		当中期目標期間					
	金額	比率	平成18年度		平成19年度		平成20年度	
			金額	比率	金額	比率	金額	比率
一般管理費	454	100%	463	102.0%	－	－	－	－

※比率は対前中期目標期間終了年度

5.　事業の説明

(1) 財源構造

当法人の経常収益は9,771百万円で、その内訳は、運営費交付金収益6,861百万円（収益の70.2%)、受託収入562百万円（5.8%)、入場料収入1,160百万円（11.9%)、展示事業等附帯収入423百万円（4.3%)、財産利用収入151百万円（1.5%)、寄附金収益80百万円（0.8%)、施設費収益132百万円（1.4%)、資産見返負債戻入398百万円（4.1%）等となっている。

(2) 財務データ及び業務実績報告書と関連付けた事業説明

ア　調査研究事業

調査研究事業は、文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究を通して、国内の機関との共同研究や研究交流を深め、種々の課題に取り組むことにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与すること及び、文化財の調査手法に関する研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与することを目的としている。

事業に要した費用は、(平成20年度1,026百万円）となっており、その財源は、運営費交付金（平成20年度781百万円)、自己収入（平成20年度245百万円）となっている。

イ　情報公開事業

情報公開事業は、調査・研究に基づく資料の作成及び文化財に関連する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査・研究成果を積極的に公表・公開し、研究者や広く一般の人が調査・研究成果を容易に入手できるようにすることを目的としている。

事業に要した費用は、(平成20年度130百万円）となっており、その財源は、運営費交付金（平成20年度129百万円)、自己収入（平成20年度1百万円）となっている。

ウ　研修事業

研修事業は、文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等で中核となる文化財担当者に埋蔵文化財に関する研修及び、保存科学に関する保存担当学芸員研修等を行うことにより、文化財保護に必要な人材を養成することを目的としている。

事業に要した費用は、(平成20年度20百万円）となっており、その財源は、運営費交付金のみである。

エ　国際研究協力事業

国際研究協力事業は、文化財の保存・修復に関する国際研究協力に関する事業を有機的・総合的に展開することにより、人類共通の財産である文化財の保存・修復に関する国際研究協力

を通じて、我が国の国際貢献に寄与することを目的としている。

事業に要した費用は、(平成 20 年度 225 百万円）となっており、その財源は、運営費交付金（平成 20 年度 219 百万円)、自己収入（平成 20 年度 6 百万円）となっている。

オ　展示出版事業

展示出版事業は、文化財に関する調査・研究に基づく成果について刊行物を発行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供すること及び、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことを目的としている。

事業に要した費用は、(平成 20 年度 114 百万円）となっており、その財源は、運営費交付金（平成 20 年度 107 百万円)、自己収入（平成 20 年度 7 百万円）となっている。

カ　展覧事業

展覧事業は、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解の促進に寄与する展示を実施すること及び、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行うことを目的としている。

事業に要した費用は、(平成 20 年度 894 百万円）となっており、その財源は、運営費交付金（平成 20 年度 214 百万円)、自己収入（平成 20 年度 680 百万円）となっている。

キ　教育普及事業

教育普及事業は、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化への理解促進を図るための中心的拠点として相応しい事業を重点的に行うこと及び、教育普及活動の充実に寄与するようボランティア活動を支援し、ボランティアの資質向上に努めることを目的としている。

事業に要した費用は、(平成 20 年度 62 百万円）となっており、その財源は、運営費交付金（平成 20 年度 58 百万円)、自己収入（平成 20 年度 4 百万円）となっている。

ク 受託事業

受託事業は、高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業など我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施することを目的としている。

事業に要した費用は、(平成 20 年度 474 百万円）となっており、その財源は、受託収入のみとなっている。

以上

Ⅴ　評価

１．文部科学省独立行政法人評価委員会評価

独立行政法人国立文化財機構の平成２０年度に係る業務の実績に関する評価

全体評価

①評価結果の総括

（イ）　我が国の歴史・伝統文化を国民にわかりやすく伝えることをコンセプトとした魅力的な展覧会が増加している。博物館を「情報発信・交流の場」として捉える動きが国民に広がっており、これらのことが相まって入場者数の増加やボランティア活動等の活発化に繋がっている。

（ロ）　文化財の調査研究は多様な分野で行われ、外部資金の調達や特許取得などの面においても着実に成果を上げている。また、文化財の保存・修復分野においてＩＰＭ（総合的病害虫管理）が職員に浸透し始めるなど、新たな動きが出てきている。

（ハ）　ナショナルセンターとしての役割を果たすべく、地方公共団体、博物館・美術館等への支援や技術移転、専門家養成などの国際協力・交流が積極的に展開され、また、教育ツールの開発や英文による情報表示、デジタル・アーカイブなど、文化財の保存・活用に対する理解促進に向けてバラエティに富んだ取組みが行われている。

＜参考＞

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置　Ａ

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置　Ａ

Ⅲ　財務・人事　Ａ

②評価結果を通じて得られた法人の今後の課題

（イ）　統合２年目を迎え、組織としての統合効果が現れつつあるが、今後、より一層効率的かつ効果的な業務の遂行が求められる。「項目別―ｐ38 参照」

（ロ）　特別展や調査研究の成果が上がる一方で、職員の仕事量は増大しているように思われる。今後は、職員の適切な配置や快適な労働環境の確保が重要となる。「項目別―ｐ44，48 参照」

（ハ）　文化財は国のソフトパワーの基盤であり、運営費交付金の減少など厳しい財政状況の中にあっても、文化財機構はナショナルセンターとして、我が国全体の文化財の保存及び活用に責任を有するという気構えを持って取り組むことが必要である。「項目別―ｐ40，46 参照」

③評価結果を踏まえて今後の法人が進むべき方向性

（イ）　博物館・文化財研究所における取組みが組織全体の業務改善に結びつくよう、各機関がそれぞれの役割を果たしつつ、一体的な業務運営を図るとともに、調査研究の成果や保存・管理方法などについても、情報の共有や意見交換を積極的に進めていくことを望む。「項目別―ｐ38 参照」

（ロ）　各施設において必要な業務内容及び人数を検討し、機構全体のバランスを考慮しながら適切な職員配置に努めるとともに、心身ともに健康・安全な労働環境の確保や表彰制度の改善など、業務運営の維持・発展を支援するシステムの整備に努められたい。「項目別―ｐ44，48 参照」

（ハ）　人材育成支援や観光産業など多様な分野との連携を図り、寄付金の受け入れや研究受託の拡充等に努めるとともに、文化財に関する支援制度を積極的に提案・発信することにより、運営費交付金以外の収入確保に向けて努力することを期待する。「項目別―ｐ40，46 参照」

④特記事項

「独立行政法人整理合理化計画（平成 19 年 12 月 24 日閣議決定）」において、平成 20 年度内に国立文化財機構が行うものとして２点指摘を受けているが、①業務運営体制の整備については、展覧会の企画機能強化のために連絡協議会を設け、巡回展が企画されるなどの成果が出ており、また、②自己収入の増大については、平成 21 年度の目標として入場料等の収入を 1.16%増、更には寄付金を 226 件とするなど、外部資金の確保や自己収入の増大に向けた定量的な目標を設定していることがそれぞれ認められる。

文部科学省独立行政法人評価委員会 文化分科会

国立文化財機構部会 委員名簿

（五十音順）

（委　　員）

河野　　栄子	ＤＩＣ株式会社社外取締役
○竹内　　順一	財団法人永青文庫館長、茨城県陶芸美術館館長

（臨時委員）

池上　　徹彦	宇宙開発委員会委員
吉川　　周平	京都市立芸術大学名誉教授
嶋田　実名子	花王株式会社コーポレートコミュニケーション部門ＣＳＲ推進部長（兼）社会貢献部長
武田　佐知子	大阪大学理事・副学長
増澤　　文武	財団法人元興寺文化財研究所名誉研究員
宮島　　博和	公認会計士

○：部会長

独立行政法人国立文化財機構の平成20年度に係る業務の実績に関する評価

項目別評価総表

項目名	中期目標期間中の評価の経年変化※						項目名	中期目標期間中の評価の経年変化※					
	１８年度		１９年度	２０年度	２１年度	２２年度		１８年度		１９年度	２０年度	２１年度	２２年度
	博物館	研究所						博物館	研究所				
（大項目名）国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	A	A	A	A			（中項目名）文化財の保存・修復に関する国際協力の推進	－	A	S	A		
（中項目名）歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承	A	－	A	A			（小項目名）国際協力に関する研究基盤の整備	－	A	S	A		
（小項目名）収蔵品の収集	A	－	A	A			（小項目名）保存修復に関する技術移転の推進	－	A	S	A		
（小項目名）収蔵品の管理、保存	A	－	B	A			（中項目名）情報発信機能の強化	－	A	A	A		
（小項目名）収蔵品の修理、保存処理	A	－	A	A			（小項目名）情報基盤の整備充実	－	A	A	A		
（小項目名）収集、保管のための調査研究	A	－	－	―			（小項目名）調査研究成果の公開・提供	－	A	A	A		
（中項目名）文化財を活用した歴史・　伝統文化の国内外への発信	B	－	A	A			（小項目名）公開施設の運用	－	A	A	A		
（小項目名）展示の充実	S	－	S	S			（小項目名）情報発信機能の強化	B	－	A	A		
（小項目名）歴史・伝統文化の理解促進	A	－	A	A			（中項目名）地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上	－	A	A	A		
（小項目名）展示、教育普及活動などの博物館活動のための調査研究	A	－	－	―			（小項目名）地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制の構築	－	A	A	A		
（小項目名）快適な観覧環境の提供	B	－	A	B			（小項目名）中核的文化財担当者の研修・若手研者の育成	－	A	S	A		
（中項目名）我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与	A	－	A	A			（大項目名）業務の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	A	A	A	A		
（小項目名）調査研究成果の発信	－	－	A	A			（小項目名）業務の効率化	A	（A）	A	B		
（小項目名）海外研究者の招聘	－	－	A	A			（小項目名）外部評価等の実施	A	（A）	B	A		
（小項目名）博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムの検討、実施	－	－	A	A			（小項目名）情報の安全向上	A	－	A	A		
（小項目名）収蔵品貸与の推進	－	－	A	A			（小項目名）人件費の削減	A	（A）	A	B		
（小項目名）公私立博物館・美術館等に対する援助・助言	－	－	A	A			（大項目名）財務・人事	A	A	A	A		
（中項目名）文化財に関する調査及び研究の推進	－	A	A	A			（小項目名）予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画	A	A	A	A		
（小項目名）調査研究の目的、内容の適切性	－	S	A	A			（小項目名）人事計画に関する計画	A	A	A	A		
（小項目名）調査研究の実施状況	－	S	A	S									
（小項目名）調査研究の成果の状況	－	A	A	A									

※当該中期目標期間の初年度から経年変化を記載。

備考（法人の業務・マネジメントに係る意見募集結果の評価への反映に対する説明等）
・「文部科学省の使命と政策目標」については、「１２－２文化財の保存および活用の充実」に該当

【参考資料１】予算、収支計画及び資金計画に対する実績の経年比較（過去５年分を記載）　（単位：百万円）

区分	１９年度	２０年度				区分	１９年度	２０年度			
収入						支出					
運営費交付金	9,042	8,771				運営事業費	10,341	9,779			
施設整備費補助金	148	1,872				人件費	3,483	3,507			
展示事業等収入	1,558	1,786				一般管理費	1,191	1,173			
受託収入	527	514				業務経費	5,667	5,098			
その他寄附金等	149	127				調査研究事業費	1,261	1,448			
						情報公開事業費	166	146			
						研修事業費	22	22			
						国際研究協力事業費	249	229			
						展示出版事業費	119	112			
						展覧事業費	3,780	3,079			
						教育普及事業費	70	62			
						施設整備費	148	2,106			
						受託事業費	486	503			
計	11,424	13,070	0	0	0	計	10,975	12,388			

備考（指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等）
展示事業等収入の増は、特別展の入場者数増によるものである。

（単位：百万円）

区分	１９年度	２０年度				区分	１９年度	２０年度			
費用						収益					
経常経費	9,095	9,451				運営費交付金収益	7,010	6,861			
人件費	3,956	4,025				受託収入	529	562			
一般管理費	1,035	1,153				入場料収入	1,081	1,160			
業務経費	4,104	4,273				展示事業等附帯収入	310	423			
調査研究業務費	886	1,026				財産利用収入	162	150			
情報公開業務費	141	130				寄附金収益	57	80			
研修業務費	20	20				施設費収益	7	132			
国際研究協力業務費	248	225				資産見返負債戻入	359	398			
展示出版業務費	108	114				雑益等	3	5			
展覧業務費	1,768	1,819									
教育普及業務費	70	62									
受託業務費	483	474									
減価償却費	378	400									
雑損等	2	3									
臨時損失	14	20									
計	9,109	9,471				計	9,518	9,771			
						純利益	409	300			
						目的積立金取崩額	5	4			
						総利益	414	304			

備考（指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等）
調査研究事業費の増は、情報通信機器購入によるものである。
入場料収入の増は、特別展等の入場者数増によるものである。

（単位：百万円）

区分	１９年度	２０年度				区分	１９年度	２０年度			
資金支出						資金収入					
業務活動による支出	9,107	9,114				業務活動による収入	11,719	11,587			
投資活動による支出	2,575	3,595				運営費交付金による収入	9,042	8,771			
財務活動による支出	20	16				展示事業等による収入	2,677	2,787			
翌年度への繰越金	2,490	3,343				投資活動による収入	3	2,020			
						施設費による収入	0	2,020			
						固定資産売却による収入	3	0			
						財務活動による収入	0	0			
						前年度よりの繰越金	2,470	2,490			
計	14,192	16,068				計	14,192	16,097			

備考（指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等）
投資活動による支出の増は、施設整備費補助金によるものである。

【参考資料２】貸借対照表の経年比較（過去５年分を記載）

（単位：百万円）

区分	１９年度	２０年度				区分	１９年度	２０年度			
資産						負債					
流動資産						流動負債					
現金・預金	2,490	3,343				運営費交付金債務	752	1,350			
未収金	553	664				未払金	1,805	1,787			
その他	71	36				その他	285	352			
固定資産						固定負債					
有形固定資産						資産見返負債	2,519	3,865			
建物	45,827	43,830				その他の固定負債	33	23			
収蔵品	95,898	97,362									
土地	44,411	44,411				負債合計	5,394	7,377			
その他	4,686	5,666				純資産					
無形固定資産	110	121				資本金	104,714	104,714			
投資その他資産	1	1				資本剰余金	83,220	82,324			
						利益剰余金	719	1,019			
						（うち当期未処分利益）	414	304			
						純資産合計	188,653	188,057			
資産合計	194,047	195,434				負債純資産合計	194,047	195,434			

備考（指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等）
資産見返負債の増は、未完成の施設工事によるものである。
運営費交付金債務は、陳列品購入の次年度執行予定に伴う増加が主な要因であり、業務運営に与える影響はない。

【参考資料３】利益（又は損失）の処分についての経年比較（過去５年分を記載）　　（単位：百万円）

区分	１９年度	２０年度			
Ⅰ　当期未処分利益					
当期総利益	414	304			
前期繰越欠損金	0	0			
Ⅱ　利益処分額					
積立金	414	0			
独立行政法人通則法第４４条第３項により					
主務大臣の承認を受けた額	0	0			
業務拡充積立金	0	304			
施設改修積立金	0	0			

備考（指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等）
20年度の業務拡充積立金は申請予定額である。

Ｓ　：特に優れた実績を上げている。（客観的基準は事前に設けず、法人の業務の特性に応じて評定を付す。）
Ａ　：中期計画通り、または中期計画を上回って履行し、中期目標に向かって順調、または中期目標を上回るペースで実績を上げている。
（当該年度に実施すべき中期計画の達成度が１００％以上）
Ｂ　：中期計画通りに履行しているとは言えない面もあるが、工夫や努力によって、中期目標を達成し得ると判断される。
（当該年度に実施すべき中期計画の達成度が７０％以上１００％未満）
Ｃ　：中期計画の履行が遅れており、中期目標達成のためには業務の改善が必要である。（当該年度に実施すべき中期計画の達成度が７０％未満）
Ｆ　：評価委員会として業務運営の改善その他の勧告を行う必要がある。
（客観的基準は事前に設けず、業務改善の勧告が必要と判断された場合に限りＦの評定を付す。）

独立行政法人国立文化財機構の平成２０年度に係る業務の実績に関する評価

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

評　定
A
全ての中項目でＡ評定を受けており、全体として中期目標に向かって順調に実績を上げている。

中項目の評価	評　定
１．歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承	A
２．文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	A
３．我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与	A
４．文化財に関する調査及び研究の推進	A
５．文化財の保存・修復に関する国際協力の推進	A
６．情報発信機能の強化	A
７．地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上	A

【中項目評価】

１　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

評　定
A

評価のポイント

厳しい財政状況の中で52件の作品を購入でき、また、寄贈・寄託の受入件数も順調と認められる。文化財機構のコレクションがより体系化されたことは評価できるが、文化財機構における文化財購入の考え方をもう少しわかりやすく示す方が国民にも理解されやすいと考えられる。

文化財管理・保存の取組みとして収蔵品の緊急修理の必要性に関する調査が進んでおり、また、ＩＰＭ（総合的病害虫管理）に関する理解が保存科学関係者だけでなく一般の研究員にも浸透し始めたことを評価する。また、東博においてＲＦＩＤ・バーコード等を利用した収蔵品の所在情報管理が開始されるなど、新たな試みが始まったことも評価できる。

<table>
<tr><th>中期計画</th><th>主な計画上の
評価指標</th><th>主な実績及び自己評価</th><th>評価委員会による評価
評価基準　SABCF</th></tr>
<tr>
<td>（1）－1　体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。
（東京国立博物館）
日本を中心にして広く東洋諸地域にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。
（京都国立博物館）
京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。
（奈良国立博物館）
仏教美術を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。
（九州国立博物館）
日本とアジア諸国との文化交流を中心とした美術、考古資料歴史資料等を収集する。

（1）－2　収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。</td>
<td>1．収蔵品の収集
○購入、寄贈・寄託の受け入れにより、体系的・通史的にバランスのとれたコレクションを形成すること。</td>
<td>主な実績
収蔵品　121,121件　（うち新収品168件　購入52件、寄贈113件、編入3件）
文化財購入費　10億4千万円　※19年度17億3千万円（6億9千万円減）
寄託品　12,067件　（うち新規寄託品210件）　※19年度12,045件（22件増）

【寄託件数】指標：平常展に必要と考えられる件数（年度計画）

東京国立博物館
<table>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>実　績</th><th>定量的評価</th></tr>
<tr><td>2,400件以上</td><td>1,680件以上
2,400件未満</td><td>1,680件未満</td><td>2,750件</td><td>A</td></tr>
</table>
京都国立博物館
<table>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>実　績</th><th>定量的評価</th></tr>
<tr><td>6,000件以上</td><td>4,200件以上
6,000件未満</td><td>4,200未満</td><td>6,145件</td><td>A</td></tr>
</table>
奈良国立博物館
<table>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>実　績</th><th>定量的評価</th></tr>
<tr><td>2,060件以上</td><td>1,442件以上
2,060件未満</td><td>1,442件未満</td><td>2,067件</td><td>A</td></tr>
</table>
九州国立博物館
<table>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>実　績</th><th>定量的評価</th></tr>
<tr><td>350件以上</td><td>245件以上
350件未満</td><td>245件未満</td><td>1,105件</td><td>A</td></tr>
</table>
自己評価
20年度も展示や研究に活かせるような文化財の収集に努め、編入を除いて165件の新収品を得た。購入については購入費が19年度と比して6億9千万円、約40％の減額となっているが、それでも18年度の8億4千万円と比較すると、2億円、19.2％増となっており、52件の優れた文化財を購入することができた。
主な購入品としては、重文「般若菩薩像」（東博）、伝狩野元信筆「耕作図屏風」（京博）、木造南無仏太子立像（奈良博）、重文「孤峯覺明墨蹟与保樹大姉法語」（九博）など各館の特色を活かした効果的な収集を行っており、平常展の活性化や調査研究を行う上で、重要な役割を果たすことが期待される。
寄贈については、個人収集家等へ積極的な働きかけを行った結果、113件の文化財を新規で寄贈いただくことができた。これまでの良好な関係の構築と積極的な働きかけにより、祐賢和歌懐紙（春日懐紙）（奈良博）など博物館の収集方針とも合致した良品の寄贈をえることができた。寄贈は個人収集家や社寺等のご厚志によるものであるので、今後も顕彰などを活用して積極的に働きかけに努めていきたい。
定量的な目標を定めている寄託品については、すべての館において目標を達成することができた。寄託者の経済的事情や当機構への寄託品の寄贈、寄託品の購入などにより、寄託品の総数は、前年度に比べると22件の増に留まったが、新規寄託品は211件を数えた。中でも、河鍋暁齋展（京博）や天馬展（奈良博）に出品された作品が新たに寄託されたことは特筆される。</td>
<td>評定　A
コメント
重要文化財などの優れた文化財を購入し、また、寄託品の受入実績を上げていることは評価できる。
購入品については、各館の目的・役割を踏まえつつ全体の最適化を目指すべき。その際、通史・体系的にみてバランスよく作品を購入していることが説明できると、外部から見て収集の意義が理解しやすい。
昨今の不安定な経済情勢に鑑み、寄託の幅を更に広げ、また、保管・管理にも一層の安全を望む。</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>以上のような購入・寄託により、コレクションの体系的・通史的バランスをより良いものにすることができたと考えている。
次年度以降も文化財の散逸を防ぐなどナショナルセンターとしての役割を意識した収集を実施していきたい。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>（２）国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。</td>
<td>２．収蔵品の管理、保存
○展示場、収蔵庫の老朽化対策や耐震対策を計画的かつ速やかに実施すること。
○保存環境の調査研究等を実施すること。</td>
<td>主な実績
・ＲＦＩＤ（電子タグ）・バーコード等を利用した収蔵品所在情報管理を開始（東博）
・輸送中の文化財にかかる振動・衝撃の計測、調査（東博）
・平常展示館内収蔵品の東収蔵庫等への移動（京博）
・無線ＬＡＮによるリアルタイムでの温湿度管理の構築（奈良博）
・ＩＰＭ（総合的病害虫管理）活動の普及（九博）

【保存カルテ作成件数】指標：年度計画

東京国立博物館
<table>
<tr><th>Ａ</th><th>Ｂ</th><th>Ｃ</th><th>実績</th><th>定量的評価</th></tr>
<tr><td>500件以上</td><td>500件未満350件以上</td><td>350件未満</td><td>2,693件</td><td>Ａ</td></tr>
</table>
京都国立博物館
<table>
<tr><th>Ａ</th><th>Ｂ</th><th>Ｃ</th><th>実績</th><th>定量的評価</th></tr>
<tr><td>100件以上</td><td>100件未満70件以上</td><td>70件未満</td><td>174 件</td><td>Ａ</td></tr>
</table>
奈良国立博物館
<table>
<tr><th>Ａ</th><th>Ｂ</th><th>Ｃ</th><th>実績</th><th>定量的評価</th></tr>
<tr><td>100件以上</td><td>100件未満70件以上</td><td>70件未満</td><td>108件</td><td>Ａ</td></tr>
</table>
九州国立博物館
<table>
<tr><th>Ａ</th><th>Ｂ</th><th>Ｃ</th><th>実績</th><th>定量的評価</th></tr>
<tr><td>200件以上</td><td>200件未満140件以上</td><td>140件未満</td><td>289件</td><td>Ａ</td></tr>
</table>
自己評価
定量的評価を定めている保存カルテの作成件数については、すべての館で目標を上回っている。19年度の評価で指摘された数値目標の甘さについては、21年度目標で反映させた。
温湿度管理や防虫対策など日常的な環境管理を行い、万全の体制を図るとともに、展示・収蔵施設の耐震対策を着実に実施している。また、輸送中における文化財への影響の調査の蓄積により、より安全な輸送のあり方を検討できた。</td>
<td>評定　Ａ
コメント
文化財の保存・活用のため、施設の老朽化・耐震対策や輸送時の安全対策などを進めていることは評価できる。保存カルテ作成も着実になされたものと認められる。
また、東博の永年の課題であった収蔵品のＲＦＩＤ・バーコード管理が開始されるなど、管理の近代化も前進している。なお、ＲＦＩＤの長期信頼性には依然課題があることから、「札・ラベル」による表記も残しておいて欲しい。
良い取組みは他館にも積極的に普及させるべき。特に、奈良博は保存科学の専門官がいない中、研究員全員にＩＰＭ活動をルーチン化させ、かつ、ビジュアル化したリアルタイム監視を実施している。今後は、上記システムの成果・課題等を学会・研修等で報告するなどナショナルセンターとしてその普及に努力して欲しい。</td>
</tr>
</table>

（３）修理、保存処理を要する収蔵品等については、機構の保存科学・修復技術担当者が連携し、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を取り入れ、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。

３．収蔵品修理、保存処理

○緊急性の高いものから計画的に修理を実施すること
○外部の専門家と連携すること。
○科学的な保存技術を取り入れること。

主な実績

・計画的な文化財の本格修理を実施（125件）
・長期的な修理計画策定に向けてＸ線透過撮影、光学実態顕微鏡などを使用した調査を実施（東博）
・修理指針の検討のため、絵画の彩色の蛍光Ｘ線分析や、生物被害等による劣化損傷状態を調査（九博）

【修理件数（本格修理）】指標：年度計画

東京国立博物館

Ａ	Ｂ	Ｃ	実績	定量的評価
70件以上	49件以上70件未満	49件未満	75件	Ａ

京都国立博物館

Ａ	Ｂ	Ｃ	実績	定量的評価
10件以上	7件以上10件未満	7件未満	17件	Ａ

奈良国立博物館

Ａ	Ｂ	Ｃ	実績	定量的評価
4件以上	2件以上4件未満	2件未満	8件	Ａ

九州国立博物館

Ａ	Ｂ	Ｃ	実績	定量的評価
8件以上	5件以上8件未満	5件未満	25件	Ａ

自己評価

定量的な目標を定めている修理件数についてはすべての館で目標を上回っている。
収蔵品の本格修理は、125件実施し、19年度を23件下回ったが、文化財の応急的な修理も併せて行い、装こう師連盟など外部有識者の協力の下、収蔵品の保全を図っている。20年度は長期的な修理計画を東京国立博物館で策定するなど効率的な修理を行うよう努めている。

評定　Ａ

コメント

収蔵品の修理のために状況調査や順位付け、修理方法の検討等を行っているのは評価できる。
特に、東博は、長期的な修理計画を基に毎年度修理を実施していると聞いており、各館においても、長期展望下での本格修理と緊急修理、展覧会出品に伴う修理などのバランスを踏まえ、計画的に進めていって欲しい。
科学的な調査は一般の者の興味をそそるので、広報について積極的な対応を期待する。

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

評　定
A

評価のポイント

　総体的にみて、文化財を利用した歴史・伝統文化の国内外への発信は進んでいるものと認められる。
　展示方法は以前と比べ改善され、非常に観覧・鑑賞しやすくなり、解説も多くの人聞いている。平常展の展示は特に物語性において魅力が増し、特別展については質・量とも優れたものが多い。独法経営の重要指標である収益は、展示関連の努力の結果と考えられる。
　総入場者数が昨年度比で約12%増となるなど入場者数の多さは、多くの市民の支持をそれだけ得ることができたことを現す指標と考えられる。海外展の実施及びその入場者数から考えられる反響も評価すべきものがある。
　一方で、観覧者の著しい増加により待ち時間や会場混雑が避けられない。混雑対策のために各館が努力しているのは分かるが，より一層の努力が求められる。また、目標人数に達しなかった展覧会についても、「未来をひらく福澤諭吉」展などは企画に工夫がなされ質的に見応えがあると判断される。
　展示については、博物館からの「発信」だけでなく観覧者の「反応」も評価のために重要な情報であり、今後充実していくべきである。
　学習機会の提供については、歴史・伝統文化の理解促進のために各館とも工夫をし、様々な活動を行っているものと認められる。奈良博の「世界遺産学習」（小５年生対象）や九博の「なりきり学芸員体験」（小・中学生対象）など、次世代に向けての試みは評価できる。
　施設のバリアフリー化については、実際の利用者の評価等を踏まえて進めていくことが重要である。

中期計画	主な計画上の評価指標	主な実績及び自己評価	評価委員会による評価 評価基準　SABCF
（１）展示の充実 　展示については、常に点検・評価を行い国民のニーズ、学術的動向等を踏まえた質の高いものを実施するとともに、展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、国際文化交流に配慮するなど魅力あるものとなるよう努力する。 　また、見やすさ分か	**１．展示の充実** ○国民のニーズや学術的動向を踏まえた質の高いものとすること。 ○観覧者の理解が深まるよう展示・解説を工夫すること。 （平常展） ○平常展を魅力あるものとし、再来館者を増加させること。 ○作品のキャプションについては、すべてに外国語訳を付すこと。	**主な実績** **20年度国立博物館入場者数合計399万2,715人　※19年度355万7,664人（約43万５千人、12.2%増）** **①平常展（入場者数90万8,912人）　※19年度97万1,995人（約6万3千人、6.5%減）** ・特集陳列「六波蜜寺の仏像」、「自在」などを実施（東博） ・修理完成記念特別公開展示「山形・熊野神社の神像」を実施（京博） ・注目の逸品コーナーを本館に加え、西新館へも設置（奈良博） ・中国語、韓国語の歴史背景パネルの設置（九博） **②特別展（入場者数308万3,803人）※19年度258万5,669人（約49万8千人、19.3%増）** **●海外展** ・「聖なる山の寺宝　醍醐寺・日本密教の僧院」（ドイツ国立芸術展覧会ホール）（5万9,998人）（東博・奈良博） ・「サムライ－日本　武家の文化」展（ロシア・クレムリン博物館）（10万2,000人）（東博） **③展覧会広報** ・ＪＲ上野駅公園口へ案内看板の設置（東博） ・「国宝法隆寺金堂」展における法隆寺の入場券と特別展の入場券の共通割引券を販売（奈良博）	**評定　S** コメント 　入場者数は、ミュージアムでは重要な評価指標であり、より詳細な分析が望まれる。 　一部にＢ評価があったが、企画自体に工夫がなされ、市民の目からみて、博物館に新たな息吹を吹き込んだような企画が多かったと思う。それが、全体的に入場者数が躍進し、入館者数に係る指標基準の設定が高いにも関わらず基準値を超えた展覧会が多かったことにも繋がっている。

りやすさに配慮した展示及び解説や音声ガイド等の導入を行うことにより、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化についての理解を深めるものとなるよう工夫する。

① 平常展は、展観事業の中核と位置付け、を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解の促進に寄与する展示を実施する。また、特集陳列の充実を図るなど再来館者の増加が期待できる魅力ある展示にも努め、一層の入場者の確保を図る。また、展示に関する外国語説明を一層充実させることに努め、作品キャプションについては全てに外国語訳を付すとともに、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を80%以上設置する。

② 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の

○海外からの来館者向けに、展示テーマごとに外国語の解説パネル等を80%以上設置すること。

（特別展）
○我が国の博物館の中心的拠点にふさわしい質の高い展示とすること。
○特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとすること。
・東京国立博物館
３～４回
・京都国立博物館
・奈良国立博物館
２～３回
・九州国立博物館
２～３回
○個々の展覧会ごとに目標入館者数を定め、それを達成すること。
○黒田記念館の所蔵作品を東京国立博物館でも展示公開するなど公開機会を拡大すること。

・外国語のガイドマップ（中国語）、マップ（英・中・韓）の作成（九博）

④黒田記念館作品の公開機会拡大

・特集陳列「黒田清輝の留学時代」を東文研、東京藝術大学と共同で開催（東博）

■展覧会の入場者数、陳列件数等

	総入場者数	平常展				特別展・共催展	
		入場者数	陳列件数	陳列替	特集陳列	入場者数	開催回数
全体	3,992,715人	908,912人	12,004件	756回	106件	3,083,803人	18回
東京	2,171,942人	412,675人	7,172件	319回	79件	1,759,267人	7回
京都	416,001人	141,965人	1,081件	39回	4件	274,036人	3回
奈良	647,854人	112,849人	605件	12回	6件	535,005人	4回
九州	756,918人	241,423人	3,146件	386回	17件	515,495人	4回

【平常展外国語パネルの設置率】指標：中期計画

東京国立博物館

A	B	C	実績	定量的評価
80%以上	56%以上80%未満	56%未満	97%	A

京都国立博物館

A	B	C	実績	定量的評価
80%以上	56%以上80%未満	56%未満	100%	A

奈良国立博物館

A	B	C	実績	定量的評価
80%以上	56%以上80%未満	56%未満	77%	B

九州国立博物館

A	B	C	実績	定量的評価
80%以上	56%以上80%未満	56%未満	82%	A

【特別展等入館者数】指標：年度計画

東京国立博物館

A	B	C	実績	定量的評価
1,010,000人以上	707,000人以上 1,010,000人未満	707,000人未満	1,759,267人	A

平城遷都1300年記念　国宝 薬師寺展　（20.3.25～6.8）

海外展などは日本文化の理解を深める良い機会と考える。

博物館は訪問者に日本人の誇りを与える場所であり、日本文化を世界に発信する人を育てる場所でもある。

平常展の展示は良いものが多く充実していることから、展示形態や説明等を工夫し、広報に力を入れて欲しい。

外国語パネルの設置率は、可能な限り標準化を図って欲しい。また、九博の障害者への配慮を評価したい。

開催回数は概ね以下のとおりとする。
（東京国立博物館）
年３～４回程度
（京都国立博物館）
年２～３回程度
（奈良国立博物館）
年２～３回程度
（九州国立博物館）
年２～３回程度

③　個々の展覧会において、広報に積極的に取り組む。また、展覧会の入館者数については、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。

④　黒田記念館については、東京国立博物館に所属を移し、所蔵作品を東京国立博物館でも展示するなど公開機会を拡大する。

400,000人以上	280,000人以上 400,000人未満	280,000人未満	794,909人	A

日仏交流150周年記念　オルセー美術館コレクション特別展「フランスが夢見た日本 ― 陶器に写した北斎、広重」(20.7.1～8.3)

50,000人以上	35,000人以上 50,000人未満	35,000人未満	58,342人	A

創刊記念『國華』120周年・朝日新聞130周年 特別展「対決－巨匠たちの日本美術」（20.7.8～8.17）

120,000人以上	84,000人以上 120,000人未満	84,000人未満	326,784人	A

特別展「スリランカ－輝く島の美に出会う－」（20.9.17～11.30）

100,000人以上	70,000人以上 100,000人未満	70,000人未満	80,865人	B

尾形光琳生誕350周年記念「大琳派展－継承と変奏－」（20.10.7～11.16）

140,000人以上	98,000人以上 140,000人未満	98,000人未満	308,213人	A

慶應義塾創立150年記念「未来をひらく福澤諭吉」展　（21.1.10～3.8）

100,000人以上	70,000人以上 100,000人未満	70,000人未満	73,128人	B

開山無相大師650年遠諱記念 特別展「妙心寺」　（21.1.20～3.1）

100,000人以上	70,000人以上 100,000人未満	70,000人未満	151,833人	A

京都国立博物館

A	B	C	実績	定量的評価
110,000人以上	77,000人以上 110,000人未満	77,000人未満	274,036人	A

没後120年記念　絵画の冒険者　暁斎 kyosai －近代へ架ける橋－（20.4.8 ～ 5.11）

30,000人以上	21,000人以上 30,000人未満	21,000人未満	76,686人	A

japan 蒔絵－宮殿を飾る 東洋の燦めき－　（20.10.18 ～ 12.7）

50,000人以上	35,000人以上 50,000人未満	35,000人未満	67,050人	A

御即位二十年記念 京都御所ゆかりの至宝　－甦る宮廷文化の美－　（21.1.10 ～ 2.22）

30,000人以上	21,000人以上 30,000人未満	21,000人未満	116,363人	A

奈良国立博物館

A	B	C	実績	定量的評価
280,000人以上	196,000人以上 280,000人未満	196,000人未満	535,005人	A
天馬 －シルクロードを翔ける夢の馬－（20.4.5～6.1）				
30,000人以上	21,000人以上 30,000人未満	21,000人未満	31,910人	A
国宝　法隆寺金堂展　（20.6.14～7.21）				
40,000人以上	28,000人以上 40,000人未満	28,000人未満	132,919人	A
西国三十三所-観音霊場の祈りと美　(20.8.1～9.28)				
30,000人以上	21,000人以上 30,000人未満	21,000人未満	106,411人	A
第60回正倉院展（20.10.25～11.10）				
180,000人以上	126,000人以上 180,000人未満	126,000人未満	263,765人	A

九州国立博物館

A	B	C	実績	定量的評価
330,000人以上	231,000人以上 330,000人未満	231,000人未満	515,495人	A
「国宝 大絵巻展 京都国立博物館所蔵・寄託の名宝一挙大公開」　（20.3.22～6.1）				
100,000人以上	70,000人以上 100,000人未満	70,000人未満	131,197人	A
「島津の国宝と篤姫の時代- 東京大学史料編纂所20万点の世界 -」　（20.7.12～8.24）				
50,000人以上	35,000人以上 50,000人未満	35,000人未満	152,420人	A
「国宝　天神さま－菅原道真の時代と天満宮の至宝－」（20.9.23～11.30）				
100,000人以上	70,000人以上 100,000人未満	70,000人未満	174,698人	A
「工芸のいま　伝統と創造－九州・沖縄の作家たち－」（21.1.1～3.16）				
80,000人以上	56,000人以上 80,000人未満	56,000人未満	72,637人	B

自己評価

定量的な目標として掲げている特別展入場者数、平常展の陳列総件数、陳列替え回数については、いずれの

<table>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>館も目標を達成した。外国語パネルの設置については、19年度未達成であった九州国立博物館で目標（80%以上）を達成するとともに、奈良国立博物館においても昨年度の56%から77%へと目標を達成すべく努力している。また、全ての作品のキャプションに外国語を付している。
20年度における国立博物館への入場者数は、全体としては43万５千人、12.2%の増加となっている。しかし、九州国立博物館が開館後4年目に入り入館者数が安定してきたこと、京都国立博物館の平常展示館が建替え工事にともない12月に閉館になったこともあり両館の総入館者数は減少している。
平常展の入場者は、20年度は約97万２千人から90万９千人と６万３千人、6.5%の減少となっている。東京国立博物館のみ33万４千人（19年度）から41万３千人と23.7%、７万９千人も増加しているが、これは特集陳列「六波羅密寺」やオークションで話題になった「大日如来像」をきっかけとした来館者の増加が考えられる。一方、他の３館では軒並み減少している。機構では、平常展示の活性化を目標の一つとして掲げているので、今以上の努力が必要である。次年度は京博のみならず東博においても東洋館の改修工事があるため、さらなる工夫をして、平常展の活性化に努めたい。
特別展入場者数は19.3%増と大幅に増加している。しかし、目標入場者数は東京国立博物館「スリランカ展」、「福沢諭吉展」、九州国立博物館「工芸のいま　伝統と創造」展で目標を達成することができなかった。一方で、薬師寺展（東博）のように目標を大幅に上回る展覧会が続出した。混雑対策等にも影響があるので、目標の設定という点で事前の設定を再検討する必要もあると考える。展覧会の内容としては、「河鍋暁斎」（京博）、「島津の国宝と篤姫の時代」（九博）などの評判が高かった。
海外展はメディアに取り上げられるなど評価も高く、特にモスクワで行われた「サムライ」展はクレムリン博物館で行われた展覧会の総入場者数としては過去２番目、１日あたりの入場者数では過去最高を記録するなど、日本文化の発信に貢献できたと考えている。
黒田記念館所蔵作品の公開については、東京国立博物館、東京文化財研究所で共同して、幅広く機会の拡大を図ることができた。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>（２）歴史・伝統文化の理解促進
歴史・伝統文化の理解促進を図るとともに、その中心的拠点としてふさわしい教育普及事業に重点化する。

①　学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。

②－１　教育普及活動の充実に寄与する</td>
<td>２．歴史・伝統文化の理解促進
○講演会、ギャラリートーク等の参加者数の各館の年間平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るようにすること。
○ボランティア活動を支援すること。
○企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図ること。</td>
<td>主な実績
①学習機会の提供
・特集陳列「ワヤン―インドネシアの影絵人形」に関連して日本ワヤン協会によるワヤン公演「クレスノ使者に立つ」を開催（東博）
・奈良市教育委員会と協力して奈良市内の小学５年生を対象とした世界遺産学習を継続して実施（奈良博）
・博物館の学芸員の仕事の一部を体験できるワークショップ「なりきり学芸員体験」を実施（九博）
・学校への貸出しキット「きゅうぱっく」が第２回キッズデザイン賞（主催：キッズデザイン協議会、後援：経済産業省）でコミュニケーションデザイン部門賞を受賞（九博）

②-1ボランティア活動の支援
・ボランティア向け研修の実施、自己学習の奨励（4館）
・ボランティアの協力による児童・生徒の就業体験の実施（東博）
・調査・研究支援ボランティアの協力による社寺調査の実施（京博）
・ボランティアからの質問に学芸員が答える質問用紙を用意（奈良博）
・ボランティアによるＩＰＭ（総合的病害虫管理）活動のサポート（九博）

■ボランティア人数
<table>
<tr><th>合計</th><th>東博</th><th>京博</th><th>奈良博</th><th>九博</th></tr>
<tr><td>684 人</td><td>164 人</td><td>30 人</td><td>102 人</td><td>388 人</td></tr>
</table>
②-2博物館支援者の増加
・日本大学芸術学部との共催で、所沢市教育委員会後援、埼玉県民芸術文化祭協賛事業として、埼玉県所沢市に位置する柳瀬荘を会場に、「柳瀬荘アート・教育プロジェクト」を開催（東博）</td>
<td>評定　A
コメント
各館ともそれぞれの環境に合わせ、独自の手法を開発・実施するなど工夫のある活動となっている。特に、京博の「土曜講座」や奈良博の解説ボランティアが定着し、九博の学校教員を対象とした内覧会が実施されたことなどは評価される。
手のかかる活動だとは思うが、今後とも様々な層に向けた学習機会を提供して欲しい。
また、児童への働きかけなどについては、次世代を育て、今後の平常展への観覧者の増加に繋がるものであり、４館が共通して実施すれば一層効果のあるものが生まれると思うので、今後は４館が連携しつつ、切磋琢磨することが必要ではないか。
京博の講演会等の参加者数が少なかったのは、施設の建替え</td>
</tr>
</table>

ようボランティア活動を支援し、ボランティアの資質向上に努める。

②－２　企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

・初めての試みとして庭園の青空のもとで、自転車エコライブを実施（京博）
・奈良名観光イベント「ライトアッププロムナード・なら　2008」、「なら燈花会」に協力（奈良博）
・「九州国立博物館を愛する会」と連携し、館内ボランティアや周辺自治体の協力も得て、地域のこどもたちを対象にした「九博こどもフェスタ」を実施（九博）

【講演会、ギャラリートークの参加者数】指標：前中期目標期間の年間平均実績（中期計画）

東京国立博物館（10,915人）

A	B	C	実績	定量的評価
10,915人以上	7,641人以上 10,915人未満	7,641人未満	12,332人	A

京都国立博物館（5,181人）

A	B	C	実績	定量的評価
5,181人以上	3,627人以上 5,181人未満	3,627人未満	3,413人	C

奈良国立博物館（3,542人）

A	B	C	実績	定量的評価
3,542人以上	2,479人以上 3,542人未満	2,479人未満	3,655人	A

九州国立博物館（5,255人）

A	B	C	実績	定量的評価
5,255人以上	3,679人以上 5,255人未満	3,679人未満	5,507人	A

自己評価

各館共通に定量的な目標として掲げた講演会等参加者数は、平常展示館を建替えのため12月から閉館している京都国立博物館を除き、目標を上回ることができた。

各館ともこれまでの事業を継続的に実施し、児童・生徒のみならず一般も対象とした事業を実施し、学習の機会の提供を図ってきたが、19年度から実施している九州国立博物館学校への貸出しキット「きゅうぱっく」がキッズデザイン賞を受賞できたことは、博物館の新たな取組みとして特筆できる。

ボランティアについては、博物館において欠かせない存在であるので、研修や自己学習の機会を提供するとともに、ボランティアにとっても充実した活動となるよう協力して事業を実施している。

博物館支援者の増加に関しては、賛助会や寄附金などは経済情勢に伴い厳しくなってはいるが、様々な取組みを共同して開催するなどして、積極的な支援者の増加方策を実施できている。

という特殊要因があったものと認められる。

ボランティアについては、館毎の人数に大きな差があるが、人数の少ない館についてはもっと積極的に取り組んで欲しい。

また、ボランティアの基礎訓練（顧客対応が重要）についてもしっかりとやって欲しい。

法人全体で取り組んでいる大学との連携であるキャンパスメンバーズ制度はすっかり定着し、公立博物館・美術館にも刺激を与え、「連携プログラム」のナショナルセンターとしての役割を果たしている。

（３）快適な観覧環境	**３．快適な観覧環境の提**	**主な実績**	**評定　B**

の提供 国民に親しまれる施設を目指し、入館者の立場に立った観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。 ①　施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。 ②　一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から入館者のニーズを把握し、入場料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。 ③　ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。	**供** ○施設のバリアフリー化を進めること。 ○利用者のニーズを踏まえ、入場料金や開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。 ○利用者の意見を踏まえ、ミュージアムショップやレストラン等を改善すること。	・特別展における混雑対策の実施 ・オストメイト対応トイレの設置（東博・九博） ・マナー講習会の実施（京博） ・男子用トイレに小児用小便器と車椅子用手すりを３カ所設置（奈良博） ・地下回廊に携帯電話接続のため、携帯電話各社によるアンテナを設置（奈良博） ・九州大学の森田研究室との共同研究により、館内における不統一だったサインを整備中（九博） **自己評価** 施設のバリアフリー化は年々改善されてきている。混雑対策や開館時間の柔軟な対応という意味では、奈良国立博物館で実施しているオータム割引は新たな試みである。だが、東京を中心に20年度も混雑した展覧会があったため、今後もより快適な観覧環境となるよう努力していく必要がある。ミュージアムショップやレストランについては、アンケートを実施したり、独自企画商品を開発するなど改善を図っている。	コメント 各館とも改善可能な事項はこまめに対応している。特別展の混雑対策も改善されており、開催時間の延長は高く評価したい。 入館者のレベルも向上し、長蛇の列も海外の有名な博物館・美術館同様に当たり前と理解する層が増えていると思われる。 一方で入場者の増大もあり、混雑対策も限界に来つつある。炎天下の行列は大変であり、もう少し夜間展示を増やして観客の分散化を図ったり、日陰を作るなど工夫して欲しい。 また、来館者アンケートや満足度・意識調査だけでなく、外部の専門家を含む「第三者プロジェクトチーム」を結成するなど、新しい視点から改善策を講ずる時期に来ているのものと思われる。 寄託品で所有者が写真撮影を望まない展示物は、撮影不能となっているが、もう少し丁寧な説明ができないか検討して欲しい。 建物の制約はあると思うが、障害のある人や高齢者にやさしい施設を目指して取り組んでおり、地道な活動であるが、アジア諸国の範となって取り組んで欲しい。

３　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

評　定	評価のポイント
A	我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館全体の活動に寄与しているものと認められる。 調査研究の成果については、我が国をリードする出版物が毎年刊行され、ＷＥＢやシンポジウムの開催など複合的な成果発信が行われている。 研究者の海外からの招聘、海外への派遣など国際的な学術交流は積極的に行われているものと認められるが、日本のナショナルセンターとして海外発信がもっとあってもよい。 公私立の博物館・美術館への助言件数は前年度に比して52件増となっており、斬新な研修会の実施など総じてナショナルセンターとしての信頼を高めていると思われる。

中期計画	主な計画上の評価指標	主な実績及び自己評価	評価委員会による評価 評価基準　SABCF
（１）収蔵品等に関する調査研究の成果を研究紀要、学術雑誌、展覧会に関わる刊行物、学会及びインターネット等を活用して広く発信する。また、各種セミナー、シンポジウムを開催する。	**１．調査研究成果の発信** ○刊行物の発行、学会、インターネット、各種セミナー、シンポジウムを通じて研究成果を広く公表すること。	**主な実績** 出版物等を通した情報発信 ・『MUSEUM』（東博）、『学叢』（京博）、『紀要』（奈良博）、『東風西声』（九博）や展覧会図録等を通して研究成果を発信 ・『東京国立博物館日本美術50選』の中国語版・韓国語版）2件を刊行（東博） シンポジウム等の開催 ・国際シンポジウム「輸出漆器が語る東西交流の400年」を開催（京博） ・正倉院学術シンポジウム「正倉院展60回　その歴史と未来」（奈良博） ・国際シンポジウム「百済、倭そして大宰府」の開催（九博） **自己評価** 各種出版物の多言語化や研究紀要の発行、ホームページの公開などを通して、博物館における研究成果の発信を積極的に行っていると考える。また、シンポジウムも各種実施しており、一般への還元や他国との交流などを推進している。	**評定　A** コメント 調査研究の成果を着実に発信しているものと評価できる。 発信対象者を明確にし、より分かり易くなることを期待する。
（２）海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムを開催するなど博物館活動に対する示唆が得られるよう努める。	**２．海外研究者の招聘** ○海外の優れた研究者を招聘し博物館活動に対する示唆を得ること。	**主な実績** ・ヨーロッパ・アジアを初めてとして世界各国から51人の研究者を招聘し学術交流を図る ・ロシア科学アカデミー東洋写本研究所　イリナ・ポポヴァ所長を招聘（京博） ・中国・隋唐時代の主要文物を多数所蔵する西安碑林博物館から館長を、また陝西歴史博物館から仏教造像を専門とする研究員を招聘（奈良博） **自己評価** 海外からの研究者招聘は51人（19年度64人）、海外への派遣は84人（19年度93人）と積極的に国際交流を進め、博物館に係る知見を広めることができた。	**評定　A** コメント 海外の研究者との交流を着実に進めていることを評価する。 今後は、研究者が対象者限定として受け入れられたのかなど、交流の「背景」についてもわかり易く説明して欲しい。また、全体に「短期」なものが目立つが、評価

<table>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>指標として「人数」だけでなく、「滞在延日数」を使うことも検討して欲しい。</td></tr>
<tr><td>（３）博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。</td><td>３．博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムの検討、実施
○博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施すること。</td><td>主な実績
・特定非営利活動法人文化財保存支援機構と共催で「文化財保存修復専門家養成実践セミナー」を開催（東博）
・修理技術者に対する研修会の実施（京博・奈良博）
・九州国立博物館文化財保存国際交流セミナーの開催（九博）
・市民協同型IPM活動に関する研究会の開催（九博）
・文化財保存修復研修、漆工品の取り扱い講座等による博物館の文化財担当者への研修の実施（九博）

自己評価
今年度は東京国立博物館や九州国立博物館で文化財の修理専門家やそれを目指す学生を対象としたセミナーを開催するなど、我が国の文化財、博物館行政を担う専門家の育成を図ることができた。また、京都国立博物館、奈良国立博物館のような保存修理所を所管している博物館においては、その指導や研修をすることができた。</td><td>評定　A
コメント
各館とも特質を生かし、順調に展開している。我が国の文化財・博物館行政を担う専門家の育成は重要であり、国立博物館ならではの次世代育成プランであり、一層の充実を期待する。</td></tr>
<tr><td>（４）収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を推進する。収蔵品の貸与については、貸与に関する情報を公開するなど具体的措置を講ずることとする。</td><td>４．収蔵品貸与の推進
○公私立博物館等に対する支援のため、収蔵品の貸与に関する情報を公開すること。</td><td>主な実績
・考古相互貸借事業で長野県立歴史館、福島県埋蔵文化財センター白河館と文化財を貸借（東博）
・韓国釜山市博物館特別展「韓国と日本」展に文化財を貸与（九博）

■文化財の貸与件数
<table><tr><th></th><th>合計</th><th>東京</th><th>京都</th><th>奈良</th><th>九州</th></tr><tr><td>件数</td><td>1,585 件</td><td>1,125 件</td><td>246 件</td><td>163 件</td><td>51 件</td></tr><tr><td>館数</td><td>257 館</td><td>135 館</td><td>45 館</td><td>47 館</td><td>30 館</td></tr></table>自己評価
国内外の博物館等からの要請に積極的に対応し、文化財を貸与しているが、貸与件数は19年度と比較して152件減の1,585件であり、貸与先館数も22館減の257館となっている。東京と九州で大幅減となっているのに対して、京都、奈良は増加している。
なお、収蔵品の貸与に関する情報については、公開する体制はまだ整っていない。収蔵品の管理・展示とも大きく関係するので全体として取り組んでいきたい。</td><td>評定　A
コメント
昨年度より貸与件数等は減少しているが、業務量からみると貸与の推進が図られているものと認められる。今後は貸与に関する情報公開を一層進めて欲しい。</td></tr>
<tr><td>（５）公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努める。なお、援助・助言の実施については今期５年間の実績が前中期目標期間の実績を上回るよう努める。</td><td>５．公私立博物館・美術館等に対する援助・助言
○公私立博物館等に対する援助・助言の実績が前中期目標期間の実績を上回ること。</td><td>主な実績
・「国宝　鑑真和上展」（静岡県立美術館）への学術協力、出品作品選定等の援助・助言の実施（奈良博）
・釜山博物館開館30周年記念国際交流展に伴う出品資料の輸送・開梱・展示に関する指導（九博）

【公私立博物館・美術館等に対する援助・助言件数】指標：前中期目標期間の年間平均実績（中期計画）

東京国立博物館　（40件）
<table><tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>実績</th><th>定量的評価</th></tr><tr><td>40件以上</td><td>28件以上40件未満</td><td>28件未満</td><td>134件</td><td>A</td></tr></table>京都国立博物館　（12件）</td><td>評定　A
コメント
外部への協力・援助・助言は全体的に評価できる。展覧会・審議会・講演のケースが多いが、助言の成果も報告して欲しい。</td></tr>
</table>

		A	B	C	実績	定量的評価	
		12件以上	8件以上12件未満	8件未満	114件	A	
		奈良国立博物館　（5件）					
		A	B	C	実績	定量的評価	
		5件以上	3件以上5件未満	3件未満	5件	A	
		九州国立博物館（12件）					
		A	B	C	実績	定量的評価	
		12件以上	8件以上12件未満	8件未満	47件	A	
		自己評価 20年度は4館計300件と19年度に比べて52件増と増加することができた。文化財の保存、展示などの分野での地方の博物館等から国立博物館の援助・助言に期待される役割は大きいので、今後も積極的に援助・助言に取り組む。なお、奈良国立博物館は件数の数え方が、他館と異なっていたので、21年度から統一を図る。					

4　文化財に関する調査及び研究の推進

評　定
A

評価のポイント

　中期計画に示された課題を達成するため、文化財に関する基礎的・体系的な調査研究が進められており高く評価する。調査研究の内容は文化財そのものだけなく、修復・保存や公衆への観覧のための調査など幅広く網羅されている。また、当面の課題のみならず将来に向けての調査研究が行われ、国際的にも高い評価を得ている点は評価できる。
　平城宮跡発掘調査に代表される奈文研の地道な活動などを評価する。高精密デジタル画像の応用に関する調査研究は、文化財を新たな視点から研究する上でも意義深い。解析結果によって新たな事実が公開されると、国民の文化財に対する関心度も一層高まるものと思われる。
　なお、調査研究は一般に国内外の学会誌投稿論文数や学会の招待講演数等で評価されるが、文化財の分野でもこうした評価が妥当かどうかは議論の余地がある。資料性の点ではこれらの調査・研究は高く評価される。

中期計画	主な計画上の評価指標	主な実績及び自己評価	評価委員会による評価 評価基準　SABCF
（１）文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進 　文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究として、国内外の機関との共同研究や研究交流も含めて以下の課題に取り組むことにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。 ①　文化財保護法の一部改正に伴い新たに保護対象となった文化的景観、民俗技術に関する基礎的・体系的な調査・研究を実施し、今後の指定をはじめとする保護施策に	**１．調査研究の目的、内容の適切性** ○中期計画に示された課題や文化財保護政策のニーズに沿って、研究の目的、テーマを適切に設定すること。	**主な実績** ・中期計画に示した課題を達成するために、毎年度ごとに研究目的・テーマを設定 （1）文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進 目的：文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究として、国内外の機関との共同研究や研究交流も含めて以下の課題に取り組むことにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。 主なテーマ： ・新たな保護対象の調査研究（文化的景観・民俗技術） ・新しい美術資料学の確立、近現代美術研究、技法材料の広領域研究 ・無形文化遺産研究 ・歴史資料・書籍資料等の調査 ・文化財建造物の保存・修復・活用の研究 ・平城京跡・飛鳥藤原京跡の発掘調査 ・出土遺物の分析とアジアの古代都城遺跡の調査研究 ・遺跡の保存、整備、活用の技術開発（平城宮跡、藤原宮跡の整備復原） （2）文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進 目的：文化財の調査手法に関する以下の研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。 主なテーマ： ・高精細デジタル画像の応用 ・文化財の非破壊調査法 ・遺跡調査の新たな指標・属性分析法の研究 ・遺跡の測量・探査技術の有効利用法の確立 ・年輪年代測定法による研究 ・動植物遺存体による環境考古学研究	**評定　A** コメント 　基礎的・体系的な調査研究を幅広く進めていることを評価する。 　年輪年代測定法の調査研究は高く評価できる。 　また、遺跡の保存や活用・展示における長期安定性の確保は、今後最も大きな課題と思われる。保存上の大きな要因となる水分状態の調査手法の開発や土壌安定化の研究を評価する。 　今後、更にきめ細かな調査と対策を行うとともに、他機関との相乗効果を期待する。

関する資料と指針を提供する。

② 我が国の有形文化財及びそれに係わる諸外国の文化財に関し、以下の課題に重点的に取り組む。
ⅰ 日本を含む東アジア地域における美術の価値形成の多様性の解明
ⅱ 我が国における近現代美術の歴史の解明
ⅲ 美術や文化財に対する理解を深めるための美術の創作のプロセスの解明
ⅳ 古都所在寺社所蔵の歴史資料・書跡資料等に関する原本調査を通じた日本の歴史、文化の研究
ⅴ 歴史的建造物の保存・修復・活用に関し重点物件に係る調査・研究を通じた基礎データの収集整理・公開

③ 我が国の古典芸能及び伝統的工芸技術等の無形文化財の伝承実態を把握するとともに、その伝承・公開の基礎となる技法・技術を明らかにする。

④ 我が国の風俗習慣、民俗芸能、民俗技術など無形民俗文化財の現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等を明

（3）科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する先端的調査研究等の推進

目的	最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査及び研究として以下の課題に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。
主なテーマ	・文化財の生物劣化対策 ・文化財の保存環境研究 ・周辺環境が文化財に及ぼす影響 ・考古資料の材質、構造の調査と保存、修復の研究 ・伝統的修復材料と合成樹脂の研究 ・在外古美術品保存修復協力事業 ・近代の文化遺産の保存修復に関する研究

（4）国・地方公共団体の要請に応じた文化財の保存措置等のための調査・研究の実施

目的	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。
主なテーマ	●高松塚古墳壁画 ・生物対策と保存修理 ・壁画の保存修復および石材の保存修理 ●キトラ古墳壁画 ・生物対策と保存修理 ・壁画の取り外し ・手法の開発（ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞﾜｲﾔｰｿｰ）

（5）有形文化財に係る調査研究

目的	①収集・保管のための調査研究 収集・保管に関わる研究を実施し、有形文化財にかかる保存に寄与する。 ②公衆への観覧を図るための研究 公衆への観覧を図るための調査研究を実施し、有形文化財の活用を図る。
主なテーマ	①収集・保管のための調査研究 ・特別調査「書跡」（東博） ・近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究（京博） ・仏教美術の光学的調査研究（奈良博） ・博物館における文化財保存修復に関する研究（九博） ②公衆への観覧を図るための研究 ・特別展、共催展等の事前調査（４館） ・研究の成果をもとに凸版印刷と協同でミュージアムシアターを設置（東博） ・博物館美術教育に関する調査研究（東博） ・高齢者・障害者・外国人の利用者に対しての、展示の内容・方法、施設整備、管理運営面からの改善、改修方策についての調査研究（九博）

自己評価
中期目標・中期計画を達成するための適切な計画を立てることができたと考える。

２．調査研究の実施状況
○それぞれの調査研究を計画に沿って適切

（１）文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進
主な実績
・上記テーマ設定に従い、以下の調査・研究を実施

評定　S
コメント
科学・技術（分析、デジタル処

らかにするとともに、各地の保存団体や保護行政担当者等とこれら研究成果及び問題意識の共有化を図り、「無形民俗文化財の映像記録作成ガイドライン（仮称）」等の指針を作成し公表する。

⑤　平城京、藤原京、飛鳥地域を中心とした我が国及び関連する中国・韓国等諸外国の遺跡の発掘調査並びに共同研究を行うとともに、出土品・遺構の調査研究及び庭園等に関する基礎的な調査・研究を実施し、それにより古代日本の都城の構造及び建造物の様式並びに瓦・陶磁器・金属器等の手工業生産技術の実態やその変遷過程、庭園等の変遷過程、飛鳥地域の歴史等の解明に寄与する。

⑥　遺跡の保存・整備・活用に関する一体的な調査・研究、技術開発の推進及び整備事例のデータベース化等により、個々の遺跡の現況に応じた適切な保存修理・整備に資する。また、これに関連して、平城宮跡・藤原宮跡の整備・公開・活用に関する調査・研究を行い、文化庁が行う平城宮跡及び飛鳥・藤原宮跡の整

に実施すること。また、我が国の文化財保護政策上、緊急に保存修復の措置等が必要となった場合において、必要な実践的調査研究を迅速かつ適切に実施すること。

調査研究の名称			施設名
①	ア	**文化的景観に関する調査研究**	奈良文化財研究所
		四万十川流域において実施した文化的景観に関する調査研究によって得た内容の整理・考察や、開催した研究集会等を通じて、文化的景観の在り方や調査研究法、保護施策等に関する検討を行った。また、文化的景観に関連する国内外の情報の収集を行い、その成果を資料集としてまとめ、関係者、関係機関等に配布した。	
	イ	**民俗技術に関する調査・資料収集　無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究　（Ｉ４（１）④と一体で実施）**	東京文化財研究所
		無形民俗文化財の伝承実態調査として民俗芸能・民俗行事の実地調査を実施し、公開の実態調査としては、各種芸能大会の調査を実施した。無形民俗文化財研究協議会では、民俗技術をテーマに取り上げ、関係者と協議することができた。無形文化遺産の記録情報データベースについては、すでに 3000 件以上のデータを収集・整理済み、現在も補足調査が進行中で、着実に実現に向かっている。	
②	ア	**東アジアの美術に関する資料学的研究**	東京文化財研究所
		（1）情報資料の収集のための調査：大村西崖・黒田清輝に関する国内外での調査。 （2）美術史研究のためのコンテンツの形成：『日本絵画史年紀資料集成（15 世紀）』のデータ入力。『日本美術年鑑』所収の古美術文献データの校正作業。 （3）研究会の開催：「満谷国四郎デッサンに関する研究会」「平安時代の彫刻史と建築史の学際的研究会」の開催。オープンレクチャーの開催。	
	イ	**近現代美術に関する総合的研究**	東京文化財研究所
		未公刊資料の調査研究として、黒田清輝関連資料、笹木繁男主宰現代美術資料センター寄贈資料の整理・調査を進め、既刊の『日本美術年鑑』所載データをウェブ上に公開するための校正を行った。資料にもとづく研究協議、成果公開としては、『昭和期美術展覧会の研究 戦前篇』をまとめ、また、研究会を通じて近現代美術に関する研究協議を行った。	
	ウ	**美術の技法・材料に関する広領域的研究**	東京文化財研究所
		本研究は美術作品が基盤としている材料・技法・制作の過程等を文献史料あるいは作品に対しての科学的手法による分析を援用しながら解明することを目的とする。本年度は天平時代の脱活乾漆像、近世の絵巻などについて実地調査するとともに、諸々の関連資料の調査を行い、情報収集に努めた。また、奈良時代史料にあらわれた彩色語彙の収集につとめ、データベースをホームページ上で公開し、逐次、その更新に努めた。	
	エ	**古都所在寺社の歴史資料等に関する調査研究**	奈良文化財研究所
		興福寺については、数年にわたり準備を進めてきた『興福寺典籍文書目録第四巻』を発刊した。東大寺についても、先年の調査で発見した東大寺大勧進文書集についての研究成果を、『南都仏教』に掲載した。これは重源以後の東大寺大勧進に関する基礎史料である。大宮家については、「大宮家文書データベース」のデータを追加し、成巻文書分すべてを公開した。また、当研究所所蔵の「関野貞日記」の釈文を公表した。	
	オ	**歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究**	奈良文化財研究所
		文化財建造物の保存修理に関する基礎データである所内保管資料の整理等の作業を行い、「建造物現状変更説明」については出版物として刊行・配布し、「ガラス乾板」については画像をデジタルデータ化し、一般公開を推進した。また、古代建築の諸構法に関する再検証作業を継続的に実施し、研究成果を研究集会等で公表した。このほか、昨年度実施した出雲大社境外社建築等の調査研究成果を報告書として刊行・配布した。	

理等）をうまく活用しつつあることを評価する。

文化財に関する基礎的・体系的な調査研究も大いに進められているものと認められる。特に東文研の『昭和期美術展覧会の研究 戦前篇』は、長期に亘る基礎研究調査が実ったものであり、近代美術史研究の「金字塔」と言える。

研究員が大規模展覧会や各種普及事業に対応する激務の中で研究活動を継続していることは敬意に価する。

研究の多様性こそ文化度の表れであると思うので、研究成果の社会化を進めることにより国民の理解を得るよう努力すべき。

運営費交付金の枠内における研究費の増額に加え、競争的資金の取得戦略を機構全体で立てて、着実に進めて欲しい。

備・復原事業に関して、専門的・技術的な協力・助言を行う。					・平成20年度京都府近代和風建築総合調査事業（受託）		
			③		**無形文化財の保存・活用に関する調査研究**	東京文化財研究所	
					文化財保護委員会が作成した音声資料、各地の博物館が所蔵する龍笛・能管のＸ線透過撮影、文化財保護法による工芸技術の保護の実態等について調査研究をおこない、無形文化遺産部所蔵音声資料の整理をおこなった。無形文化遺産分野での国際的研究交流では、韓国国立文化財研究所の無形文化遺産研究室と合意書を結び、研究員の相互派遣を実施した。		
			④		①－イ参照		
			⑤	ア	**平城宮跡第一次大極殿院地区南面回廊跡（第431次）の発掘調査**	奈良文化財研究所	
					平城宮第１次大極殿院南面築地回廊の発掘調査で、南面における最後の調査である。既往の調査成果を参考に発掘調査を進めたところ、回廊の基壇上で礎石の痕跡を確認し、基壇縁では雨落溝などを検出。大極殿院の広場では奈良時代前半に敷設された礫敷を検出し、それらが２度にわたり敷き直されていたことを再確認した。また、築地回廊基壇では掘込地業を確認し、回廊芯を掘り残していることも明らかとなった。		
					平城宮跡第一次大極殿院地区西面回廊跡（第432次）の発掘調査	奈良文化財研究所	
					平城宮第１次大極殿院西面築地回廊の発掘調査。既調査範囲に挟まれた未発掘地での調査で、築地回廊の基壇及び雨落溝などを検出。この調査に続いて実施した第436～438次と併せ、西面築地回廊の全容を明らかにした。		
					平城宮跡第一次大極殿院地区西面回廊跡（第436次）の発掘調査	奈良文化財研究所	
					西面築地回廊の東雨落溝、掘立柱塀、凝灰岩暗渠を確認した。これらの遺構の重複関係を詳細に検討した結果、西面築地回廊の変遷や改修の具体的な様相などを明らかにすることができた。		
					平城宮跡第一次大極殿院地区西面回廊跡（第437次）の発掘調査	奈良文化財研究所	
					第一次大極殿院西面回廊の基壇本体、基壇にともなう雨落溝、回廊基壇をこわして造営した掘立柱塀、回廊基壇を破壊した土坑などを検出した。回廊の規模や構造、西面基壇の変遷が明らかになった。		
					平城宮跡第一次大極殿院地区西面回廊跡（第438次）の発掘調査	奈良文化財研究所	
					(1) Ⅰ～Ⅲ期の遺構を確認し、各時期がそれぞれ東西対称に計画されていることが改めて確認された。 (2) 合計３面の礫敷き面を良好な状態で検出し、回廊内部の礫敷きの変遷を確認した。大極殿と後殿のみが建っていたⅠ期と、生活空間として利用されていたⅡ期とでは、礫の大きさが異なり、区画内の機能に合わせて舗装を変えている点は注目される。 (3) Ⅲ期の東西排水溝で凝灰岩の石組暗渠を良好な状態で検出した。		
					平城宮跡東方官衙地区（第440次）の発掘調査	奈良文化財研究所	
					木簡が出土する土坑の全容が明らかになり、土坑に前後する掘立柱建物などが確認された。土坑からは大量の土器片、瓦片のほか、金属器、木器、木簡、木屑などが出土した。		
					平城京右京三条一坊八坪（第448次）の発掘調査	奈良文化財研究所	
					右京三条一坊八坪の状況を明らかにすることができた。具体的には、奈良時代後半の遺構の検出と、近代以降の土地利用の変遷を把握することができた。		
					・平城京右京三条一坊八坪（第448次）の調査（受託）		
					藤原宮跡朝堂院地区の発掘調査	奈良文化財研究所	

大極殿院南門の前面にあたる朝堂院朝庭北端部の発掘調査を実施し、礫敷きの広場と排水施設など朝庭部の構造を明らかにするとともに、幡にともなうと考えられる遺構など朝庭で行われた儀式に関連する遺構を確認した。また、下層遺構の調査では、藤原宮造営時の運河や建物建設に関わる排水溝などを検出し、それらの変遷から、藤原宮の造営過程の解明につながる重要な手がかりを得た。

・「平成 20 年度　大和紀伊平野農業水利事業（二期）団体営飛鳥２工区（縄手線）改修工事」に伴う埋蔵文化財発掘調査（受託）

・特別史跡藤原宮跡（別所町南北水路）発掘調査（受託）

石神遺跡の発掘調査　奈良文化財研究所

19 年度の第 20 次調査で確認した遺跡中心部の東限施設の延長を検出し、７世紀中頃における石神遺跡の東限を確定した。東限の区画施設は掘立柱塀で、南北棟建物が併設され、区画に沿って外郭の通路がめぐる状況を明らかにした。また、東限施設は二度にわたる建て替えが行われていたことも判明した。７世紀後半になると、それまでの東限よりさらに東側に建物等が展開することを確認し、土地利用が大きく変化することを明らかにした。

甘樫丘東麓遺跡の発掘調査　奈良文化財研究所

７世紀代のものと推定される整地層、石敷、柱穴、土坑及び整地層を掘り込む幅 3～4ｍの溝などを検出した。整地層に埋め立てられた人頭大の礫群を確認したが、これは第 146 次調査で確認した石垣状遺構の一部と考えられる。また、中近世の墓と考えられる底部に炭を敷いた土壙１基を検出した。以上のように今回の調査では、遺跡の性格及び甘樫丘における土地利用の変遷を考えるうえで重要な資料を得ることができた。

イ　**平城京跡出土遺物・遺構の調査研究等**　奈良文化財研究所

本年度の発掘調査に伴う出土遺物・遺構の整理・分析研究、図面・写真の作成などの基礎作業を行い、平成 21 年度刊行の『奈良文化財研究所紀要 2009』の報告を準備し、発掘調査成果速報展を実施した。昨年度以前の調査に伴う出土遺物についての調査を継続して実施し、報告・展示も行った。『第一次大極殿復原に関する調査研究』基壇編、『同』屋根編、『近世瓦の研究』を刊行した。また、『地下の正倉院―長屋王家木簡の世界』を開催した。

・平城京跡　興福寺旧境内（第 450 次）の調査（受託）

・薬師寺（第 451 次）の調査（受託）

飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等　奈良文化財研究所

本年度の発掘調査により出土した木製品・金属製品・石製品・動植物遺存体、土器・土製品・瓦塼類、木簡などの整理、分析研究、及び発掘遺構の図面・写真資料の整理・作成、分析作業を年間を通じて実施し、成果の一部を公表した。前年度までの発掘調査成果を公開するための基礎的整理・分析・復原研究を行い、『飛鳥藤原京木簡二－藤原京木簡一－』等の公刊図書に取りまとめた。また、出土遺物の保存処理を継続的に実施した。

・「平成 20 年度　大和紀伊平野農業水利事業（二期）団体営飛鳥２工区（縄手線）改修工事」に伴う埋蔵文化財発掘調査（受託）

・特別史跡藤原宮跡（別所町南北水路）発掘調査（受託）

・国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区檜隈寺跡周辺遺跡発掘調査（受託）

ウ　**アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究**　奈良文化財研究所

Ａ．漢魏洛陽城において2400㎡の共同発掘調査を実施。Ｂ．遼寧省における唐代墓出土品の調査を実施。Ｃ．黄冶窯跡及び白河窯跡生産された青磁・白磁・唐三彩・唐青花の系譜的系統的把握の基礎となる視点が明確になった。Ｄ．日本の古代都城並びに韓国古代王京の形成と発展に関する共同研究を実施。

				エ	**庭園に関する調査研究**	奈良文化財研究所
					「平安時代の禁苑と離宮の庭」と題して開催した研究会では、奈良時代の宮廷の苑の系譜や園池配置の思想的背景、唐長安城禁苑の影響などに関する報告の他、具体的な庭園遺構として長岡京北苑、平安京神泉苑など計４件の事例報告があり、平安時代庭園の理解を深めた。なお、昨年度開催の研究会の報告書を刊行した。また、平安時代前期と中期の庭園遺構のデータを中心に収集・整理を行い、公開している発掘庭園データベースの内容の更新を行った。 琴ノ浦　温山荘園庭園調査（受託）	
				オ	**東アジア史における飛鳥の研究及び飛鳥時代工芸技術の研究**	奈良文化財研究所
					山田寺出土部材の展示においては、経年的に計測調査を行っており、本年も計測を継続した。その結果大きな変化がないことを確認した。飛鳥地方壁画古墳の研究としては 12 月に中国河北省文物研究所において、河北省出土壁画墓のはぎ取り壁画の調査を行った。飛鳥時代の工芸技術の研究としては、東京都武蔵国府跡と長野県榎垣外遺跡出土の同型小型八花鏡の調査を行った。また奈良国立博物館所蔵霊安寺出土唐式鏡４面の調査も行った。		
			⑥	ア	**遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究**	奈良文化財研究所
					遺跡等における遺構露出展示について、基礎的な情報収集を行うとともに、埋蔵文化財センター保存修復科学研究室と合同で研究集会を開催し、調査研究上の具体的課題を検討した。また、昨年度の成果について、報告書を刊行・配布するなど、その普及等を行った。	
			⑥	イ	**遺構の安定した公開・展示を行うことを目的とした事前調査法、保存技術並びに監視技術の開発的研究**	奈良文化財研究所
					遺跡の水分状態を調査する方法を開発するため、宮畑遺跡において気象観測ステーションを設置するとともに、遺跡断面に地中温度センサーと土壌水分計を設置して、データ収集を行った。また、水分特性と不飽和透水係数を求めるための実験装置を導入し、実験を開始した。さらに、遺構土壌を安定化させる土壌安定化剤を試作して室内実験を行い、土壌を良好に安定化させる効果があることを確認した。	
				ウ	**文化庁が行う平城宮跡第一次大極殿正殿復原をはじめとする整備・公開・活用に関する専門的・技術的な援助・助言**	奈良文化財研究所
					長年にわたって行ってきた第一次大極殿に関する諸研究を、報告書に纏めた。また、文化庁が行う第一次大極殿復原事業に伴う文部科学省文教施設部主催の会議等に出席し、専門的な観点から、助言を行った。さらには、平城宮跡の国営公園化に伴って、国営飛鳥歴史公園事務所が主催する『平城宮跡　基本計画検討委員会』及び『国営平城宮歴史公園第一次大極殿院広場設計検討業務検討委員会』開催にあたり事務局に資料提供するとともに委員会に出席した。		
		自己評価 20年度も19年度と同様であるが、無形文化財から遺跡の発掘まで幅広い調査・研究を通して文化財に関する基礎的な情報を蓄積することができている。基礎的・体系的な調査・研究は、成果がすぐに出るものではなく、長期的な視野に立つことが欠かせないので、報告書の刊行や研究会・学会での発表を通じて、調査・研究の成果を国民に還元していけるよう努力している。今後もこれらの調査・研究を通じて、我が国における文化財に関する調査・研究の底上げを図っていきたい。					
（２）文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進 文化財の調査手法に		**（２）文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進主な実績** **主な実績** ・上記テーマ設定に従い、以下の調査・研究を実施				

関する以下の研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。

①光に対する物性を利用した高精彩のデジタル画像を形成する手法に関する調査・研究を行い、文化財の色や形状・肌合いなどを正確かつ詳細に再現することを目指す。

②小型可搬型機器の開発及び応用研究を行い、文化財の材質調査をその場で行えるようにする。また、有機化合物の物質同定を目的とした新規手法の検討及びその応用研究を行い、金属文化財や顔料など無機化合物に関する元素分析及び構造解析手法の確立等を目指す。

③遺跡調査における新たな指標や属性分析法の確立に関する研究会等を行い、全国における遺跡調査・研究の質的向上と発掘作業の効率化に資する。

④木質古文化財の年輪年代測定法等を進め、考古学・建築史・美術史の研究に資する。

調査研究の名称			施設名
①		**高精細デジタル画像の応用に関する調査研究**	東京文化財研究所
		脆弱な材料で構成されている我が国の貴重な文化財の高精細な画像や特殊撮影画像の公開と多目的な利用に供すべく、平等院と行った共同研究成果を『平等院鳳凰堂調査資料目録―カラー画像編―』として刊行した。また、國立故宮博物院(台湾)との共同研究の成果として『孫過庭書譜光学検測報告』の成果報告書を刊行した。他機関との共同調査研究として宮内庁三の丸尚蔵館と「春日権現験記絵巻」「動植彩絵」の調査撮影を、奈良国立博物館との共同調査研究として「春日権現験記絵巻披見台」および「法隆寺金堂釈迦三尊ならびに薬師如来台座羽目板」の調査・撮影を行った。	
②		**文化財の非破壊調査法の研究**	東京文化財研究所
		非破壊調査手法に関して実験室規模での基礎的研究を推進するとともに、ポータブル蛍光Ｘ線分析装置や反射スペクトル測定システムなどを用いて博物館・美術館等の所蔵作品の彩色材料調査を実施した。	
③	ア	**遺跡データベースの作成と公開**	奈良文化財研究所
		官衙関係遺跡の建物データについて、建物群の性格などの属性項目を新設し、柱穴の形状・柱筋の通り具合の属性を数値化する方法を検討し、データベースの更新及び公開を行った。また、寺院遺跡の属性分析を踏まえたデータベースを新規に作成し、九州から中国地方の一部までのデータベースを公開した。	
	イ	**遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法の研究**	奈良文化財研究所
		遺跡の測量・探査技術の向上と有効利用法の研究を推進し、大学・自治体と連携して実践を行った。測量では、三次元レーザスキャナ及び写真測量の技術的検討と実践を行い、石造物や考古資料の図化法の検討や摩滅資料の判読、安価で導入可能な機器の試験を実施した。探査では、ＧＰＲの走査方法の改善と新たな機器の試作と試行、ＧＰＳによる位置精度向上実験を行い、柱穴の確認に成功した。 胡桃館遺跡詳細分布調査（受託） 福岡県筑紫郡那珂川町安徳台遺跡群のレーダー及び磁気探査（受託）	
④		**年輪年代学研究**	奈良文化財研究所
		３府県下８遺跡から出土した考古学関連の木材試料、国宝１棟・重文３棟を含む７府県下８棟の建造物、国宝１点を含む７府県下の 15 躯の木彫像並びに１点の工芸品、２府県下２点の歴史資料に対して年輪年代調査を実施した。また、年輪のデジタル画像計測に関する技術開発に取り組み、特許取得を果たした。以上の研究成果の一部を、論文等８件、学会発表等９件として発表した。 伏見稲荷大社奥宮の年輪年代調査（受託）	
⑤		**遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究**	奈良文化財研究所
		国内外の学会、研究会において、これまでの環境考古学、特に貝塚、湿地遺跡、動物利用などの研究成果を発表し、研究交流を深めた。また、19 年度から継続してきた奈良県橿原遺跡、佐賀県東名遺跡群などの分析を行い、発掘報告書を執筆した。 ・東名遺跡出土動物遺存体調査（受託）	

自己評価

文化財の調査・研究において、新たな手法が開発されることによって、これまで知り得なかったことが明らかになることは少なくない。20年度は年輪年代法で特許を取得するなど、新たな手法の開発に取り組

⑤遺跡出土の動植物遺体や古土壌の考古科学的分析により、過去の生業活動の解明と環境復元を行う。		むことができた。その他にもデータベースや高精細画像を用いるなど新たな調査手法について研究を進めている。今後も調査・研究を継続的に実施し、新たな調査手法の開発を通して、調査・研究に新たな知見が得られるよう努めたい。	
（３）科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進 最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び 研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査及び研究として以下の課題に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。 ①　生物被害を受けやすい木質文化財（社寺等建造物、彫刻など）の劣化診断や被害防止対策を確立する。 ②　環境の調査手法、モデル実験やシミュレーション技術を用いた環境の解析手法の確立のための研究及び実践を行い、文化財を取り巻く保存環境の現状を把握し、改善することに資する。 ③　屋外文化財の保存・修復の手法を確立する。また、文化財の防災についてその予防と被災後の情報収集を行い、文化財防災のネットワーク化の		**（３）科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する先端的調査研究等の推進** **主な実績** ・上記テーマに従い、以下の調査・研究を実施 **①　文化財の生物劣化対策の研究**（東京文化財研究所） 歴史的建造物での生物被害状況調査では、日光輪王寺本堂の虫害を調査した結果、オオナガシバンムシによる被害であることが明らかになった。また、部材内部の状況を調べるために、レジストグラフやＣＴなどの手法を用いて、調査を行い、部分解体修理による調査の一助となった。また、調査手法および歴史的建造物などの維持管理をテーマとする研究会を開催し、今後取り組むべき問題点を明らかにした。 **②　文化財の保存環境の研究**（東京文化財研究所） 文化財施設内の温湿度解析の対象として、静岡県立美術館のロダン館を選択し、熱・換気回路網計算プログラムを用いて温湿度解析を行った。空気汚染物質への対策研究としては、これまでの成果を学会等で報告すると共に、「文化財の保存環境を考慮した博物館の省エネ化」というテーマで研究会を開催した。 **③　周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究**（東京文化財研究所） 石造文化財や木造建造物など屋外に位置する文化財について周辺環境の観測を行った。また、その結果に基づいて劣化要因を解明し、周辺環境の影響を軽減する方法および修復材料・技法の開発・評価を行った。詳細には、（1）臼杵磨崖仏・熊野磨崖仏における劣化要因調査、凍結防止策やクリーニング手法の検討、（2）木造建造物の腐朽菌や藍藻類の生息分布と周辺環境の調査、（3）大韓民国・国立文化財研究所との共同調査、共同研究発表会の実施を行った。 **文化財の防災計画に関する調査研究**（東京文化財研究所） 平成 20 年度は、（1）地理情報システム（ＧＩＳ）に基づいた文化財防災情報システムの改良：史跡や重伝建地区などの平面情報について入力が可能となるようにした。（2）平成 19 年に発生した能登半島地震および新潟県中越沖地震により被災した文化財について、１年経過後の保存修復状況の現地調査を実施した。（3）東大寺法華堂安置仏像群および塑像四天王立像（戒壇堂所在）の耐震対策を講ずるための基礎的調査を開始した。 **④　考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究**（奈良文化財研究所） １）ガラス製品のレーザーラマン分光分析に関する文献を収集し、標準試料のスペクトルを集積した。 ２）鉄製品に付着する繊維痕跡を XCR 撮影することにより、その製作技法を明らかにした。 ３）漆製遺物の分析において、有機溶剤への溶解性を利用した新たな分析手法を確立した。 ４）リグノフェノール含浸処理後に超臨界溶媒乾燥を行う処理においてスケールアップを図った。 ５）遺跡整備研究室と合同で「埋蔵文化財の露出展示における成果と課題」の研究集会を開催した。	

一層の推進を図る。 ④　考古資料の材質・構造の調査法に関して、特にレーザーラマン分光分析法や高エネルギーX線CT・CR法の実用化を図る。また、考古資料の保存・修復に関する実践的な研究を実施する。 ⑤　伝統的修復材料や合成樹脂などの物性、製作技法、利用技法に関する調査・研究をもとに、修復材料・技法の評価及び開発を行う。また、海外の文化財保存担当者を対象に、日本の修復材料の使用法や修理技術に関する研修等を行い本国での基本的な作品の取り扱いや保存処理に反映させる。 ⑥　近代の文化遺産に特徴的な鉄、コンクリート、プラスティックなどの複合素材及び技法について国際共同研究を実施し、その成果をもとに国内所在の近代文化遺産の保存・修復に関する手法を開発する。				・長野県千曲市社宮司遺跡出土の六角木幢保存修復業務委託（受託） ・秋田県漆下遺跡出土漆関連遺物分析調査（受託） ・重要文化財奈良県黒塚古墳出土品事前調査並びに保存修理（受託） ・長野県中野市柳沢遺跡出土の青銅器保存修復業務委託（受託） ・宝山寺獅子閣材料分析調査（受託）	
			⑤	**伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究**　東京文化財研究所 建造物などに使用する漆塗装の耐候性向上に向けた基礎実験を継続するとともに、漆工品生産に関する伝統技術の調査を行い、その内容を報告書に掲載した。また、紙に関しては、基礎データの集積と整理作業を行い、その内容も報告書に掲載した。また、本研究所が携わった修復事業のうち研究所が所蔵する資料の目録作成化作業を継続し、ネガフィルムなどの資料に関しては、デジタルデータ化も継続した。また第2回伝統的修復材料及び合成樹脂に関する研究会を開催してのべ107名の出席を得た。 **国際研修「紙の保存と修復」**　東京文化財研究所 2008年9月8日～26日の期間で10カ国から10名を迎え入れて研修を行った。2時間を1コマとし、講義4コマ、実習19コマ行った。紙本文化財の修復理念、材料学の講義を行った。実習では、掛軸修復、和綴じ冊子製作、屏風・掛け軸の取扱などを行った。またスタディーツアーでは美濃を訪れ、和紙の原料・製造から流通までを和紙産地の歴史とともに学習した。また、日本の修復工房を訪れ現状を視察した。また報告書を作製した。 **在外日本古美術品保存修復協力事業**　東京文化財研究所 平成20年度は、10館10点の作品（絵画5点、工芸品5点）を修復した。うち1点(工芸品1点が19年度からの継続、2点（絵画1点、工芸品1点）を海外で修復した。工芸品の事前調査はチェコ外務省、チェコ国立美術館、国立ナープルステク博物館、デンマーク国立博物館などヨーロッパで8館21点の調査を行った。また、平成19年度に修復した絵画、工芸品の修理状況をまとめて「在外日本古美術品保存修復協力事業」の報告書を刊行した。	
			⑥	**近代の文化遺産の保存修復に関する研究**　東京文化財研究所 今年度は近代化遺産の利活用をテーマとして研究を行った。鉄構造物の保存に関する関係者を招き、研究会を開催しそれぞれの立場から鉄構造物の保存と活用に関する発表を行った。また、設計図面などに多く使われている青図の再発色に関する研究も実施した。屋外展示されている鉄道車両や航空機などの文化財の防錆対策のため、試験片を使った屋外暴露試験にて、塗装仕様と劣化速度の相関についても検討している。昨年度の研究会をまとめた報告書も刊行した。	
		自己評価 我が国の有形文化財は紙や木など劣化しやすい材質で作られているものが多く、保存環境や修復に関する調査・研究は重要である。20年度も国内外問わず、文化財の保存に関する調査・研究を進め、海外の日本古美術品の修復も行うことができた。海外からも期待されている分野である文化財保存・修復に関する研究は、今後も継続的に実施し、我が国文化財の保存・修復のナショナルセンターとしての機能を強化していきたい。			
（４）高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業など、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び		**（４）国・地方公共団体の要請に応じた文化財の保存措置等のための調査・研究の実施** **主な実績** ・先述したテーマに従い、以下の調査・研究を実施 調査・研究の名称　施設名			

修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。

文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力　東京・奈良文化財研究所

キトラ古墳では、４月に月像を剥ぎ取り、11月にはすべての天文図の剥ぎ取りを完了して天井無地部分の剥ぎ取りに着手し、北壁の一部も剥ぎ取った。石室内の点検及びカビ処置も定期的に行った。また、石室内微生物調査および環境調査は継続して行った。高松塚古墳では、壁画の状態記録のため損傷図面を作成した。また、壁画の処置方法について模擬壁にてテストを行いバイオフィルムによる汚れのクリーニング方法などを確立した。

高松塚古墳石室解体にともなうフォトマップ作製の手順、及び方法を取りまとめた『高松塚古墳壁画フォトマップ資料』の出版。フォトマップを基にしたブルーレイハイビジョンディスク動画に対する、英語・中国語・韓国語版のナレーションを追加し、『高松塚古墳壁画フォトマップ資料』に添付して、高松塚古墳壁画の理解の深化、公開・普及に努めた。

- ・国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務（受託）
- ・特別史跡キトラ古墳保存対策等調査（受託）
- ・国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区檜隈寺跡周辺遺跡発掘調査（受託）

自己評価

20年度は文化庁の要請に応じてキトラ古墳で剥ぎ取り作業を実施し、カビ対策も着実に行っている。高松塚古墳ではバイオフィルムによる汚れのクリーニング方法を確立するなど古墳の保全に万全を期している。今後も文化庁の要請に応じて、適宜協力して実施していきたい。

（５）有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究を実施し、その保存と活用を推進することにより、次世代への継承及び我が国文化の向上に寄与する。

① 収集・保管に関する研究を実施し、有形文化財の保存に寄与する。

ⅰ 保存環境の調査研究等を実施することにより、収蔵品の保存環境の向上を図る。

ⅱ 日本の文化財及び日本の文化に影響を与えた東洋諸地域を中心に東洋全般にわたる各国固有の文化

（５）有形文化財に係る調査研究

主な実績

・先述したテーマに従い、以下の調査・研究を実施

	調査研究の名称
①	**収集・保管のための調査研究**
	博物館の事業を実施するにあたって、日々の研究は欠かせない。20年度は、有形文化財の研究として、東京国立博物館で博物館における文化財保存のトータルケアシステムについての研究や各博物館における収蔵品の調査研究など外部資金を得るなどして、幅広く実施している。
	東京国立博物館
	・特別調査法隆寺献納宝物（第30次）「聖徳太子絵伝」第4回
	・特別調査「書跡」第5、6回
	・特別調査金地屏風の金箔地についての調査研究―尾形光琳風神雷神図屏風を中心に
	・応挙館障壁画の復元に関する調査研究（今年度は、主に修理未了（まくりの壁画）の障壁画について検討）
	・館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究
	・ガンダーラの仏教寺院の伽藍配置と遺物に関する研究
	・博物館の環境保存に関する研究
	・東洋民族資料に関する調査研究
	・耐震性の高い展示手法に関する研究

財の調査研究を実施する。 iii 収蔵品の調査研究を重視し、特に重要な項目については特別調査を実施する。また、特別展及び海外展実施に向けた事前調査を実施する。 iv トータルケアシステム構築に向けた応用研究を実施し、有形文化財の恒久的保存と持続的公開を具現化する。 v 修復文化財に関する調査研究を実施し、補修紙製作、剥落止め等修復方針決定に寄与する。 vi 収蔵品について、科学的分析に基づく保存・修復に関する調査研究を実施し、文化財の適切な保存・展示・活用に反映させる。 ② 公衆への観覧を図るための研究を実施し、有形文化財の活用に寄与する。 i 有形文化財の展示デザインシステムを構築するための応用研究を実施する。 ii 博物館情報学を構築するための研究を実施する。 iii 博物館教育理論の構築に関する研究を実施し、有形文化財理解の推進に寄与する。 iv 京都文化を中心にした文化財の調査研究を実施し、展示する					・大型油彩画のロール状保存と木枠に張り込まない展示手法の開発に関する調査研究 ・韓国国立中央博物館所蔵の高麗漆器の保存に関する国際共同研究 ・日本における木彫像の樹種と用材観に関する調査研究（科学研究費補助金） ・書画料紙の加工法及び保存に関する基礎的研究（科学研究費補助金） ・目録学の構築と古典学の再生（科学研究費補助金） ・国立博物館の機能と役割の変遷に関する基礎的研究―館史資料の分析を中心に―（科学研究費補助金） ・博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究（科学研究費補助金） ・東京国立博物館所蔵・正倉院関係資料の研究（科学研究費補助金） ・東京国立博物館所蔵写真資料データベース（科学研究費補助金） ・東京国立博物館所蔵古文書データベース（科学研究費補助金） ・大航海時代以降の東西交流が中国・日本の陶磁器に与えた影響について ・平成 21 年度　特集陳列「趙之謙」に関する調査研究 ・明治時代の宝物調査における写真資料に関する調査―横山松三郎、小川一真、早崎梗吉、安村喜当の事跡を中心に― ・朝鮮王朝時代の工芸作品に関する調査、研究 ・中国宋時代の越州窯青磁が、その後の青磁生産の展開、中国国内の生活文化に与えた影響についての調査 ・金沢北条氏領下総国下河辺庄の総合的研究 ・歴史資料調査 ・有形文化財に係る調査研究		
				京都国立博物館	・近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究 ・平安仏教とその造形に関する調査研究 ・日本における木の造形的表現とその文化的背景に関する総合的考察（科学研究費補助金） ・建仁寺両足院に所蔵される五山文学関係典籍類の調査研究（科学研究費補助金） ・修復文化財に関する資料収集及び調査研究 ・等伯に関する調査研究（客員研究員） ・近世絵画に関する調査研究（客員研究員） ・文化財情報に関する調査研究（客員研究員） ・訓点資料としての典籍に関する調査研究（客員研究員） ・彫刻に関する調査研究（客員研究員） ・西域出土文献に関する調査研究 ・中・近世の金属工芸品の制作と受用にみる江南、嶺・湖南、瀬戸内の地域特質と相互文化意識、交流媒体の研究（トヨタ財団研究助成） ・宸翰（天皇の書）の歴史学的見地からみた調査・研究		

ことにより、国民の文化財保存に対する意識の高揚に寄与する。 v 平安仏教とその造形に関する調査研究を実施し、展示することにより、国民の文化財保存に対する意識の高揚に寄与する。 vi 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究を実施し、展覧会の活性化に反映させる。 vii 我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究を実施し、仏教美術の解説の充実を図る。 viii 仏教美術の光学的調査研究を実施し、作品の材料・技術の解明に寄与する。 ix 日本とアジア諸国との文化交流に関する文化財の調査研究を実施し、これらの文化財の収集・保管・展示、教育普及事業等を展開する。					・瑞光寺ならびに建仁寺両足院所蔵陶磁の調査研究		
				奈良国立博物館			
					・南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等を実施		
					・仏教美術の光学的調査研究（東京文化財研究所との共同研究）		
					・仏教美術写真収集及びその調査研究		
					・我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究		
					・当館所蔵品のついての調査研究（客員研究員）		
					・統一新羅期の道具瓦集成（科学研究費補助金）		
					・古墳時代中期における対外交渉の特質と地域圏の形成・展開過程（科学研究費補助金）		
				九州国立博物館			
					・日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究		
					・文化財の材質・構造等に関する共同研究		
					・博物館における文化財保存修復に関する研究（客員研究員）		
					・彩色水侵文物の保存科学的研究―中国江蘇省泗水王陵出土文物の保存―（科学研究費補助金）		
					・VR画像を活用した日本装飾古墳デジタルアーカイブの構築（科学研究費補助金）		
					・近代工芸の美術史・産業史・地域史の基礎資料としての内国勧業博覧会出品作品の研究（科学研究費補助金）		
					・博物館危機管理としての市民共同型ＩＰＭシステム構築に向けての基礎研究（科学研究費補助金）		
					・博物館におけるＸ線ＣＴスキャンデータの活用（科学研究費補助金）		
					・古代東南アジアにおける三尊像図像の研究―タイ・ミャンマーの図像を中心に―（科学研究費補助金）		
					・超高精細大容量画像の安全・ダイナミック表示総合システムの開発（科学技術振興機構）		
					・近世初期日本絵画における粉本使用例の基礎調査（科学研究費補助金）		
					・埴輪に認められる赤色顔料についての基礎的研究（科学研究費補助金）		
					・被災した近現代歴史資料の救済のための簡便な真空凍結乾燥法の開発（科学研究費補助金）		
					・近世初期対馬藩の政治構造と日朝交流（科学研究費補助金）		
					・室町時代の仏教絵画を中心とする東アジアの宗教美術に関する調査研究（科学研究費補助金）		
					・トルキ山遼墓出土品から見た唐滅亡後の東アジアにおける工芸技術（科学研究費補助金）		
			②	**公衆への観覧を図るための研究**			
				公衆への観覧を図るために、各館では、教育普及やバリアフリー、情報処理などの観点から調査・研究を進めている。また、京都国立博物館における輸出漆器に関する調査研究が展覧会の形で実を結ぶなど有形文化財についての調査研究を通しても、観覧の機			

		会を創出するような調査・研究を実施している。	
		東京国立博物館	
		・博物館環境デザインに関する調査研究	
		・博物館美術教育に関する調査研究	
		・博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築（科学研究費補助金）	
		・博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	
		・凸版印刷と協同で、ミュージアム・シアターでの公開に向けた研究を実施する。	
		京都国立博物館	
		・妙心寺本坊、塔頭に所蔵されている文化財の調査研究	
		・輸出漆器に関する調査研究により、特別展覧会「japan 蒔絵－宮殿を飾る 東洋の燦めき－」の開催に反映する。	
		・妙顯寺・本満寺・本圀寺などに所蔵される文化財の調査研究により、特別展覧会「日蓮展」（仮称）の開催に反映する。	
		奈良国立博物館	
		・南都諸社寺等に関する計画的な調査研究成果の一部を「国宝法隆寺金堂展」並びに特別陳列「おん祭りの春日信仰の美術」及び「お水取り」に反映させる。	
		・我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究成果の一部で平常展の充実を図る。	
		九州国立博物館	
		・高齢者・障害者・外国人の利用者に対しての、展示の内容・方法、施設整備、管理運営面からの改善、改善方策についての調査研究	
		・音声ガイドのコンテンツ評価と検証	

自己評価

京都国立博物館の漆器の研究がＪＡＰＡＮ蒔絵展の開催に結びつくなど、各博物館とも、日常の調査研究の成果が展覧会に結びついている。博物館の調査研究は、展覧会の事前調査や収蔵品の調査研究など日常業務に密着したものが多く、論文や学会発表だけでなく、展覧会等に反映させることに特徴があると言えるので、より充実した取組みをしていきたい。

また、博物館における新たな研究テーマとしての東京国立博物館において先駆的な教育普及の研究を行うなど、博物館研究においてもナショナルセンター的な役割を担えていると考える。

３．調査研究の成果の状況

○調査研究の成果により我が国の文化財保護政策に寄与するとともに、学術雑誌等への論文の掲載、学会、研究会での発表、データベースの追加等により定量的観点から

主な実績

		学術雑誌等への論文掲載数	学会、研究会等での発表件数
(1)	文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進	63件	43件
(2)	文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進主な実績	40件	35件
(3)	科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する先端的調査研究等の推進	27件	25件
(4)	国・地方公共団体の要請に応じた文化財の保存措置等のための調査・研究の実施	4件	—

評定　Ａ

コメント

研究成果の発表に努めているものと評価できる。

年輪年代測定法が特許取得できたことを評価する。年輪年代法による文化財の年代決定もさることながら、Ｃ14年代法の較正年代作成にも大きく寄与し、その成果は著しい。これを機に更に幅広い年

も調査研究の成果を確保すること。
○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査研究を実施し、その保存と活用を推進することにより、次世代への継承及び我が国文化の向上に寄与する。
○研究の実施にあたっては、外部資金を活用すること。

(5)	有形文化財に係る調査研究	110件	82件
(6)	文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力及び国際共同研究	2件	5件
計		246件	190件

新規特許取得件数
１件（木材又は木造文化財の年輪幅又は密度測定方法）、その他申請中２件

外部資金の獲得

■科学研究費補助金獲得件数

	19 年度	20 年度
新規応募件数	87	84
新規採択件数	34	32
新規採択率	39%	38%
件数(新規＋継続)計	78	83
直接経費(千円)	234,390	252,860
間接経費(千円)	55,380	74,379
交付額計(千円)	289,770	327,239

【学術雑誌等への掲載論文数】（指標：中期計画）

A	B	C	実績	定量的評価
100件以上	100件未満70件以上	70件未満	246件	A

【学会、研究会等での発表件数】（指標：中期計画）

A	B	C	実績	定量的評価
80件以上	80件未満56件以上	56件未満	190件	A

自己評価
専門家や研究者への研究成果の還元については、論文や学会での発表を通して、着実に成果をあげていると考える。定量的観点からも論文の発表件数、学会等での発表件数とも順調に成果を上げている。

輪年代法の普及を望む。
災害時に対応した文化財地理情報システムの開発成果をより一層関係者に知らしめ、面的な更なる普及を望む。
長く調査されてきた各国の文化財保護法令が、ＷＥＢサイト及び出版物として提示されたことは評価できる。
科研費の獲得金額が増加し、また、新規採択率が30%超と全国平均を上回るなど、外部資金の活用が積極的に行なわれているものと考えられるが、一層の努力が望まれる。

５　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進

評　定	評価のポイント
A	中期計画に沿って文化財の保存・修復に関する国際協力は図られているものと認められる。 アジア諸国への協力はタイムリーに実施されている。日本の存在価値を高めるのに、文化財保護は非常に効果の高いテーマだと思う。 併せて文化財機構内へのフィードバック（若手人材の育成等）への配慮をお願いしたい。 国際ワークショップの開催は、今後、日本が文化の分野でアジアに存在感を示していく上で重要であり、国際協力のネットワーク構築を行いながら、リーダーシップと存在を高めていくことを望む。 アジア諸国の文化財保存修復専門家の人材育成を目的に教材を作成し、技術の普及を図ったことも評価できる。 敦煌、スコータイなど長期にわたる技術協力が実を結び、成果が得られていることを評価する。特に敦煌は先方に技術移転がなされ大変大きい成果と考える。 一方で政情不安の残るイラクやアフガニスタンなどについては、長い目で見て安全確保の上で時間をかけて将来を見据えるべきと考える。その一環として研修生の養成は大きな意味を持つ。

中期計画	主な計画上の評価指標	主な実績及び自己評価	評価委員会による評価 評価基準　SABCF
文化財の保存・修復に関する国際協力に関して、以下の事業を有機的・総合的に展開することにより、人類共通の財産である文化財の保存・修復に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与する。 （１）文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤整備を行う。ま	**１．国際協力に関する研究基盤の整備** ○情報の収集・分析及びその提供を行うこと。 ○国際協力のネットワークを構築すること。	**主な実績** ・文化財保存施策の国際的研究 文化財保存施策の国際的研究について、以下の事業を実施した。 １．世界各地で開催された研究会やワークショップに積極的に参加し、文化財の保存に関わる各種の情報を収集し、分析した。 ２．国際ワークショップの開催：アジア各国の専門家を招へいしてアジアの文化財について考えるラウンドテーブル形式の国際会議を１回、国内外の専門家を講師とする一般公開の国内専門家向け研究集会を１回、計２回開催した。 ・アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査研究 石材表面への微生物繁茂を軽減するために、表面に撥水剤を塗布することの効果とその弊害について具体的に検証した。そうした微生物を繁茂しにくくする環境条件について、タイのスコータイ遺跡で検討した。さらに、微生物が石材の風化に与える影響について、カンボジアのアンコール遺跡において検討した。また、タイとのこれまでの共同研究成果を公表する報告会をバンコクで開催した。 ・カンボジア・アンコール遺跡群の西トップ寺院遺跡の建築史的、考古学的、保存科学的調査 ６月５日と６日に現地で開催された本年第１回目の国際調整委員会へ参加。本年第１回目の調査は８月１日から13日の間、考古班と建築班が実施した。11月には雨期を経過した後の遺跡の状態確認の現地調査を行った。12月１日と２日に第２回目の国際調整委員会に参加。１月29日から２月７日の間、第２回目の調査を考古班と保存科学班が行った。招聘事業は３月23日から31日まで。若手研究者２名を招聘した。	**評定　A** コメント 龍門石窟の保存修理が終了するなど、国際協力及びネットワークの構築は着実に進んでいる。特に、四川大震災関連の活動を含め、東南アジア諸国への協力活動を評価する。これらはアジアにおいて日本の存在感を示す、重要な活動と認識されている。

<table>
<tr>
<td>た、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア諸国において文化財の保存・修復事業を推進する。</td>
<td></td>
<td>・龍門石窟及び陝西省唐代陵墓石彫像の保存修理に関する調査研究
2つの調査研究が本年度で終了するにあたり、龍門石窟研究院に対する助言を行うとともに、これまでの活動を総括し広くその内容を紹介するパンフレットを作成した。また西安市で石造文化財の保存に関するシンポジウムを開催し、報告書を作成した。

・敦煌壁画の保護に関する共同研究
共同調査・研究は３年目を迎え、壁画の制作材料と技法に関する知見の蓄積が進みつつある。写真撮影作業は天井の全景を含む全てが完了した。光学調査と分析調査は、未着手の部分での作業とここまでの検討で不十分な部分での作業を反復して行っている。日中双方のメンバーの連携が取れ、作業の一部分を完全に中国側に委託することが可能になるなど、顕著な進歩が見られる。

・西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業
アフガニスタン及びイラクから文化財専門家を招へいして人材育成・技術移転を実施。バーミヤーン遺跡の保存に関し、専門家会議への出席、報告書の作成・出版、外部機関との共同研究を実施。西アジア周辺諸国における文化遺産保護に関する調査・研究等としては、タジキスタン出土の壁画片の保存修復及び文化財専門家の人材育成・技術移転、アジナ・テパ仏教寺院の保存修復、アジャンター壁画の保存修復を実施し、あわせて国際会議等へ参加。

<table>
<tr><td>受託研究</td><td>諸外国における文化財輸出規制を規定した法令に関する調査</td></tr>
<tr><td></td><td>陝西省唐代陵墓石彫像保護修理事業</td></tr>
<tr><td></td><td>龍門石窟保護修復プロジェクト</td></tr>
<tr><td></td><td>ユネスコ／バーミヤーン遺跡保存事業</td></tr>
<tr><td></td><td>タジキスタン共和国アジナ・テパ仏教寺院の保存修復事業</td></tr>
</table>

自己評価
国際的な文化財修復のネットワーク構築のため、各種ワークショップを開催したり、出席したり情報の収集に努めている。また、カンボジア、中国、西アジアなどアジアを中心に文化財修復に積極的に協力し、国際協力が図られていると考える。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>（２）諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転を積極的に進める。
また、アジア諸国の文化財保護担当者や保存・修復専門家などの人材養成に関する支援事業を国内外で実施するとともに、人材養成に必要な教材や教育手法に関する研究開発を行う。</td>
<td>２．保存修復に関する技術移転の推進
○諸外国への技術移転を積極的に進めること。
○アジア諸国における専門的な人材の育成のための支援事業等を行うこと。</td>
<td>主な実績
・諸外国の文化財保存修復専門家養成
諸外国における専門家の研修を実施する際の教材として使用することを目的にして、次の教材を作成した。すなわち、1.「水浸木材の保存修復」ＤＶＤ。2.「水侵木材の保存修復」テキスト。3.「Conservation for water logged wood」テキスト、である。これらは、遺跡から出土した水浸木材の適切な修復方法をしているばかりではなく、そもそも遺跡から脆弱な水浸木材を取り上げる方法にまで言及しており、発掘から保存まで広く網羅した内容に仕上がっている。
・国際協力機構、ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力
国際協力機構及びアジアユネスコ文化センターが計画した研修の多くの部分を担当した。参加者はアジア太平洋地域諸国で文化財の保護に携わる、まだ経験が十分でない研究者であり、今般の各研修により、研修生に対して有益な成果をもたらすことができた。

<table>
<tr><td>受託研究</td><td>タンロン皇城遺跡の保存に関する専門家派遣と研修事業</td></tr>
</table>
</td>
<td>評定　A
コメント
教材テキストの作成を始め、外国の保存修復専門家への技術移転が着実に進んでいることが認められる。
日本の存在感を示すために文化が貢献できる活動として、重要なものと考える。
水浸出土木材の保存修復は、国際的に大きな課題である。その手法や工程、ノウハウは我が国において形となってきた段階にあり、技術移転等は機を得たものと思わ</td>
</tr>
</table>

				タンロン皇城遺跡の保存に係る専門家派遣	れる。
				文化遺産国際協力コンソーシアム事業	
				文化遺産国際協力拠点交流事業	
				日中韓共同によるシルクロード沿線の文化財保護修復技術人員の育成プログラム	
				ユネスコ／日本信託基金　イラク博物館における修復研究室復興プロジェクト	
				四川大地震文化財復興支援に関する現地調査	
				四川震災復興に係る文化財協力（専門家交流）事業	
		自己評価 国際協力機構やユネスコアジア文化センター（ＡＣＣＵ）への協力だけでなく、専門家研修の教材の作成を通して、アジア各国への技術移転を進めることができている。さらに四川大地震への復興支援など国際的な文化財の保存修復に関する技術支援を行うことが出来ている。			

6　情報発信機能の強化

評　定	評価のポイント
A	インターネットの利活用を含め、中期計画に沿って情報発信の機能の強化が着実に進んでいるものと認められる。ただし、情報基盤の整備充実の目標とその進捗状況という観点からみると詳細な説明が必要と考える。 ＷＥＢの利点の一つである「Long-Tail効果」、つまり、特定少数の人（プロや愛好家等）がアクセスできるような項目についても配慮して欲しい。 調査研究成果については、文書だけでなくオープン・レクチャーや公開講演会の開催など一般市民に向けた情報公開・提供が行われており、こうした努力がＷＥＢのアクセス件数にも反映していると考えられる。

中期計画	主な計画上の評価指標	主な実績及び自己評価	評価委員会による評価 評価基準　SABCF
以下のとおり、調査・研究に基づく資料の作成及び文化財に関連する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査・研究成果を積極的に公表・公開し、研究者や広く一般の人が調査・研究成果を容易に入手できるようにする。 （１）文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を図る。 また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的ア	**１．情報基盤の整備充実** ○ネットワークセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備充実を図ること。 ○文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図ること。	**主な実績** ・ネットワークを安全に運用 ・動画サーバの導入、センタスイッチの増設等を実施 ・近現代美術関係文献および美術全集掲載図版目録のデータベース化、『日本美術年鑑』のテキスト化 ・劣化が進む貴重雑誌のＣＤ－ＲＯＭ化 ・「文化財保護関連法令集　イラク」等、文化財保存修復国際情報データベース化の推進 **自己評価** 貴重雑誌のＣＤ－ＲＯＭ化など文化財に関する専門的なアーカイブ化を順調に進めることができている。また、文化財保護関連情報のデータベース化も積極的に進め、イラク、ウズベキスタン、モンゴル等の情報のデータベース化を図ることができた。	**評定　A** コメント 『日本美術年鑑』のテキスト化や貴重雑誌のＣＤ―ＲＯＭ化など成果が出ていることを評価する。 東博の写真資料がデジタルアーカイブ化され、写真借用がスムーズにできるのは便利である。今後は利用者のニーズに細やかに対応していって欲しい。 なお、実施した活動はわかるが、具体的な計画と進捗状況という観点から活動の全体像が見えるような工夫が望まれる。

<table>
<tr>
<td>ーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図る。</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>（２）文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を平成17年度の実績以上刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数を前期中期計画期間の年度平均以上確保する。</td>
<td>２．調査研究成果の公開・提供
○公開講演会、現地説明会、国際シンポジウム等を積極的に行うこと。
○ＨＰの充実を図り、ＨＰアクセス件数を前期中期計画期間の年度平均以上確保すること。</td>
<td>主な実績
・研究報告書、日本美術年鑑、美術研究、無形文化遺産研究報告、保存科学（48号）、年報等の刊行
・第32回文化財の保存・修復に関する国際研究集会の開催
・オープンレクチャーの開催
・発掘調査の現地説明会の開催と公開講演会の実施

【研究所　ＨＰアクセス件数】指標：前期中期計画期間年度平均件数1,122,695件（中期計画）
<table>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>実績</th><th>定量的評価</th></tr>
<tr><td>1,122,695件以上</td><td>1,122,695件未満
785,886件以上</td><td>785,886件未満</td><td>2,106,989件</td><td>A</td></tr>
</table>
自己評価
20年度も研究報告書や年報等定期刊行物を通して、研究成果の公表を行っている。また、文化財の保存・修復に関する国際研究集会を通して、文化財の保存・修復の国際的な問題や取組みなどを検討する機会を設けるなど、研究成果を積極的に公表している。また、ＨＰのアクセス件数も目標を達成し、オープンレクチャーや現地説明会などを通した一般への研究成果の公表にも力を入れており、今後も積極的に公表の機会を設けていきたい。</td>
<td>評定　Ａ
コメント
定期刊行物が充実し、ＨＰのアクセス数も増加するなど、調査研究成果の公開・提供に積極的に努めているものと認められる。
研究所のＨＰを一層充実して欲しい。</td>
</tr>
<tr>
<td>（３）黒田記念館、平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことに資する。入館者数については、前期中期計画期間の年度平均以上確保する。

（４）文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力し、支援を実施する。また、宮跡等への来訪者に文化財に</td>
<td>３．公開施設の運用
○黒田記念館、平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館の展示の充実を図ること。
○入館者数については、前期中期計画期間の年度平均以上を確保すること。
○文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力すること。また、ボランティアへの活動援を行うこと。
○奈良県の「平城遷都1300年記念事業」にあわせ、平城京についてのこれまでの調査・研究成果を生かした展示・公開事業を行うこ</td>
<td>主な実績
・黒田記念館・平城宮跡資料館・藤原宮跡資料室・飛鳥資料館の展示公開
・平城宮跡における解説ボランティア事業の運営と支援
・飛鳥資料館において、春期特別展示「キトラ古墳壁画十二支―子・丑・寅―」等を開催
・平城遷都1300年記念事業に併せ、平城京に関する調査・研究成果の公開を充実させるため、平成21年度予算として平城宮跡資料館公開展示部門機能充実整備等工事経費を計上した。

【研究公開施設入場者数】指標：前期中期計画期間年度平均入場者数（中期計画）

黒田記念館入館者数　（10,531人）
<table>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>実績</th><th>定量的評価</th></tr>
<tr><td>10,531人以上</td><td>10,531人未満
7,371人以上</td><td>7,371人未満</td><td>19,083人</td><td>A</td></tr>
</table>
平城宮跡資料館入場者数　（72,430人）
<table>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>実績</th><th>定量的評価</th></tr>
<tr><td>72,430人以上</td><td>72,430人未満
50,701人以上</td><td>50,701人未満</td><td>92,597人</td><td>A</td></tr>
</table>
藤原宮跡資料室入館者数　（4,486人）
<table>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>実績</th><th>定量的評価</th></tr>
</table></td>
<td>評定　Ａ
コメント
入館者数については、藤原宮跡資料室を含め、全館的に努力しているものと認められる。
また、黒田記念館が新鮮な鑑賞の場となり、また、飛鳥資料館は普及講座や展示の内容が多様となってきている。</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr>
<td>関する理解を深めてもらうため、解説ボランティア事業を運営するとともに、各種ボランティアに対して、活動機会・場所の提供等の支援を行う。

（５）奈良県の「平城遷都1300年記念事業」にあわせ、平城京についてのこれまでの調査・研究成果を生かした展示・公開事業を行う。</td>
<td>と。</td>
<td>
<table>
<tr><td>4,486人以上</td><td>4,486人未満
3,140人以上</td><td>3,140人未満</td><td>4,423人</td><td>B</td></tr>
<tr><td colspan="5">飛鳥資料館入館者数　（55,274人）</td></tr>
<tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>実績</td><td>定量的評価</td></tr>
<tr><td>55,274人以上</td><td>55,274人未満
38,691人以上</td><td>38,691人未満</td><td>84,608人</td><td>A</td></tr>
<tr><td colspan="5">自己評価
20年度も施設の公開を通して、文化財研究所の研究成果を公開している。独立行政法人整理合理化計画でも示されていた黒田記念館の黒田作品の公開機会の拡大については、年１回の巡回展を行うとともに、20年度は東京国立博物館において特集陳列を開催するなど公開の機会拡大に努めている。また、飛鳥資料館ではキトラ古墳関連資料の展示公開を通じて、発掘の成果を公開している。入館者数については、藤原宮跡資料館を除き、目標値を上回っており、全体としては目標を達成していると言える。今後も引き続き研究の成果を発信することにより、文化財研究所の事業内容を積極的に公開していきたい。
2010年の平城遷都1300年事業にあわせ、展示・公開機能を充実させるための予算を平成21年度に計上した。
文化庁事業への協力としては、飛鳥資料館においてキトラ古墳の壁画を公開するなど、積極的に協力している。また、ボランティアへの協力については、平城宮跡資料館において解説ボランティア活動を積極的に実施している。</td></tr>
</table>
</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>（６）文化財情報・研究成果などを広く公表すること等を通じて歴史・伝統文化に対する理解が深まるよう努める。
①ウェブサイト等自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、広く国内外に情報を発信する。ウェブサイトのアクセス件数は年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回ることとする。
②－１　収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、デジタル化を推進し、文化財情報システム等により広く積極的に公開する。また、収蔵品等に関するデジタル化件</td>
<td>４．情報発信機能の強化
○ウェブサイトのアクセスの年間平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回ること。
○収蔵品等に関するデジタル化件数は、年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るようにすること。
○情報資料を収集し、レファレンス機能を充実させること。</td>
<td>
主な実績
インターネットを利用した情報の発信
・研究紀要学叢のＷＥＢサイトにおける公開（京博）
・ＷＥＢサイトのリニューアル（奈良博・九博）
・特別展における「ブログるぽ」（館のＷＥＢ上でブログとリンクさせる仕組み）の継続的な実施（九博）

【ＷＥＢサイトのアクセス年間平均件数】指標：前中期目標期間の年間平均実績（中期計画）
<table>
<tr><td colspan="5">東京国立博物館（1,928,966件）</td></tr>
<tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>実績</td><td>定量的評価</td></tr>
<tr><td>1,928,966件以上</td><td>1,350,276件以上
1,928,966件未満</td><td>1,350,276件未満</td><td>5,211,261件</td><td>A</td></tr>
<tr><td colspan="5">京都国立博物館（521,965件）</td></tr>
<tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>実績</td><td>定量的評価</td></tr>
<tr><td>521,965件以上</td><td>365,376件以上
521,965件未満</td><td>365,376件未満</td><td>1,409,634件</td><td>A</td></tr>
<tr><td colspan="5">奈良国立博物館（670,948件）</td></tr>
<tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>実績</td><td>定量的評価</td></tr>
<tr><td>670,948件以上</td><td>469,664件以上
670,948件未満</td><td>469,664件未満</td><td>1,230,774件</td><td>A</td></tr>
<tr><td colspan="5">九州国立博物館(783,487件)</td></tr>
</table>
</td>
<td>評定　A
コメント
インターネットによる情報発信が図られている。
ＷＥＢサイトのアクセス件数は評価できるが、目標件数の設定は再検討の余地があるように思われる。
ＷＥＢについて日本語はかなり充実しているが、英語だけでも日本語と同レベルの情報が欲しい（東博・九博は既にできている。）。
他の館で以前からＷＥＢ化したものはあるが、今回京博の研究紀要のＷＥＢ化を評価する。</td>
</tr>
</table>

数は、年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るようにする。
②－２　美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能を充実させる。

A	B	C	実績	定量的評価
783,487件以上	548,441件以上 783,487件未満	548,441件未満	5,699,860件	A

デジタル化の推進、レファレンスの充実
・継続的な文化財情報のデータベース化の推進
・美術品台帳のテキストデジタル化（東博）
・京都国立博物館所蔵の指定文化財の画像を高精細画像化し、重要文化財高精細画像データベース「KNM Gallery」としてウェブサイト上で公開（京博）

【収蔵品等の画像デジタル化件数】指標：前中期目標期間の年間平均実績（中期計画）

（前中期目標期間の年間平均実績／19年度実績）
東京国立博物館（18,829件／124,996件）

A	B	C	実績	定量的評価
18,829件以上	13,180件以上 18,829件未満	13,180件未満	139,000件	A

京都国立博物館（4,359件／8,047件）

A	B	C	実績	定量的評価
4,359件以上	3,051件以上 4,359件未満	3,051件未満	6,478件	A

奈良国立博物館（8,471件以上／4,584件）

A	B	C	実績	定量的評価
8,471件以上	5,930件以上 8,471件未満	5,930件未満	8,399件	B

九州国立博物館(1,890件／3,295件）

A	B	C	実績	定量的評価
1,890件以上	1,323件以上 1,890件未満	1,323件未満	3,963件	A

自己評価
　ＷＥＢサイトのアクセス件数については、目標は上回っているものの、19年度に比べると京都国立博物館が倍増したのを除き、他の３館は減少している。指標（前中期計画期間の年間平均）に比べて実績が大幅に増加した要因としては、各施設ホームページの認知度の上昇、ユーザー側のインターネット利用環境の向上、インターネット利用人口の増加が考えられる。デジタル化については、奈良国立博物館を除いた館で目標を達成することができた。

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

評　定
A

評価のポイント

地方公共団体が行う文化財の調査・保存等に協力するなど、中期計画に沿って地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上が図られているものと認められる。

地方公共団体等との連携・協力体制を構築する上で、まずは情報交換のネットワーク作りが肝心である。地方は観光資源としての文化財の活用を期待しており、それも十分理解の上で効率的な文化財保護の質的向上を図るべきである。

人材育成については、地方公共団体の文化財担当者の研修が行われ、特に大学院教育においては一定の成果を上げているものと評価できる。

中期計画	主な計画上の評価指標	主な実績及び自己評価	評価委員会による評価 評価基準　SABCF
我が国の文化財に関する調査・研究のナショナルセンターとして、これまでの調査・研究の成果を活かし、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行うことにより、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与する。また、専門指導者層を対象とした研修等を行い、文化財保護に必要な人材を養成する。 （１）地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本法人が行った調査・研究成果の	**１．地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制の構築** ○文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行うこと。	**主な実績** **協力・助言の積極的な実施** ・財団法人伝統文化活性化国民協会への助言 ・地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等の事業への建造物修理、史跡整備、出土文字資料調査、発掘調査等に関する専門的・技術的な助言 助言の事例 ①日光山輪王寺宝物殿における劣化工芸品の修復 工芸品の修理方法および、修理後の保存方法についての指導助言等（文化財の調査・保存・整備・活用などの事業を援助・助言するために、文化財の修復及び整備に関する調査等を行う）を行った。 ②熊本県八代市麦島城跡出土建築部材の保存 豊臣秀吉の命により破城されたといわれる麦島城跡から出土した平櫓の建築部材の中に、現在では文献上でしか確認できない太鼓壁が含まれていたため、八代市教育委員会ではできるだけその構造を損なうことなく遺構の切り取りを行い、良好な保存を行うこととしており、遺構の切り取り、一時保管、部材に応じた保存処理などについて指導・助言を行った。 ③関ヶ原古戦場保存管理計画の策定 史跡関ヶ原古戦場は、全国の諸大名を巻き込んで慶長５年（1600）９月 15 日にあった天下分け目の合戦場の跡である。その史跡としての適切な保存と活用の基本となる保存管理計画策定にあたり、遺跡保存の考え方や整備の手法、計画書の構成・内容のほか、計画実施のための体制作り等について指導・助言を行った。	**評定　A** コメント 文化財に関する協力・助言を積極的に行っているものと認められる。特に発掘調査に関しては、着実にナショナルセンターの役割を果たしている。

<table>
<tr>
<td>発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。</td>
<td></td>
<td>・地方公共団体が行う平城京域発掘調査への援助・助言

自己評価
文化財研究所は文化財に関する研究や保存・修復、発掘調査等のナショナルセンター機能を有している。20年度も地方公共団体等へ文化財の調査に関する援助・助言を実施し、地域における文化財行政に協力することにより我が国の文化財の保護に努めている。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>（２）文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等で中核となる文化財担当者に埋蔵文化財に関する研修及び保存科学に関する保存担当学芸員研修を実施する。なお、参加者等に対するアンケート調査を行い、80％以上の満足度が得られるようにする。
また、東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育を実施し、若手研究者の育成に寄与する。</td>
<td>２．中核的文化財担当者の研修・若手研究者の育成
○埋蔵文化財に関する高度な研究成果をもとに、中核となる文化財担当者に、各種の研修を実施するとともに、参加者等に対するアンケート調査で80パーセント以上の満足度が得られるようにすること。
○連携大学院教育を実施し、若手研究者の育成に寄与すること。</td>
<td>主な実績
埋蔵文化財研修の実施
・一般課程１課程、専門課程13課程、計14課程の実施（170名参加）
保存担当者研修の実施
・１回29名の参加者を得て実施、その後「保存担当学芸員フォローアップ研修」を実施（65名の参加）
大学院教育の推進（連携大学院）
・東京芸術大学：システム保存学（文化財保存学演習、保存環境計画論、修復材料学特論等）
・京都大学大学院人間・環境学研究科：共生文明学（遺跡調査法論、環境考古学論等）
・奈良女子大学大学院人間文化研究科：比較文化学（日本考古学の諸問題、歴史考古学特論等）

【埋蔵文化財研修　満足度％】指標：中期計画
<table>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>実績</th><th>定量的評価</th></tr>
<tr><td>80％以上</td><td>80％未満64％以上</td><td>64％未満</td><td>100％</td><td>A</td></tr>
</table>
【保存担当学芸員研修　満足度％】指標：中期計画
<table>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>実績</th><th>定量的評価</th></tr>
<tr><td>80％以上</td><td>80％未満64％以上</td><td>64％未満</td><td>100％</td><td>A</td></tr>
</table>
自己評価
地方公共団体の文化財担当者や博物館・美術館の保存担当学芸員、東京芸術大学、京都大学等の大学院の学生を対象に、文化財の調査研究や保護について研修を実施することにより、将来的な文化財保護行政を担う人材の育成を図ることができていると考える。保存担当学芸員研修、埋蔵文化財担当者研修はともに満足度も高く、有意義な研修を行えていると考える。</td>
<td>評定　A
コメント
学芸員を対象とする保存研修はすっかり定着していると思われ、全体として着実に成果を出しているものと認められる。</td>
</tr>
</table>

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

評　定
A

評価のポイント

概ね中期計画通りに履行し、中期目標に向かって着実に進んでいるものと認められる。
光熱水料は他動的な要素が大きく、金額ベースでなく実質使用量でみた場合、文化財機構として削減に努めたものと考えられ、省エネルギーへの取組みに関して評価すべきと考える。
文化財機構が統合して２年目であるが、概ね各施設の一元化による削減は進んでいるものと認められる。
コンプライアンス、ガバナンス等については、倫理規定の制定や教育、業務監査なども行われ、職員の意識改革も進んでいるものと評価できる。情報セキュリティー対策や人件費削減も進められている。
随意契約については契約の件数及び金額を減少させてきているが、再委託や一者応札に関する状況把握など契約の適正化に向けてより一層努力すべきである。一方で、民間競争入札は民間委託の推進の一環であるが、入館者に対するサービスの質の維持や苦情に対する対応、収蔵品・展示品等の維持・保管等において信用できる業者の選定にも尽力されたい。

中期計画	主な計画上の評価指標	主な実績及び自己評価	評価委員会による評価 評価基準　SABCF
1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上に考慮する。また、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、さらに、外部委託の推進等により、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き5年期間中一般管理費15%以上、業務経費5%以上の業	**１．業務の効率化** ○中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き５年期間中一般管理費15%以上、業務経費５％以上の業務の効率化を図ること。 ○省エネルギー５年期間中、１年に1.03％減少を図ること。 ○施設の有効利用の推進を図ること。 ○民間委託の推進を図ること。 ○競争入札の推進を図ること。 ○保有固定資産の	**主な実績** ・各施設の業務の一元化による効率化 **■業務運営体制の整備** 独立行政法人整理合理化計画（19 年 12 月）に基づき、業務運営体制の整備を行った。 ・展覧会企画機能強化のために、研究・学芸系職員連絡協議会を設置した。 ２館以上を巡回する展覧会として、21 年度に「妙心寺展」、「国宝阿修羅展」、「長谷川等伯展」を計画することとした。 ・省エネルギー、リサイクルの推進 **■光熱水料** （単位：千円） 事項 / 19 年度 / 20 年度 / 差額 電気料 / 397,304 / 427,588 / 30,284 水道料 / 89,081 / 84,044 / △5,037 ガス料 / 114,008 / 138,811 / 24,803 計 / 600,393 / 650,443 / 50,050（8.34%増） 電気・ガス料を 19 年度単価ベースにした場合 事項 / 19 年度 / 20 年度 / 差額 電気料 / 397,304 / 390,591 / △6,713	**評定　B** コメント 全体的に業務の効率化に努めているものと評価できるが、法人自らもっと分かりやすい指標を用いるなど工夫して説明して欲しい。 独立行政法人合理化計画に基づき、展覧会の企画機能強化のため、連絡協議会を設け、巡回展が企画されるなどの成果が認められる。また、自己収入の増大に向けた目標を設定したことも認められる。 料金上昇の与件を除けば、全体としては省エネルギー等の効果は順調と思われる。 原油価格の高騰による光熱水料単価の上昇は外部事情によるものであって文化財機構の管理の範囲外であるが、一方で使用量を減少さ

務の効率化を図る。
さらに、法人統合のメリットも最大限に生かしつつ業務の効率化に務め、機構の業務運営に際しては、一般管理業務の本部への一元化、集約化等を図り、19年度一般管理費（物件費）の10％相当を統合後５年間で削減を図る。
具体的には下記の措置を講じる。

（1）共通的な事務の一元化による業務の効率化

（2）使用資源の減少
・省エネルギー（５年期間中１年に1.03％の減少）・廃棄物減量化（一般廃棄物排出量を５年期間中５％減少）
・リサイクルの推進

（3）施設有効使用の推進
・施設の利用推進

（4）民間委託の推進
・一般管理部門を含めた組織・業務の見直しを行い、民間開放をさらに積極的に進める。
・館の警備・清掃業務について民間委

活用状況について、減損会計の情報（保有目的、利用実績など）を考慮し、十分な推進を図ること。
○官民競争入札等の推進を図ること。

水道料	89,081	84,044	△5,037
ガス料	114,008	111,955	△2,053
計	600,393	586,590	△13,803 （2.30％減）

（参考）光熱水使用量

事項	19年度	20年度	差額
電気量	28,188,500kwh	27,687,305kwh	△501,195kwh
水道量	160,186㎥	150,410㎥	△9,776㎥
ガス量	1,805,639㎥	1,771,924㎥	△33,715㎥

■一般廃棄物

（単位：ｋｇ）

19年度	20年度	増減率（％）
237,974	247,491	4.00％増

東博（東洋館引越）・京博（平常展示館建替）に伴い排出された廃棄物量を差し引いた場合

19年度	20年度	増減率（％）
237,974	215,931	△9.30％減

※　東洋館引越に伴い廃棄された廃棄物量　11,750kg
※　平常展示館建替に伴い廃棄された廃棄物量　19,810kg

・施設有効利用の推進
以下のように施設の有効利用を図っている。

■施設の有効利用件数（有償利用件数）

合計	東博	京博	奈良博	九博	東文研	奈文研
3,127件 （427件）	574件 （238件）	57件 （29件）	84件 （23件）	193件 （45件）	140件 （21件）	2,079件 （71件）

■固定資産の減損
該当なし。

・官民競争入札等の推進
公共サービス改革基本方針（19年12月）に基づき、東京国立博物館及び東京文化財研究所の施設管理運営業務について、21年10月からの民間競争入札を実施に向け、準備を進めている。

・民間委託の推進
電気設備保守業務、機械設備保守業務、売札業務、昇降機設備保守点検業務、各種事務補助作業等について、民間委託を実施している。
博物館の清掃業務については、全ての博物館で民間委託を実施しており、警備・展示室監視等業務についても大部分、民間委託を実施している。また、研究所についても、警備・清掃業務を外部委託している。

・競争入札の推進

せるため、文化財機構は冷暖房の省エネ運転やエレベータ利用の自粛、より効率の良い空調機器への交換等を実施したことが認められる。燃料費の高騰による目標達成の難しさはあったが、努力は評価される。
一般廃棄物の減量化については、特殊要因を除くと大幅に減少している。廃棄物量において東博東洋館引越及び京博平常展示館の建替に伴う排出量の提示とその確認があったことは評価できる。新年度以降も削減のための努力をお願いしたい。
民間競争入札は民間委託の推進の一環であるが、入館者に対するサービスの質の維持や苦情に対する対応、収蔵品・展示品等の維持・保管等において信用できる業者の選定に尽力されたい。
随意契約について、平成18年度実績に比べて件数ベースで３分の１以下、金額ベースで約半分まで減少させ、また、総合評価方式や企画競争・公募に係る手続きを整備するとともに随契理由を公表するなど契約の適正化に向けた努力は認められるが、より一層の努力が求められる。また、再委託・一者応札の状況把握については十分とは言えないが、改善の努力は認められる。
今後とも、文化財の保存・活用に係る業務の特殊性を踏まえ、契約の適正化に向けて一層努力されたい。
法人一元化によるコスト削減及び業務の一般管理費効率化率については、特殊要因を除くと各指標の基準を

託を推進する。
・来館者サービスを中心に業務の見直しを行い、民間委託を積極的進める。

(5)競争入札の推進
・契約業者の競合を一層推進することにより、経費の効率化を図る。

■随意契約見直し状況

区分		19年度契約実績 契約総数 (A)	19年度契約実績 随意契約 件数(B)	19年度契約実績 割合 (C=B/A)	20年度契約実績 契約総数 (D)	20年度契約実績 随意契約 件数(E)	20年度契約実績 割合 (F=E/D)	備考
合計	件数	397	284 (10) 274	71.5% 69.0%	316	177 (22) 155	56.0% 49.0%	上段：企画・公募（括弧内）を含む 下段：競争性のない随意契約件数
	金額	4,632,926千円	3,291,491千円 （79,546千円） 3,211,945千円	71.0% 69.3%	3,438,182千円	1,739,272千円 (249,420千円) 1,489,852千円	50.6% 43.3%	上段：企画・公募（括弧内）を含む 下段：競争性のない随意契約金額

※少額随意契約は除く。

随意契約見直し計画（18 年度契約実績のうち、契約形態を見直す余地のある随意契約を順次見直すことで、契約総数に占める競争性のない随意契約の割合を件数 20%、金額 32%とする。以下、見直し計画という。）に基づき、今まで随意契約していた業務を競争性のある契約へ移行させたため、19 年度契約実績と比べた場合、20 年度契約実績は、契約総数に占める随意契約の割合は件数、金額共に減少している。また随意契約の内訳には、競争性のある随意契約（企画競争・公募）が 22 件、249,420 千円計上されており、それを除いたベースでは更に減少している。

なお、20 年度契約実績は見直し計画の目標と比べ割合は高くなっているが、件数については特別展開催に伴った国際シンポジウムに係る契約等、20 年度単発の随意契約によらざるを得ない契約が含まれている。また、電気供給契約等については、21 年度以降競争性のある契約への移行を予定している。

金額については、上記契約分に係る金額の他に、見直し計画で随意契約が認められているガス供給契約金額が、燃料の国際的な高騰による単価上昇に伴い増加した分、また、20 年度購入した陳列品の購入総額が、18 年度購入総額と比べて高額であったこと等により増加した分が含まれている。これらの契約分を除くと、競争性のない随意契約の割合は件数で 40.8%。金額で 32.8%となる。

契約総数及び総金額の減少は、下記の努力等によるものである。

①複数の業務を包括化することで件数及び金額の削減を図ることができた。
包括化することができた事例
・財務会計システムに係る保守等業務５件を１件へ包括化（本部事務局）
・特別展に係る売札等業務６件を４件へ包括化（奈博）

②仕様を見直し、一般競争へ移行することで件数及び金額の削減を図ることができた。
競争入札等に移行した事例
・複写機賃貸借及び保守業務（東博、奈博）　・定期健康診断（東博）
・昇降機設備等保全業務（京博、奈文研）　・文化財用Ｘ線透過装置保守業務（九博）
・文化財情報ネットワークシステムソフトウェア保守業務（東文研）

特定の委託契約における再委託の適正化を図る措置については、一部の施設では、再委託を行う場合には、施設の承認が必要である旨契約書に明記しており、残る施設についても検討している。なお、21年８月に全施設で実施済み

超えた実績を出しているものと認められる。

である。

■外部資金の活用及び自己収入の増大

独立行政法人整理合理化計画（19 年 12 月）に基づき、外部資金の活用及び自己収入の増大に向けた定量的な目標を策定した。

(1) 機構全体において、入場料収入（共催展を除く）及びその他収入について、1.16%の増加を目指す。

(2) 機構全体において、寄附金 226 件及び科学研究費補助金 76 件の確保を目指す。

・情報公開の実施状況

総務省「随意契約見直し計画」に従い、19 年４月１日以降の随意契約情報を、また、「独立行政法人整理合理化計画」（平成 19 年 12 月 24 日閣議決定）に従い、20 年１月１日以降の契約に関する情報を当機構ＷＥＢサイトにて公開している。

・監事監査での特定の契約に係る監査状況

監事監査実施にあたり、対象とする契約の基準について書面化し、チェックリストを作成することで監査手順を明確にしている。特定の契約については、陳列品購入に係る契約の他、落札率95%以上若しくは応札者１者の契約とし、監査の結果、指摘等はなかった。

・一般競争入札における１者応札率

19 年度一般競争入札応札者数別内訳						20 年度一般競争入札応札者数別内訳					
1者		2者以上		計		1者		2者以上		計	
件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
45	41%	66	59%	111	100%	55	40%	81	60%	136	100%

随意契約の見直しにより、一般競争へ契約を移行しているため、20年度一般競争の件数は増えている。

しかし、機構のＨＰ上で各施設の入札情報を公表する等し、応札者数の増に努めたところではあるが、全体に占める1者応札者数の割合はほぼ昨年度と同様（微減）となった。なお、21年７月に機構のＨＰ上で「一者応札・応募の改善方策」を公表した。

【一般管理費効率化率】目標：中期目標期間中15%以上減（中期計画）、指標：対前年度比

A	B	C	実績	定量的評価
3.20%以上	2.24%以上 3.20%未満	2.24%未満	0.93%増 （施設整備費補助金加算額消費税等を除いた場合4.07%減）	C （Ａ）

・対前年比度0.93%増となっているが、建物未完成による施設整備費補助金に対応する消費税が一時的に加算されているため、その加算額及び退職金を除いたベースでは対前年度比4.07%の減となる。

【業務経費効率化率】中期目標期間中５%以上減（中期計画）、指標：対前年度比

A	B	C	実績	定量的評価

1.03%以上	0.72%以上 1.03%未満	0.72%未満	6.95%減	A

【省エネルギー】指標：対前年度比（中期計画）

A	B	C	実績	定量的評価
1.03%以上	0.72%以上 1.03%未満	0.72%未満	8.34%増 （単価が前年度ベースの場合2.30%減）	C （A）

【法人統合による一般管理費の減額】目標：統合後５年間中10%相当減（中期計画）、指標：対前年度比
平成20年度一般管理費

A	B	C	実績	定量的評価
2.09%以上	1.89%以上 2.09%未満	1.89%未満	1.52%減 （施設整備費補助金加算額消費税を除いた場合6.95%減）	C （A）

・対前年度比1.52%減となっているが、建物未完成による施設整備費補助金に対応する消費税が一時的に加算されているため、その加算額を除いたベースでは対前年度比6.95%の減となる。

自己評価

管理経費については、0.93%の増となっているが、施設整備費補助金による消費税の一時的な加算分と退職金の増分を除くと、4.07%の減となる。また、業務経費は6.95%の減となっており、全体として効率化は達成できていると評価できる。

省エネルギー、リサイクルの推進に関しては、冷暖房の省エネ運転やエレベータ利用の自粛、より効率の良い空調機器への交換、太陽熱発電、雨水の併用等により光熱水料の節減に努め使用量は減少した。金額は、国際的な原油価格高騰に伴う電気及びガスの燃料費単価の上昇のため目標達成に至らなかったが、単価を19年度ベースにした場合、対前年比2.30%の減となる。

一般廃棄物排出量に関しては、4.00%増となり、目標である1.03%減を達成することができなかったが、特殊要因の東京国立博物館東洋館引越及び、京都国立博物館平常展示館の建替に伴う排出量を差し引くと9.30%減となり目標を達成している。

民間委託の推進に関しては、電気設備保守等の各種保守業務、清掃業務、警備・監視業務等について、大部分を民間委託しており、今後も継続して民間委託を進めていく。また、東京国立博物館及び東京文化財研究所の施設管理運営業務について、21年10月からの民間競争入札を実施に向け、準備を進めている。

随意契約については、競争性のある契約への移行を進め、契約総数に占める随意契約の割合は件数、金額共に減少させており、今後も引き続き契約の適正化に向けて見直しを進めていく。

契約情報の公表については、国立文化財機構契約情報公表要項により、20年４月１日以降の競争契約および随意契約に関する情報を当機構ＷＥＢサイトにて公開しており、公表に努めている。

2 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回以上事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改	**2．外部評価等の実施** ○事務事業改善のための外部評価及び職員の研修を実施すること。 ○コンプライアンス体制（倫理行動	**主な実績** **事業評価** ・実績報告書作成時の自己点検評価の実施（年１回） ・外部評価委員会の開催及び外部評価報告の実施 機構の外部評価委員会は、機構の行った自己点検評価について評価を行うことを任務として設置しており、現在14名で構成されている。委員会には、総会と別に博物館調査研究等部会及び研究所調査研究等部会が置かれ、機構の調査研究等の実績に関する評価について特に専門的な立場で評価を行い、委員会に報告することになっている。（20年度の外部評価については21年４～５月に実施済（研究所調査研究等部会・博物館調査研究等部会、総会（各１回）。）	**評定　A** コメント 内部統制やコンプライアンスの整備・運用については、従来から取り組んできているが、当該年度においては、公的研究費の調査、内部監査の実施、そして監事監査

善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。	規程の策定、第三者を入れた倫理委員会等の設置、監事による内部統制についての評価の実施）を整備すること。	・監事による業務・会計監査の実施（年１回） ・文部科学省独立行政法人評価委員会国立文化財機構部会による評価 ・総務省独立行政法人評価委員会による評価 ・監事による各施設の臨時監査（計３回）を実施した。 東京国立博物館（21年２月16日）、九州国立博物館（21年３月５,６日）、 奈良文化財研究所（21年１月26日,27日） ・接遇研修会、普通救命講習会、ＡＥＤ操作講習会等の研修を実施 **職員の意識改革** ・運営改善コンクールを実施（39件の応募中入選4件）。職員の運営の向上、職員の意識改善を図った。 **コンプライアンス体制の維持、内部統制の整備** ・「独立行政法人国立文化財機構職員倫理規程」及び「独立行政法人国立文化財機構役員の倫理に関する取り扱い」等を策定し、転任者も対象とした初任者研修時に説明を行い、職員の意識改善を図っている。 ・いままで各施設での制定等で運用していた「文化財購入に関する手続き」等の規定について、機構全体として透明性を図る観点から、統一した規定として整備した。 「独立行政法人国立文化財機構有形文化財の収集等に関する規程」 「独立行政法人国立文化財機構修理契約委員会要項」 公募・企画競争に係る手続き等に関する標準マニュアル ・決算業務については、決算作業開始を早期化し 20 年末に決算準備を開始するとともに、詳細な決算スケジュールを作成し、決算に必要となる資料・データについて各施設に周知することにより、20 年度決算は予定どおり順調に完了することができた。 ・文化庁からの「研究機関における公的研究費の適正な執行等のための取組の徹底について（通知）」に基づき機構職員及び取引業者のうち調査対象者について公的研究費の適正な執行等のための取組の調査を行った。（20年９月） ＜調査結果＞ 職員（公的研究費に係わる事務職員及び全学芸系・研究系職員を対象） ：預け金・プール金の有無　該当なし 取引業者（上位10社または50万円以上の取引を行った業者のいずれか少ない数の業者を対象） ：預け金の有無　該当なし ・本部及び各施設において内部監査を実施した。会計監査では科学研究費補助金等を監査し、給与簿監査では出勤簿等について全般的な監査をした。 ・専任の経理課室長を新たに配置し、契約業務等の体制を強化した。 ・会計監査人による財務諸表に関する監査を実施し、特に改善を要する指摘はなかった。 ・監事の定期監査においては、「内部統制の確保を図るための体制の整備状況」について監査を重点的に実施し、具体的には規定の整備状況、内部監査の実施状況等について監査を行い、特に改善を要する指摘はなかった。 **自己評価** 20年度は統合の２年目であり、昨年度定めた評価方法を着実に実施することができた。 職員の意識改革については、運営向上コンクールを実施し、入選した提案については、実際に採用している。今後も、職員の意識改革にも継続的に実施していきたい。 コンプライアンス体制の整備に関しては国会等で指摘されたことを踏まえ、文化財の購入方法を機構全体で統一し、透明性を向上させた。	において内部統制をテーマに取り上げている。また、外部評価の実施、職員の運営改善コンクールなども評価でき、職員の意識改革は進んでいるものと認められる。 特に、運営改善コンクールを実施し、その提案を採用実施したことを評価する。 前年度に指摘した財務に関する内部統制の不備については、改善されているとの報告を受けた。また、決算事務も事務局長通知や経理等の努力によりスムーズに対応できたのではないかと思われる。 普通救命講習会、ＡＥＤ操作講習会等の研修は観覧者向けと考えられるが、バックヤード、建築・設備管理を含み、また展示替えや文化財の搬入・搬出に供え、恒常的な安全管理に努めて欲しい。 今回、九博の機械設備保守業務において、死者並びに重傷者が出たが、新しい設備であるだけに、例え民間受託者であれ、施設管理者としてその原因究明と再発防止に向けて努力されたい。内部統制やコンプライアンスの実効性を高めるため、今後も役職員に対する教育や信頼できる委託業者の確保に努めることが重要。
３　機構が管理する情報の安全性向上のため、必	**３．情報の安全向上** ○機構が管理する	**主な実績** ・19年度に整備した情報システム管理規程に基づき、各種セキュリティ手順を整備。 ・情報セキュリティ自己点検評価を行うと同時に、奈良国立博物館を対象に①情報システムにかかる内規の整備状況、②ネ	**評定　Ａ** コメント 前年度に引き続き、情報セ

<table>
<tr>
<td>要な措置をとる。</td>
<td>情報の安全性向上のため、必要な措置をとること。</td>
<td>ットワーク構成図、保守業務報告書等の文書確認、③システム運用状況を担当者に確認、④サーバ設置場所の実見についての情報セキュリティ監査を行うと共に現場担当者とのシステムにかかる日頃直面している諸課題についての意見交換を行った。なお、特に指摘する事項は無かった。

自己評価
19年度に整備した情報システム管理規程に基づいて、ＣＩＯを中心として具体的な手順を作成することができ、評価、監査を行った。情報セキュリティは機構のもつ情報の安全性を向上させるためにも重要であるので、今後も継続的に向上させていきたい。
また、21年度導入予定のグループウェア共通化を契機として、機構全体のネットワーク基盤整備について検討を進める必要があると考える。</td>
<td>キュリティの強化は進められていることを評価する。
今後は、奈良博の実施ケースを踏まえ、ＩＣＴ監査を機構全体で実施し、セキュリティの弱点があれば強化・改善して欲しい。</td>
</tr>
<tr>
<td>4 「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」（平成18年法律第47号）に基づき、国家公務員に準じた人件費改革に取り組み、平成18年度からの5年間において、△5%以上の人件費削減を行う。また、国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与体系の見直しを行う。更に、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006」（平成18年7月7日閣議決定）に基づき、国家公務員の改革を踏まえ、人件費改革を平成23年度まで継続する。ただし、今後の人事院勧告を踏まえた給与改定分については削減対象から除く。また、削減対象の「人件費」の範囲は、各年度中に支給した報酬（給与）、賞与、その他</td>
<td>４．人件費の削減、給与体系の見直し
○平成18年度からの５年間において△５％以上の人件費削減を行う。
○また、役職員の給与に関し、国家公務員の給与構造改革を踏まえた、地場賃金の適正な反映、年功的な給与上昇の抑制、勤務実績の給与等への反映等に取り組むこと。</td>
<td>主な実績
・総人件費改革に基づく人件費の削減を行った。
・人事給与統合システムが20年４月から稼働し、機構全体として統一的な処理ができるようになった。さらに人件費の削減に向けたシミュレーション等により人件費に関する計画を円滑に企画・立案することができた。

■人件費削減の状況
<table>
<tr><th></th><th>17年度
（Ａ分類
実績ベース）</th><th>18年度</th><th>19年度</th><th>20年度</th><th>22年度目標値
（17年度比
△5.00%）</th></tr>
<tr><td>実績（千円）</td><td>2,878,750</td><td>2,789,360</td><td>2,773,688</td><td>2,745,389</td><td>2,734,812</td></tr>
<tr><td>前年度に対する削減率</td><td>－</td><td>△3.11%</td><td>△0.56%</td><td>△1.02%</td><td>－</td></tr>
<tr><td>17年度に対する削減率</td><td>－</td><td>△3.11%</td><td>△3.65%</td><td>△4.63%</td><td>－</td></tr>
<tr><td>17年度に対する
削減率（補正値）</td><td>－</td><td>△3.11%</td><td>△4.35%</td><td>△5.33%</td><td>－</td></tr>
</table>
【人件費削減率】平成18年度以後５年間中５％以上減（中期計画）、指標：対前年度比
<table>
<tr><th>Ａ</th><th>Ｂ</th><th>Ｃ</th><th>実績</th><th>定量的評価</th></tr>
<tr><td>1.03%以上</td><td>0.72%以上
1.03%未満</td><td>0.72%未満</td><td>1.02%減</td><td>Ｂ</td></tr>
</table>
※１．表中の「補正値」とは、「行政改革の重要方針」（平成17年12月24日閣議決定）による人事院勧告を踏まえた官民の給与較差に基づく給与改定分を除いた削減率である。なお、平成18年、平成19年、平成20年の行政職（一）職員の年間平均給与の増減率はそれぞれ0%、0.7%、0%である。
２．レクリエーション経費は運営費交付金からの支出はない。レクリエーション経費以外の福利厚生費（法定外福利費）は慶弔費のみで269千円であり、退職者等の増加で48千円の微増があった。また、国とは異なる諸手当は機構にはない。

自己評価
18年度から「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」（平成18年法律第47号）に基づき、５年間で５％の人件費の削減が政府方針で決められている。20年度は対前年度比では△1.02%、17年度決算比では4.63%の削減となっており、中期計画の達成に対しては順調に進捗していると考えている。今後も継続的に業務の効率化等を図り、人件費の削減に取り組んでいく。
また、国家公務員の給与構造改革を踏まえた、給与体系の見直しにも取り組んでいく。</td>
<td>評定　Ｂ
コメント
目標期間５年間中における３年間の達成度としてみて、人件費削減は順調に進んでいるものと認められる。
しかし、１人当たりの業務量は増大しており、機構全体として適切な配置を期待する。
なお、シミュレーションとの整合性や全体が俯瞰できる工夫などわかりやすく説明して欲しい。</td>
</tr>
</table>

の手当の合計額とし、退職金、福利厚生費は含まない。 　その際、役職員の給与に関し、国家公務員の給与構造改革を踏まえた、地場賃金の適正な反映、年功的な給与上昇の抑制、勤務実績の給与等への反映等に取り組む。			

Ⅲ　財務・人事

評　定
A

評価のポイント

　中期計画通りに履行し、中期目標に向かって堅実に努力した結果、全体的に達成できているものと思われる。
　運営費交付金の減少にも関わらず、自己収入確保等を図り、利益余剰金を出せたことは高く評価できる。外部資金の獲得も昨年よりは減少したものの科研費は昨年を上回った額を獲得し、多くの成果を得ている。
　人事面については人件費削減状況の中で制度に弾力性を持たせ、新規採用職員を必要数確保したことが認められるが、今後の人事の目標・方針については人事交流などを含め、はっきりしない部分もある。機構において必要な人員・職種をきちんと整理・検討し、組織横断的に取り組みながら、現場職員の負担減も目指して欲しい。

中期計画

　管理業務の効率化を図る観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算による運営に努める。
　また、収入面に関しては、実績を勘案しつつ、税制措置も活用した寄付金などの外部資金、施設使用料等の財源の多様化を図り、法人全体として積極的に自己収入の増加に努めることにより、計画的な収支計画による運営を図る。
１　予算（中期計画の予算）
別紙のとおり
２　収支計画
別紙のとおり
３　資金計画
別紙のとおり

Ⅳ　短期借入金の限度額
短期借入金の限度額は、16億円
短期借入金が想定され

主な計画上の評価指標

１．予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画（中期計画Ⅲ）

○外部資金等を積極的に導入することにより、計画的な収支計画による運営を図ること。
○適切な効率化を見込んだ予算による運営に努めること。
○税制措置も活用した寄附金などの外部資金、施設利用等の財源多様化を図ること。
○法人全体として積極的に自己収入の増加に努めること。
○総利益を計上した場合には目的積立金を申請すること。

主な実績及び自己評価

主な実績

■平成 20 年度収入状況　（単位：千円）

収　　入	予算額	決算額	差引増減額	備　考
運営費交付金	8,771,089	8,771,089	0	
施設整備費補助金	1,698,075	1,872,138	174,063	前年度からの繰越
展示事業等収入	1,108,959	1,786,055	677,096	特別展の入場者増
受託収入	26,000	513,836	487,836	当初見込外契約の増加
その他寄附金等	0	126,920	126,920	
計	11,604,123	13,070,038	1,465,915	

　決算額の収入は予算額と比較して804,016千円の増加であった（施設整備費補助金、受託収入を除く）。増加の主な理由は特別展における入場者数が目標値を超えたことによる。受託収入は予算額26,000千円に対して487,836千円の増加となっている。予算額と決算額の差異が多額になっているのは、高松塚古墳・キトラ古墳関連の受託業務など、当初の収入見込みになかった受託発掘調査、受託調査研究の契約等があったためである。

■平成20年度支出状況　（単位：千円）

支　　出	予算額	決算額	差引増減額	備　考
運営事業費	9,880,048	9,779,137	100,911	
管理経費	1,995,591	2,006,318	-10,727	
人件費	908,763	833,063	75,700	
一般管理費	1,086,828	1,173,255	-86,427	消費税の一時的加算
業務経費	7,884,457	7,772,819	111,638	

評価委員会による評価 評価基準　SABCF

評定　A

コメント

　運営費交付金減少の中で３億円の利益を上げたことは評価できる。
　前年度と同様、特別展における入場者数の増加が展示事業等収入の増加につながり、関連経費を大きく上回ったことによるものであり、前年度実績と比較しても増加している。
　特別展の入場者増の努力は評価でき、今後も、良い企画を期待する。ただし、展示関連収支については、もう少し説明を工夫して欲しい。
　制度上、予算設定時に見込めない受託関係及び施設整備関係の乖離については、「主な実績及び自己評価」を見た限りでは特に問題はないと判断する。
　費出のうち収入連動費用（展示関連費用）を引いた経費部分の節減を常に意識して取り組まれたい。

る理由は、運営費交付金の受入れに遅延が生じた場合である。

Ⅴ　重要な財産の処分等に関する計画
①　京都国立博物館新館の取り壊し予定。
②　奈良文化財研究所本館改築計画の実施に伴い取り壊し予定。

Ⅵ　剰余金の使途
　決算において、剰余金が発生した時は、次の購入等に充てる。
１　文化財の購入・修理
２　調査・研究、出版事業の充実
３　展覧会の充実
４　入館者サービス、情報提供の質的向上
５　国際協力
６　老朽化対応のための施設設備の充実

人件費	2,726,741	2,674,361	52,380	
調査研究事業費	1,444,536	1,448,186	-3,650	
情報公開事業費	155,600	145,590	10,010	
研修事業費	21,832	22,130	-298	
国際研究協力事業費	304,957	229,406	75,551	
展示出版事業費	158,517	111,928	46,589	
展覧事業費	2,950,925	3,078,798	－127,873	特別展に係る経費の増加
教育普及事業費	121,349	62,420	58,929	
施設整備費	1,698,075	2,106,223	-408,148	前年度からの繰越
受託事業費	26,000	502,796	－476,796	当初見込外契約の増加
計	11,604,123	12,388,156	－784,033	

決算額の支出は、予算額と比較して 784,033 千円の増となっている。増加しているのは、一般管理費 86,427 千円、展覧事業費 127,873 千円、施設整備費 408,148 千円、受託事業費 476,796 千円である。
一般管理費は消費税加算額、展覧事業費は東京国立博物館の特別展に係る経費の増、施設整備費は前年度からの繰越、受託事業費は、高松塚古墳・キトラ古墳関連の受託業務などを始めとして、当初の支出見込みになかった受託発掘調査、受託調査研究の契約増によるものである。

○外部資金の獲得状況
科学研究費補助金　327,239千円　（19年度　289,770千円）
研究助成金　30,192千円　（19年度　39,395千円）
寄附金　109,630千円　（19年度　147,854千円）
合計　467,061千円　（19年度　477,019千円）
科学研究費補助金の採択金額は増加している。

○利益剰余金
期末の利益剰余金は1,018,969千円であり、その内訳は前中期目標期間繰越積立金13,928千円、積立金701,196千円、当期未処分利益303,845千円となっている。
前中期目標期間繰越積立金は、主として自己収入により取得した固定資産の減価償却費に充てるための積立金である。
積立金は独立行政法人通則法第44条第１項に基づく積立金で、損益計算で損失を生じた場合に充当できるものである。
当期未処分利益は今期の損益計算により生じた利益で、主な発生要因は特別展の入場者数増により展示事業等収入の決算額が予算額を上回ったためである。当期未処分利益については、下記のとおり目的積立金を申請予定である。

○目的積立金の申請
当期総利益303,845千円のうち、中期計画の剰余金の使途において定めた博物館・研究所業務に充てるため、303,775千円を目的積立金として申請する。
当期総利益のうち70千円は目的積立金の申請対象としていないが、これは、国から承継した固定資産の売却益（67千円）及び預金利息による利益である。

○運営費交付金債務の執行状況

		運営費交付金債務は当期交付分のうち1,349,950千円の繰越を行った。（【参考資料２】貸借対照表の経年比較を参照。）これは陳列品購入で、買取の協議が今年度内に整わず次年度購入することになったこと等によるものである。 なお次年度購入予定であるため、業務運営に与える影響はない。 **自己評価** 法人全体で自己収入確保に努め、目標額を達成した。	
Ⅶ　その他主務省令で定める業務運営に関する事項 １　人事計画に関する計画 （１）方針 ①　国家公務員制度改革や類似独立行政法人等の人事・給与制度改革の動向を勘案しつつ、職員の能力や業績を適切に反映できる人事･給与制度を検討し、導入する。 ②　調査研究の機動的実施など研究を効率的かつ効果的に実施するため、任期付研究員制度を導入する。 ③　人事交流を促進するとともに、職員の資質向上を図るための研修機会の提供に努める。また、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用する。 （２）人員に係る指標 常勤職員については、その職員数の抑制を図る。 （参考１） １）期初の常勤職員数　367人 ２）期末の常勤職員の見込み　355人 （参考２）中期目標期間中の人件費総額見込	**２．人事計画に関する計画**（中期計画Ⅶ１） ○職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度の検討・導入を図ること。 ○任期付研究員制度の導入を図る。 ○人事交流、職員の研修等に努めること。	**主な実績** ・平成19年度においては、技術職員及び技能・労務職員について、当面対象とする職種を絞って機構独自で採用可能とする規定の整備を行い、20年度において技術職員（写真技士）を京都国立博物館で１名、また労務職員（衛士）を奈良国立博物館で１名採用 ・20年度においては、さらに規定の適用を広げ、国立大学法人等職員採用試験の活用を原則としつつも施設の維持管理を行う技術職員（電気）を東京国立博物館で１名独自選考を実施。また、技術職員（写真技士）を奈良国立博物館で１名独自選考を実施 ・常勤の研究職員に準じた有期雇用職員（アソシエイトフェロー）の人事制度を新たに整備して、東京国立博物館で１名、東京文化財研究所で３名を採用 ・３名の常勤の事務職員を新規で採用（本部事務局２名、奈良文化財研究所１名） ・17名の常勤の研究職員を新規で採用（東京国立博物館２名、京都国立博物館１名、奈良国立博物館１名、九州国立博物館２名、東京文化財研究所３名、奈良文化財研究所８名） ・人事交流の実績 事務系職員：東京大学、東京医科歯科大学、京都大学、大阪大学、九州大学及び西洋美術館等との人事交流を実施 ：東京都特別区との人事交流を実施 研究系職員：文化庁（13名）との人事交流の実施 ・新任職員やそれ以外の職員も対象とした各種研修（３件）及びハラスメント防止等委員会委員及び相談員等を対象としたハラスメント研修（１件）の実施。また、他機関で実施する研修に積極的に参加 **自己評価** 19年度に整備した技術職員等の雇用の規定により、20年度は機構全体に２名の採用と２名の選考を行い、独立行政法人の特性を生かした人事制度の運用が図られた。また、常勤の研究職員に準じた有期雇用職員（アソシエイトフェロー）の人事制度を整備したことによって、優秀な人材を機動的に採用することが出来るようになった。 人事交流については、事務系職員においては、大学法人や他の独法との間での交流だけでなく、地方公共団体とも交流を図っており、今後も継続的に交流を進めていきたい。大学法人以外は、現在は受入れが中心であるため、今後、相互交流を図ることを検討したい。研究系職員については、19年度同様、文化庁との双方向の人事交流は活発に行われているが、今後は大学等との交流の拡大が課題である。しかし、退職手当の通算ができない場合が多く、難しい問題がある。	**評定　A** コメント 厳しい定員管理の下で人件費を削減しながら、独自の採用規定などの作成により有期雇用職員を採用するなど、ベストエフォートを評価する。 17名の常勤の研究職員を新規採用できたことは良かったと思う。 職員の構成バランスは、重要である。有期雇用職員の制度をうまく活用しながら、次世代人材の育成も充実を図って欲しい。 各館・研究所などの職種・定員等を検討し、研究員・学芸員に自然科学系・工学系職員を配置することにも配慮されたい。 また、職場での安全教育の実施及び安全確保にも努力されたい。

額　14,343百万円 　但し、上記の額は、役職員に対し支給する報酬（給与）、賞与、その他の手当の合計額であり、退職金、福利厚生費を含まない。 ２　別紙のとおりの施設整備に関する計画に沿った整備を推進する。			

２．独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会評価

(1)外部評価委員会報告

はじめに

本委員会では、機構の自己点検評価を全体として適切に自己点検評価が行われているかをはじめとして、統合による事業の相乗効果、効率的な運営などについて、客観性のある評価に努めた。

なお、収入・支出の決算については、決算途上であることから概要を評価するにとどめ、本委員会の審議から除外した。これは、現状の評価スケジュールを考えるといたしかたない面があるが、独立行政法人の評価を担当する関係機関に対し適正な自己点検評価ができる十分な期間確保を働きかける必要があるとともに、暫定版で差し支えないので、財務状況がわかる財務諸表の要約版と予算等との比較表の作成が間に合うよう一層の努力を要望する。

総　評

独立行政法人国立文化財機構の 20 年度の実績は全体として高く評価でき、自己点検評価も概ね適正に行われていると評価できる。特に、日本の文化財を守るために、文化財の収集、修理や文化財に関する調査・研究の実施や歴史・伝統文化の国内外への発信については、ナショナルセンター機能を担う国立文化財機構として、その実績が高く評価できる。

数値目標の設定や評価基準については 19 年度に比して改善されているが、その数値の基準が必ずしも明確ではなく、各担当者の裁量により数値を算出しているものもある。今後は、基準を本部で統一するなど、より明確な評価基準を設ける必要がある。

国立文化財機構は国立博物館と文化財研究所が統合して 2 年目であるが、それぞれの独自性を活かすとともに、共同研究などの連携した事業の実施を期待したい。特に調査研究・ナショナルセンターとしての取組みは相互の協力が不可欠な事業である。お互いの専門性を活かした連携を期待する。また、それぞれの施設における知見を他の機構内の組織にも広めるよう努めてほしい。

今後は、国内外問わず文化財についてのナショナルセンターとしての役割がより求められるようになるので、その期待に応えられるよう基礎研究及び応用研究にしっかりと取り組んで、質の高い運営を実施していくことを期待する。

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

収蔵品の整備、次代への継承については、概ね適正に行われており、自己点検評価も妥当であると評価する。

文化財の収集については、各博物館とも運営費交付金が増えない中で有形文化財のより一層の整備を進めるための努力がなされている。特に、京都国立博物館では展覧会開催をにらんだ効果的な文化財が収集されている。東京国立博物館で寄附金による購入なども行われているが、世論喚起などを通して、充分な購入予算を確保するとともに、寄贈、寄託の増加に向けた積極的な取組みが必要だと思われる。なお、文化財の購入に関しては、その必要性を十分にアピールするとともにそのプロセスの透明性も一層高められたい。

文化財の管理・保存・修復に関しては、建物の耐震化、九州国立博物館における X 線 CT スキャナー等の三次元計測装置により展示品の構造解明のような科学的な保存修復など着実に実行されている。特に九州国立博物館では充実した施設を活用した計画的な修理が長期的な視野に立ってなされていると評価できる。保存カルテの作成状況についても、東京国立博物館でめざましい成

果を上げているなど取り組みがなされているが、実績の評価という意味では、作成件数だけでなく、必要な全体量に対する達成状況などその進捗状況を示してほしい。また、各博物館では虫トラップ、温湿度データ管理、空気環境調査の解析等様々な活動を行っているが、それらが各博物館の中だけでしか活用されていないような印象を受ける。機構全体で情報を共有し、相互に検証しあうような体制が必要ではないだろうか。

文化財の収集・保存・時代への継承は全体としては充分な取組みがなされているが、教育的な観点から文化財の大切さを伝える事も必要である。将来的には、このことが寄贈の増加にも繋がっていくと考える。

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信は、順調に実施され、自己点検評価も概ね適正である。

平常展については、高校生の無料化などの取り組みは評価できる。東京国立博物館で開催された特集陳列「黒田清輝のフランス留学」は、東京文化財研究所所管であった黒田記念館保管作品を展示し、国立文化財機構として統合した成果の一端を明示したことは高く評価できる。今後も研究所と博物館の共同の発信の試みを期待したい。

特別展については、全般的に入館者が多く、機構内の連携も見られるようになってきている。混雑時においての開館時間の延長などの取組みも評価できる。東京国立博物館「薬師寺展」、奈良国立博物館「法隆寺金堂展」など入館者の多かった展覧会や東京国立博物館「対決展」や京都国立博物館「暁斎展」のような、新たな切り口やテーマを示す展覧会など意欲的な展覧会が多くあったことは評価できる。九州国立博物館「工芸のいま展」は入館者が目標に達しなかったが、地域とのつながりという博物館の新しい可能性を拓く試みとして評価できる。東京国立博物館「スリランカ展」も目標入館者数には達していないが、日本になじみの薄い地域の文化を紹介するという国際親善という意味で評価できる。今後も学芸員の調査・研究活動をベースとした新たな視点を掲示するような独自の展覧会に期待したい。展覧会の評価の方法については、各館ともに展示の質ではなく入館者数に偏重した評価が見受けられるので、そうならないような自己評価と評価基準の提示をお願いしたい。

海外展については、醍醐寺展、サムライ展のように海外に日本文化を発信しているという意味でも評価できる。今後は、国際的な評価も高い保存修復技術と融合させた展示や海外の博物館等と文化財を相互に貸与して展示する「交換展」などより積極的に取り組んでほしい。

学習機会の提供は、各館でシンポジウム、講演会、トークショーなどきめの細かい対応が図られている。展覧会においても九州国立博物館「大絵巻展」の大スクリーンの映像や絵巻を動かす体験キット、「国宝天神さま展」の「学習帳」など教育普及の工夫を凝らした充実ぶりがみられ、子ども達も楽しく観覧することができたと評価できる。

快適な観覧環境は外国語パンフレットの作成、外国語パネルの設置など外国人対応から点字解説の作成、オストメイト対応トイレなどのバリアフリー化対応まで行っており評価できるが、障害者対応はまだ不十分であるので、いっそうの整備に向けた研究が必要である。その他においては、東京国立博物館の如来像のレプリカは精巧にできており、立体のレプリカにとしてはこれまでに比して非常に良い出来である。

3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

博物館のナショナルセンターとしての取組みは図録など研究成果の発信、海外研究者の招聘やシンポジウムの開催、地方博物館・美術館への文化財の貸与など幅広く行っており評価できる。自己点検評価も概ね適正である。しかし、指導助言については、ナショナルセンターとしてさら

に努力していただきたい。

海外の情報の受容という意味では、各施設とも国際シンポジウムを開くなど大きな成果があり、今後も積極的に海外の先進的な事例を紹介するなどして、ナショナルセンターとしての役割を果たしてほしい。一方の外国への情報発信機能は、出版物の外国語への翻訳を進めるなど積極的に進めてほしい。アブストラクト（要約）の英訳をインターネットに掲載するだけでも、海外からのアクセスに貢献できる。

研修事業については、修理や保存の技術的な研修のみになっているが、今後は展示企画、調査研究からボランティアの組織化にいたるまで、幅広い分野でのプログラムが検討されてもいいのではないか。

4　文化財に関する調査及び研究の推進

文化財に関する調査・研究は全体として適正かつ活発に行われていると評価する。自己点検評価も概ね適正である。今後は 4 館 2 所の連携を高め、個人単位ではなく、組織としての協力した調査・研究が望まれる。光琳屏風の金箔の調査などは研究所、博物館のそれぞれの長所を生かして共同研究として取り組むならば、より短時間により効率的な成果を挙げることができるのではないだろうか。ただし、それぞれの研究目的が異なるため、その実現を図るために、6 施設の会議の回数を現在より増やすなどして、連携を深めてほしい。

研究所の調査研究は、基礎的・先端的な文化財の調査研究の多方面にわたっており、充実した成果を上げていると評価できる。ユネスコの無形文化遺産保護条約の関係で無形文化遺産に関する関心が高まっているが、「文化的景観に関する調査及び研究」や民俗技術に関する調査・資料収集、無形文化財の保存活用関する調査研究など有意義な研究がなされているので、今後の貢献に期待したい。近代文化遺産に関する調査も今後一層重要度が増すと思われるが、継続的に研究され、成果を上げており評価できる。今後はこれらの成果を各国事例との比較研究などを通して広く公開されることを期待する。

博物館における調査研究も限られた予算の中で充実した内容となっている。外部資金も 19 年度より活発に活用されている点は評価できる。京都国立博物館「近世絵画に関する研究」のような基礎的な研究から、東京国立博物館「文化財のトータルケアシステム構築に向けた応用研究」などの科学的な研究まで幅広く行われている。また、奈良国立博物館の韓国、中国との共同研究や九州国立博物館のタイ王国芸術局国立博物館事業局との共同研究などナショナルセンターとしての役割も果たしている。しかし、東京国立博物館「特別調査金地屏風の金箔地についての調査研究」のように緊急性があり、期待もされている調査が進捗していないことは残念である。

5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進

アジアを中心として行っている文化財の保存・修復に関する国際協力は、世界をリードする水準にあり、特にアンコール、スコータイ、竜門石窟、バーミヤンの各遺跡の調査研究は世界的にも高く評価されていると思われる。保存科学・遺跡調査は今後一層の進展および継続的な実施が期待される。自己点検評価も概ね適正である。

また、諸外国の文化財保存修復専門家養成を積極的に進めており、高く評価される。とりわけ、アジア諸国における文化遺産を劣化から守るためには、我が国の貢献が期待されており、国立文化財機構へのアジア諸国関係組織の期待は大きい。在外日本古美術保存修復協力事業、ユネスコアジア文化センターへの研修協力など日本及び日本の文化財に対する諸外国からの理解を高めることに貢献している。国際協力は現地の調査からテキストの作成まで幅広い範囲で行われており、評価できる。

6　情報発信機能の強化

情報の発信機能については報告書や研究論集などの出版物が多様に刊行され、評価できる。このような刊行物を外部研究者や一般にも入手しやすいように、販売またはインターネットで全文公開することはできないか。また、調査・研究の成果を研究者向けだけでなく、一般向けに出版や展示施設の活用などの事業を通して、博物館と研究所で協力して情報を発信してほしい。

文化財防災情報システムの構築、各種データベースの作成、資料のデジタル化などの面では特に研究成果の発信が果たされているので、長期的な視点から、情報の更新・発信をお願いしたい。

情報の発信においては、日本語だけでなく、外国語による情報も充実してほしい。また、国別のアクセス件数を解析するは、今後の情報発信のあり方の再検討という意味で有効である。

マスメディアに取り上げられるような工夫が必要である。

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

地方公共団体等の文化財担当者に対する研修および連携大学院は長年の実績があり、安定した活動として大いに評価できる。今後は、専門的な調査・研究能力を活かして、高等教育への協力や学芸員・発掘調査担当職員等への研修・再検収の事業をさらに進めてほしい。博物館においても同様の取り組みはできないだろうか。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

業務の効率化については、限られた予算、人員の中で高い成果を上げていると評価できるが、計量上だけでなく、質的な効率化を目指し、担当理事の設置や各施設間の連携体制の構築などを図ってみてはどうか。文書のペーパーレス化を考える際は、バックアップなどに気をつける必要がある。

光熱水量の効率化については、電気料及びガス料が原油等コストの急騰により金額ベースでは上昇しているが、使用量は順調に目標を達成している。なお、コストの削減は限界に近づいているようであり、今後は増加している施設の貸し出しによる増収方策を考える方が有効であるので、料金の設定を含め、再検討が必要である。なお、自己収入増大計画の具体的数値目標を立てるためのワーキンググループが設けられたことは評価できる。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

運営費交付金が減少し続けているので、寄付金・入場料収入の有効活用や、競争的外部資金（科学研究費など）の獲得をさらに追求する必要がある。施設の耐震補強工事は順調に実施しているが、奈良文化財研究所の改築計画などを含めた総合的な計画を策定していただきたい。

Ⅳ　その他人事計画等

非公務員化のメリットを活かして、特殊技能を持つ人材を機構独自に採用できるようになっており、さらに 20 年度から任期付の研究員の人事制度が整備された。このことはより柔軟な人材活用ができるが、このような制度で採用された職員が他の職員に比べ、不利益をこうむらないよう配慮していただきたい。

人件費削減計画については、人事給与統合システムの稼働により、国立文化財機構全体として統一処理されるようになり、人件費の削減等の計画が円滑に企画できるようになったのはひとつの前進であるが、全体のバランスを配慮した計画を立てる必要がある。現在、人件費の削減は定年退職後の不補充と任期制の研究員の採用で対応しているようだが、人材育成という意味では、中長期的にはマイナス面が多くなってしまうことが危惧される。

なお、人件費の削減を図る際には、人員の削減や職員の給与の削減によって、職員が忙しさの

あまり疲弊したり、モチベーションが低下したりすることがないよう留意していただきたい。そのための職務給制度の導入は検討に値すると考える。

事務職員は、職員の意欲を高めるためにも人事交流は行うことは評価できるが、研究職員はそれぞれの専門分野があるので、それぞれの施設でどの専門が必要なのかよく勘案して新規採用、人事交流ともに行うべきである。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

委員長　　清　水　眞　澄（成城大学学長）

副委員長　横　里　幸　一（ＮＨＫプロモーション代表取締役社長）

委員　　稲　田　孝　司（岡山大学名誉教授）

委員　　岡　本　健　一（毎日新聞社客員編集委員）

委員　　小　林　　忠（学習院大学教授）

委員　　佐　藤　　信（東京大学大学院人文社会系研究科教授）

委員　　酒　井　忠　康（世田谷美術館 館長）

委員　　園　田　直　子（国立民族学博物館文化資源研究センター教授）

委員　　竹　本　幹　夫（早稲田大学坪内博士記念演劇博物館長）

委員　　玉　蟲　敏　子（武蔵野美術大学造形学部教授）

委員　　野　口　　昇（日本ユネスコ協会連盟理事長）

委員　　藤　田　治　彦（大阪大学大学院教授）

委員　　藤　好　優　臣（公認会計士）

委員　　森　　弘　子（福岡県文化財保護審議会専門委員）

(2) 外部評価委員会博物館調査研究等部会報告

独立行政法人国立文化財機構博物館調査研究等部会評価

部会長	小　林　　忠	（学習院大学教授）
	酒　井　忠　康	（世田谷美術館 館長）
	藤　田　治　彦	（大阪大学大学院教授）
	森　　弘　子	（福岡県文化財保護審議会専門委員）

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

◎博物館調査研究等部会

外部評価委員名
小林　忠

1　総合的な事項

国立博物館４館における調査研究は、各館の特性を活かしながら多方面に展開し、それぞれにおいて充実した成果を上げている。しかもそれらが調査のための調査に終わらず、研究成果を各館の展示活動、教育・普及事業等に反映していることも高く評価される。さらに、国立博物館として海外諸国の博物館・美術館とも連携・協力して国際的な共同研究を積極的に展開していることにも敬意を表する。

予算や時間の制約がある中で困難も伴うことも多々あろうが、今後とも現在の積極的な姿勢を保って活動を持続していくことが期待される。

2　自己点検評価に関する事項

自己点検評価は、各館ともほとんどがＡ与えており、Ｂがわずかに見えるのみと、概して単調、かつ甘い。日常業務の繁忙の中で成果が上がりにくい場合はその理由を掲げて、ＣやＦも有って良かろう。そうした厳しい自己評価の姿勢と、その成果を得られなかった事情の洗い出しもまた、今後の国立博物館における調査研究活動の充実、発展のために肝要かと思われる。

3　調査研究に関する事項

・東京国立博物館

国の中央博物館として多数の学芸員を擁し、多数・広範な研究を展開していることは圧巻である。

しかしながら、一つ一つの事例が全て満足のいく成果を上げているとも思われず、真摯な自己評価をすべきようにも思われる。

例「（４５１１０３）特別調査金地屏風の金箔地についての調査研究」

緊急性のある研究課題で成果が大いに期待されるにもかかわらず、実作を対象とした調査が年間に２度しか行われなかったのは誠に遺憾である。このような場合はほとんどの項目でＦではないのか。

・京都国立博物館

京都地域の寺社（建仁寺両足院ほか）に関する文化財の悉皆調査に成果を上げてきたことを高く評価する。

しかしながら、全般に業務実績書および自己点検評価調書への自由表記が内容希薄で、取り組みに消極的な姿勢が見受けられるのは遺憾である。

・奈良国立博物館

中国、韓国の国立博物館と共同研究を行っている姿勢を高く評価したい。

・九州国立博物館

文化財の保存、修復に関する研究、その基礎となる素材に関する研究など、独自の調査研究に注目し、今後の成果に期待したい。

4　その他

独立行政法人となってから、国立博物館の公的な調査研究事業は目に見えて活発化したと、評価される。しかしながらその多くが、企画展を前提する課題であったり、日常業務と直接関わるものに関連したりして、学芸員からの自由で創造的な課題の追求が許されにくい傾向にありはしないだ

ろうか。日常業務の繁忙を理由に個人の発意に基づく調査研究や知的追求がしにくい状況は、将来的には目に見えない形でマイナスの負荷がかかることと憂慮される。学芸員個々の研究時間の確保に配慮を望みたい。

◎博物館調査研究等部会

外部評価委員名
酒井　忠康

1　総合的な事項

問題意識を明らかにして計画を立てた通りの実績を上げていると思う。ただ成果を前提とした小規模計画が多いのが気になる。

2　自己点検評価に関する事項

計画通り実施されており、概ね評価できる。

3　調査研究に関する事項

基本的に予算が少ないため科学研究費補助金に頼らざるを得ない状況は理解できるが、調査研究から学会発表や論文作成への進展は、個人的な能力を問われる。その点の危惧を若干感じる。

4　その他

A）多種多様な業務にもかかわらず、丁寧な対応を心がけていて好感がもてる。しかし、人材の不足（特に研究領域）は否めない。

B）大型プロジェクトを企画して国内外の研究者を大勢参画させる機会を持つ必要がある。余りにも細分化した仕事ばかりなのではないだろうか。

◎博物館調査研究等部会

外部評価委員名
藤田 治彦

1　総合的な事項

東京、京都、奈良、九州の４国立博物館をあわせて（独）国立博物館が成立し、さらには（独）文化財研究所との統合により（独）国立文化財機構となってはじめての初めての外部評価、総合的な評価の実施であり、それに先立つ、自己点検評価など、これまでにない配慮が必要だったのではないかと想像する。組織改革の途上でのこの種の評価の実施はどの部局にとっても大きな負担であっただろうと思うが、有形文化財を収集・保管して国民および世界の人々への観覧に供するという４博物館の役割は、継続的かつ順調に果たされている。

2　自己点検評価に関する事項

自己点検評価報告書は全般的によくできており、各館における活発な活動が伝わる。ただし、業務実績書、自己点検評価調書ともに記入不足で、判断が困難な事業も含まれる。それらの事業の内容自体は優れたものである場合もあるのだが、それが適切に記述されなければ内容は伝わらない。かたちだけのものにならないよう、自己点検評価報告書のありかた、外部評価委員への送付の時期、日時を含む外部評価委員会の設定のしかた等、もう少し工夫ないし配慮が必要であろう。

3　調査研究に関する事項

東京国立博物館における漢籍・洋書の悉皆調査は非常に価値がある。将来的には情報アーカイブで公開を予定しているとのことだが、早期実現を期待したい。同館を中心とした、東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究も注目される。文化財のトータルケアシステム構築に向けた応用研究の実施も有意義である。

京都国立博物館における、京都を中心とした近畿地区の社寺文化財の調査は、長く行われているものだが、学術的にも、文化財の現状を把握し保存に役立てるという意味でも、極めて重要である。建仁寺土蔵の典籍の調査等がとくに注目される。

奈良国立博物館においては、日本における仏教美術の展開と、中国および韓国の仏教美術が及ぼした影響の研究が、両国との研究員の交流等も含めて、活発に展開されている。

九州国立博物館においては、有形文化財の保存修復に関する分析的かつ実践的研究が充実している。文献を重視した歴史的研究も行われつつあり、今後の進展が期待される。

4　その他

展覧会に関しては、海外における日本の文化の紹介にもさらに力を入れてほしいが、国内の展覧会は各館それぞれに充実し、入館者が極めて多いものもある。ただし、あまり入館者数に気をとられることなく、各館が一層独自性を発揮するべきだろう。4国立博物館はすべて「設置されている地方を代表する国立博物館」であり、「日本を代表する博物館」であり、「世界の主要博物館のひとつ」でもある。したがって、設置された土地だけに固執する必要はない。しかし、東京でも九州でも例えば近畿の社寺文化財等の展覧会が常時主体となるようなことになれば―京都と奈良は当然近畿の文化財を中心にしており―国全体としてのバランスに欠ける。関東・東北・北海道の文化財の調査・研究・保存・展観をリードするのは、規模からしても、東京以東に国立博物館が開設されていない現状からしても、やはり東京国立博物館であろう。九州国立博物館は、地元福岡県を重視する十分な理由はあるが、九州には、大分、宮崎、鹿児島、熊本、長崎、佐賀と、多様かつ重要な歴史と文化があり、その役割も一層意識してほしい。四国や中国地方はどうなのだろうか。（独）国立博物館さらには（独）国立文化財機構の成立が、人員削減や経営の合理化といったことではなく、日本の博物館自らが、日本やアジア、あるいは東京、京都、奈良、九州（福岡）を中心としながらも、世界全体を国際的視野で見ることにつながる、といった積極的意味で考えられるようになると有意義であろう。1991 年にヴェネツィアで開催されたケルト展のように、意外であると同時に十分な意味や背景があり、その後 10 年も 20 年も全世界に影響を与え続ける展覧会が、国立文化財機構の博物館から生まれることを期待している。

◎博物館調査研究等部会

外部評価委員名

森　弘子

1　総合的な事項

各館ともあらゆる面に於いて大変努力されていると感じられる。それは今回説明のあった「調査研究に関する事項」においても、展示の基礎となる有形文化財に係わる調査研究のみではなく、公衆への観覧を図る為の研究という課題があることからも窺われる。こうしたことを通じて、国立博物館が国民にとってますます身近なものとなり、何度でも足を運びたい場所となっていることは事実であろう。

2　自己点検評価に関する事項

今回から、自己点検評価調書記入の観点や基準値が明確に示されたため、記入する職員にとっ

ても評価委員にとっても、評価内容が理解しやすくなったと思う。

効率性、調査回数などで一部Ｂ判定がみられるものの、他の項目についてはほとんどＡ判定であるのは、職員の努力の賜とも思えるが、独創性の部分では、必ずしも独創的でなくとも、地道な基礎作業というべきものも必要であり、現にそうした部類に入ると思われる研究についてもすべてＡ判定になっているのは如何であろうか。

3　調査研究に関する事項

館独自の研究の他に、科学研究費補助金等による研究、企業、海外の博物館との共同研究など、外部資金投入による研究が、前年に比しより活発に行われ、良い成果が上げられていると感じられる。

資金的な活性化とともに、人的にも他館との共同研究、外部研究者との共同研究が活発に行われることにより、博物館の知的財産の蓄積が着実に行われていることは喜ばしいことである。日々行わなければならない展示等、館本来の業務との兼ね合いも大変なことと思われるが、可能な限りこうした調査研究が活発に行われることを期待する。

先端の科学技術を駆使した文化財の調査、あるいは技術そのものに関する研究が多くみられた。機器類は高価なものが多く、予算の手当等容易ではないと思われるが、導入できている館は責務としてさらに研究を進め、その情報を法人全体のものとして、あるいは地域博物館等とも共有し、今後の文化財の研究、保存のために資されることを望む。

国内の博物館の支援とともに、海外の博物館との共同研究、また支援にも意を注いだ研究がめだちNational Museumとしての役割をよく果たされていると感じられる。ことに九州国立博物館のタイ王国芸術局国立博物館事業局との共同研究は、文化財の保存によって地域活性化をはかるという、人びとの生活に直接コミットしたテーマであり、文化財の果たす役割の可能性を広げるものとして注目され、それが国際貢献という場でなされていることに大きな意義を感じる。

東京国立博物館の下総国下河辺庄の中世的景観の復元の研究に興味を覚える。古代遺跡等の考古学的研究による復元ジオラマ等はよく目にするが、文書、古地図、寺社など広汎なアプローチによって、詳細かつ正確な景観が復元され、展示にも活用されることを期待したい。

京都国立博物館の「近世絵画に関する調査研究」では、暁斎のような比較的知られていなかった画家について光を当て、予想以上の反響を得られたという。こうした新しい発掘にも努力されたい。

直接入館者数に結びつかない地味な研究であっても、常設展示の一部、あるいはスポット展など、何らかの方法で、国民に還元することを考えるべきであろう。

4　その他

九州国立博物館のIPMボランティアをされた方々が、NPO法人を立ち上げられたことはすばらしいことであり、今後とも連携しながらこの活動が広がっていくことを期待したい。

収蔵品の購入についてのルールと価格の決め方についてご説明願いたい。一部マスコミ等で問題にされたが、それを受けてどう対処されたか、改善されたかお伺いしたい。

(3) 外部評価委員会研究所調査研究等部会報告

独立行政法人国立文化財機構研究所調査研究等部会評価

部会長	佐　藤　　信	（東京大学大学院人文社会系研究科教授）
	稲　田　孝　司	（岡山大学名誉教授）
	岡　本　健　一	（毎日新聞社客員編集委員）
	園　田　直　子	（国立民族学博物館文化資源研究センター教授）
	竹　本　幹　夫	（早稲田大学坪内博士記念演劇博物館長）
	玉　蟲　敏　子	（武蔵野美術大学造形学部教授）
	野　口　　昇	（日本ユネスコ協会連盟理事長）

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

◎研究所調査研究等部会

外部評価委員名
佐藤　信

１　総合的な事項
○基礎的・先端的な文化財の調査研究の多方面にわたり、期待される成果を充分に挙げていると評価できる。中期計画の実施状況もきわめて順調である。研究成果の発信には充分な努力が為されているものの、せっかくの大きな実績が広く周知されていない面があり、研究者のみでなく国民全般に対して充分に発信するという面でさらに努力の余地もあるように思う。
○「年度計画」が、国立博物館については各館ごとの計画が分かる記載なのに対して、研究所については各所ごとの記載が見えにくくなっているのを、明示してほしい。

２　自己点検評価に関する事項
○限られた人員・予算の割に大きな実績を挙げていると思われる業務が多くあったが、人員・予算面での「効率」を評価の対象として比較する方法はないものか、お考えいただきたい。
○特許の取得や外国政府からの受賞があったが、その他論文書評や新聞報道件数など、この外部評価以外の他者からの評価についても、可能な範囲で情報を提示していただきたい。
○受託事業のほか、科学研究費などの獲得件数・金額なども実績として評価対象に加えてよいのではないか。
○外部評価は機構諸館所の業務を向上させるためのものであり、自己評価ではできるだけ定量評価を詳しく記載していただきたい。その際、不本意な実績の数値であってもすべて正確な提示に務めていただきたい。

３　調査研究に関する事項
○基礎的・先端的な文化財の調査研究の多方面にわたり、充分に成果を挙げていると評価できる。
○同じ国立文化財機構の中の機関として、所員・館員どうしの私的な交流のみでなく、研究所と博物館とが協力して調査研究成を行うタイプの事業はできないか。
○関連する学会への様々な形の協力も、実績として評価してよいのではないか。

４　国際協力の推進に関する事項
○東京・奈良の文化財研究所とも、文化財保存のための調査研究や修復に関する国際協力では、多分野にわたり、日本の研究所ならではの質の高い実績を挙げており、高く評価できる。
○国立文化財研究所において、世界文化遺産に関する調査・研究を推進することはできないか。

５　調査研究成果の発信に関する事項
○研究所の報告書・研究論集などの出版物が多様かつ大量に刊行され、成果の発信となっていることは大いに評価できる。こうした刊行物が、入手しにくい外部の研究者や一般にも販売されるようにはできないか。販売が困難なら、ＰＤＦで全文公開することなどはできないか。
○調査研究の成果を、研究者向け報告・論文のみでなく、一般国民に対しても分かりやすい形で出版するなど、発信していただきたい。また、研究所の展示スペースの活用のほか、外部の各地の博物館等での展示とか、大学の「オープンキャンパス」に似た公開事業などはできないか。
○同じ国立文化財機構の中の研究所と博物館とが、調査研究成果の発信事業を協力して行うことはできないか。

６　国、地方公共団体等に対する協力・助言等に関する事項
○国・地方公共団体等に対する協力・助言では、委託されたものなど多分野で高レベルの大きな実績を挙げていることは、評価できる。
○国立文化財研究所で、文化財研究における高いレベルを活かした高等教育への協力をさらに進めていた

だきたい。また、これに加えて初等・中等教育の学校教育との連携をも、進められないものか。東京国立文化財研究所が小学生向けの事業紹介パンフレットを作成・配布したことは良かったと思う。

7　その他

◎研究所調査研究等部会

外部評価委員名
稲田 孝司

1　総合的な事項

研究所は、歴史・考古学・建築史・美術史の研究から文化財科学にかかわる種々の研究分野まで、高度な研究を精力的に継続しており、とりわけ特許が成立した年輪年代学研究の成果は高く評価される。年輪年代学は日本へ本格的な導入が行われておよそ 30 年になり、めざましい成果を上げてきた分野だけに、国内の複数機関で競争的研究あるいは分業的・協業的研究が行えるよう裾野の拡大に努めることが今後の大きな課題となろう。そうした努力はすでに始められつつあるとのことだが、この分野に限らず、研究所で得られた研究成果や新しい研究手法等を国内の学界や関係機関にすみやかに伝えてひろく活用に供し、国際的な場においてもそれを多面的に役立てていくことが国独立行政法人としての研究所の基本的な役割と考えられ、この面でも東京・奈良の両研究所は本年度において多くの実績を残したといえる。

2　自己点検評価に関する事項

研究・業務部門ごとにまとめて説明する今回の部会運営方法は、時間のうえでは適切であった。ただ、来年度も同様に行うのであれば、研究・業務部門ごとにまとめた事業一覧もあわせてつけたほうがよい。

3　調査研究に関する事項

国際研究集会「オリジナルの行方―文化財アーカイブ構築のために」(No.67) は力のこもった企画で、多彩な発表と討論の成果が伺える。近代の文化遺産の保存修復に関する研究 (No.41) は、鉄構造物をともなう文化財が我が国文化財保護の歴史のなかでは新しい対象物件であるだけに、その保存・修復・活用にかかわる技術的な問題の解決が急がれており、時宜にかなって各方面からの期待も大きいと思われる。古社寺所在寺社の歴史資料調査 (No.6) や『平安時代庭園に関する研究２』の刊行 (No.22) などは、地の利を得て研究所らしい着実な成果といえる。平城宮第一次大極殿院回廊跡の調査 (No.9～13) が完結したことは今後の整備等とのかかわりで意味があり、藤原宮朝堂院において朝廷儀式の新たな資料をえた (No.16) 意義は大きい。甘樫丘東麓遺跡は蘇我入鹿邸宅ではないかと喧伝されるなかで、予断を排し客観的な歴史資料を得るためであったとすれば、今回の発掘調査 (No.18) において調査期間の延長を工夫することなどにより遺構の精査に努めたことは着実な姿勢といえよう。

4　国際協力の推進に関する事項

歴史・考古学研究と文化財保護にかかわるアジア諸国を中心とした国際協力 (No.23・39・40・44～51) については、例年通り意欲的に多彩なプロジェクトとして実施され、十分な成果をあげた。紛争等により日本から現地入りができない場合は関係国の研究者・技術者を研修の形で受け入れるなど、柔軟な対応がなされている。また、若い研究者を現地に長期滞在させて共同研究の深化と現地語の習得等をはかったことは、限られた職員数の条件下で研究所の他分野にも負担のかかる工夫ではあろうが、将来の長期的な国際協力の発展を見通した場合には十分意義があるといえよう。

5　調査研究成果の発信に関する事項

研究成果に基づく諸学会での発表、公開シンポジウムの企画、黒田記念館・飛鳥資料館など種々の場での展示活動、発掘調査現場における現地説明会開催、報告書や種々の印刷物の刊行、ホームページの活用、マスメディアへの情報提供等々により、質的にも量的にも十分な発信が行われている。中学生の職場体験の受け入れやキッズページの試作なども意義がある。

6　国、地方公共団体等に対する協力・助言等に関する事項

地方公共団体に対する研究・技術上のアドバイスでは、十分な貢献を行っている。国に関しては、とくに高松塚にかかわって果たした役割が大きい。

7　その他

特になし。

◎研究所調査研究等部会

外部評価委員名

岡本　健一

1　総合的な事項

長期・単年・緊急の課題とも、着実に遂行され、成果をあげていると認められます。ひきつづき職務に精励され、国家・社会の負託に応えられるよう期待します。

今年度は従前の「業務運営の効率化に関する事項」が入っていませんが、昨秋来の厳しい経済環境のなか、かぎられた予算と人手でふくれる需要（プロジェクト）にいかに効率的に対処するか、変わらぬ課題として追求されることを望みます。

2　自己点検評価に関する事項

厖大な時間を要する自己点検評価ですが、独法立ち上がり当時の、あの一種爽快な緊張感をもって、ひきつづき遂行されるよう期待します。

外部評価の進め方は、現行（国立文化財機構）の総合評価法が望ましいと考えます。文化財研究所時代の厳密な逐条判定法は、間接的であるだけに、教育現場の成績判定よりむずかしく、心身のストレスをつよく感じたからです。

3　調査研究に関する事項

飛鳥のイメージを一変させた石神遺跡の調査が一段落し、報告書のまとめにかかるとのこと。画竜点睛、学界・社会の大きな期待と関心に応えてほしい。同時に、次の「花のあるプロジェクト」を創出・挑戦し、広く社会にワクワクするような興奮を喚び起していただきたい。

今年度は自己評価Ｓが３件（年輪年代法の成果と平城宮大極殿扁額の復元研究、遺跡の探査）にとどまり、昨年度と比べてやや謙抑的ですが、地の塩のような地味な仕事（古社寺の古文書調査、庭園研究など）の、将来の大成も注目されます。

4　国際協力の推進に関する事項

広い地域、様々な材質の文化財について国際協力し、保存修復の科学・技術をよく伝習されている。また、文化財保存修復国際研究集会の報告書では、壁画保存計画策定の事例集がまとめられたという。高松塚壁画の教訓も世界の壁画保存に活かされれば、国際貢献とともに、高松塚の墓主と壁画への供養になりましょう。

5　調査研究成果の発信に関する事項

年輪年代測定の新しい技術が迅速に特許取得を果たし、他の年代測定法とともに顕著な成果をつぎつぎにあげられた。関係者の長年の精進研鑽と創意発明によって築かれた輝かしい金字塔です。しかし、邪馬台国問題ともからんで、一部で根強い反発も募っています。今後とも啓発活動や実績の積み重ね、情報公開によって、不動の信頼を確立されるよう期待します。

6　国、地方公共団体等に対する協力・助言等に関する事項

多岐にわたって適切に協力・助言されています。なかでも、文化財の防災こそ喫緊の重要課題である、と再認識させられました。国の文化財防災会議など関係機関、地方公共団体、民間ＮＧＯとも連携して、重大な使命を果たしていただきたい。

7　その他―部会の進行について

全体に「ポイントを押さえて要領よく、かつ丁寧に」説明されたが、部署ごとの担当＝進行表を配布していただくと、もっとスムーズに聴き取れたでしょう。たしか数年前まで用意してあったと記憶します。

◎研究所調査研究等部会

外部評価委員名

園田 直子

1　総合的な事項

各担当部課が数多くの事業を実施しながら、いずれにおいても充分な成果をあげており、大いに評価できる。ただ現在のフォーマットでは、プロジェクトごとの成果は充分に把握できるが、その間の関係が見えづらい。たとえば、担当部課間にまたがった活動、東京と奈良の文化研究所が協力した活動、さらには、文化財研究所と国立博物館との協力体制などの点もさらに強調していただけると、研究所の活動が、より一層、総合的に見えてくると思われる。

2　自己点検評価に関する事項

特許取得したプロジェクト（非破壊年輪年代測定法）の「S」判断は適切と考える。このような業績は、基礎データを継続的に蓄積しレファレンスを作成するという、地道な研究が実を結んだものである。現在「A」評価の基礎研究のなかにも、今後このように発展しうる可能性を秘めたプロジェクトがあると推測でき、期待している。

3　調査研究に関する事項

発表論文や報告集など実績値が多く、全体的に活発な研究活動が行われており、評価できる。

文化的景観や民俗技術、近代文化遺産といった、今後、重要性が一層増すことが予測できる分野の研究が継続実施され、成果を上げている。また、高松塚古墳・キトラ古墳における劣化防止対策は、模擬壁を用いての措置法が確立したということで、着実に効果を上げている様子がうかがえる。非破壊年輪年代測定法や小型可搬型機器での材質調査など、文化財の非破壊調査法に関わる研究において顕著な実績をあげるとともに、デジタル画像での応用調査、新たな保存技術の開発、生物劣化対策、保存・周辺環境調査、文化財修復材料調査など、幅広い分野に意欲的に取り組んでおり、ナショナルセンターとしての役割を充分に果たしている。保存環境研究は、博物館と研究所が一緒に取り組んでいるテーマという点でも注目しており、今後の展開を期待している。

4　国際協力の推進に関する事項

「紙の保存と修復」国際研修、在外日本古美術品保存修復協力事業、ユネスコアジア文化センターへの研修協力はいずれも、日本および日本の文化財に対する理解を諸外国で高める一翼を担っている、重要な事業である。文化財の保存・修復に関する国際協力は、アジアを中心に数多く実施されており、現地での調査・実験にとどまらず、人材育成、研究会開催、DVD 映像やテキスト作成と幅広い内容になっていることも評価できる。

5　調査研究成果の発信に関する事項

文化財防災情報システムの構築、各種データベースの作成、資料のデジタル化など、研究成果の情報発信に積極的に貢献している。このような活動は、順次、データを追加していくことで内容が充実していくので、長期点視点からの成果更新、発信をお願いしたい。また、研究論文集、報告書、年報、図録等の刊行をはじめ、各種研究集会や講演会、現地説明会、展示公開も活発に行われている。

日本の「文化財保護法」英訳の出版は、非常に意義深い。是非とも、多くの研究者に活用してもらえるよう、一般に公開していただきたい。

6　国、地方公共団体等に対する協力・助言等に関する事項

昨年度同様、地方公共団体等が実施する事業への援助・助言は、文化財、建造物・遺跡等の有形文化遺産のみならず、無形文化遺産も対象としており、各分野でバランスよく展開されている。

博物館・美術館等の保存担当学芸員研修や、埋蔵文化財担当者研修などを通じて、国内で各種文化財に関わる人びとの知識や技術の総合的なレベルアップに寄与している。さらには連携大学院教育で、次世代の人材育成に貢献している。

7　その他

特になし。

◎研究所調査研究等部会

外部評価委員名

竹本　幹夫

1　総合的な事項

全般にわたりきわめて充実した活動が繰り広げられており、問題とすべき点はとくに認められない。調査研究・国際協力・成果発表・情報発信・国や地方公共団体等に対する助言の全分野にわたり、すぐれた治績を上げたことが確認出来る。

2　自己点検評価に関する事項

目標はすべての点にわたり達成されており、一部の分野では目標を上回る成果があったことは高く評価出来る。なお自己評価の方法そのものが非常に洗練されており、学ぶべき点が多かったことを付言したい。

3　調査研究に関する事項

東京文研・奈良文研いずれも高度な研究がなされた。とくに評価者が担当した調査研究等部会の内で、東京文化財研究所の無形文化遺産部については、民俗技術の保存伝承までも含む広汎な分野をカバーしていながら、いずれの分野においてもかなりの成果を上げており、高く評価出来る。

全般に年報・紀要類には学界をリードするような高水準の論考が少なくない。また充実した施設・設備と人材を活用した共同研究体制は、わが国の文化財調査研究の優れた能力を証するものと

いえよう。小中校生徒に対する広報活動も、こうした専門的機関では難しい課題と思われるが、努力と工夫が認められる。

4　国際協力の推進に関する事項

アジア地域を中心とする国際協力にとくに注目すべき成果があった。保存科学や遺跡調査に関する活動には目を見張るものがあり、今後一層の進展が期待される。保存・修復技術の進歩も、世界をリードする水準にあるといってよい。

5　調査研究成果の発信に関する事項

多数の紀要・研究報告書等の刊行に加えて、それらをホームページでも閲覧出来る体制を取っているのは、今後の紀要類の成果発表方式を先取りしたものと評価出来る。ホームページの閲覧件数が伸び悩んでいるようであるが、逆に閲覧時間は増大している由であり、研究者による利用が着実に増加していることが推察される。

6　国、地方公共団体等に対する協力・助言等に関する事項

件数としては必ずしも多くないが、これは依頼する側の問題であり、研究所としての責務は十二分に果たされていると認められる。依頼件数を伸ばすためには、ダイレクトメールやポスター送付による直接的な広報などが考えられるが、予算もあることであり、現状は対応する価値のある助言や協力の依頼が中心を占めているようであるから、今後あえて相談件数拡大に努める必要はないように判断される。

7　その他

わが国の文化財行政の充実ぶりを実感できる活動が多く、非常に参考になった。組織として体系立った活動を展開していることが、確実な成果を生んでいると評価出来る。

◎研究所調査研究等部会

外部評価委員名
玉蟲　敏子

1　総合的な事項

- 今回の委員会では奈良・東京ともに事項ごとにまとめて報告をしていただけたので、年間の事業の全体が具体的に把握でき大変に助かった。
- 全体的に、昨年度は東京・奈良それぞれの事業は継続されたものを順調に進展させており、守成の時期であることが分かった。
- ただし、一般人にこのような分野の仕事に対する理解を深めてもらうためには、やはり話題性、訴求性、時宜性が必要である場合もあるので、そうした部分について視野が開かれていてよいのではないかと思われた。

2　自己点検評価に関する事項

- 自己評価およびプレゼンの表現方法については、奈良・東京ぞれぞれに個性があり、平準化して理解するのがなかなか難しいが、東京については、自己評価に対してやや謙虚になりがちのような印象を受けた。
- Ｓの連発された昨年度に比べ、今回は定性的、定量的評価はともにＡが多く、高望みはないが順調で安定性のある活動が行われたことがよく理解できた。

3　調査研究に関する事項

- 奈良・東京ともに概ね順調に進んでおり、安定感がある。
- とくに奈良の年輪年代法、東京の高精細ディジタル画像による文化財の調査などの独自の方法による調査研究が光っている。
- ただし独立行政法人という立場から、閉鎖性や独りよがりに陥らないよう、充分配慮して頂きたい。
- 東京の高精細ディジタル画像による調査は順調に用例を増やしており、点から面につなぐ発展への意欲があるものとして評価したい。
- 地震や剥離など文化財の保存に向けた調査・研究など、両組織の意義にも関わる分野について自覚的に推進している。

4　国際協力の推進に関する事項

- 奈良・東京ともに、従来からの事業の枠組みを守り、順調に推進されている。
- 日本と関係の深い東アジア、東南アジア、西アジアへの協力が特徴的であるが、このような継続性の高い事業の展開で築かれた信頼関係がますます積み重ねられ、強固になるように期待したい。

5　調査研究成果の発信に関する事項

- 東京のウェブを用いた情報発信は、次世代の国民となる児童にも視野を広げており大変に重要である。
- 奈良の遺跡の露出公開に関する調査研究も、情報発信を重くみての視点として理解できる。
- 奈良の厚みがあるものの、発信対象が従来の層にやや偏りがちな傾向に対して、東京は万遍なく行き届いている印象がある。

6　国、地方公共団体等に対する協力・助言等に関する事項

- 国や地方行政組織にたいする協力・助言もまた、奈良・東京とも伝統的ともいえる事業の厚みがあり、安定した活動となっている。
- 連携大学院なども次世代の教育として重要な事業であるが、それを受講した院生たちの進路についても今後のあり方を考える上で追跡調査があってもよいのではないか。また連携する大学院の範囲を広げていくことを模索する必要はないのだろうか。
- 地方公共団体の博物館・資料館に配属される保存担当者の講習、フォローアップは基盤の整備として重要な事業であるが、機関自体の存続が危ぶまれている現況であるにも拘わらず、順調に推進されていることに好印象をもった。

7　その他

- 例えば、東京の無形文化遺産部が行っている工芸技術の保存などは、ある時点において有形の保存事業と連携をとらざるを得ない状況が起こってくると思われるが、将来のそうした場合に備える検討が今後なされるよう期待したい。

◎研究所調査研究等部会

外部評価委員名
野口　昇

1　総合的な事項

平成 20 年度においても、これまでに続いて、東京・奈良の両研究所が、有形・無形の文化財を

対象として、多分野にわたる調査、研究、研修、国際協力などの事業を積極的に推進されたことを先ず高く評価したい。

高松塚・キトラ両古墳壁画の保存処置に関し、前年度に引き続いて貴重な貢献がなされた。とりわけフォトマップ資料の完成は特筆に値すると思われる。

文化財保護の国際協力を含め、両研究所の諸事業は、国の政策を反映した極めて重要なものであることを改めて認識した次第である。

2　自己点検評価に関する事項

事業実施状況に照らし、各プロジェクトの自己点検評価は適切になされていると思われる。

3　調査研究に関する事項

国際研究集会の開催を含め、多分野にわたる貴重な調査研究が継続実施されていることを評価したい。

ユネスコの世界遺産登録で関心の高まっている「文化的景観」ついては、四万十川流域に関するケース・スタディなどを踏まえて、今後、各国の事例との比較研究をさらに深めて、その成果を広く公開されることを期待する。

文化財の価値形成に係る“オリジナル”に関する研究、文化財の非破壊調査法の研究、生物劣化対策の研究、防災計画に関する調査研究など多彩な調査・研究が実施されたことを評価したい。

無形文化遺産の保護に関して、民俗芸能や民俗技術などが取り上げられてきたことは有意義な進展であると考える。また、ユネスコの「無形文化遺産保護条約」の発効に伴い、今後、我が国からの登録申請が重要な課題となると思われるが、この分野での両研究所の貢献がさらに重要となろう。

4　国際協力の推進に関する事項

カンボジアのアンコール、タイのスコータイ、中国の竜門石窟と敦煌などの海外の文化財保存に関し、２０年度においても、有意義な国際貢献が続けられてきた。特に、アフガニスタンのバーミヤン遺跡の調査研究や人材育成事業は世界的にも高く評価されてきていると思われる。なお、アフガニスタンやイラクの文化財保存については、治安上の制約から現地での調査研究が困難で、日本での研修等に重点が置かれているのは止むを得ないことであろう。

また、在外日本古美術品保存修復の協力、「紙の保存と修復」などの国際協力、諸外国の「文化財保護関連法令シリーズ」の刊行、日本の文化財保護法の英訳なども重要と思われる。

5　調査研究成果の発信に関する事項

「年報」、「概要」、「ニュース」の広報三誌は継続して刊行されている。「保存科学」、「美術年鑑」、「美術研究」などの刊行も順調に実施されたと思われる。また、有形・無形の文化財の画像のデジタル化が引き続いて進められ、多様なデータ・ベースが作成されていることを評価したい。

小・中学生向けの親しみやすい広報資料が作成されたことも評価したい。

6　国、地方公共団体等に対する協力・助言等に関する事項

国の機関や地方公共団体などの要請に応じ、必要な協力や助言が提供されてきたと思われる。ACCU（ユネスコ・アジア文化センター）との国際研修事業の共同実施も評価したい。

なお、国の困難な財政状況を考えると、今後、外部からの受託事業の拡充がさらに重要になってくると思われる。受託事業のさらなる発展を期待したい。

7　その他

我が国は、今後、文化発信能力を高め、広義の文化面での国際協力を一層強化することが求められていると思われる。両研究所は、このための重要な拠点の一つとして、益々重要な役割を果たしていくことを期待したい。

この観点からも、関係の民間財団等も取り込んだ「文化遺産国際協力コンソーシアム」の役割は重要であり、具体的活動の拡充を望みたい。

東京文化財研究所は、近く８０周年を迎えるものと思われるが、この機に、両研究所の重要な役割と貴重な貢献にさらなる関心が向けられることを願うものである。

Ⅵ 日誌

（法人全体及び六施設共通事項）

年	月	日	記事
20.	4.	14	第１回役員会（東京国立博物館）
20.	5.	19	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会（総会・部会）
20.	5.	20	第１回６施設連絡協議会（東京国立博物館）
20.	5.	30	第２回役員会（東京国立博物館）
20.	6.	10	文部科学省独立行政法人評価委員会文化分科会国立文化財機構部会（第 52 回）
20.	6.	13	平成 19 年度定期監査（東京国立博物館）
20.	6.	23	監査法人の監査結果（平成 19 年度）通知
20.	7.	11	第３回役員会（京都国立博物館）
20.	7.	17	健康管理のための講習会（東京国立博物館）
20.	7.	28	平成 20 年度新任職員研修会（個人情報保護及びハラスメントに関する講演も同時実施）（東京国立博物館、東京文化財研究所）（～７月 30 日）
20.	8.	8	文部科学省独立行政法人評価委員会総会（第 31 回）
20.	9.	2	第２回６施設連絡協議会（東京国立博物館）
20.	9.	17	第４回役員会（奈良文化財研究所）
20.	10.	1	役員懇談会（東京国立博物館）
20.	10.	28	臨時役員会（東京国立博物館）
20.	10.	28	第１回独立行政法人文化財機構運営委員会（東京国立博物館）
20.	11.	26	第１回研究・学芸系職員連絡協議会（東京国立博物館）
20.	12.	9	第３回６施設連絡協議会（東京国立博物館）
20.	12.	25	第５回役員会（東京国立博物館）
21.	1.	15	健康管理のための講習会（東京文化財研究所）
21.	2.	10	第６回役員会（京都国立博物館）
21.	3.	18	第４回６施設連絡協議会（東京国立博物館）
21.	3.	27	第７回役員会（東京国立博物館）
21.	3.	31	独立行政法人国立文化財機構の第 1 期事業年度財務諸表の承認の通知

（東京国立博物館）

年	月	日	記　　事
20.	4.	3	参議院椎名一保議員来館
20.	4.	4	「博物館でお花見を」コンサート開催
20.	4.	7	秋篠宮同妃両殿下眞子内親王殿下　特別展「国宝 薬師寺展」お成り
20.	4.	9	森喜郎元総理大臣夫妻来館
20.	4.	11	特別展「国宝 薬師寺展」開催記念トークショー（4/11、4/25）
20.	4.	11	特別展「国宝 薬師寺展」関連事業　万燈会（4/11、4/25）
20.	4.	12	特別展「国宝 薬師寺展」記念講演会（平成館大講堂）（4/12、4/19、5/10、5/24）
20.	4.	14	奥野衆議院議員来館
20.	4.	17	薬師寺の講話会　読売旅行
20.	4.	28	仏像講座　山本勉氏
20.	5.	2	経団連会長来館
20.	5.	8	平成 20 年度第 1 回鑑査会議（寄贈）
20.	5.	9	特別展「国宝 薬師寺展」賛助会特別内覧会
20.	5.	14	遠山敦子元文部科学大臣、江田参議院議長、荒井議員来館
20.	5.	17	国際博物館の日記念講演会「東京国立博物館のはじまりの日々―博覧会・美術館・動物園」
20.	5.	18	平常展無料観覧日（国際博物館の日）
20.	5.	19	三笠宮妃殿下　特別展「国宝 薬師寺展」お成り
20.	5.	20	特別展「国宝 薬師寺展」入場者 50 万人セレモニー
20.	5.	27	舛添厚生労働大臣来館、オーストラリアヴィクトリア国立美術館館長来館
20.	5.	28	平成 20 年度第 2 回鑑査会議（出品）
20.	5.	29	天皇皇后両陛下　特別展「国宝 薬師寺展」行幸啓
20.	6.	4	特別展「国宝 薬師寺展」入場者 70 万人セレモニー
20.	6.	5	トヨタ自動車中井常務来館
20.	6.	6	常陸宮殿下同妃殿下　特別展「国宝 薬師寺展」お成り
20.	6.	6	山本順三参議院議員来館
20.	6.	12	第 10 回日本水大賞　表彰式他　秋篠宮同妃両殿下ご出席
20.	6.	15	ハーバード大学　男声ア・カペラコーラスグループ「クロコディロス」公演（本館）
20.	6.	16	与謝野馨前官房長官、産経新聞社清原会長来館
20.	6.	16	DERAMER　VIP　顧客ご招待イベント
20.	6.	22	「エフゲニ・ザラフィアンツ氏」ピアノコンサート
20.	6.	24	臨時休館日
20.	6.	25	日本・インドネシア国交樹立 50 周年記念公演
20.	6.	30	特別展「フランスが夢見た日本―陶器に写した北斎、広重」開会式及び特別内覧会
20.	7.	6	親子で楽しむ長唄コンサート
20.	7.	7	特別展「対決－巨匠たちの日本美術」開会式及び特別内覧会
20.	7.	9	舛添要一厚生労働大臣来館
20.	7.	12	記念シンポジウム「フランスのジャポニスム－陶磁器を中心に－」（平成館大講堂）
20.	7.	14	特別展「対決－巨匠たちの日本美術」朝日新聞販売局内覧会

20.	7.	17	香港特別行政区政府・内政省事務次官他 10 名来訪
20.	7.	19	記念座談会「放談　巨匠対決」（平成館大講堂）
20.	7.	20	ファミリーコンサート　東京クラリネット・クワイヤー
20.	7.	22	國華清和会「対決展」レクチャー
20.	7.	23	麻生ラファージュセメント㈱社長来館　日本経済新聞会長ご夫妻来館
20.	7.	25	特別展「対決－巨匠たちの日本美術」入場者 10 万人セレモニー
20.	7.	25	特別展「フランスが夢見た日本－陶器に写した北斎、広重」他 賛助会特別内覧会
20.	7.	29	アメリカ大使館来館、江田参議院議長来館
20.	8.	1	特集陳列「ワヤン－インドネシアの影絵人形－」関連事業　ワヤン公演「クレスノ使者に立つ」
20.	8.	1	常陸宮妃殿下　特別展「フランスが夢見た日本－陶器に写した北斎、広重」お成り
20.	8.	2	記念講演会「美と個性の対決」（平成館大講堂）
20.	8.	2	特別展「対決－巨匠たちの日本美術」障害者向け内覧会
20.	8.	3	上野の森文化探検「夏休み子供音楽会 2008」
20.	8.	6	DIAM 社長、第一生命社長、ファイナンシャルグループ社長他来館
20.	8.	7	特別展「対決－巨匠たちの日本美術」入場者 20 万人セレモニー
20.	8.	14	彬子女王殿下　特別展「対決－巨匠たちの日本美術」お成り
20.	8.	15	新井参議院議員来館
20.	8.	17	秋篠宮妃殿下及び眞子内親王殿下　特別展「対決－巨匠たちの日本美術」お成り
20.	8.	23	記念講演会「10 世紀の仏像と六波羅蜜寺」
20.	8.	23	韓国文化財庁企画調整官他来館
20.	8.	28	ジョセフヤイ・ユネスコ大使来館
20.	8.	31	「納涼東博寄席」（平成館大講堂）
20.	9.	1	スリランカ大使来館
20.	9.	6	記念講演会「足利樺崎寺と大日如来像、そして運慶」（平成館大講堂）
20.	9.	8	平成 20 年度第 3 回鑑査会議（寄贈・出品）
20.	9.	9	講演会「科学研究費補助金」（平成館大講堂）
20.	9.	13	三菱ＵＦＪ証券「日本美術の殿堂東京国立博物館の楽しみ方」（平成館大講堂）
20.	9.	14	ブルガリア文化副大臣一行来館
20.	9.	15	無料観覧日（敬老の日）
20.	9.	15	マンデルリング・クァルテット＆佐々木秋子コンサート（平成館大講堂）
20.	9.	16	特別展「スリランカ－輝く島の美に出会う」開会式及び特別内覧会
20.	9.	20	三館合同企画「更紗を語る」（平成館大講堂）
20.	9.	21	堀正文ヴァイオリンコンサート、スリランカ文化国家遺産大臣一行来館
20.	9.	23	動物愛護シンポジウム（平成館大講堂）
20.	9.	25	東大寺講演会「盧舎那大仏の造顕と総国分寺」（平成館大講堂）
20.	9.	27	文化財保存修復学会 75 周年記念事業国際シンポジウム「東アジア・東南アジアの文化財の保存修復」（平成館大講堂）（9/27～9/28）
20.	9.	30	江田参議院議長来館
20.	10.	2	ＮＨＫ学園特別講座「スリランカ－輝く島の美に出会う」（平成館大講堂）
20.	10.	3	ウィッキーさんのトークショー（平成館大講堂）（10/3、10/17、10/31、11/14）

20. 10. 3　講演会「中国文化財事情」　ユネスコ北京事務所（平成館小講堂）
20. 10. 4　記念講演会「スリランカの歴史と美術」（平成館大講堂）
20. 10. 6　特別展「大琳派展－継承と変奏－」開会式及び特別内覧会
20. 10. 8　元財務大臣塩川正十郎氏来館
20. 10. 10　綿貫議員、遠山元文部科学大臣来館
20. 10. 11　連続講座「琳派芸術の基底」（平成館大講堂）（10/11～10/13）
20. 10. 13　シラク元フランス大統領、元フランス文化大臣一行来館
20. 10. 14　第５４回文化財建造物保存修理関係者等連絡協議会（平成館大講堂）
20. 10. 15　特別展「大琳派展－継承と変奏－」特別内覧会（キヤノン・花王・光村印刷）
20. 10. 17　特別展「大琳派展－継承と変奏－」賛助会内覧会
20. 10. 17　特別展「スリランカ－輝く島の美に出会う」ウィッキーさんのトークショー（平成館大講堂）（10/17、10/31）
20. 10. 18　「留学生の日」開催
20. 10. 19　オーストラリアビクトリア州大臣他 3 名来館
20. 10. 23　平成 20 年度第 4 回鑑査会議（寄贈・出品・購入）
20. 10. 24　特別展「大琳派展－継承と変奏－」入場者 10 万人セレモニー
20. 10. 24　カナダ政府人材・社会開発省所属サティア・ブリンク氏他来館
20. 10. 29　記念座談会「琳派の美を語る」（平成館大講堂）
20. 11. 1　日本考古学会第 106 回総会記念講演「縄文世界の中の対立思想」（平成館大講堂）
20. 11. 1　特別展「大琳派展－継承と変奏－」障害者向け内覧会
20. 11. 4　Jose Carreras 50 周年記念パーティー（法隆寺宝物館）
20. 11. 5　イタリア大使来館
20. 11. 6　特別展「大琳派展－継承と変奏－」入場者 20 万人セレモニー
20. 11. 9　基調講演「藤堂高虎の生き方」（平成館大講堂）
20. 11. 10　「東京国立博物館の記念日」　大琳派展・スリランカ展内覧会他
20. 11. 11　福田前首相、トヨタ自動車豊田章一郎夫妻来館
20. 11. 12　石原都知事来館
20. 11. 13　常陸宮妃殿下　特別展「大琳派展－継承と変奏－」お成り
20. 11. 13　天皇皇后両陛下　特別展「大琳派展－継承と変奏－」行幸啓
20. 11. 15　記念講演会「スリランカの文化遺産」（平成館大講堂）
20. 11. 16　島村衆議院議員夫妻来館
20. 11. 19　有形文化財買取協議会会議
20. 11. 23　「第一回したまちコメディ映画際ｉｎ台東」（平成館大講堂）（～11/24）
20. 11. 26　第２回アジア学術振興機関長会議及びレセプション（法隆寺宝物館）
20. 11. 28　イランイスラム共和国副大統領一行来館
20. 12. 6　国際シンポジウム第 32 回文化財保存および修復に関する国際研究集会（平成館大講堂）（12/6～12/7）
20. 12. 18　荒井奈良県知事来館
20. 12. 20　第 63 回日本考古学会例会「正倉院・白瑠璃碗の源流」
20. 12. 23　コンサート「カウンターテナーの歌声と出会う待降節のひととき」
20. 12. 27　河合文化教育研究所「第 8 回河合臨床哲学シンポジウム」（平成館大講堂）

20. 12. 28　羽山晃生・羽山弘子ジョイントリサイタル「オペラの午後」（平成館ラウンジ）
21. 1. 2　博物館に初もうで（1/2～1/25）　新春イベント「獅子舞」他（1/2～1/3）
21. 1. 9　特別展「未来をひらく福澤諭吉展」開会式及び特別内覧会、高円宮妃殿下お成り
21. 1. 11　「新春東博寄席」（平成館大講堂）
21. 1. 12　特別展「未来をひらく福澤諭吉展」記念講演会（平成館大講堂）（1/12、2/7）
21. 1. 14　山内文部科学大臣来館
21. 1. 17　東京国立博物館ニューイヤーコンサート 2009（平成館ラウンジ）
21. 1. 18　記念座談会「古墳時代金属器の修理・模造と復元」（平成館大講堂）
21. 1. 19　皇太子殿下　特集陳列「豊かな実りを祈るー美術のなかの牛とひと」行啓
21. 1. 19　特別展「妙心寺」開会式及び特別内覧会
21. 1. 22　特別展「妙心寺」関連事業　禅トーク（平成館大講堂）（1/22、1/29、2/5、2/12、2/19、2/26）
21. 1. 24　特別展「妙心寺」記念講演会（平成館大講堂）（1/24、2/14）
21. 1. 27　「第 5 回台東区伝統工芸職人展」（1/27～2/1）
21. 1. 28　ブルガリア共和国大統領夫人一行来館
21. 1. 30　特別展「妙心寺」賛助会特別鑑賞会
21. 2. 1　江田参議院議長夫妻来館
21. 2. 4　荒井参議院議員他一名来館
21. 2. 5　松野議員来館
21. 2. 11　シンポジウム「日中韓3カ国博物館円卓会議」（平成館大講堂）、河村内閣官房長官来館
21. 2. 16　皇太子殿下　特別展「妙心寺」行啓
21. 2. 17　常陸宮殿下同妃両殿下　特別展「未来をひらく福澤諭吉展」お成り
21. 2. 18　特別展「妙心寺」入場者 10 万人セレモニー
21. 2. 20　塩谷文部科学大臣来館
21. 2. 25　平成 20 年度第 5 回鑑査会議（寄贈・編入・出品）
21. 3. 1　中国民族楽器二胡総合発表会（平成館大講堂）
21. 3. 2　秋篠宮殿下同妃両殿下　特別展「未来をひらく福澤諭吉展」お成り、中曽根外務大臣来館
21. 3. 5　綿貫衆議院議員来館
21. 3. 6　伊藤信太郎外務副大臣、逢沢衆議院議員、赤松衆議院議員来館
21. 3. 7　東京国立博物館スプリングコンサート「異色ーピアノと尺八ー」（平成館ラウンジ）
21. 3. 10　OECD ローズベアール課長来館
21. 3. 15　ミュージアムコンサート「東博でバッハ」（平成館ラウンジ）（3/15、3/18、3/28）
21. 3. 16　平成 20 年度東京国立博物館防災訓練
21. 3. 18　平成 20 年度第 6 回鑑査会議（編入・出品）
21. 3. 19　平成 20 年度　寄贈者・賛助会会員・寄付者を対象とした感謝会
21. 3. 26　特別展「Story of …」開会式及び特別内覧会
21. 3. 30　特別展「国宝 阿修羅展」開会式及び特別内覧会、OECD 教育局長来館

（京都国立博物館）

年	月	日	記　　事
20.	4.	5	土曜講座（～１２月７日まで毎週土曜日実施、 平成２１年１月１０日～特別展覧会開催期間中毎週土曜日実施）
20.	4.	12	平常展無料観覧日（～１１月２２日まで毎月第２，第４土曜日実施）
20.	4.	2	特集陳列「平安時代の考古遺物―源氏物語の時代―」（～６月２９日）、 特別公開「修理完成記念　山形・熊野神社の神像」（～６月２９日）
20.	4.	3	運営会議（以後原則として毎月第１、第３木曜日実施）
20.	4.	7	特別展覧会「絵画の冒険者　暁斎　Kyosai　－近代へ架ける橋―」開会式及び特別内覧会（会期４月８日～５月１１日）
20.	4.	10	鑑査会（以後原則として毎月第２木曜日実施）
20.	4.	25	「京都・らくご博物館【春】～若草の会～」（講堂）
20.	5.	21	特集陳列「新収品展」（～６月２２日）
20.	6.	5	文化財保存修理所運営委員会
20.	6.	9	普通救命講習
20.	6.	24	産業医による職員対象の衛生管理講習会
20.	6.	25	特集陳列「杉本哲郎　アジャンタ・シーギリヤ壁画模写　－70 年目の衝撃―」（～７月２７日）
20.	7.	23	特集陳列「坂本龍馬」（～８月３１日）
20.	7.	26	少年少女博物館くらぶ「坂本龍馬を知ろう」
20.	7.	30	夏期講座「文化の波及と変容Ⅱ」（～８月１日）
20.	8.	22	「京都・らくご博物館【夏】～納涼寄席～」（講堂）
20.	9.	15	平常展無料観覧日（敬老の日）
20.	9.	20	特別展覧会「japan 蒔絵」プレイベントコンサート「音蒔会（おとまきえ）」～蒔絵に聴く輝きの系譜～（特別展示館）
20.	10.	10	マナー講習会
20.	10.	17	特別展覧会「japan 蒔絵―宮殿を飾る　東洋の燦めき―」開会式及び特別内覧会（会期１０月１８日～１２月７日）
20.	10.	24	「京都・らくご博物館【秋】～錦秋寄席～」（講堂）
20.	11.	7	買取協議会
20.	11.	8	国際シンポジウム「輸出漆器が語る東西交流の４００年」開催
20.	11.	15	留学生の日 関西文化の日（～１１月１６日）
20.	12.	2	平常展示館無料（～１２月７日　平常展示館閉館日まで）
20.	12.	2	バロック音楽で綴る京都国立博物館平常展示館ファイナルコンサート
20.	12.	6	脂肪を燃やして音楽にしよう！自転車発電エコライブ
20.	12.	7	京都国立博物館平常展示館ファイナルコンサート
20.	12.	7	平常展示館閉館日
20.	12.	8	平常展示館建替工事にともない全館休館（～１月９日、以後特別展覧会開催期間中のみの開館となる）
21.	1.	9	特別展覧会「京都御所ゆかりの至宝」開会式及び特別内覧会

（会期１月１０日～２月２２日）

21. 1. 19　秋篠宮同妃両殿下　お成り　特別展覧会「京都御所ゆかりの至宝」御視察

21. 1. 26　総合防火訓練

21. 1. 30　「京都・らくご博物館【冬】～新春寄席～」（ハイアットリージェンシー京都）

21. 2. 1　特別展覧会「京都御所ゆかりの至宝」三倉茉奈、佳奈さん１日館長

21. 2. 6　特別展覧会「京都御所ゆかりの至宝」入館者５万人セレモニー

21. 3. 23　特別展覧会「開山無相大師 650 年遠諱記念　妙心寺」開会式及び特別内覧会

（会期３月２４日～５月１０日）

（奈良国立博物館）

年	月	日	記　　事
20.	4.	4	特別展「天馬－シルクロードを翔ける夢の馬－」
			開会式、特別招待日　（会期４月５日～６月１日）
20.	4.	12	特別展「天馬－シルクロードを翔ける夢の馬－」特別鑑賞会
20.	4.	15	春季仏像仏画供養法要
20.	4.	19	公開講座「ギリシア・ローマ世界の天馬」
20.	4.	20	サンデートーク「仏教美術にみる空飛ぶ馬」
20.	4.	26	公開講座「古代世界の天馬」
20.	5.	3	公開講座「飛走する天馬像」
20.	5.	5	平常展無料観覧日（こどもの日）
20.	5.	11	第２回奈良博寄席
20.	5.	18	サンデートーク「中国の天馬・翼馬」
			平常展無料観覧日（国際博物館の日）
20.	5.	20	第１回陳列品鑑査会
20.	5.	24	文科省評価委員会文化財機構部会視察
			公開講座「仏教と天馬」
20.	6.	13	特別展「国宝　法隆寺金堂展」
			開会式、特別招待日（会期６月１４日～７月２１日）
20.	6.	14	特別陳列「建築を表現する　－弥生時代から平安時代まで－」
			（～７月１３日まで）
			公開講座「年輪から法隆寺西院伽藍と金堂天蓋の時代を読み解く」
20.	6.	15	サンデートーク「古代建築のイメージ」
20.	6.	17	第２回陳列品鑑査会
20.	6.	21	公開講座「法隆寺金堂壁画の世界」
20.	6.	22	記念コンサート「飛鳥の風～シルクロードをわたる悠久の響き」
20.	6.	25	特別展「国宝　法隆寺金堂展」特別鑑賞会
20.	6.	28	公開講座「法隆寺金堂の金石文と聖徳太子」
20.	7.	5	記念講演会「金堂は生きている」
20.	7.	12	公開講座「法隆寺金堂四天王像の諸問題」
20.	7.	19	公開講座「建築史からみる法隆寺金堂」
20.	7.	20	サンデートーク「法隆寺金堂台座の絵画を読み解く」
20.	7.	28	第１回評議員会
20.	7.	30	夏季仏像仏画供養法要
20.	7.	31	特別展「西国三十三所　－観音霊場の祈りと美－」
			開会式、特別招待日（会期８月１日から９月２８日まで）
20.	8.	2	公開講座「西国三十三所の歴史」
20.	8.	9	まほろば寄席
20.	8.	12	特別展「西国三十三所　－観音霊場の祈りと美－」特別鑑賞会
20.	8.	17	サンデートーク「円教寺開山堂の性空上人坐像について」
20.	8.	19	夏季講座「西国三十三所　観音巡礼」（８月２１日まで）

20. 8. 30　公開講座「西国三十三所の観音霊験像とその広がり」
20. 9. 5　第３回陳列品鑑査会
20. 9. 13　公開講座「“胎内くぐり”としての西国巡礼」
20. 9. 21　サンデートーク「西国三十三所を巡礼した人々」
20. 9. 25　秋季仏像仏画法要
20. 9. 27　公開講座「観音の浄土と補陀落山－その信仰と造形」
20. 10. 7　第４回陳列品鑑査会
20. 10. 11　まほろば寄席
20. 10. 19　サンデートーク「茶室・八窓庵をのぞいてみませんか」
20. 10. 24　特別展「第６０回正倉院展」
開会式、特別招待日（会期１０月２５日から１１月１０日まで）
20. 10. 25　公開講座「正倉院の白瑠璃碗」
高田泰治によるチェンバロの世界「大バッハ、奈良に降臨！！」
20. 10. 28　特別展「第６０回正倉院展」特別鑑賞会
20. 10. 30　行幸啓
20. 11. 1　公開講座「正倉院に伝わる天蓋をめぐって」
第６０回正倉院展記念「音燈華」（～１１月３日まで）
20. 11. 4　留学生の日
20. 11. 7　なら燈花会 in 正倉院展（～１１月８日まで）
オペラ「月の影」より源氏幻想（～１１月８日まで）
20. 11. 8　公開講座「正倉院の宝物とシルクロード」
20. 11. 9　高円宮妃殿下来館
20. 11. 15　平常展無料観覧日（関西文化の日）（～１１月１６日まで）
20. 11. 16　サンデートーク「地蔵菩薩と虚空蔵菩薩」
20. 11. 18　第５回陳列品鑑査会
20. 11. 22　平常展無料観覧日（いい夫婦の日）
20. 11. 27　第１回買取等協議会、買取等評価会
20. 12. 6　特別陳列「おん祭りと春日信仰の美術」（～平成２１年１月１８日まで）
20. 12. 20　公開講座「おん祭りの田樂とその周辺」
20. 12. 21　サンデートーク「春日社の神と藤原氏」
21. 1. 10　まほろば寄席
21. 1. 11　和太鼓演奏会
21. 1. 12　春日若宮おん祭りの田楽
21. 1. 14　冬季仏像仏画法要
21. 1. 18　サンデートーク「興福寺大乗院主・尋尊ゆかりの舎利容器」
21. 1. 28　消防訓練
21. 2. 7　特別陳列「お水取り」（～３月１５日まで）
21. 2. 14　お水取り「講話」と「お粥の会」
公開講座「修二会　行と祈り」
21. 2. 15　サンデートーク「大道和尚像」
21. 2. 16　西安碑林博物館　趙力光館長招へい（～２月２１日まで）

21.　2.　24　　第６回陳列品鑑査会
21.　3.　 7　　公開講座「枯草について　－人道不浄相図その他－」
21.　3.　11　　文化財保存修理所特別公開
　　第７回陳列品鑑査会
21.　3.　13　　燈火のあるカフェテラスライブ（～３月１４日まで）
21.　3.　15　　サンデートーク「とてもよく似た二つの仏像」
21.　3.　20　　「仏像ガールってなんですか～仏像の魅力を大いに語る～」
21.　3.　24　　第２回評議員会
21.　3.　26　　第２回買取等協議会、買取等評価会

（九州国立博物館）

年	月	日	記　　事
20.	4.	5	バンコク都議会友好公式訪問団来館
20.	4.	6	国宝 大絵巻展記念講演会（4 月 27 日、5 月 10 日、7 月 19 日の合計４回実施）
20.	4.	12	第 47 回 きゅーはくミュージアムコンサート～箏とソプラノとピアノが奏でる世界
20.	4.	13	第２期ボランティア発足式
20.	4.	15	特別展関連イベント「春の京都物産展」（～4 月 20 日）
20.	4.	25	広域地域振興シンポジウム「明日の地域振興を考える」
20.	4.	26	九博ボランティア企画”昭和の日”イベント　（～4 月 30 日）
20.	5.	3	弦楽合奏団「アンダンテ」春のコンサート
20.	5.	3	歌とピアノと朗読による”そよ風コンサート”
20.	5.	4	福博職人の手技展（～5 月 6 日）
20.	5.	11	第 48 回 きゅーはくミュージアムコンサート～天上の響き、夢幻の音色
20.	5.	13	トピック展示「博物館と文化財修理」（～6 月 22 日）
20.	5.	14	原田郁子ソロツアー2008「気配と余韻をたのしむツアー　弾き語り！」
20.	5.	15	㈱電通副社長来館
20.	5.	16	文化財保存修復学会第 30 回記念大会　学術講演会、特別セッション（～5 月 18 日）
20.	5.	18	国際博物館の日（平常展無料観覧日）
20.	5.	21	第 1 回陳列品鑑査会議
20.	5.	22	バンコク都少年少女訪問団来館
20.	5.	23	㈱北日本電線社長一行来館
20.	5.	25	第 9 回九博朝日寄席「円丈・喬太郎　新作落語バトル競演会」
20.	5.	26	第 1 回買取協議、買取評価
20.	5.	26	普通救命講習
20.	6.	12	西日本新聞社東京支社長一行来館
20.	6.	15	第 49 回 きゅーはくミュージアムコンサート～村上ゆきワールド～
20.	6.	24	デジタルアートの世界展（～6 月 29 日）
20.	6.	25	トピック展示「新たな国民のたから」（～7 月 21 日）
20.	6.	27	音楽によるリラクセーション～民謡の音階による即興アンサンブル～
20.	7.	5	KIRAKU LIVE2008　～POWER～
20.	7.	5	九博ボランティア企画”七夕”イベント
20.	7.	12	特別展「島津の国宝と篤姫の時代」開会式及び特別内覧会（7 月 12 日～8 月 24 日）
20.	7.	12	ボルドー大学副学長一行来館
20.	7.	13	「島津の国宝と篤姫の時代」スペシャルトーク
20.	7.	19	行こうよ！あじっぱ夏祭りイベント　（～8 月 1 日）
20.	7.	19	特別展記念講演会『5 人の篤姫～「維新前後風刺画」にみる幕末の日本～』
20.	7.	21	常陸宮殿下・同妃殿下　文化交流展（平常展）等お成り
20.	7.	26	大河ドラマ「篤姫」トークショー
20.	7.	26	第 50 回 きゅーはくミュージアムコンサート「ASCENT」～日本と西洋、音の融合
20.	7.	27	第 4 回 太宰府市民吹奏楽団「まほろばコンサート」
20.	8.	1	J・トーマス・シーファー駐日米国大使来館

20. 8. 3 対談「書の一大 SHOW！～島津家文書から読み解く篤姫の世界」
20. 8. 5 展示「いのちのたび博物館から九州国立博物館へ」 （～8 月 10 日）
20. 8. 7 第 1 回評議員会
20. 8. 8 トピック展示「変化する観音」（～9 月 15 日）
20. 8. 10 第 51 回 きゅーはくミュージアムコンサート～さわやか南国リズムにわっくわく
20. 8. 14 入館５００万人達成記念セレモニー
20. 8. 17 ASIAN･PANDAMONKEYS･SPECIAL LIVE
20. 8. 20 トピック展示「九州北部三県姉妹遺跡締結 10 周年記念 よみがえる弥生都市」（～11 月 16 日）
20. 8. 23 第 2 回市民共同型 IPM 活動に関する研究会
20. 8. 23 九州北部三県姉妹遺跡締結 10 周年記念関連イベント （～9 月 13 日）
パネル展、「原の辻Ｄａｙ」「吉野ヶ里Ｄａｙ」「平塚川添Ｄａｙ」弥生体験、
シンポジウム「よみがえる弥生都市－邪馬台国時代のまちづくり－」
20. 8. 23 エレキット夏休み工作教室 in 太宰府 2008「エコカーをつくろう！」
20. 8. 29 展示「博多祇園山笠飾り山」 （～11 月 30 日）
20. 9. 2 トピック展示「絵でみる考古学－早川和子原画」（～10 月 13 日）
20. 9. 6 第 57 回埋蔵文化財研究集会「井戸再考」（～9 月 7 日）
20. 9. 14 第 10 回九博朝日寄席「柳家花緑独演会」
20. 9. 14 トピック展示「天にささげる器」
20. 9. 15 京築神楽ライブ in 九州国立博物館
20. 9. 15 敬老の日（平常展無料観覧日）
20. 9. 17 トピック展示「北と南の民族詩～アイヌ・琉球の人々～」（～10 月 26 日）
20. 9. 17 地域資源活用企業化コーディネート活動等支援事業 フォーラム＆足湯＆物産展
「源氏物語誕生先年紀特別展～石川貴啓・蘇った紫草色の世界展」（～9 月 21 日）
20. 9. 20 第 52 回きゅーはくミュージアムコンサート～魅惑のクラリネット～
20. 9. 22 特別展「国宝 天神さま」開会式及び特別内覧会（会期 9 月 23 日～11 月 30 日）
20. 9. 23 特別展記念九大マンドリンクラブ演奏会 ―マンドリン・コレギウム・九州―
20. 9. 23 「絵でみる考古学－早川和子原画展－」無料公開展示、ミュージアム講座アジアージュ、イラスト教室「これであなたも考古イラストレーター！」（～10 月 5 日）
20. 9. 25 太宰府市・扶余姉妹都市締結 30 周年記念式典
20. 9. 25 第 3 回「太宰府 古都の光」式典・演奏会・D-K ライブ
20. 9. 26 福岡国土建設専門学校創立 35 周年記念特別講演会「涌井雅之講演会」
20. 9. 28 「国宝 天神さま」開催記念トークショー
20. 9. 28 特別展関連イベント「天神さまの門前町」サミット
20. 9. 28 台湾インセンティブ関係者招聘事業
20. 10. 2 映画「まぼろしの邪馬台国」試写会＆舞台挨拶
20. 10. 4 アサヒ緑健スポーツメセナ「第 6 回ふれあい健康ウォーク」
20. 10. 4 特別展関連イベント 記念シンポジウム「天神さまと太宰府」
20. 10. 6 特別展記念「立川生志・天神落語ライブ」
20. 10. 7 第 2 回文化財サポーターフォーラム～日本中みんなで文化財を守りたい～（～8 日）
20. 10. 9 第 2 回陳列品鑑査会議

20. 10. 9　太宰府発見塾公開講座～大宰府の道真
20. 10. 11　開館3周年記念協賛「温泉足湯」～お！ここにもあった　至福の時間～（～13日）
20. 10. 13　開館3周年記念行事「お客様感謝デイ」
20. 10. 15　特別展関連　西日本鉄道100周年「天神100年にしてつ100年」展（～26日）
20. 10. 15　トピック展示「大野城と四王寺」（～21年1月18日）
20. 10. 18　開館3周年記念「九博能」～能にみる「源氏物語」の世界
20. 10. 19　第53回 きゅーはくミュージアムコンサート　Tribute to 「菅原道真」
20. 10. 19　NHK会長来館
20. 10. 19　江蘇省人民代表大会常務委員会友好代表団来館
20. 10. 21　特別展関連「国宝 天神縁起絵巻　平成記録本展」（～11月3日）
20. 10. 25　特別展関連　北野天神縁起絵巻シンポジウム「北野天神縁起絵巻の歴史的変遷」
20. 10. 25　特別展関連　太宰府てくてくぶらり旅
20. 10. 26　筑紫ルネッサンス第四章～世界遺産登録への道～
20. 10. 26　中国青年指導幹部一行来館
20. 10. 28　特別展関連　菅公（カンコー）学生フェスティバル「菅公学生服展」（～11月9日）
20. 10. 29　トピック展示「茶の湯を楽しむⅠ」（～12月7日）
20. 10. 29　トピック展示「国宝・古文書展」（～12月7日）
20. 11. 3　「いいな、いい歯。」週間普及啓発事業
20. 11. 4　内蒙古自治区文物考古研究所共同調査に関する協議書　調印式
20. 11. 5　日本銀行審議委員来館
20. 11. 6　伊都国の文化財・観光ＰＲ事業
20. 11. 9　留学生の日（留学生は平常展無料観覧）
20. 11. 11　第3回九州地域ブランドフォーラム（～11月24日）
20. 11. 16　特別展関連「天神さま研究所報告会」
20. 11. 16　特別展関連「博多・太宰府きものパスポート関連『国宝天神さま きもの電車』」
20. 11. 22　トピック展示「あおもり縄文展～JOMONを世界へ、三内丸山からの発進」（～12月21日）
20. 11. 23　第54回きゅーはくミュージアムコンサート「サキソフォビアがやって来る」
20. 11. 26　日本インドネシア国交樹立50周年イベント「留学生と交流しよう」（～11月30日）
20. 12. 2　「第25回九州・中国地区伝統的工芸品まつり」（～12月7日）
20. 12. 5　文部科学省銭谷眞美事務次官来館
20. 12. 5　太宰府市小学校音楽会
20. 12. 6　九州国立博物館3周年・日本考古学協会創立60周年・太宰府発掘調査40周年記念国際シンポジウム「百済、倭そして大宰府」　（～12月7日）
20. 12. 6　トピック展示「あおもり縄文展」関連イベント「遺跡パネル展」「青森の観光・物産の紹介」「あおもり縄文展」記念フォーラム　ねぶた設置　（～12月21日）
20. 12. 10　トピック展示「ベトナム陶磁と朱印船交易絵巻展」（～21年3月29日）
20. 12. 10　トピック展示「港市長崎～鎖国のなかの異国情緒～」（～21年1月18日）
20. 12. 13　日中韓首脳会議
20. 12. 15　水中文化遺産担当者協議会（～12月16日）
20. 12. 16　日韓観光振興協議会一行来館

20. 12. 21　第 55 回きゅーはくミュージアムコンサート「絵本よみきかせ&ピアノで綴る」
20. 12. 23　第 11 回九博朝日寄席「九州男児 噺家 三人衆」
20. 12. 25　特別展「工芸のいま　伝統と創造」開会式及び特別内覧会
（会期 1 月 1 日～3 月 16 日）
21. 1. 1　トピック展示「奴国の南～九大筑紫地区の埋蔵文化財～」（～2 月 8 日）
21. 1. 3　九博ボランティア企画「家族でお正月あそびを楽しもう！」（～1 月 6 日）
21. 1. 8　長崎ランタンフェスティバルと長崎ししゅう展－長崎の観光と物産展－（～12 日）
21. 1. 11　特別展関連「有田磁器の音コンサート」（2 月 28 日と合計２回開催）
21. 1. 14　ひなの国九州フェスタ 2009（～1 月 25 日）
21. 1. 17　特別展関連「楽しい！美味しい！お茶の淹れ方セミナー」（3 月 1 日と合計２回開催）
21. 1. 18　第 56 回 きゅーはくミュージアムコンサート　The song of strings
21. 1. 18　池坊保子衆議院議員(公明党文部科学部会長)来館
21. 1. 21　トピック展示「美を写す～模写と模造～」（～3 月 1 日）
21. 1. 21　第 3 回陳列品鑑査会議
21. 1. 25　特別展関連「北野武＆阿川佐和子トークショー」～日本の文化とモノ作り～
21. 1. 26　防災訓練
21. 1. 28　第 2 回買取協議
21. 1. 28　第 2 回買取評価（１月 29 日、30 日　合計３回実施）
21. 1. 28　佐賀ものつくりミュージアム（～2 月 1 日）
21. 2. 4　平成 20 年度第 2 回埋蔵文化財担当職員等講習会（～2 月 5 日）
21. 2. 7　特別展関連座談会「祭りと伝統工芸 ― 山笠のハッピは久留米絣!?」
21. 2. 7　特別展関連イベント「作家がお茶のおもてなし」（～2 月 8 日）
21. 2. 8　特別展記念「朝日寄席 ～落語と寄席文字～」
21. 2. 10　第 3 回福岡県景観大会入賞作品展　表彰式＆発表会（～2 月 15 日）
21. 2. 11　第 57 回 きゅーはくミュージアムコンサート～和と洋、音の融合～
21. 2. 14　特別展関連イベント「匠に託された技 ―伝統を知る―」
21. 2. 17　九博子どもフェスタ　博物館って意外と面白いね！（～2 月 22 日）
21. 2. 17　第 11 回筑紫地区文化財写真展ちくし再発見 ～埋蔵文化財二十五選～（～2 月 22 日）
21. 2. 22　特別展関連講演会「金子賢治が語る　工芸のいま 伝統と創造」
21. 2. 24　トピック展示「金子量重氏寄贈品による　アジア民俗造形」（～5 月 6 日）
21. 2. 24　「百済の美」写真展（～3 月 8 日）
21. 3. 4　トピック展示「屏風の輝き」（～4 月 12 日）
21. 3. 5　上海市港口管理局関係者来館
21. 3. 6　第 2 回評議員会
21. 3. 10　第 2 回太宰府発見コンクール（～3 月 15 日）
21. 3. 11　トピック展示「アジアの工芸～描かれた花と鳥の世界～」（～5 月 11 日）
21. 3. 12　在福岡ベトナム総領事館総領事、ベトナム外務省国際機関局長来館
21. 3. 14　特別展関連イベント「ＮＨＫ ふれあい放送体験隊」
21. 3. 20　第 13 回九博デーパネルディスカッション「九博のあるつくしの創造」
21. 3. 20　筑紫（ふるさと）おもしろ講座「九州王朝って何よ？」～太宰府は首都だった?!～
21. 3. 21　講座アジアージュ「旧石器時代のテクノパーク～日本最大の槍先と白滝遺跡群～」

21.　3.　28　　第58回 きゅーはくミュージアムコンサート　足が奏でる音楽（タップ&ピアノ）

21.　3.　31　　「生活の中のデザイン」KCDA会員選抜展（～4月5日）

（東京文化財研究所）

年	月	日	記　　事
20.	4.	18	在外日本古美術品保存修復協力事業運営委員会（第1回）
20.	4.	22	文化財情報の発信と連携についての研究協議会
20.	4.	24	黒田記念館研究室の公開開始
20.	5.	13	国立韓国伝統文化学校との文化交流に関する協定の締結
20.	5.	13	平成19年度在外日本古美術品保存修復協力事業における修復作品の展示（東京国立博物館平成館企画展示室）（～ 5.25）
20.	5.	23	在外日本古美術品保存修復協力事業運営委員会（第2回）
20.	6.	2	保存担当学芸員フォローアップ研修
20.	6.	3	韓国国立文化財研究所芸能民俗研究室との「無形文化遺産保護に関する日韓研究交流」合意書の締結（大韓民国）
20.	6.	5	黒田記念館アンソニー型カメラの展示開始
20.	6.	12	文部科学省　科学技術・学術政策局計画官ほか3名　施設見学
21.	6.	13	中国・上海大学芸術研究員院長ほか5名　所長表敬訪問および施設見学
20.	6.	20	保存修復科学センター研究会「三角縁神獣鏡の謎に迫る―材料・技法・製作地―」
20.	7.	1	総合研究会「彦根屏風の表現について－日本絵画史の視点から」，「光学的手法による彦根屏風の調査」，「蛍光Ｘ線分析による彦根屏風の彩色材料調査」
20.	7.	1	イラク専門家養成研修（～ 9.30）
20.	7.	3	別府大学大学院文学研究科文化財学専攻生9名　施設見学
20.	7.	10	保存修復科学センター研究会「博物館での文化財の保存と活用に関する国際的動向」
20.	7.	14	韓国国立伝統文化学校保存科学科教授ほか2名　所長表敬訪問
20.	7.	14	博物館・美術館等保存担当学芸員研修（～ 7.25）
20.	7.	19	共催展「近代日本洋画の巨匠　黒田清輝展」（神戸市立小磯記念美術館）（～ 8.31）
20.	7.	23	企画情報部研究会「藤雅三《破れたズボン》再発見報告」
20.	8.	7	駐日イラク大使　所長表敬訪問
20.	8.	19	財団法人日本原子力文化振興財団　施設見学
20.	8.	22	大韓民国・文化財庁企画調整官ほか2名　所長表敬訪問
20.	9.	2	総合研究会「天平の脱活乾漆技法をめぐる二、三の問題」
20.	9.	4	日タイ共同研究成果報告会（タイ・バンコク）（～ 9. 5）
20.	9.	8	第11回国際研修「紙の保存と修復」2008（～ 9.26）
20.	9.	9	モンゴル国教育文化科学省文化芸術局との文化遺産保護のための協力に関する合意書の締結（モンゴル・ウランバートル）
20.	9.	18	台東区立御徒町台東中学校6名、中央区立銀座中学校2名　施設見学
20.	9.	19	第22回国際文化財保存修復研究会「遺跡保存と水」
20.	9.	29	総務省政策評価・独立行政法人評価委員会委員5名ほか　施設見学
20.	10.	3	第42回オープンレクチャー「人とモノの力学」（～10. 4）
20.	10.	6	保存修復科学センター研究会「屋外等の木質文化財の維持管理　問題点と今後」
20.	10.	10	開智高等学校1名　施設訪問
20.	10.	20	インドネシア・ボロブドール遺産保存事業所所長ほか1名　所長表敬訪問
20.	10.	28	黒田記念館特別公開（～11. 3）

20. 11. 5　2008年度在外日本古美術品保存修復協力事業ワークショップ（ドイツ・ケルン東洋美術館）（～11.14）
20. 11. 6　2008年度文化財の環境影響に関する日韓共同研究報告会（大韓民国・国立文化財研究所講堂）
20. 11. 7　第22回近代の文化遺産の保存修復に関する研究会「鉄構造物の保存と修復について」
20. 11. 11　モンゴル・教育文化科学省文化芸術局局長ほか5名　所長表敬訪問
20. 11. 11　中国湖南省文物局博物館訪日団5名　施設見学
20. 11. 13　モンゴル・教育文化科学省文化芸術局局長ほか5名　施設見学
20. 11. 17　2008年度西安研究会「石造文化財の保存に関するシンポジウム」（中華人民共和国・西安市）（～11.18）
20. 11. 18　川崎市多摩市民館文化財ボランティア25名　施設見学
20. 11. 20　第3回無形民俗文化財研究協議会「無形民俗文化財に関わるモノの保護」
20. 11. 21　アジャンター石窟壁画の保存修復に向けた調査研究事業に関する合意書の締結（インド・ニューデリー　インド考古局）
20. 11. 25　中国・故宮博物院文物保護科技部副主任ほか5名　所長表敬訪問および施設見学
20. 11. 27　第2回伝統的修復材料および合成樹脂に関する研究会「漆を通じてみた日本と海外の交流―漆文化財の調査と保存修復の現状と課題―」
20. 11. 29　2008年度在外日本古美術品保存修復協力事業講演会（ドイツ・ベルリン技術博物館）
20. 11. 29　イラク専門家養成研修（～12.10）
20. 12. 2　総合研究会「無形文化遺産としての工芸技術―染色分野を中心として―」
20. 12. 4　保存修復科学センター研究会「文化財の保存環境を考慮した博物館の省エネ化」
20. 12. 4　東北芸術工芸大学6名　施設見学
20. 12. 5　ワークショップ「中央アジア出土壁画の保存修復」（タジキスタン・タジキスタン考古物博物館）（～12.10）
20. 12. 6　第32回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「“オリジナルの行方”―文化財アーカイブ構築のために―」（～12. 8）
20. 12. 12　在外日本古美術品保存修復協力事業運営委員会（第3回）
20. 12. 14　アフガニスタン専門家養成研修（～12.20）
20. 12. 15　中級研修「空気環境最適化のための基礎と実践」（～12.16）
20. 12. 16　ユネスコ事務局・前無形文化遺産課長　所長表敬訪問
20. 12. 16　第3回東京文化財研究所無形文化遺産部公開学術講座「音声資料からたどる能の変遷―文化財保護委員会作成の音声資料をめぐって―」（国立能楽堂大講義室）
20. 12. 17　駐日アフガニスタン大使　所長表敬訪問
20. 12. 19　島根県立増田高等学校23名　施設見学
21. 1. 6　総合研究会「バーミヤーン、そして中央アジア」
21. 1. 14　アジア文化遺産国際会議「被災後の遺跡の修復と保存」（タイ・バンコク）（～1.16）
21. 1. 19　研究会「バーミヤーン仏教石窟出土の樺皮仏典の保存修復」
21. 1. 18　文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム「私の文化遺産再発見―文化遺産を通じて国際貢献を推進するシンポジウム―」（東京国際フォーラム）
21. 1. 26　総合消防訓練

21. 2. 3　総合研究会「桃山文化期の漆塗料の流通と使用」
21. 2. 13　第 13 回博物館保存科学研究会「資料保存の理想と現実」（三重県立美術館、皇學館大学佐川記念神道博物館、神宮徴古館農業館、式年遷宮記念神宮美術館）（～ 2.14）
21. 2. 19　大韓民国・文化財庁無形文化財課長　所長表敬訪問
21. 2. 19　第 2 回アジア無形文化遺産保護研究会「韓国の無形文化財制度」
21. 2. 25　東京学芸大学文化財科学専攻 6 名　施設見学
21. 3. 3　「中世伊勢物語の系譜―伝土佐光信筆「伊勢物語画帖」の位置―」
21. 3. 16　研究組織「歴史学的視角から分析する東アジアの都市問題と環境問題」 22 名　施設見学
21. 3. 18　大韓民国・国立中央博物館アジア部長ほか 2 名　所長表敬訪問
21. 3. 19　ドイツ・プロイセン文化財団総裁ほか 2 名　所長表敬訪問
21. 3. 19　黒田記念館　特集陳列「写された黒田清輝Ⅱ」公開（～21. 7. 9）
21. 3. 26　文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「経済開発協力と文化遺産国際協力」

（奈良文化財研究所）

年	月	日	記　　事
20.	4.	18	特別展「キトラ古墳壁画十二支－子・丑・寅－」（飛鳥資料館）（会期 4 月 18 日～6 月 22 日）
20.	4.	22	発掘速報展「平城宮跡東院地区中枢部の調査」（平城宮跡資料館）（会期 4 月 22 日～5 月 25 日）
20.	5.	7	キトラ古墳壁画「十二支」特別公開内覧会（飛鳥資料館）（会期 5 月 9 日～5 月 25 日）
20.	5.	8	キトラ古墳壁画「十二支」特別公開子供デー（飛鳥資料館）
20.	5.	13	埋蔵文化財担当者専門研修「保存科学Ⅰ（無機質遺物）課程」（～5 月 21 日）
20.	5.	17	春期特別展記念講演会「キトラ古墳の壁画をめぐる諸問題（飛鳥資料館）
20.	5.	18	講演会「飛鳥から藤原・平城京へ」（平城宮跡資料館講堂）
20.	5.	21	埋蔵文化財担当者専門研修「保存科学Ⅱ（有機質遺物）課程」（～5 月 29 日）
20.	6.	7	現地説明会「平城第 431 次（第一次大極殿院南面築地回廊）発掘調査」
20.	6.	9	埋蔵文化財担当者専門研修「掘立柱建物・礎石建物遺構調査課程」（～6 月 13 日）
20.	6.	28	公開講演会（第 102 回）（平城宮跡資料館講堂）「平城宮跡国営公園化のこと」「西大寺食堂院の井戸と古代」「造形意識の変革―霊廟建築に見る装飾意匠とその手法」
20.	6.	30	現場公開「飛鳥藤原第 153 次（藤原宮朝堂院朝庭部）発掘調査」（～7 月 2 日）
20.	7.	1	発掘速報展「平城宮跡東方官衙地区の調査（平城第 429 次）」（平城宮跡資料館）（～8 月 3 1 日）
20.	7.	7	埋蔵文化財担当者専門研修「文化財写真Ⅰ（基礎）課程」（～7 月 23 日）
20.	7.	23	埋蔵文化財担当者専門研修「文化財写真Ⅱ（応用）課程」（～8 月 6 日）
20.	8.	1	夏期企画展「飛鳥古寺巡礼」（飛鳥資料館）（～8 月 31 日）
20.	8.	15	無料観覧日（飛鳥資料館）
20.	8.	18	埋蔵文化財担当者一般課程研修「遺物観察調査課程」（～9 月 12 日）
20.	9.	20	講演会「平城京から長岡・平安京へ」（平城宮跡資料館講堂）
20.	9.	27	現地説明会「飛鳥藤原第 153 次（藤原宮朝堂院朝庭）発掘調査」
20.	9.	28	現地説明会「平城第 432 次・436 次（第一次大極殿院西面築地回廊）発掘調査」
20.	10.	6	埋蔵文化財担当者専門研修「鉄製武器類調査課程」（～10 月 10 日）
20.	10.	16	秋期特別展「まぼろしの唐代精華－黄冶唐三彩窯の考古新発見－」内覧会（飛鳥資料館）（会期 10 月 17 日～12 月 7 日）
20.	10.	18	秋期特別展記念シンポジウム「河南黄冶唐三彩窯の考古新発見」（飛鳥資料館資料館）
20.	10.	20	埋蔵文化財担当者専門研修「遺跡測量課程」（～10 月 31 日）
20.	10.	21	特別企画展「地下の正倉院展－長屋王家木簡の世界－」（平城宮跡資料館）（～11 月 30 日）
20.	10.	25	公開講演会（第 103 回）（平城宮跡資料館講堂）「復原第一次大極殿の棟飾りについて」「平城宮とその周辺の先史時代」　「洋風庭園と日本近代」
20.	11.	3	無料観覧日（飛鳥資料館）
20.	11.	18	埋蔵文化財担当者専門研修「遺跡地図情報課程」（～11 月 21 日）
20.	12.	1	埋蔵文化財担当者専門研修「自然科学的年代決定法課程」（～12 月 5 日）
20.	12.	11	埋蔵文化財担当者専門研修「中近世城郭調査整備課程」（～12 月 18 日）
21.	1.	14	埋蔵文化財担当者専門研修「報告書作成課程」（～1 月 23 日）

21.　1.　25　講演会「聖武天皇の相次ぐ遷都」（平城宮跡資料館講堂）
21.　1.　26　消防訓練
21.　2.　1　無料観覧日（飛鳥資料館）
21.　2.　2　埋蔵文化財担当者専門研修「寺院遺跡調査課程」（～2 月 6 日）
21.　2.　3　冬期企画展「飛鳥の考古学 2008」（飛鳥資料館）（～3 月 1 日）
21.　2.　14　現地説明会「飛鳥藤原第 156 次（石神遺跡第 21 次）発掘調査」
21.　2.　17　埋蔵文化財担当者専門研修「生物環境調査課程」（～2 月 25 日）

Ⅶ 運営委員・評議員・外部評価委員名簿及び組織図

独立行政法人国立文化財機構運営委員会委員名簿

（平成 21 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
福　原　　義　春	株式会社資生堂名誉会長	委員長
大　沼　　淳	学校法人文化学園理事長	副委員長
阿　部　　充　夫	財団法人放送大学教育振興会会長	
石　澤　　良　昭	上智大学長	
上　野　　尚　一	朝日新聞社社主	
小　倉　　和　夫	独立行政法人国際交流基金理事長	
佐　藤　　宗　諄	奈良女子大学名誉教授	
白　石　　太一郎	大阪府立近つ飛鳥博物館長	
田　中　　浩　二	九州旅客鉄道株式会社取締役会長	
辻　　惟　雄	東京大学名誉教授	
辻　村　　泰　善	財団法人元興寺文化財研究所理事長	
青　柳　　正　規	独立行政法人国立美術館理事長	
中　島　　史　子	フリーライター	
羽毛田　　信　吾	宮内庁長官	
林　田　　ス　マ	大野城まどかぴあ男女平等推進センター所長	
福　田　　正　己	アラスカ大学教授	
マリ・クリスティーヌ	異文化コミュニケーター	
冷　泉　　為　人	財団法人冷泉家時雨亭文庫理事長	

・各館の評議員会評議員名簿

東京国立博物館評議員会評議員名簿

（平成 21 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
大　沼　　淳	学校法人文化学園理事長	会長
辻　　惟　雄	東京大学名誉教授	副会長
青　柳　　正　規	独立行政法人国立美術館国立西洋美術館長	
阿　部　　充　夫	財団法人放送大学教育振興会会長	
浦　井　　正　明	台東区文化財保護審議会委員	
小　寺　　正　樹	台東区立忍岡中学校長	
嵩　井　　雅　幸	東日本旅客鉄道株式会社上野駅長	
境　田　　和　男	台東区立根岸小学校長	
佐　野　　誠	東京都立上野高等学校長	
福　原　　義　春	株式会社資生堂名誉会長	
二　木　　忠　男	上野観光連盟会長	
牧　　美　也　子	漫画家	
マリ・クリスティーヌ	異文化コミュニケーター	
宮　田　　亮　平	東京芸術大学長	
吉　住　　弘	台東区長	
林　原　　行　雄	日興コーディアルグループ監査役	

京都国立博物館評議員会評議員名簿

（平成 21 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
興　膳　　宏	京都大学名誉教授	会長
嶋　崎　　丞	石川県立美術館長	副会長
荒　巻　　禎　一	京都文化博物館長	
池　坊　　由　紀	華道家元池坊次期家元	
岩　城　　見　一	京都国立近代美術館長	
上　野　　尚　一	朝日新聞社社主	
肥　塚　　隆	大阪人間科学大学及び大阪薫英女子短期大学学長	
佐　藤　　茂　雄	京阪電気鉄道株式会社最高経営責任者	
竹　下　　景　子	女優	
仲　田　　順　和	総本山醍醐寺執行長	
藤　井　　譲　治	京都大学大学院文学研究科教授	
細　見　　吉　郎	京都市副市長	
矢　嶋　　英　敏	株式会社島津製作所代表取締役会長	
湯　山　　賢　一	奈良国立博物館長	
冷　泉　　為　人	財団法人冷泉家時雨亭文庫理事長	

奈良国立博物館評議員会評議員名簿

（平成 21 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
木　村　　重　信	大阪大学名誉教授	会長
金　関　　恕	天理大学名誉教授	副会長
大　野　　玄　妙	聖徳宗管長・法隆寺住職	
花山院　　弘　匡	春日大社宮司	
佐々木　　丞　平	京都国立博物館長	
杉　本　　一　樹	宮内庁正倉院事務所長	
田　辺　　征　夫	奈良文化財研究所長	
辻　井　　昭　雄	近畿日本鉄道株式会社相談役	
辻　村　　泰　善	財団法人元興寺文化財研究所理事長	
富　岡　　將　人	奈良県教育委員会教育長	
中　島　　史　子	フリーライター	
西　口　　廣　宗	株式会社南都銀行代表取締役会長	
丹　羽　　雅　子	奈良女子大学名誉教授	
水　野　　正　好	大阪府文化財センター理事長	
森　本　　公　誠	東大寺長老	
山　崎　　しげ子	随筆家	

九州国立博物館評議員会評議員名簿

（平成 21 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
田　中　　浩　二	九州旅客鉄道株式会社　相談役	会長
高　倉　　洋　彰	西南学院大学国際文化学部教授	副会長
阿　川　　佐和子	文筆家	
石　田　　研　一	ＮＨＫ福岡放送局長	
井　上　　保　廣	太宰府市長	
衛　藤　　卓　也	福岡大学学長	
王　　貞　治	福岡ソフトバンクホークス取締役会長	
酒井田　　柿右衛門	陶芸作家	
坂　下　　政　子	国際ソロプチミストアメリカ日本南リジョン（九州・沖縄地区）直前ガバナー	
高　良　　倉　吉	琉球大学法文学部教授	
武　居　　丈　二	福岡県副知事	
多　田　　昭　重	株式会社西日本新聞社代表取締役会長	
西高辻　　信　良	太宰府天満宮宮司	
林　田　　ス　マ	大野城市まどかぴあ男女平等推進センター所長	

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会委員名簿

（平成 21 年 5 月 11 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
清　水　　眞　澄	成城大学学長	委員長
横　里　　幸　一	ＮＨＫプロモーション代表取締役社長	副委員長
稲　田　　孝　司	岡山大学名誉教授	
岡　本　　健　一	毎日新聞社客員編集委員	
小　林　　忠	学習院大学文学部教授	
酒　井　　忠　康	世田谷美術館長	
佐　藤　　信	東京大学大学院人文社会系研究科教授	
園　田　　直　子	国立民族学博物館文化資源研究センター教授	
竹　本　　幹　夫	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館長	
玉　蟲　　敏　子	武蔵野美術大学造形学部教授	
野　口　　昇	日本ユネスコ協会連盟理事長	
藤　田　　治　彦	大阪大学大学院教授	
藤　好　　優　臣	公認会計士	
森　　弘　子	福岡県文化財保護審議会専門委員	

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

博物館調査研究等部会委員名簿

（平成 21 年 5 月 11 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
小　林　　忠	学習院大学文学部教授	部会長
酒　井　忠　康	世田谷美術館長	
藤　田　治　彦	大阪大学大学院教授	
森　　弘　子	福岡県文化財保護審議会専門委員	

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

研究所調査研究等部会名簿

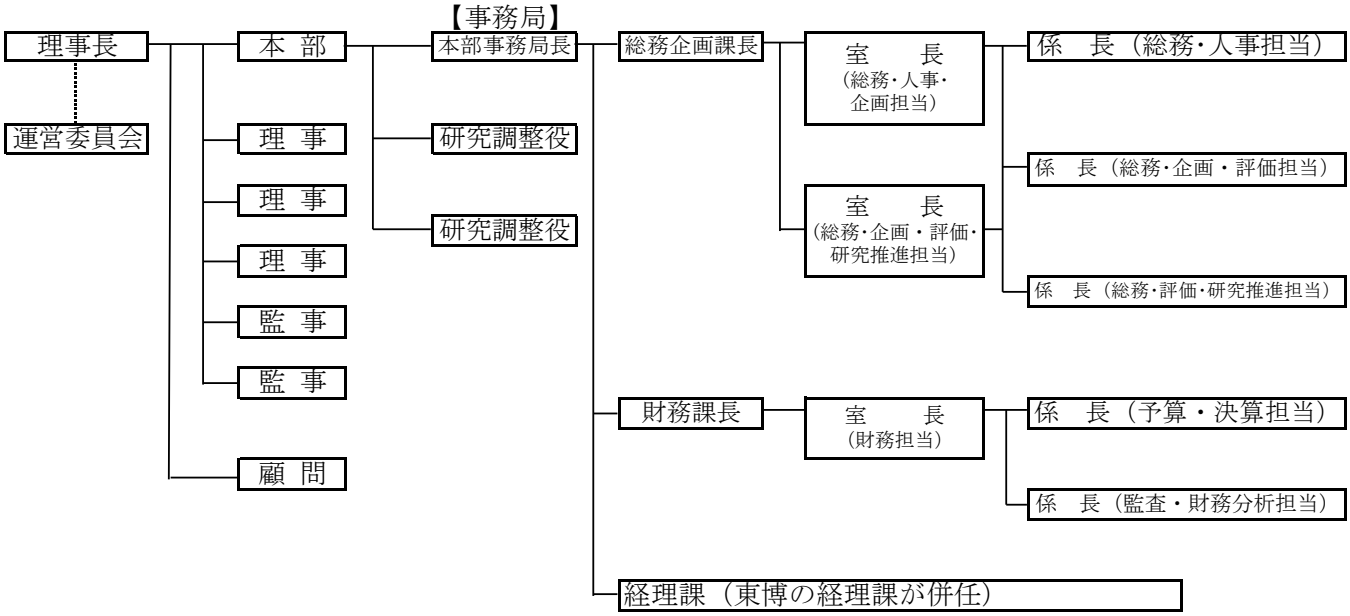
（平成 21 年 5 月 11 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
佐　藤　　信	東京大学大学院人文社会系研究科教授	部会長
稲　田　孝　司	岡山大学名誉教授	
岡　本　健　一	毎日新聞社客員編集委員	
園　田　直　子	国立民族学博物館文化資源研究センター教授	
竹　本　幹　夫	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館長	
玉　蟲　敏　子	武蔵野美術大学造形学部教授	
野　口　　昇	日本ユネスコ協会連盟理事長	

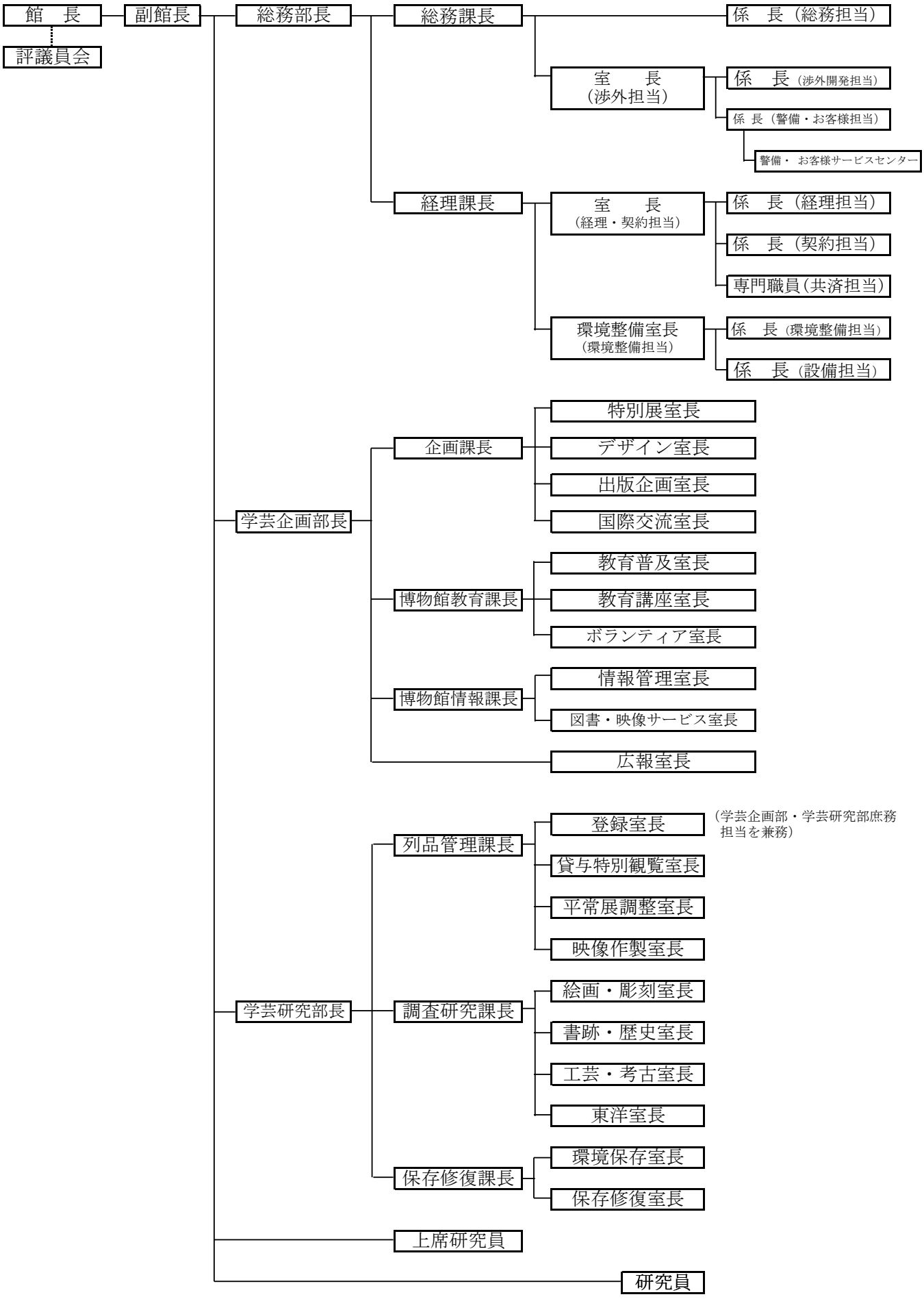
平成21年3月31日現在

◇組　織

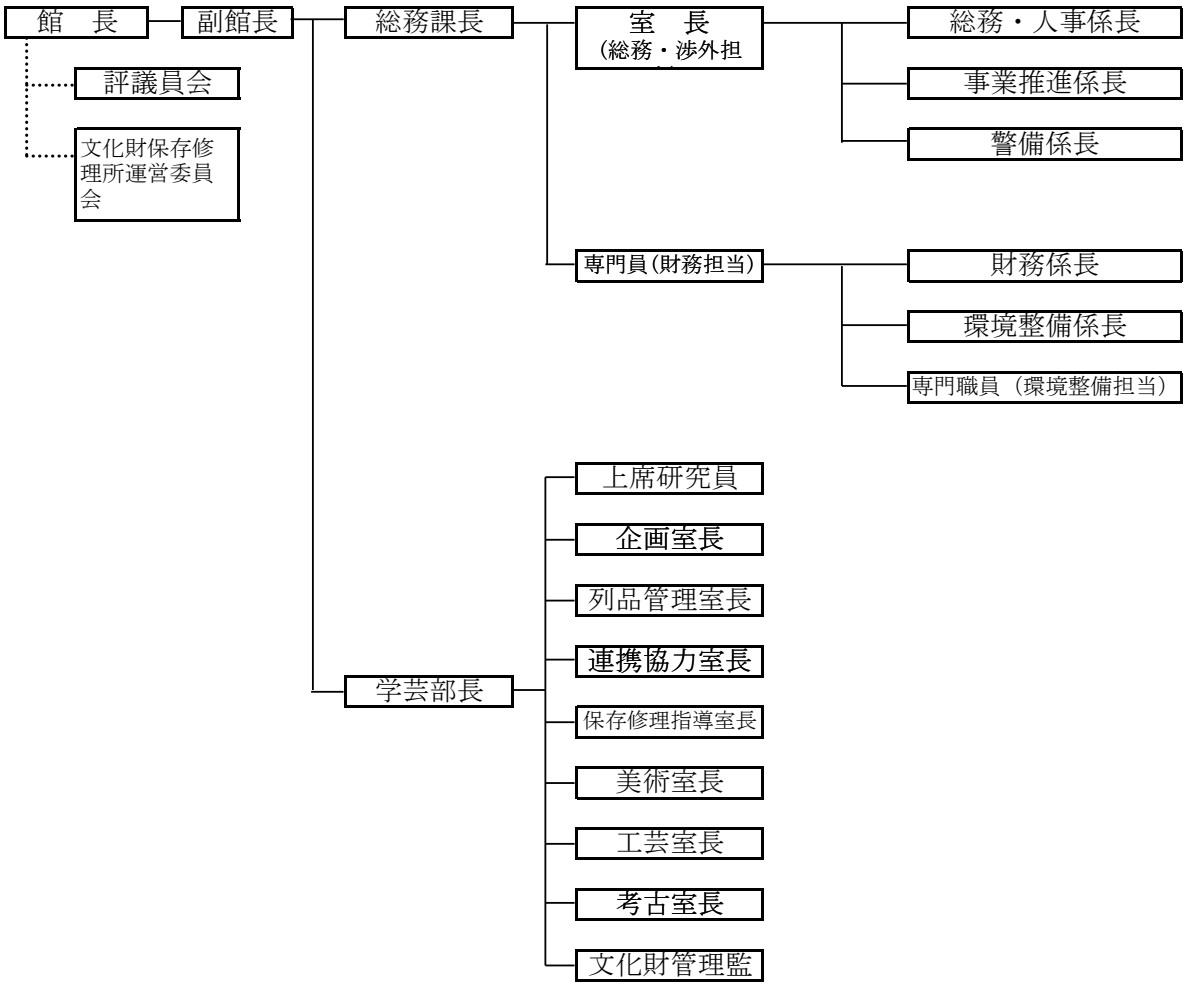
・法　人



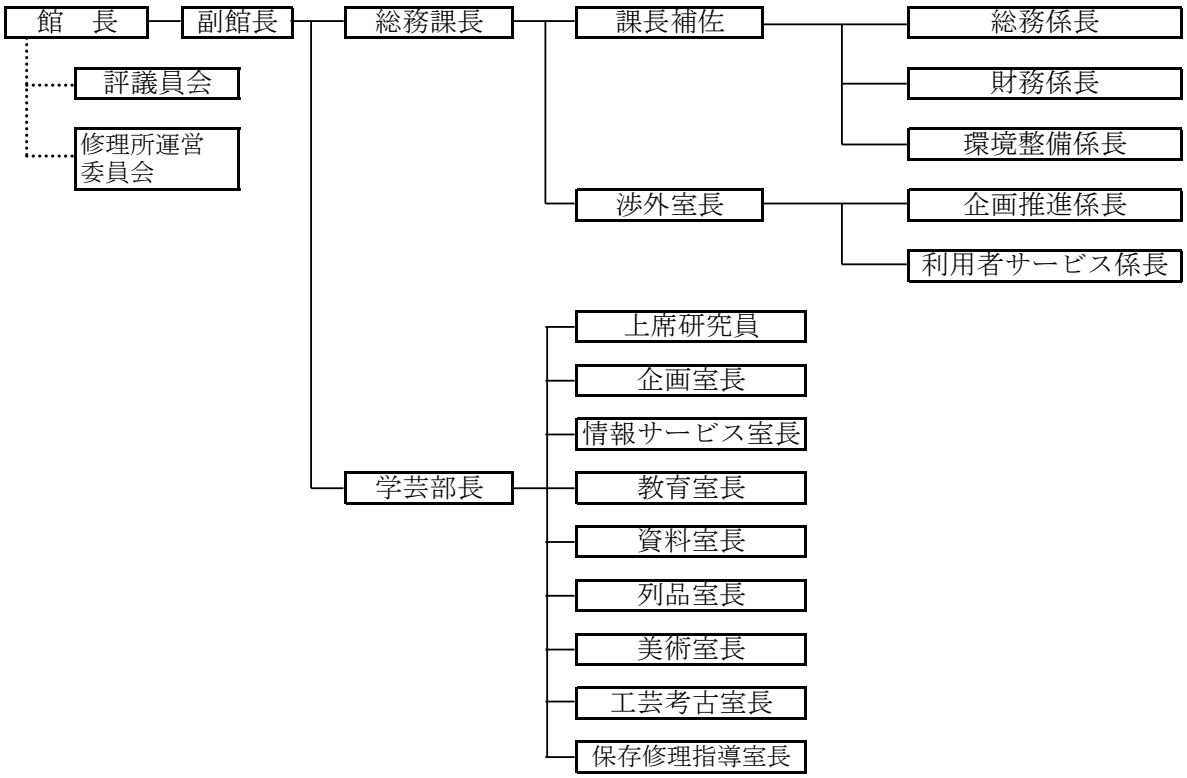
【東京国立博物館】


館　長
副館長
評議員会
総務部長
総務課長
係　長（総務担当）
室　長
（渉外担当）
係　長（渉外開発担当）
係 長（警備・お客様担当）
警備・ お客様サービスセンター
経理課長
室　長
（経理・契約担当）
係　長（経理担当）
係　長（契約担当）
専門職員（共済担当）
環境整備室長
（環境整備担当）
係　長（環境整備担当）
係　長（設備担当）
学芸企画部長
企画課長
特別展室長
デザイン室長
出版企画室長
国際交流室長
博物館教育課長
教育普及室長
教育講座室長
ボランティア室長
博物館情報課長
情報管理室長
図書・映像サービス室長
広報室長
学芸研究部長
列品管理課長
登録室長
（学芸企画部・学芸研究部庶務担当を兼務）
貸与特別観覧室長
平常展調整室長
映像作製室長
調査研究課長
絵画・彫刻室長
書跡・歴史室長
工芸・考古室長
東洋室長
保存修復課長
環境保存室長
保存修復室長
上席研究員
研究員

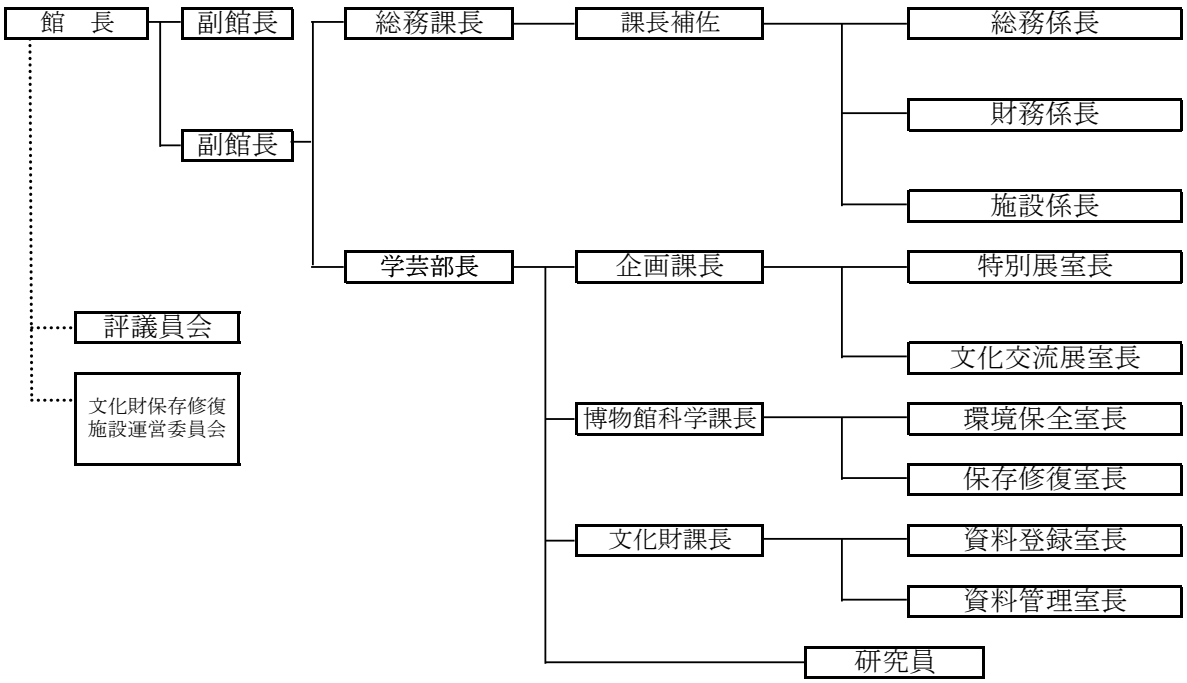
【京都国立博物館】


館　長
副館長
評議員会
文化財保存修理所運営委員会
総務課長
室　長
（総務・渉外担
総務・人事係長
事業推進係長
警備係長
専門員（財務担当）
財務係長
環境整備係長
専門職員（環境整備担当）
学芸部長
上席研究員
企画室長
列品管理室長
連携協力室長
保存修理指導室長
美術室長
工芸室長
考古室長
文化財管理監

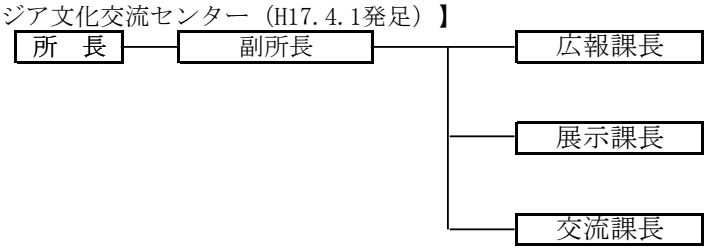
【奈良国立博物館】



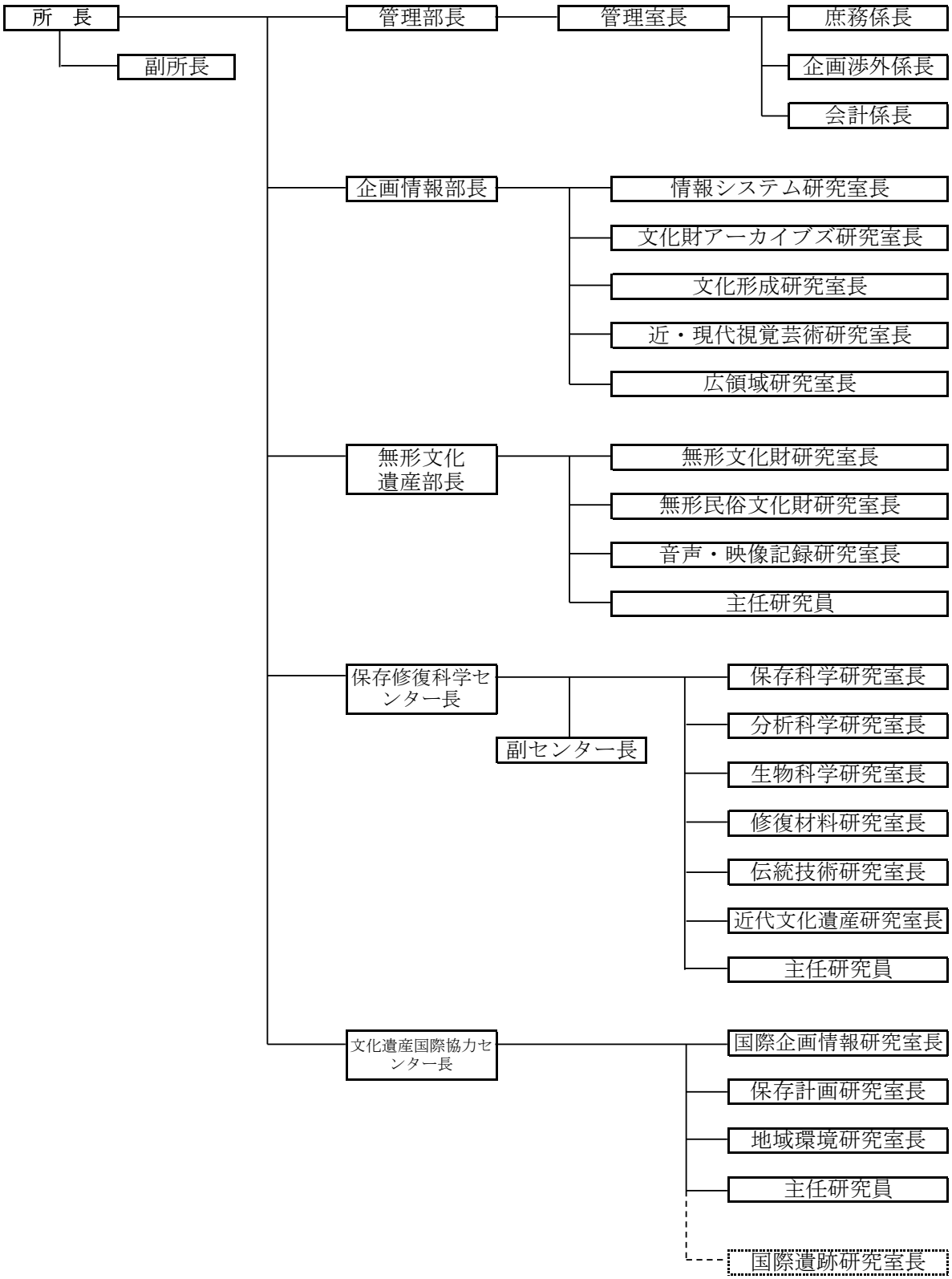
【九州国立博物館】



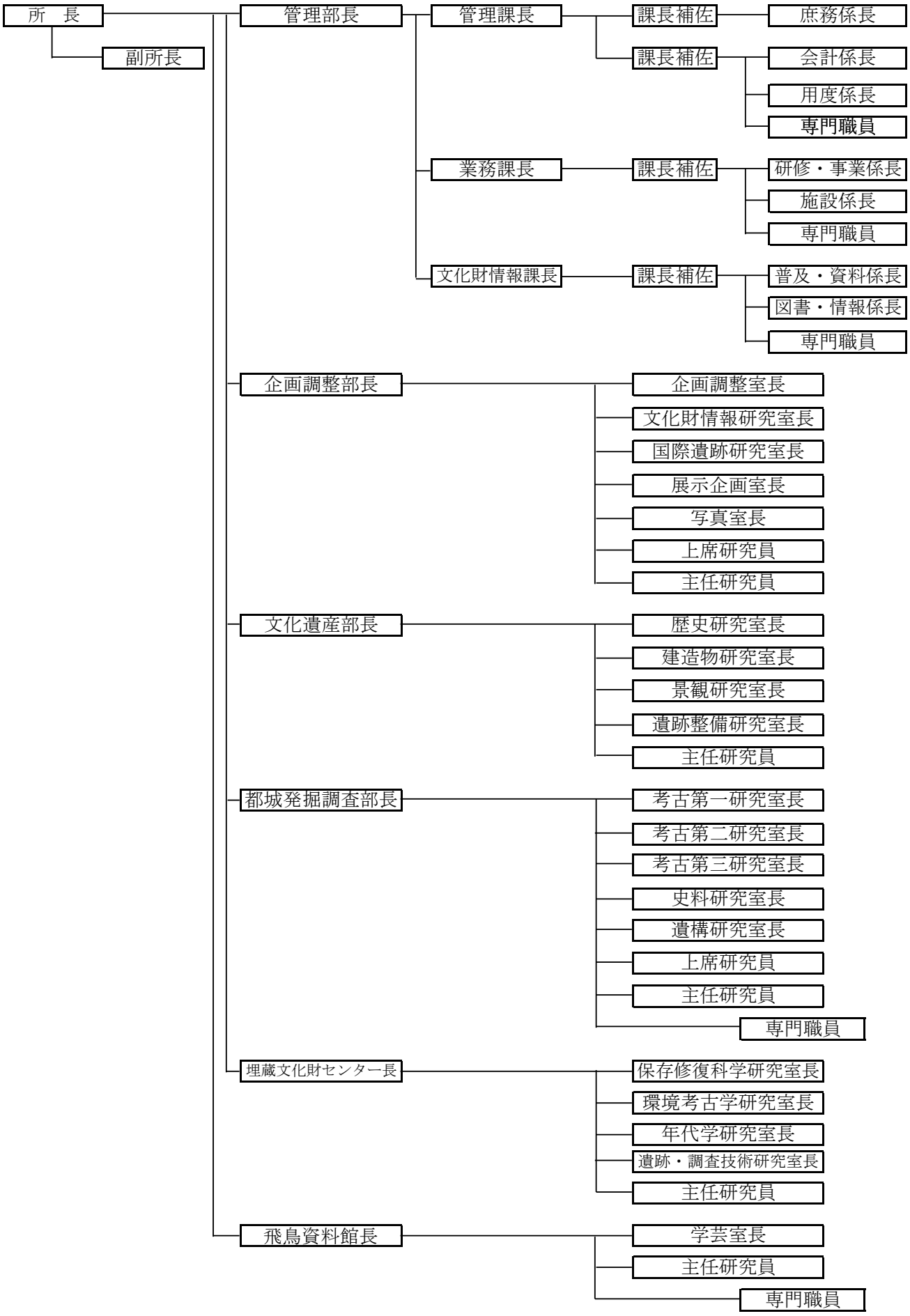
【アジア文化交流センター（H17.4.1発足）】



【東京文化財研究所】


所　長
副所長
管理部長
管理室長
庶務係長
企画渉外係長
会計係長
企画情報部長
情報システム研究室長
文化財アーカイブズ研究室長
文化形成研究室長
近・現代視覚芸術研究室長
広領域研究室長
無形文化遺産部長
無形文化財研究室長
無形民俗文化財研究室長
音声・映像記録研究室長
主任研究員
保存修復科学センター長
副センター長
保存科学研究室長
分析科学研究室長
生物科学研究室長
修復材料研究室長
伝統技術研究室長
近代文化遺産研究室長
主任研究員
文化遺産国際協力センター長
国際企画情報研究室長
保存計画研究室長
地域環境研究室長
主任研究員
国際遺跡研究室長

【奈良文化財研究所】


所　長
副所長
管理部長
管理課長
課長補佐
庶務係長
課長補佐
会計係長
用度係長
専門職員
業務課長
課長補佐
研修・事業係長
施設係長
専門職員
文化財情報課長
課長補佐
普及・資料係長
図書・情報係長
専門職員
企画調整部長
企画調整室長
文化財情報研究室長
国際遺跡研究室長
展示企画室長
写真室長
上席研究員
主任研究員
文化遺産部長
歴史研究室長
建造物研究室長
景観研究室長
遺跡整備研究室長
主任研究員
都城発掘調査部長
考古第一研究室長
考古第二研究室長
考古第三研究室長
史料研究室長
遺構研究室長
上席研究員
主任研究員
専門職員
埋蔵文化財センター長
保存修復科学研究室長
環境考古学研究室長
年代学研究室長
遺跡・調査技術研究室長
主任研究員
飛鳥資料館長
学芸室長
主任研究員
専門職員

平成２０年度　自己点検評価報告書統計表

平成 20 年度　自己点検評価報告書　統計表

1. 歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

(1) 収蔵品

①収蔵品一覧表 …… 1

②平成 20 年度新収品一覧表 …… 3

③平成 20 年度新収品一覧

【東京国立博物館】 …… 4

【京都国立博物館】 …… 14

【奈良国立博物館】 …… 19

【九州国立博物館】 …… 20

(2) 寄託品

①寄託品増減表 …… 30

②寄託品一覧表 …… 30

③登録美術品一覧表 …… 30

(3) 収蔵品の管理・保存

①各収蔵庫、展示場の温湿度 …… 31

②保存カルテ作成件数 …… 32

(4) 修理

①修理件数 …… 33

②修理概況

【東京国立博物館】 …… 34

【京都国立博物館】 …… 45

【奈良国立博物館】 …… 47

【九州国立博物館】 …… 48

③文化財管理データのデータベース化件数 …… 53

2. 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

(1) 展示の充実

①入館者数 (P157　◎共通資料 d①)

②入館者数(過去５ヵ年) (P158　◎共通資料 d②)

③入場料収入 (P160　◎共通資料 d③)

④展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等の設置 …… 54

⑤平常展・特別展 (P161　◎共通資料 d④)

⑥広報刊行物一覧 …… 55

(2) 歴史・伝統文化の理解促進

①学習機会の提供(過去５ヵ年) …… 57

②児童生徒を対象とした教育普及事業 …… 58

③大学等との連携 …… 62

④講座・講演会等の開催実績 …… 66

⑤ギャラリートーク実施状況 ・・・

(5)有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究
①調査研究テーマ一覧 (P119 ◎共通資料 a②)
⑥科学研究費補助金による調査研究 (P150 ◎共通資料 a⑥)
⑦客員研究員一覧 (P153 ◎共通資料 a⑦)

5. 文化財の保存・修復に関する国際協力の推進
(1) 文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力及び国際共同研究
①調査研究テーマ一覧 (P119 ◎共通資料 a②)
②国際ワークショップ開催実績一覧 ・・・

7. 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
①国･地方公共団体等に対する専門的･技術的な協力･助言 ･･･ 97
②専門指導者層を対象とした研修等実施状況及び研究参加者等に対するアンケート結果 97

◎共通資料
a. 調査研究
①研究交流実績一覧 ･･･ 98
②調査研究テーマ一覧 ･･･ 119
③学会､研究会等発表実績一覧 ･･･ 123
④論文等発表実績一覧 ･･･ 133
⑤調査研究刊行物一覧 ･･･ 144
⑥科学研究費補助金による調査研究 ･･･ 147
⑦客員研究員一覧 ･･･ 150
b. ボランティア受入れ実績 ･･･ 153
c. ウェブサイト(ホームページ)のアクセス件数 ･･･ 156
d. 展示
①入館者数 ･･･ 157
②入館者数(過去５ヵ年) ･･･ 158
③入場料収入 ･･･ 160
④平常展・特別展
【東京国立博物館】･･･ 161
【京都国立博物館】･･･ 176
【奈良国立博物館】･･･ 177
【九州国立博物館】･･･ 178
(参考)
【平城宮跡資料館】･･･ 180
【藤原宮跡資料室】･･･ 180
【飛鳥資料館】･･･ 180

附属資料
平成 20 年度特別展アンケート結果

1. 歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

(1)収蔵品

①収蔵品一覧表

平成21年3月31日現在

		国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計		121,121	129	924	112,529	87	622	6,417	27	177	1,805	12	100	370	3	25
絵画		13,303	34	193	11,082	20	98	1,880	9	54	283	4	37	58	1	4
書跡		3,168	34	164	1,712	14	57	1,292	15	77	135	4	25	29	1	5
彫刻		1,387	1	44	1,100	0	21	131	0	1	141	1	16	15	0	6
建築		77	0	2	21	0	0	49	0	1	5	0	0	2	0	1
金工		16,360	3	53	15,830	1	17	360	2	23	158	0	11	12	0	2
刀剣		3,415	20	56	3,392	19	56				16	0	0	7	1	0
陶磁		3,730	0	16	2,931	0	11	695	0	2	81	0	0	23	0	3
漆工		4,130	6	27	3,730	4	19	185	0	2	65	2	4	150	0	2
染織		4,617	2	24	3,624	0	17	891	1	6	92	1	1	10	0	0
考古		29,919	4	72	28,501	4	55	654	0	10	728	0	6	36	0	1
民族資料		1,299	0	0	1,190	0	0	0	0	0	101	0	0	8	0	0
歴史資料		3,280	0	3	2,984	0	1	280	0	1	0	0	0	16	0	1
和書		17,562	0	1	17,562	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0
東洋	絵画	684	4	31	684	4	31									
	書跡	1,648	10	12	1,648	10	12									
	彫刻	797	0	20	797	0	20									
	金工	986	0	0	986	0	0									
	陶磁	3,003	0	10	3,003	0	10									
	漆工	524	0	4	524	0	4									
	染織	585	0	1	585	0	1									
	考古	5,806	0	3	5,806	0	3									
	民族	3,458	0	0	3,458	0	0									
法隆寺献納宝物		321	11	181	321	11	181									
黒田記念館収蔵品		809	0	2	809	0	2									
準歴史資料(含和書)		249	0	5	249	0	5									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

＊列品に編入されていない資料については「準歴史資料(含和書)」の項目に記し、列品化整理中の資料とを分けて表示。

＊東京国立博物館、京都国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせることとした(このほか東京国立博物館には建造物の重要文化財が5件ある)。

（参考）

【奈良文化財研究所】

○保管及び所蔵文化財・資料概要（主なもの）

平成21年3月31日現在

保管及び所蔵文化財・資料名	数
[文化遺産研究部]	
国宝・重要文化財建造物保存図	約30,100枚
国宝・重要文化財建造物摺拓本	約26,000枚
国宝・重要文化財建造物写真乾板	約32,000枚
北浦定政関係資料（重要文化財）	約1,100点
棚田嘉十郎関係資料	20点
関野貞関係資料	54点
菅原大三郎資料関係	7箱
森蘊資料	約4,500点
村岡正資料	約3,000点
小林剛関係資料	約38箱
[都城発掘調査部（平城地区）]	
平城宮跡大膳職推定地出土木簡（重要文化財）	39点
平城宮跡内裏北外郭官衙出土木簡（重要文化財）	1,785点
興福寺旧境内土壙（一乗院宸殿跡下層）出土品（重要文化財）	一括
平城宮・京出土土器・土製品	29,203箱
平城宮・京出土木製品・金属製品・石製品	31,205点
平城宮・京出土瓦類	504,604点
平城宮・京出土木簡	175,000点
[都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区)]	
軒丸瓦・軒平瓦	約34,377点
丸瓦・平瓦　土嚢袋	約167,754袋
丸瓦・平瓦　整理箱	約36,844箱
土器　整理箱	約15,581箱
土製品	約14,342点
木器・木製品	約33,808点
木簡	約35,151点
建築部材	約2,927点
金属製品	約19,727点
石器・石製品	約14,085点
漏刻復原模型	1点
山田寺金堂軒先復原模型	1点
古代飛鳥の模型（台付き）	1点
著墓の戦いの模型（台付き）	1点
幢幡復原模型（台付き）	一式
飛鳥大仏頭部複製（模刻）	1点
藤ノ木古墳鞍復原模型	1点
山田寺灯籠復原模型	1点
七世紀の武人復原模型	一式
富本銭枝銭復原模型	一式
碁盤復原模型	1点
鉄釜鋳造土坑復原模型	1点
[飛鳥資料館]	
高松塚古墳出土品（海獣葡萄鏡　銀製太刀金具　棺金具　ガラス小玉漆塗り木棺）	一式
須弥山石	1点
石人像	1点
飛鳥寺塔跡出土舎利荘厳具	一式
飛鳥寺出土瓦類	一式
山田寺跡出土品（重要文化財）	一括
和田廃寺鴟尾（飛鳥藤原宮跡発掘調査部所属）	1点
川原寺出土水波紋土磚	2点
岡出土車石	8点
飛鳥各地出土瓦類	一式
川原寺裏山出土三尊磚仏	2点
飛鳥川原宮出土唐居敷	1点
高松塚古墳壁画模写（前田青邨、平山郁夫等）	3面
高松塚古墳人物復元衣装	一式
石上神宮七枝刀レプリカ	1点
水落遺跡遺構1/20模型	1点
猿石模刻	一式

保管及び所蔵文化財・資料名	数
亀石模刻	1点
須弥山石復元模刻	1点
石人像復元模刻	1点
出水酒船石模刻	2点
阿武山古墳出土　玉枕　冠帽　復元模型	3点
川原寺伽藍1/50模型	1点
山田寺金堂1/10模型	1点
飛鳥京1/500模型	1点
山田寺発掘遺構1/100模型	1点
石舞台古墳1/20模型	1点
飛鳥寺発掘遺構1/100模型	1点
石のカラト古墳1/20模型	1点
野中寺銅造弥勒菩薩半伽像レプリカ	1点
銅造摩耶夫人及天人像レプリカ	4点
威奈大村骨蔵器レプリカ	1点
長谷寺法華説相図レプリカ	1点
諸陵周垣成就記並諸陵図譜	1点
鼓銅図録	1点
高松塚古墳木棺模造	1点
[埋蔵文化センター]	
埼玉県真福寺貝塚資料	一式
岡山県福田貝塚資料	一式
埼玉県上福岡貝塚資料	一式
神奈川県田戸遺跡資料	一式
神奈川県子母口貝塚	一式
神奈川県大口坂貝塚資料	一式
能登縄文資料（15遺跡）	一式
千葉県曽谷貝塚資料	一式
長野県石小屋遺跡資料	一式
山形県蛭沢洞窟資料	一式
東京都小豆沢貝塚資料	一式
茨城県広畑貝塚資料	一式
中国・朝鮮瓦磚資料	一式
岡山地方陶棺資料	一式
下総国分寺・尼寺資料	一式
関東地方加曽利B式資料	一式
岩手県足沢遺跡資料	一式
茨城県浮島貝塚資料	一式
千葉県幸田貝塚資料	一式
滋賀県安土遺跡資料	一式
岡山県黒土遺跡資料	一式
神奈川県保土ヶ谷貝塚資料	一式
千葉県姥山貝塚資料	一式
宮城県川下り・響き資料 大木囲貝塚 東貝塚 室浜貝塚 福浦島貝塚 里浜貝塚	一式
東北縄文晩期末資料	一式
東北各地発見縄文資料	一式
北海道資料	一式
発見地不詳縄文資料	一式
発見地不詳須恵器資料	一式
発見地不詳石器・石斧資料	一式
愛知県西滋賀貝塚資料	一式
愛知県吉胡貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料	一式
関東地方埴輪資料	一式
静岡県登呂遺跡資料	一式

②平成20年度新収品一覧表

平成21年3月31日現在

		国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
合計		168			90			30			11			37		
計		52	113	3	7	81	2	8	21	1	7	4	0	30	7	0
絵画		15	5	0	1	0	0	7	5	0	1	0	0	6	0	0
書跡		12	25	0	1	21	0	0	0	0	4	4	0	7	0	0
彫刻		4	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0
建築		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工		1	0	2	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0
刀剣		0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
陶磁		1	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0
漆工		3	11	0	1	2	0	0	9	0	0	0	0	2	0	0
染織		10	14	0	2	10	0	1	4	0	0	0	0	7	0	0
考古		4	11	1	0	5	0	0	2	1	0	0	0	4	4	0
民族資料		0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料		2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
和書		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	絵画	0	35	0	0	35	0									
	書跡	0	4	0	0	4	0									
	彫刻	0	0	0	0	0	0									
	金工	0	0	0	0	0	0									
	陶磁	0	2	0	0	2	0									
	漆工	0	0	0	0	0	0									
	染織	0	0	0	0	0	0									
	考古	0	0	0	0	0	0									
	民族	0	0	0	0	0	0									
法隆寺献納宝物		0	0	0	0	0	0									
黒田記念館収蔵品		0	0	0	0	0	0									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。
＊16年度より15年度以降の「歴史資料」と分類していたのものを「和書」と「歴史資料」に分け表示している。
＊平成19年4月1日付けで黒田記念館収蔵品が東京文化財研究所から東京国立博物館に移管となった。
＊京都国立博物館は、このほかに、平成20年度染織において1件亡失列品が見つかった。

付表・文化財収集件数の推移

5年間の新収集品一覧表

		平成16年度			平成17年度				平成18年度				平成19年度			平成20年度		
		購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	除却	購入	寄贈	編入	除却	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
合計		121			342			165	238			1	972			168		
小計		86	28	7	62	173	272	165	53	173	13	1	93	68	811	52	113	3
絵画		16	6	0	14	10	9	6	8	16	1	0	21	16	0	15	5	0
書跡		8	2	0	5	4	15	11	3	24	0	0	5	2	0	12	25	0
彫刻		2	0	0	2	5	9	4	0	8	0	0	1	9	0	4	0	0
建築		0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0
金工		14	0	1	3	2	101	9	0	48	0	0	3	11	0	1	0	2
刀剣		0	0	0	1	1	1	1	0	5	0	0	1	2	0	0	2	0
陶磁		3	0	0	8	3	4	3	4	3	0	0	14	1	0	1	2	0
漆工		8	2	0	4	3	108	107	23	1	1	0	20	1	0	3	11	0
染織		14	3	0	13	1	0	0	8	7	0	0	19	4	0	10	14	0
考古		13	5	3	4	130	13	12	2	14	4	0	7	2	1	4	11	1
民族資料		1	2	0	0	1	0	0	0	2	1	0	0	1	0	0	1	0
歴史資料		5	0	3	0	3	1	1	0	5	5	0	0	1	0	2	1	0
和書		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
東洋	絵画	0	0	0	0	0	0	2	0	6	0	0	0	0	0	0	35	0
	書跡	0	1	0	5	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0
	彫刻	0	0	0	0	0	0	3	0	21	0	0	0	0	0	0	0	0
	金工	0	1	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	陶磁	0	0	0	0	9	0	1	0	0	0	0	0	12	0	0	2	0
	漆工	2	0	0	0	0	0	1	1	9	0	0	0	1	0	0	0	0
	染織	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	考古	0	0	0	1	0	3	0	3	4	0	0	1	3	1	0	0	0
	民族	0	6	0	2	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
法隆寺献納宝物		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
黒田記念館収蔵品		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	809	0	0	0

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。
＊16年度より15年度以降の「歴史資料」と分類していたのものを「和書」と「歴史資料」に分け表示している。
＊平成19年4月1日付けで黒田記念館収蔵品が東京文化財研究所から東京国立博物館に移管となった。

③平成20年度新収品一覧

【東京国立博物館】（計90件）

(1) 購入(7件)

＜絵画＞(1件)

1　○名　　称　（重要文化財）般若菩薩像
　　○時　　代　鎌倉時代・13世紀
　　○品　　質　絹本着色
　　○寸 法 等　1幅　104.5×58.8
　　○作品概要　般若菩薩は、胎蔵界曼荼羅中の中央中大八葉院の直ぐ下の持明院中央に描かれる重要な菩薩である。しかしながら、単独での信仰はほとんどなかったようで、遺品は少なく、他には般若菩薩を中心に各尊を描いた京都・醍醐寺の般若菩薩曼荼羅(鎌倉時代・重要文化財)が知られる程度であり、仏画の独尊像としての本格的作品は本件以外見当たらない。仏教絵画史、また仏教史的にも希少な作品であり、加えて鎌倉時代 13 世紀に遡る仏画として、繊細精緻な文様描写など表現的にも優れた貴重な作品といえよう。

＜書跡＞(1件)

2　○名　　称　書状
　　○作 者 等　豊臣秀吉筆
　　○時　　代　安土桃山時代・天正14年(1586)
　　○品　　質　紙本墨書
　　○寸 法 等　1幅　本紙　縦27.8×横43.1
　　○作品概要　掛幅装　本紙は元々は折紙であったものを折目で裁断し継合わせ表装する。料紙は楮紙系で比較的厚めのもの。豊臣秀吉(1537-98)は安土桃山時代を代表する武将で、織田信長の後継者として天下を統一した人物。差出は「てんか」とあり宛所を欠くが秀吉がその室杉原氏(北政所)に宛てた自筆書状と推測される。特に文中に「ふしん(普請)」、「ひはり(檜割)」そして差出書に「きゃう」とあることから、秀吉が上洛して自身の居所としての聚楽第普請の状況を報じているものと考えられる。仮名交じりの文体であること、自身の差出書を「てんか」という仮名(けみょう)で記している点、「こもし」、「きんこ」、「おおまところ」など自身とかかわりの深い人物について略称を用いている点が室杉原氏宛と推測する根拠である。また強弱・細太が極端な癖のある字は秀吉の筆致の特徴をよく表している。

＜彫刻＞(2件)

3　○名　　称　（重要文化財）十二神将立像 申神
　　○時　　代　鎌倉時代・13世紀
　　○品　　質　木造、彩色・截金、玉眼
　　○寸 法 等　1躯
　　○作品概要　頂に申の標識を表し、頭部をわずかに左に向け、右手に大刀を執り、右足を上げて立つ。頭巾・領巾・肩甲・胸甲・表甲・腰甲・獣皮・甲締具・腰帯・天衣・窄袖・鰭袖・裙・袴・脛当・沓をつける。
彩色の概要は次のとおり。身色は朱の具、頭巾は白緑地に花文、領巾は獣皮、肩甲は花文、胸甲は緑青地に截金で6ツ目入り二重亀甲繋ぎ文、表甲は金箔地に小礼、腰甲は内区が丹地に唐草、外区が花文、腰帯はベンガラかと思われる地に白緑の文様があるが詳細不明、天衣は表白緑、裏丹、鰭袖は、上膊部が茶色地に截金による格子と斜格子の合わせ文、鰭部は緑青と群青の縞、窄袖はベンガラ地に唐草文、裙は表が朱地に截金による4ツ目入り3重斜格子、裏が丹地で文様不明、袴は丹の具地に菱形花文、脛当は窓内に花文、外は白緑地に群青の斑点、沓は丹地に墨とベンガラの斑点。
構造の詳細は彩色のためあきらかでないが、X線写真を参照すると、体幹部は前後矧ぎで、背板風にさらに1材を矧ぐ。頭部は挿し首で、前後矧ぎ。玉眼嵌入。肩・肘・手首・足首で矧ぐ。右腰から右脚大腿部にいたる部分は別材矧ぎで、さらに体幹部材との間に細い材を1材はさむ。右膝下別材矧ぎの可能性がある。

4　○名　　称　能面(2面)
　　1. 能面 翁
　　○時　　代　南北朝～室町時代・14～15世紀
　　○品　　質　木造、彩色
　　○寸 法 等　1面　縦19.1　幅15.3
　　○作品概要　式三番の翁舞に用いる翁面。白式尉ともいう。ボウボウ眉、口ひげは毛描き、顎ひげは植毛する。顎を切り離して紐で吊る。表面は白く塗り、面裏は茶褐色の漆を塗る。

　　2. 能面 三番叟
　　○時　　代　室町～安土桃山時代・15～16世紀
　　○品　　質　木造、彩色
　　○寸 法 等　1面　縦17.0 幅13.4
　　○作品概要　式三番の三番叟に用いる黒式尉。ボウボウ眉、口ひげ、顎ひげは植毛する。顎を切り離して紐で吊る。表面、面裏ともに黒く塗る。

＜漆工＞(1件)

5　○名　　称　松椿蒔絵硯箱
　　○時　　代　室町時代・16世紀
　　○品　　質　木製漆塗
　　○寸 法 等　1合　縦22.4　横21.6　高4.5
　　○作品概要　蓋の肩を削面として口縁に玉縁を廻らした、被蓋造の箱。身の内中央に硯・水滴を嵌めた下水板を収め、その左右に懸子を収める。表面は全体を黒漆塗として、蓋表に金研出蒔絵を主体にして、土坡に松・椿の樹を表わす。松葉や松の実には、絵梨子地風の表現が用いられ、付描で葉などを描いている。蓋裏と懸子の見込みには、金研出蒔絵で松と椿の折枝を表わしている。

＜染織＞(2 件)

6 ○名　　称　小袖 紅綸子地桐樹鳳凰模様
○時　　代　江戸時代・18 世紀
○品　　質　綸子地に絞り・刺繍
○寸 法 等　1 領　身丈 158.0 裄 63.0
○作品概要　雲文と雑宝文を織り出した綸子地に、鹿の子絞りで裾から立ち昇るように桐樹の立木模様を表わした小袖である。桐樹の周囲にはさまざまな姿で飛び交う鳳凰を、紺・縹・萌黄・紅・白・金茶といった釜糸や撚金糸で刺繍する。また、桐の花や葉の一部も刺繍で表わされる。裏地には紅絹が用いられ、裾の袵には厚く綿が入る。留袖の袂は模様が切れてしまっていることから、もともとは振袖だったものを留袖に仕立て替えたと考えられる。

7 ○名　　称　小袖 紫白染分縮緬地笠扇桜文字模様
○時　　代　江戸時代・18 世紀
○品　　質　縮緬地に友禅染と刺繍
○寸 法 等　1 領　身丈 151.0　裄 61.5
○作品概要　縮緬地を紫と白に染め分け、友禅染で団扇・扇・笠模様を上から下へ枝垂れるように表わし、撚金糸や紅・萌黄などの釜糸で桜模様とカタカナの文字を散らした模様を刺繍した小袖である。文字模様は伊勢大輔の「いにしへの　奈良の都の　八重桜　けふ九重に　にほひぬるかな」の一部を、町方の女性にも親しめるよう、カタカナで表わしている。もともとは振袖であったが、留袖に仕立替えられている。肩山が一度裁断されていること、衽が欠損していること、左袖の袂には不自然な部分に継ぎがあることなどから、かつては打敷などに仕立て替えられていたが、小袖に仕立て直したものと考えられる。

(2) 寄贈(81件)

＜書跡＞(21 件)

8 ○名　　称　赤壁賦
○作 者 等　巻菱湖(1777～1843)筆
○時　　代　江戸時代・天保 10 年(1839)
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　1 幅　縦 177.0×横 72.3
○作品概要　巻子装。「赤壁賦」は、中国北宋の蘇軾が作った前後二編の賦として知られている。これは元豊 5 年(1082)7 月に、蘇東坡が三国の英雄曹操や周瑜の風流を偲び、自分の流人の身の憂いを、明月と江上の清風によって忘れたという名文である。多くの文人に好まれて揮毫されている。各書体を能くした巻菱湖であるが、これは丹念な隷書で揮毫した作品である。文末に「己亥五月菱湖老人書」とあるので、天保 10 年(1839)、菱湖の晩年、63 歳の筆跡である。

9 ○名　　称　書巻
○作 者 等　伊藤仁斎筆
○時　　代　江戸時代・承応元年(1652)
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　1 巻　縦 29.5×横 775.8(cm)
○作品概要　中国・北宋の儒学者、歴史家、政治家の司馬光(1019～1086)の「独楽園記」と、唐の詩人・李白の「春夜宴桃李宴序」を揮毫したもの。「独楽園記」と「春夜宴桃李宴序」はともに、当時の有識階級の人に好まれ、多くの儒者や文人によって執筆された。これもその一つである。「独楽園記」の冒頭を欠失する。伊藤仁斎の筆になり、当時盛行しつつあった唐様の書風で揮毫された作品である。「壬辰初冬」の落款により、承応元年(1652)、仁斎 26 歳の筆である。

10 ○名　　称　記録切
○作 者 等　伝藤原定家筆
○時　　代　南北朝～室町時代・14～16 世紀
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　1 幅　縦 17.5 横 41.9
○作品概要　掛幅装。天地に淡墨界を引き、供奉の行列の次第について筆写したもの。

11 ○名　　称　書状
○作 者 等　千利休(1522～1591)筆
○時　　代　安土桃山時代・16 世紀
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　1 幅　縦 28.9 横 35.9
○作品概要　掛幅装。年未詳十一月十二日付。文頭に見える「富左近殿」は豊臣秀吉の家臣で茶人としても知られる富田一白(?-1599、知信、長家とも)で、利休の書状では比較的多く登場する人物である。富田一白から茶釜を金二十枚で入手したので、披露ついでに座敷(茶席)を設けるかどうか御意を得たい旨、宛先の人物に尋ねている。宛名を欠いており、奥を切り縮めた可能性がある。

12 ○名　　称　書状
○作 者 等　小堀遠州(1579-1647)筆
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　1 幅　縦 15.8 横 43.7
○作品概要　掛幅装。切紙。筆跡は定家流であるが、やや震えが認められる。宛所の「寺尾弾正殿」は、尾張徳川家の家臣であった寺尾直政(1604?-1650)で、官職から、正保 2 年(1645)以降の書状と判断される。したがって、本文に見える「亜相様」は主君に当たる大納言徳川義直(1601-1650)であろう。遠州は正保 4 年(1647)に死去しているので、この書状の年代は晩年の正保 2－3 年頃と推定される。本文では、大納言様が機嫌よく御成りになったこと、伽羅の所望があったので遣わしたことなどを述べ、俳諧風の祝歌一首を添えている。

13 ○名　　称　額字草稿
○作 者 等　小堀宗中(1786～1867)筆
○時　　代　江戸時代・19 世紀
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　1 幅　縦 29.5 横 59.3
○作品概要　掛幅装。やや薄めの墨で「松風庵」との庵号を隷書体で揮毫したもの。小堀宗中の書状が付属する。

14 ○名　　称　書状
○作 者 等　伊達忠宗(1600～1658)筆
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　1 幅　縦 36.8 横 52.8
○作品概要　掛幅装。極(十二月)十七日付。この書状は「休意老」という人物に宛てたもので、翌日の茶席への招待に礼を述べ、一両日咳病のため月代の手入れができないことをわびている。宛先は老臣などごく親しい人物であろう。奥上に切封墨引跡がある。

15 ○名　　称　五言絶句
○作 者 等　広瀬淡窓(1782～1858)筆
○時　　代　江戸時代・19 世紀
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　1 幅　縦 23.3 横 18.7
○作品概要　掛幅装。自詠の五言詩を 4 行に揮毫したもの。

16 ○名　　称　源氏物語　夕顔
○時　　代　鎌倉時代・13 世紀
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　1 帖　15.8×15.4、58 丁
○作品概要　綴葉装冊子本。『源氏物語』夕顔巻を、楮打紙を料紙として、半葉 10 行に書写している。本文は書き出しの「六条わたりの御しのひありきのころ」より巻末の「みさりところなく」までを完存する。本文中に朱拘点、墨訂正・異本校合などあり。

17 ○名　　称　大般若経巻第三百七十七
○時　　代　南北朝時代・14 世紀
○品　　質　紙本墨摺
○寸 法 等　1 帖　26.1×10.4（全長 826.3、紙数 19 紙）
○作品概要　折本装。黄蘗染の楮紙に大般若経巻第 377 を摺写したもの。本文中および帙内側の墨書などによって、永徳年間(1381～84)に但馬国美含郡の大乗寺に施入された春日版大般若経のうちの 1 巻であることがわかる。なお巻末には建久 2 年(1191)の奥書があるが、春日版のなかで大般若経の刊行がはじまるのは嘉禄年間(1225～27)と考えられており、他のテキストにあった奥書を写したものであろうと思われる。

18 ○名　　称　色紙
○作 者 等　山崎宗鑑(1460？～1540？)筆
○時　　代　室町時代・16 世紀
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　1 幅　18.4×16.5
○作品概要　掛幅装。室町後期の連歌師である山崎宗鑑が、龍珠文を摺り出した色紙に、白居易の漢詩「城柳宮槐漫摇落、秋悲不到貴人心」を書写したもの。

19 ○名　　称　色紙
○作 者 等　尊鎮法親王(1504～50)筆
○時　　代　色紙:室町時代・16 世紀、源氏絵:江戸時代・17 世紀
○品　　質　色紙:紙本墨書、源氏絵:紙本着色
○寸 法 等　1 幅　(色紙)19.2×15.1、(源氏絵)13.4×13.2
○作品概要　掛幅装。尊鎮法親王が、小大君の「おほぬ河杣やま風のさむけれはたついはなみをゆきかとそみる」の歌一首を、龍珠文を摺り出した色紙に書写する。書き出しに「左　小大君」とあり、歌合の一部を抜き出したものと考えられる。色紙に添えられた源氏絵は、室内で琴や横笛を合奏し、庭先では梅の花が盛りを迎えている様子を描いたもので、内容より『源氏物語』若菜下の場面の情趣を象徴的に表現したものと思われる。筆者は土佐光則と伝えている。

20 ○名　　称　短冊
○作 者 等　冷泉為村(1712～74)筆
○時　　代　江戸時代・18 世紀
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　1 幅　35.8×5.9
○作品概要　掛幅装。冷泉家中興の祖といわれる 15 代為村の俳諧短冊で、藍の打曇および金泥の霞引きを施した料紙を用い、「たえすくめ古井すゝしき松のかけ(花押)」と墨書する。その筆致から、為村が独自の書風の完成をみる以前の 50 歳前後の作品と考えられる。

21 ○名　　称　後嵯峨上皇院宣
○時　　代　鎌倉時代・建長 6 年(1254)
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　1 幅　縦 31.3×横 72.1(cm)
○作品概要　掛幅装。建長 6 年(1254)、後嵯峨上皇の意向を奉じた院司藤原顕朝が、興福寺修南院僧正に対して、皇室領として著名な長講堂領に含まれる大和国慈光寺庄(現在地は未詳)への高野山金剛定院による押領の停止を命じた古文書である。料紙は表装

されているものの、白い厚手のある楮紙を 2 紙使用しており、法量からも鎌倉期に出された綸旨や院宣と比較して遜色はない。異筆で「建長六年」と記した押紙があり、日下には「顕朝」と署名がある。表紙書には「勧修寺中納言経俊」とあるが、『公卿補任』や鎌倉期の公家日記などによる検討の結果、顕朝であると判断された。
長講堂に関連する文書類は、後嵯峨上皇の死後、皇統の分裂によって持明院統(北朝)に継承される。その後進である北朝の内部でも南北朝の戦乱によって、皇統継承が混乱した結果、最終的には伏見宮家にその大部分が伝えられた。同史料も一部散逸しており、京都大学ほか各機関で収蔵される。本案件も旧蔵史料と推測される。

22 ○名　　称　消息
○作 者 等　細川ガラシャ(1563～1600)筆
○時　　代　安土桃山時代・16 世紀
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　1 幅　縦 24.6×横 44.9(cm)
○作品概要　掛幅装。細川ガラシャ(1563～1600)が夫細川忠興(1563～1645)に出した手紙である。比較的白い料紙 2 枚に仮名で文字がしたためられている。奥の部分には捻封墨引の痕跡が残る。宛所は本文にはないが端裏に「たゝおきとの」とある。差出書に「からしや」とあることからこの消息がキリスト教に入信したとされる天正 15 年(1587)以降に出されたものと推測される。文中に「このほとより大かくとのわれらもふしにて候」とあり、出先にいる主人忠興に宛てたものであろう。「大かくとの」とは細川家の重臣沢村大学を指すと考えられる。家老とともに留守を預かる妻が夫に国許での無事息災を報じた手紙であろう。

23 ○名　　称　茶事控書
○作 者 等　細川三斎(1563～1646)筆
○時　　代　安土桃山～江戸時代・16～17 世紀
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　1 幅　縦 20.5×横 46.7(cm)
○作品概要　掛幅装。細川忠興(1563～1645)が自ら開いた茶会について茶室の飾り付けに関して記録した控である。大書院と内題が書されていること、「上段」、「次」と続いていることから比較的大きな茶会のもので、本紙末尾以降続きが欠落してしまった断簡と推測される。元々は折紙であったものを掛幅に装丁し直したのであろう。最初に「入道宗立奉行」とあることから、忠興が細川家の家督を譲り隠居出家して三斎と称して以降、自らが奉行した茶会での内容が記されていると推測される。料紙は褐色がかった楮紙系と思われる。保存状態はきわめて良好である。

24 ○名　　称　短冊
○作 者 等　細川幽斎(1534～1610　)筆
○時　　代　安土桃山時代・16 世紀
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　1 幅　縦 36.9×横 5.4(cm)
○作品概要　掛幅装。細川幽斎(1534～1610)が「雪中聞鶯」という題で詠んだ和歌一首を記した短冊である。歌の末尾に幽斎の法名「玄旨」の記載がある。また料紙は楮紙系で打曇と呼ばれる技法を用いた装飾料紙である。

25 ○名　　称　書状
○作 者 等　岸三郎兵衛(生没年未詳)筆
○時　　代　安土桃山時代・16 世紀
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　1 幅　縦 16.0×横 72.0(cm)
○作品概要　掛幅装。明智光秀の重臣斎藤利三の家臣岸三郎兵衛が「おまつ」という女性に出した返書。内容からおまつは三郎兵衛の室と推測される。自らと恐らくは一緒に伴っていた「おまた」「おせん」等の娘の息災を伝えている。料紙は大き目の竪紙を天地で二つに裁断した切紙を用いている。材質は薄手の楮紙系と思われる。差出書は「三」という三郎兵衛の仮名と花押が署判されている。保存状態は極めて良好である。

26 ○名　　称　北条氏康書状
○時　　代　室町時代・永禄 3 年(1560)
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　1 幅　縦 28.7×横 27.9(cm)
○作品概要　掛幅装。小田原城主北条氏康が栗橋城主野田氏に対し、館林城救援の軍勢を派遣する際に、渡良瀬川渡河に必要な舟橋を掛けるために、綱などの使用する諸道具・材料の供出を依頼した書状。永禄 3 年(1560)、越後の上杉輝虎(後の上杉謙信が)越山し関東に出兵、厩橋(前橋市)を占拠して関東平野への侵攻をうかがっていた状況で、北条方に属していた館林城への援軍を入れるために、渡良瀬川の下流の栗橋城主野田氏に舟橋架橋のための材料・諸道具運搬を依頼したと考えられる。記される花押は氏康の晩年の型に比定される。文字は右筆の手と推測される。
また本書状は、最初野田氏の元に残されたと推測される。野田氏は永禄末年に城主の地位を奪われ没落し、その際に家伝文書も散逸した。その後、考古学者でかつて東京帝室博物館の職員であった高橋健自(1871～1929)氏の所蔵となった。本案件は、現在まとまった形で保管される古河市立博物館や野田市立興風図書館に所蔵の「野田家文書」と同様に、野田氏滅亡後に散逸した古文書の一つと考えられる

27 ○名　　称　和歌「蛍の歌」
○作 者 等　良寛(1758～1831)筆
○時　　代　江戸時代・18～19 世紀
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　1 幅　縦 15.4×横 23.7(cm)
○作品概要　掛幅装。良寛が蛍を題材として詠んだ歌「くさのべに、ほたるとなりてまちおらん、いもかてゆ、こがねみづをたまふとはゝ」を記す。料紙は楮紙系で 1 紙にしたためられる。良寛の記名は無い。
28 ○名　　称　手鑑
○時　　代　奈良～江戸時代・8～17 世紀

○品　　質　紙本墨書、彩箋墨書
○寸 法 等　1冊　縦38.8 横25.0 高10.3
○作品概要　折本装。伝聖武天皇筆「大聖武」以下、江戸時代までの古筆、書状、記録、短冊等の断簡全167枚(表面77枚、裏面90枚)を、伝承筆者の出自階層順に収めた手鑑。

＜漆工＞(2件)

29 ○名　　称　朱漆脚付鉢
○時　　代　室町時代・16世紀
○品　　質　木製漆塗
○寸 法 等　1口　径42.0 高15.0
○作品概要　浅い鉢に猫脚形の三脚をつける。脚の間には刳形の持ち送りを廻らしている。見込から外側にかけてを朱漆を塗り、底裏から脚の裏側にかけてを黒漆塗とする。

30 ○名　　称　田植取入漆絵折敷
○時　　代　江戸時代・18世紀
○品　　質　木製漆塗
○寸 法 等　2枚　方32.0 高1.5
○作品概要　縁に立ち上がりを廻らした方形の折敷。表面には緑漆を塗り、裏面を黒漆塗とする。見込には黄・茶・薄茶・薄緑などの彩漆を用いて、田植と稲の取入の様子を描く。人物の面貌や着衣・器物の輪郭などは黒漆の線描で表わしている。

＜染織＞(10件)

31 ○名　　称　袿 蘇芳地朽木牡丹模様縫取織
○時　　代　昭和時代・20世紀
○品　　質　縫取織
○寸 法 等　1領　身丈171.5　裄60.5
○作品概要　春・秋・冬に着用する袿で、紫の縫い取り糸で朽木形を、白糸で牡丹、萌黄糸で牡丹の葉を織り出す。裏地は白みのある緑色で、衿・袖口・裾まわりにおめりを出し、中倍は桃色である。昭和初期に大宮御所女官が着用したと伝えられる。

32 ○名　　称　袿 萌黄地襷牡丹模様綾子
○時　　代　昭和時代・20世紀
○品　　質　綾子
○寸 法 等　1領　身丈177.3　裄62.0
○作品概要　襷文を地文とし、上文に菊と牡丹の折枝文を織り出した綾子で仕立てられた袿である。裏地は紅平絹で、衿・袖口・裾まわりに桃色の中倍がつく。昭和初期の大宮御所女官が着用したと伝えられる。

33 ○名　　称　紫紋縮緬地掻取
○時　　代　昭和時代・20世紀
○品　　質　紋縮緬
○寸 法 等　1領　身丈165.0　裄61.5
○作品概要　竹模様を織り出した紋縮緬を袷仕立とし、中綿を入れた掻取。裏地には紅絹が用いられる。冬期、女官が平常時に奉仕服として着用し、刺繍や染、絞りなどの模様はなく、無地で色目は自由であるが目立たない色が好まれた。昭和初期に大宮御所で女官が着用したと伝えられる。

34 ○名　　称　淡紫綾子地掻取
○時　　代　昭和時代・20世紀
○品　　質　綸子地
○寸 法 等　1領　身丈160　裄62
○作品概要　幸菱繋ぎ模様を地紋とし、上紋に松竹梅の丸紋を散らした模様を織り出した綸子地を袷仕立とし、中綿を入れた掻取である。裏地には紅絹を用いる。昭和初期、冬期に女官が奉仕服として着用したもので、刺繍や染、絞りなどで模様をいれず、色目は決まりがなかったが、目立たない色が好まれた。大宮御所の女官が着用したと伝えられる。

35 ○名　　称　掻取 紫淡紅染分縮緬地松藤紅葉菊模様
○時　　代　大正時代・20世紀
○品　　質　縮緬地に刺繍
○寸 法 等　1領　身丈169.0　裄63.0
○作品概要　縮緬地の裾を淡紅にした曙染とし、肩には紅葉が色づき始めた遠山を、裾から肩にかけて藤が垂れかかる松樹の立木模様を、裾には菊の模様を全て刺繍で表わした総繍の掻取である。裏には化学染料で染めた赤い平絹が用いられ、裾の袵には厚く綿が入る。雲間に四季の草花を配した模様は、江戸時代後期の公家女性が普段着に着用する小袖の伝統的な様式である。

36 ○名　　称　袿 白紗地臥蝶丸模様縫取織
○時　　代　大正時代・20世紀
○品　　質　紗地に縫取織
○寸 法 等　1領　身丈159.7　裄60.5
○作品概要　袿とは、宮廷に仕える女官が着用する略儀の装束で、白小袖と緋の長袴を着用し、単を重ねた上に着用する織物製の表着である。明治期以降は長袴のかわりに切袴を用い、西洋のローヒールをもとにした緋色の履をはいた。夏用の袿は薄物である紗地に白い生絹の裏地がつく。袖口や裾周りにはおめりがあるが、明治期以後の女官の袿には、中倍が付けられない。尚、臥蝶丸模様は丸文の中央に唐花文を配し、その四方に蝶が臥せるような模様を配した有職模様で、通常は公家装束である直衣や指貫などに用いられる。

37 ○名　　称　袿 紫紗地尾長鳥丸菊折枝模様縫取織
○時　　代　大正時代・20世紀

○品　　質　紗地に縫取織
○寸 法 等　1領　身丈 169.8　裄 64.0
○作品概要　薄物の紗地に縫取織で尾長鳥の丸文と菊の折枝文を散らした夏の袿である。裏地には白生絹が用いられ、袖口と裾回しにはおめりがつくが、明治時代以降の女官が着用する袿には中倍が付かない。折枝や尾長鳥の模様は、江戸時代には公家女性の小袖に刺繍された様式的な模様で、袿にも好まれて転用されたことが伺える。

38 ○名　　称　袿 白紗地破波立涌牡丹文縫取織
○時　　代　大正時代・20 世紀
○品　　質　紗地に縫取織
○寸 法 等　1領　身丈 175.5
○作品概要　紗地に紫の縫い取り糸で波立涌模様を断続的に表わした破れ立涌模様と牡丹の丸文を織り出した袿。裏地には白い生絹が用いられる。女官の夏の料であるため、袖口と裾回しにおめりがあるが、中倍はつかない。立涌模様は日本の伝統的な有職文様の 1 つで、男性の袍や指貫によく用いられた模様の 1 つである。

39 ○名　　称　掻取 紫浅葱染分縮緬地橘菊模様
○時　　代　大正時代・20 世紀
○品　　質　縮緬地に刺繍
○寸 法 等　1領　身丈 172.0　裄 60.0
○作品概要　打掛のことを公家では掻取と称する。横縞を織り出した縮緬地を、紫と浅葱の曙染とし、橘と垣根に菊の模様を全て刺繍で表わす。立木模様は江戸時代後期より公家や武家の女性が着用する小袖に好んでデザインされる伝統の模様である。尚、着用した女官の源氏名が「橘」であったことから、橘の樹がデザインされたと言われている。

40 ○名　　称　単衣 紫絽地合歓木撫子杜若模様
○時　　代　大正時代・20 世紀
○品　　質　絽地に刺繍
○寸 法 等　1領　身丈 164.5　裄 60.5
○作品概要　紫に染めた絽地に全て刺繍で模様を表わした夏の単衣。左衽から背中にかけて大きく合歓の木を表わし、裾には撫子、杜若など夏草が水辺に生える様子を刺繍する。鮮やかな色彩であるが、公家では、開国以後、ヨーロッパより輸入された鮮やかな化学染料が好まれたためである。四季折々の花鳥に雲模様を表す点は江戸時代に公家の女性が普段着として着用した小袖や掻取の模様と同様の様式で、大正初期にもその伝統は守られた。

＜考古＞(5 件)

41 ○名　　称　須恵器 提瓶
○作 者 等　出土地不詳
○時　　代　古墳時代・6～7 世紀
○品　　質　陶製
○寸 法 等　1個　高 19.5、口径 7.0、胴部最大径 17.0
○作品概要　古墳時代後期の典型的な須恵器提瓶である。口縁部は丸く仕上げられており、体部には鉤手状把手を有する。体部は正面および背面にカキメ調整を施す。焼成は良好であり、部分的に自然釉がかかる。

42 ○名　　称　須恵器 提瓶
○作 者 等　出土地不詳
○時　　代　古墳時代・6～7 世紀
○品　　質　陶製
○寸 法 等　1個　高 23.5、口径 9.2、胴部最大径 18.5
○作品概要　古墳時代後期の典型的な須恵器提瓶である。口縁部は外反し端部は稜があり、体部には鉤手状把手を有する。体部は正面にカキメ調整、背面は回転ヘラ削り調整を施す。焼成は良好である。

43 ○名　　称　須恵器 提瓶
○作 者 等　出土地不詳
○時　　代　古墳時代・6～7 世紀
○品　　質　陶製
○寸 法 等　一括　残存高 17.5、口径 7.7、胴部最大径 16.0
○作品概要　古墳時代後期の典型的な須恵器提瓶である。口縁部は丸く仕上げられており、体部には退化した鉤手状把手を有する。体部は正面および背面にカキメ調整を施す。正面にヘラ記号「－」があり、焼き台の痕跡が付着する。焼成は極めて良好であり、全面に自然釉がかかる。

44 ○名　　称　須恵器 台付長頸瓶
○作 者 等　出土地不詳
○時　　代　古墳時代・7 世紀
○品　　質　陶製
○寸 法 等　1個　高 22.5、口径 9.7、胴部最大径 16.0、台部径 9.9
○作品概要　古墳時代後期の典型的な須恵器台付長頸瓶である。口縁部は直線的に伸び、端部は丸く仕上げられている。頸部には 2 本の沈線を施す。胴部は肩の張る形状であり、境に 1 本の沈線がある。高台は貼付である。胴部下半は回転ヘラ削り調整、その他は回転ナデ調整を施す。部分的に自然釉がかかる。

45 ○名　　称　山茶碗
○作 者 等　出土地不詳
○時　　代　鎌倉時代・13 世紀
○品　　質　陶製
○寸 法 等　1個　高 4.8、口径 16.0、台部径 6.6

○作品概要　鎌倉時代の典型的な山茶碗である。外面の口縁部および直下と内面の見込付近を除いて自然釉がかかる。底部に回転糸切痕が残る。器形がやや歪んでいるほかは完形である。高台は貼付である。

＜民族資料＞(1 件)

46 ○名　　称　厨子甕
○作 者 等　沖縄本島　壺屋焼
○時　　代　第二尚氏時代・18～19 世紀
○品　　質　壺屋焼
○寸 法 等　1 合　蓋：高 38.2 幅 45.5 奥行 39.2　身：高 34.0 幅 50.5 奥行 40.8
○作品概要　肌茶色の陶胎。二層の屋根のついた、いわゆる御殿形の厨子甕である。刻線で瓦葺を表した屋根の頂の左右には鯱が付き、隅棟の先は獅子の頭で表されている。身の正面中央には露胎の窓が設けられ、埋葬者、埋葬年に関する情報が墨書銘が記されていた可能性があるが、現状では確認出来ない。露胎の窓の両脇には、蓮座に乗る僧形の人物が、両側面には大きな蓮花が、貼花技法で表されている。白化粧はせずに、総体(底裏除く)に褐釉がかかる。その発色は濃い紫色を帯びている。屋根と身の底に数箇所、直径 3mm程度の穴が点在している。

＜歴史資料＞(1 件)

47 ○名　　称　坤輿万国全図屏風
○時　　代　江戸時代・18～19 世紀
○品　　質　紙本着色
○寸 法 等　1 隻　縦 165 横 388
○作品概要　六曲屏風。マテオ・リッチ(利瑪竇)作の「坤輿万国全図」を模写したものに彩色を施す。原図は六幅から成るが、本図は一幅が一扇に対応するよう屏風に仕立てている。太平洋上の金島・銀島の記述や図中の地名に付されたカナの追記など、原図にない情報を交えている。

＜東洋絵画＞(35 件)

48 ○名　　称　蘭竹図
○作 者 等　文徴明(1470～1559)筆
○時　　代　明時代・16 世紀
○品　　質　絹本墨画
○寸 法 等　1 幅　縦 23.0 横 58.0
○作品概要　掛幅装。水墨で蘭、竹、石などを描く。文徴明の自題がある。

49 ○名　　称　清溪覧勝図
○作 者 等　周用(1476～1548?)筆
○時　　代　明時代・16 世紀
○品　　質　紙本墨画淡彩
○寸 法 等　1 幅　縦 103.0 横 53.0
○作品概要　掛幅装。樹下に佇み渓水を観る一高士を描く。周用の自題がある。

50 ○名　　称　霧中群峰図
○作 者 等　髡残(1612～?)筆
○時　　代　清時代・康熙 2 年(1663)
○品　　質　紙本着色
○寸 法 等　1 幅　縦 175.0 横 49.0
○作品概要　掛幅装。山中に幽栖し閑適する人物を描く。髡残の自題がある。

51 ○名　　称　芝蘭幽石図
○作 者 等　徐枋(1622～1694)筆
○時　　代　清時代・康熙 26 年(1687)
○品　　質　絹本墨画
○寸 法 等　1 幅　縦 155.0 横 54.0
○作品概要　掛幅装。大石の下に蘭と霊芝を白描風に描く。徐枋の自題がある。

52 ○名　　称　瓶梅図
○作 者 等　黄慎(1687～1768)筆
○時　　代　清時代・18 世紀
○品　　質　絹本墨画
○寸 法 等　1 幅　縦 112.0 横 40.0
○作品概要　掛幅装。大きな瓶に挿された梅枝を水墨で描く。黄慎の自題がある。

53 ○名　　称　疎林山水図
○作 者 等　黄易(1744～1802)筆
○時　　代　清時代・乾隆 48 年(1783)
○品　　質　紙本墨画
○寸 法 等　1 幅　縦 130.0 横 52.0
○作品概要　掛幅装。元末四大家の一人である倪瓚に倣って秋景山水を描く。黄易の自題と溥儒の題がある。

54 ○名　　称　花卉図冊
○作 者 等　奚岡(1746～1803)筆
○時　　代　清時代・乾隆 59 年(1794)
○品　　質　紙本着色

○寸 法 等　1帖(12図) (各) 縦21.3 横31.0
○作品概要　冊頁装。全 12 図。各図に奚岡の題あるいは印がある。惲壽平風の画法で牡丹、紫陽花、蓮花、菊花、木蓮、海棠、芙蓉、梅花などを描く。図の前後に奚岡の題跋がある。

55 ○名　　称　撫宋元明諸家山水図冊
○作 者 等　銭杜(1764～1845)筆
○時　　代　清時代・道光2年(1822)
○品　　質　(第1図)紙本墨画淡彩 (第2図)紙本墨画 (第3図)紙本墨画淡彩 (第4図)紙本淡彩 (第5図)紙本淡彩 (第6図)紙本墨画淡彩 (第7図)紙本墨画 (第8図)紙本淡彩
○寸 法 等　1帖(8図) (各) 縦24.0 横17.0
○作品概要　冊頁装。全 8 図。宋の劉松年、馬和之、元の柯九思、方従義、王蒙、明の沈周、文徴明、居節などに倣って描いた山水図。各図に銭杜の自題がある。

56 ○名　　称　墨梅図
○作 者 等　銭杜(1764～1845)筆
○時　　代　清時代・嘉慶25年(1820)
○品　　質　紙本墨画
○寸 法 等　1幅　縦63.0 横34.0
○作品概要　掛幅装。明の徐渭に倣った墨梅図。銭杜の自題がある。

57 ○名　　称　緑梅図
○作 者 等　朱昂之(1764～?)筆
○時　　代　清時代・18世紀
○品　　質　紙本墨画淡彩
○寸 法 等　1幅　縦22.0 横31.0
○作品概要　掛幅装。左方に枝をのばす緑梅を描く。朱昂之の題がある。

58 ○名　　称　松菊図
○作 者 等　郭麐(1767～1831)筆
○時　　代　清時代・嘉慶9年(1804)
○品　　質　紙本墨画
○寸 法 等　1幅　縦143.0 横37.0
○作品概要　掛幅装。長條幅に双松と菊花を水墨を描く。郭麐の自題がある。

59 ○名　　称　花卉図
○作 者 等　陳鴻寿(1768～1822)筆
○時　　代　清時代・嘉慶17年(1812)
○品　　質　紙本墨画淡彩
○寸 法 等　1幅　縦86.0 横29.0
○作品概要　掛幅装。揚州八怪の李鱓に倣って描いた花卉図。陳鴻寿の自題がある。

60 ○名　　称　雑画冊
○作 者 等　陳鴻寿(1768～1822)筆
○時　　代　清時代・嘉慶22年(1817)
○品　　質　紙本墨画淡彩
○寸 法 等　1帖 (各) 縦27.0 横30.0
○作品概要　冊頁装。古銭石、荷花、芍薬、琵琶、蔬菜、梅、水仙、菊、松などを描いた雑画冊。各図に陳鴻寿の題がある。

61 ○名　　称　歳朝清供図
○作 者 等　姚元之(1773～1852)筆
○時　　代　清時代・道光18年(1838)
○品　　質　紙本着色
○寸 法 等　1幅　縦154.0 横46.0
○作品概要　掛幅装。青銅器を拓本にとり、梅花、水仙、霊芝などを描いた歳朝清玩図。姚元之の自題がある。

62 ○名　　称　紅梅水仙図扇面
○作 者 等　趙之琛(1781～1860)筆
○時　　代　清時代・19世紀
○品　　質　金箋紙本着色
○寸 法 等　1枚　縦17.0×最大横幅52.0
○作品概要　台紙貼。周之冕に倣って金銭紙に紅梅と水仙を描く。趙之琛の自題がある。

63 ○名　　称　玉人和月折梅図扇面
○作 者 等　王素(1794～1877)筆
○時　　代　清時代・同治8年(1869)
○品　　質　紙本墨画淡彩
○寸 法 等　1枚　縦17.0×最大横幅48.0
○作品概要　台紙貼。梅花のもとで座して一枝を手にする美人を描く。王素の自題がある。
64 ○名　　称　蒔蘭植竹図
○作 者 等　虚谷(1821～1896)筆
○時　　代　清時代・19世紀

○品　　質　紙本着色
○寸 法 等　1面　縦 44.0 横 115.0
○作品概要　横披装。山中の書斎の庭に竹蘭を植える文人の隠逸生活を描く。虚谷の自題がある。

65 ○名　　称　耄耋延年図
○作 者 等　朱稱(1826～1899)筆, 倪田(1855～1919)筆
○時　　代　清時代・光緒 20 年(1894)
○品　　質　紙本淡彩
○寸 法 等　1幅　縦 112.0 横 55.0
○作品概要　掛幅装。69 歳の夏 5 月に朱倓が牡丹を描いた後、冬 12 月に後輩の倪田が猫と石と長春花を描いて完成させた合作による長寿と富貴(耄耋延年、耄耋は猫、富貴長春)を願う吉祥図。朱倓と倪田の自題がある。

66 ○名　　称　花鳥図冊
○作 者 等　朱稱(1826～1899)筆
○時　　代　清時代・19 世紀
○品　　質　絹本着色
○寸 法 等　1帖(8図)　(各) 縦 23.0 横 35.0
○作品概要　冊頁装。全 8 図、梨花、荔枝、図葡萄、竹虫、紅蓼蛙、牡丹などを着色で描いた花鳥図冊。各図に朱倓の自題がある。

67 ○名　　称　倣八大山人花卉図
○作 者 等　趙之謙(1829～1884)筆
○時　　代　清時代・19 世紀
○品　　質　絹本墨画
○寸 法 等　1幅　縦 98.0 横 35.0
○作品概要　掛幅装。朱耷(八大山人)に倣って描いた四幅対の内の 1 図で枇杷を着色で描く。趙之謙の自題がある。

68 ○名　　称　猫魚図
○作 者 等　銭慧安(1833～1911)筆
○時　　代　清時代・宣統元年(1909)
○品　　質　紙本淡彩
○寸 法 等　1幅　縦 105.0 縦 31.0
○作品概要　掛幅装。岸の上から池の金魚を窺う猫の姿を描く。銭慧安の自題がある。

69 ○名　　称　秋山図
○作 者 等　呉大澂(1835～1902)筆
○時　　代　清時代・19 世紀
○品　　質　紙本淡彩
○寸 法 等　1幅　縦 133.0 横 32.0
○作品概要　掛幅装。明末に評判になった元末四大家の黄公望の秋山に倣った作品。呉大澂の自題がある。

70 ○名　　称　荷花蜻蛉図扇面
○作 者 等　任頤(1840～1896)筆
○時　　代　清時代・光緒 8 年(1882)
○品　　質　紙本着色
○寸 法 等　1枚　縦 19.0×最大横幅 55.0
○作品概要　台紙貼。敗荷とその枝にとまる蜻蛉を鉤勒法により著色で扇面に描く。任頤の自題がある。

71 ○名　　称　梅花図
○作 者 等　金ラン(1841～?)筆
○時　　代　清時代・光緒 30 年(1904)
○品　　質　紙本墨画
○寸 法 等　2幅　(各) 縦 130.0 横 33.0
○作品概要　掛幅装。一幅は揚州八怪の羅聘に倣い、もう一図は揚州八怪の金農に倣った 2 幅対の墨梅図。各幅に自題がある。

72 ○名　　称　南瓜図
○作 者 等　斉璜(1863～1957)筆
○時　　代　清時代・19～20 世紀
○品　　質　紙本着色
○寸 法 等　1幅　縦 118.0 横 23.0
○作品概要　掛幅装。長條幅に南瓜を著色で描く。斉璜の自題がある。

73 ○名　　称　梅花図
○作 者 等　丁仁(1879～1949)筆
○時　　代　中華民国時代・民国 35 年(1946)
○品　　質　紙本着色
○寸 法 等　1幅　縦 130.0 横 43.0
○作品概要　掛幅装。満開の梅花を丁仁独特の画法により描く。丁仁の自題がある。

74 ○名　　称　籠菊図
○作 者 等　呉俊卿(1844～1927)筆
○時　　代　清時代・光緒 15 年(1889)

○品　　質　紙本墨画淡彩
○寸 法 等　1幅　縦114.0 横33.0
○作品概要　掛幅装。張孟皐に倣った墨菊図。呉俊卿46歳の自題がある。

75 ○名　　称　幽蘭図
○作 者 等　呉俊卿(1844～1927)筆
○時　　代　清時代・光緒18年(1892)
○品　　質　絹本墨画
○寸 法 等　1巻　縦23.0 全長139.0
○作品概要　巻子装。呉俊卿49歳の時に描いた墨蘭図巻。呉俊卿の自題と蒲華の題がある。

76 ○名　　称　牡丹図
○作 者 等　呉俊卿(1844～1927)筆
○時　　代　清時代・光緒21年(1895)
○品　　質　紙本着色
○寸 法 等　1幅　縦136.0 横40.0
○作品概要　掛幅装。富貴花の牡丹と寿石を描いた呉俊卿52歳の作品。呉俊卿の自題がある。

77 ○名　　称　擬大梅山民梅花図巻
○作 者 等　呉俊卿(1844～1927)筆
○時　　代　清時代・光緒26年(1900)
○品　　質　紙本墨画
○寸 法 等　1巻　縦35.0 全長176.0
○作品概要　巻子装。清末に墨梅をよくした姚燮(大梅山民1805-64)に倣った57歳の墨梅図巻。

78 ○名　　称　石榴図扇面
○作 者 等　呉俊卿(1844～1927)筆
○時　　代　清時代・光緒29年(1903)
○品　　質　金箋紙本着色
○寸 法 等　1枚　縦17.0×最大横幅54.0
○作品概要　台紙貼。金箋紙の扇面に石榴を大きく描く。呉俊卿60歳の自題がある。

79 ○名　　称　荷花図
○作 者 等　呉俊卿(1844～1927)筆
○時　　代　中華民国時代・民国4年(1915)
○品　　質　絹本墨画
○寸 法 等　1幅　縦140.0 横42.0
○作品概要　掛幅装。朱耷(八大山人)の潑墨法を用いて描いた呉俊卿72歳の作品。呉俊卿の自題がある。

80 ○名　　称　水仙怪石図
○作 者 等　呉俊卿(1844～1927)筆
○時　　代　中華民国時代・民国7年(1918)
○品　　質　紙本墨画
○寸 法 等　1幅　縦138.0 横67.0
○作品概要　掛幅装。怪石と水仙の群を水墨で描く。呉俊卿75歳の自題がある。

81 ○名　　称　桃実図
○作 者 等　呉俊卿(1844～1927)筆
○時　　代　中華民国時代・民国8年(1919)
○品　　質　絹本着色
○寸 法 等　1幅　縦139.0 横38.0
○作品概要　掛幅装。長寿を意味する桃実と寿石を描く。呉俊卿76歳の自題がある。

82 ○名　　称　墨梅自寿図
○作 者 等　呉俊卿(1844～1927)筆
○時　　代　中華民国時代・民国14年(1925)
○品　　質　紙本墨画
○寸 法 等　1幅　縦136.0 横68.0
○作品概要　掛幅装。82歳の誕生日8月1日に梅花と寿石を水墨で描いた自寿図。

＜東洋書跡＞(4件)

83 ○名　　称　楷書七言聯
○作 者 等　陳介祺(1813～1884)筆
○時　　代　清時代・光緒5年(1879)
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　2幅　縦137.0 横33.0
○作品概要　掛幅装。「世曼老世講」なる人物のために、篆意を帯びた楷書で七言の対句を揮毫したもの。下款に「簠斎陳介祺年六十七」とあることから、陳介祺晩年の光緒5年(1879)の作であることが分かる。

84 ○名　　称　行書徐幹中論軸
○作 者 等　胡澍(1825～1872)筆

○時　　代　清時代・19 世紀
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　1 幅　縦 113.0 横 24.0
○作品概要　掛幅装。後漢の徐幹(171～218)が著した『中論』の「法象第二」の一節を、「暎星二兄」なる人物のために行書で揮毫したもの。

85 ○名　　称　行書七言絶句詩軸
○作 者 等　呉大澂(1835～1902)筆
○時　　代　清時代・19～20 世紀
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　1 幅　縦 146.0 横 41.0
○作品概要　掛幅装。清時代の王士禛(1634～1711)の七言絶句「再過露筋祠」を、行書で揮毫したもの。

86 ○名　　称　臨金文四屏
○作 者 等　羅振玉(1866～1940)筆
○時　　代　清～中華民国時代・19～20 世紀
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　4 幅　縦 131.0 横 32.0
○作品概要　掛幅装。「積餘」なる人物のために、青銅器に鋳込まれた銘文 4 種を、彩色の美しい料紙に臨書したもの。

＜東洋陶磁＞(2 件)

87 ○名　　称　粉青印花菊花文碗
○時　　代　朝鮮時代･15 世紀
○品　　質　陶磁
○寸 法 等　1 口　高 6.6　口径 12.6　高台径 4.5
○作品概要　灰色陶質胎、腰が張り、口縁端反りの碗。見込みは二種類の小花文を型押しし、白土を象嵌する。内底に「彦陽仁寿府」の文字を白象嵌であらわす。外側は口縁部に小花文、胴部に連珠文、高台に小花文を型押しであらわし、白土を象嵌する。高台畳付を除いて総体にやや青みを帯びた釉を施す。釉には一面に微細な貫入が生じている。高台畳付に粗い砂粒が付着している。

88 ○名　　称　青磁碗
○時　　代　五代～北宋時代・10～11 世紀
○品　　質　陶磁
○寸 法 等　1 口　高 4.0　口径 13.6　高台径 4.2
○作品概要　灰色半磁質胎、低い高台から、わずかに弧を描いて立ち上がる碗。見込み中央に径 3.5㎝の円刻を作る。高台畳付を除いて総体に暗緑色の青磁釉を施す。高台脇に爪跡のような傷が複数みとめられる。

(3) 編入(2件)
＜金工＞(2 件)

89 ○名　　称　自在伊勢海老
○作 者 等　冨木宗行作
○時　　代　平成 16 年(2004)
○品　　質　銀製
○寸 法 等　1 個　長 39.0
○作品概要　銀製の伊勢海老の自在置物。触角、脚、腹、腹鰭を動かすことができる。

90 ○名　　称　自在伊勢海老部品
○作 者 等　冨木宗行作
○時　　代　平成 17 年(2005)
○品　　質　銀製
○寸 法 等　68 個
○作品概要　自在伊勢海老の部品。

＜歴史資料＞(326 件、但し準歴史資料からの編入)・・・収蔵品総数には影響しない。
○名　　称　(歴史資料)
○時　　代　江戸～明治時代・18～19 世紀
○作品概要　いわゆる「歴史資料(P)」と称されている分野は、昭和 13 年(1938)旧歴史部の解体に伴い、当時のいずれの部署にも属せ無かった資料群である。構成としては、江戸幕府からの引継ぎ資料や、当館の前身といえる書籍館、浅草文庫、内務省博覧会事務局収集資料も多く含まれる。その内容は種々多様で、中には「五海道其外分間延絵図並見取絵図」などの重要文化財も含まれる。今回編入にかかる 326 件の内には、古碑・古鐘銘、墓誌、供養碑の拓本類が過半を占める。このうち市河米庵旧蔵のものは、昌平坂学問所に寄託されていたものが、明治に当館に寄贈された貴重な資料群である。

【京都国立博物館】(計 30 件)

(1)購入(8 件)
＜絵画＞(7 件)

1 ○名　　称　護摩爐壇形図像　一巻
○時　　代　鎌倉時代　十三世紀
○寸　　法　22.5㎝×426.0㎝
○作品概要　息災・増益・延命・調伏・鉤召・敬愛各法に従い、三重圏種子方曼荼羅六図を描き、その内院に各護摩爐壇形を描き、その支度を記す。その後に、敬愛一・息災一・増益一・調 伏一・鉤召三・延命一の爐壇形八図を描く。なお、鉤召爐壇図は角筆で輪廓したあとに墨線を引いていることが肉眼でも確認でき、図像技法上貴重な資料と言える。巻末左下隅に筆者勤杲の

奥書墨書がある。かつ、第一紙右下隅に「方便智院」の朱文長方印があり、高山寺伝来と判明する。高山寺聖教中に建仁四年(一二〇四)正月二十六日勤杲写『護摩次第』が存在する。また、同寺所蔵寛元三年(一二四五)五月晦日隆真写『事相料簡』は、建永元年(一二〇六)十月十二日勤杲書写本を写したものである。勤杲の活躍期と宿紙の紙質や字形等は矛盾せず、制作は鎌倉時代十三世紀初頭と断定され、明恵上人在世時に遡及する貴重な作品と言える。かつ、先述のように角筆遺品の基準作の一つとして貴重である。巻軸は、中間で合わせ継ぎをした素木で、本紙と糊付けしておらず、原装をとどめている可能性が高い。

2　○名　　称　山水図屏風(押絵貼 12 図)　王寅筆　六曲一双
　○時　　代　清光緒八年、明治十五年(1882)作
　○寸　　法　各図本紙　縦 136.5ｃｍ、　横 48.5ｃｍ
　○作品概要　この作品は、清末の来泊画人として知られる王寅が画いた十二枚の山水図を貼り付けて、六曲一双の押絵貼屏風に仕立てたものである。
十二枚の図には、季節に変化のある水墨の山水が描かれ、図上に王寅自身がそれぞれ詩文を題するが、その最後の一図に、六言絶句を題した後、「光緒八年冬十月、微雪初晴、焚香写此、金陵王冶梅客浪花、(光緒八年冬十月、微雪初めて晴れ、香を焚いて此を写す、金陵の王冶梅　浪花に客す。)」という款記があり、西暦 1882 年、明治十五年の十月(恐らくは陰暦)に、大阪に滞在していた王寅が雪の晴れ間に画いたものであることがわかる。他の図には、詩文のみで年記がないことから、それほど時間をおくことなく、十二枚を画き揃え、この図をもって制作を完了したと考えられる。
王寅は字を冶梅といい、江蘇南京の人である。清末の太平天国の戦乱に難を逃れて上海に移り、書画を売って糊口をしのいだ。その画名はわが国にまで聞こえ、招かれて、長崎に遊び、さらに大阪・京都に至った。その来遊は、光緒三年(1877)を最初として、数次に及び、光緒五年(明治十二年、1879)夏から、同十一年(明治十八年、1885)にかけての三回目の来日には、主として京都・大阪に客遊し、売画の傍ら、京阪の文人と交友を結んでいる。またこの折に、『歴代名公真蹟縮本』、『冶梅石譜』、『冶梅蘭竹譜』の版本画譜を制作編集し、大阪の書肆から出版している。蘭竹譜の出版は、奥付によれば、明治十五年(光緒八年、1882)九月二十であるが、実際には、十一月七日にずれ込んだようで、その訂正印が捺されている。従って、本作品の制作は、三回目の来日時のもので、『冶梅蘭竹譜』出版とほぼ同時期であることがわかる。
本作品十二図の画風は、全体に席画風の簡略なものが多いが、景観には季節に応じた変化があり、冶梅特有の柔潤な筆致がよく出ている。冶梅が来日中に残した作品は数多いが、本作品はそのうち最大と思われる大作であり、最後の二扇に当て傷が見られるものの、価値は極めて高い。

3　○名　　称　「すゝか」奈良絵本改装絵巻　3 巻
　○時　　代　江戸時代前期
　○寸　　法　各縦 26.6cm　　全長　(上)1201.3cm　(中)1254.3cm　(下)1101.3cm
　○作品概要　「すゝか」は、一名「田村草紙」とも呼ばれ、坂上田村麻呂までの四代の物語　特に父俊仁と俊宗(田村麻呂)の鬼神退治を主題とするもので、室町時代後期に成立した、いわゆる室町物語の一編である。「すゝか」の名は、後半に俊宗に加勢する天女「鈴鹿御前」に由来。奈良絵本では「すゝか」の名が多く、写本や絵巻では田村草紙と呼ばれることが多い。
物語の梗概は、俊祐将軍が近江・益田池の大蛇と交わって生まれた俊仁は、武勇にすぐれ、妻をさらった奥羽の悪路王を、鞍馬寺の毘沙門天の助力を得て退治した。その時奥羽の賤女と交わってできた子が成長して上洛、父に会い俊宗と名乗る。俊仁が唐土を従えようと出征、不動明王に負けて亡くなった跡を継いだ俊宗は、奈良坂の霊山坊、奥羽の大岳丸、近江の高丸を退治して将軍としての武勇を誇り一門繁栄し、清水寺を創立したというものである。
「すゝか」の伝本としては慶應義塾図書館の写本、天理図書館蔵の刊本(古活字本)などが知られ、絵入本として市古貞次旧蔵の横本五冊、大阪青山短期大学蔵絵巻 3 巻、京都・清水寺蔵絵巻 3 巻などが知られ、当館にも縦型奈良絵本から取られた断簡 13 枚が所蔵されている。
本絵巻は、縦型奈良絵本を解体し、巻子に改装した 3 巻本で、本文は古活字版刊本とほぼ同文の流布本に属し、大阪青山短大本、清水寺本などと同系であるが、絵巻諸本が二十図であるのに対し、倍の四十一図をもち、図の数が多いのが一つの特徴であり、また、同じ場面を描いている場合、他の絵巻では図様が定型化しているのに対し、これには他本にない図様が多く含まれている。図の密度は高く、形式化した霞などない、大量生産で類型化する以前の特色を示す作品である。

4　○名　　称　耕作図屏風　伝狩野元信筆　六曲一隻
　○時　　代　室町時代(16世紀)
　○寸　　法　156.0cm×350.6cm
　○作品概要　平成八年に当館で開催した特別展覧会「室町時代の狩野派」において、初めて紹介された作品である。
画中には秋冬の景観を背景に稲刈りから入倉までがあらわされているところから、当初は浸種や田植えといった春夏の場面を他隻に伴う四季耕作図屏風の左隻分であったものであろう。そこに配される諸人物や樹木などは、その大半が大仙院の伝狩野雅楽助筆「四季耕作図(もと襖)」と同様、伝梁楷筆「耕織図巻」から引用されているのがわかるが、他方、藁に寝そべる童子のような新たなモチーフも付加されており興味深い。また他に遺る同じ主題の屏風絵数点と比べると、全体に重厚でしっかりと描かれており、スケール感も大きい。その点、既述の大仙院本と出来映えの上では甲乙付けがたいものがあり、元信(一四七七～一五五九)真筆の可能性も多分に考えられよう。
なお、本図には「元信」朱文壺形印が異例ともいうべき右下端に捺されているが、印自体は基準的なものであり、印肉の付き具合もとくに問題はないように見受けられる。

5　○名　　称　蹴鞠寿老図　曾我蕭白筆　1 幅
　○時　　代　江戸中期(18世紀)
　○寸　　法　縦 109.4 ㎝　横 44.4 ㎝
　○作品概要　2005 年、狩野博幸氏の企画により当館で「蕭白展」が開催されたが、展覧会後に同氏によって見出され当館に寄託された作品。
白くみえているのは腹ではなく頭。後姿で、長い頭を思いきりうしろにそらして、鞠を蹴り上げる寿老人が描かれている。蹴鞠する七福神の絵といえば、松花堂昭乗や尾形光琳の「蹴鞠布袋図」がつとに有名だが、蕭白によるこの作品はそれらに劣らずユーモラスであって、蕭白に明朗な一面があることを教えてくれる。
江戸中期、18 世紀の絵画界でとりわけ個性的な画風をしめした曾我蕭白の佳品である。

6　○名　　称　明皇・貴妃図屏風　狩野山雪筆　6 曲 1 隻
　○時　　代　江戸初期(17世紀前半)

○寸　法　縦155.2cm　横361.4cm
○作品概要　玄宗皇帝と楊貴妃の悲恋を歌う白楽天の『長恨歌』に基づく画題。横笛をまさに吹こうとする玄宗皇帝と舞う楊貴妃。人物の顔は、比較的無表情、吊り上った切れ長の眼、端正な顔立ちなど、他の山雪の人物画と共通する。垂直方向を強調した岩の形と描き方は、他の山雪作品の岩と共通し、水平方向を強調した欄干による画面構成は山雪様式をしめす。右方の棕櫚の描法も、随心院の山雪筆・蘭亭曲水図屏風に登場するものと、まったく一致する。これらにより整然とした印象が得られる。
本格的な金地濃彩の屏風で、左下に「狩野氏山雪」の落款と、基準印である「山雪」の方郭鼎印がある。2001 年の当館「ヒューマンイメージ」展出品作。
狩野山雪(1590～1651)は、幕末まで受け継がれた京狩野の第 2 代で、狩野山楽の娘婿となって後を継ぎ、江戸初期に活躍した。同時に、そのきわめて個性的な画風は辻惟雄氏のいう「奇想の系譜」にも位置づけられ、若冲や蕭白らとともに注目を集めている。
京狩野は近世京都の絵画史上、不可欠な一派であって、なかでも狩野山楽・山雪はきわめて重要な画家であり、その作品は当館にとっては欠かせないが、当館の館蔵品に山雪の作品は、水墨による《洛外名所図屏風》しかなく、着色作品の収蔵が望まれていた。
当該作品は、金地濃彩による山雪の優品であり、華やかな画面は展示効果も高く、収蔵するにふさわしい。

7　○名　称　白梅群鶏図　狩野永良筆　1 幅
○時　代　江戸中期(18世紀)
○寸　法　縦91.5cm　横42.7cm
○作品概要　新出作品。雌雄の鶏と雛鳥、鶏の家族、そして上方に白梅が配され、絹地に着色で、鳥も花もごくごく丁寧に描かれている。一見、若冲の鶏図かとも思わされるが、右下に「狩野永良筆」の落款と「狩埜」「永良印」の印、左上に「金門画史」の印がある。
狩野永良(1741～1771)は、山楽・山雪に始まる京狩野の第 6 代で、公家の九条家や宮廷を舞台とし活動した。31 歳没と若くして亡くなったこともあって、作品の絶対数も限られる。
京狩野において、初期の山楽・山雪・永納、幕末の永岳に関しては、かなり研究が進んでいるが、その間の絵師に関しては、これまでまったくといってよいほど研究されていない。今後、研究されるべき絵師たちといえよう。とくに、永良作品の紹介は、最近まで皆無の状態だったが、最近、作品 2 件が出現し、それらの永良作品には、南蘋の写生風や大雅風が見られる。この作品は、同時代の伊藤若冲(1716-1800)との関連上、ことに注目されるが、梅の樹幹や花には、当時大流行していた南蘋流の影響が見られ、幹や枝の輪郭のねっとりした動きには、山雪以来の京狩野の伝統もしめされている。
江戸中期、京狩野の稀少な永良作品であり、出来もよく、収蔵にふさわしい。

＜染織＞(1 件)
8　○名　称　羅地刺繍釈迦阿弥陀二尊図　1 幅
○時　代　鎌倉時代　14世紀
○寸　法　本紙　縦111.0cm　横51.0cm
○作品概要　掛幅装。向かって右に釈迦、左に阿弥陀如来の立像をあらわす、いわゆる発遣来迎(遣迎)二尊図。
現在確認されている鎌倉時代の繍仏は、阿弥陀三尊来迎図と阿弥陀種子三尊図が圧倒的多数を占める。またそのころは浄土教の普及により、個人が邸内で礼拝するための、小ぶりな作例が主流であった。その中で、本作品は法量が大きく、かつ正面向きの釈迦阿弥陀二尊図という非常に珍しい作品である。刺繍釈迦阿弥陀二尊図の類例は、現在のところ本作品を含め 4 例確認されるのみであり(奈良国立博物館・藤田美術館・新長谷寺)、刺繍阿弥陀来迎図が少なくとも 30 点以上確認されていることと比較しても、その稀少さが伺えよう。此岸よりおくり出す釈迦と彼岸へ迎える阿弥陀の二尊の組み合わせは、一般的に浄土教普及の初期の過程で、阿弥陀による救済だけでは不安に思う人々に対し、釈迦を背景的な証人として浄土教の優越性を説くためのものであったと考えられている。従って本繍仏は、そのような浄土教の普及過程の現実的な側面を如実に表しているという点でも、貴重といえる。釈迦は与願、施無畏印の印を、阿弥陀は下生印を結び、両尊ともに透かし彫ふうの舟形光背を負い、六角蓮台上の踏割蓮華座に立つ。ちなみに舟形光背を負う繍仏は、本品のほかに徳川美術館所蔵・刺繍阿弥陀三尊来迎図と奈良国立博物館所蔵・刺繍釈迦阿弥陀図の二作品のみである。上部には宝蓋を、手前には獅子香炉をのせる卓と、一対の花瓶が供えられている。表装の中廻しの部分には、阿弥陀の種子「キリーク」を 48 個並べ、阿弥陀の四十八願をあらわす。表装の天には左右に色紙形を置き、その中に「其佛本願力　聞名欲往生　皆悉到彼國　自致不退転」「於我滅度後　應受持此経　是人於佛道　決定無有疑」という、無量寿経の偈を繍う。表装の地には蓮池をあらわし、中央に裸形の童子が蓮華にのる蓮華化生図を、その左右の洲浜形には迦陵頻伽を配す。
刺繍技法については、糸の剥落が多く、褪色も進んでいるため、判然としない部分もあるが、二尊のバックには緑の地繍を施し、二尊の螺髪、袈裟の条葉と堤、中廻しの種子、色紙形内の経文を、いずれも髪繍であらわす。繍技は主に刺し繍を用い、留め繍、纏い繍なども併用している。髪繍は、主に纏い繍の技法用いている。裳には五弁の小花が白色の糸で繍われ、袈裟の田相部分には丸文を黄や萌葱の糸で表す。条葉および堤部分には、髪繍の上に、留め繍で唐草文様のような模様を施している。下地裂には羅地(籠綟の無文羅)が用いられ、他の繍仏には類例を認めない(知恩院の刺繍袈裟貼屏風、ならびに智積院の刺繍法華経には、本繍仏と同種の羅が用いられている)。また上欄部には小文の綾を用いている。
また、本繍仏の稀少性を高めている要素のひとつとして、箱蓋裏の墨書より、遅くとも江戸時代には、京都の町衆の邸に伝えられていたことが明らかな点が挙げられる。墨書の内容を要約すると、本作品の所蔵者である小川家八代目平蔵は、文化五年に五歳という幼さで、実母である西皎院紫空恵雲尼を亡くしたが、小川家には養育できるものがいなかったため、父方の伯母で糸屋伊右衛門の妻である浄誉観孝妙政禅定尼に引き取られ、十歳まで世話になる。八代目はその後、実家へ戻り小川家を継ぐが、母に代わって育ててくれた伯母に対する恩義を忘れず、毎年と毎月の仕送りを、伯母が存生中続けた。そしてその伯母が亡くなった際、彼女が大切に守ってきた本繍仏が、長年恩義を忘れず援助を続けた八代目平蔵に対し、形見分けとして譲られた、ということが記されている。
伝来が明らかな繍仏は数少ないため、本繍仏は、京都の町衆の間で大切に守り伝えられた事が伺える点においても、非常に貴重といえる。

(2)寄贈(21 件)
＜絵画＞(5 件)
9　○名　称　渡唐天神像　万亀惟鑑賛　1 幅
○時　代　江戸時代
○寸　法　縦 91.5 ㎝　横 34.0 ㎝
○作品概要　木箱入　賛者の万亀惟鑑は妙心寺 121 世で江戸初期に活躍した。

10 ○名　　称　花卉図　凌文淵筆　1幅
○時　　代　中華民国十四年(1925)
○寸　　法　縦 138.0cm　横 47.1 cm
○作品概要　作者、凌文淵は、字を直支といい、江蘇泰県の人。清末の両江優級師範の出身。中華民国成立後、臨時参議院議員、財政部次長を歴任。七十歳で卒。書画を善くし、花卉を最も得意としたが、その奔放な筆致は、明の陳淳・徐渭に比較される。斉白石の北京時代の友人のひとりで、その花卉図は、呉昌碩に類するが、彩色はより華やかである。単純化された描法は、白石への影響という点でも見逃せない。

11 ○名　　称　雪景山水図　吉嗣拝山筆　1幅
○時　　代　明治四十五年(1912)
○寸　　法　縦 137.2 cm　横 47.7 cm
○作品概要　吉嗣拝山(1846～1915)　本名達太郎、字は士辞、拝山はその号、別号に古香、独臂翁等がある。福岡太宰府に南画家、吉嗣楳仙の子として生まれる。日田の広瀬青邨について漢学を修めた後、慶応三年(1867)、京都に上り、中西耕石に南画を学ぶ。明治四年(1871)、台風による家屋の倒壊で右腕を切断し、これを機に画道への専心を決意した。本図は最晩年に近い時期の作で、老成した簡潔な筆捌きで、要領よく景観をまとめ、枯淡の味わいを出している。近代南画の優品である。

12 ○名　　称　普賢菩薩像　1幅
○時　　代　清末　19 世紀
○寸　　法　縦 118.4 cm　横 53.4 cm
○作品概要　京都の真如堂真正極楽寺所蔵の宋画普賢菩薩像の模本。直模ではなく、浮玉の中に象を描く。孫承沢等の鑑蔵印は信用でない。

13 ○名　　称　真如堂普賢菩薩像模本　秦宝英模　1幅
○時　　代　1890 年
○寸　　法　縦 131.0 cm　横 57.1 cm
○作品概要　明治 23 年(1890)、三井氏の命により、真如堂真正極楽寺所蔵の宋画、普賢菩薩像を秦宝英が模写したもの。ちなみに真如堂は三井家の菩提寺。

＜陶磁＞(1 件)

14 ○名　　称　柿右衛門色絵花鳥図陶板　1個
○時　　代　江戸時代
○寸　　法　縦 17.7 cm　横 17.7 cm　厚 1.8 cm
○作品概要　17 世紀後半の九州有田窯での制作と推定される。額装。

＜漆工＞(9 件)

15 ○名　　称　花唐草螺鈿鉢　1口
○時　　代　明または琉球王国時代
○寸　　法　径 25.7 cm　高 7.9 cm
○作品概要　面盆のつばを細くしたような小型の鉢。つば表の螺鈿による花唐草は中国製と思われるが、胴部外面の漆絵と箔絵による菊と梅はやや和風でかつ日本では見られない表現であることから、中国製の鉢に琉球で手を加えたもののように思われる。

16 ○名　　称　桜樹蛇籠蒔絵硯箱　1合
○時　　代　江戸時代
○寸　　法　縦 22.5 cm　横 21.4 cm　高 4.5 cm
○作品概要　江戸時代前中期に典型的な形式の硯箱。梨地に金銀の平蒔絵、金貝、錫金貝、金銀切金などを用いて、蓋表には流水に大きく蛇籠を表し、雲と霞のかかる満開の桜樹を、蓋裏と懸子見込みには土坡に松椿を描く。蛇籠に桜の組み合わせは珍しい。

17 ○名　　称　九曜紋蒔絵螺鈿重箱　1合
○時　　代　江戸時代
○寸　　法　縦 29.7 cm　横 36.3 cm　高 35.8 cm
○作品概要　大型の四段の重箱。黒漆地に金平蒔絵、絵梨地、螺鈿、錫金貝を用いて、蓋表と四側面に各一つずつ、画面いっぱいに九曜紋を表す。

18 ○名　　称　鉈豆蒔絵螺鈿重箱　1合
○時　　代　江戸時代
○寸　　法　縦 23.9 cm　横 21.9cmm　高 24.3 cm
○作品概要　三段の重箱。黒漆塗に金平蒔絵、螺鈿、錫金貝などを用いて、四側面と蓋表にまたがるナタマメを大きくのびやかに描く。いわゆる琳派の系譜に連なる作例。

19 ○名　　称　業平東下り蒔絵香枕　1基
○時　　代　江戸時代
○寸　　法　奥行 13.4 cm　幅 22.0 cm　高 15.1 cm
○作品概要　髪に香をたきしめるために引き出しに香炉を仕組んで用いる枕。下段に低い引き出しがもう一段あるのは珍しい。梨地に金や青金の平蒔絵などで、伊勢物語の業平東下りの図を描く。

20 ○名　　称　吉野絵大鉢　1口
○時　　代　江戸時代
○寸　　法　径 37.8 cm　高 16.3 cm
○作品概要　総体朱漆塗の外面に黒漆の漆絵で葛の葉と芙蓉の花を組み合わせたような文様(いわゆる吉野絵)を描いた大型の鉢。

21 ○名　　称　吉野絵椀　1口

○時　　代　明治～大正時代
○寸　　法　径 14.1 cm　高 9.0 cm
○作品概要　総体朱漆塗の外面に黒漆の漆絵で葛の葉と芙蓉の花を組み合わせたような文様(いわゆる吉野絵)を描いた椀。

22　○名　　称　薄蒔絵文庫　1 合(重要美術品)
○時　　代　桃山時代
○寸　　法　縦 41.8 cm　横 34.8 cm　高 20.0cm
○作品概要　紙や冊子などをしまって身の回りに置いて使う箱。総体を黒漆塗りとし、金平蒔絵で、蓋表から身の側面にかけて、下絵を用いずにのびやかにススキを描く。高台寺蒔絵にも通じる趣のある作品。

23　○名　　称　蔦蒔絵棚　1 基
○時　　代　江戸時代
○寸　　法　奥行 37.8 cm　幅 80.6 cm　高 69.2 cm
○作品概要　四方の柱に 4 枚の板を固定したシンプルな棚。黒漆塗の地に、下絵を描かずに絵漆で伸びやかに蔓植物を描き、金銀の平蒔絵や絵梨地で葉を描いたおおらかな作品。高台寺蒔絵様式にも通じる作風で、制作年代も江戸時代前期は下らないだろう。

＜染織＞(4 件)

24　○名　　称　女五人囃子　1 幅
○時　　代　江戸時代　万延 2 年(1861)
○寸　　法　人形高さ約 11.0　幅約 19.5　奥行約 14.0　楽太鼓高さ 20.0(単位cm)
○作品概要　箱蓋裏墨書銘「万延二辛酉三月初節供ご隠居様より頂裁　■■(墨抹消)氏」より、万延 2 年(1861)が制作期の下限として明らかであり、箱蓋表「御殿付　女楽人　五人」の墨書より、関西特有の御殿の付いた雛段飾りの一部であったことがわかる。いずれも「小袿・小袖・切袴」のみで単を着装しない。着衣、楽器その他の詳細は以下のとおり。
① 大太鼓の官女：おふく(おへちゃ)の特徴的な顔貌。着衣は白小葵紋綾小袖・赤精好切袴・紅地牡丹唐草尾長鳥文様錦小袿(緯四枚綾の複用綾組織緯錦)中倍は紫、裏地は紅。楽太鼓と撥二本が附属する。楽太鼓上部金具の差込の一部折れ。太鼓の皮部剥落多い。
② 琴の官女：つくり眉に、白髪交じりの頭髪。(前髪部の毛髪欠損)着衣は白小葵紋綾小袖・赤精好切袴・萌葱地小葵文様錦小袿(経三枚綾地絵緯別絡み緯三枚綾綴錦)中倍は紅、裏地は紫。桐製の琴が附属。
③ 笙の官女：着衣は白小葵紋綾小袖・赤精好切袴・紅地桐鳳凰文様錦小袿(緯六枚綾の複様綾組織緯錦)中倍は萌葱、裏地は紫。笙が付属。
④ 横笛の女官：着衣は白小葵紋綾小袖・赤精好切袴・紅地斜花格子に梅折枝文様錦小袿(緯四枚綾の複様綾組織緯錦)中倍は紫、裏地は紅。横笛が附属。
⑤ 官女：着衣は白小葵綾紋小袖・赤精好切袴・紫地桐鳳凰文様錦小袿(緯六枚綾の複様綾組織緯錦)中倍は萌葱、裏地は紅。長い縦笛を奏する体勢のため、尺八が附属していたと考えられるが、楽器は欠失。

25　○名　　称　御所人形　亀乗り　1 躯
○時　　代　江戸時代
○寸　　法　高　21.5ｃｍ(烏帽子含む)
○作品概要　木胎胡粉塗　童子：烏帽子かぶり・松竹梅腹掛　桐箱入

26　○名　　称　御所人形　桃持ち猿引　1 躯
○時　　代　江戸時代
○寸　　法　高　12.0cm
○作品概要　木胎胡粉塗　童子：桜腹掛底面に〇に能の朱印貼紙あり。桐箱入。蓋表墨書「桃印　御人形」。ただし元箱ではない。

27　○名　　称　御所人形　鯉持ち　1 躯
○時　　代　江戸時代
○寸　　法　高　20.5cm
○作品概要　木胎胡粉塗　童子：毘沙門亀甲腹掛　底面に穴あり。桐箱入。蓋表貼紙「いつくら鯉持人形　朱文方印「以」」。元箱と思われる。

＜考古＞(2 件)

28　○名　　称　縄文土器深鉢　東京都東久留米市出土　1 口
○時　　代　縄文時代中期
○寸　　法　高 44.5cm　口径 36.5cm
○作品概要　旧出土地名は東京都多摩郡東久留米村。この土器は関東地方の縄文時代中期末の加曽利 E 式の典型である。全体はキャリパー形を呈し、表面には縄文が施される。関東地方の縄文土器を代表する型式であり、その保存状態も比較的良好である。

29　○名　　称　土師器壺　東京都府中市出土　1 口
○時　　代　古墳時代
○寸　　法　高 19.5cm　口径 17.5cm
○作品概要　出土地の旧地名は東京都多摩郡府中村。淡褐色で体部下半に黒斑が見られる。体部外面はヘラ磨きや撫でで調整されている。全体は古墳時代の壺形土器であるが、用途は煮沸用の鍋にあたる。近畿では布留式段階に相当する、関東の和泉式の土師器である。底部が平底なのが特徴である。

(3)編入(1 件)
＜考古＞(1 件)

30　○名　　称　方広寺南門跡根石　複製品　1 基
○時　　代　平成21年2月
○寸　　法　縦230.0cm　　横230.0cm　　高25.0cm
○作品概要　平成20年12月から平常展示館建替工事に先行して建物周辺の発掘調査が行われたが、それによって検出された桃山～江戸時

代の方広寺南門跡を示す複数の根石のうち北辺の西から二つ目の根石が最も良好な形で見つかった。そのため、それを株式会社京都科学の手によって複製することになった。本作品は根石部分をシリコンで型取りしたものに樹脂を流し込んで成形したもので、土・石・瓦片とも絵の具で彩色されている。制作は平成21年1月～2月。

【奈良国立博物館】(計 11 件)

(1)購入(7 件)

＜絵画＞(1 件)

1 ○名　　称　聖徳太子及び道慈律師像　　2 幅
○時　　代　室町時代　14～15 世紀
○品　　質　絹本著色
○寸 法 等　聖徳太子像　　縦 119.5 cm　横 49.2 cm　上部 26.5 cmが補絹
道慈律師像　　縦 119.2 cm　横 49.2 cm　上部 26.6 cm、下部 9.1 cmが補絹
○作品概要　聖徳太子像は、法隆寺で「水鏡御影」と称される形式の像である。この形式の遺品は鎌倉時代後期以降の作があり、本品は比較的古い例である。鎌倉後期の作と見られる法隆寺本などとほぼ同形であるが、衣の輪郭などに若干簡略化したところも見受けられる。面相部が剥落のため薄れているのが惜しまれるものの、水鏡御影の古様を伝える作品としては重要である。一方、道慈律師像は、個性的な相貌を描き、説法の相と思われる開いた口は古様の祖師像にまま見られる形式であることから、依拠する古図があったとも思われる。表現はやや形式化に傾く点も認められるが正統的であり、他に知られた例のない道慈像として貴重な作品である。

＜書跡＞(4 件)

2 ○名　　称　額安寺大塔供養願文　　1 巻
○時　　代　鎌倉時代　14 世紀
○品　　質　彩牋　墨書
○寸 法 等　縦 41.0 cm　長 391.5 cm
○作品概要　本品は、額安寺五重塔の落慶供養にあたり作成された願文である。通常より大きめの料紙を六紙継ぎ、金銀の切箔で装飾したうえに、墨で文字を記す。紙背には、同じく金銀箔を用い、表面とは趣の異なる装飾が施され、額安寺の主要堂塔の造営過程を詳細に記す貴重な史料である。

3 ○名　　称　紺紙金銀交書　大方広如来不思議境界経　　1 巻
○時　　代　平安時代　12 世紀
○品　　質　紺紙金銀交書
○寸 法 等　縦 25.8 cm　全長 528.8 cm(本紙 508.2 cm　見返し 20.6 cm)
○作品概要　本品は、藤原清衡(1056～1128)が発願し、中尊寺に奉納した紺紙金銀交書の一切経である「中尊寺経」の一巻と考えられる。紺紙に銀泥で界線を施し、金泥と銀泥を用いて交互に経文を書写しており、表紙には金泥と銀泥で宝相華唐草文を、見返しには金泥と銀泥で釈迦説法図を描いているのが特徴である。また本品は、平安後期を代表する写経であり、かつ奥州藤原氏の栄華を今に伝える名品である。

4 ○名　　称　蘇磨呼童子請問経　巻下　　1 巻
○時　　代　平安時代　12 世紀
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　縦 26.9 cm　全長 1016.2 cm(本紙 992.9 cm　見返し 23.3 cm)
○作品概要　本品は『蘇婆呼童子請問経』ともいい、上下二巻からなり、真言行者必読の書と言われている。本品の文字は、平安から鎌倉にかけての書風で、院政期末期にあたる12世紀後半に書写されたものと考えられる。また全巻にわたり、朱でヲコト点・返点・句切点・連続府などの訓点や仮名・注記などの校合もみられる。料紙が上質で、かつ筆跡も優れており訓点資料としても貴重な優品である。

5 ○名　　称　額安寺文書　　5 巻
うち　①別当職相伝関係文書　　6 通
②延慶三年(1310)慈信金岡東庄寄進状　　1 通
③金岡東庄所領安堵関係文書　　3 通
④元亨三年(1323)金岡東庄下地中分関係文書　　6 通
⑤金岡東庄相論関係文書　　15 通
○時　　代　鎌倉時代～南北朝時代　13～14 世紀
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　①縦 25.5～27.7 cm(総 30.3 cm)　長 425.5 cm
②縦 27.0 cm(総 30.3 cm)　長 182.5 cm
③縦 26.8～27.5 cm(総 33.2 cm)　長 205.8 cm
④縦 30.8 cm　長 419.4 cm
⑤縦 30.3 cm　長 677.3 cm
○作品概要　本品は、五巻のうち、①には別当職の譲状や別当職相伝の関係系図など、②～⑤には額安寺領備前国金岡東庄に関わる文書が収められている。当文書群は、額安寺領荘園の経営過程について具体的に示していることから、中世額安寺の様相を知る上で重要な史料であるといえる。

＜彫刻＞(1 件)

6 ○名　　称　木造南無仏太子立像　　1 躯
○時　　代　鎌倉時代　13～14 世紀
○品　　質　針葉樹材(ヒノキか)　一木割矧造か　内刳　彩色　玉眼
○寸 法 等　像高 68. 0 cm　頂ー顎 17.2 cm　面幅 10.1 cm　耳張 12.8 cm　面奥 13.3 cm
胸奥(左)14.0 cm　胸奥(右)14.0 cm　臂張 22.4 cm　腹奥 15.1 cm　裾最大張 37.7 cm
○作品概要　『聖徳太子絵伝』に記される、聖徳太子が二歳の春に東を向いて合掌し「南無仏」と称えたという説話上の姿を表した像。

制作年は、降っても 14 世紀冒頭の 10 年、あるいは 13 世紀の最末までさかのぼる可能性が考えられる。作者については、これも明証を欠くものの、利発さを強く感じさせるその明快な表情は、沈鬱な表情に陥ることの多い鎌倉時代末期の南無仏太子像とは一線を画しており、康俊作のＭＯＡ美術館像や作者不明ながら南都に伝来した奈良・元興寺像、あるいは湛幸作の兵庫・善福寺像などに通じ、慶派の系列に属する仏師の手になるものかと推測される。しなやかさのある着衣の襞の表現もこの推測を補強するものといえよう。

＜金工＞(1 件)

7　○名　　称　金銅独鈷杵　　1 口
　○時　　代　鎌倉時代　13 世紀
　○品　　質　銅製　鋳造　鍍金
　○寸 法 等　長 15.4 ㎝　径(鬼目部)1.8 ㎝
　○作品概要　本品の特徴は、縦長鬼目と内側に蓮弁を作らない蓮弁帯の表現にある。当形式の蓮弁帯は、きわめて珍しいものであり、そのため本品の形式を「額安寺形」と称することもある。製作時期については、鬼目が大きく隆起が高い点や蓮弁帯が素弁で簡潔な表現をみせていることから、鎌倉時代に推定することができる。また、本品は忍性(1217～1303)所持の伝承がある。

(2)寄贈(4 件)

＜書跡＞(4 件)

8　○名　　称　祐賢和歌懐紙(春日懐紙)　　一幅
　○時　　代　鎌倉時代　13 世紀
　○品　　質　紙本　墨書　掛幅装
　○寸 法 等　(本紙)縦 28.3 ㎝　横 46.0 ㎝　(総)縦 109.5 ㎝　横 47.5 ㎝　(軸長)51.9 ㎝
　○作品概要　本品は、春日若宮社神主の中臣祐賢(？～1282)が詠んだ和歌三首を自ら書き記した懐紙である。「兵庫助」を称する本品は、おそらく神主になる前のものであり、『春日社記録』には寛元 4 年(1246)閏 4 月から康元 2 年(1257)2 月までの間と特定できる。鎌倉時代に、春日社を中心とする南都社寺の神官・僧侶等によって詠まれた和歌の懐紙は、本品を含め多く伝来する。これらは「春日懐紙」と通称されるが、その多くは紙背が別の典籍の料紙として二次利用されている。本品も中央に折目があり(綴じ孔は確認できない)、剥がされた紙背の典拠の墨跡があるが、今のところ紙背にあった典拠の内容は不詳である。

9　○名　　称　六字河臨法記　　一巻
　○時　　代　鎌倉時代　14 世紀
　○品　　質　紙本　墨書　巻子装
　○寸 法 等　(本紙)縦 26.8 ㎝　横 875.8 ㎝　(表紙)縦 26.7 ㎝　横 19.0 ㎝
　○作品概要　六字河臨法とは、『六字神呪王経』に基づき、息災や調伏を目的としておこなわれる密教修法「六字経法」の中で、修法 7 日目の結願の日に河川に浮かべた船の上に大壇を設けて行われたものである。本書には、文応元年(1260)、後嵯峨上皇の病気平癒を祈るために、この修法が実施された際の諸記録がまとめられている。また、本品の内容は、尊円親王が編纂した青蓮院の寺務部類記である『門葉記』所収の「六字河臨法」の一部とほぼ同一であるが、若干の異同もあり、両写本が直接の書写関係(親子関係)にあるわけではない。ただ、『門葉記』には文応元年例を引用した直後に「貞和四年七月十四日以浄土寺本本書写之」(貞和四年＝1348 年)との奥書があることから(本品にはない)、『門葉記』が参照した「浄土寺本」が本品の親本の可能性があり、『門葉記』の編纂過程を追跡する上で貴重な史料といえる。

10　○名　　称　春日版板木(顕揚聖教論巻第十一)　　一枚
　○時　　代　鎌倉時代　13 世紀
　○品　　質　木製(サクラ材)
　○寸 法 等　縦 26.3 ㎝(把手を含むと 26.9 ㎝)　横 86.5 ㎝(把手・枘を含む)
　　厚 2.0 ㎝(本体のみ。把手厚 2.4 ㎝)
　○作品概要　本品は、平安から江戸にかけて興福寺で出版された「春日版」と呼ばれる仏教典籍の板木のうち、鎌倉時代につくられた一枚である。『顕揚聖教論』は法相宗が依る六経十一論の一つで、全二十巻からなり、『喩伽師地論』の要旨を述べ、その内容を明らかにし讃えるものである。また、下部の長側面に「十一／巻／二／板」とあることから、本品は『顕揚聖教論』巻第十一の巻頭から二枚目の板木であることがわかる。なお、現在興福寺に伝来する春日版板木 2778 枚のうち、鎌倉時代における『顕揚聖教論』の板木は 88 枚現存しており、本品もそれらに連なるものと考えられる。

11　○名　　称　東大寺中興縁起　　一冊
　○時　　代　室町時代　15 世紀
　○品　　質　紙本　墨書　冊子装
　○寸 法 等　縦 26.0 ㎝　横 17.3 ㎝
　○作品概要　本品は、全 36 丁の冊子本で、『東大寺要録』をはじめとする各種寺誌から記事を抜粋・引用し、一部に独自の記述も含んでいる。本書の編集年次は不詳であるが、本書の典拠史料の一部である『東大寺続要録』および『東大寺八幡験記』が成立した 13 世紀末より後の時代であると考えられる。さらに本書には、現存する他の文献にはみられない独自の記事が存在していることから、鎌倉時代初頭の東大寺復興の研究において古くから注目されてきた。なお、本品は『鈔本東大寺要録』の名で知られているが、『東大寺要録』を抄出した部分はごくわずかであり、全体にかかる名称として相応しくないことから、館蔵品として登録するにあたって『東大寺中興縁起』に改めた。

【九州国立博物館】(計 37 件)

(1) 購入 (30 件)

＜絵画＞ (6 件)

1　○名　　称　春夏耕作・秋冬山水図屏風　6 曲 1 双
　○作 者 等　伝狩野元信筆
　○時　　代　室町時代・16 世紀
　○品　　質　紙本墨画淡彩
　○寸 法 等　各　縦 156.2　横 353.4　㎝
　○作品概要　右隻には耕作の情景があり、右側の梅の花咲く春景には牛を用いて犁で田をおこし、籾の籠をはこぶ場面を表す。中央の家屋をへて、左側には田植えと灌漑、草取りなど夏景を描く。足利将　軍家が所蔵した梁楷の耕作図巻の図様を参照したモチ

一フで、狩野元信（1477-1559）の様式による表現。元信の基準作のなかでも天文 12 年（1543）の琴棋書画図（霊雲院蔵）に近い。本図は、樹木の表現にデフォルメと特徴ある形態から、霊雲院本よりもやや遅れる時期に元信周辺の画家が制作したものと考えられる。
左隻の山水の情景では、右側に紅葉のある水辺の東屋と集落、落雁、満月によって秋景を描く。中央の遠景の漁村をへだて、懸崖と楼閣を中心とする左側には積雪により冬景を表す。これらの場面のうち、水辺の東屋は伝閻次于筆鏡湖帰棹図（台北故宮博物院蔵）、懸崖の瀑布にかかる建物は伝夏珪筆雪景山水図（台北故宮博物院蔵）などの室町時代に流布した中国絵画の図様を継承するものである。その表現は、とくに岩の皴法や柳樹の描法が霊雲院本に類似し、さらに岩の形態が誇張されて複雑になっている。そのため本図は、霊雲院本よりも少し降る時期の元信様式をよく伝えるものとみられる。
このように本図は二つの主題により構成される点が珍しいが、左隻のみに印章がある点は注意される。これは山本英男氏が分類する「元信」印（「印からわかること-元信印の場合-」『学叢』第 21 号）のうち天文年間（1532-1554）を中心に用いられた A2 印に相当すると思われるが、捺印の場所が二画面の中央寄りと異例で、かつ右隻には印影が確認できないなど検討を要するものである。また各隻の描写には多少の相違がみられるが、上記のように両者の年代は同時期であり、全体的には様式的な共通点が多い。そのため両隻が当初から一双として制作された可能性は高いと考えられ、本図は室町時代の狩野派作品のなかでも元信の在世時にさかのぼり、また耕作と山水という異なるテーマをまとめた一本として、注目すべき作品と位置付けられる。

2　○名　　称　山水図　1 幅
　　○時　　代　朝鮮時代・16 世紀
　　○品　　質　紙本墨画
　　○寸 法 等　縦 43.4　横 30.4　cm
　　○作品概要　掛幅装。画面は上下に二分され、その下方の近景には水辺の景観が表される。その右下　に斜めに配置された土坡には、大きな蟹爪樹が二本描かれる。その左側の一本は淡墨で丸く葉を線描した常緑の車輪松であるが、右側は落葉した枝に芽を点描するため、早春の樹木を表現すると思われる。その上方の懸崖には東屋があり手前に人物を配するが、その三人のうち中央・右側の人物は竿・琴を持つとみられる。右下の土坡の奥には楼閣と円錐形の樹木などが連なり、最も左側にある一階建ての建物には特徴的な庇が、水辺の船には棹が描き込まれる。画面上方の遠景には、遠山と樹木が描かれる。
その画面は中央左寄りに紙継があるなど、本紙は制作時の状態から何らかの変更が加えられている可能性があり、後補の部分に補筆も認められ注意が必要である。しかし本図には近景の蟹爪樹と円錐形の樹木、遠景の短線点皴などに朝鮮時代・16 世紀中葉の山水画の特徴がよく示されており、その整った様式は注目に値する。とくに懸崖上の人物の持物、船の棹や建物の庇などには細緻な筆線による描写がみられるため、本図は、小画面ながらも表現の優れた朝鮮山水画であると評価できる。

3　○名　　称　絹本著色羅漢図　陸信忠筆　1 幅
　　○時　　代　中国・南宋時代・13 世紀
　　○品　　質　絹本著色。。
　　○寸 法 等　縦 54.1　横 36.5 cm
　　○作品概要　掛幅装。画面は全体に暗く、状態は横折れに起因する欠損も部分的に認められるが、全容はよく保たれている。軸端は木製漆塗りである。緑と白の内衣に団花文のある赤い袈衣をまとう羅漢が、右手を念じて黒雲から湧出する龍を見上げながらゆったりと緑色の玉座に坐す。その玉座には宝珠や唐草、龍などの細かな装飾があり、羅漢の背後には淡い桃色で縁取った白い法被が掛けられている。玉座の後方には緑や桃色、金色からなる甲冑を着け、獅子冠をかぶり胸前で合掌する神将形が立つ。
その作者は、画面左上の落款によれば陸信忠とされる。彼は寧波が慶元府と呼ばれた時期（1194－1277）に当地で活躍した職業的な仏画師であるが、その落款をもつ絵画には陸信忠工房の作品が含まれることが指摘されている。落款は、この画家の小画面の現存作例に共通する細字でやや太い書体に近似するため、陸信忠あるいはその工房の作品とみて問題はない。絵画表現については後述のように、陸信忠の様式としては類例の少ない傾向を示すものの、その年代は画家の活躍期である南宋時代・13 世紀に相当すると理解できる。とくに彩色と線描が丁寧で表現が優れているため、本図は工房の主宰者である陸信忠の筆になるとみてよいと考えられる。
なお、画面の右側上端、龍の右隣には蓮台上に赤色で縦長の短冊形の部分がある。赤外線撮影を試みたが、保存状態が悪いため銘文等は判読できなかった。

4　○名　　称　紙本墨画淡彩　琴高仙人・牧童・高士観梅図　拙宗等揚筆　3 幅
　　○時　　代　室町時代・15 世紀
　　○品　　質　紙本墨画淡彩。
　　○寸 法 等　各最大径　33.0 cm
　　○作品概要　掛幅装。状態は擦れや横折れに伴う小さな浮きがあるものの、画面は概ね保存されている。軸端は象牙。一具として伝来したこの 3 幅は、ともに上下が少しくぼんだ団扇形であり、縦の折れ跡がほぼ中央にみえることも共通する。表装に関しては、折れ跡から考えれば、ある時点で 3 点とも画帖に貼り付けられていたかと想定される。
その画題を確認すると、勢いよく躍る魚に跨る口髭をたくわえた道士を靄のなかに描く 1 幅は、琴高仙人図と考えられる。つまり琴の名手である中国の仙人・琴高が、再会を約束した知人の前へ鯉に乗って出現する場面を表すとみられる。墨と水色で線描された枝を垂らす柳の下で、童子が牧牛に乗り笛を吹く 1 幅は、牧童図とみてよい。とくに牛に乗る童子が笛を吹くさまを重視すれば、禅宗の修行の過程を表す十牛図のうち人と牛が一体となる境地を描いた「騎牛帰家」との関連が想定される。頭巾をかぶり合わせた両手を着衣で隠す高士が、枝先に赤い芽をつけた梅を見つめ水辺の山道に佇む 1 幅は、高士観梅図とみなせる。さらに画題を絞り込むなら、この高士をこよなく梅を愛した北宋時代の詩人・林逋(林和靖、967－1028)と理解することもできるかも知れない。
これらの作者については、3 幅に共通する印章からともに 15 世紀に活躍した拙宗等揚と考えられる。この画家の名前は現在の学界では、雪舟等楊(1420－1506?)が「雪舟」を名乗る寛正 6 年(1465)頃以前に使用した道号・法諱であると考える学説が極めて有力である。これに従うなら本図は、線描・構成ともにやや素朴さが残るものの、室町時代の代表的な画家・雪舟が中国渡航(1467－69)以前に制作したものと説明できる。

5　○名　　称　紙本墨画月夜山水図　　1 幅
　　○時　　代　室町-安土桃山時代・16 世紀
　　○品　　質　紙本墨画
　　○寸 法 等　縦　93.2　横　39.8 cm

○作品概要　掛幅装。横折に伴う擦れが一部見られるものの、状態は概ね良好である。軸端は象牙。
画面は3つの場面に分けられる。下方の松のある近景では、高士が荷物を担ぐ従者を連れ、土坡の背後にみえる梅に向かい小道を歩んでいる。梅の枝先には濃淡の異なる点描により花弁が表現される。本図の中央を大きく占める中景には、下方から延びる小路に従者が、その先の東屋に観瀑する2人の高士が描かれる。背後の山上には積雪がみえ、手前の松でも蔦が風になびくなど、天候を示す描写が注目される。遠景には舟が3艘みえ、満月のもと湖で釣りをする様子が描かれる。これらの3場面はそれぞれ探梅、観瀑、独釣をテーマとしている。
その表現は、従者の荷物、釣人の釣竿や梅の花弁などをはじめ細部までよく描写されている。空間構成も、同一モチーフの粗密や大小により各景の遠近感を表現するなど、全体的に正統な山水画の表現手法が用いられている。その様式は樹木や皴法に特徴があり、短く硬い線を何度も折り曲げ、点描を細かく重ねるなどの表現が看取できるが、これらは狩野元信（1477-1559）の様式を学ぶ室町時代末期から安土桃山時代初頭の後継者たちに通じ、本図もこのような狩野派の絵師が描いたものと考えられる。なお朱文壺形印は「季正」と読める可能性があり、その形状は室町時代に狩野派が好んで用いたものである。

6　○名　　称　（重要文化財）紙本墨画淡彩観音図　1幅
○時　　代　室町－江戸時代・16－17世紀
○品　　質　紙本墨画
○寸 法 等　縦105.3　横45.5㎝
○作品概要　掛幅装。保存状態は概ね良好で、軸端は象牙である。画面中央を横切る湧雲の上方には、趺坐して腹前に印を結び、宝冠をいただいて耳環・胸飾・臂釧などをつける2臂の菩薩が表される。この尊像は、宝冠に阿弥陀と思われる化仏があることから観音とみられ、これと符合するように上部の賛文（賛者不詳）には「観音経」として流布する鳩摩羅什訳『妙法蓮華経』「観世音菩薩普門品第二十五」の1節が記される。
湧雲の下方には、宴会の場面で水辺に嘔吐する人物と従者、その光景を見つめる人物が描かれる。これは賛文が引用する「観音経」が説くように、呪われて毒薬による殺害が計画された者でも観音を念じれば呪いや毒は仕掛けた本人に戻る、という観音の利益を絵画化したものである。
その作者・年代については、落款と印章によれば雪舟等楊（1420－1506？）が文明18年（1486）に制作したこととなる。ただしその描写には、観音の右足首、唇や小鼻などのやや不自然な表現や、化仏の省略された筆致などに模本的な性格が指摘できるため、年代を文明18年とすることは困難である。その一方で、金泥を多用し細部に赤や青などの彩色をほどこすなど、本図には雪舟の表現をよく伝えると考えられる要素も留められている。

＜書跡＞（7件）

7　○名　　称　（重要文化財）孤峯覚明墨蹟与保樹大姉法語　1幅
○作 者 等　孤峯覚明(1271-1361)筆
○時　　代　南北朝時代・14世紀
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　本紙　縦31.2　横87.3　表装　縦120.0　横89.0
○作品概要　掛幅装。孤峯覚明は法燈派の僧。会津の生まれで、17歳で良範講師に依って得度し、延暦寺にて受戒した。26歳にして経論を捨て、紀伊由良の西方寺(のちの興国寺)にて無本覚心に3年のあいだ侍した。紀伊を出てからは、太宰府の南浦紹明にも参じている。応長元年(1311)40歳で入元し、天目山幻住庵中峰明本に参じるなどした。帰国後は能登永光寺に曹洞宗の瑩山紹瑾に参じた。その後、南朝方の後醍醐天皇や後村上天皇の帰依を得て、雲樹三光國濟国師の号を賜った。晩年は和泉の大雄寺に住し、91歳で寂した。
本墨蹟は、年紀は無いが書風から見て晩年のものと推定されている。保樹大姉という人に与えた法語。24行にもわたる大部なもので、悟道の要諦を説いている。最終行に「入宋比丘　孤峯覚明」と記されている。遺墨は、このほかに島根県・雲樹寺所蔵の一幅が知られるのみである。最晩年に揮毫された雲樹寺蔵の墨蹟にも「度(渡)宋比丘」とあり、終生、宋に渡ったことを誇りにしていたようである。

8　○名　　称　古筆手鑑　1帖
○時　　代　奈良―安土桃山時代・8－16世紀
○品　　質　紙本墨書・彩箋墨書・絹本墨書・紺紙金字
○寸 法 等　縦　40.9　横　54.0　㎝
○作品概要　折帖装（手鑑装）。折帖の表裏各40面に総計122葉の古筆切が貼付され、それぞれに古筆極が添えられている。極の伝承筆者によれば、表は天皇・皇族・摂関・公卿・名人51名、裏は能書・高僧・女人・武家・唐人68名の古筆切を貼付する。配列をみると、伝聖武天皇筆の「賢愚経断簡（大和切・大聖武）」を筆頭に、文化元年（1804）刊行の『古筆名葉集』などにみられる分類と配列でつくられた本格的な手鑑である。内容は奈良から桃山時代までの詩歌集や経典・公文書・漢籍・記録・縁起・式目など、幅広い分野におよんでいる。

9　○名　　称　麗花集断簡（香紙切）　伝小大君筆　1幅
○時　　代　平安時代・11世紀
○品　　質　彩箋墨書
○寸 法 等　本紙　縦20.9　横12.1　　表具　128.8　横32.6㎝
○作品概要　掛幅装。『麗花集』の断簡。芳香を放つ料紙を用いて書写した古筆切であることから「香紙切」という。元は粘葉装の冊子本である。香紙は丁子を煎じた煮汁で染め上げた紙で、色が美しく香りがよいばかりでなく、防虫の効果を兼ねていたともいわれる。書風は細い線が自由奔放に躍動し、連綿の息が長いのが特徴である。このような嫋々たる筆線が女性の手を連想させ、古来、小大君（生没年未詳）の筆と伝えられてきた。小大君は平安時代中期を代表する女流歌人であり三十六歌仙のひとりであるが、能書であったという記録はない。

10　○名　　称　後撰和歌集断簡（胡粉地切）　伝寂蓮筆　1幅
○時　　代　平安時代・12世紀
○品　　質　彩箋墨書
○寸 法 等　本紙　縦20.1　横14. 2　　表具　129.4　横36.3㎝
○作品概要　掛幅装。『後撰和歌集』巻第十二・恋四の断簡。胡粉を引いた料紙を用いて書写した古筆切であることから「胡粉地切」という。もとは粘葉装の冊子本である。貝殻を焼いて作った胡粉を楮紙に塗り、典雅な銀と金の砂子を撒いている。字形は扁

平であるのが特徴であり、線は比較的に単調である。筆者は『新古今和歌集』を代表する歌人のひとり・寂蓮（1139-1202）と伝えられるが、自筆遺品とされる「一品経和歌懐紙」や「熊野懐紙」と比べると、同筆とは言い難い。しかしながら、いわゆる「寂蓮様」とされる書風であることは確かであり、彼と同時代の能書家の手によるものである。

11 ○名　　称　紺紙金銀字陰持入経（中尊寺経）　1巻
○時　　代　平安時代・12世紀
○品　　質　紺紙金銀字
○寸 法 等　表紙 縦 25.7 横 21.2 本紙 縦 21.2 全長 767.5、第1紙 47.4、第2紙 47.7、第3紙 47.8、第4紙 47.8、第5紙 47.8、第6紙 47.8、第7紙 47.8、第8紙 47.6、第9紙 47.7、第10紙 47.8、第11紙 48.0、第12紙 48.0、第13紙 47.9、第14紙 48.1、第15紙 48.0、第16紙 47.7、第17紙 28.8㎝
○作品概要　巻子装。軸端は撥型鍍金。表紙・本紙共に藍染めした紺色の料紙を用いる。表紙には金銀泥で宝相華唐花文と題箋を描く。題箋の中には「陰持入経一巻」と経典名・巻数を記す。見返しには金銀泥で霊鷲山釈迦説法図を描く。八双には竹を用いる。巻緒は新補。首題「陰持入経」と尾題「陰持入経一巻」は金字で書く。本文は17紙を貼継ぎ、銀泥で天地および縦界線(界高19.7、10行幅17.6)を引いた料紙に金泥と銀泥で一行おきに本文を書く。行17字詰。1紙27行(2紙目)。軸端には撥型鍍金魚子地四弁花文の軸首が装着されている。上軸と下軸の形や文様に差違があるので、片方、あるいは両方が後に付け替えられた可能性はあるが、二つとも平安時代の作と認められる。なお、現状の第9紙と第10紙の間に約3紙分が欠失している。

12 ○名　　称　高麗再雕版大方等無想経　6帖
○時　　代　朝鮮・高麗時代・13世紀
○品　　質　紙本墨摺
○寸 法 等　表紙 縦 29.2 横 12.1、巻第一 縦 24.2 全長 350.9、巻第二 縦 24.2 全長 568.7、巻第三 縦 24.2 全長 568.7、巻第四 縦 24.2 全長 532.4、巻第五 縦 24.2 全長 459.8、巻第六 縦 24.2 全長 453.8㎝
○作品概要　折本装。巻第一が巻首から9紙半分を欠くが、他は完存する。各帖とも後補茶染紙表紙に金泥で「大方等無想経巻第一　大」等と経典名・巻数・千字文を記す。各帖首には「大方等無想経巻第二　大」と経典名・巻数・千字文があり(巻第一を除く)、尾には経典名・巻数がある。本文は1折12行、1紙2折24行、行14字詰、天地界線がある。界高は22.0。巻第二、四、六には尾題の後に刊記「癸卯歳高麗國大蔵都監奉/勅彫造」がある。巻第一、三は刊記の2行目が確認できず、巻第五は2行とも確認できないが、裏表紙との間に貼り込まれた箇所に隠されている可能性がある。各紙右端の経典本文前には「大雲経第三巻　第二帳　大　含録」等と経典名・巻数・紙数・千字文・刻工名を刷り出す。各巻にみえる刻工名は巻第一「一意」、「一義」、巻第二「敦素」、巻第三「龍」、巻第四「含禄」、巻第五「克和」、巻第六「地起」である。各巻紙数は巻第一15紙、巻第二24紙、巻第三24紙、巻第四22紙、巻第五19紙、巻第六19紙。

13 ○名　　称　紙本墨書徐葆光墨蹟（七言絶句）　1幅
○時　　代　中国・清時代・1719年（康熙58）
○品　　質　紙本墨書。
○寸 法 等　本紙　縦　93.6　横　43.0　表具　縦 164.0 横 54.3 軸長 60.3
○作品概要　掛幅装。本紙は竹紙、雲母引き。木製黒漆塗軸。箱蓋墨書「徐葆光之書」。箱側面の貼紙上書「徐葆光書　倏」「イ　五十二」。引首印「賜麟服」（朱文長方印）。落款印「徐葆光字澂斎」「太史之章」（いずれも朱文方印）。

＜彫刻＞（1件）

14 ○名　　称　如来立像　1軀
○時　　代　朝鮮　三国（古新羅）ー統一新羅時代・7世紀
○品　　質　銅鋳造・鍍金
○寸 法 等　像高20.5　肩張5.4　面奥3.4㎝
○作品概要　如来形立像。肉髻部・地髪部ともに無文。肉髻珠相および白毫相は認められない。耳朶は長大に作り、貫通させない。三道はあらわさない。裙・衲衣を著ける。衲衣は通肩衣とし、左肩から背面を廻って右肩から正面へと至り、左肩から左前膊に掛かり、末端を背面に垂らす。背面では裙・衲衣とも衣文をあらわさず平板状を呈する。左腕垂下しわずかに前方に出し、指先を下にし掌を前に向け、全指を伸べる。右腕屈臂し、掌を前にして立てるがやや前傾させ、全指を伸べる。正面し上体をやや後ろに反らして立つ。
蠟型による一鋳か。内部を中空とするが、頭部下半から肩上部にかけて鋳造の際中型土に亀裂が生じたのか、頭部と体部の中空部が遮られてしまっている。銅厚は正面側が厚手、背面が薄手となっており、片寄りが甚だしい。全体的に鬆が多い。背面に外側から銅板で大きく象嵌（嵌金）する。頭部内の左耳上方から右耳にかけて筋金が確認できる。また体部の腹部と脚部の正中線上にも前後に筋金が確認できるが、これは背面に象嵌した銅板を支持する役割を持つものであろう。
髪際以下の全面に鍍金を施す。ただし肉髻部・地髪部にも部分的に鍍金が付着する。鍍金後、唇に赤色の彩色を行なう。保存状態は、左手第一指・第五指の付け根より先及び右手第二-五指の付け根より先を欠失する。背面象嵌の銅板は中央付近で陥没する。体部正面の両腕内側および衣文の凹部に泥および錆が付着する。体部に比して頭部が大きく、正面をゆったりとU字形に流れる衣文も深く明瞭にあらわすなど、古新羅時代から統一新羅時代初期にかけての金銅仏の特徴がよく表れている。

＜陶磁＞（1件）

15 ○名　　称　色絵将棋盤童子置物　1個
○作者・制作地等　伊万里（有田）・柿右衛門様式
○時　　代　江戸時代　17世紀後半
○品　　質　磁器
○寸 法 等　高17.8　幅12.6　奥行11.3㎝
○作品概要　色絵磁器の置物。童子が将棋盤上で犬を抱きながら胡坐し、将棋の駒を持つ姿とする。将棋盤、犬、童子の3つの部分からなり、将棋盤は5面の板起しで、底板はない。犬、童子は型作り。童子は胴体、両腕、両足、頭を別々に作り、接合する。将棋盤上部、童子の両耳には空気抜き孔を開ける。底部から内面は露胎とし、それ以外に透明釉をかける。将棋盤側面は黒と赤の輪郭に赤、黄、緑、青彩で牡丹文を描く。上面は染付で9×9の升目を描く。童子の腹掛けは赤地に金彩の花と黒輪郭で青・緑彩の唐草の二つの花唐草文を描く。唇は赤彩、頬は薄い赤彩。黒彩で目、眉を描き、頭髪は緑地を使った艶のある黒。犬は赤、緑、金で彩り、赤と黒の斑文を表す。右手の将棋駒部分、左手親指は後補。左手首に窯割れがあり、将棋盤

後・右側面下端には貫入多く入る。

＜漆工＞（2件）

16 ○名　　称　婦女園遊図堆朱長盆　1枚
○時　　代　中国　南宋時代・13世紀
○品　　質　木製漆塗
○寸 法 等　縦37.0　横18.5　高2.7cm
○作品概要　長方形の盆。表面は、全体を朱漆塗とし、彫漆の技法を用いて文様をあらわす。盆の見込は長方形に区画し、内側には橋上で喫茶する婦人、太湖石、梅、海棠、金鶏冠鳥などをあらわし、その周縁部には、蓮華、菊、牡丹、芍薬などの花を類型化した葉とともに蔓状に廻らす。また、立ち上がりの外側は屈輪文で埋め尽くす。高台から底面にかけては黒漆塗。高台の内側には、沈金針刻で「戚寿造」、朱漆書で「泰斉」の銘がある。

17 ○名　　称　秋草蒔絵箱　1合
○時　　代　桃山時代-江戸時代・17世紀
○品　　質　木製漆塗
○寸 法 等　縦81.0 横55.0 高37.5cm
○作品概要　長方形、被蓋造、底面の四隅に刳形の脚を付けた大型の箱。総体黒漆塗。蓋表から四側面にかけて、土坡から伸びる秋草（菊、薄、萩など）と桐紋を、金平蒔絵に絵梨地、針描、付描などの技法を交えて大きく伸びやかに描く。なお、蓋表は短側面を天地とする。身の内には銀箔を散らした紙を内張りしている。魚子地に菊桐紋唐草を線刻した金銅製金具を、蓋の四角、蓋長辺中央、身下部の四角、脚などの要所に打つ。一方の長側面中央には、菊花紋線刻の金銅製紐金具を付けるが、もう一方の紐金具は欠失する。

＜染織＞（7件）

18 ○名　　称　浅葱苧麻地窓絵枝垂桜模様紅型衣裳　1領
○作者・制作地等　沖縄
○時　　代　琉球第二尚氏時代-明治時代・19世紀
○品　　質　苧麻（単糸　撚無）、平織（織密度　経糸12本、緯糸12本）、型染（両面）
○寸 法 等　身丈121.2　裄53.5cm
○作品概要　浅葱苧麻地両面染め単衣仕立て。袖は広袖で、脇にマチをつけ、衿は広衿の返衿にする。身頃は前後左右とも身幅を狭くし、身丈はおはしょりする。紫地水仙霰文と朱地白抜き菊花霰文の二種の窓絵と、枝垂れ桜を配した大模様を、肩山を境に前後天地をあわせて、肩、胴、裾の三段に配置する。肩山に一部虫喰あるが全体に状態は良好。この大模様（縦53.0　横42.0）は、大正末から昭和初めにかけて鎌倉芳太郎が収集した紅型資料中の「窓絵枝垂れ桜模様白地型紙」（収蔵番号1034）とほぼ一致する。染材については植物染料の他、顕微鏡およびハンディ型蛍光X線分析調査によると、朱色、黄色にはそれぞれ粒子が認められ、顔料も使用していると考えられる。

19 ○名　　称　黄絹地鳳凰牡丹扇面模様紅型裂　1枚
○作者･制作地等　沖縄
○時　　代　琉球第二尚氏時代-明治時代・19世紀
○品　　質　絹（単糸　撚無）、平織（織密度　経糸27本、緯糸23本）紋綸子、型染（片面）
○寸 法 等　縦214.0　横35.5cm
○作品概要　黄絹地片面染め絹布裂。布幅35.5㎝の絹布を2枚に折る。折り目片側に衿口(7.0cm)を開け、肩山を境に模様を反転させて染める。模様は瑞雲鳳凰と牡丹扇面模様を交互に配する。布帛は平絹だが、１ヶ所紋綸子が認められる。染材については植物染料の他、顕微鏡調査では朱、黄、青色に粒子が認められることから、顔料も使用していると考えられる。またハンディ型蛍光X線分析調査では鉛が検出され、一部に媒染剤（硝酸鉛）を使用していたと考えられる。現在、黄色の地染めは植物染料のフクギによって行われるが、本作の地色はそれとは異なり、石黄が使われている可能性がある。

20 ○名　　称　白木綿地桜芒鳥模様紅型衣裳　1領
○作者･制作地等　沖縄
○時　　代　明治-大正時代・20世紀
○品　　質　綿（単糸　Z撚）、平織（織密度　経糸14本、緯糸12本）、型染（両面）
○寸 法 等　身丈120.0　裄61.0cm
○作品概要　白木綿地両面染め単衣仕立て。袖は広袖で、脇にマチをつけ、衿は広衿の返衿にする。身幅は布幅（35.0㎝）をいっぱいに用い、丈はおはしょりする。紫と赤紫の二種の桜に鳥、芒を配した中模様（縦18.0cm　横46.0cm）を繰り返し、連続模様をあらわす。前後身頃の絵柄は、肩山で反転させず、天地逆に配される。染材については植物染料の他、顕微鏡調査では芒模様の赤色、鳥模様の黄色には粒子が認められ、顔料も使用していると考えられる。またハンディ型蛍光X線分析調査では鉛が検出され、一部の色差しには媒染剤（硝酸鉛）を使用している可能性もある。なお、衿下に縫いつけられた紙札に「琉球紅形」と記されるが、「ビンガタ」という呼称が広く知られるようになったのは大正14年以後、鎌倉芳太郎、芹沢銈介の研究以後であるため、大正末昭和初期以後、市場に出たものと考えられる。

21 ○名　　称　浅葱地菊桜紅葉貝沢潟文紅型衣裳　1領
○時　　代　琉球　第二尚氏時代・19世紀
○寸 法 等　丈 126.0 裄 66.0 袖丈 46.5 後幅 62.0 襟幅 16.5 襟下 23.0
○品質形状　木綿(単糸/経:撚有 Z、24本/cm　緯:撚有 Z、21本/cm)。平織。紅型片面染。浅葱木綿地片面紅型の単衣仕立て。交領。襟は内側に折り返したくけ襟。襟丈が長く、襟下が短い。袖は付けづめの広袖で脇にはマチ（ワチスビ）をつけない。袖口、襟端、裾ともに折伏するが縫い始末がない。現在の縫糸の他に衽付、腰上げの縫跡が認められる。文様には中模様の型紙を用い、菊花（正面形および側面形）、桜（五弁、八重と結び文）、紅葉、沢潟に貝、海藻、桔梗等を朱、紅、紫、黄、黄緑等で染め付けている。

22 ○名　　称　縞絽単衣　1領
○時　　代　琉球　第二尚氏～明治時代・19世紀
○品　　質　単糸（経:撚有 S、10本/cm　緯:撚無、10本/cm)。肉眼で観察する限り芭蕉と考えられる。

○寸 法 等　丈 122.5 裄 62.0 袖丈 45.0 後幅 62.0 襟幅 6.5 襟下 57.5
○作品概要　縞絽織の単衣仕立て。地は経糸に等間隔で藍の色糸を織り込み、一条の縞と鎖状の縞が交互に表われる。襟は交領で綿布の襟芯を入れ袋縫いとする。袖は付けづめの窄袖で袖口は三つ折り縫いする。脇にマチ（ワチスビ）をつけない。共裂で腰部を補強、右袖、右前身頃の欠損箇所に当て布する。肩から後身にかけて変色、脇にほつれが認められる。

23 ○名　　称　紺地吉祥文紅型風呂敷　　1 枚
○時　　代　琉球　第二尚氏時代～明治時代・19 世紀
○品　　質　単糸（経:撚有 S、12 本/cm　緯:撚有 S、13 本/cm）。肉眼で観察する限り苧麻と考えられる。平織。
○寸 法 等　縦 145.0 横 146.0
○作品概要　筒描き紅型両面染の風呂敷。地は三枚継ぎで幅 45 cmの裂を縫い合わせている。文様は鶴亀松竹梅を表す。中心には羽を広げた鶴と白尾の亀が対峙し、その周りを竹の輪と松梅文様が囲む。赤、藍、緑、茶を基調とした明るめの配色で各所に隈取りや暈かしをいれる。輪郭線は太くいきおいがあり、糊伏せにより白抜きとなる。右上隅に家紋が施される。毛姓旧久米士族吉川家の家紋に近い形をするが、何家のものかは不明。片面は長く使用したためか褪色しているが、縫合目のある面は比較的色が残る。右端にほつれ穴が認められるが、全体として状態は良好。

24 ○名　　称　赤地花唐草文西洋更紗袱紗　　1 枚
○時　　代　18－19 世紀
○寸 法 等　縦 80.6 横 75.0
○品　　質　木綿(単糸)。房は絹糸。平織。捺染。
○作品概要　赤地に花唐草文を捺染した西洋更紗を袱紗に仕立てる。四隅には橙色絹製房をそれぞれ付す。表裏を綴じるため、房と同じ絹糸をしつけ糸を縁からやや内側にめぐらす。文様は鮮やかな水色、緑、黄を用い、中心区画に 5 弁と 4 弁の花を基調とした花唐草文を表す。外側の区画には大輪の花文と小さな花文を配す。四隅は型の継ぎ目で、不整合な形をなす。花文や葉文の一部には点描で陰影を表現。外縁には楕円形の連珠文を配す。部分的に若干のしみが認められるが、状態は比較的良好。

＜考古＞（4 件）

25 ○名　　称　須恵器皮袋形瓶　　1 点
○窯・制作地　東山窯（愛知県）
○時　　代　古墳時代・6 世紀
○法　　量　長 25.8 幅 9.3 高 12.4
○品質形状　楕円形の粘土板をきっちりと合わせて両端が尖る紡錘形の体部をつくり、別造りの口縁部が付けられている。全体がカキ目によって、ていねいに仕上げられる。両側辺と中央ならびに底部には、櫛状工具による列点文によって皮袋容器の合わせ目を痕跡として表現している。また、肩部は四方向に小さな粘土塊が貼り付けられている。焼成は堅緻で、ひずみも少ない。

26 ○名　　称　須恵器牛角形把手付椀　　1 点
○時　　代　古墳時代・6 世紀
○品　　質
○寸 法 等　長径 12.1 短径 11.2 器高 11.9 把手長 5.5
○作品概要　口縁部を楕円形にひずませた鉢形の体部に、ていねいに面取りされてゆるやかに湾曲する牛角形の把手が付けられた須恵器椀で、完形である。底部はほぼ正円形でヘラ削りによって調整され、「×」形のヘラ記号が残る。体部中位には平行に沈線で文様帯を区画し、その間に密に波状文を施している。さらに、その上部にも同様な波状文を加えている。口縁部は、意図的に楕円形に作られており、注水あるいは飲用に適した形態となっている。

27 ○名　　称　陶質土器三足坏　　1 合
○時　　代　朝鮮半島 三国時代・6 世紀
○品　　質
○寸 法 等　蓋 径 11.5 高 11.5 蓋 高 3.8 身 高 5.7 径 11.8 脚 高 3.5
○作品概要　三国時代に朝鮮半島南西部に位置した、百済地域で製作・使用された蓋と身のセットで、いわゆる「三足坏」と呼称されるものである。蓋は扁平なつまみを持ち、口唇部には横ナデによる稜をめぐらせている。さらに、その上部にもヘラ状工具を当てて稜の突出度を強調し、あたかも 2 段に見えるような効果を加えている。内面の仕上げは横方向のナデによる。身は体部と脚部からなる。体部は浅く、蓋の受部の直下には 1 条の沈線を巡らせる。また、脚部は指とヘラで整形されたきゃしゃなつくりである。焼成は堅緻で、ひずみも少ない。

28 ○名　　称　小型石鍋　　1 点
○時　　代　平安時代・12 世紀
○品　　質　滑石製。
○寸 法 等　長 8.1 高 3.4 深 2.3
○作品概要　小形の石鍋である。形状は円形で、口縁部の四方には縦方向に突帯が付く。石材はいわゆる滑石に分類されるものであるが、雲母を多く含み、ていねいに削られて仕上げられている。内面には鑿などの工具を当てた痕跡が明瞭に観察できるほか、内面底部は中央付近が削り残されてやや上方に尖る。外面全体にはうすく鉄分が付着し、内面には薄い鉄片が付着する。なお、被熱痕跡や吹きこぼれなどの痕跡は認められない。

＜歴史資料＞（2 件）

29 ○名　　称　ベトナム村落関係文書　　30 通
○時　　代　ベトナム　後期黎朝時代－阮朝時代（1642-1924 年）
○品　　質　紙本書写または木版
○寸 法 等　各　縦 29.0－56.0　横 34.0-135.5cm
○作品概要　神勅はベトナム皇帝が村落の神々に位を授けた際に下された文書で、後期黎朝から阮朝にかけてのもの（17-20 世紀）がある。これらは、村々の祠などに保管されてきた。同じ年月日付けのものが複数あるのは、皇帝の誕生日などを祝ってまとめて発行されたりしたためである。また、宛てられた地域が文中に特定されているものが多く、ハノイやフエ周辺の地名がある。このほか「当境城隍郷」とだけ記されていて、地域の特定ができないものも少なくない。城隍(タインホアン)とは村の氏神のような存在である。

黄色く染めた継ぎの無い一枚紙に銀泥で竜や雲をあらわし、漢字で本文を書して「勅命之寶」等の朱印を捺す。本文は手書きのものが多いが、なかには木版刷りもある。表裏にあらわされた銀泥の文様は刷られたものと手書きがあり、刷った後に一部を手書きしたものもある。銀泥による文様は、表面は四周に紗綾形紋や雷紋などを巡らしたものが多く、その内側に竜や雲、祥瑞紋を描く。裏面には紗綾形紋を巡らすものもあり、四神や雲、祥瑞文、宝箱などをあらわす。巻末から巻いて保管するものらしく、巻き上げた際に表に出る箇所には題箋が描かれ、与えられた地域の地名が墨書されたものもある。
17 世紀から 18 世紀初期の年号を有するもの(1-4)を中心に、銀泥の文様が粗雑で、明らかに後世の写しと認められるものもある。なお、神勅のほか度牒と機密院档案が各 1 通ある。

30 ○名　　称　　東寺関係文書　1 巻
○時　　代　　平安～室町時代・12－16 世紀
○寸 法 等

No.	名　　称	員数	品質 形状	法量 縦 (cm)	法量 横 (cm)	年代	備考
1	慶我寄進状	1 紙	竪紙	32.2	51.1	永正 8 年（1511）9 月 28 日	
2	亀山上皇院宣	1 紙	竪紙	32.2	45.7	（文永 11 年（1274））11 月 4 日	
3	御修法所巻数	1 紙	竪紙	32.2	56.0	建暦 3 年（1213）8 月 11 日	
4	仁王経御修法佛供御明供米等支配注文	1 紙	竪紙	32.2	48.2	嘉應 2 年（1170）	
5	光厳上皇院宣	1 紙	竪紙	27.1	44.4	（康永 2 年（1343））5 月 9 日	
6	青蓮院雑掌重言上状案	1 紙	竪紙	27.1	46.0	（文亀 3 年（1503））	宿紙
7	青蓮院雑掌言上状案	1 紙	竪紙	27.1	46.0	文亀 3 年（1503）9 月	
8	青蓮院雑掌重言上状案	1 紙	竪紙	27.1	45.7	文亀 3 年（1503）10 月	
9	東寺雑掌言上状案	1 紙	竪紙	27.1	45.7	文亀 3 年（1503）10 月	
10	越中守護斯波義将書状	1 紙	竪紙	29.7	42.9	（永和 2 年（1376））卯月 3 日	
11	鎌倉息若君来臨勘例	1 紙	旧状：袋綴冊子	29.7	42.0	（弘安 3 年（1280））	
12	紀伊守護大内義弘奉行人奉書案	1 紙	竪紙	29.7	41.2	明徳 4 年（1393）10 月 4 日	
13	仁王経法御供米注文	3 紙	続紙	28.7 28.7 28.7	42.0 42.1 38.3	建保 4 年（1216）3 月	全長 122.4
14	室町幕府御教書案	1 紙	竪紙	32.9	51.5	暦應 2 年（1339）10 月 28 日	
15	口宣案	1 紙	竪紙	32.2	39.1	永仁 6 年（1298）9 月 12 日	宿紙
16	某綸旨	1 紙	竪紙	32.1	42.3	年代未詳	宿紙

○品質形状　内容から東寺に伝来したと考えられるが、全 16 通には約 250 年にわたる時代の開きと内容の違いが認められる。現状に成巻されたのは現代のことであり、いつの段階で、これらの文書が一つにまとめられたのかは不明である。(1)は東寺僧慶我の寄進状。(2)は蒙古襲来に際して異国賊徒調伏の祈祷を命じた亀山上皇(1249-1305)院宣。(3)は太上天皇息災等のための祈祷の完了を報告したもの。(4)と(13)は仁王経御修法の費用を書き上げたもの。(5)は東寺寺辺の巷所に関する光厳上皇(1338-74)院宣。(6)から(9)は文亀 3 年(1503)の山城国東西九条女御田についての東寺と青蓮院との相論文書。(10)は越中国三田社地地頭職についての守護斯波義将(1350-1410)書状。(11)は源頼朝(1147-99)子息が門弟に入ることについての記録。(12)と(14)は紀伊国永穂郷国衙の事についての守護大内義弘(1356-99)奉行人の奉書案と室町幕府御教書案。(15)は醍醐寺座主職を任じた口宣案。(16)は山城国四塚田地に関する綸旨。

(2)寄贈（7 件）
＜刀剣＞（2 件）

31-1 ○名　　称　　脇差　銘備州長船康永、応永卅一年二月日　1 口
○作者・制作地等　　長船康永
○時　　代　　室町時代・応永 31 年(1424)
○品　　質　　鉄鍛造
○寸 法 等　　刃長 45.6　反 0.7cm
○作品概要　　平造り、三ツ棟。鍛え板目、刃文丁字。丸留めの棒樋を 1 本通す。茎は栗尻で、目釘孔 3 箇をあける。鑢目は勝手下がり。茎には錆が付着している。平造りで丸留の棒樋を通す点や、銘文の書体から、初代長船康永の作と認められる。初代康永は、応永の初年から 30 年代ころまでに作刀を行ったことが知られる、備州長船派の刀工である。

31-2 ○名　　称　　短刀　銘和泉守兼定作　1 口
○作者・制作地等　和泉守兼定
○時　　代　　室町時代・16 世紀
○品　　質　　鉄鍛造
○寸 法 等　　刃長 29.6　反 0.5cm
○作品概要　　平造り、三ツ棟。鍛え板目、刃文は互の目に丁字乱れ。茎は栗尻で、目釘孔 2 箇をあける。鑢目は檜垣。銘文に和泉守と記すことや書体から、2 代兼定の作と判断される。身幅広く豪壮な造りが賞される。2 代兼定は甲州に生まれて後、濃州の関で初代兼定の門人となり、後に養子となった。永正年間の初めごろに「和泉守」を受領してから銘文に謳うようになる。

31-3 ○名　　称　　十字鎗　銘上野守菅原包宗　1 口
○作者・制作地等　　菅原包宗
○時　　代　　江戸時代・17 世紀

○品　　質　　鉄鍛造
○寸 法 等　　刃長 19.7cm
○作品概要　　十字鎗、両刃造、鍛え板目、刃文直刃。茎に目釘孔 1 箇をあける。初代上野守菅原包宗は摂津を本国とし、寛文年間に活躍した刀工である。また 2 代は土佐を本国とし元禄年間に作刀を行ったことが知られている。いずれも鎗の遺品が極めて少なく、本作が初代・2 代どちらの手になるか判断が困難ではあるが、初代が他に十字鎗を打った例があり、初代の作かとも思われる。いずれにせよ刀鍛冶が鎗を制作することは珍しく、注目される。

31-4 ○名　　称　　短刀　無銘　1 口
○作者・制作地等　　不詳
○時　　代　　江戸時代末期・19 世紀
○品　　質　　鉄鍛造
○寸 法 等　　刃長 21.8　反 0.5cm
○作品概要　　平造り、庵棟。鍛え板目、刃文は湾れ。茎は栗尻で、目釘孔 1 箇をあける。鑢目は勝手下がり。茎に錆が付着する。 銘文がなく、また作風から作者や制作地を判断しがたいが、茎の錆の状態から判断して幕末ころの作と思われる。

31-5 ○名　　称　　短刀　銘紀政次作、玉鋼焼入三回　１口
○作者・制作地等　　紀政次（徳永義臣）
○時　　代　　昭和時代・20 世紀
○品　　質　　鉄鍛造
○寸 法 等　　刃長 21.4cm　反無し
○作品概要　　平造り、三ツ棟。鍛え板目、刃文直刃。茎は栗尻で、目釘孔 1 箇をあける。鑢目は勝手下がり。紀政次は本名を徳永義臣といい、大正 10 年？(1921)生まれ、小倉に住した刀工である。父の紀政行に師事して作刀修行し、昭和 18 年（1943）には陸軍受命刀匠となった。他の政次作品の年記銘によれば、昭和 9-19 年(1934-44)までのものと、昭和 32 年(1957)のものがあり（昭和 20-28 年までは占領軍の命により作刀が禁止された)、本作は後者の昭和 32 年作と伝えられている。なお紀姓に「政」を冠する刀工の系譜は、江戸時代より豊前小倉で作刀を行っている一派である。

32-1 ○名　　称　　刀　銘豊前小倉住紀政広　１口
○作者・制作地等　　紀政弘
○時　　代　　戸-明治時代・19 世紀
○品　　質　　鉄鍛造
○寸 法 等　　刃長 70.0　反 1.7cm
○作品概要　　鎬造、庵棟、大切先、鍛え板目、刃文は互の目。茎は栗尻、目釘孔 1 箇をあける。鑢目は勝手下がり。刀身全体に錆が生じ、茎にも錆が付着している。政広は阿波国の鉄砲鍛冶の家に生まれ、備前国で刀鍛冶の修業をした後、豊前国小笠原藩に召し抱えられ、小倉に住した。幕末から明治初年に作刀を行った刀工で、「寄贈 No.5 紀政次」の祖父にあたる。

32-2 ○名　　称　　刀　銘左國光源正國作、甲寅年正月以國東砂鉄　１口
○作者・制作地等　　左國光（河野武）
○時　　代　　昭和時代・昭和 49 年（1974）
○品　　質　　鉄鍛造
○寸 法 等　　刃長 76.8　反 2.2cm
○作品概要　　鎬造、庵棟、中切先、鍛え板目、刃文は直刃調に小乱れ、所々に足、葉、金筋入り砂流しかかる。茎は栗尻、目釘孔 1 箇をあける。鑢目は勝手下がり。刀身全体に錆が生じている。左國光は本名河野武、大正 3 年(1914)生まれ。福岡県京都郡犀川町に住した。梶原広光（六助。明治 25(1892)年生まれ、鞍手郡若宮町住。父である六郎広光に師事した）に師事し作刀を行った。甲寅年は昭和 49 年(1974）に当たる。また銘文より、国東の砂鉄を以て制作したことがわかる。

＜陶磁＞（1 件）

33　○名　　称　　染付鳳凰図八角有蓋壺　1 合
○作者・制作地等　　伊万里(有田)
○時　　代　　江戸時代・17 世紀末-18 世紀初
○品　　質　　磁器
○寸 法 等　　通蓋高 67.5　身高 53.0　口径 19.2×21.0　底径 20.5　蓋高 13.5cm
○作品概要　　染付磁器の有蓋壺。轆轤成形で、身は高台上から口頸部まで八角に面取り整形する。高台上からわずかに開き、肩部で丸く内に向かい、頸部で折れて直角に立ち上がる。蓋は八角形の鐔が開き、円形の頂部となり、中央には宝珠形の鈕を付ける。蓋内部には、八角形の受けをつける。身は全面に施釉の後、高台端部の釉をぬぐう。濃紺の染付の装飾は、高台上に 2 本の圏線、白く抜いた上に圏線をめぐらし、その上方に三重の三角蓮弁を、その間に二重の三角蓮弁を巡らす。肩部に 2 本の圏線で区画し、蓮弁帯との間が主文様帯となる。2 羽の鳳凰と桐を描き、岩と牡丹が空間を埋めるように配される。肩上方は蛸唐草の祖形が巡る部分と単弁蓮弁部に区画される。頸部は八面を四方に区画し、花卉図と巻子と貝図を交互に描く。蓋では鐔端部を太線で塗り、縦線を巡らす。頂部側面は桐と牡丹に岩を描く。その内に蛸唐草、単線の蓮弁を描き、鈕は全体を塗る。
身は窯疵を除いて完形。蓋は受け部の 2 ヶ所に共直しの補修があり、1 ヶ所欠けがある。

＜考古＞（4 件）

34-1 ○名　　称　　（重要美術品）銅鍾　1 合
○出土地等　　伝朝鮮民主主義人民共和国　平安南道大同郡楽浪遺跡
○時　　代　　中国　前漢時代・前 3 世紀-前 1 世紀
○品　　質　　銅製
○寸 法 等　　蓋　長径 16.0　短径 15.0　高 1.0　身　口径 16.0　胴径 26.0　高 29.0cm
○作品概要　　水あるいは酒を容れる壺形の器種で、自名器の事例により鍾と呼ばれている。明器としてのほか、祖先祭祀などでも用いられた。現在の器体は上方からの圧迫により、変形と破損が著しい。蓋は扁平で、深めのかえりが付く。鈕は欠損し、環が離脱している。身は、胴部、肩部、口縁部にそれぞれ凸線が巡る。口縁部の凸線上に、縦方向の沈線が 2 条認められる。頸部の左右一対に獣面形の鋪首がつく。鋪首環は 1 点が完存し、1 点は 4 分の 1 が残存するのみである。高台は直線的に

やや外方へ広がる。随所に布目が残る。蓋や鋪首の形態は漢代の青銅器のなかでも古相を示す。総じて錆化が進行しており、また変形による偏加重が深刻であるため、修理が必要である。

34-2 ○名　　称　（重要美術品）嵌玉金銅熊脚　1個
○出土地等　伝朝鮮民主主義人民共和国　平安南道大同郡楽浪遺跡
○時　　代　中国　前漢時代・前3世紀-前1世紀
○品　　質　金銅製、玉
○寸 法 等　総高 6.2　幅 3.8cm
○作品概要　金銅製鋳造、熊形の用器部材。他の銘文資料から、漢代当時もこれを熊脚と呼んでいたことが知れる。背中や腹部は、三日月型の点打ちで S 字状に体毛をあらわし、そのほかの部位は蹴り彫りによって体毛をあらわす。もとは両耳、両眼、両肩、両胸、両膝、臍に玉嵌があったが、このうち両眼、右胸、臍の嵌玉はすでに失われている。内部には鋳造時の真土が遺存する。また、縦 1.5cm 横 1.8cm 木製方柱が残り、熊脚内面と方柱との間には方柱固定のための粘土を充填する。本例の同型品として、平壌覆法審院保管（1920 年代当時）の 2 点が知られている。もとは 4 個 1 組として案の脚であったと推測する。錆、経年劣化等により保存状態が悪く、展示に活用するためには修理が必要である。尚、本作品は『古蹟調査特別報告 第 4 冊　楽浪郡時代の遺蹟』（朝鮮総督府、昭和 2 年）に田増關一氏蔵として採録。

35　○名　　称　陶製経筒　1合
○時　　代　中国　宋代・12 世紀
○品　　質　陶製
○寸 法 等　総高 33.5　筒身 高 29.2　口径 8.0　高台径 9.0　蓋高 7.8　径 11.4cm
○作品概要　筒身は肩部に最大径を持つ砲弾形で、肩部に 2-3 条の沈線、直下に 1 条の波状文、体部中央よりやや下に 2 条の沈線を巡らせる。口縁部はゆるやかな S 字を描いて直口し、底部には下向きの高台を付している。口縁部から肩部にかけてと内面の一部に釉がかかるがほとんどは露胎している。蓋は扁平つまみをもち、口縁ハの字に広がる被蓋である。外面には施釉されるが内面は完全に露胎する。端部にやや欠損があるもののほぼ完形である。本製品は経筒の専用容器として焼成されたと考えられる輸入陶器である。中国からの出土例がなく、詳細については明らかではないものの、華南地域の民陶で焼成されたことが指摘されている。陶製経筒専用容器は北部九州地域を中心に分布が知られており、本品も出土地は不明ながら北部九州地域からの出土と推定される。なお、本例に近似する例は北部九州の各地で認められるが、扁平つまみを持ち突帯を付す型式の蓋は珍しい。

36-1 ○名　　称　磨製石鏃　3点
○時　　代　朝鮮　無文土器時代・前 7-5 世紀
○品　　質　石製
○寸 法 等　①長 13.5　幅 1.5　②長 5.5　幅 1.1　③長 5.4　幅 0.9cm
○作品概要　いずれも有茎式に分類される磨製石鏃であるが、型式が異なる。①は身と茎部の境がやや不明瞭で無茎鏃と有茎鏃の中間型式とされるものである。表面が摩耗している。②、③は身に比して茎が短い細長有茎式である。②は両翼の発達がみられ、強く張り出す。出土地は不明であるが、類品の分布地域は韓半島の南部に認められることから、本資料も同様の地域から出土した可能性がある。また、①は石材の材質や風化度など柳澤コレクションの No.3 有柄式磨製石剣と近似しており、同一遺跡からの出土も想定される。

36-2 ○名　　称　有柄式磨製石剣　4点
○時　　代　朝鮮　無文土器時代　前 7-3 世紀
○品　　質　石製
○寸 法 等　①長 15.1　幅 7.5　②長 37.5　幅 7.1　③長 39.0　幅 6.5　④長 37.5　幅 7.0cm
○作品概要　いずれの資料も身と柄を一石にて造る有柄式磨製石剣と称される資料であり、有柄無段式に分類される。①のみは刃部を大幅に折損するが、②から④はほぼ完形の資料である。いずれの資料もほぼ同型式である。①は刃部を大幅に欠損するが、柄部は完形で残存しており状態も良好である。②から④は刃部の断面形状は菱形を呈し、鎬も明瞭に残る。③は摩耗が著しく、④は折損しており修理痕がやや目立つが、完形に復元できる資料であり、かつ全体のプロポーションは失われていない。

36-3 ○名　　称　有柄式磨製石剣　1点
○時　　代　朝鮮　無文土器時代・前 5-3 世紀
○品　　質　石製
○寸 法 等　長さ 22.9　幅 2.8cm
○作品概要　有柄無段式の磨製石剣が折損したため、おそらく無文土器時代に研ぎ直して短剣状に仕上げたものと考えられる。剣端部は鋭く研がれているが、全体的に摩耗・風化が著しい。また全体的に粗い。佐賀県唐津市鶴崎遺跡出土の戦国式有節柄銅剣にも一見類似しており、ある種の大陸系銅剣を模倣した石製品の可能性もある。

36-4 ○名　　称　連弧文鏡　1面
○時　　代　弥生時代後期-古墳時代前期・2-3 世紀
○品　　質　青銅製
○寸 法 等　径 9.8cm
○作品概要　鏡背面は平縁で内側に櫛歯文を巡らせ、内区に七つの連弧文を描き、円形の鈕及び鈕座を持つ、特に目立つ装飾のない素連弧文鏡と称される仿製の青銅鏡である。鈕孔は円形を呈する。外縁部が幅広いのが特徴である。鋳上がりは良いとは言えず、全体的に腐食も目立つが、全体の形状は整っている。

36-5 ○名　　称　心葉形杏葉　2点
○時　　代　朝鮮　三国時代・5-6 世紀
○品　　質　鉄地金銅張
○寸 法 等　各　長 約 8.0　幅 約 9.0cm
○作品概要　平面が楕円形状から片側が若干突出する一対の心葉形杏葉である。立聞から身までほぼ完存するが鉤金具は欠損する。一枚の鉄板に一体の縁金具と文様金具を取り付けて鋲留する。立聞孔は方形である。内部を十字に四分割した単純な文様を

もち、同型、同文様の轡がセットとなる。全体的に腐食しているが本来の形状は良く保っている。金銅張の痕跡が認められるがほぼ剥落している。出土地については不明であるが、朝鮮半島南部地域であろう。

37 ○名　　称　帯鉤　1個
○出土地等　伝大分県日田市ダンワラ古墳
○時　　代　中国　戦国時代-漢時代・前3-後1世紀
○品　　質　金銀象嵌鉄製
○寸 法 等　長 23.6　幅 1.6-4.5　厚さ 0.6
○作品概要　琵琶形を呈し、その先端に鉤を持つ帯鉤である。表面は金線による象嵌で、裏面は銀板を貼り付けている。文様構成は、縁に沿って輪郭線を区切り、細い線で表現された龍2匹が、お互いに体を組合わせるように文様を描く。これ以外は、小さな渦文で埋められている。象嵌方法は、楔形のタガネを連続的に打ち込む蹴彫りの方法を採る。製作年代は、文様の特徴から戦国末から前漢前期と考えられる。

(2)寄託品

①寄託品一覧表

平成21年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計	12,067	184	1,181	2,750	53	260	6,145	81	602	2,067	50	317	1,105	0	2
絵画	3,295	53	391	418	12	67	2,083	27	223	579	14	101	215	0	0
書跡	1,985	63	278	486	12	30	964	39	211	409	12	36	126	0	1
彫刻	750	9	214	140	1	40	245	1	70	359	7	104	6	0	0
建築	4	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	931	13	90	171	5	18	495	1	41	248	7	31	17	0	0
刀剣	265	10	71	230	8	58				34	2	13	1	0	0
陶磁	1,332	0	4	139	0	2	776	0	1	11	0	0	406	0	1
漆工	787	12	47	141	5	16	491	4	9	105	3	22	50	0	0
染織	711	7	29	73	2	4	545	3	24	47	2	1	46	0	0
考古	994	13	35	157	4	12	498	6	14	240	3	9	99	0	0
民族資料	121	0	0	5	0	0	0	0	0	6	0	0	110	0	0
歴史資料	103	0	9	1	0	0	44	0	9	29	0	0	29	0	0
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	150	2	9	150	2	9									
東洋 書跡	28	1	1	28	1	1									
東洋 彫刻	12	0	0	12	0	0									
東洋 金工	1	0	1	1	0	1									
東洋 陶磁	77	1	0	77	1	0									
東洋 漆工	26	0	2	26	0	2									
東洋 染織	8	0	0	8	0	0									
東洋 考古	487	0	0	487	0	0									
東洋 民族	0	0	0	0	0	0									

＊京都国立博物館・奈良国立博物館は、東洋の寄託品も「日本」に含む。
＊東京国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせることとした。

②寄託品増減表

平成21年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	19年度	20年度	増減	19年度	20年度	増減	19年度	20年度	増減	19年度	20年度	増減	19年度	20年度	増減
合計	12,045	12,067	22	2,743	2,750	7	6,154	6,145	△ 9	2,057	2,067	10	1,091	1,105	14
絵画	3,296	3,295	△ 1	426	418	△ 8	2,070	2,083	13	578	579	1	222	215	△ 7
書跡	1,980	1,985	5	481	486	5	959	964	5	415	409	△ 6	125	126	1
彫刻	761	750	△ 11	140	140	0	250	245	△ 5	365	359	△ 6	6	6	0
建築	4	4	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0
金工	927	931	4	167	171	4	493	495	2	249	248	△ 1	18	17	△ 1
刀剣	259	265	6	224	230	6				34	34	0	1	1	0
陶磁	1,363	1,332	△ 31	139	139	0	813	776	△ 37	11	11	0	400	406	6
漆工	788	787	△ 1	144	141	△ 3	481	491	10	105	105	0	58	50	△ 8
染織	710	711	1	74	73	△ 1	542	545	3	47	47	0	47	46	△ 1
考古	948	994	46	157	157	0	498	498	0	218	240	22	75	99	24
民族資料	121	121	0	5	5	0	0	0	0	6	6	0	110	110	0
歴史資料	102	103	1	0	1	1	44	44	0	29	29	0	29	29	0
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	140	150	10	140	150	10									
東洋 書跡	28	28	0	28	28	0									
東洋 彫刻	18	12	△ 6	18	12	△ 6									
東洋 金工	1	1	0	1	1	0									
東洋 陶磁	75	77	2	75	77	2									
東洋 漆工	26	26	0	26	26	0									
東洋 染織	8	8	0	8	8	0									
東洋 考古	490	487	△ 3	490	487	△ 3									
東洋 民族	0	0	0	0	0	0									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

③登録美術品一覧表

平成21年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計	7	0	4	3	0	3	3	0	0	1	0	1	0	0	0
絵画	3	0	3	2	0	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0
書跡	2	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
彫刻	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
染織	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0

(3) 収蔵品の管理・保存

①各収蔵庫、展示場の温湿度

【東京国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度			湿度（年間）
			冬	夏	中	
本館	展覧会場	09：00～17：00	15～23℃	23～30℃	19～25℃	25～85%
	収蔵庫	09：00～17：00	15～23℃	21～28℃	18～26℃	47～71%
平成館	展覧会場	09：00～17：00	22℃±1℃	26℃±2℃	23℃±1℃	55%±5%
	収蔵庫	09：30～17：00	22℃±1℃	25℃±1℃	23℃±1℃	40～60%
東洋館	展覧会場	09：00～17：00	15～21℃	23～29℃	19～27℃	20～70%
	収蔵庫	09：00～17：00	15～22℃	24～26℃	17～24℃	40～68%
宝物館	展覧会場	24時間運転	23℃±1℃	22℃±1℃	23℃±1℃	55%±5%
	収蔵庫	24時間運転	22℃±1℃	22℃±1℃	23℃±1℃	55%±5%
表慶館	展覧会場	09：00～17：00	10～22℃	23～28℃	15～25℃	25～80%
黒田記念館	展覧会場	24時間運転	23℃±1℃	23℃±1℃	23℃±1℃	55%±5%
	収蔵庫	24時間運転	22℃±1℃	23℃±1℃	22℃±1℃	55%±5%

【京都国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度(年間)	湿度（年間）
特別展示館	展覧会場	09：00～18：00	18℃～25℃	57%～60%
	収蔵庫	09：00～17：30	18℃～22℃	55%～60%
平常展示館	展覧会場	09：00～17：30	18℃～24℃	57%～60%
	収蔵庫	09：00～17：30	18℃～22℃	55%～60%
北収蔵庫		09：00～17：30	18℃～22℃	55%～60%
東収蔵庫				
文化財保存修理所		09：00～17：30	22℃～24℃	57%～60%

【奈良国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度（年間）	湿度（年間）
本館	展覧会場	24時間運転	22℃～25℃	60%±5%
西新館	展覧会場	24時間運転	22℃～25℃	60%±5%
東新館	展覧会場	24時間運転	22℃～25℃	60%±5%
	収蔵庫	24時間運転	22℃～25℃	60%
地下回廊	収蔵庫	24時間運転	22℃～25℃	60%

【九州国立博物館】

会場等	空調実施時間	温度（年間）	湿度（年間）
3階展覧会場	24時間運転	22℃～26℃	55%±5%
4階展覧会場	7:00～21:00	22℃～26℃	55%±5%
収蔵庫	8:30～21:30	22℃～24℃	材質別に50%±2%、55%±2%、60%±2%

②保存カルテ作成件数

【東京国立博物館】

合　計		2,693		
		列品貸与時	本格修理調査時	応急修理時
計		1,052	592	1,049
絵　画		112	9	446
書　跡		44	5	19
彫　刻		117	5	4
建　築		5	0	0
金　工		67	0	0
刀　剣		42	0	0
陶　磁		45	3	17
漆　工		50	0	2
染　織		357	6	0
考　古		142	60	9
歴史資料		0	0	8
民族資料		4	0	0
和書		11	0	200
東洋	絵　画	21	0	40
	書　跡	2	0	3
	彫　刻	15	17	1
	金　工	0	0	0
	陶　磁	3	0	2
	漆　工	2	1	2
	染　織	0	8	36
	考　古	12	0	2
	民　族	0	477	3
法隆寺献納宝物		1	0	0
その他		0	1	212

【京都国立博物館】

174件

【奈良国立博物館】

絵画　28件
彫刻　24件
工芸　32件
書跡　6件
考古　18件
計　108件

【九州国立博物館】

絵画　7件
書跡　1件
彫刻　6件
建築　1件
漆工　34件
考古　3件
歴史　1件
その他　226件
染織　10件
計　289件

(4) 修理

①修理件数

		東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
計		75 (20)	17	8	25
絵　　画		8	13	2	8
書　　跡		5	1	1	1
彫　　刻		2	1	1	2
建　　築		0	0	0	1
金　　工		0	0	0	0
刀　　剣		2	0	0	0
陶　　磁		1	0	0	0
漆　　工		1	0	0	2
染　　織		2	2	1	0
考　　古		37 (20)	0	3	10
歴史資料		0	0	0	1
和　　書		2	0	0	0
民族資料		1	0	0	0
東洋	絵　　画	1			
	書　　跡	2			
	彫　　刻	3			
	金　　工	0			
	陶　　磁	1			
	漆　　工	1			
	染　　織	2			
	考　　古	3			
	民　　族	0			
法隆寺献納宝物		0			
黒田記念館収蔵品		0			
館史資料(収蔵品外)		1			

※東京国立博物館(　)内は考古相互貸借経費

②修理概況

【東京国立博物館】(75件)

＜絵画＞(8件)

1 ○名　　称　両界曼荼羅(金剛界曼荼羅)
○時　　代　鎌倉
○年代世紀　14世紀
○品　　質　絹本着色
○員　　数　1面(2面のうち)
○寸 法 等　81.0×65.9cm
○施工会社　東京国立博物館(保存修復支援技術者)
○修理内容　1.額装を解体する。2.剥落止めの後、裏打ち紙を除去する。3.浄水で湿りを与え、クリーニングを行う。4.表打ちを施し、増し裏紙・肌裏紙・旧補紙を除去する。5.欠失箇所に補絹を施し、肌裏・増し裏打ちを行う。6.折れ癖のある箇所に、折れ伏せを施す。7.新調した表装裂と本紙を付け廻しする。8.軸首などの金具を新調し、掛幅装に仕立てる。9.桐製太巻添軸、包裂、桐製保存箱を新調する。

2 ○指　　定　国宝
○指定年月日　昭和30年(1955)2月2日(絵画)
○名　　称　千手観音像
○時　　代　平安
○年代世紀　12世紀
○品　　質　絹本着色
○員　　数　1幅
○寸 法 等　138.2×69.1cm
○施工会社　株式会社文化財保存
○修理内容　1.掛幅装を解体、肌裏を残し本紙の旧裏打ち紙を除去し、汚れ除去を行う。2.絵具層に剥落止めを行い、本紙に表打ちを施す。3.旧肌裏紙を除去する。4.本紙欠失箇所に補絹を施す。5.肌裏・増し裏打ちを行う。6.折れ伏せを施す。7.補絹箇所に補彩を行う。8.表装裂を新調、軸首を再使用、軸木等を新調して掛幅装に仕立てる。9.太巻添軸、包裂、二重箱、渋紙製帙を新調して収める。10.旧表装具は中性紙製保存箱を作製し、収納する。(平成20年度は10)

3 ○名　　称　観音三十三応身図
○時　　代　室町
○年代世紀　15世紀
○品　　質　絹本着色
○員　　数　1幅
○寸 法 等　128.7×185.4cm
○施工会社　株式会社文化財保存
○修理内容　1.絵具層に剥落止めを施し、表打ちで画面を保護した後、旧裏打ちを除去する。2.欠失部に補絹を施し、新たに裏打ちを行う。3.補絹部分に補彩を施す。4.軸首を再使用し、裂を新調し、元の掛幅装に仕立てる。5.桐製保存箱・太巻添軸などを新調して収める。(平成20年度は1まで)

4 ○名　　称　扇面雑画
○時　　代　江戸
○年代世紀　19世紀
○品　　質　紙本着色
○員　　数　10面(60面のうち)
○寸 法 等　(上弦/下弦/高)
No.1「白梅」51.5/20.1/20.2、No.4「柳」50.3/19.5/20.2
No.23「烏瓜」50.5/19.8/19.8、No.26「雪中藪柑子」50.7/20.3/19.7
No.27「若松と藪柑子」50.9/20.5/20.2、No.37「爪草に雲雀」50.1/20.4/19.9
No.41「蝶と猫」50.3/19.8/19.9、No.42「鹿」50.8/19.8/20.0
No.51「破墨山水」50.5/19.0/20.0、No.52「社頭風景」50.9/19.9/20.0
○施工会社　株式会社半田九清堂
○修理内容　1.ガラスを外す。2.絵具層に剥落止めを行う。3.本紙を覆輪ごと銀台紙から外して解体する。4.裏打ち紙は残しながら本紙裏面に付着した銀箔紙、台紙を除去する。5.本紙周囲に足し紙を施した後、新たに1層の裏打ちを行う。6.中性紙製ブック型マットを新調し、本紙を固定する。7.中性紙製保存箱を新調し、収納する。(平成20年度は1～4途中まで)

5 ○名　　称　松図屏風
○時　　代　室町
○年代世紀　16世紀
○品　　質　紙本金地着色
○員　　数　6曲1隻
○寸 法 等　153.3×345.0cm
○施工会社　株式会社修美
○修理内容　1.屏風装を解体する。2.絵具層に剥落止めを施し、旧裏打ちを除去する。3.欠失部に補紙を施し、新たに裏打ちを行う。4.補紙に補彩を施し、新たな下地に張り込む。5.表装裂、鋲金具を再使用し、隅金具、八双金具、襲木を新調する。(平成20年度は1～3途中まで)

6 ○名　　称　飛鳥山図
○時　　代　江戸
○年代世紀　19ｃ
○品　　質　絹本着色
○員　　数　1幅
○寸 法 等　45.9×91.4cm

○施工会社　有限会社坂田墨珠堂
○修理内容　1.彩色部分に剥落止めをする。2.掛幅装を解体し、肌裏紙以外の裏打紙を除去し、洗浄する。3.肌裏紙を除去し、補絹を施した後、新規に裏打ちを行う。4.増し裏打ちの際に折れ伏せを行い、補絹部分に補彩を行う。5.表装裂、軸首を新調し、掛幅装に仕立てる。6.桐製太巻添軸、包裂、桐製保存箱、中性紙製布貼帙を新調する。(平成20年度は3途中から)

7 ○名　称　柿本人麻呂像
○時　代　鎌倉
○年代世紀　13c
○品　質　紙本着色
○員　数　1幅
○寸 法 等　44.9×24.6cm
○施工会社　株式会社文化財保存
○修理内容　1.掛幅装を解体し、本紙を洗浄する。2.彩色部分に剥落止めをする。3.旧裏打ち紙を除去し、補紙を施した後、新規に裏打ちを行う。4.増し裏打ちの際に折れ伏せを行い、補紙部分に補彩を行う。5.表装裂、軸首を再使用し、掛幅装に仕立てる。6.桐製太巻添軸、包裂、桐製保存箱、中性紙製布貼帙を新調する。(平成20年度は3途中から)

8 ○名　称　隅田川図巻
○時　代　江戸
○年代世紀　19ｃ
○品　質　絹本着色
○員　数　1巻
○寸 法 等　30.1×411.2cm
○施工会社　株式会社半田九清堂
○修理内容　1.巻子装を解体し、彩色部分に剥落止めをする。2.汚れ除去の後再び絵具・墨部分の剥落止めを行い十分に乾燥させる。3.旧裏打ち紙を除去し、新規に裏打ちを行う。4.本紙欠失箇所に補絹を、天地に補紙を施す。5.増し裏打ちの際に折れ伏せを行い、補絹部分に補彩を行う。6.奥付天地に補紙をして、軸巻き紙と継ぐ。7.表紙裂および軸首を新調、見返しを再使用し、巻子装に仕立てる。8.桐製太巻添軸、包裂、桐製保存箱、中性紙製布貼帙を新調する。(平成20年度は3途中から)

＜書跡＞(5件)

9 ○名　称　藍紙金光明最勝王経断簡
○時　代　奈良
○年代世紀　8世紀
○品　質　彩箋墨書
○員　数　1葉(1帖の内)
○寸 法 等　24.8×9.2cm(①24.8×7.3cm、②24.8×1.9cm)
○施工会社　東京国立博物館(保存修復支援技術者)
○修理内容　1.台紙から本紙を外す。2.剥落止めの後、裏打ち紙を除去する。3.浄水で湿りを与え、クリーニングを行う。4.表打ちを施し、旧裏打ち紙を除去する。5.欠失箇所に補紙を施し、肌裏・増し裏打ちを行う。6.新調した表装裂と本紙を付け廻しする。7.軸首などを新調し、掛幅装に仕立てる。8.桐製太巻添軸、包裂、桐製保存箱を新調する。

10 ○名　称　瑜祇拾古鈔巻下
○時　代　南北朝
○年代世紀　暦応2年(1339)
○品　質　紙本墨書
○員　数　1帖
○寸 法 等　24.7×16.5cm
○施工会社　清申堂
○修理内容　1.墨に膠水で剥落止めを行う。2.冊子装を解体する。3.欠失部に補紙を施し虫損部を繕う。4.冊子装に仕立て、渋紙の四方帙に収納する。(20年度は3の途中まで)

11 ○指　定　重文
○指定年月日　昭和14年(1939)5月27日 (文218)
○名　称　書状
○時　代　鎌倉
○年代世紀　元久元年(1204)
○品　質　紙本墨書
○員　数　1幅
○寸 法 等　25.4×87.5cm
○施工会社　株式会社光影堂
○修理内容　1.墨に膠水で剥落止めを行う。2.掛幅装を解体する。3.旧裏打ち紙を除去する。4.旧補修紙を取り除き、大きく欠失した天部には料紙のバランスを調整・回復させる。5.折損箇所には折れ伏せによる補強を施す。6.表装裂地は再利用する。付け回しは仕立に影響はないため現装に復する。7.軸首は再利用、輪補三段表装に仕立てる。8.桐製太巻添軸、桐製保存箱を新調。 (平成20年度は3まで)

12 ○名　称　書状
○時　代　安土桃山
○年代世紀　16世紀
○品　質　紙本墨書
○員　数　1幅
○寸 法 等　14.6×35.4cm
○施工会社　株式会社半田九清堂
○修理内容　1.掛幅装を解体する。2.剥落止めの後、総裏紙を除去する。3.浄水で湿りを与え、クリーニングを行う。4.表打ちを施し、増し裏紙・肌

裏紙・旧補紙を除去する。5. 欠失箇所に補紙を施し、肌裏・増し裏打ちを行う。6. 折れ癖のある箇所に、折れ伏せを施す。7. 新調した表装裂と本紙を付け廻しする。8. 軸首を再使用し、掛幅装に仕立てる。9. 桐製太巻添軸、包裂、桐製保存箱を新調する。

13 ○指　　定　重文
○指定年月日　昭和14年(1939)5月27日(文217)
○名　　称　申文
○時　　代　鎌倉
○年代世紀　建仁2年(1202)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1幅
○寸 法 等　24.2×97.6cm
○施工会社　株式会社光影堂
○修理内容　1. 墨に膠水で剥落止めを行う。 2. 掛幅装を解体する。 3. 旧裏打ち紙を除去する。 4. 本紙欠失箇所を繕い、相剥ぎ箇所に料紙のバランスをみながら剥ぎ直し、新規に裏打ちをする。5. 折損箇所には折伏せによる補強を施す。6. 表装裂は再利用とする。7. 八双金具等は別保管し、軸首は再使用、掛幅装に仕立てる。8. 桐製太巻添軸・桐製保存箱・渋紙製紙帙・包裂等を新調する。(平成20年度は3途中から)

＜彫刻＞(2件)

14 ○指　　定　重文
○指定年月日　昭和12年(1937)8月25日(彫刻第88号)
○名　　称　愛染明王坐像
○時　　代　鎌倉
○年代世紀　13～14世紀
○品　　質　【本体】木造、彩色・金泥塗り・漆箔・切金。
【台座】木造、彩色・漆箔・切金。
【光背】木造、彩色・漆箔・切金。
【天蓋】木造、彩色・金泥塗り・漆箔・切金。
【厨子】木造、漆塗り・彩色・金泥塗り・漆箔・切金。
○員　　数　1躯
○寸 法 等　像高64.0、台座高54.8、光背高77.5、天蓋径61.3、厨子高194.2
○施工会社　財団法人美術院
○修理内容　1. 埃汚れは浄水などを用いて除去する。2. 彩色・漆箔の剥離を布海苔・メチルセルロース・アクリル樹脂等を用いて剥落止めを行う。剥落箇所は損傷移行のないよう剥落止めを行うが補彩はしない。3. 瓔珞は、別保存するものも含めて整理し、適当な位置に戻し、繋ぐ際には新調した銅線を用いる。台座に取り付けられた羅網は、取り外して天蓋に戻す。台座・天蓋の瓔珞は、移動の際の擦れに配慮し、着脱可能な状態で取り付ける。
【本体】4. 矧ぎ付けの緩む焔髪は取り離し、膠を用いて接合し直すと共に、腐食した鉄釘は除いて竹釘を用いて打ち付ける。5. 胸飾は欠失した銅釘を新補して取り付け直す。6. 亡失する右第二手の持物は新補しない。同第三手の矢の取り付けを修整する。左第一手第五指及び第二手第四・五指の割損を調整する。近世修理の古色の変色箇所には補彩を施して色目を整える。
【台座】7. 蓮肉から下げる飾り金具の欠失部分は補わない。
【光背】8. 覆輪の浮きは、可能な限り木部に添わせて安定を図る。
【天蓋】9. 厨子の屋根から一旦取り外し、吊り金具を工夫して吊り下げの安定を図る。
【厨子】10. 表面の漆層の剥離・亀裂を漆若しくはアクリル樹脂を用いて剥落止めを行う。11. 別保存する飾り金具を適切な位置に戻し、釘止めする。12. 屋根の目違いや組み付け矧ぎ目の亀裂は裏面の彩色に影響を及ぼさない範囲で歪みを直し、接合し直して表面漆層を補修する。13. ヒノキ材を用いて、隅脚付きの敷台を作製する。14. 修理箇所は全て古色仕上げとする。15. 修理記銘の銅板を取り付ける。16. 着脱可能な瓔珞の保存箱を作製する。平成20年度は瓔珞)

15 ○名　　称　千手観音菩薩坐像
○時　　代　南北朝
○年代世紀　14世紀
○品　　質　ヒノキ材
○員　　数　1躯
○寸 法 等　像高83.7cm
○施工会社　有限会社楽浪文化財修理所
○修理内容　1. 清掃及び材質の強化を行う(本体・光背・台座)。2. 彩色層に影響が及ばない範囲で解体を行う(本体・光背・台座)。ただし、台座は蓮肉部のみの解体とする。3. 各部材の補修、組付け、組立を行う(本体・光背・台座)。台座は光背を受ける枘部分の補強、光背は立ちの安定化を図る。光背、本体指先等の補足は原則行わない。4. 仕上げとして古色などの彩色を必要最小限行う(本体・光背・台座)。(平成20年度は2の一部まで)

＜刀剣＞(2件)

16 ○名　　称　大笹穂三角槍
○時　　代　江戸
○年代世紀　弘化4年(1847)
○品　　質　鉄製
○員　　数　1口
○寸 法 等　刃長43･9　元幅3.2cm
○施工会社　小野博
○修理内容　1. 刀身を全研ぎする。2. 白鞘を新調する。(平成20年度は1途中までと2)

17 ○名　　称　十文字槍
○時　　代　室町
○年代世紀　16ｃ
○品　　質　鉄製

○員　　数　1口
○寸 法 等　長33.1×鎌幅25.2cm
○施工会社　本阿弥道弘
○修理内容　1.刀身を全研ぎする。2.白鞘を新調する。(平成20年度は1途中からと2の一部)

＜陶磁＞(1件)

18 ○名　　称　色絵柏樹双鳥文大皿
○時　　代　江戸
○年代世紀　17世紀
○品　　質　磁器
○員　　数　1枚
○寸 法 等　高6.4 口径30.0 底径14.0cm
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1.旧修理の塗料をクリーニングした後の状況をみて、欠失箇所を樹脂などで補填する。2.「入」の進行を止めるため、合成樹脂で補填・強化する。3.違和感のない程度に補彩を行う。

＜漆工＞(1件)

19 ○名　　称　茶室露地蒔絵料紙硯箱
○時　　代　江戸
○年代世紀　18世紀
○品　　質　木地漆塗
○員　　数　1具
○寸 法 等　「料紙箱」縦38.9横30.3高11.5cm、「硯箱」縦23.2横21.6高4.3cm
○施工会社　山下好彦
○修理内容　1.旧修理の蒔絵を出来る限り取り除く。2.亀裂部分に木屎などを充填し、劣化部分は漆固めをする。3.周囲と色調を合わせる。(平成20年度は2の途中まで)

＜染織＞(2件)

20 ○名　　称　小袖 黒綸子地遠州模様
○時　　代　江戸
○年代世紀　19世紀
○品　　質　絹製、綸子地に繍・鹿の子絞り
○員　　数　1領
○寸 法 等　身丈165.0　裄68.0cm
○施工会社　K染織修復研究所
○修理内容　1.解体する。2.損傷部分に同色に染めた補修裂をあて、縫い糸でおさえる。3.絹綿を入れ、袘を出して元の小袖の状態に仕立てる。4.絹の包裂を新調して収める。(平成20年度は2まで)

21 ○名　　称　小袖 白綸子地大菊波頭模様
○時　　代　江戸
○年代世紀　18c
○品　　質　絹製
○員　　数　1領
○寸 法 等　丈154.0cm×裄70.0cm
○施工会社　女子美術大学短期大学部　刺繍研究室
○修理内容　1.表と裏に分ける。2.表裂は解体する。3.損傷や刺繍糸の脱落が著しい箇所は、一旦仮補修しておく。4.補修裂を製織し、文様の色にあわせて白と紫におおよそ染め分ける。5.裏裂を製織し、化学染料で紅色に染める。6.表裂に染め分けた補修裂をあて、損傷部分を中心に縫い糸で綴じつける。7.部分的に外れている刺繍糸を極細糸で止める。8.新調した絹綿を入れ、表と裏をもとの状態に仕立てる。9.中性紙製保存箱を新調して収める。(平成20年度は6途中から)

＜考古＞(37件)

22 ○名　　称　鉄刀
○時　　代　古墳
○年代世紀　4～5c
○品　　質　鉄製
○員　　数　1本
○寸 法 等　長65.0　身幅4.0cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングして、塵などを除去する。2.破断面・小破片を接合する。3.欠損部分はエポキシ系樹脂で補填し、完形に復原する。4.補填部分はアクリル系絵具で違和感のない程度に補彩して仕上げる。

23 ○名　　称　鉄鏃
○時　　代　古墳
○年代世紀　6世紀
○品　　質　鉄製
○員　　数　1本
○寸 法 等　長15.2　身幅0.7cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングして、泥・錆などを除去する。2.脱塩処理を行う。3.アクリル系樹脂を含浸して強化する。4.欠失部は事前調査による復原図にしたがい、エポキシ系樹脂で補填・復原する。5.補填部分については、アクリル系絵具で違和感のない程度に補彩する。

24 ○名　　称　鉄鏃
○時　　代　古墳
○年代世紀　6ｃ
○品　　質　鉄製
○員　　数　19本
○寸 法 等　長1.0～13.5　身幅0.7～1.4cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングして、泥・錆などを除去する。2.脱塩処理を行う。3.アクリル系樹脂を含浸して強化する。4.欠失部は事前調査による復原図にしたがい、エポキシ系樹脂で補填・復原する。5.補填部分については、アクリル系絵具で違和感のない程度に補彩する。

25 ○名　　称　鍔
○時　　代　古墳
○年代世紀　6ｃ
○品　　質　鉄製
○員　　数　1個
○寸 法 等　長径9.4　短径8.0cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングして、泥・錆などを除去する。2.脱塩処理を行う。3.アクリル系樹脂を含浸して接合・強化する。4.欠失部は事前調査による復原図にしたがい、エポキシ系樹脂で補填・復原する。5.補填部分については、アクリル系絵具で違和感のない程度に補彩する。

26 ○名　　称　鍔
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　鉄製
○員　　数　1個
○寸 法 等　長径8.6　短径7.5cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングして、泥・錆などを除去する。2.脱塩処理を行う。3.アクリル系樹脂を含浸して強化する。4.一部の欠失部は、事前調査による復原図にしたがい、エポキシ系樹脂で補填・復原する。5.補填部分については、アクリル系絵具で違和感のない程度に補彩する。

27 ○名　　称　鍔
○時　　代　古文
○年代世紀　6世紀
○品　　質　鉄製
○員　　数　1個
○寸 法 等　長径7.2　短径6.0cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングして、泥・錆などを除去する。2.脱塩処理を行う。3.アクリル系樹脂を含浸して強化する。4.欠失部は、事前調査による復原図にしたがい、エポキシ系樹脂で補填・復原する。5.補填部分については、アクリル系絵具で違和感のない程度に補彩する。

28 ○名　　称　銀象嵌鉄刀
○時　　代　古墳
○年代世紀　6世紀
○品　　質　鉄・銀製
○員　　数　1本
○寸 法 等　長82.5　鍔部長径6.3　短径5.3cm
○施工会社　飛鳥工房
○修理内容　1.刀身部をクリーニングして、泥・錆などを除去する。2.鍔部茎側の銀象嵌を研出す。3.研出した象嵌部分は、アクリル系樹脂で保護して仕上げる。4.刀身の欠失部は、事前調査による復原図にしたがい、エポキシ系樹脂で補填・復原する。5.補填部分については、アクリル系絵具で違和感のない程度に補彩する。（平成20年度は2の途中まで）

29 ○名　　称　埴輪 椅子
○員　　数　1個
○時　　代　古墳
○年代世紀　5ｃ
○品　　質　埴製
○寸 法 等　現存高45.4×全幅67.7×奥行36.3×背板部高22.5×同幅41.9cm
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1.解体する。2.復元部分の石膏を取り外し、不要な漆･接着剤等を除去し、各破片をクリーニングする。3.破断面を膠水で保護し、接着剤としてエポキシ樹脂を使用して破損箇所を接合する。4.接合部の僅かな隙間はエポキシ系樹脂を充填する。5.補填部分については、膠水で溶いた顔料等で補彩して仕上げる。（平成20年度は3から）

30 ○名　　称　埴輪 盾
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　幅42.0　高110.0cm
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1.接合・補填された部分を水・溶剤などを用いて解体する。2.クリーニングする。3.破断面を膠水で保護し、接着剤としてエポキシ系樹脂を使用して破損箇所を接合する。4.欠損部分は各種粘土粉末を補填し、復原する。接合部の僅かな隙間はエポキシ系樹脂を補填する。

5.補填部分については、膠水で溶いた顔料などで違和感のない程度に補彩する。（平成20年度は2まで）

31 ○名　　称　深鉢
○員　　数　1個
○時　　代　縄文
○年代世紀　前4000～前3000年
○品　　質　土製
○寸 法 等　口径30.0×高59.5cm
○施工会社　株式会社武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1.五徳から外し、接合・補填された部分を水・溶剤等を用いて解体する。2.クリーニングする。3.アクリル系樹脂で接合する。4.欠損部分はエポキシ系樹脂で充填し、完形に復元する。5.補填部分はアクリル系絵具で補彩して仕上げる。（平成20年度は3から）

32 ○名　　称　注口土器
○時　　代　縄文
○年代世紀　前2000～前1000年
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　口径12.0　高21.0cm
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1.接合・補填された部分を水・溶剤などを用いて解体する。2.クリーニングする。3.破断面を膠水で保護し、接着剤としてエポキシ系樹脂を使用して破損箇所を接合する。4.欠損部分は各種粘土粉末を補填し復原する。接合部の僅かな隙間はエポキシ系樹脂を充填する。5.補填部分については、膠水で溶いた顔料などで違和感のない程度に補彩する。

33 ○名　　称　甕棺
○時　　代　弥生
○年代世紀　前2～前1世紀
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　口径55.0　高92.0cm
○施工会社　有限会社武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1.接合・補填された部分を水・溶剤などを用いて解体する。2.クリーニングする。3.アクリル系樹脂で接合する。4.欠損部分はエポキシ系樹脂で補填・復原する。5.補填部分については、アクリル系絵具で違和感のない程度に補彩する。（平成20年度は4の途中まで）

34 ○名　　称　土師器 把手付埦
○時　　代　古墳
○年代世紀　5～6c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　口径9.5　高6.5cm
○施工会社　有限会社武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1.接合・補填された部分を水・溶剤などを用いて解体する。2.クリーニングする。3.アクリル系樹脂で接合する。4.欠損部分はエポキシ系樹脂で補填・復原する。5.補填部分については、アクリル系絵具で違和感のない程度に補彩する。

35 ○名　　称　土師器 把手付埦
○時　　代　古墳
○年代世紀　5～6c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　口径8.9　高6.5cm
○施工会社　有限会社武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1.クリーニングする。2.欠損している把手部分はエポキシ系樹脂で補填・復原する。3.補填部分については、アクリル系絵具で違和感のない程度に補彩する。

36 ○名　　称　須恵器 高坏
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　口径11.5　高13.5cm
○施工会社　有限会社武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1.接合・補填された部分を水・溶剤などを用いて解体する。2.クリーニングする。3.アクリル系樹脂で接合する。4.欠損部分はエポキシ系樹脂で補填・復原する。5.補填部分については、アクリル系絵具で違和感のない程度に補彩する。

37 ○名　　称　須恵器 高坏
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　口径11.5　高15.3cm
○施工会社　有限会社武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1.接合・補填された部分を水・溶剤などを用いて解体する。2.クリーニングする。3.アクリル系樹脂で接合する。4.欠損部分はエポキシ

系樹脂で補填・復原する。5.補填部分については、アクリル系絵具で違和感のない程度に補彩する。(平成20年度は3まで)

38 ○名　　称　須恵器 脚付把手付埦
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　口径12.6　高10.5cm
○施工会社　有限会社武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1.クリーニングする。2.欠損している脚端部はエポキシ系樹脂で補填・復原する。3.補填部分については、アクリル系絵具で違和感のない程度に補彩する。

39 ○名　　称　甕
○時　　代　続縄文
○年代世紀　前2～前1c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　口径22.3　高29.0cm
○施工会社　有限会社武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1.ススス以外の付着物をクリーニングする。2.欠損部はエポキシ系樹脂で補填・復原する。3.補填部分については、アクリル系絵具で違和感のない程度に補彩する。

40 ○名　　称　土師器 甕
○時　　代　古墳
○年代世紀　6～7c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　胴部径16.0　高30.8cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングする。2.欠損部はエポキシ系樹脂で補填・復原する。3.補填部分については、アクリル系絵具で違和感のない程度に補彩する。

41 ○名　　称　土師器 坏
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　口径14.3　高5.3cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングする。2.欠損部はエポキシ系樹脂で補填・復原する。3.補填部分については、アクリル系絵具で違和感のない程度に補彩する

42 ○名　　称　土師器 埦
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　口径5.0　高6.0cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングする。2.欠損部はエポキシ系樹脂で補填・復原する。3.補填部分については、アクリル系絵具で違和感のない程度に補彩する。

43 ○名　　称　土師器 坏
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　口径5.2　高4.8cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.接合・補填された部分を水・溶剤などを用いて解体する。2.クリーニングする。3.アクリル系樹脂で接合する。4.欠損部分はエポキシ系樹脂で補填・復原する。5.補填部分については、アクリル系絵具で違和感のない程度に補彩する。

44 ○名　　称　土師器 甕
○時　　代　古墳
○年代世紀　6～7c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高21.8cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.接合・補填された部分を水・溶剤などを用いて解体する。2.クリーニングする。3.アクリル系樹脂で接合する。4.欠損部分はエポキシ系樹脂で補填・復原する。5.補填部分については、アクリル系絵具で違和感のない程度に補彩する。

45 ○名　　称　土師器 坏
○員　　数　1個
○時　　代　古墳
○年代世紀　6～7c
○品　　質　土製
○寸 法 等　口径16.2　高6.6cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.接合・補填された部分を水・溶剤などを用いて解体する。2.クリーニングする。3.アクリル系樹脂で接合する。4.欠損部分はエポキシ系樹脂で補填・復原する。5.補填部分については、アクリル系絵具で違和感のない程度に補彩する。

46 ○名　　称　鉢
○時　　代　弥生
○年代世紀　8～9c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　口径10.5　高8.3cm
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1.接合・補填された部分を水・溶剤などを用いて解体する。2.クリーニングする。3.破断面を膠水で保護し、接着剤としてエポキシ系樹脂を使用して破損箇所を接合する。4.欠損部分は各種粘土粉末を補填し復原する。接合部の僅かな隙間はエポキシ系樹脂を補填する。5.補填部分については、膠水で溶いた顔料などで違和感のない程度に補彩する。

47 ○名　　称　鉢
○時　　代　弥生
○年代世紀　前1～1c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　口径14.8　高8.5cm
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1.接合・補填された部分を水・溶剤などを用いて解体する。2.クリーニングする。3.破断面を膠水で保護し、接着剤としてエポキシ系樹脂を使用して破損箇所を接合する。4.欠損部分は各種粘土粉末を補填し復原する。接合部の僅かな隙間はエポキシ系樹脂を補填する。5.補填部分については、膠水で溶いた顔料などで違和感のない程度に補彩する。

48 ○名　　称　壺
○時　　代　弥生
○年代世紀　前1～1c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　口径12.0　高17.0cm
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1.接合・補填された部分を水・溶剤などを用いて解体する。2.クリーニングする。3.破断面を膠水で保護し、接着剤としてエポキシ系樹脂を使用して破損箇所を接合する。4.欠損部分は各種粘土粉末を補填し復原する。接合部の僅かな隙間はエポキシ系樹脂を補填する。5.補填部分については、膠水で溶いた顔料などで違和感のない程度に補彩する。

49 ○名　　称　土師器 坏
○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　口径16.2　高6.6cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングする。2.欠損部はエポキシ系樹脂で補填・復原する。3.補填部分については、アクリル系絵具で違和感のない程度に補彩する。

50 ○名　　称　土師器　甕
○時　　代　古墳
○年代世紀　6～7c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　胴部径15.0　高20.8cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングする。2.欠損部はエポキシ系樹脂で補填し・復原する。3.補填部分については、アクリル系絵具で違和感のない程度に補彩する。

51 ○名　　称　土師器 小型坩
○時　　代　古墳
○年代世紀　4c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　胴部径8.2　高8.3cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所

○修理内容　1.接合・補填された部分を水・溶剤などを用いて解体する。2.クリーニングする。3.アクリル系樹脂で接合する。4.欠損部分はエポキシ系樹脂で補填・復原する。5.補填部分については、アクリル系絵具で違和感のない程度に補彩する。

52 ○名　　称　鉄鏃
○時　　代　古墳
○年代世紀　6～7c
○品　　質　鉄製
○員　　数　1本
○寸 法 等　長13.7　身幅3.0cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングして、泥・錆などを除去する。2.脱塩処理を行う。3.アクリル系樹脂を含浸して強化する。4.欠失部は事前調査による復原図にしたがい、エポキシ系樹脂で補填・復原する。5.補填部分については、アクリル系絵具で違和感のない程度に補彩する。

53 ○名　　称　鉄鏃
○員　　数　6本
○時　　代　古墳
○年代世紀　6～7c
○品　　質　鉄製
○寸 法 等　長7.2～11.5　身幅1.5～1.6cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングして、泥・錆などを除去する。2.脱塩処理を行う。3.アクリル系樹脂を含浸して接合・強化する。4.欠失部は事前調査による復原図にしたがい、エポキシ系樹脂で補填・復原する。5.補填部分については、アクリル系絵具で違和感のない程度に補彩する。

54 ○名　　称　鉄鏃
○員　　数　1本
○時　　代　古墳
○年代世紀　6～7c
○品　　質　鉄製
○寸 法 等　長8.9　身幅0.9cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングして、泥・錆などを除去する。2.脱塩処理を行う。3.アクリル系樹脂を含浸して強化する。4.欠失部は事前調査による復原図にしたがい、エポキシ系樹脂で補填・復原する。5.補填部分については、アクリル系絵具で違和感のない程度に補彩する。

55 ○名　　称　鉄鏃
○員　　数　4本
○時　　代　古墳
○年代世紀　6～7c
○品　　質　鉄製
○寸 法 等　長10.7～15.5　身幅0.6～1.1cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングして、泥・錆などを除去する。2.脱塩処理を行う。3.アクリル系樹脂を含浸して強化する。4.欠失部は事前調査による復原図にしたがい、エポキシ系樹脂で補填・復原する。5.補填部分については、アクリル系絵具で違和感のない程度に補彩する。

56 ○名　　称　鉄鏃
○員　　数　4本
○時　　代　古墳
○年代世紀　6～7c
○品　　質　鉄製
○寸 法 等　長7.5～13.0　身幅0.7～0.8cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングして、泥・錆などを除去する。2.脱塩処理を行う。3.アクリル系樹脂を含浸して強化する。4.欠失部は事前調査による復原図にしたがい、エポキシ系樹脂で補填・復原する。5.補填部分については、アクリル系絵具で違和感のない程度に補彩する。

57 ○名　　称　鉄鏃
○員　　数　2本
○時　　代　古墳
○年代世紀　6～7c
○品　　質　鉄製
○寸 法 等　① 長7.7　身幅2.6cm、② 長10.9　身幅0.9cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングして、泥・錆などを除去する。2.脱塩処理を行う。3.アクリル系樹脂を含浸して強化する。4.欠失部は事前調査による復原図にしたがい、エポキシ系樹脂で補填・復原する。5.補填部分については、アクリル系絵具で違和感のない程度に補彩する。

58 ○名　　称　鉄鏃
○員　　数　14本
○時　　代　古墳
○年代世紀　6～7c
○品　　質　鉄製
○寸 法 等　長10.0～15.4　身幅0.9～2.5cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングして、泥・錆などを除去する。2.脱塩処理を行う。3.アクリル系樹脂を含浸して接合・強化する。4.欠失部は事前調査に

よる復原図にしたがい、エポキシ系樹脂で補填・復原する。5.補填部分については、アクリル系絵具で違和感のない程度に補彩する。

＜和書＞(2 件)

59 ○名　　称　頓医抄;巻 1･2･5～8･11～23･31･32･35～42･45～49
○時　　代　室町～江戸
○年代世紀　16～17ｃ
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　17 冊
○寸 法 等　24.7×16.6 ㎝、(第 11,12)25.5×18.5 ㎝、(第 13,14)27.2×17.5 ㎝
○付 属 品　布貼帙
○施工会社　有限会社桂文化財修理工房
○修理内容　1.墨に膠水で剥落止めを行う。2.冊子装を解体する。3.虫糞除去、汚れ除去を行う。4.紙質検査をして補修紙を選定後、欠失部の補填を行う。ただし、周辺が著しく脆弱で補填のみでは強度を維持することが困難な場合は裏打ちを施す。5.新調した綴糸で製本する。題箋、ラベルは元の位置に貼り直す。6.二つの布貼帙を新調し、収める。(3 ヵ年計画の 2 年目)

60 ○名　　称　駿河国図
○時　　代　江戸
○年代世紀　19c
○品　　質　紙本着色、折仕立
○員　　数　1 鋪
○寸 法 等　139.5×270.5 ㎝
○施工会社　株式会社墨仁堂
○修理内容　1.本紙の剥落止めを行った後、裏打ち紙を除去する。2.本紙の紙質に合わせた補修紙を作成し、欠損箇所に補紙を施す。3.美濃紙にて裏打ちを行う。4.表紙は補修して再使用する。5.もとの折り目で畳んで、表紙を取り付け、折り畳み装に仕立てる。(20 年度は 2 まで)

＜民族資料＞(1 件)

61 ○名　　称　盆
○時　　代　北海道アイヌ
○員　　数　1 個
○年代世紀　19c
○品　　質　木製
○寸 法 等　縦 38.7×横 60.3 ㎝
○施工会社　吉備文化財修復所
○修理内容　1.表面の埃の清掃を行う。2.虫蝕孔からパラロイド B72 を注入し、木質の強化を行う。3.陥没し、破損している虫蝕孔を補強する。4.開口した虫蝕孔は表面に合わせた充填整形を行い、オリジナル形状の復元は行わない。5.彫刻文様については不自然にならない範囲で形の連続を図る。6.充填・補修箇所に補彩を施し仕上げる。(平成 20 年度は 3 から)

＜東洋絵画＞(1 件)

62 ○名　　称　獅子図
○時　　代　明
○年代世紀　16c
○品　　質　絹本着色
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　123.0×198.0 ㎝
○施工会社　株式会社文化財保存
○修理内容　1.掛幅装を解体し、剥落止めを施す。2.表打ちで画面を保護した後、旧裏打ち紙を除去する。3.欠失部に補絹、折れの生じる箇所に折れ伏せを施し、新たに裏打ちを行う。4.補絹部分に補彩を施す。5.表装裂、軸首を再使用し、元の掛幅装に仕立てる。6.桐製保存箱・太巻添軸などを新調して収める。(平成 20 年度は 1～2 途中まで)

＜東洋書跡＞(2 件)

63 ○名　　称　草書五言律詩軸
○時　　代　明
○年代世紀　17c
○品　　質　絖本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　165.0×47.3 ㎝
○施工会社　株式会社文化財保存
○修理内容　1.剥落止めを施す。2.掛幅装を解体する。3.旧裏打紙を除去する。4.新たに裏打ちを行う。5.折れ伏せを施す。6.補絹に補彩を施す。7.表装裂を新調し、軸首を再使用し、元の掛幅装に仕立てる。8.八双金具は別保管し、太巻添軸、保存箱、布貼帙を新調して収める。(平成 20 年度は 3 まで)

64 ○名　　称　行書五言律詩軸
○時　　代　清
○年代世紀　17 世紀
○品　　質　絖本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　177.9×54.5 ㎝
○施工会社　株式会社光影堂
○修理内容　1.墨に膠水で剥落止めを行う。2.掛幅装を解体する。3.旧裏打ち紙を除去する。4.旧補絹を除去し電子線劣化絹で補絹を施し、新規裏打ちをする。5.折損箇所には折伏せによる補強を施す。6.表装裂は新調する。7.上巻絹、軸木、軸首、紐、包裂等を新調し、掛幅装に仕立る。8.桐製太巻添軸・桐製保存箱・渋紙製紙帙等を新調する。(平成 20 年度は 3 途中から)

＜東洋彫刻＞(3 件)

65 ○名　　称　塑造悪鬼首
○時　　代　唐
○年代世紀　7～8c
○品　　質　塑造彩色
○員　　数　1 個
○寸 法 等　高 16.9、幅 13.1 cm
○施工会社　独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所
○修理内容　1.事前調査(X 線 CT スキャナーなど)を行う。2.表面を養生して解体し、石膏、接着剤などを除去する。3.表面の養生を除去した後、クリーニングを行う。4.彩色層の剥落止めを行う。5.塑土の崩落が進行する部分に新たな塑土を充填する。6.展示台及び保存箱を作製する。ただし、仕様については修理中に検討し決定する。(平成 20 年度は 1 まで)

66 ○名　　称　化粧箱
○年代世紀　6c
○品　　質　木、象牙、皮革、雲母、紙
○員　　数　1 個(4 片)
○寸 法 等　蓋 22×14.1×4.9、身 ①21.5×7 ②23×4.4 ③14×5.8 cm
○施工会社　山下好彦
○修理内容　1.表面のクリーニングを行う。2.剥離した雲母、皮革、紙などの部位の剥落止め、強化を行う。3.外れた木地の再接着を行う。4.作品の形状に合わせて保管展示台を作製する。(平成 20 年度は 3 まで、ただし 2 は 21 年度も引き続き実施する)

67 ○名　　称　毘盧舎那仏立像
○時　　代　統一新羅～高麗
○年代世紀　9～10c
○品　　質　銅造鍍金
○員　　数　1 躯
○寸 法 等　高 52.81 cm
○施工会社　アトリエ多摩
○修理内容　1.破断面のクリーニングと旧充填剤と鉄芯の除去を行う。2.エポキシ樹脂により、指先を含めた充填と整形を行う。3.水溶性アクリル絵具を用いて違和感のない程度に補彩を行う。4.像背面の穴をふさがないように保管展示台を作製する。

＜東洋陶磁＞(1 件)

68 ○名　　称　加彩舞女
○員　　数　1 躯
○時　　代　唐
○年代世紀　7～8c
○品　　質　陶器
○寸 法 等　高 38.5 cm
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1.折損部を接合する。弱い部分は旧修理箇所を解体してクリーニングを行った後、芯は入れずに再度接着する。2.損傷部分のみに補彩を施す。3.桐製保存箱を作製する。4.展示台を作製する。

＜東洋漆工＞(1 件)

69 ○名　　称　花唐草螺鈿合子
○員　　数　1 合
○時　　代　高麗
○年代世紀　14 世紀
○品　　質　木製漆塗
○寸 法 等　高 6.2×径 24.3 cm
○施工会社　山下好彦
○修理内容　1.クリーニングする。2.螺鈿の浮き上がり等を総点検する。3.螺鈿の剥離箇所を細く裁断した和紙で保護する。4.亀裂の補強と接着を行う。5.漆塗膜の剥落止めを行う。6.螺鈿の剥落止めを行う。7.剥落螺鈿片の接着を行う。8.後世修理を可能な限り除去し、周りとの色調整を行う。(平成 20 年度は 6 途中から)

＜東洋染織＞(2 件)

70 ○名　　称　被り物　小花鋸歯唐草模様印金
○年代世紀　19c
○品　　質　絹製、印金
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　300.0×84.0 cm
○施工会社　石井美恵
○修理内容　1.損傷部分に薄地の接着芯(絹にセルロース系接着剤を塗布したもの)を接着し、周りを縫い糸で止める。2.上部に巻き付け用の布を付け、中性紙製の紙筒に巻き取り、中性紙製保存箱に収める。

71 ○名　　称　カシミヤショール 赤地ペイズリー文様
○員　　数　1 枚
○時　　代　インド
○年代世紀　18～19c
○品　　質　獣毛製
○寸 法 等　200.0×196.0 cm

○施工会社　石井美恵
○修理内容　1.クリーニングする。2.旧修理の補修糸を外す。3.加湿して全体の形を整える。4.中央等の損傷部分に、黒色に染めた補修裂をあてて縫い糸で押さえる。5.破れや裂け部分にも補修裂をあてて縫い糸で押さえる。6.展示用の棒通しを付ける。7.中性紙製の紙筒に巻き、中性紙製保存箱を新調して収める。(平成20年度は3から)

＜東洋考古＞(3件)

72 ○名　称　金銅製魚神像
○時　代　エジプト第20～21王朝
○年代世紀　前12～前10c
○品　質　銅製鋳造
○員　数　1個
○寸 法 等　長21.5、総高12.5cm
○施工会社　株式会社京都科学
○修理内容　1.クリーニングして、泥などの汚れを除去する。2.防錆処理を行う。3.アクリル系樹脂を含浸して強化する。(平成20年度は1まで)

73 ○名　称　銅戈
○時　代　石寨山文化
○年代世紀　前3～前2c
○品　質　銅製
○員　数　1個
○寸 法 等　長22.5　高(胡を含む)21.3cm
○施工会社　株式会社京都科学
○修理内容　1.白いサビ部分に注意しつつ、クリーニングして、泥などの汚れを除去する。2.防錆処理を行う。3.アクリル系樹脂を含浸して強化する。(平成20年度は2まで)

74 ○名　称　鉄鉞戟
○員　数　1個
○時　代　前漢～後漢
○年代世紀　前2～後3c
○品　質　鉄製
○寸 法 等　全長37.9×幅13.8cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングする。2.脱塩処理を行う。3.アクリル系樹脂を含浸して強化・接合する。4.欠損部の脆弱な箇所は、エポキシ系樹脂で補填・強化する。5.事前調査による復原図にしたがい、欠失部の一部はエポキシ系樹脂で復原する。6.補填部分についてはアクリル系絵具で補彩する。

＜館史資料(収蔵品外)＞(1件)

75 ○名　称　重要雑録(明治23年)
○時　代　明治
○年代世紀　明治23年(1890)
○品　質　紙本墨書(一部インク)
○員　数　1冊
○寸 法 等　28.8×19.3×5.0cm
○施工会社　有限会社東京修復保存センター
○修理内容　1.冊子本を解装する。2.各頁ごとに折れや皺をのばす。3.劣化が著しい箇所に両面より典具帖による補強を行う。4.欠失部分に漉き嵌めにて補紙を施す。5.表紙は新調し、題箋、ラベルなどは再使用する。6.封筒や付箋は、補紙等を施し、元の場所に貼り付ける。7.冊子本に仕立てる。(平成20年度は3まで)

【京都国立博物館】(17件)

＜絵画＞(13件)

1 ○名　称　杉本哲郎筆　アジャンタ壁画模写のうち　パドマパーニ　1面
○寸 法 等　本紙縦258.0cm　横192.0cm
○施行会社　株式会社　岡墨光堂
○修理内容　1.修理前の損傷状態を調査・記録する。2.本紙彩色層に損傷を与えない程度に、乾いた筆で表面に堆積した埃、汚れ等を払い落とす。3.本紙彩色層に損傷を与えないことが確認できた状態で、本紙裏面の下地との固定が出来ていない釘を除去する。尚、除去に際して本紙に負荷が掛かる場合には、その釘の除去は控える。4.釘を除去した箇所については、本紙の反りを抑制し、本紙と下地と安全に固定する為に、その釘穴を活用してビスを取り付ける。5.本紙の接続箇所等に確認される彩色の剥離箇所、あるいは今後、剥落の危険性があると考えられる亀裂の発生している箇所への剥離、剥落止めを実施する。尚、原則的には膠及び布海苔を使用するが、更なる強化が必要と確認される場合には所有者に報告の上、合成樹脂の使用を検討する。6.剥離を発生している縁の漆に関しては、その損傷が進行しないように処置を施す。また、漆が剥落して、木質の素地が露出している箇所については、鑑賞上の妨げにならない程度に、補彩を施す。7.処置を施した箇所を記録し、処置方法を併せて、修理報告書を作成する。

2 ○名　称　紙本墨画　竹虎図　尾形光琳筆　1幅
○寸 法 等　本紙縦28.1cm　本紙横38.7cm、　総 縦124.0cm　総 横 50.1cm
○施行会社　株式会社　光影堂
○修理内容　1.損傷箇所・墨層状態調査を行い、撮影・記録する。2.損傷地図を作成する。3.料紙の繊維組成検査を行い、その結果を元に補修紙を作製する。4.表装から軸木上下・風帯・紐・鐶等を取り外し、解体する。5.料紙の剥離箇所に新糊・布海苔等で糊挿しを行い、重しをかけ安定させる。6.墨層の剥落止めを行う。7.肌裏紙以外の裏打紙を適度の湿り気をもって除去する。8.画面表より浄化水を与え、画面下に敷いた吸取紙に汚れを移動させる。9.再度必要な箇所に剥落止めを行い、一時仮張を行う。10.適度な湿り気をもって肌裏紙を除去する。11.不良補紙を除去し、欠損箇所に補修紙で補修を行う。12.矢車で染織・媒染・水洗いを行った美濃紙・

新糊で肌裏打を行う。13. 美栖紙・古糊で 1 度目の増裏打を行う。14. 一時仮張り後、折損箇所に対し折伏せによる補強補修を行う。15. 美栖紙・古糊で 2 度目の増裏打を施し、一時仮張りする。16. 補修箇所に地合わせの補彩を行う。17. 表装裂地は全て再使用とし、クリーニング・補修を施した後、肌裏打・増裏打 2 回・仮張りを行う。18. 三段表装に付け廻しを行い、美栖紙・古糊で中裏打を施し、一時仮張りする。19. 仮張りより外し、耳折り後、宇陀紙・古糊にて総裏打を行う。20. 表裏 2 回の仮張り乾燥を行う。21. 軸木・上巻絹・紐・鐶・包裂等を新調する。22. 桐材太軸巻・桐材屋郎中箱を新調する。23. 中箱に柿渋製紙帙を新調する。24. 充分に乾燥後、仮張より取り外し、仕上げを行う。

3 ○名　　称　重陽山水図　1 幅
○寸 法 等　158.4×38.8 cm
○施行会社　有限会社　　漢　和　堂
○修理内容　1. 本紙の裏打紙を取替え　2. 表装新調　3. 桐箱

4 ○名　　称　山水図　1 幅
○寸 法 等　119.7×39.2 cm
○施行会社　有限会社　　漢　和　堂
○修理内容　1. 本紙の裏打紙を取替え。2. 表装新調。3. 桐箱

5 ○名　　称　墨荷図　1 幅
○寸 法 等　136.4×33.4 cm
○施行会社　有限会社　　漢　和　堂
○修理内容　1. 本紙の裏打紙を取替え　2. 表装新調　3. 桐箱

6 ○名　　称　風雲際会図　1 幅
○寸 法 等　長 168.5×84.6 cm
○施行会社　有限会社　　漢　和　堂
○修理内容　1. 本紙の裏打紙を取替え　2. 表装新調　3. 桐箱

7 ○名　　称　老獅図　1 幅
○寸 法 等　166.0×84.8 cm
○施行会社　有限会社　　漢　和　堂
○修理内容　1. 本紙の裏打紙を取替え　2. 表装新調　3. 桐箱

8 ○名　　称　巌壁之図　1 幅
○寸 法 等　99.3×37.8 cm
○施行会社　有限会社　　漢　和　堂
○修理内容　1. 本紙の裏打紙を取替え　2. 表装新調　3. 桐箱

9 ○名　　称　文人雅集図襖　4 面
○寸 法 等　各 167.0×92.1 cm
○施行会社　株式会社　光影堂
○修理内容　1. 表面解体補紙除去　2. 本紙裏打・下地張り　3. 引手再使用　4. 杉材下地新調　5. 漆塗縁新調

10 ○名　　称　山水図小襖　4 面
○寸 法 等　24.2 ×42.8 cm
○施行会社　株式会社　墨申堂
○修理内容　1. 解体　2. 本紙洗浄　3. 裏打　打ちかえ　4. 下地新調　5. 引手新調　6. 引手・縁再使用

11 ○名　　称　倣王摩詰桃源行図　1 幅
○寸 法 等　105.3×160.7 cm
○施行会社　有限会社　　漢　和　堂
○修理内容　1. 本紙総裏紙の除去　2. 修復後表装　3. 太巻、桐箱新調

12 ○名　　称　太虚調瘦馬図　1 幅
○寸 法 等　131.8×45 cm
○施行会社　有限会社　　漢　和　堂
○修理内容　1. 本紙総裏紙の除去　2. 修復後表装　3. 桐箱新調

13 ○名　　称　江南春雨図　1 幅
○寸 法 等　33.8×28.5 cm
○施行会社　有限会社　　漢　和　堂
○修理内容　1. 本紙総裏紙の除去　2. 修復後表装　3. 桐箱新調

＜書跡＞(1 件)

14 ○名　　称　天上人間書　1 幅
○寸 法 等　133.0×21.7 cm
○施行会社　有限会社　　漢　和　堂
○修理内容　1. 本紙総裏紙の除去　2. 修復後表装　3. 桐箱新調

＜彫刻＞(1 件)

15 ○名　　称　塑造菩薩形立像　1 躯
○寸 法 等　像高 197.1 cm
○施行会社　財団法人　美術院

○修理内容　塑土の亀裂は樹脂で接合し、彩色はメチルセルロース等で剥落止めを行う。台座を新補する。

＜染織＞(2 件)

16 ○名　　称　淡浅葱縮緬地帰雁菊水文様友禅染繍小袖(仮仕立)　1 領
○寸 法 等　丈 154.0 ㎝　裄 61.0 ㎝
○施行会社　染技連修理所
○修理内容　1.穴やキレに補修裂をあてる　2.中綿、裏地を新調して仕立てる

17 ○名　　称　白綸子地御簾松文様染繍小袖　1 領
○寸 法 等　丈 176.0 ㎝　裄 60.5 ㎝
○施行会社　(株)松鶴堂
○修理内容　全体を解体。旧修理除去。生地が切れている黒地部分に補修裂を当てて、細かく綴じ付ける。白地部分は必要に応じて補強裂を当てて繕う。裏地は再利用し、仕立てる。

【奈良国立博物館】(8件)

＜絵画＞(2 件)

1 ○名称　絹本著色地蔵菩薩像　1 幅
○寸法等　縦 92.1 ㎝　横 38.1 ㎝
○施工会社　文化財保存
○修理内容　旧裏打紙を全て除去する。絵の具層に剥落止めの処置を行う。表面に濾過水を噴霧して画面全体の汚れを除去する。旧補絹は全て除去し、本紙料絹欠失部に補絹を施す。薄楮紙で肌裏紙を打ち替える。折れ伏せを入れて折れを直す。表装の裂れ、軸木、太巻添え軸および二重箱を新調。軸首は再使用。(継続 2 年事業のうちの第 1 年)

2 ○名称　絹本著色一字金輪曼荼羅図　1 幅
○寸法等　縦 79.0 ㎝　横 49.5 ㎝
○施工会社　文化財保存
○修理内容　絵の具層に剥落止めの処置を行う。折れが生じている個所に折れ伏せを施す。上下軸を新調する。現状の太巻添え軸が径が細すぎるために新調する。

＜書跡＞(1 件)

3 ○名称　清拙正澄筆　法語　1 幅
○寸法等　縦 32.7　横 101.5
○施工会社　文化財保存
○修理内容　軸装を解体し、肌裏紙以外の裏打紙を除去する。表面に濾過水を噴霧して画面全体の汚れを除去する。膠などの剥落止めを行う。欠失部に補紙を当てる。薄紙で肌裏紙を打ち替える。裏打ちを行う。軸首を再使用する。上下の軸木、紐などを新調して軸装に仕立てる。桐生太巻き軸、二重箱新調。(継続 2 年事業のうちの第 1 年)

＜彫刻＞(1 件)

4 ○名称　木造毘沙門天立像　1 躯
○寸法等　像高 65.7 ㎝
○施工会社　財団法人美術院
○修理内容　すべての部材の矧ぎ目を一旦取り離し、膠・漆で再組み付けする。形状不適合な後補個所は撤去し、檜材で新補する。見苦しい古色はできるだけ取り除く。左足枘を新補し、像の自立安定を図る。台座框を新補する。

＜染織＞(1 件)

5 ○名称　刺繍阿弥陀三尊来迎図　　1 面
○寸法等　縦 57.0 ㎝　横 34.1 ㎝
○施工会社　松鶴堂株式会社
○修理内容　刺繍糸の剥落止めを行う。刺繍のほつれは補修糸をかける。肌裏打紙をあて本絹を補強する。折伏、虫蝕穴の繕いを行う。台紙貼、保存箱を新調する。

＜考古＞(3 件)

6 ○名称　銅製経筒(平治元年銘)　1 口
○寸法等　蓋径 23.7 ㎝　蓋高 9.0 ㎝　身高 31.7 ㎝　底径 21.5 ㎝
○施工会社　元興寺文化財研究所
○修理内容　X 線修理可能部分の策定。脱塩処理。破片接合。空白部の樹脂補填。ヒビの補強。

7 ○名称　心葉形杏葉(奈良県二塚古墳出土)　1 点
○寸法等　縦 7.5 ㎝　横 6.0 ㎝　厚 1.3 ㎝
○施工会社　元興寺文化財研究所
○修理内容　過去に塗布された樹脂の解除。錆のクリーニング。再度脱塩処理。錆化の進行を抑える樹脂の塗布。木質部分の除去は必要最低限にとどめる。

8 ○名称　蒙古鉢形冑(五条猫塚古墳出土)　　1 件
○寸法等　長 30.0 ㎝　高 22.0 ㎝　幅 18.1 ㎝
○施工会社　元興寺文化財研究所
○修理内容　X 線撮影による構造把握。理化学分析(蛍光 X 線など)。クリーニング。脱塩処理。錆の除去。鉄地に合成樹脂を塗布。遊離片の接着。小欠失部分の補填。金銅装の亀裂部分に樹脂による補強。頭頂飾の軸など欠失部分の作成、着装。(継続 2 年事業のうちの第 1 年)

【九州国立博物館】（25件）

＜絵画＞（8件）

1　○名　　称　旧円満院宸殿障壁画　20面（48面11枚のうち）（19年度より継続・6ヵ年計画）
　　○所 蔵 者　京都国立博物館
　　○時　　代　江戸時代・17世紀
　　○品　　質　紙本金地著色、襲木：黒漆塗、引手：木瓜金鍍金
　　○寸 法 等　No.8）縦177.2cm　横177.0cm　　No.9）縦174.4cm　横171.8cm
　　No.10）縦178.5cm　横93.8cm　　No.15）縦178.7cm　横93.8cm
　　No.16）縦178.0cm　横86.0cm　　No.18）縦178.5cm　横93.7cm
　　No.19）縦178.1cm　横93.7cm　　No.20）縦176.8cm　横86.4cm
　　No.21）縦178.4cm　横93.5cm　　No.23）縦176.7cm　横176.7cm　／　縦178.8cm　横93.8cm
　　No.24）縦177.3cm　横177.0cm
　　○施行会社　有限責任中間法人国宝修理装潢師連盟
　　○修理内容　1. 京都国立博物館内にて運搬の為の仮剥落止を行う。2. 国立博物館にて写真撮影を行い，修理前の状態を調査・記録する。3. 解体前の絵具層の剥落止を行なう。4. 襖装を解体する。5. 精製水にて表面の汚れ等を除去する。6. 布苔糊にて絵具層を保護するため表打ちを行う。7. 本紙の旧裏打紙、旧補紙を除去する。8. 本紙欠失箇所には補修紙にて補紙を施す。9. 本紙の色合いに合わせて，染薄美濃紙にて肌裏を打つ。10. 楮紙にてさらに裏打紙を打つ。11. 表打ちの紙を除去する。12. 杉材を用い総納組隅止めとした下地を20枚新調する。13. 両面に8度下貼りを施し、よく乾燥させる。14. 補紙の箇所に補彩を行う。15. 下地に本紙及び裏貼紙を上貼りする。16. 最終的な絵具層の剥落止を行う。17. 引手は元のものを修理し用いる。18. 漆塗襲木を新調し，襖に仕立てる。

2　○名　　称　九相詩絵巻　1巻（20年度より継続・2ヵ年計画）
　　○時　　代　室町時代・16世紀
　　○品　　質　紙本著色、表紙：茶無地裂、見返：無地紙、軸首：頭切木軸
　　○寸 法 等　横29.0cm（全紙共通）
　　第1紙）縦45.2cm　　第2紙）縦45.7cm　　第3紙）縦45.7cm
　　第4紙）縦44.7cm　　第5紙）縦45.6cm　　第6紙）縦46.0cm
　　第7紙）縦45.9cm　　第8紙）縦46.7cm　　第9紙）縦46.0cm
　　第10紙）縦46.0cm　　第11紙）縦46.0cm　　第12紙）縦46.3cm
　　第13紙）縦46.3cm　　第14紙）縦46.3cm　　第15紙）縦45.7cm
　　第16紙）縦44.0cm　　第17紙）縦46.5cm　　第18紙）縦43.7cm
　　第19紙）縦29.2cm　　第20紙）縦45.6cm　　第21紙）縦42.3cm
　　○施行会社　有限責任中間法人国宝修理装潢師連盟
　　○修理内容　1. 写真撮影を行い，本紙の状態を調査する。2. 表紙を取り外し，本紙の継ぎを外す。3. 膠水溶液にて絵具層の剥落止を行う。4. 本紙の旧裏打紙を除去する。5. 補修紙を作成する。6. 本紙欠失箇所に，上記補修紙にて補紙を施す。7. 染色した楮紙にて肌裏を打つ。8. 美栖紙にて増裏を打つ。9. 楮と雁皮の混合紙にて総裏を打ち，仮張りする。10. 補紙を施した箇所に補彩を施す。11. 表紙，見返，紐を新調する。軸首は元のものを使用する。12. 軸巻，中軸，八双を新調し，充分乾燥された本紙を仮張りより取り外し，錯簡を正して全紙を継ぎ合わせ，巻子装に仕立てる。13. 桐太巻添軸，桐屋郎箱を各新調し，羽二重の包裂に包み納入する。
　　※平成20年度：1～7を施工。平成21年度：8～13を施工。

3　○名　　称　浄土曼荼羅図　1幅（20年度より継続・2ヵ年計画）
　　○時　　代　鎌倉時代・13世紀
　　○品　　質　絹本著色、掛軸装、中廻：藍菱金地大牡丹唐草文金襴、総縁：丹地牡丹唐草文銀欄
　　○寸 法 等　本紙）縦128.5cm　横123.6cm　　表装）縦195.4cm　横137.3cm
　　○施行会社　有限責任中間法人国宝修理装潢師連盟
　　○修理内容　1. 写真撮影を行い，本紙の状態を調査する。2. 本紙の旧裏打紙を肌裏紙を残して除去する。3. 浄化水を表面から噴霧し，浸透させる方法で汚れを出来る限り除去する。4. 布海苔を用い，養生紙にて表打を行う。5. 旧肌裏紙及び旧補絹を除去する。6. 本紙裏面より料絹欠失箇所に劣化絹にて補絹を行う。7. 本紙の色合いに合わせて，染薄美濃紙にて肌裏を打つ。8. 表打の養生紙を除去する。9. 表装裂地は支給の裂地を調整し，肌裏を打つ。10. 美栖紙にて増裏打を行い，仮張りをする。11. 折れ伏せを入れ，折れを直す。12. 仮張りされた本紙と表装裂地を軸装の形に付け廻しをする。13. 美栖紙にて中裏打を行い，仮張りをする。14. 宇陀紙にて総裏打を行い，仮張りし充分な乾燥期間をおく。15. 補絹の箇所に補彩をする。16. 軸首は元のものを使用し，軸木，発装，啄木等を新調し軸装に仕立てる。17. 桐太巻添軸1本，桐屋郎箱1合を新調し，羽二重の包裂に包み納入する。

4　○名　　称　洛中洛外図屏風　6曲1双（20年度より継続・2ヵ年計画）
　　○時　　代　江戸時代・17世紀
　　○品　　質　紙本金地著色、縁裂：藍地唐花唐草文銀襴、小縁裂：茶地唐草文金襴、裏貼紙：鼠地花菱繋ぎ雀文唐紙、襲木：黒漆塗、金物：唐草に輪違文金鍍金金物（2ヶ所別文様，1ヶ所破損）
　　○寸 法 等　各155.3cm×各356.0cm
　　○施行会社　有限責任中間法人国宝修理装潢師連盟
　　○修理内容　1. 写真撮影を行い，修理前の状態を調査・記録する。2. 屏風装を解体する。3. 表面の汚れ等を除去する。4. 絵具層の剥落止を行う。5. 本紙の旧裏打紙を除去する。6. 本紙欠失箇所には補修紙にて補紙を施す。7. 本紙の色合いに合わせて，染薄美濃紙にて肌裏を打つ。8. 楮紙にてさらに裏打紙を打つ。9. 縁裂は支給の裂地を調整し，肌裏を打つ。10. 杉材を用い総納組隅止めとした下地を12枚新調する。11. 両面に8度下貼りを施し、よく乾燥させる。12. 補紙の箇所に補彩を行う。13. 下地に本紙及び縁裂を上貼りする。裏には新調の唐紙を貼る。14. 不揃いの金物を2ヶ所，欠失の丸鋲を1ヶ所新調し，その他のものは調整する。15. 漆塗襲木を新調し，屏風装に仕立て，包裂に納入する。
　　※平成20年度：1～8を施工。平成21年度：9～15を施工。

5　○名　　称　周茂叔愛蓮図　狩野正信筆　1幅
　　○時　　代　室町時代・15世紀
　　○品　　質　紙本墨画淡彩
　　○寸 法 等　84.5×33.0cm
　　○施行会社　有限責任中間法人国宝修理装潢師連盟
　　○修理内容　1. 写真撮影を行い，本紙の状態を調査する。2. 本紙の浮いている箇所に糊を注し，浮きをおさえる。3. 上下軸を外し，表装の周りに

足し紙を取り付け，仮張り乾燥を行う。十分な乾燥の後，元の上下軸を取り付ける。4. 桐太巻添軸，桐屋郎箱１合を各新調し，羽二重の包裂に包み納入する。

6 ○名　　称　花鳥図　1幅
○所 蔵 者　個人
○時　　代　第二尚氏（清代）・康熙45年(1706)
○品　　質　絹本著色
○寸 法 等　本紙）縦51.2cm　横105.8cm　　表装）縦63.4cm　横192.6cm　軸長192.6cm
○施行会社　有限責任中間法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1. 写真撮影を行い，本紙の状態を調査する。2. 本紙の浮いている箇所に糊を注し，浮きをおさえる。3. 折れの生じている箇所に折れ伏せを入れる。4. 上下軸を外し，表装の周りに足し紙を取り付け，仮張り乾燥を行う。十分な乾燥の後，元の上下軸を取り付ける。

7 ○名　　称　祭神縁起・社寺大観図　2幅（19年度より継続・2ヵ年計画）
○所 蔵 者　高良大社
○時　　代　江戸時代・17世紀
○品　　質　絹本著色
○寸 法 等　本紙）縦236.0cm　横207.0cm（2幅同寸）
○施行会社　有限責任中間法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1. 写真撮影を行い，本紙の状態を調査する。2. 膠水溶液にて絵具層の剥落止めを行う。3. 本紙の旧裏打紙を肌裏紙を残して除去する。4. 浄化水を表面から噴霧し，浸透させる方法で汚れを出来る限り除去する。5. 本紙表面より料絹欠失箇所に劣化絹にて補絹を行う。6. 布海苔を用い，養生紙にて表打を行う。7. 旧肌裏紙及び旧補絹を除去する。8. 本紙裏面より料絹欠失箇所に劣化絹にて補絹を行う。9. 本紙の色合いに合わせて，染薄美濃紙にて肌裏を打つ。10. 表打の養生紙を除去する。11. 表装裂地は中廻風帯に金襴，総縁に緞子を各使用し，肌裏を打つ。12. 美栖紙にて増裏打を行い，仮張りをする。13. 折れ伏せを入れ，折れを直す。14. 仮張りされた本紙と表装裂地を軸装の形に付け廻しをする。15. 美栖紙にて中裏打を行い，仮張りをする。16. 宇陀紙にて総裏打を行い，仮張りし充分な乾燥期間をおく。17. 補絹の箇所に補彩をする。18. 軸首は元のものを使用，欠失の軸頭（1箇），軸木，発装，啄木等を新調し，軸装に仕立てる。19. 2幅入桐屋郎箱１合を各新調し，羽二重の包裂に包み納入する。
※平成19年度：1～4及び5の30%を施工。平成20年度：5の70%及び6～19を施工。

8 ○名　　称　邸内遊楽図屏風　2曲1隻
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　江戸時代・17-18世紀
○品　　質　紙本金地著色
○寸 法 等　縦153.8cm　横172.0cm
○施行会社　有限責任中間法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1. 写真撮影等を行い、本紙の状態を調査する。2. 表面に残存している黴を、柔らかい筆等で可能な限り除去する。

＜書跡＞（1件）

9 ○名　　称　北条時宗書状　1幅
○時　　代　鎌倉時代・13世紀
○品　　質　紙本墨書、掛軸装、中縁風帯：白地踊り桐文金襴、上下：茶無地裂、軸：牙軸
○寸 法 等　本紙）縦 28.7cm　横 49.5cm　　表装）縦 122.5cm　横 64.5cm
○施行会社　有限責任中間法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1. 写真撮影を行い，本紙の状態を調査する。2. 本紙の旧裏打紙及び旧補紙を除去する。3. 浄化水を表面から噴霧し，浸透させる方法で汚れを出来る限り除去する。4. 本紙料紙と類似した補修紙を作成する。5. 上記補修紙にて補紙を行う。6. 薄美濃紙にて肌裏を打つ。7. 表装裂地は中縁風帯は元のものを修理，上下は支給の無地裂を調整し，肌裏を打つ。8. 美栖紙にて増裏打を行い，仮張りをする。9. 仮張りされた本紙と表装裂地を軸装の形に付け廻しをする。10. 美栖紙にて中裏打を行い，仮張りをする。11. 宇陀紙にて総裏打を行い，仮張りし充分な乾燥期間をおく。12. 軸首は元のものを用い，中軸，発装，啄木等を新調して軸装に仕立てる。13. 桐太巻添軸１本，桐屋郎箱１合を新調し，羽二重の包裂に包み納入する。

＜彫刻＞（2件）

10 ○名　　称　木造亀山上皇像（銅像鋳造木型）　1軀
○時　　代　現代
○品　　質　木造　寄木造
○寸 法 等　像高 4m80cm
○施行会社　財団法人美術院
○修理内容　1. 彫刻表面の、埃や昆虫・動物等の糞の汚れは、全体的に精製水やエタノール等で、クリーニングを行う。2. 彫刻面に塗布されている下地・表面層に、細かい断文が生じ、浮き上がりや剥落が見られる箇所については、今回応急修理では、クリーニングに際し、低濃度のメチルセルロースあるいは水溶性アクリル樹脂を塗布するにとどめる。3. 彫刻内部調査のため、袖部材を一旦解体し、内部の調査及びクリーニングを行う。解体部材は、本格修理の際まで外した状態で保管する。4. 各材の矧ぎ目は、内部調査のため解体する箇所を除き現状のままとする。5. 矧ぎ目に沿う小填め木の緩みは、膠・漆等で緊結する。

11 ○名　　称　木造十一面観音立像　1軀
○時　　代　平安時代・9世紀
○品　　質　木造、一木造、素地仕上げ、腕釧・臂釧・胸飾・瓔珞等、当初部は彫出、後補部別材貼り付け
○寸 法 等　像高99.4cm
○施行会社　財団法人美術院
○修理内容　1. 右膝頭附近の剥落箇所は、損傷移行がないようその周囲を樹脂で剥落止めを行い、露出する素地・石膏木屑部は白土あるいは水干絵具（素地古色）で塞ぎ古色層をつなぐ。2. 後頭部の後補彩色層（江戸時代の髪部彩色か）の浮き上がる箇所は、メチルセルロース等で剥落止めを行う。3. 像全体、後補瓔珞等の貼り付けの緩みや接着剤のはみ出し等を点検し要すれば補修を行う。

＜建築＞（1件）

12 ○名　　称　旧江戸城三重櫓模型・旧江戸城本丸渡り櫓模型（甲良家製）　2点
○所 蔵 者　東京国立博物館
○時　　代　近代
○品　　質　桧材　素地仕上げ
○寸 法 等　三重櫓模型）総高109.7㎝　最大巾77.8㎝　最大奥72.0㎝
本丸渡り櫓模型）総高53.5㎝　最大巾106.0㎝　最大奥52.5㎝
○施行会社　財団法人美術院
○修理内容　1. 経年の埃は、刷毛・筆等で除去し、さらに水拭きをして表面のクリーニングを行った。2. 両模型とも、各所の部材の接着が緩み外れる箇所はもとの位置に戻し、膠で接着した。もとの位置に戻すのに必要な材は桧材で補足した。渡り櫓の扉金具の一部を胴板を加工して補足した。階段等内部の部材の戻し、亡失箇所の補足等は、この応急修理では行わなかった。

＜漆工＞（2件）

13 ○名　　称　彫木漆台脚（H142）（合歓多子図堆朱食籠（彫木漆台脚付）のうち）　1対2点
○時　　代　中国　清時代・18世紀
○品　　質　木製漆塗
○寸 法 等　総高29.8㎝　食籠）高13.4㎝　径37.6㎝　台脚）高16.2㎝　天板径31.0㎝
○施行会社　輪島口漆工芸社
○修理内容　1. 修理前状態の記録と調査：現状を天板上面、側面、底面毎に写真撮影し、原寸大または必要に応じては拡大写真を作成し、写真上に破損状況（割れ、浮き、欠損等）を記録する。2. 養生調査：記録と同時に、剥落の恐れのある箇所に、薄美濃紙の小片を糊付けして、作業中の塗膜片の剥落を防止する。3. 構造的破損の復元、固定：木地構造を解明するために、必要があればＸ線透過撮影やＣＴスキャンを行い内部構造を把握する。木地の接合部の割れ等に、酢酸ビニルエマルジョン接着剤の水溶液を注入し、クランプ等にて固定し、接合部の固着を図る。4. 清掃洗浄：塗膜表面が汚れている場合は、水、エタノール、希アンモニア水（ｱﾝﾓﾆｱ1%以下）、トルエン等を含ませた綿棒にて拭き取る。5. ひび割れの充填、補彩：大きなひび割れは、刻苧を充填したのちに錆付け、錆研ぎをして整形する。その後に色調、艶を調整した漆を薄く塗り、周囲との調和を図る。6. 摺漆による塗膜強化：洗浄ならびに浮きや割れ等の処理が済んだ後に、上質の生漆を摺漆し、浸透させて塗膜表面の強化を行う。漆塗膜の艶、色調等を調整するために生漆に透き漆や黒漆を少量混合する場合がある。7. 修理後の状態記録：修理後の状態を写真撮影し、修理前と対比できるように報告書を作成する。

14 ○名　　称　楼閣山水人物螺鈿食籠（H129）　1合（20年度より継続・2ヵ年計画）
○時　　代　中国　明時代・15-16世紀
○品　　質　木製漆塗
○寸 法 等　径37.7㎝　高10.4㎝
○施行会社　輪島口漆工芸社
○修理内容　1. 修理前状態の記録と調査：現状を蓋甲面、蓋裏面、身内面、底面毎に写真撮影し、原寸大または必要に応じては拡大写真を作成し、写真上に破損状況（割れ、浮き、欠損等）を記録する。2. 養生：調査記録と同時に、剥落の恐れのある箇所　に、薄美濃紙の小片を糊付けして、作業中の塗膜片の剥落を防止する。3. 清掃洗浄：塗膜表面が汚れている場合は、水、エタノール、希アンモニア水（ｱﾝﾓﾆｱ1%以下）、トルエン等を含ませた綿棒にて拭き取る。4. 乖離塗膜、貝片の接着：塗膜の割れ、浮き、反り返り等のある箇所へ、リグロインで希釈した上質の生漆を注入し、芯張り方法によって圧力をかけ、塗膜を可能な限り当初の形状へと復して固着する。ただし、貝の裏に漆が染みて変色する恐れがある場合は、希釈漆液を用いず、膠液を浸ませて、低温の電気鏝で圧着する方法を用いる。芯張りの圧力によって、器胎に変形や破損の恐れがある場合は、あらかじめこれを予防する治具を製作しこれを用いる。5. 際錆：塗膜の欠損、割れ等で段差が生じた箇所には、際錆（きわ錆）を施し、引っかかりを防ぐ。際錆は砥の粉に生漆等を調合する。大きな欠損あるいは深い陥没等には、刻苧で整形したのちに錆をする。6. 摺漆による塗膜強化：洗浄ならびに浮きや割れ等の処理が済んだ後に、上質の生漆を摺漆し、浸透させて塗膜表面の強化を行う。漆塗膜の艶、色調等を調整するために生漆に透き漆や黒漆を少量混合する場合がある。※3～6の工程は、各部分に分別して順次おこない、状況によって工程の順序が前後する場合がある。7. 修理後の状態記録：修理後の状態を写真撮影し、修理前と対比できるように報告書を作成する。

＜考古＞（10件）

15 ○名　　称　如来立像（C27）　1軀
○時　　代　中部ジャワ時代・8世紀後半～9世紀中頃
○品　　質　青銅製
○寸 法 等　総高22.2㎝　像高20.0㎝　肘張6.6㎝　厚5.1㎝
○施行会社　株式会社芸匠
○修理内容　1. 観察・記録：修理前の状態を撮影し記録する。2. クリーニング（一次）：対象資料の現状を把握し、埃や錆等のクリーニングをおこなう。3. 脱塩処理：純水を定期的に交換しながら、採取した水の陰イオンがイオンメータで測定し0ppmに近くなるまで脱塩処理をおこなう。4. 防錆処理：ベンゾトリアゾールのアルコール溶液に含浸する。含浸後一定期間乾燥させる。5. クリーニング（二次）：仕上の錆取り作業をおこなう。6. 樹脂含浸：アクリル樹脂を含浸させる。7. 樹脂強化・復元：欠損箇所にアクリル樹脂を充填後、エポキシ樹脂を使用し形状の復元をおこなう。8. 補彩色：修理箇所にアクリル絵具で補彩色を施す。9. 観察・記録：修理後の状態を撮影、記録し、報告書を作成する。

16 ○名　　称　如来立像（C29）　1軀
○時　　代　中部ジャワ時代・8世紀後半～9世紀中頃
○品　　質　青銅製
○寸 法 等　総高17.0㎝　肘張5.7㎝　厚5.1㎝
○施行会社　株式会社芸匠
○修理内容　1. 観察・記録：修理前の状態を撮影し記録する。2. クリーニング（一次）：対象資料の現状を把握し、埃や錆等のクリーニングをおこなう。3. 脱塩処理：純水を定期的に交換しながら、採取した水の陰イオンがイオンメータで測定し0ppmに近くなるまで脱塩処理をおこなう。4. 防錆処理：ベンゾトリアゾールのアルコール溶液に含浸する。含浸後一定期間乾燥させる。5. クリーニング（二次）：仕上の錆取り作業をおこなう。6. 樹脂含浸：アクリル樹脂を含浸させる。7. 樹脂強化・復元：欠損箇所にアクリル樹脂を充填後、エポキシ樹脂を使用し形状の復元をおこなう。8. 補彩色：修理箇所にアクリル絵具で補彩色を施す。9. 観察・記録：修理後の状態を撮影、記録し、報告書を作成する。

17 ○名　　称　釈迦如来立像（C28）　1軀
○時　　代　ドヴァーラヴァティー時代・9～10世紀
○品　　質　青銅製
○寸 法 等　総高31.0cm　髻頂一顎5.2cm　面長3.1cm　面幅2.9cm　耳張3.9cm　面奥4.0cm
胸奥3.5cm　腹奥3.8cm　肘張9.7cm　肘先6.0　裾張11.0
○施行会社　株式会社芸匠
○修理内容　1. 観察・記録：修理前の状態を撮影し記録する。2. クリーニング（一次）：対象資料の現状を把握し、埃や錆等のクリーニングをおこなう。3. 解体：資料の接合部分を慎重に解体し、断面のクリーニングをおこなう。4. 構造調査：鋳造の専門家に依頼し、像の構造及び製作方法の調査をおこなう。5. 脱塩処理：純水を定期的に交換しながら、採取した水の陰イオンがイオンメータで測定しOppmに近くなるまで脱塩処理をおこなう。6. 防錆処理：ベンゾトリアゾールのアルコール溶液に含浸する。含浸後一定期間乾燥させる。7. クリーニング（二次）：仕上の錆取り作業をおこなう。8. 樹脂含浸：アクリル樹脂を含浸させる。9. 接合：解体した像を、接合面を合わせながらエポキシ樹脂にて再接合をおこなう。10. 樹脂強化・復元：欠損箇所にアクリル樹脂を充填後、エポキシ樹脂を使用し形状の復元をおこなう。11. 補彩色：修理箇所にアクリル絵具で補彩色を施す。12. 観察・記録：修理後の状態を撮影、記録し、報告書を作成する。

18 ○名　　称　銅鍾　共蓋付　1合
○時　　代　中国　前漢時代・前3世紀～前1世紀
○品　　質　銅製
○寸 法 等　蓋）長径16cm　短径15cm　高1cm　身）口径16cm　胴径26cm　高29cm
○施行会社　株式会社芸匠
○修理内容　1. 観察・記録：修理前の状態を撮影し記録する。

19 ○名　　称　菩薩立像（C31）　1軀
○時　　代　シュリーヴィジャヤ時代もしくは中部ジャワ時代　8～10世紀
○品　　質　青銅製
○寸 法 等　総高21.0cm　肘張5.34cm　厚3.5cm
○施行会社　株式会社芸匠
○修理内容　1. 観察・記録：修理前の状態を撮影し記録する。2. クリーニング（一次）：対象資料の現状を把握し、埃や錆等のクリーニングをおこなう。3. 脱塩処理：純水を定期的に交換しながら、採取した水の陰イオンがイオンメータで測定しOppmに近くなるまで脱塩処理をおこなう。4. 防錆処理：ベンゾトリアゾールのアルコール溶液に含浸する。含浸後一定期間乾燥させる。5. クリーニング（二次）：仕上の錆取り作業をおこなう。6. 樹脂含浸：アクリル樹脂を含浸させる。7. 樹脂強化・復元：欠損箇所にアクリル樹脂を充填後、エポキシ樹脂を使用し形状の復元をおこなう。8. 補彩色：修理箇所にアクリル絵具で補彩色を施す。9. 観察・記録：修理後の状態を撮影、記録し、報告書を作成する。

20 ○名　　称　嵌玉金銅熊脚　1点
○時　　代　中国　漢時代・前1世紀～後1世紀
○品　　質　金銅製、玉
○寸 法 等　総高6.2cm　幅3.8cm
○施行会社　株式会社芸匠
○修理内容　1. 観察・記録：修理前の状態を撮影し記録する。2. クリーニング（一次）：対象資料の現状を把握し、埃や錆等のクリーニングをおこなう。3. 解体：中央部に残存する木質を慎重に本体より取り外す。木質部分はクリーングをおこなう。4. 脱塩処理：純水を定期的に交換しながら、採取した水の陰イオンがイオンメータで測定しOppm に近くなるまで脱塩処理をおこなう。5. 防錆処理：ベンゾトリアゾールのアルコール溶液に含浸する。含浸後一定期間乾燥させる。6. クリーニング（二次）：仕上の錆取り作業をおこなう。7. 樹脂含浸：アクリル樹脂を含浸させる。8. 樹脂強化・復元：欠損箇所にアクリル樹脂を充填後、エポキシ樹脂を使用し形状の復元をおこなう。9. 組立：取り外した木質部分を再度本体に取り付ける。10. 補彩色：修理箇所にアクリル絵具で補彩色を施す。11. 観察・記録：修理後の状態を撮影、記録し、報告書を作成する。

21 ○名　　称　金銅冠・冠帽（新羅古墳資料のうち）　各1点（20年度より継続・4ヵ年計画）
○時　　代　三国時代・6世紀
○品　　質　金銅、木、鉄、布
○寸 法 等　金銅冠）冠径33.5cm　「出」字形立飾高26.5cm　　冠帽）高18.5cm　翼状装飾22.5cm
○施行会社　株式会社芸匠
○修理内容　1. 処理前調査：現状確認、写真撮影、X線撮影　2. 一次クリーニング：ブラシ、メスなどにより、慎重に泥・錆を除去する。3. 防錆処理：ベンゾトリアゾールのアルコール溶液を減圧含浸する。溶液中から取り出した後、一定時間静置し防錆処理を行う。4. 二次クリーニング：メス等で最終的な錆の除去及び整形をする。5. 樹脂含浸：ベンゾトリアゾールを溶かし込んだアクリル樹脂を減圧含浸する。6. 接合・樹脂充填：エポキシ樹脂等で接合ののち、補強及び成形が必要な箇所についてはエポキシ樹脂を充填する。7. 補彩：充填部・復元部を顔料・アクリル樹脂エマルジョン等で補彩する。8. 保存箱の作成：桐材を用いた保存箱を作成する。9. 処理後調査：経時変化調査、写真撮影、保存処理記録作成
※平成20年度：金銅冠1、冠帽1を施工。平成21年度：鞍1(前輪、後輪各1)を施工。平成22年度：沓2、雲珠1を施工。平成23年度：辻金具6、杏葉10を施工。

22 ○名　　称　石厨子　1基
○所 蔵 者　沖縄県立博物館
○品　　質　石製
○寸 法 等　高85.0cm　縦43.3cm　横54.2cm
○施行会社　株式会社芸匠
○修理内容　1. 修理前の状態を撮影し記録する。2. クリーニング：対象資料の現状を把握し、埃等のクリーニングをおこなう。3. 樹脂含浸：破断面をパラロイドB72（アセトン希釈：5%程度）にて含浸強化する。4. 接合：パラロイドB72（アセトン希釈）にて接合を行う。5. 修理後の状態を撮影し記録する。

23 ○名　　称　埴輪　犬（収蔵品番号NO.LJ40）　1点
○所 蔵 者　個人（九州国立博物館寄託）

〇時　　代　古墳時代・6 世紀中葉
〇品　　質　土製
〇寸 法 等　像高 365.0cm　長 510.0　幅 175.0cm
〇施行会社　株式会社芸匠
〇修理内容　1. 修理前の状態を撮影し記録する。2. クリーニング：対象資料の現状を把握し、埃等のクリーニングをおこなう。3. 樹脂含浸：破断面をパラロイドB72（アセトン希釈：5%程度）にて含浸強化する。4. 接合：パラロイドB72（アセトン希釈）にて接合を行う。5. 修理後の状態を撮影し記録する。

24 〇名　　称　埴輪　馬（収蔵品番号NO.LJ41）　1点
〇所 蔵 者　個人（九州国立博物館寄託）
〇時　　代　古墳時代・6 世紀中葉
〇品　　質　土製
〇寸 法 等　像高 980.0cm　長 1010.0cm　幅 360.0cm
〇施行会社　株式会社芸匠
〇修理内容　1. 修理前の状態を撮影し記録する。2. クリーニング：対象資料の現状を把握し、埃等のクリーニングをおこなう。3. 樹脂含浸：破断面をパラロイドB72（アセトン希釈：5%程度）にて含浸強化する。4. 接合：パラロイドB72（アセトン希釈）にて接合を行う。5. 修理後の状態を撮影し記録する。

＜歴史資料＞（1 件）

25 〇名　　称　対馬宗家関係資料（対馬宗家関係資料のうち）21 箱 19 巻、4 幅　（20 年度より継続・6 ヵ年計画）
〇時　　代　室町時代・16 世紀、江戸時代・19 世紀
〇品　　質　紙本墨書 、巻子装・掛軸装ほか
〇寸 法 等　縦 33.4×横 52.2 ほか
〇施行会社　有限責任中間法人国宝修理装潢師連盟
〇修理内容　A. 21箱19巻

1. 写真撮影を行い，本紙の状態を調査する。2. 巻子装を解体する。3. 本紙の汚れ等を取り去る。4. 本紙の旧裏打紙を除去し，継ぎを外し，シワ等を伸ばして整形する。5. 本紙と類似した補修紙を作成する。6. 本紙欠失箇所に上記補修紙にて補紙を施し、上下には足し紙をつける。7. 旧裏打紙と同様の色調に染色した薄美濃紙にて肌裏打を施す。8. 将来折れが予想される箇所に折れ伏せを入れる。9. 混合紙にて総裏打を施す。10. 仮張りし，充分な乾燥期間をおく。11. 各料紙を継ぎ，巻末に新調の軸巻紙を取り付ける。12. 表紙，軸首，紐，中軸，八双は元のものを用い，巻子装に仕立てる。13. 羽二重の包み裂に包み納入する。14. 桐太巻添軸を施工巻数分製作する。15. 施工巻数分を納入できる紙箱を新調する。
※平成20年度：巻1～4を施工。平成21年度：巻5～7を施工。平成22年度：巻8～10を施工。
平成23年度：巻11～13を施工。平成24年度：巻14・15を施工。平成25年度：巻16～19を施工。

B. 紙本墨画貞心院筆鶏図　1幅
C. 紙本墨画宗義如筆雁図　1幅
D. 紙本墨画宗義賀十二歳書「正心」　1幅
E. 紙本墨書小川賢信七絶「謹奉賀新慶」　1幅

1. 写真撮影を行い，本紙の状態を調査する。2. 本紙の旧裏打紙を除去する。3. 浄化水を表面から噴霧し，浸透させる方法で汚れを出来る限り除去する。4. 薄美濃紙にて肌裏を打つ。5. 表装裂地は一文字は元のものを用い，その他は染め紙を新調する。6. 美栖紙にて増裏打を行い，仮張りをする。7. 仮張りされた本紙と表装裂地を軸装の形に付け廻しをする。8. 折れ伏せを入れ折れを防ぐ。9. 美栖紙にて中裏打を行い，仮張りをする。10. 宇陀紙にて総裏打を行い，仮張りし充分な乾燥期間をおく。11. 軸首は元のものを用い，中軸，発装，啄木等を新調して軸装に仕立てる。12. 桐太巻添軸1本，桐屋郎箱1合を新調し，羽二重の包裂に包み納入する。

③文化財修理データのデータベース化件数

		国立博物館	東京国立博物館	京都国立博物館
合　　計		787	101	686
日本	絵　　画	239	11	228(54)
	書　　跡	142	7	135(25)
	彫　　刻	251	2	249(23)
	建　　築	2	0	2
	金　　工	1	1	0
	刀　　剣	3	3	0
	陶　　磁	1	1	0
	漆　　工	17	2	15
	染　　織	26	4	22(3)
	考　　古	51	51	0
	歴史資料	38	6(歴史資料及び館史資料)	32(6)
	民族資料	1	1	0
	その他	3	0	3(1)
東洋	絵　　画	0	0	
	書　　跡	2	2	
	彫　　刻	0	0	
	金　　工	0	0	
	陶　　磁	1	1	
	漆　　工	1	1	
	染　　織	2	2	
	考　　古	6	6	
	民　　族	0	0	
法隆寺献納宝物		0	0	

※　東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。
※　京都国立博物館の（　）内は新規入力件数で内数。

2. 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

(1)展示の充実

①入館者数

（後述の資料に記載）◎共通資料d①

②入館者数（過去５カ年）

（後述の資料に記載）◎共通資料d②

③入場料収入

（後述の資料に記載）◎共通資料d③

④展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等の設置

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
97%	100%	77%	82%
150件(外国語)	21件(外国語)	27件(外国語)	27件(外国語)
155件(日本語)	21件(日本語)	35件(日本語)	33件(日本語)

パネル等（パネルと同様の内容配布資料・音声ガイドを含む）

【東京国立博物館】

・平常陳列　61件（外国語）／61件（日本語）　含国宝室
・特集陳列　89件（外国語）／89件（日本語）　含仏像の道
・黒田記念館
　平常陳列　0件（外国語）／ 5件（日本語）
　※参考　本館2階陳列“日本美術の流れ”案内・解説パンフレット　36件（外国語）／36件（日本語）

【京都国立博物館】

・平常展　17件(外国語)／17件(日本語)
・特集陳列　4件(外国語)／ 4件(日本語)

【奈良国立博物館】

・平常展　24件（外国語）／31件（日本語）
・特別陳列「建築を表現する」　0件（外国語）／ 1件（日本語）
・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」　3件（外国語）／ 3件（日本語）
・特別陳列「お水取り」　0件（外国語）／ 0件（日本語）

【九州国立博物館】

・文化交流展示(トピック展示をのぞく)　27(外国語)/33 件(日本語)　82%
・「大野城と四王寺」展　0(外国語)/3(日本語)
・「九州北部三県姉妹遺跡締結 10 周年記念　よみがえる弥生都市」展　1(外国語)/4(日本語)
・「絵でみる考古学　早川和子原画」展　1(外国語)/1(日本語)
・「あおもり縄文展～ＪＯＭＯＮを世界へ、三内丸山からの発進～」　1(外国語)/10(日本語)
・「奴国の南-九大筑紫地区の埋蔵文化財-」　3(外国語)/3(日本語)
・「博物館と文化財修理」展　1(外国語)/1(日本語)
・「新たな国民のたから」展　1(外国語)/3(日本語)
・「茶の湯を楽しむ Ⅰ」　1(外国語)/1(日本語)
・「ベトナム陶磁と朱印船交易絵巻展」　1(外国語)/1(日本語)
・「天にささげる器」　1(外国語)/4(日本語)
・「変化する観音」展　1(外国語)/1(日本語)
・「北と南の民俗詩－アイヌ・琉球の人々－」展　1(外国語)/1(日本語)
・「国宝・古文書展」　1(外国語)/1(日本語)
・「港市長崎－鎖国のなかの異国情緒－」展　4(外国語)/4(日本語)
・「美を写す－模写と摸造－」　1(外国語)/1(日本語)
・「金子量重氏寄贈品による　アジアの民族造形」　8(外国語)/8(日本語)
・「屏風の輝き」展　1(外国語)/1(日本語)

⑤平常展・特別展

（後述の資料に記載）◎共通資料d④

⑥広報刊行物一覧

【東京国立博物館】

刊　行　物　名	発　行　部　数	配　　布　　先
東京国立博物館ニュース682号～ 687号	各30,000部	館内で来館者に無償配布 マスコミ媒体等に送付 定期郵送希望者 2,675件 寄贈 1,437件（国内外の美術館・博物館・大学・研究所等） 賛助会 216件、友の会 1,784件 外部評価委員 14件、文科省評価委員 8件、運営委員 17件、東博評議委員 11件
本館フロアガイド 日本語版・英語版 中国語版・韓国語版 （21年3月末、21年度版に改訂）	日本語版 21．3 改訂 100,000部 英語版　21．3 改訂　40,000部 中国版　21．3 改訂　15,000部 韓国版　21．3 改訂　15,000部	館内で来館者に無償配布
東洋館フロアガイド 日本語版・英語版 中国語版・韓国語版 （21年2月末、21年度6月8日迄使用分として改訂版製作）	日本語版 21．2 改訂　6,000部 英語版　21．2 改訂　2,500部 中国語版 21．2 改訂　2,000部 韓国語版 21．2 改訂　2,000部	館内で来館者に無償配布
東京国立博物館パンフレット多言語版 （21年3月　21年度版に改訂）	英語版　21．3 改訂　36,000部 中国語版 21．3 改訂　8,000部 韓国版　21．3 改訂　10,000部 フランス語版 21．3 改訂　10,000部 ドイツ語版 21．3 改訂　5,000部 スペイン語版 21．3 改訂　5,000部	館内で来館者に無償配布 大使館等に送付 特記事項：21年度版改訂に際し、東芝国際交流財団の助成により製作。
東京国立博物館パンフレット日本語版 （21年3月　21年度版に改訂）	21．3 改訂 100,000部	館内で来館者に無償配布 マスコミ媒体、学校等に送付
20．4－21．3　東京国立博物館　展示・催しのご案内 （20年9月　20年下半期版に改定、21年3月　21年度版に改定）	20．9 改訂　35,000部 21．3 改訂　35,000部	館内で来館者に無償配布 観光案内所、大使館、美術館・博物館、マスコミ媒体等に送付
法隆寺宝物館パンフレット	－	法隆寺宝物館で配布
庭園ガイド	20．9 改訂　50,000部	館内で配布
応挙館パンフレット	－	館内で来館者に無償配布 マスコミ媒体等に送付

【京都国立博物館】

刊　行　物　名	発行時期	発　行　部　数	配　　布　　先
京都国立博物館だより	4、7、10、1月	158号（4・5・6月）　15,000部 159号（7・8・9月）　15,000部 160号（10・11・12月）10,000部 161号（1・2・3月）　15,000部	観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか、郵送希望者にも発送
Kyoto National Museum Letter Vol.98～101	4、7、10、1月	各3,000部	観覧者
博物館Dictionary No.158～165	毎月第2土曜日	各5,000部	観覧者（小学・中学生向け）
平成20年度年間スケジュール	4月	30,000部	観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送
展示案内	7月	日本語版（増刷）　20,000部	観覧者

刊　行　物　名	発行時期	発　行　部　数	配　　布　　先
	12月	日本語版（改訂版）　10,000部	
京都国立博物館案内リーフレット（展示案内改訂版）	3月	日本語版（増刷）　30,000部 英語版　20,000部 韓国語版　20,000部 フランス語版　10,000部 スペイン語版　10,000部 中国語版　5,000部	
特集陳列「平安時代の考古遺物」リーフレット	4月	15,000部	
特集陳列「新収品展」リーフレット	5月	4,000部	
特集陳列「杉本哲郎　アジャンタ・シーギリヤ壁画模写」リーフレット	6月	7,000部	
特集陳列「坂本龍馬」チラシ	7月	15,000部	
庭園マップ（改定4版）	12月	5,000部	

【奈良国立博物館】

刊　行　物　名	発 行 部 数	配　　布　　先
奈良国立博物館だより（年4 回）	春・夏・冬号　各20,000部 秋号　40,000部	美術館・博物館・大学・研究所等　約120件
奈良国立博物館リーフレット	日本語版　100,000部 英語版　10,000部 中国語版　5,000部 韓国語版　8,000部 ドイツ語版　2,000部 フランス語版　2,000部 スペイン語版　2,000部	館内で来館者に配布
奈良国立博物館展示案内	65,000部	館内で来館者に配布

【九州国立博物館】

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
九州国立博物館案内リーフレット	日本語版　220,000部 英語版　10,000部 中国語版　3,000部 韓国語版　13,000部 フランス語版　9,000部 ドイツ語版　6,000部 スペイン語版　6,000部 合計　267,000部	・館内で来館者に配布 ・旅行会社等へ郵送 特記事項：外国語版は東芝国際交流財団の助成により一部作成
文化交流展示室案内マップ	日本語版　200,000部 中国語版　3,000部 韓国語版　5,500部 英語版　3,000部 合計211,500部	・館内で来館者に配布 ・旅行会社等へ郵送
文化交流展示室解説リーフレット	中国語版　13,000部	・館内で来館者に配布
九州国立博物館概要	日本語版　6,000部	・美術館・博物館、大学、視察者等
日中韓サミット用パンフレット	日本語　500部 中国語　300部 韓国語　300部	・視察者等
季刊情報誌「アジアージュ」	春(08)号　30,000部 夏(09)号　30,000部 秋(10)号　30,000部 冬(11)号　30,000部	・館内で来館者に配布 ・美術館・博物館、近隣文化施設、近隣大学、太宰府市、友の会会員等
博物館科学課の最新設備パンフレット	日本語　1,000部	・美術館・博物館、大学、施設調査用、視察者等

(2)歴史・伝統文化の理解促進

①学習機会の提供（過去5ヵ年実績）

	16年度	17年度	前中期期間(13～17年度)の平均値	18年度	19年度	20年度
○情報及び資料の収集						
東京国立博物館	7,162件（写真原版）	5,432件（写真原版）	7,423件（写真原板）	4,472件（写真原版）	3,640件（写真原版）	4,703件（写真原版）
公開件数（利用者数）	4,288人	3,769人	4,135人	2,920人	3,134人	2,764人
○ホームページのアクセス件数						
東京国立博物館	2,209,800件	2,923,564件	1,928,966件	3,680,028件	5,504,468件	5,211,261件
京都国立博物館	499,248件	572,936件	521,965件	757,812件	733,885件	1,409,634件
奈良国立博物館	783,487件	986,133件	670,948件	1,249,608件	1,402,834件	1,230,774件
九州国立博物館	－	5,017,378件	5,017,378件	7,118,540件	5,943,616件	5,699,860件
○デジタル化件数						
東京国立博物館						
画像	9,589枚※	20,556枚	18,829枚	4,472枚	124,996枚	139,000枚
文字	0字※	6,957,789字	4,276,549字	500,000字	553,000字	553,000字
京都国立博物館	7,239件	5,568件	4,359件	6,169件	8,047件	6,478件
奈良国立博物館	9,810件	3,755件	8,471件	3,830件	4,584件	8,399件
九州国立博物館	－	1,890件	1,890件	1,986件	3,295件	3,963件
○講演会等の回数						
東京国立博物館						
①講演会			30回	30回	24回	29回
			7,339人	6,542人	4,770人	7,134人
				78.37%	79%	82%
（内訳）						
・月例講演会等	12回	13回	14回	12回	12回	12回
	2,157人	3,092人	2,602人	1,612人	1304人	2,008人
アンケート結果	83%	80%	81%	73%	82%	82%
・記念講演会	15回	10回	12回	11回	6回	15回
	4,051人	3,136人	3,891人	3,519人	1,869人	4,409人
アンケート結果	82%	86%	80%	81%	81%	81%
・テーマ別講演会	4回	4回	4回	4回	4回	2回
	731人	960人	846人	958人	908人	717人
アンケート結果	84%	86%	85%	87%	69%	83%
・特別講演会	－	－	－	3回	2回	－
	－	－	－	453人	689人	－
アンケート結果	－	－	－	80%	－	－
②連続講座（17年度までは夏期講座）	2日	3日	2日	3日	3日	3日
	206人	354人	248人	325人	288人	356人
アンケート結果	92%	84%	82%	83%	77%	81%
③公開講座	10回	10回	12回	26回	16回	1回
	－	－	－	1,113人	2,369人	68人
アンケート結果	94%	87%	90%	85%	72%	－
④列品解説（ギャラリートーク等）	41回	41回	43回	41回	101回	101回
	3,088人	3,286人	3,328人	3,055人	3,934人	4,774人
⑤教育的イベント	－	－	－	5回	56回	43回
	－	－	－	6,525人	1,501人	6,917人
京都国立博物館						
①土曜講座	46回	44回	46回	47回	45回	36回
	5,074人	4,975人	4,989人	4,827人	4,329人	3,254人
アンケート結果	86%	87%	84%	84%	81%	82%
②夏期講座	3日	3日	3日	3日	3日	3日
	185人	184人	192人	153人	160人	159人
アンケート結果	94%	91%	86%	94%	88%	95%
奈良国立博物館						
①特別展等講座	20回	19回	16回	12回	15回	19回
	2,867人	2,947人	2,263人	1,586人	1,943人	2,706人
アンケート結果	－	82%	85%	86.3%	87.0%	90.0%
②夏期講座	3日	3日	3日	3日	3日	3日
	331人	434人	328人	486人	358人	362人
アンケート結果	－	82.5%	81%	93%	84%	90%
③ギャラリートーク	16回	16回	16回	12回	12回	12回
	893人	692人	951人	671人	648人	587
九州国立博物館						
①開館記念講演及びシンポジウム		4回	4回	6回	1回	6回
	－	1,350人	1,350人	1,280人	316人	1,555人
アンケート結果	－	－%	－%	－%	-%	-%
②特別展記念講演会	－	2回	2回	12回	7回	11回
	－	550人	550人	2,153人	1,892人	2,670人
アンケート結果	－	－%	－%	－%	-%	-%
③特別展連続講座	－	4回	4回	0回	0回	0回
	－	595人	595人	－人	-人	-人
アンケート結果	－	第4回 81.3%	81.3%	－%	-%	-%
④ミュージアム講座	－	3回	3回	11回	11回	2回
（教育講座アジアージュ）	－	349人	349人	1,255人	640人	186人
アンケート結果	－	第3回 86.9%	86.9%	－%	-%	-%
⑤ミュージアムトーク	－	66回	66回	47回	42回	37回
	－	2,411人	2,411人	1,806人	1,320人	1,096人
○友の会会員を中心とした講演会						
東京国立博物館	3回	6回	3回	1回	1回	1回
奈良国立博物館	1回	1回	1回	1回	1回	1回
○大学生等の受入件数						
奈良国立博物館						
①放送大学の面接授業	6回	4回	4回	2回	2回	2回
	各150名	各170名	154人	160人	150人	178人
②奈良女子大学との連携講座	大学院生7人	大学院生1人	大学院生3人	大学院生2人	216人	5人
③神戸大学との連携講座	－	大学院生6人	大学院生6人	大学院生2人	10人	10人
九州国立博物館						
①放送大学の面接授業				2回	2回	2回
	－	－	－	50人	34人	37人
○公私立博物館・美術館等への援助・助言回数						
東京国立博物館	51件	45件	40件	56件	124件	134件
京都国立博物館	9件	32件	12件	28件	81件	114件
奈良国立博物館	2件	3件	5件	7件	5件	5件
九州国立博物館	16件	46件	12件	57件	38件	47件

※平成16年度東京国立博物館実績の文字データについてはデジタル化する形式を見直し、既存のSGMLデータすべてについて、現行通用するXMLデータに変換する作業を行ったため、文字のデジタル化は行わなかった。

②児童生徒を対象とした教育普及事業

【東京国立博物館】

1) みどりのライオンプロジェクト

開催期間	4月1日～平成21年3月31日（6月2日～6月16日は移設のため休室）
開催場所	～6月1日：表慶館「出会いの間」「体験の間」「対話の間」「創作の間」「探求の間」 6月17日～：本館20室
入場者数	105,036人（表慶館入館者数および本館入場者数）
担当研究員数	7人
事業内容	みんなで楽しむ教育普及スペース「みどりのライオン」を運営。パネル展示により館全体のガイダンス機能をもたせるとともに、各種レクチャーや体験型プログラム、製作工程模型展示などを児童生徒から一般まで幅広い層に向けて展開。博物館へのアプローチから作品の鑑賞を深めるためのプログラムまで、伝統文化の理解促進に寄与するさまざまな教育普及活動を実施した。6月17日より本館20室にて開催。

2)「親と子のギャラリー」

「博物館の水族館」		
開催期間	6月25日～8月31日（68日間）	
開催場所	平成館企画展示室	
入場者数	135,451人（本館入館者数）	
担当研究員数	3人	
事業内容	家族での来館者を対象にした夏休み企画「親と子のギャラリー」。「博物館の水族館」と題して、収蔵品の中から魚・エビ・カニなど、水の生き物に関連する作品を集めて展示した。水族館で魚を見るような、楽しく、親しみやすい空間をつくり、いままで古美術鑑賞にあまり触れたことのない人でも気軽に自由に鑑賞できるようにした。	
ワークショップ及び関連事業	ファミリーワークショップ「動くおもちゃ自在エビを作ってみよう」（事前申込制）	
	期　　間	8月11日、8月12日
	開催場所	表慶館みどりのライオン「創作の間」
	参加者数	47人（20組）
	担当研究員数	3人

3) 体験型プログラムの実施

①平常展示関連体験型プログラム

ハンズオン体験型プログラム	「魔鏡の不思議」	
	期　　間	19年10月2日～20年6月1日
	開催場所	表慶館みどりのライオン「体験の間」
	参加者数	20,914人
ハンズオン体験型プログラム	平常陳列「暮らしの調度」（本館8室）関連「わたしの鏡」	
	期　　間	20年1月16日～20年4月20日
	開催場所	表慶館みどりのライオン「体験の間」
	参加者数	7,788人
ハンズオン体験型プログラム	特集陳列「博物図譜 － 日本的研究の展開－ 」（本館17室）　関連「博物図譜の動物・植物検索コーナー」	
	期　　間	4月1日～5月25日
	開催場所	表慶館みどりのライオン「体験の間」
	参加者数	4,745人
ハンズオン体験型プログラム	平常陳列「暮らしの調度」関連「日本のもようでデザインしよう」	
	期　　間	6月17日～21年3月31日
	開催場所	本館20室、表慶館みどりのライオン「体験の間」
	参加者数	68,700人
ハンズオン体験型プログラム	特集陳列「豊かな実りを祈る－ 美術のなかの牛とひと－ 」（本館特別1室） 関連「東博牛めぐり＆掛軸カレンダー」	
	期　　間	21年1月2日～1月4日
	開催場所	本館20室
	参加者数	2,230人

②制作工程模型展示

ハンズオン体験型プログラム	「押出仏ができるまで」	
	期　　間	20年2月26日～21年1月12日（6月2日～12日は移設のため中断）
	開催場所	表慶館みどりのライオン「体験の間」、本館20室
	参加者数	56,681人

ハンズオン体験型プログラム	「裏彩色(うらざいしき) - 隠れた色彩の効果- 」	
	期　　間	21年1月14日～3月29日
	開催場所	本館20室
	参加者数	11,868人

③ワークショップ

ワークショップ及び関連事業	特集陳列「博物図譜 - 日本的研究の展開- 」（本館17室）関連「ファミリーワークショップ・家族で作る博物図譜(昔の図鑑)」（事前申込制）	
	期　　間	4月19日、4月20日
	開催場所	表慶館みどりのライオン「創作の間」
	参加者数	44人（16組）
	担当研究員数	2人
ワークショップ及び関連事業	日本美術の流れ「暮らしの調度」（本館8室）関連「ファミリーワークショップ・貝合せを作って貝合せに挑戦」（事前申込制）	
	期　　間	10月27日、10月28日
	開催場所	小講堂
	参加者数	42人（16組）
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	特集陳列「茶人好みのデザイン- 彦根更紗と景徳鎮」(平成館企画展示室)関連「一般向けワークショップ・更紗模のオリジナル皿を作ってみよう」（事前申込制）	
	期　　間	9月18日、9月19日
	開催場所	小講堂
	参加者数	41人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	日本美術の流れ「暮らしの調度」（本館8室） 関連「一般向けワークショップ・貝合せを作ってみよう」（事前申込制）	
	期　　間	10月16日
	開催場所	小講堂
	参加者数	19人
	担当研究員数	2人
ワークショップ及び関連事業	日本美術の流れ「暮らしの調度」（本館8室） 関連「イブニングワークショップ・貝合せを作ってみよう」（事前申込制）	
	期　　間	10月17日
	開催場所	小講堂
	参加者数	19人
	担当研究員数	2人
ワークショップ及び関連事業	特集陳列「装飾料紙と鑑賞料紙」（本館特別1室） 関連「一般向けワークショップ・唐紙もようのオリジナル料紙を作ってみよう」（事前申込制）	
	期　　間	11月7日・12月13日
	開催場所	小講堂
	参加者数	40人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	特集陳列「装飾料紙と鑑賞料紙」(本館特別1室) 関連「ファミリーワークショップ・唐紙を摺って散らし書きに挑戦！」（事前申込制）	
	期　　間	12月13日・12月14日
	開催場所	小講堂
	参加者数	24人
	担当研究員数	3人

④特別展関連体験型プログラム

ハンズオン体験型プログラム	特別展「フランスが夢見た日本- 陶器に写した北斎、広重」 関連「中学生のためのワークショップ・浮世絵デザインのお皿をつくろう！」	
	期　　間	7月20日、7月21日
	開催場所	表慶館みどりのライオン「創作の間」
	参加者数	37人

3) 東博スクールプログラム

期　　間	年間
開催場所	全館対象

参加者数	小学校15校、766人／中学校79校、3,089人／高校34校、1,885人／中高一貫5校117人　　計5,857人
担当研究員数	2人
事業内容	総合的な学習などで児童生徒学生を受け入れる。伝統文化理解のための鑑賞教育や就業体験を実施した。プログラム内容を説明した教員向けのパンフレットも近隣県の学校へ配布した。

4)高等学校との連携教育実施

期　　間	5月25日、7月24日、9月6日
開催場所	全館対象
参加者数	15人(連携校10人、一般公募5人)
担当研究員数	3人
事業内容	単位制の都立高等学校との連携プログラム。20年度より広く一般の高校からも受講者を募集した。保存修復をテーマとした展示鑑賞、保存修復の現場見学、発表。

【京都国立博物館】

1) 少年少女博物館くらぶ

事業名：坂本龍馬を知ろう！	
実施日	7月26日
対象	小学生から中学生
参加者数	24人（うち子ども8人）

2) 博物館Ｄｉｃｔｉｏｎａｒｙの発行　8回

・発行部数　40,000部（1月5,000部）
・配 布 先　京都市内小中学校、館内観覧者等

【奈良国立博物館】

1) 小中学生を対象に特別展の入場料金無料

2) 修学旅行生等を対象とした文化財の案内・説明資料等の作成と解説

・期間，場所　開館中随時，展示会場・講堂
・団体申込数　63件
・担当研究員数　3人
・事業内容　解説ボランティアによる展示作品の解説及び課題学習等への対応

3) 世界遺産学習への対応

・期間　4月～21年3月　事前申し込み制
・対応実績　奈良市内の小学校36校　(5年生の全クラスを対象)
・担当研究員数　3人
・事業内容　奈良市教育委員会との共同で、市内の全小学校5年生を対象に、世界遺産「奈良」を通して歴史や文化への愛着を育み、未来に伝え残すことの重要性を学んでもらう。解説ボランティアによる「世界遺産学習」プログラム（スライド解説と実際の仏像を前にした観賞など）を1時間程度で実施する。

4) 子ども向け音声ガイドの制作

・特別展「第60回正倉院展」で制作、892台の利用があった。

【九州国立博物館】

1) 博物館における体験型事業の充実

① 体験型展示室「あじっぱ」で活用する様々な教育キットの開発

体験型キットの開発・展開	
内容	「あじっぱ」の展示に関する理解を促進するための体験型キットの開発 ①ＢＯＸキット：「旧石器・縄文かるた」「弥生・古墳かるた」「遣唐使すごろく」「縄文サバイバルゲーム」「紋切り遊び」 ②あじ庵：中国の吉祥文様、ベトナムの水上人形・ぬりえ・着せ替え
対象	こどもおよび親子連れを中心とした来館者全般
人数	定員なし
実施	開館時は常時開放

② 幅広い層に向け体験活動の促進を図るため、教育活動の場を提供
〇夏休みこども向けイベント「行こうよ！あじっぱ夏祭り」（7月19日～8月1日）

③ 博物館の諸活動を体験できるプログラムの開発

なりきり学芸員体験	
内容	「あじっぱ」において、学芸員の仕事の一部を40～50分で体験するワークショップ。収蔵棚から文化財に見立てた資料を選び、実際に手にとって観察し、調査カードを作成し、展示ケースに展示する。
対象	小学校中学年以上
人数	1回につき最大8名
実施	ボランティアによる司会進行が可能になり、ホームページで告知して実施することができた。

④ アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムの開発

体験型展示室「あじっぱ」の運営	
内容	日本と古くから交流のあるアジア・ヨーロッパ7ヵ国の文物を屋台風に展示、資料を実際に使用する・制作する等の体験をとおして素材やデザイン、用途などにおける国相互の類似性や相違性を体感する。
対象	こどもおよび親子連れを中心とした来館者全般
人数	最大収容可能人数約80人
実施	開館時は常時開放
「アートワゴン」の展開	
内容	展示資料に関連のある内容のペーパークラフト材料を可動式ワゴンに搭載してエントランスホールに出向き、来館者に制作の機会と場を提供する。
対象	子どもおよび親子連れを中心とした来館者全般
人数	1回につき約20名
実施	夏休みこども向けイベントの１プログラムとして、夏休みに「ハーリー船をつくろう」を２日間実施

2) 家族向けに平常展を利用したＰＤＡ（携帯情報端末）によるプログラムの開発

文化交流展示室におけるＰＤＡ機器の開発	
ＰＤＡ機種導入の目的・方針	・最新のメディア機器を用いて、より豊かな博物館体験を提供する。 ・ＰＤＡの映像を通して研究員による解説と作品の背景がわかる動画を楽しめる。 ・操作性が簡易であること、展示替えに応じてコンテンツを館内で更新できる機種を採用する予定。
制作および運営方法調査	林原自然科学博物館、国立科学博物館、東京都現代美術館を視察
導入機種の検討	現在2機種を候補としている。コンテンツに関するヒヤリングを進める。

3) 学校教育との連携事業の実施

① ジュニア学芸員（高校生）による教育プログラムの開発

ジュニア学芸員活動	
内容	博物館に関心のある高校生が、学芸員による講話や演習を体験することで、博物館の活動を理解するとともに、自らの進路や職業を考える機会を提供する。
人数	7校19名
実施	11月～12月の日曜日に中心に4回

〇筑紫中央高校太宰府臨場研修（11月5日）
〇筑紫高校1年生総合学習（11月13日）
〇祐誠高校インターンシップ（7月23日～25日）
〇長崎県立壱岐高校原の辻歴史文化コース歴史学専攻巡検（7月26日）
※中学生の職場体験（学業院中学校、太宰府西中学校、太宰府東中学校、宮竹中学校、久山中学校）

② 教員との交流の場を設け、活動の情報を発信できるようにする
〇特別展「島津の国宝と篤姫の時代」教員対象内覧会の実施（7月11日）
〇特別展「国宝　天神さま」教員対象内覧会（9月22日）
〇博物館利用の促進を図るため、教員研修の場の設置
・福岡県教育センター・キャリアアップ講座（6月20日）、福岡県高等学校歴史研究会研修（5月22日）、福岡県高等学校日本史研究会研修（10月8日）、春日市立須玖小学校教員研修会（8月1日）、糟屋地区小学校社会科研究会夏季研修会（8月6日）

③学校貸出キット「きゅうぱっく」の運用
〇キッズデザイン博2008（8月5日～8月10日）
〇福岡フレンド少年少女合唱団（8月24日）
〇アジアマンス（10月9日～10月13日）

小学校	6
中学校	2
高等学校	2
＊社会教育施設・その他	3

＊「社会教育施設・その他」は以下の3つを指す。
・キッズデザイン博2008（8/5～8/10）
・福岡フレンド少年少女合唱団（8/24）
・アジアマンス（10/9～10/13）

※なお、キッズデザイン博2008において、「第2回キッズデザイン部門賞（ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝﾃﾞｻﾞｲﾝ部門）」を受賞。

③大学等との連携

1)インターンシップ

【東京国立博物館】

受入期間	7月29日～21年3月31日
開催場所	全館
参加者数	25人（18大学）
担当研究員数	23人
事業内容	教育普及室・教育講座室・デザイン室・情報管理室・図書・映像サービス室・平常展調整室・絵画・彫刻室・東洋室・保存修復課・上席研究員を対象に18大学からインターンの受け入れを行った。

【九州国立博物館】

受入期間	21年3月2日～3月6日（5日間）
受入部門	交流課
参加者数	5人
担当研究員数	6人

2)放送大学の面接授業の実施

【奈良国立博物館】

実施期間	21年2月9,10日
開催場所	講堂
参加者数	178人

【九州国立博物館】

実施期間	21年1月10日・11日
開催場所	研修室
参加者数	37人

3)大学生及び教育関連機関等の見学対応

【東京国立博物館】

期　　間	年間
開催場所	全館対象
参加者数	18件（大学11件、536人／専門学校4件、115名／教育関連機関等3件212人　計863人）
担当研究員数	2人
事業内容	博物館リテラシーも含めた東京国立博物館の紹介スライドショーや古美術品の展示解説など

4)東京芸術大学学生ボランティア

【東京国立博物館】

期　　間	ギャラリートーク班　　前期：9月3日～11月12日(27回)　後期：21年1月6日～3月1日（30回） 制作工程模型作成班ギャラリートーク　　21年2月17･19･21･22･25日（5回）
開催場所	当館展示室内ほか
参加者数	ギャラリートーク班　　ボランティア6人、聴講者　前期：824人 後期：889人 制作工程模型作成班ギャラリートーク　　ボランティア1人　聴講者165人
担当研究員数	3人
事業内容	東京芸術大学大学院生ギャラリートーク班により入館者に対するギャラリートークを実施。また工程模型作成班により、法隆寺献納宝物押出仏「阿弥陀如来及び僧形像」の6工程の制作工程模型の制作、それに係るギャラリートークを実施。

5)教員鑑賞会の実施

【東京国立博物館】

期　　間	①7月11日（対決展）、②10月10日（金）（琳派展）
開催場所	①平成館2階特別展会場及び平成館1階ガイダンスルーム ②平成館2階特別展会場及び平成館1階ガイダンスルーム
参加者数	①448人、②420人
担当研究員数	3人
事業内容	学校との連携を考慮した教員を対象のプログラム。特別展の観覧、解説を実施し、指導要領と関連した授業案を配布した。

【九州国立博物館】

期　　間	①7月11日、②9月22日
開催場所	①ミュージアムホール及特別展会場　②研修室
参加者数	①31人　②53人
担当研究員数	2人
事業内容	学校との連携を考慮した教員を対象のプログラム。特別展の観覧、解説を実施した。

6) 全国高等学校美術・工芸教育研究会との連携事業の実施（共催：東京藝術大学）

【東京国立博物館】

期　　間	7月30日～8月1日
開催場所	本館展示室、会議室／東京藝術大学
参加者数	37人

担当研究員数	4人
事業内容	全国の高等学校で美術、工芸の授業を担当している教員を対象。研修を通じて伝統美術や工芸に対する理解を深めてもらう。第5回目として「日本の陶磁」をテーマに博物館では歴史と鑑賞を、大学では実技を実施した。

7)大学等との連携講座

【京都国立博物館】

京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座の実施

実施日	通年
開催場所	当館
受入人数	5人
担当研究員数	4人

【奈良国立博物館】

大 学 名	奈良女子大学
実施期間	通年
開催場所	奈良女子大学、奈良国立博物館
参加者数	5人
担当研究員数	1人

大 学 名	神戸大学(大学院文化学研究科)
実施期間	通年
開催場所	神戸大学、奈良国立博物館
参加者数	10人
担当研究員数	2人

【九州国立博物館】

実施期間	4月11日、4月18日、5月23日、6月13日、6月20日、6月27日、7月11日、7月18日、8月22日、8月29日、9月12日、10月10日、10月24日、11月14日、11月28日、12月19日、21年1月16日、1月23日、2月13日、2月20日、3月6日、3月13日
開催場所	九州国立博物館1階エントランスホール　オープンカフェ
参加者数	毎回6名程度
内　　容	カフェコンサート。福岡女子短期大学の学生によるピアノ演奏

8) 京都橘大学との教育提携・学術交流

【京都国立博物館】

実施期間	通年
開催場所	京都国立博物館
参加者数	24人
担当研究員数	1人

9) 筑紫女学園大学の指導によるガムランワークショップの定期的な開催

【九州国立博物館】

実 施 日	5月24日（土）、6月21日（土）、7月12日（土）、10月11日（土）、12月20日（土）、21年1月17日（土）、3月1日（日）
開催場所	九州国立博物館・ミュージアムホールもしくはエントランスホール
参加者数	毎回約20名程度
内　　容	筑紫女学園大学のガムラン部の准教授と学生の指導で、ジャワの伝統的な楽器であるガムランの演奏を体験するワークショップ。事前申込の一般市民ほか当日の参加も可能。12月20日には、インドネシアからプロの演奏家を招いて、ミニコンサートも実施。

10) 教育センターキャリアアップ講座

【九州国立博物館】

実 施 日	6月20日（金）
開催場所	研修室・文化交流展示室
参加者数	小学校教員20名・中学校教員20名
内　　容	福岡県教育センターとの協働で、小・中学校の教員を対象に「キャリアアップ講座」を実施。学校貸出キット「きゅうぱっく」を体験。その後、文化交流展示室・「あじっぱ」を見学し、「博物館を活用した社会科の授業づくり」のという学習指導案を作成。

11)キャンパスメンバーズ

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
29校	29校（※）	25校（※）	22校

※うち京都・奈良共通加入16 校

【東京国立博物館】

①加入校数（29校）

	学校名	対象人数（うち学生数）	備考（入会日）
1	桜美林大学	9,100　(8,239)　人	2008/4/1
2	武蔵野美術大学	8,535　(7,779)　人	2008/4/1
3	文化学園（文化女子大学，文化ファッション大学院大学,文化女子大学短期大学部，文化女子大学室蘭短期大学,文化服装学院，文化外国語専門学校）	11,104　(10,389)　人	2008/4/1

	学校名	対象人数（うち学生数）	備考（入会日）
4	東京学芸大学	7,062 (6,351) 人	2008/4/1
5	東京芸術大学	4,401 (3,338) 人	2008/4/1
6	東京大学	32,565 (28,643) 人	2008/4/1
7	お茶の水女子大学	3,624 (3,277) 人	2008/4/1
8	杉野学園（杉野服飾大学,杉野服飾大学短期大学部,ドレスメーカー学院）	2,057 (1,882) 人	2008/4/1
9	大正大学	4,901 (4,567) 人	2008/4/1
10	東海大学	35,248 (31,880) 人	2008/4/1
11	東京歯科大学	1,968 (1,217) 人	2008/4/1
12	青山学院大学	21,337 (20,190) 人	2008/4/1
13	ハリウッド美容専門学校	1,130 (1,040) 人	2008/4/1
14	成蹊大学（文学部）	2,084 (2,040) 人	2008/4/1
15	多摩美術大学	5,331 (4,789) 人	2008/4/1
16	立教大学	18,714 (18,232) 人	2008/4/1
17	東京工業大学	12,018 (10,259) 人	2008/4/1
18	首都大学東京	9,536 (8,862) 人	2008/4/1
19	女子美術大学	4,337 (3,545) 人	2008/4/1
20	東京造形大学	2,028 (1,970) 人	2008/4/1
21	法政大学	42,580 (39,652) 人	2008/4/1
22	筑波大学	17,907 (16,241) 人	2008/4/1
23	昭和女子大学	5,339 (5,015) 人	2008/4/1
24	実践女子大学（文学部・文学研究科）	1,678 (1,573) 人	2008/5/1
25	東洋大学	30,076 (29,498) 人	2008/6/1
26	東洋美術学校	1,120 (871) 人	2008/6/1
27	日本大学（芸術学部）	4,948 (4,430) 人	2008/6/1
28	文教大学	8,982 (8,699) 人	2008/7/1
29	上智学院（上智大学、上智短期大学、上智社会福祉専門学校）	13,656 (13,126) 人	2008/10/1

②キャンパスメンバーズを対象とした事業

事業名：キャンパスメンバーズ博物館セミナー	
期　間	9月7・18・21日（各日1回、計3回実施）
開催場所	平成館大講堂
参加者数	58人
担当研究員数	6人
事業内容	キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の歴史、保存修復、博物館情報、教育普及事業等について当館の職員が実例を交えた解説を実施。
事業名：キャンパスメンバーズ教育連携事業	
期　間	9月11～14・19～20日（6日間）
開催場所	全館
参加者数	7人
担当研究員数	10人
事業内容	キャンパスメンバーズ加入校の学芸員志望学生を対象として、作品の取り扱いを含む博物館実務全般について演習・実習の形式により体験的講座を実施。

【京都国立博物館】

①加入校数（29校）

	学校名	学生数	入会日	入会内容	申請場所	備考
1	佛教大学	24,265人	4月1日	奈良博との2館併用	京博	通信教育部含む
2	奈良教育大学	1,453人	4月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
3	就実大学	1,106人	4月1日	奈良博との2館併用	京博	人文科学部のみ
4	同志社大学	25,882人	4月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
5	奈良大学	4,442人	5月1日	奈良博との2館併用	奈良博	通信教育部含む
6	京都ノートルダム女子大学	1,728人	5月1日	京博のみ	京博	
7	実践女子大学	1,573人	5月1日	奈良博と２館併用	奈良博	文学研究科を含む
8	京都伝統工芸大学校	433人	5月1日	奈良博と２館併用	奈良博	
9	帝塚山大学	6,585人	6月1日	奈良博との2館併用	奈良博	高等学校含む
10	奈良女子大学	2,896人	6月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
11	京都造形芸術大学	8,820人	6月1日	京博のみ	京博	通信教育部含む
12	京都工芸繊維大学	4,175人	6月1日	奈良博との2館併用	京博	
13	大阪成蹊大学	801人	6月1日	奈良博との2館併用	奈良博	芸術学部のみ
14	種智院大学	459人	7月1日	奈良博との2館併用	京博	
15	京都嵯峨芸術大学	1,196人	7月1日	奈良博との2館併用	京博	短期大学部含む
16	京都精華大学	4,287人	7月1日	奈良博との2館併用	京博	正規生のみ
17	龍谷大学	19,790人	7月1日	奈良博との2館併用	京博	
18	京都女子大学	7,632人	7月1日	京博のみ	京博	高等学校含む
19	京都橘大学	2,829人	7月1日	奈良博との2館併用	京博	正規生のみ
20	京都教育大学	1,999人	7月1日	奈良博との2館併用	京博	高等学校含む

	学校名	学生数	入会日	入会内容	申請場所	備考
21	成安造形大学	1,192人	8月1日	京博のみ	京博	正規生のみ
22	京都市立芸術大学	1,056人	8月1日	京博のみ	京博	正規生及び研究生等
23	京都大学	23,207人	9月1日	奈良博との2館併用	京博	京都アメリカ大学コンソーシアムより受入の学生を含む
24	近畿大学	2,334人	9月1日	奈良博との2館併用	奈良博	文芸学部のみ
25	畿央大学	1,372人	10月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
26	花園大学	2,360人	11月1日	京博のみ	京博	
27	奈良先端科学技術大学院大学	1,043人	12月1日	奈良博との2館併用	奈良博	正規生及び研究生等
28	大谷大学	4,230人	12月1日	京博のみ	京博	短期大学部含む
29	大阪大学	25,353人	12月1日	奈良博との2館併用	奈良博	

【奈良国立博物館】

①加入校数（25校）

	学校名	学生数	備考
1	奈良産業大学（奈良文化女子短期大学附属高等学校、奈良学園高等学校）	2,081 人	当館の 1 館利用
2	奈良佐保短期大学	460人	〃
3	天理大学	3,522人	〃
4	奈良教育大学	1,455人	京都国立博物館との2館利用
5	帝塚山大学	6,457人	〃
6	奈良女子大学	2,915人	〃
7	京都嵯峨芸術大学	1,196人	〃
8	京都精華大学	4,287人	〃
9	京都橘大学	2,829人	〃
10	龍谷大学	19,790人	〃
11	京都大学	23,207人	〃
12	近畿大学　文芸学部	2,334人	〃
13	佛教大学	22,698人	〃
14	奈良大学	4,442人	〃
15	京都工芸繊維大学	4,175人	〃
16	同志社大学	801人	〃
17	大阪成蹊大学 芸術学部	4,537人	〃
18	種智院大学	459人	〃
19	奈良先端科学技術大学院大学	1,043人	〃
20	就実大学　人文科学部	1,109人	〃
21	実践女子大学　文学部	1,573人	〃
22	京都伝統工芸大学校	433人	〃
23	京都教育大学	2,626人	〃
24	畿央大学	1,372人	〃
25	大阪大学	25,353人	〃

【九州国立博物館】

①加入校数（22校）

	学校名	学生数	備考
1	九州大学	19,036人	
2	九州産業大学	12,592人	
3	久留米大学	7,756人	
4	サイバー大学	525人	
5	西南学院大学	7,965人	
6	筑紫女学園大学	2,770人	
7	福岡大学	20,704人	
8	福岡教育大学	3,294人	
9	福岡国際大学	550人	
10	放送大学福岡学習センター	2,348人	
11	早稲田大学大学院情報生産システム研究科（北九州キャンパス）	443人	
12	九州造形短期大学	336人	
13	筑紫女学園短期大学部	492人	
14	福岡女子短期大学	639人	
15	久留米大学医学部附属臨床検査専門学校	138人	
16	福岡大学附属看護専門学校	137人	
17	久留米大学附設高等学校	614人	
18	西南学院高等学校	1,366人	
19	筑紫女学園高等学校	1,859人	
20	筑紫台高等学校	1,512人	
21	東福岡高等学校	2,303人	
22	福岡大学附属大濠高等学校	1,938人	

④講座・講演会等の開催実績

	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
回数・人数	**175回・19,249人** 講演会29回・7,134人 連続講座1回（3日）・356人 公開講座1回・68人 列品解説（ギャラリートーク等） 101回・4,774人 その他教育的イベント等 43回・6,917人	**39回・3,413人** 土曜講座36回・3,254人 夏期講座3日・159人	**34回・3,655人** 公開講座19回・2,706人 夏季講座3日・362人 サンデートーク12回 ・587人	**56回・5,507人** 特別展記念講演会11回・2,670人 教育講座アジアージュ 2回・186人 ミュージアムトーク 37回・1,096人 講演及びシンポジウム 6回・1,555人

【東京国立博物館】

1）講演会29回　参加者総数7,134人

①月例講演会 12回　参加者数2,008人

開催日	テーマ 講師等	参加者数	担当研究員数	″良い″の割合
4月26日	平成20年新指定国宝・重要文化財について 講師：岩佐光晴氏（文化庁美術学芸課主任文化財調査官）・池田寿氏（文化庁美術学芸課主任文化財調査官）	115人	2人	79.60%
5月17日	東京国立博物館のはじまりの日々～博覧会・美術館・動物園 講師：木下直之氏（東京大学教授）	170人	2人	80.40%
6月21日	埴輪猿を出土した常陸大日塚古墳の特色とその年代 講師：大塚初重氏（明治大学名誉教授）	150人	2人	90.30%
7月26日	漆芸からみえる沖縄のすがた 講師：宮里正子氏（那覇市歴史博物館主幹）	78人	2人	79.54%
8月30日	東博所蔵資料から見た三角縁神獣鏡製作地論争 講師：福永伸哉氏（大阪大学大学院教授）	204人	2人	86.66%
9月20日	三館合同企画　更紗を語る 講師：小笠原小枝氏（日本女子大学教授）、三笠景子（保存修復室研究員）、佐藤留実（五島美術館）、田中知佐子（大倉集古館）、澤田むつ代（上席研究員）	339人	4人	75.50%
10月25日	刀剣鑑賞入門―刀の見方、楽しみ方― 講師：原田一敏（上席研究員）	204人	3人	83.57%
11月8日	東博所蔵舶載洋書にみる幕末維新期の洋学 講師：松田清氏（京都大学大学院人間・環境学研究科教授）	82人	2人	80.00%
12月13日	仮名手本忠臣蔵をめぐる、歌舞伎とっておきの話 講師：関容子氏（エッセイスト）	223人	2人	81.44%
21年 1月31日	繊細華麗なインド細密画の世界 講師：肥塚隆（大阪人間科学大学/大阪薫英女子短期大学学長）	147人	2人	85.48%
21年 2月21日	仏涅槃図について―東京国立博物館本を中心に― 講師：小林達朗（絵画・彫刻室主任研究員）	218人	3人	79.3%
21年 3月14日	画家の手紙 講師：松原茂（根津美術館学芸部長）	78人	2人	80.00%

②テーマ講演会全2回　参加者数717人

開催日	テーマ 講師等	参加者数	担当研究員数	″良い″の割合
8月23日	10世紀の仏像と六波羅蜜寺　　講師：伊東史朗氏（京都国立博物館名誉館員）	365人	2人	78.28%
9月6日	足利樺崎寺と大日如来像、そして運慶 講師：山本勉氏（清泉女子大学教授）、大澤伸啓氏（足利市教育委員会文化課主幹）	352人	2人	86.99%

③記念講演会　15回　参加者数4,409人

開催日	テーマ 講師等	参加者数	担当研究員数	″良い″の割合
4月12日	奈良で映画をつくり続けて　　講師：河瀬直美氏（映画監督） 薬師寺創建の精神とまほろば　講師：安田暎胤師（薬師寺管主）	340人	2人	70.32%
4月19日	薬師寺 飛鳥から平城へ　　講師：東野治之氏（奈良大学教授） 薬師寺－1300年の歴史と文化－　講師：山田法胤師（薬師寺副住職）	360人	2人	87.08%
5月10日	薬師寺薬師三尊像について－初期律令国家の理想仏－ 講師：金子啓明（特任研究員） 薬師寺－1300年の歴史と文化－　講師：山田法胤師（薬師寺副住職）	324人	2人	86.99%
5月24日	薬師寺建築―裳階の美　　講師：藤井恵介氏（東京大学大学院准教授） 藤原京薬師寺から平城京薬師寺へ　　講師：松久保秀胤師（薬師寺長老）	345人	2人	81.15%
7月12日	記念シンポジウム　フランスのジャポニスム―陶磁器を中心に―	292人	2人	81.91%
7月19日	放談　巨匠対決 出席：河野元昭氏（『國華』主幹、尚美学園大学教授、秋田県立近代美術館館長）・水尾	348人	3人	85.00%

開催日	テーマ 講師等	参加者数	担当 研究員数	″良い″ の割合
	比呂志氏（『國華』名誉顧問、武蔵野美術大学名誉教授）・小林忠氏（『國華』編集委員、学習院大学教授、千葉市美術館館長）、司会：松原茂（上席研究員）			
8月2日	美と個性の対決 講師：辻惟雄氏（『國華』名誉主幹、美術史家、MIHO MUSEUM館長）	355人	2人	80.19%
10月4日	スリランカの歴史と文化　講師：小泉惠英（平常展調整室長）	216人	3人	86.36%
10月29日	記念座談会　琳派の美を語る 出演：坂東玉三郎氏（歌舞伎俳優）、細見良行氏（細見美術館館長）、田沢裕賀（当館絵画・彫刻室長）	321人	3人	統計なし
11月15日	スリランカの文化遺産　ローランド・シルワ氏（国際記念遺跡会議名誉委員長）	166人	2人	67.16%
21年 1月12日	私にとっての福澤諭吉 講師：福澤武氏（慶應義塾評議員会議長・三菱地所株式会社相談役） 福澤諭吉の公共性の哲学 講師：猪木武徳氏（国際日本文化研究センター所長）	273人	2人	82.49%
21年 1月18日	古墳時代金属器の修理・模造と復元 出演：押元信幸氏（金工作家・川口短期大学こども学科専任講師）、依田香桃美氏（金工作家・Lemi's Metalwork Studio主宰）、鈴木勉氏（早稲田大学非常勤講師・奈良県立橿原考古学研究所共同研究員）、古谷毅（当館工芸・考古室長）	106人	3人	82.63%
21年 1月24日	禅の絵画　講師：福島恒徳氏（花園大学文学部文化遺産学科教授） 賊機あり　講師：阿部浩三老師（臨済寺専門道場師家・花園大学学長）	322人	2人	80.86%
21年 2月7日	同床異夢の教育- 福澤諭吉と近代日本の教育 講師：米山光儀氏（慶應義塾福澤研究センター所長） 福澤門下の美術コレクション 講師：鷲塚泰光氏（前奈良国立博物館長）	274人	1人	82.94%
21年 2月14日	近世前期妙心寺派墨蹟の魅力 講師：丸山猶計（特別展室研究員） 禅について 講師：松原哲明師（臨済宗妙心寺派龍源寺住職）	367人	2人	―

2) 連続講座「琳派芸術の基底」　1回（3日）　参加者総数356人

開催日	テーマ 講師等	参加者数	担当 研究員数	″良い″の 割合
10月11日	継承の美―光琳の果たした役割―　講師：田沢裕賀（絵画・彫刻室長）	356人	3人	80.98%
10月12日	琳派の誕生　講師：中部義隆氏（大和文華館） 描くことと作ること―琳派と工芸―　講師：竹内奈美子（特別展室主任研究員）		3人	
10月13日	酒井抱一と江戸文化　講師：岡野智子氏（細見美術館） 総合討論		4人	

3) 公開講座　1回　参加者総数68人

①イブニングレクチャー　1回　参加者数　68人

開催日	題目・講師等	参加者数	担当 研究員数	“良い”の 割合
8月12日	夜の博物館でさかなクンと会おう 出演：さかなクン、加島勝（博物館教育課長）	68人	3人	統計なし

4) 列品解説（ギャラリートーク等）101回　参加者総数 4,774人

①列品解説　39回

・参加者総数 2,896人

・担当研究員数　延べ39人

・事業内容　各展示室にて担当の研究員が作品に関する解説を行った。（原則として毎週火曜日の午後2時より約30分間）

②東京芸術大学学生ボランティアによるギャラリートーク 62回　参加者総数 1,878人

5) 教育的イベント　1回　参加人数　530人

開催日	題目・講師等	実施回数	参加者数	担当 研究員数
8月1日	ワヤン「クレスノ使者に立つ」　出演：日本ワヤン協会	1回	530人	2人

6) その他　42回　参加者総数　6,387人

開催日	題目・講師等	実施回数	参加者数	担当 研究員数
4月4日	夜桜コンサート　出演：ヴォクスマーナ	1回	374人	2人
4月11日、25日	薬師寺展記念トークショー 出演：石井竜也氏（アーティスト）、河村隆一氏（アーティスト）、安田暎胤師（薬師寺管主）	2回	719人	のべ5人
4月11日、25日	薬師寺展記念万燈会	2回	―	のべ2人

開催日	題目・講師等	実施回数	参加者数	担当研究員数
5月18日	3館園連携企画　上野の山でゾウめぐり 講師：小泉惠英（平常展調整室長）	1回	34人	7人
10月3日･17日・31日・11月14日	スリランカ展記念トークショー　　講師：A. ウィッキー氏	4回	629人	のべ12人
11月21日・29日	台東区連携事業　横山大観記念館と瀟湘八景をめぐる 講師：植田彩芳子（特別展研究員）	2回	113人	のべ4人
21年1月22日・29日・2月5日・12日・19日・26日	妙心寺展記念　禅トーク（1日3回）　講師：妙心寺派僧侶	18回	3,150人	のべ2人
21年1月23日・28日・2月4日・11日・18日	妙心寺展記念坐禅会（1日2回）　講師：妙心寺派僧侶	10回	369人	のべ2人
21年2月12・13日	妙心寺展記念　呈茶	2回	999人	のべ4人

【京都国立博物館】

①土曜講座　36回　参加者総数　3,254人

※特別展覧会関連講座　◆特集陳列関連講座

月　日	テーマ	講師	聴講者数（人）
4 月 5 日	◆考古学から見た源氏物語の時代	宮川禎一	62
12 日	※曾祖父・河鍋暁斎	河鍋楠美	176
19 日	※幕末の江戸と暁斎	安村敏信	170
26 日	※暁斎のおもしろさⅠ	狩野博幸	176
5 月 3 日	※暁斎の江戸狩野要素	山下善也	165
10 日	※暁斎のおもしろさⅡ	狩野博幸	176
17 日	山形・熊野神社の神像	淺湫　毅	60
24 日	◆南蛮漆器の大航海	永島明子	49
31 日	◆陳箴の鳥花山水図	西上　実	40
6 月 7 日	◆料紙装飾の美－石山切を中心に－	赤尾栄慶	49
14 日	◆東シナ海を渡った仏具	久保智康	76
21 日	墨跡と鑑定された宸翰	羽田　聡	39
28 日	伝狩野元信筆 大涅槃図について	山本英男	82
7 月 5 日	歴代高橋道八作品研究	尾野喜裕	50
12 日	◆杉本哲郎とインド	大原嘉豊	99
19 日	蒔絵と文学意匠	小松大秀	48
26 日	◆「伏見鳥羽戦争図」をめぐって	宮川禎一	115
8 月 23 日	行海の懐紙	羽田　聡	54
30 日	古代貨幣の謎	村上　隆	61
9 月 6 日	桃山時代の小袖文様における文芸性について　－シカゴ美術館所蔵 小袖より－	山内麻衣子	44
13 日	康尚から定朝へ－仏師の時代のはじまり－	淺湫　毅	98
20 日	道長の建築－寝殿の二間と源氏物語の野分逢瀬－	中村　康	57
27 日	真如堂縁起と掃部助久国	若杉準治	69
10 月 4 日	芥子園画伝と石濤	西上　実	36
11 日	あなたの知らない水墨画	山本英男	92
18 日	※王様と漆―ヨーロッパに渡った日本の蒔絵―	永島明子	106
25 日	※大航海時代と日本漆器　―桃山・江戸初期における国際交易―	山崎　剛	119
11 月 1 日	※伝統的な蒔絵と輸出漆器	小松大秀	99
15 日	※輸出漆器にみる洋風表現	岡　泰正	74
22 日	※明治前期の輸出漆器　―万国博覧会に出品された新古の漆器―	土井久美子	69
29 日	金碧画のルーツ	佐々木丞平	51
12 月 6 日	森田慶一の建築と京都国立博物館の 40 年	中村　康	71
21 年 1 月 17 日	※近世天皇の書	羽田　聡	89
2 月 7 日	※御所をかざった障壁画	山本英男	137
14 日	※飾金具、宮廷に花開く	久保智康	144
28 日	※妙心寺の創建と展開	竹貫元勝	152

② 夏期講座　3日

開講日	テーマ	講師名	参加者数
7月30日	第1講「王朝物語からお伽草紙へ－絵巻享受の広がりと主題の変容－」	若杉準治（列品管理室長）	159 人
	第2講「琉球金工にみる中・日文化の波及と変容」	久保智康（工芸室長）	
	第3講「富士三保松原図の波及と変容」	山下善也（連携協力室長）	
7月31日	第1講「文化財庭園の調査と保存修理―庭園文化の波及と変容―」	仲隆裕（京都造形芸術大学教授）	
	見学「醍醐寺三宝院ほか」		

8月1日	第1講「経典の流布―写経から版経へ―」	赤尾栄慶（企画室長）	
	第2講「バーミヤーンの仏教世界―インド・イラン文化の波及と変容―」	宮治昭（龍谷大学特任教授・静岡県立美術館館長）	
	第3講「極東のアルカディア―近代日本と古代ギリシア―」	丹尾安典（早稲田大学文化構想学部教授）	

【奈良国立博物館】

①公開講座　19回　　参加者総数　2,706人

開催日	テ ー マ	講　師	参加者数
4月19日	「ギリシア・ローマ世界の天馬」	国立西洋美術館長　青柳　正規	87人
4月26日	「古代世界の天馬」	教育室長　吉澤　悟	66人
5月3日	「飛走する天馬像」	馬の博物館学芸部長　末崎　真澄	91人
5月24日	「仏教と天馬」	学芸部長補佐　内藤　榮	104人
6月14日	「年輪から法隆寺西院伽藍と金堂天蓋の年代を読み解く」	総合地球環境学研究所客員教授 光谷　拓実	131人
6月21日	「法隆寺金堂壁画の世界」	東大寺総合文化センター設立準備室長 梶谷　亮治	187人
6月28日	「法隆寺金堂の金石文と聖徳太子」	奈良大学教授　東野　治之	166人
7月12日	「法隆寺金堂四天王像の諸問題」	学芸部長補佐　岩田　茂樹	200人
7月19日	「建築史からみる法隆寺金堂」	元奈良国立文化財研究所長　鈴木　嘉吉	200人
8月2日	「西国三十三所の歴史」	東海大学名誉教授　速水　侑	200人
8月30日	「西国三十三所の観音霊験像とその広がり」	上席研究員　鈴木　喜博	200人
9月13日	「“胎内くぐり”としての西国巡礼」	松尾寺名誉住職　松尾　心空	200人
9月27日	「観音の浄土・補陀落山－その信仰と造形」	研究員　清水　健	200人
10月25日	「正倉院の白瑠璃椀」	岡山市立オリエント美術館長　谷一　尚	168人
11月1日	「正倉院に伝わる天蓋をめぐって」	宮内庁正倉院事務所保存整理室長 西川　明彦	160人
11月8日	「正倉院宝物とシルクロード」	学芸部長補佐　内藤　榮	177人
12月20日	「おん祭りの田楽とその周辺」	奈良市教育委員会　岩坂　七雄	34人
21年2月14日	「修二会　行と祈り」	東大寺教学執事　橋村　公英	76人
21年3月7日	「枯草について　－人道不浄相図その他－」	情報サービス室長　中島　博	59人

② 夏季講座　3日

開講日	テーマ	講師名	参加者数
8月19日	「観音菩薩というほとけの登場」	種智院大学長　頼富　本宏	362人
	「観音信仰の歴史	紀三井寺貫首　前田　孝道	
	「観音菩薩の説話」	大谷大学専任講師　横田　隆志	
8月20日	「巡礼の歴史と習俗」	巡礼研究家　白木　利幸	
	「参詣曼荼羅の世界」	関西学院大学教授　西山　克	
	「西国三十三所と秘仏」	前東海学院大学教授　藤澤　隆子	
	「変化観音の展開」	静岡県立美術館長　　宮治　昭	
8月21日	「長谷寺の創建と銅板法華説相図」	企画室長　稲本　泰生	
	展示解説「西国三十三所の歴史と美術」	研究員　清水　健	

③サンデートーク　　12回

・参加者総数　　587人
・担当研究員数　　12人
・外部講師　　0人
・事業内容　文化財への理解を深めるために、平常展・特別展・特別陳列作品について解説を行った。

【九州国立博物館】

1)特別展記念講演会　11回　　参加者総数　2,670人

開催日	テーマ	講師	参加者数
4月6日	絵巻物の面白さと読み方	漫画家／コラムニスト　夏目房之介 氏	300人
4月27日	描かれた絵巻－絵巻の世界	京都国立博物館　若杉準治 氏	300人
5月10日	絵巻の魅力－物語の楽しみ方	当館文化財課　畑靖紀 氏	150人
7月13日	トークショー　島津の国宝と篤姫の時代	東大史料編纂所　山本博文 氏×女優　真野響子 氏	350人
7月19日	５人の篤姫～維新前後風刺画にみる幕末の日本	京都府立大学　東昇 氏	300人
7月26日	トークショー　大河ドラマ篤姫	女優　宮崎あおい 氏×俳優　堺雅人 氏	250人
8月3日	対談　書のーＳＨＯＷ!　国宝島津家文書から読み解く篤姫の世界	鹿児島大学　原口泉 氏×書家　武田双雲 氏	280人
9月28日	トークショー　国宝天神さま	エッセイスト　阿川佐和子 氏 ×太宰府天満宮宮司　西高辻信良 氏 ×当館館長　三輪嘉六 氏	300人
21年 1月25日	北野武＆阿川佐和子トークショー　～日本の文化とモノ作り～	エッセイスト　阿川佐和子 氏 ×映画監督　北野武 氏	200人
21年	座談会　祭りと伝統工芸 ―山笠のハッピは久留米	「博多町家」ふるさと館館長　長谷川法世 氏	90人

開催日	テーマ	講師	参加者数
2月7日	絣?!	×博多祇園山笠振興会会長　瀧田喜代三 氏 ×唐津曳山取締会総取締　牧川洋三 氏 ×重要無形文化財保持者「献上博多織」小川規三郎 氏 ×日本工芸会正会員 博多人形　中村信喬 氏 ×日本工芸会正会員 久留米絣　松枝哲哉 氏	
21年 2月22日	金子賢治が語る　　工芸のいま　伝統と創造	東京国立近代美術館工芸課長　金子賢治 氏	150人

2)教育講座シリーズ・アジアージュ　2回　　参加者総数　186人

開催日	テーマ 講師等	参加者数	担当 研究員数
9月27日	「鼎談：現代によみがえる遺跡！―考古イラストレーター早川和子の世界―」 講師：考古イラストレーター　早川和子 氏 福岡市教育委員会文化財部専門調査員　山崎純男 氏	150人	1人
21年 3月21日	「旧石器時代のテクノパーク～日本最大の槍先と白滝遺跡群～」 講師：北海道教育委員会　長沼孝 氏	36人	1人

3)ミュージアムトーク　38回

・参加者総数　　1,096人
・担当研究員数　研究員　21人
・事業内容　文化交流展示室にて担当の研究員が作品に関する解説を行った。（週1回の午後3時より約15分間）

4)講演及びシンポジウム　6回　　参加者数　1,555人

開催日	テーマ	講師	参加者数
8月23日	平成２０年度第２回市民協同型ＩＰＭ活動に関する研究会 内容／ 基調報告「九州国立博物館のＩＰＭ、５年間の歩み」 特別講演「博物館美術館図書館のＩＰＭ、近年の動向」 特別講演「ある美術館のＩＰＭプログラム」 活動報告１「３年間の活動を振り返って　―ＩＰＭウォッチングを中心として―」 活動報告２「第２期ボランティアとしての活動に向けて」 事例報告１「ＩＰＭ活動への支援 ―収蔵庫のメンテナンスと実習補助―」 事例報告２「ＩＰＭメンテナンス ―博物館における活動事例―」 座談会「文化財保存とＩＰＭ、ミュージアムでの実践と課題」	当館博物館科学課長　本田光子 氏 東京文化財研究所　木川りか 氏 愛知県美術館　長屋菜津子 氏 九州国立博物館環境ボランティア（第１期） 齋藤俊久 氏 九州国立博物館環境ボランティア（第２期） 露木喬 氏 NPO法人ミュージアムIPMサポートセンター 新原茂春 氏 NPO法人文化財保存活用支援センター 森田レイ子 氏、下川可容子 氏 司会／当館学芸部長　森田稔 氏 木川りか 氏、長屋菜津子 氏 当館館長　三輪嘉六 氏、本田光子 氏	300人
9月13日	九州北部三県姉妹遺跡締結１０周年記念事業シンポジウム 「よみがえる弥生都市－邪馬台国時代のまちづくり－」 内容／ 基調講演　金関恕（大阪府立弥生文化博物館長） 基調報告①『吉野ヶ里遺跡』 ②『原の辻遺跡』 ③『平塚川添遺跡』 パネルディスカッション	 大阪府立弥生文化博物館長 金関恕 氏 ①佐賀県教育委員会 七田忠昭 氏 ②長崎県教育委員会 宮崎貴夫 氏 ③朝倉市教育委員会 川端正夫 氏 コーディネーター／ 佐賀女子短期大学学長 高島忠平 氏 パネリスト／ 大阪府立弥生文化博物館長 金関恕 氏 福岡大学教授　武末純一 氏 奈良県立橿原考古学研究所 寺沢薫 氏 国立歴史民俗博物館教授 広瀬和雄 氏	300人
10月4日	特別展　記念シンポジウム「天神さまと太宰府」	京都産業大学　所功 氏 太宰府天満宮　味酒安則 氏 同志社大学　竹居明男 氏 奈良大学　滝川幸司 氏 当館展示課　松川博一 氏	200人
10月25日	特別展　北野天神縁起絵巻シンポジウム 「北野天神縁起絵巻の歴史的変遷」	東京芸術大学　須賀みほ 氏 メトロポリタン美術館　渡辺雅子 氏 成城大学　相澤正彦 氏 当館文化財課　畑靖紀 氏 当館企画課　金井裕子 氏	90人
12月6日	九州国立博物館開館3周年・日本考古学協会創立60周年		385人

開催日	テーマ	講師	参加者数
7日	・大宰府発掘調査40周年記念国際シンポジウム 「百済、倭そして大宰府」 6日（土）「大宰府史跡の発掘調査　-成果と課題-」 特別講演「発掘４０年の成果と大宰府の成立」 講演①「大宰府政庁と周辺官衙の展開」 講演②「古代の国境都市　大宰府と宝満山」 討議 7日（日） 講演③「飛鳥・藤原宮を支えた倭の工芸技術とその系譜」 講演④「百済熊津期の工芸技術と日本古墳文化との関係」 講演⑤「百済泗沘（扶餘）期の工芸技術と日本初期仏教との関係」 パネルディスカッション	 福岡大学名誉教授　小田富士雄 氏 ①九州歴史資料館　杉原敏之氏 ②太宰府市教育委員会　山村信榮 氏 進行／当館展示課長　赤司善彦 氏 ③奈良文化財研究所 松村恵司 氏 ④韓国国立中央博物館考古部学芸研究官 尹郎映 氏 ⑤韓国国立扶餘博物館学芸研究士 尹龍熙 氏 コーディネーター／ 九州歴史資料館長　西谷正 氏 パネリスト／ 奈良文化財研究所　松村恵司 氏 韓国国立中央博物館　尹郎映 氏 韓国国立扶餘博物館　尹龍熙 氏 九州歴史資料館　杉原敏 氏 当館企画課文化交流展示室長 河野一隆氏	
12月20日 21日	トピック展示「あおもり縄文展」関連イベント 「世界遺産暫定一覧表記載決定記念フォーラム」 20日（土） 基調講演「世界文化遺産を目指す縄文遺跡群の価値」 縄文対談「尽きない縄文の魅力」 21日（日） 報告「史跡・是川石器時代遺跡」 報告「史跡・小牧野遺跡」 報告「特別史跡・三内丸山遺跡」 ビデオ上映「木と土の王国－青森県三内丸山遺跡’94」 フォーラム「激突！！北の縄文 VS 南の縄文」	 奈良文化財研究所名誉研究員 岡村道雄 氏 パネラー／ 俳優　苅谷俊介 氏 文化庁記念物課調査官 水ノ江和同 氏 ナビゲーター／ 奈良文化財研究所名誉研究員 岡村道雄 氏 八戸市教育委員会事務局文化財課 大野亨氏 青森市教育委員会事務局文化財課 児玉大成 氏 青森県教育庁文化財保護課三内丸山遺跡保存活用推進室長　岡田康博 氏 文化庁記念物課調査官 水ノ江和同 氏 当館展示課　宮地聡一郎 氏 青森県教育庁文化財保護課三内丸山遺跡保存活用推進室長　岡田康博 氏 青森県教育庁文化財保護課三内丸山遺跡保存活用推進室　小笠原雅行 氏 奈良文化財研究所名誉研究員 岡村道雄 氏	280人

⑤ギャラリートーク実施状況

	東京国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
件数	101	12	37

【東京国立博物館】

○列品解説　39回　参加者総数 2,871人

実施日	テーマ	解 説 者	参加者(人)
4月1日	江戸さくら探訪	絵画・彫刻室長　田沢裕賀	115
4月8日	高麗茶碗	東洋室長　今井敦	55
4月15日	高麗時代の土器	教育講座室長　白井克也	50
4月22日	霊彩の騎獅文殊図	特別展室長　救仁郷秀明	73
5月13日	インターネットと資料情報	情報管理室研究員　村田良二	23
5月20日	岡山県美作市平福出土の陶棺	特任研究員　望月幹夫	52
5月27日	仏画の中に描かれた果物	出版企画室主任研究員　沖松健次郎	63
6月3日	縄文人の祈り―足形付土製品―	企画課長　井上洋一	55
6月10日	地誌・絵図にみる東北	保存修復室長　冨坂賢	72
6月17日	インドの神像バイラヴァ	平常展調整室長　小泉惠英	70
7月1日	ロダン作・エヴァの見かた、考えかた	デザイン室長　木下史青	60
7月8日	博物館の水族館	博物館教育課長　加島勝	43
7月29日	法隆寺献納宝物の褥	上席研究員　澤田むつ代	96
8月5日	六波羅蜜寺の仏像１	情報管理室長　丸山士郎	184
8月26日	六波羅蜜寺の仏像２	出版企画室長　浅見龍介	150
9月2日	中国古代青銅器の文様	列品管理課長　谷豊信	66
9月9日	平治物語絵巻	広報室研究員　遠藤楽子	100
9月19日	蒲生氏郷の手紙を読む	書跡・歴史室研究員　高梨真行	69
10月3日	彦根更紗と景徳鎮	保存修復室研究員　三笠景子	52
10月7日	漢・北朝の俑	東洋室研究員　川村佳男	80
10月21日	埴輪　猪とその工房	工芸・考古室長　古谷毅	60
10月28日	東京国立博物館が所蔵する欧米の古典籍	登録室長　田良島哲	40
11月11日	越前康継の「脇差　名物　骨喰藤四郎吉光」写し	工芸・考古室研究員　酒井元樹	50
11月18日	龍のすがた	貸与特別観覧室研究員　猪熊兼樹	65
12月2日	浙派と呉派	副館長　湊信幸	90
12月9日	自在の置物	上席研究員　原田一敏	45
12月16日	切子ガラス	上席研究員　後藤健	72
21年1月6日	アイヌの文様	保存修復室主任研究員　日高慎	95
21年1月20日	蒔絵の流れ	特別展室主任研究員　竹内奈美子	80
21年1月27日	厚板	工芸・考古室主任研究員　小山弓弦葉	70
21年2月3日	正宗入門	広報室長　立道惠子	70
21年2月10日	環境保存室の活動	環境保存室研究員　和田浩	48
21年2月17日	文化財の臨床医として働く	保存修復課長　神庭信幸	85
21年2月24日	書跡に親しむ～画家の手紙	特別展室研究員　丸山猶計	50
21年3月3日	梅樹禽鳥図屏風の修理について	保存修復室主任研究員　土屋裕子	45
21年3月10日	法帖と帖学派	調査研究課長　富田淳	120
21年3月17日	文化財の治療と予防	環境保存室主任研究員　荒木臣紀	68
21年3月24日	和漢朗詠集の古筆	学芸研究部長　島谷弘幸	75
21年3月31日	乾漆像の造り方	ボランティア室長　鷲塚麻季	115

○東京芸術大学学生ボランティアによるギャラリートーク　62回　参加者総数1,878人

・平常展示作品ギャラリートーク　57回　参加者総数1,713人

実施日	回数	テーマ	氏名	参加者(人)
10月22･29日、11月8･12日	4	南蛮屏風と泰西騎士像　－まだ見ぬ西洋イメージの源泉－	浦木賢治	130
9月5･12･19･25･27日	5	青木繁「筑後風景」　－最期に見たふるさと－	五味良子	128
10月9･16･24･26･31日	5	「前九年合戦絵巻」を観る　－絵巻に描かれた人々のすがた－	中垣千尋	145
9月3･10･17･24･26日	5	京都・浄瑠璃寺蔵「地蔵菩薩立像」－平安王朝の信仰と優美－	丹村祥子	179
9月6･13･15･18･20日	5	日本中世の来迎図　　－屏風にいらした阿弥陀様－	原瑛莉子	154
10月11･10日、11月1日	3	中国絵画の至宝　－李迪・梁楷と「瀟湘臥遊図巻」－	和田千春	88
21年1月8･9･14･15･17日	5	沈銓筆「鹿鶴図屏風」と南蘋派－流行する新たな中国花鳥画－	浦木賢治	98
21年1月18･21･22･25･28日	5	海を渡った明治の工芸－Japanese Crafts at the World’s Columbian Exposition in Chicago, 1893－	五味良子	94
21年2月7･12･18･24･27日	5	「男山蒔絵硯箱」－仰ぐ峰より出づる月影－	中垣千尋	142
21年1月30日、2月4･6･11･13日	5	京都・大将軍八神社「男神坐像」　－神の像と仏の像　－	丹村祥子	163
21年1月6･7･10･11･12日	5	武蔵鐙の文と竹一重切花入　－利休の書状を読む－	原瑛莉子	170
21年2月21･25･26･28日、3月1日	5	室町時代の関東水墨画　－阿弥派から雪村へ－	和田千春	222

・制作工程模型ギャラリートーク　5回　参加者総数165人

実施日	回数	テーマ	氏名	参加者(人)
21年2月17･19･21･22･25日	5	裏彩色―隠れた色彩の効果―	古賀海人	165

【奈良国立博物館】

○サンデートーク　12回　　参加者総数 587人

実施日	テ ー マ	解　説　者	参加者（人）
4月20日	仏教美術にみる空飛ぶ馬	研究員　北澤　菜月	55人
5月18日	中国の天馬・翼馬	研究員　永井　洋之	37人
6月15日	古代建築のイメージ	研究員　岩戸　晶子	66人
7月20日	法隆寺金堂台座の絵を読み解く	研究員　谷口　耕生	120人
8月17日	円教寺開山堂の性空上人座像について	学芸部部長補佐　岩田　茂樹	104人
9月21日	西国三十三所を巡礼した人々	研究員　野尻　忠	20人
10月19日	茶室・八窓案をのぞいてみませんか？	教育室長　吉澤　悟	10人
11月16日	地蔵菩薩と虚空蔵菩薩	企画室長　稲本　泰生	24人
12月21日	春日社の神と藤原氏	研究員　斎木　涼子	35人
21年1月18日	興福寺大乗院主・尋尊ゆかりの舎利容器	研究員　清水　健	36人
21年2月15日	大道和尚像	情報サービス室長　中島　博	40人
21年3月15日	とてもよく似た二つの仏像－金峯山寺の釈迦如来像と兵庫県所蔵の天部像	上席研究員　鈴木　喜博	40人

【九州国立博物館】

○ミュージアムトーク　37回　参加者総数 1,096人

実施日	テーマ	解 説 者	場　所	参加者(人)
4月11日	宋人銘のある経筒	展示課主任研究員　森井啓次	文化交流展室第４室前	20
4月18日	更紗に描かれた文様	企画課特別展室研究員原田あゆみ	文化交流展室第9室内	20
4月22日	釈迦誕生図の絵の具について	博物館科学課保存修復室研究員　志賀智史	文化交流展室第6室内	40
5月13日	漆器の修理について	企画課特別展室研究員　川畑憲子	文化交流展室第9室内	25
5月20日	中国東北部のシャーマン衣装ーその謎を探るー	文化財課資料登録室長　小林公治	文化交流展室第3室内	30
5月27日	縄文時代の栽培の痕跡	展示課研究員　宮地聡一郎	文化交流展室第2室前	35
6月3日	再現文化財　よみがえった国宝 阿修羅像	展示課主任研究員　楠井隆志	文化交流展室中央通路	40
6月10日	飾りの空間と焼物	企画課長　伊藤嘉章	文化交流展室中央通路	35
6月17日	博物館と文化財修理	博物館科学課保存修復室長　藤田励夫	文化交流展室第9室内	35
6月24日	江戸時代の絵画	企画課文化交流展室研究員　金井裕子	文化交流展室第11室内	40
7月1日	埴輪びとの情景	企画課文化交流展室長　河野一隆	文化交流展室第4室内	30
7月8日	写経の名品	展示課研究員　松川博一	文化交流展室第6室前	20
7月15日	『大航海時代』の航海図	文化財課資料登録室研究員　荒木和憲	文化交流展室第10室前	20
7月22日	縄文時代の装身具	展示課研究員　宮地聡一郎	文化交流展室第1室前	25
8月5日	さわってみよう古代の祭り	博物館科学課環境保全室研究員　鳥越俊行	あじっぱ内あじぎゃら	30
8月19日	高麗時代の梵鐘	企画課特別展室長　伊藤信二	文化交流展室第11室内	30
8月26日	文様センについて	展示課長　赤司善彦	文化交流展室第8室内	40
9月2日	変化する観音	文化財課研究員　畑靖紀	文化交流展室第11室内	30
9月9日	縄文時代の編みカゴと植物質の道具	展示課研究員　宮地聡一郎	文化交流展室第2室前	20
9月30日	唐船と南蛮船	企画課文化交流展室研究員　金井裕子	文化交流展室第10室前	33
10月7日	世界最強！　モンゴル軍が使った武器の秘密	博物館科学課環境保全室長　今津節生	文化交流展室第8室前	30
10月21日	重要文化財双六古墳出土品が語る壱岐の国際性	企画課特別展室研究員　市元塁	文化交流展室第4室前	21
10月28日	九州国立博物館の建築模型について	文化財課長　臺信祐爾	１階エントランス	30
11月11日	さまざまな縄文土器	展示課研究員　宮地聡一郎	文化交流展室第2室前	40
11月18日	古文書を楽しむ	博物館科学課保存修復室長　藤田励夫	文化交流展室第11室内	23
12月2日	四王寺山の経筒	展示課主任研究員　森井啓次	文化交流展室第6室前	20
12月9日	神々の青銅器　その後	企画課文化交流展室長　河野一隆	文化交流展室中央通路付近	28
21年1月6日	徳川美術館所蔵「初音の調度」について	企画課特別展室研究員　川畑憲子	文化交流展室中央通路付近	41
21年1月20日	元寇・鷹島の出土遺物を科学する	博物館科学課環境保全室研究員　鳥越俊行	文化交流展室第9室前	35
21年1月27日	美を写すー模写と模造ー	文化財課研究員　畑靖紀	文化交流展室第11室内	55
21年2月3日	弥生の赤	博物館科学課長　本田光子	文化交流展室第3室内	35
21年2月10日	埋もれ木	博物館科学課保存修復室研究員　志賀智史	文化交流展室中央通路付近	38
21年2月17日	江戸時代の日朝交流	文化財課資料登録室研究員　荒木和憲	文化交流展室第11室前	3
21年2月24日	古筆の美	展示課研究員　松川博一	文化交流展室第4室前	30
21年3月3日	古鏡再現！	博物館科学課環境保全室長　今津節生	あじっぱぎゃらりー1F	28
21年3月17日	神々の青銅器	企画課特別展室研究員　市元塁	文化交流展室4F	27
21年3月24日	アジアの民族造形	展示課主任研究員　楠井隆志	文化交流展室 4F	14

⑥ボランティア受入れ実績

（後述の資料に記載）◎共通資料b

⑦友の会

1) 会員数

区分 / 館名	友の会会員（年会費1万円）	友の会会員（年会費4千円）	友の会会員（年会費3千円）	友の会会員(学生)（年会費2千5百円）	友の会会員(学生)（年会費2千円）	友の会会員(家族)（年会費6千円）
東京国立博物館	1,913人	※19,547人	―	※858人	―	―
京都国立博物館	―	―	2,837人	―	95人	―
奈良国立博物館	―	―	2,623人	―	162人	30人
九州国立博物館	154人	―	※1,430人	―	※1,690人	―

※東京国立博物館、九州国立博物館では「パスポート会員」としている。

2) 友の会を対象とした事業

【東京国立博物館】

① 講演会の実施
9月25日「盧舎那大仏の造顕と「総国分寺」」講師：東大寺長老　橋本 聖圓　　参加者数：322人

② 東京国立博物館友の会対象旅行会の実施
11月5日～7日
・旅行会　奈良国立博物館「第60回正倉院展」と京都の特別拝観・非公開寺院を訪ねて
・旅行先　奈良国立博物館、京都国立博物館、東寺、芳春院、知恩院
・参加者数 30人

③ その他　博物館ニュース送付、イベントの鑑賞割引等

【京都国立博物館】

① 年1回（4月）、年間催事案内を送付
② 京都国立近代美術館、国立国際美術館の平常展、特別展を団体料金に割引
③ 財団法人京都古文化保存協会事業【京都非公開文化財特別拝観】の協力社寺拝観料の割引
④ 当館ミュージアムショップの商品の10%割引

【奈良国立博物館】

第36回夏季講座「西国三十三所　観音巡礼」
・実施期間　8月19日～21日
・事業内容　奈良女子大学講堂において9講座、博物館において展覧会概説及び見学を実施した。
・参加者数　362人

【九州国立博物館】

季刊情報誌「アジアージュ」、特別展ちらし、特別展連続講座等イベント案内送付

⑧賛助会

1)会員数

館名	東京国立博物館	京都国立博物館（社団法人清風会）	奈良国立博物館
件数	196件	388件	49件
内訳	特別会員：13件 維持会員(個人)：157件 維持会員（団体）：26件	賛助会員：34件 特別会員：67件 普通会員：287件	特別支援会員：6件 特別会員：1件 一般会員（個人）：25件 一般会員（団体）：17件

2) 賛助会を対象とした事業

【東京国立博物館】

① 感謝会の実施　21年3月19日
当館の事業報告、弦楽四重奏の演奏つき軽食パーティー、
特集陳列「黒田清輝のフランス留学」ギャラリートーク

② 各特別展開会式へのご招待

③ 各特別展につき1回の特別鑑賞会へのご招待

【京都国立博物館】

① 「京都国立博物館だより」（年4回）の配布
② 当館平常展、特別展の無料観覧
③ 清風会が行う鑑賞会、見学会、会報に協力
④ 当館ミュージアムショップの商品の一部割引
⑤ 国際シンポジウム（年1回）案内の発送

【奈良国立博物館】

○当館研究員による解説付きの賛助会員特別鑑賞会を実施
4月12日（土）　特別展「天馬 ーシルクロードを翔ける夢の馬ー」特別鑑賞会　参加人数37名
6月25日（水）　特別展「国宝 法隆寺金堂展」　特別鑑賞会　参加人数23名
8月12日（火）　特別展「西国三十三所 ー観音霊場の祈りと美ー」特別鑑賞会　参加人数15名
10月28日（火）　「第60回正倉院展」　特別鑑賞会　参加人数41名

⑨渉外活動

【東京国立博物館】

1）会場提供 14 件（共催展に関連するものは、3)展示に関連する事業参照）

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者数
6 月 12 日	懇談会	（社）日本河川協会主催による第 10 回日本水大賞（日本ストックホルム青少年水大賞表彰式・受賞活動発表会）	平成館	（人） 約 400
6 月 15･16 日	懇談会	マックス・ヒューバーリサーチラボ　エスティローダー株式会社主催による展示鑑賞およびレセプション	法隆寺宝物館	約 80
6 月 17･18 日	懇談会	エルメスジャポン株式会社主催による展示鑑賞およびレセプション	法隆寺宝物館	約 200
9 月 29 日	懇談会	ミューニックリージャパンサービス株式会社主催による展示鑑賞およびレセプション	法隆寺宝物館	約 50
10 月 21 日	懇談会	株式会社アシェット婦人画報社主催による展示鑑賞およびレセプション	平成館	約 150
11 月 3･4 日	懇談会	株式会社ショパールジャパン主催による展示鑑賞およびレセプション	法隆寺宝物館	約 300
11 月 11 日	懇談会	財団法人東京国際研究クラブ主宰による展示鑑賞およびレセプション	法隆寺宝物館	約 40
11 月 24 日	展示会	上野観光連盟主催によるクラッシックカーの展示	平成館前庭	約 100
11 月 26 日	懇談会	独立行政法人日本学術振興会主催による展示鑑賞及びレセプション	法隆寺宝物館	約 100
21 年 1 月 13 日	懇談会	株式会社資生堂主催による展示鑑賞およびレセプション	平成館	約 150
21 年 1 月 27 日 ～2 月 1 日	展示会	台東区主催によるイベント（伝統工芸職人展）	平成館	―
21 年 3 月 24 日	懇談会	ウェーバーシャンドウィックワールドワイド株式会社主催による展示鑑賞およびレセプション	法隆寺宝物館	約 100
4 月 12 日 5 月 17 日 6 月 22 日 7 月 19 日 8 月 24 日 9 月 28 日 10 月 26 日 11 月 23 日 12 月 21 日 21 年 1 月 25 日 21 年 2 月 22 日 21 年 3 月 22 日	ガイドツアー	株式会社スタイルカフェ・ドット・ネット リレ・アカデミー ガイドツアー	本館等	延べ約 40
4 月 12 日 5 月 11 日 6 月 14 日 8 月 9 日 9 月 7 日 11 月 1 日 21 年 2 月 7 日	講演会	株式会社スタイルカフェ・ドット・ネット リレ・アカデミー スクーリング	平成館 本館等	延べ約 20

2）館主催・協力イベント　33 件

期間	種類	タイトル	会場	出席者数	備考
4 月 18 日	講演会	上野 ―過去・現在・未来― 二木 忠男、浦井正明	平成館大講堂	（人） 約 140	台東区協力
6 月 15 日	音楽会	ハーバード大学男声ア・カペラコーラスグループ　「クロコディロス」公演	本館	約 850 (2 回)	東芝国際交流財団共催 上野のれん会協力
6 月 22 日	音楽会	エフゲニ・ザラフィアンツ ピアノコンサート	平成館	264	ｻﾛﾝ･ﾄﾞ･ｿﾈｯﾄ共催
7 月 6 日	音楽会	音楽の花束 Special(長唄)	平成館大講堂	557 (2 回)	イエモトオフィス共催
7 月 13 日	ワークショップ	青写真制作ワークショップ	柳瀬荘黄林閣	17	日本大学芸術学部共催
7 月 22 日	音楽会	ファミリーコンサート	平成館大講堂	約 750 (2 回)	東京ｸﾗﾘﾈｯﾄ･ｸﾜｲﾔｰ共催 上野のれん会協力
8 月 3 日	音楽会	夏休み子ども音楽会	東京文化会館ほか	479	平常展無料入館の協力
8 月 27 日	シンポジウム	財団法人日本修学旅行協会主催「第 4 回教育旅行シンポジウム」	平成館大講堂	300	東博共催
8 月 30 日	観光紹介	外国人向観光体験コース	応挙館 本館	約 10	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱﾂｱｰの協力
8 月 31 日	イベント	納涼東博寄席	平成館大講堂	308	
9 月 15 日	音楽会	マンデルリングカルテット コンサート	平成館大講堂	180	ドイツ文化センター共催
9 月 21 日	音楽会	堀正文ヴァイオリンコンサート	平成館	234	ｻﾛﾝ･ﾄﾞ･ｿﾈｯﾄ共催
9 月 25 日	講演会	東大寺講演会	平成館大講堂	約 320	東大寺共催上野のれん会
9 月 27･28 日	シンポジウム	文化財保存修復学会創立 75 周年記念事業　国際シンポジウム「東アジア・東南アジアの文化財の保存修復」	平成館大講堂	350	東博共催
10 月 2 日～19 日	展示会	美術学科絵画コース教職員展「間と軸」	柳瀬荘黄林閣	384	日本大学芸術学部共催
10 月 5 日	ワーク	民家体験と竹細工ワークショップ	柳瀬荘黄林閣	8	日本大学芸術学部共催

期間	種類	タイトル	会場	出席者数	備考
	ショップ				
10月18日	普及イベント	留学生の日	本館ほか	（人）約1020	㈱東京美術協賛
10月25日	講演会	上野の山文化ｿﾞｰﾝﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ講演会「刀剣鑑賞入門 ―刀の見方、楽しみ方」原田一敏	平成館大講堂	204	
11月6日～22日	展示会	美術学科彫刻コース教職員展	柳瀬荘黄林閣	377	日本大学芸術学部共催
11月8日	講演会	上野の山文化ｿﾞｰﾝﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ講演会「東博所蔵舶載洋書にみる幕末維新期の洋学」松田清	平成館大講堂	82	
11月9日	舞劇公演	「竹取物語」－平成柳瀬傾奇念仏講－	柳瀬荘黄林閣	約100	日本大学芸術学部共催
11月13日	講演会	上野の山文化ｿﾞｰﾝﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ講演会「ときめきを伝えるもの」宮田亮平	平成館大講堂	約290	会場提供
11月23日 11月24日	イベント	したまちコメディ映画祭	平成館	538	台東区主催会場提供
11月29日	音楽会	大田佳弘ピアノコンサート	平成館	216	ｻﾛﾝ･ﾄﾞ･ｿﾈｯﾄ共同主催
12月23日	音楽会	カウンターティナーの歌声と出会う待降節のひととき	平成館	246	東京芸大協力
12月28日	音楽会	オペラの午後	平成館	278	東京芸大協力
21年1月11日	イベント	新春東博寄席　～笑う門には福来たる～	平成館大講堂	373	
21年1月17日	音楽会	ニューイヤーコンサート2009　日本の心	平成館	243	ｻﾛﾝ･ﾄﾞ･ｿﾈｯﾄ共同主催
21年1月27日 ～2月1日	実演	台東区の伝統工芸職人展	平成館	―	台東区共催
21年3月7日	音楽会	スプリングコンサート	平成館	243	ｻﾛﾝ･ﾄﾞ･ｿﾈｯﾄ共催
21年3月15日	音楽会	東京・春・音楽祭2009 「東博でバッハvol.1」　神谷郁代	平成館大講堂	203	東京のオペラの森共催
21年3月18日	音楽会	東京・春・音楽祭2009 「東博でバッハvol.2」　向山佳絵子	法隆寺宝物館	81	東京のオペラの森共催
21年3月28日	音楽会	東京・春・音楽祭2009 「東博でバッハvol.3」　渡辺玲子	平成館	205	東京のオペラの森共催

3)　展示に関連する事業　9件

展覧会名	期間	イベント種類	会場	回数	参加者数
博物館でお花見を	4月4日	夜桜コンサート　出演：ヴォクスマーナ	平成館大講堂	1回	（人）374
薬師寺展	4月11、25日	薬師寺展記念万燈会	平成館小講堂	2回	―
博物館に初もうで	21年1月2日、3日	獅子舞	前庭	4回	約1,850
	21年1月2日、3日	和太鼓演奏	前庭	4回	約1,770
	21年1月2日	江戸の遊芸	前庭	2回	約1,020
	21年1月3日	クラリオネットコンサート	本館	2回	約740
	21年1月2日～12日	いけばな	本館　他	―	―
妙心寺展	21年1月23日･28日・2月4日・11日・18日	妙心寺展記念坐禅会（1日2回） 講師：妙心寺派僧侶	九条館	10回	369
	21年2月12、13日	妙心寺展記念　呈茶	平成館ラウンジ	2回	999

4)　撮影件数　70件

【京都国立博物館】

1)　会場提供　14件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者	備考
4月10日	講演会	暁斎展に関する講義	講堂	（人）20	NHK京都文化センター
4月21日	講演会	「暁斎展」鑑賞会	講堂	80	清風会
5月11日	講演会	国際学術講演会	講堂	120	京都造形芸術大学
6月20日	総会	総会	講堂	100	京都市内博物館施設連絡協議会
7月2日	講演会	「杉本哲郎展」鑑賞会	講堂	80	清風会
8月7日	講演会	「坂本龍馬展」鑑賞会	講堂	80	清風会
8月21日	説明会	退職金制度説明会	講堂	90	装こう師連盟
10月27日	講演会	「japan蒔絵展」鑑賞会	講堂	80	清風会
11月2日	映画会	映画上映会	講堂	170	読売新聞
11月9日	講演会	講演会	講堂	170	読売新聞
11月11日	講演会	講演会	講堂	170	読売新聞
11月20日	講演会	「japan蒔絵展」講演会	研修室	25	個人
11月30日	講演会	シンポジウム	講堂	50	九州
6月28日 8月2日 12月6日	ツアーガイド	館内ツアーガイド	平常展示館	6	株式会社スタイルカフェ・ドット・ネット

2) 館主催イベント 9件

期間	種類	タイトル	会場	出席者数	備考
4月27日	落語	京都・らくご博物館（春）～若草の会～	講堂	（人） 175	米朝事務所共催
8月17日	落語	京都・らくご博物館（夏）～納涼寄席～	講堂	182	米朝事務所共催
9月20日	音楽会	特別展覧会「japan 蒔絵」プレイベントコンサート	特別展示館	184	ストラテジーコ株式会社(企画等)・読売新聞
10月26日	落語	京都・らくご博物館（秋）～錦秋寄席～	講堂	168	米朝事務所共催
12月2日	音楽会	バロック音楽を綴る「平常展示館ファイナルコンサート」	講堂	101	日本テレマン協会共催
12月6日	音楽会	自転車発電エコライブ	庭園	約100	自転車活用推進研究会（後援）
12月7日	音楽会	「平常展示館ファイナルコンサート」第１部	講堂	173	京都市立芸術大学共催
12月7日	音楽会	「平常展示館ファイナルコンサート」第２部	講堂	172	京都市立芸術大学共催、
21年 1月30日	落語	京都・らくご博物館（冬）～新春寄席～	ハイアット･リージェンシー京都 ドローイングルーム	179	米朝事務所共催

3) 撮影 9 件

【奈良国立博物館】

1) 会場提供 28件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者	備考
4月27日 ～5月6日	茶席	お茶席を設けお抹茶とお菓子のサービス及びお菓子の販売	西新館 ピロティ	（人） ―	鶴屋吉信
5月18日	ｶｰｲﾍﾞﾝﾄ	ニッポンクラシックカーラリー2008 奈良	講堂、本館西側敷地	70	株式会社ﾂｰｱﾝﾄﾞﾌｫｰ
5月24日	講義	龍谷大学文学部における講義（当館研究員による美術史（仏教）受講者対象に特別展の見方を解説）	講堂	70	龍谷大学
6月18日	控室	文化財保存修理所装潢室の見学控室	会議室	23	天理大学附属天理図書館
7月1日 ～21日	茶席	お茶席を設けお抹茶とお菓子のサービス及びお菓子の販売	西新館 ピロティ	―	鶴屋吉信
7月8日	講演会	「国宝法隆寺展」事前講座	会議室	40	朝日カルチャーセンター
7月11日	ﾚｸﾁｬｰ	「国宝法隆寺金堂展」事前レクチャー	会議室	15	朝日旅行
8月5日 ～14日	観光 ｲﾍﾞﾝﾄ	なら燈花会会場としてｶｯﾌﾟ、ｵﾌﾞｼﾞｪ等の配置	新館前敷地	―	なら燈花会の会
8月8日	学会	能楽楽会の催しである「世阿称忌セミナー」の開催	講堂、会議室 地下回廊	15	能楽学会
8月28日	講義	「世界遺産に学ぶ（９） 博物館で学ぶ -奈良を知り、奈良を語るために-」開催（教職員対象の研修）	講堂	170	奈良市教育委員会事務局学校教育課
9月18日	講義	「美術館めぐりⅡ」講座	講堂	15	NHK 京都文化センター
10月25日 ～11月10日	ｷｬﾝﾍﾟｰﾝ	奈良県特産品パネル展示	地下回廊	―	奈良県農林部 農業水産振興課
10月25日 ～11月10日	ｷｬﾝﾍﾟｰﾝ	奈良県特産品パネル展示	地下回廊	―	奈良特産品振興協会
10月25日 ～11月10日	ｷｬﾝﾍﾟｰﾝ	「奈良のうまいもの」紹介パネル展示	地下回廊	―	奈良県農林部マーケティング課
10月25日 ～11月10日	休憩所	季節の土産物販売	新館西側敷地	―	株式会社ワールドヘリテージ
10月25日 ～11月10日	休憩所	休憩所設置	新館西側敷地	―	株式会社 鶴屋吉信
10月25日 ～11月10日	休憩所	休憩所及び喫茶の販売	新館西側敷地	―	有限会社日本クリーンシステムズ
10月25日～26日	ｷｬﾝﾍﾟｰﾝ	「奈良の柿」「大和茶」の販売・PR	新館西側敷地	―	奈良県農林部 農業水産振興課
10月27日 ～11月10日	ｷｬﾝﾍﾟｰﾝ	「奈良のうまいもの」販売・PR	新館西側敷地	―	奈良県農林部マーケティング課
10月25日 ～11月10日	ｽﾀﾝﾌﾟﾗﾘｰ	スタンプラリーのスタート ブース及び冊子の配布、PR	新館西側敷地	―	はじまりは正倉院展実行委員会
10月25日 ～11月10日	ｷｬﾝﾍﾟｰﾝ	正倉院「御物」の文様・色などの特徴を取り上げ「奈良にしかないモノづくり」運動を広めていくための商品販売	新館西側敷地	―	校倉な会
10月29日	講演会	「ヨミティ特別鑑賞会」 当館研究員によるレクチャー	講堂	―	読売新聞大阪本社 文化事業部
11月28日	報道発表	楼閣山水人物図螺鈿扉保存修理報道発表	会議室	25	妙心寺派宗務本所遠諱局
12月11日	講義	「YOKOSO NARA インバウンドもてなし研修会」の開催	講堂	約100	奈良県文化観光局国際観光課

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者	備考
21年 2月12日・13日	協議会	「美術館等運営研究協議会」の開催	仏教美術資料研究センター	（人） 100	文化庁文化財部美術学芸課美術館・歴史博物館室
21年 2月14日	講演会	「常設展こそおもしろい！博物館を極めよう」の開催	会議室	27	奈良市生涯学習財団
21年 3月13日 14日	ｺﾝｻｰﾄ	「燈火のあるカフェテラスライブ vol.3」 博物館西新館南側ピロティ及び茶室八窓庵周辺の空間を燈火器と音楽で演出	西新館南側 ピロティ 茶室周辺	13日 1st40 2nd50 14日 1st110 2nd74	燈火のあるカフェテラス実行委員会
21年 3月24日	ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ	ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ「奈良のデザインを語る」及び「NARA 1300 DESIGN BOOK表彰式」	講堂	80	奈良1300デザイン研究会

2）特別展等に関連する事業　20件

展覧会名	期間	イベント種類	会場	参加者数	備考
特別展 「天馬―シルクロードを翔ける夢の馬―」	4月5日 ～6月1日	【「天馬」連動企画『ターフを翔ける天馬たち』～天皇賞】 現代の天馬としての競走馬にスポットを当てた展示	地下回廊	（人） ―	主催：（財）全国競馬・畜産振興会 協力:JRA日本中央競馬会、（財）馬事文化財団馬の博物館･JRA競馬博物館、（株）中央競馬ﾋﾟｰｱｰﾙｾﾝﾀｰ、奈良ﾃﾚﾋﾞ放送
	4月5日 4月12日 5月4日 5月31日	「JRA競走馬総合研究所特別連続講座」 JRA競走馬総合研究所の所員を講師に迎え、馬学講座を開催	講堂	4.5…60 4.12…30 5.4…56 5.31…58	（財）全国競馬・畜産振興会
	4月20日 5月5日 5月6日 5月11日 5月25日 6月1日	「馬とのふれあいイベント」 ポニー試乗会、にんじんのえさやり、乗馬体験、ポニーの演技披露、ミニチュアホースのウォーキングなどの子供を対象としたイベント	西新館 西側敷地	―	（財）全国競馬・畜産振興会
特別展 「国宝 法隆寺金堂」	6月14日～7月21日	記録映画「壁画よみがえる」 1967年から68年にかけ、安田靫彦や前田青邨、平山郁夫ら、日本画の巨匠・精鋭により手がけられた法隆寺金堂再現壁画の制作を追った貴重な映像を上映	学習室	―	朝日新聞社
	6月22日	「飛鳥の風～シルクロードをわたる悠久の響き」 中国琵琶 涂善祥、揚琴 沈兵によるコンサート	講堂	180	朝日新聞社
	7月5日	記念講演会「金堂は生きている」 作家の立松和平による講演会	講堂	180	朝日新聞社
特別展 「西国三十三所」	8月1日～9月28日	「写真と仏画でめぐる西国三十三所」 写真（溝縁ひろし）及び西国三十三所本尊原画（藤野正親）の展示	西新館1階	―	
第60回 正倉院展	10月11日	第60回正倉院展記念「まほろば寄席-奈良国立博物館落語ｼﾘｰｽﾞ第3回-」 桂 小春團治、桂 福車、林家 花丸、桂 ひろばによる落語会	講堂	198	協力：奈良ﾃﾚﾋﾞ放送
	10月25日	「高田泰治によるチェンバロの世界　大バッハ、奈良に降臨！！～一人の若者によって今紐解かれる、永遠の巨匠…その真の姿～」 日本テレマン協会 高田泰治によるチェンバロコンサート	仏教美術資料研究ｾﾝﾀｰ	151	主催：奈良国立博物日本ﾃﾚﾏﾝ協会 後援：読売新聞大阪本社、奈良ﾃﾚﾋﾞ放送 協力:重要文化財 藤岡家住宅
	11月7日	プレ公演・オペラ「月の影」 ―源氏物語―より・ハイライト 訳詩：ツベタナ・クリステワ 作曲・指揮：尾上和彦	講堂	11.7夜の部 130 11.8昼の部 163 11.8夜の部 150	主催:奈良国立博物館、劇場空間 inNARA 後援:奈良県、奈良市、読売新聞大阪本社、NHK奈良放送局
	11月1日～3日	第60回正倉院展記念「音燈華」 新館前敷地を燈火器で演出し、幻想的な空間でのコンサート 11.1…ｼﾞｭｽｶｸﾞﾗﾝﾍﾟｰﾙ、mama!milk 11.2…ｼﾞｭｽｶｸﾞﾗﾝﾍﾟｰﾙ、あらいなおこ、井川由美子 11.3…ｼﾞｭｽｶｸﾞﾗﾝﾍﾟｰﾙ、月下美人	西新館前敷地	11.1… 約850 11.2… 約1,200 11.3… 約750	主催:奈良国立博物館、読売新聞大阪本社 協力：奈良経営振興倶楽部、日本香堂 空間演出：武田高明
	11月7日	「なら燈花会 in 正倉院展」	新館前の池周	―	主催：なら燈花会の会

展覧会名	期間	イベント種類	会場	参加者数	備考
	8日	なら燈花会の会によるイベント。博物館周辺に燈花会を再現する。二胡のコンサートも併せて実施。	辺		
	10月25日～11月10日	「野点のお茶会」 正倉院展会期中の入館者を対象とした呈茶席	西新館 ピロティ	（人） 20,659	主催：結の会
	10月25日～11月10日	「いけばな展示」 法華寺小池御流によるいけばなの展示	西新館 1階	―	
	10月25日～11月10日	●正倉院展関連の新聞紙面ﾎﾟｽﾀｰなどの展示 ●読売新聞社が制作した「正倉院展」DVD映像の放映 ●来場者に抽選くじによる記念品贈呈	新館西側 敷地	―	読売新聞大阪本社
	10月27日～11月12日	●読売新聞社が写真取材したシルクロードの風景のパネル展示	地下回廊	―	読売新聞大阪本社
特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」	21年 1月12日	「春日若宮おん祭の田楽」 南都楽所による舞楽公演	講堂	140	
特別陳列「お水取り」	21年 2月14日	『お水取り講話と粥の会』 東大寺 守屋長老による講話、当館西山教育室長による特別陳列「お水取り」の解説及び見学、茶粥試食、二月堂見学	講堂 展示室 茶室控室 東大寺	30	
	21年 3月2日	「お水取り展鑑賞とお松明」 当館西山研究員による特別陳列「お水取り」展の解説及び鑑賞、「お水取り」ビデオ鑑賞、東大寺二月堂にておたいまつ見学	講堂 特別陳列 会場 東大寺二月堂	152	主催：結の会
平常展「仏教美術の名品」	21年 3月20日	「仏像ガールってなんですか～仏像の魅力を大いに語る～」 “仏像ガール”廣瀬郁実さんによるおはなしと当館西山学芸部長とのトークショー	講堂	198	

3) その他イベント等　8件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者	備考
5月11日	落語	「第二回奈良博寄席」 桂 小春團治、笑福亭 鶴二、桂 福矢、林家 卯三郎による落語会	講堂	（人） 144	協力：奈良ﾃﾚﾋﾞ放送
6月14日～9月28日	展示	唐招提寺の鑑真和上ゆかりの蓮など約16種類の蓮を展示	西新館前 人工池	―	
7月20日～8月31日	展示	「子供絵画館 in NARA」 ふるさとのお盆の思い出」絵画コンクール入賞作品展覧会	地下回廊	―	主催：日本香堂 後援：朝日学生新聞社 協力：奈良国立博物館
8月9日	落語	「まほろば寄席－奈良国立博物館落語ｼﾘｰｽﾞ第3回－」 桂 小春團治、桂 福車、林家 花丸、桂 ひろばによる落語会	講堂	―	
12月31日～1月18日	展示	「いけばな展示」 法華寺小池御流による「いけばな」の展示	無料 ※入館者のみ	―	
21年 1月10日	落語	「まほろば寄席－奈良国立博物館落語ｼﾘｰｽﾞ第4回－」 桂 小春團治、桂 米平、林家 三若、笑福亭 呂竹による落語会	講堂	176	
21年 1月11日	演奏会	「和太鼓演奏会」 奈良工業高校・奈良朱雀高校 和太鼓部「秋篠」による和太鼓演奏	新館前	12:30～約400 13:30～約370	
21年 3月11日	特別公開	「文化財保存修理所特別公開」 ふだんは一般公開していない修理所を、当館研究員の解説付きで見学	講堂 修理所	第1回　20 第2回　16 第3回　17	

【九州国立博物館】

1) 会場提供　計31件　（共催展に関連するものは、3)展示に関連する事業参照）

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者数	備考
4月25日	シンポジウム	広域地域振興シンポジウム「明日の地域振興を考える」	ミュージアムホール	（人） 300	福岡県（企画・地域振興部）
5月3日	音楽会	弦楽合奏団「アンダンテ」春のコンサート	ミュージアムホール	300	アンダンテ
5月3日	音楽会	歌とピアノと朗読による”そよ風コンサート”	ミュージアムホール	250	ピアチェーレ
5月4日～5月6日	展示	福博職人の手技展	ミュージアムホール／エントランス	25,000	博多伝統職の会
5月14日	音楽会	原田郁子ソロツアー２００８	ミュージアムホール	180	（株）ビックイヤーアンツ

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者数	備考
		『気配と余韻をたのしむツアー　弾き語り！』			（ＢＥＡ）
7月5日	音楽会	ＫＩＲＡＫＵ　ＬＩＶＥ　２００８　～ＰＯＷＥＲ～	ミュージアムホール	250	Project 喜楽
8月23日	ワークショップ	エレキット夏休み工作教室 in 太宰府 2008「エコカーをつくろう！」	研修室	（人）100	（株）イーケイジャパン
8月29日	展示	飾り山笠御神入れ（なおらい）祭	エントランス	50	博多祇園山笠振興会／西日本鉄道（株）
9月15日	神楽	京築神楽ライブｉｎ九州国立博物館	ミュージアムホール	200	京築連帯アメニティ都市圏推進会議／京築神楽の里づくり推進会議
9月25日	式典	大韓民国扶餘邑・太宰府市姉妹都市締結３０周年記念式典	ミュージアムホール	200	太宰府市
9月25日	イベント	第3回「太宰府　古都の光」式典＆演奏会＆D-Kライブ	屋外／エントランス	－	太宰府市ブランド創造協議会
9月26日	講演	福岡国土建設専門学校創立35周年記念特別講演会「涌井雅之講演会」ランドスケープ・フロンティアを目指して－生命と環境の世紀に－	ミュージアムホール	250	福岡国土建設専門学校
10月7日～10月8日	フォーラム	第2回文化財サポーターフォーラム～日本中みんなで文化財を守りたい～	ミュージアムホール／エントランス	－	文化庁
10月9日	講座	太宰府発見塾公開講座～大宰府の道真	ミュージアムホール	150	太宰府市／太宰府市教育委員会
10月11日～10月13日	イベント	開館3周年記念協賛「温泉足湯」～お！館外（ここ）にもあった　至福の時間～	屋外	500	福岡県観光温泉地協会
10月15日～10月26日	展示	西日本鉄道100周年記念「天神１００年にしてつ１００年」展	エントランス	55,000	西日本鉄道
10月26日	講座	筑紫ルネッサンス第四章～世界遺産登録への道～	研修室	160	（社）つくし青年会議所
11月3日	イベント	「いいな、いい歯。」週間普及啓発事業	屋外	200	（社）筑紫歯科医師会
11月6日	イベント	伊都国の文化財・観光ＰＲ事業	ミュージアムホール／エントランス／屋外	5,000	前原市／前原市教育委員会
12月2日～12月7日	会議	第25回伝統的工芸品月間国民会議 九州・中国地区大会「第25回九州・中国地区伝統的工芸品まつり」	エントランス／研修室	15,270	伝統的工芸品月間推進九州協議会／伝統的工芸品月間推進中国協議会／（財）伝統的工芸品産業振興協会／九州地区伝統工芸品産地連絡会議
12月2日	会議	第25回伝統的工芸品月間国民会議九州・中国地区大会記念式典	研修室	－	伝統的工芸品月間推進九州協議会／伝統的工芸品月間推進中国協議会／（財）伝統的工芸品産業振興協会／九州地区伝統工芸品産地連絡会議
12月5日	音楽会	太宰府市小学校音楽会	ミュージアムホール	649	太宰府市教育委員会／太宰府市小学校音楽会実行委員会
12月15日～12月16日	会議	水中文化遺産担当者協議会	研修室	－	文化財保存支援機構
21年1月8日～1月12日	展示	長崎ランタンフェスティバルと長崎ししゅう展－長崎の観光と物産展－	エントランス	14,200	長崎市／長崎市ブランド振興会
21年1月28日～2月1日	展示	佐賀ものつくりミュージアム	ミュージアムホール／エントランス	9,900	佐賀市（佐賀ものつくりミュージアム実行委員会）
21年2月4日～2月5日	講習会	平成20年度第2回埋蔵文化財担当職員等講習会	ミュージアムホール	－	文化庁／福岡県教育委員会
21年2月10日～2月15日	イベント	第3回福岡県景観大会入賞作品展＋表彰式＆発表会	エントランス／ミュージアムホール	－	福岡県／福岡県都市計画協会／「風景にきづく　景観をきずく2008」実行委員会
21年2月24日～3月8日	展示	「百済の美」写真展	ミュージアムホール	－	韓国伝統文化交流協会／（財）九州国立博物館振興財団
21年3月10日～3月15日	イベント	第2回太宰府発見コンクール	ミュージアムホール／エントランス	－	福岡県教育委員会／（財）古都大宰府保存協会
21年3月20日	講座	筑紫（ふるさと）おもしろ講座「九州王朝って何よ？」～太宰府は日本の首都だっ	研修室	－	（社）福岡県宅地建物取引業協会筑紫支部

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者数	備考
		た?!～			
21年3月31日	展示	「生活の中のデザイン」KCDA会員選抜展	エントランス	－	九州クラフトデザイン協会

2）館主催・協力イベント　計77件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者数	備考
4月11日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	（人）100	福岡女子短大
4月12日	音楽会	第47回 きゅーはくミュージアムコンサート	エントランス	300	
4月13日	式典	ボランティア発足式	ミュージアムホール	280	
4月18日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	70	福岡女子短大
4月26日～ 4月30日	イベント	九博ボランティア企画”昭和の日”イベント 「昭和からの贈りもの」～今年も九博で昭和に触れよう！～	ミュージアムホール／エントランス／研修室	19,000	九博ボランティアイベント部会
5月11日	音楽会	第48回 きゅーはくミュージアムコンサート	エントランス	400	
5月16日～ 5月18日	講演	文化財保存修復学会第30回記念大会 学術講演会「市民アカデミー」・特別セッション「ポスター発表」	ミュージアムホール／エントランス	－	文化財保存修復学会第30回記念大会実行委員会
5月23日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	140	福岡女子短大
5月24日	音楽会	第1回 ガムランワークショップ	ミュージアムホール	50	
5月25日	落語	第9回九博朝日寄席 「円丈・喬太郎　新作落語バトル競演会」	ミュージアムホール	320	朝日新聞社
6月13日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	80	福岡女子短大
6月15日	音楽会	第49回 きゅーはくミュージアムコンサート	エントランス	250	
6月20日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	80	福岡女子短大
6月21日	音楽会	第2回 ガムランワークショップ	ミュージアムホール	50	
6月24日～ 6月29日	展示	デジタルアートの世界展	エントランス	12,000	日本イベントプロデュース協会九州本部
6月27日	音楽会	音楽によるリラクセーション ～民謡の音階による即興アンサンブル～	ミュージアムホール	100	福岡女子短大
7月5日	イベント	九博ボランティア企画”七夕”イベント	ミュージアムホール／エントランス／研修室	－	九博ボランティアイベント部会
7月11日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	60	福岡女子短大
7月12日	音楽会	第3回 ガムランワークショップ	エントランス	50	
7月18日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	120	福岡女子短大
7月19日～ 8月1日	イベント	行こうよ！あじっぱ夏祭り	エントランス	－	
7月26日	音楽会	第50回 きゅーはくミュージアムコンサート	エントランス	300	
7月27日	音楽会	第4回 太宰府市民吹奏楽団「まほろばコンサート」	ミュージアムホール	350	ボランティア／太宰府市民吹奏楽団
8月5日～ 8月10日	展示	いのちのたび博物館から九州国立博物館へ	エントランス	24,000	北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）
8月10日	音楽会	第51回 きゅーはくミュージアムコンサート	エントランス	300	
8月14日	式典	入館５００万人達成記念セレモニー	エントランス	9,500	
8月17日	音楽会	ＡＳＩＡＮ・ＰＡＮＤＡＭＯＮＫＥＹＳ・ＳＰＥＣＩＡＬ　ＬＩＶＥ	ミュージアムホール	200	
8月22日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	160	福岡女子短大
8月23日	研究会	第2回市民協同型IPM活動に関する研究会	ミュージアムホール	100	
8月23日～ 9月13日	展示	九州北部三県姉妹遺跡締結１０周年記念 「パネル展」	エントランス	63,000	福岡県教育委員会／佐賀県教育委員会／長崎県教育委員会／　他
8月23日～ 8月24日	イベント	九州北部三県姉妹遺跡締結１０周年記念事業 「原の辻Ｄａｙ」古代体験	エントランス／屋外	－	長崎県教育庁学芸文化課／長崎県教育庁原の辻遺跡調査事務所／壱岐市教育委員会文化財課
8月29日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	120	福岡女子短大
8月30日～ 8月31日	イベント	九州北部三県姉妹遺跡締結１０周年記念事業 「吉野ヶ里Ｄａｙ」古代体験	エントランス／ミュージアムホール	－	佐賀県教育委員会
9月6日～ 9月7日	イベント	九州北部三県姉妹遺跡締結１０周年記念事業 「平塚川添Ｄａｙ」古代体験	エントランス	－	福岡県教育庁文化財保護課／朝倉市教育委員会文化課
9月6日～ 9月7日	研究会	第57回埋蔵文化財研究集会 「井戸再考～弥生時代から古墳時代前期を対象として～」	ミュージアムホール	100	埋蔵文化財研究会・第57回埋蔵文化財研究集会実行委員会
9月12日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	100	福岡女子短大

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者数	備考
9月13日	シンポジウム	九州北部三県姉妹遺跡締結１０周年記念事業シンポジウム「よみがえる弥生都市－邪馬台国時代のまちづくり－」	ミュージアムホール	300	福岡県教育委員会／佐賀県教育委員会／長崎県教育委員会／　他
9月14日	落語	第10回九博朝日寄席 「柳家花緑独演会」	ミュージアムホール	290	朝日新聞社
9月17日	シンポジウム	地域資源活用企業化コーディネート活動等支援事業 シンポジウム（フォーラム＆足湯＆物産展）	ミュージアムホール／屋外	（人） 250	筑紫野市商工会
9月17日～ 9月21日	展示	地域資源活用企業化コーディネート活動等支援事業 「源氏物語誕生先年紀特別展～石川貴啓・蘇った紫草色の世界展」	エントランス	11,000	筑紫野市商工会
9月20日	音楽会	第52回 きゅーはくミュージアムコンサート	エントランス	200	
10月5日	落語	特別展記念「立川生志・天神落語ライブ」	ミュージアムホール	300	太宰府天満宮／西日本新聞社／RKBラジオ
10月10日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	150	福岡女子短大
10月11日	音楽会	第4回 ガムランワークショップ	ミュージアムホール	50	
10月13日	イベント	3周年記念行事「お客様感謝デイ」	エントランス／ミュージアムホール	8,100	
10月18日	能	3周年記念「九博能」 ～能にみる「源氏物語」の世界	ミュージアムホール	280	
10月19日	音楽会	第53回 きゅーはくミュージアムコンサート	ミュージアムホール	－	
10月24日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	130	福岡女子短大
11月11日～11月24日	フォーラム	第3回九州地域ブランドフォーラム 「九州地域ブランド体験会」 「城山神楽公演」	エントランス／屋外／ミュージアムホール	84,000	日本イベントプロデュース協会九州本部
11月11日	フォーラム	第3回九州地域ブランドフォーラム 「地産地消講演会」	研修室	－	日本イベントプロデュース協会九州本部
11月14日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	120	福岡女子短大
11月21日	フォーラム	第3回九州地域ブランドフォーラム 「九州地域ブランド説明会」	研修室	－	日本イベントプロデュース協会九州本部
11月21日	フォーラム	第3回九州地域ブランドフォーラム 「地域ブランド商談会」	研修室	－	日本イベントプロデュース協会九州本部
11月23日	音楽会	第54回 きゅーはくミュージアムコンサート	ミュージアムホール	450	
11月26日～ 11月30日	イベント	日本インドネシア国公樹立50周年イベント 「留学生と交流しよう　インドネシア・カルチャー・デー」	エントランス／ミュージアムホール／研修室／屋外	37,870	日本インドネシア国公樹立50周年イベント実行委員会
11月28日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	－	福岡女子短大
12月6日～ 12月7日	シンポジウム	九州国立博物館開館3周年・日本考古学協会創立60周年・大宰府発掘調査40周年記念国際シンポジウム「百済、倭そして大宰府」	ミュージアムホール	385	日本考古学協会／九州歴史資料館
12月19日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	60	福岡女子短大
12月20日	音楽会	第5回 ガムランワークショップ	特別展前エントランス	120	
12月21日	音楽会	第55回 きゅーはくミュージアムコンサート	ミュージアムホール	－	
12月23日	落語	第11回九博朝日寄席 「九州男児 噺家 三人衆」	ミュージアムホール	300	朝日新聞社
21年1月3日 ～1月6日	イベント	九博ボランティア企画”お正月”イベント「九博のお正月～家族でお正月あそびを楽しもう！～	ミュージアムホール／エントランス／研修室／屋外	16,980	九博ボランティア
21年 1月14日～ 1月25日	展示	ひなの国九州フェスタ2009	エントランス	25,000	九州のひなまつり広域振興協議会
21年1月16日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	60	福岡女子短大
21年1月17日	音楽会	第6回 ガムランワークショップ	ミュージアムホール	20	
21年1月18日	音楽会	第56回 きゅーはくミュージアムコンサート	ミュージアムホール	400	
21年1月23日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	90	福岡女子短大
21年2月11日	音楽会	第57回 きゅーはくミュージアムコンサート	ミュージアムホール	550	
21年2月13日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	80	福岡女子短大
21年2月17日 ～2月22日	展示	第11回（平成20年度） 筑紫地区文化財写真展「ちくし再発見 ～埋蔵文化財二十五選～」	エントランス	25,400	筑紫地区社会教育振興協議会文化財部会
21年2月17日 ～2月22日	展示	九博子どもフェスタ　― 博物館って意外と面白いね！ 筑紫地区児童画展（特別参加）	エントランス	25,400	を愛する会
21年2月20日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	80	福岡女子短大

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者数	備考
21年2月21日～2月22日	ワークショップ	九博子どもフェスタ　― 博物館って意外と面白いね！ ワークショップ・音楽・演劇など	ミュージアムホール／エントランス	13,800	を愛する会
21年3月1日	音楽会	第7回 ガムランワークショップ	エントランス	120	
21年3月6日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	－	福岡女子短大
21年3月13日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	－	福岡女子短大
21年3月28日	音楽会	第58回 きゅーはくミュージアムコンサート	ミュージアムホール	－	

3)　展示に関連する事業　計33件

展覧会名	期間	イベント種類	会場	参加者数
文化交流展	9月27日	ミュージアム講座アジアージュ 「鼎談：現代によみがえる遺跡！－考古イラストレーター早川和子の世界－」	ミュージアムホール	（人） 150
	9月23日～ 10月5日	「絵でみる考古学－早川和子原画展－」無料公開展示	エントランス	54,000
	9月28日	早川和子のイラスト教室「これであなたも考古イラストレーター！」①	エントランス	14
	10月2日	『映画「まぼろしの邪馬台国」完成披露試写会＆舞台挨拶』 ゲスト：吉永小百合×竹中直人×堤幸彦監督	ミュージアムホール	300
	10月4日～ 10月5日	早川和子のイラスト教室「これであなたも考古イラストレーター！」②③	エントランス	30
	12月9日～ 12月11日	「あおもり縄文展」関連イベント「北海道・北東北の縄文遺跡群」パネル展	特別展前エントランス	1,950
	12月16日～ 12月21日	「あおもり縄文展」関連イベント　青森の観光・物産	エントランス／屋外	10,500
	12月20日～ 12月21日	「あおもり縄文展」関連イベント 世界遺産暫定一覧表記載決定記念フォーラム	ミュージアムホール	280
	21年3月21日	講座アジアージュ「旧石器時代のテクノパーク～日本最大の槍先と白滝遺跡群～」	研修室	－
大絵巻展	4月6日	国宝 大絵巻展記念講演会「絵巻物の面白さと読み方」講師：夏目房之介	ミュージアムホール	300
	4月15日～ 4月20日	国宝 大絵巻展関連イベント「春の京都物産展」	エントランス	20,000
	4月27日	国宝 大絵巻展記念講演会「描かれた物語－絵巻の世界」講師：若杉準治	ミュージアムホール	300
	5月10日	国宝 大絵巻展記念講演会「絵巻の魅力－物語の楽しみ方」講師：畑靖紀	ミュージアムホール	150
	5月11日	国宝 大絵巻展開催記念「おしゃべり絵巻 朗読会」	ミュージアムホール	450
島津の国宝と篤姫の時代展	7月13日	『「島津の国宝と篤姫の時代」スペシャルトーク』 ゲスト：真野響子×山本博文教授	ミュージアムホール／研修室	350
	7月19日	特別展記念講演会『5人の篤姫～「維新前後風刺画」にみる幕末の日本～』講師：東昇	ミュージアムホール	300
	7月26日	『大河ドラマ「篤姫」トークショー』 ゲスト：宮崎あおい×堺雅人	ミュージアムホール	250
	8月3日	対談「書の一大SHOW！～国宝「島津家文書」から読み解く「篤姫」の世界～」 武田双雲×原口泉	ミュージアムホール／エントランス	280
国宝天神さま展	9月23日	特別展記念九大マンドリンクラブ演奏会 ―マンドリン・コレギウム・九州―	ミュージアムホール	600
	9月28日	特別展関連イベント「国宝　天神さま」開催記念トークショー 阿川佐和子×西高辻信良×三輪嘉六館長	ミュージアムホール	300
	9月28日	特別展関連イベント「天神さまの門前町」サミット	ミュージアムホール	200
	10月4日	特別展関連イベント　記念シンポジウム「天神さまと太宰府」	ミュージアムホール	200
	10月25日	特別展関連イベント　北野天神縁起絵巻シンポジウム「北野天神縁起絵巻の歴史的変遷」	研修室	90
	10月25日	特別展関連イベント　太宰府てくてくぶらり旅	屋外	500
	10月28日～ 11月9日	特別展関連イベント「菅公（カンコー）学生フェスティバル」 『菅公学生服展～日本の学生服の歴史～』	エントランス	65,000
	11月9日	特別展関連イベント「菅公（カンコー）学生フェスティバル」 『学生服時代絵巻～ショー＆ライブ』 『講演会～あなたへ送るメッセージ～シンポジウム』 『学問企画～おいでよ♪（大学の森）集いの場』展示＆ワークショップ 『九州学生夢ブース』ワークショップ	ミュージアムホール／研修室／屋外	－
	11月16日	特別展関連イベント「天神さま研究所報告会」	ミュージアムホール	100
	11月16日	特別展関連イベント「博多・太宰府きものパスポート関連『国宝天神さま きもの電車』」	屋外	150
工芸のいま展	21年1月11日	特別展関連イベント「有田磁器の音コンサート」①	エントランス	－
	21年1月17日	特別展関連イベント「楽しい！美味しい！お茶の淹れ方セミナー」①	研修室	－
	21年1月25日	特別展関連イベント「北野武＆阿川佐和子トークショー」～日本の文化とモノ作り～	ミュージアムホール	200
	21年2月7日	特別展関連座談会「祭りと伝統工芸 ― 山笠のハッピは久留米絣!?」	ミュージアムホール	100
	21年2月7日～	特別展関連イベント「作家がお茶のおもてなし」	エントランス	390

展覧会名	期間	イベント種類	会場	参加者数
	2月8日			
	21年2月8日	特別展記念「朝日寄席 ～落語と寄席文字～」	ミュージアムホール	250
	21年2月14日	特別展関連イベント「匠に託された技 ―伝統を知る―」	ミュージアムホール	5,350
	21年2月22日	特別展関連講演会「金子賢治が語る　工芸のいま 伝統と創造」	ミュージアムホール	120
	21年2月28日	特別展関連イベント「有田磁器の音コンサート」②	エントランス	―
	21年3月1日	特別展関連イベント「楽しい！美味しい！お茶の淹れ方セミナー」②	研修室	―

⑩「留学生の日」

館　　名	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
期　　日	10 月 18 日（土）	11 月 15 日（土）	11 月 4 日（火）	11 月 9 日（日）
時　　間	9：30～18：00	9：30～18：00	9：00～18：00 （正倉院展会期中、9：00 開館）	9：30～17：00
内　　容	○入館者　　862 人《1,022 人》 留学生　　852 人《1,007 人》 同伴者　　10 人《15 人》 ・博物館紹介「東京国立博物館へようこそ」 76 人（2 回計） ・ボランティアによる茶会 95 人（3 回計） ・ボランティアによる英語ガイド	○入館者　　163 人《109 人》 留学生　　159 人《102 人》 同伴者　　4 人《 7 人》 ・お茶会（11 時～14 時） 81 人《 80 人》 ・平常展無料観覧 ・特別展覧会「japan 蒔絵」観覧料金割引	○入館者 15,485 人《15,224 人》 留学生　　75 人《　　69 人》 ・「正倉院展」（特別展）及び平常展の無料観覧	○入館者数 文化交流展（平常展）705 人《1,046 人》 留学生　　39 人《269 人》 ・平常展のみ無料観覧 ・特別展関連イベントとして菅公フェスティバル ・地元の大学による展示・イベント
アンケート結果概要	・留学生アンケート回答者数 169 人（回収率 20%） ・出身国：中国 36%、韓国 17%、台湾 10%　他 ・認知経路：学校関係者から 36%（事前に約 500 校にポスター・チラシ送付）、ポスター31%、友達から 23%、チラシ 6%、ウェブ 3% ・参加したイベント：どれにも参加していない 70%、お茶会 19%、博物館紹介 17%、英語ガイド 9%	・留学生アンケート回答者数 14 人（回収率 8%） ・初めて来館した人が　79% ・78%がポスター･チラシで知り、14%が先生･友達から聞いて来た ・出身国：　約 8 割がアジア ・約 5 割がお茶会に参加 ・お茶会の満足度　87% ・平常展の満足度　72% ・特別展の満足度　90% ・日本の歴史、美術に興味のある方が多い	・アンケート実施せず	内容精査のため、今年度未実施
その他				

＊入館者数：《　　》内は平成 19 年度

(3)快適な観覧環境の提供

①高齢者、身体障害者等に配慮した設備等

	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
障害者用トイレ	9か所 （本館4、平成館2、東洋館1、法隆寺宝物館1、資料館1）	7か所 （特別展示館1、平常展示館2（男女別各1）、南門施設1（乳児ベッド併設）、正門1、屋外トイレ1、文化財保存修理所1	3か所 （東新館1、地下回廊2）	6 か所 （本体建物）
障害者用エレベータ	7基 （本館2、平成館1、東洋館3、法隆寺宝物館1）	昇降装置1基 （管理棟1）	4基 （本館1、本館附属棟1、東新館1、西新館1）	2 基 （本体建物）
スロープ	4か所 （本館，東洋館、法隆寺宝物館，表慶館）	4か所 （特別展示館・平常展示館兼用1、南門施設1、本館1、文化財保存修理所1）	3か所 （本館1、本館附属棟1、西新館1）	—
ハンディキャップ優先駐車場	2台	3台	—	3 台
車椅子	13台 （本館2台、東洋館1、平成館7、法隆寺宝物館1、表慶館1、正門1）	16台	10台	20 台
乳幼児用設備	○ベビーシート　15か所 ○ベビーチェア　9か所	○ベビーカー　7台 ○ベビーシート　5か所 ○チャイルドシート　2か所	○ベビーシート 2か所	○ベビーシート 12か所 ○ベビーチェア　5 か所
20年度整備事項	・平成館及び東洋館にオストメイト用設備を設置した。	・南門施設のトイレ(和式便器)に手すりを設置した。 ・南門施設の障害者用トイレ（自動扉）に閉じ込め防止策として開閉システムを表示した。	・男子トイレに小児用小便器と車椅子用手すり（3カ所）を設置した。	・4階救護室前の階段にスロープを設置 ・1,3,4階の多目的トイレにオストメイト対応設備を設置（3ヶ所）

②音声ガイド実施状況

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
・特別展 「国宝　薬師寺展」 146,444台 ・特別展 「対決　巨匠たちの日本美術」 63,056台 ・特別展 「スリランカ展」 7,112台 ・特別展 「大琳派展」 52,248台 ・特別展 「福澤諭吉展」 7,157台 ・特別展 「妙心寺展」 29,118台	・特別展 「河鍋暁斎展」 （日本語版・一般向け） 8,608台 ・特別展 「japan蒔絵展」 （日本語、英語版・一般向け） 7,452台 ・特別展 「京都御所ゆかりの至宝」 （日本語版・一般向け） 15,717台 ・特別展 「妙心寺」（会期は5/10まで） （日本語版・一般向け） 1,028台 ・特集陳列「坂本龍馬」 （日本語版・一般向け） 1,792台	・特別展 「天馬―シルクロードを翔ける夢の馬―」 （日本語版・一般向け） 1,147台 ・特別展 「国宝　法隆寺金堂展」 （日本語版・一般向け） 16,189台 ・特別展 「西国三十三所―観音霊場の祈りと美―」 （日本語版・一般向け） 9,903台 ・特別展 「第60回正倉院展」 （日本語版・一般向け） 32,023台 （英語版・一般向け） 202台 （日本語版・子供向け） 892台	・文化交流展示 8,116台 （英語版　2,276） （中国語版　2,128） （韓国語版　3,712） ・特別展 「国宝 大絵巻展 京都国立博物館所蔵・寄託の名宝一挙大公開」 17,245台 ・特別展 「島津の国宝と篤姫の時代- 東京大学史料編纂所20万点の世界 -」 20,785台 ・特別展 「国宝　天神さま－菅原道真の時代と天満宮の至宝－」 17,986台 ・特別展 「工芸のいま　伝統と創造－九州・沖縄の作家たち－」 3,531台

3. 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

(1)収蔵品等に関する調査研究成果の発信

①研究交流実績一覧

（後述の資料に記載） ◎共通資料a①

②学会等発表実績一覧

（後述の資料に記載） ◎共通資料a③

③論文等発表実績一覧

（後述の資料に記載） ◎共通資料a④

④調査研究刊行物一覧

（後述の資料に記載） ◎共通資料a⑤

⑤シンポジウム開催実績一覧

合計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
9件	1件	1件	1件	6件

【東京国立博物館】

○記念シンポジウム「フランスのジャポニスム―陶磁器を中心に―」

・開　催　日：7月12日
・開催場所：東京国立博物館大講堂
・主　　催：東京国立博物館・日本経済新聞社
・参加人数：292人
・事業内容：日仏交流150周年記念特別展「フランスが夢見た日本―陶器に写した北斎、広重」の開催を記念し、ジャポニズムを主題として開催した。第一部では、ジャポニズム及び浮世絵の研究者4名による研究発表、第二部では、発表者及び東京国立博物館展覧会担当者によるパネルディスカッションを行い、フランスにおけるジャポニズムの意義について議論を深めた。

【京都国立博物館】

○国際シンポジウム『輸出漆器が語る東西交流の400年』

・開　催　日：11月8日
・開催場所：京都国立国際会館
・主　　催：京都国立博物館
・参加人数：190人
・事業内容：輸出漆器の研究は、ここ10余年で飛躍的な展開を見せています。日本美術史の流れに位置づけようとする動き、アジア地域内貿易を中心とした輸出ルートを解明しようとする動き、ヨーロッパの古城に眠る漆器の発掘や、宮廷文化における受容と西洋美術への影響を考える動きなど、視点も多角化している。第一部では、国内外の気鋭の研究者三人による研究発表を行い、第二部では、パネル・ディスカッションを行う。

【奈良国立博物館】

○「正倉院学術シンポジウム2008」

・開　催　日：11月3日
・開催場所：奈良県新公会堂
・主　　催：奈良国立博物館
・後　　援：読売新聞大阪本社
・参加人数：177名
・事業内容：「正倉院展60回　その歴史と未来」をテーマに、３名の報告者による研究発表及び５名のパネリストによる座談会を実施し、正倉院展が果たしてきた大きな役割に対する理解を促進する。

【九州国立博物館】

○平成２０年度第２回市民協同型ＩＰＭ活動に関する研究会

・開　催　日：8月23日
・開催場所：九州国立博物館ミュージアムホール
・主　　催：九州国立博物館
・共　　催：文化財保存修復学会

・参加者数：300人
・事業内容：地元ＮＰＯ法人や環境ボランティアとの連携により、ミュージアムにおける市民協同型のＩＰＭ（総合的有害生物管理）活動に取り組み、文化財保存とＩＰＭの実践と課題について研究をすすめ、この度、研修、活動の一環としての研究会を開催。

〇九州北部三県姉妹遺跡締結10周年記念事業シンポジウム
「よみがえる弥生都市ー邪馬台国時代のまちづくりー」
・開 催 日：9月13日
・開催場所：九州国立博物館ミュージアムホール
・主　　催：九州国立博物館、福岡県教育委員会、朝倉市教育委員会、佐賀県教育委員会、神埼市教育委員会、吉野ヶ里町教育委員会、長崎県教育委員会、壱岐市教育委員会、(財)佐賀県芸術文化育成基金
・共　　催：西日本新聞社
・参加者数：316人
・事業内容：「九州北部三県姉妹遺跡」が平成11年1月に締結されてから10周年を迎えるに当たり、弥生時代後期を中心とする三姉妹遺跡について、各史跡の特徴、地域性及び共通性等を踏まえてシンポジウムを開催。

〇西日本鉄道創立100周年記念・九州国立博物館開館3周年記念特別展「国宝 天神さま」
記念シンポジウム「天神さまと太宰府」
・開　催　日：10月4日
・開催場所：九州国立博物館ミュージアムホール
・主　　催：九州国立博物館・（財）太宰府顕彰会・西日本鉄道株式会社・西日本新聞社
ＴＮＣテレビ西日本・ＴＶＱ九州放送
・参加者数：200人
・事業内容：特別展「国宝　天神さま」の記念シンポジウムとして、菅原道真と天神信仰の研究者による道真の家族や太宰府天満宮の歴史、飛梅伝説、古代の大宰府についての講演ののち、「天神さまと太宰府」をめぐってディスカッションを行った。

〇西日本鉄道創立100周年記念・九州国立博物館開館3周年記念特別展「国宝 天神さま」
北野天神縁起絵巻シンポジウム「北野天神縁起絵巻の歴史的変遷」
・開　催　日：10月25日
・開催場所：九州国立博物館研修室
・主　　催：九州国立博物館・（財）太宰府顕彰会・西日本鉄道株式会社・西日本新聞社
ＴＮＣテレビ西日本・ＴＶＱ九州放送
・参加者数：90人
・事業内容：特別展「国宝　天神さま」の関連行事として、国宝の承久本やアメリカのメトロポリタン美術館本をはじめ、各時代の代表作を取り上げながら、中世から近世にかけての北野天神縁起絵巻の歴史的な変遷をたどるシンポジウムを行った。

〇九州国立博物館開館3周年・日本考古学協会創立60周年・大宰府発掘調査40周年記念
国際シンポジウム「百済、倭そして大宰府」
・開　催　日：12月6日、7日
・開催場所：九州国立博物館ミュージアムホール
・主　　催：九州国立博物館、有限責任中間法人日本考古学協会、九州歴史資料館
・後　　援：駐福岡大韓民国総領事館、(財)九州国立博物館振興財団、太宰府市教育委員会
・参加者数：385人
・事業内容：この動乱期の工芸技術の系譜と波及関係に光をあてて、飛鳥池遺跡（奈良）・水村里古墳群（公州）・王興寺遺跡（扶餘）の３遺跡を中心に、これらで明らかとなった工芸技術を紹介しつつ、東アジアの国家が誕生していく時期の社会的な諸相の解明を目指す。

〇世界遺産暫定リスト入り記念トピック展示「あおもり縄文展」
世界遺産暫定一覧表記載決定記念フォーラム
・開　催　日：12月20日、21日
・開催場所：九州国立博物館ミュージアムホール
・主　　催：九州国立博物館、青森県、青森県教育委員会
・共　　催：「青森県の縄文遺跡群」世界遺産をめざす階
・後　　援：文化庁、北海道教育委員会、岩手県教育委員会、秋田県教育委員会、福岡県教育委員会、東奥日報社、デーリー東北新聞社、陸奥新報社、西日本新聞社、共同通信社、ＮＨＫ福岡放送局、北の縄文文化回廊づくり推進協議会
・参加者数：280人
・事業内容：縄文文化に造詣が深い様々な方との対談やパネルディスカッションを通して、日本列島で育まれた豊かで多様な縄文文化の価値と魅力について、様々な角度から検証し多くの方々に認識を深めていただく。

(2) 公私立博物館等への貸与の推進

①公私立博物館等への収蔵品貸与件数

平成21年3月31日現在

		国立博物館計			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外
貸与先件数		257	249	8	135	131	4	45	44	1	47	46	1	30	28	2
合　　計		1,585	1,447	138	1,125	1,012	113	246	245	1	163	158	5	51	32	19
絵画		273	267	6	113	112	1	82	81	1	63	63	0	15	11	4
書跡		81	77	4	44	44	0	19	19	0	9	9	0	9	5	4
彫刻		168	160	8	120	116	4	20	20	0	27	23	4	1	1	0
建築		6	6	0	5	5	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
金工		110	106	4	71	67	4	6	6	0	33	33	0	0	0	0
刀剣		76	42	34	76	42	34				0	0	0	0	0	0
陶磁		100	92	8	48	40	8	49	49	0	0	0	0	3	3	0
漆工		91	75	16	64	49	15	19	19	0	6	6	0	2	1	1
染織		403	371	32	368	336	32	30	30	0	5	5	0	0	0	0
考古		183	182	1	142	142	0	13	13	0	20	19	1	8	8	0
民族資料		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料		23	13	10	4	4	0	8	8	0	0	0	0	11	1	10
和書		12	12	0	11	11	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
東洋	絵画	21	21	0	21	21	0									
	書跡	3	2	1	3	2	1									
	彫刻	15	7	8	15	7	8									
	金工	0	0	0	0	0	0									
	陶磁	5	3	2	5	3	2									
	漆工	2	2	0	2	2	0									
	染織	0	0	0	0	0	0									
	考古	12	8	4	12	8	4									
	民族	0	0	0	0	0	0									
法隆寺献納宝物		1	1	0	1	1	0									

付表・貸与件数の推移

		平成１６年度	平成１７年度	平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度
貸与先件数		296	264	276	279	257
合　　計		1,545	1,761	1,991	1,737	1,585
絵画		461	535	558	449	273
書跡		46	131	79	114	81
彫刻		66	110	79	127	168
建築		19	16	0	2	6
金工		95	119	143	113	110
刀剣		24	40	61	18	76
陶磁		118	161	223	206	100
漆工		191	118	94	52	91
染織		81	91	167	92	403
考古		254	252	260	275	183
民族資料		26	25	31	4	0
歴史資料		32	36	22	13	23
和書		7	13	30	15	12
（写真）			5			
東洋	絵画	11	11	12	18	21
	書跡	1	16	23	23	3
	彫刻	4	7	5	50	15
	金工	3	0	2	0	0
	陶磁	32	39	129	141	5
	漆工	4	0	8	0	2
	染織	2	0	5	0	0
	考古	40	32	58	22	12
	民族	0	0	0	0	0
法隆寺献納宝物		28	4	2	3	1

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

②海外への列品貸与

【東京国立博物館】

展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数
「江戸の工芸」	文化庁長官 青木 保 【サンパウロ州立美術館(ブラジル連邦共和国サンパウロ市)】	20 年 3 月 18 日～ 20 年 7 月 22 日	陶磁 5 件 漆工 1 件 染織 21 件
仏教中央博物館開館一周年記念特別展「法寶」	大韓民国 仏教中央博物館	20 年 4 月 7 日～ 20 年 7 月 21 日	東洋考古 3 件
海外展 東京国立博物館所蔵日本美術展「サムライ－日本の武家の美術」	クレムリン博物館・東京国立博物館 【クレムリン博物館（ロシア連邦モスクワ市)】	20 年 5 月 23 日～ 20 年 7 月 16 日	73 件（絵画 1 件、彫刻 3 件、金工 4 件、刀剣 34 件、陶磁 3 件、漆工 14、染織 11 件、東洋書跡 1 件、東洋陶磁 2 件）
「統一新羅彫刻特別展」	大韓民国 国立中央博物館館長 崔光植 【国立中央博物館(大韓民国)】	20 年 11 月 25 日～ 21 年 3 月 23 日	彫刻 1 件 東洋彫刻 8 件 東洋考古 1 件

【京都国立博物館】

展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数
奇想の絵画 羅聘の世界（1773-1799）	チューリッヒ・リートベルク博物館	21 年 3 月 23 日～	絵画 1 件

【奈良国立博物館】

展覧会名称	申請者【会場】	貸与期間	種別・員数
韓国国立中央博物館企画展「統一新羅彫刻」	韓国国立中央博物館	20年12月15日～ 21年3月1日	彫刻4件（2件） 考古1件

※（ ）は寄託品

【九州国立博物館】

展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数
釜山博物館開館 30 周年記念国際交流展「韓国と日本」展	釜山博物館長 李仁淑 【韓国釜山博物館】	20 年 9 月 8 日～ 12 月 12 日	絵画 4 件 書跡 3 件 歴史資料 1 件
「仕立てと装いの芸術、装潢」展	国立古宮博物館長 蘇在亀 【韓国国立古宮博物館】	20 年 8 月 29 日～ 11 月 7 日	書跡 1 件 漆工 1 件 歴史資料 9 件

③考古の相互貸借実績

【東京国立博物館】

貸与先名	貸与件数	借用件数
福島県埋蔵文化財センター白川館（通称「まほろん」）	42 件	34 件
長野県立歴史館	9 件	29 件

【奈良国立博物館】

貸与先名	貸与件数	借用件数
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館（奈良県）	1 件	2 件
茨城県立歴史館（茨城県）	1 件	1 件

(3) 公私立博物館等に対する援助・助言の推進

①公私立博物館等に対する援助・助言

計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
300 件	134 件	114 件	5 件	47 件

4. 文化財に関する調査研究及び研究の推進

(1)文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進

①調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料a②

②学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料a③

③論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料a④

(2)文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進

①調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料a②

②学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料a③

③論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料a④

(3)文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進

①調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料a②

②学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料a③

③論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料a④

(4)国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・ 研究の実施

①調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料a②

②学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料a③

③論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料a④

(5)有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

①調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料a②

②科学研究費補助金による調査研究　（後述の資料に記載）◎共通資料a⑥

③客員研究員一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料a⑦

5. 文化財の保存・修復に関する国際協力の推進

(1)文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力及び国際共同研究

①調査研究テーマ一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料a②

②国際ワークショップ開催実績一覧

【東京文化財研究所】

開催件数：2件　参加者総数：115人

開催日	テーマ	講師等	参加者数
21年 1月14日 ～16日	アジア文化遺産国際会議「被災後の遺跡の修復と保存」	清水真一(文化遺産国際協力センター長)、岡田健(保存計画研究室長)、山内和也(地域環境研究室長)、朽津信明(文化遺産国際協力センター主任研究員)、二神葉子(文化遺産国際協力センター主任研究員)、友田正彦(文化遺産国際協力センター主任研究員)、秋枝ユミイザベル(特別研究員)、有村誠(特別研究員)、Wai Lwin(ミャンマー文化省 国立博物館・図書館 考古学部 部長)、Gutomo SIDHART(中央ジャヴァ遺跡保存事務所 修復部 コーディネーター)、Maria Cristina VALERA-TURALBA (Active Group Incorporated社 副社長)、Phong VO DANG(ホイアン記念建造物保存管理センター 遺物修復課 主任、)Yahaya AHMAD(マレーシア国統一 文化、芸術、遺産省 遺産局 局長代理官)	40人
9月19日	第22回国際文化財保存修復研究会「遺跡保存と水」	朽津信明（文化遺産国際協力センター主任研究員）、Nicola Severino(ナポリ及びポンペイ特別考古学局・バイア考古学支部助手考古学者)、Richard Hughes(国際遺跡保存維持会社　代表（コンサルタント）)	75人

③学会、研究会等発表実績一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料a③

④論文発表実績一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料a④

(2) 諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転とアジア諸国の文化財保護担当者や保存・修復専門家などの人材養成に関する支援事業及び人材養成に必要な教材や教育手法に関する研究開発

①調査研究テーマ一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料a②

②アジア諸国文化財保護担当者などの人材養成に関する研修等実施状況

【東京文化財研究所】　3件

	研修課程	研修期間	日数	研修対象	参加者数
1	イラク専門家養成研修	7月1日 ～9月30日	63日	イラク国立博物館職員	2人
2	イラク専門家養成研修	11月29日 ～12月10日	13日	イラク国立博物館職員	2人
3	アフガニスタン専門家養成研修	12月14日 ～12月20日	5日	アフガニスタン情報文化省考古学研究所研究員	2人

【奈良文化財研究所】　4件

	研修課程	研修期間	日数	研修対象	参加者数
1	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2008（個人研修・ウズベキスタン）	7月17日 ～7月31日	10日	ウズベキスタン国立歴史博物館研究員等	3人
2	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2008（集団研修）	9月17日 ～9月29日	13日	アジア太平洋地域の文化財関係職員	16人
3	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2008（個人研修・カンボジア）	11月19日 ～12月1日	17日	アンコール地域遺跡保護整備局研究員	3人
4	JICAの実施する文化遺産の保護と活用に関する研修	21年2月25日 ～3月4日	8日	ベトナム文化遺産保存行政官及び研究者	11人

6. 情報発信機能の強化

(1)ネットワークのセキュリティの強化及び情報基盤の整備・充実と文化財情報の計画的収集・整理・保管及び文化財に関する専門的アーカイブの拡充

①文化財関係資料及び図書の受入件数

	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	20年度受入件数	総件数	20年度受入件数	総件数
図　　書	4,897冊	220,901冊	10,134冊	290,264冊

(2)　文化財に関する調査・研究の成果について、定期刊行物の発行及び公開講演会、現地説明会、国際シンポジウム等の開催と広報のためのホームページの充実

①調査研究刊行物一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料a⑤

②公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催実績一覧

【東京文化財研究所】

公開講演会　1件（2日）

○公開講演会「平成20年度オープンレクチャー」

・開 催 日：10月3日
・開催場所：東京文化財研究所セミナー室
・主　　催：上野の山文化ゾーン連絡協議会
・参加人数：277人（10月3日、4日の2日間延べ数）
・事業内容：美術史研究の成果を一般に公表すること
「鬼子母神の源流をたずねる」
「クチャ地域の石窟に描かれた供養者像とその信仰について」

○公開講演会「平成20年度オープンレクチャー」

・開 催 日：10月4日
・開催場所：東京文化財研究所セミナー室
・主　　催：上野の山文化ゾーン連絡協議会
・参加人数：277人（10月3日、4日の2日間延べ数）
・事業内容：美術史研究の成果を一般に公表すること
「写真のなかの芸術家たち―黒田清輝を中心に」
「明治10年・西南戦争と上野公園地図」

国際シンポジウム　1件

○国際シンポジウム「第32回文化財の保存および修復に関する国際研究集会」

・開 催 日：12月6～8日
・開催場所：東京国立博物館大講堂
・主　　催：東京文化財研究所
・参加人数：281人
・事業内容：「文化財を取り巻く環境の調査と対策」

【奈良文化財研究所】

公開講演会　3件

○公開講演会「第102回公開講演会」

・開 催 日：6月28日
・開催場所：奈良文化財研究所平城宮跡資料館講堂
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：220人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
「平城宮跡国営公園化のこと」
「西大寺食堂院の井戸と古代」
「造形意識の変革―霊廟建築に見る装飾意匠とその手法」

○公開講演会「飛鳥資料館特別念講演会」
・開 催 日：10月18日
・開催場所：奈良文化財研究所平城宮跡資料館講堂
・主　　催：飛鳥資料館　中国河南省文物管理局
・参加人数：80人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
「唐三彩の生産と供給」
「鞏義黄冶窯とその他唐三彩窯の異同」
「唐青花の起源と発展」
「鞏義黄冶窯の考古新収穫」

○公開講演会「第103回公開講演会」
・開 催 日：10月25日
・開催場所：奈良文化財研究所平城宮跡資料館講堂
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：220人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
「復原大極殿の棟飾りについて」
「平城宮とその周辺の先史時代」
「洋風庭園と日本近代」

現地説明会　5件
○現地説明会「平城第431次（中央区第1次大極殿院）発掘調査」
・開 催 日：6月7日
・開催場所：奈良市佐紀町
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：807人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。発掘調査。

○現場公開「飛鳥藤原第153次（朝堂院朝庭部）発掘調査」
・開 催 日：6月30日～7月2日
・開催場所：橿原市高殿町
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：965人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。発掘調査。

○現地説明会「飛鳥藤原第153次（藤原宮朝堂院朝庭）発掘調査」
・開 催 日：9月27日
・開催場所：橿原市高殿町
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：953人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。発掘調査。

○現地説明会「平城第432次・436次（第1次大極殿院西面回廊）発掘調査」
・開 催 日：9月28日
・開催場所：奈良市佐紀町
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：728人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。発掘調査。

○現地説明会「飛鳥藤原第156次（石神遺跡第21次）発掘調査」
・開 催 日：21年2月14日
・開催場所：高市郡明日香村
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：1，611人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。発掘調査。

③ホームページアクセス件数
（後述の資料に記載）◎共通資料c

(3)黒田記念館、平城宮跡資料室、飛鳥資料館の展示公開

①入館者数
（後述の資料に記載）◎共通資料d①

②入館者数（過去5カ年）
（後述の資料に記載）◎共通資料d②

③入場料収入
（後述の資料に記載）◎共通資料d③

④平常展・特別展
（後述の資料に記載）◎共通資料d④

(4)文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力・事業の運営と各種ボランティア支援

①ボランティア受入れ実績
（後述の資料に記載）◎共通資料b

(5)文化財情報・研究成果の促進

①ウェブサイトのアクセス件数
（後述の資料に記載）◎共通資料c

②収蔵品のデジタル化件数

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
画像　139,000件 文字　553,000字	6,478件	8,399件	3,963件

③収集した情報資料数（総数）

		東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
写真原板		309,028枚	243.008枚	353,585枚	16,672枚
資料	模造	0	0	0	0
	模写	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0
	計	0	0	0	0件
図書	和書	160,469冊	56,817冊	59,012冊	50,551冊
	漢書	37,267冊	18,968冊	4,717冊	0
	洋書	11,339冊	1,680冊	1,521冊	1,406冊
	計	209,075冊	77,465冊	65,250冊	51,957冊
映画フィルム		0	24巻	30巻	0
スライド		0	26本2,779コマ	21本2,192コマ	12コマ
マイクロフィルム		3,644巻	0	0	515巻

東京国立博物館資料館の利用者数（過去5年間）

	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度(3月末)
利用者数	4,228人	3,769人	2,920人	3,134人	2,764人
閉架図書（閲覧）	2,776件	2,758件	2,770件	3,321件	3,757件
マイクロフィルム(閲覧)	133件	817件	1,093件	650件	596件
レファレンスサービス	——	3,063件	3,632件	3,299件	4,024件
コピーサービス	——	——	22,530枚	23,287枚	22,669枚

古文献閲覧はH16年度より廃止。レファレンスサービスは、H17年度より新に項目として追加

④特別観覧件数

区分		国立博物館						東京国立博物館						京都国立博物館						奈良国立博物館						九州国立博物館					
		合計		有料		無料		合計		有料		無料		合計		有料		無料		合計		有料		無料		合計		有料		無料	
		申請件数	点数	申請件数	点数	申請件数	点数	申請件数	点数	申請件数	点数	申請件数	点数	申請件数	点数	申請件数	点数	申請件数	点数	申請件数	点数	申請件数	点数	申請件数	点数	申請件数	点数	申請件数	点数	申請件数	点数
合計		1,677	8,445	843	2,825	834	5,620	180	778	13	63	167	715	902	5,162	617	2,319	285	2,843	380	972	181	356	199	616	215	1533	32	87	183	1446
写真撮影		71	1,389	13	40	58	1,249	18	85	4	15	14	70	23	1,097	3	11	20	986	24	110	4	11	20	99	6	97	2	3	4	94
使用	写真原板 モノクロ	241	1,074	145	485	96	589							177	934	123	449	54	485	64	140	22	36	42	104	0	0	0	0	0	0
	カラー	1,050	4,636	643	2,182	407	2,454							645	2,987	482	1,841	163	1,146	243	638	135	263	108	375	162	1011	26	78	136	933
写真原板再使用		143	232	93	149	50	83							0	0	0	0	0	0	140	229	90	146	50	83	3	3	3	3	0	0
映画撮影		20	104	15	61	5	43	9	60	8	47	1	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
テレビ撮影														3	6	3	6	0	0	2	3	2	3	0	0	5	33	1	3	4	30
ビデオ撮影														1	2	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
模写		4	15	0	0	4	15	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	14	0	0	3	14
模造		8	14	4	8	6	10	1	1	0	0	1	1	4	8	4	8	2	4	2	2	0	0	2	2	1	3	0	0	1	3
熟覧		213	1,129	2	3	257	1,348	151	631	1	1	150	630	1	2	1	2	46	222	26	124	0	0	26	124	35	372	0	0	35	372

7. 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

①国・地方公共団体への協力等に対する専門的・技術的な協力・助言

計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
747件	425件	322件

②専門指導者層を対象とした研修等実施状況及び研究参加者等に対するアンケート結果

【東京文化財研究所】 3件

	研修課程	研修期間	日数	研修対象	研修内容	参加者数	満足度
1	博物館・美術館等の保存担当学芸員研修	H20.7.14 ～ H20.7.25	9日	博物館・美術館等の文化財の保存担当者	文化財の保存科学の基礎と実践上の諸問題についての講義と実習	29人	100%
2	保存担当学芸員フォローアップ研修	H20.6.2	1日	博物館・美術館等の保存担当学芸員研修修了生	研修修了生に対して最新の保存科学の知識を講義する	66人	100%
3	国際研修「紙の保存と修復」	H20.9.8 ～ H20.9.26	19日	海外の博物館・図書館・文書館などの学芸員、修復技術者、教員など	日本の紙本文化財の修復に関する講義と実習、研修旅行	10人	100%

【奈良文化財研究所】 14件

	研修課程	研修期間	日数	研修対象	研修内容	参加者数	満足度
1	保存科学Ⅰ(無機質遺物)課程	5月13日～21日	9日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	保存科学Ⅰ(無機質遺物)	6人	100%
2	保存科学Ⅱ(有機質遺物)課程	5月21日～29日	9日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	保存科学Ⅱ(有機質遺物)	9人	100%
3	掘立柱建物・礎石建物遺構調査課程	6月9日～13日	5日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	掘立柱建物・礎石建物遺構調査	13人	100%
4	文化財写真Ⅰ(基礎)課程	7月7日～23日	17日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	文化財写真Ⅰ(基礎)	9人	100%
5	文化財写真Ⅱ(応用)課程	7月23日～8月6日	15日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	文化財写真Ⅱ(応用)	6人	100%
6	遺物観察調査課程	8月18日～9月12日	26日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	遺物観察調査	12人	100%
7	鉄製武器類調査課程	10月6日～10日	5日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	鉄製武器類調査	13人	100%
8	遺跡測量課程	10月20日～31日	12日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	遺跡測量	5人	100%
9	遺跡地図情報課程	11月18日～21日	4日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	遺跡地図情報	15人	100%
10	自然科学的年代決定法課程	12月1日～5日	5日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	自然科学的年代決定法	6人	100%
11	中近世城郭調査整備課程	12月11日～18日	8日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	中近世城郭調査整備	29人	100%
12	報告書作成課程	21年1月14日～23日	10日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	報告書作成	23人	100%
13	寺院遺跡調査課程	21年2月2日～6日	5日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	寺院遺跡調査	16人	100%
14	生物環境調査課程	21年2月17日～25日	9日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	生物環境調査	8人	100%

◎共通資料
a. 調査研究

①研究交流実績一覧
1）海外研究者招聘・受入実績（延べ人数）

国立文化財機構	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
224人	15人	9人	9人	18人	66人	107人

【東京国立博物館】15人

氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
顧祥虞	中国	上海博物館・副館長	今年度の学術交流および展覧会事業についての意見交換	5月9日～18日
孫峰		同外事処		
陳克倫	中国	上海博物館・副館長	当館と上海博物館との学術交流事業、2010 年開催「南宋絵画展」の事前調査	10月5日～12日
單 国霖		同書画研究部主任研究員		
孫峰		同外事処		
杜暁帆	中国	ユネスコ北京事務所・文化遺産プロジェクト担当官	当館保存修復課とともに、館内の環境保存について意見交換を行うとともに、国内世界遺産を視察、日本と中国の文化財保存について比較研究を行った。また、招へい中に文化財保存修復学会国際シンポジウムにおいて発表した。	9月26日～10月3日
尹錫俊	韓国	韓国国立中央博物館・ 管理課情報通信係長	当館との学術交流協定による招へい	10月25日～31日
許明會		同教育チームエデュケーター		
ポール・ジョンソン	アメリカ	バウワーズ博物館・チーフデザイナー	当館の収蔵品展「サムライの美術」開催に向けての打合せ、展示方法についての調査・視察および意見交換	11月18日～26日
ナンシー・ジョンソン		同グラフィックデザイナー		
アイヌラ・ユスポワ	ロシア	プーシキン美術館・アジア美術担当学芸員	東京文化財研究所主催 国際研究集会「第32回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「“オリジナル”の行方 － 文化財アーカイブ構築のために －」出席および当館所蔵の浮世絵コレクションおよび博物館の国際交流事業についての意見交換	12月4日～9日
金 英美	韓国	韓国国立中央博物館・学芸研究官	日本にある朝鮮半島出土中国陶磁および日本伝世・出土の中国陶磁の調査による日中韓の陶磁交流の研究（中央博所蔵新安海底遺物と当館所蔵の日本伝世品との比較研究）	21年1月17日～25日
朴聖媛	韓国	韓国国立春川博物館・学芸研究士	当館所蔵品等国内所蔵の作品の調査を通して東アジアの書道史における料紙と書風に関しての基礎的研究を実施	21年3月2日～9日
張得水	中国	河南省博物院・研究部長	2010 年開催予定の「中国文明の源」(河南省文物展)についての協議、事前調査	21年3月5日～13日
康国義		河南省文物局博物館・処長		

【京都国立博物館】延べ 9人

氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
コルネリウス・パトリック	オランダ	ライデン国立民俗学博物館・クーリエ	「河鍋暁斎展」作品展示確認・撤収	5月10日～15日
ティモシー・クラーク	英国	大英国立博物館・クーリエ	「河鍋暁斎展」作品展示確認・撤収	5月9日～23日
コルネリウス・パトリック	オランダ	ライデン国立民俗学博物館・クーリエ	「河鍋暁斎展」作品確認	6月2日～7日
阮榮春	中国	上海大学芸術研究院・院長	外国人研究員として受け入れ	6月8日～15日
徐国明	中国	上海大学芸術研究院・ 務委員会副主任	外国人研究員として受け入れ	6月8日～15日
李超	中国	上海大学・芸術研究院教授	外国人研究員として受け入れ	6月8日～15日
フィリップ・スホメル	チェコ	チェコ・プラハ工芸大学・副学長	国際シンポジウム打ち合わせ・研究発表	11月4～17日
シンティア・フィアレイ	オランダ	オランダ・ライデン大学・研究員	国際シンポジウム打ち合わせ・研究発表	11月5日～16日
イリナ・ポポヴァ	ロシア	ロシア科学アカデミー東洋写本研究所・所長	ロシア展開催に関する打ち合わせのための招へい	21年2月9日～14日

【奈良国立博物館】　延べ9人

氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
刘　振江	中国	河南博物院・館員	当館との学術交流	4月30日～5月30日
杜　安	中国	文物保護中心・館員	当館との学術交流	4月30日～5月30日
裵　泳一	韓国	国立中央博物館・学芸研究士	交流推進及び意見交換（文化庁招へい事業）	10月27日～11月6日
尹　相憲	韓国	国立慶州博物館・学芸研究士	当館との学術交流	11月25日～12月24日
文　軍	中国	陝西歴史博物館・副研究員	交流推進及び意見交換（文化庁招へい事業）	12月1日～11日
キョウ・シネード	アメリカ	プリンストン大学附属美術館・東洋美術担当学芸員	交流推進及び意見交換（文化庁招へい事業）	21年1月30日～2月28日
于　成龍	中国	国家博物館・副研究館員	当館との学術交流	21年2月9日～3月11日
万　婷	中国	国家博物館・館員	当館との学術交流	21年2月9日～3月11日
趙　力光	中国	西安碑林博物館・館長	交流推進及び意見交換（文化庁招へい事業）	21年2月16日～21日

・その他招へい

氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
ルクレツィア・ウンガロ	イタリア	フォーリ・インペリアリ博物館・館長	「天馬展」招へい及び意見交換	5月13日～15日
李　栄勲	韓国	韓国国立慶州博物館・館長	「正倉院展」開会式への出席及び当館職員との意見交換	10月23日～26日
呉　永賛	韓国	韓国国立慶州博物館・学芸研究官	「正倉院展」開会式への出席及び当館職員との意見交換	10月23日～26日

【九州国立博物館】延べ18人

氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
Yuriy　Zaytsev	ウクライナ	ウクライナ考古学研究所	「文化財保存国際交流セミナー『漆工品の保存修理』における講演	5月15日～17日
プラパパーン・スリスック	タイ	タイ王国・スワンワラナーヨック国立博物館・学芸員	JICA草の根技術協力事業「文化財の保存と地域の活性化」研修のため（JICA経費）	9月25日～10月16日
ディサポン・ネートロームウォーン	タイ	タイ王国・バンコク国立博物館・学芸員	〃（JICA経費）	9月25日～10月16日
ウィパラット・プラディトアーチープ	タイ	タイ王国芸術局国立博物館事務局・学芸員	〃（JICA経費）	9月25日～10月16日
李　午熹	韓国	韓国伝統文化学校	「第２回文化財保存国際セミナー」における題目「韓国における文化財の保存とその問題点」の講演	9月26日～30日
チラポーン・アランヤナーク	タイ	タイ文化省芸術局・保存科学部部長	「第２回文化財保存国際交流セミナー」における題目「タイにおける文化財保存と課題」の講演	9月26日～10月3日
李　華樹	韓国	翰林保存Tech・首席研究員	「第２回文化財保存国際交流セミナー」における題目「タイにおける文化財保存と課題」の講演	9月29日～30日
パッチャニー・チャンドラサック	タイ	タイ国立美術館・館長	タイの展覧会事情に関する情報収集及びタイとの交流事業に関する意見交換のため	9月30日～10月3日
塔　　拉	中国	内蒙古文物考古研究所・所長	平成20年度外国人芸術家･文化財専門家招へい事業に係る招へいのため（旅費・滞在費　文化庁負担）	11月3日～8日
劉　　冰	中国	赤峰博物館・館長	日中共同遼文化研究に関する研究員の招へいのため（科研費）	11月3日～10日
孫　建華	中国	内蒙古文物考古研究所・研究員	日中共同遼文化研究に関する研究員の招へいのため（科研費）	11月3日～10日
CHO　EUN　HYE	韓国	靖齊文化財保存研究所・絵画･典籍類文化財保存処理者	九州国立博物館保存修復事業等に係る協力のため（旅費・滞在費　文化庁負担）	10月30日～11月9日
SHIN　HYO　YUNG	韓国	靖齊文化財保存研究所・絵画･典籍類文化財保存処理者	九州国立博物館保存修復事業等に係る協力のため	10月30日～11月9日
尹 郎 映	韓国	韓国国立中央博物館・考古部学芸研究官	九州国立博物館開館３周年記念国際シンポジウム「百済、倭そして大宰府」講演	12月6日～9日
尹 龍 熙	韓国	韓国国立扶餘博物館・学芸研究士	九州国立博物館開館３周年記念国際シンポジウム「百済、倭そして大宰府」講演	12月6日～9日
姜 元 杓	韓国	韓国国立公州博物館・学芸研究士	研究交流のため	12月6日～9日

氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
ケームチャート・テープチャイ	タイ	タイ王国文化省芸術局・副局長	タイ王国との交流事業に関する意見交換のため	21年3月12日～17日
スラサック・スリサマン	タイ	タイ王国文化省芸術局・国立博物館事務局長	タイ王国との交流事業に関する意見交換のため	21年3月12日～20日

※上記には、他機関が招聘し、九州国立博物館を訪問（滞在）したものや、自己負担での外国人研究者の訪問実績は含んでいない。
※上記には、日本国内の機関（大学、研究所等）に所属する外国人研究者の招聘は含んでいない。

【東京文化財研究所】延べ66人

氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
Anna Pusoska	ポーランド	クラコウ国立美術館(日本美術技術センター)　・学芸員	在外日本古美術品保存修復協力事業修復完了検査及び輸出用梱包立会のため	6月28日～7月4日
Buthainah Muslim Abdul Hussein	イラク	イラク国立博物館・中央修復研究室長	ユネスコ文化遺産保存日本信託基金によってイラク国立博物館に供与された保存修復機材に関する専門知識の習得および機材の使用・メンテナンス方法に関する研修	7月1日～12月10日
Thamr R. AbduALLah	イラク	イラク国立博物館・修復研究室保存修復技術者	ユネスコ文化遺産保存日本信託基金によってイラク国立博物館に供与された保存修復機材に関する専門知識の習得および機材の使用・メンテナンス方法に関する研修	7月1日～12月10日
Kwang Hee Moon	韓国	韓国国立生物資源館・ 生物資源研究部　研究官	カンボジア・アンコール遺跡でのAPSARA機構との共同研究（遺跡の地衣類に関する調査）	7月18日～22日
	アフガニスタン		考古学研究に関連する実習と専門知識の研修	7月18日～22日
	アフガニスタン		考古学研究に関連する実習と専門知識の研修	7月18日～22日
Emilie CHECROUN	フランス	保存修復専門家	タジキスタン国立古物博物館所蔵壁画修復	7月23日～8月4日
Antonio IACCARINO	イタリア	保存修復専門家	タジキスタン国立古物博物館所蔵壁画修復	7月27日～8月4日
Emilie CHECROUN	フランス	保存修復専門家	タジキスタン国立古物博物館が所蔵する壁画の修復事業に参加するため	8月27日～9月11日
Daniel Bone	イギリス	アシュモリアン博物館・修復部門副責任者	在外日本古美術品保存修復協力事業作品中間検査	9月3日～8日
Maria Luisa GIORGI	イタリア	国立東洋美術館（ローマ）・館長	平成20年度　国際研修「紙の保存と修復」の参加のため	9月7日～26日
Ingrid SEGEBARTH	ベルギー	ラ・カンブル国立美術学校・助手	平成20年度　国際研修「紙の保存と修復」の参加のため	9月7日～27日
Maria Soledad CORREA SALAS	チリ	国立保存修復センター・紙修復家	平成20年度　国際研修「紙の保存と修復」の参加のため	9月7日～27日
Jan HYBNER	チェコ	プラハ芸術・建築・デザイン大学・　製本ワークショップ指導員	平成20年度　国際研修「紙の保存と修復」の参加のため	9月7日～27日
Johanna Magdalena WEIDRINGER	ドイツ	ヘルツォーク・アウグスト図書館・　紙修復家	平成20年度　国際研修「紙の保存と修復」の参加のため	9月7日～27日
Caroline DE STEFANI	イタリア	英国図書館・本修復家	平成20年度　国際研修「紙の保存と修復」の参加のため	9月7日～27日
Mony CHHUON	カンボジア	カンボジア国立図書館・修復室長	平成20年度　国際研修「紙の保存と修復」の参加のため	9月7日～27日
Naiyana YAMSAKA	タイ	タイ国立公文書館・修復課長	平成20年度　国際研修「紙の保存と修復」の参加のため	9月7日～9月27日
Marie-France LEMAY	カナダ	イェール大学図書館付属ベイニック貴重図書・写本図書館紙・写真修復家	平成20年度　国際研修「紙の保存と修復」の参加のため	9月7日～27日
WANG Shan	中国	中国文化遺産研究員・館員	平成20年度　国際研修「紙の保存と修復」の参加のため	9月8日～27日
Nicola Severino	イタリア	ナポリ及びポンペイ特別考古学局 バイア考古学支部・助手考古学者	国際文化財保存修復研究会にて発表	9月17日～20日
Richard Hughes	イギリス	国際遺跡保存維持会社代表（コンサルタント）	国際文化財保存修復研究会にて発表、関連機関視察	9月17日～20日
GIORGI Maria Luisa	イタリア	国立東洋美術館（ローマ）・館長	在外日本古美術品保存修復協力事業工房視察	9月27日～30日
Adele SCHLOMBS	ドイツ	ドイツ　ケルン東洋美術館・館長	在外日本古美術品保存修復協力事業に係る海外修復作品に係る打ち合わせ	9月29日～30日

氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
Marsis Sutopo	インドネシア	ボロブドゥール遺産保存研究所・所長	遺跡のモニタリングに関する共同研究	10月20日～25日
Djoko Luknanto	インドネシア	ガジャマダ大学工学部　土木環境工学課・講師　リサーチエンジニア	遺跡のモニタリングに関する共同研究	10月20日～25日
Thomas J. K. Strang	カナダ	カナダ保存研究所・上級保存科学者	文化財の生物劣化対策に関する共同研究	10月20日～31日
Erdenebat GENDENDARAM	モンゴル	文化芸術局・局長	有形および無形の文化財の保護に関する日本の現状の視察、文化財保護の研究者や文化財保護行政関係者との情報交換	11月10日～14日
Chinzorig SAMDAN	モンゴル	モンゴル国立文化遺産センター・　主任修復保存専門家	有形および無形の文化財の保護に関する日本の現状の視察、文化財保護の研究者や文化財保護行政関係者との情報交換	11月10日～21日
Oyunbileg ZUNDUI	モンゴル	モンゴル国教育・文化・科学省・首席専門家	有形および無形の文化財の保護に関する日本の現状の視察、文化財保護の研究者や文化財保護行政関係者との情報交換	11月10日～21日
Enkhbat GALBADRAKH	モンゴル	モンゴル国立文化遺産センター・　センター長	有形および無形の文化財の保護に関する日本の現状の視察、文化財保護の研究者や文化財保護行政関係者との情報交換	11月10日～21日
Christopher RUSSELL	カナダ	ヴィクトリア美術館・主任修復士	ヴィクトリア美術館蔵「松に孔雀図屏風」修復事業の中間視察および協議	11月11日～18日
	アフガニスタン		文化財保存修復の基礎的な知識と技術の研修	11月12日 ～21年1月31日
	アフガニスタン		文化財保存修復の基礎的な知識と技術の研修	11月12日 ～21年1月31日
	アフガニスタン		バーミヤーン遺跡保存事業に関する打合せに出席のため	11月13日～19日
Stephanie BOGIN	ドイツ	保存修復専門家	タジキスタン国立古物博物館が所蔵する壁画の修復作業	11月19日～12月4日
Emilie CHECROUN	フランス	保存修復専門家	タジキスタン国立古物博物館所蔵壁画修復	11月26日～12月15日
前川信	日本	ゲティ保存研究所・主任研究員環境科学担当	研究会「文化財の保存環境を考慮した博物館の省エネ化」の講師／博物館内保存環境に関する研究交流	12月1日～6日
Mekan ANNANUROV	トルクメニスタン	トルクメニスタン共和国　アビバード歴史・文化公園保存修復局	ワークショップ「中央アジア出土壁画の保存修復」への参加	12月3日～11日
Mariya KOBIJAEVA	ウズベキスタン	通訳	ワークショップ「中央アジア出土壁画の保存修復」への参加	12月3日～12日
Marina REUTOVA	ウズベキスタン	ウズベキスタン共和国科学アカデミー　考古学研究所	ワークショップ「中央アジア出土壁画の保存修復」への参加	12月3日～12日
Toizhan DOCHSHANOVA	カザフスタン	カザフスタン共和国考古学研究所	ワークショップ「中央アジア出土壁画の保存修復」への参加	12月4日～11日
Aidai SULAIMANOVA	キルギス	キルギス共和国国立科学アカデミー　研究部　歴史・文化財研究所	ワークショップ「中央アジア出土壁画の保存修復」への参加	12月4日～11日
Akmalzhon ULMASOV	ウズベキスタン	ウズベキスタン共和国美術科学研究所	ワークショップ「中央アジア出土壁画の保存修復」への参加	12月4日～12日
何傳馨	台湾	国立故宮博物院・書画処長	第32回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「“オリジナル”の行方－文化財アーカイブ構築のために」発表者として参加、及び打ち合わせへの出席のため	12月4日～7日
Matthew Philip McKelway	アメリカ	コロンビア大学・美術史考古学科・准教授	第32回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「“オリジナル”の行方－文化財アーカイブ構築のために」発表者として参加、及び打ち合わせへの出席のため	12月4日～9日
Mark Barnard	イギリス	大英図書館・紙修復主任、東洋部門保存スタジオ主任	第32回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「“オリジナル”の行方－文化財アーカイブ構築のために」発表者として参加、及び打ち合わせへの出席のため	12月4日～10日
Sherry Fowler	アメリカ	カンザス大学・准教授	第32回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「“オリジナル”の行方－文化財アーカイブ構築のために」発表者として参加、及び打ち合わせへの出席のため	12月5日～9日

氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
Julia Hutt	イギリス	V&A博物館　日本、アジア部門学芸員	在外日本古美術品（工芸）の中間検査	12月5日～16日
Sudchai Phansuwan	タイ	タイ芸術局保存研究部門　技師	研究打ち合わせ及び視察	12月15日～18日
Donatella Failla	イタリア	キョッソーネ東洋美術館　館長	在外日本古美術品保存修復協力事業20年度修理打合せ	21年1月10日～25日
Wai Lwin	ミャンマー	ミャンマー文化省 国立博物館・図書館 考古学部 部長	「アジア文化遺産国際会議：被災後の遺跡の修復と保存」出席、タイにおける文化財保存の現状調査	21年1月12日～18日
Gutomo SIDHARTA	インドネシア	中央ジャヴァ遺跡保存事務所修復部 コーディネーター	「アジア文化遺産国際会議：被災後の遺跡の修復と保存」出席、タイにおける文化財保存の現状調査	21年1月13日～17日
Maria Cristina VALERA-TURALBA	フィリピン	Active Group Incorporated社副社長	「アジア文化遺産国際会議：被災後の遺跡の修復と保存」出席、タイにおける文化財保存の現状調査	21年1月13日～17日
Phong VO DANG	ベトナム	ホイアン記念建造物保存管理センター 遺物修復課 主任	「アジア文化遺産国際会議：被災後の遺跡の修復と保存」出席、タイにおける文化財保存の現状調査	21年1月13日～17日
Yahaya AHMAD	マレーシア	マレーシア国統一 文化、芸術、遺産省 遺産局 局長代理官	「アジア文化遺産国際会議：被災後の遺跡の修復と保存」出席、タイにおける文化財保存の現状調査	21年1月13日～18日
Brigitte SCHOLZ	ドイツ	有限会社インターナツオナルバウアウスシュテルング社代表	文化遺産国際協力コンソーシアム　公開シンポジウム、基調講演出席及び日本近代化遺産等視察	21年1月17日～21日
郭 青林	中国	敦煌研究院保護所　館員	敦煌壁画の保護に関する共同研究	21年1月20日～3月15日
柴 勃隆	中国	敦煌研究院保護所　館員	敦煌壁画の保護に関する共同研究	21年2月3日～3月15日
李 逸定	中国	上海桐井建材有限公司　総経理	四川震災復興に係る文化財協力（専門家交流）現地ワークショップのため	21年2月7日～10日
胡 惠琴	中国	北京工業大学建築與城市規劃学院　教授	四川震災復興に係る文化財協力（専門家交流）現地ワークショップのため	21年2月8日～13日
金 三基	韓国	韓国国立文化財研究所　無形文化財研究室　室長	第2回アジア無形文化遺産保護研究会出席	21年2月18日～22日
朴 亨彬	韓国	韓国国立文化財研究所 研究企劃課 学芸研究士	第3回アジア無形文化遺産保護研究会出席	21年2月18日～22日
Manatchaya Wajvisoot	タイ	タイ芸術局保存研究部門　技官	覆屋効果に関する共同研究	21年2月23日～3月1日
Karin Schibbye	スウェーデン	スウェーデン国立遺産庁　文化遺産委員会　開発管理局局長	文化遺産国際協力コンソーシアム　第4回研究会講演の為	21年3月22日～27日
Meinolf Spiekermann	ドイツ	ドイツ技術公社本部　都市開発プログラム局　局長	文化遺産国際協力コンソーシアム　第5回研究会講演の為	21年3月24日～27日

【奈良文化財研究所】延べ107人

氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
ハルムート　キューネ	ドイツ	ベルリン自由大学・中近東古代学科教授	平城宮跡視察	4月24日
崔孟植	韓国	国立文化財研究所・遺跡調査研究室長	共同研究の協議と推進のため	5月26日～29日
金洛中	韓国	国立扶餘文化財研究所・学芸研究官	共同研究の協議と推進のため	5月26日～29日
Lmasov Akmaljon Fozilovich 外2名	ウズベキスタン	芸術アカデミー芸術学研究所・研究員	「文化遺産の保護に資する研修2008(個人研修・ウズベキスタン)」受講	7月17日～31日
鄭仁盛	韓国	嶺南大学・助教授	山内資料閲覧	7月29日
卓京柏	韓国	国立扶餘文化財研究所・学芸研究士	共同研究実施のため	7月29日～8月7日
金哲主	韓国	国立扶餘文化財研究所・専門研究員	共同研究実施のため	7月29日～8月7日
車順喆	韓国	国立慶州文化財研究所・学芸研究士	共同研究実施のため	7月29日～8月7日
鐘雯莉　外3名	台湾	古物維護研究所・研究生 外	保存科学施設見学	8月22日
アブドゥライ・カマラ	セネガル	ブラックアフリカ基礎研究所・主任研究員	研究所訪問	8月25日～26日
鄭修鈺　外1名	韓国	韓国国立加耶文化財研究所・学芸研究士	保存科学施設、木製出土品見学	8月28日～29日
	アフガニスタン		「西アジア諸国家等文化遺産保存修復協力事業」のアフガニスタン専門家育成研修	9月16日～12月12日

氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
Naheed Sultana Mala	バングラディシュ	考古学局・文化遺産保護管理者	「アジア太平洋地域文化遺産保護研修 2008（集団研修）-遺跡の調査と保存-」受講	9月17日、18日、22日、24日、25日、26日、29日
Lun Votey 外1名	カンボジア	日本国政府アンコール遺跡救済チーム・考古学専門員	「アジア太平洋地域文化遺産保護研修 2008（集団研修）-遺跡の調査と保存-」受講	9月17日、18日、22日、24日、25日、26日、29日
Wang Renyu	中国	中国社会科学院考古学研究所・研究員	「アジア太平洋地域文化遺産保護研修 2008（集団研修）-遺跡の調査と保存-」受講	9月17日、18日、22日、24日、25日、26日、29日
Roseri Rosdy	インドネシア	文化観光省文化財部・修復課長	「アジア太平洋地域文化遺産保護研修 2008（集団研修）-遺跡の調査と保存-」受講	9月17日、18日、22日、24日、25日、26日、29日
Aileen Babakhani	イラン	文化遺産工芸観光協会・保存修復主任	「アジア太平洋地域文化遺産保護研修 2008（集団研修）-遺跡の調査と保存-」受講	9月17日、18日、22日、24日、25日、26日、29日
Daw Nyo Nyo Than	ミャンマー	文化省考古学局文化遺産課・課長補佐	「アジア太平洋地域文化遺産保護研修 2008（集団研修）-遺跡の調査と保存-」受講	9月17日、18日、22日、24日、25日、26日、29日
Matthew Schmidt	ニュー・ジーランド	ニュージーランド史跡トラスト オタゴ地域・考古学職員	「アジア太平洋地域文化遺産保護研修 2008（集団研修）-遺跡の調査と保存-」受講	9月17日、18日、22日、24日、25日、26日、29日
Muhammad Aasim Dogar	パキスタン	ハラッパ考古学博物館・副館長	「アジア太平洋地域文化遺産保護研修 2008（集団研修）-遺跡の調査と保存-」受講	9月17日、18日、22日、24日、25日、26日、29日
Calvin Taurengel Emesiochel	パラオ	地域社会文化省文化芸術局史跡保存事務所・史跡保存専門職員	「アジア太平洋地域文化遺産保護研修 2008（集団研修）-遺跡の調査と保存-」受講	9月17日、18日、22日、24日、25日、26日、29日
Edwin Winston A. Valientes	フィリピン	フィリピン大学人類学部・大学講師	「アジア太平洋地域文化遺産保護研修 2008（集団研修）-遺跡の調査と保存-」受講	9月17日、18日、22日、24日、25日、26日、29日
Han Min Su	韓国	国立文化遺産研究所・研究員	「アジア太平洋地域文化遺産保護研修 2008（集団研修）-遺跡の調査と保存-」受講	9月17日、18日、22日、24日、25日、26日、29日
Tautala S Asaua	サモア	サモア国立大学・大学講師（考古学）	「アジア太平洋地域文化遺産保護研修 2008（集団研修）-遺跡の調査と保存-」受講	9月17日、18日、22日、24日、25日、26日、29日
Sermsuk Prakittipoom	タイ	文化省芸術局芸術第3地域事務所・考古学研究員	「アジア太平洋地域文化遺産保護研修 2008（集団研修）-遺跡の調査と保存-」受講	9月17日、18日、22日、24日、25日、26日、29日
Djangar Ilyasov	ウズベキスタン	芸術学研究所・主任研究員	「アジア太平洋地域文化遺産保護研修 2008（集団研修）-遺跡の調査と保存-」受講	9月17日、18日、22日、24日、25日、26日、29日
Nguyen Khanh Trung Kien	ベトナム	南部社会科学院・考古学研究センター・研究員	「アジア太平洋地域文化遺産保護研修 2008（集団研修）-遺跡の調査と保存-」受講	9月17日、18日、22日、24日、25日、26日、29日
朴永萬	韓国	国立光州博物館学芸研究室・学芸研究士	木製遺物保存処理に関する研修受講	10月1日～31日
郭移洪	中国	河南省文物考古研究所・館員	展覧会の展示指導のため	10月8日～15日
郭培育	中国	河南省文物考古研究所・館員	展覧会の展示指導のため	10月8日～15日
孫新民	中国	河南省文物考古研究所・所長	共同研究の推進および展覧会の開幕式、講演会に参加	10月15日～24日
劉蘭華	中国	中国文化遺産研究院・研究員	共同研究の推進および展覧会の開幕式、講演会に参加	10月15日～24日
陳彦堂	中国	河南省文物管理局外事処・副処長	共同研究の推進および展覧会の開幕式、講演会に参加	10月15日～24日
郭木森	中国	河南省文物考古研究所・館員	共同研究の推進および展覧会の開幕式、講演会に参加	10月15日～24日
郭民卿	中国	河南省文物考古研究所・館員	共同研究の推進および展覧会の開幕式、講演会に参加	10月15日～24日
ブタイナー・ムスリム・アブドゥルフセイン　外1名	イラク	イラク国立博物館・中央修復研究室長	イラク人専門家への研修	11月4日～28日
李新全	中国	遼寧省文物考古研究所・副所長	共同研究の協議と推進のため	11月5日～15日
馮雷	中国	遼寧省文物考古研究所・副主任	共同研究の協議と推進のため	11月5日～15日
蘇鵬力	中国	遼寧省文物考古研究所・考古隊員	共同研究の協議と推進のため	11月5日～15日
郭明	中国	遼寧省文物考古研究所・第一研究室副主任	共同研究の協議と推進のため	11月5日～15日
劉胜剛	中国	遼寧省文化庁文物処・副処長	共同研究の協議と推進のため	11月5日～15日
張忠華	中国	朝陽市双塔区文体局・局長	共同研究の協議と推進のため	11月5日～15日

氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
李鐘哲　外3名	韓国	国立韓国伝統文化学校・総長	「独立行政法人奈良文化財研究所と国立韓国伝統文化学校の文化交流に関する協定書」調印式のため	11月7日
田庸昊	韓国	国立扶餘文化財研究所・学芸研究士	共同研究実施のため（資料収集・研究報告会）	11月9日～18日
韓松伊	韓国	国立扶餘文化財研究所・学芸研究士	共同研究実施のため（資料収集・研究報告会）	11月9日～18日
安宝蓮	韓国	国立扶餘文化財研究所・専門研究員	共同研究実施のため（資料収集・研究報告会）	11月9日～18日
金容民 外3名	韓国	韓国文化財庁・発掘調査課長	文化財地理情報システムの先進事例調査	11月17日
CHHUON Samedi　外2名	カンボジア	アンコール地域遺跡保護整備局・研究員	「文化遺産の保護に資する研修2008(個人研修・カンボジア）」受講	11月25日～12月8日、11日、12日
孫建国	中国	河南省文物考古研究所・館員	展覧会の展示品撤収指導および検品のため	12月7日～14日
王蔚波	中国	河南省文物考古研究所・館員	展覧会の展示品撤収指導および検品のため	12月7日～14日
朴鍾益	韓国	国立加耶文化財研究所・室長	第2回木簡の情報解読・発信・保存・活用に関するワークショップに出席のため	21年1月7日～10日
金浦相	韓国	国立慶州文化財研究所・学芸研究士	共同発掘調査実施のため	21年2月2日～3月27日
李仁淑	韓国	国立文化財研究所・学芸研究士	共同研究実施のため	21年2月4日～13日
黄仁鎬	韓国	国立中原文化財研究所・学芸研究官	共同研究実施のため	21年2月4日～13日
鄭修鉦	韓国	国立加耶文化財研究所・学芸研究士	共同研究実施のため	21年2月4日～13日
陳星燦	中国	中国社会科学院考古研究所・副所長	共同研究の協議と推進のため	21年2月24日～3月2日
銭国祥	中国	中国社会科学院考古研究所・洛陽工作站長	共同研究の協議と推進のため	21年2月24日～3月2日
劉濤	中国	中国社会科学院考古研究所・助理研究員	共同研究の協議と推進のため	21年2月24日～3月2日
安家瑤	中国	中国社会科学院考古研究所西安研究室・主任	国際シンポジウムへの参加・報告と意見交換	21年3月12日～19日
朱岩石	中国	中国社会科学院考古研究所漢唐研究室・主任	国際シンポジウムへの参加・報告と意見交換	21年3月12日～19日
賀雲翱	中国	南京大学・教授	国際シンポジウムへの参加・報告と意見交換	21年3月12日～19日
金誠亀	韓国	国立中央博物館	国際シンポジウムへの参加・報告と意見交換	21年3月13日～17日
金有植	韓国	国立扶餘博物館	国際シンポジウムへの参加・報告と意見交換	21年3月13日～17日
池炳穆	韓国	国立慶州文化財研究所・所長	共同発掘調査の視察と研究の推進のため	21年3月17日～21日
李玉鳳	韓国	国立慶州文化財研究所管理課長	共同発掘調査の視察と研究の推進のため	21年3月17日～21日
崔ジャンミ	韓国	国立慶州文化財研究所・学芸研究士	共同発掘調査の視察と研究の推進のため	21年3月17日～21日
Chhun Chandy	カンボジア	プノンペン王立芸術大学卒業生	共同研究実施のため	21年3月23日～30日
Be Sinuon	カンボジア	プノンペン王立芸術大学卒業生	共同研究実施のため	21年3月23日～30日
兪恵仙　(Yu Hei-Sun)	韓国	国立中央博物館 保存科学室・研究員	織物（染料）の科学分析に関する研修	21年2月9日～21日
姜大一 (Kang Dai-ill)	韓国	国立韓国伝統文化学校 保存科学科・教授	古代壁画の保存修復に関する共同研究	21年2月10日～14日
Vu Thi Ha Ngan　外10名	ベトナム	文化スポーツ観光省設計センター・建築技師　外	JICA国際交流基金のおこなう研修「ベトナムの町並・集落保存技術者育成」受講	21年2月24日～3月4日
スロソ 外2名	インドネシア	文化観光省歴史考古局・考古遺跡部長　外	施設見学	21年2月25日
Dale Croes　外5名	アメリカ	South Puget Sound Community College・教授	共同研究実施・研究会開催（環太平洋北半における先史文化の湿地遺跡の比較研究）	21年3月27日、21年4月4日

2）他機関の共同研究への参画実績

科学研究費補助金の研究分担者等として参画（延べ人数）

国立文化財機構	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
57人	30人	5人	8人	0人	10人	4人

【東京国立博物館】延べ30人

機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
東京芸術大学	彫刻におけるデジタル立体造形の可能性と表現方法の研究・教育への応用（科学研究費補助金〔基盤研究（C）〕）	美術学部教授　北郷　悟	学芸企画部企画課長　井上洋一
日本学術会議	博物館・美術館等の組織運営に関する分科会	熊本大学教授　木下　尚子	学芸企画部企画課長　井上洋一
株式会社三菱総合研究所	博物館における施設管理・リスクマネージメントに関する調査研究（文部科学省委託事業）	常磐大学教授　水嶋　英治	学芸企画部企画課長　井上洋一
東京文化財研究所	日本古代中世金銅仏の荘厳に関する調査研究（科学研究費補助金〔基盤研究（B）〕）	企画情報部文化財アーカイブズ研究室長　津田　徹英	学芸企画部博物館教育課長 加島勝
龍谷大学	ガンダーラ美術の資料集成とその統合的研究（科学研究費補助金〔基盤研究（A）〕）	文学部教授　宮治　昭	学芸研究部列品管理課 平常展調整室長　小泉惠英
神奈川県立金沢文庫	金沢北条氏領下総国下河辺庄の総合的研究（科学研究費補助金〔基盤研究（C）〕）	主任学芸員　永井　晋	学芸研究部調査研究課 書跡・歴史室研究員　高梨真行
東京文化財研究所	古文書および古典籍の修復と装幀形態に関する用語の研究（科学研究費補助金〔基盤研究（C）〕）	保存修復科学センター研究員 加藤　雅人	学芸企画部博物館情報課長 高橋裕次
東京大学	目録学の構築と古典学の再生－天皇家・公家文庫の実態復原と伝統的知識体系の解明－（科学研究費補助金〔学術研究創成費〕）	史料編纂所教授　田島　公	学芸研究部長　島谷弘幸 学芸研究部列品管理課登録室長 田良島哲
人間文化研究機構	「有形文化資源の共同利用を推進するための資料管理基盤形成」	准教授　園田直子	学芸研究部保存修復課長 神庭信幸 環境保存室主任研究員 荒木臣紀 環境保存室研究員　和田浩
国立歴史民俗博物館	「日韓青銅製品の鉛同位体比を利用した産地推定の研究」	研究部准教授　齋藤努	上席研究員　原田一敏
国立歴史民俗博物館	「歴史資料に対する自然科学的調査法の開発と適用に関する研究」	研究部准教授　齋藤努	上席研究員　原田一敏
国立歴史民俗博物館	共同研究「デジタル化された博物館資料に関する情報記述法の研究」	研究部教授　安達文夫	学芸研究部列品管理課登録室長 田良島哲 学芸企画部博物館情報課 情報管理室研究員　村田良二
東京藝術大学	油彩画の材料・技法に関する共同調査	大学院美術研究科教授 木島隆康	学芸研究部保存修復課長 神庭信幸 保存修復室主任研究員 土屋裕子
東京藝術大学	荻原守衛「女」の石膏原型とブロンズ鋳造に関する共同研究	美術学部教授　北郷　悟	学芸研究部保存修復課長 神庭信幸 学芸研究部列品管理課登録室長 田良島哲 学芸企画部博物館情報課 丸山士郎
Glasgow Museums	博物館における日本美術の教育普及のための調査研究	Senior Education & Access Curator　John Ferry	学芸企画部博物館教育課 教育普及室主任研究員 鈴木みどり
徳川美術館	国宝「初音の調度」の総合的研究（科学研究費補助金〔基盤研究C〕）	財団法人徳川黎明会徳川美術館学芸員　小池富雄	学芸企画部企画課特別展室 主任研究員　竹内奈美子
橿原考古学研究所	「考古資料における三次元デジタルアーカイブの活用と展開」（科学研究費補助金〔基盤研究B〕）	所長　樋口隆康	学芸研究部調査研究課 工芸・考古室長　古谷毅
天理大学附属天理参考館	「初期ヤマト王権の対外交渉と地域間交流の考古学的研究」（科学研究費補助金〔基盤研究B〕）	名誉教授　金関恕	特任研究員　望月幹夫 学芸研究部列品管理課長 谷豊信 調査研究課工芸・考古室長 古谷毅
国立民族学博物館	人間文化研究機構総合推進事業「パブリック・ヒューマニティーズの方法論」	文化資源研究センター教授 出口正之	学芸企画部企画課研究員 矢野賀一
国立歴史民俗博物館	共同研究「中近世における武士と武家の資料論的研究」	研究部准教授　高橋一樹	学芸企画部博物館情報課長 高橋裕次
北海道大学	「漢文転籍の国際交流に関する実証的研究」（科学研究費補助金〔基盤研究B〕）	名誉教授　石塚晴通	学芸研究部調査研究課長 富田　淳

【京都国立博物館】延べ5人

機関名	研究課題	代表者名	分担者名
大阪大谷大学	智積院聖教における典籍・文書の基礎的研究	教授　宇都宮啓吾	学芸部企画室長　赤尾栄慶 学芸部企画室研究員　羽田聡
東京国立博物館	東アジアの書道史における料紙と書風に関する調査研究	学芸研究部長　島谷弘幸	学芸部企画室長　赤尾栄慶
日本女子大学	蝋管等の録音資料からの音声復元と内容情報の分析に関する横断的研究	教授　清水康行	学芸部保存修理指導室長 村上　隆
大阪人間科学大学	環タイ湾地域におけるインド系文化の変容に関する基礎的研究	学長　　肥塚　隆	学芸部主任研究員　　淺湫　毅

【奈良国立博物館】延べ8人

機関名	研究課題	代表者名	分担者名
富山大学	紙素材文化財（文書・典籍・聖教・絵図）の年代測定に関する基礎的研究	教授　富田正弘	館長　湯山賢一
筑波大学	東国地域及び東アジア諸国における前近代文書等の形態・料紙に関する基礎的研究	教授　山本卓志	館長　湯山賢一
奈良教育大学	ユネスコの提起する世界遺産教育の教育内容と教育方法の創造	教授　田渕五十生	学芸部長　西山厚
東京国立博物館	東京国立博物館所蔵・正倉院関係資料の研究－「正倉院裂」を中心に－	上席研究員　澤田むつ代	学芸部長　西山厚
種智院大学	中インド新発掘仏教遺跡の総合的研究	学長　頼富本宏	学芸部工芸考古室長　内藤榮
京都大学人文科学研究所	中国の初期仏教と寺院とその源流にかんする考古学的研究	教授　岡村秀典	学芸部企画室長　稲本泰生
東京国立博物館	法隆寺献納宝物聖徳太子絵伝の調査研究	文化財部上席研究員 松原茂	学芸部保存修理指導室研究員 谷口耕生
九州大学大学院人文科学研究院	寧波をめぐる絵画と人的ネットワーク	教授　井手誠之輔	学芸部保存修理指導室研究員 谷口耕生

【東京文化財研究所】延べ10人

機関名	研究課題	代表者名	分担者名
東京大学大学院総合文化研究科	観世文庫所蔵能楽関係資料のデジタル画像化と解題目録作成に向けた総合的研究	教授　松岡心平	無形文化遺産部無形文化財研究室長　高桑いづみ
東北大学文学部文学研究科	東日本に分布する宗教彫像の基礎的調査研究―古代から中世への変容を軸に	名誉教授　有賀祥隆	文化財アーカイブズ研究室長 津田徹英
立教大学異文化コミュニケーション学部	アジアの無形文化における仮頭の研究―仮面との比較から―	教授　細井尚子	副所長　中野照男
東京大学大学院農学生命科学研究科	文理融合型文化財修復科学の確立を目指した紙文化財修復法の妥当性評価	准教授　江前敏晴	保存修復科学センター 研究員　加藤雅人
東京大学大学院総合文化研究科	文化財保護制度における世界遺産条約の戦略的受容と運用に関する日韓比較研究	教授　岩本通弥	無形文化遺産部 主任研究員　俵木悟
京都大学工学研究科	東南アジアにおけるレンガ造遺跡の生物被害予測と建築環境工学的保存手法に関する研究	教授　鉾井修一	文化遺産国際協力センター 主任研究員　朽津信明
京都大学工学研究科	東南アジアにおけるレンガ造遺跡の生物被害予測と建築環境工学的保存手法に関する研究	教授　鉾井修一	文化遺産国際協力センター 特別研究員　宇野朋子
早稲田大学演劇博物館	未翻刻浄瑠璃本の網羅的調査・翻刻と複次的活用・公開に向けての基礎的研究	名誉教授　鳥越文蔵	無形文化遺産部　音声・映像記録室長　飯島満
東京藝術大学大学院美術研究科	文化財科学、美術史学、制作技法研究の情報統合による「薬師寺吉祥天画像」の復元模写研究	教授　宮廻正明	保存修復科学センター 分析科学研究室長　早川泰弘
金沢美術工芸大学美術工芸学部	「国宝　平等院鳳凰堂内　西面扉絵　日想観」の学術的復元模写による保存に関する研究	准教授　荒木恵信	保存修復科学センター 分析科学研究室長　早川泰弘

【奈良文化財研究所】4人

機関名	研究課題	代表者名	分担者名
東京大学	目録学の構築と古典学の再生-天皇家・公家文庫の実態復原と伝統的知識体系の解明-	田島公	都城発掘調査部史料研究室長 渡邉晃宏
京都大学	厳環境下での木材の劣化現象と耐久性	今村祐嗣	埋蔵文化財センター保存科学研究室長　高妻洋成
独立行政法人国立科学博物館	徳川将軍親族遺体のデジタル保存と考古学的・人類学的分析-大奥の実態に迫る-	馬場悠男	埋蔵文化財センター 環境考古学研究室長　松井章
東京文化財研究所	建築文化財における外観塗装材料の変遷と新塗料開発に関する研究	北野信彦	文化遺産部建造物研究室長 窪寺茂

3）研究者海外派遣実績（延べ人数）

国立文化財機構	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
358人	25人	18人	6人	35人	153人	121人

【東京国立博物館】延べ25人

氏　名	用務先	期　間	用　務	備　考
鬼頭　智美	ドイツ	4月15日～21日	国際展覧会オーガナイザー会議出席 （国立芸術展示館、リートビック美術館）	職員旅費
松本　伸之	中国	4月17日～19日	平山郁夫芸術展開幕式およびレセプション参加 （中国美術館、人民大会堂、釣魚台国賓館）	職員旅費
鬼頭　智美	ロシア	7月13日～18日	「サムライ－日本の武家の宝物」展にかかる展示確認、環境調査　（モスクワクレムリン博物館）	職員旅費
和田　浩	ロシア	7月13日～18日	「サムライ－日本の武家の宝物」展にかかる展示確認、環境調査　（モスクワクレムリン博物館）	職員旅費
湊　信幸	中国	9月9日～12日	上海博物館との共催展に関する打ち合わせ （上海博物館）	職員旅費
富田　淳	中国	9月9日～12日	上海博物館との共催展に関する打ち合わせ （上海博物館）	職員旅費
楊　鋭	中国	9月9日～12日	上海博物館との共催展に関する打ち合わせ （上海博物館）	職員旅費
田良島　哲	韓国	9月17日～23日	韓国との学術交流、研究推進 （国立中央博物館、国立民芸博物館、国立現代美術館、湖巌美術館、LEEUM美術館、漢城大学校）	職員旅費 韓国国立中央博物館
藤瀬　雄輔	韓国	9月17日～23日	韓国との学術交流、研究推進 （国立中央博物館、国立民芸博物館、国立現代美術館、湖巌美術館、LEEUM美術館、漢城大学校）	職員旅費 韓国国立中央博物館
木下　史青	フランス	9月22日～29日	〈日仏交流150周年 記念プロジェクト〉 ラ・セーヌ － 日本の光のメッセージ ～ 25橋と岸辺を彩る和のこころ ～ レセプション等参加 （セーヌ川等）	職員旅費
井上　洋一	フランス	10月12日～19日	海外展のレセプション参加ならびに視察 （オルセー美術館、ギメ美術館、プチ・パレ、カルティエ工房）	職員旅費
松本　伸之	中国	10月27日～11月3日	中国主要機関との交流促進及び展覧会への協力要請 （中国文物交流中心、首都博物館、国家文物局、河南博物院、河南省文物局、洛陽博物館、白馬寺、龍門石窟、陝西歴史博物館、西安碑林博物館、陝西省文物局、秦始皇帝兵馬俑博物館、漢陽陵博物館、上海博物館、浙江省博物館、西湖）	職員旅費
小泉　惠英	ドイツ	11月19日～25日	ザールデリー出土品を中心とする展覧会開催に関する事前調査のため （国立芸術展示館）	職員旅費
井上　洋一	フランス、カタール	11月20日～26日	館長のイスラム美術館開会記念式典出席、OECD/CERI運営理事会及びOECD教育政策委員会出席にかかる出張随行、パリ市内博物館・美術館視察 （イスラム芸術美術館、イスラム文化センター、シェイフ・ファイサル・ビン・カーシム・アール・サニー博物館、The Heritage Library、OECD Headquarters Conference Centre、パリ日本文化会館、ギメ美術館、ルーブル美術館、ケ・ブランリー美術館）	職員旅費
松本　伸之	中国	11月21日～28日	「中国文明の源展」作品調査、協議 （南陽市文物局、南陽漢画館、信陽市文物局、河南博物院、鄭州市考古研究院、河南省文物考古研究所、鄭州市博物館、中国国家文物局）	読売新聞社
谷　豊信	中国	11月21日～28日	「中国文明の源展」作品調査、協議 （南陽市文物局、南陽漢画館、信陽市文物局、河南博物院、鄭州市考古研究院、河南省文物考古研究所、鄭州市博物館、中国国家文物局）	読売新聞社
川村　佳男	中国	11月21日～28日	「中国文明の源展」作品調査、協議 （南陽市文物局、南陽漢画館、信陽市文物局、河南博物院、鄭州市考古研究院、河南省文物考古研究所、鄭州市博物館、中国国家文物局）	読売新聞社
島谷　弘幸	アメリカ	21年1月7日～12日	ヒューストン美術館日本室開室に伴う貸与にかかる打ち合わせ並びに調査　（ヒューストン美術館）	ヒューストン美術館
鬼頭　智美	アメリカ	21年1月7日～12日	ヒューストン美術館日本室開室に伴う貸与にかかる打ち合わせ並びに調査　（ヒューストン美術館）	職員旅費
井上　洋一	トルコ	21年1月18日～23日	文化庁海外展事前協議にかかる協力 （イスタンブール総領事館、トプカプ博物館）	職員旅費
原田　一敏	トルコ	21年1月18日～23日	文化庁海外展事前協議にかかる協力 （イスタンブール総領事館、トプカプ博物館）	職員旅費
湊　信幸	中国	21年2月7日～14日	上海博物館との学術交流、研究推進 （上海博物館、鄭和記念館、琉球蔡夫人廟、崇福寺、福建省博物院、琉球館、林則徐記念館、福州郊外鼓山涌泉寺、五虎門、黄檗山万福寺、湄洲島媽祖廟、海外交通史博物館、開元寺、華僑博物館、厦門市博物館、鄭成功記念館）	職員旅費 上海博物館
富田　淳	中国	21年2月7日～14日	上海博物館との学術交流、研究推進 （上海博物館、鄭和記念館、琉球蔡夫人廟、崇福寺、福建省博物院、琉	職員旅費 上海博物館

氏　名	用務先	期　間	用　務	備　考
			球館、林則徐記念館、福州郊外鼓山涌泉寺、五虎門、黄檗山万福寺、湄洲島媽祖廟、海外交通史博物館、開元寺、華僑博物館、厦門市博物館、鄭成功記念館）	
今井　敦	中国	21年2月7日～14日	上海博物館との学術交流、研究推進 （上海博物館、鄭和記念館、琉球蔡夫人廟、崇福寺、福建省博物院、琉球館、林則徐記念館、福州郊外鼓山涌泉寺、五虎門、黄檗山万福寺、湄洲島媽祖廟、海外交通史博物館、開元寺、華僑博物館、厦門市博物館、鄭成功記念館）	職員旅費 上海博物館
エリーシャ　オライリー	オーストラリア	21年2月27日～3月7日	国際交流事業にかかる主要館との打ち合わせ、教育普及事業の調査のため （ニューサウスウェールズ美術館、パワーハウスギャラリー、オーストラリア博物館、シドニー市内博物館・美術館、オーストラリア国立美術館、国立ポートレートギャラリー、ヴィクトリア国立美術館）	職員旅費

【京都国立博物館】延べ18人

氏名	用務先	期間	用務	備考
久保　智康	オーストリア	5月11日～5月18日	「ハプスブルグ家の至宝展」（仮称）作品調査のため	読売新聞東京本社
久保　智康	中国	6月16日～18日	沖縄県立博物館・美術館開館１周年記念博物館特別展「中国・北京故宮博物院秘蔵～蘇る琉球王国の輝き～」にかかる故宮博物院での調査	沖縄県立博物館・美術館
永島　明子	オランダ、ベルギー、フランス	6月18日～27日	特別展「japan 蒔絵」に関する調査及び出品交渉	読売新聞大阪本社
西上　実	中国	6月17日～21日	広州芸術博物院主催絵画展の見学及び検討会の参加・発表	広州芸術博物院
村上　隆	韓国	9月4日～7日	「第３回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム」への参加	有限責任中間法人国宝修理装こう師連盟
若杉　準治	フランス	10月4日～14日	「相国寺・金閣・銀閣名宝展」への指導	相国寺・金閣・銀閣名宝展実行委員会 財団法人京都国際文化交流財団
山下　善也	オーストリア	10月28日～11月2日	「ハプスブルグ家の至宝展」（仮称）作品調査のため	読売新聞東京本社
永島　明子	オーストリア	10月28日～11月2日	「ハプスブルグ家の至宝展」（仮称）作品調査のため	読売新聞東京本社
赤尾　栄慶	台湾	10月31日～11月3日	「筆墨之外－中国書法史　領域国際学術検討会」への参加・発表	台湾師範大学
赤尾　栄慶	ロシア	12月15日～12月22日	特別展　ロシア探検隊収集「西域出土の文献－文字の文化史－」展事前調査	海外交流費経費
西上　実	中国マカオ	11月6日～11月10日	奥門芸術博物館主催学術検討会への参加・発表	奥門芸術博物館
淺湫　毅	韓国	21年2月10日～14日	国立中央博物館における作品調査	科学研究費補助金
羽田　聡	韓国	21年2月10日～14日	国立中央博物館における作品調査	科学研究費補助金
久保　智康	韓国	21年1月27日～30日	高麗・朝鮮時代銅器の調査	トヨタ財団研究助成
永島　明子	イタリア	21年2月27日～3月15日	漆器調査と収集背景の見学	科学研究費補助金
山下　善也	韓国	21年2月10日～14日	国立中央博物館における作品調査	科学研究費補助金
尾野　善裕	ベトナム	21年3月24日～27日	陶磁器に見る樹木表現の調査・研究	科学研究費補助金
久保　智康	中国	21年3月21日～28日	宋～清代の銅鋳造作品に関する調査	トヨタ財団研究助成

【奈良国立博物館】延べ6人

氏名	用務先	期間	用務	備考
植田　義雄	中国	5月23日～6月1日	上海博物館との学術交流に伴う視察及び調査研究	上海博物館
中島　博	中国	5月23日～6月1日	上海博物館との学術交流に伴う視察及び調査研究	上海博物館
森村　欣司	中国	5月23日～6月1日	上海博物館との学術交流に伴う視察及び調査研究	上海博物館
永井　洋之	韓国	21年1月29日～2月20日	国立慶州博物館との学術交流に伴う視察及び調査研究	国立慶州博物館
宮崎　幹子	中国	21年2月19日～3月13日	中国国家博物館との学術交流に伴う視察及び調査研究	中国国家博物館
斎木　涼子	中国	21年2月19日～3月13日	中国国家博物館との学術交流に伴う視察及び調査研究	中国国家博物館

●その他の調査等のための海外渡航実績

氏名	用務先	期　　間	用　　務	備　　考
稲本　泰生	ドイツ	4月6日～26日	醍醐寺展展示作業	ドイツ国立芸術ホール
野尻　忠	ドイツ	4月3日～26日	醍醐寺展展示作業	ドイツ国立芸術ホール
西山　厚	ドイツ	4月22日～27日	醍醐寺展出席	ドイツ国立芸術ホール
永井　洋之	中国	6月4日～8日	天馬展作品返却	職員旅費

氏名	用務先	期　　間	用　　務	備　　考
野尻　忠	ドイツ	7月12日～17日	醍醐寺展展示作業	ドイツ国立芸術ホール
谷口　耕生	ドイツ	7月12日～17日	醍醐寺展展示作業	ドイツ国立芸術ホール
谷口　耕生	中国	7月21日～26日	科研調査「寧波をめぐる絵画と人的ネットワーク」	科学研究費補助金
内藤　榮	イラン	8月25日～4日	シルクロード行き取材同行のため	読売新聞大阪本社
谷口　耕生	アメリカ	8月11日～16日	科研調査「寧波をめぐる絵画と人的ネットワーク」	科学研究費補助金
岩戸　晶子	韓国	8月24日～9月4日	科研調査「統一新羅期の道具瓦についての調査研究」	科学研究費補助金
清水　健	ドイツ	8月23日～9月4日	醍醐寺展出陳品の撤収	ドイツ国立芸術ホール
畑中　裕良	韓国	9月21日～23日	特別展開会式出席	国立慶州博物館
吉澤　悟	韓国	9月21日～23日	特別展開会式出席	国立慶州博物館
稲本　泰生	中国	9月21日～28日	河南省文物展事前調査	読売新聞大阪本社
稲本　泰生	中国	11月21日～28日	河南省文物展予備調査	読売新聞大阪本社
岩田　茂樹	韓国	12月11日～17日	特別展作品輸送、展示立ち会い	国立中央博物館
西山　厚	韓国	12月15日～17日	特別展開会式出席	国立中央博物館
稲本　泰生	アメリカ	21年1月25日～2月1日	遣唐使展予備調査	仏美助成金
岩戸　晶子	韓国	21年2月1日～4日	寧波展出陳交渉	職員旅費
内藤　榮	中国	21年2月7日～13日	仏教美術調査	仏美助成金
野尻　忠	中国	21年2月7日～14日	科研調査「奈良時代の仏教美術と東アジア世界」	科学研究費補助金
稲本　泰生	中国	21年2月7日～14日	科研調査「奈良時代の仏教美術と東アジア世界」	科学研究費補助金
岩戸　晶子	韓国	21年2月8日～3月7日	科研調査「統一新羅期の道具瓦についての調査研究」	科学研究費補助金
植田　義雄	韓国	21年3月2日～4日	博物館視察	職員旅費
吉田　貴至	韓国	21年3月2日～4日	博物館視察	職員旅費
松本　安啓	韓国	21年3月2日～4日	博物館視察	職員旅費
岩田　茂樹	韓国	21年3月2日～5日	統一新羅展出陳品撤収	国立中央博物館
谷口　耕生	韓国	21年3月23日～25日	科研調査「寧波をめぐる絵画と人的ネットワーク」	科学研究費補助金
北澤　菜月	韓国	21年3月23日～25日	科研調査「寧波をめぐる絵画と人的ネットワーク」	科学研究費補助金

【九州国立博物館】延べ35人

氏名	用務先	期　　間	用　　務	備　　考
臺信　祐爾 市元　塁	中国	7月1日～7日	「トルキ山遼墓出土品からみた唐滅亡後の東アジアにおける工芸技術」の協議・調査のため	科学研究費補助金
木村　哲也 森田　稔 高田　裕康	タイ	7月21日～25日	JICA草の根技術協力事業「文化財の保存と地域の活性化」のため	JICA草の根技術協力事業
原田　あゆみ 赤司　善彦 久保田　資子	タイ	7月21日～31日	調査研究「古代東南アジアにおける三尊像図像の研究ータイ・ミャンマーの図像を中心にー」、文化庁海外展に係る打合せのため JICA草の根技術協力事業「文化財の保存と地域の活性化」のため	科学研究費補助金 JICA草の根技術協力事業
臺信　祐爾	中国 チベット自治区	8月16日～9月2日	平成21年度開催予定チベット展事前調査、平成20年度科学研究費補助金調査のため	一部科学研究費補助金
楠井　隆志	韓国	8月20日～24日	「文化財専用大型Ｘ線ＣＴによる九州所在木彫像の内部構造解析」調査のため	科学研究費補助金
畑　靖紀	中国	8月24日～9月1日	「トルキ山遼墓出土品からみた唐滅亡後の東アジアにおける工芸技術」の協議・調査のため	科学研究費補助金
今津　節生	中国	8月24日～9月2日	「トルキ山遼墓出土品からみた唐滅亡後の東アジアにおける工芸技術」の協議・調査、住友財団「海外の文化財維持・修復事業助成事業　遼代トルキ山遼墓彩色木棺の保護と修復」のため	科学研究費補助金 住友財団「海外の文化財維持・修復事業助成事業
藤田　励夫	韓国	8月29日～9月8日	韓国国立古宮博物館特別展「仕立てと装いの芸術、装潢」に係る作品護送・通関および展示作業、 科研　和紙の物理的分別手法の確立と歴史学的データベース化の研究、東アジア紙文化財保存修理シンポジウム参加のため	一部科学研究費補助金
森田　稔	韓国	9月3日～7日	第３回東アジア紙文化財保存修理シンポジウムのため	
三輪　嘉六	韓国	9月4日～7日	国立古宮博物館特別展「仕立てと装いの芸術、装潢」開幕行事，韓・中・日装潢国際学術大会参席のため	
本田　光子 荻原　麻衣子 永井　真佐美	ベトナム	9月7日～13日	あじっぱ資料収集・撮影のため	
臺信　祐爾	フランス ベルギー	9月9日～16日	東京文化財研究所が実施する海外調査に参加するため	

氏名	用務先	期　　間	用　　務	備　　考
畑　靖紀	アメリカ	9月24日～10月5日	室町時代の仏教絵画を中心とする東アジアの宗教美術に関する調査研究のため	
藤田　励夫	アメリカ	9月24日～10月5日	和紙の物理的分別手法の確立と歴史学的データベース化に関する調査研究のため	
須田　秀志 安藤　英崇 荒木　和憲	韓国	10月3日～6日	太宰府・扶餘姉妹都市30周年記念市民団への参加、国立扶餘博物館・国立公州博物館への表敬訪問のため	
志賀　智史 森井　啓次	韓国	12月7日～13日	学術情報交換等による学術交流推進のため	
今津　節生	中国	21年1月11日～19日	保存修復事業に係る調査と協議のため	
伊藤　信二 市元　塁	中国	21年1月11日～19日	特別展・文化交流展に関する協議・調査、科研費基盤B海外「トルキ山遼墓出土品からみた唐滅亡後の東アジアにおける工芸技術」の協議・調査、住友財団「海外の文化財維持・修復事業助成事業　遼代トルキ山遼墓彩色木棺の保護と修復」のため	科学研究費補助金 住友財団「海外の文化財維持・修復事業助成事業
須田　秀志 樋口　理央	中国	21年1月11日～13日	南京博物院表敬訪問、上海博物館視察のため	
藤田　励夫	ベトナム	21年2月2日～9日	ベトナム手漉き紙の技法および材料調査、きゅーはくの絵本「朱印船渡航絵巻」取材のため	
原田　あゆみ	ベトナム	21年2月2日～7日	科学研究費調査、きゅーはくの絵本「朱印船渡航絵巻」取材のため	一部科学研究費補助金
原田　あゆみ	タイ	21年2月14日～17日	科学研究費調査のため	科学研究費補助金
原田　あゆみ	フランス	21年3月3日～9日	科学研究費調査のため	科学研究費補助金

【東京文化財研究所】延べ153人

氏名	用務先	期間	用務	備考
秋枝ユミイザベル	モンゴル	9月8日～13日	拠点交流事業（モンゴル　ワークショップ）	受託（文化庁・モンゴル）
秋枝ユミイザベル	カナダ	9月26日～10月6日	ICOMOS（国際遺跡記念物会議）総会、国際フォーラム、国際学術シンポジウム参加	セ01
秋枝ユミイザベル	中国	10月29日～11月2日	木造建築塗装の保存についての国際セミナーに参加	セ01
秋枝ユミイザベル	タイ	21年1月11日～17日	「アジア文化遺産国際会議(2008年度)：被災後の遺跡の修復と保存」の開催、タイにおける文化財保存の現状調査	セ01
秋枝ユミイザベル	オーストラリア	21年1月20日～30日	諸外国国際協力体制に関する調査（オーストラリア）	受託（文化庁・コンソーシアム）
秋枝ユミイザベル	インドネシア	21年2月8日～13日	拠点交流事業インドネシア・遺跡モニタリング視察	受託（文化庁・インドネシア）
秋枝ユミイザベル	モンゴル	21年3月9日～13日	拠点交流事業（モンゴル）	受託（文化庁・モンゴル）
有村　誠	タジキスタン	4月16日～5月9日	アジナ・テパ仏教寺院保存事業	受託（ユネスコ・タジキスタン）
有村　誠	アルメニア、タジキスタン	9月23日～10月24日	アルメニアにおける考古学調査およびタジキスタンにおける文化遺産保護の調査	科学研究費、セ05
有村　誠	タイ	21年1月12日～17日	「アジア文化遺産国際会議(2008年度)：被災後の遺跡の修復と保存」の開催、タイにおける文化財保存の現状調査	セ01
有村　誠	イエメン	21年2月10日～21日	文化遺産国際協力コンソーシアム協力相手国調査として洪水で被害をうけた世界遺産シバームを含めたハドラマウト地方の文化遺産状況調査	受託（文化庁・コンソーシアム）
飯島　満	韓国	10月27日～11月10日	「無形文化遺産の保護に関する日韓研究交流」合意書に基づく研修	芸01、韓国国立文化財研究所
石崎　武志	タイ	9月3日～7日	日タイ共同研究成果報告会での研究発表およびアユタヤ遺跡のレンガ建造物劣化調査	セ02
石崎　武志	イギリス	9月14日～21日	国際文化財保存学会ロンドン大会出席	保03
石崎　武志	韓国	9月28日～30日	2008年文化遺産の保存科学に関する国際シンポジウムにおける参加・講演	韓国国立文化財研究所
石崎　武志	イタリア	10月26日～11月1日	石造文化財表面の調査手法に関する国際会議での研究発表およびイタリア電磁気学研究所での研究打ち合わせ	科学研究費
石崎　武志	フランス	21年2月22日～3月1日	ラスコー壁画の保存に関するシンポジウム出席および洞窟や古墳内の環境に関する研究打ち合わせ	保03、フランス文化省
宇野　朋子	インド	21年2月25日～3月5日	「インド・アジャンター石窟における壁画保存に向けた状態調査」への参加	受託（文化庁・インド）
江村　知子	アメリカ	21年1月15日～23日	シンポジウム講演および日本絵画作品調査、研究協議	ヒューストン美術館
岡田　健	中国	4月2日～4月9日	「日中韓共同シルクロード沿線文化財保護修復技術人	受託（文化財保護・

氏名	用務先	期間	用務	備考
			員育成プログラム」の運営・講義	藝術研究助成財団・シルクロード）
岡田　健	中国	4月20日～26日	「日中韓共同シルクロード沿線文化財保護修復技術人員育成プログラム」の運営 陝西唐代陵墓石彫像の保存修復に関する調査研究	セ03、受託（文化財保護・藝術研究助成財団・シルクロード）
岡田　健	中国	5月18日～21日	「日中韓共同シルクロード沿線文化財保護修復技術人員育成プログラム」の運営	受託（文化財保護・藝術研究助成財団・シルクロード）
岡田　健	中国	5月25日～6月7日	「日中韓共同シルクロード沿線文化財保護修復技術人員育成プログラム」の運営 「敦煌壁画の保護に関する日中共同研究」における共同調査と派遣事業	受託（文化財保護・藝術研究助成財団・シルクロード）、助成金（文化財保護・藝術研究助成財団・敦煌）
岡田　健	中国	6月18日～29日	「日中韓共同シルクロード沿線文化財保護修復技術人員育成プログラム」の運営 「陝西唐代陵墓石彫像保護修理事業」指導委員・専門家会議の運営 「敦煌壁画の保護に関する日中共同研究」における派遣事業と共同調査	受託（文化財保護・藝術研究助成財団・シルクロード、陝西唐代陵墓）、助成金（文化財保護・藝術研究助成財団・敦煌）、西安文物保護修復センター
岡田　健	中国	7月10日～18日	「日中韓共同シルクロード沿線文化財保護修復技術人員育成プログラム」の運営 龍門石窟の保存修復に関する調査研究	受託（文化財保護・藝術研究助成財団・シルクロード）、セ03
岡田　健	中国	9月12日～30日	四川大地震文化財復興支援に関する現地調査 「敦煌壁画の保護に関する日中共同研究」における共同調査/国際シンポジウムへの参加	受託(文化庁・四川)、セ04
岡田　健	中国	10月12日～11月2日	「敦煌壁画の保護に関する日中共同研究」における共同調査 中国山西省石窟寺院の保護に関する調査研究シルクロード人材育成プログラム	セ04、科学研究費、受託（文化財保護・藝術研究助成財団・シルクロード）
岡田　健	中国	11月12日～19日	「UNESCO/日本信託基金龍門石窟保護修復事業」専門家会議　石造文化財の保護に関するシンポジウムの開催	受託（ユネスコ・龍門）、セ03
岡田　健	中国	12月18日～25日	シルクロード人材育成プログラムの打合せ	受託（文化財保護・藝術研究助成財団・シルクロード）
岡田　健	タイ	21年1月13日～17日	「アジア文化遺産国際会議(2008年度)：被災後の遺跡の修復と保存」の開催、タイにおける文化財保存の現状調査	セ01
岡田　健	中国	21年2月6日～14日	四川震災復興に係る文化財協力（専門家交流）事業	受託（文化庁・四川）
岡田　健	中国	21年2月19日～3月3日	ユネスコ/日本信託基金龍門石窟保護修復事業会議・同シンポジウム 敦煌壁画の保護に関する日中共同研究 陝西省との次期共同研究に関する打合せ シルクロード人材育成プログラム	受託（ユネスコ・龍門）、受託（文化財保護・藝術研究助成財団・シルクロード）、セ03、セ04
岡田　健	中国	21年3月15日～20日	「陝西唐代陵墓石彫像保護修理事業」指導委員・専門家会議の運営／事業完了の評価会への参加	受託（文化財保護・藝術研究助成財団・陝西唐代陵墓）
影山　悦子	タジキスタン	7月23日～8月5日	タジキスタン国立古物博物館が所蔵する壁画の修復事業に参加するため	受託（文化庁・中央アジア）
影山　悦子	タジキスタン	8月27日～9月12日	タジキスタン国立古物博物館が所蔵する壁画の修復事業に参加するため	セ05
影山　悦子	トルクメニスタン	9月28日～10月5日	国際学術会議「トルクメンの大地－古代文化及び文明発祥の地」出席	セ05、会議主催者
影山　悦子	中国	10月11日～19日	敦煌莫高窟保護のための日中学術調査	セ04
影山　悦子	タジキスタン	11月15日～12月16日	タジキスタン国立古物博物館が所蔵する壁画の修復作業の実施、およびワークショップの開催	受託（文化庁・中央アジア）
影山　悦子	タジキスタン	21年2月28日～3月10日	タジキスタン国立古物博物館が所蔵する壁画の修復作業	受託（文化庁・中央アジア）
加藤　雅人	ドイツ	7月7日～14日	在外日本古美術品保存修復協力事業（絵画班）	修04
加藤　雅人	ドイツ	10月7日～11日	在外日本古美術品保存修復協力事業（絵画班）	修04
加藤　雅人	ドイツ	11月26日～12月1日	在外日本古美術品保存修復協力事業（絵画班）	修04
川野邊　渉	韓国	8月6日～8日	磨崖仏の保存環境調査	修01
川野邊　渉	アメリカ	10月12日～19日	近代文化遺産の保存と修復に関する現地調査	修06
川野邊　渉	韓国	11月5日～7日	磨崖仏の保存に関する日韓共同研究会出席	修01
木川　りか	フランス	21年3月16日～21日	古墳や洞窟の保存と生物被害対策についての情報交換	保02、フランス歴史

氏名	用務先	期間	用務	備考
			および研究協議	記念物研究所
北野　信彦	ドイツ	11月3日～19日	ケルン工房で行っている在外修復作品の確認、ワークショップの遂行、及び在外修復作品の現状調査のため	修04
朽津　信明	タイ、 カンボジア	7月16日～25日	アユタヤ遺跡、スコータイ遺跡でのタイ文化省芸術局との共同研究、カンボジア・アンコール遺跡でのAPSARA機構との共同研究、およびアジア文化遺産国際会議に関する関係機関との協議	セ02
朽津　信明	韓国	8月6日～8日	磨崖仏の保存環境調査	修01
朽津　信明	タイ	9月2日～6日	日タイ国際共同研究に関するセミナー出席	セ02
朽津　信明	韓国	11月5日～7日	磨崖仏の保存に関する日韓共同研究会出席	修01
朽津　信明	タイ	21年1月12日～17日	「アジア文化遺産国際会議(2008年度)：被災後の遺跡の修復と保存」の開催、タイにおける文化財保存の現状調査	セ01
朽津　信明	インドネシア	21年2月8日～13日	拠点交流事業インドネシア・遺跡モニタリング視察	受託（文化庁・インドネシア）
後藤　嘉信	モンゴル	9月8日～13日	拠点交流事業（モンゴル　協定の締結　ワークショップ）	間接経費
後藤　嘉信	韓国	11月4日～7日	日韓共同研究報告会2008への参加 石造文化財の修復に関する現場視察	間接経費
崎部　剛	ドイツ	11月26日～12月1日	在外日本古美術品保存修復協力事業（絵画班）にかかる事務打ち合わせおよびワークショップ開催に係る事務補助等	間接経費
島津　美子	タジキスタン	7月23日～8月5日	タジキスタン国立古物博物館が所蔵する壁画の修復事業に参加するため	受託（文化庁・中央アジア）
島津　美子	タジキスタン	8月27日～9月12日	タジキスタン国立古物博物館が所蔵する壁画の修復事業に参加するため	受託（文化庁・中央アジア）
島津　美子	インド	9月21日～10月2日	国際会議ICOM-CC 2008参加およびインドにおける「文化遺産国際拠点交流事業」のためのインド考古局(ASI)との会議のため	受託（文化庁・インド）、オランダ文化遺産研究所
島津　美子	タジキスタン、 インド	11月15日～12月16日	タジキスタン国立古物博物館が所蔵する壁画の修復作業の実施、およびワークショップの開催 アジャンター合意書締結のための打合せおよび署名式への参加	受託（文化庁・中央アジア、インド）
島津　美子	インド	21年2月12日～3月15日	「インド・アジャンター石窟における壁画保存に向けた状態調査」への参加	受託（文化庁・インド）
清水　真一	中国	4月2日～5日	「日中韓共同シルクロード沿線文化財保護修復技術人員育成プログラム」の運営・講義	受託（文化財保護・藝術研究助成財団・シルクロード）
清水　真一	モンゴル	6月9日～15日	東アジア国際協力状況調査（モンゴル）	受託（文化庁・モンゴル）
清水　真一	中国	6月22日～29日	「陝西唐代陵墓石彫像保護修理事業」指導委員・専門家会議の運営 「敦煌壁画の保護に関する日中共同研究」における派遣事業と共同調査	受託（文化庁・陝西唐代陵墓）、セ04、西安文物保護修復センター
清水　真一	カンボジア	8月21日～24日	文化遺産教育戦略に資する国際連帯の推進講義	上智大学
清水　真一	タイ	9月2日～6日	日タイ国際共同研究に関するセミナー出席	セ02
清水　真一	モンゴル	9月8日～13日	拠点交流事業（モンゴル　ワークショップ）	受託（文化庁・モンゴル）
清水　真一	中国	9月25日～30日	四川大地震文化財復興支援に関する現地調査	受託（文化庁・四川）
清水　真一	タイ	21年1月13日～16日	「アジア文化遺産国際会議(2008年度)：被災後の遺跡の修復と保存」の開催、タイにおける文化財保存の現状調査	セ01
清水　真一	中国	21年2月8日～14日	四川震災復興に係る文化財協力（専門家交流）事業	受託（文化庁・四川）
清水　真一	ベトナム	21年3月1日～4日	タンロン皇城遺跡の保存に関する協議	受託（文化庁・タンロン）
清水　真一	モンゴル	21年3月9日～13日	拠点交流事業（モンゴル）	受託（文化庁・モンゴル）
城野　誠治	フランス、 ベルギー	9月10日～16日	フランス留学中の黒田清輝に関する現地調査・撮影	美03
城野　誠治	台湾	10月20日～23日	国立故宮博物院との共同研究による作品調査・撮影	情01
城野　誠治	アメリカ	21年2月14日～22日	アメリカ合衆国に所蔵された東洋絵画の調査（技術協力）	科学研究費（九州大学大学院）
鈴木　環	中国	10月11日～19日	西アジア・中央アジアにおける石窟建築の比較研究調査	セ05
鈴木　環	インド	11月19日～22日	アジャンター合意書締結のための打合せおよび署名式への参加	受託（文化庁・インド）
鈴木　環	インド	21年2月12日～3月15日	「インド・アジャンター石窟における壁画保存に向けた状態調査」への参加	受託（文化庁・インド）

氏名	用務先	期間	用務	備考
鈴木　規夫	モンゴル	9月8日～13日	拠点交流事業（モンゴル　協定の締結　ワークショップ）	受託（文化庁・モンゴル）
鈴木　規夫	韓国	11月4日～7日	日韓共同研究報告会2008への参加 石造文化財の修復に関する現場視察	修01
鈴木　規夫	インド	11月19日～22日	インドにおける「文化遺産国際拠点交流事業」合意書締結のための打合せおよび署名	受託（文化庁・インド）
高桑　いづみ	タジキスタン	10月1日～12日	タジキスタン及びトルコの無形文化財の調査	セ05
高橋　直久	ドイツ	9月29日～10月6日	在外日本古美術品保存修復協力事業に係る事務打ち合わせのため	一般管理費
田代　亜紀子	カンボジア	8月21日～28日	文化遺産教育戦略に資する国際連帯の推進講義	上智大学
田代　亜紀子	インドネシア	11月18日～27日	チュラロンコン大学、日本財団、ガジャマダ大学主催国際ワークショップへの参加のため	チュラロンコン大学・日本財団
田代　亜紀子	ドイツ、ノルウェー、スウェーデン、フランス	21年2月1日～12日	ドイツ、ノルウェーおよびスウェーデンによる国際開発協力における文化に関する政策調査およびイエメンの世界遺産シバーム復興のためのワークショップ参加	受託（文化庁・コンソーシアム）
田代　亜紀子	イエメン	21年2月17日～21日	文化遺産国際協力コンソーシアム協力相手国調査として洪水で被害をうけた世界遺産シバームを含めたハドラマウト地方の文化遺産状況調査	受託（文化庁・コンソーシアム）
田代　亜紀子	ベトナム	21年3月1日～4日	タンロン皇城遺跡の保存に関する協議	受託（文化庁・コンソーシアム）
田中　淳	フランス、ベルギー	9月10日～16日	フランス留学中の黒田清輝に関する現地調査・撮影	美02
津田　徹英	ドイツ	21年3月2日～6日	平成21年度在外日本古美術品保存修復協力事業の一つである海外工房における修復のための現地作品調査（ベルリン）	修04
友田　正彦	ベトナム	7月20日～27日	タンロン皇城遺跡保存に関する協議	セ01
友田　正彦	中国	10月17日～22日	「日中韓共同シルクロード沿線文化財保護修復技術人員育成プログラム」の運営	受託（文化財保護・藝術研究助成財団・シルクロード）
友田　正彦	中国	11月16日～19日	石造文化財の保護に関するシンポジウム出席	セ03
友田　正彦	ベトナム	11月22日～27日	タンロン皇城遺跡保存に関するワークショップ出席	セ01
友田　正彦	タイ	21年1月11日～17日	「アジア文化遺産国際会議(2008年度)：被災後の遺跡の修復と保存」の開催、タイにおける文化財保存の現状調査	セ01
友田　正彦	中国	21年2月8日～14日	四川震災復興に係る文化財協力（専門家交流）事業	受託（文化庁・四川）
友田　正彦	ベトナム	21年3月1日～7日	タンロン皇城遺跡の保存に関する協議	受託（文化庁・タンロン）
豊島　久乃	モンゴル	6月9日～15日	文化遺産国際協力コンソーシアム協力相手国調査(モンゴル)	受託（文化庁・コンソーシアム）
豊島　久乃	モンゴル	9月3日～13日	文化遺産国際協力コンソーシアム協力相手国調査（モンゴル）	受託（文化庁・コンソーシアム）
豊島　久乃	中国	10月23日～28日	国際シンポジウム“Conservation and Sustainable Development of Village Cultural Landscape”への参加	受託（文化庁・コンソーシアム）、大会主催者
豊島　久乃	オーストラリア	21年1月20日～30日	諸外国国際協力体制に関する調査（オーストラリア）	受託（文化庁・コンソーシアム）
豊島　久乃	中国	21年2月6日～14日	四川震災復興に係る文化財協力（専門家交流）事業	受託（文化庁・四川）
豊島　久乃	モンゴル	21年3月9日～13日	拠点交流事業（モンゴル）	受託（文化庁・モンゴル）
鳥光　美佳子	アメリカ	21年2月14日～22日	アメリカ合衆国に所蔵された東洋絵画の調査（技術協力）	科学研究費（九州大学大学院）
中野　照男	中国	21年2月19日～22日	「クムトラ千仏洞保存修復事業」三者会議、及び日本ユネスコ信託基金事業の成果発表シンポジウム出席	（株）文化財保存計画協会
中山　俊介	ドイツ、チェコ、デンマーク	6月23日～7月10日	在外日本古美術品保存修復協力事業のための海外修復（ベルリン）及び工芸作品調査	修04
中山　俊介	ドイツ	9月29日～10月6日	在外日本古美術品保存修復協力事業のための海外修復（ベルリン及びケルン）	修04
中山　俊介	アメリカ	10月12日～19日	近代文化遺産の保存と修復に関する現地調査	修06
中山　俊介	ドイツ	11月28日～12月2日	在外日本古美術品保存修復協力事業のための海外修復	修04
中山　俊介	ドイツ	21年3月2日～8日	在外日本古美術品保存修復協力事業のための海外修復	修04
早川　泰弘	韓国	9月28日～30日	国際シンポジウムでの研究発表	韓国国立文化財研究所
俵木　悟	韓国	10月6日～20日	「無形文化遺産の保護に関する日韓研究交流」合意書に基づく研修	芸01
俵木　悟	韓国	12月11日～14日	韓国民俗学会国際シンポジウム出席	科学研究費（東京大学）
俵木　悟	トーゴ	21年2月27日～3月9日	科学研究費補助金「文化と景観およびその保護手法の	科学研究費（筑波大

氏名	用務先	期間	用務	備考
			研究－信仰に関わる文化的景観の調査・分析」に関わる調査	学）
俵木　悟	韓国	21年3月24日～26日	人文・社会科学振興プロジェクト（国立民族学博物館）にかかる韓国国立国楽院関係者との意見交換	国立民族学博物館
二神　葉子	カンボジア	6月3日～6日	アンコール遺跡の救済と発展に関する国際調整委員会出席	セ02
二神　葉子	モンゴル	6月9日～12日	東アジア国際協力状況調査（モンゴル）	受託（文化庁・モンゴル）
二神　葉子	カナダ	7月1日～12日	第32回世界遺産委員会出席	セ01
二神　葉子	タイ、 カンボジア	7月16日～25日	アユタヤ遺跡、スコータイ遺跡でのタイ文化省芸術局との共同研究、カンボジア・アンコール遺跡でのAPSARA機構との共同研究、およびアジア文化遺産国際会議に関する関係機関との協議	セ02
二神　葉子	タイ	9月1日～6日	日タイ国際共同研究に関するセミナー出席	セ02
二神　葉子	モンゴル	9月8日～13日	拠点交流事業（モンゴル　ワークショップ）	受託（文化庁・モンゴル）
二神　葉子	カンボジア	11月30日～12月5日	タイイコモス国際会議出席、アンコール遺跡の保護と救済に関する国際調整委員会出席およびアンコール遺跡現地調査	セ02
二神　葉子	タイ	21年1月11日～17日	「アジア文化遺産国際会議(2008年度)：被災後の遺跡の修復と保存」の開催、タイにおける文化財保存の現状調査	セ01
二神　葉子	タイ、 インドネシア	21年2月6日～13日	拠点交流事業インドネシア・遺跡モニタリング視察および遺跡保護関連情報収集	受託（文化庁・インドネシア）
二神　葉子	モンゴル	21年3月9日～13日	拠点交流事業（モンゴル）	受託（文化庁・モンゴル）
邊牟木　尚美	エジプト	7月20日～8月5日	エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（染織品ワークショップ）－独立行政法人国際協力機構（JICA）の派遣協力依頼による	JICA
邊牟木　尚美	モンゴル	9月3日～13日	拠点交流事業（モンゴル　ワークショップ）	受託（文化庁・モンゴル）
邊牟木　尚美	タジキスタン	11月15日～12月2日	タジキスタン国立古物博物館が所蔵する壁画の修復事業に参加するため	受託（文化庁・中央アジア）
邊牟木　尚美	エジプト	21年2月26日～3月13日	エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（金属品保存修復ワークショップ開催、データベース作成のための収蔵品点検調査）	JICA
宮田　繁幸	韓国、 タイ	6月2日～9日	文化遺産国際協力拠点交流事業に基づく韓国及び中国関係者との協議、及びタイ王国関係機関との協議	受託（文化庁・文化遺産国際協力拠点交流事業）
宮田　繁幸	フランス	6月15日～20日	無形文化遺産保護条約第2回締約国総会出席	受託（文化庁・文化遺産国際協力拠点交流事業）
宮田　繁幸	韓国	8月4日～6日	文化遺産国際協力拠点交流事業に基づく韓国及び中国関係者との協議	受託（文化庁・文化遺産国際協力拠点交流事業）
宮田　繁幸	タイ	8月26日～8月29日	文化遺産国際協力拠点交流事業に基づくタイ王国関係機関との協議	受託（文化庁・文化遺産国際協力拠点交流事業）
宮田　繁幸	モンゴル	9月8日～13日	拠点交流事業（モンゴル　ワークショップ）	受託（文化庁・モンゴル）
宮田　繁幸	韓国	10月10日～12日	“2008富川世界無形文化遺産EXPO”における講演	2008富川世界無形文化遺産EXPO組織委員会
宮田　繁幸	タイ、 トルコ	10月29日～11月9日	文化遺産国際協力拠点交流事業に基づくタイ王国関係機関との協議、及び第３回ユネスコ無形文化遺産保護条約政府間委員会出席	受託（文化庁・文化遺産国際協力拠点交流事業）
宮田　繁幸	タイ	21年1月11日～16日	文化遺産国際協力拠点交流事業に基づくタイ王国関係機関との協議	受託（文化庁・文化遺産国際協力拠点交流事業）
宮田　繁幸	メキシコ	21年1月20日～27日	国際セミナー「無形文化遺産の共有」における発表	メキシコ国立大学等
宮田　繁幸	タイ	21年2月28日～3月8日	文化遺産国際協力拠点交流事業に基づくタイ王国関係機関無形文化遺産保護活動調査	受託（文化庁・文化遺産国際協力拠点交流事業）
森井　順之	韓国	8月5日～8日	磨崖仏の保存環境調査	修01
森井　順之	韓国	9月28日～10月1日	2008年文化遺産の保存科学に関する国際シンポジウムにおける参加・講演	韓国国立文化財研究所
森井　順之	韓国	11月4日～7日	日韓共同研究報告会2008への参加・発表 石造文化財の修復に関する調査	修01

氏名	用務先	期間	用務	備考
森井　順之	中国	11月16日～19日	石造文化財の保護に関するシンポジウムへの参加・発表	セ03
森井　順之	韓国	21年2月2日～6日	磨崖仏の凍結防止に関する共同調査	修01
森井　順之	インドネシア	21年2月8日～13日	拠点交流事業インドネシア・遺跡環境モニタリング視察	受託（文化庁・インドネシア）
山内　和也	カザフスタン、タジキスタン、キルギス	4月22日～5月2日	タジキスタンのアジナテパ遺跡の保存事業 タジキスタン、カザフスタン、キルギスの関係機関を訪問し、文化遺産保存協力事業について打ち合わせ	セ05
山内　和也	キルギス	5月25日～6月4日	キルギスのビシュケクで開催される岩絵遺跡の世界遺産への一括登録に関するユネスコ作業部会への出席 西安で開催されるシルクロードの世界遺産への一括登録に関するユネスコ作業部会への出席	セ05
山内　和也	ドイツ	6月11日～17日	国際会議バーミヤーン遺跡保存のための専門家調整会議出席(ミュンヘン) 中央アジア出土壁画の調査（ベルリン）	セ05
山内　和也	タジキスタン	7月23日～8月5日	タジキスタン国立古物博物館が所蔵する壁画の修復事業に参加するため。また、タフティサンギン遺跡の調査も行う	セ05
山内　和也	モンゴル	9月3日～13日	拠点交流事業（モンゴル　ワークショップ）	受託（文化庁・モンゴル）
山内　和也	インド	9月24日～10月2日	国際会議ICOM-CC 2008参加およびインドにおける「文化遺産国際拠点交流事業」のためのインド考古局(ASI)との会議のため	受託（文化庁・インド）
山梨　絵美子	台湾	10月20日～23日	国立故宮博物院との共同研究による作品調査・撮影	情01
山梨　絵美子	韓国	21年3月24日～28日	韓国国立中央博物館所蔵日本近代洋画調査と講演会	韓国国立中央博物館

【奈良文化財研究所】延べ121人

氏名	用務先	期間	用務	備考
森本　晋	ハンガリー	4月2日～7日	国際学会「考古学におけるコンピュータの応用と数量的手法」に参加	職員旅費
松井　章	セネガル	4月6日～15日	セネガル国ダカールで開催されるShell midden Workshopに参加・発表	職員旅費
城倉　正祥	中国	4月17日～6月13日	中国社会科学院考古研究所との漢魏洛陽城共同発掘調査研究	職員旅費
森本　晋	カザフスタン・キルギス	4月26日～5月2日	仏教遺跡および壁画等に関する資料調査	職員旅費
窪寺　茂	中国	4月28日～5月9日	中国東南大学建築学院において集中特別講義の実施	先方負担(東南大学)
井上　和人	ベトナム	5月8日～17日	タンロン皇城遺跡発掘調査支援	他機関負担(文化遺産国際協力コンソーシアム)
箱崎　和久	韓国	5月22日～30日	日中韓文化財研究所機関・建造物研究者による共同研究に関する会議（第3回）への出席および東アジアの八角建物に関する資料収集と情報交換	渡航：職員旅費 滞在：～25 科学研究費補助金,26～ 先方負担(韓国国立文化財研究所)
大河内　隆之	オーストリア	5月22日～6月7日	共同研究「ハルシュタット出土木製品の非破壊年輪調査」およびEuro Dendro 2008への参加・学会発表	職員旅費
窪寺　茂	韓国	5月26日～29日	日中韓文化財研究所機関・建造物研究者による共同研究に関する会議（第3回）への出席	渡航：職員旅費 滞在：先方負担(韓国国立文化財研究所)
清水　重敦	韓国	5月26日～29日	日中韓文化財研究所機関・建造物研究者による共同研究に関する会議（第3回）への出席	渡航：職員旅費 滞在：先方負担(韓国国立文化財研究所)
井上　直夫	中国	5月27日～6月1日	鄭州における唐三彩の写真撮影	職員旅費
岡田　愛	中国	5月27日～6月1日	鄭州における唐三彩の写真撮影	職員旅費
大林　潤	オーストリア	5月27日～6月4日	Eurodendro2008（年輪学に関する国際学会）への参加・発表	職員旅費
加藤　真二	中国	5月27日～6月6日	鄭州における唐三彩の写真撮影および石家荘における壁画調査	職員旅費:
今井　晃樹	中国	6月1日～6日	洛陽における発掘調査	職員旅費
中村　一郎	中国	6月1日～6日	洛陽における発掘調査	職員旅費
降幡　順子	中国	6月2日～6日	第4回東アジア考古学協会学会への参加・発表	科学研究費補助金
小田　裕樹	中国	6月2日～6日	第4回東アジア考古学協会学会への参加・発表	科学研究費補助金
丹羽　崇史	中国	6月2日～6日	第4回東アジア考古学協会学会への参加・発表	他機関負担(日本学術振興会の国際学会等派遣事業)
森本　晋	カンボジア	6月3日～8日	アンコール遺産保護開発国際調整委員会出席	職員旅費

氏名	用務先	期間	用務	備考
石村　智	カンボジア	6月3日～12日	ICC出席と西トップ寺院の現地調査	職員旅費
杉山　洋	カンボジア	6月3日～14日	アンコール文化遺産保護共同研究現地調査	職員旅費
高妻　洋成	カンボジア	6月10日～13日	アンコール文化遺産保護共同研究現地調査	職員旅費
肥塚　隆保	カンボジア	6月10日～14日	アンコール文化遺産保護共同研究現地調査	職員旅費
森本　晋	ドイツ フランス	6月10日～20日	バーミヤン遺跡保護専門家協力会議出席ならびにバーミヤン遺跡関連資料の調査	職員旅費
小林　謙一	中国	6月18日～21日	遼寧省文物考古研究所との共同研究打合せ	職員旅費
小池　伸彦	中国	6月18日～21日	遼寧省文物考古研究所との共同研究打合せ	職員旅費
西口　壽生	中国	6月22日～26日	河南省文物考古研究所との共同研究	職員旅費
小田　裕樹	中国	6月22日～26日	河南省文物考古研究所との共同研究	職員旅費
丹羽　崇史	中国	6月22日～26日	河南省文物考古研究所との共同研究	職員旅費
松井　章	アイルランド	6月28日～7月5日	アイルランド国ダブリンにおいて開催される世界考古学会議への出席・発表	科学研究費補助金
平澤　毅	カナダ	6月30日～7月16日	ユネスコ世界遺産委員会出席	職員旅費
石村　智	カナダ	7月1日～14日	ユネスコ世界遺産委員会出席・情報収集	職員旅費
森本　晋	カナダ	7月1日～16日	ユネスコ世界遺産委員会出席・世界遺産視察	東文研
松村　恵司	韓国	7月22日～24日	2008年度発掘調査員研修教育の講演	先方負担(韓国国立文化財研究所)
青木　敬	韓国	7月22日～9月19日	日韓共同研究の発掘調査交流	渡航:職員旅費 滞在:先方負担(韓国国立文化財研究所)
松井　章	アメリカ	7月24日～8月4日	縄文文化と北米北西海岸先史文化の比較研究 マッド・ベイ遺跡の発掘に参加し、出土遺物を検討	科学研究費補助金
大林　潤	カンボジア	8月1日～10日	アンコール西トップ寺院遺跡の建造物調査	職員旅費
番　光	カンボジア	8月1日～10日	アンコール西トップ寺院遺跡の建造物調査	職員旅費
杉山　洋	カンボジア	8月1日～14日	アンコール文化遺産保護共同研究現地調査	職員旅費
石村　智	カンボジア	8月1日～14日	西トップ寺院の現地調査	職員旅費
清水　重敦	カンボジア	8月2日～10日	アンコール西トップ寺院遺跡の建造物調査	職員旅費
豊島　直博	カンボジア	8月4日～10日	アンコール西トップ寺院遺跡の建造物調査	職員旅費
島田　敏男	ベトナム	8月7日～15日	文化庁がおこなっているベトナムへの協力事業にかかる、ハテイ省ドゥオンラム村保存協力と、次期協力が検討されているフエ省フクティク村の予備調査	他機関負担(昭和女子大学（国際交流基金文化協力(助成)プログラム）)
千田　剛道	韓国	9月9日～14日	「遺跡出土の建築部材に関する総合的研究」にかかる資料収集と、韓国研究者との情報交換	科学研究費補助金
島田　敏男	韓国	9月9日～14日	「遺跡出土の建築部材に関する総合的研究」にかかる資料収集と、韓国研究者との情報交換	科学研究費補助金
井上　和人	ベトナム	9月11日～15日	国際シンポジウム「ベトナムにおける日本学研究促進に向けて」に招聘され、「日本および東アジアにおける古代都城建設の歴史的意味」についての研究を報告	先方負担(ベトナム国家大学附属人文社会科大学)
渡邉　晃宏	韓国	9月28日～30日	日韓共同研究にともなう資料調査	渡航：職員旅費 滞在：先方負担(国立慶州文化財研究所)
馬場　基	韓国	9月28日～10月5日	日韓共同研究にともなう資料調査および,木簡構文についての意見交換と韓国文字資料の見学	渡航：職員旅費 滞在：～3 先方負担（国立慶州文化財研究所）,4～ 科学研究費補助金
杉山　洋	中国	10月2日～8日	飛鳥資料館秋期特別展の展示品の借用	職員旅費
加藤　真二	中国	10月2日～8日	飛鳥資料館秋期特別展の展示品の借用	職員旅費
森本　晋	タジキスタン	10月8日～14日	タジキスタン歴史考古博物館収蔵資料整理に関する技術協力	職員旅費
小林　謙一	中国	10月11日～15日	日中古代墳墓副葬品の比較研究	科学研究費補助金
金田　明大	中国	10月11日～18日	日中古代墳墓副葬品の比較研究	科学研究費補助金
牛嶋　茂	中国	10月11日～22日	日中古代墳墓副葬品の比較研究	科学研究費補助金
和田　一之輔	中国	10月11日～22日	日中古代墳墓副葬品の比較研究	科学研究費補助金
児島　大輔	中国	10月15日～11月1日	漢代石闕の調査および関連資料の収集	他機関負担(科学研究費補助金 早稲田大学)
脇谷　草一郎	中国	10月18日～25日	日中古代墳墓副葬品の比較研究	科学研究費補助金
小池　伸彦	中国	10月18日～25日	日中古代墳墓副葬品の比較研究	科学研究費補助金
森本　晋	キプロス	10月19日～28日	ヴァーチャルシステム・マルチメディア学会出席・発表	職員旅費
降幡　順子	中国	10月22日～25日	日中古代墳墓副葬品の比較研究	科学研究費補助金
丹羽　崇史	中国	10月29日～11月1日	Symposium Celebrating the 80th Anniversary of Scientific Archaeological Ｅｘｃａｖａｔｉｏｎｓ at Yinxu, Anyang, Chinaに参加	職員旅費

氏名	用務先	期間	用務	備考
窪寺　茂	中国	10月29日～11月2日	中華人民共和国国家文物局主催・木造建造物塗装の保存に関する国際セミナーへの参加	先方負担(中国)
加藤　真二	中国	11月2日～9日	河北・河南両省における壁画・遺物の調査	職員旅費
杉山　洋	カンボジア	11月4日～9日	カンボジアにおける共同研究に関する調整と打合せ	職員旅費
城倉　正祥	中国	11月4日～12月26日	中国社会科学院考古研究所との漢魏洛陽城共同発掘調査	職員旅費
内田　和伸	韓国	11月6日～10日	文化遺産の保存と活用の事例調査	科学研究費補助金
林　正憲	韓国	11月10日～20日	日韓共同研究にもとづく調査	渡航：職員旅費 滞在：先方負担（国立慶州文化財研究所）
松井　章	台湾	11月12日～17日	台湾の在来家畜の考古科学的研究に関する指導および助言	先方負担(国立台湾大学)
玉田　芳英	中国	11月13日～20日	河南省文物考古研究所との共同研究としての、黄冶窯・白河窯出土遺物の調査	職員旅費
小田　裕樹	中国	11月13日～20日	河南省文物考古研究所との共同研究としての、黄冶窯・白河窯出土遺物の調査	職員旅費
丹羽　崇史	中国	11月13日～20日	河南省文物考古研究所との共同研究としての黄冶窯・白河窯出土遺物の調査	職員旅費
西口　壽生	中国	11月13日～20日	河南省文物考古研究所との共同研究としての黄冶窯・白河窯出土遺物の調査	職員旅費
森川　実	中国	11月13日～20日	河南省文物考古研究所との共同研究としての黄冶窯・白河窯出土遺物の調査	職員旅費
牛嶋　茂	中国	11月13日～20日	河南省文物考古研究所との共同研究としての黄冶窯・白河窯出土遺物の調査	職員旅費
井上　和人	ベトナム	11月22日～26日	ベトナム・タンロン皇城遺跡保護支援事業にともなう「タンロン皇城価値評価国際シンポジウム」で報告	渡航：他機関負担（国際交流基金） 滞在：先方負担（ベトナム社会科学院）
杉山　洋	カンボジア	11月26日～12月9日	カンボジアにおける共同研究に関する調整と調整・打合せ	職員旅費
森本　晋	カンボジア・ベトナム	11月29日～12月8日	フランス極東学院GIS・データベース研究出席,地理情報技術に関する太平洋近隣友好協会総会出席	職員旅費
清水　重敦	中国	11月29日～12月4日	中国における建造物の保存修理とオーセンティシティに関する現地調査	科学研究費補助金
箱崎　和久	韓国	12月7日～13日	日韓共同研究にもとづく古代建築に関する資料収集	渡航：職員旅費 滞在：先方負担(韓国国立文化財研究所)
小田　裕樹	中国	12月8日～19日	漢魏洛陽城における共同調査への参加	職員旅費
高橋　知奈津	中国	12月8日～19日	漢魏洛陽城における共同調査への参加	職員旅費
小林　謙一	韓国 中国	12月10日～19日	国際学術大会に参加、中国社会科学院考古研究所との共同研究	～12 先方負担(国立慶州文化財研究所),13～ 職員旅費
高田　貫太	韓国	12月10日～14日	韓国国立慶州文化財研究所主催シンポジウム『新羅護国の念願、四天王寺』への参加と発表	先方負担(国立慶州文化財研究所)
中村　一郎	中国	12月13日～19日	漢魏洛陽城における共同調査への参加	職員旅費
小澤　毅	中国	12月13日～19日	漢魏洛陽城における共同調査への参加	科学研究費補助金
田辺　征夫	中国	12月13日～19日	漢魏洛陽城共同調査、唐長安城含元殿の復原基壇等の視察	職員旅費
加藤　真二	中国	12月14日～22日	飛鳥資料館平成20年度秋期特別展借用品の返却、21年度春期特別展の写真撮影、展示品の購入	職員旅費
杉山　洋	中国	12月14日～22日	飛鳥資料館平成20年度秋期特別展借用品の返却、21年度春期特別展の写真撮影、展示品の購入	職員旅費
井上　直夫	中国	12月14日～22日	飛鳥資料館平成20年度秋期特別展借用品の返却、21年度春期特別展の写真撮影、展示品の購入	職員旅費
粟野　隆	韓国	12月15日～19日	韓国の遺跡の整備・活用に関する現地調査	渡航：職員旅費 滞在：先方負担(韓国国立文化財研究所)
関広　尚世	スーダン	21年1月16日～27日	カメイ社会教育財団「助成」研究の実施	他機関負担（カメイ社会教育財団）
森本　晋	ドイツ フランス	21年1月26日～31日	ガンダーラ仏教美術資料調査とバーミヤン遺跡保護に関する専門家国際会議出席	職員旅費
杉山　洋	カンボジア	21年1月29日～2月7日	アンコール文化遺産保護に関する共同研究	職員旅費
石村　智	カンボジア	21年1月30日～2月7日	アンコール遺跡群西トップ寺院の調査	職員旅費
肥塚　隆保	カンボジア	21年2月3日～7日	西トップ寺院の調査研究	職員旅費
高妻　洋成	カンボジア	21年2月3日～7日	カンボジア・アンコール遺跡西トップ寺院における石材調査	科学研究費補助金

氏名	用務先	期間	用務	備考
金田　明大	カンボジア	21年2月3日～7日	カンボジア・アンコール遺跡西トップ寺院における石材調査	科学研究費補助金
島田　敏男	ベトナム	21年2月7日～12日	農村集落保存協力に対するベトナム政府からの表彰式出席およびベトナムにおける遺跡保存の実態調査	職員旅費
井上　和人	ベトナム	21年2月7日～12日	農村集落保存協力に対するベトナム政府からの表彰式出席およびベトナムにおける遺跡保存の実態調査	職員旅費
田辺　征夫	ベトナム	21年2月7日～12日	農村集落保存協力に対するベトナム政府からの表彰式出席およびベトナムにおける遺跡保存の実態調査	職員旅費
児島　大輔	韓国	21年2月8日～13日	統一新羅時代の仏教美術の調査	科学研究費補助金
森本　晋	インド	21年2月11日～21日	アジャンタ遺跡における仏教壁画の資料調査	職員旅費
黒坂　貴裕	中国	21年2月17日～24日	「遺跡出土の建築部材に関する総合調査」の類例調査	科学研究費補助金
金田　明大	大韓民国	21年2月18日～22日	文化財GIS国際学術シンポジウムにおける発表および意見交換	先方負担
杉山　洋	カンボジア	21年2月21日～3月1日	アンコール文化遺産保護に関する共同研究	職員旅費
浅野　啓介	韓国	21年2月23日～28日	日韓共同研究にともなう資料調査	渡航：職員旅費 滞在：先方負担(韓国国立文化財研究所)
小田　裕樹	韓国	21年2月23日～28日	日韓共同研究における資料調査	渡航：職員旅費 滞在：先方負担(韓国国立文化財研究所)
松井　章	アメリカ	21年2月26日～3月4日	「植物食に関する北米北西海岸先史時代と縄文時代の比較研究」に関する資料調査	他機関負担(文学研究科プロジェクト経費（名古屋大学）)
井上　和人	ベトナム	21年3月1日～7日	ハノイ・タンロン皇城遺跡の調査研究支援	他機関負担(文化庁)
高妻　洋成	中国	21年3月5日～7日	木製文化財の保存処理に関する資料収集	職員旅費
松井　章	ラオス	21年3月6日～15日	ラオスにおける家畜、家禽の調査	科学研究費補助金
城倉　正祥	中国	21年3月7日～14日	朝陽地区隋唐墓の整理と研究	職員旅費
牛嶋　茂	中国	21年3月7日～14日	朝陽地区隋唐墓の整理と研究	職員旅費
小池　伸彦	中国	21年3月7日～14日	日中古代墳墓副葬品の比較研究	科学研究費補助金
和田　一之輔	中国	21年3月7日～14日	日中古代墳墓副葬品の比較研究	科学研究費補助金
豊島　直博	中国	21年3月7日～14日	日中古代墳墓副葬品の比較研究	科学研究費補助金
小林　謙一	中国	21年3月11日～17日	日中古代墳墓副葬品の比較研究	科学研究費補助金
降幡　順子	中国	21年3月14日～17日	日中古代墳墓副葬品の比較研究	科学研究費補助金
森川　実	中国	21年3月16日～20日	中国河南省文物考古研究所との共同研究	職員旅費
加藤　真二	中国	21年3月16日～20日	出土遺物、壁画調査	職員旅費

②調査研究テーマ一覧

国立文化財機構	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
128件	77件	33件	17件	9件	18件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	51件	20件	28件	3件	

【東京国立博物館】　33件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	特別調査法隆寺献納宝物（第30次）「聖徳太子絵伝」第4回	学芸研究部	上席研究員　原田一敏
2	特別調査「書跡」第5 回（17 年度写経1 回、18 年度写経2 回実施、19 年度古文書1 回、20 年度古文書1 回）	学芸研究部	学芸研究部長　島谷弘幸
3	特別調査金地屏風の金箔地についての調査研究―尾形光琳風神雷神屏風を中心に	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長　田沢裕賀
4	応挙館障壁画の復元に関する調査研究（今年度は、主に修理未了（まくりの壁画）の障壁画について検討）	学芸研究部	列品管理課平常展調整室主任研究員 松嶋雅人
5	館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究	学芸企画部	博物館情報課長　高橋祐次
6	ガンダーラの仏教寺院の伽藍配置と遺物に関する研究（今年度は報告書の執筆）	学芸研究部	列品管理課平常展調整室長　小泉育英
7	博物館の環境保存に関する研究	学芸研究部	保存修復課長　神庭信幸
8	東洋民族資料に関する調査研究	学芸研究部	列品管理課長　谷 豊信
9	耐震性の高い展示手法に関する研究	学芸研究部	保存修復課長　神庭信幸
10	大型油彩画のロール状保存と木枠に張り込まない展示手法法の開発に関する調査研究	学芸研究部	保存修復課長　神庭信幸
11	韓国国立中央博物館所蔵の高麗漆器の保存に関する国際共同研究（韓国国立中央博物館）	学芸研究部	保存修復課長　神庭信幸
12	「法隆寺献納宝物聖徳太子絵伝の調査研究」（科学研究費補助金・平成17 年度～20 年度）	学芸研究部	上席研究員　原田一敏
13	日本における木彫像の樹種と用材観に関する調査研究（科学研究費補助金）	学芸研究部	特任研究員　金子啓明
14	書画料紙の加工法及び保存に関する基礎的研究（科学研究費補助金）	学芸研究部	学芸研究部長　島谷弘幸
15	目録学の構築と古典学の再生（科学研究費基盤Ｓ。研究代表者：田島公　東大教授。平成19-23 年度）	学芸研究部	列品管理課登録室長　田良島 哲
16	国立博物館の機能と役割の変遷に関する基礎的研究 ―館史資料の分析を中心に―（科学研究費補助金）	学芸企画部	博物館情報課情報管理室長　丸山史郎
17	博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究（科学研究費補助金）	学芸研究部	保存修復課長　神庭信幸
18	東京国立博物館所蔵・正倉院関係資料の研究（科学研究費補助金）	学芸研究部	上席研究員　澤田むつ代
19	東京国立博物館所蔵写真資料データベース（科学研究費補助金）	学芸研究部	調査研究課長　富田 淳
20	東京国立博物館所蔵古文書データベース（科学研究費補助金）	学芸研究部	調査研究課書跡・歴史室研究員　高梨真行
21	大航海時代以降の東西交流が中国・日本の陶磁器に与えた影響について	学芸研究部	保存修復課保存修復室研究員　三笠景子
22	平成21年度　特集陳列「趙之謙」に関する調査研究	学芸研究部	調査研究課長　富田 淳
23	明治時代の宝物調査における写真資料に関する調査―横山松三郎、小川一真、早崎稉吉、安村喜当の事跡を中心に―	学芸研究部	調査研究課書跡・歴史室長　冨坂 賢
24	朝鮮王朝時代の工芸作品に関する調査、研究	学芸研究部	調査研究課東洋室長　今井 敦
25	中国宋時代の越州窯青磁が、その後の青磁生産の展開、中国国内の生活文化に与えた影響についての調査	学芸研究部	保存修復課保存修復室研究員　三笠景子
26	金沢北条氏領下総国下河辺庄の総合的研究	学芸研究部	調査研究課書跡・歴史室研究員　高梨真行
27	歴史資料調査	学芸研究部	調査研究課書跡・歴史室長　冨坂 賢
28	有形文化財に係る調査研究	学芸研究部	調査研究課長　富田 淳
29	博物館環境デザインに関する調査研究	学芸企画部	企画課デザイン室長　木下史青
30	博物館美術教育に関する調査研究	学芸企画部	博物館教育課長　加島 勝
31	博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築（科学研究費補助金）	学芸企画部	企画課長　井上洋一
32	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	学芸企画部	博物館情報課情報管理室長　丸山史郎
33	ミュージアム・シアターでの公開に向けた研究（凸版印刷との協同）	学芸企画部	博物館教育課長　加島 勝

【京都国立博物館】　17件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究	学芸部	列品管理室長　若杉準治
2	平安仏教とその造形に関する研究	学芸部	上席研究員　西上 実
3	日本における木の造形的表現とその文化的背景に関する総合的考察（科学研究費補助金）	学芸部	館長　佐々木 丞平
4	建仁寺両足院に所蔵される五山文学関係典籍類の調査研究（科学研究費補助金）	学芸部	企画室長　赤尾栄慶

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
5	修復文化財に関する資料収集及び調査研究	学芸部	保存修理指導室長　村上 隆
6	等伯に関する調査研究（客員研究員）	学芸部	美術室長　山本英男
7	近世絵画に関する調査研究（客員研究員）	学芸部	連携協力室長　山下 善也
8	文化財情報に関する調査研究（客員研究員）	学芸部	企画室長　赤尾栄慶
9	訓点資料としての典籍に関する調査研究（客員研究員）	学芸部	企画室長　赤尾栄慶
10	彫刻に関する調査研究（客員研究員）	学芸部	主任研究員　淺湫 毅
11	西域出土文献に関する調査研究	学芸部	企画室長　赤尾栄慶
12	中・近世の金属工芸品の製作と受用にみる江南、嶺・湖南、瀬戸内の地域特質と相互文化認識、交流媒体の研究（トヨタ財団研究助成）	学芸部	工芸室長　久保智康
13	宸翰（天皇の書）の歴史学的見地からみた調査・研究	学芸部	研究員　羽田 聡
14	瑞光寺ならびに建仁寺両足院所蔵陶磁の調査研究	学芸部	主任研究員　尾野善裕
15	妙心寺本坊、塔頭（麟祥院及び衡梅院）に所蔵されている文化財の調査研究により、特別展覧会「妙心寺展」（仮称）の開催に反映する	学芸部	研究員　羽田 聡
16	輸出漆器に関する調査研究により、特別展覧会「japan蒔絵－宮殿を飾る 東洋の燦めき－」の開催に反映する	学芸部	主任研究員　永島明子
17	妙顕寺・本満寺・本圀寺などに所蔵される文化財の調査研究により、特別展覧会「日蓮展」（仮称）の開催に反映する	学芸部	研究員　大原嘉豊

【奈良国立博物館】　9件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	南部諸諸社寺等に関する計画的な調査研究等を実施	学芸部	学芸部長　西山 厚
2	仏教美術の光学的調査研究（東京文化財研究所との共同研究）	学芸部	学芸部長　西山 厚
3	仏教美実写真収集及びその調査研究	学芸部	資料室長　宮崎幹子
4	我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究	学芸部	学芸部長　西山 厚
5	当館所蔵品についての調査研究（客員研究員）	学芸部	学芸部長　西山 厚
6	統一新羅期の道具瓦集成（科学研究費補助金）	学芸部	工芸考古室員　岩戸晶子
7	古墳時代中期における対外交渉の特質と地域圏の形成・展開過程（科学研究費補助金）	学芸部	養育室長　吉澤 悟
8	南都諸社寺等に関する計画的な調査研究成果の一部を「国宝法隆寺金堂展」並びに特別陳列「おん祭りの春日信仰の美術」及び「お水取り」に反映させる	学芸部	学芸部長　西山 厚
9	我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究成果の一部で平常展の充実を図る	学芸部	学芸部長　西山 厚

【九州国立博物館】　18件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究	企画課	企画課長　　伊藤　嘉章
2	文化財の材質・構造等に関する共同研究（客員研究員）	博物館科学課	環境保全室長　今津　節生
3	博物館における文化財保存修復に関する研究（客員研究員）	博物館科学課	保存修復室研究員　志賀　智史
4	彩色水浸文物の保存科学的研究―中国江蘇省泗水王陵出土文物の保存―（科学研究費補助金）	博物館科学課	環境保全室長　今津　節生
5	ＶＲ画像を活用した日本装飾古墳デジタルアーカイブの構築（科学研究費補助金）	企画課	文化交流展示室長　河野　一隆
6	近代工芸の美術史・産業史・地域史の基礎資料としての内国勧業博覧会出品作品の研究（科学研究費補助金）	企画課	企画課長　　伊藤　嘉章
7	博物館危機管理としての市民協同型IPM システム構築に向けての基礎研究（科学研究費補助金）	博物館科学課	博物館科学課長　本田　光子
8	博物館におけるＸ線ＣＴスキャンデータの活用（科学研究費補助金）	博物館科学課	環境保全室研究員　鳥越　俊行
9	古代東南アジアにおける三尊像図像の研究－タイ・ミャンマーの図像を中心に－（科学研究費補助金）	企画課	特別展室研究員　原田　あゆみ
10	超高精細大容量画像の安全・ダイナミック表示総合システムの開発（科学技術振興機構）	博物館科学課	環境保全室長　今津　節生
11	近世初期日本絵画における粉本使用例の基礎調査（科学研究費補助金）	企画課	研究員　金井　裕子
12	埴輪に認められる赤色顔料についての基礎的研究（科学研究費補助金）	博物館科学課	保存修復室研究員　志賀　智史
13	被災した近現代歴史資料の救済のための簡便な真空凍結乾燥法の開発（科学研究費補助金）	博物館科学課	特任研究員　村田　忠繁
14	近世初期対馬藩の政治構造と日朝交流（科学研究費補助金）	文化財課	研究員　荒木　和憲
15	室町時代の仏教絵画を中心とする東アジアの宗教美術に関する調査研究（科学研究費補助金）	文化財課	研究員　畑　靖紀
16	トルキ山遼墓出土品から見た唐滅亡後の東アジアにおける工芸技術（科学研究費補助金）	文化財課	文化財課長　臺信　祐爾

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
17	高齢者・障がい者・外国人の利用者の視点に立った、展示の内容・方法、施設整備、管理運営面からの研究・実践	総務課	総務課長　樋口　理央
18	音声ガイドのコンテンツ評価と検証	展示課	展示課長　赤司　善彦

【東京文化財研究所】計20件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（5件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
1	民俗技術に関する調査・資料収集　無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究（Ⅰ4（1）④と一体で実施）	無形文化遺産部	無形文化遺産部長　宮田繁幸
2	東アジアの美術に関する資料学的研究	企画情報部	文化形成研究室長　塩谷　純
3	近現代美術に関する総合的研究	企画情報部	近・現代視覚芸術研究室長　山梨絵美子
4	美術の技法・材料に関する広領域的研究	企画情報部	広領域研究室長　綿田　稔
5	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部	無形文化遺産部長　宮田繁幸

○文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進（2件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
1	高精細デジタル画像の応用に関する調査研究	企画情報部	文化財アーカイブズ研究室長　津田徹英
2	文化財の非破壊調査法の研究	保存修復科学センター	保存修復科学センター長　石﨑武志

○文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進（8件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
1	文化財の生物劣化対策の研究	保存修復科学センター	保存修復科学センター長　石﨑武志
2	文化財の保存環境の研究	保存修復科学センター	保存修復科学センター長　石﨑武志
3	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	保存修復科学センター	保存修復科学センター副センター長 川野邊渉
4	文化財の防災計画に関する調査研究	保存修復科学センター	保存修復科学センター副センター長 川野邊渉
5	伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究	保存修復科学センター	保存修復科学センター副センター長 川野邊渉
6	国際研修「紙の保存と修復」	保存修復科学センター	保存修復科学センター副センター長 川野邊渉
7	在外日本古美術品保存修復協力事業	保存修復科学センター	保存修復科学センター副センター長 川野邊渉
8	近代の文化遺産の保存修復に関する研究	保存修復科学センター	近代文化遺産研究室長　中山俊介

○文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力及び国際共同研究（4件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
1	文化財保存施策の国際的研究	文化遺産国際協力センター	文化遺産国際協力センター長　清水真一
2	アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査研究	文化遺産国際協力センター	文化遺産国際協力センター主任研究員 朽津信明
3	龍門石窟及び陝西省唐代陵墓石彫像の保存修復に関する調査研究	文化遺産国際協力センター	保存計画研究室長　岡田　健
4	敦煌壁画の保護に関する調査研究	文化遺産国際協力センター	保存計画研究室長　岡田　健

○諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転とアジア諸国の文化財保護担当者や保存・修復専門家などの人材養成に関する支援事業及び人材養成に必要な教材や教育手法に関する研究開発（1件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
1	諸外国の文化財保存修復専門家養成	文化遺産国際協力センター	文化遺産国際協力センター長　清水真一

【奈良文化財研究所】計28件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（21件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
1	文化的景観に関する調査研究	文化遺産部	文化遺産部長　山中敏史
2	古都所在寺社の歴史資料等に関する調査研究	文化遺産部	歴史研究室長　吉川　聡
3	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	文化遺産部	建造物研究室長　窪寺茂
4	平城宮跡第一次大極殿院地区南面回廊跡（第431次）の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区	副所長　山崎信二
5	平城宮跡第一次大極殿院地区西面回廊跡（第432次）の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区	副所長　山崎信二
6	平城宮跡第一次大極殿院地区西面回廊跡（第436次）の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区	副所長　山崎信二
7	平城宮跡第一次大極殿院地区西面回廊跡（第437次）の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区	副所長　山崎信二
8	平城宮跡第一次大極殿院地区西面回廊跡（第438次）の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区	副所長　山崎信二
9	平城宮跡東方官衙地区（第440次）の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区	副所長　山崎信二
10	平城京右京三条一坊八坪（第448次調査）の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区	副所長　山崎信二
11	藤原宮跡朝堂院地区の発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部長　松村恵司
12	石神遺跡の発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部長　松村恵司
13	甘樫丘東麓遺跡の発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部長　松村恵司

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
14	平城京跡出土遺物・遺構の調査研究等	都城発掘調査部　平城地区	副所長　山崎信二
15	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部長　松村恵司
16	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究	都城発掘調査部	副所長　山崎信二等
17	庭園に関する調査研究	文化遺産部	景観研究室長　内田和伸
18	東アジア史における飛鳥の研究及び飛鳥時代工芸技術の研究	飛鳥資料館	学芸室長　杉山洋
19	遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究	文化遺産部	遺跡整備研究室長　平澤毅
20	遺構の安定した公開・展示を行うことを目的とした事前調査法、保存技術並びに監視技術の開発的研究	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長　高妻洋成
21	文化庁が行う平城宮跡第一次大極殿正殿復原をはじめとする整備・公開・活用に関する専門的・技術的な援助・助言	都城発掘調査部　平城地区	副所長　山崎信二

〇文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進（4件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	遺跡データベースの作成と公開	文化遺産部	文化遺産部長　山中敏史
2	遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法の研究	埋蔵文化財センター	遺跡・調査技術研究室長　小澤毅
3	年輪年代学研究	埋蔵文化財センター	年代学研究室長　肥塚隆保
4	遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究	埋蔵文化財センター	環境考古学研究室長　松井章

〇文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進（1件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長　高妻洋成

〇文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力及び国際共同研究（1件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	カンボジア・アンコール遺跡群の西トップ寺院遺跡の建築史的、考古学的、保存科学的調査	企画調整部	展示企画室長　杉山　洋

〇諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転とアジア諸国の文化財保護担当者や保存・修復専門家などの人材養成に関する支援事業及び人材養成に必要な教材や教育手法に関する研究開発（1件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	国際協力機構、ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力	企画調整部	国際遺跡研究室長　井上和人

【東京文化財研究所と奈良文化財研究所との共同研究】計3件

〇国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施（2件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	保存修復科学センター（東文研）・埋蔵文化財センター（奈文研）	保存修復科学センター長　石﨑武志 埋蔵文化財センター長　肥塚隆保
2	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）・企画調整部（奈文研）	都城発掘調査部長　松村恵司

〇文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力及び国際共同研究（1件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業	文化遺産国際協力センター	文化遺産国際協力センター長　清水真一

③学会、研究会等発表実績一覧

国立文化財機構	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
190件	82件	48件	12件	4件	18件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	108件	42件	65件	1件	

【東京国立博物館】48件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	特集陳列「茶人が好んだデザイン～彦根更紗と景徳鎮」を振り返って－茶陶としての明の五彩・染付の位置づけを考える	保存修復課保存修復室研究員　三笠景子	11 月 29 日	茶の湯文化学会東京例会
2	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	展覧会における混雑対策について	学芸企画部企画課国際交流室長　鬼頭智美	4 月 18 日	国際展覧会オーガナイザー会議（IEO）
3	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	明治後期における南画再評価について	学芸企画部企画課特別展室任期付研究員 植田彩芳子	5 月 31 日	第 61 回美術史学会全国大会
4	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	上東門院彰子埋納の金銀鍍宝相華唐草文経箱をめぐる二、三の問題	学芸企画部博物館教育課長　加島勝	6 月 16 日	平成 20 年度仏教美術研究上野記念財団助成研究会
5	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	日本における青磁の受容 ―鎌倉時代を中心に―	学芸研究部調査研究課東洋室長　今井　敦	7 月 26 日	科研特定領域研究「東アジア海域交流」　2008 年度「にんぷろワークショップ in 東京」
6	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	日本所在の楽浪漆器	学芸研究部列品管理課長谷豊信	11 月 22 日	シンポジウム「楽浪漆器」
7	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	六祖慧能図の魅力	出版企画室長　浅見龍介	5 月 11 日	正木美術館講演会
8	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	水墨画・墨蹟の魅力	出版企画室長　浅見龍介	9 月 28 日	正木美術館シンポジウム
9	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	古代ペルシア文明展記念講演「ラピスラズリの道、王の道、絹の道」	上席研究員　後藤健	11 月 12 日	韓国大邱博物館
10	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	梁山夫婦塚初葬時の副葬品配置	博物館教育課 教育講座室長　白井克也	12 月 6 日	第 20 回東アジア古代史・考古学研究会交流会 2008
11	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	最終末前方後円墳から終末期古墳への副葬品変化－雑考－	保存修復課主任研究員 日高 慎	7 月 20 日	第 7 回東国古墳研究会（立正大学）
12	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	稲荷山七星剣の思想的背景	保存修復課主任研究員 日高 慎	9 月 20 日	土曜考古学研究会 9 月例会
13	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	関東における前方後円墳終焉期の特質	保存修復課主任研究員 日高 慎	11 月 30 日	考古学研究会第 19 回東京例会（明治大学）
14	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	飛鳥寺の舎利容器・鎮壇具・荘厳具	上席研究員　原田一敏	11月16日	「古代文化の源流を探る～百済王興寺から飛鳥寺へ－」國學院大學文化講演会国際シンポジウム
15	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	Spread of Lead-Glaze Technique during the Han Dynasty	学芸研究部調査研究課東洋室研究員　川村佳男	3 月 26 日	2009 International Symposium on Ancient Ceramics
16	ガンダーラの仏教寺院の伽藍配置と遺物に関する研究	パキスタン、ハザーラ地方の仏教遺跡	学芸研究部列品管理課平常展調整室長　小泉惠英	9 月 28 日	「ガンダーラ美術の資料集成とその統合的研究」第 3 回研究会（研究代表者・宮治昭龍谷大学教授）
17	博物館の環境保存に関する研究	温湿度データ管理と自動化のポイント	学芸研究部保存修復課環境保存室研究員　和田浩、学芸研究部保存修復課長　神庭信幸	11 月 12 日	機構内連携研究会「新規温湿度分析システムについて」於国立民族学博物館

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
18	博物館の環境保存に関する研究	収蔵庫内の空気成分に関する長期的なモニタリング	学芸研究部保存修復課長・神庭信幸、学芸研究部保存修復課室長・塚田全彦、学芸研究部保存修復課環境保存室研究員　・和田　浩、学芸研究部保存修復課環境保存室非常勤・市川沙織、学芸研究部保存修復課環境保存室非常勤・金鐘旭	5月17日	文化財保存修復学会第30回大会
19	耐震性の高い展示手法に関する調査研究	博物館の地震対策	学芸研究部保存修復課長・神庭信幸、学芸研究部保存修復課室長・塚田全彦、学芸研究部保存修復課環境保存室主任研究員　荒木臣紀、学芸研究部保存修復課環境保存室研究員　和田　浩、		文化財建造物等の地震対策に関する日中専門家ワークショップ於中国四川省成都市
20	大型油彩画のロール状保存と木枠に張り込まない展示手法の開発に関する調査研究	簡易万能太巻き芯の活用―博物館における対症修理―	保存修復支援技術者・鈴木晴彦、保存修復支援技術者　・本多聡、保存修復支援技術者・米倉乙世、学芸研究部保存修復課長・神庭信幸、学芸研究部保存修復課主任研究員・土屋裕子、学芸研究部保存修復課非常勤・松田麻美	5月17･18日	文化財保存修復学会第30回大会
21	東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究	「東京国立博物館の歴史資料について」	学芸企画部博物館情報課長　高橋裕次	9月11日	国立歴史民俗博物館共同研究「武士関係資料の総合化」
22	東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究	「聖なる山の寺宝(醍醐寺展)」に関わる講演会「日本の書の魅力(醍醐寺に伝えられた遺品を中心に)」	学芸研究部長　島谷弘幸	6月8日	ドイツ連邦共和国美術展示館
23	東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究	「仮名の成立と古筆の美」	学芸研究部長　島谷弘幸	7月4日	社団法人　日本交通協会
24	東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究	聖徳大学言語文化研究所公開学術連続講演会：源氏物語と王朝の雅「平安時代の仮名文化」	学芸研究部長　島谷弘幸	7月12日	聖徳大学
25	東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究	「講演会シリーズ:21世紀の価値観」第20回「日本人の心と書」	学芸研究部長　島谷弘幸	9月4日	財団法人　五井平和財団
26	東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究	「古筆の魅力　書と料紙」	学芸研究部長　島谷弘幸	10月18日	大正大学
27	東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究	広島市立大学開講科目：古典研究特別講義「装飾経と平家納経の書」	学芸研究部長　島谷弘幸	11月15日	広島市立大学
28	博物館環境デザインに関する調査研究	ＮＨＫデザイナー向レクチャー「対決展見学･意見交換会」	学芸企画部企画課デザイン室長　木下史青	8月7日	日本放送協会
29	博物館環境デザインに関する調査研究	講演「Treasure × Pleasure－東京国立博物館の展示デザイン」	学芸企画部企画課デザイン室長　木下史青	11月1日	日本文化資源学会
30	博物館環境デザインに関する調査研究	講演：博物館を楽しむ「美の本質を照らし出す展示デザイン」	学芸企画部企画課デザイン室長　木下史青	11月12日	日本フリーランスインテリアコーディネーター協会
31	博物館環境デザインに関する調査研究	講演「気配の痕跡―展示デザインと空間の記憶」	学芸企画部企画課デザイン室長　木下史青	11月20日	大学共同利用機関法人人間文化研究機構 総合地球環境学研究所
32	博物館環境デザインに関する調査研究	基調講演「世界観の発見　文化財の魅力を引き出す展示デザイン」	学芸企画部企画課デザイン室長　木下史青	12月20日	じんもんこん(情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会)
33	博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築	静岡県立美術館における教育普及事業について	学芸企画部博物館教育課教育普及課教育普及室長小林牧、学芸企画部博物館教育課教育講座室研究員　神辺知加	12月11日	東京国立博物館

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
34	博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築	講演「デンバー美術館などに見る教育普及事業の新たな動き」	学芸企画部博物館教育課教育普及室主任研究員 鈴木みどり	7月17日	地域創造「アートミュージアムラボ青森セッション」
35	博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築	ワークショップ「ミュージアム・プログラム『和とじでつくる海の博物図譜づくり！』」	学芸企画部博物館教育課教育普及室主任研究員 鈴木みどり	9月27日	九州大学ユーザーサイエンス機構巡回展「クジラとぼくらの物語」
36	博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築	Educational Activities in the Tokyo National Museum - three approaches -	事業部教育普及課教育普及室主任研究員 鈴木みどり	3月16日	Glasgow Museums（英国）
37	博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築	Educational Activities in the Tokyo National Museum - three approaches -	事業部教育普及課教育普及室主任研究員 鈴木みどり	3月19日	Vicotoria and Albert Museum（英国）
38	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	ミュージアム資料情報のモデルと博物館業務支援システムの開発	学芸企画部博物館情報課情報管理室研究員 村田良二	6月21日	画像電子学会第36回年次大会
39	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	「ミュージアム資料情報構造化モデル」と博物館業務支援システム	学芸企画部博物館情報課情報管理室研究員 村田良二	6月23日	国立歴史民俗博物館「デジタル化された博物館資料に関する情報記述法の研究」平成20年度第1回研究会
40	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	東京国立博物館における収蔵品管理システムの開発	学芸企画部博物館情報課情報管理室研究員 村田良二	9月26日	第68回デジタルドキュメント研究会
41	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	東京国立博物館の収蔵品管理システム	学芸企画部博物館情報課情報管理室研究員 村田良二	12月6日	アートドキュメンテーション学会　第1回秋季研究会
42	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	日本の美術館・寺院・個人等から画像を入手するための手順	学芸研究部列品管理課登録室長　田良島哲	6月23日	北米日本研究資料調整協議会:国際シンポジウム「ジャパン・イメージ―海外日本研究のための画像利用事情―」
43	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	所蔵コレクションの一元管理に取り組み始めた東京国立博物館	学芸研究部列品管理課登録室長　田良島哲	12月14日	全日本博物館学会研究会
44	博物館美術教育に関する調査研究	講演「東京国立博物館の教育普及事業　－3つのアプローチ－」	学芸企画部博物館教育課教育普及室主任研究員 鈴木みどり	10月2日	韓国国立中央博物館教育国際シンポジウム
45	博物館美術教育に関する調査研究	東京国立博物館の教育普及活動の方法	学芸企画部博物館教育課長　加島勝	5月19日	平成20年度博物館職員研修
46	文化財の恒久的保存と持続的公開を具現化する博物館トータルケアシステムの構築	Transportation of Cultural Properties	学芸研究部保存修復課長・神庭信幸、（合）エクサーチ・高木雅彦	10月22日	ISTA China, Packing Symposium
47	文化財の恒久的保存と持続的公開を具現化する博物館トータルケアシステムの構築	MEASUREMENT AND ANALYSIS OF THE GLOBAL TRANSPORT ENVIRONMENT FOR PACKING CASES FOR ARTIFACTS	学芸研究部保存修復課長・神庭信幸、学芸研究部保存修復課室長・塚田全彦、学芸研究部保存修復課環境保存室研究員・和田　浩、（合）エクサーチ・高木雅彦・今北　憲	9月16日	IIC London Congress 2008: Conservation and Access
48	東京国立博物館所蔵・正倉院関係資料の研究	飛鳥・奈良時代のさまざまな染織技法－現在の染織技法の基－	上席研究員　澤田むつ代	21年2月28日	九州国立博物館

【京都国立博物館】12件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	平安仏教とその造形に関する調査研究（京都）	「摂関期にみる美術の諸相」		6月16日	※シンポジウム
2	近世絵画に関する調査研究（客員研究員）（京都）	「伝雪舟筆　富士図の影響」	連携協力室長　山下善也	5月10日	嵯峨御流会講演
3	近世絵画に関する調査研究（客員研究員）（京都）	「伝雪舟筆　富士図の影響」	連携協力室長　山下善也	10月18日	熊本県立美術館ミュージアムセミナー　講座細川コレクション④
4	訓点資料としての典籍に関する調査研究（客員研究員）（京都）	中・韓・日における古写経の変遷について	企画室長　　赤尾栄慶	11月2日	筆墨之外　中国書法史跨領域国際学術研討会
5	訓点資料としての典籍に関する調査研究（客員研究員）（京都）	国際仏教学大学院大学蔵『摩訶止観』巻第一の書誌学的研究	企画室長　　赤尾栄慶	12月6日	学術フロンティア「奈良平安古写経研究拠点の形成」国際シンポジウム

6	輸出漆器に関する調査研究により、特別展覧会「japan蒔絵－宮殿を飾る 東洋の燦めき－」の開催に反映する。（京都）	「輸出漆器が語る東西交流の４００年」		11月8日	※国際シンポジウム
7	宸翰（天皇の書）の歴史学的見地からみた調査・研究	「行海の懐紙」	研究員　　羽田聡	21年2月6日	長野県立歴史館講演会
8	西域出土文献の調査研究	敦煌文書とアーカイブ	企画室長　　赤尾栄慶	12月8日	文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「オリジナルの行方―文化財アーカイブ構築のために―」
9	中・近世の金属工芸品の製作と受用にみる江南、嶺・湖南、瀬戸内の地域特質と相互文化認識、交流媒体の研究	平安京左京八条三坊出土の花枝蝶鳥方鏡鋳型	工芸室長　久保智康	9月27日	鋳造遺跡研究会
10	中・近世の金属工芸品の製作と受用にみる江南、嶺・湖南、瀬戸内の地域特質と相互文化認識、交流媒体の研究	顕密仏教における「鏡」という装置	工芸室長　久保智康	12月14日	日本仏教綜合研究学会
11	瑞光寺ならびに建仁寺両足院所蔵陶磁の調査研究	16～17世紀の京都の土師器編年と瀬戸・美濃陶器	主任研究員　尾野善裕	4月12日	歴史土器研究会第127回例会
12	瑞光寺ならびに建仁寺両足院所蔵陶磁の調査研究	日本人と茶碗－唐物から和物へ－	主任研究員　尾野善裕	5月10日	湯木美術館講演会

【奈良国立博物館】　4件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究	日本における古文書料紙の変遷	奈良博物館長 湯山　賢一	12月	東アジア古文書料紙日韓共同研究集会
2	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究	倉本尚徳氏「南北朝後期における偽経『大通方広経』の成立と懺悔思想 ―特に『涅槃経』との関係について」に対するコメント	学芸部企画室長 稲本　泰生	7月5日	中国社会文化学会大会
3	仏教美術の光学的調査研究	愛知県立美術館所蔵阿弥陀三尊像の絵画技法に関する発表と、同作品の光学的調査に基づく顔料分析に関する討論。	学芸部保存修理指導室 研究員　谷口　耕生	10月25日	愛知県立美術館公開シンポジウム
4	仏教美術の光学的調査研究	ボストン美術館所蔵釈迦霊鷲山説法図（法華堂根本曼荼羅）の近赤外線画像を用いた図様分析	学芸部保存修理指導室 研究員　谷口　耕生	12月21日	ザ・グレイトブッダ・シンポジウム

【九州国立博物館】　18件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財調査におけるX線CTの活用	三次元プリンタを用いた実体模型の展示・研究における活用	今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）	7月14日	日本文化財科学会第25回大会
2	文化財調査におけるX線CTの活用	未盗掘の竪穴石室，勝負砂古墳の科学的調査	今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）	7月14日	日本文化財科学会第25回大会
3	文化財調査におけるX線CTの活用	横隈狐塚遺跡出土銅剣嵌入人骨の科学的調査	今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）	7月14日	日本文化財科学会第25回大会
4	文化財調査におけるX線CTの活用	原町遺跡出土銅戈の三次元構造解析	今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）	7月14日	日本文化財科学会第25回大会
5	文化財調査におけるX線CTの活用	鷹島海底遺跡出土武具の分析調査	今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）	7月14日	日本文化財科学会第25回大会
6	文化財調査におけるX線CTの活用	X線CTスキャナを活用した千歳市梅川4A遺跡フレイク集中1の解析	今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）	7月14日	日本文化財科学会第25回大会
7	文化財調査におけるX線CTの活用	X線CTスキャナを活用した赤色漆塗櫛の構造と制作技法の調査	今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）	7月14日	日本文化財科学会第25回大会
8	文化財調査におけるX線CTの活用	X線CTスキャナを活用した中国古代青銅彝器の構造解析	今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）	7月14日	日本文化財科学会第25回大会
9	文化財調査におけるX線CTの活用	原町遺跡出土銅戈の三次元計測およびX線CTスキャニング解析	今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）	7月14日	日本文化財科学会第25回大会
10	文化財調査におけるX線CTの活用	X線CTスキャナによる今和泉島津家墓地出土品の科学的調査	今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）	7月14日	日本文化財科学会第25回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
11	文化財調査におけるX線CTの活用	X線CTスキャナによる今和泉島津家墓地出土品の科学的調査	今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）	7月14日	日本文化財科学会第25回大会
12	超高精細大容量画像の安全・ダイナミック表示総合システムの開発（科学技術振興機構　重点地域研究開発推進プログラム）	二条城障壁画の高精細デジタル画像化と画像データの色情報を用いた顔料推定	今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）	5月17日	文化財保存修復学会第30回大会
13	彩色水浸文物の保存科学的研究―中国江蘇省泗水王陵出土文物の保存―（科学研究費補助金）	中国江蘇省・泗水王陵発見水浸出土遺物の保存　５	今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）	5月17日	文化財保存修復学会第30回大会
14	トルキ山遼墓出土品から見た唐滅亡後の東アジアにおける工芸技術（科学研究費補助金）	内蒙古自治区吐爾基山遼墓出土彩色木棺の保存　１	今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）	5月17日	文化財保存修復学会第30回大会
15	VR画像を活用した日本装飾古墳デジタルアーカイブの構築（科学研究費補助金 基盤研究Ａ）	「VR画像を活用した装飾古墳デジタルアーカイブの構築」	河野一隆（学芸部企画課文化交流展示室長）・赤司善彦・武廣正純・天賀光広・村上浩明・池田朋生・丸林禎彦	5月17日・18日	文化財保存修復学会第30回記念大会特別セッション
16	VR画像を活用した日本装飾古墳デジタルアーカイブの構築（科学研究費補助金 基盤研究Ａ）	「VR画像を活用した装飾古墳の壁画保存・展示のためのデジタルアーカイブ」	河野一隆（学芸部企画課文化交流展示室長）・赤司善彦・武廣正純・天賀光広・村上浩明	6月14・15日	日本文化財科学会第25回大会
17	近世初期日本絵画における粉本使用例の基礎調査（科学研究費補助金）	「室町～江戸期における『北野天神縁起絵巻』の制作」	金井裕子（学芸部企画課文化交流展室研究員）	10月25日	北野天神縁起絵巻シンポジウム
18	近代工芸の美術史・産業史・地域史の基礎資料としての内国勧業博覧会出品作品の研究（科学研究費補助金）	第二回内国勧業博覧会の出品作ー博物館（現東京国立博物館）収集品からー	伊藤嘉章（学芸部企画課長）	6月8日	近代国際陶磁研究会

【東京文化財研究所】計42件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（17件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	日本の無形文化遺産の保護と普及	無形文化遺産部長 宮田繁幸	10月11日	富川世界無形文化遺産ＥＸＰＯ国際学術会議
2	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	日本の無形民俗文化財の映像記録事業	無形文化遺産部 主任研究員　俵木　悟	10月16日	韓国国立文化財研究所ワークショップ
3	東アジアの美術に関する資料学的研究	「国風文化論」再考のための試論	企画情報部研究員 皿井舞	5月28日	企画情報部研究会
4	東アジアの美術に関する資料学的研究	鬼子母神の源流をたずねる	情報システム研究室長 勝木言一郎	10月3日	第42回東京文化財研究所オープンレクチャー
5	東アジアの美術に関する資料学的研究	写真のなかの芸術家たち―黒田清輝を中心に	企画情報部長　田中淳	10月4日	第42回東京文化財研究所オープンレクチャー
6	近現代美術に関する総合的研究	五姓田派の位置―江戸と明治のはざまで	近・現代視覚芸術研究室長　山梨絵美子	9月14日	
7	近現代美術に関する総合的研究	失われゆくものの自覚―高橋由一、小林清親を中心に	近・現代視覚芸術研究室長　山梨絵美子	21年1月31日	
8	近現代美術に関する総合的研究	1920－40年代日本近代洋画における東洋美術の再評価	近・現代視覚芸術研究室長　山梨絵美子	21年3月25日	
9	美術の技法・材料に関する高領域的研究	天平の脱活乾漆技法をめぐる二、三の問題	文化財アーカイブス研究室長　津田徹英	9月2日	総合研究会
10	美術の技法・材料に関する高領域的研究	仏像の修理修復―サンフランシスコ・アジア美術館の脱活乾漆像をめぐって―	企画情報部研究員 皿井舞	12月7日	第32回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「“オリジナル”の行方―文化財アーカイブ構築のために」
11	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	黄緞と海気に関する歴史的研究	無形文化遺産部研究員 菊池理予	8月21日	第23回国際服飾学術会議
12	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	X線調査から判明した能管・龍笛の制法	無形文化遺産部室長 高桑いづみ	11月16日	東洋音楽学会第59回大会
13	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	「無形文化遺産としての工芸技術 - 染織分野を中心として - 」	無形文化遺産部研究員 菊池理予	12月2日	第3回総合研究会
14	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	古典芸能の伝承と変遷-人形浄瑠璃の場合	音声・映像記録研究室長 飯島　満	12月7日	第32回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会
15	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	能島村上家伝来横笛の歴史的意義	無形文化遺産部室長 高桑いづみ	12月14日	瀬戸内しまなみ大学「水軍講座」
16	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	日本の音声資料とSPレコードの五十年	音声・映像記録研究室長 飯島　満	12月16日	第3回無形文化遺産部公開学術講座

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
17	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	明治・大正・昭和の名人たち	無形文化遺産部室長 高桑いづみ	12月16日	第3回無形文化遺産部公開学術講座

○文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進（4件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	高精細デジタル画像の応用に関する調査研究	彦根屏風の表現について―日本絵画史の視点から	企画情報部研究員 江村知子	7月1日	総合研究会
2	高精細デジタル画像の応用に関する調査研究	光学的手法による彦根屏風の調査	画像情報室専門職員 城野誠治	7月1日	総合研究会
3	文化財の非破壊調査法の研究	国宝彦根屏風の彩色材料調査	分析科学研究室長 早川泰弘	6月14日・15日	日本文化財科学会第25回大会
4	文化財の非破壊調査法の研究	ハンディ型光学顕微鏡との組み合わせによる彩色材料の可視反射分光分析	保存修復科学センター主任研究員　吉田直人	6月14日・15日	日本文化財科学会第25回大会

○文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進（17件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財の生物劣化対策の研究	高松塚古墳発掘／石室解体作業に伴う取り合い部・断熱覆屋使用木材等の防カビ対策	生物科学研究室長　木川りか、客員研究員　間渕創	5月17日・18日	文化財保存修復学会第30回大会
2	文化財の生物劣化対策の研究	Foxingが発生した紙試料からの真菌の分離および代謝物の蛍光に関する報告	生物科学研究室長　木川りか、研究補佐員　吉川也志保	5月17日・18日	文化財保存修復学会第30回大会
3	文化財保存環境の研究	石水博物館千歳文庫内の温湿度解析	保存修復科学センター主任研究員　犬塚将英、保存修復科学センター長　石崎武志	5月17日・18日	文化財保存修復学会第30回大会
4	文化財保存環境の研究	展示・保存環境の酸性雰囲気改善のための研究―実測データに基づく解析―	客員研究員　呂俊民、保存科学研究室長　佐野千絵	5月17日・18日	文化財保存修復学会第30回大会
5	文化財保存環境の研究	ポーラ美術館における作品素材を用いた環境モニタリング	客員研究員　呂俊民、保存科学研究室長　佐野千絵　他	5月17日・18日	文化財保存修復学会第30回大会
6	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	臼杵磨崖仏における凍結破砕防止策の検討（３）―覆屋内温熱環境の予測と凍結防止策の提案―	保存修復科学センター研究員　森井順之	6月14日・15日	日本文化財科学会第25回大会
7	文化財の防災計画に関する調査研究	国指定文化財GISデータベースを用いた文化財の被害予測と災害レスキューへの活用	文化遺産国際協力センター主任研究員　二神葉子、保存修復科学センター研究員　森井順之、研究補佐員　高尾曜	5月17日	文化財保存修復学会第30回記念大会
8	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	Conservation Environment nad Conservation Studies for Stone Heritages in Japan	保存修復科学センター研究員　森井順之	9月29日	2008 International Symposium on Conservation Science for Cultural Hetirage
9	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	臼杵磨崖仏における凍結劣化防止策の検討―予測とその評価―	保存修復科学センター研究員　森井順之	11月6日	韓・日共同研究発表会「文化財保存環境と復元技術研究」
10	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	国宝・臼杵磨崖仏　覆屋建造後の環境計測	保存修復科学センター研究員　森井順之	11月18日	中日合作唐陵石刻保護項目2008年度学術検討会
11	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	Monitoring Methods for the Next Conservation Work at the Usuki Stone Buddha (Buddhist Images Carved on Natural Cliff)	保存修復科学センター研究員　森井順之	21年2月11日	Seminar on the Monitoring of Histric Sites in Borobudur Heritage Conservation Institute
12	伝統的修復材料および合成樹脂に関する調査研究	明治期修理における建築塗装の一方法	伝統技術研究室長 北野信彦	5月17日	文化財保存修復学会
13	伝統的修復材料および合成樹脂に関する調査研究	輸入漆の流通と使用	伝統技術研究室長 北野信彦	11月27日	第2回伝統的修復材料及び合成樹脂に関する研究会
14	伝統的修復材料および合成樹脂に関する調査研究	漆を通じてみた日本と海外の交流	伝統技術研究室長 北野信彦	11月27日	第2回伝統的修復材料及び合成樹脂に関する研究会
15	近代の文化遺産の保存修復に関する研究	劣化したシアノタイプの修復―紫外線によるシアノタイプ	保存修復科学センター任期付研究員　坪倉早智	5月18日	文化財保存修復学会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
		の劣化・再発色実験―	子、研究員　加藤雅人、近代文化遺産研究室長　中山俊介		
16	近代の文化遺産の保存修復に関する研究	鉄構造物の保存と修復	近代文化遺産研究室長　中山俊介	11月21日	近代の文化遺産の保存修復に関する研究会
17	近代の文化遺産の保存修復に関する研究	近代化遺産の保存と活用	近代文化遺産研究室長　中山俊介	21年2月28日	シンポジウム「日本の技術史を見る眼」第27回

○文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力及び国際共同研究（4件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査研究	表面に微生物が繁茂した石材の表面風化状況について	文化遺産国際協力センター主任研究員　朽津信明	10月30・31日	日本応用地質学会平成20年度研究発表会
2	アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査研究	スコータイ遺跡における仏像の保存に関する研究周辺気象の計測と藻の繁茂状況	客員研究員　鉾井修一、客員研究員　小椋大輔、特別研究員　宇野朋子	9月	日本建築学会大会
3	アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査研究	飯田市・文永寺石室五輪塔における蘚苔類の繁茂について	文化遺産国際協力センター主任研究員　朽津信明、文化遺産国際協力センター主任研究員　二神葉子	6月14・15日	日本文化財科学会第25回大会
4	敦煌壁画の保護に関する共同研究	敦煌莫高窟第285窟壁画に使用された彩色材料の非破壊分析	客員研究員　高林弘実	5月17日	文化財保存修復学会第30回大会

【奈良文化財研究所】計65件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（26件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化的景観に関する調査研究	世界遺産と文化的景観	惠谷浩子（特別研究員）	12月19日	京都市文化史民局主催「世界遺産登録における現状と今後」についての勉強会
2	文化的景観に関する調査研究	四万十川流域の文化的景観	惠谷浩子（特別研究員）	21年2月21日	文化的景観研究集会（第１回）
3	文化的景観に関する調査研究	重要文化的景観としての森林	平澤　毅（遺跡整備研究室長）	21年3月27日	第120回日本森林学会大会
4	文化的景観に関する調査研究	「四万十川流域の文化的景観」における林業の評価	惠谷浩子（特別研究員）	21年3月27日	第120回日本森林学会大会
5	古都所在寺社の歴史資料等に関する調査研究	東大寺大勧進文書集	吉川　聡（歴史研究室長）	21年1月28日	奈良文化財研究所第19回総合研究会
6	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	古代の寄棟造構造と加守廃寺六角堂　加守廃寺六角堂復元研究その２	清水重敦（主任研究員）	9月18日	日本建築学会
7	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	朝鮮総督府建造物修理事業史研究のアクチュアリティー	清水重敦（主任研究員）	10月26日	朝鮮史研究会
8	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	都市の全体性からみた伝建地区保全のあり方	清水重敦（主任研究員）	11月6日	伝統的建造物群保護行政研修会（実践コース）
9	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	更新のオーセンティシティ－木造建築におけるオリジナル	清水重敦（主任研究員）	12月7日	東京文化財研究所国際研究集会“オリジナル”の行方－ 文化財アーカイブ構築のために－
10	藤原宮跡朝堂院地区の発掘調査	藤原宮跡の調査	小田裕樹（研究員）	21年3月8日	条里制・古代都市研究会大会
11	甘樫丘東麓遺跡の発掘調査	奈良県明日香村甘樫丘東麓遺跡の調査概要	豊島直博（研究員）	10月11日	考古学研究会岡山例会
12	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	日本古代寺院の調査成果－本薬師寺・山田寺の調査成果と現存する木造塔の構造を中心に－	箱崎和久（主任研究員） 高田貫太（研究員）	12月11日	国立慶州文化財研究所主催学術シンポジウム「新羅護国の念願　四天王寺」
13	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	藤原宮大極殿院の地鎮遺構	高田貫太（研究員）	21年2月7日	出土銭貨報告会
14	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究	泉屋博古館収蔵（住友収集）陶笵的初歩研究	丹羽崇史（研究員）	10月31日	世界文化遺産殷墟考古発掘80周年記念活動暨考古与文化遺産論壇
15	庭園に関する調査研究	藤原宮の儀式・政治空間としての庭	内田和伸（景観研究室長）	9月13日	日本庭園学会関西研究会
16	庭園に関する調査研究	宮殿・苑地配置の思想的背景	内田和伸（景観研究室長）	10月31日	古代庭園研究会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
17	庭園に関する調査研究	藤原宮の儀式・政治空間としての庭	内田和伸(景観研究室長)	21年2月8日	日本庭園学会シンポジウム
18	庭園に関する調査研究	洋風庭園と日本近代	粟野隆(研究員)	10月25日	奈良文化財研究所公開講演会
19	遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究	文化遺産の保護の歩みと整備・活用をめぐる近年の動向	平澤　毅（遺跡整備研究室長）	10月3日	平成20年度兵庫県埋蔵文化財調査成果報告会
20	遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究	名勝地としての文化財庭園	平澤　毅（遺跡整備研究室長）	10月4日	第5回 文化財庭園フォーラム
21	遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究	洋風庭園と日本近代	粟野隆(研究員)	10月25日	奈良文化財研究所 第103回公開講演会
22	遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究	文化財としての景観	平澤　毅（遺跡整備研究室長）	12月9日	平成20年度鳥取県文化財保護行政担当者会議
23	遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究	世界遺産委員会における近年の動向～遺産の評価・登録と保全状況のモニタリングをめぐって～	平澤　毅（遺跡整備研究室長）	12月19日	京都市文化史民局主催「世界遺産登録における現状と今後」についての勉強会
24	遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究	研究集会開催趣旨及び『遺構露出展示に関する調査研究』について	平澤　毅（遺跡整備研究室長）	21年1月30日	平成20年度遺跡整備・保存修復科学合同研究集会
25	遺構の安定した公開・展示を行うことを目的とした事前調査法、保存技術並びに監視技術の開発的研究	高松塚古墳石室解体におけるアコースティックエミッション法の応用	高妻洋成（保存修復科学研究室長）	6月14日	日本文化財科学会
26	遺構の安定した公開・展示を行うことを目的とした事前調査法、保存技術並びに監視技術の開発的研究	新規に開発された石造文化財の撥水処理剤に関する研究	脇谷草一郎(特別研究員)	6月14日	日本文化財科学会

○文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進（31件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	遺跡データベースの作成と公開	奈良に都があった頃の遠江と地方の役所	山中敏史(文化遺産部長)	10月26日	文化財シンポジウム伊場木簡から古代史を探る（浜松市）
2	遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法の研究	薩摩焼の生まれたところ―苗代川窯における物理探査―	金田明大(主任研究員)	4月14日	日本文化財科学会
3	遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法の研究	茨城県瓦塚遺跡の探査成果統合	金田明大(主任研究員)・西村康(客員研究員)・西口和彦(客員研究員)	4月22日	日本文化財探査学会
4	遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法の研究	考古学研究・埋蔵文化財保護に物理探査を役立たせるために	金田明大(主任研究員)	10月23日	社団法人物理探査学会
5	遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法の研究	フーリエ記述子を用いた型式論への接近	金田明大(主任研究員)	21年1月29日	奈良文化財研究所総合研究会
6	遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法の研究	日本における文化財へのGIS利用	金田明大(主任研究員)	21年1月29日	文化財GIS国際会議
7	年輪年代学研究	Non-destructive dendrochronological study for wooden statues housed in Ritto History Museum, Japan.	Takayuki Okochi（主任研究員), Takumi Mitsutani（客員研究員）	5月28日～6月1日	EuroDendro2008, Hallstatt, Austria
8	年輪年代学研究	Dendrochronological study of an excavated wooden well in the Saidaiji temple	Jun Obayashi（遺構研究室研究員), Takayuki Okochi（主任研究員）	5月28日～6月1日	EuroDendro2008, Hallstatt, Austria
9	年輪年代学研究	Species and tree ring analysis of wooden historic building in Taima-dera Buddhist Temple, Nara, Japan	Hiroki Fujii（客員研究員), Yasuo Takeguchi（奈良県文化財保存事務所）	5月28日～6月1日	EuroDendro2008, Hallstatt, Austria
10	年輪年代学研究	マイクロフォーカスX線CTによる池口寺木造菩薩形立像の非破壊年輪年代測定	大河内隆之（主任研究員), 光谷拓実（客員研究員）	6月14日～15日	文化財科学会第25回大会, 鹿児島国際大学
11	年輪年代学研究	岐阜県飛騨地方におけるブナ材製民具の年輪年代測定	星野安治（東北大学研究支援者), 大河内隆之(主任研究員), 光谷拓実(客員研究員)	6月14日～15日	文化財科学会第25回大会, 鹿児島国際大学
12	年輪年代学研究	日本産ツガ属の年輪年代法測定―近世建造物における試み―	藤井裕之（客員研究員), 竹口泰生（奈良県文化財保存事務所）	6月14日～15日	文化財科学会第25回大会, 鹿児島国際大学

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
13	年輪年代学研究	日本産樹木年輪試料の炭素14年代を用いた弥生時代後期から古墳時代初期の暦年較正	尾嵜大真（国立歴史民俗博物館），藤尾慎一郎（国立歴史民俗博物館教授），小林謙一（中央大学文学部准教授），春成秀爾（国立歴史民俗博物館），今村峯雄（国立歴史民俗博物館），西本豊弘（国立歴史民俗博物館教授），松崎浩之（東京大学大学院），中村俊夫（名古屋大学年代測定総合研究センター），光谷拓実（客員研究員）	6月14日～15日	文化財科学会第25回大会，鹿児島国際大学
14	年輪年代学研究	弥生時代を網羅する日本版炭素14年代較正曲線の構築	尾嵜大真（国立歴史民俗博物館），坂本稔（国立歴史民俗博物館准教授），今村峯雄（国立歴史民俗博物館），松崎浩之（東京大学大学院），中村俊夫（名古屋大学年代測定総合研究センター），小林紘一（（株）パレオ・ラボ），伊藤茂（（株）パレオ・ラボ），丹生越子（(株)パレオ・ラボ），光谷拓実（客員研究員）	6月14日～15日	文化財科学会第25回大会，鹿児島国際大学
15	年輪年代学研究	長野県池口寺薬師堂および木彫仏の年輪年代調査	光谷拓実（客員研究員）	9月23日	国際シンポジウム「文化財の解析と保存への新しいアプローチⅤ」，早稲田大学
16	環境考古学研究	Shell midden research in Japan and Korea：a personal view	松井章（環境考古学研究室長）	4月9日	Shell Energy Prehistoric Coastal Resource Strategies（セネガル）
17	環境考古学研究	卑弥呼は何を食べていたか	松井章（環境考古学研究室長）	5月24日	稲の来た道と卑弥呼の食卓（奈良県立図書情報館）
18	環境考古学研究	考古学から見た太鼓	松井章（環境考古学研究室長）	5月25日	太鼓から見る近世社会（大阪人権博物館）
19	環境考古学研究	The excavation of Higashimyo wetland site, buried by the transgression at 7000 BP	松井章（環境考古学研究室長）	6月30日	世界考古学会議（ダブリン）
20	環境考古学研究	考古学から見た動物の利用	松井章（環境考古学研究室長）	7月6日	第６回考古学と中世史シンポジウム（帝京大学山梨文化財研究所）
21	環境考古学研究	海外の貝塚研究―北欧、北米、西アフリカからの視点―	松井章（環境考古学研究室長）	10月4日	日本の貝塚・世界の貝塚（明治大学学術フロンティア推進事業部）
22	環境考古学研究	出土品から見た薩摩藩の動物利用	松井章（環境考古学研究室長）	10月11日	鹿児島県黎明館講演会（鹿児島県歴史資料センター黎明館）
23	環境考古学研究	湿地遺跡が語るもの―世界の中の東名遺跡―	松井章（環境考古学研究室長）	10月26日	有明の海と縄文人－ 東名遺跡が語るもの（佐賀市教育委員会）
24	環境考古学研究	人は何を食べてきたか？―考古学が明らかにする食文化―	松井章（環境考古学研究室長）	11月22日	奈良県栄養士会20周年記念講演会（奈良県栄養士会）
25	環境考古学研究	人骨・獣骨の安定同位体分析	南川雅男（北海道大学教授），松井章（環境考古学研究室長）	11月24日	河姆渡文化期の環境と生業（金沢大学）
26	環境考古学研究	里山の形成・縄紋集落の景観から	松井章（環境考古学研究室長）	11月30日	第53回プリマーテス研究会（日本モンキーセンター）
27	環境考古学研究	モンゴルにおける屠殺法オルルフによる動物解体	山崎健（研究員），ビシガーバンザラガチ（名古屋大学大学院生）	11月29日	動物考古学研究集会（島根県埋蔵文化財センター）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
28	環境考古学研究	愛知県朝日遺跡における動物資源利用	山崎健（研究員）	8月23日	近江貝塚研究会（滋賀県埋蔵文化財センター）
29	環境考古学研究	考古学における家畜の議論と標本	山崎健（研究員）	9月13日	日本哺乳類学会（山口大学）
30	環境考古学研究	ジャコウネズミの移入と分布に関する古記録の検討	山崎健（研究員），織田銑一（名古屋大学大学院生）	9月13日	日本哺乳類学会（山口大学）
31	環境考古学研究	弥生時代における漁撈と狩猟―伊勢湾奥部を事例として―	山崎健（研究員）	11月8日	考古学協会（南山大学）

○文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進（8件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	絹製文化財の劣化に関する研究	銅の影響を受けた絹製文化財の研究	佐藤昌憲(客員研究員)	5月18日	文化財保存修復学会
2	絹製文化財の劣化に関する研究	江戸末期における雛人形の頭髪に使用された黒染め生糸の劣化および保存に関する研究Ⅱ	佐藤昌憲(客員研究員)	5月18日	文化財保存修復学会
3	繊維試料の材質調査法に関する研究	藕糸に関する基礎調査	佐藤昌憲(客員研究員)	5月18日	文化財保存修復学会
4	考古遺物の劣化に関する研究	高松古墳発掘／石室解体作業に伴う取合部・断熱覆屋使用木材等の防カビ対策：DDACの検討と施工	高妻洋成(保存修復科学研究室長)	5月18日	文化財保存修復学会
5	超臨界溶媒乾燥法に関する研究	リグノフェノールを用いた出土木材の保存処理Ⅳ―超臨界二酸化炭素を用いた乾燥―	高妻洋成(保存修復科学研究室長)	6月14日	日本文化財科学会
6	出土繊維資料の材質調査法に関する研究	シンクロトロン顕微赤外分光法を応用した出土繊維資料の材質調査に関する基礎的研究	佐藤昌憲(客員研究員)	6月14日	日本文化財科学会
7	出土絹製遺物の材質調査法に関する研究	出土絹製遺物の顕微赤外分析による研究Ⅱ	佐藤昌憲(客員研究員)	6月14日	日本文化財科学会
8	施釉陶器および瓦の化学組成および結晶構造に関する研究	平城京跡出土三彩・緑釉陶器と緑釉瓦の自然科学的分析	降幡順子(主任研究員)	6月14日	日本文化財科学会

【東京文化財研究所と奈良文化財研究所との共同研究】計1件

○文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力及び国際共同研究（1件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	カンボジア・アンコール遺跡群の西トップ寺院遺跡の建築史的、考古学的、保存科学的調査	Preliminary report on archaeological excavation at Western Prasat Top, Angkor (8th mission)	石村智(研究員)	6月2日～3日	アンコール遺跡保護開発国際調整委員会

④論文等発表実績一覧

国立文化財機構	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
246件	110件	68件	20件	16件	6件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	136件	36件	96件	4件	

【東京国立博物館】　68件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	浅見龍介（学芸企画部企画課出版企画室長）	『禅宗の彫刻』	日本の美術507	至文堂	8月	無
2	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	浅見龍介（学芸企画部企画課出版企画室長）	「六祖慧能図」	『水墨画・墨蹟の魅力』	吉川弘文館	9月	無
3	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	猪熊兼樹（学芸研究部列品管理課貸与特別観覧室研究員）	有職文様	日本の美術　509号	至文堂	9月	無
4	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	猪熊兼樹（学芸研究部列品管理課貸与特別観覧室研究員）	奈良平安時代の儀仗剣	國華　1353号	國華社	7月	無
5	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	今井敦(学芸研究部調査研究課東洋室長)	「《新収品紹介》色絵翡翠文平鉢」	『MUSEUM』第616号	東京国立博物館	10月15日	有
6	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	植田彩芳子（学芸企画部企画課特別展室任期付研究員）	「展評　「没後五十年横山大観――新たなる伝説へ」展によせて」	LOTUS　日本フェノロサ学会機関誌　２８号	日本フェノロサ学会	6月	無
7	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	沖松健次郎(企画課出版企画室主任研究員)	「研究ノート　孔雀明王の倶縁果をめぐって」	MUSEUM618号	東京国立博物館	21年2月15日	有
8	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	加島勝（学芸企画部博物館教育課長）	中尊寺金色堂三壇の成立について	特別展『平泉　みちのくの浄土』展覧会図録	NHK仙台放送局・NHKプラネット東北	11月14日	無
9	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	加島勝（学芸企画部博物館教育課長）	勇壮にして華麗―平等院の金工	別冊太陽『平等院　王朝の美　国宝鳳凰堂の仏後壁』	平凡社	21年2月23日	無
10	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	加島勝（学芸企画部博物館教育課長）	上東門院彰子埋納の金銀鍍宝相華唐草文経箱をめぐる二、三の問題	仏教美術研究上野財団助成研究会報告書第36冊『研究発表と座談会　摂関期にみる美術の諸相』	仏教美術研究上野財団助成研究会	21年3月31日	無
11	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	加島勝（学芸企画部博物館教育課長）	仏教工芸	『新横須賀市史　別編文化遺産』	横須賀市	21年3月31日	無
12	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	救仁郷秀明（学芸企画部企画課特別展室長）	書斎考	水墨画・墨蹟の魅力	吉川弘文館	10月10日	無
13	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	救仁郷秀明(学芸企画部企画課特別展室長)	書斎考	水墨画・墨蹟の魅力	吉川弘文館	10月10日	無
14	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	小山弓弦葉（学芸研究部調査研究課主任研究員）	「海を渡った『江戸解』『御所解』―流転する武家女性の小袖―」	「江戸と明治の華―皇室侍医ベルツ博士の眼―」展覧会図録	大広	4月25日	無
15	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	小山弓弦葉（学芸研究部調査研究課主任研究員）	「秀吉ブランド考―伝えられた菊桐紋―」	企画展示「[染]と[織]の肖像―日本と韓国・守り伝えられた染織品」展覧会図録	国立歴史民俗博物館	10月15日	無
16	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	沢田むつ代（上席研究員）	古墳出土の鉄刀・鉄剣の柄巻きと鞘巻き―織物などの種類と仕様―	『MUSEUM』第617号	東京国立博物館	12月15日	有
17	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	竹内奈美子（学芸企画部企画課特別展室主任研究員）	蒔絵香合の計測的調査・研究―手箱内容品を基準として―	茶道文化学術助成研究報告書	財団法人三徳庵	6月1日	無
18	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	竹内奈美子（学芸企画部企画課特別展室主任研究員）	五十嵐作「蓮池蒔絵舎利厨子」の制作年	MUSEUM　615号	東京国立博物館	8月15日	有
19	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	竹内奈美子（学芸企画部企画課特別展室主任研究員）	三つの秋野蒔絵硯箱	日本美術史の杜　村重寧先生・星山晋也先生古稀記念論文集	竹林舎	9月2日	無
20	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	竹内奈美子（学芸企画部企画課特別展室主任研究員）	描くことと作ること 琳派と漆芸	特別展「大琳派展」展覧会図録	東京国立博物館	10月7日	無
21	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	富田淳（学芸研究部調査研究課長）	王羲之傑作の残影～蘭亭八柱第三本(馮承素本)に寄せて～	『北京故宮書の名宝展』	毎日新聞社・NHK・MHKﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ	7月15日	無
22	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	富田淳（学芸研究部調査研究課長）	真賞斎コレクション	『北京故宮書の名宝展』	毎日新聞社・NHK・MHKﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ	7月15日	無
23	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	古谷毅（学芸研究部調査研究課工芸･考古室長）	総論・古墳時代金属製甲冑研究の新段階	月刊考古学ジャーナル、第581号	ニューサイエンス社	21年1月30日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
24	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	松本伸之（学芸企画部長）	「中国の文房具－文房四宝を中心に」	日本の美術№504『文人の書』	至文堂	5月10日	無
25	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	日高慎（学芸研究部保存修復課主任研究員）	稲荷山遺跡出土七星剣考	『博古研究』35, pp.9-20	博古研究会	4月30日	有
26	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	日高慎（学芸研究部保存修復課主任研究員）	人物埴輪の東西比較－論点の抽出－	『埴輪研究会誌』12, pp.19-37	埴輪研究会	5月24日	無
27	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	日高慎（学芸研究部保存修復課主任研究員）	静岡市杉ノ畷古墳出土木棺の研究	『MUSEUM』614, pp.5-25	東京国立博物館	6月15日	有
28	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	日高慎（学芸研究部保存修復課主任研究員）	山形市衛守塚2号墳の研究	『MUSEUM』616, pp.7-35	東京国立博物館	10月15日	有
29	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	原田一敏（上席研究員）	経筒の制作と地域性	経筒が語る中世の世界	思文閣出版	5月30日	無
30	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	原田一敏（上席研究員）	自在置物－本物のように自由に動かせる蛇や昆虫－	特集陳列「自在置物」	東京国立博物館	11月18日	無
31	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	原田一敏（上席研究員）	仏教と金	黄金の国ジパング	国立科学博物館	7月12日	無
32	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	谷豊信（学芸研究部列品管理課長）	東京国立博物館所蔵の半両銭・五銖銭三点---石范と銅笵の製作に関する研究ノート---	『MUSEUM』第614号	東京国立博物館	6月15日	有
33	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	谷豊信（学芸研究部列品管理課長）	饕餮文瓿	『國華』第1354号	國華社	8月20日	無
34	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	谷豊信（学芸研究部列品管理課長）	漢代製陶業に関する研究ノート	『中国考古学』第＝合	日本中国考古学会	11月22日	有
35	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	松嶋雅人（学芸研究部列品管理課平常展調整室主任研究員）	其一の止まる時間	特別展「大琳派展」展覧会図録	東京国立博物館	10月7日	無
36	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	神辺知加（学芸企画部教育講座室研究員）	阿修羅像、東京初出展	「国宝　阿修羅展」展覧会図録	朝日新聞社	21年 3月31日	無
37	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	田沢裕賀（学芸研究部調査研究課 絵画･彫刻室長）	琳派　継承と変奏の美―三つの時代・六人の芸術家	特別展「大琳派展」展覧会図録	東京国立博物館	10月7日	無
38	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	田沢裕賀（学芸研究部調査研究課 絵画･彫刻室長）	雨夜の宮詣他	『日本美術史ハンドブック』	新書館	21年 3月10日	無
39	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	川村佳男（学芸研究部調査研究課東洋室研究員）	Spread of Lead-Glaze Technique during the Han Dynasty	09古陶瓷科学技術国際討論会論文集	上海科学技术文献出版社	21年 2年1日	有
40	ガンダーラの仏教寺院の伽藍配置と遺物に関する研究	小泉惠英 （学芸研究部列品管理課平常展調整室長）	Zar Dheri: A Buddhist Temple in Hazara Division, Pakistan	*Orientations*, vol. 39, no. 7, October 2008	Orientations Magazine Ltd.	10月1日	無
41	ガンダーラの仏教寺院の伽藍配置と遺物に関する研究	小泉惠英 （学芸研究部列品管理課平常展調整室長）	The finds from Zar Dheri	*Gandhara - The Buddhist Heritage of Pakistan - Legend, Monasteries, and Paradise*	Verlag Philipp von Zabern, Mainz	11月20日	無
42	東京国立博物館所蔵古文書データベース	髙梨真行（学芸研究部調査研究課書跡・歴室室研究員）	東京国立博物館所蔵徳川家康書状(はりま殿宛)―自署「大ふ」の表記をめぐって―	『MUSEUM6』613	東京国立博物館	4月	有
43	博物館の環境保存に関する研究	神庭信幸（学芸研究部保存修復課長）、塚田全彦（学芸研究部保存修復課室長）、和田浩（学芸研究部保存修復課環境保存室研究員）	収蔵庫内の空気成分に関する長期的なモニタリング	文化財保存修復学会第30回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	5月17日	有
44	大型油彩画のロール状保存と木枠に張り込まない展示手法の開発に関する調査研究	神庭信幸（学芸研究部保存修復課長）、土屋裕子（学芸研究部保存修復課主任研究員）	簡易万能太巻き芯の活用―博物館における対症修理―	文化財保存修復学会第31回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	5月18日	有
45	館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究	田良島哲（学芸研究部列品管理課登録室長）	「世界への扉―東京国立博物館の洋書コレクション―」	特集陳列リーフレット	東京国立博物館	11月28日	無
46	金沢北条氏領下総国下河辺庄の総合的研究	髙梨真行（学芸研究部調査研究課書跡・歴室室研究員）	中近世移行期の戸張氏―市域の在地領主層の動向と変遷	『市史編さんだより』15	吉川市教育委員会	10月	無
47	書画料紙の加工法及び保存に関する基礎的研究	島谷弘幸(学芸研究部長)	文人の書	『日本の美術』504号	至文堂	5月10日	無
48	書画料紙の加工法及び保存に関する基礎的研究	島谷弘幸(学芸研究部長)	Historische personlichkeiten um den Daigo-ji	「聖なる山の寺宝(醍醐寺展)」展覧会図録	ドイツ連邦共和国美術展示館	4月	無
49	書画料紙の加工法及び保存に関する基礎的研究	島谷弘幸(学芸研究部長)	道風・行成の国宝白氏詩巻－和様の名品	正木美術館四十周年記念展　「禅・茶・花」展覧会図録	財団法人正木美術館	9月22日	無
50	書画料紙の加工法及び保存に関する基礎的研究	富田淳（学芸研究部調査研究課長）	黄道周筆「草書撃蛇笏銘并序巻」について	『三の丸尚蔵館年報・紀要』第13号	宮内庁三の丸尚蔵館	10月1日	無
51	書画料紙の加工法及び保存に関する基礎的研究	丸山猶計（学芸企画部企画課特別展室研究員）	「近世前期妙心寺派墨蹟の特色」	特別展図録『妙心寺』	東京国立博物館・京都国立博物館・読売新聞	21年 1月20日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
52	書画料紙の加工法及び保存に関する基礎的研究	高橋裕次（学芸企画部博物館情報課長）	「料紙よりみた白河結城家文書について」	村井章介編『中世東国武家文書の研究―白河結城家文書の成立と伝来―』	高志書院	5月25日	無
53	書画料紙の加工法及び保存に関する基礎的研究	高橋裕次（学芸企画部博物館情報課長）	「光悦と宗達下絵料紙」	『特別展　大琳派展』図録	東京国立博物館	10月7日	無
54	東京国立博物館所蔵古文書データベース	丸山猶計（学芸企画部企画課特別展室研究員）	当館蔵「画家手簡帖（B-1374）」の調査と翻刻（その１）	図版目録『画家の手紙（一）』	東京国立博物館	21年 2月3日	無
55	博物館環境デザインに関する調査研究	木下史青（学芸企画部企画課デザイン室長）	『東京国立博物館の展示デザイン　－見やすい展示・居心地のよい展示室のために』	日本写真学会誌　第71巻 第2号 解説	社団法人日本写真学会	4月	無
56	博物館環境デザインに関する調査研究	木下史青（学芸企画部企画課デザイン室長）	『博物館はワンダーランド』	SCREENPLAY[ナイトミュージアム]コラム	㈱フォーイン	8月20日	無
57	博物館環境デザインに関する調査研究	木下史青（学芸企画部企画課デザイン室長）	『日光・月光両菩薩像の展示－展示デザイナーとして考えたこと』	「薬師寺」第156号	薬師寺	7月31日	無
58	博物館環境デザインに関する調査研究	木下史青（学芸企画部企画課デザイン室長）	「変わり続ける展示照明技術と、博物館・美術館が示すべき普遍性について」	「紫明」第二十四號	紫明の会 （丹波古陶館･能楽資料館友の会）	21年3月	無
59	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	村田良二（学芸企画部博物館情報課情報管理室）	ミュージアム資料情報のモデルと博物館業務支援システムの開発	画像電子学会第36回年次大会発表要旨	画像電子学会	6月21日	無
60	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	村田良二（学芸企画部博物館情報課情報管理室）	東京国立博物館における収蔵品管理システムの開発	情報処理学会研究報告 2008-DD-68	情報処理学会	9月26日	無
61	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	村田良二（博物館情報課情報管理室）	ミュージアム資料情報のモデルと博物館業務支援システムの開発	画像電子学会第36回年次大会発表要旨	画像電子学会	6月21日	無
62	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	村田良二（博物館情報課情報管理室）	東京国立博物館における収蔵品管理システムの開発	情報処理学会研究報告 2008-DD-68	情報処理学会	9月26日	無
63	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	田良島哲（学芸研究部列品管理課登録室長）	博物館資料と情報処理	『新訂 博物館資料論』（放送大学テキスト）	放送大学教育振興会	9月	無
64	博物館美術教育に関する調査研究	鈴木みどり（学芸企画部博物館教育課教育普及室主任研究員）	東京国立博物館の教育普及事業－平常陳列を念頭においてー	韓国国立中央博物館博物館教育国際シンポジウム『The role and prospect of exhibition related education program』発表要旨	韓国国立中央博物館	10月1日 ～2日	無
65	文化財の恒久的保存と持続的公開を具現化する博物館トータルケアシステムの構築	神庭信幸（学芸研究部保存修復課長）	Transportation of Cultural Properties	Preprints of the ISTA China, Packing Symposium	ISTA China	11月20日	有
66	文化財の恒久的保存と持続的公開を具現化する博物館トータルケアシステムの構築	神庭信幸（学芸研究部保存修復課長）	臨床保存学について	博物館への挑戦ー何がどこまでできたのかー	三好企画	21年1月	無
67	文化財の恒久的保存と持続的公開を具現化する博物館トータルケアシステムの構築	神庭信幸（学芸研究部保存修復課長）、塚田全彦（学芸研究部保存修復課室長）、和田浩（学芸研究部保存修復課環境保存室研究員）	MEASUREMENT AND ANALYSIS OF THE GLOBAL TRANSPORT ENVIRONMENT FOR PACKING CASES FOR ARTIFACTS	Preprints of the IIC London Congress 2008: Conservation and Access	International Institute of Conservation	9月16日	有
68	日本における木彫像の樹種と用材観に関する調査研究	金子啓明（特任研究員）	日本の木彫像の樹種と用材観	『木の文化と科学』	海青社	4月30日	無

【京都国立博物館】　20件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	日本における木の造形的表現とその文化的背景に関する総合的考察（科学研究費補助金）（京都）	主任研究員　　淺湫　毅	「八坂神社西楼門の随身倚像―近世彫刻の諸相　２―」	『学叢』第３０号	京都国立博物館	5月20日	無
2	近世絵画に関する調査研究（客員研究員）（京都）	山下善也（連携協力室長）	作品解説	特別展覧会『絵画の冒険者　暁斎 Kyosai』図録	京都国立博物館	4月	無
3	訓点資料としての典籍に関する調査研究（客員研究員）（京都）	赤尾栄慶（企画室長）	「七寺一切経にみる経軸の意匠の相違について」　学術フロンティア「奈良平安古写経研究拠点の形成」ニュースレター	『いとくら』第3号	国際仏教学大学院大学	21年1月	無
4	訓点資料としての典籍に関する調査研究（客員研究員）（京都）	赤尾栄慶（企画室長）	「書と本のカタチから見た国宝『三十帖冊子』の世界」	新版古寺巡礼京都22『仁和寺』	淡交社	6月	無
5	訓点資料としての典籍に関する調査研究（客員研究員）（京都）	赤尾栄慶（企画室長）	「漢籍善本紹介―京都国立博物館（2）―」	『新しい漢字漢文教育』第47号	全国漢文教育学会	11月	無
6	訓点資料としての典籍に関する調査研究（客員研究員）（京都）	赤尾栄慶（企画室長）	「大覚寺の般若心経―天皇と貴紳の祈り」	新版古寺巡礼京都28『大覚寺』	淡交社	12月	無
7	彫刻に関する調査研究	淺湫毅（主任研究員）	「増上寺三解脱門の釈迦三尊像および十六羅漢像について　―近世彫刻の諸相　１―」	『学叢』３０	京都国立博物館	5月20日	無
8	彫刻に関する調査研究	淺湫毅（主任研究員）	「定朝第三世代の作風に関する一試論」	『鳳翔学叢』５	平等院	21年3月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
9	妙心寺本坊、塔頭（麟祥院及び衡梅院）に所蔵されている文化財の調査研究により、特別展覧会「妙心寺展」（仮称）の開催に反映する。（京都）	羽田聡（研究員）	作品解説、妙心寺の古文書	特別展覧会『妙心寺』図録	東京国立博物館、京都国立博物館、読売新聞社	21年1月	無
10	妙心寺本坊、塔頭（麟祥院及び衡梅院）に所蔵されている文化財の調査研究により、特別展覧会「妙心寺展」（仮称）の開催に反映する。（京都）	羽田聡（研究員）	「京都国立博物館所蔵「花園天皇宸翰消息」について」	『学叢』第３０号	京都国立博物館	5月	無
11	妙心寺本坊、塔頭（麟祥院及び衡梅院）に所蔵されている文化財の調査研究により、特別展覧会「妙心寺展」（仮称）の開催に反映する。（京都）	淺湫毅（保存修理指導室）	「ふたつの棄丸坐像－天正十九年の豊臣秀吉－」	特別展覧会『妙心寺』図録	東京国立博物館、京都国立博物館、読売新聞社	21年1月	無
12	妙心寺本坊、塔頭（麟祥院及び衡梅院）に所蔵されている文化財の調査研究により、特別展覧会「妙心寺展」（仮称）の開催に反映する。（京都）	久保智康（工芸室長）	「唐物銅器とその「和様化」」－妙心寺伝来仏具を中心に－」	特別展覧会『妙心寺』図録	東京国立博物館、京都国立博物館、読売新聞社	21年1月	無
13	妙心寺本坊、塔頭（麟祥院及び衡梅院）に所蔵されている文化財の調査研究により、特別展覧会「妙心寺展」（仮称）の開催に反映する。（京都）	山下善也（連携協力室長）	「妙心寺屏風、友松・山楽絵画の輝き	特別展覧会『妙心寺』図録	東京国立博物館、京都国立博物館、読売新聞社	21年1月	無
14	妙心寺本坊、塔頭（麟祥院及び衡梅院）に所蔵されている文化財の調査研究により、特別展覧会「妙心寺展」（仮称）の開催に反映する。（京都）	山本英男（美術室長）	「妙心寺と狩野元信」	特別展覧会『妙心寺』図録	東京国立博物館、京都国立博物館、読売新聞社	21年1月	無
15	輸出漆器に関する調査研究により、特別展覧会「japan蒔絵－宮殿を飾る 東洋の燦めき－」の開催に反映する。（京都）	永島明子（主任研究員）	作品解説	特別展覧会『japan蒔絵－宮殿を飾る　東洋の燦めき－』図録	京都国立博物館	10月	無
16	宸翰（天皇の書）の歴史学的見地からみた調査・研究	羽田聡（研究員）	「紙背に経典の書写された和歌懐紙」	『年報三田中世史研究』第１５号	三田中世史研究会	10月	無
17	宸翰（天皇の書）の歴史学的見地からみた調査・研究	羽田聡（研究員）	「売立目録と近世天皇の宸翰」	特別展覧会『京都御所ゆかりの至宝－甦る宮廷文化の美－』図録	京都国立博物館	21年1月	無
18	中・近世の金属工芸品の制作と受用にみる江南、嶺・湖南、瀬戸内の地域特質と相互文化認識、交流媒体の研究	淺湫毅（主任研究員）	新安沈船に積載された金属工芸品―その性格と新安船の回航性をめぐって―	九州と東アジアの考古学―九州大学考古学研究室50周年記念論文集―	同刊行会	5月31日	無
19	『京都御所ゆかりの至宝』展にともなう調査研究	尾野善裕（主任研究員）	異国趣味の茶道具－桂宮家別荘の座敷飾り－	特別展覧会『京都御所の至宝－甦る宮廷文化の美－』図録	京都新聞社・NHK・NHKプラネット	21年1月	無
20	『京都御所ゆかりの至宝』展にともなう調査研究	久保智康（工芸室長）	作品解説	特別展覧会『京都御所の至宝－甦る宮廷文化の美－』図録	京都新聞社・NHK・NHKプラネット	21年1月	無

【奈良国立博物館】　16件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	南都諸社寺等に関する計画的な調査研究	斎木涼子（研究員）	図版解説	お水取り（差し込み図版）	奈良国立博物館	21年 2月7日	無
2	南都諸社寺等に関する計画的な調査研究	清水健（研究員）	総論　おん祭と春日信仰の美術	おん祭と春日信仰の美術	仏教美術協会	12月5日	無
3	南都諸社寺等に関する計画的な調査研究	北澤菜月（研究員）、斎木涼子（研究員）、清水健（研究員）、鈴木喜博（上席研究員）、谷口耕生（研究員）、内藤榮（工芸考古室長）、永井洋之（研究員）、中島博（情報サービス室長）、西山厚（学芸部長）、野尻忠（研究員）	作品解説	おん祭と春日信仰の美術	仏教美術協会	12月5日	無
4	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究	西山厚（学芸部長）	正倉院宝物の成立とその公開	第六十回正倉院展	奈良国立博物館	10月25日	無
5	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究	野尻忠（研究員）	写経生が仕事を休むとき	第六十回正倉院展	奈良国立博物館	10月25日	無
6	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究	稲本泰生（企画室長）、岩田茂樹（美術室長）、岩戸晶子（研究員）、北澤菜月（研究員）、斎木涼子（研究員）、清水健（研究員）、鈴木喜博（上席研究員）、谷口耕生（研究員）、内藤栄（工芸考古室長）、永井洋之（研究員）、中島博（情報サービス室長）、野尻忠（研究員）、吉澤悟（資料室長）	作品解説	第六十回正倉院展	奈良国立博物館	10月25日	無
7	南都諸社寺等に関する計画的な調査研究	清水健（研究員）	西国三十三所―観音霊場の祈りと美―	西国三十三所	奈良国立博物館ほか3者	7月31日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
8	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究	岩田茂樹（美術室長）	圓教寺開山堂の性空上人像	西国三十三所	奈良国立博物館ほか3者	7月31日	無
9	南都諸社寺等に関する計画的な調査研究	鈴木喜博（上席研究員）	いわゆる清水寺形、長谷寺式および南円堂様の観音像について―観音霊場寺院の根本本尊とその広がり―	西国三十三所	奈良国立博物館ほか3者	7月31日	無
10	南都諸社寺等に関する計画的な調査研究、および我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究	稲本泰生（企画室長）、岩田茂樹（美術室長）、岩戸晶子（研究員）、北澤菜月（研究員）、清水健（研究員）、鈴木喜博（上席研究員）、谷口耕生（研究員）、内藤栄（工芸考古室長）、永井洋之（研究員）、中島博（情報サービス室長）、西山厚（学芸部長）、野尻忠（研究員）、吉澤悟（資料室長）	作品解説	西国三十三所	奈良国立博物館ほか3者	7月31日	無
11	南都諸社寺等に関する計画的な調査研究、および我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究	岩田茂樹（美術室長）	法隆寺金堂四天王像の諸問題	国宝　法隆寺金堂展	朝日新聞社	6月14日	無
12	南都諸社寺等に関する計画的な調査研究、および我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究	岩田茂樹（美術室長）、北澤菜月（研究員）、鈴木喜博（上席研究員）、谷口耕生（研究員）、内藤栄（工芸考古室長）、中島博（情報サービス室長）	作品解説	国宝　法隆寺金堂展	朝日新聞社	6月14日	無
13	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究	岩戸晶子（研究員）	表現された建築―先史・古代の例を中心に―	建築を表現する	奈良国立博物館	6月13日	無
14	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究	永井洋之（研究員）	中国の有翼馬	天馬	奈良国立博物館	4月5日	無
15	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究	内藤栄（工芸考古室長）	仏教と天馬	天馬	奈良国立博物館	4月5日	無
16	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究	稲本泰生（企画室長）、岩田茂樹（美術室長）、岩戸晶子（研究員）、北澤菜月（研究員）、清水健（研究員）、鈴木喜博（上席研究員）、谷口耕生（研究員）、内藤栄（工芸考古室長）、永井洋之（研究員）、中島博（情報サービス室長）、西山厚（学芸部長）、野尻忠（研究員）、吉澤悟（資料室長）	作品解説	天馬	奈良国立博物館	4月5日	無

【九州国立博物館】　6件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	彩色水浸文物の保存科学的研究 ―中国江蘇省泗水王陵出土文物の保存―（科学研究費補助金）	今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）	A summary and evaluation of 15 years research, practice and experience with lactitol methods developed for the conservation of waterlogged, degraded archaeological wood	ICOM Committee for Conservation 15th Triennial Conference New Delhi	ICOM Committee for Conservation （ICOM-CC）	9月22日	有
2	彩色水浸文物の保存科学的研究 ―中国江蘇省泗水王陵出土文物の保存―（科学研究費補助金）	今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）	水浸木製文物の保存科学的研究 ―中国江蘇省泗水王陵出土文物保存に関する共同研究―	科学研究費報告書	九州国立博物館	21年 3月31日	無
3	文化財調査におけるX線CTの活用	今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）	大型X線CTスキャナを活用した考古遺物の構造・技法調査	生産の考古学Ⅱ	倉田芳郎先生追悼論文集編集委員会、同成社	10月	無
4	文化財保存にかかわる指導と公衆への普及	今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）	埋蔵文化財の保存処理―鷹島海底遺跡出土遺物を例として―	水中文化遺産の保存と活用のためのネットワーク構築平成19年度事業報告書	特定非営利活動法人　文化財保存支援機構	5月	無
5	VR画像を活用した日本装飾古墳デジタルアーカイブの構築　（科学研究費補助金 基盤研究Ａ）	河野一隆(学芸部企画課　文化交流展室長)・赤司善彦(展示課長)	「九州国立博物館による装飾古墳のデジタルアーカイブ」	『月刊文化財』４月号	第一法規株式会社	21年 4月1日	無
6	室町時代の仏教絵画を中心とする東アジアの宗教美術に関する調査研究（科学研究費補助金）	畑靖紀（学芸部文化財課資料管理室）	渡唐天神	特別展国宝天神さま菅原道真の時代と天満宮の至宝	九州国立博物館	9月23日	無
7	室町時代の仏教絵画を中心とする東アジアの宗教美術に関する調査研究（科学研究費補助金）	畑靖紀（学芸部文化財課資料管理室）	雪舟の中国絵画に対する認識をめぐって	東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成―寧波の美術から海域交流を考える	にんぷろ文化交流研究部門調整班	8月31日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
8	室町時代の仏教絵画を中心とする東アジアの宗教美術に関する調査研究（科学研究費補助金）	畑靖紀（学芸部文化財課資料管理室）	南蛮船駿河湾来港図屏風	博物館と文化財修理	九州国立博物館	5月13日	無
9	近世初期日本絵画における粉本使用例の基礎調査（科学研究費補助金）	金井裕子（学芸部企画課文化交流展室研究員）	「保存修理経過紹介」	特集陳列カタログ『博物館と文化財修理』	九州国立博物館	5月13日	無
10	近世初期日本絵画における粉本使用例の基礎調査（科学研究費補助金）	金井裕子（学芸部企画課文化交流展室研究員）	「北野天神縁起絵巻」	特別展「国宝　天神さま」展覧会図録	九州国立博物館	10月	無
11	近世初期日本絵画における粉本使用例の基礎調査（科学研究費補助金）	金井裕子（学芸部企画課文化交流展室研究員）	「室町～江戸期における『北野天神縁起絵巻』の制作」	「国宝　天神さま」関連イベント講演収録集	九州国立博物館	21年 3月30日	無

【東京文化財研究所】 36件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（13件）

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	民俗技術に関する調査・資料収集無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究る調査研究	無形文化遺産部主任研究員　俵木悟	「無形文化遺産の映像記録作成の意義と課題－無形の民俗文化財を中心に－」	『地域政策研究』45	地方自治研究機構	12月1日	無
2	東アジアの美術に関する資料学的研究	広領域研究室長　綿田稔	自牧宗湛（下）	『美術研究』395	東京文化財研究所	8月	無
3	東アジアの美術に関する資料学的研究	広領域研究室長　綿田稔	聚光院の成立時期についての一仮説―障壁画作期議論の前提として―	『美術研究』396	東京文化財研究所	11月	無
4	近現代美術に関する総合的研究	文化形成研究室長　塩谷純	菊池容斎―雅俗を超えて	『激動期の美術』	ぺりかん社	8月	無
5	近現代美術に関する総合的研究	文化形成研究室長　塩谷純	床の間の上の裸婦―小林古径「髪」より	『昭和期美術展覧会の研究　戦前篇』	東京文化財研究所	9月	無
6	近現代美術に関する総合的研究	企画情報部長　田中淳	「統制」と「国際」の時代―戦中期の有島生馬を中心に	『昭和期美術展覧会の研究　戦前篇』	東京文化財研究所	9月	無
7	近現代美術に関する総合的研究	近・現代視覚芸術研究室長　山梨絵美子	渡辺豊次郎/豊洲―「画家」になれなかった「絵師」	『激動期の美術』	ぺりかん社	8月	無
8	近現代美術に関する総合的研究	近・現代視覚芸術研究室長　山梨絵美子	黒田清輝のフランス留学	特集陳列「黒田清輝のフランス留学」図録	東京国立博物館	21年3月	無
9	美術の技法・材料に関する高領域的研究	文化財アーカイブズ研究室長　津田徹英	滋賀・錦織寺不動明王立像の周辺―不動明王彫像の額上髪にあらわれた花飾りへのまなざし―	『佛教藝術』299	毎日新聞社	7月	無
10	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	音声・映像記録研究室長　飯島満	文楽忠臣蔵四段目の由良	『歌舞伎　研究と批評』40	歌舞伎学会	9月10日	無
11	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	音声・映像記録研究室長　飯島満	文楽の映像資料	『国文学解釈と教材の研究 臨時増刊 文楽―人形浄瑠璃への招待―』	學燈社	10月25日	無
12	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化財研究室長　高桑いづみ	X線透過撮影による能管・龍笛の構造解明	「無形文化遺産部研究報告」第3号	東京文化財研究所	21年 3月25日	無
13	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部 研究員　菊池理予	「無形文化遺産としての工芸技術 - 染織分野を中心として - 」	「無形文化遺産部研究報告」第3号	東京文化財研究所	21年 3月31日	無

○文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進（4件）

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	高精細デジタル画像の応用に関する調査研究	画像情報室専門職員　城野誠治	文化財を捉える撮影の方法とその特殊性　多様な文化財にいかに対応するか	『別冊太陽 平等院王朝の美 国宝鳳凰堂の仏後壁』	平凡社	21年2月	無
2	高精細デジタル画像の応用に関する調査研究	画像情報室専門職員　城野誠治	謎解きが始まろうとしている　新たな歴史を刻む発見	『別冊太陽 平等院王朝の美 国宝鳳凰堂の仏後壁』	平凡社	21年2月	無
3	文化財の非破壊調査法の研究	分析科学研究室長　早川泰弘	銅系緑色顔料の多様性とその使用例	保存科学	東京文化財研究所	21年3月	有
4	文化財の非破壊調査法の研究	主任研究員　吉田直人	可視反射分光スペクトル法による染料分析－近世絵図資料彩色調査への応用－	歴史学研究	青木書店	6月	有

○文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進（17件）

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	文化財の生物劣化対策の研究	生物科学研究室長、木川りか、副センター長　川野邊渉、客員研究員　藤井義久	日光山輪王寺本堂におけるオオナガシバンムシ*Priobium cylindricum* による被害事例について	『保存科学』48	東京文化財研究所	21年3月	有
2	文化財の生物劣化対策の研究	生物科学研究室長、木川りか、保存科学研究室長　佐野千絵、客員研究員　間渕創	古墳等の高湿度作業環境下での使用を想定した木材保存剤のかび抵抗性試験とＴＶＯＣ測定	『保存科学』48	東京文化財研究所	21年3月	有

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
3	文化財の保存環境の研究	客員研究員　呂俊民、保存科学研究室長、佐野千絵	ボーラ美術館における室内空気清浄化のための火山ガスの調査	『保存科学』48	東京文化財研究所	21年3月	有
4	文化財の保存環境の研究	保存修復科学センター主任研究員　犬塚将英、保存修復科学センター長　石崎武志	熊本城「細川家舟屋形」の保存環境調査	『保存科学』48	東京文化財研究所	21年3月	有
5	文化財の保存環境の研究	保存修復科学センター長　石崎武志、保存科学研究室長、佐野千絵、客員研究員　三浦定俊	Non destructive investigation of water content profile of the lime plaster wall in tumulus	Proc. In Situ monitoring of Monumental Surfaces	Instituto per la Conservazione e la valorizzazione der Beni Culturali, CNR	10月	有
6	文化財の保存環境の研究	保存科学研究室長、佐野千絵	新築における美術館のアンモニア対策	『保存科学』48	東京文化財研究所	21年3月	有
7	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	修復材料研究室研究員　森井順之	臼杵磨崖仏における凍結劣化防止策の検討―予測とその評価―	日韓共同研究報告書2008	国立文化財研究所（韓国）／東京文化財研究所	11月6日	無
8	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	文化遺産国際協力センター主任研究員　朽津信明	石塔で認められる彩色表現について	日韓共同研究報告書2008	国立文化財研究所（韓国）／東京文化財研究所	11月6日	無
9	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	保存修復科学センター研究員　森井順之、副センター長　川野邊渉	紫外線照射装置を用いた磨崖仏着生生物の除去	『保存科学』48	東京文化財研究所	21年3月31日	有
10	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	修復材料研究室研究員　森井順之	Conservation Environment and Conservation Studies for Stone Heritages in Japan	Proceedings of the 2008 International Symposium on Conservation Science for Cultural Heritage	National Research Institute of Cultural Heritage, Korea	9月30日	無
11	文化財の防災計画に関する調査研究	文化遺産国際協力センター主任研究員　二神葉子	An approach to disaster prevention and rescue of cultural properties by using GIS in Japan -example of the National Research Institute for Cultural Properties, Tokyo-.	Expert Meeting on Cultural Heritage in Asia and the Pacific - Restoration and conservation of immovable heritage damaged by natural disasters-	東京文化財研究所	21年3月31日	無
12	伝統的な漆塗料に関する調査	伝統技術研究室長　北野信彦	桃山文化期における輸入漆塗料の流通と使用に関する調査（Ⅱ）	『保存科学』48	東京文化財研究所	21年3月31日	有
13	近代の文化財の保存修復に関する研究	伝統技術研究室研究員　加藤雅人、生物科学研究室長　木川りか、修復材料研究室研究員　坪倉早智子、近代文化遺産研究室長　中山俊介	二酸化炭素処理・酸化エチレン処理がジアゾタイプ複写物に及ぼす影響	『保存科学』48	東京文化財研究所	21年3月31日	有
14	近代の文化財の保存修復に関する研究	近代文化遺産研究室長　中山俊介	Issues Concerning the conservation of Steel Vessels in Japan	Issues Surrounding the Conservation of Modern Heritage	National Research Institute of Cultural Properties, Tokyo	21年3月31日	無
15	近代の文化財の保存修復に関する研究	近代文化遺産研究室長　中山俊介	On the utilization of Railway Cultural Properties	Utilization of Railway Cultural Properties	National Research Institute of Cultural Properties, Tokyo	21年3月31日	無
16	近代の文化財の保存修復に関する研究	近代文化遺産研究室長　中山俊介	On the Operation of Tramcars and the Conservation of Cultural Properties	Utilization of Railway Cultural Properties	National Research Institute of Cultural Properties, Tokyo	21年3月31日	無
17	近代の文化財の保存修復に関する研究	近代文化遺産研究室長　中山俊介	航空機の保存修復と活用	航空機遺産の保存と活用	東京文化財研究所	21年3月31日	無

○文化財の保護制度や施策の国際的動向及び国際協力及び国際共同研究（2件）

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査研究	文化遺産国際協力センター主任研究員　朽津信明、文化遺産国際協力センター主任研究員　二神葉子	飯田市・文永寺石室五輪塔における蘚苔類の繁茂について	『保存科学』48	東京文化財研究所	21年3月	有
2	アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査研究	文化遺産国際協力センター主任研究員　朽津信明	いわゆる「宋風獅子」の岩質について	『考古学と自然科学』58	東京文化財研究所	21年3月	有

【奈良文化財研究所】 96件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（50件）

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	文化的景観に関する調査研究	惠谷浩子（特別研究員）	川に関わる信仰の地形－四万十川流域を対象として－	奈良文化財研究所紀要2008	奈良文化財研究所	6月15日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
2	文化的景観に関する調査研究	惠谷浩子（特別研究員）	輪島市三井町の「アテ」 ー林業の文化的景観ー	遺跡学研究 第５号	日本遺跡学会	11月25日	無
3	文化的景観に関する調査研究	平澤　毅（遺跡整備研究室長）	重要文化的景観としての森林	日本林学会大会学術講演集2009	日本森林学会	21年3月 25日	無
4	文化的景観に関する調査研究	惠谷浩子（特別研究員）	「四万十川流域の文化的景観」における林業の評価	日本林学会大会学術講演集2009	日本森林学会	21年3月 25日	無
5	古都所在寺社の歴史資料等に関する調査研究	奈良文化財研究所	興福寺典籍文書目録第四巻	奈良文化財研究所史料第83冊	奈良文化財研究所	21年3月 31日	無
6	古都所在寺社の歴史資料等に関する調査研究	吉川　聡（歴史研究室長）・小原嘉記（京都大学大学院）・遠藤基郎（東京大学）	「東大寺大勧進文書集」の研究	南都仏教91号	東大寺図書館	12月	有
7	古都所在寺社の歴史資料等に関する調査研究	吉川　聡（歴史研究室長）・黒岩康博(京都大学)・清水重敦(主任研究員)	世路之志保里 当用日記(明治32年～38年)	関野貞日記	中央公論美術出版	21年2月 28日	無
8	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	山下秀樹(奈良県教育委員会主査)・窪寺茂(建造物研究室長)・清水重敦(主任研究員)	扁額の意匠と構造－平城宮第一次大極殿正殿扁額の復原考察－	奈良文化財研究所紀要2008	奈良文化財研究所	6月15日	無
9	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	清水重敦(主任研究員)・山下秀樹(奈良県教育委員会主査)・チェ・ゴウン(外国人特別研究員)	古代寺院建築における特異な基壇・平面とその構造	奈良文化財研究所紀要2008	奈良文化財研究所	6月15日	無
10	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	大林潤（研究員）	境外社の造営と建築形式－出雲大社の境外社の調査より－	奈良文化財研究所紀要2008	奈良文化財研究所	6月15日	無
11	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	西田紀子（研究員）	高知県中芸地区の森林鉄道遺産	奈良文化財研究所紀要2008	奈良文化財研究所	6月15日	無
12	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	清水重敦（主任研究員）	古社寺保存会草創期に作成された建造物等級表について	日本建築学会計画系論文集	日本建築学会	9月	有
13	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	清水重敦（主任研究員）	古代の寄棟造構造と加守廃寺六角堂　加守廃寺六角堂復元研究その２	日本建築学会大会学術講演梗概集 F-2 建築歴史・意匠	日本建築学会	9月	無
14	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	清水重敦（主任研究員）	伊東忠太と『日本建築』保存	明治聖徳記念学会紀要	明治聖徳記念学会	11月	有
15	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	窪寺茂（建造物研究室長）	日中韓における文化財建造物の保存－建造物修理の昨今－	NPO　木の建築　22	風土社	12月1日	無
16	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	清水重敦（主任研究員）	奈良県における古社寺保存と関野貞	関野貞日記	中央公論美術出版	21年2月	無
17	平城宮跡第一次大極殿院地区南面回廊跡（第431次）の発掘調査	森川実（研究員）	平城宮第一次大極殿院（平城第431次）の調査	『奈良文化財研究所紀要2009』	奈良文化財研究所	21年6月	無
18	平城宮跡第一次大極殿院地区南面回廊跡（第431次）の発掘調査	森川実（研究員）	平城宮第一次大極殿院の調査（平城第431次）	『奈文研ニュース』 No. 30	奈良文化財研究所	9月	無
19	平城宮跡第一次大極殿院地区西面回廊跡（第432次）の発掘調査	森川実（研究員）・和田一之輔（研究員）・今井晃樹（研究員）・大林潤（研究員）	平城宮第一次大極殿院西面回廊（平城第432・436・437次）の調査	『奈良文化財研究所紀要2009』	奈良文化財研究所	21年6月	無
20	平城宮跡第一次大極殿院地区西面回廊跡（第432次）の発掘調査	森川実（研究員）・和田一之輔（研究員）・今井晃樹（研究員）・大林潤（研究員）	平城宮第一次大極殿院西面回廊（平城第432・436・437次）の調査	『奈文研ニュース』 No. 31	奈良文化財研究所	12月	無
21	平城宮跡第一次大極殿院地区西面回廊跡（第436次）の発掘調査	森川実（研究員）・和田一之輔（研究員）・今井晃樹（研究員）・大林潤（研究員）	平城宮第一次大極殿院西面築地回廊の調査	『奈文研ニュース』 No. 31	奈良文化財研究所	12月	無
22	平城宮跡第一次大極殿院地区西面回廊跡（第438次）の発掘調査	森川実（研究員）・和田一之輔（研究員）・今井晃樹（研究員）・大林潤（研究員）	平城宮第1次大極殿西面回廊の調査	『奈文研ニュース』 No. 31	奈良文化財研究所	12月	無
23	平城宮跡東方官衙地区（第440次）の発掘調査	今井晃樹（研究員）	東方官衙地区（平城第440次）の調査	『奈良文化財研究所紀要2009』	奈良文化財研究所	21年6月	無
24	平城宮跡東方官衙地区（第440次）の発掘調査	今井晃樹（研究員）	平城宮第440次　東方官衙の調査	『奈文研ニュース』 No. 31	奈良文化財研究所	12月	無
25	平城京右京三条一坊八坪（第448次調査）の発掘調査	林正憲（研究員）	平城京右京三条一坊八坪（第448次）の調査	『奈良文化財研究所紀要2009』	奈良文化財研究所	21年6月	無
26	藤原宮跡朝堂院地区の発掘調査	小田裕樹（研究員）ほか	藤原宮跡朝堂院地区の調査－第１５３次	『奈良文化財研究所紀要2010』	奈良文化財研究所	21年7月	無
27	藤原宮跡朝堂院地区の発掘調査	玉田芳英（上席研究員）	藤原宮跡朝堂院朝庭部の調査（飛鳥藤原第１５３次）	『奈文研ニュース』 No. 30	奈良文化財研究所	9月	無
28	藤原宮跡朝堂院地区の発掘調査	小田裕樹（研究員）	藤原宮跡朝堂院朝庭の調査（飛鳥藤原第１５３次）	『奈文研ニュース』 No. 31	奈良文化財研究所	12月	無
29	石神遺跡の発掘調査	青木敬（研究員）ほか	石神遺跡の発掘調査－第１５６次	『奈良文化財研究所紀要2009』	奈良文化財研究所	21年6月	無
30	石神遺跡の発掘調査	青木敬（研究員）	石神遺跡の発掘調査－第１５６次	『奈文研ニュース』 No. 32	奈良文化財研究所	21年3月	無
31	甘樫丘東麓遺跡の発掘調査	丹羽崇史（研究員）ほか	甘樫丘東麓遺跡の発掘調査－第１５７次	『奈良文化財研究所紀要2009』	奈良文化財研究所	21年6月	無
32	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究	今井晃樹（研究員）	漢魏洛陽城における日中共同調査	『奈文研ニュース』 No. 29	奈良文化財研究所	6月	無
33	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究	城倉正祥（研究員）	漢魏洛陽城・北魏宮城２号門の調査	『奈文研ニュース』 No. 32	奈良文化財研究所	21年3月	無
34	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究	小池伸彦（企画調整室長）	隋唐墓出土副葬品の調査	『奈文研ニュース』 No. 30	奈良文化財研究所	9月	無
35	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究	小池伸彦（企画調整室長）	遼寧省隋唐墓出土品秋の調査	『奈文研ニュース』 No. 31	奈良文化財研究所	12月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
36	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究	李柱憲（国立慶州文化財研究所）・兪洪植（国立慶州文化財研究所）	日韓発掘調査交流に参加して	『奈文研ニュース』No.30	奈良文化財研究所	9月	無
37	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究	青木　敬（研究員）	2008年度日韓発掘調査交流	奈良文化財研究所第19回総合研究会資料	奈良文化財研究所	21年1月	無
38	庭園に関する調査研究	内田和伸（景観研究室長）	平城京松林苑の保存と風致	遺跡学研究第５号	日本遺跡学会	11月25日	有
39	庭園に関する調査研究	内田和伸（景観研究室長）	古代の思想と平城宮第一次大極殿院	奈良女子大学COEプログラム報告集	奈良女子大学	21年3月	無
40	庭園に関する調査研究	粟野隆（研究員）	近代的庭園デザイナー・小平義親の人と作品	日本庭園学会誌	日本庭園学会	10月	無
41	庭園に関する調査研究	粟野隆（研究員）	造園学原論・造園史	ランドスケープ研究vol.72No.1	日本造園学会	8月	無
42	庭園に関する調査研究	粟野隆（研究員）	コンクリートと近代庭園	遺跡学研究第５号	日本遺跡学会	11月25日	無
43	遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究	平澤　毅（遺跡整備研究室長）	遺跡の保存管理・公開活用と指定管理者制度	奈良文化財研究所紀要2008	奈良文化財研究所	6月15日	無
44	遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究	平澤　毅（遺跡整備研究室長）	日本における近代造園遺産の保護	遺跡学研究 第５号	日本遺跡学会	11月25日	無
45	遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究	粟野隆（研究員）	コンクリートと近代造園	遺跡学研究 第５号	日本遺跡学会	11月25日	無
46	遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究	平澤　毅（遺跡整備研究室長）	遺産保護に関する国際的枠組み	遺跡学研究 第５号	日本遺跡学会	11月25日	無
47	石材の非破壊調査方法に関する研究	高妻洋成（保存修復科学研究室長）	高松塚古墳石室解体におけるアコースティックエミッション法の応用	日本文化財科学会第25回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	6月14日	無
48	石造文化財の撥水処理に関する研究	脇谷草一郎（特別研究員）	新規に開発された石造文化財の撥水処理剤に関する研究	日本文化財科学会第25回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	6月14日	無
49	遺跡の露出展示のための事前調査法の研究	高妻洋成（保存修復科学研究室長）	遺構保存のための事前調査法－比抵抗映像法の応用－	奈良文化財研究所紀要2008	奈良文化財研究所	6月15日	無
50	石造文化財の保存に関する研究	高妻洋成（保存修復科学研究室長）	高松塚古墳石室解体	奈良文化財研究所紀要2008	奈良文化財研究所	6月15日	無

○文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進（36件）

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	官衙関連遺跡の指標や属性分析法の確立に関する研究	志賀　崇（調査・研究アシスタント）	畿内と龍角寺の文字瓦	房総と古代王権	高志書院	21年2月	無
2	官衙関連遺跡の指標や属性分析法の確立に関する研究	山中敏史(文化遺産部長)	古代藤枝地域における田租と出挙	藤枝市史研究、10号	藤枝市	21年3月	無
3	遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法の研究	金田明大(主任研究員)・渡辺芳郎(鹿児島大学教授)	薩摩焼の生まれたところ―苗代川窯における物理探査―	日本文化財科学会研究発表要旨集	日本文化財科学会	4月14日	有
4	遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法の研究	金田明大(主任研究員)・西村康(客員研究員)・西口和彦(客員研究員)	茨城県瓦塚遺跡の探査成果統合	日本文化財探査学会研究発表要旨集	日本文化財探査学会	4月22日	有
5	遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法の研究	金田明大(主任研究員)	考古学研究・埋蔵文化財保護に物理探査を役立たせるために	最新の物理探査適用事例集	社団法人物理探査学会	10月23日	有
6	遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法の研究	金田明大(主任研究員)	日本における文化財へのGIS利用	文化財GIS国際会議資料集	文化財GIS国際会議	21年2月19日	無
7	遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法の研究	金田明大(主任研究員)	考古・文化財とGIS	シリーズGIS	朝倉書店	21年2月20日	無
8	遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法の研究	金田明大(主任研究員)・渡辺芳郎(鹿児島大学教授)	近世窯跡における地下探査の可能性	地域政策科学研究	鹿児島大学法文学部	印刷中	有
9	年輪年代学研究	大河内隆之（主任研究員）	年輪年代調査	胡桃館遺跡の埋没建物部材調査報告書	奈良文化財研究所，北秋田市教育委員会	6月10日	無
10	年輪年代学研究	大河内隆之（主任研究員），光谷拓実（客員研究員），児島大輔（日本学術振興会特別研究員）	池口寺木造菩薩形立像の非破壊年輪年代調査	奈良文化財研究所紀要2008	奈良文化財研究所	6月15日	無
11	年輪年代学研究	光谷拓実（客員研究員）	年輪年代法	文建協通信No.93	（財）文化財建造物保存技術協会	6月8日	無
12	年輪年代学研究	大河内隆之（主任研究員）	画像工学技術が拓く年輪年代学の新たな世界	人環フォーラム第23号	京都大学大学院人間・環境学研究科	9月30日	無
13	年輪年代学研究	Yasuharu Hoshino（東北大学研究支援者），Takayuki Okochi（主任研究員），Takumi mitsutani（客員研究員）	Dendrochronological dating of vernacular folk crafts in northern central Japan	Tree-ring research, Vol 64 (2)	The Tree-ring Society	8月21日	有
14	年輪年代学研究	大河内隆之（主任研究員）	伏見稲荷大社奥宮の年輪年代調査	伏見稲荷大社奥宮修理工事報告書	伏見稲荷大社	印刷中	無
15	年輪年代学研究	Mechtild Mertz（ 京都大学生存圏研究所），Takao Itoh（客員研究員）	Identification des bois de huit sculptures chinoises st de deux sculptures japonaises conservees aux Musees royaux d'Art et d'Histoire de Bruxelles	BULLETIN 76,2005 van de Koninklijke Musea voor Kunst en Geschiedenis, Brussel Bulletin des Musees royaux d'Art et d'Histoire	Musees royaux d'Art et d'Histoire	9月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
16	年輪年代学研究	大河内隆之（主任研究員）	年輪年代調査におけるデジタル画像技術の活用	埋蔵文化財ニュース 135	奈良文化財研究所　埋蔵文化財センター	21年2月	無
17	年輪年代学研究	大河内隆之（主任研究員）	金勝寺制札（延徳三年）の年輪年代調査	栗東歴史民俗博物館紀要第15号	栗東歴史民俗博物館	21年3月	無
18	環境考古学研究	松井章（環境考古学研究室長）	Historia archeologii japonskiej	GAZETA BISKUPINSKA 3（115）	Archaeological Museum in Biskupin	9月1日	無
19	環境考古学研究	松井章（環境考古学研究室長）	湿地遺跡が語るもの-世界の中の東名遺跡-	公開シンポジウム　有明の海と縄文人	佐賀市教育委員会	10月	無
20	環境考古学研究	松井章（環境考古学研究室長）	獣骨が語るもの-東名遺跡の動物遺存体	公開シンポジウム　有明の海と縄文人	佐賀市教育委員会	10月	無
21	環境考古学研究	丸山真史(京都大学大学院生)・松井章(環境考古学研究室長)	宮内堀脇遺跡から出土した動物遺存体	宮内堀脇遺跡	兵庫県教育委員会	21年3月	無
22	環境考古学研究	丸山真史(京都大学大学院生)・松井章(環境考古学研究室長)	橿原遺跡から出土した動物遺存体	奈良時代縄文晩期の遺構・遺物の研究	奈良県立橿原考古学研究所	21年3月	無
23	環境考古学研究	丸山真史(京都大学大学院生)・松井章(環境考古学研究室長)	平安京左京三条二坊十町跡から出土した動物遺存体	平安京左京三条二坊十町跡	京都市埋蔵文化財研究所	21年3月	無
24	環境考古学研究	丸山真史(京都大学大学院生)・松井章(環境考古学研究室長)	大坂城下町における骨細工―備後町2丁目の調査より―	大阪歴史博物館紀要　第6号	大阪市文化財協会	21年3月	無
25	環境考古学研究	丸山真史(京都大学大学院生)・別所秀高(東大阪市文化財協会研究員)・松井章(環境考古学研究室長)	動物考古学と差別問題	部落史研究からの発信	部落解放・人権研究所	21年3月	無
26	環境考古学研究	納屋内高史（京都大学大学院生）・松井章（環境考古学研究室長）	カラカミ遺跡出土の動物遺存体	壱岐カラカミ遺跡Ⅱ	九州大学大学院人文科学研究院考古学研究室	21年3月	無
27	環境考古学研究	納屋内高史（京都大学大学院生）・松井章（環境考古学研究室長）	西郷遺跡出土の動物遺存体	西郷遺跡	新潟県埋蔵文化財調査事業団	21年3月	無
28	環境考古学研究	納屋内高史（京都大学大学院生）・松井章（環境考古学研究室長）	大崎城址出土の動物遺存体	大崎城址	豊橋市美術博物館	21年3月	無
29	環境考古学研究	大和槙（京都大学大学院生）・松井章（環境考古学研究室長）	アラフ遺跡出土の動物遺存体	アラフ遺跡	沖縄国際大学	21年3月	無
30	環境考古学研究	山崎健（研究員）	弥生時代における漁撈と狩猟―伊勢湾奥部を事例として―	日本考古学協会2008年度愛知大会　研究発表資料集	日本考古学協会2008年度愛知大会実行委員会	11月	無
31	環境考古学研究	山崎健（研究員）	生業	日本考古学協会2008年度愛知大会　研究発表資料集	日本考古学協会2009年度愛知大会実行委員会	11月	無
32	環境考古学研究	山崎健（研究員）	弥生時代における漁撈と狩猟―伊勢湾奥部を事例として―	日本考古学協会2008年度大会　研究発表要旨	日本考古学協会	11月	無
33	環境考古学研究	Takeshi YAMAZAKI(研究員), Sen-Ichi ODA(名古屋大学大学院), Miki SHIRAKIHARA(桐朋大学)	Stomach contents of an Indo-Pacific bottlenose dolphin stranded in Amakusa, western Kyushu, Japan	FISHERIES SCIENCE, 74	日本水産学会誌	10月	有
34	環境考古学研究	MIKI SHIRAKIHARA(桐朋大学), KENJI SEKI（九州開発エンジニヤリング）, AKIRA TAKEMURA（長崎大学）, KUNIO SHIRAKIHARA（東京大学）, HIDEYOSHI YOSHIDA（水産総合研究センター）, TAKESHI YAMAZAKI（研究員）	FOOD HABITS OF FINLESS PORPOISES NEOPHOCAENA PHOCAENOIDES IN WESTERN KYUSHU, JAPAN	Journal of Mammalogy, 89 (5)	American Society of Mammalogists	10月	有
35	環境考古学研究	山崎健（研究員）	橿原遺跡出土の骨角器	奈良時代縄文晩期の遺構・遺物の研究	奈良県立橿原考古学研究所	21年3月	無
36	環境考古学研究	山崎健（研究員）	環境考古学8　哺乳類標本リスト	埋蔵文化財ニュース 136	奈良文化財研究所　埋蔵文化財センター	21年3月	無

○文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進（10件）

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	佐藤昌憲(客員研究員)	銅の影響を受けた絹製文化財の研究	文化財保存修復学会第30回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	5月17日	無
2	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	佐藤昌憲(客員研究員)	江戸末期における雛人形の頭髪に使用された黒染め生糸の劣化および保存に関するⅡ	文化財保存修復学会第30回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	5月17日	無
3	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	佐藤昌憲(客員研究員)	藕糸に関する基礎調査	文化財保存修復学会第30回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	5月17日	無
4	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	高妻洋成(保存修復科学研究室長)	高松古墳発掘／石室解体作業に伴う取合部・断熱覆屋使用木材等の防カビ対策：DDACの検討と施工	文化財保存修復学会第30回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	5月17日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
5	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	高妻洋成(保存修復科学研究室長)	リグノフェノールを用いた出土木材の保存処理Ⅳ ―超臨界二酸化炭素を用いた乾燥―	日本文化財科学会第25回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	6月14日	無
6	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	佐藤昌憲(客員研究員)	シンクロトロン顕微赤外分光法を応用した出土繊維資料の材質調査に関する基礎的研究	日本文化財科学会第25回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	6月14日	無
7	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	佐藤昌憲(客員研究員)	出土絹製遺物の顕微赤外分析による研究Ⅱ	日本文化財科学会第25回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	6月14日	無
8	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	降幡順子(主任研究員)	平城京跡出土三彩・緑釉陶器と緑釉瓦の自然科学的分析	日本文化財科学会第25回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	6月14日	無
9	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	高妻洋成(保存修復科学研究室長)	Fundamental Research on Waterlogged Wood Conservation Using Lignophenol	Transactions of the Materials Research Society of Japan	日本MRS	9月	有
10	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	高妻洋成(保存修復科学研究室長)	木炭を利用した収蔵ケースの試作と調湿効果の検証	木質炭化学会誌	木質炭化学会	10月	有

【東京文化財研究所と奈良文化財研究所との共同研究】計4件

○国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査研究の実施（4件）

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	文化庁が行う高松塚・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	保存科学研究室長　佐野千絵、分析科学研究室長　早川泰弘、客員研究員　三浦定俊	国宝高松塚古墳壁画の材料調査の変遷	『保存科学』48	東京文化財研究所	21年 3月31日	有
2	文化庁が行う高松塚・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	保存修復科学センター主任研究員　犬塚将英、保存科学研究室長　佐野千絵、保存修復科学センター長　石崎武志、生物科学研究室長、木川りか	国宝高松塚古墳壁画修理作業室の一般公開時における環境測定	『保存科学』48	東京文化財研究所	21年 3月31日	有
3	文化庁が行う高松塚・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	保存修復科学センター研究員　森井順之、保存修復科学センター主任研究員　犬塚将英、保存科学研究室長　佐野千絵、保存修復科学センター長　石崎武志	キトラ古墳覆屋内の環境について(4)	『保存科学』48	東京文化財研究所	21年 3月31日	有
4	文化庁が行う高松塚・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	生物科学研究室長、木川りか、保存科学研究室長　佐野千絵、客員研究員　間渕創	キトラ古墳の微生物の状況報告（2008）	『保存科学』48	東京文化財研究所	21年 3月31日	有

⑤調査研究刊行物一覧

【東京国立博物館】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
「ＭＵＳＥＵＭ」　６１３～６１８号	各1,900	美術館・博物館・大学・研究所等　2,742件(各457件)
「東京国立博物館紀要」４４号	700	美術館・博物館・大学等　329件
「東京国立博物館文化財修理報告」Ⅸ	500	美術館・博物館・大学等　90件
「法隆寺献納宝物特別調査概報」ＸＸⅨ　聖徳太子絵伝２	600	美術館・博物館・大学等　186件
研究図録『東京国立博物館所蔵骨角器集成』	600	美術館・博物館・大学等　186件
「東京国立博物館図版目録　武家装束篇」	600	美術館・博物館・大学等　186件
「東京国立博物館日本美術50選」（中国語版）	3000	―
「東京国立博物館日本美術50選」（韓国語版）	3000	―

○展覧会目録

刊　行　物　名		発行部数	配　　布　　先
特別展	平城遷都1300年記念「国宝　薬師寺展」	―	美術館・博物館・大学等　112件
	日仏交流150周年記念　オルセー美術館コレクション特別展「フランスが夢見た日本―陶器に写した北斎、広重」	―	美術館・博物館・大学等　112件
	創刊記念『國華』120周年・朝日新聞130周年特別展「対決―巨匠たちの日本美術」	―	美術館・博物館・大学等　112件
	尾形光琳生誕350周年記念「大琳派展－継承と変奏－」	―	美術館・博物館・大学等　112件
	「スリランカ―輝く島の美に出会う」	―	美術館・博物館・大学等　112件
	慶應義塾創立150年記念「未来を開く福澤諭吉展」	―	美術館・博物館・大学等　112件
	開山無相大師650年遠諱記念　特別展「妙心寺」	―	美術館・博物館・大学等　112件
特集陳列	「六波羅蜜寺の仏像」	3000	美術館・博物館・大学等　112件
	「自在置物」	3000	美術館・博物館・大学等　112件
	「画家の手紙」	3000	美術館・博物館・大学等　112件
	「黒田清輝のフランス留学」	3000	美術館・博物館・大学等　112件

【京都国立博物館】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
研究紀要「学叢」第30号	740	美術館・博物館・大学等
文化財保存修理所　修理報告書4	450	大学・図書館・研究機関等

○展覧会目録

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
特別展覧会「絵画の冒険者　暁斎　Kyosai-近代へ架ける橋-」	16,211	美術館・博物館・大学等
特別展覧会「japan蒔絵 宮殿を飾る 東洋の燦めき」	―	美術館・博物館・大学等
特別展覧会「京都御所ゆかりの至宝－甦る宮廷文化の美－」	―	美術館・博物館・大学等
特別展覧会「妙心寺」	―	美術館・博物館・大学等

【奈良国立博物館】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
研究紀要　鹿園雑集　１０号	700部	美術館・博物館・大学・研究所等　約250件
薬師寺所蔵　国宝　麻布著色吉祥天像	500部	美術館・博物館・大学・研究所等
正倉院展六十回のあゆみ	10,000部	美術館・博物館・大学・研究所等
奈良国立博物館だより （年4回）	春・夏・冬号 各20,000部 秋号　40,000部	美術館・博物館・大学・研究所等

○展覧会目録

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
天馬―シルクロードを翔ける夢の馬	―	美術館・博物館・大学・研究機関等
国宝　法隆寺金堂展	―	美術館・博物館・大学・研究機関等
建築を表現する	―	美術館・博物館・大学・研究機関等
西国三十三所－観音霊場の祈りと美－	―	美術館・博物館・大学・研究機関等
第６０回正倉院展	―	美術館・博物館・大学・研究機関等
The 60th Annual Exhibiton of Shoso-in Treasures	―	美術館・博物館・大学・研究機関等
おん祭と春日信仰の美術	―	美術館・博物館・大学・研究機関等

【九州国立博物館】
○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
東風西声第4号	1,500	美術館・博物館・研究機関等へ配布し、一部ミュージアムショップで販売
九州国立博物館図録「天にささげる器ー朝鮮時代の祭器」	2,000	美術館・博物館・研究機関等へ配布し、一部ミュージアムショップで販売
図録（博物館と文化財修理）	3,000	美術館・博物館・研究機関等へ配布し、一部ミュージアムショップで販売
博物館科学部門の取り組みⅠ	3,000	美術館・博物館・研究機関等へ配布
博物館科学部門の取り組みⅡ	5,000	美術館・博物館・研究機関等へ配布
神々の青銅器リーフレット	3,000	美術館・博物館・研究機関等へ配布
神々の青銅器リーフレット　Vol.2	6,000	美術館・博物館・研究機関等へ配布

○展覧会目録

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
国宝　大絵巻展	ー	美術館・博物館・大学等
島津の国宝と篤姫の時代	9,100	美術館・博物館・大学等
島津の国宝と篤姫の時代　こどもガイド	ー	館内観覧者
国宝　天神さま	ー	美術館・博物館・大学等
こども用ガイドブック　天神さま学習帳	ー	館内観覧者
工芸のいま　伝統と創造	ー	美術館・博物館・大学等

【東京文化財研究所】
○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
東京文化財研究所年報	1,000	博物館・美術館・大学・研究機関等
東京文化財研究所概要	4,000	博物館・美術館・大学・研究機関等
東文研ニュース 第33～36号	各4,000	博物館・美術館・大学・研究機関等
平成19年版　日本美術年鑑	600	博物館・美術館・大学・研究機関等
美術研究 395～397号	各400	博物館・美術館・大学・研究機関等
無形文化遺産研究　第3号	750	博物館・美術館・大学・研究機関等
第3回無形民俗文化財研究協議会報告書	500	博物館・美術館・大学・研究機関等
保存科学 48号	600	博物館・美術館・大学・研究機関等
第31回文化財の保存と修復に関する国際研究集会報告書	500	参加者、大学、研究機関、博物館・美術館等
国宝　伴大納言絵巻蛍光Ｘ線分析結果	100	研究機関、博物館・美術館等
日韓共同研究報告書2008－文化財保存環境と復元技術研究－（大韓民国文化財庁国立文化財研究所と共同刊行）	500	大学、研究機関等
伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究報告書	300	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
International Course on Conservation of Japanese Paper 2008	1,000	国内外の大学、研究機関、博物館、図書館など
在外日本古美術品保存修復協力事業　報告書　平成20年度　（絵画/工芸品）	1,000	国内外の大学、研究機関、博物館、図書館など
Issues Surrounding the Conservation of Modern Heritage	1,000	国内外の大学、研究機関、博物館、図書館など
Utilization of Railway Cultural Properties	1,000	国内外の大学、研究機関、博物館、図書館など
未来につなぐ人類の技　８　航空機遺産の保存と活用	1,000	国内外の大学、研究機関、博物館、図書館など
遺跡保存と水	500	国内外の大学、研究機関、博物館、図書館など
アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査・研究　平成２０年度成果報告書	100	国内外の大学、研究機関、博物館、図書館など
Conservation of momnuments in Thailand Ⅳ	500	国内外の大学、研究機関、博物館、図書館など
「日中共同唐代陵墓石彫像保護修復プロジェクト～その経緯と成果～」	200	国内外の大学、研究機関、博物館、図書館など
Preliminary Report on the Safeguarding of the Bamiyan Site 2007	500	国内外の大学、研究機関、博物館、図書館など
バーミヤーン仏教石窟出土樺皮仏典の保存修復	500	国内外の大学、研究機関、博物館、図書館など
Preliminary Report on the Environmental investigation for the Conservation of the Bamiyan Site:2005 and 2006 Seasons	400	国内外の大学、研究機関、博物館、図書館など
「水侵木材の保存」テキスト	500	国内外の大学、研究機関、博物館、図書館など
「Conservation of water logged wood」テキスト	250	国内外の大学、研究機関、博物館、図書館など
「国際資料室蔵書目録」	100	国内外の大学、研究機関、博物館、図書館など
文化財保護法令集　イラク	300	国内外の大学、研究機関、博物館、図書館など
文化財保護法令シリーズ　3　日本	300	国内外の大学、研究機関、博物館、図書館など
文化財保護法令シリーズ　4　ウズベキスタン	300	国内外の大学、研究機関、博物館、図書館など
文化財保護法令シリーズ　5　モンゴル	300	国内外の大学、研究機関、博物館、図書館など
諸外国における文化財輸出規制を制定した法令に関する調査　報告書	100	国内外の大学、研究機関、博物館、図書館など
資料集	100	国内外の大学、研究機関、博物館、図書館など
「協力相手国調査　モンゴル（２００８年２月調査報告書）」	200	国内外の大学、研究機関、博物館、図書館など
「協力相手国調査　モンゴル　ヘンティ県遺跡状況調査　報告書」	100	国内外の大学、研究機関、博物館、図書館など
「文化遺産国際協力事業紹介」（日本語・英語）	各500	国内外の大学、研究機関、博物館、図書館など

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
Japan's International Cooperation in heritage Conservation	500	国内外の大学、研究機関、博物館、図書館など
インドネシア文化観光省ボロブドゥール遺跡保存研究所との研究交流業務報告書	300	国内外の大学、研究機関、博物館、図書館など
日本およびモンゴルの文化財保護に関するワークショップ（日本語）	300	国内外の大学、研究機関、博物館、図書館など
日本およびモンゴルの文化財保護に関するワークショップ（モンゴル語）	300	国内外の大学、研究機関、博物館、図書館など
『四川震災復興に係る文化財協力（専門家交流）事業』（日本語）	500	国内外の大学、研究機関、博物館、図書館など
『四川震災復興に係る文化財協力（専門家交流）事業』（中国語）	50	国内外の大学、研究機関、博物館、図書館など

【奈良文化財研究所】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
奈良文化財研究所紀要2008	3,000	大学、研究機関、図書館等
奈良文化財研究所概要2008	3,500	大学、研究機関、図書館等
奈文研ニュースNo.29～32号	各3,000	大学、研究機関、教育委員会等
埋蔵文化財ニュース134～137号	各3,500	教育委員会、図書館、博物館等
平安時代庭園に関する研究2	300	大学、研究機関等
Hamlet Survey Report Duong Lam Village Ha Tay Province Sosialist Republic of Viet Nam	700	大学、研究機関等
平城宮第一次大極殿研究　基壇・礎石編	600	大学、研究機関等
平城宮第一次大極殿研究　屋根編	600	大学、研究機関等
近世瓦の研究	500	大学、研究機関等
古代地方行政単位の成立と在地社会	1,000	大学、研究機関等
遺跡情報交換標準の研究２	2,700	大学、研究機関等
出雲大社境外社建造物調査報告書	500	大学、研究機関等
遺跡の保存管理・公開活用と指定管理者制度	800	大学、研究機関等
平城宮出土陶硯集成Ⅱ	600	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
高松塚古墳フォトマップ資料集	1,000	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
飛鳥藤原京木簡２　藤原京木簡1本文編	600	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
飛鳥藤原京木簡２　藤原京木簡1図版編	600	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
興福寺典籍文書目録第4巻	600	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
山内清男資料　17	700	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
飛鳥藤原宮出土木簡概報22	1,000	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
重要文化財建造物現状変更説明1962ー1964	500	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
重要文化財建造物現状変更説明1962ー1964	500	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
キトラ古墳壁画ー子丑寅ー	6,000	館内観覧者等
まぼろしの唐代精華ー黄冶唐三彩窯の考古新発見ー	4,000	館内観覧者等
冬期企画展　飛鳥の考古学2008	2,000	館内観覧者等
金属工芸史の研究	600	館内観覧者等
地下の正倉院展ー長屋王家木簡の世界ー	10,000	館内観覧者等
平城宮跡第一次大極殿院回廊の調査ー平城第432･436次調査ー	2,000	現地説明会見学者等
藤原宮朝堂院朝庭の調査(飛鳥藤原第153次調査現地説明会資料	2,000	現地説明会見学者等

⑥科学研究費補助金による調査研究

国立文化財機構	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
82件	9件	2件	3件	12件	19件	37件

【東京国立博物館】　9件

	研究テーマ	名前	役職	区分	予算(千円)
1	博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究	神庭　信幸	学芸研究部保存修復課長	基盤研究(S)	41,860
2	法隆寺献納宝物聖徳太子絵伝の調査研究	原田　一敏	上席研究員	基盤研究(A)	7,280
3	博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築	井上　洋一	学芸企画部企画課長	基盤研究(A)	10,140
4	東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究	島谷　弘幸	学芸研究部長	基盤研究(B)	6,760
5	日本における木彫像の樹種と用材観に関する調査研究	金子　啓明	特任研究員	基盤研究(B)	2,600
6	東京国立博物館所蔵・正倉院関係資料の研究―「正倉院裂」を中心に―	澤田　むつ代	上席研究員	基盤研究(B)	4,940
7	国立博物館の機能と役割の変遷に関する基礎的研究―館史資料の分析を中心に―	丸山　士郎	学芸企画部博物館情報課情報管理室長	基盤研究(C)	1,300
8	東京国立博物館所蔵写真資料データベース	富田　淳	学芸研究部調査研究課長	研究成果公開促進費(データベース)	2,600
9	東京国立博物館所蔵古文書データベース	高梨　真行	学芸研究部調査研究課書跡・歴史室研究員	研究成果公開促進費(データベース)	1,800

【京都国立博物館】　2件

	研究テーマ	名前	役職	区分	予算(千円)
1	日本における木の造形的表現とその文化的背景に関する総合的考察	佐々木　丞平	館長	基盤研究(A)	8,320
2	建仁寺両足院に所蔵される五山文学関係典籍類の調査研究	赤尾　栄慶	学芸部企画室長	基盤研究(B)	4,160

【奈良国立博物館】　3件

	研究テーマ	名前	役職	区分	予算(千円)
1	奈良時代の仏教美術と東アジアの文化交流	湯山　賢一	館長	基盤研究(A)	18,460
2	古墳時代中期における対外交渉の特質と地域圏の形成・展開過程	吉澤　悟	学芸部教育室長	基盤研究(C)	1,300
3	統一新羅期の道具瓦集成	岩戸　晶子	学芸部工芸考古室研究員	若手研究(B)	1,560

【九州国立博物館】　12件

	研究テーマ	名前	役職	区分	予算(千円)
1	ＶＲ画像を活用した日本装飾古墳デジタルアーカイブの構築	河野　一隆	学芸部企画課文化交流展室長	基盤研究(A)	9,620
2	彩色水浸文物の保存科学的研究－中国江蘇省泗水王陵出土文物の保存－	今津　節生	学芸部博物館科学課環境保全室長	基盤研究(B)	3,380
3	トルキ山遼墓出土品から見た唐滅亡後の東アジアにおける工芸技術	臺信　祐爾	学芸部文化財課長	基盤研究(B)(海外)	7,540
4	近代工芸の美術史・産業史・地域史の基礎資料としての内国勧業博覧会出品作品の研究	伊藤　嘉章	学芸部企画課長	基盤研究(C)	1,170
5	博物館危機管理としての市民協同型ＩＰＭシステム構築に向けての基礎研究	本田　光子	学芸部博物館科学課長	基盤研究(C)	2,080
6	博物館におけるＸ線ＣＴスキャンデータの活用	鳥越　俊行	学芸部博物館科学課環境保全室研究員	基盤研究(C)	1,690
7	被災した近現代歴史資料の救済のための簡便な真空凍結乾燥法の開発	村田　忠繁	学芸部特任研究員	基盤研究(C)(一般)	1,040
8	古代東南アジアにおける三尊像図像の研究－タイ・ミャンマーの図像を中心に－	原田あゆみ	学芸部企画課特別展室研究員	若手研究(B)	2,080
9	室町時代の仏教絵画を中心とする東アジアの宗教美術に関する調査研究	畑　　靖紀	学芸部文化財課資料管理室研究員	若手研究(B)	1,040
10	埴輪に認められる赤色顔料についての基礎的研究	志賀　智史	学芸部博物館科学課保存修復室研究員	若手研究(B)	1,430
11	近世初期日本絵画における粉本使用例の基礎調査	金井　裕子	学芸部企画課文化交流展室研究員	若手研究(B)	910

	研究テーマ	名前	役職	区分	予算（千円）
12	近世初期対馬藩の政治構造と日朝交流	荒木　和憲	学芸部文化財課資料登録室研究員	若手研究（ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ）	1,729

【東京文化財研究所】19件

	研究テーマ	名前	役職	区分	予算（千円）
1	高松塚古墳壁画劣化要因微生物の遺伝・表現形質等基礎データの総合的構築	佐野　千絵	保存修復科学センター保存科学研究室長	基盤研究(A)	12,090
2	歴史的建造物を構成する部材の劣化と対策	石﨑　武志	保存修復科学センター長	基盤研究(B)	9,360
3	日本古代中世金銅仏の荘厳に関する調査研究	津田　徹英	企画情報部文化財アーカイブス研究室長	〃	2,340
4	太行山脈一帯に点在する仏教石窟群の包括的保護計画策定に関する日中共同研究	岡田　健	文化遺産国際協力センター保存計画研究室長	〃	2,340
5	効率的な防災施策提言のための地震動予測地図と文化財データベースの融合手法の構築	二神　葉子	文化遺産国際協力センター主任研究員	基盤研究(C)	650
6	燻蒸剤等各種殺虫・殺菌処理が文化財のタンパク質材質へ及ぼす影響の科学的検討	木川　りか	保存修復科学センター生物科学研究室長	〃	1,430
7	民俗芸能保護における「記録選択」の意義に関する調査研究	宮田　繁幸	無形文化遺産部長	〃	780
8	日本絵画の彩色材料に関する分析化学的調査研究	早川　泰弘	保存修復科学センター分析科学研究室長	〃	1,950
9	建築文化財における外観塗装材料の変遷と新塗料開発に関する研究	北野　信彦	保存修復科学センター伝統技術研究室長	〃	1,040
10	古文書および古典籍の修復と装幀形態に関する用語の研究	加藤　雅人	保存修復科学センター研究員	〃	910
11	古楽器の形態変化及びジャンル間の交流に関する総合研究	高桑　いづみ	無形文化遺産部無形文化財研究室長	〃	1,430
12	石窟壁画の劣化に影響を与える環境要素の予測と定量化に関する研究	宇野　朋子	文化遺産国際協力センター特別研究員	若手研究(B)	3,120
13	歴史的建造物の保存修復における無形的な要素に関する研究	ウーゴ・ミズコ	文化遺産国際協力センター客員研究員	〃	1,820
14	新しい展示照明光源－白色LEDに対する染料耐光性の検証	吉田　直人	保存修復科学センター主任研究員	〃	780
15	「エフタル期」の図像資料の特定と考察：バーミヤン、ソグド、クチャを中心に	影山　悦子	文化遺産国際協力センター特別研究員	〃	1,430
16	文化的景観における人と水環境の関係の研究－白川郷・五箇山の景観形成とその保存－	豊島　久乃	文化遺産国際協力センター特別研究員	〃	1,300
17	江戸前期町絵師の活動状況についての研究－尾形光琳を中心に	江村　知子	企画情報部研究員	〃	1,040
18	西アジア・トランスコーカサスにおける初期農耕経済の受容過程に関する考古学研究	有村　誠	文化遺産国際協力センター特別研究員	〃	1,300
19	中世仏教絵巻の制作・享受・交流の「場」とその文化史的背景に関する調査研究	土屋　貴裕	企画情報部研究員	若手研究（ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ）	1,560

【奈良文化財研究所】37件

	研究テーマ	名前	役職	区分	予算（千円）
1	木簡など出土文字資料釈読支援システムの高次化と総合的研究拠点データベースの構築	渡邉　晃宏	都城発掘調査部史料研究室長	基盤研究(S)	37,310
2	日中古代墳墓副葬品の比較研究	金田　明大	埋蔵文化財センター主任研究員	基盤研究(A)	8,970
3	古代東アジアにおける造瓦技術の変遷と伝播に関する研究	山崎　信二	副所長	基盤研究(A)	5,590
4	遺跡出土の建築部材に関する総合的研究	島田　敏男	都城発掘調査部遺構研究室長	基盤研究(A)	10,920
5	東アジアにおける家畜の伝播とその展開に関する動物考古学的研究	松井　章	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長	基盤研究(A)	13,000
6	霊廟建築における荘厳手法の総合的比較研究	窪寺　茂	文化遺産部建造物研究室長	基盤研究(B)	5,850
7	打音試験法及びアコースティックエミッション法による石造文化財の劣化診断技術の開発	高妻　洋成	埋蔵文化財センター保存科学研究室長	基盤研究(B)	2,990
8	南都における廃仏毀釈後の資料動態に関する調査研究	吉川　聡	文化遺産部歴史研究室長	基盤研究(B)	4,680

	研究テーマ	名前	役職	区分	予算（千円）
9	大極殿院の思想と文化に関する研究	内田　和伸	文化遺産部景観研究室長	基盤研究(B)	910
10	マイクロフォーカスＸ線ＣＴを用いた非破壊年輪年代法による木彫神像の研究	大河内　隆	埋蔵文化財センター主任研究員	基盤研究(B)	4,550
11	日本初期貨幣史の再構築	松村　恵司	都城発掘調査部長	基盤研究(B)	3,900
12	日韓出土土器による３・４世紀国際交流の研究	次山　淳	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究(C)	650
13	蓄積型自然放射線量とＸ線分析による古代ガラス・セラミックス材質の考古科学的研究	降幡　順子	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究(C)	1,430
14	律令国家の国郡成立過程に関する考古学的研究	山中　敏史	文化遺産部長	基盤研究(C)	1,950
15	文化的資産としての名勝地の概念とその適用に関する基礎的研究	平澤　毅	文化遺産部遺跡整備研究室長	基盤研究(C)	1,040
16	青銅製祭器の生産と流通からみた弥生時代の社会変化の研究	難波　洋三	都城発掘調査部考古第一研究室長	基盤研究(C)	1,300
17	古代の鉛調整加工技術に関する考古学的研究	小池　伸彦	企画調整部企画調整室長	基盤研究(C)	1,170
18	中国産木材の顕微鏡的特徴に関するデータベースの構築	伊東　隆夫	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究(C)	2,340
19	東アジアの鉛釉陶器-考古資料にみる鉛釉陶器生産と唐三彩の影響	神野　恵	都城発掘調査部考古第二研究室研究員	若手研究(B)	806
20	飛鳥藤原出土木簡の資料的検討と官司運営の復元	市　大樹	都城発掘調査部主任研究員	若手研究(B)	910
21	古代東アジアにおける火葬習俗の伝播に関する基礎的研究	小田　裕樹	都城発掘調査部考古第二研究室研究員	若手研究(B)	650
22	東アジアにおける文化遺産のオーセンティシティに関する比較研究	清水　重敦	文化遺産部主任研究員	若手研究(B)	1,040
23	倉の立地から見た集落構造とその景観文化：群倉型集落を事例として	黒坂　貴裕	都城発掘調査部遺構研究室研究員	若手研究(B)	1,040
24	古代都城儀式の歴史的変遷にかんする研究	山本　崇	都城発掘調査部主任研究員	若手研究(B)	1,170
25	定住民と遊牧民における埋葬体系の比較研究-ヨルダン南部を例として-	橋本　裕子	埋蔵文化財センター客員研究員	若手研究(B)	1,560
26	銅鏡にみる古代東アジアの文化交流	中川　あや	都城発掘調査部考古第三研究室研究員	若手研究(B)	1,040
27	縄文時代における、縄文原体からみた社会構造変化	石田由紀子	都城発掘調査部特別研究員	若手研究(B)	520
28	木簡の構文・文字表記パターンの解析・抽出研究	馬場　基	都城発掘調査部史料研究室研究員	若手研究(B)	2,600
29	弥生・古墳時代における東アジア墳墓出土鉄製武器の比較研究	豊島　直博	都城発掘調査部考古第一研究室研究員	若手研究(B)	1,300
30	古代工房の復原的比較研究－埴輪・須恵器・瓦の工房を中心に－	城倉　正祥	都城発掘調査部考古第一研究室研究員	若手研究(B)	1,820
31	古代中世東アジアにおける八角塔・八角堂の構造と意匠に関する研究	箱崎　和久	都城発掘調査部主任研究員	若手研究(B)	1,560
32	近世建造物の年代測定を目指した日本産ツガ属の年輪年代学的研究	藤井　裕之	埋蔵文化財センター客員研究員	若手研究(B)	910
33	南都諸大寺の中世寺院への転成過程に関する建築史学的研究	大林　潤	都城発掘調査部遺構研究室研究員	若手研究(B)	1,560
34	近代日本における洋風庭園の様式形成過程と空間デザインに関する研究	粟野　隆	文化遺産部遺跡整備研究室研究員	若手研究(B)	1,950
35	加飾壺の成立・展開からみた古墳祭祀の創出過程	廣瀬　覚	都城発掘調査部考古第一研究室研究員	若手研究（ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ）	819
36	動物遺存体に残された解体痕跡の基礎的研究	山崎　健	埋蔵文化財センター環境考古学研究室研究員	若手研究（ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ）	1,716
37	更新世末期における社会変化の研究	国武　貞克	都城発掘調査部考古第一研究室研究員	若手研究（ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ）	1,729

⑦客員研究員一覧

国立文化財機構	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
82人	12人	5人	6人	2人	37人	20人

【東京国立博物館】 12人

	氏　名（ 所 属 ）	研　究　課　題
1	田辺　龍太(財団法人切手の博物館学芸員)	東京国立博物館所蔵の切手に関する調査研究
2	水上嘉代子(財団法人遠山記念館学芸員)	東京国立博物館所蔵近世日本染織に関する研究
3	大脇　　潔(近畿大学文芸学部教授)	東京国立博物館所蔵古瓦の整理および、東京国立博物館所蔵の藤原宮および藤原京内寺院出土瓦に関する研究
4	金子　浩昌(元早稲田大学講師)	東京国立博物館所蔵原始・古代骨角製品に関する研究
5	東野　治之(奈良大学文学部教授)	法隆寺献納宝物「古今目録抄」に関する研究
6	小笠原小枝(日本女子大学家政学部教授)	東京国立博物館所蔵のインド更紗に関する研究
7	宮下　佐江子(古代オリエント博物館学芸課長)	西アジア古代ガラスの研究
8	沢田　正昭(国士舘大学２１世紀アジア学部教授)	金銅製考古遺物の保存と修理の研究
9	小野　博(美術刀剣研磨技師)	刀剣コレクションに関する保存状態の評価と保存修理の対策
10	松田　清(京都大学大学院人間・環境学研究科教授)	東京国立博物館所蔵の洋書及び関連資料の調査研究
11	丸山　清志	東洋民族オセアニア採集品の調査研究
12	松原　茂(財団法人根津美術館学芸部長)	東京国立博物館所蔵の絵画に関する研究

【京都国立博物館】 5人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	奥平　俊六（大阪大学大学院文学研究科教授）	等伯に関する調査研究
2	山田　奨治（国際日本文化研究センター研究部准教授）	文化財情報に関する調査研究
3	宇都宮　啓吾（大阪大谷大学文学部教授）	訓点資料としての典籍に関する調査研究
4	狩野　博幸（同志社大学文化情報学部教授）	近世絵画に関する調査研究
5	井上　一稔（同志社大学文学部教授）	彫刻に関する調査研究

【奈良国立博物館】 6人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	井出誠之輔（九州大学大学院人文科学研究院教授）	仏教絵画の調査及び整理
2	木村法光（元宮内庁正倉院事務所保存課長）	漆工品の調査及び研究
3	森　郁夫（帝塚山大学人文学部教授）	飛鳥・奈良時代の仏教考古、斑鳩地区出土瓦の調査及び整理
4	根立研介（京都大学大学院文学研究科教授）	仏教彫刻の調査と整理
5	板倉聖哲（東京大学東洋文化研究所准教授）	中国・朝鮮絵画の調査及び整理
6	米倉　迪夫（上智大学国際教養学部教授）	肖像画及び仏教説話画の研究

【九州国立博物館】 2人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	篠﨑　悠美子（別府大学文学部教授）	文化財の保存修復に関する研究
2	上宮　健吉(久留米大学比較文化研究所特別研究員)	文化財の生物被害対策について

【東京文化財研究所】37人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	吉田千鶴子（東京藝術大学美術学部非常勤講師）	文化財資料データベースの構築に関する研究
2	相澤正彦（成城大学文芸学部芸術学科教授）	研究プロジェクト「東アジアの美術に関する資料学的研究」の調査研究と研究助言
3	三上豊（和光大学表現学部教授）	近現代美術の調査研究および関連資料の整理・収集・公開に関する調査研究
4	森下正昭（上智大学国際教養学部非常勤講師）	研究プロジェクト「東アジアの美術に関する資料学的研究」の調査研究と研究助言
5	深津（福岡）裕子（女子美術大学・多摩美術大学非常勤講師）	工芸技術（主として染織関係）の伝承実態の調査
6	森下愛子	工芸技術（主として陶芸）の伝承実態の調査
7	服部比呂美(国立国会図書館国際子ども図書館非常勤調査員)	無形民俗文化財における風俗・慣習及び民俗技術分野の調査
8	大島暁雄(元文化庁文化財保護部伝統文化課主任文化財調査官)	「民族技術」及び民俗芸能以外の「風俗・慣習」に関する調査研究

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
9	上野智子（文化女子大学非常勤講師）	「文化遺産国際拠点交流事業」における海外諸機関との研究交流
10	星野紘（成城大学大学院文学研究科日本常民文化専攻非常勤講師）	「文化遺産国際拠点交流事業」における海外諸機関との研究交流
11	藤井義久（京都大学農学部准教授）	文化財の生物劣化対策の研究
12	白石靖幸（北九州市立大学国際環境工学部環境空間デザイン学科准教授）	環境のシミュレーション手法の研究
13	小椋大輔（京都大学大学院工学研究科建築学専攻助教）	環境のシミュレーション手法の研究
14	三村衛（京都大学防災研究所准教授）	古墳墳丘部の地盤工学的調査・研究
15	カリル・マグディ（エジプト治水・水利省、国際水利研究センター研究員）	環境のシミュレーション手法の研究
16	三浦定俊（独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所名誉研究員）	光学的方法による文化財の技法材料に関する研究
17	間淵創	保存環境調査や科学的手法による材料同定、薬剤等の材料影響に関する科学的分析・研究
18	呂俊民（株式会社竹中工務店技術研究所部長）	文化財公開施設の室内空気汚染と空気清浄化に関する研究
19	中右恵理子	キトラ古墳壁画修復に関する調査・研究
20	安部倫子（SDラボラトリー）	高松塚古墳壁画修復に関する調査・研究
21	板垣義郎（明和産業株式会社）	修復材料に関する調査・研究
22	横山晋太郎（かかみがはら航空宇宙科学博物館参事）	近代の文化遺産の保存修復に関する研究
23	舘川修（斎藤株式会社塗料事業部顧問）	伝統材料に関する調査研究
24	長島宏行（財団法人日本航空協会研究員）	近代の文化遺産の保存修復、特に航空機保存に関する調査・研究
25	小堀信幸（財団法人日本海事科学振興財団　船の科学館学芸部長）	近代の文化遺産の保存修復に関する調査・研究
26	前田耕作（和光大学名誉教授）	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業の推進に関する業務についての研究協力
27	岩井俊平（龍谷大学図書館事務部嘱託職員）	西アジア諸国等文化遺産保存修復事業に参加し、当該地域の遺跡保存に対して考古学的・美術史学的な研究を行う
28	鉾井修一（京都大学大学院工学研究科建築学専攻教授）	タイ・スコータイ遺跡スリチュム寺院において、大仏の表面に生物を発生しにくくさせる環境条件に関する研究
29	津村宏臣（同志社大学文化情報学部准教授）	文化財保存修復国際情報のデータベース化に関する研究
30	谷口陽子（筑波大学大学院人文社会科学研究科助教）	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業の推進に関する業務についての研究協力
31	高林（津村）弘実（玉川大学通信教育部非常勤講師）	壁画に見られる「劣化」現象に焦点をあて、莫高窟壁画の材料と技法の調査研究
32	ウーゴ・ミズコ	文化財保護施策の国際的研究にかかる調査研究のうち、欧米各国の文化財施策に関する調査研究および専門機関・専門家ネットワーク構築業務
33	青木繁夫（サイバー大学教授）	文化財国際コンソーシアムに関連する研究
34	西山伸一（サイバー大学准教授）	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業の推進に関する業務についての研究協力
35	柏谷博之	石造文化財の劣化と保存に対する植物の関与についての調査研究
36	安倍雅史（東京大学総合研究博物館非常勤職員）	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業の推進に関する業務についての研究協力
37	松岡秋子（株式会社絵画保存研究所）	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業の推進に関する業務についての研究協力

【奈良文化財研究所】20人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	綾村　宏（京都女子大学文学部教授）	日本中世史・古文書学
2	増井　正哉（奈良女子大学生活環境学部教授）	建築史・保存修景計・地域計画
3	宮城　俊作（奈良女子大学生活環境学部教授）	ランドスケープデザイン・都市デザイン
4	黒崎　直（富山大学人文学部教授）	日本考古学（弥生時代～古代・中世） 古代における宮殿・官衙・都城などに関する調査研究 遺跡の保存・整備・活用の政策及び施策に関する調査研究
5	高瀬　要一（元奈良文化財研究所文化遺産部長）	造園学（日本庭園史、遺跡修景） 古代庭園の成立・変遷に関する調査研究 遺跡の保存・整備・活用の計画及び手法に関する調査研究
6	川越　俊一（元奈良文化財研究所都城発掘調査部長）	７・８世紀土器基準資料の検討
7	巽　　淳一郎（京都橘大学文学部教授）	唐三彩・施釉陶器の研究

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
8	高橋　克壽（花園大学文学部准教授）	日本考古学及び東アジア考古学
9	西村　康（(財)ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所長）	遺跡探査及び測量
10	光谷　拓実(元奈良文化財研究所埋蔵文化財センター年代学研究室長）	年輪年代学、木材解剖学
11	百橋　明穂（神戸大学大学院人文学研究科教授）	日本美術史
12	竹本　晃（元奈良文化財研究所研究補佐員）	日本古代の政治組織の研究、日本古代の木簡の研究
13	佐藤　昌憲（元京都工芸繊維大学繊維学部教授）	有機質遺物の材質分析
14	茂原　信生（元京都大学霊長類研究所長）	自然人類学、動物考古学
15	松下　まり子（元神戸大学大学教育センター教務職員）	花粉分析（人と植物のかかわりについて）
16	橋本　裕子（元京都大学大学院理学研究科研修員）	埴輪研究・骨考古学（古人骨）
17	伊東　隆夫（元京都大学生存圏研究所教授）	木材組織学
18	藤井　裕之（元京都大学大学院生）	年輪年代学
19	西口　和彦（元兵庫県立考古博物館調査専門員）	遺跡探査
20	安田　龍太郎(元奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長）	遺跡及び発掘調査技術

b. ボランティア受入れ実績

1　受入人数

国立文化財機構	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	奈良文化財研究所
824人	171人	30人	102人	388人	131人

2　活動内容

【東京国立博物館】

種別　(登録人数)	概　　要
生涯学習ボランティア (164人)	1)来館者参加型ガイドツアーの実施 ・樹木ツアー　51回　1,229人参加 ・浮世絵展示解説　53回　1,495人 ・本館ハイライトツアー　89回　2,800人 ・法隆寺宝物館ガイドツアー　76回　1,710人 ・考古展示室ガイド　42回　1,026人 ・陶磁室エリアガイド　18回　365人 ・庭園茶室ツアー　16回　379人 ・お茶会　12回　549人 ・彫刻ガイド　24回　787人 ・英語ガイド　17回　275人 ・こどもたちのアートスタジオ　6回　78人 ・ガイドツアー 「東博桜めぐり」(20年3月20日～4月6日　計15日間　会期中毎日2回実施) 全日程　実施回数と人数　60回　1,274人 平成20年度内　実施回数と人数　32回　580人 「東博お花見ガイド」(21年3月24日～4月18日の火・木・土と3月29日　計13日間　各日2回×1～4グループ実施) 平成20年度内　実施回数と人数　18回　626人 「東博たてもの散歩」 (20年9月18日～11月16日の火・木・日　計24日　各日2回×1もしくは2グループ実施) 実施回数と人数　96回　964人 「探検！古代エジプト・西アジア」 (20年12月3日～21年2月11日の水・日　計18日　各日2回実施) 実施回数と人数　36回　650人 2)各種教育普及事業の補助活動の充実を図る 【総合的学習の時間対応】 ・スクールプログラム実施活動補助　(内容：就業体験) ボランティア対応学校数33校　生徒数117人 【教育普及事業の補助】 ・「みどりのライオン」ハンズオン体験コーナー補助 「わたしの鏡」　(平成20年1月6日～4月20日) 「魔鏡の不思議」(平成19年10月2日～平成20年6月1日) 「日本のもようでデザインしよう！」(平成20年6月9日～) ・博物図譜検索コーナー補助(4月1日～5月25日) ・夏休み小中学生向けワークショップ補助(6回) ・一般向けワークショップ補助(2回) ・「制作工程模型展示　押出仏ができるまで」鑑賞補助(平成20年2月26日～平成21年1月12日) ・「制作工程模型展示　仏頭ができるまで」鑑賞補助(平成21年3月31日～7月26日) ・「文化財を守る　－保存・修理－」(17室・通年)お客様対応 ・列品解説(39回)・各種講演会の実施補助(通年) ・教育普及事業の告知補助(「本日の博物館」シール貼替え・通年) 4)その他 【館内案内】 ・表慶館　(エントランス、体験の間、探求の間、出会いの間　平成19年4月17日～6月1日) ・本館　(エントランス、2階、17室　通年実施) ・「博物館でお花見を」期間の庭園開放中、庭園内のお客様案内 全日程　20年3月22日～4月6日　計14日間 平成20年度内　20年4月 1日～4月6日

種別　(登録人数)	概　　要
	【資料印刷・作成】 ・配布パンフレット「日本美術の流れ」／日本語　73,611部 ・特集陳列出品目録印刷 ・法隆寺宝物館出品目録印刷 ・ハンズオン体験コーナーリーフレットの印刷 【各種連携事業】 ・「留学生の日」(10月18日)内プログラム　ボランティアによる応挙館茶会(99名)，英語ガイドの実施，館内案内 ・台東区事業「外国人向け観光体験コース」における英語による本館ハイライトガイドの実施(8月30日) ・台東区立　一葉記念館　ボランティアガイド研修受け入れ(6月12日) 【障害者対応】 ・東京国立博物館紹介パンフレットの点訳版　配布 【研修の実施】 「車椅子」(6月20日) ガイドツアー「東博桜めぐり」、「東博たてもの散歩」、「探検！古代エジプト・西アジア」、「東博お花見ガイド」に係る研修 【解説会の実施】(以下の展示等につき実施) ・特集陳列「博物図譜」 ・ミュージアムシアター「マヤ文明 コパン遺跡」 ・特別展「国宝　薬師寺展」 ・平常展20室「着物」 ・ミュージアムシアター「宝冠」 ・特別展「フランスが夢見た日本− 陶器に写した北斎、広重」 ・特別展「対決− 巨匠たちの日本美術」「 ・特集陳列 親と子のギャラリー「博物館の水族館」 ・特別展「スリランカ− 輝く島の美に出会う」 ・ミュージアムシアター「江戸城− 本丸御殿と天守− 」 ・特別展「大琳派展」 ・ミュージアムシアター「法隆寺献納宝物　国宝 金銅灌頂幡　飛鳥の天人」 ・特別展「未来をひらく福沢諭吉展」 ・特別展「妙心寺」 【博物館実施イベント事業の補助】 博物館実施のイベントに際し、チラシなどの配布物の準備・入場受付・お客様の誘導および会場整理などの補助 ・博物館でお花見を　夜桜コンサート ・「国宝　薬師寺展」関連イベント(記念対談、特別講演会、ガイダンス) ・ハーバード大学・クロコディロス　無料コンサート ・エフゲニ・ザラフィアンツ　ピアノコンサート ・記念シンポジウム「フランスのジャポニスムー陶磁器を中心にー」 ・特別展「対決− 巨匠たちの日本美術」関連事業 記念座談会 ・ワヤン講演「クレスノ使者に立つ」 ・納涼東博寄席 ・記念講演会「足利樺崎寺と大日如来像、そして運慶」 ・マンデルリング弦楽四重奏団コンサート ・三館合同企画「更紗を語る」 ・堀正文ヴァイオリンコンサート ・ウィッキーさんトークショー ・大田佳弘　ピアノコンサート ・東京国立博物館コンサート　彌勒忠史 ・新春東博寄席 ・東京国立博物館ニューイヤーコンサート 2009 ・東京国立博物館スプリングコンサート　異色−ピアノと尺八− ・保存と修復見学ツアー 【その他】 多言語案内告知バッジ作成

種別　(登録人数)	概　　要
東京芸術大学学生 ボランティア(7人)	【ギャラリートーク班】6名 各自テーマに基づき6名が5回ずつ(前・後期10回)実施 ＜前期テーマ＞　9～11月　計27回　824名参加 ・「南蛮図屏風と泰西騎士像-まだ見ぬ西洋イメージの源泉-」 浦木賢治　平成20年10月22･29日、11月8･12日　参加人数130名 ・「青木繁「筑後風景」-最期に見たふるさと-」 五味良子　平成20年9月5･12･19･25･27日　参加人数128名 ・「「前九年合戦絵巻」を観る-絵巻に描かれた人々の姿-」 中垣千尋　平成20年10月9･16･24･26･31日　参加人数145名 ・「京都・浄瑠璃寺蔵「地蔵菩薩立像」-平安王朝の信仰と優美」 丹村祥子　平成20年9月3･10･17･24･26日　参加人数179名 ・「日本中世の来迎図-屏風にいらした阿弥陀様-」 原瑛莉子　平成20年9月6･13･15･18･20日　参加人数154名 ・「中国絵画の至宝-李迪・梁楷と「瀟湘臥遊図巻」-」 和田千春　平成20年10月11･19日、11月1日　参加人数88名 ＜後期テーマ＞　1～3月　計30回　889名参加 ・「沈銓筆「鹿鶴図屏風」と南蘋派　ー流行する新たな中国花鳥画ー」 浦木賢治　平成21年1月8･9･14･15･17日　参加人数98名 ・「海を渡った明治の工芸　ーJapanese Crafts at the World's Columbian Exposition in Chicago, 1893ー」 五味良子　平成21年1月18･21･22･25･28日　参加人数94名 ・「「男山蒔絵硯箱」　ー仰ぐ峰より出づる月影 ー」 中垣千尋　平成21年2月7･12･18･24･27日　参加人数142名 ・「京都・大将軍八神社「男神坐像」　ー神の像と仏の像ー」 丹村祥子　平成21年1月30日、2月･4･6･11･13日　参加人数163名 ・「武蔵鐙の文と竹ー重切花入　ー利休の書状を読むー」 原瑛莉子　平成21年1月6･7･10･11･12日　参加人数170名 ・「室町時代の関東水墨画　ー阿弥派から雪村へー」 和田千春　平成21年2月21･25･26･28日、3月1日　参加人数222名 【制作工程模型班】1名 制作工程模型「裏彩色-隠れた色彩の効果-」について1名が5回実施 ・「裏彩色-隠れた色彩の効果-」 古賀海人　平成21年2月17･19・21･22・25日　参加人数165名 合計　62回　1878名　参加

【京都国立博物館】

・京都橘大学学生による平常展解説(8月5日～8月29日の火・水・金(13時30分～、15時～))(24人)
・調査・研究支援ボランティア(6人)

種　別　(登録人数)	概　　要
京都橘大学学生による平常展解説 ボランティア(24人)	京都橘大学との学術協定に基づき、当館研究員が事前講習を行い、8月5日から8月29日までの毎火・木・金曜日の午後1時30分、3時からの2回、平常展示館1階展示室にて、展示作品の解説を実施。
調査・研究支援ボランティア(6人)	当館研究員が行う収蔵品調査・社寺調査等の調査・研究業務を支援

【奈良国立博物館】

種　別　(登録人数)	概　　要
解説ボランティア(91人)	・展示会場での作品解説(平常展のみ)　延べ320日 ・学校団体グループ案内(事前予約制　平常展、一部の特別陳列のみ)　57件 ・その他団体グループ案内(事前予約制　平常展、一部の特別陳列のみ)　60件 ・講堂での作品解説(正倉院展のみ)　102回 ・公開講座、サンデートーク等の支援　30回 ・世界遺産学習の対応　36件
イベントボランティア (11人)	次のイベントにおける配布物の準備、会場設営、入場受付、会場整理、案内等の補助 ・第二回奈良博寄席 ・まほろば寄席ー奈良国立博物館落語ｼﾘｰｽﾞ第3回ー ・第60回正倉院展記念　まほろば寄席ー奈良国立博物館落語ｼﾘｰｽﾞ第4回ー ・高田泰治によるチェンバロの世界　大バッハ、奈良に降臨！！ ・仏像ガールってなんですか　～仏像の魅力を大いに語る

【九州国立博物館】

種　別　（登録人数）	概　　要
展示解説ボランティア（85人）	文化交流展示室での展示物解説、及び？ボックスにおいて来館者の質問等に対応。 展示物解説は予約団体（一般・学校）、当日受付（個人・グループ）に対応。
教育普及ボランティア（70人）	「あじっぱ」で来館者への対応。 来館者と展示物を介して交流し、体験を通してアジアの文化を伝える。
館内案内ボランティア（37人）	館内の概要・施設案内（ガイド）およびバックヤードツアーの案内。 館内案内は予約団体（一般・学生）、及び当日来館者に対応。 バックヤードツアーも毎週火・金曜は予約団体のみ、日曜は当日受付で実施。
外国語通訳ボランティア（77人）	英語・韓国語・中国語で、館内のガイド、バックヤードツアーの案内、及び 文化交流展示室での展示物解説を行う。
環境ボランティア（36人）	ＩＰＭ（総合的有害生物管理）活動に関する支援。
イベントボランティア（13人）	お正月、昭和の日、七夕関連のボランティアイベントの企画・立案・実施。
資料整理ボランティア（19人）	郷土人形（土人形）の調書の作成。
サポートボランティア（30人）	ボランティア広報紙の作成や他部会のボランティアの活動のサポート。 ボランティア同士の横のつながりや、他館ボランティアとの交流の構築
学生ボランティア（21人）	他部会のボランティアの活動のサポート。 各種イベントの企画・立案・実施。

（研修）全体研修10回、部会別・グループ研修98回

（対応来館者数）展示解説(6,213人)、館内案内(8,876人)、バックヤードツアー(3,118人)

※ただし、予約団体のみで、当日受付対応は含まず。

【奈良文化財研究所】

種　別　（登録人数）	概　　要
解説ボランティア（131人）	平城京跡資料館、遺構展示館、復原建物等の案内・解説

・各種ボランティアに対する学習会等

専門研修	8日間／年
平城宮跡クリーンフェスティバル	1日間／年
『続日本紀』読書会	1日間／月
清掃活動	3日間／年

c. ウェブサイト（ホームページ）のアクセス件数

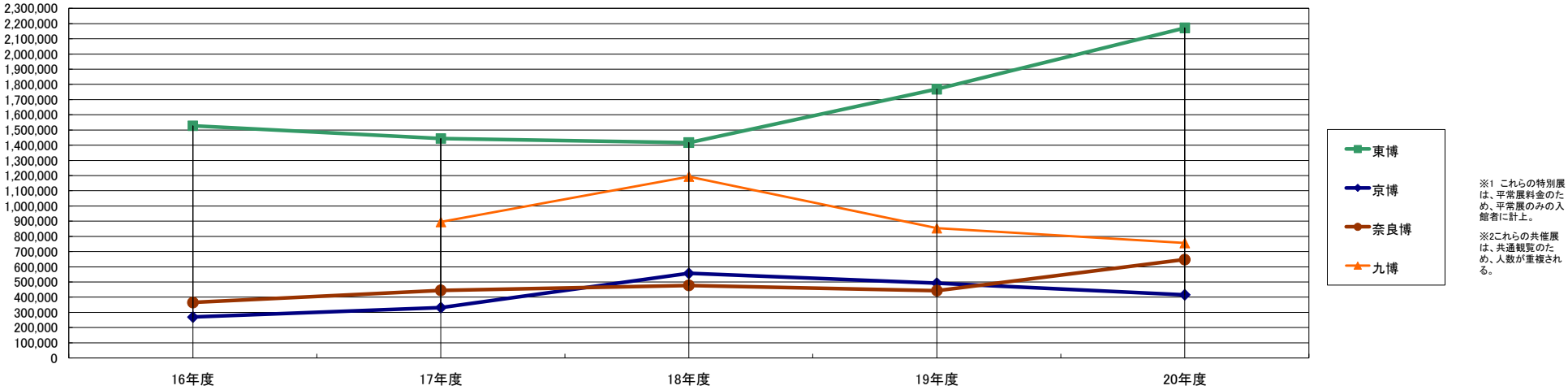
博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
13,551,529件	5,211,261件	1,409,634件	1,230,774件	5,699,860件
文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
2,106,989件	1,405,278件		701,711件	

d. 展示

①入館者数

年度				16	17	18	19	20
国立文化財機構	総入館者数			2,161,818	3,115,134	3,645,023	3,764,567	4,193,381
	平常展	計		543,976	820,033	1,147,804	1,095,925	1,041,212
		有料	一般	250,359	421,836	634,662	506,568	461,649
			高校生	57,819	73,556	102,470	99,428	90,861
			大学生					
			小・中生	—	—	—	—	—
			友の会	41,875	60,524	68,557	82,744	78,718
		無料	一般	—	—	—	106,078	116,058
			小・中生	67,030	114,371	189,496	175,712	134,489
			高校生	12,591	11,234	13,828	15,270	16,192
		招待者等		112,768	138,512	138,791	122,228	143,245
	特別展	計		1,617,842	2,295,101	2,497,219	2,668,642	3,152,169
		有料	一般	1,024,415	1,450,830	1,674,220	1,769,987	2,003,625
			高・大生	84,706	110,305	124,212	131,777	116,329
			小・中生	17,546	52,863	55,681	27,172	60,359
			友の会	68,958	72,202	91,580	86,194	51,276
		無料	小・中生	31,331	24,944	21,681	65,033	52,769
		招待者等		390,886	583,957	529,845	588,479	867,811
東京国立博物館	総入館者数			1,527,677	1,443,719	1,417,195	1,768,198	2,171,942
	平常展	計		309,884	340,989	361,773	334,297	412,675
		有料	一般	148,737	158,662	179,924	165,190	210,423
			高校生	—	—	—	—	—
			大学生	32,906	34,908	32,734	28,514	27,225
			小・中生	—	—	—	—	—
			友の会等	34,942	49,451	55,649	52,862	65,232
		無料	小・中生	27,470	31,844	31,540	26,471	35,261
			高校生	14,125	11,234	13,828	15,270	16,192
		招待者等		51,704	54,890	48,098	45,990	58,342
	特別展	計		1,217,793	1,102,730	1,055,422	1,433,901	1,759,267
		有料	一般	791,838	634,606	685,137	946,113	1,162,200
			高・大生	59,416	56,744	59,466	80,862	64,854
			小・中生	—	314	3,177	—	—
			友の会	51,145	50,598	60,958	52,662	12,988
		無料	小・中生	31,331	24,944	19,729	50,499	38,903
		招待者等		284,063	335,524	226,955	303,765	480,322
京都国立博物館	総入館者数			269,111	331,605	556,770	492,414	416,001
	平常展	計		147,935	153,174	146,752	165,080	141,965
		有料	一般	63,378	62,974	57,283	67,586	54,043
			高・大生	17,655	16,628	15,821	21,182	17,631
			小・中生	—	—	—	—	—
			友の会	4,938	4,814	4,460	5,968	3,915
		無料	小・中生	12,466	13,635	21,988	15,325	13,674
		招待者等		49,498	55,123	47,200	55,019	52,702
	特別展	計		121,176	178,431	410,018	327,334	274,036
		有料	一般	67,568	102,393	249,037	197,198	157,900
			高・大生	8,184	13,656	26,903	17,763	16,264
			小・中生	1,785	3,676	6,749	4,279	2,858
			友の会	6,167	7,476	15,133	12,092	11,348
		無料	小・中生	—	—	1,952	—	—
		招待者等		37,472	51,230	110,244	96,002	85,666
奈良国立博物館	総入館者数			365,030	444,712	477,638	442,914	647,854
	平常展	計		86,157	113,983	137,739	131,336	112,849
		有料	一般	38,244	45,569	59,868	58,914	47,099
			高・大生	7,258	9,452	10,569	9,919	7,777
			小・中生	—	—	—	—	—
			友の会	1,995	3,056	4,888	4,188	2,708
		無料	小・中生	27,094	36,134	39,852	48,069	35,209
		招待者等		11,566	19,772	22,562	10,246	20,056
	特別展	計		278,873	330,729	339,899	311,578	535,005
		有料	一般	165,009	172,986	264,119	235,865	370,001
			高・大生	17,106	16,467	13,786	13,430	19,907
			小・中生	15,761	11,172	19,682	6,463	12,393
			友の会	11,646	10,545	8,423	9,790	14,544
		招待者等		69,351	119,559	33,889	46,030	118,160
九州国立博物館	総入館者数				895,098	1,193,420	854,138	756,918
	平常展	計			211,887	501,540	341,282	241,423
		有料	一般		154,631	337,587	207,350	142,538
			高・大生		12,568	43,346	37,835	36,858
			小・中生		—	—	—	—
			友の会		3,203	3,560	7,623	6,863
		無料	小・中生		32,758	96,116	81,707	47,402
		招待者等			8,727	20,931	6,767	7,762
	特別展	計			683,211	691,880	512,856	515,495
		有料	一般		540,845	475,927	356,430	285,004
			高・大生		23,438	24,057	16,981	12,103
			小・中生		37,701	26,073	16,430	45,108
			友の会		3,583	7,066	11,650	12,396
		招待者等			77,644	158,757	111,365	160,884
黒田記念館	総入館者数						13,707	19,038
	平常展	計					13,707	19,038
		無料	一般				13,707	19,038
平城宮跡資料館	総入館者数						85,486	92,597
	平常展	計					85,486	92,597
		無料	一般				85,486	92,597
藤原宮跡資料室	総入館者数						6,885	4,423
	平常展	計					6,885	4,423
		無料	一般				6,885	4,423
飛鳥資料館	総入館者数						100,825	84,608
	平常展	計					17,852	16,242
		有料	一般				7,528	7,546
			高・大生				1,978	1,370
		無料	小・中生				4,140	2,943
		招待者等					4,206	4,383
	特別展	計					82,973	68,366
		有料	一般				34,381	28,520
			高・大生				2,741	3,201
		無料	小・中生				14,534	13,866
		招待者等					31,317	22,779

独立行政法人国立文化財機構特別展入館者数（16～20年度）

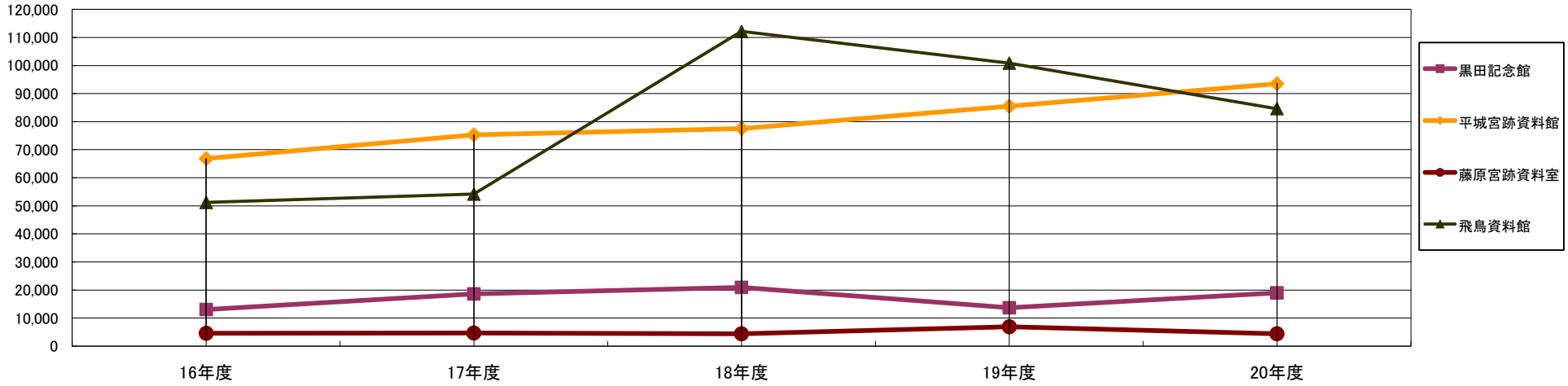


※1 これらの特別展は、平常展料金のため、平常展のみの入館者に計上。

※2これらの共催展は、共通観覧のため、人数が重複される。

	16年度（国立博物館）		17年度（国立博物館）		18年度（国立博物館）		19年度（国立文化財機構）		20年度（国立文化財機構）	
計	総　合　計	2,161,818	総　合　計	3,115,134	総　合　計	3,645,023	総　合　計	3,764,567	総　合　計	4,193,381
	平常展のみの入館者	543,976	平常展のみの入館者	820,033	平常展のみの入館者	1,147,804	平常展のみの入館者	1,095,925	平常展のみの入館者	1,041,212
	特別（共催）展計	1,617,842	特別（共催）展計	2,295,101	特別（共催）展計	2,497,219	特別（共催）展計	2,668,642	特別（共催）展計	3,152,169
東博	総　計	1,527,677	総　計	1,443,719	総　計	1,417,195	総　計	1,768,198	総　計	2,171,942
	平常展のみの入館者	309,884	平常展のみの入館者	340,989	平常展のみの入館者	361,773	平常展のみの入館者	334,297	平常展のみの入館者	412,675
	特別（共催）展計	1,217,793	特別（共催）展計	1,102,730	特別（共催）展計	1,055,422	特別（共催）展計	1,433,901	特別（共催）展計	1,759,267
	特別展「空海と高野山」	270,878	特別公開　中宮寺　国宝・菩薩半跏像	36,835	特別展「最澄と天台の国宝」	197,859	特別展「レオナルド・ダ・ヴィンチ　天才の実像」	689,775	特別展「国宝 薬師寺展」	742,910
	特別展「万国博覧会の美術」	150,672	特別展「世界遺産　博物館島ベルリンの至宝展」	337,475	特別展「プライスコレクション　若冲と江戸絵画展」	317,712	特別展「京都五山　禅の文化」展	108,917	特別展「フランスが夢見た日本」	58,342
	特別展「中国国宝展」	272,754	特別展　「模写・模造と日本の美術」	※1（104786）	特別展「仏像　一木にこめられた祈り」	335,489	特別展「大徳川展」	425,492	特別展「対決－巨匠たちの日本美術」	326,784
	特別展「国宝 鑑真和上像と盧舎那仏展」	402,921	特別展　「遣唐使と唐の美術」	99,812	特別展「悠久の美　中国国家博物館名品展」	98,133	特別展「宮廷のみやび―近衛家1000年の名宝」	157,718	特別展「スリランカ-輝く島の美に出会う-」	80,865
	特別展「踊るサテュロス」	73,914	特別展「華麗なる伊万里・雅の京焼」	95,090	特別展「マーオリ　楽園の神々」	※1(72,720)	特別展「国宝 薬師寺展」	51,999	特別展「大琳派展－継承と変奏－」	308,213
	特別公開「中宮寺　国宝・菩薩半跏像」（～3/31）	46,654	特別展「北斎展」	332,939	特別展「レオナルド・ダ・ヴィンチ　天才の実像」	106,229			特別展「未来をひらく福澤諭吉」展	73,128
			特別展「書の至宝」	185,334					特別展「妙心寺」	151,833
			特別公開「国宝・天寿国繍帳と聖徳太子」	※1（4,414）					特別展「STORY OF･･･」	4,915
			特別展「最澄と天台の国宝展」	15,245					特別展「国宝　阿修羅展」	12,277
京博	総　計	269,111	総　計	331,605	総　計	556,770	総　計	492,414	総　計	416,001
	平常展のみの入館者	147,935	平常展のみの入館者	153,174	平常展のみの入館者	146,752	平常展のみの入館者	165,080	平常展のみの入館者	141,965
	特別（共催）展計	121,176	特別（共催）展計	178,431	特別（共催）展計	410,018	特別（共催）展計	327,334	特別（共催）展計	274,036
	特別展「南禅寺」	62,665	特別展「曽我蕭白展－無頼という愉悦－」	45,964	特別展「大絵巻展」	186,772	特別展「藤原道長　－極めた栄華・願った浄土－」	37,411	特別展「絵画の冒険者　暁斎 kyosai」	76,686
	特別展「神々の美の世界」	41,731	特別展「龍馬の翔けた時代」	49,830	特別展「開館記念110周年記念　美のかけはし」	59,280	特別展「狩野永徳」	230,656	特別展「japan 蒔絵」	67,050
	特別展「古写経－聖なる文字の世界－」	16,780	特別展「最澄と天台の国宝展」	82,637	特別展「京焼―みやこの意匠と技―」	25,283	特別展「憧れのヨーロッパ陶磁」	59,267	特別展「京都御所ゆかりの至宝」	116,363
					特別展「京都御所障壁画－御常御殿と御学問所－」	138,683			特別展「妙心寺」	13,937
奈良博	総　計	365,030	総　計	444,712	総　計	477,638	総　計	442,914	総　計	647,854
	平常展のみの入館者	86,157	平常展のみの入館者	113,983	平常展のみの入館者	137,739	平常展のみの入館者	131,336	平常展のみの入館者	112,849
	特別（共催）展計	278,873	特別（共催）展計	330,729	特別（共催）展計	339,899	特別（共催）展計	311,578	特別（共催）展計	535,005
	特別展「法隆寺－日本仏教美術の黎明－」	73,716	特別展「曙光の時代-ドイツで開催した日本考古展-」	26,688	特別展「大勧進　重源」	41,813	特別展「神仏習合」	40,493	特別展「天馬 －シルクロードを翔ける夢の馬－	31,910
	特別展「黄金の国・新羅－王陵の至宝－」	26,407	特別展「古密教－日本密教の胎動」	32,250	特別展「北村昭斉―漆の技―」	14,571	特別展「美麗　院政期の絵画」	22,696	特別展「国宝　法隆寺金堂展」	132,919
	特別展「第56回正倉院展」	131,978	特別展「遣唐使と唐の美術」	21,196	特別展「第58回正倉院展」	283,515	特別展「第59回正倉院展」	248,389	特別展「西国三十三所-観音霊場の祈りと美」	106,411
	特別展「厳島神社国宝展」	43,380	特別展「第57回正倉院展」	234,391					特別展「第60回正倉院展」	263,765
	特別展「曙光の時代-ドイツで開催した日本考古展-」	3,392	特別展「金沢文庫の名宝-鎌倉武家文化の精華-」	16,204						
			特別展「公慶上人-江戸時代の大仏復興と奈良-」							
九博			総　計	895,098	総　計	1,193,420	総　計	854,138	総　計	756,918
			平常展のみの入館者	211,887	平常展のみの入館者	501,540	平常展のみの入館者	341,282	平常展のみの入館者	241,423
			特別（共催）展計	683,211	特別（共催）展計	691,880	特別（共催）展計	512,856	特別（共催）展計	515,495
			開館記念特別展「美の国 日本」	441,938	特別展「中国　美の十字路」	10,690	特別展「未来への贈りもの－中国泰山石経と浄土教美術－」	77,380	特別展「国宝 大絵巻展 」	115,740
			特別展「中国　美の十字路」	241,273	特別展「うるま　ちゅら島　琉球」	177,478	特別展「日本のやきもの－選び抜かれた名宝120点」	50,986	特別展「島津の国宝と篤姫の時代」	152,420
					特別展「南の貝のものがたり」	63,560	特別展「本願寺展－親鸞と仏教伝来の道」	197,697	特別展「国宝　天神さま」	174,698
					特別展「発掘された日本列島2006」		特別展「京都五山　禅の文化」展	171,336	特別展「工芸のいま　伝統と創造」	72,637
					特別展「海の神々－捧げられた宝物」	139,981	特別展「国宝 大絵巻展 」	15,457		
					特別展「プライスコレクション　若冲と江戸絵画展」	300,171				

独立行政法人国立文化財機構特別展入館者数（16～20年度）



	16年度（文化財研究所）		17年度（文化財研究所）		18年度（文化財研究所）		19年度（国立文化財機構）		20年度（国立文化財機構）	
計	**総　合　計**	**135,638**	**総　合　計**	**152,731**	**総　合　計**	**215,120**				
	平常展のみの入館者	**107,554**	**平常展のみの入館者**	**119,175**	**平常展のみの入館者**	**119,223**				
	特別（共催）展計	**28,084**	**特別（共催）展計**	**33,556**	**特別（共催）展計**	**95,897**				
黒田記念館	総　計	13,083	総　計	18,596	総　計	20,975	総　計	13,707	総　計	19,038
	平常展のみの入館者	13,083	平常展のみの入館者	18,596	平常展のみの入館者	20,975	平常展のみの入館者	13,707	平常展のみの入館者	19,038
	特別（共催）展計		特別（共催）展計		特別（共催）展計		特別（共催）展計		特別（共催）展計	
平城宮跡資料館	総　計	66,802	総　計	75,267	総　計	77,560	総　計	85,486	総　計	92,597
	平常展のみの入館者	66,802	平常展のみの入館者	75,267	平常展のみの入館者	77,560	平常展のみの入館者	85,486	平常展のみの入館者	92,597
	特別（共催）展計		特別（共催）展計		特別（共催）展計		特別（共催）展計		特別（共催）展計	
藤原宮跡資料室	総　計	4,560	総　計	4,707	総　計	4,457	総　計	6,885	総　計	4,423
	平常展のみの入館者	4,560	平常展のみの入館者	4,707	平常展のみの入館者	4,457	平常展のみの入館者	6,885	平常展のみの入館者	4,423
	特別（共催）展計		特別（共催）展計		特別（共催）展計		特別（共催）展計		特別（共催）展計	
飛鳥資料館	総　計	51,193	総　計	54,161	総　計	112,128	総　計	100,825	総　計	84,608
	平常展のみの入館者	23,109	平常展のみの入館者	20,605	平常展のみの入館者	16,231	平常展のみの入館者	17,852	平常展のみの入館者	16,242
	特別（共催）展計	28,084	特別（共催）展計	33,556	特別（共催）展計	95,897	特別（共催）展計	82,973	特別（共催）展計	68,366
	特別展「飛鳥の湯屋」	12,381	特別展「飛鳥の奥津城」	17,512	特別展「キトラ古墳と発掘された壁画たち」	76,738	特別展「キトラ古墳壁画四神玄武」	67,007	特別展「キトラ古墳壁画十二支ー子・丑・寅ー」	51,471
	特別展「古代の梵鐘」	13,131	企画展「古墳を飾る」	3,214	特別展「飛鳥の金工」	12,029	企画展「「とき」を撮すー発掘調査と写真ー」	3,344	企画展「飛鳥　古寺巡礼」	3,658
	企画展「豊山長谷寺本堂」	2,572	特別展「東アジアの古代苑池」	10,867	企画展「東アジアの十二支像」	3,816	特別展「奇偉荘厳　山田寺」	9,342	特別展「まぼろしの唐代精華」	11,695
			特別展「うずもれた古文書」	1,963	企画展「発掘調査速報展」	3,314	速報展「飛鳥の考古学2007」	1,589	企画展「飛鳥の考古学2008」	1,542
							企画展「絵で見る考古学ー早川和子原画展」	1,691		

③入場料収入

（単位：円）

	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
国立文化財機構	645,640,470	818,092,976	1,034,937,495	1,081,301,672	1,159,630,962
東京国立博物館	407,855,470	339,699,448	391,263,820	514,039,330	611,637,800
京都国立博物館	58,892,260	89,638,610	144,399,600	130,218,030	126,305,930
奈良国立博物館	178,892,740	195,659,750	246,395,770	228,339,500	265,576,036
九州国立博物館		193,095,168	252,878,305	182,000,762	134,177,251
飛鳥資料館				24,975,310	20,121,140
東京文化財研究所黒田作品共催展				1,728,740	1,812,805

④平常展・特別展

【東京国立博物館】

(1)平常展

1)開館期間　4月1日～21年3月31日(310日間)　　平常展のみの開館日数　90日間
2)会　　場
　①本　館　1階、2階
　②東洋館　1階、2階、3階
　③法隆寺宝物館　1階、2階
　④平成館　1階
　⑤黒田記念館　2階
3)陳列品総件数　7,172件(うち国宝127件、重要文化財670件)
　①本館・平成館企画展示室　3,698件(うち国宝69件、重要文化財273件)
　②東洋館　2,067件(うち国宝8件、重要文化財65件)
　③法隆寺宝物館　395件(うち国宝16件、重要文化財219件)
　④平成館考古展示室　1,012件(うち国宝34件、重要文化財113件)
　⑤黒田記念館　59件(うち国宝0件、重要文化財2件)
4)陳列替回数　延べ319回
5)入場料金　一般600円、大学生400円
6)特集陳列　全79件

①本館・平成館
●国宝　◎重要文化財　○重要美術品

場所	テーマ	開催期間	陳列件数(国宝・重文)
本館2階 9室	能「箙」の面・装束	20年2月19日(火)～4月20日(日)	14(0.0)
	＜主な作品＞法被 金地蜀江模様、厚板唐織　緑白段檜垣梶葉模様		
	江戸時代の能面・能装束、あるいは舞楽衣裳、歌舞伎衣裳など江戸の芸能に使用された衣裳を中心に、年6回の陳列を行った。能面・能装束の展示では、謡曲にあわせて能面と装束を組み合わせて展示を行い、来館者にわかりやすい展示をこころがけた。		
本館1階 14室	お雛様と人形	20年2月26日(火)～4月6日(日)	35(0.0)
	＜主な作品＞享保雛、衣装人形 鶴亀		
	三月三日のひなまつりにちなんで、恒例の雛壇飾りのほか、嵯峨人形、衣装人形、地方の雛人形などを特集陳列した。江戸時代を中心とする日本の伝統的な人形を展覧し、現代に息づく人形文化の源流をたどる機会とした。		
本館2階 特別1室	絵巻ー模本が伝える失われた姿ー	20年3月11日(火)～4月6日(日)	9(0.0)
	＜主な作品＞天狗草紙　興福寺巻(模本)、大山寺縁起絵巻(模本)巻1		
	王朝文学や寺社の縁起、高僧の生涯、著名な合戦、朝廷行事の記録など、さまざまな主題内容を、内容説明の詞書とそれに対応する絵で構成した絵巻物。平安時代以降、やまと絵の発展とともに多様な展開を遂げ、無数の作品が制作されてきた。それらの中には、現在に至るまでの間に行方のわからなくなったものや災害等で消失したものも多い。今回の展示は、そうした失われた絵巻たちを模本を通じて見ていただくものであった。同時に、日本美術における模本制作という行為がもつ意味の一端も知っていただこうとするものであった。		
本館1階 13室	室町時代の漆芸	4月1日(火)～6月29日(日)	24(0.5)
	＜主な作品＞◎初瀬山蒔絵硯箱、◎扇散蒔絵手箱		
	奈良時代末以降わが国で独自の発展を遂げた蒔絵の技術は、室町時代には完成の域に達し、ほぼすべての手法が出揃う。この時代は唐物全盛の時代でもあり、中国の鎗金を写した沈金、彫漆に学んだ鎌倉彫などの技法も大いに隆盛をみた。各種技法による当代の作品を集め、室町時代漆芸の多様な姿をご覧いただいた。		
本館1階 15室	アイヌの生業	4月1日(火)～6月29日(日)	51(0.0)
	＜主な作品＞船模型、アットゥシ、帯織機、罠、矢筒・矢、マキリ		
	「アイヌの生業」をテーマとして展示した。アイヌ民族の主要な生業である紡織および狩猟・漁撈にちなんだ道具を中心に、船や家の模型もあわせて紹介した。『蝦夷島奇観』等の写真パネルを多く用いて、展示品の使用された場面がより具体的にイメージできるよう工夫を行った。		
本館1階 16室	歴史を伝えるシリーズ　博物図譜 ―日本的研究の展開―	4月1日(火)～5月25日(日)	25(0.0)
	＜主な作品＞遠西舶上画譜、博物館写生図		
	もともと日本の博物学は、中国から輸入した本草学にはじまるが、享保年間(1716～35)頃から幕府が実施した全国産物調査を契機に、物産学が盛んになり、田村藍水、平賀源内らの学者が活躍した。さらにシーボルトなどの来日を機に、西洋博物学が本格的に紹介され、日本にも優れた科学的研究が展開した。江戸の博物学者らによって描かれたさまざまなジャンルにわたる楽しい博物図をご覧いただいた。		
本館1階 14室	高麗茶碗	4月8日(火)～7月27日(日)	19(0.0)
	＜主な作品＞無地刷毛目茶碗　銘村雲、○大井戸茶碗 銘 有楽、青井戸茶碗　銘 土岐井戸、魚屋茶碗　銘峯雪		
	高麗茶碗は朝鮮の地方窯で焼かれた雑器が日本の茶人の目にとまって茶碗として取り上げられ、やがて好みの茶碗を注文して焼かせるようになったもので、いわば日本文化に帰化した朝鮮陶磁ということができる。東京国立博物館所蔵の高麗茶碗は、松永安左エ門氏および広田松繁氏の寄贈品を中心に、井戸、魚屋、彫三島など多くの品種にわたっている。館蔵の高麗茶碗を19点まとめて展示し、高麗茶碗の魅力と展開を紹介した。		

本館1階 特別5室	仏像の道―インドから日本へ	4月8日(火)～21年4月5日(日)	21(0.4)
	＜主な作品＞如来坐像、◎如来坐像、◎如来三尊仏龕		
	これまで東洋館、本館、法隆寺宝物館に展示されていた仏像を一堂に会し、紀元2世紀のガンダーラから、中央アジア、中国、朝鮮半島をへて８世紀の奈良に至るまで、600年にわたる仏像の流れを概観する。仏像の誕生、中国への伝来、唐と奈良などのテーマを設け、それぞれの時代・地域で、どのような仏像が造られ、人々の信仰を集めていたかを紹介した。		
本館2階 9室	舞楽装束―その歴史的変遷を見る―	4月22日(火)～ 6月15日(日)	22(0.0)
	＜主な作品＞裲襠 紅地牡丹唐草模様金襴、縹平絹地蛮絵袍		
	平安時代に宮廷貴族の間で愛好され、今もなお伝統芸能として行われる舞楽を、芸能装束の観点からその歴史的変遷をたどる。室町時代の遺品である高野山天野社伝来の装束のほか、京都・東寺に遺された鎌倉時代の蛮絵袍の模造なども展示し、鎌倉時代から江戸時代にかけて、舞楽装束のデザインや色彩がどのように変化していったのかを見る機会とした。		
平成館 企画展示室	海外の日本美術品の修復	5月13日(火)～5月25日(日)	7(0.0)
	＜主な作品＞日吉山王祭礼図屏風、多武峯維摩会本尊図、花卉螺鈿ライティングビューロー		
	東京文化財研究所が行ってきた海外所在の日本美術の保存修復事業を紹介した。1991年、文化庁、外務省、国際交流基金、東京文化財研究所が共同で始めた在外日本古美術品保存修復事業は、当初アメリカ合衆国内の機関が所蔵する日本絵画の修復への協力として始まった。その後、範囲をヨーロッパ諸国へ拡大し、絵画だけでなく漆芸品や武器・武具なども対象に加えた。今回の展示では、2007年度に修復の完了した作品7件を展示した。		
本館1階 16室	歴史を伝えるシリーズ　日本を歩く―奥羽・東北―	5月27日(火)～7月6日(日)	34(0.1)
	＜主な作品＞◎奥州道中分間延絵図、東遊雑記、高村光太郎書、中尊寺金色堂実写図(基壇正面)		
	現在の東北地方は古代より陸奥と出羽の両国が設置されたことから「奥羽」または「奥州」と呼ばれてきた。基本的に奥羽山脈をはさみ、太平洋側が陸奥、日本海側が出羽と考えられている。また多賀城が設置され早くから畿内との結びつきが強かった南東北、畿内政権の影響力が弱く、俘囚や奥州藤原氏の本拠となっていた北東北、といった古代からの南北区分もある。今回の展示では、広大な奥州の地の文化や歴史、または奥州を舞台にした文学や旅行記などを紹介した。		
本館2階 9室	能「善知鳥」の面・装束	6月17日(火)～8月3日(日)	12(0.0)
	＜主な作品＞唐織 茶地格子菊折枝模様、厚板 浅葱地笹蝶模様		
	謡曲「善知鳥」をテーマに、謡曲に登場する人物がつける能面・能装束を組み合わせて、江戸時代の能面・能装束を展示した。実際の舞台を見るような立体感のあるわかりやすい展示をこころがけ、能面・能装束だけではなく、日本の伝統芸能である能そのものに来館者に関心を持っていただく機会とした。		
本館2階 特別1・2室	平成19年度新収品	6月17日(火)～7月13日(日)	36(0.1)
	＜主な作品＞古筆手鑑　毫戦、帝鑑図屏風、◎雨下猛虎図鐔、伝大日塚古墳出土品一括、パディ・イン・ヘルのミイラの包み布		
	昨年度の新収品から36件を選び、陳列した。新収品を通じ、文化財の収集という当館の事業の一端をご理解いただく展示をした。		
平成館 企画展示室	親と子のギャラリー　「博物館の水族館」	6月25日(水)～8月31日(日)	55(0.3)
	＜主な作品＞◎青花魚藻文壺、◎褐釉蟹貼付台付鉢、鯰、◎巻貝形土製品、銅製鯱		
	夏休み恒例の「親と子のギャラリー」として、本年は当館所蔵のさかなや貝、亀や蟹など海や川で暮らす生き物をモチーフに用いた作品を集めて展示した。展示はケースを水槽に見立て、まるで水族館にいるかのように楽しみながら一つ一つの作品を鑑賞できるように工夫した。会期中、ギャラリートークや関連ワークショップを行った。		
本館1階 15室	琉球の工芸	7月1日(火)～9月28日(日)	56(0.0)
	＜主な作品＞ドギン、浅葱地竹桜紅葉毬模様紅型衣装、大世通宝、キンカブ、カラカラ、厨子甕、菊堆錦食籠		
	第二尚氏時代を中心とした琉球の工芸作品を陳列した。これまでの琉球民俗資料陳列と同様、『琉球国奇観』等の写真パネルを多く用いて、作品の使い方等を具体的にイメージできるよう工夫をした。		
本館1階 16室	歴史を伝えるシリーズ　古写真―古美術の記録―	7月8日(火)～8月3日(日)	25(0.0)
	＜主な作品＞墺国維府博覧会出品撮影、第一回観古美術会写真；絵画之部・彫刻之部、牙彫鷹置物		
	写真は19世紀前半にヨーロッパで発明されるや、日本には早くも幕末にもたらされた。これはまさしく西欧の科学技術との出会いであったわけで、苦心の末、日本人の手による撮影に成功したものが「島津斉彬像」(銀板写真)である。これは近代化を急ぐ鹿児島藩ならではの出来事だったが、「写真術」は以降国内 に普及していった。当館でも幕末・明治期の古写真を数多く所蔵しており、それらは失われた記憶の記録であると同時に優れて芸術表現の手段でもある。昨年その一部を紹介したが、今回の特集では美術品を撮影した古写真を紹介した。		
本館1階 11室	六波羅蜜寺の仏像	7月10日(木)～9月21日(日)	13(0.10)
	＜主な作品＞僧形坐像(伝平清盛像)、地蔵菩薩立像、薬師如来坐像		
	平安時代、街を遊行して念仏を弘めた空也上人が天暦5年(951)に開いた西光寺は、貞元2年(977)天台別院となり六波羅蜜寺と改称した。周囲は鳥辺野という葬送の地だったが、平安時代後期には平清盛が付近に邸宅を構えた。今回の特集陳列では創建期に空也が造営した四天王像のうちの持国天立像をはじめ、通常六波羅蜜寺の宝物館に陳列されている作品を展示した。		
本館1階 12室	二体の大日如来像と運慶様の彫刻	7月10日(木)～9月21日(日)	8(0.2)
	＜主な作品＞大日如来坐像、◎大日如来坐像、阿弥陀如来坐像、十二神将立像 巳神		
	運慶は平安時代末期から鎌倉時代初期に活躍した仏師である。天平彫刻が残る奈良の地で活躍した仏師集団に所属し、古典を学んで写実的で運動感に富む新鮮な作風を創造した。運慶は奈良や京都といった旧来の需要層にとどまらず、鎌倉幕府という新しい勢力による造像も多く手がけた。頼朝の岳父北条時政が発願した静岡・願成就院の諸像などがそれで、近年発見された、運慶作品と考えられる光得寺と真如苑所蔵の二体の大日如来像も御家人の足利義兼発願である可能性がある。それらの像をつうじて、関東にも運慶の作風が広がった。この陳列では運慶自身の造像である可能性が極めて高い二体の大日如来像と、関東などに残る		

	運慶の作風にならった像、運慶の孫が造った像などを陳列し、鎌倉時代における運慶の役割を示した。		
本館1階 14室	那智山出土仏教遺物	7月29日(火)～11月16日(日)	24(0.0)
	＜主な作品＞金銅呉越王八万四千塔、銅鋳出薬師如来立像、銅大壇具、金剛界成身会曼荼羅		
	熊野三山の一つ和歌山県東牟婁郡那智勝浦町に所在する那智山は、とくに一滝とも呼ばれる那智滝が、神体として古くから人々の篤い信仰の対象となってきた。それを裏づけるように那智滝参道からは、経筒、仏像、仏具、鏡像など夥しい仏教に関係する遺物が発見された。遺物の量、種類の多さからわが国を代表する山岳仏教遺跡に上げられる那智山を当館収蔵品によって紹介した。		
本館2階 9室	能「三井寺」の面・装束	8月5日(火)～9月21日(日)	13(0.0)
	＜主な作品＞唐織 淡茶紅緑段霞菊地紙模様、縫箔 紫地竹地紙模様		
	謡曲「三井寺」をテーマに、謡曲に登場する人物がつける能面・能装束を組み合わせて、江戸時代の能面・能装束を展示した。実際の舞台を見るような立体感のあるわかりやすい展示をこころがけ、能面・能装束だけではなく、日本の伝統芸能である能そのものに来館者に関心を持っていただく機会とした。		
本館1階 16室	歴史を伝えるシリーズ　災害　―博物館と震災―	8月5日(火)～9月15日(月)	26(0.0)
	＜主な作品＞上野博物館　図面、大正震災焼跡写生図		
	大正12年(1923)9月1日の関東大震災は、京浜地方に壊滅的な被害をもたらした。東京帝室博物館では、陳列館として使用していた建物のうち、第1号館(コンドル設計の旧本館)、第2号館(第1回内国勧業博覧会の美術館)、第3号館(第3回内国勧業博覧会の参考館)が大きな損害を受けたが、翌年4月には表慶館での展示が再開された。当時の写真や絵画資料などをとおして、博物館と震災についての展示を行った。		
平成館 企画展示室	茶人好みのデザイン～彦根更紗と景徳鎮	9月9日(火)～10月19日(日)	52(0.0)
	＜主な作品＞〇五彩唐草文鉢、青花人物文六角皿、青花捻文瓢形徳利、色絵花鳥文輪花鉢、更紗裂(彦根更紗)		
	更紗と中国のやきものは、いずれも日本に運ばれ、その文様の構成と色使いで江戸時代の人々の眼を楽しませ、現在でも人気が高い。この特集陳列では、当時の日本人の日常を華やかに、楽しく彩ったであろう、青花と五彩の代表作品と、彦根更紗のなかでも中国・日本向けと考えられるデザインの作品を取り上げ、紹介した。祥瑞と、染織のデザインからの影響関係がうかがえるとして、日本の古九谷様式の陶磁器も一部紹介した。		
本館1階 16室	歴史を伝えるシリーズ　医学 ―博物館の医学資料 ―	9月17日(水)～10月26日(日)	30(1.1)
	＜主な作品＞◉医心方、◎銅人形		
	明治時代、博物局は江戸幕府の医学館の旧蔵書を引き継いだ。博物館の所管の変更にともない、その大半を内閣文庫、宮内庁書陵部に移管したが、博物館として必要な医学書は残された。また、博物館は銅人形や人体解剖模型など、医学と密接に関わる多くの資料を今日に伝えている。陳列では医学館の旧蔵書をはじめとする医学関係資料によって、日本の医学の歴史を紹介した。		
本館2階 特別1室	仮面	9月17日(水)～10月26日(日)	36(0.16)
	＜主な作品＞◎舞楽面　崑崙八仙、◎行道面　菩薩		
	日本の仮面の特集陳列として昨年度の「館蔵能面名品撰」に続き、奈良時代の伎楽面、平安時代から鎌倉時代の舞楽面、鎌倉時代の行道面を展示した。舞楽面、行道面が実際に用いられている場面の写真パネルを合わせて掲示した。		
本館2階 9室	安土桃山時代の能装束	9月23日(火)～11月9日(日)	11(0.7)
	＜主な作品＞◎縫箔紅白段短冊八橋雪持柳模様、◎摺箔 紫地色紙葡萄模様		
	現代の能舞台で使用されている能装束の形態や着付方は江戸時代中期以降、幕府の式楽の中で様式化された型である。安土桃山時代にはその型とはまったく異なる形態の装束が着用されていた。今回は安土桃山時代の唐織・縫箔・法被・素襖などを展示し、様式化される以前の能装束を見る機会とした。		
本館1階 15室	北方民族の祈り	9月30日(火)～21年1月4日(日)	50(0.0)
	＜主な作品＞イナウ、アットゥシ、首飾、アイヌ鍬形、子熊の飾り、ムックリ		
	「北方民族の祈り」をテーマとして展示した。アイヌおよび樺太ウィルタの人びとが祈りの場で使用した祭具や衣服、装身具などとともに、熊送りに関する作品を多く展示した。『蝦夷島奇観』等の写真パネルを多く用いて、展示品の使用された場面がより具体的にイメージできるよう工夫した。		
本館2階 特別2室	キリシタン―大航海時代のキリシタン遺物―	10月7日(火)～11月16日(日)	52(0.31)
	＜主な作品＞泰西騎士像、◎天正遣欧使節記、◎キリスト像		
	15世紀の終わりごろから16世紀にかけて、ポルトガルとスペインは新天地を求めて、未知の世界への航海に出かけた。1549年、イエズス会の宣教師フランシスコ・ザビエルが来日し、キリスト教の布教が始まり、信徒の数は次第に増えていった。1579年にはヴァリニャーノが、セミナリオやコレジオなどの教育機関を設立し、音楽、語学、美術などの西欧の教育が実践され、絵画などの優れた作品が制作されたという。陳列では、大航海時代のキリシタン遺物を紹介し、東西文化の交流の諸相をご覧いただいた。		
本館1階 16室	歴史を伝えるシリーズ　世界への扉―東京国立博 物館の洋書コレクション―	10月28日(火)～12月7日(日)	16(0.0)
	＜主な作品＞草木誌、スリナム産昆虫変態図譜(フランス語版)、日本誌		
	あまり知られていないことだが、東京国立博物館は16世紀以降ヨーロッパで刊行された書籍の原本を、かなりの数保管している。これらの書籍は古くはオランダを通じて江戸幕府が入手したものから、幕末の開国に伴って輸入されたもの、さらに明治時代以降、寄贈や購入によって博物館の所蔵に帰したものなど、さまざまな伝来をたどって、現在に至っている。今回、日本人の世界知識に大きな影響を与えた書籍や外国人による日本研究書のうち代表的なものを紹介するとともに、歴史的な洋書の形態や工芸的な美しさについても理解を深めていただけるような展示にした。		
平成館 企画展示室	高野コレクション―浅井忠の作品	10月28日(火)～12月7日(日)	20(0.0)

	＜主な作品＞婦人像、読書、グレー風景		
	実業家高野時次氏の蒐集による、明治の洋画家浅井忠の作品は、油彩画11点、水彩・デッサン56点、掛軸6点の計73点におよび、浅井の円熟した画技を示す滞欧期の水彩画を多く含んでいる。高野コレクションは、この浅井作品全73点が、昭和60年(1985)に氏のご遺志によりご遺族の方々から当館に一括寄贈されたものである。今回の特集陳列では、このコレクションのうち留学中の作品に注目し、フランスで描いた油彩画や水彩画の作品20点をご覧いただいた。滞欧中に描いた画面に光を感じさせる詩情あふれる浅井作品の魅力を堪能していただけるまたとない機会となった。		
本館2階 特別1室	装飾料紙と鑑賞料紙	11月5日(水)～12月14日(日)	20(1.3)
	＜主な作品＞◎寸松庵色紙(秋のつき)、◉古今和歌集(元永本)、松浦宮物語		
	平安時代中期から鎌倉時代中期にかけて、宮廷貴族層が和歌などを書写する際に好んで用いた料紙には、金銀や雲母を用いた優美な装飾や、打紙、布目打ちなど 様々な加工が施されている。これらの料紙は、主に中国あるいは日本の各地で生産されたものである。現在、東京国立博物館では、こうした書道資料の書風と料紙に関わる研究を進めている。今回は、料紙の紙質、文様などの科学的な分析や、作品の伝来や鑑賞のあり方を伝える表具などの調査をもとに、書道資料のさらに興味深い側面を紹介した。		
本館2階 9室	歌舞伎衣裳	11月11日(火)～12月21日(日)	14(0.0)
	＜主な作品＞小忌衣 浅葱天鵞絨地菊水模様、羽織 浅葱繻子地雪輪に南天模様、着付 浅葱繻子地雪輪に南天模様		
	本館9室では、年に6～7回の展示替のうち1回、江戸時代後期の歌舞伎衣裳を展示している。今回は、大奥で活躍した女性の歌舞伎役者であるお狂言師・坂東三津江が使用した衣裳、および、アンリー夫人寄贈の歌舞伎衣裳を中心に、参考作品として江戸時代の伝統を引き継ぐ赤姫役の振袖も展示し、姫役・殿様役などの衣裳を紹介した。		
本館1階 14室	自在置物―本物のように自由に動かせる昆虫や蛇 ―	11月18日(火)～21年2月1日(日)	31(0.0)
	＜主な作品＞12種昆虫、龍、蝶、蛇、鷹		
	鉄あるいは銅、銀などで動物、鳥、甲殻類、昆虫を作り、しかもそれが本来的に持っている体、手足などを動かすことのできる機能までを追求した置物を自在置物と称している。自在置物が制作されたのは江戸時代中期ころからと思われ、現存作では正徳3年(1713)銘の龍がもっとも古い。また作者は明珍姓を名乗る者がほとんどで、甲冑師が制作したことが分かる。おそらく平和な時代となって甲冑の制作が少なくなったため、鉄の鍛錬技術を活かして、こうした置物を従事するようになったと考えられる。江戸時代中期から末期には写実が絵画だけでなく工芸でも流行するが、自在置物は写実から可動にまで進んだ特殊な金工品として注目される。また、明治から昭和にかけては輸出を目的とした色金を多様した昆虫も多く作られた。当館は龍、鷹、蛇を所蔵しているが、この自在置物を集めて陳列したことはなく、今回は館蔵以外の作品も借用して、その多様な自在置物を紹介した。		
本館1階 16室	歴史を伝えるシリーズ　文化財の保護	12月9日(火)～21年1月25日(日)	19(0.0)
	＜主な作品＞宝物目録、九面観音立像(模造)、宝物精細簿・参攷簿類		
	東京国立博物館をはじめとする文化財所有者は、文化財の公開とともに保護についても大きな責任を負っている。このことを広く知っていただくために、当館では昨年に文化財保護の出発点として知られる、明治5年実施の「壬申検査」を紹介した。それに続く今回の特集では、明治20年代に行われた「臨時全国宝物取調」について紹介した。「臨時全国宝物取調」は、「壬申検査」で得た経験をもとに行われ、わが国で初めて全国的な文化財の所在・現状の把握を企図し、国家的な水準で価値付けされたもので、後の指定制度につながる文化財保護の基本的事業であった。展示では当時の文書や記録から、いかに全国的な規模で取り組まれ、また調査に伴って制作された模写・模造品に近代の絵画、彫刻を志す多彩な人物たちが関わっていたことを紹介した。		
平成館 企画展示室	古代技術の保存と復元 － 古墳時代金属器の修理・ 模造・復元 －	12月16日(火)～21年2月8日(日)	64(1.1)
	＜主な作品＞復元模造「漢委奴國王」金印、復元模造 金銅冠、●復元修理 短甲残片、復元修理 鞍金具残片、現状模造 三角縁同向式神獣鏡、復元模造 直刀、円頭柄頭の製作工程復元資料		
	博物館では文化財の保存・展示のために修理や模造などを実施しているが、考古資料は劣化や破損・変形等による原形の喪失が著しく、復元的修理や保存・記録化を図る現状模造、製作当初の姿を再現する復元模造も行われる。考古資料相互活用促進事業の11年目となる今年度は、福島県文化財センター白河館蔵の古墳時代金属器の修理・復元模造品を中心に、当館蔵の明治から昭和初期や近年の復元修理・現状模造・復元模造例を比較して、博物館の修理・模造・復元品における展示のあり方を考えた。		
本館2階 9室	厚板	12月23日(火)～3月1日(日)	11(0.1)
	＜主な作品＞厚板 藍白段籠目唐草模様◎厚板 金紅片身替詩歌模様		
	能の舞台において男性役に用いられる厚板は、表着の下に着用されるため舞台では目立たない。しかし、そのデザインには、時代が下るとともに多様化していく技術や、男性役にふさわしい唐様の模様など、見えない部分にもこだわっていた様相が伺える。今回の展示では、舞台では見ることのできない厚板の全体像を、色とデザインに注目してみていただく機会とした。		
本館2階 特別1室	豊かな実りを祈る－美術のなかの牛とひと－	21年1月2日(金)～1月25日(日)	26(0.2)
	お正月にちなんだ恒例の特集陳列として、本年の干支である丑(牛)をあらわした作品を展示した。牛は古く、家畜とされて、労働の道具や衣服の材料、娯楽など人類に役立つものを多々もたらした。とりわけて信仰の場において五穀豊穣の祈りなどと結びつき、さまざまな造形となってあらわされている。本展示において、日本及び東洋で牛と人がどのように関わったのかを作品を通じてご覧いただいた。		
平成館 考古展示室	長野県の弥生土器・土師器・須恵器 -土器の変遷と 生活の変化-	21年1月2日(金)～3月15日(日)	29(0.0)
	＜主な作品＞甕、壺、土師器 小型丸底壺、土師器 把手付甑、須恵器 坏		
	今年度の考古資料相互貸借事業の一環として、長野県立歴史館から借用した、弥生時代から古墳時代の土器を展示した。これらの土器はいずれも集落遺跡から出土したものであり、弥生時代から古墳時代にかけての生活の変化を、土器の移り変わりから見ていこうとするものである。なお、当館には、古墳時代以降の集落出土資料が乏しく、今回の借用によって、このような展示が可能になった。		
本館1階 15室	アイヌの文様	21年1月6日(火)～3月29日(日)	55(0.0)
	＜主な作品＞前掛、アットゥシ、樺皮箱、マキリ、盆、トナカイ皮製容器		
	「アイヌの文様」をテーマとして展示した。アイヌ民族の代表的な文様であるモレウとよばれる渦巻き文を中心に、祭具や衣服、工具や木工品などに施された多彩な飾りや文様を紹介した。アイヌ民族のものだけでなく、樺太ニブヒやウィルタの人びとがつ		

	くりだした文様についても紹介した。『蝦夷島奇観』等の写真パネルを多く用いて、展示品の使用された場面がより具体的にイメージできるよう工夫した。		
本館1階 16室	歴史を伝えるシリーズ　博物館の歴史　―書籍館 旧蔵本を中心に―	21年1月27日(火)～3月15日(日)	40(0.1)
	＜主な作品＞書籍館総絵図、◎塵袋、拾芥抄、古今珎物集覧		
	明治2年、政府は徳川幕府の開成所・昌平坂学問所・医学館などの文教施設を併合して大学校を設立し、それまでに収蔵されていた旧幕府の書籍類を接収した。 博物館の開館にともない、文部省は、これらの書籍類を1ヵ所に集め一般公開するため書籍館を設けた。その後、移転して改称した浅草文庫の14万点の蔵書は、大部分が所管の官庁に返却されたが、博物館の業務に関わる資料は、現在に引き継がれている。これらの資料から、博物館の歴史をかいまみた。		
本館1階 14室	おひなさまと人形	21年2月3日(火)～3月15日(日)	55(0.0)
	＜主な作品＞船鉾人形		
	三月三日の桃の節句にちなみ、毎年恒例の雛飾りの特集を行った。今回は、大名家の雛道具や江戸時代後期に江戸で流行した古今雛のほか、機巧人形、京都の伝統工芸である御所人形をテーマに展示した。		
本館2階 特別1室	画家の手紙	21年2月3日(火)～3月15日(日)	19(0.0)
	＜主な作品＞書状		
	江戸時代の画家の手紙に焦点をあてるこの特集陳列では、全件に釈文を添え、内容に踏込んで鑑賞いただく機会とした。近世画家像が、絵画作品を主体に語られることが多いなかで、自筆書状に焦点をあてることにより、画家の素顔や内面の一端を浮かび上がらせ、従来の画家像に膨みを与えたい。3巻13幅からなる 「画家手簡帖」(B-1374)は、近世から近代初頭の画家の手紙約66点を網羅する作品である。これまでも「日本美術の流れ　書画の展開」で部分的に活用してきたが、今回は掛物を一堂に展示する初めての機会となった。		
平成館 企画展示室	東京国立博物館コレクションの保存と修理	21年2月17日(火)～3月29日(日)	20(0.0)
	＜主な作品＞大色紙、菩薩坐像、十文字槍、唐花草螺鈿合子、埴輪 椅子残欠		
	東京国立博物館が手がける保存と修理の成果を、よりわかりやすく紹介するため、平成19年度に修理が完了した作品を中心に、全19点を展示した。さまざまな分野、形態、技法の作品を取り上げ、また修理過程で得られた情報などを詳細解説として紹介することにより、博物館が担う文化財修理の役割に広い理解を期待した。		
本館1階 18室	黒田清輝のフランス留学	21年3月3日(火)～4月12日(日)	34(0.1)
	＜主な作品＞智・感・情、自画像(トルコ帽)、編物、読書、婦人像(厨房)		
	平成19年4月に独立行政法人国立博物館と独立行政法人文化財研究所が統合され、独立行政法人国立文化財機構が発足したことを記念して行う第3回目の特集陳列。今回の特集陳列では、渡欧時代の作品を中心に、東京国立博物館に収蔵される黒田の代表的作品のほかに、特別に東京芸術大学所蔵の「婦人像(厨房)」などをあわせて展示し、師であるラファエル・コランの作品などとともに留学時代の黒田作品によって、黒田の近代洋画史に残る輝かしい業績をご覧いただいた。		
本館1階 14室	蒔絵硯箱	21年3月17日(火)～5月31日(日)	25(0.2)
	＜主な作品＞◎塩山蒔絵硯箱、◎蔦細道蒔絵文台硯箱		
	現在まで伝わる中世の蒔絵の名品はほとんどが手箱か硯箱であり、蒔絵硯箱は身近な空間をかざった調度の代表格ということができる。この展示では、硯箱に見られる精細な蒔絵表現の他、硯箱の様々な形式や、絵の中に描かれた硯箱を示し、硯箱を使う人の様子や蒔絵硯箱の多彩な姿から、人々が硯箱に込めてきた思いを感じとっていただいた。		
本館1階 16室	歴史を伝えるシリーズ　日本の食文化	21年3月17日(水)～4月19日(日)	39(0.0)
	＜主な作品＞料理物語、精進料理素人庖丁		
	日本の料理は，長い間の日本人の食生活の中で形成されてきた。室町時代ころの貴族や武士たちがおかずとした魚貝類の干物、塩蔵品などが洗練されて日本料理へと進化し、儀式の料理では、包丁のさばき方や盛りつけなど、流派ごとに秘伝がつくられた。また、茶の湯の発達にともなって懐石料理が生まれている。江戸時代に入ると、さまざまな料理書が出版され、調理技術や器具の普及などが、さらに日本料理の幅を拡げた。江戸時代中期ころから、各地に料理屋が出現し、料理を楽しむ風潮があらわれ、文化・文政期には料理書の出版が急増した。展示では、料理書をとおして、日本の食文化の歴史を紹介した。		
平成館 考古展示室	古墳時代の人々 -人物埴輪の表情と所作-	21年3月17日(火)～9月6日(日)	39(0.0)
	＜主な作品＞埴輪 太鼓を叩く男子、埴輪 挂甲の武人、埴輪 入れ墨のある男子頭部、埴輪 右手に棒を握る女子、埴輪 頭に壺を載せる女子頭部		
	東京国立博物館には多数の人物埴輪が収蔵されているが、完全な形として残っているものは少ない。ただし、一部が欠落しているものの造形的に極めて優れたものもある。そこで、本特集陳列では人物埴輪の様ざまな表情や所作がわかる資料を中心にして、古墳時代の人々の姿にせまった。		
本館1階 13室	根来塗－朱漆の美－	21年3月24日(火)～6月14日(日)	27(0.2)
	＜主な作品＞朱漆折敷・摯子、朱漆三脚盤		
	中世の寺院で日常に用いられた器や調度で、黒漆の上に朱漆を塗り重ねたものを根来塗と称する。永年の使用で中塗の黒漆が表面にあらわれて朱漆と調和し、巧まざる味わいをみせるものが多い。瓶子・高杯・折敷など様々な器種をとりあげ、時を経た朱漆塗の魅力に触れていただいた。		
本館2階 特別1・2室	酒呑童子	21年3月24日(火)～4月19日(日)	22(0.0)
	＜主な作品＞酒呑童子絵巻　巻上、酒呑童子絵巻(模本)巻中、酒呑童子絵巻(模本)巻下、酒呑童子図		
	平成19年度に新たに出品となった「酒呑童子絵扇面」の紹介を中心として、狩野派の「酒呑童子絵巻」の祖本となった室町時代末の狩野元信筆「酒呑童子絵巻（模本)」、桃山様式を示す当館所蔵の伝狩野孝信筆「酒呑童子絵巻」、現在原本の知られない江戸時代初期の狩野探幽筆「酒呑童子絵巻(模本)」を加えて、場面比較を行いながら、室町時代から江戸時代初期にかけて流行した「酒呑童子絵巻」を特集紹介した。		

本館2階			
9室	能「国栖」の面・装束	21年3月31日(火)～5月24日(日)	13(0.0)
	＜主な作品＞舞衣 紅地丁字立涌牡丹模様、狩衣 紺地雲龍丸模様		
	謡曲「国栖」をテーマに、謡曲に登場する人物がつける能面・能装束を組み合わせて、江戸時代の能面・能装束を展示した。実際の舞台を見るような立体感のあるわかりやすい展示をこころがけ、能面・能装束だけではなく、日本の伝統芸能である能そのものに来館者に関心を持っていただく機会とした。		
本館1階			
15室	アイヌの狩猟と漁撈	21年3月31日(火)～6月28日(日)	36(0.0)
	＜主な作品＞アットゥシ、漁具模型、銛(キテ)、銛(マレク)、矢筒・矢、船模型		
	アイヌの狩猟と漁撈をテーマとして陳列した。狩猟や漁撈に際して使用された道具および様ざまな模型などを陳列した。『蝦夷島奇観』等の写真パネルを多く用いて、展示品の使用された場面がより具体的にイメージできるよう工夫した。		

②東洋館

●国宝　◎重要文化財　○重要美術品

場所	テーマ	会期	陳列件数(国宝・重文)
第3室	山本達郎氏寄贈の東南アジア彫刻	20年2月13日(火)～5月6日(日)	21(0.0)
	＜主な作品＞女神像、如来頭部、男女像		
	平成18年度に寄贈された故山本達郎氏旧蔵品21件を展示した。山本氏は東南アジア史、南アジア史、中国史などの研究者で、寄贈品もこれらの地域の作品で構成されており、その全容を紹介した。		
第3室	西アジア　遊牧民の染織	20年2月13日(火)～5月6日(日)	22(0.0)
	＜主な作品＞ソウマク・パイル織袋裂段花鳥幾何学文様、綴織祈祷用敷物 橙藍地ミフラーブ幾何学形文様		
	アフガニスタンの遊牧民族によって製作されたハンドメイドの毛織物、イラン以前にペルシャで製作された歴史ある錦や日常生活の中で活用された毛織物などを陳列した。多様に展開するアジア各国の染織を通して、気候や生活スタイルに沿ったそれぞれの国と地域における染織文化を展覧した。		
第5室	端物切本帳	20年2月13日(火)～5月6日(日)	2(0.0)
	＜主な作品＞男羽織 古渡唐桟縞、端物切本帳		
	中国やインドより渡来した唐桟縞を接ぎ合わせて作られた男羽織を中心に、端物切本帳136冊の中から、中国に由来する裂地を展示した。		
第4・5室	封泥	20年3月4日(火)～6月1日(日)	51(0.0)
	＜主な作品＞「皇帝信璽」封泥		
	封泥は、戦国時代から漢時代にかけての制度を知る上で重要な歴史資料である。同時にすぐれた篆刻作品でもある封泥の魅力をつたえた。		
第8室	蘭亭序	20年3月4日(火)～5月6日(日)	21(0.0)
	＜主な作品＞褚模蘭亭序(宋拓)、呉炳本蘭亭叙、宋拓定武蘭亭帖、独孤本蘭亭叙、國学本蘭亭序		
	王羲之が永和9年(353)に揮毫した蘭亭序を入手した唐の太宗は、名家に命じて各種の臨摸本を作らせた。これ以降、蘭亭序は重摸に重摸を重ねて、宋時代には蘭亭八百本と称されるほどであった。王羲之の最高傑作とされる蘭亭序は、唐時代以降、蘭亭信仰ともいえる状況の中で、真の姿が失われ、各種の摸本にその残影を留めるにすぎない。この特集陳列では、蘭亭序の各種拓本を陳列するとともに、明清時代に王羲之の影響を受けた作や、蘭亭偽作説を唱えた李文田らの作を取り上げ、蘭亭序の多様な世界を紹介した。		
第3室	日本に将来された蒟醤と紅安南	5月8日(火)～7月27日(日)	8(0.0)
	＜主な作品＞水禽蒟醤箱、○五彩唐草文碗		
	江戸時代、主に茶の湯の世界で賞玩された蒟醤とよばれるタイの漆器とベトナムのやきもの、いわゆる紅安南を展示した。これらの技法や造形に関する説明とともに、日本における茶の湯での位置づけや、東南アジア諸国との貿易についてパネルを用いて解説した。		
第3室	インドネシアの服飾	5月8日(火)～7月27日(日)	14(0.0)
	＜主な作品＞腰巻(カイン・パンジャン)または肩掛(スレンダン)　首架動物模様　経絣(イカット)、上着 花模様　緯浮紋織		
	インドネシアは大小無数の島々からなっており、そこには多数の民族が住んでいる。民族ごとに伝統的な技法や文様からなる服飾品がみられる。こうしたインドネシアの服飾は、基本的には腰にまとう腰巻(カイン・パンジャン)、筒状に縫い合わせた女性用の筒型スカート(サルン)、肩に掛ける肩掛(スレンダン)が主要なもので、正装用として、頭巾(カイン・クパラ)や上衣、腰帯、ズボン等も着用された。これらの衣装には、ジャワ更紗として知られている蝋防染のバテックをはじめ、絣織のイカットなどが代表的なものであるが、今回はこれまでほとんど陳列されたことのなかった金糸をふんだんに織り込んで模様をあらわした緯紋織や縫取織の豪華な衣装も展示した。		
第5室	「名物裂」にみる文様Ⅰ―牡丹唐草文様の変遷―	5月8日(火)～7月27日(日)	11(0.1)
	＜主な作品＞金地二重蔓中牡丹唐草文金襴、金地一重蔓中牡丹唐草文金襴		
	「名物裂」と呼ばれている染織品は、室町時代に発展した茶の湯の流行にともなってあらわれてきたもので、広くは鎌倉時代から江戸時代初期にかけて、中国などから舶載された染織品の一群である。これらは中国の元・明・清時代に中国などで製作された金襴をはじめ緞子・錦・間道などが含まれる。こうした染織品は、大名家や社寺などに所蔵され、また茶道の仕覆や袋、書画の表装裂などに用いられた。名物裂にはさまざまな種類の技法と文様がみられる。１回目は最も多くみられる牡丹唐草文をとりあげた。牡丹唐草文がどのように変化推移していったか、基準作となる永和4年(1378)銘の紺地二重蔓牡丹唐草文金襴褊襠を中心に文様変遷の推移をみてゆくことにした。		
第10室	朝鮮染織・装身具Ⅰ　朝鮮王朝時代の女性の生活と美	5月20日(火)～7月6日(日)	23(0.0)
	＜主な作品＞唐衣、トゥルチュモニ、華角貼尺、刺繍匙箸袋		

	朝鮮王朝時代における上流階級の女性たちが身につけた衣装や装身具、また、食器や裁縫道具など生活にまつわる道具を紹介した。		
第8室	市河米庵コレクション	7月8日(火)～9月7日(日)	61(0.0)
	＜主な作品＞墨梅図、羅漢図、月梅図、秣陵春早図、淳熙零紙、草書観世音賛軸、行書詩書巻、臨欧陽詢書軸		
	市河米庵(1779～1858)は江戸後期の文人。儒学・書技に秀で、とりわけ唐様において、巻菱湖・貫名菘翁とともに幕末の三筆に併称される。彼は諸大名・旗本・僧侶・町衆・閨秀など門人五千余人を擁したといい、その財力を背景に長崎経由で舶載された金石書画の蒐集に努め、自ら『小山林堂書画文房図録』を刊行した。それらの大半は明治年間に米庵の子孫により帝室博物館に寄贈され今日に至っている。その中には書画史には名を列ねない作家のものも含まれるが、江戸時代の文化を考究する上で貴重な資料となっている。		
第10室	朝鮮染織・装身具Ⅱ　朝鮮王朝時代の文人の生活	7月8日(火)～8月24日(日)	11(0.0)
	＜主な作品＞煙草入、セクトンチョゴリ		
	朝鮮王朝時代における文人の衣装や家具を紹介した。		
第3室	ワヤン―インドネシアの影絵人形―	7月29日(火)～10月19日(日)	8(0.0)
	＜主な作品＞ワヤン人形　アルジュノ、ワヤン人形　クレスノ		
	インドネシアの伝統的な影絵芝居ワヤン・クリに用いられる人形を展示した。インドの叙事詩「マハーバーラタ」に登場するパンダワ五王子側の主要キャラクターを表したこれらの人形は、水牛の革と角を加工して作られた精巧な透彫と鮮やかな彩色で工芸品としても優れている。なお、会期中の8月1日には、日本・ワヤン協会によるワヤン上演を行った。		
第5室	「名物裂」にみる文様Ⅱ―禽獣文―	7月29日(火)～10月19日(日)	11(0.0)
	＜主な作品＞紫地向鳳凰丸文金襴(二人静金襴)、紺地蓮池水禽文金襴(和久田手金襴)		
	「名物裂」と呼ばれている染織品は、室町時代に発展した茶の湯の流行にともなってあらわれてきたもので、広くは鎌倉時代から江戸時代初期にかけて、中国などから舶載された染織品の一群である。これらは中国の元・明・清時代に中国などで製作された金襴をはじめ緞子・錦・間道などが含まれる。こうした染織品は、大名家や社寺などに所蔵され、また茶道の仕覆や袋、書画の表装裂などに用いられた。2回目は鳥や兎・鳳凰・龍などの禽獣文を用いた裂を展示した。		
第10室	朝鮮のうちわと扇子	8月26日(火)～10月5日(日)	8(0.0)
	＜主な作品＞羅州太極扇、慶州鷲尾扇		
	朝鮮時代のうちわを展示し、地域によって異なる形状と、それを表す名称を解説した。		
第4・5室	漢･北朝の俑	9月2日(火)～11月30日(日)	19(0.0)
	＜主な作品＞加彩侍女、加彩武人、加彩駱駝		
	中国の俑は秦始皇帝の兵馬俑で画期を迎え、唐三彩で一つの頂点にいたる。その中間に当たる漢・北朝時代に俑がダイナミックに変化していく流れを、当館所蔵の優品でたどった。		
第3室	中国書画精華	9月9日(火)～11月3日(日)	55(6.20)
	＜主な作品＞●十六羅漢図(第四尊者)、●紅白芙蓉図、●寒山拾得図、●瀟湘臥遊図巻、●王勃集巻第二十九･三十		
	日本には古くから中国の書画が舶載され、日本美術にも大きな影響を与えてきた。特に宋元時代の書画は、鎌倉時代以降の禅宗とともに数多く伝えられ、書院や茶室において、日本の趣味にもとづく新たな鑑賞法のもとに親しまれてきた。また明治以降には、中国書画の名品が海外に流出し、日本においても良質の中国書画コレクションが形成された。日本に現存する中国書画の中には、本国ではすでに伝存しない名品や貴重な作例も少なくない。館蔵品・ご寄託品の中から、中国書画の優品を選んで公開した。		
第3室	ベトナムの染付	10月21日(火)～21年1月12日(日)	7(0.0)
	＜主な作品＞〇染付魚藻文大皿、青花束蓮文大皿		
	館蔵のベトナムの染付と、参考作品として関連する中国の青花を並べた。土の味や白釉の発色、黒味がかったコバルトなど、中国の青花とは異なる魅力を伝えることを主なテーマとした。		
第5室	「名物裂」にみる文様Ⅲ―宝尽し文―	10月21日(火)～21年1月12日(日)	11(0.0)
	＜主な作品＞金地金襴紫地宝尽し文様、蘇芳地連雲宝尽し文金襴（富田金襴)、紺地青海波宝尽し文緞子（本能寺緞子)、金襴萌黄地牡丹唐草宝尽文様(大黒屋金襴)		
	「名物裂」と呼ばれている染織品は、室町時代に発展した茶の湯の流行にともなってあらわれてきたもので、広くは鎌倉時代から江戸時代初期にかけて、中国から舶載された染織品の一群である。これらは中国の元・明・清時代に中国などで製作された金襴をはじめ緞子・錦・間道などが含まれる。こうした染織品は、大名家や社寺などに所蔵され、また茶道の仕覆や袋、書画の表装裂などに用いられた。3回目は宝尽し文を展示した。		
第8室	明清画精選	11月5日(水)～12月25日(木)	
	＜主な作品＞〇秋林隠居図、◎離合山水図、◎寒江独釣図、◎四季花鳥図(冬)、◎秋山行旅図巻、〇売貨郎図、〇山水図、〇江山無尽図巻		
	宋・元時代の作品を中心とした特集陳列「中国書画精華」の続編として、明清時代の精品を集めて展示した。前期・後期を通して、明清時代の多様な画風をみていただいた。前期は明初の文人画家の王紱、画院画家の呂紀、朱端、浙派の在野画家の張路、明末の文人画家の李士達、清初の金陵派筆頭格の龔賢など、後期は米法山水の佳品として有名な離合山水図、明の宮廷画家の呂文英、呂紀、明末の文人画家の楊文驄、清の文人画家の王翬などの作品を展示した。		
第8室	中国古銅近人印譜	11月5日(水)～12月25日(木)	31(0.0)
	＜主な作品＞印史、集古印譜、十鐘山房印挙、斎雲館印譜、名人印集		
	当館では昭和51年、横田実氏から漠南印譜コレクションとして知られる中国古銅印譜198点・近人印譜247点のご寄贈を受けた。さらに平成14・15の両年度には、小林斗盦(庸浩)氏より、懐玉印室コレクションの中から、中国稀覯印譜および篆刻資料423件のご寄贈を受けた。歴代の主要な印譜を網羅するこれらのコレクションには、製作部数の少ない原鈐本や、編者自らが注記を書き加えた本地中国でも見ることのできない稀覯本が多数含まれている。両コレクションの中から中国古銅印譜、中国近人印譜の優品を展示した。		
第3室	古代の輝き　ペルシアのガラス器 ―切子の世界―	11月18日(火)～21年2月1日(日)	29(0.0)

	＜主な作品＞切子鉢、ロータス文切子杯、二重円形切子碗、円形切子台付杯、浮出円形切子舟形杯、切子杯		
	(株)小学館より寄託・出品中の古代ガラスコレクションから、サーサーン朝ペルシアを中心とするイラン、地中海東部などの切子ガラス容器の代表作品を展示した。透明ガラスに宝石カットと同様の切子装飾を施すことにより、光り輝く宝器となった、古代ガラスの魅力を紹介した。		
第4・5室	中国の貨幣	12月2日(火)～21年3月1日(日)	251(0.0)
	＜主な作品＞五銖銭陶范、「太平天国」円銭		
	中国古代にさまざまな形の貨幣が使われたことを紹介した。平成19年度とほぼ同じであるが、時代幅を広げ、内容もより多彩なものとした。		
第8室	吉祥―歳寒三友	21年1月2日(金)～2月1日(日)	20(0.2)
	＜主な作品＞◎梅花双雀図、老松図、崑崙松鶴図		
	厳寒の中、松と竹は常緑を保ち、梅は百花に先駆けて開花し清香を放つことから、中国において松、竹、梅は、節度を守り不変の志をもつものとして「歳寒三友」と称えられた。また、松は不老長寿、竹は平安、子孫繁栄、梅は子孫繁栄(安産)などを象徴するものとされた。中国の花鳥画に描かれる多くの事物には、 例えば、蓮、水鳥、魚は豊かさ、牡丹は富貴、桃は長寿、葡萄、瓢箪、石榴は子孫繁栄、鳳凰は天下泰平、蝙蝠は福を象徴するように、人々の様々な願いがこめられてきた。それらは、次第に吉祥図として定着し、人々に親しまれてきた。新年にあたり、歳寒三友(松・竹・梅)を中心に吉祥図を特集して展示した。		
第3室	インドの細密画	21年1月14日(水)～4月5日(日)	40(0.0)
	＜主な作品＞聖職者を訪ねるムスリムの女たち、魚に化身したヴィシュヌ(マツヤ・アヴァターラ)、ビカネールの藩王ビジェイ・シン立像		
	中世インド世界では、神話、ヒンドゥー教世界、王の肖像、歴史的エピソード、男女の恋の様相、動物図など、さまざまなテーマが絵画として表現された。本特集はこのような内容を描いた細密画を展示したもので、ムガル王朝時代を中心に、地方ムガル派、ビカネール派、ジャイプール派、カーングラ派などインド各地の流派で構成する。前、後2期にわけ、20点ずつ計40点を展示した。		
第5室	「名物裂」にみる文様Ⅳ―幾何学文と縞―	21年1月14日(水)～4月5日(日)	11(0.0)
	＜主な作品＞茶地鱗文緞子（住吉緞子)、濃浅葱地鱗文金襴（井筒屋裂)、縞地梅鉢文金襴（高木金襴)、日野間道		
	「名物裂」と呼ばれている染織品は、室町時代に発展した茶の湯の流行にともなってあらわれてきたもので、広くは鎌倉時代から江戸時代初期にかけて、中国から舶載された染織品の一群である。これらは中国の元・明・清時代に中国などで製作された金襴をはじめ緞子・錦・間道などが含まれる。こうした染織品は、大名家や社寺などに所蔵され、また茶道の仕覆や袋、書画の表装裂などに用いられた。4回目は幾何学文様や縞を用いた裂を展示した。		
第10室	ペルーの土器	21年1月27日(火)～4月26日(日)	13(0.0)
	＜主な作品＞キツネ形鐙壺、鳥形装飾付双口壺、水鳥形鐙壺		
	東博が所蔵する日本と東洋以外の作品を紹介するシリーズ第3弾として、南米ペルーの土器を特集した。特に、口が2つの付け根をもつため「鐙壺」と呼ばれるその独特の造形や、動物を象った文化的背景などを解説した。		
第8室	梅花	21年2月3日(火)～3月1日(日)	23(0.1)
	＜主な作品＞◎雪梅図、月梅図、月梅図、喜報春先図		
	百花に先駆けて清香を放つ梅は、松、竹ともに「歳寒三友」と称えられ、また、蘭、菊、竹とともに「四君子」と称えられた。また、古くから詩文に詠われ、文人の好む画題として親しまれた。宋時代に禅僧の花光仲仁は月夜に窓に映る梅影をみて墨梅を創めたといわれるが、その後、梅の蕾から落花までの姿を百図にあらわし五言絶句を付した宋伯仁『梅花喜神譜』(南宋・1238自序)のような梅譜も編纂された。また、梅花は美人の譬えにも用いられるなど、画梅は文人を中心にいよいよ盛んになった。墨梅家として知られる呉太素の雪梅図をはじめとする元時代から近代に至る中国の画梅の多様な世界を通観した。		
第4・5室	中国の鏡	21年3月3日(火)～6月7日(日)	21(0.0)
	＜主な作品＞画文帯同向式神獣鏡、唐草文鏡		
	詳細な解説パネルとともに中国の鏡を紹介した。平成18年度は漢・六朝を中心とし、平成19年度は隋唐を中心としたが、平成20年度は、戦国時代から宋時代以降の鏡まで含めた展示とした。		
第8室	法帖と帖学派	21年3月3日(火)～4月26日(日)	28(0.0)
	＜主な作品＞群玉堂米帖、十七帖(宋拓)、楷行草雑臨古帖巻、臨米芾書軸、行書祝寿詩軸		
	宋の太宗が、宮廷に収蔵される歴代名臣の書を編集させた『淳化法帖』が淳化三年(992)に刊行されて以来、法帖は書を学ぶ基本的なテキストになった。明時代にも文徴明や董其昌らによって『停雲館帖』や『戯鴻堂帖』など、家刻の精彩ある法帖が引き続き刊行され、その風潮は清時代にも受け継がれる。歴代の法帖と、法帖を学んだ明清時代の帖学派の流れを概観した。		

③法隆寺宝物館　なし

(参考)黒田記念館

場所	テーマ	開催期間	陳列件数(国宝・重文)
黒田記念館		4月2日(木)～21年3月28日(土)	59(0.1)
	＜主な作品＞◎湖畔、◎智・感・情		
	日本近代洋画の巨匠として歴史に名を残した黒田清輝の生涯について、1：パリ留学、そして転進、2：パリからグレー=シュル=ロワンへ、3：白馬会の時代、4：文展・帝展時代、という4つに分類し、ほぼ時代順に代表的な作品を陳列した。なお、開館日は毎週木、土曜日。		

7)広報

・特別企画　「博物館でお花見を」

会　　期：20年3月25日～4月20日

広　　報：

ターゲット：広く一般の美術愛好家、庭園等を楽しむ層。

重点項目：自主媒体を中心に広く一般の美術展愛好家にプロモート。

特記事項：桜関係のイベント、夜桜をプロモートすることで、通常の博物館来館者層以外にも訴求。

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約1,100件(全国博物館・美術館、近隣学校・インターナショナルスクール、カルチャーセンター、華道・茶道教室等)
交通広告	駅貼り広告(ＪＲ、東京メトロ、京成)
新聞・雑誌広告	読売新聞　2回
テレビ広告	なし
新聞掲載	朝日新聞など
テレビなど	日本テレビ「ラジかるっ」
雑誌掲載	「お花見ぴあ」など
博物館ニュース	予告1回、特集1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

② パブリシティー情報掲載・放映

新聞　5件、雑誌　2件、テレビ／ラジオ　1件、インターネット　6件

・特別企画　「博物館に初もうで」

会　　期：21年1月2日～1月25日

広　　報：

ターゲット：広く一般の美術愛好家。

重点項目：自主媒体を中心に広く一般の美術展愛好家にプロモート。

特記事項：イベント広報を通じて、家族づれや外国人観光客の来館を促進する。

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約1,800件(全国博物館・美術館・学校・ホール・大使館・ギャラリー・ホテル等)
交通広告	駅貼り広告(ＪＲ、東京メトロ、都営地下鉄、京成)
新聞・雑誌広告	朝日新聞　1回　ジャパンタイムズ　2回　デイリーヨミウリ　1回 文芸広場　1回
テレビ広告	なし
新聞掲載	朝日新聞、東京新聞　など
テレビなど	ＮＨＫラジオ　1回
雑誌掲載	「週刊新潮」「ぴあ」など
博物館ニュース	特集1回
インターネット	当館ウェブサイト(ホームページ)での紹介、メールマガジンでの情報配信

② パブリシティー情報掲載・放映

新聞　5件、雑誌　10件、テレビ/ラジオ　1件、インターネット　3件

③ 書店にて配布する割引券付しおり15,000枚を製作

・特集陳列　「六波羅蜜寺の仏像」

会　　期：20年7月10日～9月21日

広　　報：

ターゲット：仏像愛好家、広く一般の美術愛好家。

重点項目：自主媒体を中心に広く一般の美術展愛好家にプロモート。

特記事項：京都・六波羅蜜寺の仏像がまとまって出品される得がたい機会であることを軸に紹介。同時期に隣室に展示された２体の大日如来坐像(光得寺蔵、真如苑蔵)とあわせ、仏像ファンに訴求。

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約870件(全国博物館・美術館、ギャラリー等)
交通広告	駅貼り広告(ＪＲ、東京メトロ、都営地下鉄)
新聞・雑誌広告	なし
テレビ広告	なし
新聞掲載	「新美術新聞」
テレビなど	なし
雑誌掲載	「日経おとなのOFF」など
博物館ニュース	特集1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

② パブリシティー情報掲載・放映

新聞　1件、雑誌　2件

・特集陳列　「中国書画精華」

会　　期：20年9月9日～11月3日

広　　報：

ターゲット：中国絵画・書跡の愛好家、広く一般の美術愛好家。

重点項目：自主媒体を中心に広く一般の美術展愛好家にプロモート。

特記事項：陳列作品54件中国宝6件、重文18件、重美1件という質の高さを重点的にプロモート。新刊「東洋美術100選」もあわせて紹介。上

野地区共同プロジェクト「art-link上野―谷中」に参加。

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約900件(全国博物館・美術館、ギャラリー等)
交通広告	駅貼り広告(ＪＲ、東京メトロ、都営地下鉄、京成)
新聞・雑誌広告	なし
テレビ広告	なし
新聞掲載	なし
テレビなど	台東ケーブルテレビ
雑誌掲載	なし
博物館ニュース	紹介記事1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

② パブリシティー情報掲載・放映

テレビ／ラジオ　1件

(2)特別展・共催展等(海外展・巡回展を含む)

展覧会名：「平城遷都1300年記念　国宝　薬師寺展」(共催展)

開会期間：20年3月25日(火)～6月8日(日) (67日間)

会　　場：平成館2階　特別展示室第1室～第4室

主　　催：東京国立博物館、法相宗大本山薬師寺、NHK、NHKプロモーション、読売新聞社

後　　援：文化庁、奈良県、平城遷都1300年記念事業協会、東京都教育委員会、埼玉県教育委員会、千葉県教育委員会、神奈川県教育委員会

協　　賛：王子製紙、キヤノン、大日本インキ化学工業(4月1日よりDIC株式会社に社名変更)、トヨタ自動車、光村印刷

陳列品総件数：47件(うち国宝8件、重要文化財5件)

入館者数：79万4909人(目標40万人・達成率220.8%)

入場料金：一般1500円、大学生1200円、高校生900円　中学生以下無料

担当研究員数：4人

展覧会の内容：

平城遷都1300年を記念し、日本仏教彫刻の最高傑作のひとつとして知られる金堂の日光・月光菩薩立像(国宝)をはじめ、聖観音菩薩立像(国宝)、慈恩大師像(国宝)、吉祥天像(国宝)など、薬師寺の仏像、絵画の至宝を一堂に展示した。また、神像の名品として名高い八幡三神坐像(国宝)や草創期の寺の姿をたどる考古遺物なども展示し、薬師寺の歴史と幅広い内容の寺宝の価値や意義を紹介した。

講演会等：

記念講演会

①「奈良で映画をつくり続けて」講師：河瀬直美氏(映画監督)

「薬師寺創建の精神とまほろば」講師：安田暎胤師(薬師寺管主)

平成館 大講堂　4月12日

②「薬師寺 飛鳥から平城へ」講師：東野治之氏(奈良大学教授)

「薬師寺－1300年の歴史と文化－」講師：山田法胤師(薬師寺副住職)

平成館 大講堂　4月19日

③「薬師寺薬師三尊像について－初期律令国家の理想仏－」講師：金子啓明(特任研究員)

「薬師寺－1300年の歴史と文化－」講師：山田法胤師(薬師寺副住職)

平成館 大講堂　5月10日

④「薬師寺建築―裳階の美」講師：藤井恵介氏(東京大学大学院准教授)

「藤原京薬師寺から平城京薬師寺へ」講師：松久保秀胤師(薬師寺長老)

平成館 大講堂　5月24日

広報：

ターゲット：広く一般。10代～20代の若年層から70代以降まで幅広い層に訴求。普段は美術館・博物館に足を運ばない人もターゲットとする。

重点項目：マスコミおよび交通広告等による広く一般への情報提供。

特記事項：日光・月光両菩薩立像が揃って寺外で公開されるのは初めてで、また360度から両像を観ることができる博物館ならではの展示という、2点をプロモートの中心とした。作品搬送および展示設営時に特例として取材・撮影に応じた。当館デザイン室長木下史青を主役にした「情熱大陸」(TBS系)で本展覧会を紹介、一層幅広い層に周知することができた。

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約8,600件(全国博物館・美術館・学校・ホール・ギャラリー等)
交通広告	駅貼り・車内広告(JR、東京メトロ、私鉄など)、駅横断幕(上野駅公園口)
新聞・雑誌広告	朝日新聞、読売新聞　多数回
テレビ広告	NHK30秒スポット　多数回
新聞掲載	読売新聞(特集記事、展覧会開催・イベントなどの告知記事、集荷などの取材記事　多数)など
テレビ放映	NHKスペシャル、ハイビジョン特集、迷宮美術館、新日曜美術館(本編)、15分・5分間ミニ番組随時、ニュース放映(複数回)など
雑誌掲載	「和楽」「Weeklyぴあ」など
博物館ニュース	予告1回、特集2回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信 公式ウェブサイト、共催者(読売新聞・NHK)ウェブサイトでの紹介

②パブリシティー情報掲載・放映

新聞　875件、雑誌　293件、テレビ/ラジオ 8件、インターネット　42件
③記者発表会　9月26日(東京国立博物館平成館ラウンジにて　32媒体50名出席)
④報道内見会　3月19日(150媒体　195名出席)
⑤上野ロータリークラブ「卓話」にて金子特任研究員による講演を実施

展覧会名：「日仏交流150周年記念　オルセー美術館コレクション特別展　フランスが夢見た日本―陶器に写した北斎、広重」展(共催展)」

開会期間：20年7月1日(火)～8月3日(日)(30日間)
会　　場：表慶館1階
主　　催：東京国立博物館、オルセー美術館、日本経済新聞社
後　　援：フランス大使館
陳列品総件数：　132件
入館者数：5万8,342人(目標5万人・達成率116.6%)
入場料金：一般1000円、大学生・高校生700円、中学生以下無料
担当研究員数：2人

展覧会の内容：
日仏両国の間に外交関係が樹立されて150周年に当たる本年、オルセー美術館が所蔵する「セルヴィス・ルソー」と「セルヴィス・ランベール」を日本で展示した。あわせて、これらのテーブルウェアの図柄のもとになった浮世絵、および「セルヴィス・ルソー」の図柄のもととなった版画家フェリックス・ブラックモンのエッチングを展示することにより、今まであまり知られてこなかった日仏文化交流の精華を紹介できた。

講演会等：
記念シンポジウム
「フランスのジャポニスム―陶磁器を中心に―」
演題：「フランスにおける陶磁器のジャポニスム―《セルヴィス・ルソー》とその後の展開―」
講師：東京大学教授　三浦 篤 氏
演題：「ルソーのテーブルウェアと幕末・明治の日本版画」　講師：国立歴史民俗博物館教授　大久保 純一 氏
演題：「フランス陶磁器におけるジャポニスムの諸相とその背景―日本陶器への開眼からシャプレ、カリエスらの作陶へ―」
講師：福井大学准教授　今井 祐子氏
演題：「エミール・ガレにみるジャポニスム」　講師：サントリー美術館学芸員　土田 ルリ子 氏
※講演後、講演者によるパネルディスカッションを行った。
平成館 大講堂　7月12日

広報：
ターゲット：美術愛好家、西洋美術愛好家。テーブルウェアに関心をもつ層。
重点項目：マスコミおよび交通広告等による広く一般への情報提供。
特記事項：オルセー美術館所蔵の器のモチーフの原画が日本から輸出された浮世絵であるという研究成果を、ジャポニスムの研究者をはじめ広く一般の美術愛好家までの周知に努めた。料理学校へもDMを送った。

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約2,700件(全国博物館・美術館・学校・ホール・ギャラリー等)
交通広告	駅貼り(ＪＲ、東京メトロ、私鉄など)
新聞・雑誌広告	朝日新聞、日本経済新聞
テレビ広告	なし
新聞掲載	日本経済新聞(特集記事、展覧会開催・イベントなどの告知記事)など
テレビ放映	ＮＨＫニュース、台東ケーブルTVなど
雑誌掲載	「クロワッサン」「サライ」など
博物館ニュース	予告1回、特集1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信 共催者ウェブサイトでの紹介

② パブリシティー情報掲載・放映
新聞　162件、雑誌　72件、テレビ/ラジオ　6件、インターネット　45件
③ 報道内見会　6月30日(45媒体　53名出席)

展覧会名：「創刊記念『國華』120周年・朝日新聞130周年　特別展　対決―巨匠たちの日本美術展」(共催展)

開会期間：20年7月8日～8月17日(37日間)
会　　場：平成館2階　特別展示室第1室～第4室
主　　催：東京国立博物館、國華社、朝日新聞社
後　　援：文化庁
特別協賛：ＤＩＡＭアセットマネジメント

協　　賛：三井物産、トヨタ自動車、大日本印刷
協　　力：東京美術倶楽部、日本航空陳
列品総件数：110件(うち国宝11件、重要文化財39件)
入館者数：32万6,784人(目標12万人・達成率272.3%)
入場料金：一般1500円、大学生1200円、高校生900円　中学生以下無料
担当研究員数：4人

展覧会の内容：
　運慶と快慶、狩野永徳と長谷川等伯など巨匠たち12組を「対決」させるという斬新な視点から、『國華』が誌上で顕彰してきた中世から近代までの日本美術史上に輝く巨匠たちを二人ずつ組み合わせ、その作品を「対決」させるという斬新な展示構成を採用した。過去2年間の展覧会のアンケートでは最も高い満足度を獲得した。

講演会等：
① 記念対談「放談　巨匠対決」
　出席者：河野元昭氏(『國華』主幹、尚美学園大学教授、秋田県立近代美術館館長)・水尾比呂志氏(『國華』名誉顧問、武蔵野美術大学名誉教授)・小林忠氏(『國華』編集委員、学習院大学教授、千葉市美術館館長)、司会：松原茂(上席研究員)
　平成館 大講堂　7月19日
② 記念講演会「美と個性の対決」講師：辻惟雄氏(『國華』名誉主幹、美術史家、MIHO MUSEUM館長)
　平成館 大講堂　8月2日

広報
　ターゲット：広く一般の美術愛好家。
　重点項目：『國華』は一般にあまり馴染みにない雑誌であり、本展覧会が同誌の美術史研究の精華であることをプロモートするため、「巨匠の対決」というわかりやすいキーワードを前面に出した。また等伯の「松林図屏風」や若冲の「鶏」をメインビジュアルとし、近来の空前の若冲ブームで新たに若冲作品と出会う機会を求める若い層にも向けてプロモートを図った。
　特記事項：周知印刷物を「対決」というコンセプトが明確に出るものとした。また、山口晃氏による巨匠の肖像は、一般には未知である画家を親しみやすい存在にすることができた。

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約7,600件(全国博物館・美術館・学校・ホール・ギャラリー、古書店等)
交通広告	駅貼り・車内広告(ＪＲ、東京メトロ、私鉄など)、駅横断幕(上野駅公園口)
新聞・雑誌広告	朝日新聞
テレビ広告	なし
新聞掲載	朝日新聞、ジャパンタイムズ　など
テレビ放映	ＮＨＫ新日曜美術館(アートシーン)など
雑誌掲載	「UOMO」「和楽」「趣味の水墨画」など
博物館ニュース	予告1回、特集1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信 公式ウェブサイト、共催者ウェブサイトでの紹介

② パブリシティー情報掲載・放映
　新聞　115件、雑誌　261件、テレビ/ラジオ　8件、インターネット　32件
③ 記者発表会　3月26日(東京国立博物館表慶館にて　72媒体　94名出席)
④ 報道内見会　10月9日(157媒体　268名出席)
⑤「ぴあ」編集部と共同で、ぴあ読者を招待した特別内覧会を行なった。
⑥「対決展」公式ガイドブック(ぴあ株式会社)が発行された。

展覧会名：「スリランカ―輝く島の美に出会う」(共催展)
開会期間：20年9月17日(水)～11月30日(月)(65日間)
会　　場：表慶館　1階・2階
主　　催：東京国立博物館、読売新聞、スリランカ民主社会主義共和国文化・国家遺産省
後　　援：外務省、スリランカ大使館
陳列品総件数：198件(オリジナル：149件　模造(R)：16件　写真資料(P)：33件)
入館者数：8万865人(目標10万人・達成率80.8%)
入場料金：一般1200円、大学生1000円、高校生800円、中学生以下無料
担当研究員数：2人
展覧会の内容：
　仏像やヒンドゥー神像、仏具などの宗教芸術作品や、美しい宝石をふんだんにあしらった宝飾品など、国宝級を含む約150件におよぶスリランカ美術の粋を一堂に集めて展覧した。スリランカの芸術作品をまとめて紹介する日本では始めての本格的な展覧会となった。

講演会等：
記念講演会
　①「スリランカの歴史と文化」講師：小泉惠英(平常展調整室長)
　　平成館 大講堂　10月4日
　②「スリランカの文化遺産」ローランド・シルワ氏(国際記念遺跡会議名誉委員長)
　　平成館 大講堂　11月15日

広報：
　ターゲット：一般の美術愛好家。エスニックファン。女性層

重点項目：一般の美術愛好家のほか、女性層、若者層に向けて、浜辺、宝石、紅茶というスリランカのイメージを効果的に用いた。一般にはあまり知られていない美術・歴史であるため、「日本初」の大規模展覧会」として周知に努めた。
特記事項：特別宣伝部長をスリランカ出身のウィッキー氏に依頼。当館でのトークショーほか、各所で展覧会の周知に努めてくださった。同時期開催の「大琳派展」（ともに共催＝読売新聞社）と共同の周知印刷物を制作した。

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約8,000件（全国博物館・美術館・学校・ホール・ギャラリー等）
交通広告	駅貼り・車内広告（ＪＲ、東京メトロ、都営地下鉄、私鉄など） VTR放映（上野駅公園口）など
新聞・雑誌広告	朝日新聞、読売新聞
テレビ広告	なし
新聞掲載	読売新聞、朝日新聞など
テレビ放映	ＮＨＫ「おはよう日本」など
雑誌掲載	芸術新潮など
博物館ニュース	予告1回、特集2回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信 公式ウェブサイト、共催者ウェブサイトでの紹介

② パブリシティー情報掲載・放映
　新聞 190件、雑誌　141件、テレビ/ラジオ 3件、インターネット　12件
③ 記者発表会　5月28日（東京国立博物館表慶館にて　40媒体　56名出席）
④ 報道内見会　9月16日（56媒体　81名出席）

展覧会名：「尾形光琳生誕350周年記念　大琳派展―継承と変奏―」（共催展）
開会期間：20年10月７日（火）～11月16日（日）（36日間）
会　　場：平成館　特別展示室第1～4室
主　　催：東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション
特別協賛：キヤノン株式会社
協　　賛：花王、光村印刷
協　　力：日本航空、JR東日本
陳列品総件数：242件（うち国宝：7件　重要文化財：34件）
入館者数：30万8,213人（目標14万人・達成率220.2%）
入場料金：一般1500円、大学生1200円、高校生900円、中学生以下無料
担当研究員数：4人

展覧会の内容：
　尾形光琳の生誕350年を記念し、光悦・宗達・光琳・乾山・抱一・其一の六人を中心に、絵画・書跡・工芸など各分野の国宝・重要文化財はもちろん、海外の美術館が所蔵する琳派の優品を一堂に集め、個性豊かな琳派の世界を紹介した。琳派の系譜と各作家の独自性を具体的に検証することにより、およそ百年ごとに花開いた琳派芸術の特色とその意義について明らかにした。アンケート結果も、過去最高に近い満足度に達している。

講演会等：（①開催期間　②場所　③参加者数　④講師等）
①連続講座「琳派芸術の基底」 会場　平成館大講堂
■第1日目 10月11日
　「継承の美―光琳の果たした役割―」講師：田沢裕賀（絵画・彫刻室長）
■第2日目 10月12日
　「琳派の誕生」講師：中部義隆氏（大和文華館）
　「描くことと作ること―琳派と工芸―」講師：竹内奈美子（特別展室主任研究員）
■第3日目 10月13日
　「酒井抱一と江戸文化」講師：岡野智子氏（細見美術館）
　講師全員による総合討論
　平成館 大講堂 10月11日～13日
②記念座談会「琳派の美を語る」
　出演：坂東玉三郎氏（歌舞伎俳優）、細見良行氏（細見美術館館長）、田沢裕賀（当館絵画・彫刻室長）
　平成館 大講堂 10月29日
広報：
　ターゲット：一般の美術愛好家。ジャンルに関係なく意匠に関心のある層
　重点項目：絵画・工芸の愛好家に着実に周知を図るとともに、デザイン性の高さを古美術ファン以外に対してもプロモートした。
　特記事項：「美術手帳」「ブルータス」など現代美術を扱って若い層にも訴求力のある雑誌で大型特集を掲載。同時期開催の「スリランカ展」（ともに共催＝読売新聞社）と共同の周知印刷物を制作した。

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約13,500件（全国博物館・美術館・学校・ホール・ギャラリー等）
交通広告	駅貼り・車内広告（ＪＲ、東京メトロ、都営地下鉄、私鉄など） 駅横断幕（上野駅公園口）など
新聞・雑誌広告	読売新聞　朝日新聞
テレビ広告	なし
新聞掲載	読売新聞　朝日新聞　ジャパンタイムズ　など

テレビ放映	ＮＨＫ「新日曜美術館(本編)」TV東京「美の巨人たち」など
雑誌掲載	「美術手帳」「ブルータス」「カーサブルータス」「和楽」「エクラ」など
博物館ニュース	予告1回、特集1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信 公式ウェブサイト、共催者ウェブサイトでの紹介

② パブリシティー情報掲載・放映
新聞　105件、雑誌　251件、テレビ/ラジオ8件、インターネット　31件
③ 記者発表会　9月13日(日本外国特派員協会にて　50媒体　86名出席)
④ 報道内見会　10月6日(179媒体　289名出席)

展覧会名：慶応義塾創立150年記念「未来をひらく福澤諭吉展」」(共催展)
開会期間：21年1月10日(土)～3月8日(日)(50日間)
会　　場：表慶館　1階・2階、本館特別2室
主　　催：東京国立博物館、慶應義塾、フジサンケイグループ(主管:産経新聞社)
協　　賛：鹿島建設、損害保険ジャパン、大王製紙、大日本印刷、大和証券グループ、トヨタ自動車、久光製薬、ＪＲ東日本
協　　力：日本通運
陳列品総件数：346件(うち国宝3件、重要文化財17件)
入館者数：7万3128人(目標10万人・達成率73.12%)
入場料金：入場料金　一般1200円、大学生1000円、高校生800円　中学生以下無料　第1会場(表慶館)は上記観覧料が必要。第2会場(本館特別2室)は、平常展料金でも観覧可能。
担当研究員数：1人

展覧会の内容：
福澤諭吉(1835-1901)は、幕末明治の激動の時代を生きた思想家として、日本の近代化に大きな足跡をのこした。本展覧会は、慶應義塾創立150周年を記念して開催したもので、福澤諭吉の遺品、遺墨、書簡、自筆草稿、著書などをとおして福澤の先導的な思想と活動を紹介するとともに、慶應義塾ゆかりの美術品などを展示した。表慶館だけでなく、本館特別2室に釈迦金棺出現図などの名品を展示することで、多角的な展示となった。

講演会等：
記念講演会
①「私にとっての福澤諭吉」講師：福澤武氏(慶応義塾評議員会議長)
「福澤諭吉の公共性の哲学」講師：猪木武徳氏(国際日本文化研究センター所長)
平成館 大講堂　21年1月12日(月・祝)
②「同床異夢の教育-福澤諭吉と近代日本の教育-」講師：米山光儀氏(慶応義塾福澤センター所長)
「福澤門下の美術コレクション」講師：鷲塚泰光氏(前奈良国立博物館長)
平成館 大講堂　21年2月7日(土)

広報：
ターゲット：一般の美術愛好家、日本史ファン、慶応義塾関係者。
重点項目：慶応義塾書関係者に着実に周知を図るとともに、歴史上の人物としての福澤ファン、ならびに広く美術愛好家、茶道関係者に向けて福澤門下生コレクションをプロモートした。
特記事項：1万円札の顔として知名度の高い福澤の実像を広く紹介するよう努めた。また本展の見どころとして福澤門下生の美術コレクションの展示をプロモートした。

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約3,500件(全国博物館・美術館・学校・ホール・ギャラリー等　※慶応義塾関係者を除く)慶應義塾関係者31万人ほか在校生等に150周年記念行事ご案内の一環としてチラシを都度送付)
交通広告	駅貼り・車内広告(ＪＲ、東京メトロ、都営地下鉄、私鉄など)
新聞・雑誌広告	読売新聞、朝日新聞
テレビ広告	なし
新聞掲載	産経新聞、朝日新聞など
テレビ放映	NHK新日曜美術館(アートシーン)など
雑誌掲載	書道界、うえのなど
博物館ニュース	予告1回、特集1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信 公式ウェブサイト、共催者ウェブサイトでの紹介

② パブリシティー情報掲載・放映
新聞　155件、雑誌　133件、テレビ/ラジオ8件、インターネット　17件
③ 記者発表会　9月10日(慶応義塾大学演説館にて　51媒体　66名出席)
④ 報道内見会　21年1月9日(47媒体　66名出席)

展覧会名：開山無相大師650年遠諱記念 特別展「妙心寺」(共催展)
開会期間：21年1月20日(火)～3月1日(日)(36日間)
会　　場：平成館　特別展示室　第1室～第4室
主　　催：東京国立博物館、臨済宗妙心寺派大本山妙心寺、読売新聞東京本社
協　　賛：野崎印刷紙業
特別協力：花園大学

協　　力：臨済会
陳列品総件数：176件(うち国宝4件、重要文化財43件、重要美術品2件)
入館者数：15万1833人(目標10万人・達成率151%)
入場料金：一般1200円、大学生1000円、高校生800円　中学生以下無料
担当研究員数：4人

展覧会の内容：
　開山無相大師650年遠諱にちなみ、本山および塔頭の名宝を中心に、妙心寺の歴史と文化について紹介した。東京では大規模な妙心寺展は初めてであり、好評を得た。首都圏ではよく知られていない妙心寺の作品、なかでもとくに近世の華やかな襖絵・屏風が注目され、当初の予想を超える入館者数を得た。

講演会等：
記念講演会
①「禅の絵画」講師：福島恒徳氏(花園大学文学部文化遺産学科教授)
　「賊機あり」講師：阿部浩三氏(臨済寺専門道場師家・花園大学楽長)
　平成館 大講堂　21年1月24日(土)
②「近世前期妙心寺派墨蹟の魅力」講師：丸山猶和(特別展室研究員)
　「禅について」講師：松原哲明氏(臨済宗妙心寺派龍源寺住職)
　平成館 大講堂　21年2月14日(土)

広報：
　ターゲット：仏教、禅に関心のある層、一般の美術愛好家、日本史ファン。
　重点項目：妙心寺関係者、また禅宗に関心のある層に着実に周知を図るとともに、広く美術ファンへ、寺宝の素晴らしさをプロモートした。
　特記事項：映画「禅」とタイアップし、劇場でチラシを配布。周知印刷物では「京都」「禅」「名宝」をキーワードにするとともに、メインビジュアルでは桃山の絢爛たる屏風を用い、仏教に関心のある層、また広く美術愛好家にプロモートした。

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約9,500件(全国博物館・美術館・学校・ホール・ギャラリー・寺院等)
交通広告	駅貼り・車内広告(ＪＲ、東京メトロ、都営地下鉄、私鉄など) 駅横断幕(上野駅公園口)など
新聞・雑誌広告	読売新聞、朝日新聞
テレビ広告	なし
新聞掲載	読売新聞、朝日新聞、毎日新聞など
テレビ放映	台東ケーブルテレビ
雑誌掲載	淡交など
博物館ニュース	予告1回、特集1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信 公式ウェブサイト、共催者ウェブサイトでの紹介

② パブリシティー情報掲載・放映
　　新聞　115件、雑誌　160件、テレビ/ラジオ　3件、インターネット　22件
③ 記者発表会　9月26日(東京国立博物館平成館大講堂にて　37媒体　43名出席)
　　11月28日(奈良国立博物館にて「山水楼閣人物螺鈿扉」修理について　4媒体4名出席)
④ 報道内見会　21年1月19日(137媒体　191名出席)

展覧会名：海外展「聖なる山の寺宝　醍醐寺・日本密教の僧院」
開会期間：20年4月25日(金)～8月24日(日)(122日間)
会　　場：ドイツ連邦共和国国立芸術展覧会ホール
主　　催：東京国立博物館、奈良国立博物館、醍醐寺、ドイツ連邦共和国国立芸術展覧会ホール
陳列品総件数：167件(うち国宝9件、重要文化財74件)
入館者数：59,998人
入場料金：
担当研究員数：4人
展覧会の内容：
　本展は醍醐寺所蔵の文化財に焦点をあて、絵画、書跡、彫刻、工芸といった多様な分野にわたる代表的な寺宝167件をえりすぐり、ドイツ・ボンにおいて展示したものである。これにより、日本仏教ないし密教の歴史と多様な日本仏教美術の姿を広くヨーロッパの人々に紹介し、日本文化の精髄を広く紹介した。

広報：東京国立博物館ニュース　告知1回、報告1回
　　NHKニュース紹介、NHK新日曜美術館アートシーン紹介

展覧会名：海外展　東京国立博物館所蔵日本美術展「サムライ－日本の武家の宝物」

開会期間: 20年5月23日(金)～7月16日(水)(55日間)
会　　場: モスクワ　クレムリン博物館　ベルタワー展示室及びパトリアーク宮殿柱の間
主　　催：東京国立博物館、ロシア連邦モスクワ・クレムリン博物館
協　　賛：(株)日本航空インターナショナル
陳列品総件数：73件(うち国宝1件、重要文化財4件)
入館者数：10万2,000人
入場料金：
担当研究員数：3人
展覧会の内容：
　本展は、東京国立博物館の所蔵品を通して日本の武家文化を紹介するもので、東京国立博物館が収蔵する日本美術作品から選んだ国宝・重要文化財を含む優品が展示された。当館のコレクションがこうしてまとまった形でロシアにおいて紹介されるのはこれが初めてのことであり、ロシアの人々に優れた日本の古美術品に親しんでいただく絶好の機会となった。1日あたりの入場者数は、同博物館の企画展史上最高に達した。

広報：東京国立博物館ニュース　告知1回、報告1回
　　モスクワにてテレビ放映及び新聞各紙で紹介

【京都国立博物館】

(1)平常展

①開館日数：217日　平常展のみの開館日数：142日　陳列件数：1081件　陳列替回数：39回
②特集陳列　4件

	名称	会期	陳列件数(うち指定品件数)
特集陳列	「平安時代の考古遺物―源氏物語の時代―」	4月2日～6月29日	35件(8件)
	「新収品展」	5月21日～6月22日	58件
	「杉本哲郎　アジャンタ・シーギリヤ壁画模写―70年目の衝撃―」	6月25日～7月27日	34件
	「坂本龍馬」	7月23日～8月31日	53件(7件)

(2)特別展等・共催展等

展覧会名：「没後120年記念　絵画の冒険者　暁斎 Kyosai―近代へ架ける橋」
会　期：4月8日～5月11日(30日間)
入場者数：76,686人(目標入場者数 3万人・達成率255.62%)
陳列件数(うち指定品数)：135件(0件)
主催者：京都国立博物館、河鍋暁斎記念美術館
講演会：5回　　参加者数合計 863人
・関連土曜講座
　4月12日　曾祖父・河鍋暁斎 河鍋楠美氏(河鍋暁斎記念美術館館長)　176人参加
　4月19日　幕末の江戸と暁斎 安村敏信氏(板橋区立美術館館長)　170人参加
　4月26日　暁斎のおもしろさⅠ　狩野博幸氏(同志社大学教授)　176人参加
　5月 3日　暁斎の江戸狩野要素　山下善也(学芸部連携協力室長)　165人参加
　5月10日　暁斎のおもしろさⅡ　狩野博幸氏(同志社大学教授)　176人参加
広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞広告、公共放送等

展覧会名：「japan 蒔絵―宮殿を飾る　東洋の燦めき―」
会　期：10 月 18 日～12 月 7 日(44 日間)
入場者数：67,050人(目標入場者数 5万人・達成率 134.1%)
陳列件数(うち指定品数)：284件(17件)
主催者：京都国立博物館、読売新聞大阪本社、NHK京都放送局
講演会：5回　　参加者数合計　467人
・関連土曜講座
　10月18日　王様と漆―ヨーロッパに渡った日本の蒔絵―　永島明子(学芸部主任研究員)　106人参加
　10月25日　大航海時代と日本漆器―桃山・江戸初期における国際交易―　山崎　剛氏(金沢美術工芸大学准教授)　119人参加
　11月 1日　伝統的な蒔絵と輸出漆器　小松大秀(学芸部長)　99人参加
　11月15日　輸出漆器にみる洋風表現　岡　泰正氏(神戸市立博物館主幹学芸員)　74人参加
　11月22日　明治前期の輸出漆器―万国博覧会に出品された新古の漆器―　土井久美子氏(大阪市立美術館学芸員)　69人参加

・国際シンポジウム
　11月8日　輸出漆器が語る東西交流の400年　国立京都国際会館　190人参加
広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞広告、公共放送等

展覧会名：「京都御所ゆかりの至宝―甦る宮廷文化の美―」
会　期：21 年 1 月 10 日～2 月 22 日(45 日間)
入場者数：116,363人(目標入場者数3万人・達成率387.8%)
陳列件数(うち指定品数)：130件(29件)
主催者：京都国立博物館、京都新聞社、NHK京都放送局、NHKプラネット近畿

講演会：3回　　参加者数合計　370人
・関連土曜講座
1月17日　近世天皇の書　　羽田　聡(学芸部研究員)　　89人参加
2月 7日　御所をかざった障壁画　　山本英男(学芸部美術室長)　　137人参加
2月14日　飾金具、宮廷に花開く　　久保智康(学芸部工芸室長)　　144人参加
広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞広告、公共放送等

【奈良国立博物館】

(1)平常展

①開館日数：320日(平常展のみの開館日数：167日)陳列件数：605件
②陳列替回数：12回(本館 5回、西新館 5回、東新館 2回)

	名称	会期	陳列件数(うち指定品件数)
特別陳列	「建築を表現する」	6月14日～7月13日	23件(8件)
	「おん祭と春日信仰の美術」	12月6日～21年1月18日	59件(10件)
	「お水取り」	21年2月7日～3月15日	70件(16件)
特集展示	「繍仏と染色の美」	6月14日～7月13日	19件(7件)
	「とてもよく似た二つの仏像―金峯山寺の釈迦如来像と兵庫県所蔵の天部象―」	21年1月14日～5月17日	2件(0件)
小さなギャラリー	「雛人形」	21年2月12日～3月15日	15件(0件)

(2)特別展・共催展等

展覧会名：特別展「天馬　－シルクロードを翔ける夢の馬－」
会　　期：4月5日～6月1日(50日間)
入場者数：3万1,910人(目標入場者数3万人・達成率106.4%)
陳列件数(うち指定品数)：163件(30件)
講演会：6回　　参加者数合計　440人
・公開講座

期日	講座名	講師(所属)	参加者数
4月19日	「ギリシア・ローマ世界の天馬」	青柳　正規(国立西洋美術館長)	87人
4月26日	「古代世界の天馬」	吉澤　悟(学芸部教育室長)	66人
5月 3日	「飛走する天馬像」	末崎　真澄(馬の博物館学芸部長)	91人
5月24日	「仏教と天馬」	内藤　栄(学芸部長補佐)	104人

・サンデートーク

期日	テーマ	講師(所属)	参加者数
4月20日	「仏教美術に見る空飛ぶ馬」	北澤　菜月(学芸部研究員)	55人
5月18日	「中国の天馬・翼馬」	永井　洋之(学芸部研究員)	37人

広報媒体：テレビ、ラジオ、ポスター、ちらし、博物館だより、新聞広告、駅構内看板等

展覧会名：特別展「国宝　法隆寺金堂展」
会　　期：6月14日～7月21日(33日間)
入場者数：13万2,919人(目標入場者数4万人・達成率332.3%)
陳列件数(うち指定品数)：27件(13件)
講演会：6回　　参加者数合計　1,004人
・公開講座

期日	講座名	講師(所属)	参加者数
6月14日	「年輪から法隆寺西院伽藍と金堂天蓋の年代を読み解く」	光谷　拓実(総合地球環境学研究所客員教授)	131人
6月21日	「法隆寺金堂壁画の世界」	梶谷　亮治(東大寺総合文化センター設立準備室長)	187人
6月28日	「法隆寺金堂の金石文と聖徳太子」	東野　治之(奈良大学教授)	166人
7月12日	「法隆寺金堂四天王像の諸問題」	岩田　茂樹(学芸部長補佐)	200人
7月19日	「建築史からみる法隆寺金堂」	鈴木　嘉吉(元奈良国立文化財研究所長)	200人

・サンデートーク

期日	テーマ	講師(所属)	参加者数
7月20日	「法隆寺金堂台座の絵を読み解く」	谷口　耕生(学芸部研究員)	120人

広報媒体：テレビ、ラジオ、ポスター、ちらし、博物館だより、新聞広告、駅構内看板等

展覧会名：特別展「西国三十三所　－観音霊場の祈りと美」
会　　期：8月1日～9月28日(52日間)
入場者数：10万6,411人(目標入場者数3万人・達成率354.7%)
陳列件数(うち指定品数)：190件(70件)
講演会：6回　　参加者数合計　924人
・公開講座

期日	講座名	講師(所属)	参加者数
8月 2日	「西国三十三所の歴史」	速水　侑(東海大学名誉教授)	200人
8月30日	「西国三十三所の観音霊験像とその広がり」	鈴木　喜博(上席研究員)	200人
9月13日	「”胎内くぐり”としての西国巡礼」	松尾　心空(松尾寺名誉住職)	200人
9月27日	「観音の浄土・補陀落山－その信仰と造形」	清水　健(学芸部研究員)	200人

・サンデートーク

期日	テーマ	講師(所属)	参加者数
8月17日	「円教寺開山堂の性空上人坐像について」	岩田　茂樹(学芸部長補佐)	104人
9月21日	「西国三十三所を巡礼した人々」	野尻　忠(学芸部研究員)	20人

広報媒体：テレビ、ラジオ、ポスター、ちらし、博物館だより、新聞広告、駅構内看板等

展覧会名：特別展「第６０回正倉院展」

会　　期：10月25日～11月10日(17日間)
入場者数：26万3,765人(目標入場者数18万人・達成率146.5%)
陳列件数：69件
講演会：3回　　参加者数合計　505人
・公開講座

期日	講座名	講師(所属)	参加者数
10月25日	「正倉院の白瑠璃碗」	谷一　尚(岡山市立オリエント美術館長)	168人
11月 1日	「正倉院に伝わる天蓋をめぐって」	西川　明彦(宮内庁正倉院事務所保存課整理室長)	160人
11月 8日	「正倉院宝物とシルクロード」	内藤　栄(学芸部長補佐)	177人

広報媒体：ラジオ、ポスター、ちらし、博物館だより、新聞広告、駅構内看板、テレビ特集番組等

【九州国立博物館】

(1)平常展

①開館日数：311 日(うち平常展のみ開館日数 91 日)
②陳列件数：3146 件　(うち国宝 29 件　重要文化財 66 件)
③陳列替え回数：386 回

トピック展示名称	会期	陳列件数(うち指定品件数)
「大野城と四王寺」展	10月15日(水)～21年1月18日(日)	11件(2件が重要文化財)
「九州北部三県姉妹遺跡締結10周年記念　よみがえる弥生都市」展	8月20日(水)～11月16日(日)	146件(重要文化財7件)
「絵でみる考古学　早川和子原画」展	9月2日(火)～10月13日(月・祝)	108件(指定品0件)
「あおもり縄文展～ＪＯＭＯＮを世界へ、三内丸山からの発進～」	11月22日(土)～12月21日(日)	221件(重要文化財7件)
「奴国の南-九大筑紫地区の埋蔵文化財-」	21年1月1日(木・祝)～2月8日(日)	269件(国宝1件、重要文化財11件)
「金子量重氏寄贈品による　アジアの民族造形」	21年2月24日(火)～5月6日(水・祝)	206件(0件)
「博物館と文化財修理」展	5月13日(火)～6月22日(日)	21件(重要文化財2件)
「新たな国民のたから」展	6月25日(水)～7月21日(月・祝)	13件(国宝1件、重要文化財5件)
「茶の湯を楽しむ　Ｉ」展	10月29日(水)～12月7日(日)	27件(うち重要文化財2件)
「ベトナム陶磁と朱印船交易絵巻展」	12月10日(水)～21年3月29日(日)	30件(指定品0件)
「天にささげる器」	9月14日(日)～	37件(重要文化財1件)
「変化する観音」展	8月8日(金)～9月15日(月・祝)	14件(重要文化財5件)
「北と南の民俗詩－アイヌ・琉球の人々－」展	9月17日(水)～10月26日(日)	53件(国宝1件)
「国宝・古文書展」	10月29日(水)～12月7日(日)	39件(国宝14件、重要文化財14件)
「港市長崎－鎖国のなかの異国情緒－」展	12月10日(水)～21年1月18日(日)	32件(指定品0件)
「美を写す－模写と摸造－」	21年1月21日(水)～3月1日(日)	13件(指定品0件)
「屏風の輝き」展	21年3月4日(水)～4月12日(日)	11件(指定品2件)

(2)特別展・共催展等

展覧会名：特別展「国宝 大絵巻展－京都国立博物館所蔵・寄託の名品 一挙大公開－」

会　　期：3月22日～6月1日(64日間)
入場者数：13万1,197人(目標入場者数10万人・達成率131%)
陳列件数(うち指定品数)：26件(23件)
講演会：3回　参加者合計750人
・記念講演会等

期日	講演会名	講師(所属)	参加者
4月6日	記念講演会「絵巻物の面白さと読み方」	漫画家/ｺﾗﾑﾆｽﾄ・夏目房之介氏	300人
4月27日	記念講演会「描かれた絵巻－絵巻の世界」	京都国立博物館・若杉準治氏	300人
5月10日	記念講演会「絵巻の魅力－物語の楽しみ方」	九州国立博物館・畑靖紀氏	150人

広報媒体：ポスター・チラシ・新聞広告・テレビ、ラジオ等

展覧会名：特別展「島津の国宝と篤姫の時代　東京大学史料編纂所20万点の世界」

会　　期：7月12日～8月24日(40日間)
入場者数：15万2,420人(目標入場者数5万人・達成率304%)
陳列件数(うち指定品数)：100件(67件)
講演会：1回　参加者合計300人
・記念講演会等

期日	講演会名	講師(所属)	参加者
7月13日	ﾄｰｸｼｮｰ「島津の国宝と篤姫の時代」	東大史料編纂所・山本博文氏 女優・真野響子氏	250人
7月19日	記念講演会「5人の篤姫～維新前後風刺画にみる幕末の日本」	京都府立大学・東昇氏	300人
7月26日	ﾄｰｸｼｮｰ「大河ドラマ篤姫」	女優・宮崎あおい氏	

	俳優・堺雅人氏	250人
8月3日　対談「書のーSHOW! 国宝島津家文書から読み解く篤姫の世界」		
	鹿児島大学・原口泉氏	
	書家・武田双雲氏	280人

広報媒体：ポスター・チラシ・新聞広告・テレビ、ラジオ等

展覧会名：特別展「国宝　天神さま―菅原道真の時代と天満宮の至宝―」

会　　期　9月23日～11月30日(60日間)

入場者数：174,698人(目標入場者数10万人・達成率175%)

陳列品総件数：120件(39件)

・記念講演会等

期日	講演会名	講師(所属)	参加者
9月28日	ﾄｰｸｼｮｰ「国宝天神さま」	ｴｯｾｲｽﾄ・阿川佐和子氏	
		太宰府天満宮宮司・西高辻信良氏	
		九州国立博物館長・三輪嘉六氏	300人
10月4日	ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ「天神さまと太宰府」	京都産業大学・所功氏	
		太宰府天満宮・味酒安則氏	
		同志社大学・竹居明男氏	
		奈良大学・滝川幸司氏	
		九州国立博物館・松川博一氏	200人
10月25日	ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ「北野天神縁起絵巻の歴史的変遷」	東京芸術大学・須賀みほ	
		メトロポリタン美術館・渡辺雅子氏	
		成城大学・相澤正彦氏	
		九州国立博物館・畑靖紀氏	
		九州国立博物館・金井裕子氏	60人

広報媒体：ポスター・チラシ・新聞広告・テレビ、ラジオ等

展覧会名：特別展「工芸のいま 伝統と創造 ―九州･沖縄の作家たち」

会　　期　平成21年1月1日～3月16日(65日間)

入場者数：72,637人(目標入場者数　8万人・達成率90.8%)

陳列品総件数：161件(うち人間国宝　第1部　7人　第2部　21人)

・記念講演会等

期日	講演会名	講師(所属)	参加者
1月25日	ﾄｰｸｼｮｰ「日本の文化とモノ作り」	ｴｯｾｲｽﾄ・阿川佐和子氏	
		映画監督・北野武氏	200人
2月7日	座談会「祭りと伝統工芸― 山笠のハッピは久留米絣！？」		
		「博多町家」ふるさと館館長・長谷川法世氏	
		博多祇園山笠振興会会長・瀧田喜代三氏	
		唐津曳山取締会会長・牧川洋二氏	
		博多織・小川喜三郎氏	
		博多人形・中村信喬氏	
		久留米絣・松枝哲哉氏	90人
2月14日	「匠に託された技　―伝統を知るー」	柿右衛門製陶技術保存会	
		色鍋島今右衛門技術保存会	
		重要無形文化財久留米絣技術保持者会	
		NPO法人博多織技能開発養成学校	2,000人以上
2月23日	記念講演会「金子賢治が語る　工芸のいま 伝統と創造」		
		東京国立近代美術館・金子賢治氏	150人

広報媒体：ポスター・チラシ・新聞広告・テレビ、ラジオ等

（参考）

【平城宮跡資料館】

(1)平常展

①開館日数：308日　陳列件数：908件　陳列替回数：0回

②特集陳列等 3件

	名称	会期	陳列件数(うち指定品件数)
特別企画展	地下の正倉院展－長屋王家木簡の世界－	10月21日～11月30日	約60件(0件)
発掘速報展	平城宮跡東院地区中枢部の調査(平城第423次)	4月22日～5月25日	14件(0件)
	平城宮東方官衙地区の調査(平城第429次)	7月1日～8月31日	11件(0件)

【藤原宮跡資料室】

(1)平常展

①開館日数：242日　陳列件数：658件　陳列替回数：0回

②特集陳列等　6件

	名称	会期	陳列件数(うち指定品件数)
発掘調査の速報展	藤原宮大極殿院南門出土地鎮具甘樫丘東麓遺跡(第151次)、	20年3月18日～4月18日	19件(0件)
	藤原宮大極殿院南門(第148次)、	20年4月21日～12月26日	21件(0件)
	藤原宮朝堂院朝庭部(第153次)	20年4月21日～12月26日	17件(0件)
		21年1月6日～	22件(0件)
特別公開	石神遺跡(第19次)敷葉遺構の資料公開、	20年7月1日～9月30日	1件(0件)
	キトラ古墳石室閉塞石の資料公開	21年2月6日～3月31日	1件(0件)

【飛鳥資料館】

(1)平常展

①開館日数：321日　陳列件数：346件　陳列替回数：0回

②特集陳列等 0件

(2)特別展等・共催展等

展覧会名：「キトラ古墳壁画十二支子丑寅」

会　期：4月18日～6月22日

入場者数：51,471人

陳列件数(うち指定品数)：35件(3件)

主催者：文化庁・奈良文化財研究所

文化庁主催講演会：1回　　参加者数合計200人

期日	講演会名	講師(所属)	参加者数
5月17日	「キトラ古墳の壁画をめぐる諸問題」	川野邊渉氏(東京文化財研究所保存修復科学センター副センター長) 相原嘉之氏(明日香村教育委員会文化財課主事)	200人

展覧会名：「飛鳥古寺巡礼」

会　期：　8月1日～　8月31日

入場者数：3,658人

陳列件数(うち指定品数)：30件(0件)

主催者：奈良文化財研究所

展覧会名：「まぼろしの唐代精華　黄冶三彩窯の考古新発見」

会　期：　10月17日～　12月7日

入場者数：11,695人

陳列件数(うち指定品数)：104件(1件)

主催者：奈良文化財研究所・中国河南省文物管理局

講演会：1回　　参加者数合計80人

期日	講演会名	講師(所属)	参加者数
10月18日	河南黄冶唐三彩窯の考古新発見		80人
	「唐彩窯の生産と供給」	巽　淳一郎氏(京都橘大学教授)	
	「鞏義黄冶窯とその他唐三彩窯の異同」	孫　新民氏(河南省文物考古研究所長)	
	「唐青花の起源と発展」	劉　蘭華氏(中国文化遺産研究院研究員)	
	「鞏義黄冶窯の考古新収穫」	郭　木森氏(河南省文物考古研究所研究員)	

展覧会名：「飛鳥の考古学２００８－平成19年度の発掘調査の成果から－」

会　期：　21年2月3日～　3月1日

入場者数：1,542人

陳列件数(うち指定品数)：50件(0件)

主催者：奈良文化財研究所

平成20年度特別展アンケート結果

東京国立博物館

1．特別展「平城遷都1300年記念　国宝 薬師寺展」
2．特別展「フランスが夢見た日本 ― 陶器に写した北斎、広重」
3．特別展「対決－巨匠たちの日本美術」
4．特別展「スリランカ－輝く島の美に出会う－」
5．特別展「大琳派展ー継承と変奏ー」
6．特別展「未来をひらく福澤諭吉」
7．特別展「妙心寺」

京都国立博物館

8．特別展「没後120年記念　絵画の冒険者　暁斎 kyosai　－近代へ架ける橋 －」
9．特別展「japan 蒔絵－宮殿を飾る 東洋の燦めき－」
10．特別展「京都御所ゆかりの至宝　－甦る宮廷文化の美－」

奈良国立博物館

11．特別展「天馬 －シルクロードを翔ける夢の馬－」
12．特別展「国宝　法隆寺金堂展」
13．特別展「西国三十三所-観音霊場の祈りと美」
14．特別展「第60回正倉院展」

九州国立博物館

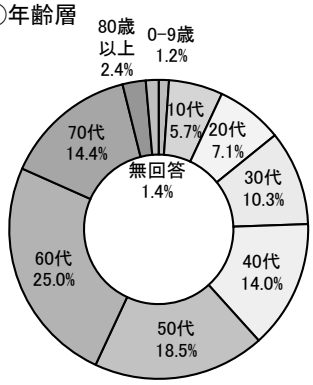
15．特別展「国宝 大絵巻展 京都国立博物館所蔵・寄託の名宝一挙大公開」
16．特別展「島津の国宝と篤姫の時代- 東京大学史料編纂所20万点の世界 -」
17．特別展「国宝　天神さま－菅原道真の時代と天満宮の至宝－」
18．特別展「工芸のいま　伝統と創造－九州・沖縄の作家たち－」

東京国立博物館

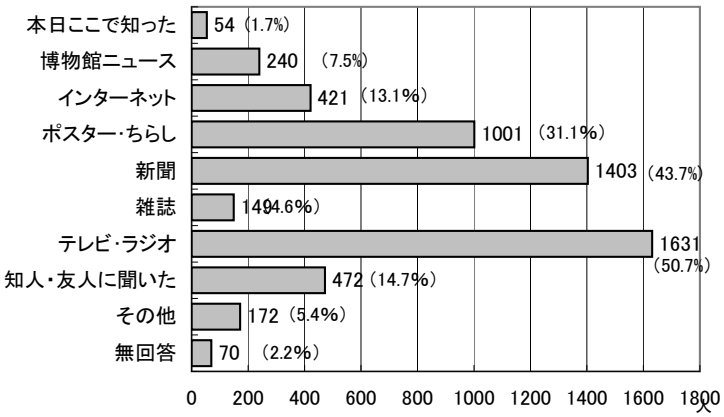
特別展「国宝　薬師寺展」
アンケート集計結果

開催期間：3月25日～6月8日
総回答者数：3,214人（総入館者数：794,909人　アンケート回収率：0.40%）

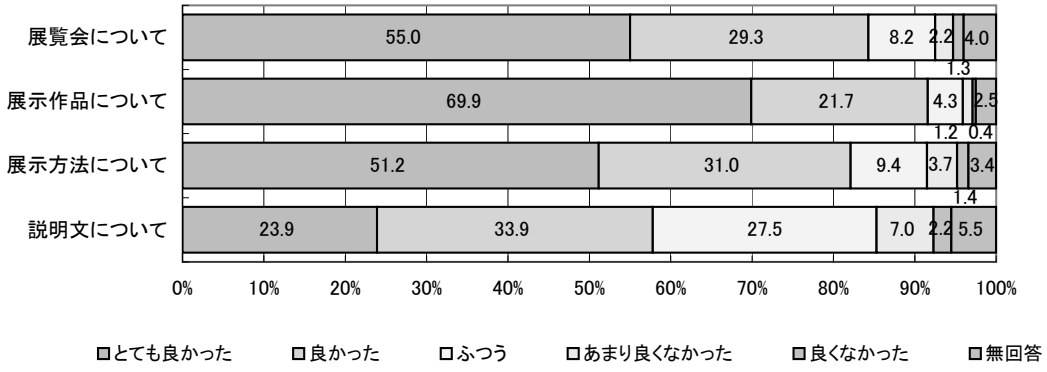
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・日光・月光菩薩様はとても美しく厳かで感動しました。
・日光月光菩薩を360°眺められるのは良かった。角度をかえるごとに表情が色々と楽しめていい。背面はとても美しくきれいでした。
・聖観音菩薩は惚れ惚れする姿かたちでした。軽やかな衣が本当に美しい。
・照明がすばらしく、お寺で見るのとは違った魅力を発見できた。
・混雑でゆっくり鑑賞できなかった。混雑時には、説明文に近づけないので、もっと文字を大きくしてほしい。
・もう少し座る場所を設けていただきたい。

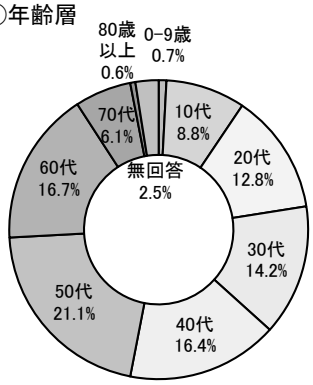
東京国立博物館

特別展「フランスが夢見た日本ー陶器に写した北斎、広重」

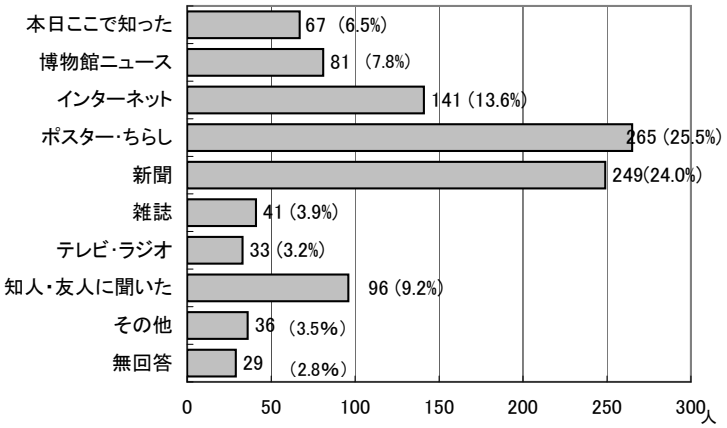
アンケート集計結果

開催期間：7月1日～8月3日
総回答者数：804人（総入館者数：58,342人　アンケート回収率：1.40%）

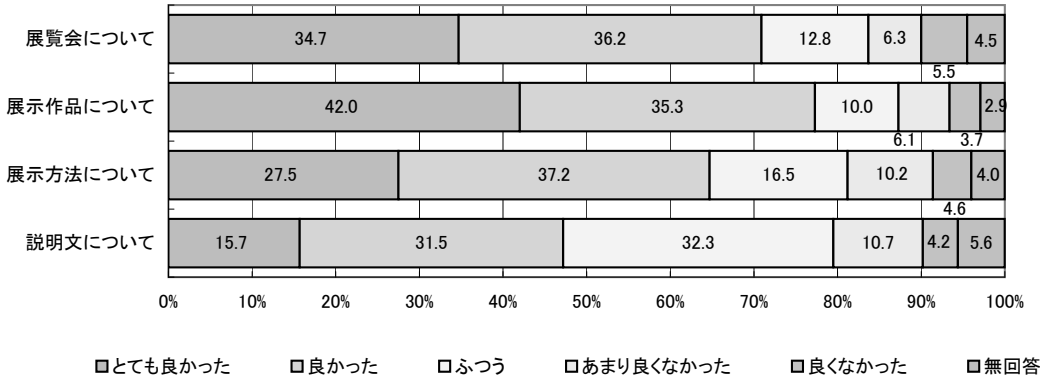
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



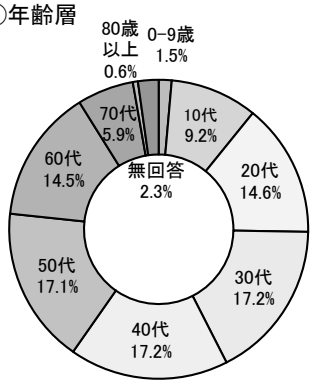
④主な意見・感想
・テーブルセッティングの再現がとてもよかった。
・原画と陶器を比較して、違いを比べることができ興味深かった。
・とても美しい陶器を見ることができ、また海外に負けない日本美術の良さを発見できた。
・オルセー美術館に日本の美術を参考にしたものがたくさん保存してあるということに驚き、うれしかった。
・展示の内容や規模と建物とが調和した、良い展示だった。
・全体、および個々の作品に説明が少なかった。
・原画と陶器が離れて展示されていて比較しにくい箇所があった。
・順路がわかりづらい。順路表示に数字を入れるか、見取り図を掲示するなど、工夫してほしい。

東京国立博物館

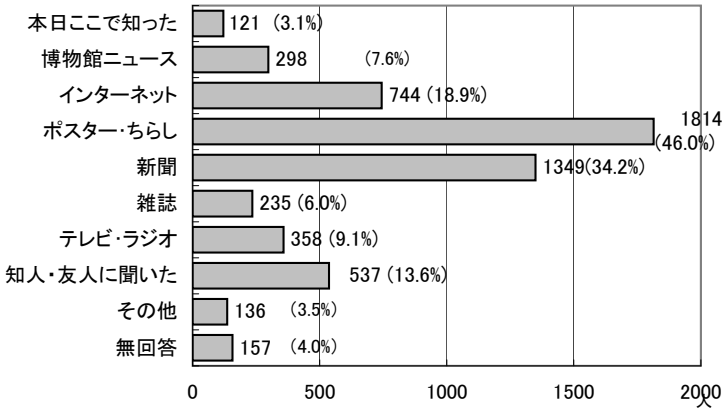
特別展「対決－巨匠たちの日本美術」
アンケート集計結果

開催期間：7月8日～8月17日
総回答者数：3,940人（総入館者数：326,784人　アンケート回収率：1.20%）

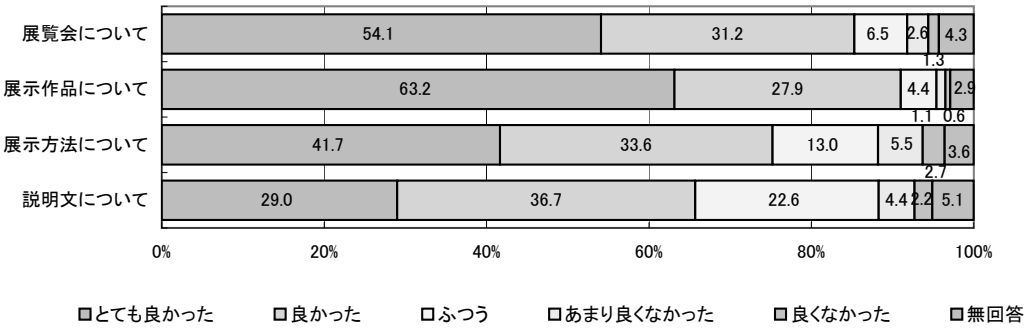
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



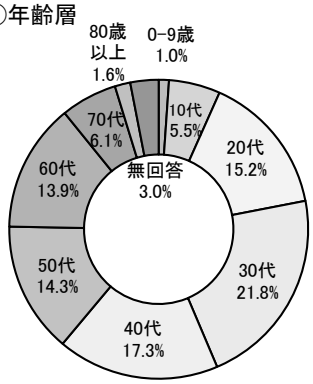
④主な意見・感想
・対決という見せ方がとてもよかったです。
・各巨匠を対決させることで、特徴が浮き彫りになり非常に理解しやすい展示になっていたと思う。
・仏像から焼き物まで様々な作風・種類の作品を見られとてもよかったです。
・日本美術を知る上での入門に適した展覧会だと思いました。もっと掘り下げて見てみたいという作家も見つけられるし、　新しい発見もある。
・音声ガイドに工夫を凝らしてあって大変楽しめました。作品と解説に声優の声の質が合っていてよかった。
・(展示替えのため)「風神雷神図屏風」「松林図屏風」が見られなかったのが残念だった。
・焼き物は鏡を使って中が見やすい方がよかった。
・展示替えについて告知不足。

東京国立博物館

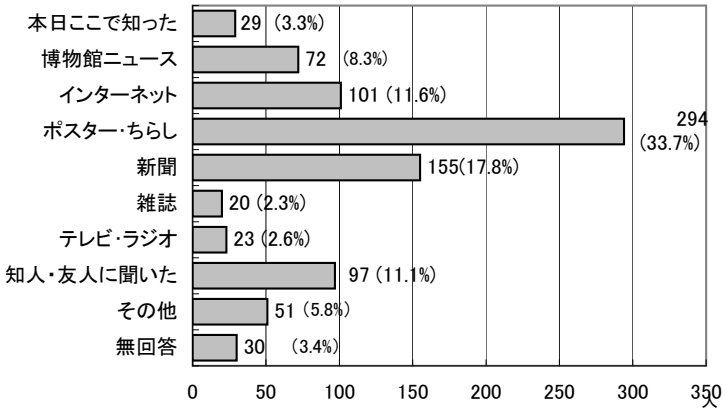
特別展「スリランカ－輝く島の美に出会う－」
アンケート集計結果

開催期間：9月17日～11月30日
総回答者数：669人（総入館者数：80,865人　アンケート回収率：0.80%）

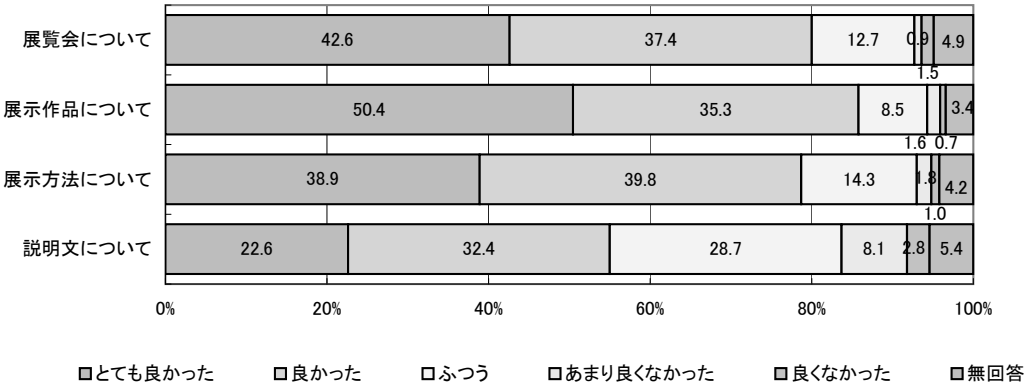
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



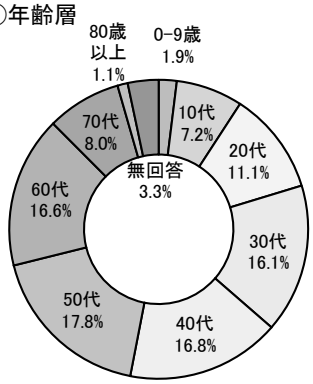
④主な意見・感想
・なじみのなかったスリランカの文化や歴史に触れることができ、有意義な時間が過ごせた。
・建物が素晴らしい。これからも建物に見合った展示をお願いしたい。
・スリランカについて興味がわき、勉強になった。
・横、背面からも見られる展示がありがたかった。
・スリランカ展と銘打っている以上、宗教以外のものも展示すべきではないか。幅広い展示がほしかった。
・展示作品の説明をもっと詳しく書いてほしい。
・エレベーターを設置できないだろうか。
・スリランカの風土、祭りを紹介した映像の画像が粗くて見づらかった。

東京国立博物館

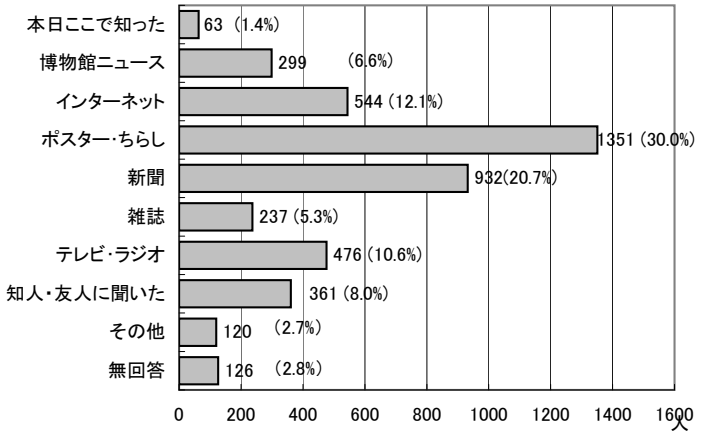
特別展「大琳派展ー継承と変奏ー」
アンケート集計結果

開催期間：10月7日～11月16日
総回答者数：2,835人（総入館者数：308,213人　アンケート回収率：0.90%）

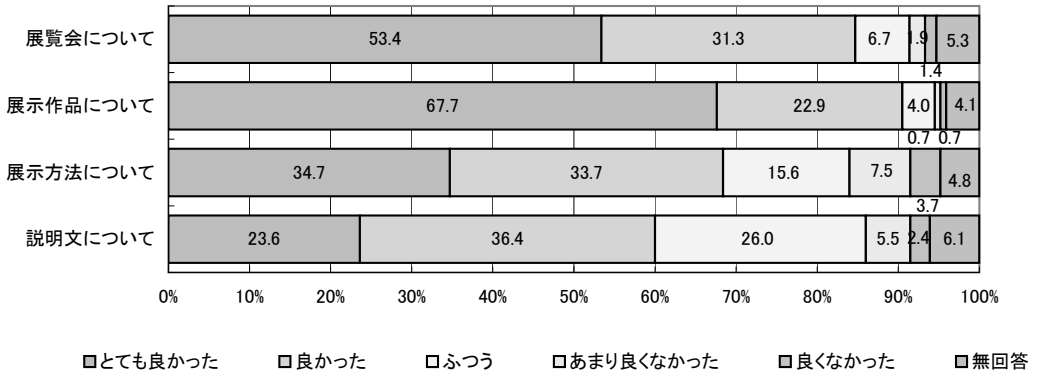
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



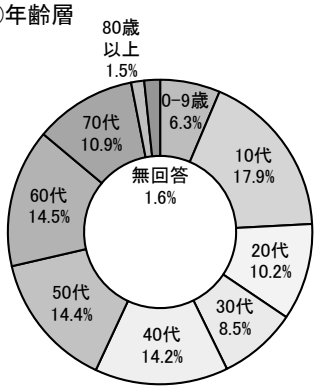
④主な意見･感想
･琳派の流れがよく分かった。
･風神雷神図が4点見られてよかった。比較ができてよかった。
･日本の美術に誇りを感じた。
･同じ主題の作品を比較して配置していたのは良い。
･会場内にもっとイスが欲しい。
･和歌は読めないので現代語訳等が添えてあればより楽しめた。
･順路が分かりにくい。
･混雑していてゆっくり見られず残念であった。
･展示替えで全作品見られないのが残念。

東京国立博物館

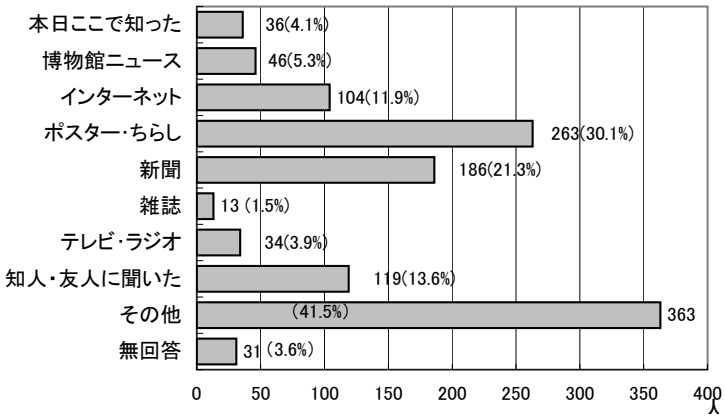
特別展「未来をひらく　福澤諭吉展」
アンケート集計結果

開催期間：平成21年1月10日（土）～3月8日（日）
回答者数：873人（総入館者数：73,128人　アンケート回収率：1.19%）

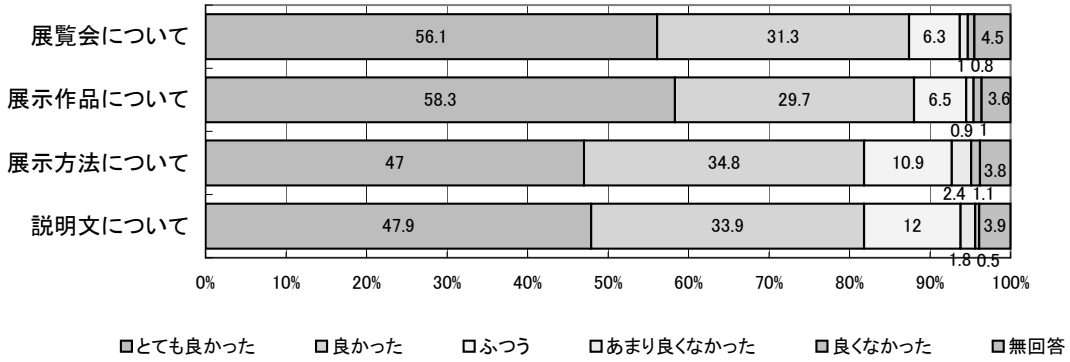
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



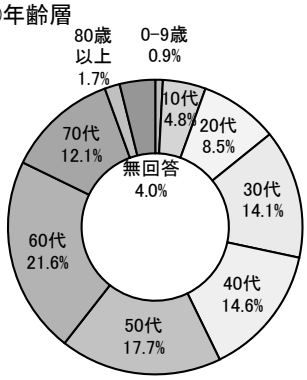
④主な意見・感想
・福澤諭吉への理解が深まり大変勉強になった。
・1つのテーマを深く掘下げた企画が面白い。
・想像以上の内容に満足している。
・貴重な資料を見ることができ嬉しかった。
・福澤諭吉本人の資料が少ないと感じた。
・表慶館は階段が多いので高齢者の方には不便である。
・順路が分かりづらい。
・福澤諭吉の著書の紹介や、本の内容の解説がもっとほしかった。

東京国立博物館

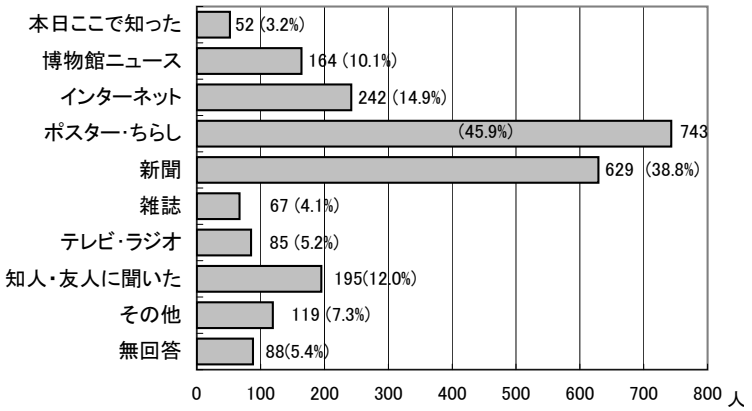
特別展「妙心寺展」
アンケート集計結果

開催期間：平成21年1月20日（火）～3月1日（日）
回答者数：1,612人（総入館者数：150,107人　アンケート回収率：1.07%）

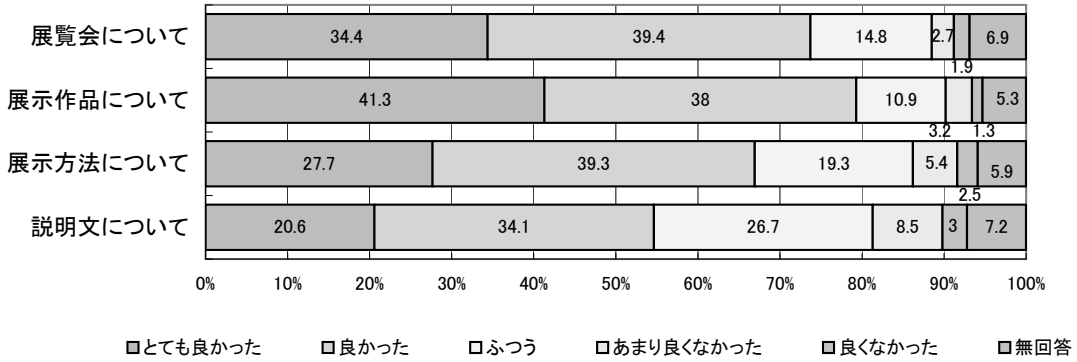
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想
・見応えのある展示内容に感動し、楽しむことができた。
・禅文化の流れや歴史を学ぶことができ大変参考になった。
・屏風絵や書は見入ってしまうほど素晴らしい。
・妙心寺のことをよく知ることができた。
・展示替えで全作品見られなかったことが残念。
・梵鐘の音色が聴きたかった。
・説明文の文字が小さく読みづらい。
・書に現代語訳等が添えてあればより楽しめた。
・混雑していてゆっくり見られず残念であった。

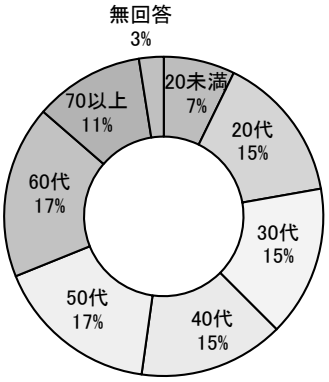
京都国立博物館

特別展「絵画の冒険者 暁斎 Kyosai-近代へ架ける橋-」

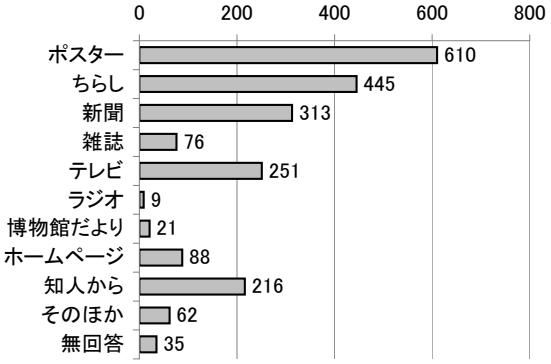
アンケート集計結果

開催期間：4月8日（火）～5月11日（日）
回答者数：1,337人（総入館者数　76,686人　アンケート回収率1.7%）

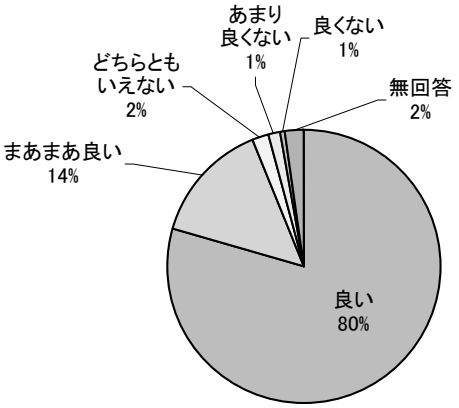
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

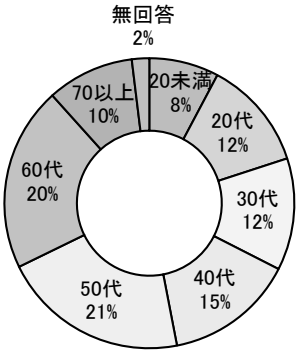
・作品が多くてよかった。(同様72件)
・あまり知らなかった暁斎のことが分ってよかった。(同様63件)
・面白い作品で見ごたえがあった。(同様47件)
・下絵が多く見られて興味深かった。(同様28件)
・膨大な作品をテーマ別などうまく展示していて分かりやすかった。(同様19件)
・展示作品が多すぎて疲れた、集中して見られなかった。(同様17件)
・各地からよく集めた。(同様11件)

京都国立博物館

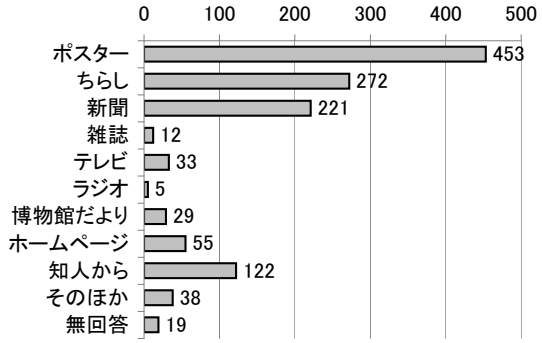
特別展「japan蒔絵 宮殿を飾る 東洋の燦めき」
アンケート集計結果

開催期間：10月18日（土）～12月7日（日）
回答者数：807人（総入館者数 66,270人　アンケート回収率 1.2%

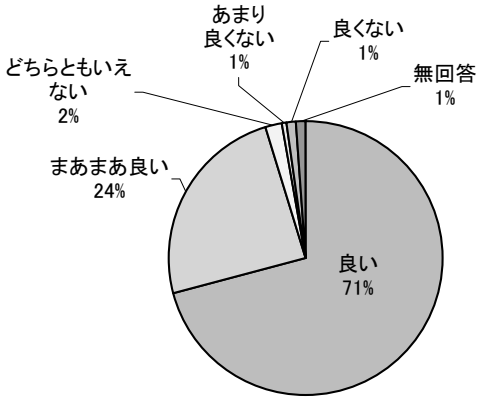
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

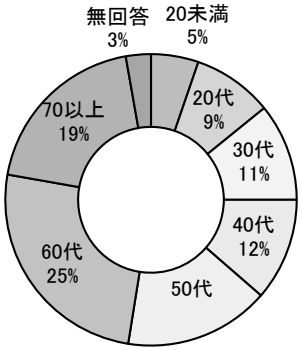
・作品が多くてよかった。(同様43件)
・蒔絵のことが勉強できてよかった。(同様41件)
・暗い(作品が見えない、解説が読めない)。(同様26件)
・作品の位置が高くて見えない。(同様24件)
・海外作品が多く見られてよかった。(同様16件)
・展示の構成がよく、理解の助けになった。(同様15件)
・展示方法に工夫が見られた(ケース、照明、組み合わせなど)。(同様13件)

京都国立博物館

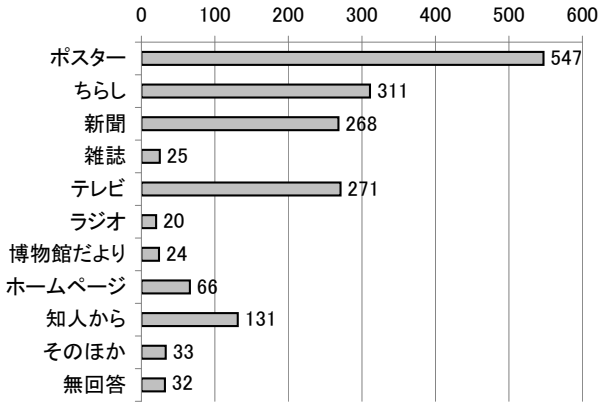
特別展「京都御所ゆかりの至宝」
アンケート集計結果

開催期間：21年1月10日（土）～2月22日（日）
回答者数：1,036人（総入館者数　115,034人　アンケート回収率 0.9%）

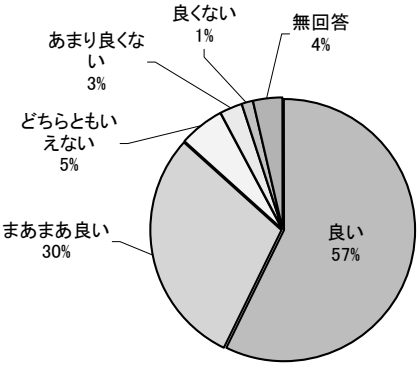
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

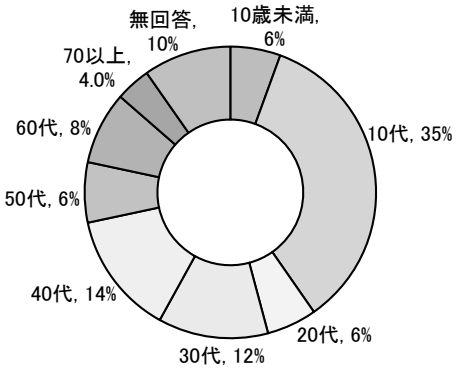
・通常非公開の作品が見られてよかった。(同様115件)
・楽しかった、感動した。(同様62件)
・勉強になってよかった。(同様48件)
・日本の文化や伝統に触れることができた。(同様42件)
・宝物を一ヶ所でまとめて見られてよかった。(同様34件)
・混雑してゆっくり見られない。(同様40件)
・展示方法に工夫が足りない(裏面が見えない、メインの展示物がわかりにくい、など)。(同様72件)

奈良国立博物館

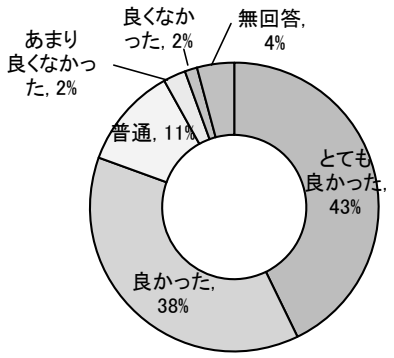
特別展　「天馬－シルクロードを翔ける夢の馬－」
アンケート集計結果

開催期間：4月4日～6月1日（51日間）
回答者数：124人　　回収率0.4%

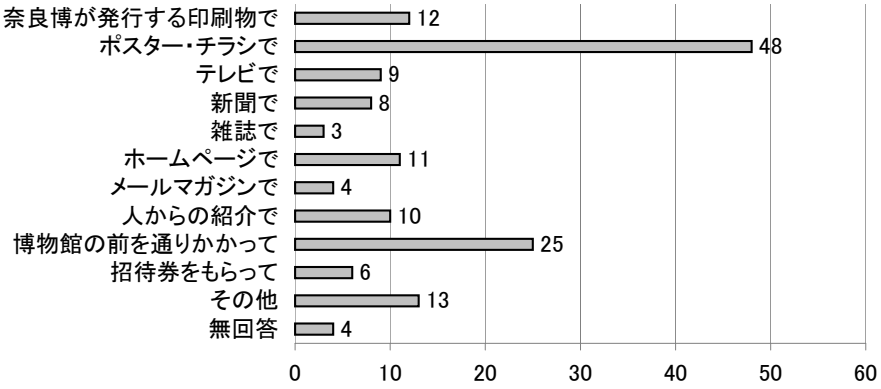
①年齢



②特別展に対する評価



③認知経路（複数回答）



④主な意見・感想

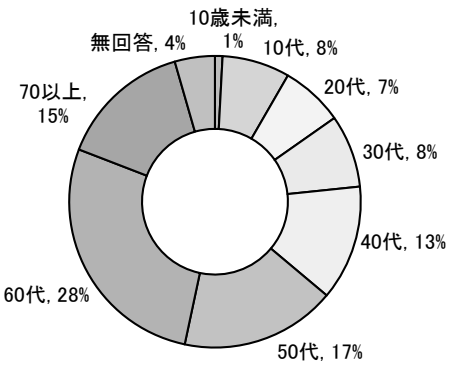
・ヨーロッパ、オリエント、中国、日本のバランスがよい
・”馬”のモチーフ・イメージの変容がしっかり分かり、とても興奮した。いい企画だと思う。
・有翼馬のモチーフが東へ移動していくのがわかって、とても楽しめた。
・遠い昔の西洋やアジアの文化に触れることがなかったのでよかった。
・テーマが異色で新鮮だった。ゆっくり見物できることこそ博物館の良さだと思う。金儲け優先主義の弊害を実感した。

奈良国立博物館

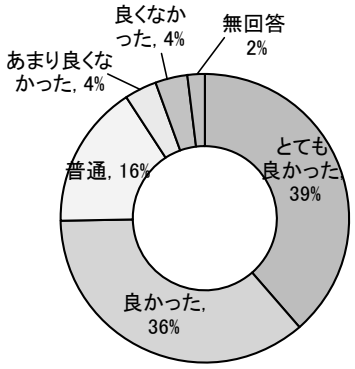
特別展 「国宝　法隆寺金堂」展
アンケート集計結果

開催期間:6月14日～7月21日 （33日間）
回答者数:391人　　回収率0.3%

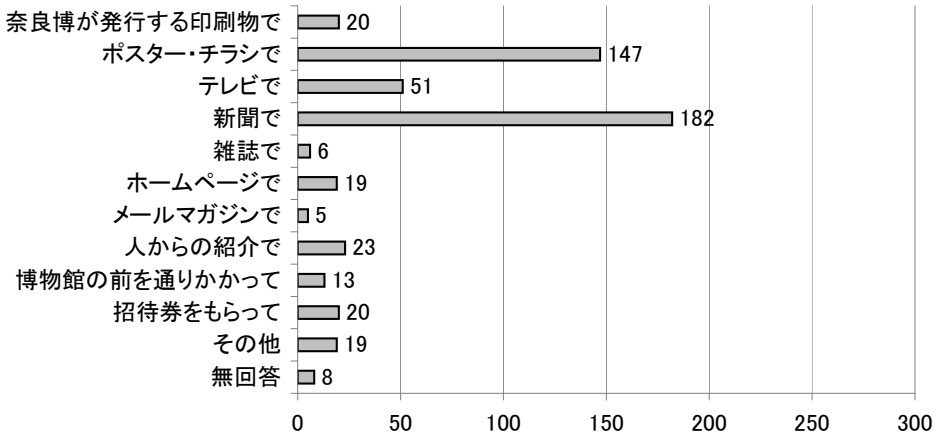
①年齢



②特別展に対する評価



③認知経路（複数回答）



④主な意見・感想

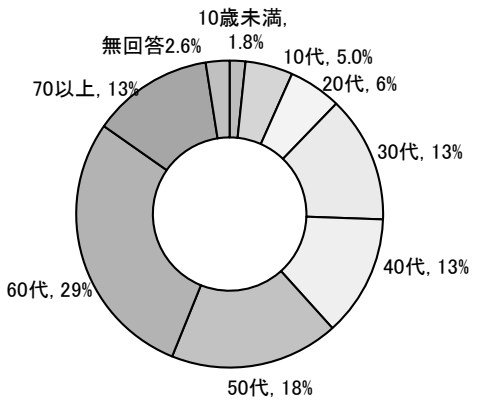
・いつもは見られない後ろ姿に惹かれた。
・展示及び解説文が適切だと思う。
・壁画が見事でした。
・法隆寺金堂を再現したかのような展示方法でとても雰囲気があった。ガラスケースもなく間近で見られて良かった。
・鏡等を使って丁寧に案内されていた。

奈良国立博物館

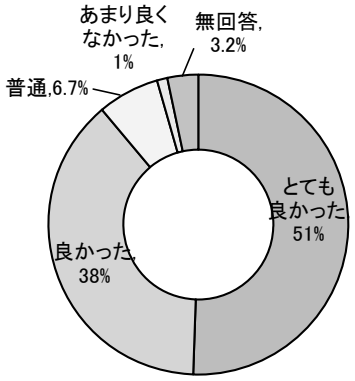
特別展 「西国三十三所－観音霊場の祈りと美－」展
アンケート集計結果

開催期間：8月1日～9月28日（52日間）
回答者数：342人　　回収率0.3%

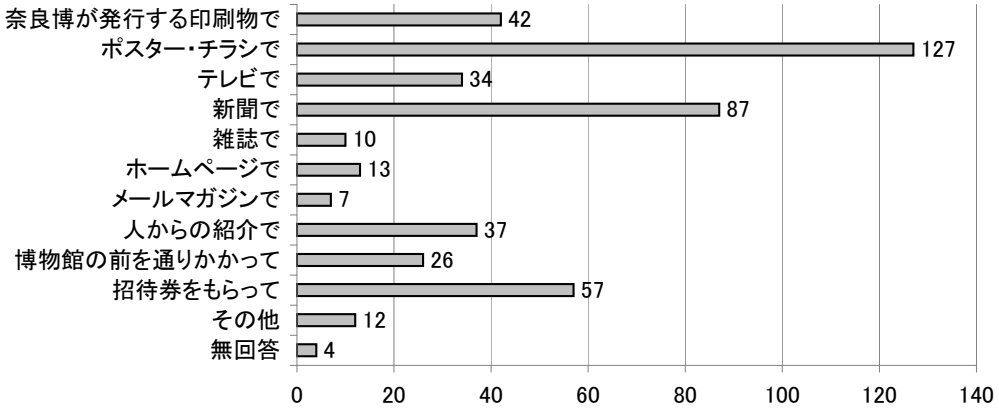
①年齢



②特別展に対する評価



③認知経路（複数回答）



④主な意見・感想

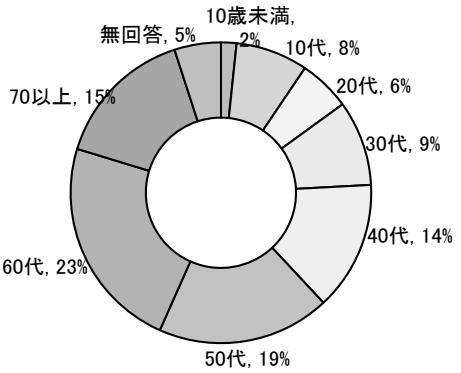
・西国三十三所巡りをしたくなった。
・通路が広く取られているので、展示を見てまわりやすかった。
・仏像や仏画だけではなく、江戸時代のパンフレットや版木あるいは参詣曼荼羅等人々の信仰の篤さ・あり方がわかるものがいろいろと展示されていた。
・三十三所に特化したことが、親しみやすい。
・9月より西国巡礼の予定なので非常に参考になりました。

奈良国立博物館

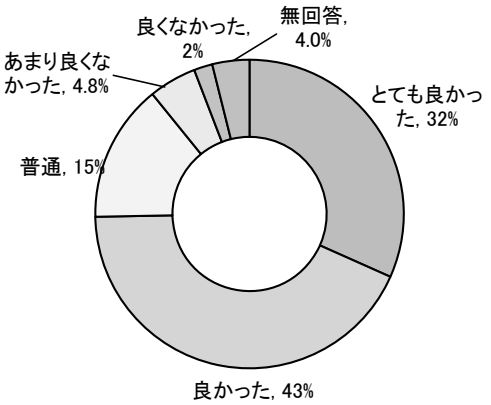
特別展　「第６０回正倉院展」
アンケート集計結果

開催期間：10月25日～11月10日（17日間）
回答者数：624人　　回収率0.2%

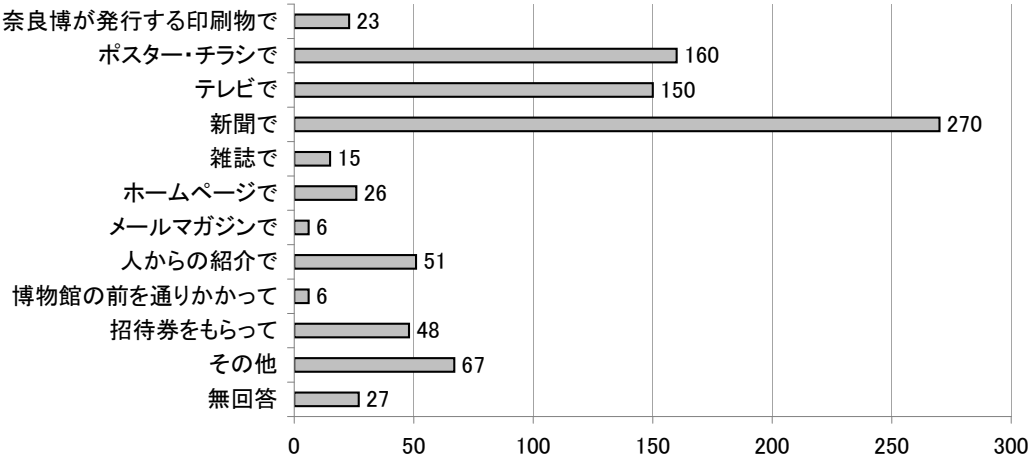
①年齢



②特別展に対する評価



③認知経路（複数回答）



④主な意見・感想

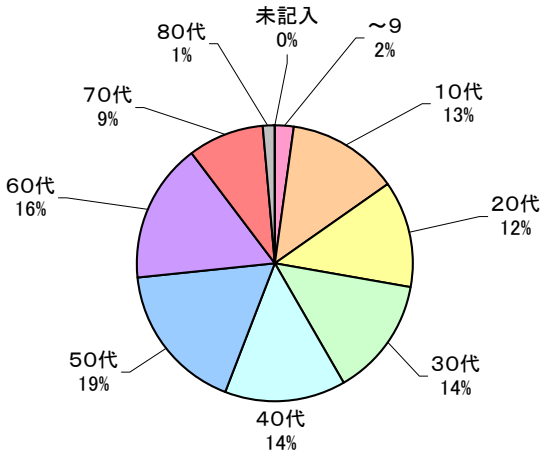
・拡大展示パネルでより分かりやすかった。もっと増やして欲しい。
・個人的には文書（特に人間くさいもの）に興味があります。役人の欠勤申請は解説文もあり、原文でも何となく意味が取れ、実に面白かった。来年も頼みます。
・年代や素材の説明が詳しくて良かった。
・千年以上も昔に高度な技術を駆使した品物があり、それを現在まで残していることに深い感銘を覚えました。
・オータムレイトを続けて下さい。

九州国立博物館

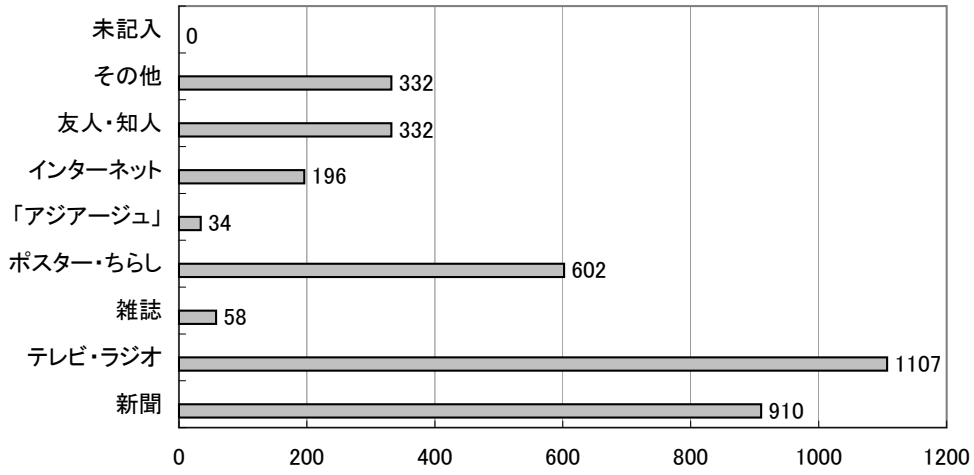
特別展「国宝大絵巻展」
アンケート集計結果

開催期間：3月22日～6月1日
総回答者数：2,771人（総入館者数：131,197人　アンケート回収率：2.1%）

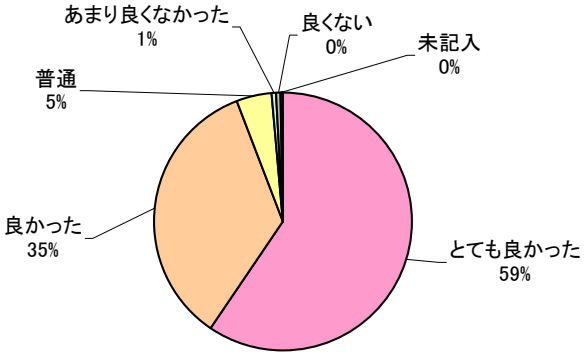
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度

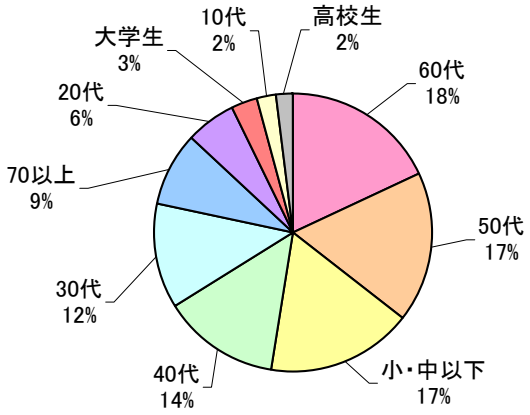


九州国立博物館

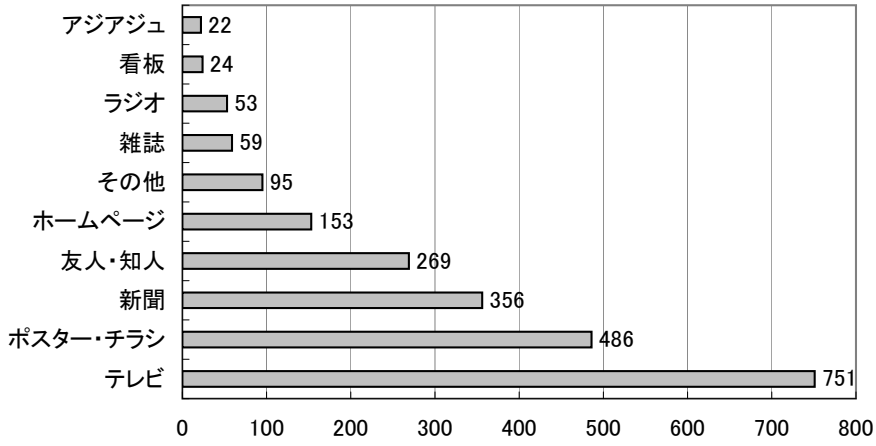
特別展「島津の国宝と篤姫の時代」
東京大学資料編纂所２０万点の世界
アンケート集計結果

開催期間：7月12日～8月24日
総回答者数：1,841人（総入館者数：152,420人　アンケート回収率：1,2%）

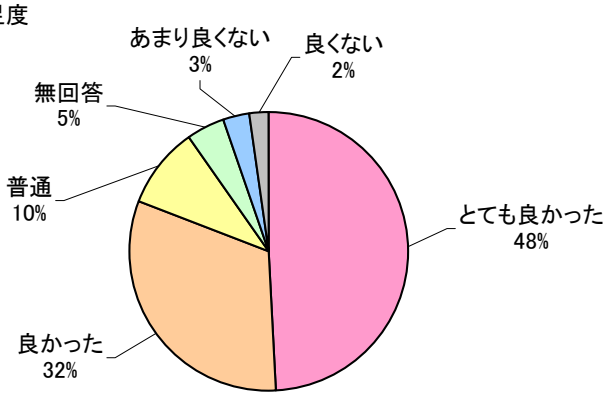
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度

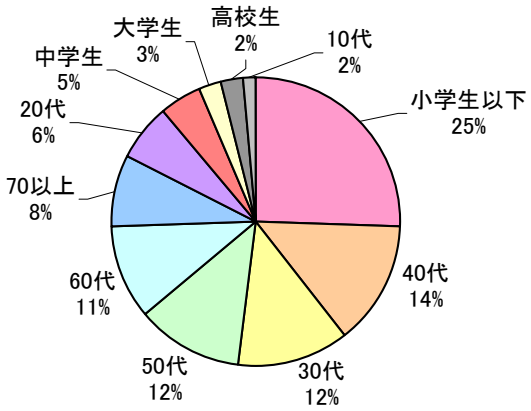


九州国立博物館

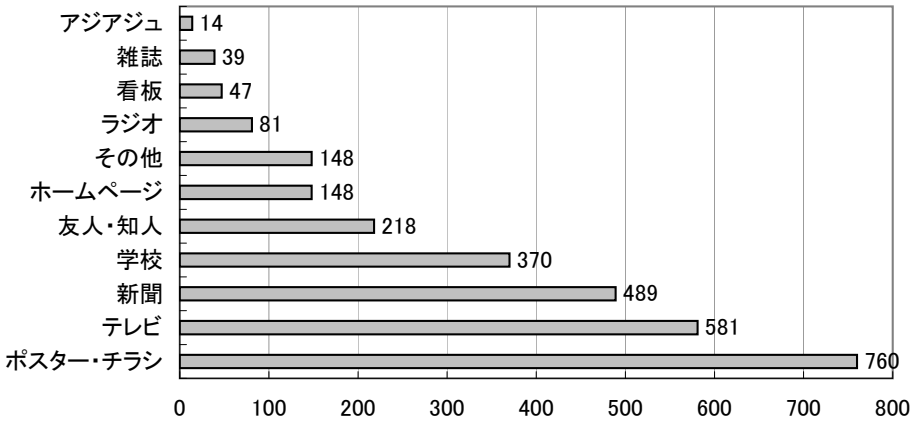
特別展「国宝天神さま　菅原道真の時代と天満宮の至宝」アンケート集計結果

開催期間：9月23日～11月30日
回答者数：2,307人（総入館者数：174,698人　アンケート回収率：1,3%）

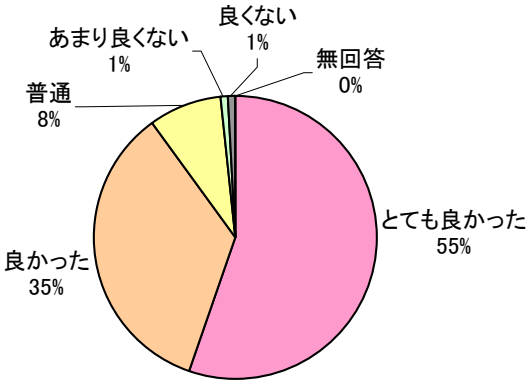
①年齢層



②認知経路（複数回答可）



③展示に関する満足度

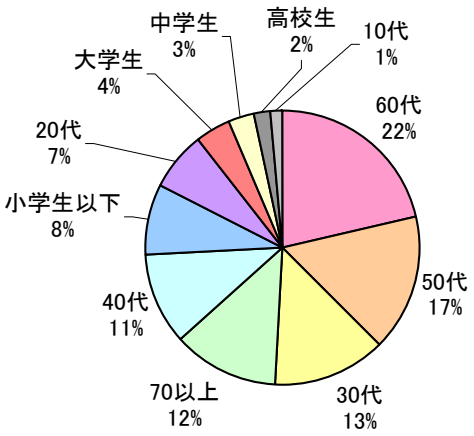


九州国立博物館

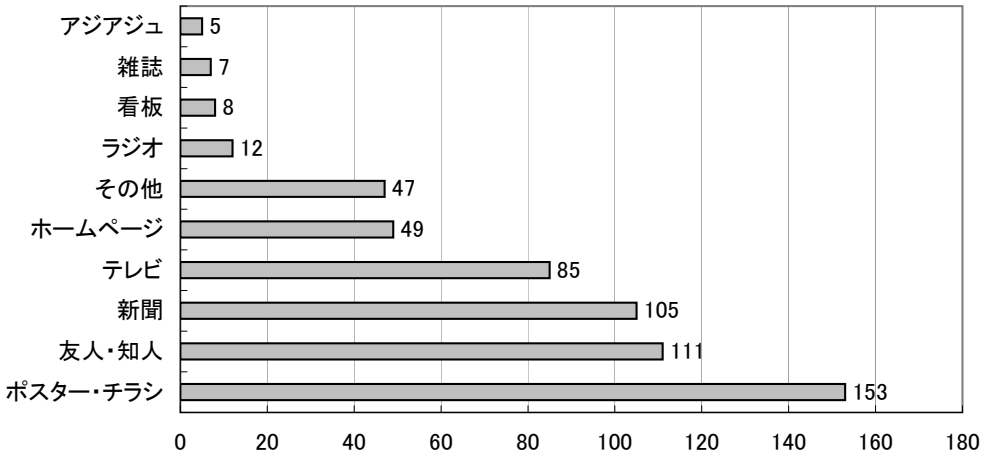
特別展「工芸のいま 伝統と創造−九州・沖縄の作家たち−」アンケート集計結果

開催期間：21年1月1日～3月16日
総回答者数：492人（総入館者数：72,637人　アンケート回収率：0.6%）

①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に館する満足度

